

# 白滝遺跡群Ⅳ

第1分冊（本文編）

白滝村 奥白滝11遺跡  
上白滝8遺跡  
上白滝6遺跡(2)  
白滝第30地点遺跡

一般国道450号白滝丸瀬布道路工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書

平成15年度

財団法人 北海道埋蔵文化財センター

# 白滝遺跡群Ⅳ

第1分冊  
(本文編)

奥白滝 11遺跡  
上白滝 8遺跡  
上白滝 6遺跡(2)  
白滝第30地点遺跡

(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書

第195集

平成15年度

# 白滝遺跡群Ⅳ

第1分冊（本文編）

白滝村 奥白滝11遺跡  
上白滝8遺跡  
上白滝6遺跡(2)  
白滝第30地点遺跡

一般国道450号白滝丸瀬布道路工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書

平成15年度

財団法人 北海道埋蔵文化財センター

口絵1 遺跡群(1)



1 遺跡群と赤石山 (南から・平成11年撮影)



2 上白滝2・8遺跡と湧別川 (南から・平成8年撮影)

口絵 2 遺跡群(2)



遺跡群と湧別川 (東から・平成9年撮影)

口絵3 上白滝8遺跡(1)



1 平成7年度調査状況(西から)



2 平成7年度調査状況(南西から)

口絵4 上白滝8遺跡(2)



1 平成7年度包含層調査(西から)



2 平成7年度調査状況(北西から)



1 平成8年度調査状況(南東から)



2 平成8年度包含層調査(南東から)

口絵6 上白滝8遺跡(4)



1 平成8年度調査状況(西から)



2 土層断面(Q61区北壁)(南から)

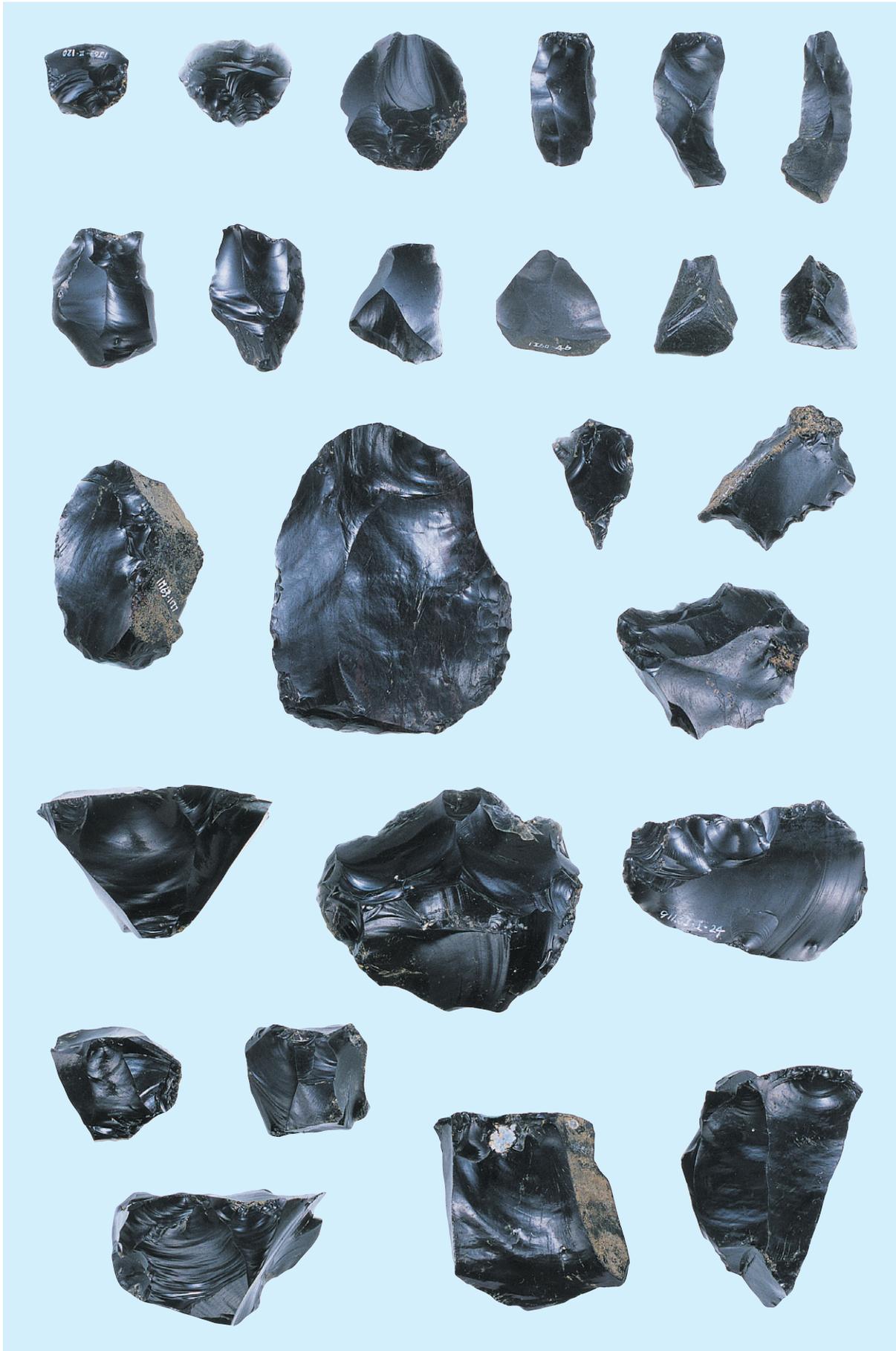


1 Sb-9 石核ほか (北から)



2 Sb-9 石核ほか (北から)

口絵 8 上白滝 8 遺跡(6)

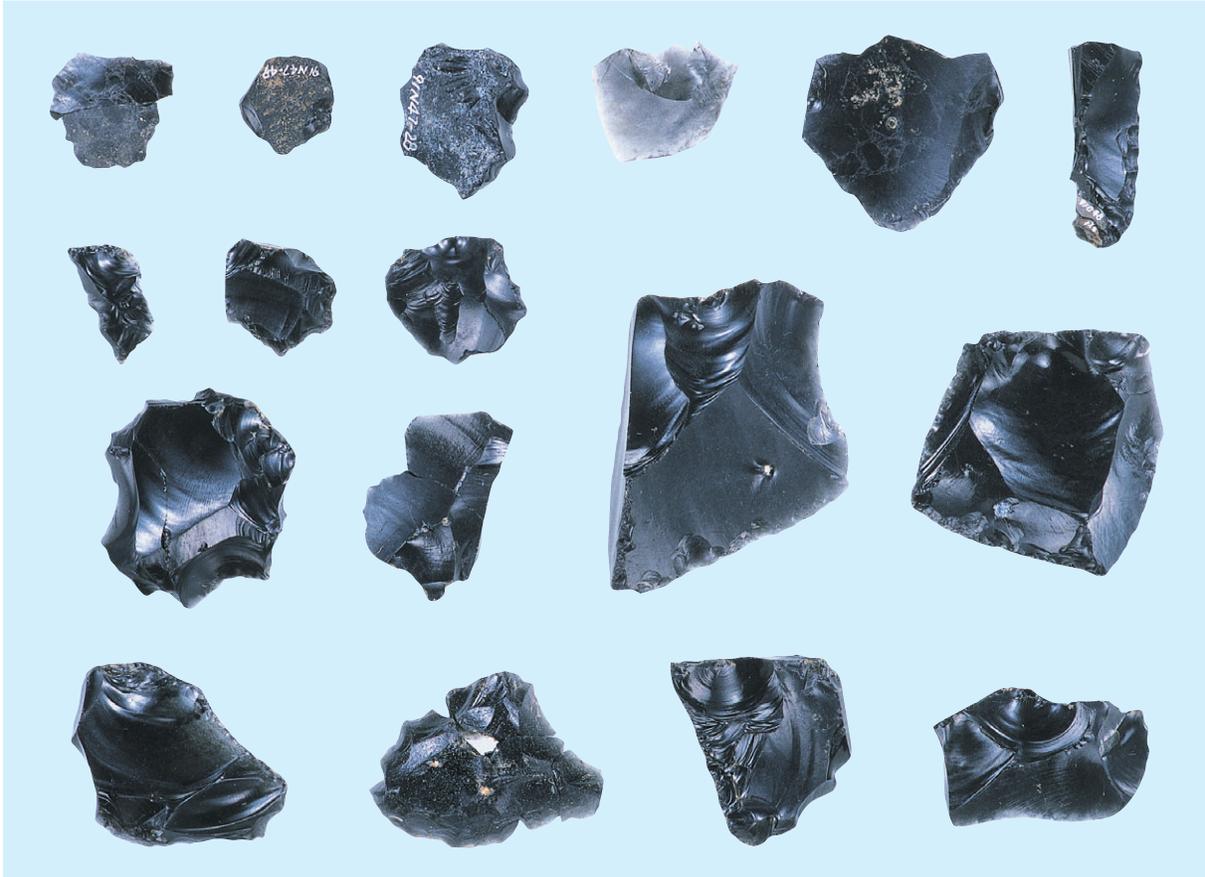


Sb-4~6 二次加工ある剥片ほか (2/3)

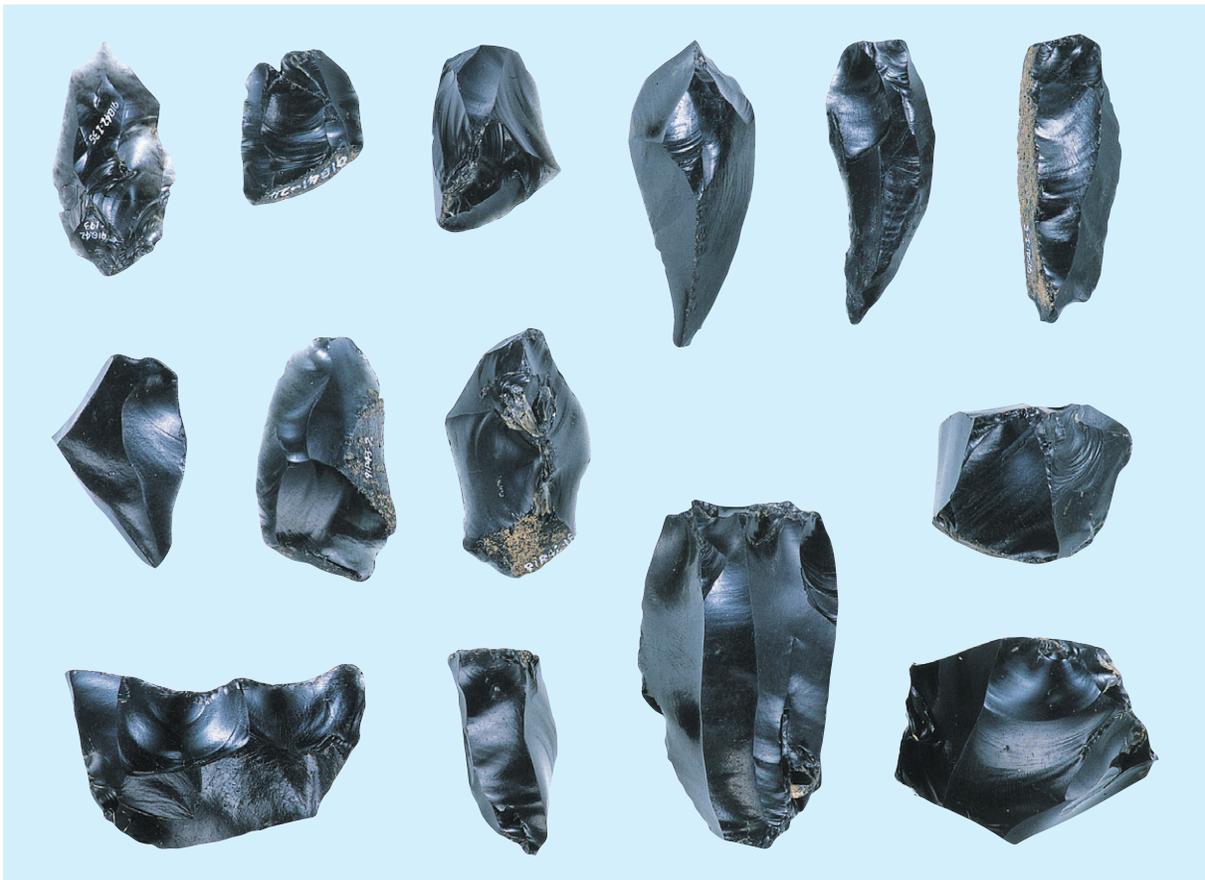


口絵10 上白滝8遺跡(8)





1 Sb-10二次加工ある剥片ほか (2 / 3)



2 Sb-11~13二次加工ある剥片ほか (2 / 3)

口絵12 上白滝 8 遺跡(10)





1 Sb-17台石ほか (北西から)



2 Sb-27尖頭器ほか (西から)

口絵14 上白滝8遺跡(12)



1 Sb-28両面調整石器ほか (西から)



2 Sb-33調査状況 (南東から)



1 Sb-34石核ほか (西から)

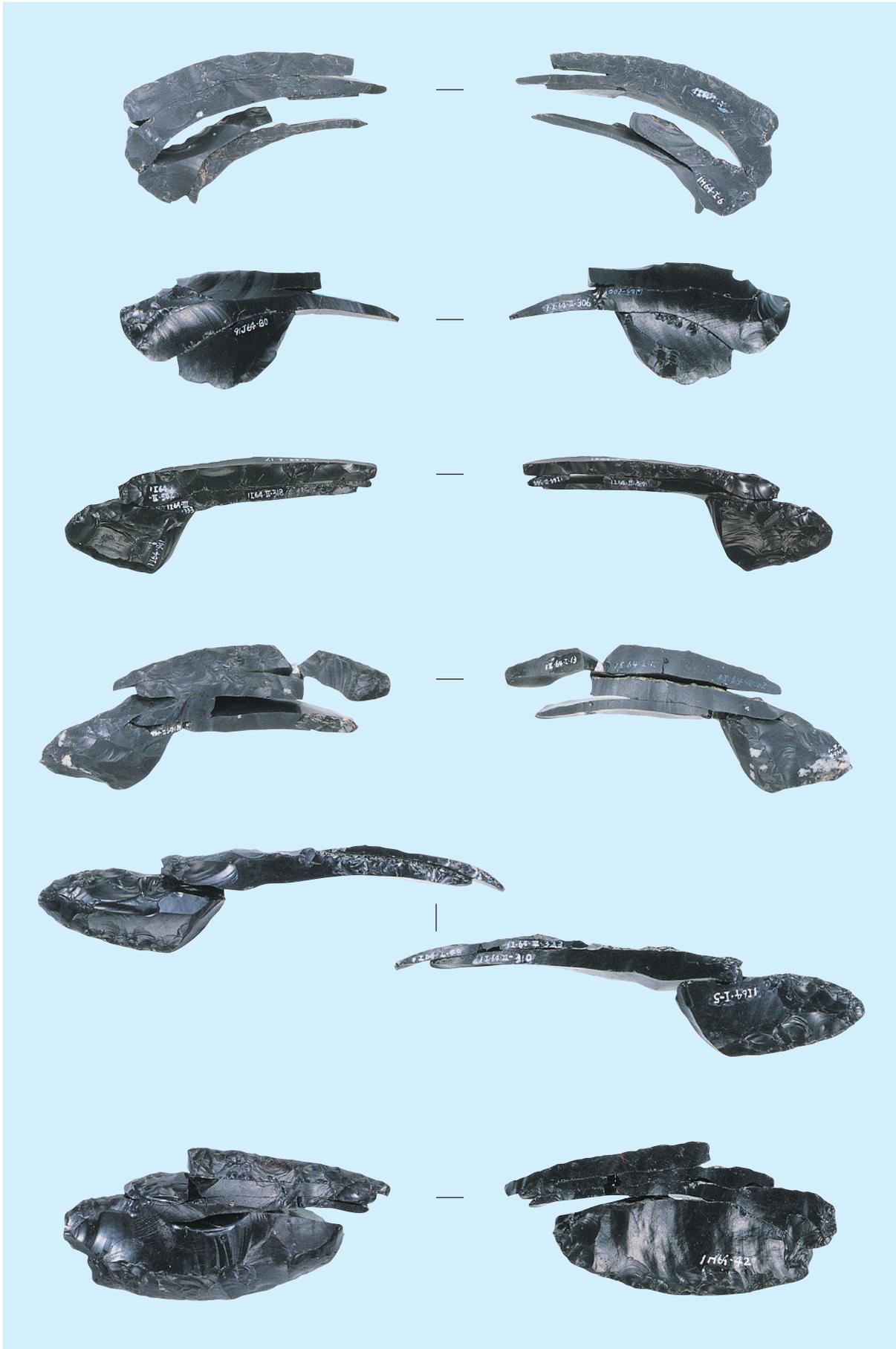


2 Sb-47石刃核ほか (南から)

口絵16 上白滝8遺跡(14)



A区(Sb-14~19)尖頭器ほか(2/3)



A区(Sb-14~19)接合資料(1) (2/3)

口絵18 上白滝 8 遺跡(16)

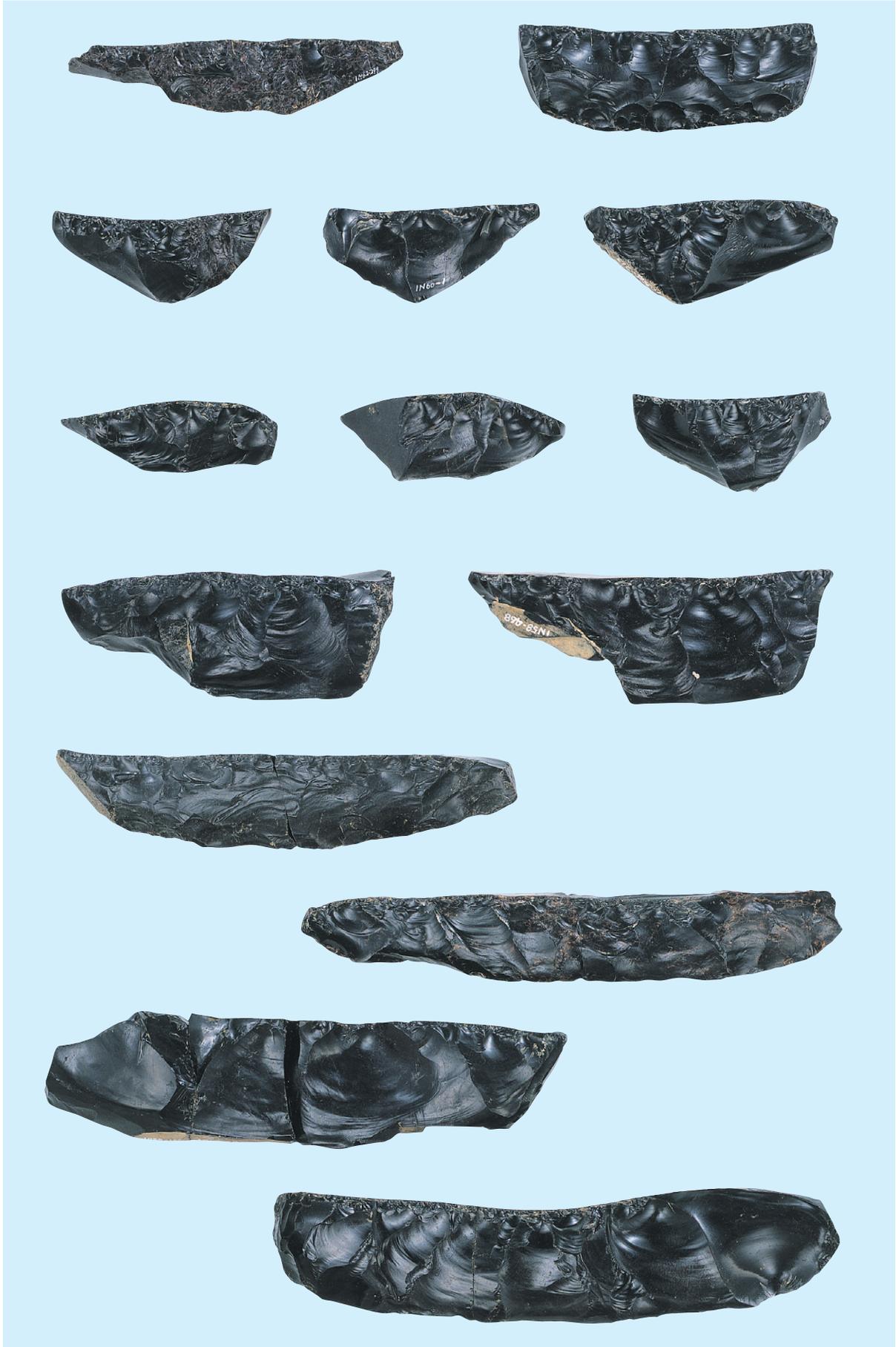


A区(Sb-14~19)接合資料(2)(2/3)



B区(Sb-20~29)尖頭器(1/2)

口絵20 上白滝8遺跡(18)



B区(Sb-20~29)舟底形石器(1/2)



B区(Sb-20~29)削器ほか(1/2)

口絵22 上白滝 8 遺跡 (20)



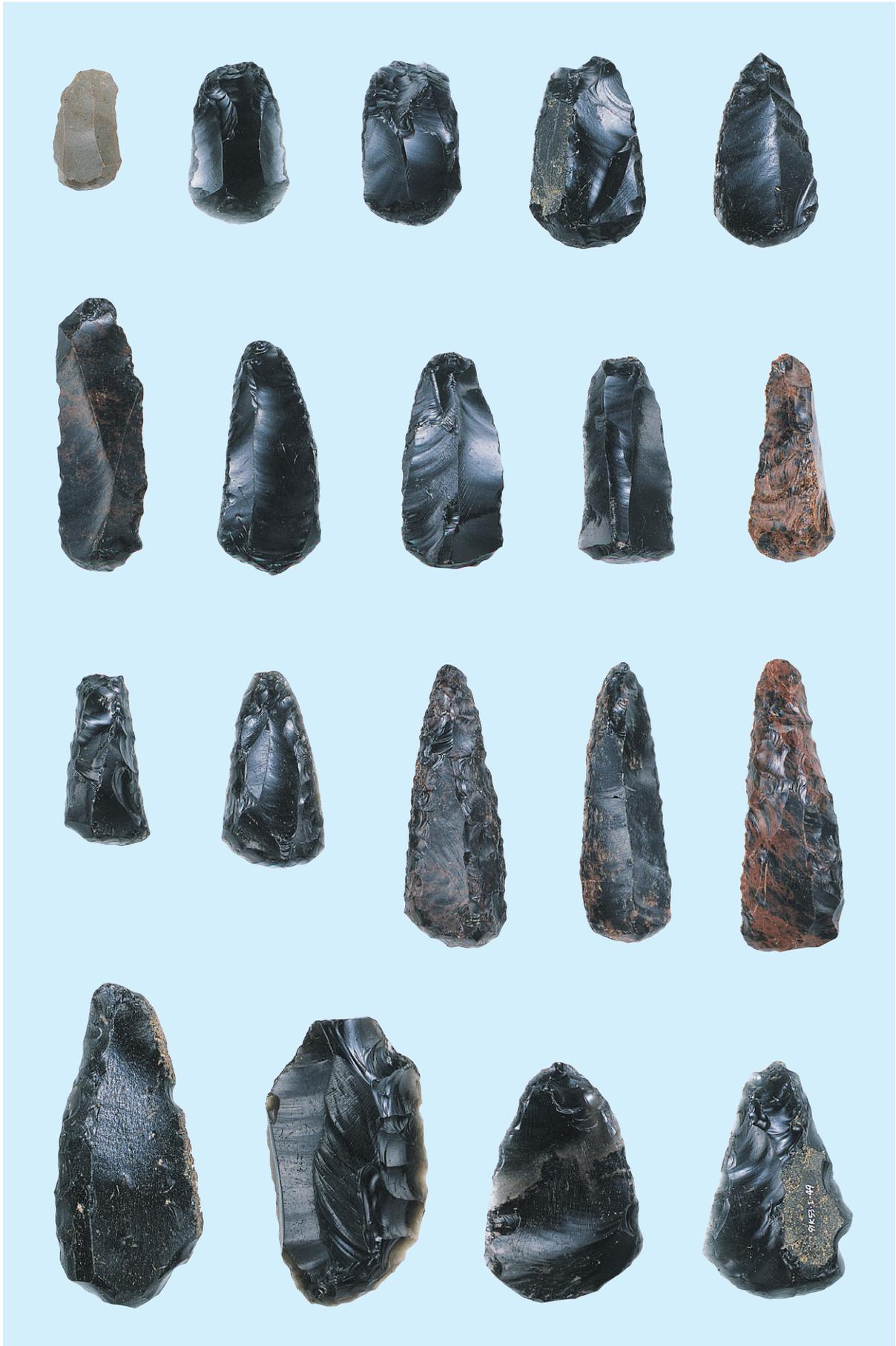


D区(Sb-36~55)尖頭器(2/3)

口絵24 上白滝 8 遺跡 (22)



D区 (Sb-36~55) 彫器 (2 / 3)



口絵26 上白滝 8 遺跡(24)



D区(Sb-36~55)舟底形石器(2/3)



D区(Sb-36~55)接合資料(1) (1/3)

口絵28 上白滝 8 遺跡 (26)



D区 (Sb-36~55) 接合資料(2) (1/2)



F区(Sb-61)ナイフ形石器ほか(単品2/3・接合1/2)

口絵30 上白滝 8 遺跡 (28)



斜面部細石刃核ほか (2 / 3)



口絵32 黒曜石

1 黒曜石 1



2 黒曜石 2



3 黒曜石 3



4 黒曜石 4



5 黒曜石 5



## 例 言

- 1 この報告書は、一般国道450号白滝村白滝道路改良工事に伴い、平成7～13年度に財団法人 北海道埋蔵文化財センターが実施した白滝村奥白滝（おくしらたき）11・上白滝（かみしらたき）8・上白滝6・白滝第30地点遺跡の埋蔵文化財発掘調査に関するものである。また、平成7～14年度に行った白滝遺跡群の奥白滝11・服部台2・奥白滝1・上白滝8・上白滝2・上白滝5・上白滝6・上白滝7・北支湧別4・白滝第30地点・白滝8・白滝18・白滝3・旧白滝9・旧白滝8・下白滝遺跡の調査概要も報告する。
- 2 平成7年度より行われている白滝遺跡群の調査の概要については、いくつかの機会に紹介しているが、奥白滝11・上白滝8・上白滝6・白滝第30地点遺跡に関しては、本書が優先する。
- 3 本書は第1分冊（本文編）、第2分冊（石器実測・分布図編）、第3分冊（写真図版編）の3冊で構成されている。第1分冊は、本文、自然科学的分析等、掲載遺物一覧表など、第2分冊は、各遺跡における石器ブロック群・区域単位での石器実測図・石器ブロック分布図・接合資料実測図など、第3分冊は、遺跡単位での航空写真・調査状況・石器・接合資料などの順で構成されている。
- 4 第1分冊と第2分冊の挿図は通し番号である。
- 5 第2分冊で実測図を掲載した石器・接合資料は、基本的にすべて第3分冊の写真番号に掲載し、さらに接合資料に含まれる石器については、接合資料とともに縮小し再度掲載した。また、第3分冊の写真図版のみに掲載した石器・接合資料もある。
- 6 第2分冊の実測図番号と第3分冊の写真番号は同一である。実測図番号は、各遺跡の石器ブロック群・区域単位で1から付けたが、その順番は、単体石器、接合資料、写真のみ掲載単品石器、写真のみ掲載接合資料の順である。
- 7 本書の作成は、第1調査部第3調査課で行ったが、編集は奥白滝11・上白滝6・白滝第30地点遺跡については長沼 孝が、上白滝8遺跡については鈴木宏行・直江康雄が行い、全体を鈴木宏行が調整した。

整理作業・報告書作成作業は遺跡・石器群単位で進め、以下の担当において進めた。

奥白滝11・上白滝6・白滝第30地点遺跡：長沼 孝

上白滝8遺跡（Sb-1～13・62・63）：直江康雄

上白滝8遺跡（Sb-14～61・斜面部）：鈴木宏行

また、図版・挿図の作成担当、各章または節・項の執筆は以下のとおりである。

### 第1分冊（本文編）

口絵（カラー）：直江康雄・鈴木宏行・長沼 孝

I章1～4(1)～(4)・(6)、II章4、III章1・2、IV章1(1)～(4)・(6)、

V章1・2、VI章1・2：長沼 孝、

II章2・3、IV章1(5)、2(1)・(3)～(9)・(19)、VII章1：直江康雄

IV章1(7)(8)・2(2)：鈴木宏行・直江康雄

I章1(5)、II章1、IV章2(10)～(18)、VIII章2：鈴木宏行

### 第2分冊（石器実測・分布図編）

奥白滝11・上白滝6・白滝第30地点遺跡石器・分布図：長沼 孝

上白滝8遺跡（Sb-1～13・62・63）石器・分布図・接合資料：直江康雄

上白滝8遺跡（Sb-14～61・斜面部）石器・分布図・接合資料：鈴木宏行

### 第3分冊（写真図版編）

奥白滝11・上白滝6・白滝第30地点遺跡調査状況・石器・接合資料：長沼 孝

上白滝8遺跡調査状況・（Sb-1～13）石器・接合資料：直江康雄

上白滝8遺跡（Sb-14～61・斜面部）石器・接合資料：鈴木宏行

- 8 作業の一部および年代測定・分析などは下記の機関または個人に依頼した。

現地測量・航空写真撮影およびデータ入力、遺物実測の一部など：（株）シン技術コンサル

遺物写真撮影：（有）写真事務所クリーク（佐藤雅彦）

接合資料他実測用写真撮影：小川忠博

放射性炭素年代測定：（株）地球科学研究所（Ⅶ章1）

黒曜石フィッシュトラック年代測定：山梨県環境科学研究所 奥水達司（Ⅶ章2）

堆積層の粒度・珪藻、堆積層中の花粉・植物珪酸体分析：パリノサーヴェイ株式会社（Ⅶ章3）

黒曜石産地推定・水和層測定：（有）遺物分析研究所、藁科哲男（Ⅶ章4）

- 9 現地の写真撮影は、随時調査員が行い、航空写真・遺物は、前述の会社が行った。

- 10 出土遺物は白滝村教育委員会が、写真・データなどの記録類は財団法人北海道埋蔵文化財センターが保管している。

- 11 調査にあたっては、下記の機関および人びとの指導ならびに協力をえた。（順不同、敬称略）

文化庁、青森県立郷土館、岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター、仙台市富沢遺跡保存館、東北福祉大学、財団法人東京都埋蔵文化財センター、東京都立大学、明治大学考古学博物館、神奈川県立埋蔵文化財センター、財団法人かながわ考古学財団、長野県埋蔵文化財センター、長門町教育委員会、野尻湖ナウマンゾウ博物館、朝日村教育委員会、津南町教育委員会、沼津市教育委員会、京都文化博物館、岡山理科大学、鹿児島県埋蔵文化財センター、熊本県教育委員会、福岡市埋蔵文化財センター、多久市教育委員会、北海道教育委員会、白滝村教育委員会、丸瀬布町教育委員会、遠軽町教育委員会、北見市北網圏文化センター、常呂町教育委員会、羅臼町教育委員会、釧路市埋蔵文化財調査センター、帯広百年記念館、名寄市北国博物館、下川町教育委員会、千歳市教育委員会、今金町教育委員会、市立函館博物館、知内町教育委員会、

岡村道雄、土肥 孝、平川一臣、中村有吾、林 謙作、木村英明、鶴丸俊明、吉崎昌一、長崎潤一、梶原 洋、柳田俊雄、佐川正敏、岡本東三、安斎正人、佐藤宏之、山田 哲、小野 昭、山田昌久、大沼克彦、阿部朝衛、安森政雄、島田和高、野口 淳、山科 哲、加藤晋平、小林達雄、谷口康浩、藁科哲男、稲田孝司、小林博昭、富岡直人、小畑弘己、三宅徹也、太田原潤、丸山浩治、中川重紀、北村忠昭、須田良平、斎野裕彦、会田容弘、渋谷孝雄、松沢亜生、小菅将夫、栗島義明、館野 孝、五十嵐彰、栗原伸好、大塚健一、吉田政行、砂田佳弘、奥水達司、大竹憲昭、大竹幸恵、堤 隆、須藤隆司、谷 和隆、中村由克、沢田 敦、小熊博史、山本 克、佐藤雅一、田中耕作、鈴木 暁、高橋保雄、前嶋秀張、白鳥直樹、笹原芳郎、青島邦夫、池谷信之、鈴木忠司、高野 学、佐藤良二、西田昌弘、麻柄一志、岩永雅彦、木崎康弘、宮田栄二、牛ノ濱修、永野達郎、鎌田洋昭、山田悟郎、三野紀雄、松村愉文、瀬下直人、太田敏量、北沢 実、山原敏朗、大矢義明、今井真二、氏江敏文、鈴木邦輝、涌坂周一、石川 朗、高橋 理、出穂雅実、高倉 純、大島直行、寺崎康史、長谷部一弘、高橋豊彦

## 記号等の説明

- 1 調査区域図・遺跡全体の遺物分布図などの縮尺は、任意であるのですべてスケールを付けたが、発掘区の一辺は4 mであるので、目安としてもらいたい。
- 2 各石器ブロックの基本的な全遺物分布図の縮尺は、以下のようにしたが、器種別分布図、接合分布図などは統一せず、スペースに応じた縮尺とした。いずれの場合も縮尺とスケールを示した。  
奥白滝11 1：240                      上白滝8 1：150 (Sb-17・19・27・61は1：200)  
上白滝6・白滝第30地点 1：150
- 3 母岩別・接合資料の接合分布図の基本的な縮尺は、以下のようにしたが、全体図・拡大図の一部は、スペースに応じた縮尺とした。いずれの場合も縮尺とスケールを示した。  
上白滝8・上白滝6 1：200
- 4 遺物の縮尺は、実測図・写真とも、石器類は1：2としたが、一部大型の石器については1：3とした。接合資料および接合破片は、実測図・写真とも1：3とした。
- 5 一部の接合資料実測図においては、視覚的に図を理解し易くするために接合剥片の腹面側、接合資料内の内側部分などをトーンで示した部分がある。
- 6 尖頭器関連の接合資料の実測図においては、全体の状況を示すと同時に腹面側（内側）の状況の実測図を示したものもある。
- 7 接合資料の中で、剥片石器や石核の素材である剥片もしくは原石を分割したものについては「個体A」「個体B」・・・、さらにそれらから剥離された剥片を素材にするものは「個体a」「個体b」・・・と呼称した。
- 8 接合資料は、剥離行程を理解し易くするために模式図を作成し、実測図と共に掲載した。模式図は同一段階の剥離群毎にトーンを変え、剥離の流れを番号で示した。ただし、切り合い関係がなく、前後関係が明らかでないものにおいても便宜上番号を付けたので、詳細は個々の説明を参照願いたい。
- 9 剥離模式図の縮尺は任意である。模式図中の矢印（——▶）は接合剥片の剥離方向を示すが、接合剥片の打点側が欠損している場合は切れた矢印（—▶）、重なって見えない部分は破線の矢印（-----▶）で示した。また、素材剥離時の打撃点部分に▶を付けたものもある。
- 10 接合資料と共に掲載した接合破片（定型的な石器も含む）は基本的に剥離順番に並べてある。
- 11 尖頭器、細石刃関連などの模式図においては、接合剥片に残存する打点の位置から、想定される輪郭を示したものもある。
- 12 調査区域図および遺物分布図など方位記号は平面直角座標の北を、レベルは標高（単位はm）を示す。
- 13 遺構や石器ブロックについては以下の略号を使用した場合がある。  
Sb：石器ブロック      Cb：炭化木片ブロック
- 14 遺物分布図では以下の記号を用いた。  
●：剥片      ●：石刃      ●：縦長剥片      +：削片      ▲：細石刃  
▲：細石刃核      ◆：舟底形石器      ▲：尖頭器      ◆：両面調整石器      ★：ナイフ形石器  
▲：彫器      ■：搔器      ◆：錐形石器      ▼：削器      ▼：二次加工ある剥片  
⊠：石核      ⊠：石刃核      ▲：石鏃・石刃鏃      人：つまみ付きナイフ  
□：礫石器等（斧形石器・敲石・砥石・台石・原石・礫）

- 15 石器ブロックの全遺物分布図については剥片を網点で示した。また、接合分布図、母岩別・接合資料分布図においても、全体の遺物を網点で示したものもある。
- 16 挿図中の番号は、石器群ごとに単体石器、接合資料、写真のみ掲載接合資料の順で1から付けた。また、接合破片として接合資料の所に示した場合は、単体石器で付した番号を付けている。
- 17 遺物分布図の記号横の数字は、遺物番号を示している。また、分布図中の縮小した遺物実測図横の数字は挿図中の番号で、さらに出土発掘区・遺物番号を同時に表示したものもある。
- 18 石器ブロック接合分布図の接合線は、剥離順番を示すものではなく、遺物番号の若い順番に機械的に結んだものである。
- 19 接合資料の接合分布図では、折れ面接合をすべて実線で示した。また、個体や段階などを示す場合に破線で示したものもある。
- 20 細石刃関連の接合資料に関しては、一括遺物点数を接合分布図中に掲載した。
- 21 石質は掲載遺物の一覧表に示したが、黒曜石については、以下の5種類に分けて示した。  
 黒曜石1：黒色 黒曜石2：梨肌（黒色） 黒曜石3：黒色に茶色が混じる（黒＞茶）  
 黒曜石4：茶色に黒色が混じる（茶＞黒）  
 黒曜石5：黒色に紫がかかった茶色が混じる（黒＞紫・茶）
- ただし、黒曜石2の梨肌で、黒曜石5の特徴があるものについては、黒曜石2の5という形で表現する。この分類は、破片の状態での観察なので、同一母岩でも2種類の特徴がみられる場合もある。
- 接合資料の一覧表では、スペースの関係で、上記の黒曜石1～5についてそれぞれを1～5の数字のみで示した。
- 碧玉については、色調から濃緑色の1、赤色の2、褐～褐黄色の3とした。
- 安山岩については、主に剥片石器に利用される緻密で玄武岩質のものを安山岩1、主に台石や敲石などに利用される輝石安山岩などのものを安山岩2とした。
- 珪質頁岩は泥岩質の頁岩と区別するために使用したもので、硬質頁岩や凝灰岩質のものなどを含んでいる。原産地を考慮した細分は今後の課題である。
- 22 黒曜石以外の石質については、実測図番号の下に以下の略号で示した。
- 珪質頁岩：Si-Sh      めのう：Ag      碧玉：Ja      珪岩：Qu      安山岩：An  
 緑色泥岩：Gr-Mu      凝灰岩：Tu      片岩：Sch      粘板岩：Sl      砂岩：Sa

## 写真図版の説明

- 1 写真図版は、遺跡別に奥白滝11遺跡、上白滝8遺跡、上白滝6遺跡、白滝第30地点遺跡の順で掲載した。
- 2 掲載順は、空中写真、調査状況、炭化木片ブロック等、石器ブロック別遺物出土状況、出土遺物である。
- 3 挿図に掲載した遺物は、すべて写真を掲載している。また、写真のみ掲載した接合資料、接合破片もある。
- 4 出土遺物は、石器ブロック群・区域毎に単体石器、接合資料の順で掲載し、番号は挿図中の番号と一致している。接合資料は基本的に挿図の掲載順としたが、割り付けの関係で、前後することや、写真のみの掲載資料が組み合わされている場合がある。挿図とは番号で照合していただきたい。
- 5 写真の縮尺は、単体石器は1：2であるが、一部大型のものについては1：3とした。接合資料は1：3とした。
- 6 接合資料の写真は、実測図作成用として90°展開の台に固定し、破片の輪郭や剥離面が明確になるようなライティングでストロボ撮影したものを1：2にプリントした。したがって、各面の誤差はないが、単体石器や接合破片とは若干異なった写真となっている。また、撮影時の固定具などがみられることがあるので、注意願いたい。
- 7 単体石器は通常の俯瞰撮影なので、正面と裏面では若干の誤差を生じていることがある。また、接合資料の写真とも若干異なっていることがある。

目 次  
第1分冊（本文編）

口絵（カラー図版）

例言・記号等の説明・写真図版の説明

目次・第1分冊挿図目次・第1分冊表目次・第2分冊挿図目次抜粋・第3分冊目次抜粋

I 調査の概要	1
1 調査要項	1
2 調査体制	2
3 調査に至る経過	3
4 調査概要	4
(1) 発掘区の設定	4
(2) 調査の方法	6
(3) 整理の方法	7
(4) 報告書の作成	8
(5) 遺構・遺物の分類	9
(6) 調査結果の概要	15
II 遺跡の位置と周辺的环境	41
1 遺跡の位置と周辺の遺跡	41
2 遺跡周辺の地形と地質	44
3 基本土層	47
4 黒曜石の原石山・赤石山	49
III 奥白滝11遺跡の調査	53
1 調査の概要	53
(1) 調査要項	53
(2) 調査体制	53
(3) 調査日誌抄	54
(4) 発掘区の設定	54
(5) 土層	54
(6) 調査の方法	56
(7) 整理の方法	56
(8) 調査結果の概要	59
2 遺構と遺物	59
(1) 遺物分布と石器ブロック	60
(2) 石器ブロック1（Sb-1）の石器	60
出土石器	60
分布・接合状況	61
IV 上白滝8遺跡の調査（東地区）	63
1 調査の概要	63
(1) 調査要項	63
(2) 調査体制	63

(3) 調査日誌抄	64
(4) 発掘区の設定	69
(5) 土層	70
(6) 調査の方法	82
(7) 整理の方法	84
(8) 調査結果の概要	85
2 遺構と遺物	88
(1) 炭化木片ブロック	88
(2) 遺物分布と石器ブロック・石器ブロック群・区域	95
(3) 石器ブロック1～3 (Sb - 1～3) の石器	133
出土石器	133
分布・接合状況	135
母岩別資料	136
(4) 石器ブロック4～6 (Sb - 4～6) の石器	140
出土石器	140
分布・接合状況	143
母岩別資料	144
(5) 石器ブロック7・8 (Sb - 7・8) の石器	152
出土石器	152
分布・接合状況	153
母岩別資料	153
(6) 石器ブロック9 (Sb - 9) の石器	155
出土石器	155
分布・接合状況	156
母岩別資料	157
(7) 石器ブロック10 (Sb - 10) の石器	160
出土石器	160
分布・接合状況	161
母岩別資料	162
(8) 石器ブロック11～13 (Sb - 11～13) の石器	162
出土石器	162
分布・接合状況	164
母岩別資料	165
(9) 白滝I群石器ブロック外の石器	168
出土石器	168
分布	168
(10) A区・石器ブロック14～19 (Sb - 14～19) の石器	168
出土石器	168
分布・接合状況	174
母岩別資料	176

(11) B区・石器ブロック20～29 (Sb - 20～29) の石器	189
出土石器	189
分布・接合状況	194
母岩別資料	196
(12) C区・石器ブロック30～35 (Sb - 30～35) の石器	205
出土石器	205
分布・接合状況	208
母岩別資料	209
(13) D区・石器ブロック36～55 (Sb - 36～55) の石器	212
出土石器	212
分布・接合状況	217
母岩別資料	221
(14) E区・石器ブロック56～60 (Sb - 56～60) の石器	235
出土石器	235
分布・接合状況	236
母岩別資料	237
(15) F区・石器ブロック61 (Sb - 61) の石器	238
出土石器	238
分布・接合状況	239
母岩別資料	240
(16) 白滝I群以外石器ブロック外の石器	240
出土石器	240
分布	241
(17) 表土(重機調査)の石器	241
出土石器	241
(18) 斜面部(重機調査)の石器	242
出土石器	243
分布・接合状況	247
母岩別資料	247
(18) 低位部・石器ブロック62・63 (Sb - 62・63) の石器	248
出土石器	248
分布	249
V 上白滝6遺跡の調査(平成13年度調査分)	251
1 調査の概要	251
(1) 調査要項	251
(2) 調査体制	251
(3) 調査日誌抄	251
(4) 発掘区の設定	252
(5) 土層	252
(6) 調査の方法	254

(7) 整理の方法	254
(8) 調査結果の概要	257
2 遺構と遺物	258
(1) 遺物分布と石器ブロック	258
(2) 石器ブロック4 (Sb - 4) の石器	261
出土石器	261
分布・接合状況	264
(3) 石器ブロック5 (Sb - 5) の石器	264
出土石器	264
分布・接合状況	266
母岩別資料	266
VI 白滝第30地点遺跡の調査	269
1 調査の概要	269
(1) 調査要項	269
(2) 調査体制	269
(3) 調査日誌抄	271
(4) 発掘区の設定	271
(5) 土層	272
(6) 調査の方法	272
(7) 整理の方法	272
(8) 調査結果の概要	274
2 遺構と遺物	275
(1) 炭化木片ブロック	276
(2) 遺物分布と石器ブロック	278
(3) 石器ブロック1 (Sb - 1) の石器	278
出土石器	278
分布・接合状況	279
(4) 石器ブロック2 (Sb - 2) の石器	279
出土石器	279
分布・接合状況	279
(5) 石器ブロック外・表土層の石器	279
VII 自然科学的分析等	281
1 放射性炭素年代測定	281
2 上白滝8遺跡出土黒曜石のフィッシュトラック年代測定	285
3 上白滝8遺跡の堆積層・古植生の検討	287
4 上白滝8・上白滝6遺跡出土の黒曜石製石器の原材産地分析および非破壊分析による水和層の測定	298
VIII まとめ	321
1 上白滝8遺跡「白滝I群」(Sb - 1~13) について	321
2 上白滝8遺跡「白滝I群」以外について	337

(1) A区・石器ブロック14~19 (Sb - 14~19)	337
(2) B区・石器ブロック20~29 (Sb - 20~29)	343
(3) C区・石器ブロック30~35 (Sb - 30~35)	347
(4) D区・石器ブロック36~55 (Sb - 36~55)	350
(5) E区・石器ブロック56~60 (Sb - 56~60)	357
(6) F区・石器ブロック61 (Sb - 61)	358
(7) 斜面部	360
引用文献	362
掲載遺物一覧	365

## 第1分冊（本文編）挿図目次

### 調査の概要

図I-1 ルート変更図	5
図I-2 器種分類(1)	10
図I-3 器種分類(2)	11
図I-4 器種分類(3)	12
図I-5 器種分類(4)・計測の基準	13
図I-6 白滝遺跡群調査区域図	19
図I-7 奥白滝11・服部台2遺跡調査区域・遺物分布図	22
図I-8 奥白滝1遺跡調査区域・遺物分布図	23
図I-9 上白滝8遺跡調査区域・遺物分布図	25
図I-10 上白滝2・上白滝5遺跡調査区域・遺物分布図	27
図I-11 上白滝6遺跡調査区域・遺物分布図	29
図I-12 上白滝7・北支湧別4遺跡調査区域・遺物分布図	31
図I-13 白滝第30地点・白滝8遺跡調査区域・遺物分布図	32
図I-14 白滝18遺跡調査区域・遺物分布図	33
図I-15 白滝3・下白滝遺跡調査区域・遺物分布図	34
図I-16 旧白滝9・旧白滝8遺跡調査区域・遺物分布図	35
図I-17 白滝遺跡群出土石器(1)	36
図I-18 白滝遺跡群出土石器(2)	37

### 遺跡の位置と周辺環境

図II-1 白滝村の位置と村内の遺跡	42
図II-2 奥白滝11・上白滝8・上白滝6・白滝第30地点遺跡の位置と周辺の遺跡	43
図II-3 段丘面分布図	45
図II-4 基本土層図	48
図II-5 調査遺跡・黒曜石露頭位置図	50

### 奥白滝11遺跡の調査

図III-1 調査範囲・発掘区設定図	55
図III-2 発掘区域地形・土層断面図	57
図III-3 遺物分布・接合分布・石器ブロック設定図	58

### 上白滝8遺跡の調査

図IV-1 調査範囲・発掘区設定図	71
図IV-2 土層概略図(1)	72
図IV-3 土層概略図(2)	73
図IV-4 土層概略図(3)	74
図IV-5 土層断面図(1)	76
図IV-6 土層断面図(2)	77
図IV-7 土層断面図(3)	78
図IV-8 土層断面図(4)	79
図IV-9 土層断面図(5)	80
図IV-10 土層断面図(6)	81
図IV-11 調査範囲・報告地区・発掘区域地形図	83
図IV-12 炭化木片ブロック分布図	91
図IV-13 炭化木片ブロックの平面・断面図(1)	92
図IV-14 炭化木片ブロックの平面・断面図(2)	94
図IV-15 炭化木片ブロックの平面・断面図(3)	96
図IV-16 遺物分布(1)・接合分布図(1)	106
図IV-17 遺物点数(1)・密度分布(1)・石器ブロック設定図(1)	107
図IV-18 遺物分布(2)・遺物点数(2)・密度分布図(2)	108
図IV-19 接合分布図(2)	109
図IV-20 石器ブロック設定(2)・区域設定・接合分布図(3)	110
図IV-21 石器ブロック設定図(3)	111
図IV-22 器種・石材別分布図(1)	114
図IV-23 器種・石材別分布図(2)	115

図Ⅳ-24	器種・石材別分布図(3)	116	図Ⅶ-6	珪藻化石・植物珪酸体	297
図Ⅳ-25	器種・石材別分布図(4)	117	図Ⅶ-7	黒曜石原産地	304
図Ⅳ-26	器種・石材別分布図(5)	120	図Ⅶ-8	黒曜石水和層の干渉波スペクトル	312
図Ⅳ-27	器種・石材別分布図(6)	121	図Ⅶ-9	産地分析・水和層測定試料(1)	314
図Ⅳ-28	器種・石材別分布図(7)	122	図Ⅶ-10	産地分析・水和層測定試料(2)	315
図Ⅳ-29	器種・石材別分布図(8)	123	図Ⅶ-11	産地分析・水和層測定試料(3)	316
図Ⅳ-30	器種・石材別分布図(9)	124	図Ⅶ-12	産地分析・水和層測定試料(4)	317
図Ⅳ-31	器種・石材別分布図(10)	125	図Ⅶ-13	産地分析・水和層測定試料(5)	318
図Ⅳ-32	器種・石材別分布図(11)	126	図Ⅶ-14	産地分析・水和層測定試料(6)	319
図Ⅳ-33	器種・石材別分布図(12)	127	図Ⅶ-15	産地分析・水和層測定試料(7)	320
図Ⅳ-34	器種・石材別分布図(13)	128	<b>まとめ</b>		
図Ⅳ-35	器種・石材別分布図(14)	129	図Ⅷ-1	「白滝Ⅰ群」石器組成図(1)	322
図Ⅳ-36	器種・石材別分布図(15)	130	図Ⅷ-2	「白滝Ⅰ群」石器組成図(2)	323
<b>上白滝6遺跡の調査(2)</b>			図Ⅷ-3	二次加工ある剥片の長幅比	324
図Ⅴ-1	調査範囲・発掘区設定図(1)	253	図Ⅷ-4	石器ブロック群別二次加工ある剥片の素材と加工	324
図Ⅴ-2	発掘区設定(2)・調査範囲図	255	図Ⅷ-5	「白滝Ⅰ群」母岩別資料(1)	326
図Ⅴ-3	発掘区域地形・土層断面図	256	図Ⅷ-6	「白滝Ⅰ群」母岩別資料(2)	328
図Ⅴ-4	遺物分布・接合分布図	259	図Ⅷ-7	「白滝Ⅰ群」母岩別資料(3)	329
図Ⅴ-5	石器ブロック設定図	260	図Ⅷ-8	「白滝Ⅰ群」母岩別資料(4)	330
図Ⅴ-6	器種・石材別分布図(1)	262	図Ⅷ-9	「白滝Ⅰ群」母岩別資料(5)	332
図Ⅴ-7	器種・石材別分布図(2)	263	図Ⅷ-10	「白滝Ⅰ群」母岩別資料(6)	333
<b>白滝第30地点遺跡の調査</b>			図Ⅷ-11	A区(Sb-14~19)石器組成図	338
図Ⅵ-1	調査範囲・発掘区設定図	270	図Ⅷ-12	A区(Sb-14~19)細石刃関連資料	339
図Ⅵ-2	発掘区域地形・土層断面図	273	図Ⅷ-13	A区(Sb-14~19)母岩別資料	340
図Ⅵ-3	炭化木片ブロックの平面・断面図	275	図Ⅷ-14	B区(Sb-20~29)石器組成図	344
図Ⅵ-4	遺物分布・接合分布・石器ブロック設定図	277	図Ⅷ-15	B区(Sb-20~29)母岩別資料	345
<b>自然科学的分析等</b>			図Ⅷ-16	C区(Sb-30~35)石器組成図	348
図Ⅶ-1	フィッシュントラック年代測定試料	286	図Ⅷ-17	C区(Sb-30~35)母岩別資料	349
図Ⅶ-2	上白滝8遺跡サンプル採取地点と各地点の柱状図	288	図Ⅷ-18	D区(Sb-36~55)石器組成図(1)	352
図Ⅶ-3	上白滝8遺跡S27区南壁の粒径加積曲線(1)	291	図Ⅷ-19	D区(Sb-36~55)石器組成図(2)	353
図Ⅶ-4	上白滝8遺跡S27区南壁の粒径加積曲線(2)	292	図Ⅷ-20	D区(Sb-36~55)母岩別資料(1)	354
図Ⅶ-5	上白滝8遺跡露頭1地点の主要珪藻化石群集	293	図Ⅷ-21	D区(Sb-36~55)母岩別資料(2)	355
			図Ⅷ-22	E区(Sb-56~60)(上段)・F区(Sb-61)(下段)石器組成図・母岩別資料	359
			図Ⅷ-23	斜面部細石刃関連資料	361

## 第1分冊(本文編)表目次

### 調査の概要

表Ⅰ-1	白滝遺跡群遺跡別・調査年別面積一覧	17
表Ⅰ-2	白滝遺跡群遺跡別出土点数等一覧	17

### 遺跡の位置と周辺の環境

表Ⅱ-1	白滝村の遺跡一覧	43
------	----------	----

### 奥白滝11遺跡の調査

表Ⅲ-1	奥白滝11遺跡出土遺物点数・重量一覧	59
表Ⅲ-2	奥白滝11遺跡出土遺物石質別一覧	59

表Ⅲ-3	奥白滝11遺跡出土点取り遺物ブロック・石質別一覧	60
表Ⅲ-4	奥白滝11遺跡出土原礫面残存・被熱石器一覧	60

### 上白滝8遺跡の調査

表Ⅳ-1	上白滝8遺跡東地区出土遺物点数・重量一覧	86
表Ⅳ-2	上白滝8遺跡東地区出土遺物石質別一覧	87

表Ⅳ-3	上白滝8遺跡東地区炭化木片ブロック一覧	89	表Ⅶ-2	上白滝8遺跡出土黒曜石のフィッシュントラック年代測定結果	286
表Ⅳ-4	上白滝8遺跡東地区出土炭化材樹種同定結果一覧	90	表Ⅶ-3	上白滝8遺跡S27区南壁の粒度分析結果	289
表Ⅳ-5	上白滝8遺跡東地区出土点取り遺物ブロック・石質別一覧(1)	98	表Ⅶ-4	上白滝8遺跡S27区南壁の粒度分析評価結果	289
表Ⅳ-6	上白滝8遺跡東地区出土点取り遺物ブロック・石質別一覧(2)	99	表Ⅶ-5	上白滝8遺跡各地点の珪藻分析結果	293
表Ⅳ-7	上白滝8遺跡東地区出土点取り遺物ブロック・石質別一覧(3)	100	表Ⅶ-6	上白滝8遺跡S27区南壁の花粉分析結果	295
表Ⅳ-8	上白滝8遺跡東地区出土点取り遺物ブロック・石質別一覧(4)	101	表Ⅶ-7	上白滝8遺跡S27区南壁の植物珪酸体分析結果	295
表Ⅳ-9	上白滝8遺跡東地区出土点取り遺物ブロック・石質別一覧(5)	102	表Ⅶ-8	各黒曜石の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値(1)	300
表Ⅳ-10	上白滝8遺跡東地区出土点取り遺物ブロック・石質別一覧(6)	103	表Ⅶ-9	各黒曜石の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値(2)	301
表Ⅳ-11	上白滝8遺跡東地区出土点取り遺物ブロック・石質別一覧(7)	104	表Ⅶ-10	各黒曜石の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値(3)	302
表Ⅳ-12	上白滝8遺跡東地区出土点取り遺物ブロック・石質別一覧(8)	105	表Ⅶ-11	湧別川河口域の河床から採取した247個の黒曜石円礫の分類結果	304
表Ⅳ-13	上白滝8遺跡東地区出土原礫面残存・被熱石器一覧	132	表Ⅶ-12	常呂川(中ノ島～北見大橋)から採取した37個の黒曜石円礫の分類結果	304
<b>上白滝6遺跡の調査(2)</b>			表Ⅶ-13	上白滝8・上白滝6遺跡出土黒曜石製遺物の元素比分析結果(1)	306
表Ⅴ-1	上白滝6遺跡出土遺物点数・重量一覧	257	表Ⅶ-14	上白滝8・上白滝6遺跡出土黒曜石製遺物の元素比分析結果(2)	307
表Ⅴ-2	上白滝6遺跡出土遺物石質別一覧	257	表Ⅶ-15	上白滝8・上白滝6遺跡出土黒曜石製遺物の原産地推定結果(1)	308
表Ⅴ-3	上白滝6遺跡出土点取り遺物ブロック・石質別一覧	261	表Ⅶ-16	上白滝8・上白滝6遺跡出土黒曜石製遺物の原産地推定結果(2)	309
表Ⅴ-4	上白滝6遺跡出土原礫面残存・被熱石器一覧	261	表Ⅶ-17	上白滝8・上白滝6遺跡出土黒曜石製遺物の水和層厚測定結果	311
<b>白滝第30地点遺跡の調査</b>			<b>まとめ</b>		
表Ⅵ-1	白滝第30地点遺跡出土遺物点数・重量一覧	274	表Ⅷ-1	二次加工ある剥片の素材と加工	324
表Ⅵ-2	白滝第30地点遺跡出土遺物石質別一覧	274	表Ⅷ-2	母岩別資料接合・分布状況	334
表Ⅵ-3	白滝第30地点遺跡炭化木片ブロック一覧	276	<b>掲載遺物一覧</b>		
表Ⅵ-4	白滝第30地点遺跡出土点取り遺物ブロック・石質別一覧	276	表1	奥白滝11遺跡掲載石器一覧	365
表Ⅵ-5	白滝第30地点遺跡出土原礫面残存・被熱石器一覧	276	表2	上白滝8遺跡掲載石器一覧	365
<b>自然科学的分析等</b>			表3	上白滝8遺跡掲載接合資料一覧	400
表Ⅶ-1	放射性炭素年代測定一覧	284	表4	上白滝6遺跡掲載石器一覧	482
			表5	上白滝6遺跡掲載接合資料一覧	483
			表6	白滝第30地点遺跡掲載石器一覧	484

## 第2分冊(石器実測・分布図編)挿図目次抜粋

<b>奥白滝11遺跡の調査</b>		図Ⅳ-44~47	Sb-1~3の分布・接合分布図	12	
図Ⅲ-4	Sb-1の石器	1	図Ⅳ-48~67	Sb-1~3の接合資料	16
図Ⅲ-5・6	Sb-1の分布・接合分布図	2	図Ⅳ-68~81	Sb-4~6の石器	36
<b>上白滝8遺跡の調査</b>		図Ⅳ-82~92	Sb-4~6の分布・接合分布図	50	
図Ⅳ-37~43	Sb-1~3の石器	5	図Ⅳ-93~133	Sb-4~6の接合資料	61

図IV-134~136	Sb-7・8の石器	102	図IV-465~487	D区(Sb-36~55)の分布・接合 分布図	433
図IV-137~139	Sb-7・8の分布・接合分布図	105	図IV-488~542	D区(Sb-36~55)の接合資料	456
図IV-140~157	Sb-7・8の接合資料	108	図IV-543~546	E区(Sb-56~60)の石器	511
図IV-158~162	Sb-9の石器	126	図IV-547~551	E区(Sb-56~60)の分布・接合 分布図	515
図IV-163~166	Sb-9の分布・接合分布図	131	図IV-552・553	E区(Sb-56~60)の接合資料	520
図IV-167~180	Sb-9の接合資料	135	図IV-554~558	F区(Sb-61)の石器	522
図IV-181~183	Sb-10の石器	149	図IV-559~562	F区(Sb-61)の分布・接合分布 図	527
図IV-184・185	Sb-10の分布・接合分布図	152	図IV-563・564	F区(Sb-61)の接合資料	531
図IV-186	Sb-10の接合資料	154	図IV-565・566	石器ブロック外の石器、分布図	533
図IV-187~190	Sb-11~13の石器	155	図IV-567~575	表土(重機調査)の石器	535
図IV-191~194	Sb-11~13の分布・接合分布図	159	図IV-576~594	斜面部の石器	544
図IV-195~207	Sb-11~13の接合資料	163	図IV-595~599	斜面部の分布図	563
図IV-208	石器ブロック外の石器、分布図	176	図IV-600	斜面部の接合資料	568
図IV-209~244	A区(Sb-14~19)の石器	177	図IV-601	Sb-62・63(低位部)の石器、分布図	569
図IV-245~257	A区(Sb-14~19)の分布・接合 分布図	213	<b>上白滝6遺跡の調査(2)</b>		
図IV-258~290	A区(Sb-14~19)の接合資料	226	図V-8・9	Sb-4の石器、分布・接合分布図	571
図IV-291~328	B区(Sb-20~29)の石器	259	図V-10~13	Sb-5の石器	573
図IV-329~343	B区(Sb-20~29)の分布・接合 分布図	297	図V-14~16	Sb-5の分布・接合分布図	577
図IV-344~375	B区(Sb-20~29)の接合資料	312	図V-17~19	Sb-5の接合資料	580
図IV-376~388	C区(Sb-30~35)の石器	344	<b>白滝第30地点遺跡の調査</b>		
図IV-389~394	C区(Sb-30~35)の分布・接合 分布図	357	図VI-5・6	Sb-1の石器	583
図IV-395~407	C区(Sb-30~35)の接合資料	363	図VI-7	Sb-1の分布・接合分布図	585
図IV-408~464	D区(Sb-36~55)の石器	376	図VI-8	Sb-2の分布・接合分布図	586

### 第3分冊(写真図版) 目次抜粋

#### 奥白滝11遺跡の調査

図版1	空中写真
図版2	調査状況
図版3	Sb-1の調査・遺物
図版4	Sb-1の石器
<b>上白滝8遺跡の調査</b>	
図版5・6	空中写真
図版7	遺跡近景
図版8~17	調査状況
図版18・19	土層断面
図版20~24	炭化木片ブロック
図版25	Sb-2・3の調査・遺物
図版26	Sb-3・4の調査・遺物
図版27	Sb-5の調査・遺物
図版28	Sb-5・6の調査・遺物
図版29	Sb-7~9の調査・遺物
図版30	Sb-9の調査・遺物
図版31	Sb-11・12の調査・遺物
図版32	Sb-15~17の調査・遺物

図版33・34	Sb-17の調査・遺物
図版35	Sb-18~21の調査・遺物
図版36	Sb-21・23の調査・遺物
図版37	Sb-24・25の調査・遺物
図版38	Sb-25・27の調査・遺物
図版39~42	Sb-27の調査・遺物
図版43	Sb-27・28の調査・遺物
図版44	Sb-28の調査・遺物
図版45	Sb-28・30・32の調査・遺物
図版46	Sb-33・34の調査・遺物
図版47	Sb-33~35の調査・遺物
図版48	Sb-35の調査・遺物
図版49	Sb-35~37の調査・遺物
図版50	Sb-37・38の調査・遺物
図版51	Sb-38~40・42・43の調査・遺物
図版52	Sb-43・44の調査・遺物
図版53	Sb-44の調査・遺物
図版54	Sb-45・46の調査・遺物
図版55・56	Sb-46の調査・遺物

図版57～61 Sb - 47の調査・遺物  
図版62 Sb - 48～51の調査・遺物  
図版63 Sb - 51・52の調査・遺物  
図版64 Sb - 52～54の調査・遺物  
図版65 Sb - 56・57・59・60の調査・遺物  
図版66 Sb - 61の調査・遺物  
図版67 石器ブロック外・低位部の調査・遺物  
図版68～79 Sb - 1～3の石器  
図版80～109 Sb - 4～6の石器  
図版110～123 Sb - 7・8の石器  
図版124～130 Sb - 9の石器  
図版131・132 Sb - 10の石器  
図版133～141 Sb - 11～13の石器  
図版142 Sb - 11～13・白滝I群石器ブロック外の  
石器  
図版143～193 A区 (Sb - 14～19) の石器  
図版194～255 B区 (Sb - 20～29) の石器  
図版256～278 C区 (Sb - 30～35) の石器  
図版279～356 D区 (Sb - 36～55) の石器

図版357～361 E区 (Sb - 56～60) の石器  
図版362～365 F区 (Sb - 61) の石器  
図版366 石器ブロック外の石器  
図版367～371 表土 (重機調査) の石器  
図版372～385 斜面部の石器  
図版386 斜面部・低位部の石器  
**上白滝6遺跡の調査(2)**  
図版387 空中写真  
図版388～390 調査状況  
図版391～393 Sb - 5の調査  
図版394 Sb - 4・5の石器  
図版395～400 Sb - 5の石器  
**白滝第30地点遺跡の調査**  
図版401 空中写真  
図版402 調査状況  
図版403 調査状況、土層ほか  
図版404 Sb - 1の調査・遺物  
図版405 Sb - 1・2の調査・遺物  
図版406 Sb - 1・2の石器ほか

# I 調査の概要

## 1 調査要項

事業名 一般国道450号白滝丸瀬布道路工事に伴う埋蔵文化財発掘調査（平成14年度）

委託者 国土交通省北海道開発局網走開発建設部

受託者 財団法人北海道埋蔵文化財センター

遺跡名・所在地・調査面積・調査期間

調査年度	遺跡名	道教委登録番号	所在地	調査面積(m <sup>2</sup> )	調査期間（現地調査）
平成7年度	上白滝8	I-20-91	紋別郡白滝村字上白滝179-1,181	6,600	平成7年4月17日～平成8年3月25日 （平成7年5月8日～10月25日）
平成8年度	上白滝8	I-20-91	紋別郡白滝村字上白滝179-1,181-2,181-3	10,212	平成8年4月11日～平成9年3月31日 （平成8年5月8日～10月30日）
	上白滝2	I-20-48	紋別郡白滝村字上白滝177-2,177-3	2,995	
小計				13,207	
平成9年度	奥白滝1	I-20-50	紋別郡白滝村字上白滝183-5	5,340	平成9年4月11日～平成10年3月31日 （平成9年5月6日～10月25日）
	上白滝8	I-20-91	紋別郡白滝村字上白滝181-4,182-3	320	
	上白滝2	I-20-48	紋別郡白滝村字上白滝176-2,177-3	3,930	
	上白滝5	I-20-88	紋別郡白滝村字上白滝123-3	3,728	
	上白滝7	I-20-90	紋別郡白滝村字上白滝219-3	7,443	
小計				20,761	
平成10年度	服部台2	I-20-13	紋別郡白滝村字奥白滝18-3	3,812	平成10年4月10日～平成11年3月31日 （平成10年5月6日～10月24日）
	奥白滝1	I-20-50	紋別郡白滝村字上白滝183-5	2,067	
	上白滝5	I-20-88	紋別郡白滝村字上白滝123-3	4,132	
	上白滝6	I-20-89	紋別郡白滝村字上白滝123-3,122-3	6,953	
	上白滝7	I-20-90	紋別郡白滝村字上白滝219-3	5,150	
	上白滝8	I-20-91	紋別郡白滝村字上白滝181-4,182-3	56	
	北支湧別4	I-20-67	紋別郡白滝村字北支湧別97-1	5,472	
小計				27,642	
平成11年度	奥白滝11	I-20-65	紋別郡白滝村字奥白滝52-5	505	平成11年4月1日～平成12年3月31日 （平成11年5月6日～7月4日）
	服部台2	I-20-13	紋別郡白滝村字奥白滝18-3	2,002	
小計				2,507	
平成12年度	服部台2	I-20-13	紋別郡白滝村字奥白滝18-3	877	平成12年4月3日～平成13年3月30日 （平成12年5月8日～10月27日）
	奥白滝1	I-20-50	紋別郡白滝村字上白滝183-2	345	
	上白滝8	I-20-91	紋別郡白滝村字上白滝182-2	661	
	白滝第30地点	I-20-6	紋別郡白滝村字白滝382-4	636	
	白滝8	I-20-58	紋別郡白滝村字白滝146-1,146-2	834	
	白滝18	I-20-92	紋別郡白滝村字白滝145,139-1	2,600	
小計				5,953	
平成13年度	上白滝6	I-20-89	紋別郡白滝村字上白滝123	670	平成13年4月2日～平成14年3月29日 （平成13年7月16日～9月14日）
	白滝3	I-20-36	紋別郡白滝村字白滝106ほか	2,900	
	下白滝	I-20-23	紋別郡白滝村字下白滝99-1	90	
小計				3,660	
平成14年度	旧白滝9	I-20-32	紋別郡白滝村字旧白滝438	3,380	平成14年4月1日～平成15年3月31日 （平成14年6月3日～10月25日）
	旧白滝8	I-20-31	紋別郡白滝村字旧白滝442	2,610	
	下白滝	I-20-23	紋別郡白滝村字下白滝99-1	2,250	
小計				8,240	
合計				88,570	

## 2 調査体制

財団法人北海道埋蔵文化財センター 理事長 伊藤一夫 (平成10年5月31日まで)  
大澤 満 (平成14年6月30日まで)  
森重楯一 (平成14年7月1日から)

専務理事 佐藤哲人 (平成11年5月31日まで) 常務理事 柴田忠昭 (平成11年3月31日まで)  
宮崎 勝 (平成11年6月1日から) 木村尚俊 (平成13年7月17日まで)  
畑 宏明 (平成14年6月1日から)

業務部長 山内 清 (平成9年3月31日まで) 第1調査部長 畑 宏明 (平成11年8月15日まで)  
北條雅洋 (平成10年3月31日まで) 木村尚俊 (平成13年7月17日まで)  
総務部長 中田 仁 (平成13年3月31日まで) (兼務)  
柳瀬茂樹 (平成14年3月31日まで) 大沼忠春 (平成14年3月31日まで)  
下村一久 (平成14年4月1日から) (兼務)  
畑 宏明 (平成14年4月1日から)  
(兼務)

平成7年度 第1調査部第3調査課課長 長沼 孝 (発掘担当者)  
同 文化財保護主事 宗像公司 (発掘担当者)

平成8年度 第1調査部第3調査課課長 長沼 孝 (発掘担当者)  
同 文化財保護主事 藤井 浩 (発掘担当者)  
同 文化財保護主事 宗像公司 (発掘担当者)  
同 文化財保護主事 坂本尚史  
同 文化財保護主事 鈴木宏行  
同 文化財保護主事 直江康雄

平成9年度 第1調査部第3調査課課長 長沼 孝 (発掘担当者)  
同 主任 越田雅司 (発掘担当者)  
同 文化財保護主事 宗像公司 (発掘担当者)  
同 文化財保護主事 坂本尚史  
同 文化財保護主事 鈴木宏行  
同 文化財保護主事 直江康雄

平成10年度 第1調査部第3調査課課長 長沼 孝 (発掘担当者)  
同 主任 越田雅司 (発掘担当者)  
同 文化財保護主事 宗像公司 (発掘担当者)  
同 文化財保護主事 坂本尚史  
同 文化財保護主事 鈴木宏行  
同 文化財保護主事 直江康雄

平成11年度 第1調査部第3調査課課長 長沼 孝 (発掘担当者)  
同 主任 越田雅司 (発掘担当者)

	同	主任	鈴木宏行
	同	文化財保護主事	坂本尚史
	同	文化財保護主事	佐藤 剛
	同	文化財保護主事	直江康雄 (発掘担当者)
	同	文化財保護主事	福井淳一
平成12年度	第1調査部第3調査課課長	長沼 孝	(発掘担当者)
	同	主任	越田雅司 (発掘担当者)
	同	主任	鈴木宏行 (発掘担当者)
	同	文化財保護主事	直江康雄 (発掘担当者)
平成13年度	第1調査部第3調査課課長	長沼 孝	(発掘担当者)
	同	主任	鈴木宏行 (発掘担当者)
	同	文化財保護主事	直江康雄
平成14年度	第1調査部第3調査課課長	長沼 孝	(発掘担当者)
	同	主任	鈴木宏行 (発掘担当者)
	同	主任	立田 理 (発掘担当者)
	同	文化財保護主事	直江康雄 (発掘担当者)

### 3 調査に至る経過

昭和62年に建設大臣によって指定された全国の高規格幹線道路網14,000kmのうち、北海道の整備道路は、1,828kmである。このうち日本道路公団が国土開発幹線道路として北海道縦貫・横断自動車道としての整備予定が1,378km、北海道開発局が一般国道の自動車専用道路として整備予定の五路線（日高、深川・留萌、旭川・紋別、帯広・広尾、函館・江差）が450kmとなっている。

旭川・紋別自動車道は、始点が旭川市で、比布町、愛別町、上川町、白滝村、丸瀬布町、遠軽町、上湧別町、湧別町を經由して終点のオホーツク海に面した紋別市に至る延長130kmの路線である。この路線のうち上川町上越から北見峠を抜ける北大雪トンネルを通り白滝村へ至る上越白滝道路については、白滝村における遺跡の密集地帯を通ることから、平成4年7月に埋蔵文化財保護のための事前協議書が北海道開発局網走開発建設部より北海道教育委員会あてに提出された。

同年8月の北海道教育委員会による所在確認調査を経て、平成5年7～11月には範囲確認調査が服部台、服部台2、白滝第4・30地点遺跡および国指定史跡「白滝遺跡」の隣接地などにおいて行われ、20haにおよぶ広範囲の遺跡が確認された。その後、遺跡の保存についての協議が関係者においてなされると同時に、北海道考古学会、日本考古学協会などからも保存要望書が提出され、その動向が学会でも注目されることとなった。

そのような状況で、大規模かつ重要な遺跡が密集する八号沢川と湧別川の合流点付近について路線の変更がなされ（図I-1）、奥白滝11・奥白滝12・服部台・服部台2・奥白滝1・上白滝8遺跡の6か所の主要部分について現状保存がはかられた。しかし、変更が困難な区域については事前の発掘調査が必要となり、平成7年から（財）北海道埋蔵文化財センターと白滝村教育委員会による発掘調査が開始された。平成11年度には、大規模な遺跡の密集する奥白滝、上白滝地区の本線部分については調査が終了し、現場調査の峠を越した。

平成12年度は、白滝IC手前の本線部分にあたる白滝8・白滝18遺跡と防雪柵設置のための服部台2・奥白滝1・上白滝8・白滝第30地点遺跡の調査を行った。白滝8遺跡は当初工事立会区域であっ

#### 4 調査概要

たが、表土を除去したところ遺物が確認されたので、発掘調査を行った。また、白滝18遺跡は平成11年度に調査予定であったが、用地買収の関係で調査が平成12年度に変更された。服部台2・奥白滝1・上白滝8・白滝第30地点の4遺跡の防雪柵設置に伴う調査は、道路用地の北側境界に接した3m幅のトレンチ調査であった。服部台2遺跡では、天狗平跨道橋の設置部分の追加調査もあり、一部平成10・11年の調査区と接している。奥白滝1遺跡では、平成9年の調査区とは8mの間隔がある。上白滝8遺跡では、当初用地幅までの調査を行っていた関係で、西側100mの調査で終了する予定であったが、平成8年調査の本線部分との間隔がわずかであったことと、防雪柵設置位置の関係から、用地内をすべて調査することとした。白滝第30地点遺跡では、白滝村教育委員会調査の白滝第4地点遺跡の調査区域に隣接し、白滝第30地点遺跡の調査区域とは、8～10mの間隔がある。

平成12年度で、白滝ICまでの調査は概ね終了したが、平成13年度において、上白滝6遺跡の工事用道路と白滝3遺跡のインターチェンジに附帯する道路部分の調査を2か月間行った。また、白滝ICから隣町の丸瀬布ICまでのちょうど中間点に位置する下白滝遺跡の小規模調査を実施した。

平成14年度は白滝IC－丸瀬布IC間の昨年調査した下白滝遺跡のほか幌加沢川左岸の旧白滝8遺跡、同右岸の旧白滝9遺跡の3か所の調査を行った。いずれも低位の段丘面で、耕作などによる攪乱が著しいが、土器などの出土もあり、縄文～続縄文時代の遺跡とみられる。今までの調査とは異なった石器類がみられ、空白であった縄文時代以降の白滝遺跡群の状況を知ることができる貴重な資料が得られた。

平成15年度は平成14年度に調査した旧白滝8遺跡と隣接する高台に位置する旧白滝5遺跡のほか、丸瀬布町の中島遺跡などを調査する予定である。

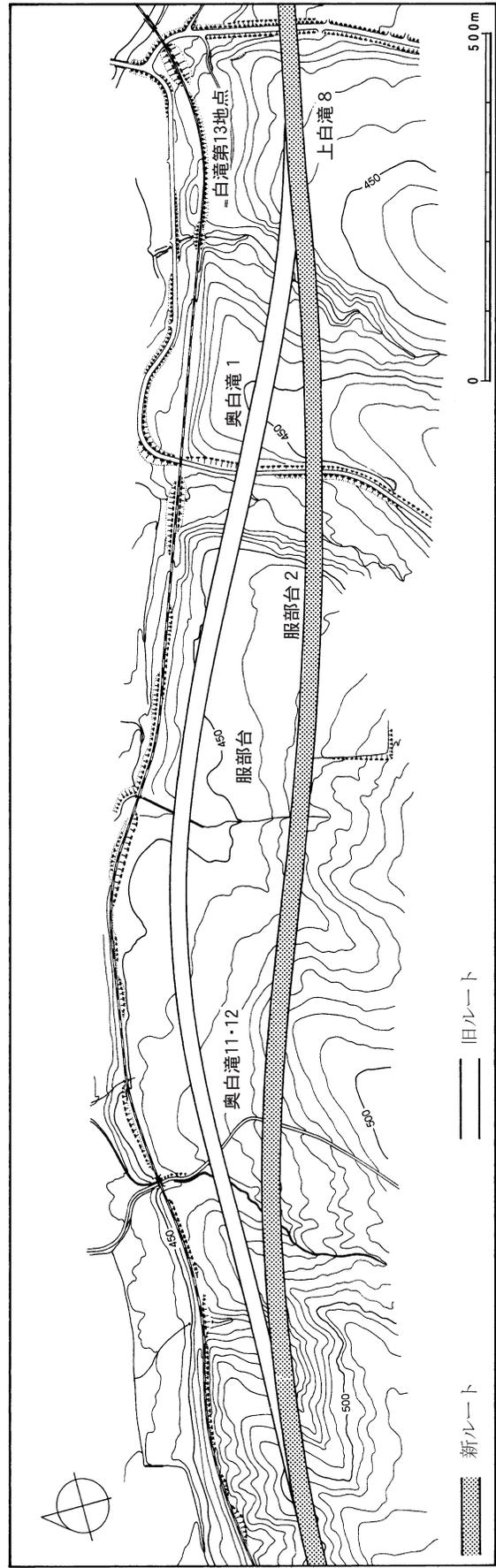
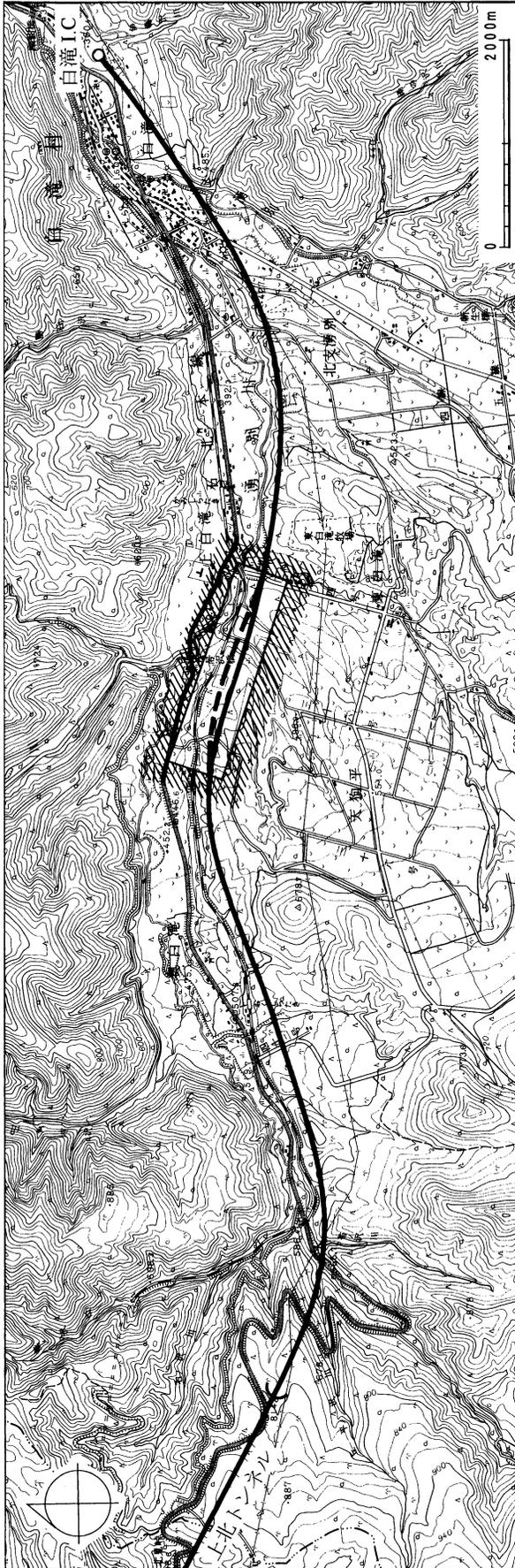
平成7～14年度の8年間で(財)北海道埋蔵文化財センターが調査したのは、奥白滝11・服部台2・奥白滝1・上白滝8・上白滝2・上白滝5・上白滝6・上白滝7・北支湧別4・白滝第30地点・白滝8・白滝18・白滝3・旧白滝9・旧白滝8・下白滝遺跡など16遺跡、面積は88,570㎡、白滝村教育委員会が平成7～10年度の4年間で調査したのは、白滝第4・30地点の2遺跡、面積は20,123㎡である。現時点における白滝村での発掘調査面積は、108,693㎡である。

また、現状保存された奥白滝11・奥白滝12・服部台・服部台2・奥白滝1・上白滝8遺跡の6か所については、旧路線および新路線との間の部分を加えた204,352.33㎡について、関係者の努力により平成10年に国指定史跡に追加され、すでに指定済の「白滝遺跡」(白滝第13地点遺跡)と合わせて「白滝遺跡群」(面積226,250.33㎡)として名称変更された。さらに白滝村による指定地の公有化作業も終了し、将来的な史跡の整備・活用の検討が行われている。

## 4 調査概要

### (1) 発掘区の設定

発掘区は基本的にアルファベットの大きい文字と数字の組合せで表示し、規格は4×4mとした。各遺跡の設定は、道路工事の測点SPを基準に行った。ただし、工事路線の変更があった関係で、変更部分にあたる奥白滝11・服部台2・奥白滝1・上白滝8・上白滝2遺跡までは、新路線の測点を基準点とし、路線変更のなかった上白滝6・上白滝7・北支湧別4・白滝第30地点・白滝8・白滝18遺跡は当初計画の測点を使用した。また、上白滝5遺跡は、変更のなかった部分であるが、上白滝2遺跡と連続して発掘区を設定した関係で、変更後の測点を使用した。いずれの発掘区も公共座標の測量成果を示しておくので、それぞれの位置関係の把握において問題はないと考えられる。しかし、変更部分



図I-1 ルート変更図

の測点を基準にした奥白滝11・服部台2・奥白滝1・上白滝8・上白滝2・上白滝5遺跡の6か所については、『白滝遺跡群Ⅰ』（坂本ほか 2000）で示した範囲確認調査の試掘穴を示した図と測点が若干ずれている点を注意願いたい。

発掘区の設定は、まず各遺跡において、区切りの良い測点2点を基準点として選び、その2点を通る直線を南北方向の基線とした。東西方向は、基準点を通り南北の基線に直交する直線を基線とした。

設定したラインの呼称は、南北方向をアルファベットの大文字、東西方向を数字とした。南北のアルファベットは、調査区をカバーすることを考え、北から南にアルファベット順に決めたが、基線のSPラインをMとした場合が多い。東西の数字は、測点の進行方向（西から東）に順次設定した。しかし、奥白滝1遺跡については、平成9年度に本線部分、平成10年度に工事道路部分の調査を行うこととなり、本線部分の発掘区の設定で、工事道路部分をカバーできない状況が生じた。したがって、平成10年度の調査区では平成9年度の発掘区の変えないで、南北方向のアルファベットを小文字にし、さらに東西方向の数字を若干ずらして変更した。また、平成12年度の防雪柵設置に伴う調査においては、本線部分の調査の際に設定した発掘区を復元した。

白滝第30地点遺跡は、白滝村教育委員会による調査が行われていたが、当センターにおいては初めての調査であったので、新たに発掘区を設定した。しかし、白滝村教育委員会の設定した発掘区と方向は同じにした。

平成13・14年度調査の下白滝遺跡と平成14年度調査の旧白滝8・9遺跡は用地の境界杭を発掘区設定の基準とした。

発掘区の呼称は、4m四方区画の北西隅の交点で表示した。例えばMラインと10ラインの交点の南東側がM10区ということになる。

各遺跡の基準点と発掘区設定の状況は、各遺跡の報告で詳しく説明する。 (長沼 孝)

## (2) 調査の方法

調査区域の現況は、わずかの畑地がみられるものの大部分は白樺などを中心とした山林で、笹が一面に生い茂った状態であった。試掘調査時に立木の伐採は終了していたので、今回は、重機による伐根と笹根の除去から調査を開始した。ただし、かつて畑地として利用していた服部台2・奥白滝1・上白滝8・上白滝2遺跡などでは、笹の根に混じって黒曜石片が一面にみられるところもあり、重機による笹根の除去を最小限にした場所もある。

発掘調査は、4×4mの発掘区単位で進め、Ⅰ層（表土および耕作土）の遺物は一括して取り上げ、遺物包含層であるⅡ層の遺物は、基本的に出土位置を計測して発掘区単位で遺物番号を付けて取り上げた。しかし、指先より小さい剥片類については、発掘区単位で一括して取り上げた。さらに、碎片類が多い部分では、フレイク集中として範囲を記録して土ごと取り上げ、水洗処理した。地点の計測は、トータル・ステーションを使用し、さらに遺構・遺物データシステム（シン技術コンサル）にデータを蓄積すると同時に毎日遺物一覧表とドットマップ（分布図）を作成し、データのチェックと遺物の分布状況を把握しながら調査を進めた。現時点でのデータ数は506,738件、遺跡単位で管理し、最大は上白滝8遺跡の216,607件、最小は白滝第30地点遺跡の314件である。

いずれの遺跡も工事用地内以外に表土や排土の仮置き場の確保が困難であった。したがって、調査区域の全面的な同時展開は不可能で、いくつか分割して調査を進めた。また、効率良い調査を進めるためには、排土の運搬距離や傾斜を十分考慮する必要がある。調査区域の分割状況は遺跡によって異なるが、大きく南北に二分し、さらに東西にいくつかに分けた場合が多い。

調査は、まず分割した範囲の四分の一の発掘区を行い（25%調査）、次に遺物分布の濃密な部分から順次進め、分割区域を順次終わらせた。また、急斜面や攪乱の著しい部分については、発掘区単位で、重機による掘り上げと人手による遺物採取を行った。さらに、25%調査によって遺物が全く出土しなかった部分については、最終的に重機を使用した駄目押し調査を行った。

焼土や炭化木片ブロックについては、現場で平面や断面の記録を作成した後に土壌ごとビニール袋に採取し、自然乾燥後に、フローテーション法（浮遊物を0.425mm、2 mm メッシュ、沈殿物を1 mm メッシュの土壤分析用のふるいで採取）により炭化木片などを採取した。さらに、得られた炭化木片の中から、大きく状態の良いものを抽出し、年代測定や樹種同定の試料とした。

さらに遺跡の地形環境や化石周氷河作用、テフラなどが明瞭な状況で観察できる土層については、剥ぎ取りを行い保存した。（長沼 孝）

### （3）整理の方法

遺物は雨天日などを利用し、基本的に現場で水洗作業を行った。その後、札幌の整理作業所に運び、注記などの整理作業を開始した。

遺物は、位置を記録した遺物（以下「点取り遺物」と一括取り上げ遺物（以下「一括遺物」）の二つに分けることができ、それぞれ次の流れで作業を進めた。

#### 点取り遺物

一次整理として、すべてについて注記作業を行い、次に器種分類、重量計測、石質、残存状況、打点・自然面・被熱の有無などの属性観察をして遺跡・遺物データシステムに入力した。

注記は、遺跡名の代わりに道教委の登録番号、発掘区、遺物番号の順で行った。例えば、上白滝8遺跡のP30区の遺物番号100は、「91P30・100」となる。重量は小数点一桁までの計測である。

石材の大部分を占める黒曜石に関しては絶対的なものではないが、肉眼的な特徴から黒色の「黒曜石1」、梨肌の「黒曜石2」、黒色に茶色の混じった（黒>茶）「黒曜石3」、茶色に黒色の混じった（茶>黒）「黒曜石4」、黒色に紫がかかった茶色の混じった（黒>紫・茶）「黒曜石5」の5種類に分類した。ただし、梨肌で、黒色に茶色の混じった（黒>茶）ものなどは「黒曜石2の3」という表現を使うこともある。また、一つの原石においても部分的に異なる状況があるので、「黒曜石1・3」ということもある。

残存状況は欠損または完形、打点・自然面・被熱などは「有」または「無」の簡単な観察だけである。被熱は肉眼観察により、表面が光沢を失い、くもりガラスのような状態のものやうろこ状のひび割れがみられるものなどを「有」とした。

二次整理はおもに実測・接合作業である。接合作業は、定形的な石器類においては、まず折れ面接合を、次に同一母岩の石器類や剥片を探すようにした。剥片類は、先に分類した5種類の黒曜石毎に同一の石器ブロックないし発掘区のものを集めて作業を進めた。接合作業の実際は、折れ面接合の場合は瞬間接着剤を使用するが、剥離面接合の場合は、両面テープで仮止めしながら作業を進め、必要に応じて瞬間接着剤を使用した。また、重量のあるものや欠落部分の多いものなどについては、ホットボンドなどを使用して補強しながら作業を進めた。ある程度作業が進行した段階で、剥離工程を記録したカードを作成し、接合番号を付けた。接合番号は遺跡毎に付けたが、折れ面接合は50001から、剥離面接合は1からとした。したがって、剥離面接合資料に折れ面接合が含まれている場合は、1個体の接合資料で接合番号を複数あることがある。さらにこれらの作業で得られた接合資料のうち特徴的で同一母岩視できる資料を集め、母岩別資料として、遺跡毎に1から番号を付けた。資料の呼称は、

「母岩別資料」を略して「母岩」、「接合資料」を略して「接合」とし、母岩別資料の場合は「母岩5・接合100」、接合のみの場合は「接合55」、折れ面接合の場合は「接合50015」のように表示した。これらの接合、母岩などの二次的な属性データを先のシステムに追加入力し、現場での出土位置、一次整理の属性観察などのデータと共に遺跡単位で管理している。

石器の実測作業は、基本的に通常の方法で行っているが、大型の石器や接合資料などについては、超望遠レンズ（800～1200mm）を使用した90度展開の写真（プロカメラマン小川忠博氏に依頼）を使用して行っている。作業は、フジグラフプロジェクションペーパーに焼き付けた実大プリントを、ライトボックス上で、セクショントレーシングペーパーで判断できる部分をなぞり、後は実物を見ながら補足する形で進めている。石核や複雑な接合資料などは面合わせの手間が省けるので、効率よく作業を進めることができる。また、大きな剥離面などでは、リングも十分読み取ることができる。さらにこの時撮影した写真を二分の一で通常の印画紙にプリントし、写真図版に接合資料として掲載した。

#### 一括遺物

基本的に現場において、定形的な石器類の抜き出し、点数のカウントなどを行い、その後の作業は札幌の整理作業所で行った。抜き出した石器類は、一次整理として台帳を作成し、点取り遺物と同様に注記、属性観察を行い、二次整理の実測・接合作業を行う。剥片類は一括して重量を計測した後、必要に応じて点取り遺物の接合作業の対象遺物に加え、接合したもののみ、注記・属性観察などを行っている。その注記は、点取り遺物と区別するため、発掘区と台帳の整理番号の間に層位を記入した。例えば、上白滝8遺跡のP30区、Ⅱ層出土、台帳番号10の石器は、「91P30・Ⅱ・10」となる。

（長沼 孝）

#### （4）報告書の作成

平成7年度から始まった調査は、ある程度出土遺物量を予想して整理計画を作成していたが、具体的な計画は、遺物の状況が明らかになってから検討することとしていた。また、現地作業を優先した調査体制としていたため、夏期の整理作業においても調査員が常駐する体制が取れなかった。したがって当初の整理作業は注記、属性観察、接合作業、集計などの基礎的な作業を中心に行った。

平成10年度に本線部分の主要な調査がほぼ終了し、遺物量や接合状況が明らかになってきたので、平成11年度から報告書の作成を開始し、「白滝遺跡群Ⅰ」（平成11年度）、「白滝遺跡群Ⅱ」（平成12年度）、「白滝遺跡群Ⅲ」（平成13年度）を刊行し、本報告「白滝遺跡群Ⅳ」が4冊目となる。

調査状況や出土遺物の概要については、調査年度単位で（財）北海道埋蔵文化財センター調査年報8～15（（財）北海道埋蔵文化財センター 1996、1997、1998、1999、2000、2001、2002、2003）で紹介している。また、委託者より調査内容が比較的容易に理解できる資料作成の要請を受け、写真を中心とした調査概要として平成9年度に「白滝遺跡群を掘るⅠ（上白滝8遺跡の調査）」、平成10年度に「白滝遺跡群を掘るⅡ（上白滝2遺跡の調査）」、「白滝遺跡群を掘るⅢ（奥白滝1遺跡の調査）」を作成したが、報告書の刊行を開始した平成11年度以降、また他の遺跡については作成していない。

報告書は遺跡単位での作成を基本とし、年度単位で終了したものを1冊にまとめて刊行することとしている。ただし、平成12年度に行った防雪柵関連で調査した4か所の遺跡（服部台2・奥白滝1・上白滝8・白滝第30地点）のうち奥白滝1遺跡については、進行していた報告書作成作業に組み込むことができず、別途報告することとした。また、平成13年度に工事用道路建設に伴い実施した上白滝6遺跡の追加調査分については、本線部分の報告が平成12年度に刊行された関係で、今回の報告となった。また、上白滝8遺跡に関しては、出土量が多い関係で、二回に分けて報告することとし、今回

が一回目となった。

出土遺物量は膨大であるが、報告は基本的にどのようなものが、どのような状態で、どのくらい出たのかが理解できるよう作成している。したがって、遺物の集計にあたっては、器種、石質別の点数、重量を明確に示すことにしている。遺物は層位的に分離できる状況ではないが、平面的にある程度のまとまりとして確認でき、それを「石器ブロック」と呼び、それを最低単位として、石器の組成、接合関係などから、単独または複数を「石器群」という形で捉えた。したがって、報告書では、石器群単位で定形的な石器を、次にその石器群を構成する石器ブロックの分布図、接合状況図を、最後にその石器群の接合資料を提示する形とした。定形的な石器類は、破片を含めてその石器群の器種組成が理解できるように配慮した。分布図は、まず全点の分布を示し、次に図を示した定形的な石器の出土位置が理解できる図を作成した。接合状況図は石器群単位での折れ面接合や全接合を示した。接合資料は、全体実測図を示し、その剥離過程が分かるように剥離模式図を作成し、また、可能なものについては、段階単位での実測図を作成したものもある。さらに接合破片のうち先の定形的な石器で提示しているものを接合資料の縮尺に合わせて再度示している。また、状況によっては剥片類でも実測図を作成して掲載したものもある。母岩別資料または接合資料においてもその接合破片、または母岩の分布状況を図で示した。

接合資料の中には、全体を写真のみで示し、剥離模式図や分布図のみ示したものもある。

実測図を示した石器、接合資料は基本的に写真図版に掲載すると同時に掲載遺物一覧として示すこととした。

各種分析については、遺跡単位で結果を報告することとしているが、状況によっては同時に分析した他の遺跡のものも報告する場合もある。

「調査結果の概要」は、報告書作成時の最新の集計データ、遺跡の内容を記載しているもので、報告書によって数値・内容が異なる部分があるので、注意願いたい。(長沼 孝)

## (5) 遺構・遺物の分類

### 遺構の分類

確認された遺構は焼土と炭化木片ブロックである。土壌が赤褐色に変化し、火を焚いた痕跡と考えられるものを焼土とし、Fで表記した。明確な焼土を伴わずに炭化木片がまとまって検出されたものを炭化木片ブロックとし、Cbで表記した。いずれも明確な掘り込みは伴わない。

### 遺物の分類

確認された遺物はすべて石器類である。これまでの研究史の中で確立し、広く一般的に認識されてきた器種分類を踏襲して以下のように分類した。また、二次加工技術や剥片剥離技術を基にした細分類は、必要に応じて行うこととする。

#### 剥片 (FK)

石核・石刃核・細石刃核・石器 (ツール) から剥離されたもので縦長剥片・石刃・細石刃・削片以外の石器。

#### 石刃 (BL)

長さが幅の2倍以上で両側縁がほぼ平行し、それに平行する稜がある石器。

#### 縦長剥片 (LF)

長さが幅の2倍以上で石刃に該当しない石器。

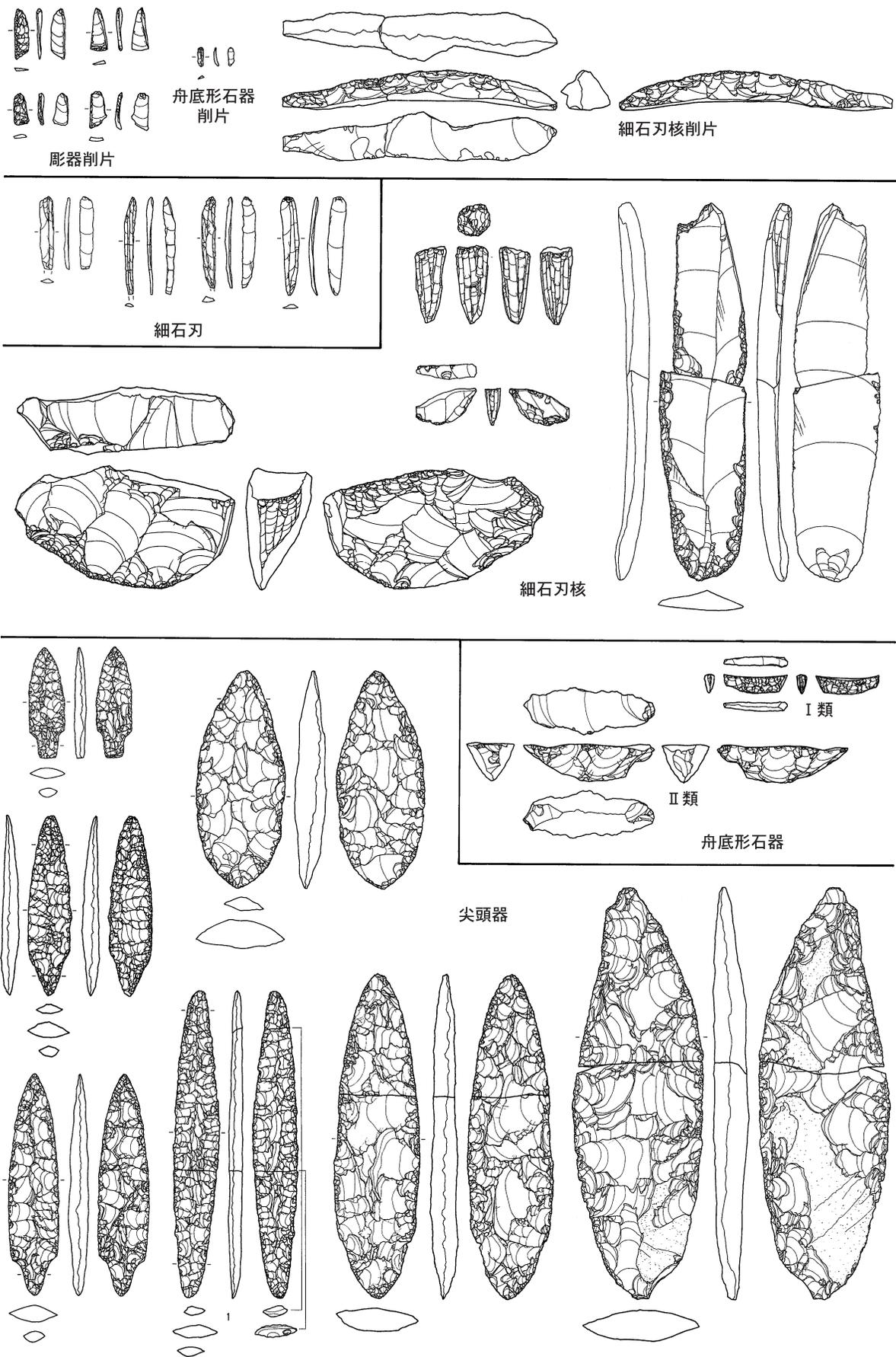
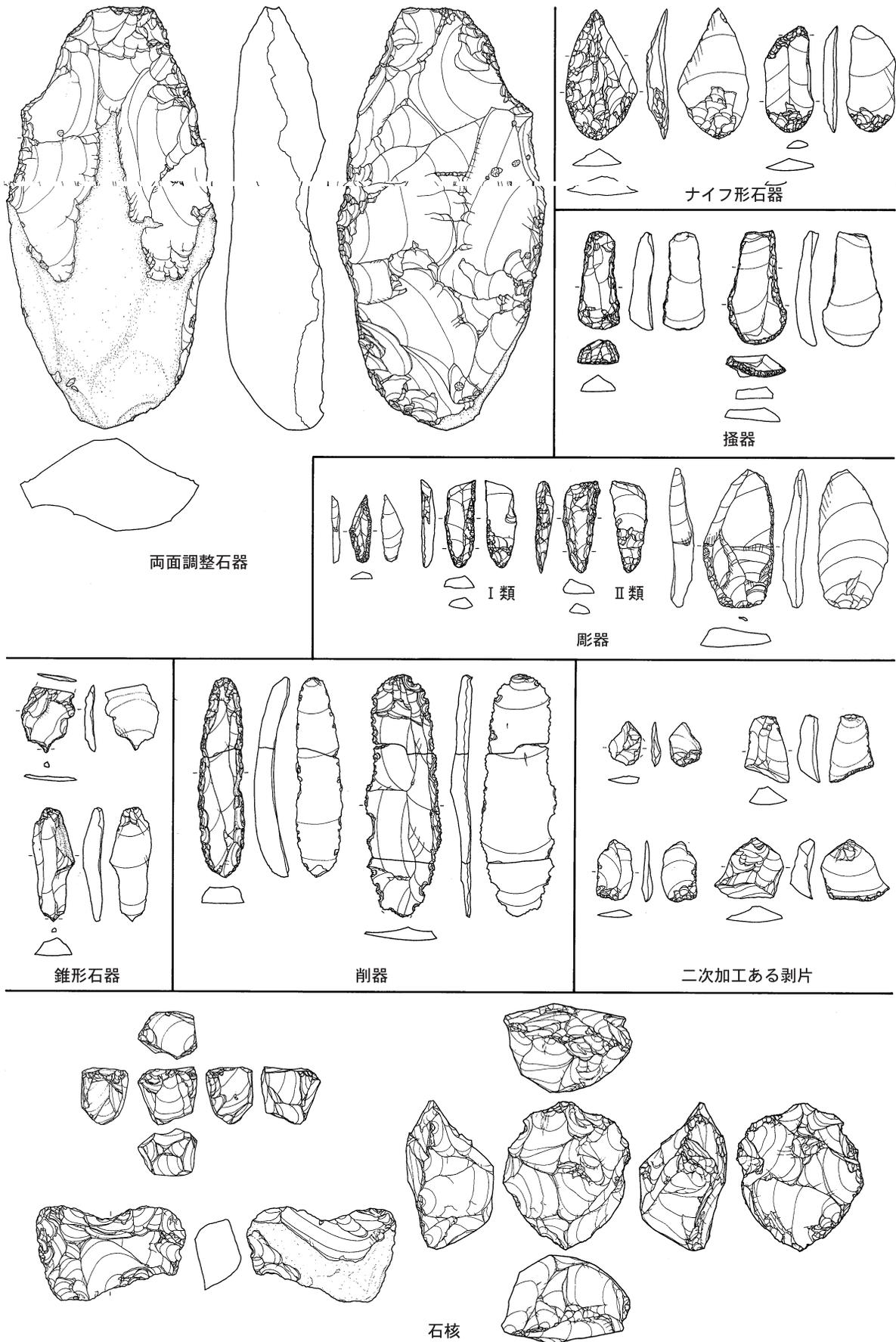
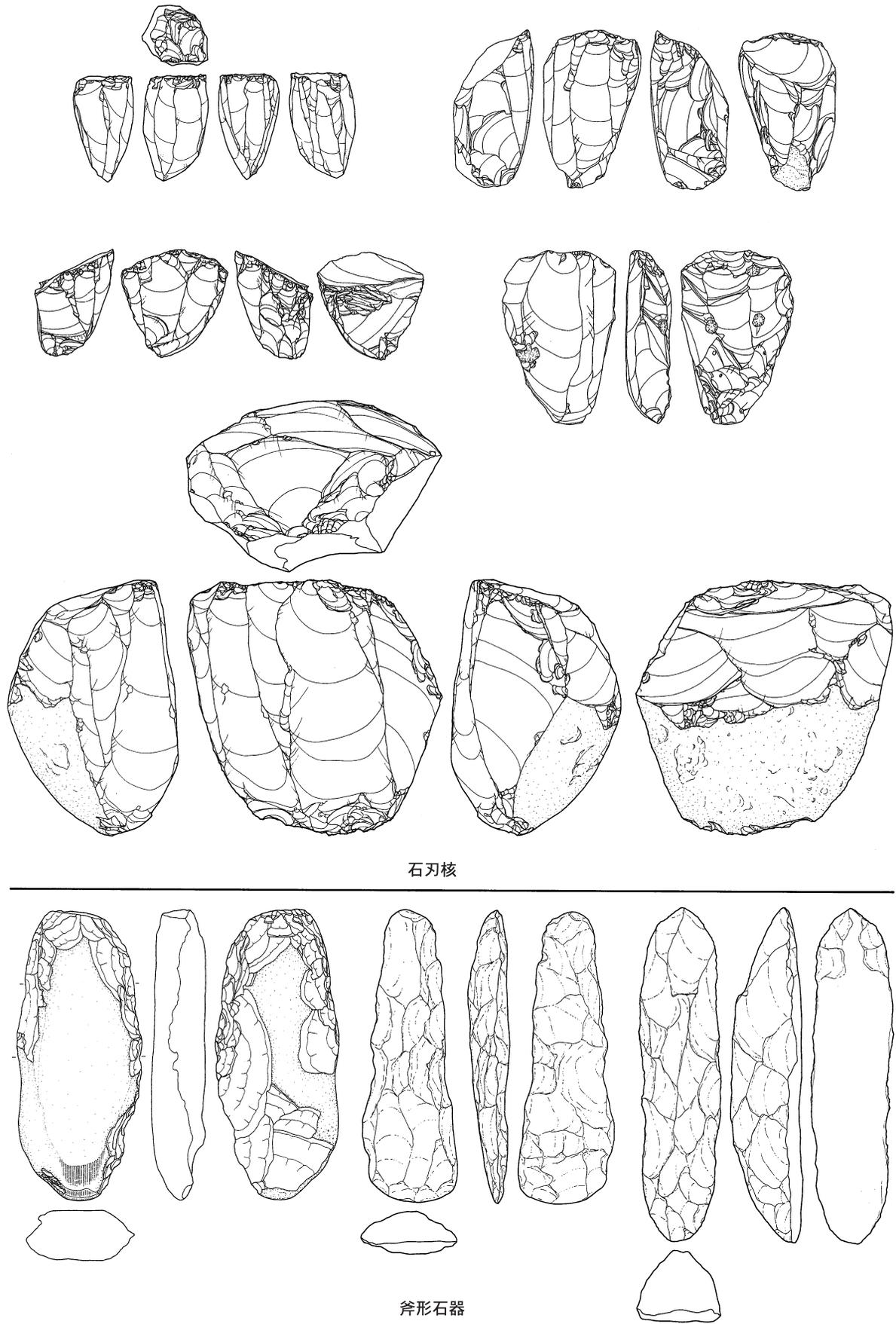


圖 I-2 器種分類 (1)



図I-3 器種分類(2)



石刃核

斧形石器

图 I-4 器種分類 (3)

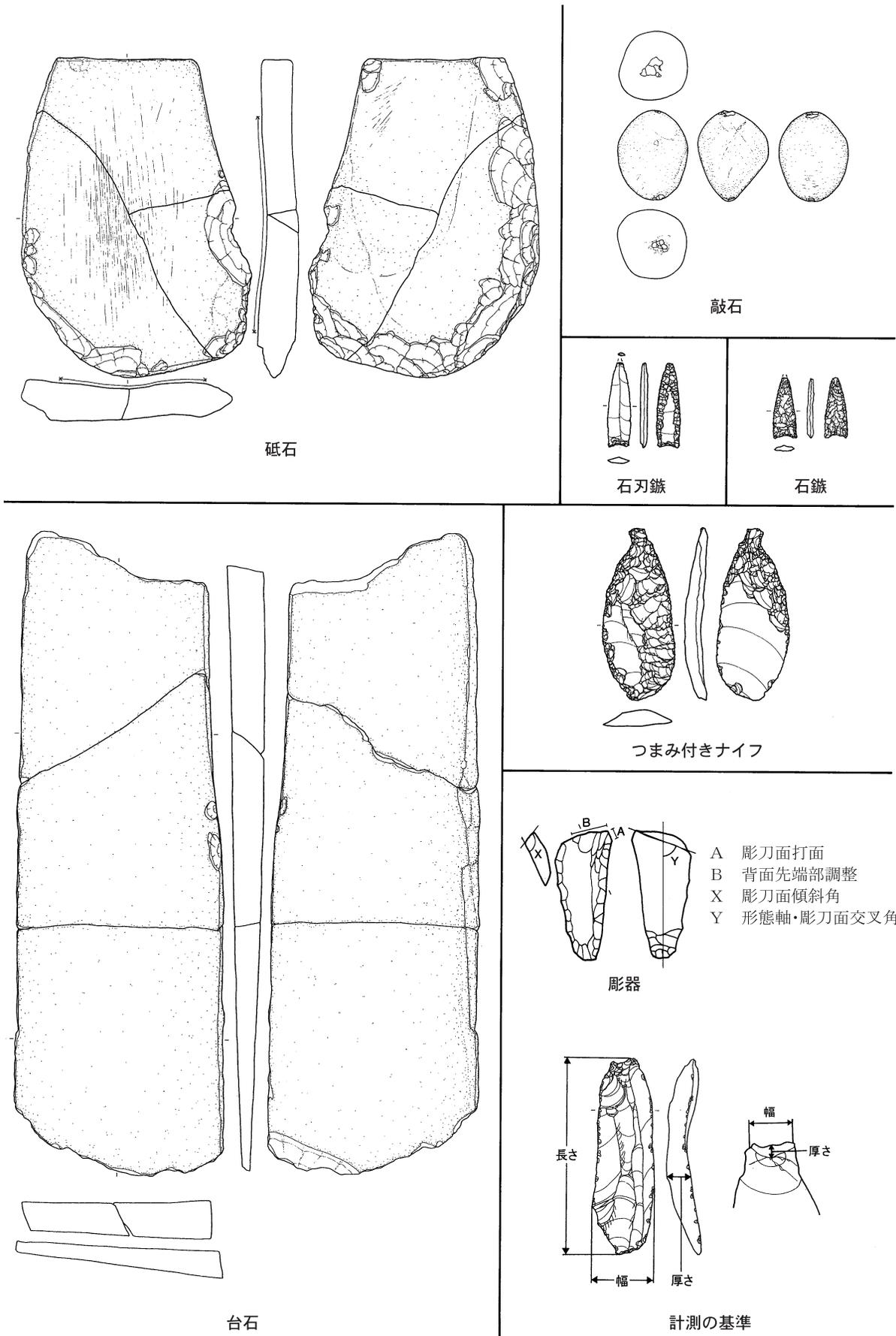


図 I-5 器種分類 (4)・計測の基準

### 削片 (SP)

彫器削片：彫器の彫刀面作出・再生時に剥離されたと考えられる剥片。

細石刃核削片：削片系細石刃核の打面作出時に剥離されたと考えられる剥片。

舟底形石器削片：小型舟底形石器の端部から剥離されたと考えられる細石刃状の剥片。これ自体が目的なものかどうか不明であり、削片として分類した。

尖頭器削片：尖頭器の縁辺から剥離されたと考えられる剥片。

その他削片：上記の削片以外で剥片の縁辺から剥離されたと考えられる剥片。素材の縁辺に加工の無い剥片から剥離されたもので周縁部調整のない彫器から剥離されたと見なすこともできる。

### 細石刃 (MB)

細石刃核より剥離されたと考えられ、長さが幅の2倍以上で両側縁がほぼ平行し、それに平行する稜があり、幅が1 cm以下の石器。

### 細石刃核 (MC)

細石刃を剥離したと考えられる石器。削片剥離以前のもものを母型、削片が剥離され、細石刃が剥離されていないものを未製品とした。

### 舟底形石器 (BT)

素材の平坦面から周辺に二次加工を施して舟形に整形した石器。

I類：加工が精緻で幅が4～12mm、高さが8～12mm程度の小型のもの。主に上下から側面加工が行われ、端部に細石刃状の縞状剥離痕を持つものが多い。

II類：加工が粗くI類より大きいもの。主に上から側面加工が行われ、端部に縞状剥離痕がみられない。

### 尖頭器 (PT)

素材の両面を加工し、尖頭部を作り出した石器。

### 両面調整石器 (BF)

素材の両面を加工したもので尖頭器、斧形石器以外の石器。

### ナイフ形石器 (KN)

素材の鋭い縁辺の一部を残し、他の縁辺に加工を施した石器。広郷型ナイフ形石器を含む分類のため、二次加工は刃潰し状の加工に限らず平坦剥離も含む。

### 彫器 (BU)

素材の端部に一条から数条の槌状剥離を施した石器。

調整打面から彫刀面が作出されたものに関しては彫刀面傾斜角により以下のように細分する。

I類：彫刀面が背面に傾くもの。

II類：彫刀面が腹面に傾くもの。

### 搔器 (ES)

素材の端部に連続的な二次加工を施した石器。

### 錐形石器 (DR)

素材の端部に錐状の尖頭部を作り出した石器。

### 削器 (SS)

素材の側縁に連続的な二次加工を施した石器。

### 二次加工ある剥片 (RF)

素材に二次加工を施したもので、定形的石器に分類されない石器。「白滝I群」では搔器・錐形石器

以外の定形的ではなく縁辺に微細な剥離痕がみられる石器を含めて分類した。

#### 石核 (CO)

剥片を剥離したと考えられるもので、石刃核、細石刃核以外の石器。

#### 石刃核 (BC)

石刃を剥離したと考えられる石器。

#### 斧形石器 (AX)

両面もしくは片面加工により、斧状の刃部を作り出した石器。

#### 敲石 (HS)

礫に潰打痕の観察される石器。

#### 磨石 (GS)

小型礫に磨痕が観察される石器。

#### 砥石 (WS)

礫の片面もしくは両面に磨痕の観察される石器。

#### 台石、石皿 (AS)

扁平礫に打撃痕や磨痕の観察される石器。

#### 原石 (RM)

石器の石材として利用される石で、人為的と考えられる剥離を受けていないもの。

#### 礫 (PB)

石器の石材として利用されない石で、剥離、敲打痕、潰打痕、磨痕などが観察されないもの。

#### 石刃鏃 (BA)

石刃を素材として主に腹面縁辺の加工により尖頭部を作り出した石器。

#### 石鏃 (AH)

素材を細かい加工により薄身にして端部に尖頭部を作り出した概ね 5 cm 以下の石器。

#### つまみ付きナイフ (TS)

素材端部にノッチ状の加工でつまみ部を作り出した石器。 (鈴木宏行)

### (6) 調査結果の概要

平成7～14年の8年間で調査した遺跡は、湧別川の上流側から奥白滝11・服部台2・奥白滝1・上白滝8・上白滝2・上白滝5・上白滝6・上白滝7・北支湧別4・白滝第30地点・白滝8・白滝18・白滝3・旧白滝9・旧白滝8・下白滝の16か所(図I-6)で、その面積は、88,570㎡である。年度・遺跡別の調査面積は、表I-1を参照願いたい。

確認された遺構は、火を焚いた痕跡の可能性のある炭化木片の集中(炭化木片ブロック・Cb)と赤色土(焼土)(F)である。炭化木片ブロックは7遺跡66か所(服部台2・8か所、奥白滝1・18か所、上白滝8・28か所、上白滝2・6か所、上白滝1・1か所、上白滝7・4か所、白滝第30地点・1か所)(平成12年度の報告では65か所としているが、平成13年度報告の奥白滝1遺跡において分離したのがあり、1か所の追加となった)焼土は5か所(上白滝5・2か所:赤色土と報告、旧白滝8・3か所)である。炭化木片ブロックは、遺物の集中部、もしくはその周辺に分布し、いずれもⅡ層の下部で検出されている。大きさは径10cm前後の円形から長さ1m前後の長円形と様々で、いくつもの小ブロックで確認される場合もある。炭化木片の集中度および大きさも様々で、含む層はおおよそ5cm前後の厚さのものが多い。しかし、上白滝8遺跡のCb-13は例外的で、2.4×1.0mの大き

さで、窪みに3層に分かれて堆積する大規模なものであった。炭化木片については、放射性炭素年代測定（AMS法）を行ったところ、上白滝7・白滝第30地点遺跡の試料については、4,500～1,900年前という縄文・続縄文時代に相当する年代値が得られた。しかし、他の5遺跡の試料では、最も新しいもので9,940±40yBP（Beta - 150438）、最も古いもので、27,690±320yBP（Beta - 112902）という数値が得られ、さらに、13,000～14,000yBP、15,000～16,000yBP、18,000～19,000yBP、26,000～27,000yBPに数値の集中がみられる。これらの数値は、現在考えられている石器群の年代と大きくかけ離れたものではない。しかし、被熱石器の分布との重複など石器ブロックとの同時性を明確に対比ができる状況にない。また、人が関わらない自然現象に由来する炭化木片の可能性もあるが、樹種同定の結果などからも当時の植生を反映しているものであることは間違いない。一応、石器群の年代を検討する上で、参考となるものと考えられるので、現在、各遺跡における石器ブロックと炭化木片ブロックの対比を、石器の接合や母岩分類などの作業の進めながら、検討している。

出土している遺物は、平成13年度まではすべて石器類で、土器は1点もなかったが、平成14年度の下白滝遺跡と旧白滝8遺跡の調査で土器が出土した。平成13年度までに調査した土器が出土していない湧別川右岸の遺跡で出土した石器類の時期は、遺物包含層のⅡ層の下位に約3万年に降下したと考えられる大雪御鉢平軽石（Ds - Oh）があることから、3万年より新しい後期旧石器時代と考えられるが、年代的には本州の縄文時代草創期に相当する時期のものもある。また、石鏃や石刃鏃および石刃鏃石器群と考えられるものもあるので、縄文時代早期およびそれ以降の時期になる可能性のある石器群もある。平成11年度に報告した上白滝7遺跡のSb - 1の二次加工ある剥片類は、縄文時代後・晩期の可能性のある石器素材と考えられる（坂本ほか 2000）。また、平成12年度に報告した北支湧別4遺跡のSb - 1も石器の形態や加工、さらにパティナの状況から縄文時代の小型の尖頭器を製作している石器群と考えられる（鈴木ほか 2001）。

下白滝遺跡は耕作による攪乱が著しく遺物包含層が残存していなかったが、木根と思われる落ち込みに遺物が流れ込んでおり、多数の石器類とともに土器が発見された。土器は縄文時代中期とみられる押型文・刺突文に伴う無文土器のほか、後期・晩期とみられるものが少量あった。旧白滝8遺跡も下白滝遺跡同様耕作による攪乱が著しかったが、旧河道に接した斜面部分で続縄文時代後北C<sub>1</sub>式とみられる土器が出土し、遺跡出土の石器類の大部分もその時期のものと考えられる。遺跡の遺存状況は決して良い状況ではなかったが、白滝遺跡群における縄文時代及び続縄文時代の石器製作の様相を知る手掛かりが得られたことには大きな意義がある。

現時点における各遺跡での出土遺物数は表I - 2に示したとおりで、総数は4,327,036点、そのうち出土位置を記録したものは、506,738点、残りの3,820,298点は表土など発掘区単位で一括して取り上げたものである。石器の出土量および分布密度は遺跡によって異なるが、平均すると1㎡あたり48点となり、平均以上の遺跡は、旧白滝8が187点、服部台2が113点、奥白滝1が108点、上白滝8が75点、下白滝が67点、上白滝2が62点などで、次は白滝18の18点、白滝3の14点、上白滝5の11点と極端に少なくなり、その他の遺跡では10点以下となってしまう。

次に定形的な石器の比率や器種別の割合を概観しようと思うが、平成14年度調査の旧白滝8や下白滝は縄文～続縄文時代の時期で、特殊な状況であるので、ここでは平成13年度までの旧石器時代を主体とした遺跡について取り扱うこととする。

出土石器の大部分は製作時にでる剥片・破片類で、定形的な石器類は総数365万点のおよそ0.7%、26,300点ほどである。出土位置を記録した497,586点では、定形的な石器の比率は高くなり、およそ3.8%、18,900点程となる。現時点で、この数字は石器の個体数を表すものではなく、例えば、1個

表I-1 白滝遺跡群遺跡別・調査年別面積一覧

※ゴシックは報告済

遺跡名	年数	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	遺跡別面積	報告書
奥白滝11	1					505				505	白滝IV
服部台2	3				3,812	2,002	877			6,691	
奥白滝1	3			5,340	2,067		345			7,752	白滝III
上白滝8	5	6,600	10,212	320	56		661			17,849	白滝IV
上白滝2	2		2,995	3,930						6,925	白滝II
上白滝5	2			3,728	4,132					7,860	白滝III
上白滝6	2				6,953			670		7,623	白滝II・IV
上白滝7	2			7,443	5,150					12,593	白滝I
北支湧別4	1				5,472					5,472	白滝II
白滝第30地点	1						636			636	白滝IV
白滝8	1						834			834	
白滝18	1						2,600			2,600	
白滝3	1							2,900		2,900	
旧白滝9	1								3,380	3,380	
旧白滝8	1								2,610	2,610	
下白滝	2							90	2,250	2,340	
年次別面積	8	6,600	13,207	20,761	27,642	2,507	5,953	3,660	8,240	88,570	
報告書						白滝I	白滝II	白滝III			

表I-2 白滝遺跡群遺跡別出土点数等一覧

遺跡名	調査年	面積 m <sup>2</sup>	遺物総数 点	点/m <sup>2</sup>	地点計測 点	一括 点	主な遺物
奥白滝11	1999	505	2,376	5	1,117	1,259	尖頭器・両面調整石器・削器・石刃核・石核
服部台2	1998~2000	6,691	798,030	113	67,771	730,259	細石刃・細石刃核・舟底形石器・尖頭器・両面調整石器・彫器・搔器・削器・ナイフ形石器・石刃・石刃核・石核
奥白滝1	1997・1998・2000	7,752	831,924	108	99,212	732,712	細石刃・細石刃核・舟底形石器・尖頭器・両面調整石器・彫器・搔器・錐形石器・削器・「台形様石器」・斧形石器・石刃・石刃核・石核
上白滝8	1995~1998・2000	17,849	1,349,748	75	216,607	1,133,141	細石刃・細石刃核・舟底形石器・尖頭器・両面調整石器・彫器・搔器・錐形石器・削器・「台形様石器」・ナイフ形石器・斧形石器・石刃・石刃核・石核
上白滝2	1996・1997	6,925	432,429	62	50,085	382,344	細石刃・細石刃核・舟底形石器・尖頭器・両面調整石器・彫器・搔器・錐形石器・削器・石刃・石刃核・石核
上白滝5	1997・1998	7,860	86,070	11	22,477	63,593	舟底形石器・尖頭器・両面調整石器・彫器・搔器・削器・斧形石器・石刃・石刃核・石核・石刃鏃
上白滝6	1998・2001	7,623	6,662	1	2,672	3,990	尖頭器・両面調整石器・彫器・搔器・錐形石器・削器・石刃・石刃核・石核・石刃鏃・石鏃
上白滝7	1997・1998	12,593	21,709	2	4,448	17,261	尖頭器・彫器・搔器・削器・ナイフ形石器・石刃・石刃核・石核
北支湧別4	1998	5,472	24,140	4	6,776	17,364	尖頭器・両面調整石器・彫器・搔器・削器・石刃・石刃核・石核
白滝第30地点	2000	636	4,627	7	314	4,313	細石刃・彫器・搔器・削器・石刃・石核
白滝8	2000	834	4,036	5	1,728	2,308	細石刃・舟底形石器・両面調整石器・彫器・石刃・石刃核・石核
白滝18	2000	2,600	47,825	18	23,423	24,402	尖頭器・両面調整石器・舟底形石器・彫器・搔器・錐形石器・削器・石刃・石核
白滝3	2001	2,900	41,281	14	1,010	40,271	尖頭器・舟底形石器・彫器・搔器・削器・石刃・石刃核・石核
旧白滝9	2002	3,380	28,318	8	0	28,318	石鏃・尖頭器・削器
旧白滝8	2002	2,610	490,293	187	9,098	481,195	土器(39点)・石鏃・尖頭器・両面調整石器・両面加工ナイフ・削器・石核
下白滝	2001・2002	2,340	157,568	67	0	157,568	土器(44点)・石鏃・尖頭器・両面調整石器・つまみ付きナイフ・削器
計	1995~2002	88,570	4,327,036	48	506,738	3,820,298	*1993試掘ほかを含む

体の尖頭器が破損して、5点接合していれば、5点の尖頭器というカウントになる。したがって、個体数の把握という点では問題があるが、出土傾向の把握という観点で、18,900点の内訳をみてみたい。

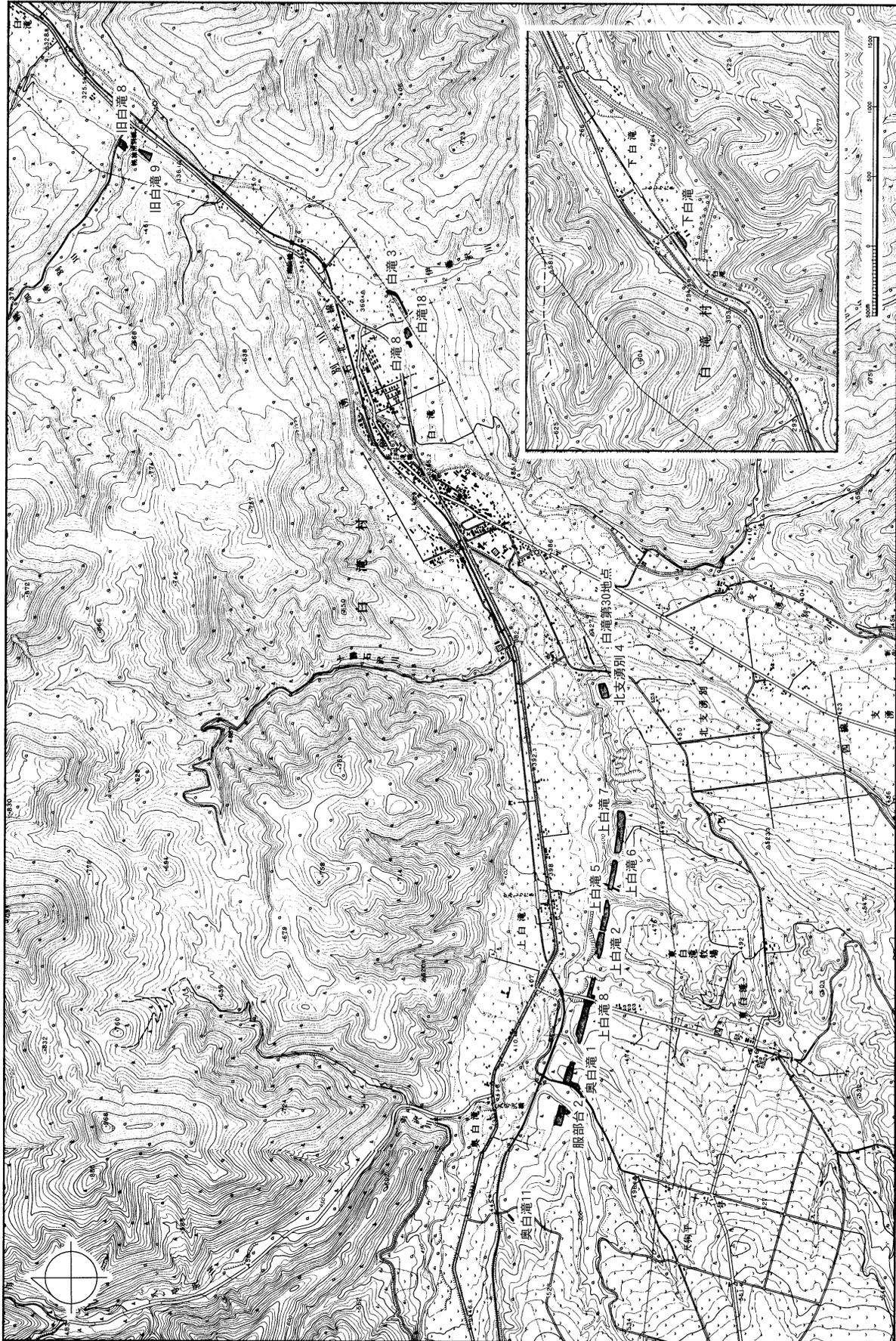
最も多いのは、石刃・縦長剥片の38.4%で、二次加工のみられる剥片類の11.6%、尖頭器の11.3%、石刃核・石核9.9%と続き、それ以下は削器(5.9%)、舟底形石器(4.5%)、搔器(4.3%)、彫器(3.0%)、両面調整石器(2.9%)、ナイフ形石器(2.3%)、細石刃(2.3%)、錐形石器(0.5%)、細石刃核(0.4%)、斧形石器・礫石器(0.2%)などである。

出土遺物の中で最も古く、現在のところ道内では最も古期と考えられている千歳市祝梅三角山地点、上士幌町嶋木、清水町共栄3、函館市桔梗2遺跡などの石器群に対比できる資料が奥白滝1・上白滝8遺跡などで出土している(図I-17-1~9)。それらは剥片素材でその腹面側でうろこ状の剥片を剥離する石核、剥片ないし分割礫を素材にして求心状に寸詰まりの剥片を剥離する石核、交互剥離によって打面と作業面を入れ替える石核、打面転移を頻繁に行いサイコロ状の形態になる石核などがあり、剥片剥離技術には共通性が見られる。しかし、定形的な石器類は少なく、軽微な二次加工か微細剥離のみられる小型剥片石器が多く、他には搔器や錐形石器が若干みられる程度である。小型剥片石器は、「ナイフ形石器(切出し形ナイフに類する)」(吉崎・横山 1974)、「切出形、台形、半月形などのナイフ」「小型ペン型ナイフ」(辻 1973)、「台形様石器」(山原 1992・1993)、「ナイフ様石器」(石川・長沼 1988)、「祖形ナイフ形石器」(千葉 1985)などといわれているものに該当する。それらは、名称だけでなく特徴や素材の形状もバラエティがある。また、「台形様石器」(佐藤 1988)と定義・分類されているものに含まれるものも少なく、加工が極めて微弱であるのが特徴である。その状況から「不定形剥片石器」とも呼ばれているが、これも石刃・縦長剥片以外の剥片を包括してしまうので一考を要する。したがって、現時点では特徴的な石核や小型剥片石器などを含む石器群を「白滝I群」と仮称し、他の石器群と分離して整理・報告書作成作業を行っている。本来であれば、他の石器群においても「白滝II群」「白滝III群」・・・と遺跡群全体を包括する分類を行う必要があるかもしれない。しかし、石器ブロックや石器群の内容は様々で、単純に包括できず、報告書段階では接合関係を重視した石器群の把握とし、内容の違いを明確化するように努めている。各石器群の特徴はある程度把握できる状況になってはいるが、単純にまとめてしまうと、かえって混乱を招く恐れがある。したがって、現時点では、「白滝I群」以外の石器群の名称は一般的な呼称に留めている。当面は「白滝I群」という形で包括していきたいと考えている。

ナイフ形石器は、台形石器のほか「広郷型」と呼ばれているものを含む石器群がある(図I-17-10~19)。台形石器は刃潰し状のブランディングが明確なものが、服部台2・上白滝8遺跡で4点ほど出土しているが、相伴石器は明確でない。「広郷型」ナイフ形石器と呼ばれているものは、調整剥離は平坦剥離を特徴とし、形態は基部が丸い尖頭形が典型的なものである。しかし、上白滝7・上白滝8遺跡ではそれらの他に素材石刃の形状を生かし、先端部を尖頭状にするだけで基部加工をほとんどしないものなどもみられる。既に報告した上白滝7遺跡では接合資料から素材の石刃や剥片を獲得する石刃技法の状況が明らかになっている。

尖頭器は破損品が大部分なので、点数的に大きな比率を占める。有舌、木葉形、柳葉形と形態も多様で、大きさも様々である。最大のものは、上白滝8遺跡出土の長さ36.5cm、重さ1.2kgのものである。また、形態や特徴、パティナの状況から明らかに縄文時代と考えられるものもある。

石刃核・石核は、大型の石刃核から「白滝I群」に伴う剥片素材の小型のものまで各種ある。石刃核で最大のものは、長さ24cm、重さ3.8kgである。さらに、石刃を剥離していないブランクでは、10kgにおよぶものもある。



国土地理院発行2万5千分の1地形図「北見峠」「白滝」「丸瀬布南部」を縮小

図I-6 白滝遺跡群調査区域図

舟底形石器は、大きさが20cmを越える大型から2cm程度の小型品まで各種あり、調整も粗いものから細かいものまで様々である。2cm程度の小型品は調整が細かく、一端または両端に槌状剥離がみられるものが多い。また、茶色の黒曜石4の原石を多用する傾向があるのも大きな特徴である。

両面調整石器の大部分は、尖頭器の初期の段階とみられるものが大部分で、石刃核、細石刃核のブランクと考えられるものが若干ある。

細石刃核は、「札滑型」(図I-17-20~22)、「紅葉山型」(図I-18-28~31)、「峠下型」(図I-18-34~40)、「射的山型」(図I-18-24)などと呼ばれているものが、比較的まとまって出土している。また、単独ながら「白滝型」、「幌加型」、「忍路子型」と呼ばれているものがみられる。

斧形石器は、緑色泥岩・頁岩・安山岩製の刃部磨製のものが若干みられ、明らかに縄文時代とみられる定角式のものもある。

礫石器は少ないが、台石と考えられるものがやや多く、敲石、砥石が数点ずつみられるだけである。

縄文~続縄文時代とみられる石器としては、石鏃、石刃鏃、錐形石器、尖頭器(石槍・ナイフを含む)、つまみ付きナイフ、両面加工ナイフなどがある。

石鏃は、上白滝6遺跡の石刃鏃に伴う柳葉形ないし菱形に近いもののほか、下白滝遺跡では有茎・無茎各種みられる。また、下白滝遺跡では薄手の剥片に二次加工が施された未成品とみられるものも多数出土している。旧白滝8遺跡では続縄文時代特有の薄身の三角形鏃がみられる。

石刃鏃を含む石器群は上白滝6遺跡で2か所、上白滝5遺跡でも1か所の石器ブロックが確認され、上白滝6遺跡のSb-5では石刃鏃が破片を含めると11点出土し、石鏃、尖頭器、搔器、削器、つまみ付きナイフ、両面調整石器、石刃などが伴い、白滝遺跡群での石刃鏃石器群の様相を示す良好な資料となっている。

錐形石器では奥白滝1遺跡の表土から縄文時代前期の網文式土器に伴うとみられる棒状のものが出土している。

尖頭器は石刃鏃石器群に伴う柳葉形のものほか、下白滝遺跡では幅広で、茎部も太い石銛状のものや左右が非対称のナイフ状のものがみられる。

つまみ付きナイフは、奥白滝1遺跡や上白滝8遺跡の表土層から各1点みられるほか、下白滝遺跡で未成品を含めて少量出土している。奥白滝1遺跡のものは形状や二次加工の特徴から前期の網文式土器に伴うものと考えられる。また、上白滝6遺跡の石刃鏃石器群に伴い石刃やポイントフレイクにわずかにつまみ部を作出したものがみられる。

両面加工ナイフとしたものは、続縄文時代後北式土器に伴う特徴的な石器で、旧白滝8遺跡で出土している。全体の形状が分かるものは少ないが、尖頭器に近い形状で、太目の茎部があり、その未成品が多い。また、その製作初期段階とみられる両面調整石器も同時に多数出土している。

石材の大部分は黒曜石であるが、安山岩、頁岩、珪岩、めのう、碧玉、凝灰岩などもみられる。黒曜石以外の石材の石器は素材ないし石器の形で遺跡に搬入されている。また、それらと同様な状況で白滝以外の産地の黒曜石も搬入されている。白滝以外の黒曜石産地では、置戸・所山、置戸・置戸山、十勝三股、留辺蘂・ケショマップ、赤井川、名寄など、全道各地のものがみられる。

出土石器の総重量は、およそ9,000kg、最大のものは上白滝8遺跡で出土した10.4kgの石刃核のブランクである。この総重量は、黒曜石以外の石材も含まれるが、大部分は黒曜石製であるので、人頭大の6kg程度の原石だと1,500個、握り拳大の小型の600g程度の原石だと15,000個という量の原石ということになる。最も遺物量の多い上白滝8遺跡は、半数に近い3,500kgの重量である。

### 各遺跡出土石器群の特徴

石器類は、層的に分離できないが、平面的にある程度のまとまりで確認できた。周水河作用や風倒木・木根などの自然の営力によって若干の移動がみられるが、石器の稜の摩耗がない点や同一母岩とみられる石器類が比較的まとまって出土している点などから、石器類は大幅に移動していないことが想定される。したがって、石器類の平面的なまとまり（石器ブロック）は、石器が製作、使用、遺棄または廃棄された状況にある程度反映しているものと考えられ、単独ないし複数のものを石器群という形で捉えることができる。

湧別川の上流部から16か所の遺跡について石器群の概要と特徴を簡単に紹介する。

#### 奥白滝11遺跡（平成11年）（図I-7）

遺跡の主体部は、現状保存された旧路線部分で、調査区域は西側端にあたる。斜面の末端部に相当する部分から2,396点の遺物が出土したが、定形的な石器としては、尖頭器、両面調整石器、削器、細石刃、石刃核、石核などがわずかにみられた。石器類は調査区外に続く1か所の石器ブロックから確認されたが、詳細は不明である。

#### 服部台2遺跡（平成10・11・12年）（図I-7）

平成10年の調査区では、「幌加型」細石刃核、舟底形石器、石刃核、彫器、搔器がブロックを形成して出土している。その中には大型の石刃核7点が0.8×0.3mの範囲から多数の剥片を伴って確認されたブロックや木葉形尖頭器製作のブロックなどがある。

平成11年の調査区では、尖頭器を主体とするブロックのほか、石刃核・両面調整石器のブロック、「紅葉山型」細石刃核・石刃・石刃核・搔器などのブロックが確認されている。「紅葉山型」細石刃核を伴うブロックの石刃と沢を挟んだ東側に位置する奥白滝1遺跡の同様の石器群の石刃が接合したものが2個体確認されている。接合距離は直線で、およそ350mである。また、耕作土中であるが「白滝型」細石刃核が6点出土している。

平成12年度の調査では、有舌を含む尖頭器を中心としたブロックのほか、台形石器が2点出土しているのが注目される。

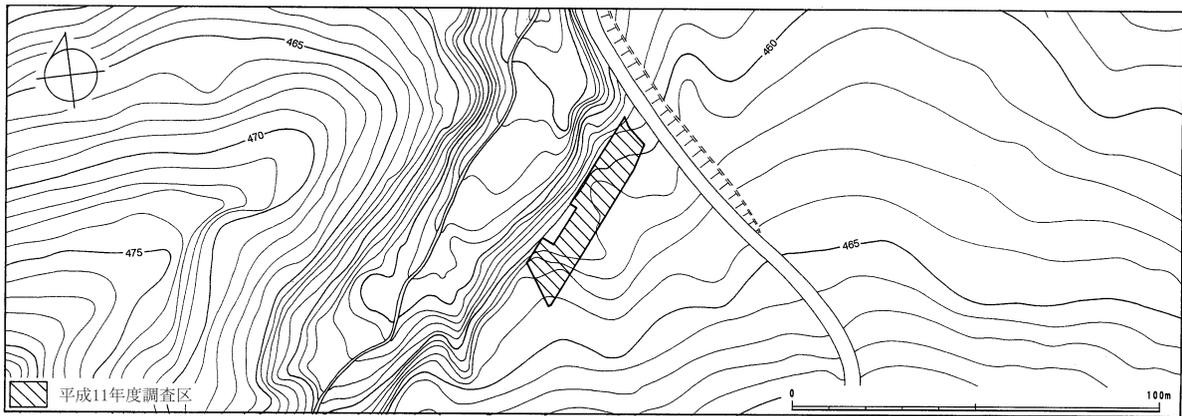
#### 奥白滝1遺跡（平成9・10・12年）（図I-8）

平成9年の調査区は馬の背状の地形をした本線部分、平成10年の調査区は北側に緩やかに傾斜する斜面で、石器の斜面方向への移動が顕著にみられる。石器類は、平面分布や石器の特徴から44か所の石器ブロック（Sb-1～44）に分けることができ、さらに接合状況などから12の石器群とした。

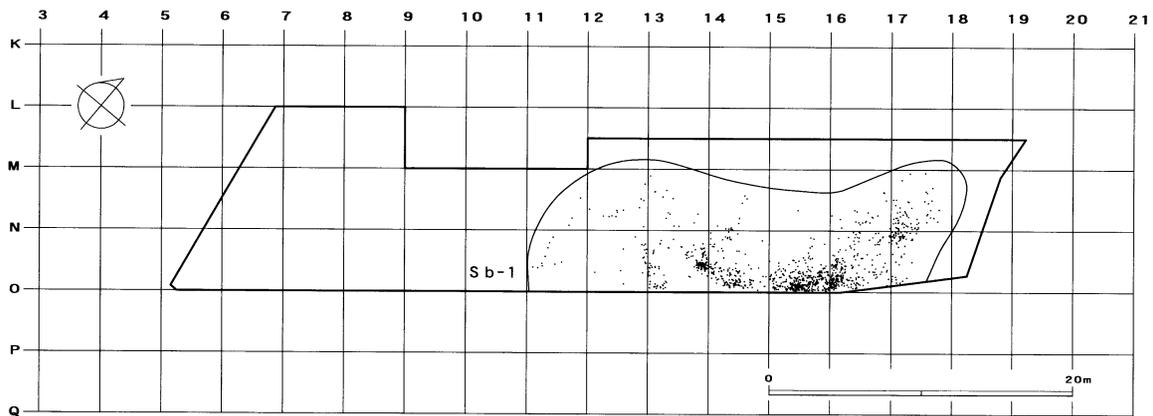
Sb-1～6は「白滝I群」で、剥片素材でその腹面側でうろこ状の剥片を剥離する石核（図I-17-8）、剥片ないし分割礫を素材にして求心状に寸詰まりの剥片を剥離する石核（図I-17-9）、交互剥離によって打面と作業面を入れ替える石核、打面転移を頻繁に行いサイコロ状の形態になる石核などが見られる。定形的な石器類は少なく、うろこ状や末端部が三角形に広がる剥片または縦長気味の剥片などに軽微な二次加工か微細剥離がみられるもの（図I-17-4～6）が多く、若干の錐形石器（図I-17-7）、搔器が伴っている。接合状況からSb-1～3、Sb-4～6の二つに分けられる。Sb-1～3では、二次加工ある剥片のほかに粗い刃部加工の搔器が、Sb-4～6では、小型剥片の腹面の打瘤部に平坦剥離を施した石器や錐形石器がみられる。

Sb-7～10は円錐形の「紅葉山型」細石刃核（図I-18-28～31）を含む石器群で、細石刃、石刃、石刃核、搔器（図I-18-32・33）、錐形石器などが伴っている。接合資料から、石刃剥離と打面再生が繰り返され、最終段階で細石刃剥離が行われたことがわかる。また、細石刃核は厚手の剥片を素材としたものもある。先に述べたように服部台2遺跡との遺跡間接合したものが2個体確認された。

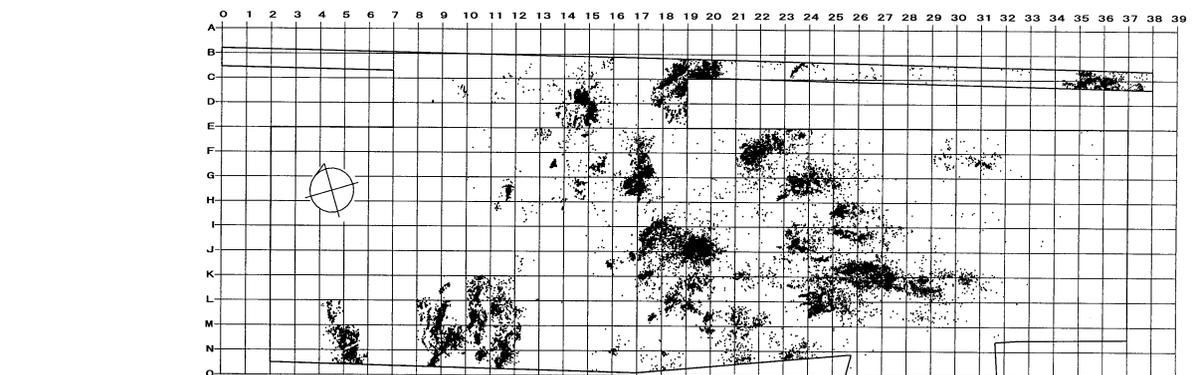
4 調査概要



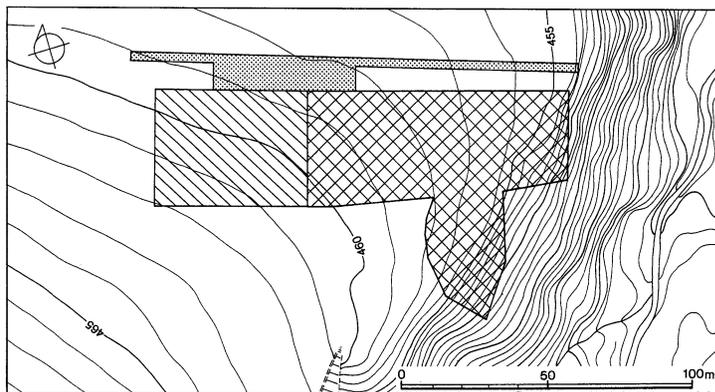
奥白滝11遺跡調査区域図



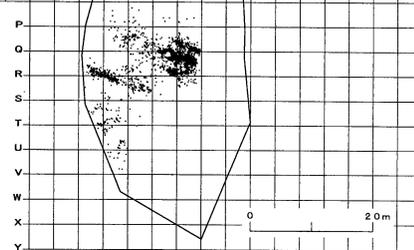
奥白滝11遺跡遺物分布図



服部台2遺跡調査区域図

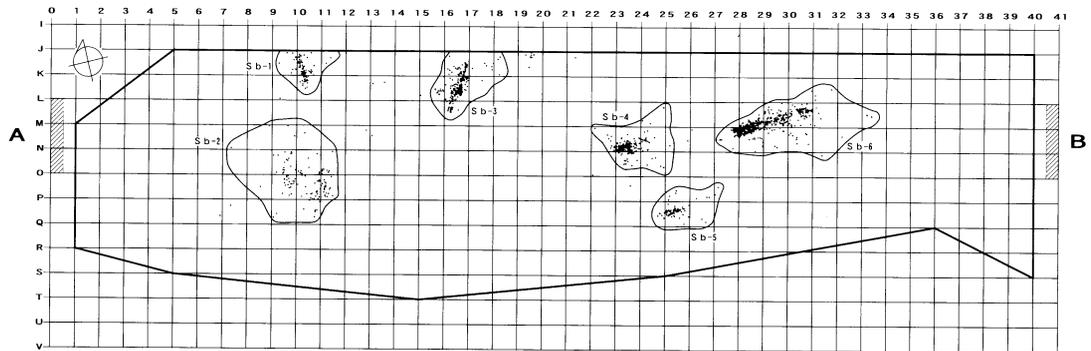


-  平成10年度調査区
-  平成11年度調査区
-  平成12年度調査区

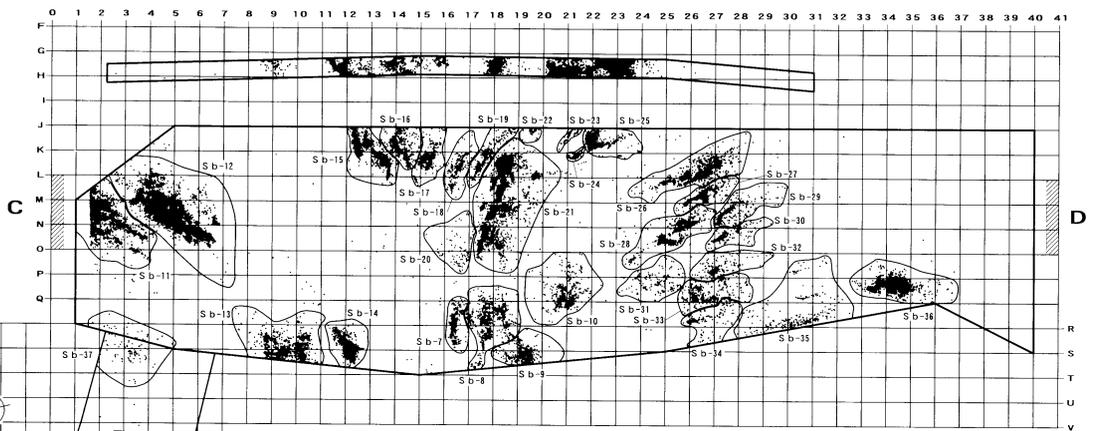
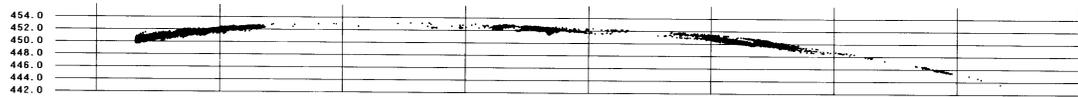


服部台2遺跡遺物分布図

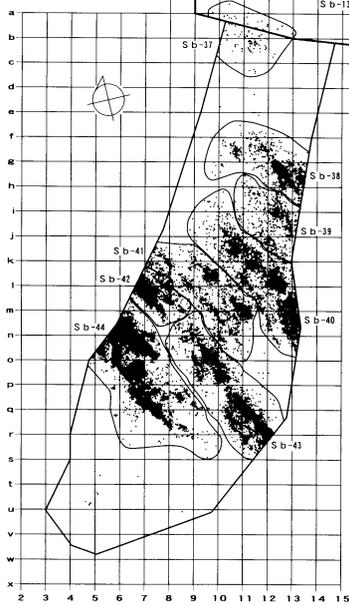
図 I - 7 奥白滝11・服部台2遺跡調査区域・遺物分布図



奥白滝 1 遺跡 Sb-1~6遺物分布図



奥白滝 1 遺跡 Sb-7~14遺物分布図



奥白滝 1 遺跡調査区域図

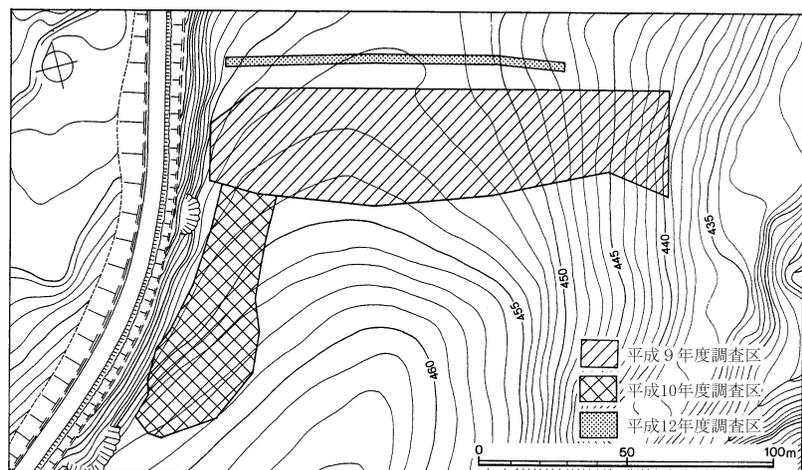


図 I - 8 奥白滝 1 遺跡調査区域・遺物分布図

残りの九つの石器群はすべて尖頭器を含むものであるが、ブロックの状況や石器の組成などが異なっている。Sb-11・12では粗い加工の尖頭器の未成品、若干の搔器・削器、石刃、石刃核など、Sb-15~21では加工の状況が様々な大小の柳葉形・木葉形尖頭器、搔器、錐形石器、舟底形石器のほか緑色泥岩製の斧形石器など、Sb-22~25ではやや粗い加工の木葉形尖頭器、両面調整石器、彫器、搔器、石刃核など、Sb-26~30では有舌尖頭器、柳葉形・木葉形尖頭器など、Sb-31~36では有舌尖頭器、木葉形尖頭器のほか碧玉製の石刃・縦長剥片、台石などが出土している。Sb-38~44は平成10年の調査区で、縄文時代と考えられる石器が混在しているが、多数の尖頭器がみられる。尖頭器はその大部分が製作途中の破損品で、幅の狭いものから大型で幅の広いものまで各種ある。その中でも幅が狭くて厚みがあるグループは白滝の他の遺跡ではみられないもので、所属時期も不明である。尖頭器以外では搔器、削器、石刃核が多く、縄文時代と考えられるものとしては、削器の一部、錐形石器、石鏃、つまみ付きナイフ、砥石などがある。Sb-13、Sb-14、Sb-37は他のブロックと接合関係がないことから単独の石器群としたが、Sb-13では粗い加工の尖頭器と搔器、削器などが、Sb-14では尖頭器と台石などが、Sb-37では粗い加工の尖頭器と石核などが出土しているだけである。

平成12年度の調査区は、平成9年の本線部分調査区の8m程北側で、有舌を含む尖頭器に彫器、削器、石刃核などが伴うブロックと「白滝I群」の二次加工ある剥片とサイコロ状の石核を含むブロックなどが確認された。前者の尖頭器のブロックでは、碧玉製の石器や剥片類が多数出土しているのが注目される。

#### 上白滝8遺跡（平成7~10・12年）（図I-9）

白滝第13地点の南側に接した一段高い段丘に立地し、平成7・8年に主要部分の調査を、平成9・10・12年に北西部分の若干の追加調査を行い、最終的に134万点の遺物が出土した。

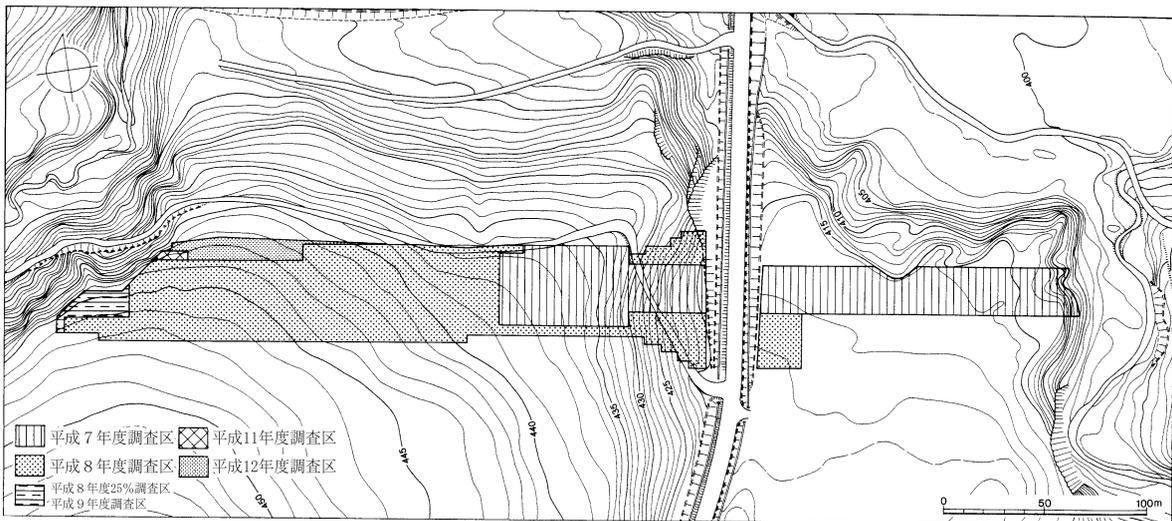
「白滝I群」と仮称した今回の調査で最も古いと考えている石器群が15か所ほどのブロックで確認された。この石器群は、定形的な石器が少なく、わずかの二次加工ないし微細剥離のみられる小型剥片石器類（図I-17-1）が大部分を占める。石核は、打面を頻繁に転移したサイコロ状を呈するもの（図I-17-3）や厚手の剥片を素材としていわゆる寸詰まりの剥片を剥離するものなどが特徴的で、接合資料もかなりの数におよぶ。また、大型で加工の粗い搔器（図I-17-2）を主体とするブロックもあり、時期的にいくつかに分けられる可能性がある。

「広郷型」ナイフ形石器が、石刃、石刃核などを伴ってみつまっている。また、単独出土の台形石器や斜面の一括採取の切り出し形のナイフ形石器などもみられる。

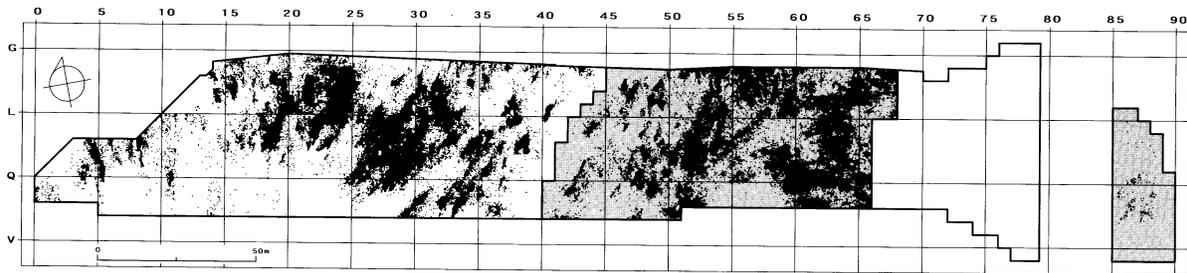
細石刃石器群は、「峠下型」細石刃核（図I-18-34~36・38~40）とそれに伴う削片、細石刃のブロックがみられ、他に「幌加型」細石刃核（図I-18-37）が数点ある。

尖頭器の製作に関わるブロックが最も多い。形態は木葉形が多いが、有舌もみられ、大きさも大小様々、加工も粗いものから完成直前の精緻なものまで各種ある。素材は、小型のものは剥片であるが、大部分は板状の原石を利用している。両面調整石器は、大部分が尖頭器の初期の段階とみられ、いわゆる湧別技法のブランクとは考えられない。出土した細石刃核の大半が「峠下型」（図I-18-34~36・38~40）であるということもこの考えを裏付ける。

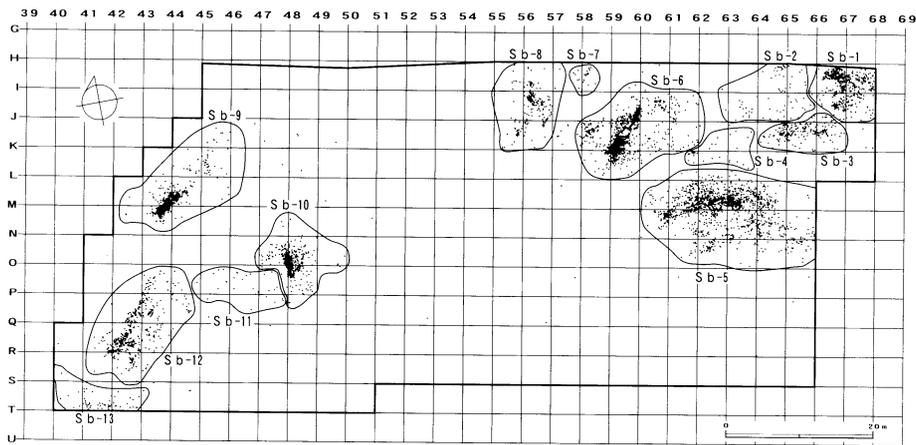
舟底形石器は、尖頭器、石刃核、彫器などとその製作剥片と共に出土し、大きさも調整も様々である。石刃核に舟底形石器、彫器、石刃などが接合した資料のほか舟底形石器の甲板面同士が接合したものなどもあり、その製作方法もいくつかのパターンが考えられる。また、尖頭器を縦割りにして小型の舟底形石器を製作していることがわかる接合資料もある。



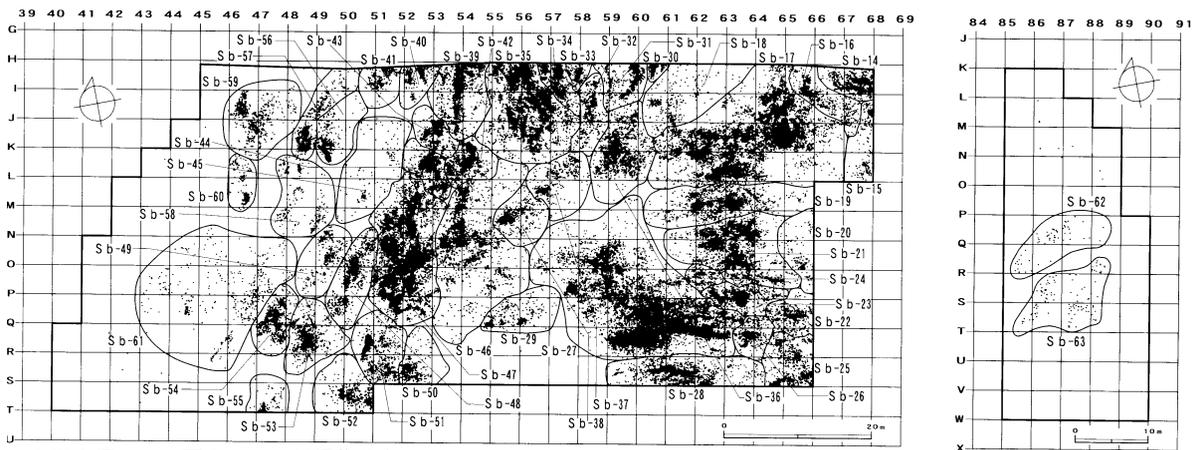
上白滝 8 遺跡調査区域図



上白滝 8 遺跡遺物分布図



上白滝 8 遺跡東地区 S b-1~13 遺物分布図



上白滝 8 遺跡東地区 S b-14~63 遺物分布図

図 I-9 上白滝 8 遺跡調査区域・遺物分布図

#### 上白滝2遺跡（平成8・9年）（図I-10）

平成8年の調査区は、攪乱が著しく発掘区単位の遺物採取をした部分が多いが、平成9年の調査区では良好な状態で石器類が出土した。石器類は、平面分布や接合状況などから15の石器ブロック（Sb-1～15）に分けることができ、さらに、それらは内容が不十分な石器ブロック7・8を除き、大きくは三つ、細かくは七つの石器群に分けることができる。

有舌を含む尖頭器を主体とする石器群は、Sb-1・2とSb-15である。Sb-1・2は、角張った幅広の舌部の作出された有舌尖頭器と加工のやや粗い木葉形の尖頭器を主体とした石器群で、Sb-1では彫器、搔器などが、Sb-2では、多量の製作剥片が伴っている。Sb-2に重複するCb-2の炭化木片のAMS法年代測定では、 $16,520 \pm 50\text{yBP}$ 、 $17,740 \pm 110\text{yBP}$ 、 $17,660 \pm 180\text{yBP}$  という数値が得られている。

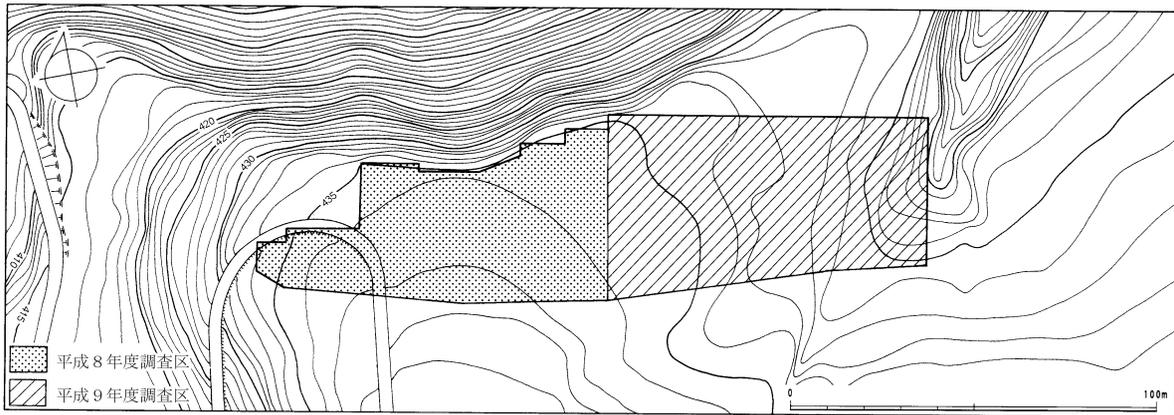
Sb-15は、遺跡全体の点取りの半数以上を占め、尖頭器は431点におよび、179点の彫器、125点の搔器を伴っている（図I-18-41～52）。尖頭器のうち有舌尖頭器は100点を超え、両面に斜並行剥離が施された完成品ないし完成品に近いものもあるが、そのほとんどは破損・欠損品である。完形品で最大幅をみると2～3cmのものが多く、長さは全体の形状がわかるものでは最小5cm、最大13cmであるが、8～10cmのものが多く。

細石刃石器群と考えられるのは、Sb-3～6・10、Sb-9、Sb-14である。Sb-3～6・10は、細石刃と粗い両面加工の「札滑型」細石刃核（図I-17-20～22）やそのブランクとともに多数の石核がみられ、さらにそれらを含む接合資料が得られた。Sb-9は、大型石刃を素材とした「射的山型」細石刃核（図I-18-24）と共に細石刃、彫器（図I-18-25）、搔器（図I-18-26）、削器（図I-18-27）、石刃などが出土し、さらに、石核の調整剥片、石刃、打面再生剥片が接合し、最終的な石刃核が持ち出されたものが4個体確認された。そのうち最大の接合資料は高さ35cmもある。Sb-14は頁岩製の細石刃、削片、細石刃核調整剥片などの接合資料のみの特殊なもので、持ち込まれた細石刃核で細石刃剥離が行われ、さらに残核が持ち出されたと考えられる。

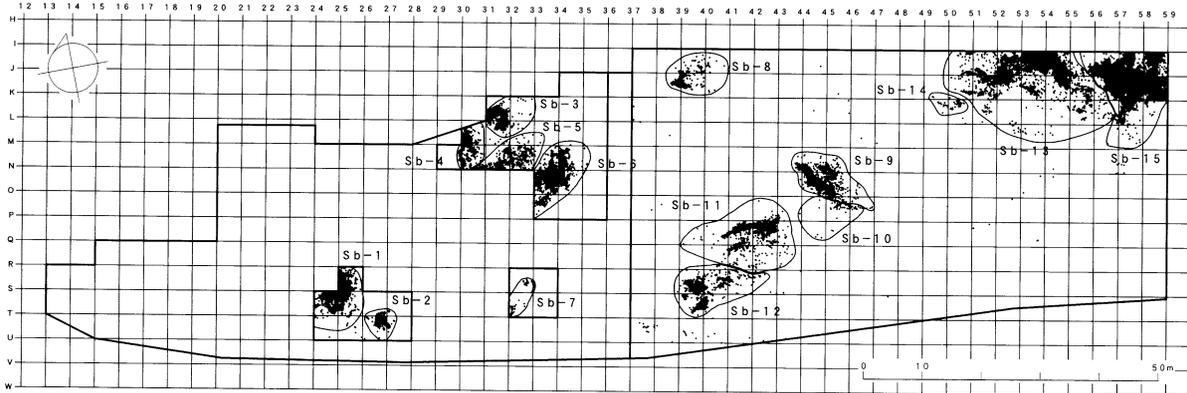
舟底形石器を主体とし、尖頭器、彫器、搔器、削器、錐形石器、石刃・石刃核、石核などが伴っているのは、Sb-11・12とSb-13である。いずれも尖頭器は大型品が主体で、その製作に関わる接合資料も得られている。舟底形石器は、製作途中の破損品が大部分で、その接合資料が多数ある。また、Sb-13では、加工が精緻な小型の舟底形石器（図I-18-57～59）もみられる。

#### 上白滝5遺跡（平成9・10年）（図I-10）

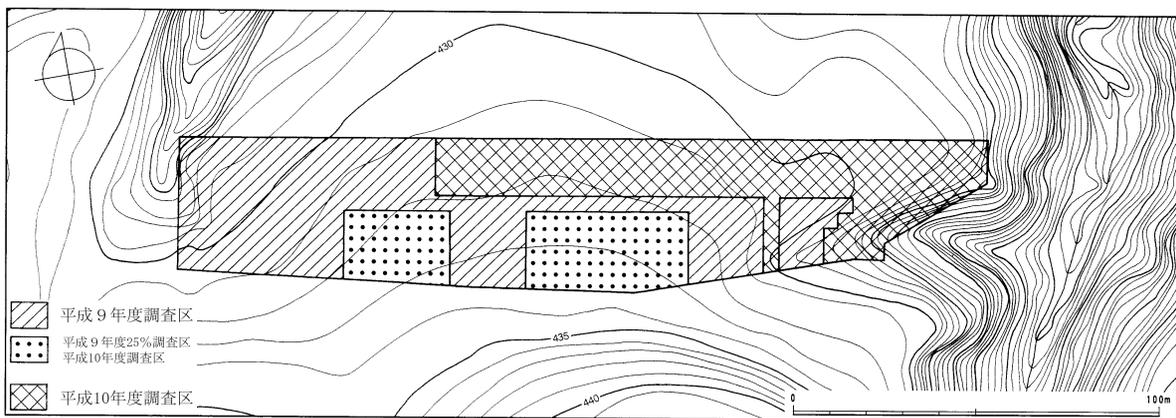
遺跡は上白滝2遺跡の小沢を挟んだ東側で、上白滝6遺跡とは深い沢を挟んだ西側に位置する。調査区の東西に大きな遺物集中区がみられるが、12か所の石器ブロック（Sb-1～12）に分けられ、さらに七つの石器群とした。Sb-1、Sb-4では尖頭器の製作剥片、Sb-2では尖頭器とその製作剥片が出土しているので、いずれも尖頭器の製作が行われているが、規模が小さく、内容は不明である。また、Sb-2はパティナの状態や水和層測定の結果から縄文時代と考えられる。Sb-3は大型石刃を含む石器群で、石刃・縦長剥片の接合資料が1個体確認できた。Sb-5は西側の大きな集中区で、木葉形尖頭器、大型石刃、石刃核、石核などが出土し、接合資料などから尖頭器は石核素材と剥片素材のものがある。Sb-6～11は調査区東側に位置する石器ブロックで、加工が細かく細身で薄手の尖頭器と小型舟底形石器を特徴とし、さらに彫器、搔器に安山岩製の斧形石器が伴っている。Sb-12は12点しか遺物がないが、2点の石刃鏃、4点の削器を含む石器群で、産地推定の結果、それらの石器は白滝以外の黒曜石と判定されている。深い沢を挟んで東側に位置する上白滝6遺跡でも石刃鏃石器群が確認されており、現時点では接合関係などは確認できないが、関係が強い可能性が



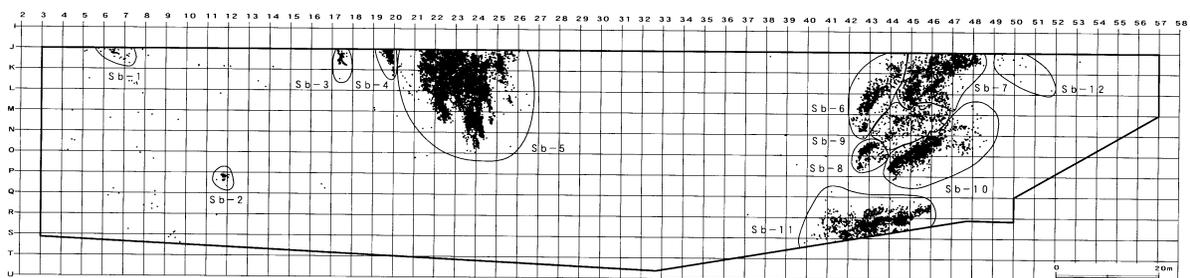
上白滝 2 遺跡調査区域図



上白滝 2 遺跡遺物分布図



上白滝 5 遺跡調査区域図



上白滝 5 遺跡遺物分布図

図 I-10 上白滝 2・上白滝 5 遺跡調査区域・遺物分布図

ある。

#### 上白滝6遺跡（平成10・13年）（図I-11）

平成10年度の調査で出土した遺物は、すべて石器類で、時期的には縄文時代と旧石器時代のものがある。器種としては、有舌尖頭器を含む尖頭器、両面調整石器、彫器、搔器、削器、錐形石器、石刃、縦長剥片、削片、石核、石鏃、剥片などがある。これらのうち縄文時代と考えられるものとしては、石刃鏃を含む石鏃、搔器、剥片などがある。

石器類は、平面的に3か所のまとまりで確認でき、石器ブロック1～3（Sb-1～3）とした。また、これらの石器ブロックを構成する石器類は、特徴や組成、接合状況などから二つの石器群に分けることができる。

Sb-1は、石刃鏃を特徴とする石器群で、黒曜石製で斧状の大型搔器が伴っている。また、石刃鏃以外の搔器や剥片の大部分が梨肌の黒曜石2であるという特徴がある。時期的には、土器の出土はないが、縄文時代早期と考えられる。1点出土している石刃鏃の水和層測定による年代換算では、 $7,622 \pm 490$ yBP という数値が得られた。

Sb-2・3は、有舌尖頭器を含む尖頭器を特徴とする石器群で、両面調整石器、彫器、搔器、削器、錐形石器、石核などが伴っている。有舌尖頭器は、黒曜石製のものは角張った舌部が作出されているが、安山岩製のものは、身部と舌部の境が不明瞭である。尖頭器より彫器、搔器、錐形石器の割合が多く、濃緑色の碧玉製の彫器や錐形石器が特徴的である。両石器ブロックとも円礫や扁平礫から剥離された剥片やその核部分を素材にした尖頭器製作と彫器、搔器、錐形石器の使用などが行われた場と考えられ、ブロック間の接合資料が1個体ある。

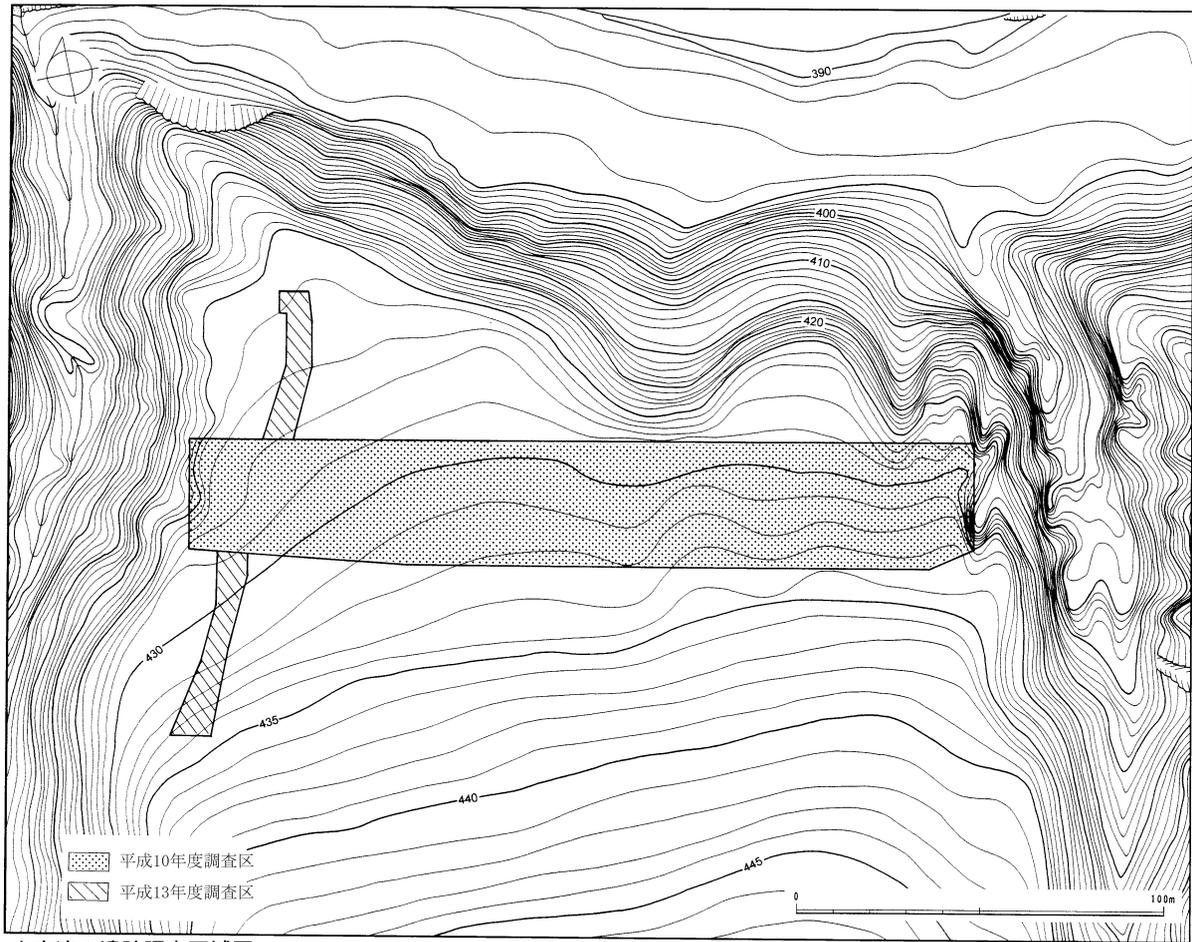
時期的には後期旧石器時代末期と考えられるが、年代の決め手となる資料は得られていない。なお、尖頭器、削器、母岩別資料に含まれる剥片の水和層測定による年代換算では、 $18,832 \pm 2,573$ yBP、 $13,854 \pm 1,000$ yBP、 $21,489 \pm 1,346$ yBP という数値が得られたが、単純に石器群の年代として採用できない。

平成13年度の調査区は、平成10年度の本線部分の調査区西側、上白滝5遺跡に隣接する沢に近い部分で、本線部分を挟んで北側と南側の調査区がある。北側地区では北隅で傾斜に沿った細長い石器ブロックが1か所（Sb-4）確認でき、尖頭器、搔器などが若干出土したが、大部分は尖頭器製作の剥片である。南側地区では調査区中央やや北側で石刃鏃を含む石器ブロックが1か所（Sb-5）確認できた。石器類は、石刃鏃のほか石鏃、尖頭器、両面調整石器、搔器、削器、つまみ付きナイフ、石刃、石核などで、現時点では白滝遺跡群の中では最も充実した石刃鏃石器群である。石刃鏃、石鏃、石刃などの石器類は透明感の強い良質の黒曜石で、同様な剥片が全くないことからそれらは単体で遺跡に搬入されている。産地分析や肉眼観察の結果、石鏃は赤井川産、名寄産、石刃鏃は置戸・所山産十勝産、白滝産があることが明らかになり、石刃鏃文化の石器または人の大きな動きを知ることができる良好な資料といえる。一方、両面調整石器、石核や剥片類は梨肌の黒曜石2で、原石を搬入して石器製作が行われている。平成10年度調査区の石刃鏃石器群であるSb-1でも梨肌の搔器や剥片が多いことから、関連性が強いと考えられる。

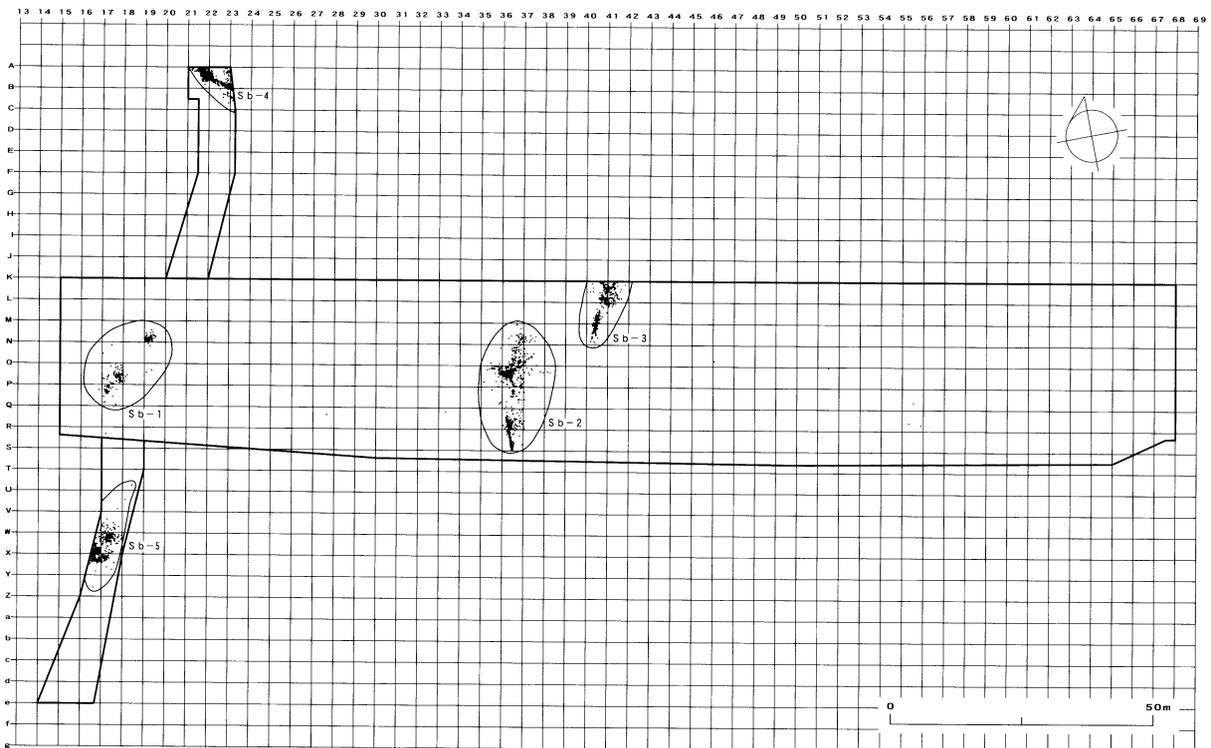
#### 上白滝7遺跡（平成9・10年）（図I-12）

石器類は、平面的に10か所のまとまりで確認でき、石器ブロック1～10（Sb-1～10）とした。また、これらの石器ブロックを構成する石器類は、特徴や組成、接合状況などから三つの石器群に分けることができる。

Sb-1は、二次加工ある剥片・剥片のみの特殊な石器組成である。二次加工ある剥片は剥片の形状



上白滝6遺跡調査区域図



上白滝6遺跡遺物分布図

図I-11 上白滝6遺跡調査区域・遺物分布図

や加工の状況から、石器素材と考えられる。一見したところ他のブロック出土の石器類に比べ光沢があり、水和層が発達していないことが分かり、水和層測定による年代換算では、 $2,193 \pm 156\text{yBP}$ 、 $2,719 \pm 222\text{yBP}$ 、 $4,047 \pm 138\text{yBP}$  という数値が得られている。類例や水和層測定によるデータなどから、縄文時代後・晩期頃ではないかと考えられる。

Sb - 2・3は、尖頭器を特徴とする石器群で、彫器、搔器、石核などが伴っている。尖頭器は8cm前後の木葉形のもので製作され、破損・欠損品が多くみられる。時期的には後期旧石器時代末期と考えられるが、年代の決め手となる資料は得られていない。

Sb - 4～10は、ナイフ形石器(図I-17-10～18)を特徴とする石器群で、搔器(図I-17-19)、石刃、石刃核などを伴い、多数の接合資料がある。ナイフ形石器は、広郷型ナイフ形石器と呼ばれているものを含み、母岩分類の結果、61個体の母岩別資料(97接合資料)が抽出でき、原石の選択、石核からの素材獲得、ナイフ形石器の加工などの状況が把握できた。年代の決め手となる資料は得られていないが、打面調整のみられない比較的単純な石刃技法と「白滝I群」に類似する寸詰まりの剥片剥離の共存ということから、細石刃出現以前の後期旧石器時代前半で、「白滝I群」より新しい時期と考えられる。

#### 北支湧別4遺跡(平成10年)(図I-12)

出土した遺物は、すべて石器類で、時期的には旧石器時代のものが大半を占めるが、縄文時代とみられるものもある。器種としては、尖頭器、両面調整石器、彫器、搔器、削器、二次加工ある剥片、石刃、縦長剥片、石刃核、石核、剥片などがある。

石器類は、平面的に3か所のまとまりで確認でき、石器ブロック1～3(Sb-1～3)とした。また、これらの石器ブロックを構成する石器類は、特徴や組成、接合状況などから二つの石器群に分けることができる。

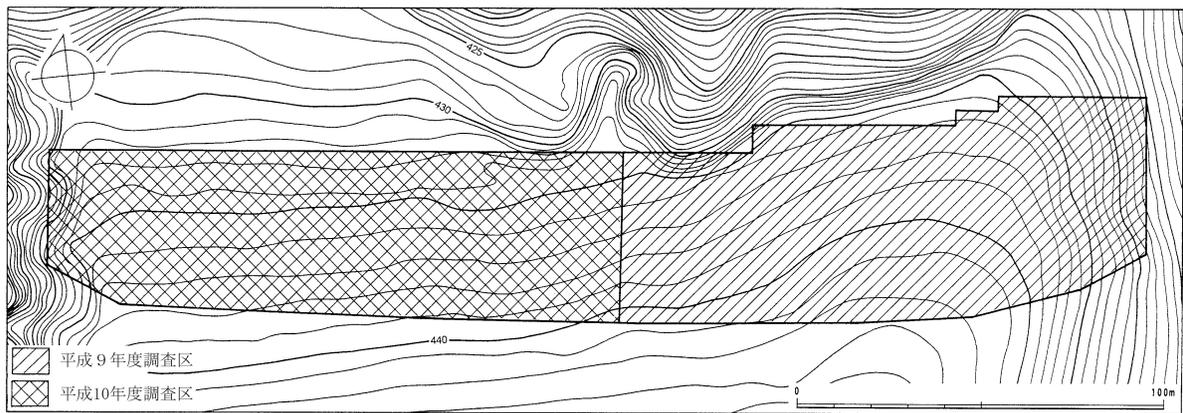
Sb-1は、尖頭器とその製作剥片のみの出土で、尖頭器製作が行われた場と考えられる。いずれの石器も剥離面の光沢が強く、水和層が発達していないことから縄文時代の石器群と考えられる。平成13年度に実施した3点の尖頭器の水和層測定による年代換算では、 $7,600 \pm 259\text{yBP}$ 、 $4,860 \pm 281\text{yBP}$ 、 $4,656 \pm 125\text{yBP}$  という数値が得られ、肉眼観察と同様な測定結果が得られた。

Sb-2・3は、尖頭器を特徴とする石器群で、両面調整石器、彫器、搔器、削器、石刃、縦長剥片、石刃核、石核などが伴っている。3点の有舌尖頭器は舌部が明瞭に作出され、ほぼ完形の黒曜石製の2点は産地推定ではいずれも置戸・所山産と判定されている。また、中間から先端部が欠損している1点は珪質頁岩製で、3点の有舌尖頭器は、いずれも石器の形で遺跡に持ち込まれていると考えられる。尖頭器は柳葉形ないし木葉形のもので、破損品やその製作剥片が多く、両石器ブロックとも尖頭器製作が行われた場であったことがわかる。また、主にSb-3において搔器・削器が出土しているので、その製作・使用も行われていた。ブロック間の接合資料が1個体ある。

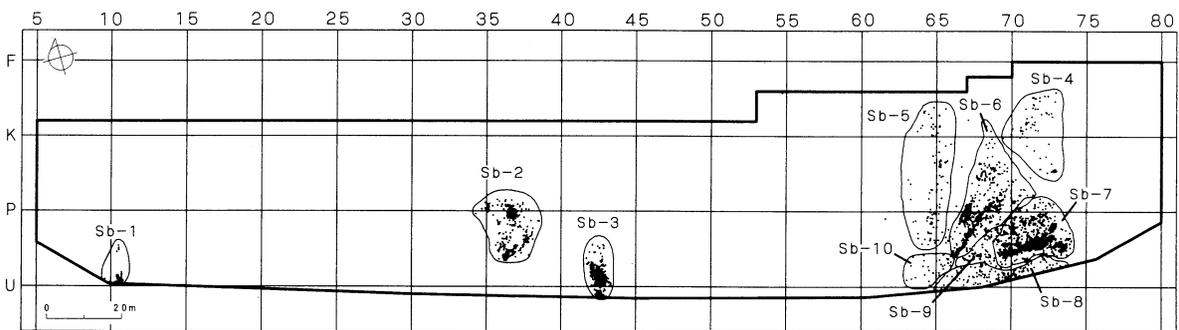
時期的には後期旧石器時代末期と考えられるが、年代の決め手となる資料は得られていない。

#### 白滝第30地点遺跡(平成12年)(図I-13)

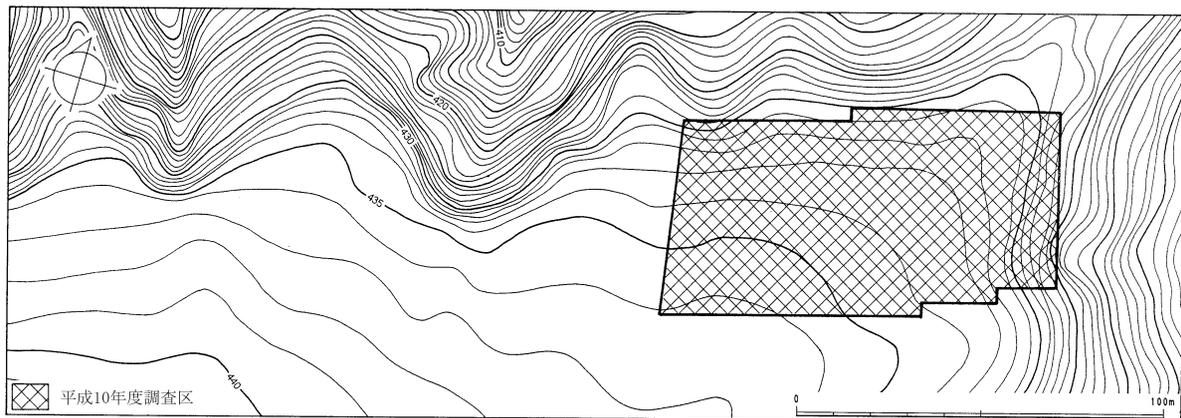
平成7～9年度に白滝村教育委員会が調査した白滝第4・30地点遺跡に隣接している。遺物総数は4,627点であるが、耕作による攪乱が著しく、点取り遺物は314点である。定形的な石器は、細石刃、搔器、削器、舟底形石器などで、細石刃に搔器・削器の伴う小ブロック(Sb-1)と尖頭器の製作剥片のみの小ブロック(Sb-2)が確認されただけである。



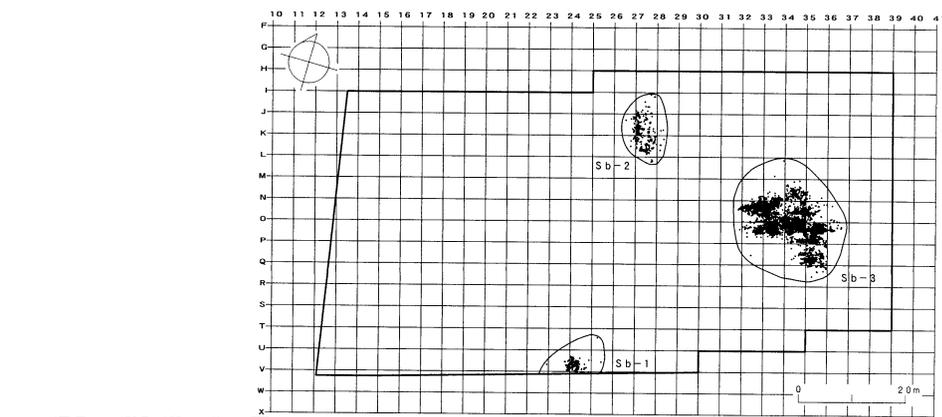
上白滝 7 遺跡調査区域図



上白滝 7 遺跡遺物分布図

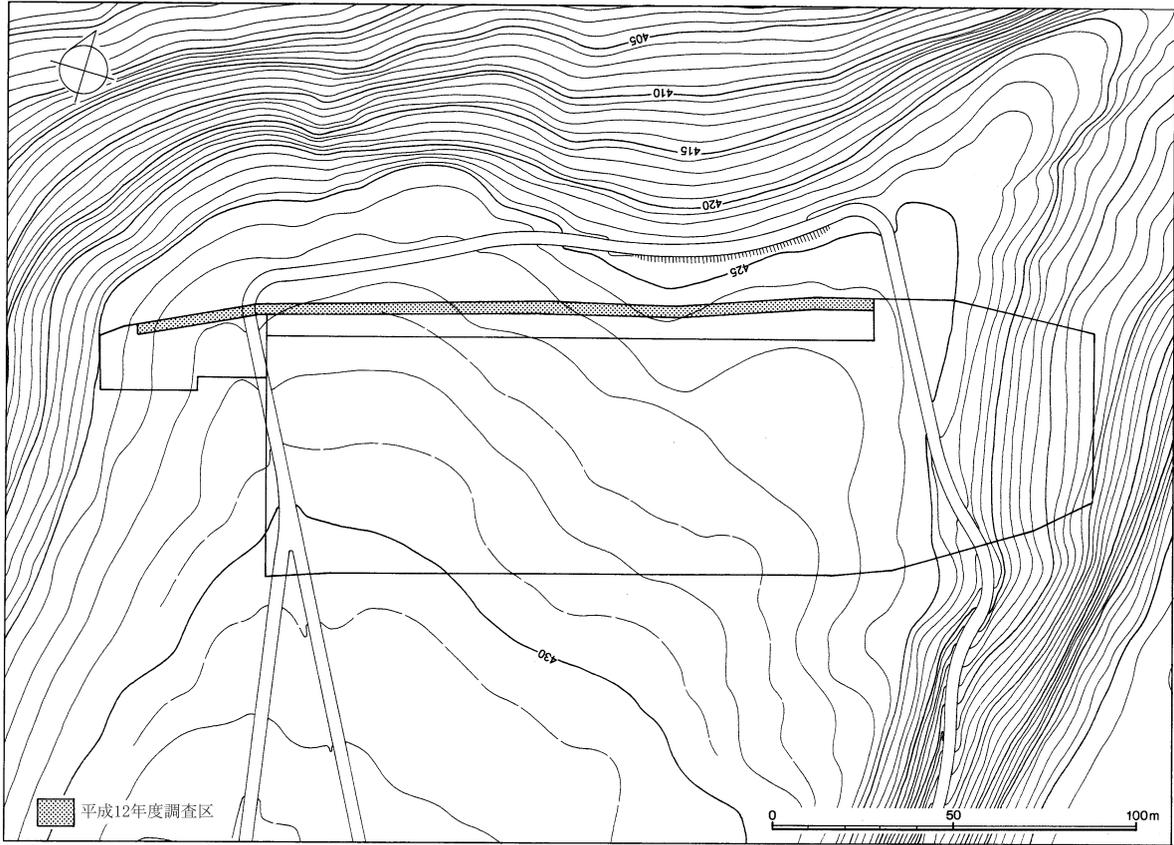


北支湧別 4 遺跡調査区域図

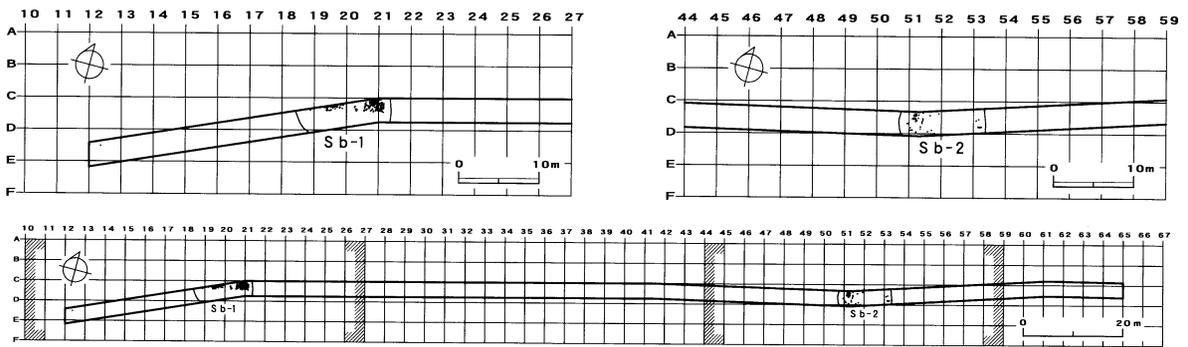


北支湧別 4 遺跡遺物分布図

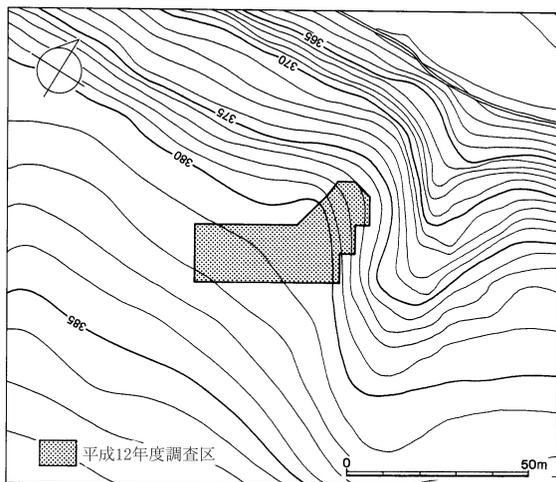
図 I -12 上白滝 7・北支湧別 4 遺跡調査区域・遺物分布図



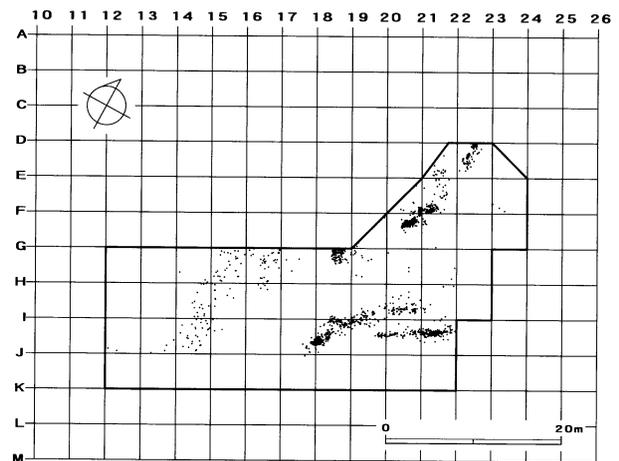
白滝第30地点遺跡調査区域図



白滝第30地点遺跡遺物分布図

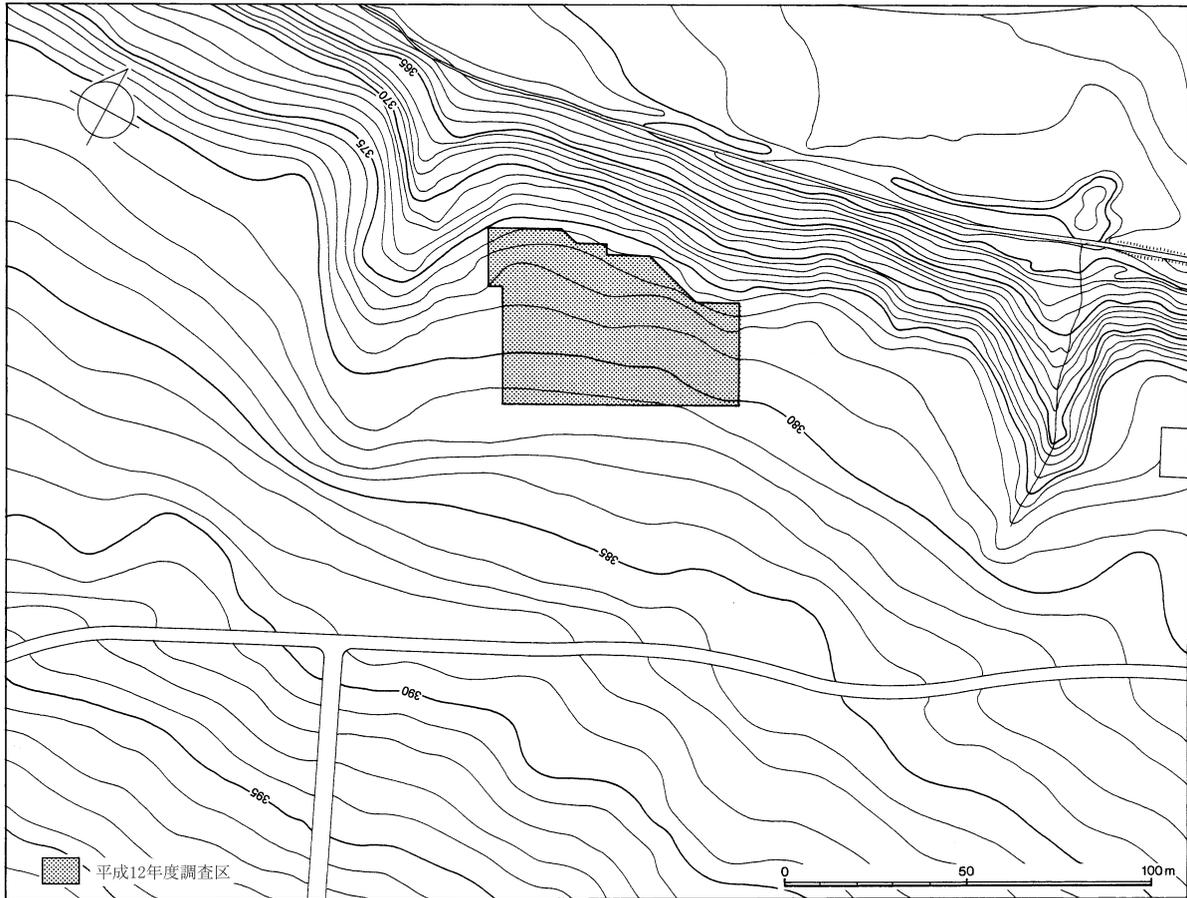


白滝8遺跡調査区域図

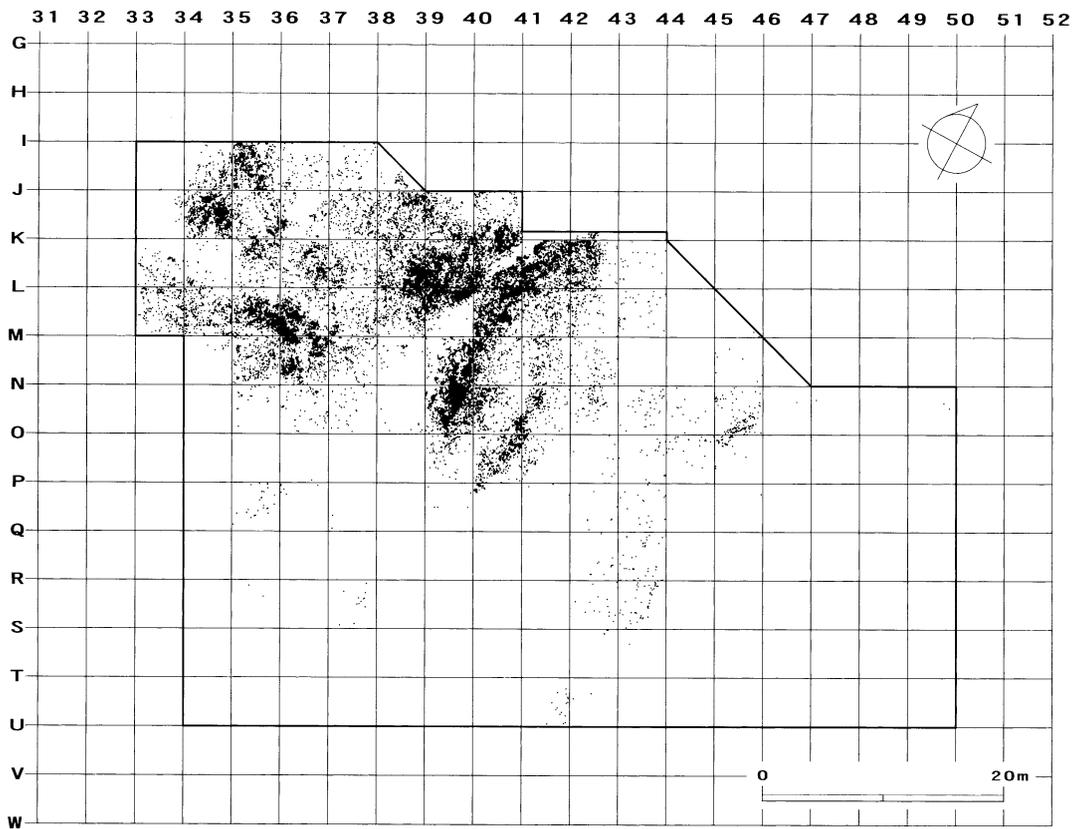


白滝8遺跡遺物分布図

図 I - 13 白滝第30地点・白滝8遺跡調査区域・遺物分布図

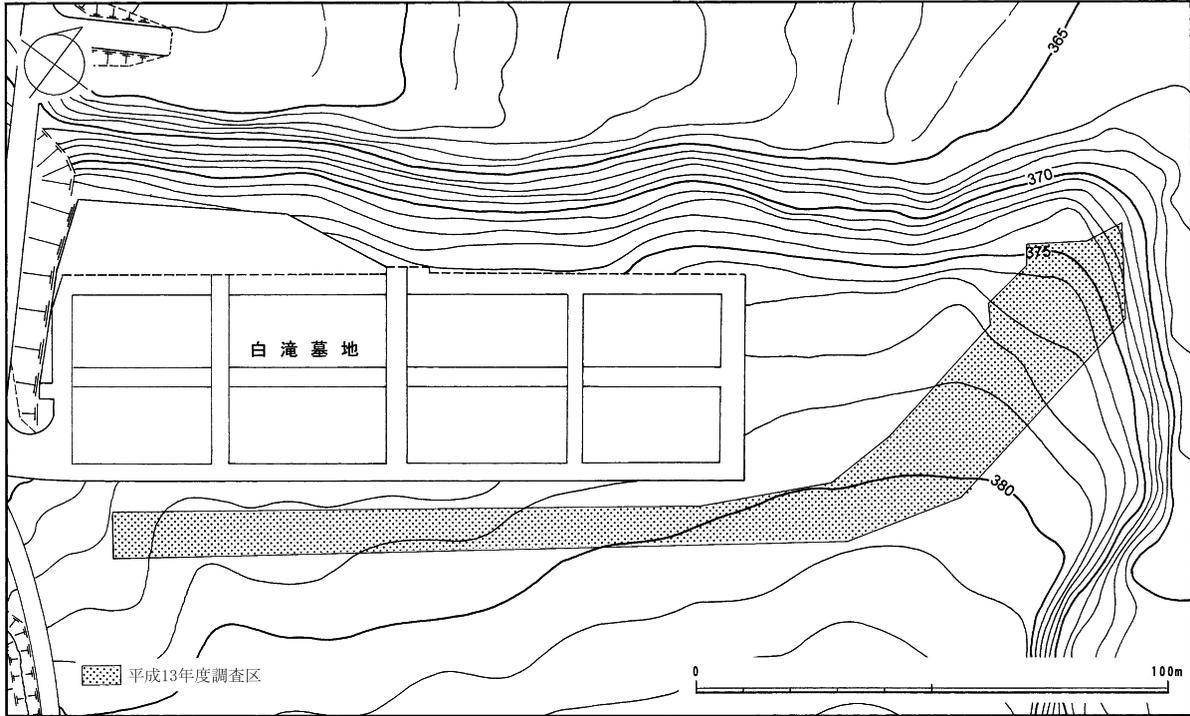


白滝18遺跡調査区域図

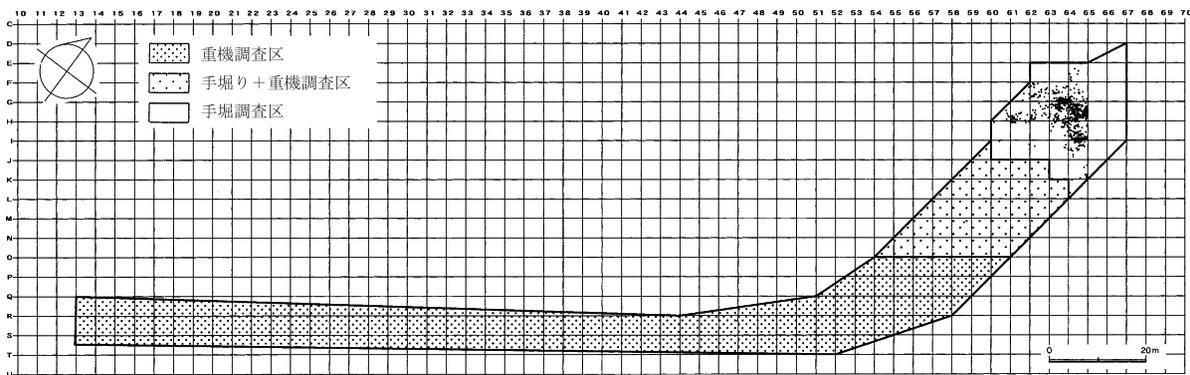


白滝18遺跡遺物分布図

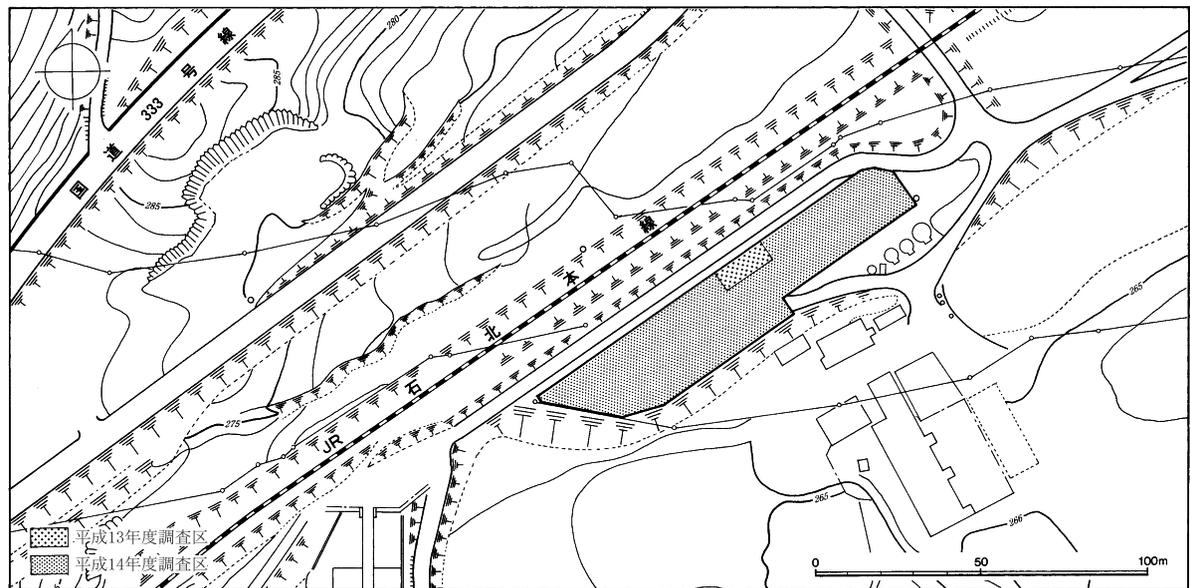
図 I-14 白滝18遺跡調査区域・遺物分布図



白滝3遺跡調査区域図

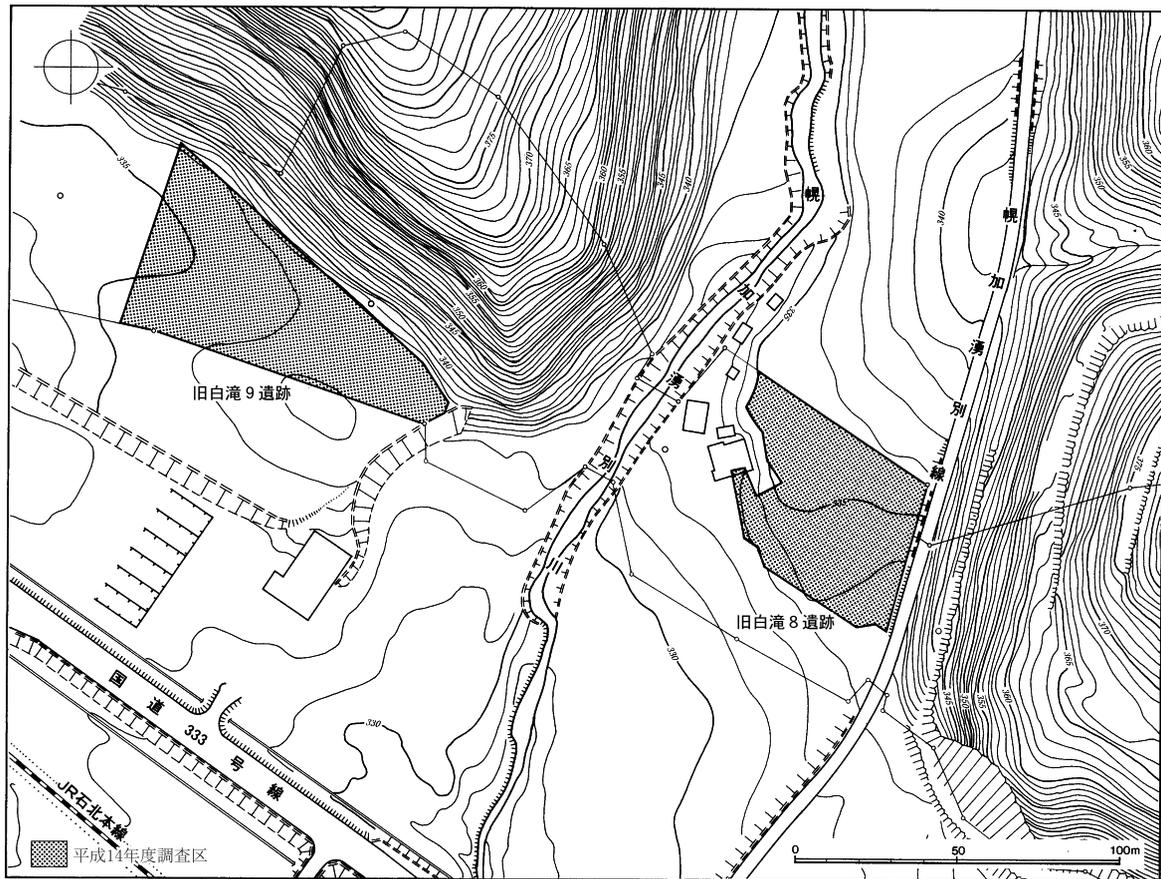


白滝3遺跡遺物分布図

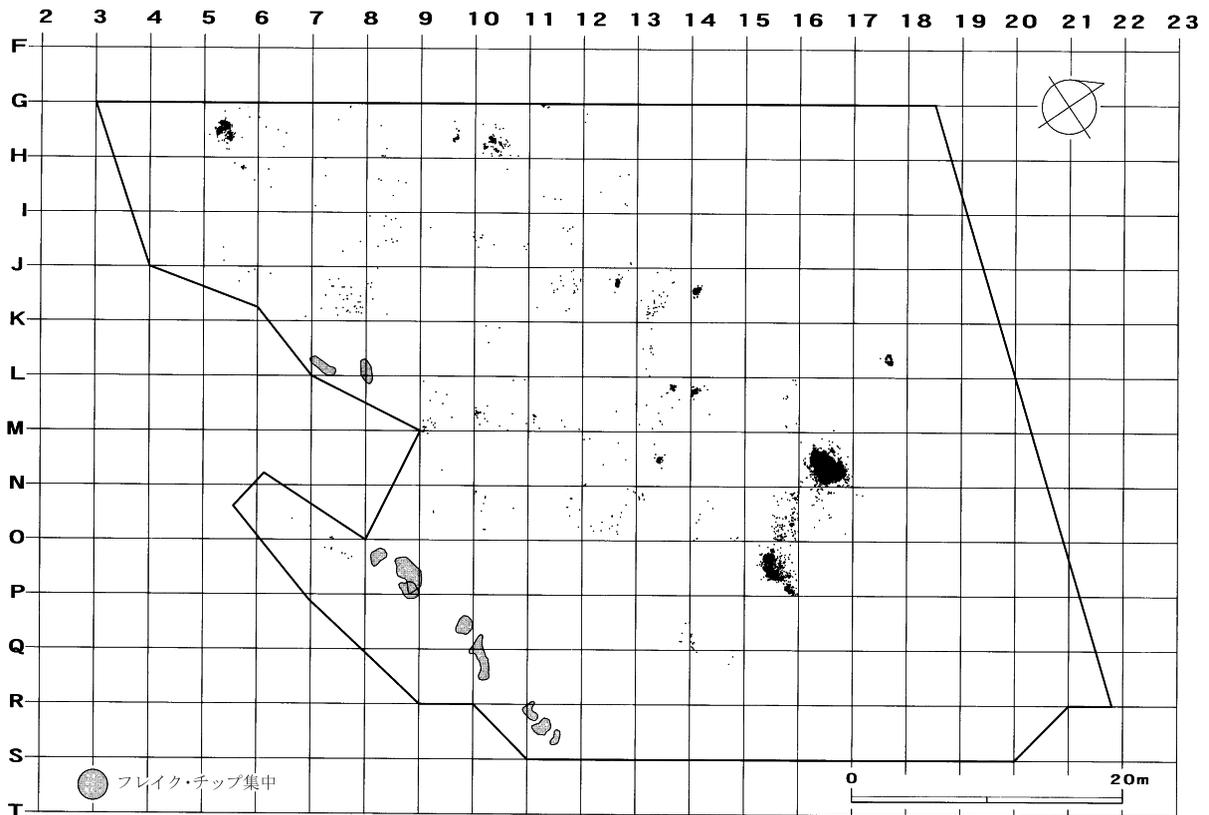


下白滝遺跡調査区域図

図 I-15 白滝3・下白滝遺跡調査区域・遺物分布図



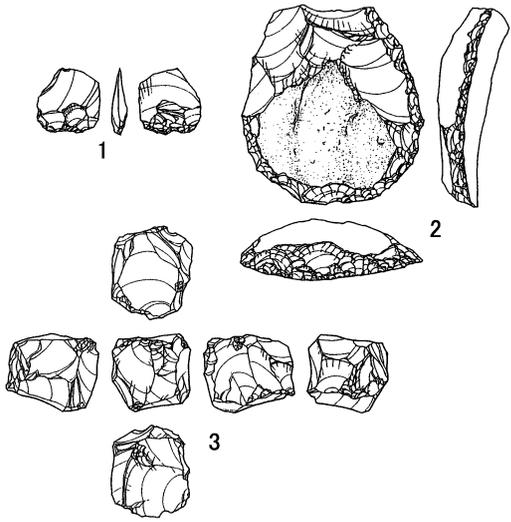
旧白滝9・旧白滝8遺跡調査区域図



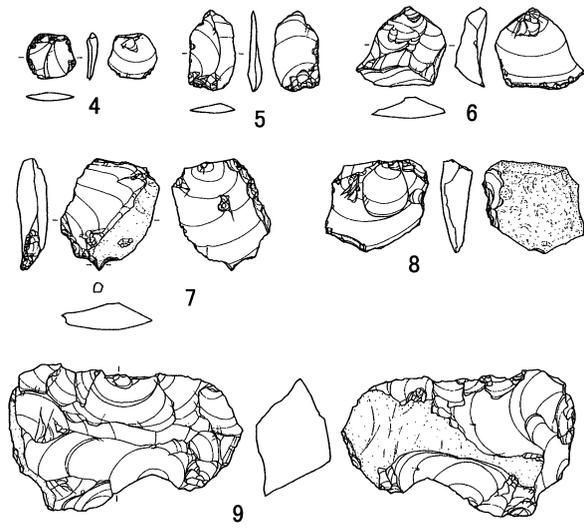
旧白滝8遺跡遺物分布図

図I-16 旧白滝9・旧白滝8遺跡調査区域・遺物分布図

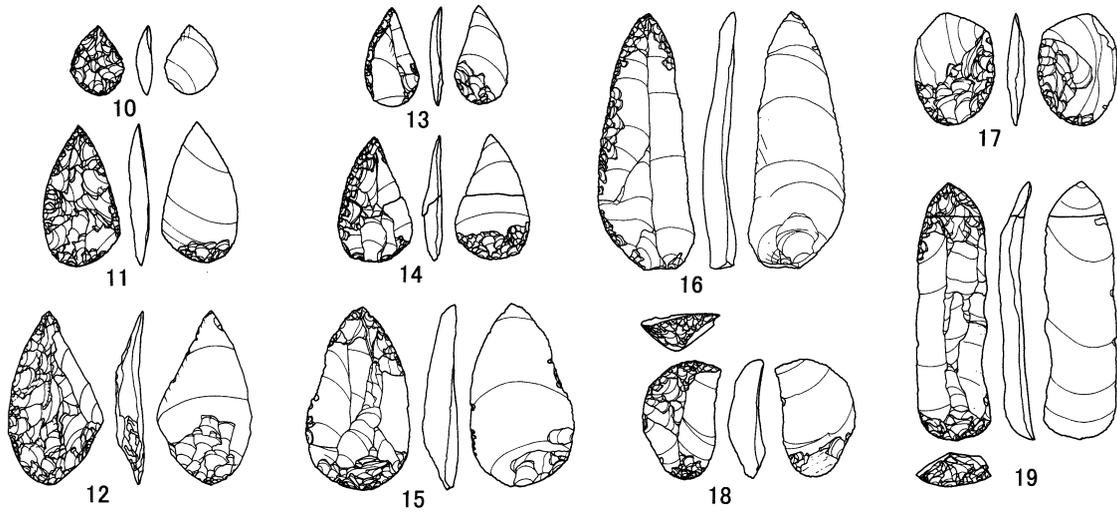
上白滝8(I群)



奥白滝1(I群:Sb-4~6)



上白滝7(Sb-4~10)



上白滝2(Sb-3~6·10)

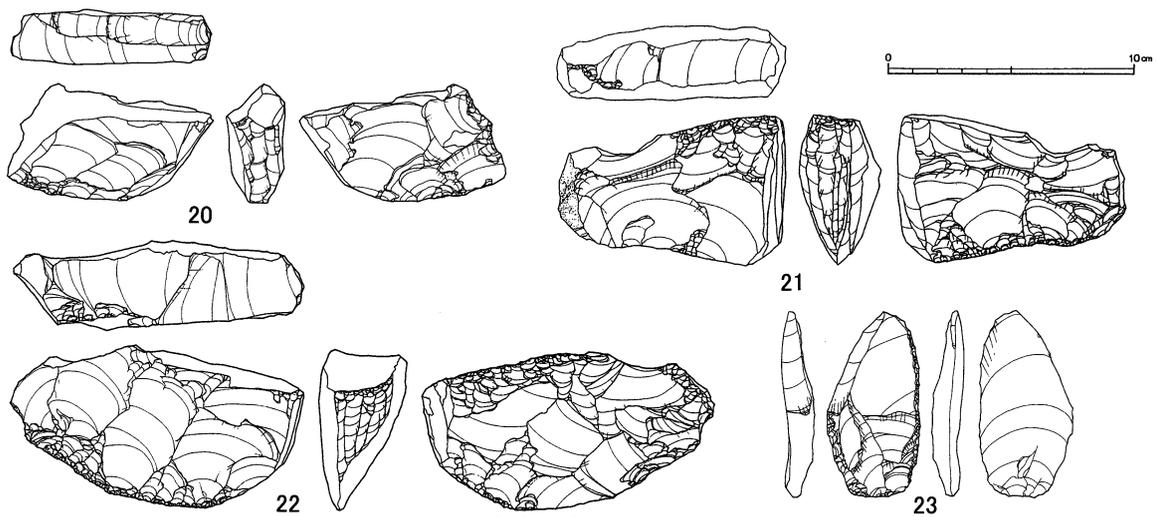
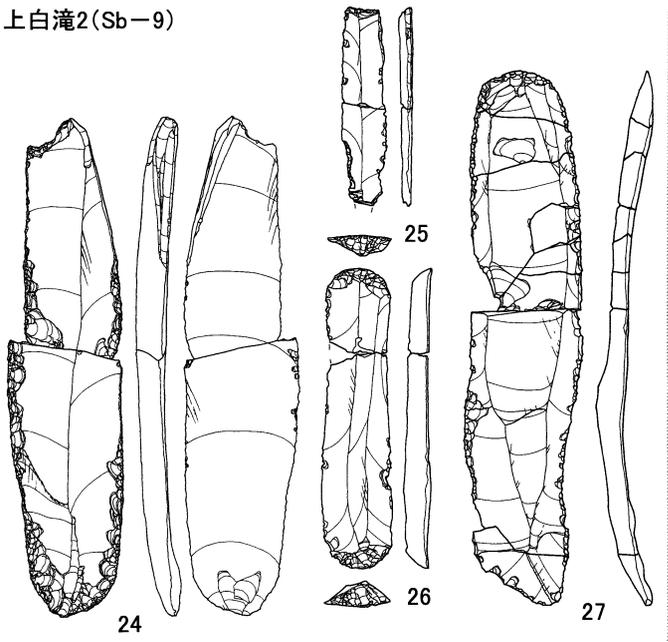
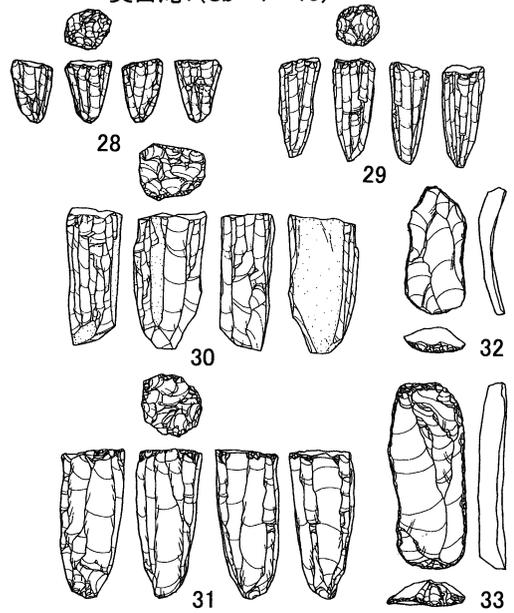


図 I - 17 白滝遺跡群出土石器 (1)

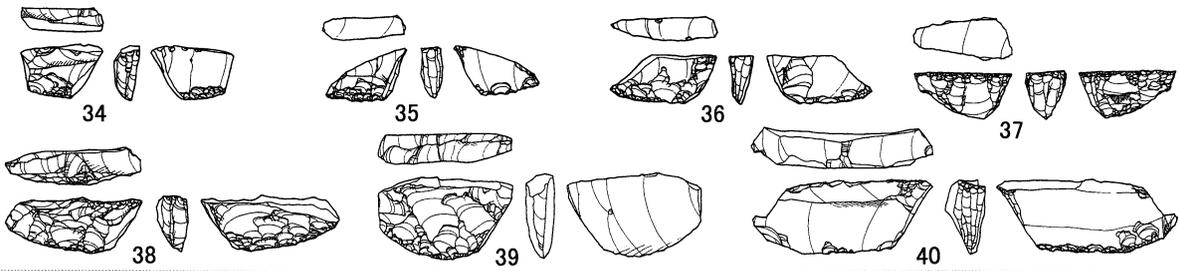
上白滝2(Sb-9)



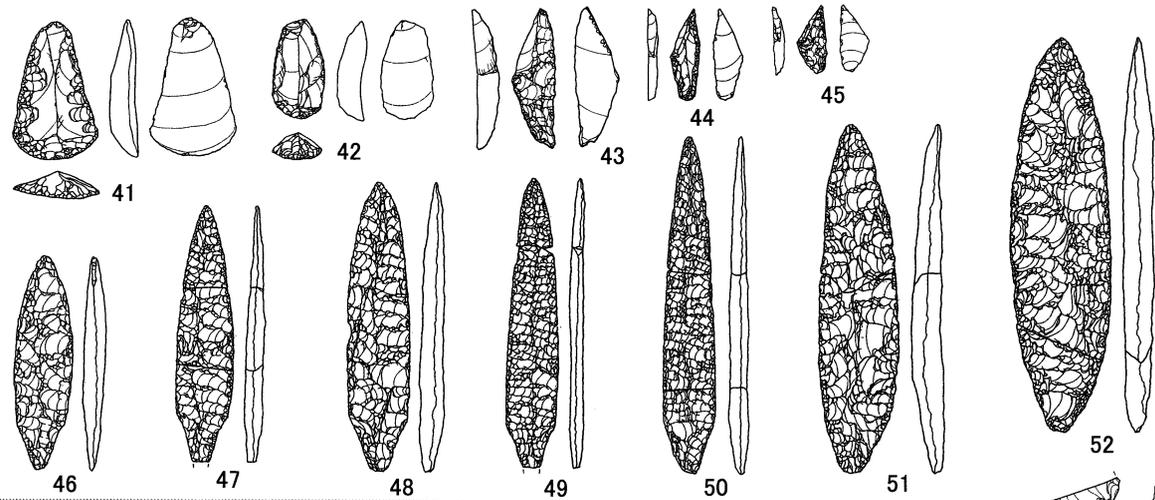
奥白滝1(Sb-7~10)



上白滝8



上白滝2(Sb-15)



上白滝2(Sb-13)

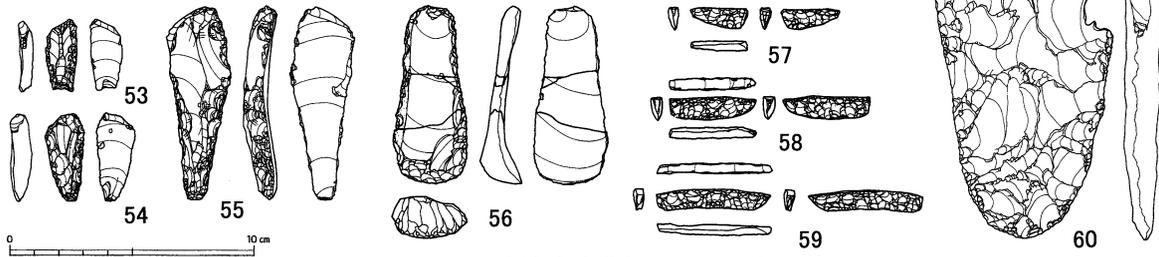


図 I-18 白滝遺跡群出土石器(2)

**白滝 8 遺跡**（平成12年）（図 I - 13）

湧別川と支湧別川の合流地点に近い白滝村市街南方、上白滝地区の遺跡の立地する上白滝面より一段低い東白滝面の標高380m前後の河岸段丘上にある。遺跡は小規模で、段丘縁辺の小沢に面した突出部に遺物が分布している。定形的な石器は、細石刃、彫器、搔器、削器、舟底形石器、石刃核、石核などである。斜面部で舟底形石器に近接して発見された凝灰岩製の石刃核は、長さ37cm、重さ3kgの大型品で、形態的には丸ノミ形の石斧に類似するが、石斧の刃部に相当する部分には研磨痕などはみられない。他の地域の遺跡から持ち込まれたもので、その用途、性格が注目される。

**白滝18遺跡**（平成12年）（図 I - 14）

白滝 8 遺跡同様、湧別川と支湧別川の合流地点に近い東白滝面の段丘縁辺の緩斜面に立地し、白滝 8 遺跡の小沢を挟んだ東側に位置している。遺物は、北東方向の小さな沢を挟んで分布し、定形的な石器としては、尖頭器、搔器、削器、舟底形石器、石核、石刃核などがあるが、尖頭器が35%を占める。その尖頭器は大部分が幅の広い有舌のもので、大きさ・形態ともにバラエティーに富んでいる。最も大型のものは、長さ31.1cm、幅9.7cmである。素材は剥片が多いが、板状の原石もみられ、その大部分が破損・欠損品である。類似した有舌尖頭器は、白滝では上白滝 8 遺跡、他の地域では、北見市広郷28遺跡、置戸町置戸安住遺跡、今金町神丘 2 遺跡などで出土している。

**白滝 3 遺跡**（平成13年）（図 I - 15）

遺跡は白滝18遺跡の東方400m、同じ東白滝面の段丘縁辺に立地し、東側には伊藤の沢川が流れている。調査区は大きく白滝墓地南の西側地区と段丘縁辺の東側地区に分けられる。西側地区は耕作による攪乱のため、遺物包含層が全くなく、発掘区単位での重機による掘り上げ後、人力による遺物採取を行った。採取された遺物はすべて石器類で、有舌尖頭器、尖頭器、彫器、搔器、石刃核、石核などがある。東側地区では段丘の先端部に遺物の分布が認められ、尖頭器、小型のものを含む舟底形石器、彫器、搔器、錐形石器、石刃核、石核が出土した。

**旧白滝 9 遺跡**（平成14年）（図 I - 16）

遺跡は幌加湧別川の右岸、湧別川本流に対しては左岸の標高340mの段丘上に位置する。地形は比較的平坦であるが、湧別川に向かって緩やかに傾斜している。また、背後は粘板岩製の基盤層が露出した急峻な崖面となり、調査区の北西端ではその崩落した岩塊が多数みられた。

調査区は耕作による後世の攪乱が著しく、遺物包含層は残存していなかった。したがって、調査は耕作土を重機によって掘り上げ、その後人力によって遺物を採取する方法で行った。出土遺物は全て石器類で、定形的なものとした石鏃、尖頭器（石槍・ナイフを含む）、削器などが若干みられただけである。遺跡の時期は石器のパティナや器種などから縄文時代と考えられるが、土器が出土していないので、詳細は不明である。

**旧白滝 8 遺跡**（平成14年）（図 I - 16）

遺跡は白滝市街から北東へ3.4km、幌加湧別川と湧別川との合流点を400m遡った幌加湧別川左岸に位置する。調査区の標高は340m、調査前の地形は幌加湧別川に向かって緩やかに傾斜する斜面で、幌加湧別林道を挟んだ調査区北西の沢からの崖錐堆積物でマウンド状の高まりとなっていた。遺跡は耕作、宅地や庭の造成など後世の攪乱が著しく、大部分の区域では遺物包含層は残存していなかったが、宅地に続く駐車場や道路部分の下に幌加湧別川の旧河道部が確認された。その旧河道部につながる斜面でわずかに遺物包含層が残存している部分があり、焼土や剥片集中、土器などが発見された。また、攪乱された畑でも沢地形の部分や、木根などから大量の剥片類が出土し、遺物の総数は49万点におよび、1㎡当たりの遺物出土点数も187点となり、今までの遺跡では最高となった。

土器は表土層からも若干出土したが、大部分は旧河道に接した斜面及び焼土周辺で、大部分が縄文時代後北C<sub>1</sub>式に相当するものである。定形的な石器としては、石鏃、削器、両面加工ナイフ及びその製作途中の両面調整石器、石核などがあるが、大部分は石器製作に関わる剥片・碎片類である。石器類の時期は、光沢の強いパティナの状況や石器・剥片の特徴、剥離技術などから縄文時代後北C<sub>1</sub>式の時期と考えられる。剥片・碎片類の占める割合は、上白滝地区の旧石器時代の遺跡よりはるかに多い状況である。

#### 下白滝遺跡（平成13・14年）（図I-15）

遺跡は、白滝市街の北東約9.5km、丸瀬布町市街とのほぼ中間点、村名の由来である「白滝」の下流、標高270mの湧別川左岸の河岸段丘上に立地している。湧別川との比高は約7mである。遺跡は全体的に耕作による攪乱が著しく、段丘の端部分に攪乱を免れた部分がわずかにある。

平成13年度は畑部分90㎡、平成14年度は残りの部分について調査を行った。調査区はすべて耕作による攪乱を受けており、遺物量の少ない平成13年度調査区およびその周辺の北東側半分は、重機による掘り上げ後、人力による遺物採取を行った。南西側も攪乱されているが、遺物の出土量が多いのと剥片・碎片類が小さいため人力で調査を行った。また、風倒木や木根部分から攪乱を免れた石器類が多量に出土し、その中に土器類もみられた。土器は大部分が縄文時代中期の刺突文ないし無文の土器とみられ、その他若干の後・晩期のものがある。定形的な石器類は、石鏃、尖頭器（石槍・ナイフを含む）、削器、つまみ付きナイフなどである。また、薄手の剥片に二次加工がみられる石鏃の未成品とみられるものもある。遺跡は縄文時代の石器製作跡と考えられるが、出土している剥片類が小型であることなどから二次加工を主体とした遺跡とみられる。（長沼 孝）

## II 遺跡の位置と周辺環境

### 1 遺跡の位置と周辺の遺跡

遺跡の所在する白滝村は、北海道網走支庁管内中西部に位置し、北緯 $43^{\circ} 44' 20''$  から $43^{\circ} 57' 30''$ 、東経 $143^{\circ} 0' 40''$  から $143^{\circ} 18' 20''$  の間にある。北は丸瀬布町・滝上町、東は丸瀬布町、西・南は上川支庁管内上川町に接している。

村の中央には湧別川と支湧別川に挟まれた台地状の三角地帯があり、周囲は山地に囲まれている。北側には湧別川の左岸に急峻な山地が迫り、その中に黒曜石の産出地として知られる赤石山がある。また、南西から南東にかけて大雪山系の天狗岳・武利岳・支湧別岳などの $1,600\sim 1,800\text{m}$ の山々が連なっている。村内を東西に流れる湧別川は天狗岳に源流を発し、北側からは赤石山周辺から流れ込む八号沢川、十勝石沢川、幌加湧別川を吸収し、南側からは本来本流である支湧別川（アイヌ語で「シ・ユーベツ」、「大きい・湧別川」の意味）と白滝村市街地で合流し、丸瀬布町、遠軽町、上湧別町、湧別町を経てオホーツク海に流れ込んでいる。

道内の黒曜石産地との位置関係は、赤石山を起点とすると南東方向 $40\text{km}$ に置戸町所山・置戸山、南方向 $50\text{km}$ に上士幌町十勝三股が位置している。

村内には92か所の遺跡が確認されている（図II-1・2、表II-1）。縄文時代以降の遺跡は平成14年度調査を行った旧白滝8・旧白滝9・下白滝（北海道埋蔵文化財センター 2003）、石井遺跡の4遺跡のみでその他は断片的に縄文時代の石器が見られるものの旧石器時代の遺物が主体を占める。それらのほとんどは湧別川沿いの河岸段丘上に所在し、「白滝遺跡群」と総称されている。これらは、大きく八号沢と湧別川の合流点付近、十勝石沢川と湧別川の合流点付近、幌加湧別川と湧別川の合流点付近の三つの集中地区に分けることができる。いずれも赤石山を源流とする沢と湧別川の合流点付近から下流に広がる形で集中し、原石採取や、露頭へのルートとして沢を利用していたことが想定される。その内、特に、八号沢川と湧別川の合流点付近には白滝第13地点遺跡をはじめ、服部台・服部台2・白滝第32・33地点遺跡など、学史的に有名かつ大規模な遺跡が集中している。一方、段丘以外では、赤石山の山麓で赤石山・幌加沢遠間地点・幌加林道遺跡の3遺跡が確認されているのみであるが、深い森林のために発見されていない遺跡があることが予想される。

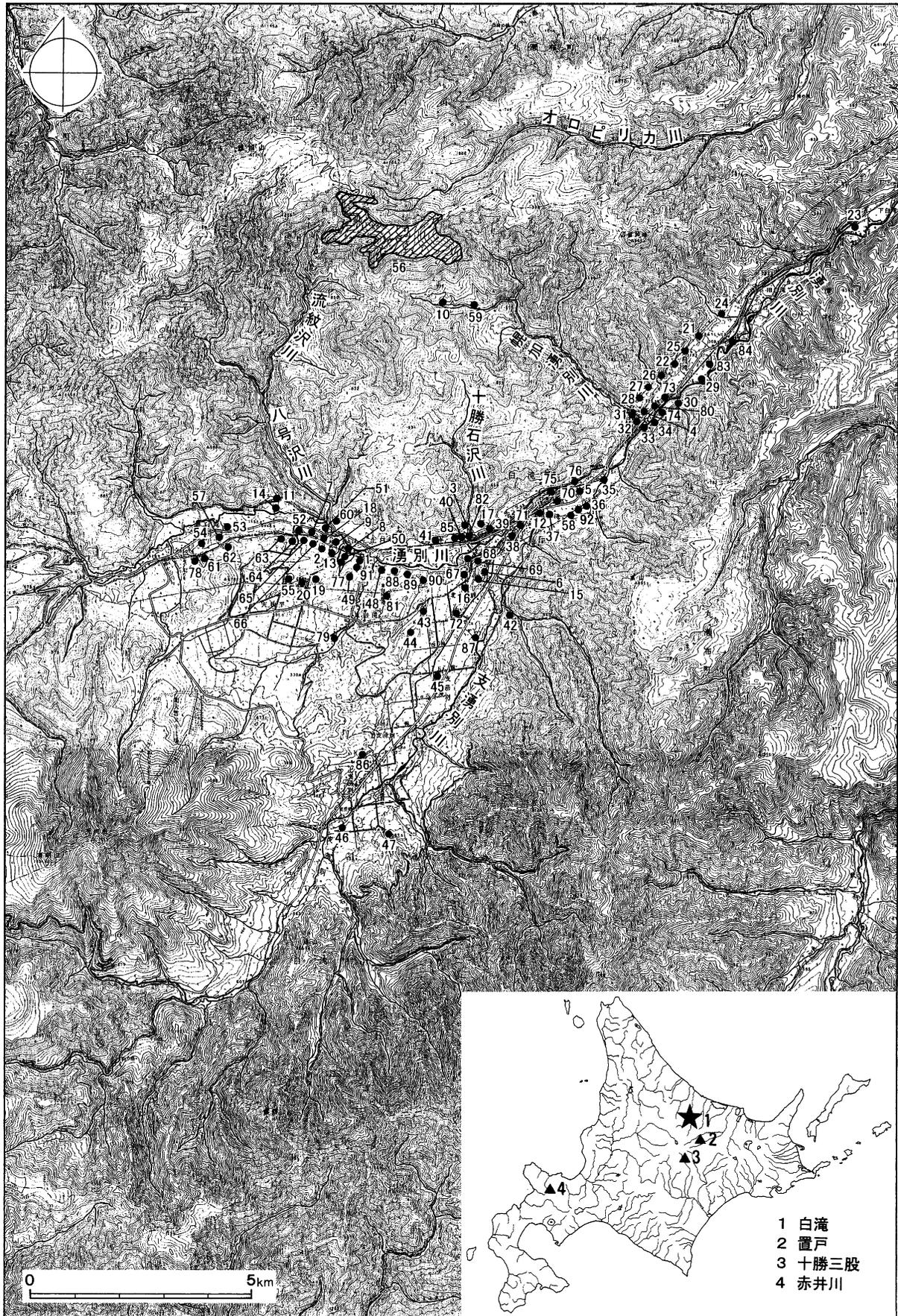
黒曜石は赤石山山頂および露頭、八号沢川、十勝石沢川、幌加湧別川、湧別川などで採取でき、遺跡ではその立地環境を反映して大量の黒曜石が利用されている。湧別川中流域の遠軽町内にある同時代のタチカルシュナイ遺跡でも同様に黒曜石の利用がみられる。

奥白滝11遺跡は、八号沢川と湧別川の合流点から約 $0.6\text{km}$ 上流の右岸段丘上、白滝第33地点遺跡の南西側に隣接し、大規模遺跡の集中する地域の西端に位置する。標高は約 $460\text{m}$ 、湧別川との比高は約 $35\text{m}$ である。

上白滝8遺跡は、八号沢川と湧別川の合流点から約 $1.1\text{km}$ 下流の右岸段丘上、白滝第13地点遺跡の南側、奥白滝1遺跡の沢を挟んだ東側、上白滝2遺跡の沢を挟んだ西側に隣接し、大規模遺跡の集中する地域の中央部に位置する。標高は高位部で約 $435\text{m}\sim 450\text{m}$ 、低位部で約 $415\text{m}$ 、湧別川との比高は高位部で $35\text{m}\sim 50\text{m}$ 、低位部で $15\text{m}$ である。

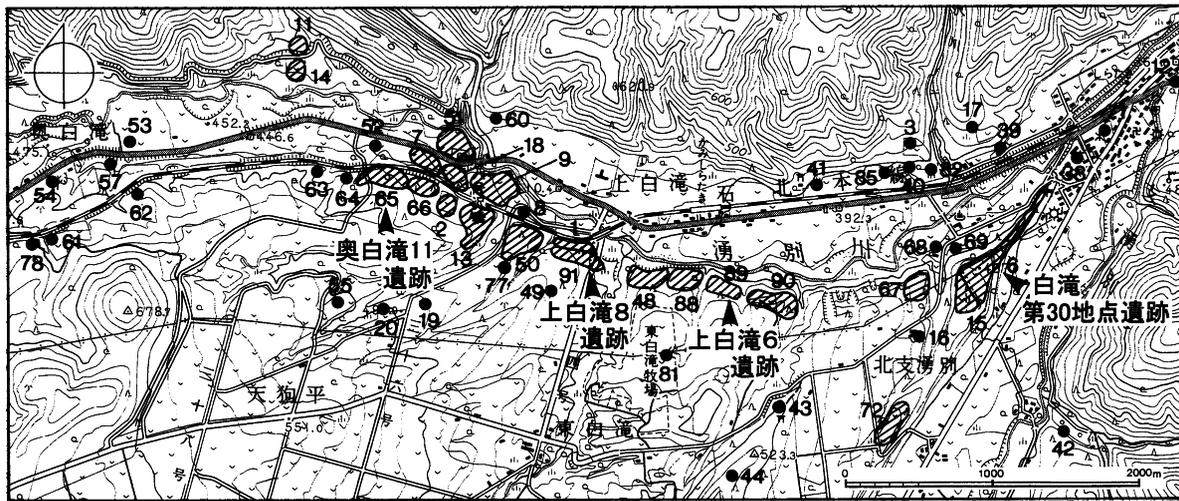
上白滝6遺跡は、八号沢川と湧別川の合流点から約 $2\text{km}$ 下流の右岸段丘上、上白滝5遺跡の沢を挟んだ東側、上白滝7遺跡の沢を挟んだ西側に隣接し、十勝石沢川と湧別川の合流点とのほぼ中間に位置する。標高は約 $425\sim 435\text{m}$ 、湧別川との比高は $30\sim 40\text{m}$ である。

1 遺跡の位置と周辺の遺跡



(国土地理院発行5万分の1地形図「白滝」「上支湧別」「丸瀬布南部」「大和」を使用)

図Ⅱ-1 白滝村の位置と村内の遺跡



図Ⅱ-2 奥白滝11・上白滝8・上白滝6・白滝第30地点遺跡の位置と周辺の遺跡

表Ⅱ-1 白滝村の遺跡一覧

登録番号	遺跡名	調査年度	報告関連
1	白滝第13地点	1955	吉崎 1961
		1956	北大調査団 1960
		1958	吉崎 1961
		1986	松谷 1987b
2	服部台	1961	杉原・戸沢 1975
3	白滝第25地点	1956	北大調査団 1960
4	旧白滝2		
5	石井		
6	白滝第30地点	1957	吉崎 1959
		1985	松谷 1987b
		1994	松村 1995
		1996~98	
		2000	北海道埋蔵文化財センター 2001
7	白滝第33地点	1957	吉崎 1961、白滝団体研究会 1963
		1986	松谷 1987b
8	白滝第31地点	1959	吉崎 1961、白滝団体研究会 1963
9	白滝第32地点	1959	白滝団体研究会 1963
		1986	松谷 1987b
10	観加川遺跡 遠間地点	1972	米村 1975・77
		1987~90・92・93・95・99・02	札幌大学木村英明ゼミナール 1988・89・90・96、木村 2003
11	近藤台	1981	千葉・畑 1982
13	服部台2	1981	千葉・畑 1982
		1998・99・2000	北海道埋蔵文化財センター 1999・2000・01
14	近藤台2		
15	白滝第4地点	1955	吉崎 1961
		1986	松谷 1987a・b
		1994	松村 1995
		1995・96	松村・瀬下 2002
16	白滝第10地点		
17	白滝第27地点	1955	吉崎 1961
18	白滝第29地点		
19	白滝第37地点	1960	白滝団体研究会 1963
20	白滝第38地点	1960	白滝団体研究会 1963
21	旧白滝4		
22	平岡 b		
23	下白滝	2001・02	北海道埋蔵文化財センター 2001・02
24	旧白滝1		
25	平岡 a		
26	旧白滝3		
27	ホロカ沢 I	1961	白滝団体研究会 1963
28	旧白滝5		
29	旧白滝6		
30	旧白滝7		
31	旧白滝8	2002	北海道埋蔵文化財センター 2002
32	旧白滝9	1985・2002	松谷 1987b、北海道埋蔵文化財センター 2002
33	旧白滝10	1985	松谷 1987b
34	白滝1		
35	白滝2		
36	白滝3	2001	北海道埋蔵文化財センター 2001
37	白滝4		
38	白滝5		
39	白滝6		
40	白滝7		
41	上白滝1		
42	北支湧別1		
43	東白滝1		
44	北支湧別2		
45	支湧別1		
46	上支湧別1		
47	上支湧別2		
48	上白滝2	1996・97	鈴木ほか 2000
49	東白滝2		
50	奥白滝1	1997・98・2000	直江ほか 2002
51	奥白滝2		
52	奥白滝3		
53	奥白滝4		
54	奥白滝5		
55	天狗平1		
56	赤石山		
57	奥白滝6		
58	白滝8	2000	北海道埋蔵文化財センター 2001
59	観加林道		
60	上白滝3		
61	奥白滝7		
62	奥白滝8		
63	奥白滝9		
64	奥白滝10		
65	奥白滝11	1999	北海道埋蔵文化財センター 2000
66	奥白滝12		
67	北支湧別4	1998	鈴木ほか 2000
68	白滝9		
69	白滝10		
70	白滝11		
71	白滝12		
72	北支湧別3	1985	松谷 1987b
73	旧白滝11		
74	白滝13		
75	白滝14		
76	白滝15		
77	上白滝4		
78	奥白滝13		
79	東白滝3		
80	旧白滝14	1985	松谷 1987b
81	東白滝4		
82	白滝16		
83	旧白滝12		
84	旧白滝13		
85	白滝17		
86	上支湧別3	1986	松谷 1987b
87	北支湧別5		
88	上白滝5	1997・98	直江ほか 2002
89	上白滝6	1998・2001	鈴木ほか 2000、北海道埋蔵文化財センター 2001
90	上白滝7	1997・98	坂本ほか 1999
91	上白滝8	1995~98・2000	北海道埋蔵文化財センター 1996・97・98・99・2001
92	白滝18	2000	北海道埋蔵文化財センター 2001

白滝第30地点遺跡は、十勝石沢川と湧別川の合流点付近の右岸段丘上、白滝第4地点遺跡の東側に隣接し、十勝石沢川と湧別川の合流点付近の遺跡集中域の南西部に位置する。標高は約425～430m、湧別川との比高45～50mである。(鈴木宏行)

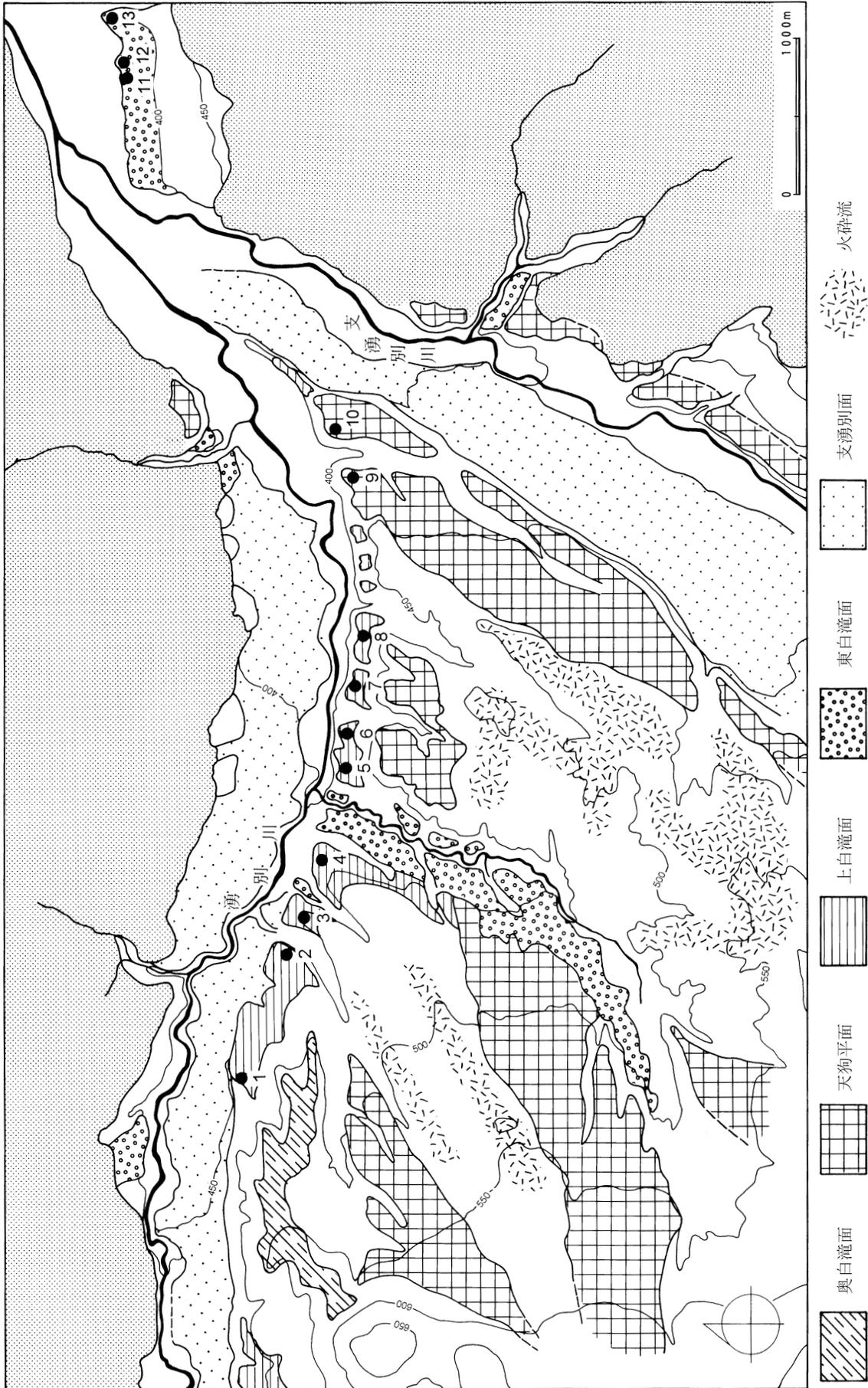
## 2 遺跡周辺の地形と地質

遺跡群のある白滝村は、北海道の屋根といわれる大雪山系北東山麓の小盆地に位置し、盆地内には西から東に流れてオホーツク海に注ぐ湧別川と、南西から北東に流れて白滝市街で湧別川と合流する支湧別川がある。村内の遺跡は湧別川と支湧別川に挟まれた、通称「三角地帯」と呼ばれる一帯に多くあり、特に湧別川右岸の河岸段丘上に集中している。三角地帯の南東側は、標高700～1,700mの日高累層群による山系である。北側は日高累層群とこれを覆う幌加湧別層・幌加湧別凝灰岩による標高600～1,200mの山地で、深い谷地形が発達している。南西側は大雪山系の北東延長部にあたり標高1,500～1,800mの山々が連なっている。三角地帯は、南西側にある天狗岳(標高1,553m)から北東方向に広がる緩斜面と数段の段丘地形から成り立っている(図Ⅱ-3)。

北側の山地は北西部と北東部で地形、地質の様相が異なる。北西部は、チトカニウシ山(標高1,445m)を中心として、日高累層群の粘板岩で構成され、急峻な山々が広がる。北東部も同様に日高累層群の基盤で構成されているが、稜線部に広く溶結凝灰岩が分布しているため山腹斜面が急峻で、山稜部は全体的に平坦な地形となっている。溶結凝灰岩は、分布西限にあたる雄柏山から東へ向かうにしたがい、山稜部の高さが徐々に低くなり丸瀬布町までみられる。遺跡群と関係の深い赤石山(標高1,147m)もこの山塊に位置する。赤石山では黒曜石が産出し、国内でも最大級の埋蔵量を誇っている。山腹には大規模な黒曜石の露頭がいくつもみられ、その下の沢では良質の黒曜石が採集できる。

段丘面は、湧別川と支湧別川に挟まれた三角地帯の台地上に少なくとも5段が発達している。形成時期の古い段丘から奥白滝面、天狗平面、上白滝面、東白滝面、支湧別面に区分され、段丘形成史が概観されている(中村・平川 1998)。これらの段丘面の基盤となっているのは白滝層と呼ばれる火砕流堆積物で、地点によって凝灰質砂層、溶結凝灰岩層、砂質粘土層、湖成堆積層などと様相が異なる。白滝層は盆地内の広い範囲でみられ、現在の斜面傾斜方向と同方向に三角地帯内に流れ込んだと思われる。これに伴い古白滝湖が形成されたため、白滝層の大部分は二次堆積による湖成堆積層として確認されている。

段丘面の中で最も高位の奥白滝面は、湧別川上流部の伊藤ノ山(標高678m)の北東に残っているのみである。天狗平面は、斜面堆積によってできた大規模な扇状地地形で、天狗岳から北東方向、白滝層の間を埋めるように分布している。特に伊藤ノ山東側、天狗沢川上流部、支湧別川左岸で良好に発達し、この段丘面上には北支湧別4(当センター調査)・白滝第4地点・第30地点遺跡(村教委・当センター調査)などが立地している。次の上白滝面(標高470～400m)は、湧別川により形成された河岸段丘で、湧別川の右岸に八号沢川合流地点付近から黒曜の沢合流地点付近まで分布する。遺跡が数多く立地しているのはこの段丘面上で、白滝第13地点遺跡、服部台遺跡など学史的にも有名な遺跡が数多く分布している。当センターが調査した遺跡の多くもこの段丘面上に立地し、湧別川の上流から奥白滝11・服部台2・奥白滝1・上白滝8・上白滝2・上白滝5・上白滝6・上白滝7遺跡と続き、それぞれ大小の谷地形によって区切られている。谷地形の中で最も大きなものは、上白滝地区で湧別川と合流する天狗沢川で、三角地帯を大きく東西に二分し、その東側と西側では地形的な差異がみられる。天狗沢川より西側は扇状地状の緩斜面地形で、東側は開析の進んだ傾斜のやや強い台地状



1. 奥白滝1遺跡 2. 服部台2遺跡 3. 奥白滝1遺跡 4. 上白滝8遺跡 5. 上白滝2遺跡 6. 上白滝6遺跡 7. 上白滝6遺跡 8. 上白滝7遺跡 9. 北支湧別4遺跡 10. 白滝第30地点遺跡 11. 白滝8遺跡 12. 白滝18遺跡 13. 白滝3遺跡  
 (中村・平川 1998を元に作成)

図II-3 段丘面分布図

の地形である。また中村、平川により、段丘礫層のほぼ直上に堆積する奥白滝軽石がトエトコ火山灰（TT）に比定され、このテフラの噴出年代が15～20万年前頃と推定されることから上白滝面の離水時期もそれ以前と考えられている（中村・平川 1998）。次に形成される東白滝面（標高500～370m）は、前出の天狗沢川の両岸と、湧別川と支湧別川との合流地点より下流の右岸に広く発達し、最終氷期前半には離水していたと推定されている。天狗沢の左岸には上白滝8遺跡（当センター調査）、合流地点下流の右岸には白滝18・白滝8・白滝3遺跡（当センター調査）が立地している。次の支湧別面（標高450m～）は、最終氷期極相期に離水した最も新しい段丘面で、湧別川左岸と支湧別川左岸に広く分布する。縄文時代以降の遺跡がみられることが多く、旧白滝8・旧白滝9・下白滝遺跡が立地している。また湧別川左岸は、山地が間近に迫っているため段丘面が階段状に形成されず、八号沢川と十勝石沢の間の山麓では所々に支湧別面を覆う崖錐堆積がみられる。

次に白滝盆地内にみられるテフラについて説明する。中村、平川によると、11枚のテフラ層が確認され、広域対比が試みられている（中村・平川 1998、平川ほか 2000）。そのうち地形発達史を考える上で重要なテフラは、新しいものから樽前a軽石（Ta-a）、大雪御鉢平軽石（Ds-Oh）、屈斜路庶路火山灰（Kc-Sr）、支笏1軽石（Spfa-1）、トエトコ火山灰（TT）である。樽前a軽石（Ta-a）は、細粒の軽石片からなるテフラで、服部台2遺跡の表土中で確認された。大雪御鉢平軽石（Ds-Oh）は、淘汰が悪く、多量の石質岩片を含有しているのが特徴で、盆地内の広い範囲で確認されている。直上の炭化木片の年代測定値から、約3万年前に降下したものと考えられる。発掘された遺物はすべて同層かそれより上層から出土しているため、遺跡の形成年代を考える上でも重要なテフラである。屈斜路庶路火山灰（Kc-Sr）は、黄褐色の細粒ガラス質火山灰で、奥白滝1・服部台2遺跡の大雪御鉢平軽石（Ds-Oh）と赤褐色古土壌の間にみられることから、最終間氷期から最終氷期の間に降下したと考えられる。支笏1軽石（Spfa-1）は、約4万2千年前に降下したテフラである。黄褐色の細粒ガラス質火山灰で、湧別川と合流する手前の十勝石沢左岸で確認された。屈斜路庶路火山灰（Kc-Sr）とは肉眼的に類似するが、支笏1軽石（Spfa-1）は屈折率が高い斜方輝石を含む特徴がある。トエトコ火山灰（TT）は、普通角閃石を多量に含むのが特徴で、上白滝面に立地する服部台2・奥白滝1遺跡では段丘礫層の直上から確認された。15～20万年前に降下したテフラと推定され、白滝盆地の段丘形成史を考える上で重要なテフラである。

今回報告する4遺跡は、すべて三角地帯内の湧別川右岸にあり、奥白滝11・上白滝8・上白滝6遺跡は上白滝面（上白滝8遺跡は東白滝面も含む）、白滝第30地点遺跡は一段高位の天狗平面上に立地している。

奥白滝11遺跡は、湧別川と八号沢川の合流点から約700m上流に位置し、遺跡の主体部は現状保存された旧路線（国指定史跡部分）を中心とした一帯にある。調査区域は標高が460～465m、台地北西側端の斜面上で、北東－南西方向の細長い範囲である。中央部には北西方向に走る小さな沢地形がみられ、調査区域を二分している。北東側にはテラス状の小さな平坦面があり、南東側は沢の立ち上がりの斜面がなだらかに続く。調査区域の北西側は急崖で、湧別川に合流する沢が流れている。遺跡が立地する台地の東側には沢を挟んで服部台・服部台2遺跡がある。

上白滝8遺跡は、湧別川と八号沢川の合流点から約1,100m下流に位置している。遺跡は上白滝面から急斜面を介して一段低い東白滝面に渡っている。調査区域の標高は上白滝面が430～445m、東白滝面が410～420mである。調査は段丘の縁から約25m奥に入った地点で、台地の幅500m程を横切るように東西方向に長い区域で行った。主に旧石器時代の遺物を包含する上白滝面の中央部には僅かな沢地形がみられ、遺物分布もそこで大きく二分される。遺跡の西側は急崖で沢を挟んで奥白滝1遺跡

(平成13年度報告)、東側には上白滝地区で最も大きな天狗沢が流れ、沢を挟んで上白滝2遺跡(平成12年度報告)がある。

上白滝6遺跡は、湧別川と八号沢側の合流点から約2,000m下流、十勝石沢との合流点から約1,800m上流に位置している。調査区域は標高が425~435m、台地西側の緩斜面上で、段丘の縁から約15m奥に入った地点から南北方向120m程の細長い範囲である。台地を東西方向に横切るように調査した本線部分は平成12年度に報告されている。中央部にみられる小さな沢地形によって、比較的緩斜面である西側と傾斜が強い東側に分けられる。遺物の分布は地形に対応するように大部分が西側から出土している。今回の調査区域の地形は本線部分の北側が比較的平坦であるのに対し、南側は傾斜が強い。台地の東西とも深い沢地形が発達し、西側には上白滝5遺跡(平成13年度報告)、東側には上白滝7遺跡(平成11年度報告)が位置している。

白滝第30地点遺跡は湧別川と十勝石沢の合流点の約450m南側に位置している。調査区域は標高が427m前後、段丘の縁を20~35m奥に入った地点で、台地を東西方向に横切る細長い範囲である。遺跡の大部分は白滝村教育委員会によって調査が行われている(松谷 1987a、松村 1995、松村・瀬下 2002、松村・瀬下 2003)。三角地帯の頂点部分にあたる台地で、平坦な面が大きく広がり、北東側には細長い舌状の張り出し部分が発達している。台地の西側には深い沢地形が発達し、沢を挟んで北支湧別4遺跡(平成12年度報告)があり、西側は標高380m前後の支湧別面が広がっている。

(直江康雄)

### 3 基本土層

調査した遺跡は、すべて湧別川の右岸段丘上に立地し、地表面より1m前後の表層(I~III層)については同様な土層の堆積状況がみられた。したがって、各遺跡においては層厚などに若干の相違がみられるが、基本的に以下のような層名に統一して記述した。なお、IV層以下は各段丘面によって異なり、さらに同一段丘面の遺跡においても多少の違いがみられる。

第I層：表土・耕作土層 厚さは10cm前後、クマ笹や木根を含んだ黒色の腐食土層及び、現代の耕作によって攪乱された表層である。

第II a層：褐色粘質土層 厚さは30~50cm、しまり、粘性とも弱い、下部にいくにしたがい強まる。黄褐色の軽石、石質岩片、マンガン粒を少量含む。調査したすべての遺跡で観察され、遺物の大部分がこの層から出土することから本来の遺物包含層であると考えられる。なお、II a層に含有される少量の石質岩片や軽石は、II c層に含まれているものと類似している。

第II b層：灰白色~青灰色粘質土層 厚さは5cm前後、しまりが少しあり、粘性が強い。含有物はII a層と同様軽石、石質岩片、マンガン粒を少量含む。遺跡群すべてで観察されるわけではなく、所々で観察される。含有物が同様で、灰白色をしていることから、II a層が還元化された層と考えられる。またこの土は、III層の中程まで入ったクラックの中にもみられ、平面形は径1m前後の編み目模様を呈し、周縁に酸化鉄が沈着している。

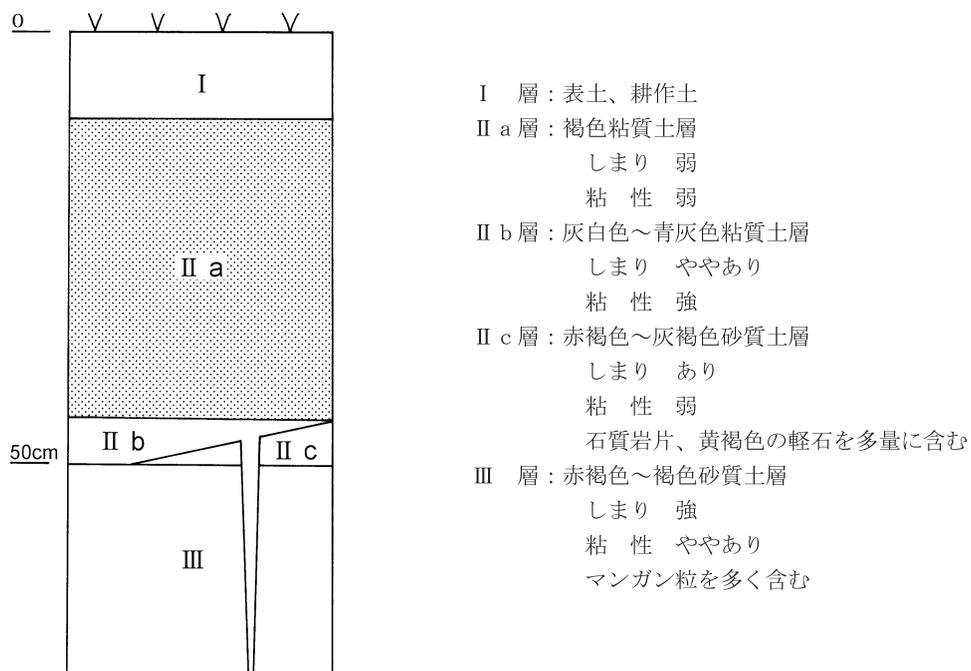
第II c層：赤褐色~灰褐色砂質土層 厚さは10cm前後、しまりがあり、粘性は弱い。この層も遺跡群すべてで観察されるわけではなく、特にII b層と上下関係をもって確認される地点は少ない。石質岩片、軽石を多量に含んでいる。この岩片と軽石は、大雪山系に位置する御鉢平カルデラ起源のテフラ(Ds-Oh)であることが確かめられている(中村・

平川 1998、1999)。テフラ層直上で検出された炭化木片の放射性炭素年代は、約3万年前であった。

第Ⅲ層：赤褐色～褐色砂質土層 厚さは50～100cm、しまりが強く、粘性は少しある。マンガング粒を多量に含んでいる。その他に石質岩片、軽石も少量含まれる。Ⅲ層以下からは遺物は全く出土しない。Ⅲ層は、周水河現象を受けて、上面がうねっている地点が多い。平面形でみると皿状の窪みになっており、そこにⅡb層やⅡc層が厚く堆積している状況が多くみられた。

Ⅳ層以下については各段丘面により異なる。調査した遺跡のほとんどが立地する上白滝面では、基本的にしまりの強いローム質の土層が続き、砂層と粘土層の互層となり、段丘礫層に達する。これら基本的な層序の中に各遺跡、各地点において様々な土層がみられる。上白滝8・上白滝7遺跡などでは、斜面堆積物であるマトリックスの多い礫層がⅢ層の下に約1mみられる。服部台2遺跡、奥白滝1遺跡の北側地点では、古土壌と呼ばれる赤褐色の層が確認され、その直下に推定降下年代が15～20万年前のトエトコ火山灰がみられ、段丘礫層へと続く。トエトコ火山灰は、普通角閃石を豊富に含み、指で土層を掻き採ると、針状の黑色鉱物がべつとりと残るのが特徴である。上白滝2遺跡では、段丘礫層直上の粘土と砂の互層が他の遺跡より厚く1mほど堆積している。また、Ⅲ層以下には周水河作用により、土層が波状に変形している地点も多くみられた。上白滝面より上位の天狗平面上に立地する北支湧別4遺跡では、Ⅲ層直下にトエトコ火山灰がみられ、その下層の厚く堆積した灰白色粘土層の中にSit 6テフラ(中村・平川 1998、1999)があり、段丘礫層へと続いている。上白滝面より下位の東白滝面上に立地する白滝8・白滝18・白滝3遺跡では、段丘礫層がⅢ層の直下にある。特に湧別川に面した段丘の縁部分は、Ⅱa層下部およびⅡb層中に粘土層や砂礫層が互層となっている地点が確認され、粘土・砂礫層中からも多くの遺物が出土している。

湧別川と支湧別川に挟まれた三角地帯内の段丘面の基盤となっているのは、白滝層と呼ばれる火砕流堆積物で、地域内の広い範囲で見られるが、地点によって凝灰質砂層、溶結凝灰岩層、砂質粘土層、湖成堆積層などと様相が異なる。(直江康雄)



図Ⅱ-4 基本土層図

## 4 黒曜石の原石山・赤石山

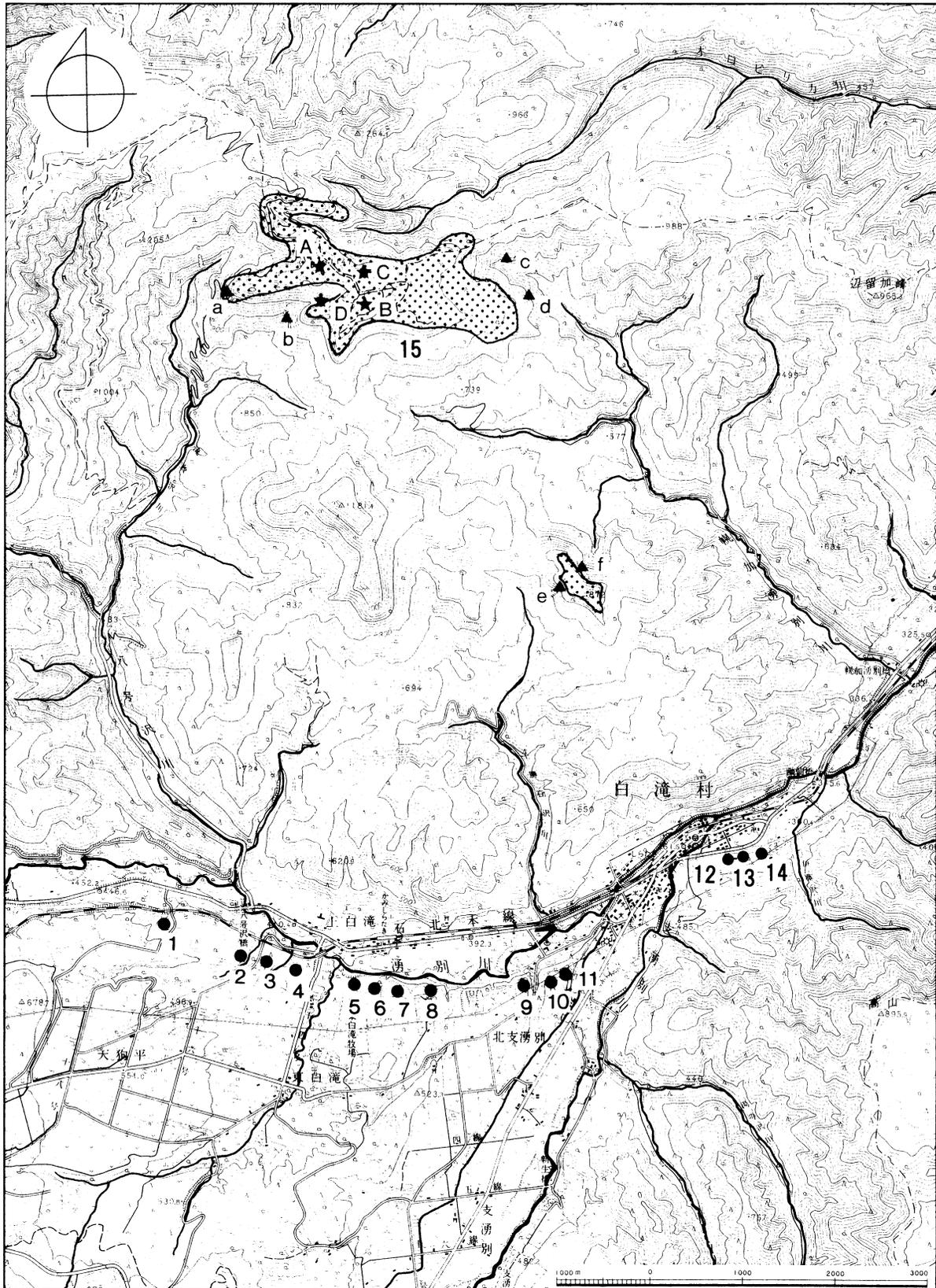
黒曜石は黒曜岩とも呼ばれ、『新版地学辞典』（地学団体研究会 1996）によれば、「ガラス光沢を有する流紋岩～デイサイト質のガラス質火山岩。黒曜石とも。色は通常暗黒または灰黒。貝殻状断口を示す。比重は2.339～2.527。水分に乏しい（ $\text{H}_2\text{O}$ （±）<1%）ことと比重が大きいことでピッチストーンと区別される。ときに少量の班晶を含む。石基には晶子を含む。しばしば点紋・縞状・球顆構造を呈し、また気泡を含むことがある。通常、溶岩または火山放出物として産し、日本では北海道十勝・長野県和田峠などのものが有名。Obsidianは火山ガラスに対する古代からの名称。石器時代に石器の材料として珍重」とある。黒曜石は、考古学的には極めて重要な石材であるが、岩石学的には火山岩の一種で、成因、構造なども比較的単純な関係から研究文献は多くない。むしろ考古学と関連した産地推定や年代測定の研究の方が多くある状況である。

わが国のガラス質火山岩の初期の分析（遠藤 1929、神津 1930）で取り上げられたのは十勝産の黒曜石で、白滝産のものが分析対象となるのは昭和13年の津中の紹介（津中 1938）以後で、昭和25年の河野による『本邦玻璃質岩石の研究』（河野 1950）で、岩石学的な分析と全国の他の黒曜石との対比が行われている。

白滝産の黒曜石は、河野の分析によれば、斑晶鉱物として斜長石、磁鉄鉱を含み、比重は2.352、屈折率は1.4856、化学成分では $\text{SiO}_2$ が74.41%である。

赤石山は、白滝村市街の北々西6.5m、標高は1,147m（古い地図では1,154m）、現在は国道333号より八号沢川に沿った八号沢林道を3.5km程入り、さらに流紋沢川に沿った赤石林道を上り、山頂部へ行くことができる。途中の林道では標高950m付近から黒曜石が散布し、標高1,000mを越えると一面に黒曜石がみられる部分が数か所みられる。また、標高1,000m付近の林道右手には有名な、通称八号沢の露頭（図Ⅱ-5のa）がある。この露頭は、黒曜石が流紋岩質凝灰岩にパッチ状にみられ、灰白色球顆や縞状構造が多いが、ガラス光沢があり、良質である。また、叩くと金属音がするので、硬質とみられる。山頂部の平坦面では、ピークの標高1,147m周辺に黒色を主体とする黒曜石の散布地帯（図Ⅱ-5のA）があり、さらにピークを下り削平された林道の終点付近では、紅色、茶色、紫がかかった茶色など俗に花十勝といわれる黒曜石が一面にみられる（図Ⅱ-5のB）。ここは、昭和31・32年ごろから観賞・装飾品加工用の原石採掘が行われたところである。また、黒色の散布地帯とこの採掘跡の中間部には茶色の黒曜石が集中する部分もある（図Ⅱ-5のC）。さらに赤・茶色の混じった黒曜石は、採掘跡手前の流紋岩球顆の指定地（図Ⅱ-5のD）のある急な沢（仮称球顆の沢）でも多量にみられる。山頂部や球顆の沢では、原石に混じって粗い両面調整石器や石核や剥片などがみられ、一部は紹介されている（宗像 1999）が、時期の決め手はない。球顆の沢は、小規模な露頭がいくつかあるが、標高900m付近の柱状節理の発達した露頭（図Ⅱ-5のb）は大規模なもので、その下から下流で採取できる角柱状の原石は、球顆がみられるものの良質で、石器の素材としては極めて良好である。おそらく、旧石器時代においてもこの沢は原石採取の主要な地点であったと考えられ、標高700m付近のわずかな平坦部などでは、剥片類が散布する地点が多数ある。また、赤石林道入り口から1 km程入った78林班林道のカッティングでは、梨肌の黒曜石原石を採取することができる。後に説明する黒曜の沢より上流の湧別川で採取される梨肌原石は、この78林班林道周辺に由来する可能性があり、藁科氏の産地分析での原産地「八号沢」は、78林班林道採取原石の分析値である。

白滝村市街へ入る手前の十勝沢は別名、黒曜の沢、澱粉沢と呼ばれ、沢入り口の礫層中や砂防ダム付近では大小の多量の黒曜石原石が採取できるが、そのほとんどが細かい気泡が多くガラス光沢の鈍



1 : 奥白滝11 2 : 服部台2 3 : 奥白滝1 4 : 上白滝8 5 : 上白滝2 6 : 上白滝5 7 : 上白滝6 8 : 上白滝7  
 9 : 北支湧別4 10 : 白滝第4地点 11 : 白滝第30地点 12 : 白滝8 13 : 白滝18 14 : 白滝3 15 : 赤石山 A : 黒  
 B : 赤 (採掘跡) C : 茶 D : 流紋岩球類 a : 八号沢の露頭 b : 球類の沢・柱状露頭 c : 幌加沢の露頭  
 d : あじさいの滝 e : 十勝石沢の露頭 f : 白土の沢露頭

図Ⅱ-5 調査遺跡・黒曜石露頭位置図

い俗称「梨肌」のものである。沢を溯った上流部左岸の露頭（図Ⅱ－5のe）は、後述する幌加沢白土の沢（図Ⅱ－5のf）の反対側になり、山頂部に数mの厚さで、凝灰岩、流紋岩の上部に堆積している。また、この露頭の下位の溶結凝灰岩中には、玻璃光沢の強い黒曜石もある（白滝団体研究会1963）とされ、沢の所々では玻璃光沢の黒曜石もわずかであるが採取できるので、その供給源となる露頭や土層が存在すると考えられるが、詳細は不明である。

白滝村市街の北東2mにある幌加湧別川の流れる幌加沢は、北西方向に延び、入り口から直線距離で6km程で、赤石山の山頂にいたる。上流部や支流の蜂の巣沢川でも、黒色や茶色の混じった良質の黒曜石原石が採取できる。蜂の巣沢の最上流部付近では、名前の由来となった俗称「蜂の巣石」と呼ばれる蜂の巣のような窪みが多数みられる黒曜石がみられるほか、標高800mの通称幌加沢の露頭（図Ⅱ－5のd）や林道終点に近い通称あじさいの滝（図Ⅱ－5のc）などいくつもの露頭がある。最近確認できた地域では、幌加沢遠間地点遺跡脇の「左ノ沢」があり、石器製作に適した手ごろの大きさの良質の原石が採取できる。この「左ノ沢」は前述の幌加沢の露頭やあじさいの滝につながる赤石山山頂から南東に延びる尾根筋にあり、この一帯が幌加沢の主要な黒曜石原石の分布地帯である可能性がある。また、沢入り口より幌加湧別川を3km程溯った左手にある白土の沢の露頭（図Ⅱ－5のf）は、十勝石沢の露頭（図Ⅱ－5のe）の反対側で、一体では「梨肌」の黒曜石が採取できる。山頂部や球類の沢同様に幌加沢においても露頭やその周辺で、人為的な石器類が採取できる地点が多数あるが、幌加沢遠間地点遺跡などのように特徴的な遺物が多数みられる場所以外は、年代の決定が難しい。

おそらく赤石山へつながる八号沢、十勝石沢、幌加沢の3本の大きな沢および湧別川本流は、旧石器時代以来黒曜石原石の主要な採取地で、先に説明したように採取できる原石にも違いがあったと考えられる。その状況は、アイヌ語地名としても確認できる。山田秀三によれば、黒曜石はアイヌ語で「アンチ (anchi)」あるいは「アンジ (anji)」で、明治31年5万分の1地形図では、八号沢川のところに「シュマフレユーペツ」、十勝石沢のところに「アンシュオユーペツ」という地名が見られるという。そして「シュマフレユーペツ」はシュマ・フレ・ユーペツ Shuma-hure-yupet 「石が・赤い・湧別川 (の支流)」、 「アンシュオユーペツ」はアンジ・オ・ユーペツ Anji-o-yupet 「黒曜石・が多い・湧別川」と考えられる、という（山田 1977）。現在でも赤や茶色の黒曜石は八号沢・流紋沢川が主体であり、十勝石沢は梨肌の原石であるが、その量は膨大である。また、山田によれば、石ころなどがごろごろある状態をいうのには「オ」を使うのがアイヌ語の通例だという。現在でも十勝石沢の砂防ダムでみられる、一面に黒曜石の大小の原石が敷き詰めたようにある状況と符合する。

赤石山を中心とした八号沢・流紋沢、十勝石沢、幌加・蜂の巣沢の一帯は、深い森林地帯（国有林）で、多くの黒曜石の露頭や良質の原石が採取できる地点が多数あるが、その実態は不明である。また、それらの地点と関連して遺物が散布する地点も多数あるが、その内容や時代などの把握も困難な状況である。地形・地質などの把握を含めた総合的な分布調査が必要であり、村教委でも資料収集に努めているところで、今後は次第の明らかになっていくものと考えられる。（長沼 孝）

## Ⅲ 奥白滝11遺跡の調査

### 1 調査の概要

#### (1) 調査要項

事業名 一般国道450号白滝丸瀬布道路工事に伴う埋蔵文化財発掘調査（平成14年度）  
 委託者 国土交通省北海道開発局網走開発建設部  
 受託者 財団法人北海道埋蔵文化財センター  
 遺跡名 奥白滝11遺跡（I-20-65）  
 所在地 紋別郡白滝村字上白滝62-2  
 調査面積 505㎡  
 調査期間 平成11年4月1日～平成12年3月31日（現地調査平成11年5月6日～10月25日）  
 平成12年4月3日～平成13年3月30日（整理作業のみ）  
 平成13年4月2日～平成14年3月29日（整理作業のみ）  
 平成14年4月1日～平成15年3月31日（整理作業のみ）

#### (2) 調査体制

財団法人北海道埋蔵文化財センター 理事長 大澤 満（平成14年6月30日まで）  
 森重楯一（平成14年7月1日から）

専務理事 佐藤哲人（平成11年5月31日まで） 常務理事 柴田忠昭（平成11年3月31日まで）  
 宮崎 勝（平成11年6月1日から） 木村尚俊（平成13年7月17日まで）  
 畑 宏明（平成14年6月1日から）

総務部長 中田 仁（平成13年3月31日まで） 第1調査部長 畑 宏明（平成11年8月15日まで）  
 柳瀬茂樹（平成14年3月31日まで） 木村尚俊（平成13年7月17日まで）  
 下村一久（平成14年4月1日から） （兼務）  
 大沼忠春（平成14年3月31日まで）  
 （兼務）  
 畑 宏明（平成14年4月1日から）  
 （兼務）

平成11年度 第1調査部第3調査課 課長 長沼 孝（発掘担当者）  
 同 主任 越田雅司（発掘担当者）  
 同 主任 鈴木宏行  
 同 文化財保護主事 坂本尚史  
 同 文化財保護主事 佐藤 剛  
 同 文化財保護主事 直江康雄（発掘担当者）  
 同 文化財保護主事 福井淳一

平成12年度 第1調査部第3調査課 課長 長沼 孝

## 1 調査の概要

	同	主任	越田雅司
	同	主任	鈴木宏行
	同	文化財保護主事	直江康雄
平成13年度	第1調査部第3調査課	課長	長沼 孝
	同	主任	鈴木宏行
	同	文化財保護主事	直江康雄
平成14年度	第1調査部第3調査課	課長	長沼 孝
	同	主任	鈴木宏行
	同	主任	立田 理
	同	文化財保護主事	直江康雄

### (3) 調査日誌抄

平成11年	5月20日(木)	包含層調査、N14区両面調整石器、M12区北壁土層断面実測。
5月6日(木)	調査員白滝入り。	
5月7日(金)	現場開始準備・環境整備ほか。	5月26日(水) 包含層調査、H15区削器出土。
5月10日(月)	現場開所式。 (服部台2遺跡の調査)	5月27日(木) 包含層調査終了。 調査面積505㎡、点取り遺物データ1,117点。 (服部台2遺跡の調査)
5月17日(月)	表土除去。	
5月18日(火)	杭打ち・測量。	6月4日(金) 平成11年度の調査終了、調査員引き上げ。
5月19日(水)	包含層調査開始、N11区細石刃出土。	

### (4) 発掘区の設定

発掘区はアルファベットの大文字と数字の組み合わせで表示し、規格は4×4mとした。調査区の設定基準は、工事測定のIPNo. 6とIPNo. 7を基準点とし、その2点を通る直線を南西-北東方向の基線とし、北西-南東方向はIPNo. 7の基準点を通り、南西-北東方向の基線に直交する直線とした。

ラインの設定は、南西-北東方向をアルファベットの大文字とし、基線をMに設定後、南東側にN、O、P、Q、北西側は逆にL、Kとした。北西-南東方向は数字で、IPNo. 7を通る基線を5とし、北東側6、7、8、・・・とした。調査区域は、アルファベットラインでは、L~O、数字ラインでは5~20の範囲で、基準点の測量成果は下記のとおりである。

IPNo. 6                    X = -13419.200      Y = 69878.500

IPNo. 7 (M5)          X = -13466.248      Y = 69839.225

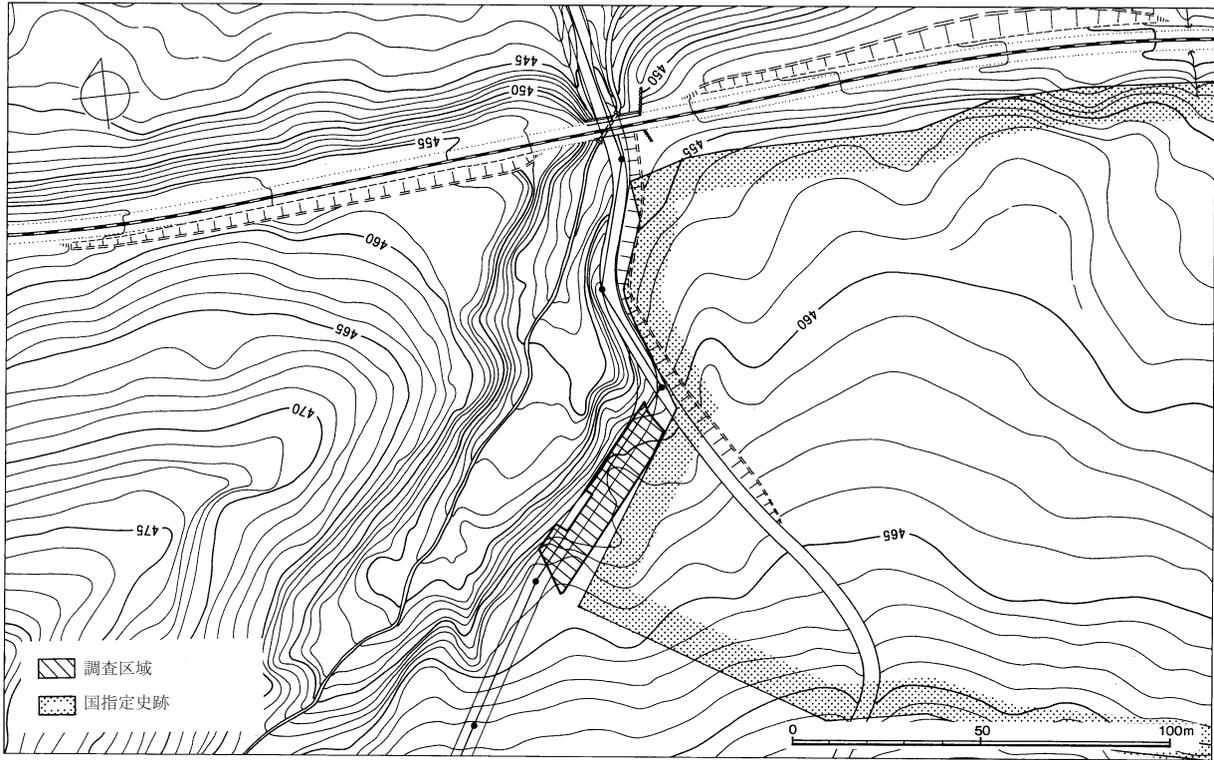
(平面直角座標系 第XⅡ系)

発掘区の呼称は、4m四方区画の西隅のライン交点で示した。例えば、Nラインと12ラインの交点の東側がN12区ということになる。また、発掘区の方法は、公共座標の北方向に対して東側に309°50′52″傾いている。

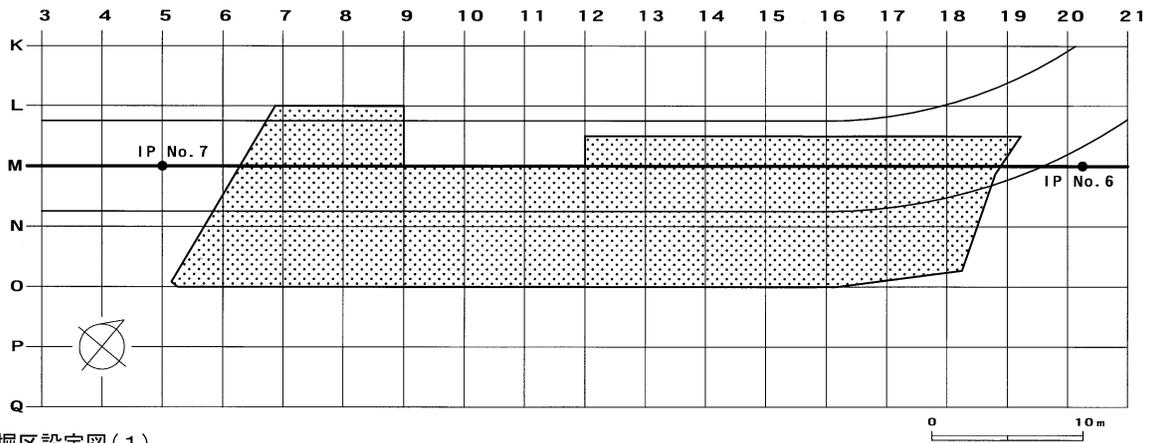
(長沼 孝)

### (5) 土層

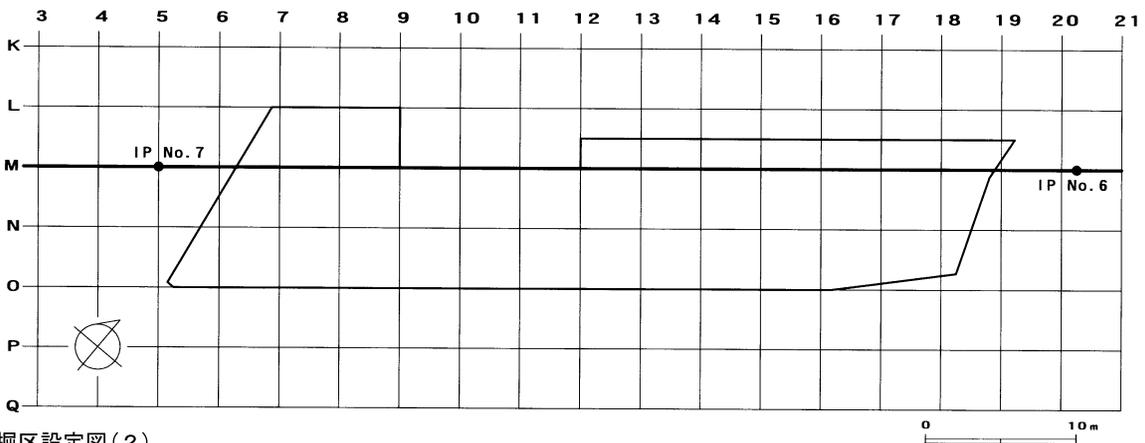
奥白滝11遺跡の土層堆積状況は、Ⅱ章で記載した基本土層とほぼ同様で、上からⅠ層(表土)、Ⅱa層(褐色粘質土)、Ⅱc層(赤褐色~灰褐色砂質土)、Ⅲ層(赤褐色~褐色砂質土)の順に堆積しているが、Ⅱb層(灰白色粘質土)は見られなかった。遺物包含層であるⅡa層は、遺跡内のほとんどの地点で連続的に確認された。



調査範囲・周辺の地形図



発掘区設定図(1)



発掘区設定図(2)

図Ⅲ-1 調査範囲・発掘設計図

## 1 調査の概要

調査区域は工事路線変更で国指定史跡となった遺跡本体の西端に位置し、南西から北東に延びる小沢に面している。地形は全体的に南から北に緩やかに傾斜しているが、中央から西側に小さな沢があり、その東側は狭い舌状地形になっている。図Ⅲ-2ではNラインの南西-北東方向の地形断面と13ラインの北西-南東方向の土層断面を示した。

### 13ライン

笹根を含むI層（表土）下に遺物包含層であるII a層が20cm程度の厚さであり、その下は砂質のII c層になっているが、部分的に黄灰色の粘質土がみられる。基本的にII c層、黄灰色粘質土の下はIII層と考えられるが、南東端で確認できただけである。（長沼 孝）

## （6）調査の方法

調査は高規格道路建設に伴う村道の付替え工事に先立つもので、区域も幅12m、長さ56m程度の狭い範囲である。また、調査区外に排土場所の確保が困難な状況から、通常の25%調査は行わず、重機による表土除去を行った後、杭打ち、測量、包含層調査、測量という手順で調査を進めた。

包含層調査は、まず小沢両側の高まり部分のM・N 6区とM・N11~17区から始めた。その結果、M・N 6区では遺物が全く出土せず、調査区内での遺物の分布はM・N11~17区の高まり部分であると判明したので、M・N 7~10区については重機で調査し、終了と同時に測量を行い、排土場所とした。また、調査区の北西縁は沢に面した部分で、作業の安全や土の流出防止のためのクリアランスを確保して調査を行ったが、遺物の広がりはないとみられる。

遺物の取り上げは、他の遺跡と同様に、I層（表土および耕作土）については発掘区単位で一括して取り上げ、遺物包含層であるII層については、出土位置を可能な限り計測した。しかし、II層の遺物でも指先より小さい剥片類については、発掘区単位で一括して取り上げた。出土位置の記録はトータル・ステーションを使用し、さらに遺構・遺物データシステム（シン技術コンサルタント）にデータを蓄積すると同時に毎日遺物一覧表とドットマップ（分布図）を作成し、データのチェックと遺物の分布状況を把握しながら調査を進めた。現場終了時の奥白滝11遺跡のデータ数は1,117件である。

（長沼 孝）

## （7）整理の方法

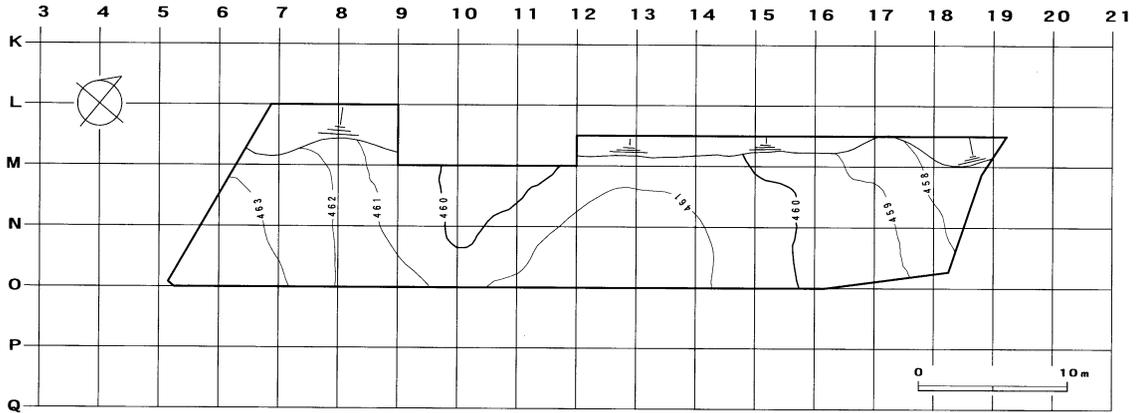
遺物の水洗作業は、基本的に現地で行った。その後、札幌の整理作業所に運び、注記などの整理作業を開始した。

遺物の整理作業は、他の遺跡と同様に点取り遺物と一括遺物に分けて進めた。点取り遺物は注記後に、器種分類、重量計測、石質、残存状況、打点・自然面・被熱の有無など一次の属性観察を行い、次に接合・実測などの二次整理作業を進めた。遺物の注記は、道教委の登録番号、発掘区、遺物番号の順としたので、奥白滝11遺跡、N15区出土、遺物番号30の石器の場合は「65N15・30」となる。

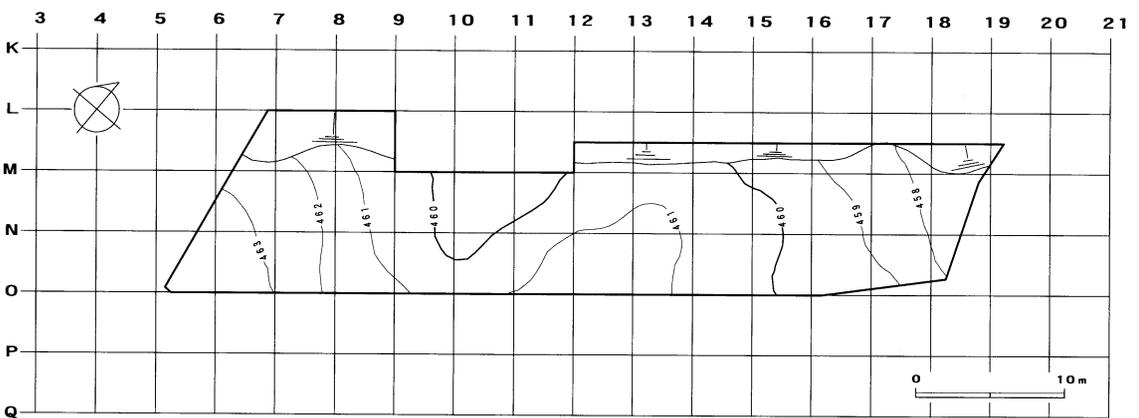
また、一括遺物は、定形的なものや点取り遺物と接合したものを抽出し、台帳を作成した。したがって、その注記は、点取り遺物と区別するため、発掘区と台帳の整理番号の間に層位を記入した。例えば、N15区、I層出土、台帳番号5の石器は、「65N15・I・5」となる。

現場で取り上げた点取り遺物は、1,117点であったが、水洗後に精査し、地山に含まれている自然礫や黒曜石の原石を除いた結果、点取り遺物は最終的に1,116点となった。

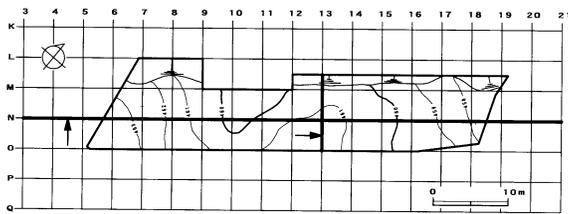
遺物の接合作業は、石質、発掘区そして全体の順に進めたが、全体量が少なく、遺物の分布が調査区域外に広がっていることなどから、あまり進展しなかった。



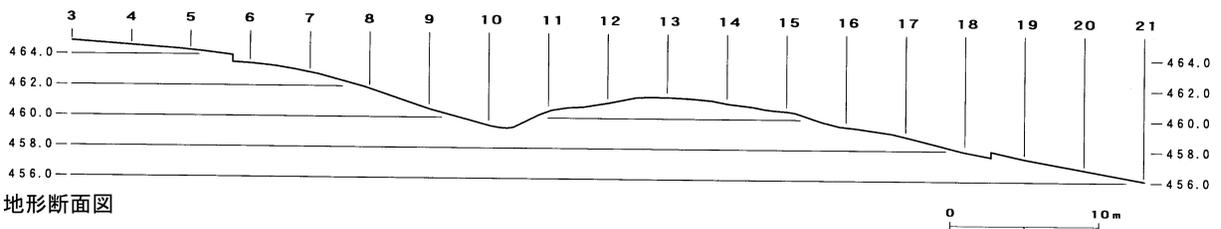
表土除去後の地形図



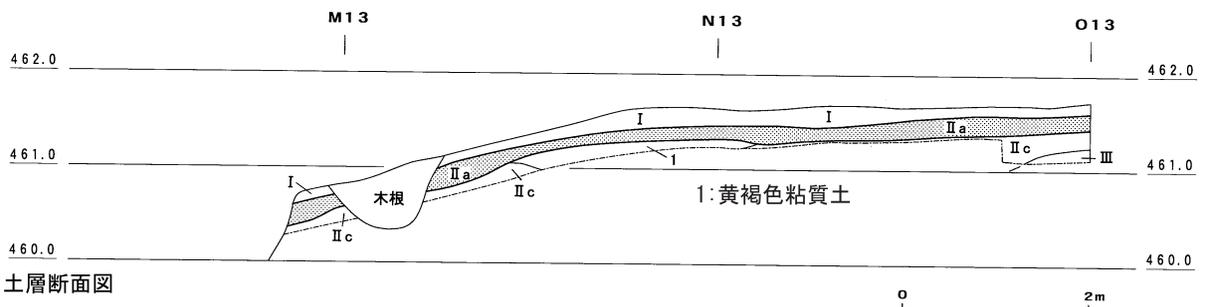
調査終了後の地形図



地形断面図

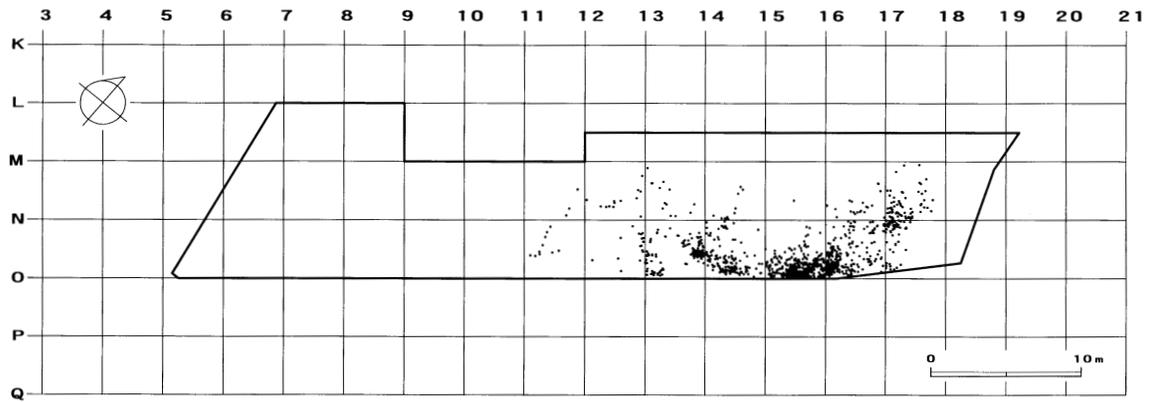


土層断面図



図Ⅲ-2 発掘区域地形・土層断面図

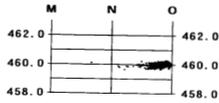
2 遺構と遺物



13ライン



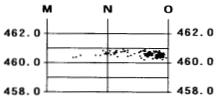
15ライン



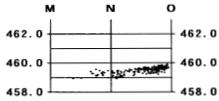
Mライン



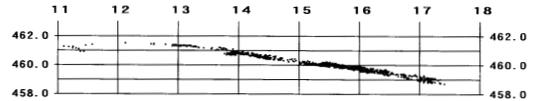
14ライン



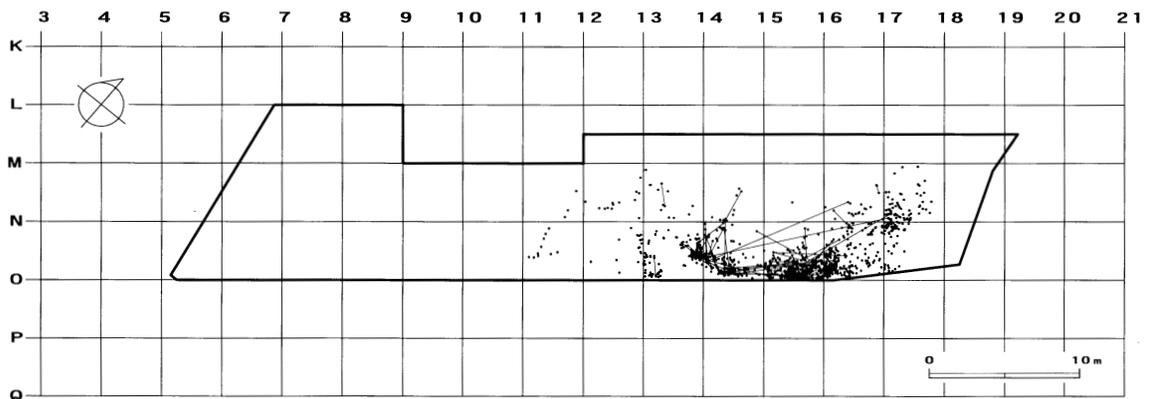
16ライン



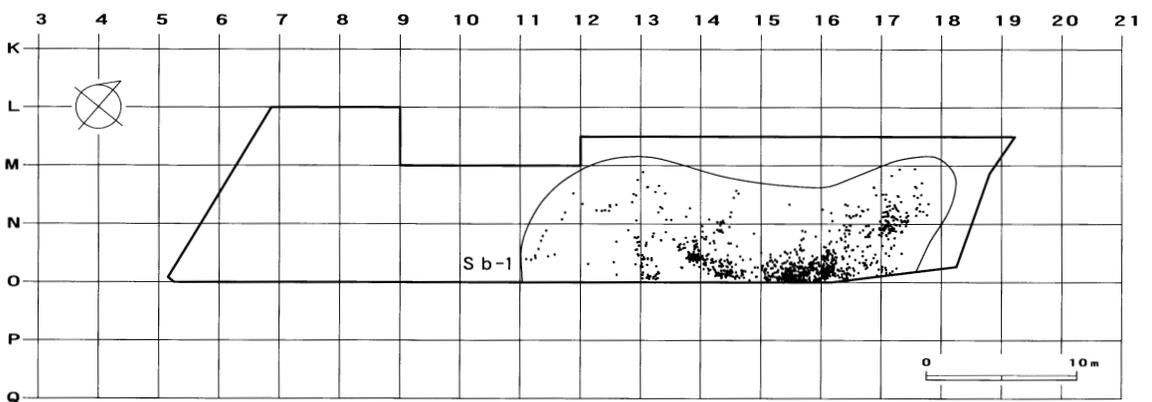
Nライン



遺物分布図



全接合分布図



石器ブロック設定図

図Ⅲ-3 遺物分布・接合分布・石器ブロック設定図

表Ⅲ-1 奥白滝11遺跡出土遺物点数・重量一覧 ※重量の単位は(g)

種類	尖頭器		両面調整石器		彫器		搔器		削器		舟底形石器		細石刃		石刃		縦長剥片		石刃核		石核		剥片		原石		合計	
	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量
点取り	1	31.0	1	130.4					1	194.3									1	378.9	1	543.8	1111	5017.9			1116	6296.3
一括	I	2	6.1										1	0.2									310	924.1			313	930.4
	II																						937	387.2			937	387.2
B 調	2	45.6	1	599.1	2	11.0	3	32.8	4	161.9	1	24.5			1	45.4	2	28.2							1	18.4	17	966.9
排土:その他			1	367.8																			11	169.6	1	4800.0	13	5337.4
合計	5	82.7	3	1097.3	2	11.0	3	32.8	5	356.2	1	24.5	1	0.2	1	45.4	2	28.2	1	378.9	1	543.8	2369	6498.8	2	4818.4	2396	13918.2

表Ⅲ-2 奥白滝11遺跡出土遺物石質別一覧 ※重量の単位は(g)

種類	石質	尖頭器		両面調整石器		彫器		搔器		削器		舟底形石器		細石刃		石刃		縦長剥片		石刃核		石核		剥片		原石		合計		
		点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	
点取り	黒曜石	1	31.0	1	130.4					1	194.3										1	378.9	1	543.8	1111	5017.9			1116	6296.3
	小計	1	31.0	1	130.4					1	194.3										1	378.9	1	543.8	1111	5017.9			1116	6296.3
一括	黒曜石	4	51.7	2	966.9	1	5.4	3	32.8	4	161.9	1	24.5	1	0.2	1	45.4	2	28.2					1258	1480.9	2	4818.4	1279	7616.3	
	珪岩					1	5.6																					1	5.6	
小計	4	51.7	2	966.9	2	11.0	3	32.8	4	161.9	1	24.5	1	0.2	1	45.4	2	28.2					1258	1480.9	2	4818.4	1280	7621.9		
合計	5	82.7	3	1097.3	2	11.0	3	32.8	5	356.2	1	24.5	1	0.2	1	45.4	2	28.2	1	378.9	1	543.8	2369	6498.8	2	4818.4	2396	13918.2		

最終的に折れ面接合は31例（50001～50031）、剥離面接合は33例（1～33）となった。接合に関わる点数は145点（折れ面接合のみ26点、剥離面接合119点）で、点取り遺物の総数1,116点に対しては13.0%、点取り及び一括遺物の総数2,396点に対しては6.1%の接合率である。遺物・接合点数が少ないので、母岩別資料の抽出は行わなかった。

最終的に実測図などを掲載した石器類は5個体、6点で、接合資料はない。分布・接合図などを示した石器ブロックは1か所である。石器類の掲載割合は、点取り及び一括遺物の総数2,396点から剥片2,369点を引いた石器27点に対して22.2%である。（長沼 孝）

### (8) 調査結果の概要

奥白滝11遺跡では、炭化木片ブロックなどの遺構は確認されなかった。遺物総数は2,396点、総重量は131,918.2g、そのうち点取り遺物は1,116点、一括ほかの遺物は1,280点で、詳細は表Ⅲ-1を参照願いたい。

出土した遺物はすべて石器類で、時期は後期旧石器時代終末頃と考えられる。器種としては尖頭器、両面調整石器、彫器、搔器、削器、舟底形石器、細石刃、石刃、縦長剥片、石刃核、石核、剥片、原石などがあるが、大部分のものは史跡に指定された旧路線内の試掘調査で出土したもので、今回の発掘区では尖頭器、両面調整石器、削器、細石刃、石刃核、石核、剥片などが出土しただけである。

石器類は調査区の東側で出土し、小さいいくつかのまとまりがみられるが、調査区域外に広がり、全体状況が不明なことから、一つの石器ブロック（Sb-1）とした。

ブロック内の表土から細石刃が出土しているが、1点のみで、この石器ブロックに伴う確証はない。したがって、この石器ブロックは尖頭器が伴う石器群とみられるが、詳細な時期は不明である。

（長沼 孝）

## 2 遺構と遺物

焼土や炭化木片ブロックなどの遺構は確認されなかった。

出土した遺物はすべて石器類で、平面的にはいくつかの小さなまとまりがみられるが、調査範囲が

表Ⅲ-3 奥白滝11遺跡出土点取り遺物ブロック・石質別一覧 ※重量の単位は(g)

ブロック	石質	尖頭器		両面調整石器		削器		石刃核		石核		剥片		合計	
		点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量
Sb-1	黒曜石1					1	194.3	1	378.9	1	543.8	826	2786.9	829	3903.9
	黒曜石2											3	37.3	3	37.3
	黒曜石3	1	31.0									75	380.6	76	411.6
	黒曜石4			1	130.4							184	1685.4	185	1815.8
	黒曜石5											23	127.7	23	127.7
合計		1	31.0	1	130.4	1	194.3	1	378.9	1	543.8	1111	5017.9	1116	6296.3

表Ⅲ-4 奥白滝11遺跡出土原礫面残存・被熱石器一覧

ブロック	遺物点数(点取り)(点)	原礫面残存石器(点,%)		被熱石器(点,%)	
Sb-1	1116	173	15.5	12	1.1
合計	1116	173	15.5	12	1.1

狭いことや南東側の調査区域外に分布が広がり、調査区域内でまとまりが完結しないことなどから、1か所の石器ブロックとした。

### (1) 遺物分布と石器ブロック

石器類は調査区域内の西側、11ラインより北東側、28×8m(14発掘区)の範囲に分布する。分布は15ラインを境に大きく二つに分けられ、南西側はやや散漫であるが、北東側はN15・16区で濃密にみられる。南西側はN13・14区に小さな集中が1か所、北東側はN15・16区とM・N17区に集中がみられるが、N15区が最も濃密な遺物分布区域である。

### (2) 石器ブロック1(Sb-1)の石器

#### 出土石器

尖頭器1点、両面調整石器1点、削器1点、石刃核1点、石核1点、剥片1,111点、総計1,116点、重量6,296.3gの石器類が出土した。石材はすべて黒曜石で、黒曜石1は826点(74.3%)と最も多く、黒曜石4の184点(16.5%)、黒曜石3の75点(6.7%)、黒曜石5の23点(2.1%)、黒曜石2の3点(0.3%)と続く。また、被熱しているものは12点(1.1%)と非常に少なく、原礫面が残存しているのものも173点(15.5%)と少ない。

#### 細石刃(図Ⅲ-4-1、図版4-1)

中間部の破片である。両側および2本の稜はほぼ平行で、横断面は台形である。打点側の折れは背面側の小球類から広がっている。全体的に灰色で、やや光沢を失っているため、被熱しているものと考えられる。

#### 両面調整石器(図Ⅲ-4-2、図版4-2)

加工初期段階の破片である。横断面が台形に近い柱状の梨肌の黒曜石2の原石の両面に粗い加工がみられる。右側裏面の大きな剥離面に接合する剥片があるが、その状態は図示していない。

#### 削器(図Ⅲ-4-3、図版4-3)

背面に原礫面がみられる、やや湾曲した縦長剥片の両側縁に粗い加工が施されている。全体的に稜が磨耗し、剥離面も光沢が鈍い梨肌の黒曜石2である。

#### 石核(図Ⅲ-4-4・5、図版4-4・5)

4は両面で剥片剥離が行われている石核で、素材の原石は稜が若干潰れている角礫とみられる。上部右側の剥離後に行われた打面形成の際に縁が潰れ、遺棄されたと考えられる。5は単剥離打面の石

核で、打面と正面の作業面の角度が90度に近くなり、さらに径1.5cmの球顆が現れたため遺棄されたと考えられる。原石は稜が潰れた楕円形に近い亜角礫とみられる。

#### 石器ブロック1 (Sb-1) の分布 (図Ⅲ-5)

M11~17区、N11~17区の28×8mの範囲で確認され、分布は15ラインを境に南西と北東の二つに大きく分かれるが、N15・16区が最も濃密な遺物分布を示している。図示した石器類もN14~16区に分布している。

#### 石器ブロック1 (Sb-1) の接合状況 (図Ⅲ-6)

N13・14区とN15区の二つの小ブロック内での接合関係が多いが、その両者間での接合、さらにそれらと少し距離のあるM16・17区との接合もみられる。 (長沼 孝)

## IV 上白滝 8 遺跡の調査（東地区）

### 1 調査の概要

#### （1）調査要項

事業名	一般国道450号白滝丸瀬布道路工事に伴う埋蔵文化財発掘調査（平成14年度）
委託者	国土交通省北海道開発局網走開発建設部
受託者	財団法人北海道埋蔵文化財センター
遺跡名	上白滝 8 遺跡（I-20-91）
所在地	紋別郡白滝村字上白滝179-1,181-2,181-3,181-4,182-2,182-3
調査面積	17,849㎡（平成7年度：6,600㎡、平成8年度：10,212㎡、平成9年度：320㎡、平成10年度：56㎡、平成12年度：661㎡）
調査期間	平成7年4月17日～平成8年3月25日（現地調査平成7年5月8日～10月25日） 平成8年4月11日～平成9年3月31日（現地調査平成8年5月8日～10月30日） 平成9年4月11日～平成10年3月31日（現地調査平成9年5月6日～10月25日） 平成10年4月10日～平成11年3月31日（現地調査平成10年5月6日～10月24日） 平成11年4月1日～平成12年3月31日（整理作業のみ） 平成12年4月3日～平成13年3月30日（現地調査平成12年5月8日～10月27日） 平成13年4月2日～平成14年3月29日（整理作業のみ） 平成14年4月1日～平成15年3月31日（整理作業のみ）

#### （2）調査体制

財団法人北海道埋蔵文化財センター	理事長	伊藤一夫（平成10年5月31日まで） 大澤 満（平成14年6月30日まで） 森重楯一（平成14年7月1日から）
専務理事	佐藤哲人（平成11年5月31日まで） 宮崎 勝（平成11年6月1日から）	常務理事 柴田忠昭（平成11年3月31日まで） 木村尚俊（平成13年7月17日まで） 畑 宏明（平成14年6月1日から）
業務部長	山内 清（平成9年3月31日まで） 北條雅洋（平成10年3月31日まで）	第1調査部長 畑 宏明（平成11年8月15日まで） 木村尚俊（平成13年7月17日まで）
総務部長	中田 仁（平成13年3月31日まで） 柳瀬茂樹（平成14年3月31日まで） 下村一久（平成14年4月1日から）	（兼務） 大沼忠春（平成14年3月31日まで） （兼務） 畑 宏明（平成14年4月1日から） （兼務）
平成7年度	第1調査部第3調査課 課長	長沼 孝（発掘担当者） 同 文化財保護主事 宗像公司（発掘担当者）

1 調査の概要

平成8年度	第1調査部第3調査課 課長	長沼 孝 (発掘担当者)
	同 文化財保護主事	藤井 浩 (発掘担当者)
	同 文化財保護主事	宗像公司 (発掘担当者)
	同 文化財保護主事	坂本尚史
	同 文化財保護主事	鈴木宏行
平成9年度	第1調査部第3調査課 課長	長沼 孝 (発掘担当者)
	同 主任	越田雅司 (発掘担当者)
	同 文化財保護主事	宗像公司 (発掘担当者)
	同 文化財保護主事	坂本尚史
	同 文化財保護主事	鈴木宏行
平成10年度	第1調査部第3調査課 課長	長沼 孝 (発掘担当者)
	同 主任	越田雅司 (発掘担当者)
	同 文化財保護主事	宗像公司 (発掘担当者)
	同 文化財保護主事	坂本尚史
	同 文化財保護主事	鈴木宏行
平成11年度	第1調査部第3調査課 課長	長沼 孝
	同 主任	越田雅司
	同 主任	鈴木宏行
	同 文化財保護主事	坂本尚史
	同 文化財保護主事	佐藤 剛
平成12年度	第1調査部第3調査課 課長	長沼 孝 (発掘担当者)
	同 主任	越田雅司 (発掘担当者)
	同 主任	鈴木宏行 (発掘担当者)
	同 文化財保護主事	直江康雄 (発掘担当者)
	同 文化財保護主事	福井淳一
平成13年度	第1調査部第3調査課 課長	長沼 孝
	同 主任	鈴木宏行
	同 文化財保護主事	直江康雄
平成14年度	第1調査部第3調査課 課長	長沼 孝
	同 主任	鈴木宏行
	同 主任	立田 理
同 文化財保護主事	直江康雄	

(3) 調査日誌抄

平成7年度		(低位部) 表土除去開始。
5月8日(月)	調査員白滝入り。	13日(土) 東地区表土除去、杭打ち開始。
9日(火)	～11日(木) 現場開始準備、環境整備、調査区域伐採木処理ほか。	15日(月) 東地区表土除去、杭打ち。
12日(金)	現場開所式、雇用・作業説明ほか。東地区	17日(水) 西地区(高位部) 60～67・M～Rライン表土除去開始、杭打ち開始。

18日 (木)	東地区包含層調査開始。西地区60~65・I~Mライン、65ライン以東(斜面部)表土除去、杭打ち。		
20日 (土)	東地区包含層調査終了。道路隣接部にのみ包含層残存、他は重機による確認調査とする。	18日 (火)	包含層調査、J63区(表土)大型両面調整石器出土。点取り遺物20,000点を超える。北海道新聞速報支局取材。
22日 (月)	西地区(以下省略)25%調査開始。東地区確認調査トレンチ掘開。	20日 (木)	包含層調査、N62・P60・P61区尖頭器出土、小清水町教育委員会藤田光一氏来訪。
23日 (火)	25%調査、遺物取り上げ(トータルステーション)開始、東地区確認調査終了。	24日 (月)	包含層調査、M65区めのう製錐形石器、P60区搔器・舟底形石器、P61区安山岩製粗製両面調整石器出土。遠軽町郷土資料館長本吉春雄氏来訪。
29日 (月)	25%調査、M25区Cb-1確認、O62区頁岩製尖頭器片出土。斜面部調査開始(重機による掘り上げ後、人力による遺物採取)。	26日 (水)	包含層調査、M65区尖頭器出土。
6月1日 (木)	25%調査、M-65~66区業者による土質ボーリング。	27日 (木)	包含層調査、J63区石核、J64区細石刃核、P61区尖頭器(粗製)出土。北西部(S P60,910~60,940)追加調査区域幅30m表土除去。
2日 (金)	25%調査、K62区有舌尖頭器出土。	28日 (金)	包含層調査、J65区めのう製搔器、N60区大型縦長剥片(26×11cm)、N64区尖頭器出土。追加調査区表土除去。
3日 (土)	25%調査、K74区頁岩製石刃(樽岸タイプか)、細石刃核(楔形)出土。	31日 (月)	雨天のため現場作業中止、終日遺物水洗ほか。岩宿文化資料館松沢生氏現地指導、北海道大学林謙作氏来訪。
6日 (火)	25%調査、斜面部調査、Cb-1実測、半割作業。	8月2日 (水)	包含層調査、松沢氏石器製作について実演・講演(午後)。
7日 (水)	25%調査、斜面部調査、I60区彫器、M62区頁岩製彫器出土。	4日 (金)	包含層調査、N63区出土梨肌尖頭器がすでに出土していたN・O62区尖頭器と接合、大きさは長さ28cm、幅12cm。
9日 (金)	25%調査、斜面部調査、O64区峠下型細石刃核、Q60区尖頭器・尖頭器調整剥片出土。	7日 (月)	包含層調査、J60・61区搔器、P60区尖頭器、P61区石刃・石核・打面再生剥片ほか出土。
13日 (火)	25%調査、包含層調査開始、斜面部調査、K62区削片・細石刃、Q62区尖頭器破損品出土。	10日 (木)	包含層調査、表土(ボサ)遺物採取、J64区舟底形石器・細石刃、L62区尖頭器出土。
16日 (金)	降雨のため現場作業は午前中のみ、午後は遺物水洗。25%・包含層調査、斜面部調査、仙台市教育委員会斎野裕彦氏来訪。	11日 (金)	包含層調査、L61区両面調整石器、L63区棒状原石・頁岩製搔器出土。
17日 (土)	25%・包含層調査、K66区搔器・頁岩製大型石刃出土。	12日 (土)	発掘器材・遺物水洗、盆休み現場閉鎖準備。
19日 (月)	25%・包含層調査、斜面部調査、帯広百年記念館北沢実、山原敏郎氏ほか来訪。	14日 (月)~19日 (土)	現場閉鎖。
20日 (火)	25%・包含層調査、斜面部調査、K63区大型尖頭器未製品(長さ22cm)、K64区大型尖頭器出土。	21日 (月)	雨天のため現場作業中止、終日遺物水洗・集計ほか。
22日 (木)	25%・包含層調査、斜面部調査。	22日 (火)	包含層調査、追加調査区域(54発掘区、864㎡)に着手。
23日 (金)	・24日(土) 現場休み。調査員の出張形態の関係で、1週目の土曜日は稼働し、翌週の金・土曜日は休み、10月までこの繰り返し。	24日 (木)	包含層調査、表土(ボサ)遺物採取、P60区尖頭器出土。
26日 (月)	降雨のため現場作業は午前中のみ、午後は遺物水洗。25%・包含層調査、斜面部調査。	29日 (火)	包含層調査、表土(ボサ)遺物採取、I57区舟底形石器、J65区彫器出土。
28日 (水)	25%・包含層調査、斜面部調査、H62区(表土)安山岩製石斧未製品、K67区搔器・樽岸タイプ頁岩製石刃、M63・P62区尖頭器出土。	30日 (水)	包含層調査、表土(ボサ)遺物採取、I58区頁岩製彫器・めのう製錐形石器出土。下川町教育委員会今井真司氏来訪。
29日 (木)	25%・包含層調査、斜面部調査終了、K67区大型石刃・搔器・削器、K63区大型両面調整石器出土。	9月1日 (金)	包含層調査、I56区尖頭器、I59区頁岩製搔器、K57区削器出土。紋別市郷土博物館佐藤和利氏ほか発掘作業員20名、札幌大学木村英明氏来訪。
7月1日 (土)	包含層調査。	4日 (月)	雨天のため現場作業中止、終日遺物水洗・集計ほか。
3日 (月)	雨天のため現場作業中止、終日遺物水洗ほか。	5日 (火)	包含層調査、I56区尖頭器、K57区めのう製錐形石器出土。表土除去(S P60,920~40幅10m)(M・N・O部分)、資料調査課花岡地形・地質調査。
5日 (水)	包含層調査、H63区彫器、J62区尖頭器、J67区搔器出土、N62区とO62区出土の大型尖頭器片(梨肌)が接合。	6日 (水)	重機表土除去終了。M60~65トレンチ掘開終了。表土除去後杭打ち終了。
7日 (金)	包含層調査、P63区大型粗製両面調整石器(19cm+α)、H65区(表土)尖頭器・峠下型細石刃核・削片など出土。尖頭器・両面調整石器及びその製作剥片が多い。	8日 (金)	包含層調査、I55区尖頭器、M54区舟底形石器、O59区石刃・尖頭器出土。
11日 (火)	包含層調査、H65区頁岩製峠下型細石刃核出土。	9日 (土)	包含層調査、O58区石刃、J56区尖頭器出土。遠軽町こども探検隊ほか14名体験発掘、白滝村遺跡見学会50名、国学院大学加藤晋
13日 (木)	包含層調査、I65・N62区尖頭器破片出土。		
17日 (月)	雨天のため現場作業中止、終日遺物水洗ほか。		

1 調査の概要

	平氏来訪。	23日(月)	遺物水洗、現場養生、写真撮影足場撤去、遺物札幌へ搬送など。
13日(水)	包含層調査、J56区石刃・尖頭器出土。	24日(火)	・25日(水) 発掘器材整理、物品引き上げなど。
14日(木)	包含層調査、表土(ボサ)遺物採取、J56区石刃、O57区細石刃核・両面調整石器、O59区尖頭器出土。	26日(木)	調査員引き上げ。
18日(月)	雨天のため午前中は遺物水洗、午後より包含層調査、J55区搔器・尖頭器出土。	<b>平成8年度</b>	
20日(水)	包含層調査、J56区石核、N56・N59区舟底形石器出土。文化庁岡村道雄、土肥孝氏来訪。	5月7日(火)	調査員白滝入り。
21日(木)	包含層調査、N59区搔器、O54区削器出土。常呂町教育委員会武田修氏来訪。	8日(水)	・9日(木) 現場開始準備、環境整備など。
22日(金)	包含層調査、N54区石刃・尖頭器、N57区削片出土。帯広百年記念館北沢実氏来訪。	10日(金)	現地開所式、雇用・作業内容説明など。積雪20cmのため現場作業できず。
25日(月)	前日の降雨のため現場作業できず、終日遺物水洗。	11日(土)	前日の降雪のため現場作業できず、表土除去、杭打ち開始。
26日(火)	包含層調査、M56・N59区削器、N54区尖頭器出土。京都大学原子炉実験所薬科哲男、釧路市埋蔵文化財センター石川朗、今金町寺崎康史氏来訪。	13日(月)	現場調査開始、西地区(高位部)25%調査。
27日(水)	包含層調査、L54・M55・P59区舟底形石器、N54区石刃・削器、N58区小型ハンマー、P59区石刃・尖頭器出土。鳥取大学吉谷昭彦氏来訪。	14日(火)	東地区(低位部)包含層調査開始、R85区(表土)石鏃。西地区(以下省略)25%調査、H54区彫器、M53区尖頭器・削器・舟底形石器出土。
29日(金)	包含層調査、M55区大型両面調整石器(24cm)・削器、P58・59区石刃・削器出土。	15日(水)	雪のち雨のため現場作業中止、遺物水洗など。
10月2日(月)	包含層調査、L56・57区尖頭器、P58区削器出土。	16日(木)	本日も雪模様、1時間ほどで現場作業中止。
4日(水)	包含層調査、L56区搔器・尖頭器、Q59区尖頭器出土。	17日(金)	東地区包含層調査。25%調査、H55区石核4点集中、M53区舟底形石器・尖頭器、O53区舟底形石器出土。表土除去、30ライン西側南～継続中。ボサ処理、47ライン東、Nライン南終了。
5日(木)	包含層調査、P54区原石・石核、Q59区両面調整石器出土。	21日(火)	東地区包含層調査。包含層調査、K31区石刃核3点集中、I35区石核(白滝I群か)、H37区搔器出土。
6日(金)	強風、天狗岳・北見峠初冠雪、天候状態が悪いため現場作業中止、終日遺物水洗・集計など。北海タイムス(オホーツク版)新聞報道(9/19取材)。	24日(金)	東地区包含層調査終了。包含層調査、O51区石刃核、O52区尖頭器、O48区舟底形石器、M52区両面調整石器出土。
11日(水)	包含層調査、Q56区舟底形石器、Q58・59区両面調整石器破損品出土。	25日(土)	包含層調査、K53区搔器、M52区削器、O48区石刃核、L31・K31区石刃(稜付)出土。用地内南側に残存していた立木の伐採。
12日(木)	包含層調査、追加調査面積912㎡、全体で6,600㎡となる。	28日(火)	晴れて暑い、包含層調査、H35区搔器・尖頭器、L41区尖頭器、H36区尖頭器、K53区棒状原石、K31・52・53区に剥片集中。伐採木搬出。
14日(土)	包含層調査、H57区石刃核・石刃・削器出土。	30日(木)	包含層調査、H34区頁岩製削器、O51区尖頭器・舟底形石器、I46区両面調整石器、M51区尖頭器、H52区両面調整石器出土。
16日(月)	包含層調査、H57区細石刃核、H58区木葉形尖頭器(ほぼ完形)出土。静修女子大学長崎潤一氏ほか学生9名来訪。	6月1日(土)	包含層調査、K33区Cb-2確認、O51・H51区尖頭器出土。
17日(火)	降雨のため現場作業は午前中で中止、午後より遺物水洗・集計。包含層調査、H57区大型剥片・稜付き縦長剥片、Q59区尖頭器中間部出土。	3日(月)	現場作業開始直後も雷雨のため作業中止、以後器材整備、遺物・土壌水洗など。
18日(水)	包含層調査、H57区石刃核および剥片多数出土。前日Q59区出土の大型尖頭器の中間部と以前にQ60区出土していた尖頭器片が接合し、30cmを超える大型尖頭器となることが判明。NHK北見支局取材、夕方のニュースで報道。	5日(水)	包含層調査、Q・R48区Cb-2調査終了(※K33区はCb-3に変更)。
19日(木)	包含層調査、雨天のためテントを設営してH57区調査、H57区石核(扁平)・縦長剥片・両面調整石器(斧状)出土。	7日(金)	包含層調査、O51区Cb-4確認。白滝村行政視察一行(村長、村会議員、役場職員、教育長など)来訪。
20日(金)	包含層調査終了、昨日同様雨天のためテントを設営してH57区調査。平成7年度調査面積6,600㎡、点取り遺物53,254件。	11日(火)	包含層調査、R49区Cb-5確認。
21日(土)	完掘状況写真撮影、発掘器材・遺物・土壌水洗、来年度プレハブ建設予定の東地区(低位部)の表土除去・整地。	12日(水)	包含層調査、J33区石刃核出土。N49区Cb-6確認。
		13日(木)	包含層調査、H34区搔器、P48区尖頭器、K51区舟底形石器出土。斜面表土除去三分の二程度終了、残りはボサ処理後。
		14日(金)	包含層調査、I32区搔器・舟底形石器、J33区舟底形石器、頁岩製剥片、J47区削器、N53区舟底形石器・スキー状削片、P48区尖頭器出土。Q50区剥片集中。
		15日(土)	包含層調査、Cb-6終了、Cb-3隣接発掘区(J33区)に拡大。N51区彫器・尖頭器、N53区尖頭器・舟底形石器出土。好天が続いているため作業は順調に進んでいる

	が、土壌が乾燥して掘りづらくなっている。水を散布し、シートをかけてできる限り乾燥を抑えて調査を進める。		
17日(月)	I 32区搔器、L 51区、L 53区削器・両面調整石器、N 49区台石 or リタッチャー、P 48区舟底形石器出土。	23日(火)	排土・表土移動、駐車場整備など。包含層調査、M 21区舟底形石器、M 31区安山岩製石器、Q 3区尖頭器、Q 27区彫器、S 29区白滝 I 群剥片・石核、S 33区舟底形石器、S 35区白滝 I 群サイコロ状石核・剥片出土。
18日(火)	包含層調査、N 51区搔器、R 51区尖頭器、J 46区舟底形石器、P 51区尖頭器出土。Q 50区剥片集中。	24日(水)	包含層調査、Cb-13調査終了。O 37区削器、O 29区搔器、M 37区錐形石器、M 33区尖頭器、S 35区白滝 I 群剥片出土。
20日(木)	包含層調査、斜面調査(重機による掘り下げ後に人力で遺物採取)開始。K 32区石刃核、J 46区石核・尖頭器、N 51区頁岩製剥片3点、N 53区尖頭器、R 51区尖頭器・舟底形石器、I 52区搔器出土。	26日(金)	雨天のため現場作業できず、終日遺物・土壌水洗。
21日(金)	包含層調査、斜面調査、Cb-7・8(Q 50区)、Cb-9(I 32区)確認。P 51区剥片集中1・2・3設定。I 48区尖頭器、N 51区石核、頁岩製石器出土。	27日(土)	包含層調査、M 33区剥片集中1。O 39区Cb-14確認。
24日(月)	包含層調査、斜面調査、L 43区細石刃核、K 46区石刃核、L 53区尖頭器、J 48区舟底形石器出土。	29日(月)	包含層調査、Q 27区石刃核・彫器、O 27区尖頭器、O 29区彫器、S 29区尖頭器、O 35区錐形石器、Q 43区石核(サイコロ状か)出土。
27日(木)	包含層調査、斜面調査、J 53区剥片集中1・2、K 32区剥片集中1。J 32区搔器、L 43区白滝 I 群剥片、N 52区舟底形石器・彫器、J 53区削器、L 52区舟底形石器・両面調整石器・石刃、K 32区削器、R 72区大型石刃素材削器出土。	31日(水)	雨天のため現場作業できず、終日遺物・土壌水洗、遺物集計など。一括取り上げ遺物点数平坦部309,852点、斜面部5,581点。東京大学安斎正人、国士舘大学大沼克彦、東京都埋蔵文化財センター竹尾進氏来訪。
28日(金)	包含層調査、斜面調査、N 52区剥片集中1。L 30区削器、J 51区めもの製剥片、L 52区尖頭器・搔器、J 53区舟底形石器、L 52区彫器・舟底形石器、R 51区舟底形石器、R 52区尖頭器・舟底形石器、R 71区(上層)石刃素材削器出土。	8月1日(木)	包含層調査、Cb-15(Q 39)終了。M 27区尖頭器、O 29区搔器、J 30区安山岩製削器、O 43区舟底形石器、M 35区搔器・舟底形石器、O 47区ナイフ形石器、Q 47区尖頭器、S 43区頁岩製削器出土。札幌大学木村英明、小清水町教育委員会藤田光一氏来訪。
7月1日(月)	包含層調査、Cb-11(R 51区)確認。K 32区石刃核、L 36区石核、L 43区白滝 I 群剥片・石核、K 40区尖頭器、L 52区尖頭器、L 53区石刃核、J 53区舟底形石器、M 52区小型舟底形石器・舟底形石器、R 51区尖頭器、R 52区尖頭器出土。	2日(金)	包含層調査、S 33区剥片集中2設定。R 66・67区石刃核・両面調整石器、O 27区ナイフ形石器、Q 27区尖頭器、S 29区半月形両面調整石器出土。静修女子大学吉崎昌一氏来訪。
3日(水)	降雨のため14:30で現場作業中止、以後遺物・土壌水洗。L 43・44区白滝 I 群剥片、L 52区尖頭器・搔器、L 53・N 52区舟底形石器出土。	5日(月)	包含層調査、M 43区石核(白滝 I 群か) O 47区石核、O 45区石核、Q 45区石核、Q 47区両面調整石器出土。 (上白滝 2 遺跡調査開始)
4日(木)	包含層調査、斜面調査、Cb-12(R 50区)終了。Q 25区舟底形石器・搔器、L 43・44区白滝 I 群石核・剥片、J 53区尖頭器、L 52区尖頭器、N 52区舟底形石器出土。	7日(水)	包含層調査、N 27区石刃核、N 35区削器・搔器、O 27区石核、O 29区尖頭器・石核、P 35区石核・削器、R 25区両面調整石器、R 29区搔器・両面調整石器、R 35区石刃核・彫器、M 43区白滝 I 群石核・剥片、R 59区搔器・削器、R 61区尖頭器出土。東京都埋蔵文化財センター館野孝、神奈川県埋蔵文化財センター砂田佳弘、早稲田大学亀田直美、釧路市埋蔵文化財センター石川朗、長野県角張淳一氏来訪。
5日(金)	前夜の降雨のため現場状態悪く、作業できず。終日遺物・土壌水洗など。	8日(木)	包含層調査、Cb-16(O 29区)確認。M 30区石核、N 23区舟底形石器、O 29区石核、P 19区舟底形石器、P 25区尖頭器・搔器、R 19区棒状原石、M 43区白滝 I 群剥片出土。R 61区剥片集中。
6日(土)	雨天のため現場作業できず。終日遺物・土壌水洗。雨天日が続いたため現場作業やや遅れ気味。点取り遺物点数43, 536点。	9日(金)	包含層調査、P 29区搔器、R 29区尖頭器、M 43区白滝 I 群剥片、N 45区舟底形石器、P 33区搔器、S 49区尖頭器出土。東海大学織笠昭・明子夫妻来訪。
8日(月)	包含層調査。斜面調査終了。	10日(土)	盆休み現場閉鎖準備、発掘器材整備など。
9日(火)	包含層調査、L 52区Cb-13(1)・(2)設定及び掘り下げ。P 50区石刃核、N 19区石刃核・舟底形石器出土。	12日(月)~17日(土)	盆休み現場閉鎖。
11日(木)	降雨のため現場作業は14:30で終了、以後は遺物水洗。包含層調査、Cb-13は落ち込み状に広がる。M 19区石刃核、L 30区安山岩製剥片出土。	19日(月)	包含層調査、M 35区搔器、M 43区白滝 I 群剥片、N 35区尖頭器・石核、P 25区彫器・石核2点・頁岩製錐形石器出土。O 29区剥片集中設定。
16日(火)	包含層調査、M 21区舟底形石器出土。M 21・Q 25区剥片集中。排土・表土移動。西側写真撮影足場移動。	21日(水)	包含層調査、N 35区彫器・舟底形石器・石核、P 25区削器、P 29区舟底形石器、M 30尖頭器出土。
19日(金)	包含層調査、M 17・M 23区尖頭器、Q 35区石刃核、M 19区彫器、M 21区舟底形石器出土。	23日(金)	雨天のため現場作業できず、終日遺物・土壌

1 調査の概要

	水洗など。工事内容変更に伴う調査区域・面積の変更について道教委と現地にて打ち合わせ。	7日(月)	奈良国立文化財研究所加藤真二氏来訪。降雨のため9:30で現場作業中止、以後遺物水洗。釧路考古学会一行12名、かながわ考古学財団栗原伸好氏ほか6名来訪。
26日(月)	包含層調査、N35区石核、P35区舟底形石器・削片出土。北海道開拓記念館石代啓視氏来訪。	8日(火)	包含層調査、K18区尖頭器・彫器、L27・N28区尖頭器、O44・O46・P44区広郷型ナイフ形石器出土。岡山大学稲田孝司氏来訪。
28日(水)	包含層調査、O30区舟底形石器、S30区彫器、S36区石核出土。	9日(水)	降雨のため9:30で現場作業中止、以後遺物水洗。支湧別小学校生徒13名、教諭5名来訪。
29日(木)	包含層調査、S36区Cb-18確認。R60区剥片集中。P22区広郷型ナイフ形石器、P27区石刃核、R28区両面調整石器出土。	10日(木)	休日、現地説明会(札幌、恵庭、北見、遠軽などから参加者51名)、包含層調査、J29区有舌尖頭器、L21区尖頭器・舟底形石器、P28区彫器・搔器出土。
31日(土)	包含層調査、N36区尖頭器、O36区頁岩製錐形石器、P30区舟底形石器、P36区小型舟底形石器出土。天候の回復で調査の遅れは解消しつつある。点取り遺物79,287点。	14日(月)	包含層調査、K23区錐形石器、K29区有舌尖頭器・石核、K25・R42区白滝I群石核、L16・19・22区舟底形石器出土。
9月2日(月)	降雨のため現場作業は午前中で中止、午後は遺物・土壌水洗。包含層調査、O36区舟底形石器、P37区削器、R30区石核、R33区尖頭器出土。遠軽地区市町村議会議長会一行来訪。	16日(水)	赤石山方面冠雪、寒い。包含層調査、K19区尖頭器・舟底形石器・石核、P28区尖頭器・舟底形石器・削器、K22区有舌尖頭器出土。
6日(土)	包含層調査、P35区Cb-17終了、Q28区Cb-19確認。M29・N29・R60区尖頭器、O26区両面調整石器、R26・33区石刃核出土。文化庁岡村道雄氏来訪。	17日(木)	強風、積雪5cm。包含層調査、K18区舟底形石器、K22区有舌尖頭器、L18区舟底形石器・石刃核出土。
10日(火)	包含層調査、M18区舟底形石器・頁岩製削片、N38区尖頭器、P26区削器出土。産業医現場視察。	19日(土)	終日作業。包含層調査、J23区尖頭器・彫器・削器・石核、K20区両面調整石器・彫器・搔器・舟底形石器、L21区尖頭器・舟底形石器出土。新潟大学白石典之氏来訪。
12日(木)	包含層調査、M20区尖頭器・舟底形石器・石核、M28区荒屋型彫器、N38区細石刃核、P47区石核、棒状礫出土。	21日(月)	包含層調査、J22区尖頭器・小型舟底形石器、J23・K13・P10・P28区石核出土。
14日(土)	包含層調査、M38区舟底形石器、N26区尖頭器、N34区細石刃核 blanks 出土。点取り遺物94,098点。	23日(水)	包含層調査、K20区尖頭器・舟底形石器、P10区白滝I群石核、めのう製剥片出土。上湧別中学校生徒・教諭39名来訪。
17日(火)	包含層調査、M18区小型舟底形石器、M20区尖頭器・舟底形石器、N36区細石刃核、P47区広郷型ナイフ形石器出土。	26日(土)	包含層調査終了。K24区尖頭器、L28区舟底形石器出土。遺物・土壌水洗。調査面積10,212㎡、点取り遺物149,555件。平成8年度2遺跡(上白滝2・上白滝8遺跡)13,207㎡調査終了。
19日(木)	包含層調査、M16区石刃核、M22・N46区舟底形石器、M29区頁岩製石刃、P28区荒屋型彫器出土。岩宿文化資料館松沢亜生、山梨県環境局奥水達司氏現地指導(21日まで)。	28日(月)	遺物・土壌水洗。排土処理。
20日(金)	包含層調査、J19区尖頭器・搔器・削器・舟底形石器・石核、J21区彫器・両面調整石器出土。埋文センター調査部研修会。	30日(水)	遺物搬出。発掘器材収納、プレハブ越冬準備など。
21日(土)	包含層調査、点取り遺物100,940点。埋文センター調査部研修会。	31日(木)	雪模様、調査員引き上げ。
24日(火)	前日の降雨のため午前中は現場作業できず、遺物水洗。午後からは包含層調査を行うが、降雨のため14:30頃で現場作業中止、以後遺物水洗。帯広百年記念館山原敏郎氏来訪。	<b>平成9年</b>	
25日(水)	雨天のため現場作業できず、終日遺物水洗。網走管内高等学校理科教諭巡検10名、遠軽高等学校社会科教諭10名来訪。	5月6日(火)	調査員現地入り。
27日(金)	包含層調査、J25区石核、M22区舟底形石器、O28区尖頭器、O46区広郷型ナイフ形石器出土。	7日(水)	現場開始準備ほか。
10月1日(火)	包含層調査、L21区尖頭器・舟底形石器・搔器、M28・N30・S50区尖頭器、P28両面調整石器出土。遠軽南中学校教諭5名来訪。	8日(木)	現場開所式、みぞれのため現場作業できず。
3日(木)	包含層調査、J21区両面調整石器・彫器、K19区尖頭器・舟底形石器、L19区両面調整石器、R64区細石刃核出土。	9日(金)	包含層調査開始。平成8年度調査未了部分の調査。N7・8区石刃・石刃核・削器、P5区舟底形石器出土。
4日(金)	雨天のため現場作業できず、終日遺物水洗。	10日(土)	包含層調査。N7区荒屋型彫器、N8区搔器・石核(白滝I群)出土。
		12日(月)	包含層調査。N8区尖頭器・舟底形石器・石核、P5区尖頭器・彫器・搔器・舟底形石器出土。
		13日(火)	包含層調査。N7区尖頭器・小型舟底形石器・石刃核、P5区尖頭器・石刃核、N8区搔器(白滝I群)・削器・舟底形石器出土。白滝I群と尖頭器・舟底形石器群が重複した状況で確認。
		14日(水)	包含層調査。O8区めのう製剥片(白滝I群か)出土。
		16日(金)	包含層調査。N6区石刃核、N8区舟底形石器・石刃核出土。
		19日(月)	包含層調査。O4区尖頭器・舟底形石器、

20日 (火)	P 4区尖頭器・白滝I群剥片出土。 包含層調査終了。O4・6区尖頭器出土、Cb-22調査終了。カナダモントリオール大学フィリップ・スミス、マギール大学井川史子夫妻来訪。	26日 (月)	包含層調査、G34区舟底形石器出土。島状の未調査区域(約300m <sup>2</sup> )についても調査を行うこととなる。
21日 (水)	完掘状況写真撮影、杭など撤収、調査完了。調査面積320m <sup>2</sup> 、点取り遺物3,261件。 (奥白滝1・上白滝2・上白滝5・上白滝7遺跡調査)	27日 (火)	包含層調査、G15区尖頭器、G34区炭化木片出土。
10月18日 (土)	平成9年度5遺跡(奥白滝1・上白滝8・上白滝2・上白滝5・上白滝7)調査終了、全体調査面積20,761m <sup>2</sup> 。	28日 (水)	調査中断、重機による排土の移動。
20日 (月)	～23日 (木) 遺物水洗、発掘器材・環境整備、物品撤収など。	7月5日 (水)	包含層調査再開、I17区舟底形石器出土。北海道開拓の村野村崇氏来訪。
24日 (金)	調査員引き上げ。	6日 (木)	包含層調査、G23区搔器、I19区尖頭器出土。降雨のため現場作業は午前中で終了、午後は器材・遺物水洗。
<b>平成10年度</b>		7日 (金)	包含層調査、H16区尖頭器、I17・19区削器出土、カナダバンフ小学校校長、教諭3名ほか来訪。
5月6日 (水)	調査員白滝入り。	10日 (月)	包含層調査、G23区尖頭器・搔器・舟底形石器出土。I19区Cb-23調査。今回の調査区での出土遺物は平成8年度調査区につながる尖頭器・舟底形石器石器群とみられる。
7日 (木)	～9日 (土) 現場開始準備、環境整備ほか。	12日 (水)	包含層調査、H17区彫器・錐形石器出土。I18区Cb-24調査。
8日 (金)	～12日 (火) 北海道大学地球環境科学研究科平川一臣・中村有吾氏地質・地形調査。	13日 (木)	包含層調査、防雪柵部分調査終了。排土移動後の島状の未調査区域の調査を展開。
11日 (月)	現場開所式、雇用・作業内容など説明ほか。 (奥白滝1・上白滝5・上白滝6遺跡調査)	17日 (月)	～19日 (水) 雨天のため現場作業できず、遺物取り上げ・水洗など。 (奥白滝1遺跡調査)
6月23日 (火)	部分的な法面掘削幅増加に伴う調査を小規模に実施、包含層調査着手。	26日 (水)	包含層調査再開、H24・I24区尖頭器、I21区彫器・石核出土。
24日 (水)	I13区珪岩製搔器・石核、I15区石核出土。	27日 (木)	包含層調査、H23区尖頭器・彫器・舟底形石器、H24区彫器・小型舟底形石器出土。
25日 (木)	包含層調査終了。 調査面積56m <sup>2</sup> 、点取り遺物838件。 (服部台2・奥白滝1・上白滝5・上白滝6・上白滝7・北支湧別4遺跡調査)	31日 (月)	包含層調査、I21区彫器・小型舟底形石器、I22区尖頭器・彫器・舟底形石器出土。
10月15日 (水)	平成10年度7遺跡(服部台2・奥白滝1・上白滝8・上白滝5・上白滝6・上白滝7・北支湧別4遺跡)調査終了、全体調査面積27,646m <sup>2</sup> 。	8月1日 (火)	包含層調査、H21区舟底形石器、H24区小型舟底形石器、I28区石核(白滝I群)出土。
16日 (木)	～21日 (水) 遺物水洗、発掘器材・環境整備、物品撤収など。	2日 (水)	包含層調査、I23区舟底形石器、I28区石核(白滝I群)出土。
22日 (木)	調査員引き上げ。	3日 (木)	包含層調査、H22区尖頭器・彫器・舟底形石器・石核、H28区石核(白滝I群)出土。
<b>平成12年度</b>		4日 (金)	包含層調査調査終了。H22区石核、H25区石刃核出土。 調査面積661m <sup>2</sup> 、点取り遺物9,705件。 (奥白滝1・服部台2・白滝8・白滝18遺跡調査)
5月8日 (月)	調査員白滝入り。	10月16日 (月)	現場作業終了。 平成12年度6遺跡(服部台2・奥白滝1・上白滝8・白滝第30地点・白滝8・白滝18遺跡)調査終了。全体調査面積5,953m <sup>2</sup> 、点取り遺物63,193件。
9日 (火)	～11日 (木) 現場開始準備、環境整備ほか。	17日 (火)	～25日 (水) 遺物水洗、発掘器材整備など。
12日 (金)	現場開所式、雇用・作業内容など説明ほか。 (服部台2・白滝第30地点・白滝18遺跡調査)	26日 (木)	雪模様、物品・レンタカーなど引き上げ。
6月15日 (木)	表土除去終了。	27日 (金)	調査員引き上げ。
19日 (月)	杭打ち、測量。道路用地北端の防雪柵建設に関わる調査区予定区域と平成8年度調査区域の間に島状の未調査区域が残ることが判明し、その取り扱いについて協議することとなる。		
21日 (水)	包含層調査開始。G23区搔器、G24・I16区尖頭器出土。		
22日 (木)	包含層調査、H15区尖頭器、I16区尖頭器・石核出土。		

#### (4) 発掘区の設定

発掘区はアルファベットの大文字と数字の組み合わせで表示し、規格は4×4mとした。調査区の設定基準は、工事測点のSP60900とSP60960を基準点とし、その2点を通る直線を東西方向の基線とし、南北方向はSP60900の基準点を通り、東西方向の基線に直交する直線とした。

ラインの設定は、南北方向をアルファベットの大文字とし、基線をMに設定後、南側にN、O、P、・・・、北側は逆にL、K、J、・・・とした。東西方向は数字で、調査区域全域をカバーでき

## 1 調査の概要

るように SP60900 を通る基線を 50 とし、東側に 51、52、53、・・・、西側に 49、48、47、・・・とした。調査区域は、アルファベットラインでは、F～W、数字ラインでは 0～122 の範囲で、基準点の測量成果は下記のとおりである。

SP60900 (M50)	X = -13941.075	Y = 71310.021
SP60960 (M65)	X = -13952.438	Y = 71368.935

(平面直角座標系 第 X II 系)

発掘区の呼称は、4 m 四方区画の西隅のライン交点で示した。例えば、M ラインと 50 ラインの交点の南東側が M50 区ということになる。また、発掘区の方法は、公共座標の北方向に対して右回りで東側に 10° 55′ 07″ 傾いている。(長沼 孝)

## (5) 土層

上白滝 8 遺跡の土層堆積状況は、上白滝面にあたる標高 436～448m の高位部と、東白滝面にあたる標高 415m 前後の低位部に分けて説明する。

### 高位部

高位部は上白滝面にあたり、II 章で記載した基本土層とほぼ同様で、上から I 層(表土)、II a 層(褐色粘質土)、II b 層(灰白色～青灰色粘質土)、II c 層(赤褐色～灰褐色砂質土) III 層(赤褐色～褐色砂質土) の順に堆積している。遺物包含層である II a 層は、遺跡内のほとんどの地点で連続的に確認された。II c 層は、大雪御鉢平軽石(約 3 万年前降下)を多く含む層で、各地点で安定してみられ、特に III 層上面が窪んでいる地点では厚く堆積している。III 層以下の堆積状況については、T ラインで重機による深掘り調査を行い、段丘礫層までの層序を記録した。以下 45 ライン、50 ライン、55 ライン、60 ライン、M ライン(西地区含む)、T ライン(深掘り区)の順に詳しく説明を行う。

### 45 ライン(図 IV-2・5)

北へ向かってなだらかに傾斜する地形で、II a 層は H・N・S 区を除いてほとんどの地点で連続的に確認される。層厚は 15～45cm であった。H 区では上部が削平を受けていたため、15 層(褐色砂質土)が露出している状態で確認された。また、N・S 区では木根による大きな攪乱がみられ、それぞれ 13 層(暗褐色砂礫)・2 層(II a～II b 層の漸移層)と続いている。II a 層中には K 区で 5 層(灰褐色シルト)の堆積が約 10cm 確認された。45 ラインは他のラインに比べ II a 層の下に II b 層がみられる地点が多い。II b 層の下には III 層が続いているが、I・J・M 区では II a 層の直下に III 層が堆積している。また、O・P 区では III 層がみられず、10 層(明黄褐色砂)が確認された。II c 層は M 区で部分的にみられ、層厚は 5 cm 前後であった。III 層の下には I 区で 15 層、K～M 区で 13 層、Q 区で 10 層が堆積している。

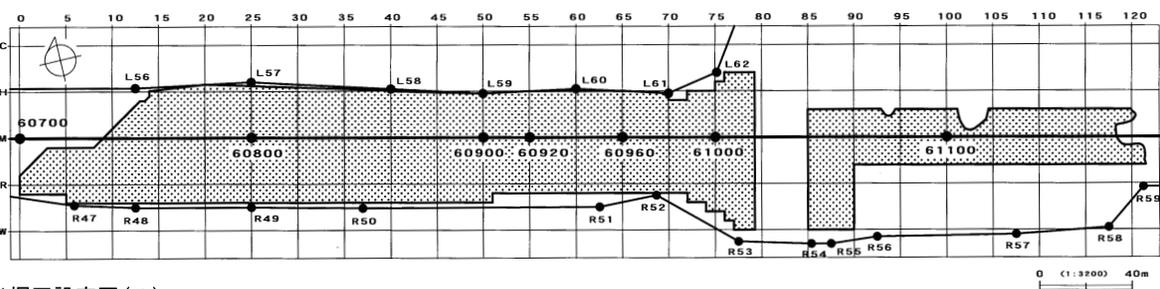
### 50 ライン(図 IV-2・5)

北へ向かってなだらかに傾斜する地形で、II a 層は各区で安定して確認される。層厚は 25～60cm であった。II a 層の上部には O 区付近で 3 層(暗褐色砂)がみられる。II a 層の下には H 区で III 層、I～P・S 区で II b 層、Q・R 区で II c 層が続いている。50 ラインでも 45 ラインと同様に II a 層の下に II b 層が堆積している地点が多い。また、K 区の北側と R 区の中央にはそれぞれ 11 層(暗茶褐色粘土)と 8 層(灰褐色粘土)がみられる。下層まで確認した I 区では、II b 層の下に II c 層・III 層・17 層(褐色シルト+礫)が堆積している。

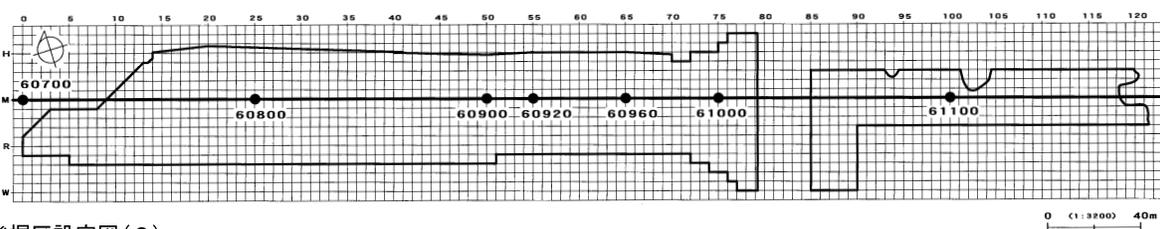


調査範囲
  平成元年指定国史跡「白滝遺跡」(白滝第13地点遺跡)
  平成10年追加指定国史跡「白滝遺跡群」

調査範囲・周辺の地形図



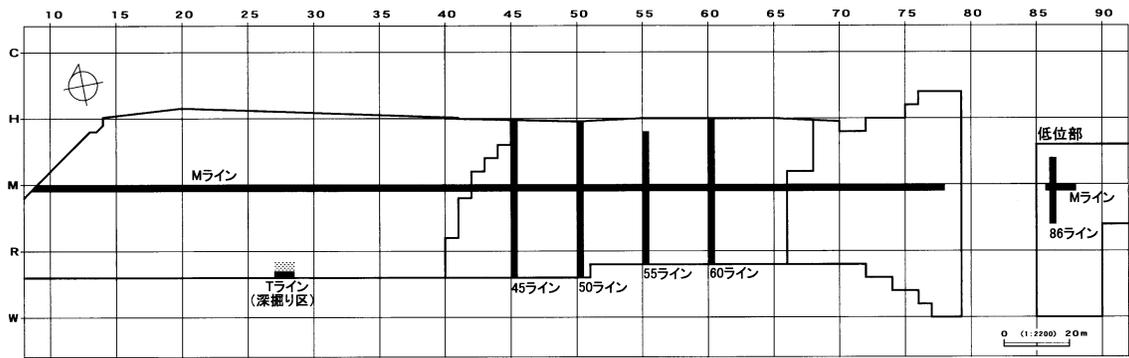
発掘区設定図(1)



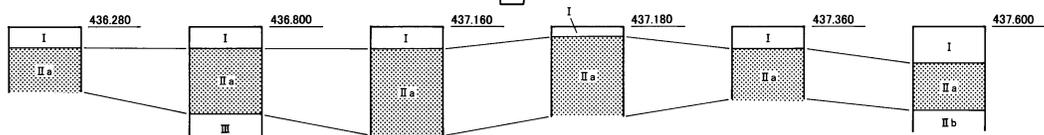
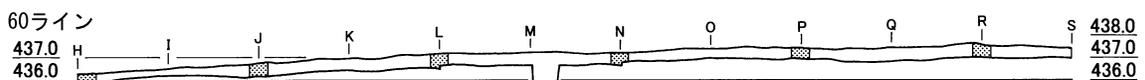
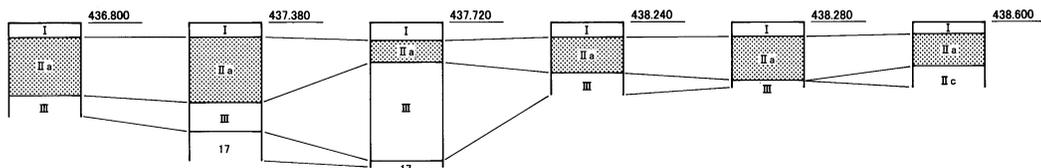
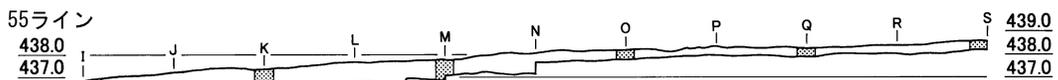
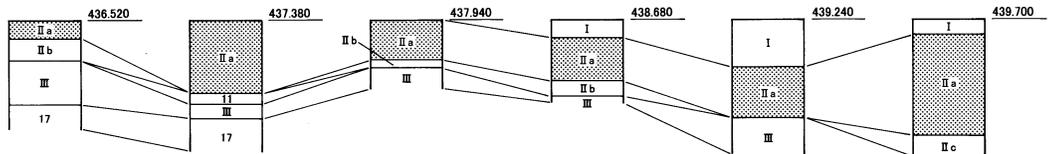
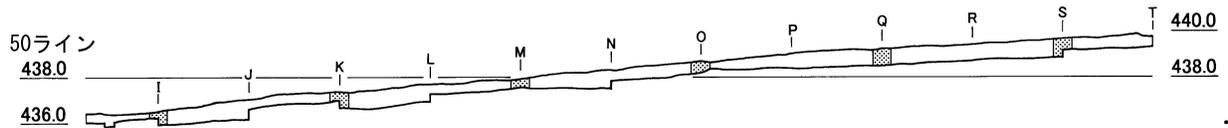
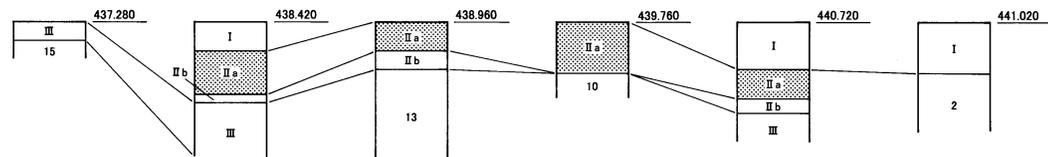
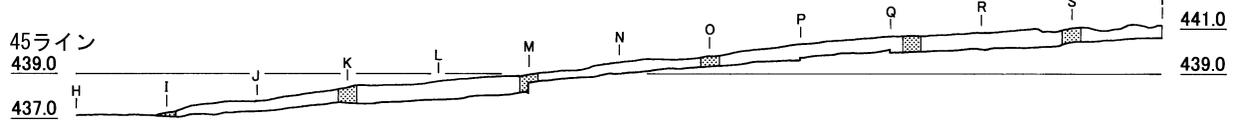
発掘区設定図(2)

図IV-1 調査範囲・発掘区設定図

1 調査の概要

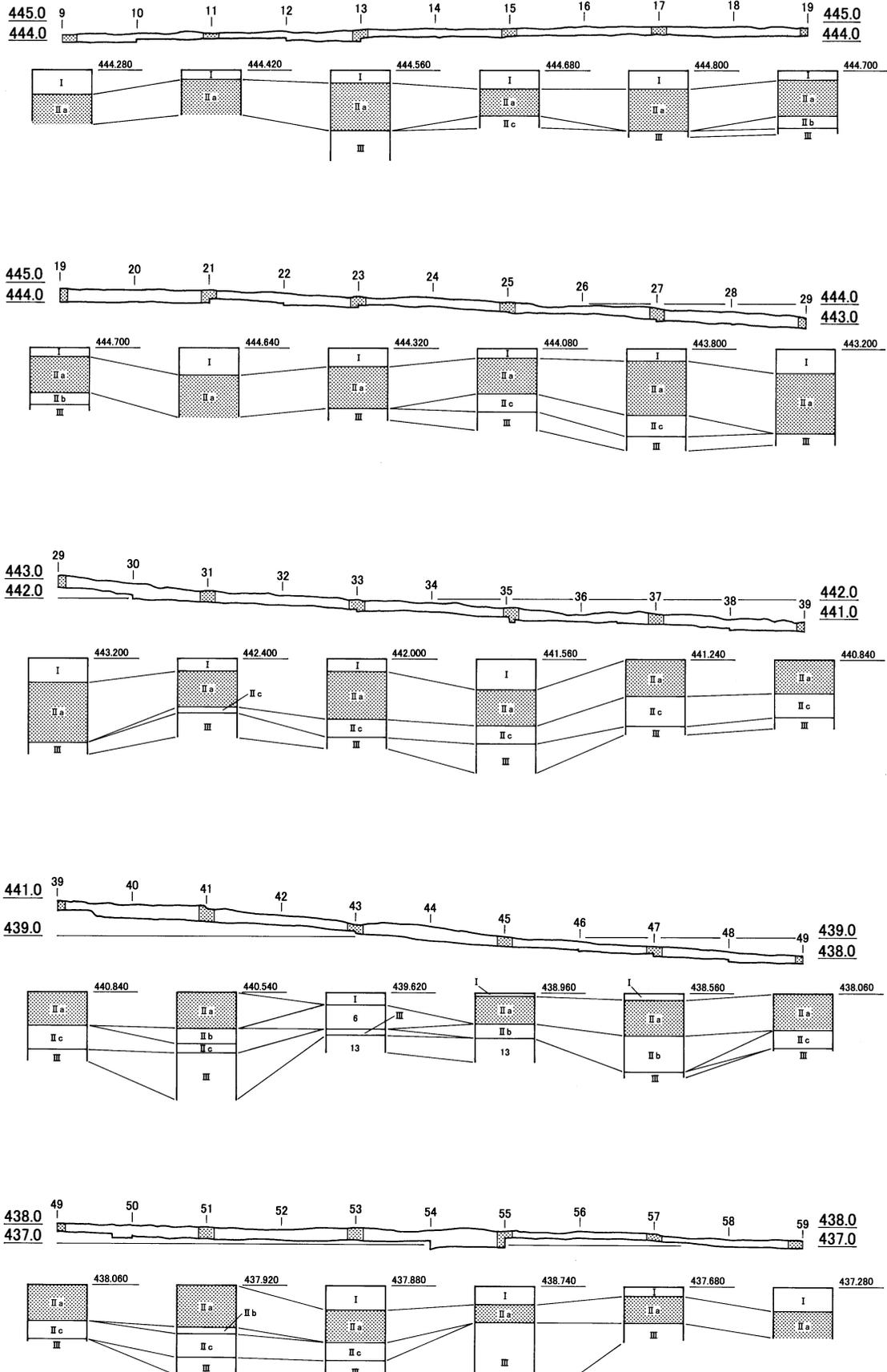


- |                               |                |             |                |
|-------------------------------|----------------|-------------|----------------|
| 基本土層                          | 1: 表土～Ⅲ層混在土    | 10: 明黄褐色砂   | 19: 明黄褐色砂質土    |
| I : 表土・耕作土                    | 2: Ⅱ a～Ⅱ bの漸移層 | 11: 暗茶褐色粘土  | 20: 赤褐色砂質土     |
| Ⅱ a: 褐色粘質土                    | 3: 暗褐色砂        | 12: 暗黄褐色シルト | 21: 黄褐色砂質粘土    |
| Ⅱ b: 灰白色～青灰色粘質土               | 4: C b-21      | 13: 暗褐色砂礫   | 22: 暗褐色砂質シルト+礫 |
| Ⅱ c: 赤褐色～灰褐色砂質土<br>(Sit 1を含む) | 5: 灰褐色シルト      | 14: 灰白色粘土   | 23: 茶褐色砂混じりシルト |
| Ⅲ : 赤褐色～褐色砂質土                 | 6: 暗褐色シルト      | 15: 褐色砂質土   | 24: 褐色砂礫       |
|                               | 7: 暗灰色砂質土      | 16: 暗灰色シルト  | 25: 灰褐色砂質土+礫   |
|                               | 8: 灰褐色粘土       | 17: 褐色シルト+礫 |                |
|                               | 9: 赤褐色粘土       | 18: 明灰褐色砂質土 |                |



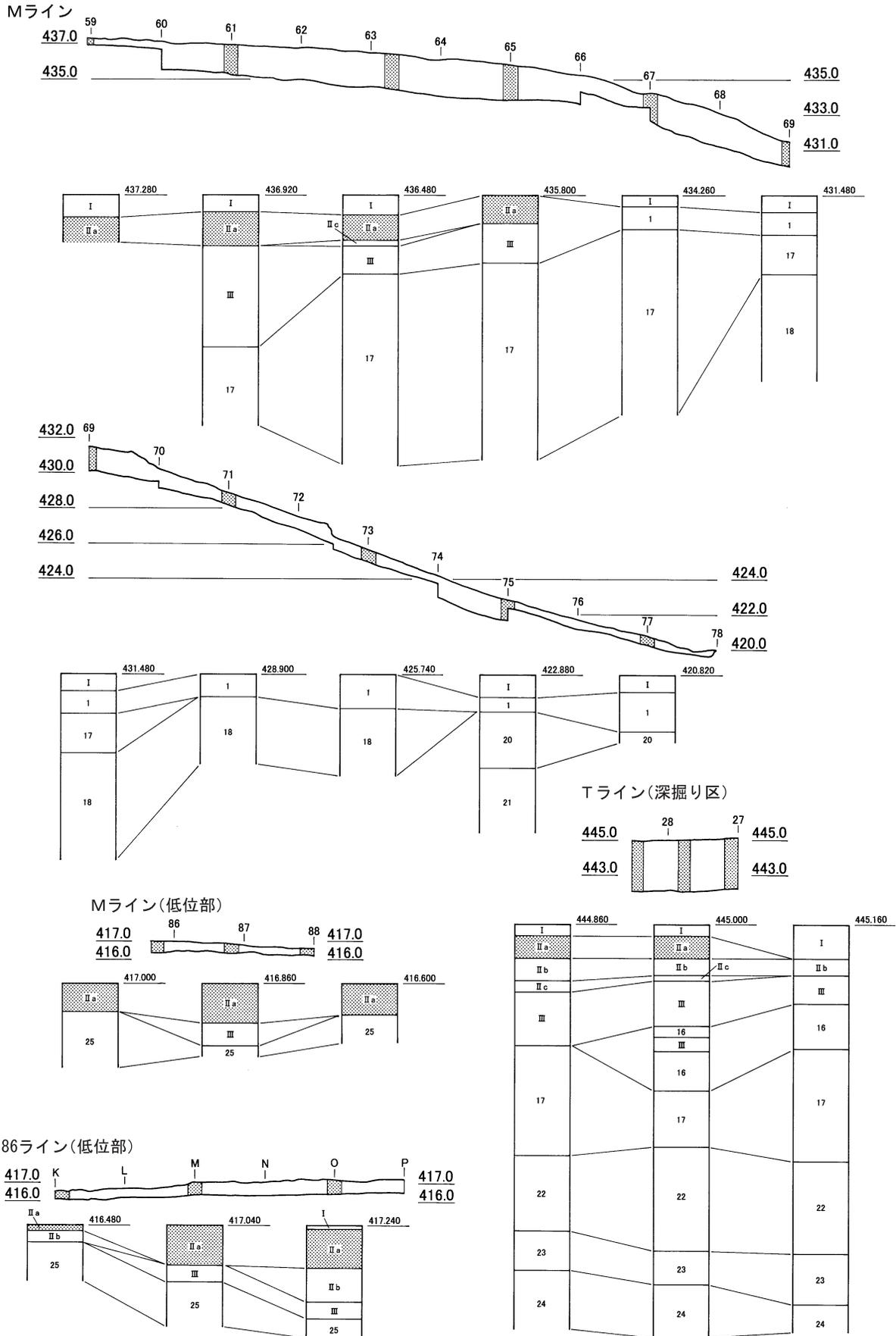
図Ⅳ-2 土層概略図 (1)

Mライン



図IV-3 土層概略図(2)

1 調査の概要



図IV-4 土層概略図(3)

**55ライン (図IV-2・6)**

北へ向かって僅かに傾斜する地形で、II a層は各区で安定して確認される。層厚は10～55cmであった。II a層の下にはほとんどIII層がみられ、僅かにL区の一部とR区でII c層が確認されている。III層の下には17層(褐色シルト+礫)が安定してみられる。

**60ライン (図IV-2・6)**

北へ向かって僅かに傾斜し、特にL～S区はほぼ平坦な地形で、II a層は各区で安定して確認される。層厚は25～45cmであった。P～R区にはII a層中に3層(暗褐色砂)がブロック状にみられる。II a層の下にはH～O区で直接III層が、P～R区でII b層を挟んでIII層が堆積している。下層まで確認したM区では、III層の下に厚く17層(褐色シルト+礫)が確認された。

**Mライン (西地区を含む高位部と斜面部) (図IV-3・4・7～9)**

上白滝8遺跡の立地する段丘面全体を東西方向に切った土層断面である。地形は大きく東西に二つの平坦面があり、標高の高い西側から緩やかな傾斜を経て東側につながり斜面へと続いている。西側の平坦面は9区から21区で、東側の平坦面は49区から59区である。65区を過ぎると傾斜がきつく斜面部となる。

II a層は途中、木根などにより部分的に分断されているが、基本的には高位部の全ての地点で安定的に確認され、層厚は5～45cmである。66区の中央より東側は急傾斜で斜面堆積となり、II a層の代わりに1層(表土からIII層までの混在土)がみられる。II a層中には36・55区に3層(暗褐色砂)が部分的にみられる。II a層の下は全体的な傾向としてII c層が安定して確認され、II b層は40～51区で連続的に堆積している。また、西側に傾斜し始める15～17区、東側斜面部に接する64・65区ではII a層の直下にIII層がみられる。

II b層がみられる40～51区では部分的であるがII a～II b層間に6層(暗褐色シルト)、II b～II c層の間に9層(赤褐色粘土)、III層の上部に7層(暗灰色砂質土)・11層(暗茶褐色粘土)、III層の下部に12層(暗黄褐色シルト)・13層(暗茶褐色砂礫)・14層(灰白色粘土)が堆積している。この地区は浅い沢地形となっているため、他の地区と異なる堆積状況である。13層は沢の礫層とみられ、段丘礫層の構成礫より風化がなく、径5 cm強の円摩度の高い礫が主体を占めている。

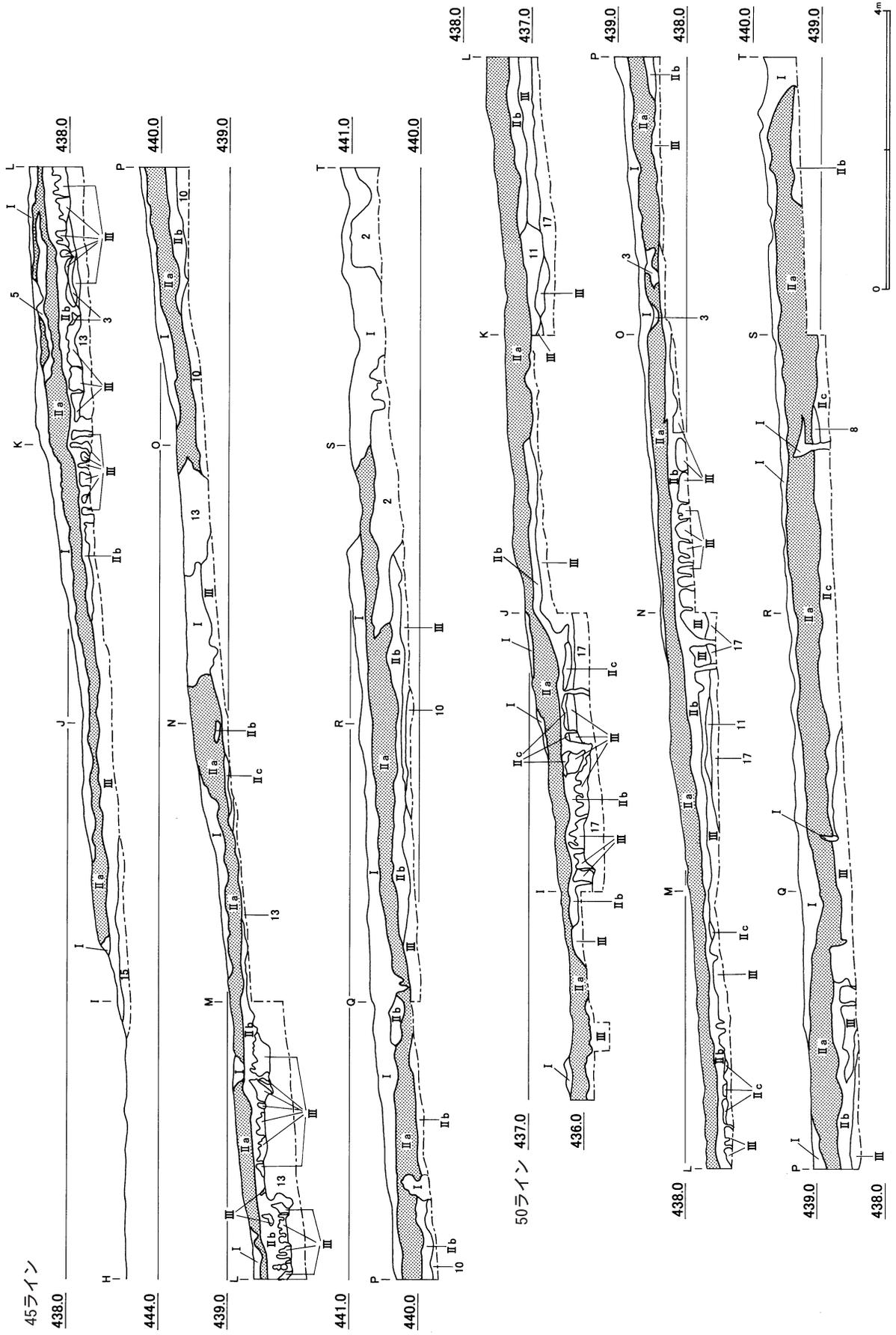
III層の下部は17層(褐色シルト+礫)が確認され、斜面部では17層に続いて18層(明灰褐色砂質シルト)・20層(赤褐色砂質土)・21層(黄褐色砂質粘土)が安定的にみられる。なお18層は火砕流堆積物である白滝層に対比される。

**Tライン (深掘り区) (図IV-4・10)**

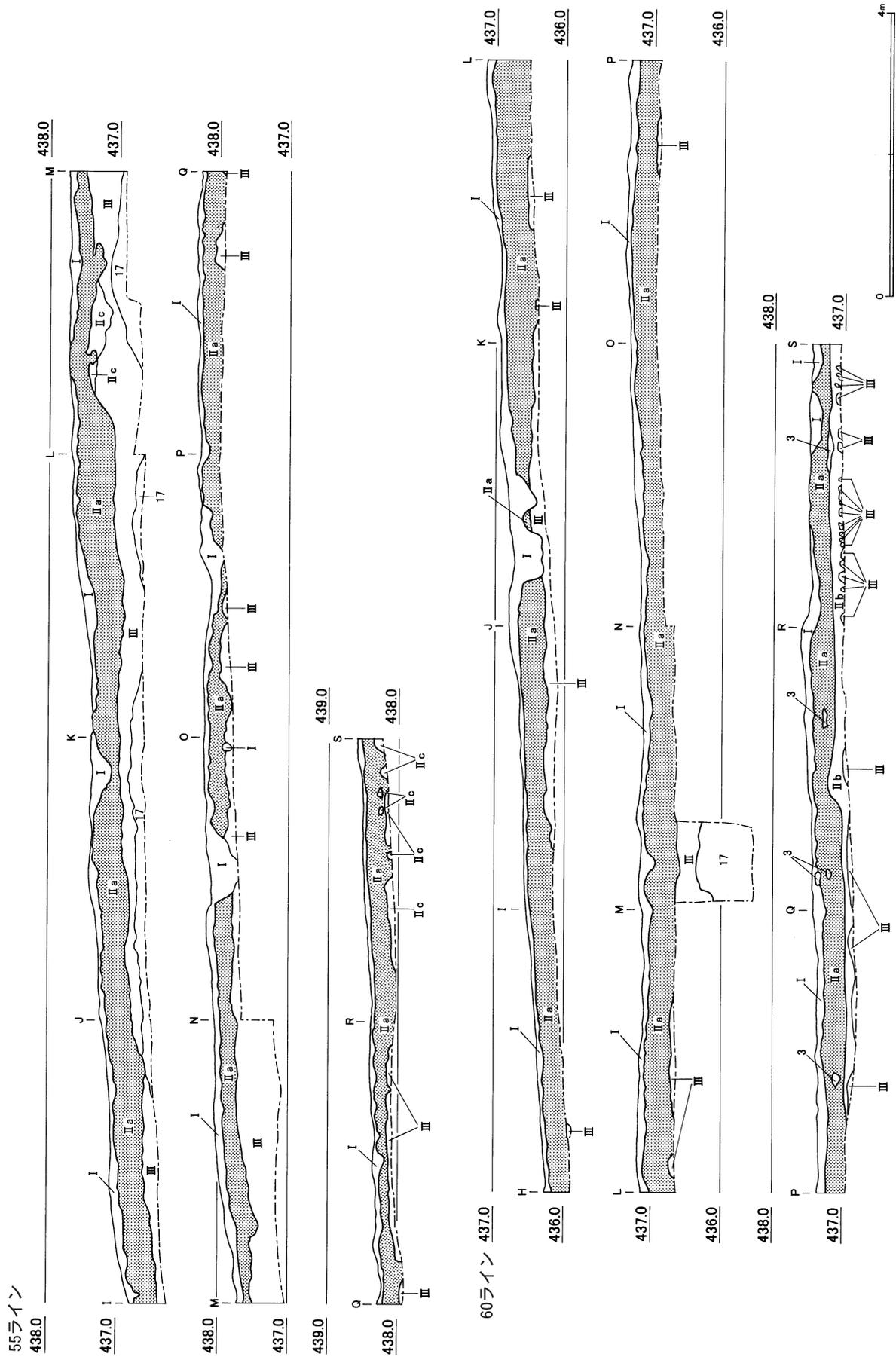
II a層はほとんどの地点で確認され、層厚は5～20cmであった。II a層の下にはII b層が安定して堆積し、III層上面から伸びる深さ1 m弱のクラックにII b層が落ち込んでいる。II b層の下にはII c層・III層と続き、III層の下部は波状になっている。さらに16層(暗灰色シルト)・17層(褐色シルト+礫)・22層(暗褐色砂質シルト+礫)・23層(茶褐色砂混じりシルト)がみられ、上白滝面の段丘礫層である24層に到達する。17層・22層はマトリックスの多い礫層で、どちらも斜面堆積物とみられる。23層は砂とシルトの互層で、段丘面が離水する直前の水成堆積層と思われる。

**低位部**

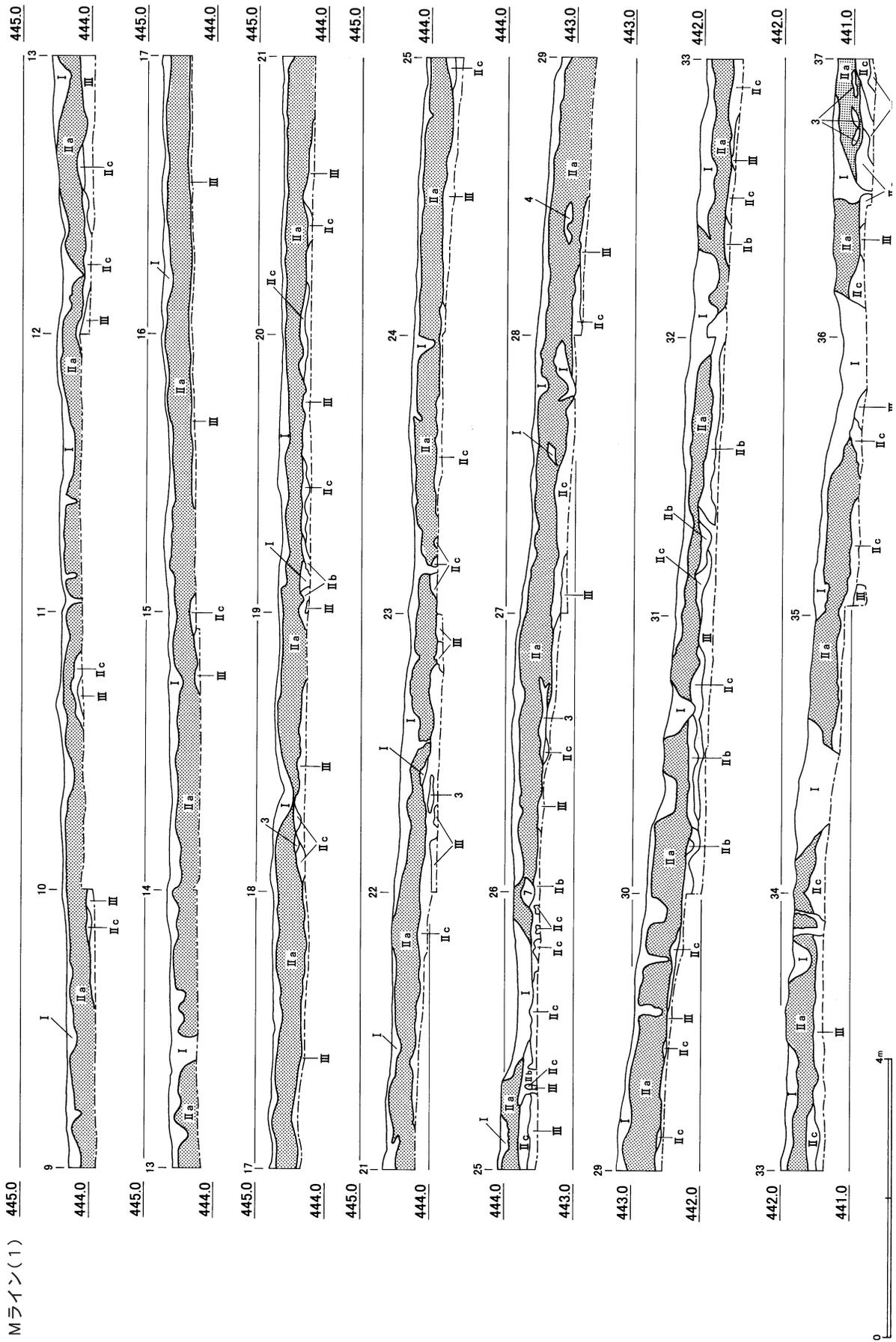
低位部は東白滝面にあたり、85区～121区までの東西約150mに及ぶ。高位部に近い西側の90区付近までは比較的II a～II c層の堆積状況が良好であった。高位部に比べII a層が薄く、部分的にII b、II c層がみられる。III層の下には25層(段丘礫層に至る漸移層)が確認された。90区以東は表土の直下に25層が確認されている(図版17-2)。以下86ライン、Mラインの順に詳しく説明を行う。



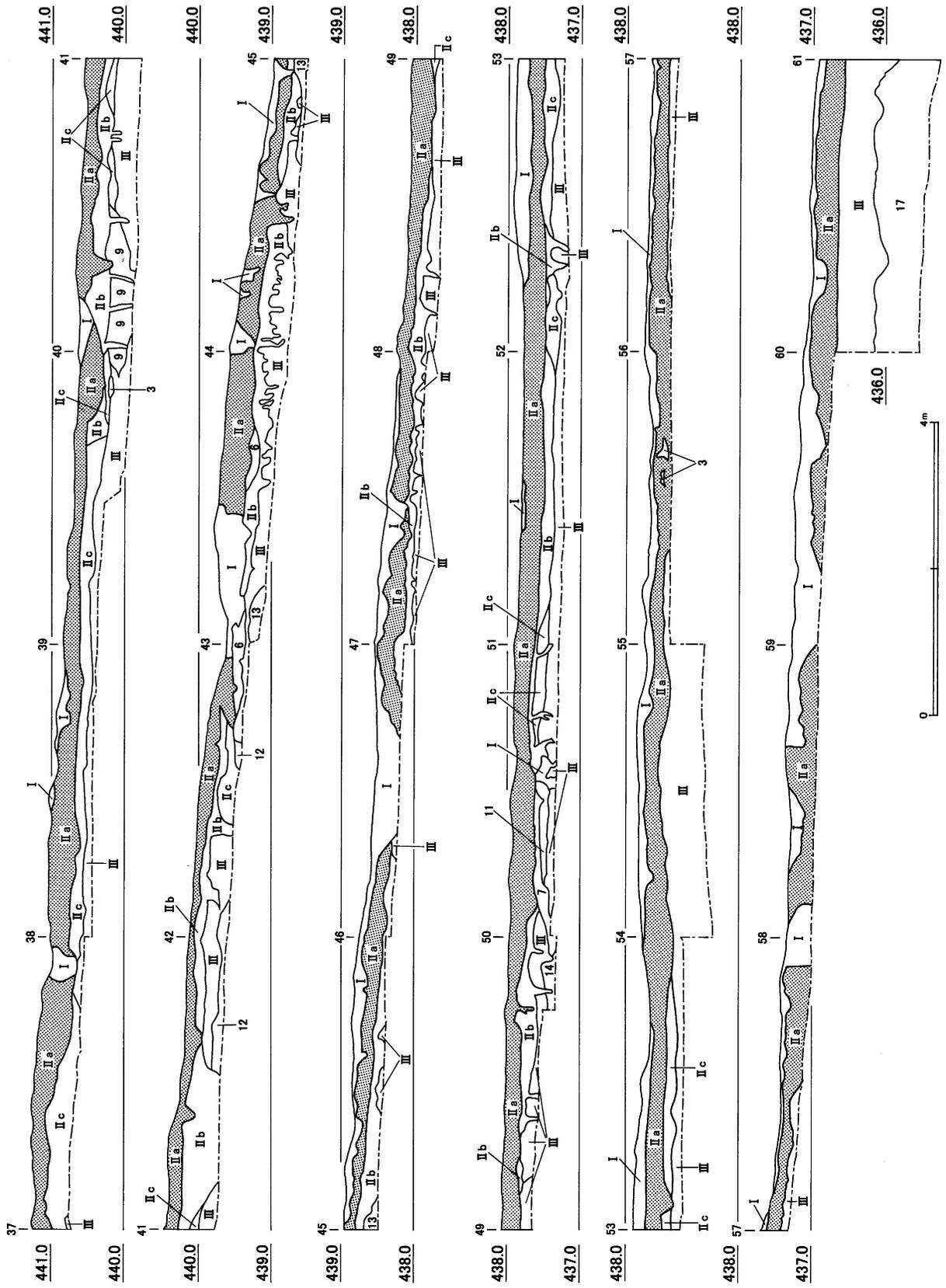
図IV-5 土層断面図 (1)



図IV-6 土層断面図(2)

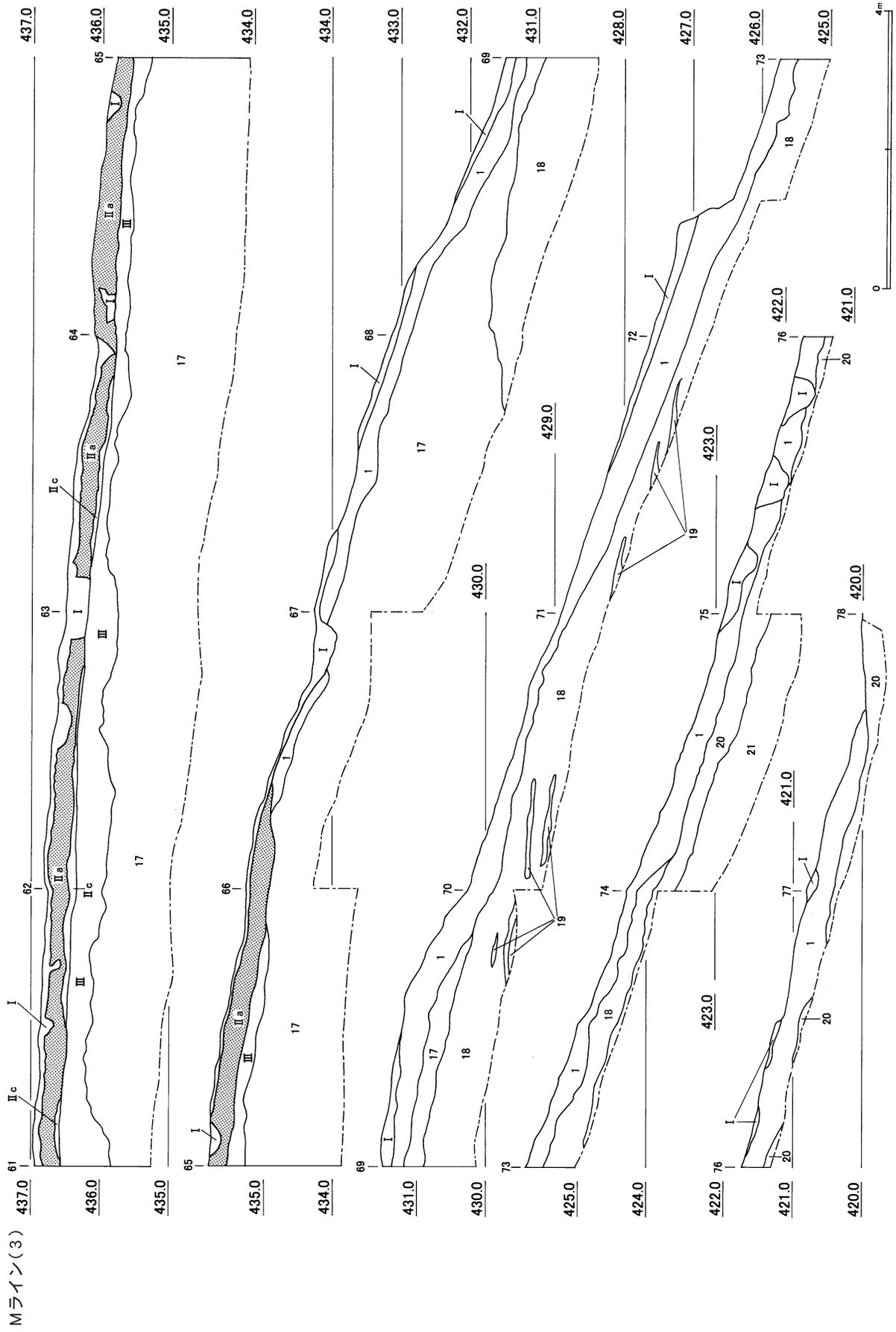


図IV-7 土層断面図 (3)

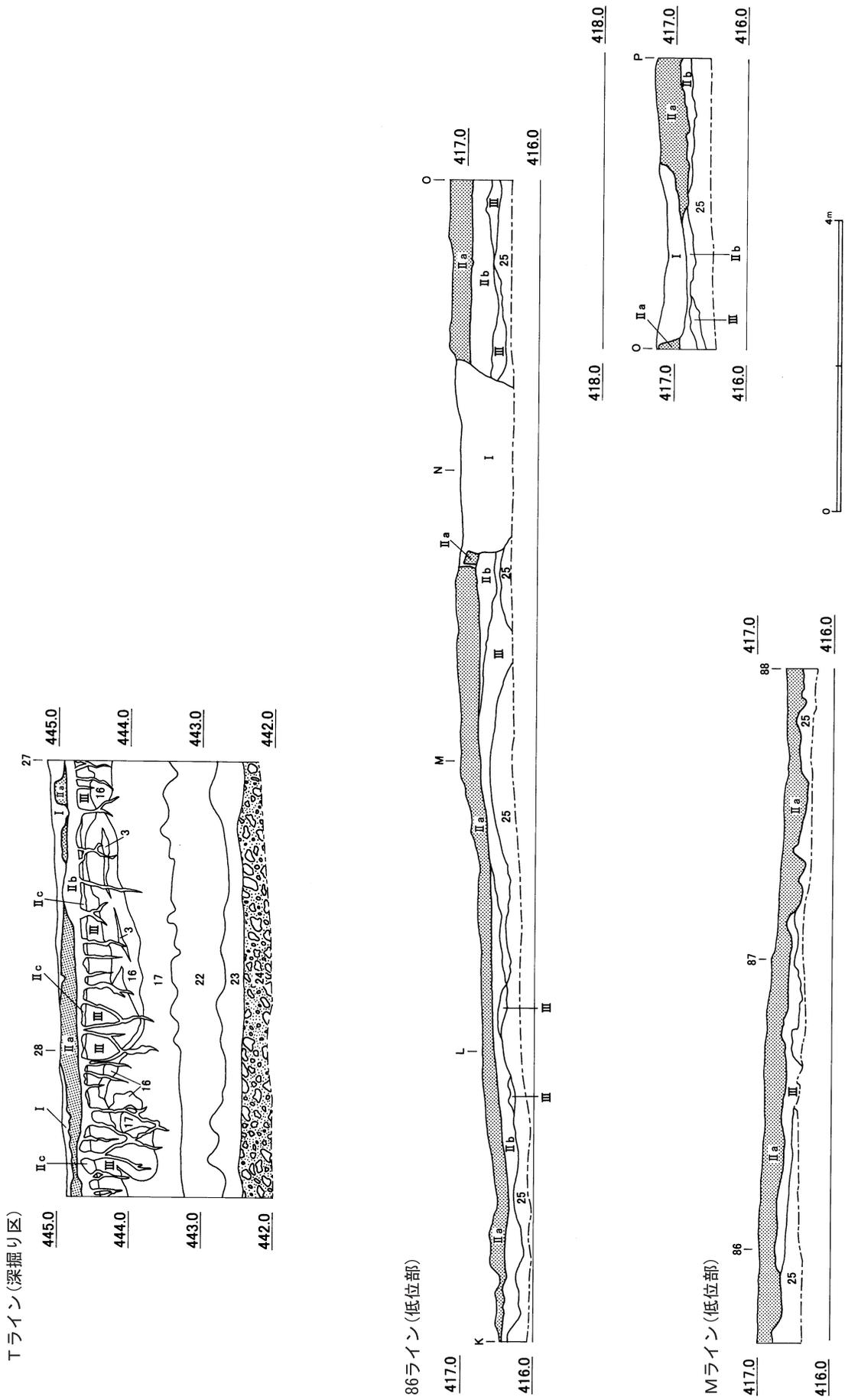


マライン(2)

図IV-8 土層断面図(4)



図IV-9 土層断面図 (5)



図IV-10 土層断面図(6)

### 86ライン（図Ⅳ－4・10）

北へ向かってなだらかに傾斜する地形で、Ⅱ a層はほとんどの地点で連続的に確認されたが、N・O区付近には木根による攪乱がみられた。層厚は5～30cmであった。Ⅱ a層の下には全体的にⅡ b層が堆積し、Ⅲ層・25層（灰褐色砂質土+礫）と続いている。M区付近ではⅡ b層がみられず、Ⅱ a層の直下にⅢ層が堆積している。

### Mライン（低位部）（図Ⅳ－4・10）

東に向かってなだらかに傾斜する地形で、Ⅱ a層は各区で安定して堆積している。層厚は10～30cmであった。Ⅱ a層の下にはⅢ層・25層（灰褐色砂質土+礫）と続くが、87区ではⅡ a層の直下に25層が確認されている。さらに東側になると、Ⅱ a層が薄くなっていき、表土の直下に25層が堆積している。（直江康雄）

## （6）調査の方法

調査区全域は山林であったが、試掘調査時点にすでに立木の伐採は終了していた。したがって、調査は重機による笹根の除去や伐根からスタートした。ただし、笹根に混じって遺物が確認されたところでは除去は最小限にした。また、重機で除去した笹根混じりの表土についても可能な限り遺物採取を行った。

平成7年度の調査はまず道路東側の低位面について調査を行い、次に遺跡主体部の高位面の調査へ移行した。重機によって除去した表土や人力によって調査した排土などは用地の外に搬出することができなかったため、用地内での移動を行い調査を展開した。平成7年度においては西側に次年度以降の調査区域の空間があったので、そこを表土・排土の堆積場所とした。また、道路に接した斜面部は通常的人力による調査が不可能であったため、重機によって発掘区単位で土壌を掘り上げ、その後人力による遺物採取という調査方法を採用した。そして調査終了後は排土場所として利用した。また、遺物包含層が全く無く、遺物も出土しなかった低位部の大部分については重機による表土除去と土層確認トレンチの掘削で調査を終了した。

平成8年度の調査区は東西260mという長い状況であったため、同時の全面展開は困難であった。平成7年度の調査区に隣接する東側については、調査完了区域に表土・排土を堆積することができたが、西側については大きく南北に分け、さらにそれらをいくつかのブロックに分け、表土と排土の移動を行い、排土の運搬距離をできるだけ短くするように配慮しながら調査を進めた。

調査は基本的に、分割された区域ごとに、重機による表土除去、杭打ち、25%調査、包含層調査の順に進めた。排土と表土に関しては調査終了区域の拡大とともに移動を重ね、できるだけ調査区域の近くに排土場所を確保しながら調査を展開した。

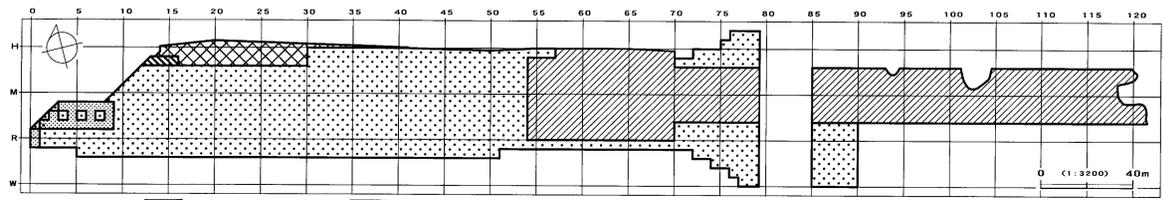
平成9年度の調査区は遺跡の西端で、平成8年度に調査を終了することができなかった区域である。

平成10年度の調査は、沢に面した道路法面の掘削区域の拡大に伴うもので、僅かの面積の調査であった。

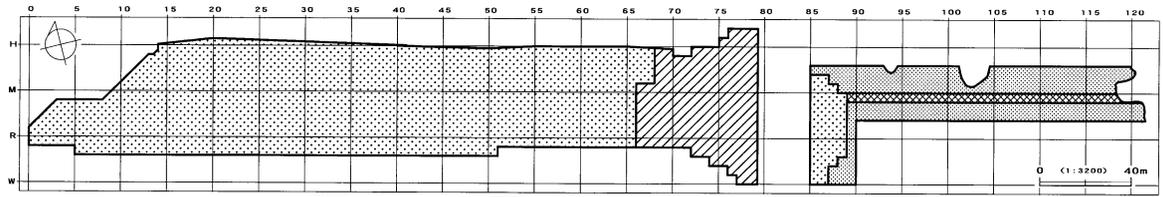
調査区域の範囲は、平成7年度時点では用地内全域であったが、平成8年度以降は詳細設計が決まったことを受け、工事がおよぶ範囲をカバーする形で、発掘区の区切りが良い範囲とした。

平成12年度の防雪柵建設に伴う調査区は用地境界の北端幅3mで、平成8年度の本線部分調査区との間に残地ができることとなったが、遺物が連続的に出土していることや工事による包含層への影響を考え、委託者と道教委の同意を得て記録保存の措置をとった。

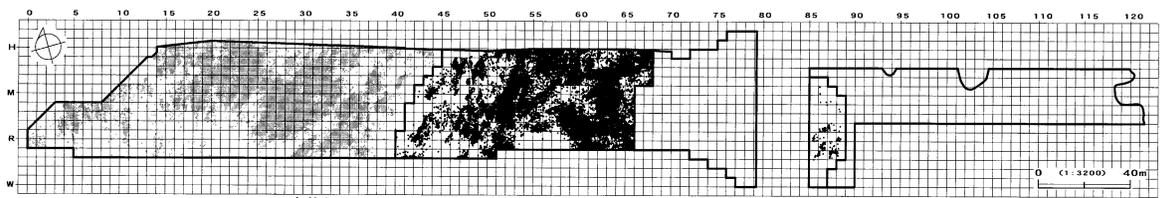
遺物の取り上げは、他の遺跡と同様に、Ⅰ層（表土および耕作土）については発掘区単位で一括し



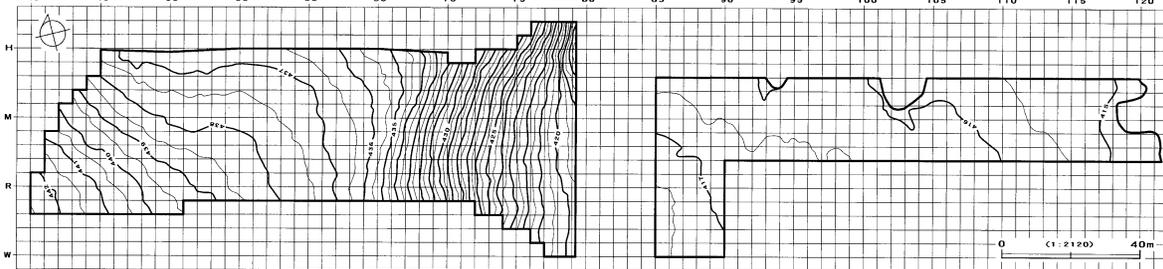
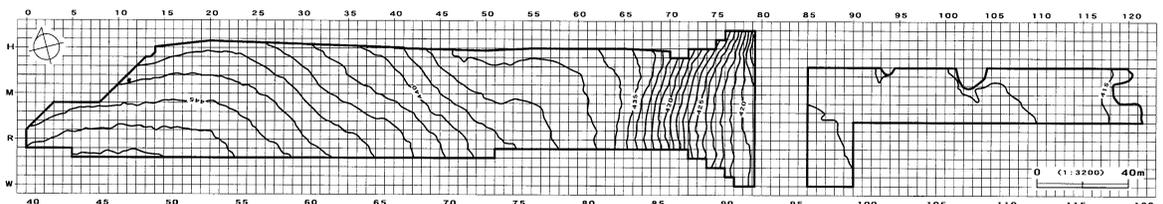
年度別調査範囲図  
 平成7年度調査区 平成8年度調査区 平成9年度調査区 平成10年度調査区 平成12年度調査区



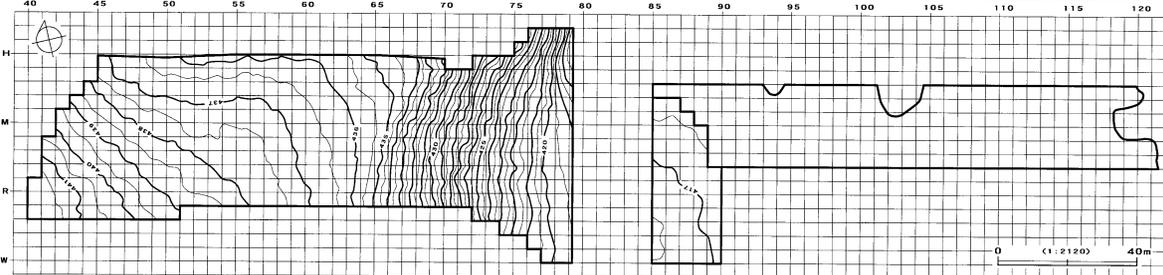
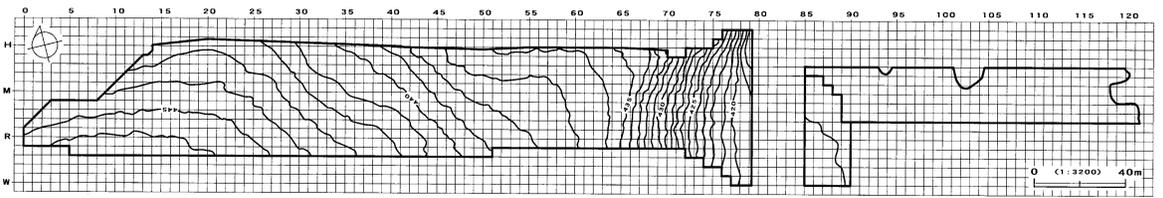
人力及び重機調査範囲図  
 人力調査範囲 重機+人力調査範囲 重機によるトレンチ調査範囲 重機調査範囲



年度別報告地区  
 高位部 斜面部 低位部  
 次年度以降報告地区 今回報告地区



表土除去後の地形図



調査終了後の地形図

図IV-11 調査範囲・報告地区・発掘区域地形図

て取り上げ、遺物包含層であるⅡ層については、出土位置を可能な限り計測した。しかし、Ⅱ層の遺物でも指先より小さい剥片類については、発掘区単位で一括して取り上げた。出土位置の記録はトータル・ステーションを使用し、さらに遺構・遺物データシステム（シン技術コンサルタント）にデータを蓄積すると同時に毎日遺物一覧表とドットマップ（分布図）を作成し、データのチェックと遺物の分布状況を把握しながら調査を進めた。調査終了時の各年度のデータ数は、平成7年度53,254件、平成8年度149,555件、平成9年度3,261件、平成10年度838件、平成12年度9,705件、合計216,613件である。（長沼 孝）

## （7）整理の方法

遺物の水洗作業は、基本的に現地で行った。その後、札幌の整理作業所に運び、注記などの整理作業を開始した。

遺物の整理作業は、他の遺跡と同様に点取り遺物と一括遺物に分けて進めた。点取り遺物は注記後に、器種分類、重量計測、石質、残存状況、打点・自然面・被熱の有無など一次の属性観察を行い、次に接合・実測などの二次整理作業を進めた。遺物の注記は、道教委の登載番号、発掘区、遺物番号の順としたので、上白滝8遺跡、H54区出土、遺物番号123の石器の場合は「91H54・123」となる。なお、平成7年度は遺跡名を白滝第13地点遺跡と認識していたため、登載番号の注記が1となっている。また、一括遺物は、定形的なものや点取り遺物と接合したものを抽出し、台帳を作成した。したがって、その注記は、点取り遺物と区別するため、発掘区と台帳の整理番号の間に層位を記入した。例えば、L60区、Ⅰ層出土、台帳番号5の石器は、「91（1）L60・Ⅰ・5」となる。

水洗後に精査し、地山に含まれている自然礫や黒曜石の原石を除いた結果、今回報告対象である東地区の点取り遺物は最終的に89,310点（「白滝Ⅰ群」：7,090点、「白滝Ⅰ群」以外：82,220点）となった。

遺物の接合作業は、石質、発掘区、石器ブロック、石器ブロック群そして全体の順で進めた。上白滝8遺跡では、平成7年度の整理作業時より「白滝Ⅰ群」を分離し、他の石器群とは独立した形で整理作業を進めた。したがって、接合番号は「白滝Ⅰ群」とそれ以外の二つの石器群に分けて、1000単位でずらして番号を付した。最終的に折れ面接合5,361例（「白滝Ⅰ群」754例：50001～50769・欠番15、「白滝Ⅰ群」以外4,607例：51001～55631・欠番24）、剥離面接合2,125例（「白滝Ⅰ群」351例：1～352・欠番1、「白滝Ⅰ群」以外1,774例：1001～2791・欠番17）となった。

接合作業は石質の類似したものを集めて行ったが、その作業中で同一母岩と認識できる接合資料・非接合資料・非接合単品石器を母岩別資料として抽出した。この作業は接合資料を中心に行ったため、母岩判別が困難であった接合数が少量の接合資料、接合資料に対応する母岩のない剥片・単品石器類が母岩別資料から漏れている。そのため、単体で搬入された石器は母岩識別が可能であっても母岩別資料には分類されていない。このような手順で母岩に分類できたもの477個体を母岩別資料とした（「白滝Ⅰ群」120母岩：1～100・459～476・478・480、「白滝Ⅰ群」以外357母岩：101～458・477・479・欠番1）。

接合に関わる点数は23,052点（「白滝Ⅰ群」：折れ面接合のみ518点、剥離面接合3,934点、「白滝Ⅰ群」以外：折れ面接合のみ4,066点、剥離面接合14,534点）で、点取り遺物の総数89,310点に対しては25.8%、点取り及び一括遺物の総数702,618点に対しては3.3%の接合率である。また、477個体の母岩別資料の点数は20,829点で、点取り遺物の総数89,310点に対しては23.3%、点取り及び一括遺物の総数702,618点に対しては3.0%の母岩抽出率である。

接合作業後は接合資料単位で剥離順による接合カードを作成し、同時に母岩別資料に含まれる接合資料・非接合剥片・非接合単品石器を記載した母岩台帳を作成した。その後、それらのデータを遺構・遺物データシステム（シン技術コンサル）に入力し、分布図等の作成に利用した。

実測図掲載の接合資料は、接合カードを用い、剥離段階毎の色分けを行い、それに従って実測図の輪郭図にスクリーントーンを振り分け、さらに剥離方向を矢印で記入して剥離模式図を作成した。原産地遺跡という性格から遺物量・接合資料数が非常に多く、接合作業以降の作業に多大な労力を要した。また、大型石器や接合資料の実測図作成に関しては写真実測を行った。大型で慎重な取り扱いが必要な写真撮影にはカメラマンの小川忠博氏とともに多くの工夫と慎重さが必要であった。また、同様に図化には多大な労力を必要とした。

本報告では、石器ブロック群・区域ごとに出土石器、分布・接合、接合資料の順で、実測図、分布図などを示した。最終的に実測図などを掲載した石器類は1,448個体、2,115点（うち写真のみを掲載したもの26個体、36点）、接合資料は225個体（うち模式図・写真を掲載したもの20個体、写真のみを掲載したもの51個体）、分布・接合図などを示した石器ブロックは63か所である。石器類の掲載割合は、点取り及び一括遺物の総数702,618点から剥片694,939点を引いた石器類7,679点に対して27.5%である。（鈴木宏行・直江康雄）

## （8）調査結果の概要

上白滝8遺跡は総点数130万点を越える大量の石器類が出土しているため高位部中央やや東よりの空白地帯を境に東西に分割し、二回に分けて報告することとした。遺構は28か所の炭化木片ブロック（Cb-1～28）が確認され、そのうち東地区に関連するのは13か所（Cb-1・2・4～8・10～15）である。そのほとんどは石器の分布と重なるが石器群の複雑さと併せてそれらと直接的に関連づけるのは困難である。遺物は全て石器類である。西地区は現在整理中であるため概数であるが、遺跡全体の点数は約135万点、重量は約3,460kg、そのうち点取り遺物は約21万点、一括ほか遺物は約114万点である。今回報告する東地区の遺物点数は702,618点、重量1,641,790.2g、そのうち点取り遺物は89,310点、一括ほか遺物は613,317点で、詳細は表IV-1に掲載している。

出土した遺物は、ほとんどが旧石器時代のものであるが、一部、石鏃・つまみ付きナイフなど旧石器時代以外の石器が混じる。東地区では、石器類を平面分布や石器の特徴から63か所のブロック、斜面部に分け、それらを14の石器ブロック群・区域に分けた。なお、石器群・区域の分類基準についてはIV章2（2）で後述する。

Sb-1～13は「白滝I群」である。石核の出土量が多く、多様な形態がみられる。剥片素材でその腹面からうろこ状の剥片を剥離する石核、剥片ないし分割礫を素材として求心状に寸詰まりの剥片を剥離する石核、素材の小口面を作業面として打面部が厚く幅の広い剥片を剥離する石核、素材の細長い面を作業面として縦長剥片を剥離する石核、交互剥離によって打面と作業面を入れ替える石核、打面転移を頻繁に行いサイコロ状の形態になる石核などがみられる。これらは石核の素材と剥離技術によってI～Ⅲ類に分類されている（IV章2（3）母岩別資料・接合資料参照）。原石の形状は転礫と角礫の二種類がみられ、転礫は各種の石核の素材となり、角礫は縦長剥片を剥離する石核との結びつきが強い。定形的な石器類は少なく、うろこ状や末端が広がる剥片または縦長気味の剥片などに軽微な二次加工が微細剥離がみられるものが多い。また、うろこ状剥片の腹面の打瘤部に平坦剥離を施した二次加工ある剥片が特徴的である。定形的な石器は錐形石器、搔器、削器がみられる。主に接合状況からSb-1～3、4～6、7・8、9、10、11～13の六つに分けられる。Sb-1～3は縁辺





に微細な剥離がみられる二次加工ある剥片の他に、うろこ状剥片の腹面の打瘤部に平坦剥離を施した二次加工ある剥片、搔器、錐形石器がみられる。原石の形状は転礫のみである。Sb - 4 ~ 6 は縁辺に微細な剥離がみられる二次加工ある剥片の他に、うろこ状剥片の腹面の打瘤部に平坦剥離を施した二次加工ある剥片、搔器、錐形石器がみられる。原石の形状は転礫と角礫の二種類がみられる。Sb - 7・8 は縁辺に微細な剥離がみられる二次加工ある剥片と搔器がみられる。原石の形状は角礫のものが主体的である。Sb - 9 は縁辺に微細な剥離がみられる二次加工ある剥片の他に、うろこ状剥片の腹面の打瘤部に平坦剥離を施した二次加工ある剥片がみられる。原石の形状は転礫のみである。Sb - 10 は縁辺に微細な剥離がみられる二次加工ある剥片の他に、錐形石器、搔器、削器がみられる。原石の形状は転礫のみである。Sb - 11 ~ 13 は縁辺に微細な剥離がみられる二次加工ある剥片の他に、錐形石器がみられる。原石の形状は転礫のみである。

A ~ F 区、斜面部、Sb - 62・63 は「白滝 I 群」以外の石器群である。A ~ F 区、斜面部には接合関係がみられ、それぞれに複数の石器群が重複する部分があると考えられる。ここでは特徴的な石器を記述するにとどめる。A 区では峠下技法関連資料、I・II 類の舟底形石器、彫器などが、B 区では大型尖頭器、大型の II 類の舟底形石器、大型石刃などが出土している。C 区では尖頭器、峠下技法関連資料、舟底形石器などが、D 地区では尖頭器、I・II 類の多くの舟底形石器、彫器が出土している。E 区では尖頭器、舟底形石器などが出土している。他地区では石刃の大小に関わらず単剥離打面から頭部調整を伴う石刃技法が主体的であるが、E 区では横位の裏面調整のある石刃核から打面調整を施す石刃剥離が行われるのが特徴である。F 区では広郷型ナイフ形石器などが出土し、斜面部では峠下型・幌加型・美利河型類似・蘭越型類似の各種細石刃核が出土している。Sb - 62・63 は低位部の石器群である。表土から出土した石鏃 1 点以外は剥片で縄文時代の石器ブロック群と考えられる。

西地区は、I 類の舟底形石器を含む石器群、広郷型ナイフ形石器を含む石器群、幅広有舌尖頭器石器群、「白滝 I 群」などが確認されているが、東地区同様それらは部分的に重複している。これらについては、現在整理作業中であり、報告は来年度以降の予定である。(鈴木宏行・直江康雄)

## 2 遺構と遺物

確認された遺構は炭化木片ブロックのみで、遺跡全体で 28 か所、そのうち東地区 11 か所である。今回は西地区の東端に位置する Cb - 14・15 も東地区に関連すると考え、併せて報告する。

確認された遺物は全て石器類で、分布状況・石器組成から 63 の石器ブロックを認定し、接合関係・石器組成を中心として 14 の石器ブロック群・区域に分けた。遺物の記述は高位部、斜面部、低位部の順で行い、高位部に関しては石器ブロック群・区域毎に Sb - 1 ~ 3、4 ~ 6、7・8、9、10、11 ~ 13、白滝 I 群ブロック外、A 区 (Sb - 14 ~ 19)、B 区 (Sb - 20 ~ 29)、C 区 (Sb - 30 ~ 35)、D 区 (Sb - 36 ~ 55)、E 区 (Sb - 56 ~ 60)、F 区 (Sb - 61)、I 群以外ブロック外、表土 (重機調査) の順に行う。

### (1) 炭化木片ブロック

炭化木片ブロックは遺跡全体で 28 か所検出された。そのうち今回報告対象である Cb - 1・2・4 ~ 8・10 ~ 15 は、すべて高位面の土白滝面上にある。炭化木片ブロック内には焼土が伴わず、堆積している土層の中に炭化木片がまとまっている状態であった。ブロックの中心部の土層は、炭化木片と

表IV-3 上白滝8遺跡東地区炭化木片ブロック一覧

	層位	土 壤		炭化物 重量(g)	石 器		14C年代 (yBP)		
		体積(cc)	重量(g)		点数	重量(g)			
Cb - 1		-	-	23.9	-	-	12460±60	12420±100	
Cb - 2	(1)	2200	2000	0.6	1	0.1			
	(2)	2800	2800	3.1	2	0.2	18570±60		
	(3)	400	400	1.0	0	0.0			
	(4)	800	800	3.5	0	0.0			
	(5)	300	400	2.0	0	0.0			
	(6)	100	200	0.4	0	0.0			
	(7)	9900	10900	16.1	2	0.1			
	(8)	3100	3200	4.6	4	0.1			
	計	19600	20700	31.3	9	0.5			
Cb - 4		100	200	0.5	1	0.1	13780±100		
Cb - 5		2100	2000	2.2	0	0.0			
Cb - 6		33400	34200	90.4	17	0.7	18650±160	18780±160	
Cb - 7		200	300	0.6	0	0.0			
Cb - 8		100	200	0.2	0	0.0			
Cb - 10		3000	3500	1.3	3	0.2	17940±180		
Cb - 11	(1)	1700	1900	1.7	3	0.1	18760±170		
	(2)	700	700	1.4	5	0.1			
	(3)	500	600	1.2	3	0.1			
	計	2900	3200	4.3	11	0.3			
Cb - 12		600	800	0.8	1	0.1			
Cb - 13	(1)	6400	6200	8.1	1	0.1			
	(2)	1000	900	1.8	0	0.0			
	(3)	42700	40000	51.3	4	0.3	27500±470		
	(4)	9100	9100	7.6	0	0.0			
	(5)	上	23900	22300	29.8	0	0.0	26900±120	
		中	48600	46300	120.7	1	0.1	27600±130	
		下	3100	2800	28.8	0	0.0	26390±480	
		単一	13000	12900	68.0	2	0.2	27690±320	
		上中間	1600	1700	1.9	0	0.0		
		中下間	1500	1400	0.7	0	0.0		
単一層下	14600	15300	7.6	0	0.0				
計	165500	158900	326.3	8	0.7				
Cb - 14		1000	900	5.8	1	0.1	21980±210	24340±160	
Cb - 15		23400	25400	20.1	6	0.3	14030±110	13930±50	

同様のやや暗褐色となっていることが特徴である。全体的な傾向としてQ50区を中心とした標高438～440mの北東側に傾斜する緩斜面上にまとまって分布している。石器ブロックとの位置関係は遺物集中域に重なるように分布するもの(Cb-2・4・6・11・13)、遺物集中域の縁辺部に分布するもの(Cb-1・5・7・8・10・12)、遺物集中域から離れて分布するもの(Cb-14・15)に分けられ、遺物集中域近辺に多い。

炭化木片ブロックの土壌はすべて採取し、体積と重量を計測後、フローテーション作業を行った。選別後の集計結果は表IV-3のとおりである。炭化木片のうち5mm以上の大きさがあるものはすべて樹種同定を行った。結果はすべてトウヒ属などの針葉樹であり、当時の植生は針葉樹の散生する森林ツンドラと推定された(表IV-4)。詳細については『白滝遺跡群Ⅲ』のV章3(三野 2002)に掲載している。また、炭化木片ブロックごとにAMS法による放射性炭素年代の測定を行った。年代の測定結果は、大まかに12,400～12,500yBP(Cb-1)、13,500～14,000yBP(Cb-4・15)、17,900～19,000yBP(Cb-2・6・10・11)、21,900～24,500yBP(Cb-14)、26,000～28,000yBP(Cb-13)に分けられ、18,000yBP前後の測定値が多い。なお、Cb-5・7・8・12は炭化木片が微量で、周辺の炭化木片ブロックの年代値が均質であったため測定を行っていない。年代測定結果の詳細

表IV-4 上白滝8遺跡東地区出土炭化材樹種同定結果一覧（三野 2001）

試料番号	炭化木片ブロック	樹種
1	Cb - 1	カラマツ属 Larix sp. ?
2	Cb - 1	カラマツ属 Larix sp.
3	Cb - 1	トウヒ属 Picea sp. ?
4	Cb - 2 (2)	カラマツ属 Larix sp. ?
5	Cb - 2 (2)	試料微少のため同定不能
6	Cb - 2 (2)	試料微少のため同定不能
7	Cb - 2 (2)	試料微少のため同定不能
14	Cb - 6	-
15	Cb - 6	カラマツ属 Larix sp. ?
16	Cb - 6	カラマツ属 Larix sp. ?
17	Cb - 6	試料微少のため同定不能
18	Cb - 6	針葉樹
19	Cb - 6	カラマツ属あるいはトウヒ属
20	Cb - 6	針葉樹
22	Cb - 13 (上層)	試料微少のため同定不能
23	Cb - 13 (中層)	針葉樹
24	Cb - 13 (下層)	針葉樹
25	Cb - 13 (下層)	試料微少のため同定不能
26	Cb - 13 (下層)	針葉樹
27	Cb - 13 (下層)	針葉樹
28	Cb - 13 (下層)	針葉樹
29	Cb - 13 (下層)	針葉樹
30	Cb - 13 (上下単一層)	試料微少のため同定不能

はⅦ章1に掲載している。

#### Cb - 1 (図IV - 13、表IV - 3)

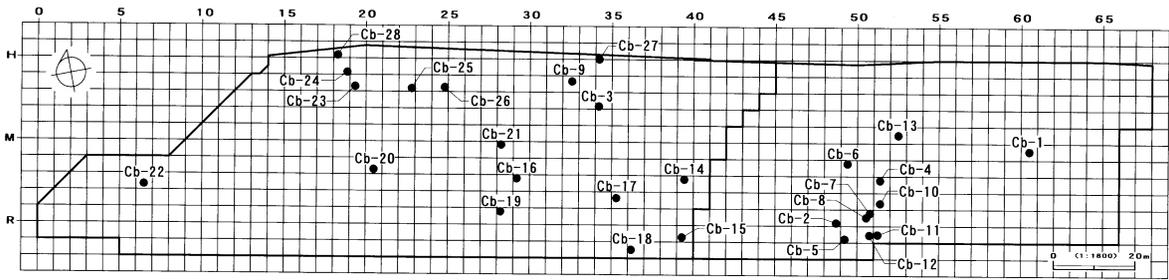
M60区、Sb - 5・19西部の遺物が散漫な地点から90×80cmの不整円形の範囲、厚さ6cmで確認された。周辺にも不定形の範囲で炭化木片が散在しており、その範囲を破線で示した。検出面はⅡa層中である。ブロック全体の土壌を採取し、23.9gの炭化木片を回収した。得られた炭化木片のうち2点について放射性炭素年代測定を行い12,460±60yBP (Beta - 101787・試料No. 1)、12,420±100yBP (Beta - 112894・SHIRA - 22)の測定結果が得られた。

#### Cb - 2 (図IV - 13、表IV - 3)

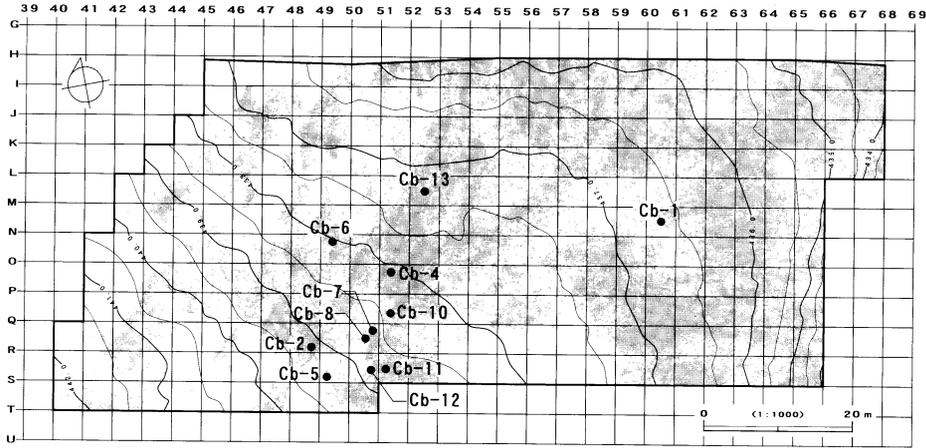
Q・R48区、Sb - 53の遺物集中域の下部から280×115cmの範囲で炭化木片が散在しているのが確認された(破線部)。検出面はⅡa層の下部である。調査の進行と共に近接した2か所のブロックとなり、(1)・(2)を設定した。

(1)は105×45cmの楕円形の範囲で、厚さは5cmであった。採取した土壌は10,900gで16.1gの炭化木片を回収した。(2)は70×20cmの楕円形の範囲で、厚さは4cmであった。採取された土壌は3,200gで4.6gの炭化木片を回収した。なお散在部からは6,600gの土壌を採取し、10.6gの炭化木片を回収した。

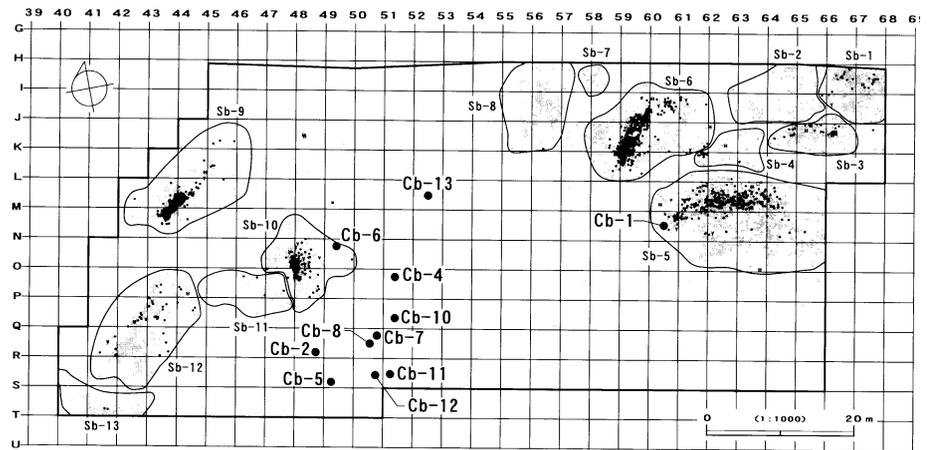
得られた炭化木片のうち1点について放射性炭素年代測定を行い、(2)のサンプルに18,570±60yBP (Beta - 101788・試料No. 2)の測定結果が得られた。



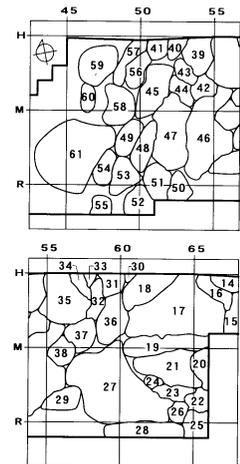
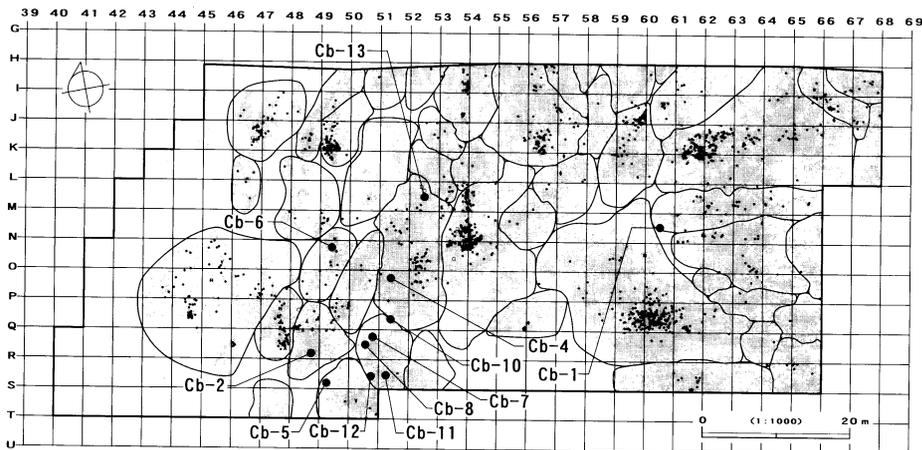
炭化木片ブロック位置図



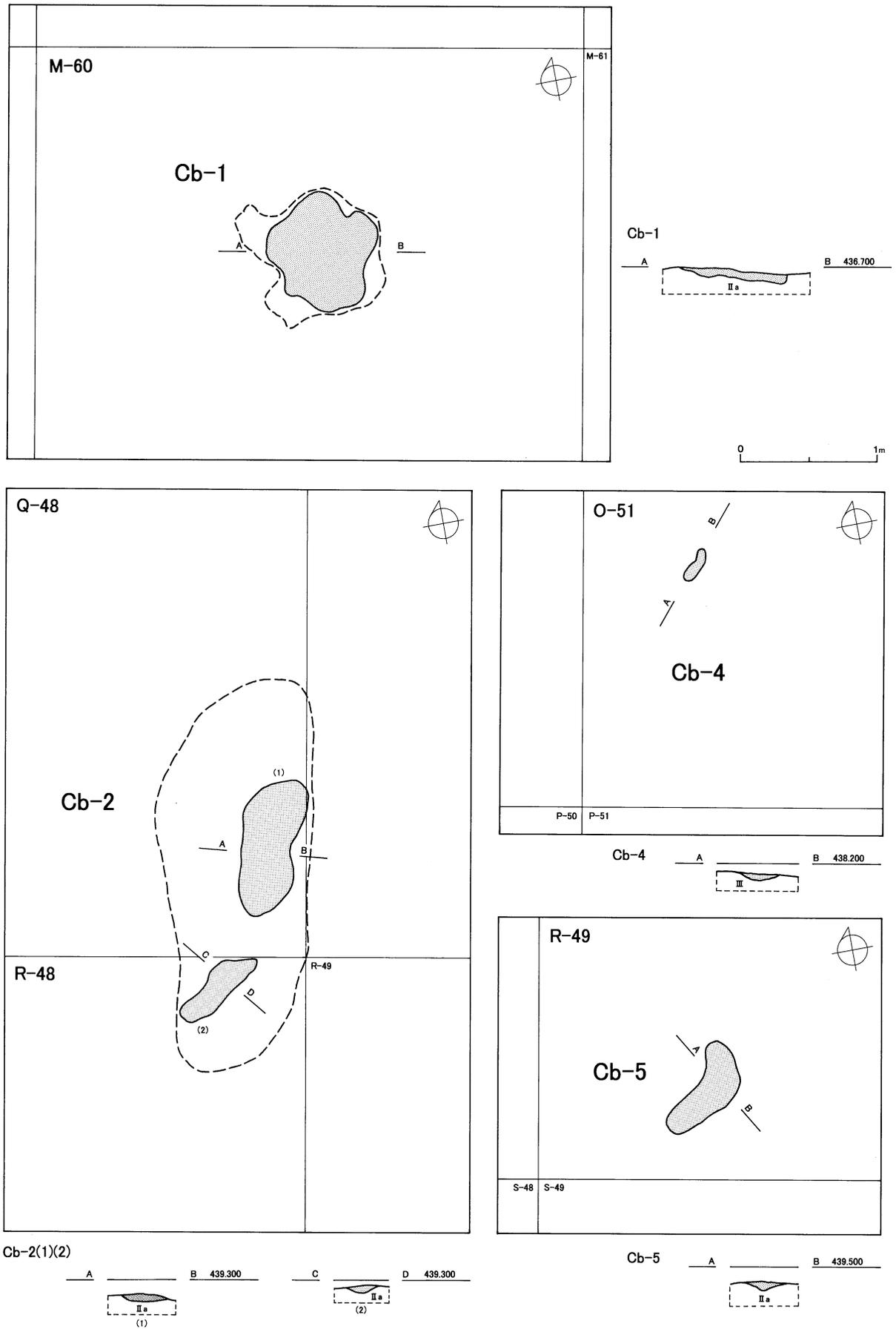
Sb-1~13の被熱石器と炭化木片ブロック



Sb-14~61の被熱石器と炭化木片ブロック



図IV-12 炭化木片ブロック分布図



図IV-13 炭化木片ブロックの平面・断面図(1)

**Cb-4** (図IV-13、表IV-3)

O51区、Sb-47の遺物集中域の下部から25×8 cmの楕円形の範囲、厚さ3 cmで確認された。検出面はⅢ層の上面である。採取された土壌は200gで0.5gの炭化木片を回収した。得られた炭化木片のうち1点について放射性炭素年代測定を行い13,780±100yBP (Beta-126162・SHIRA-51)の測定結果が得られた。

**Cb-5** (図IV-13、表IV-3)

R49区、Sb-52の西側縁辺部の遺物が希薄になる地点から75×25cmの「へ」の字形の範囲、厚さ6 cmで確認された。検出面はⅡ層の下部である。採取された土壌は2,000gで2.2gの炭化木片を回収した。

**Cb-6** (図IV-14、表IV-3)

M・N49区、Sb-10の東側縁辺部の遺物が希薄になる地点、Sb-49の遺物集中域の下部から130×75cmの楕円形の範囲で確認された。厚さは最大で12cm、検出面はⅡa層の下部である。採取された土壌は34,200gで90.4gの炭化木片を回収した。得られた炭化木片のうち2点について放射性炭素年代測定を行い18,650±160yBP (Beta-112895・SHIRA-23)、18,780±160yBP (Beta-112896・SHIRA-24)の測定結果が得られた。

**Cb-7** (図IV-14、表IV-3)

Q50区、Sb-51の遺物集中域の北側から15×15cmの円形の範囲、厚さ3 cmで確認された。検出面はⅡa層下部である。採取された土壌は300gで0.6gの炭化木片を回収した。

**Cb-8** (図IV-14、表IV-3)

Q50区、Sb-51の遺物集中域の西側から10×10cmの円形の範囲、厚さ3 cmで確認された。検出面はⅡa層下部である。採取された土壌は200gで0.2gの炭化木片を回収した。

**Cb-10** (図IV-14、表IV-3)

P51区、Sb-47と51の境目から50×20cmの不整な楕円形の範囲、厚さ8 cmで確認された。検出面はⅡa層である。採取された土壌は3,500gで1.3gの炭化木片を回収した。得られた炭化木片のうち1点について放射性炭素年代測定を行い17,940±180yBP (Beta-112899・SHIRA-27)の測定結果が得られた。

**Cb-11** (図IV-14、表IV-3)

R51区、Sb-51の遺物集中域の下部から近接した三つの集中部を確認し、(1)～(3)を設定した。検出面はⅢ層上面である。

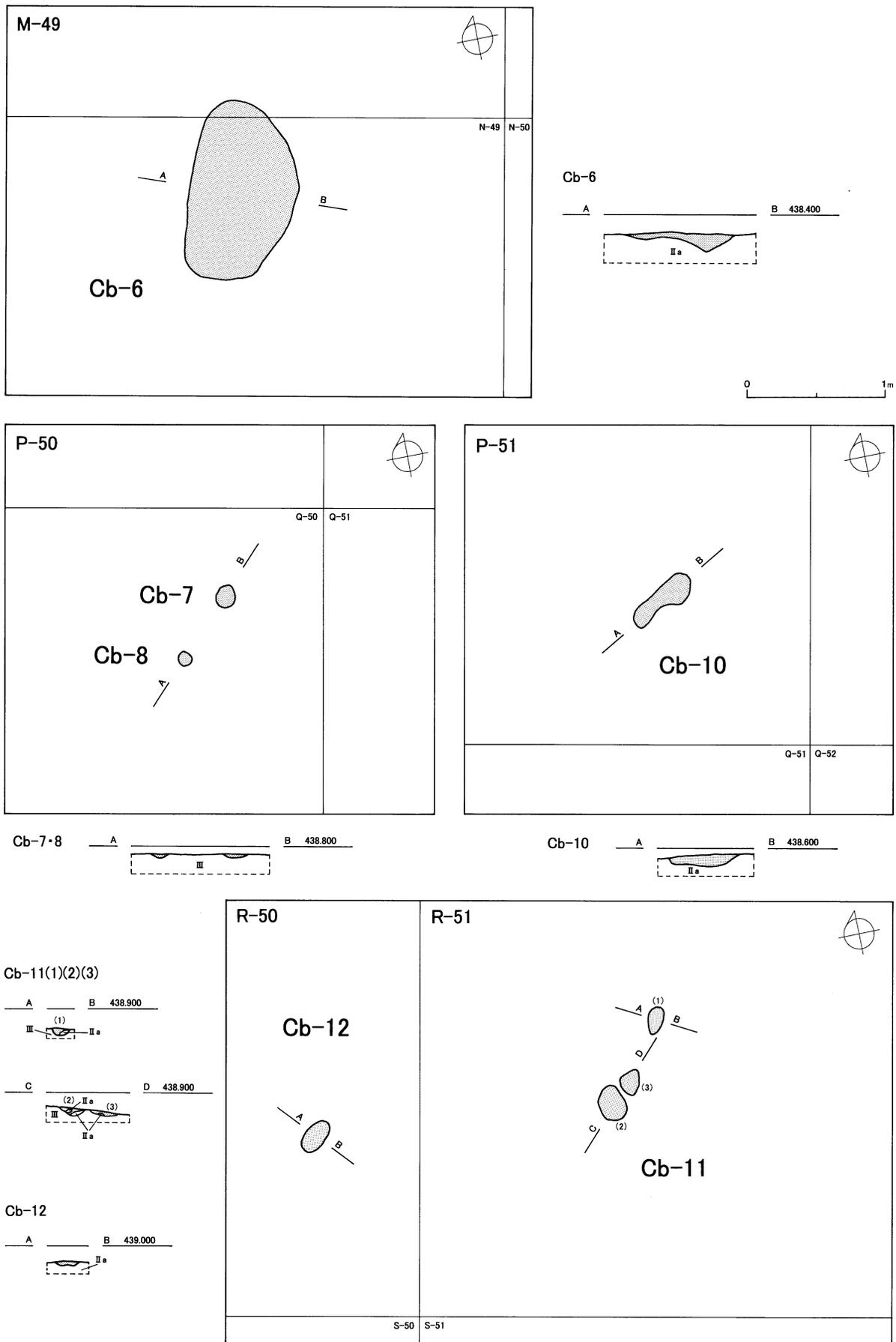
(1)は20×10cmの楕円形の範囲で、厚さは5 cmであった。採取された土壌は1,900gで1.7gの炭化木片を回収した。(2)は(1)の南西側にあり、25×20cmの長楕円形の範囲で、厚さは6 cmであった。採取された土壌は700gで1.4gの炭化木片を回収した。(3)は(2)の北東側に近接してみられ、20×15cmの不整な楕円形の範囲で、厚さは3 cmであった。採取された土壌は600gで1.2gの炭化木片を回収した。得られた炭化木片のうち1点について放射性炭素年代測定を行い、(1)のサンプルに18,760±170yBP (Beta-112900・SHIRA-28)の測定結果が得られた。

**Cb-12** (図IV-14、表IV-3)

R50区、Sb-51と52の境目から30×15cmの楕円形の範囲、厚さ3 cmで確認された。検出面はⅡa層下部である。採取された土壌は800gで0.8gの炭化木片を回収した。

**Cb-13** (図IV-15、表IV-3)

L52区、Sb-47北部の遺物集中域の下部から近接した二つの集中部を確認し、(1)・(2)を



図IV-14 炭化木片ブロックの平面・断面図 (2)

設定した。検出面はⅡa層下部である。調査の進行により(1)・(2)からややずれて新たな集中部を確認したため(3)・(4)を設定した。その後の掘り下げで、それぞれが一つの大きく深いまとまりとなり(5)を設定した。本ブロックは遺跡内はもちろん、現在まで調査された白滝遺跡群の中で最大のもので、突出した量の炭化木片が得られている。

(1)は70×10cmの長楕円形の範囲で、厚さは3cmであった。採取された土壌は6,200gで8.1gの炭化木片を回収した。(2)は(1)の北西側にあり、30×25cmの楕円形の範囲で、厚さは6cmであった。採取された土壌は900gで1.8gの炭化木片を回収した。(3)は(1)のやや南西側に一部重なるようにあり、125×20cmの長楕円形の範囲で、厚さは4cmであった。採取された土壌は40,000gで51.3gの炭化木片を回収した。(4)は(2)のやや南側に一部重なるようにあり、48×35cmの不整な楕円形の範囲で、厚さは5cmであった。採取された土壌は9,100gで7.6gの炭化木片を回収した。(5)は(3)・(4)の下部に大きく広がり240×95cmの範囲であった。断面は間層を挟み炭化木片の集中する層が、3層に分かれ、厚さは20cm程であった。採取された土壌は102,700gで257.5gの炭化木片を回収した。

得られた炭化木片のうち5点について放射性炭素年代測定を行い、(3)のサンプルに $27,500 \pm 470$ yBP (Beta - 112901・SHIRA - 29)、(5)のサンプルに $26,900 \pm 120$ yBP (Beta - 101790・No. 4)、 $27,600 \pm 130$ yBP (Beta - 101791・No. 5)、 $26,390 \pm 480$ yBP (Beta - 101792・No. 6)、 $27,690 \pm 320$ yBP (Beta - 112902・SHIRA - 30)の測定結果が得られた。

(5)を中心としたCb-13はその深さや窪みの形態から掘り込んで作られた炉の可能性を想定して調査を行った。しかし土層断面を観察すると、炭化木片の下層にあるⅡa・Ⅱc層が切られている様子がなく、ほぼ自然堆積の傾斜に沿って炭化木片がたまっていることから人為的な掘り込みではないと判断した。最終的に重機により礫層までの堆積状況の確認を行ったところ、礫層上面がⅡa・Ⅱc層、Cb-13底面のうねりと一致する堆積であったことが確認された。(図版24-2)。このことから炭化木片堆積時は窪みのある自然地形であったことが考えられ、前述の判断と矛盾しない結果となった。

#### **Cb-14** (図IV-15、表IV-3)

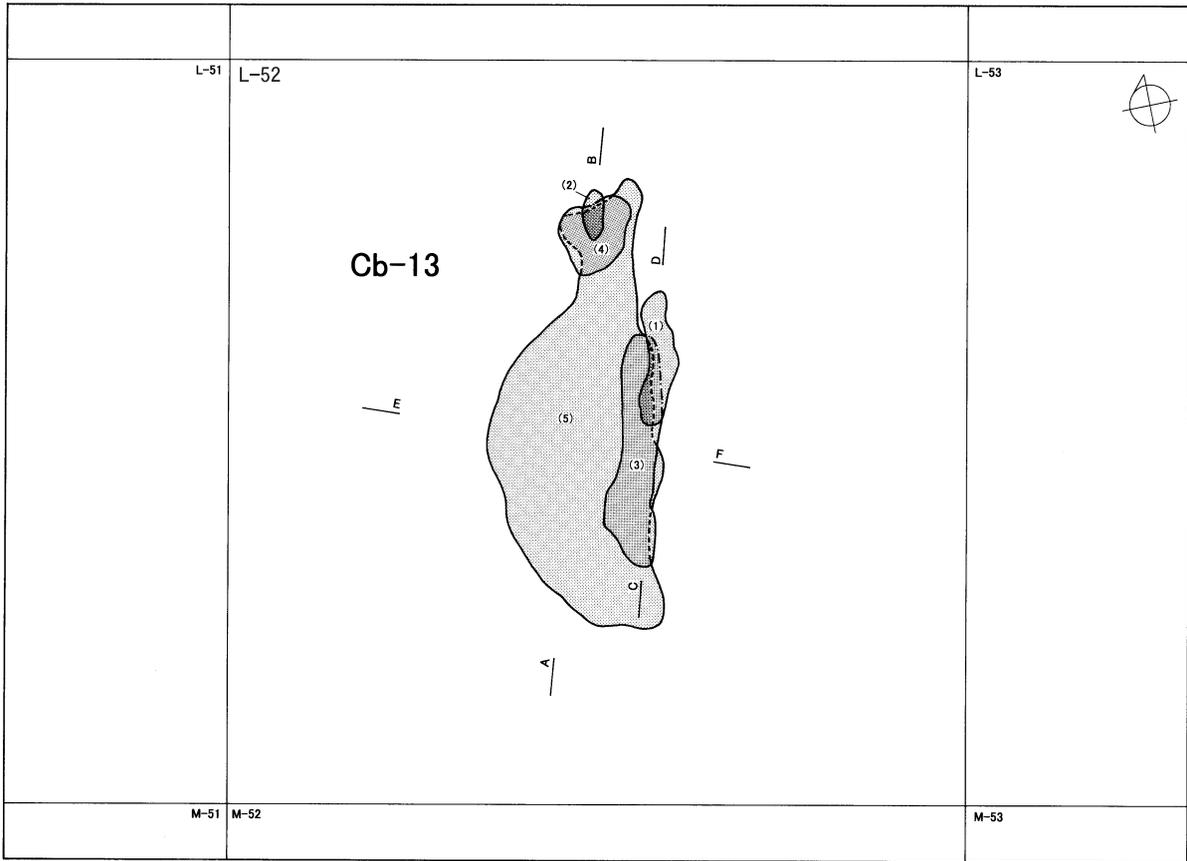
O39区、近い石器ブロックは南東側に約30m離れた「白滝I群」のSb-12と西地区の白滝I群でL37区、S36区を中心とした二つの石器ブロックである。25×13cmの不整な楕円形の範囲、厚さ4cmで確認された。検出面はⅢ層上面である。採取された土壌は900gで5.8gの炭化木片を回収した。得られた炭化木片のうち2点について放射性炭素年代測定を行い $21,980 \pm 210$ yBP (Beta - 112903・SHIRA - 31)、 $24,340 \pm 160$ yBP (Beta - 174487・SHIRA - 93)の測定結果が得られた。

#### **Cb-15** (図IV-15、表IV-3)

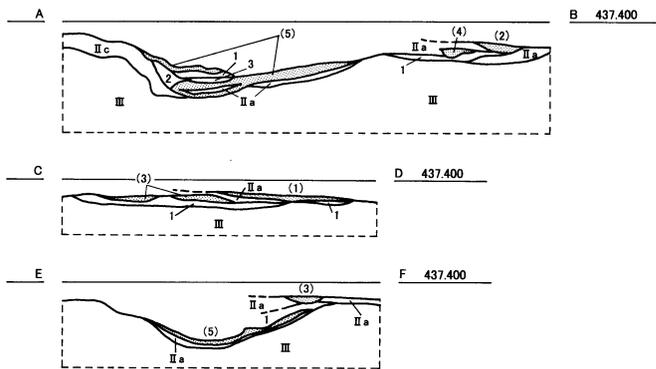
Q39区、近い石器ブロックは南東側に約10m離れた「白滝I群」のSb-13と西地区の白滝I群でS36区を中心とした石器ブロックである。73×50cmの不整な楕円形の範囲、厚さ8cmで確認された。検出面はⅢ層上面である。採取された土壌は25,400gで20.1gの炭化木片を回収した。得られた炭化木片のうち2点について放射性炭素年代測定を行い $14,030 \pm 110$ yBP (Beta - 112904・SHIRA - 32)、 $13,930 \pm 50$ yBP (Beta - 174488・SHIRA - 94)の測定結果が得られた。(直江康雄)

## (2) 遺物分布と石器ブロック・石器ブロック群・区域

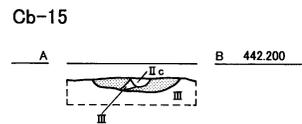
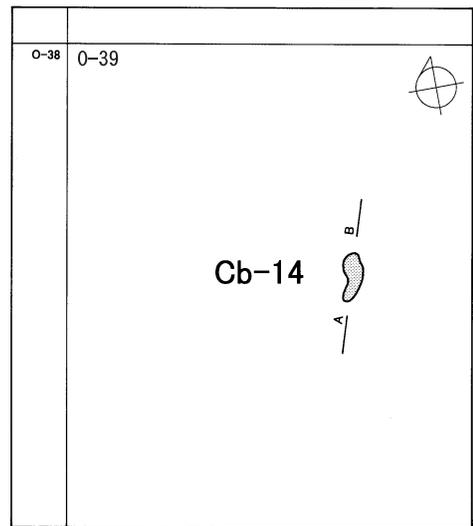
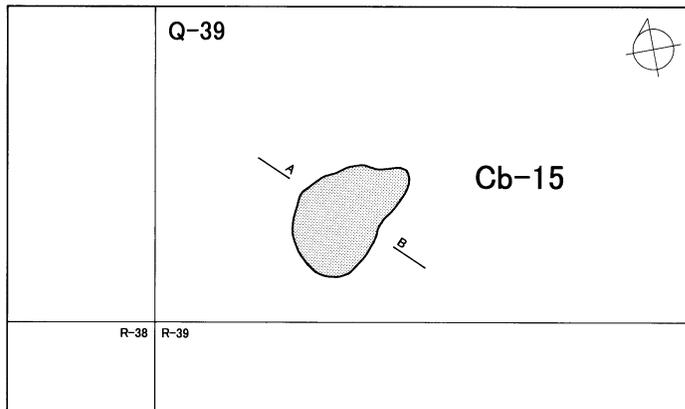
東地区の出土地点を計測して取り上げた遺物(以下点取り遺物)は89,310点である。調査区の地形は西端から緩やかに北東に向かって傾斜しているが、50ラインより東には舌状の平坦面が北東方向に



Cb-13(1)(2)(3)(4)(5)



- 1 : 褐色粘質土 炭化物を微量に含有する。IIc層起源のスコリアを若干含む。
- 2 : 暗褐色粘質土 炭化物をやや含有する。1と炭化物層との漸移的な層。直径5mm前後のオレンジ色の粘土ブロックを多く含有する。
- 3 : 褐色シルト質粘土 炭化物は含有しない。クラックによる黄褐色粘土を含むため不明瞭であるがIIc層に類似した層である。



図IV-15 炭化木片ブロックの平面・断面図 (3)

張り出し、東側は急な斜面部を挟んで低位部へと連続している。遺物集中域の形状は周水河性のソリフラクションなどの影響により、遺物の傾斜方向への移動が認められるが、本来の分布を大きく変えるものではないと考えられる。

整理作業では技術的特徴をもとに「白滝I群」を分離し、「白滝I群」とそれ以外に分けて接合作業以降の整理を行った。これらは、分布上重複する地点(Sb-1・14、3・17、5・19、6・36、8・35など)があるが、奥白滝1遺跡で確認されたレベル差(直江ほか 2001の図III-17)は確認できなかった(図IV-21)。

「白滝I群」については従来通りに遺物分布・密度分布・接合関係からブロックを13(Sb-1~13)に分け、それらを六つの石器ブロック群に分類した(図IV-16・17)。「白滝I群」以外については、白滝遺跡群の既報告の遺跡と比較して高密度の分布域が広範囲に連続し(図IV-18)、また、その連続の中に複数の石器群が重複する複雑な様相を示している。そのため、ブロック設定はそれらの連続した分布をいくつかの単位に分けて記述・把握するための手段として便宜的に行った。まず、密度分布図(図IV-18)の20点のラインで括り、それらが広範囲に及ぶ場合(Sb-17・19・21・23・24・26、30・31、33~35、39~44・46、56・57)はそのラインのくびれた部分で分割した。また、50点以下の独立した山に関しては近隣の50点以上の山に統合した。但し、Sb-61については広郷型ナイフ形石器のまとまりが確認されていたため50点以下の山であるがブロックとして認定している。その結果、48のブロック(Sb-14~61)(図IV-20)を設定した。接合関係(図IV-19)を見るとほとんどは近接した範囲で接合するが、広範囲にわたる遠距離間での接合もみられる。従来通り、接合関係で石器ブロック群の認定を行うと全てのブロックは一つの石器ブロック群に認定される。しかし、実際には特徴的な石器を基準にするとまとまりがみられ、また、近距離の接合関係と併せて六つ(A~F)の「区域」(図IV-20)に分類した。「区域」で括られた遺物の集合体は、同一の石器製作技術を持ち、同一時期の所産と考えられるまとまりである「石器ブロック群」とは異なり、純粋な石器群を反映したものではないが、複数石器群の重複の中にぼやけた実体として把握される。

低位部については遺物分布から二つのブロック(Sb-62・63)に分け、一つの石器ブロック群に認定した(図IV-20)。

以上のように東地区を63の石器ブロック(Sb-1~63)、斜面部に分け、それらをSb-1~3、4~6、7・8、9、10、11~13、A区(Sb-14~19)、B区(Sb-20~29)、C区(Sb-30~35)、D区(Sb-36~55)、E区(Sb-56~60)、F区(Sb-61)、斜面部、Sb-62・63(低位部)の15の石器ブロック群・区域に分離した。以下に、石器ブロック群・区域とブロックの関係について述べる。

Sb-1~3は「白滝I群」である。剥片の縁辺に軽微な加工を施した二次加工ある剥片を主体とし、うろこ状剥片の腹面の打瘤部に平坦剥離を施した二次加工ある剥片、搔器、錐形石器が伴出している。石核はサイコロ状のものや剥片の腹面側を求心状に剥離するものなどがみられる。原石の形状はすべて転礫である。まとまった3か所のブロックからなり、それぞれに接合関係が確認された。

Sb-4~6は「白滝I群」である。剥片の縁辺に軽微な加工を施した二次加工ある剥片を主体とし、うろこ状剥片の腹面の打瘤部に平坦剥離を施した二次加工ある剥片、搔器、錐形石器が伴出している。石核はサイコロ状のものや剥片の腹面側を求心状に剥離するもの、縦長剥片を連続的に剥離するものなどがみられる。原石の形状は転礫と角礫の二種類がみられ、後者と縦長剥片を連続的に剥離する石核との結びつきが強い。まとまった3か所のブロックからなり、それぞれに接合関係が確認された。

Sb-7・8は「白滝I群」である。加工が施された石器が少なく、剥片の縁辺に軽微な加工を施した二次加工ある剥片と搔器が出土している。石核は縦長剥片を連続的に剥離するものや剥片の腹面



表IV-6 上白滝8遺跡東地区出土点取り遺物ブロック・石質別一覧(2) ※重量の単位は(g)

石器群	Sb	石質	縦長剥片 点数 重量	石刃核 点数 重量	石核 点数 重量	細石刃剥片 点数 重量	タテ器剥片 点数 重量	その他剥片 点数 重量	剥片 点数 重量	斧形石器 点数 重量	石鏃 点数 重量	原石 点数 重量	礫石器等 点数 重量	合計 点数 重量			
Sb-1~3	1	黒曜石1	11	98.7	26	1891.8			510	12655.0				555	14957.2		
		黒曜石3							1	1.3					1	1.3	
		小計	12	109.8	27	1934.1			517	12764.5					565	15433.2	
	2	黒曜石1	1	10.3					47	994.1					57	3659.7	
		黒曜石3							2	74.6					2	74.6	
		黒曜石4			2	59.6			12	383.5					14	443.1	
		黒曜石5			1	243.6			1	7.5					2	251.1	
		めのう							1	29.7					1	29.7	
		小計	1	10.3	11	2954.2			63	1489.4					76	4458.2	
	3	黒曜石1	4	29.5	39	1056.1			160	2024.7					216	3322.8	
		黒曜石5			2	104.1			2	104.1					2	104.1	
		めのう			2	77.4			3	17.9					5	95.3	
		小計	4	29.5	41	1133.5			165	2146.7					223	3522.2	
Sb-4~6	4	黒曜石1	3	138.6	4	185.7			23	467.6				32	818.3		
		黒曜石5			1	37.0			4	34.0				5	71.0		
		小計	3	138.6	5	222.7			27	501.6					37	889.3	
	5	黒曜石1	50	3122.8	100	12393.2			1126	25788.0		18	609.8		1340	43297.3	
		黒曜石3			1	19.0			8	71.3					9	90.3	
		黒曜石4			4	179.1			11	90.8					16	295.6	
		黒曜石5	7	520.9	19	2763.8			144	5723.1		3	98.8		179	9350.4	
		小計	57	3643.7	124	15355.1			1289	31673.2		21	708.6		1544	53033.6	
	6	黒曜石1	3	71.6	91	3693.1			1360	17386.3					1528	22099.4	
		黒曜石2			1	2.7			1	2.7					1	2.7	
		黒曜石3			4	52.8			4	52.8					4	52.8	
		黒曜石4			2	222.6			27	202.0					30	446.6	
		黒曜石5			11	603.7			43	845.6					56	1493.9	
		頁岩							1	2.8					1	2.8	
		小計	3	71.6	104	4519.4			1436	18492.2					1620	24098.2	
	計	63	3853.9	233	20097.2			2752	50667.0			21	708.6		3201	78021.1	
	Sb-7-8	7	黒曜石1	5	643.7					18	2418.5				23	3062.2	
			小計	5	643.7					18	2418.5				23	3062.2	
		8	黒曜石1	43	3748.4	17	6301.8			177	12674.3		7	276.8		246	23042.6
			黒曜石3			1	13.2			1	13.2					1	13.2
			小計	43	3748.4	18	6807.9			184	13071.6		7	276.8		255	23986.5
	9	黒曜石1	48	4392.1	18	6807.9			202	15490.1		7	276.8		278	27048.7	
		計	48	4392.1	18	6807.9			202	15490.1		7	276.8		278	27048.7	
	Sb-9	9	黒曜石1			102	3383.6			1308	6562.3				1471	10326.0	
黒曜石3					1	831.5			1	5.5				1	5.5		
黒曜石5				1	96.9			9	96.9					10	928.4		
計				103	4215.1			1318	6664.7					1482	11259.9		
10		黒曜石1			23	540.1			450	2216.1				537	3149.0		
Sb-10	10	黒曜石2			2	87.4			23	87.4				31	233.8		
		黒曜石4							8	213.5				8	213.5		
	黒曜石5							5	56.7					5	56.7		
	計			25	627.5			486	2573.7					581	3653.0		
	11	黒曜石1			6	260.9			14	666.4				21	935.9		
Sb-11~13	11	黒曜石2			1	856.3			6	63.0				7	919.3		
		黒曜石3							2	20.8				2	20.8		
		黒曜石5							1	0.7				1	0.7		
		小計			7	1117.2			23	750.9				31	1876.7		
		12	黒曜石1	20	253.5	37	2467.7			435	9791.0				518	12753.7	
	13	黒曜石2							6	36.5					6	36.5	
		黒曜石3							2	22.2					2	22.2	
		黒曜石5	1	26.1	4	859.0			7	952.2				12	1837.3		
		めのう							1	1.5					1	1.5	
	14	玊岩							4	105.1				4	105.1		
	15	玊玉			1	45.8			2	8.5				3	54.3		
	小計	21	279.6	42	3372.5			457	10917.0					546	14810.6		
	16	黒曜石1	1	7.8	6	104.6			58	501.3					66	627.4	
黒曜石5								1	7.6					2	34.4		
小計	1	7.8	6	104.6			59	508.9					68	661.8			
計	22	287.4	55	4594.3			539	12176.8					645	17349.1			
Sb-14~19	14	黒曜石1	4	28.9	2	75.5	3	88.2	1352	6649.7				1367	6889.4		
		黒曜石2							1	3.4				1	3.4		
		黒曜石3								16	102.5				16	102.5	
		黒曜石4								27	244.7				30	465.6	
		黒曜石5			1	35.9	1	229.3		66	722.2				69	1091.3	
		頁岩								1	1.9				1	1.9	
		小計	4	28.9	3	111.4	4	317.5		1463	7724.4				1484	8554.1	
		15	黒曜石1	4	80.7					123	762.9				140	1145.1	
	黒曜石2								4	16.9				4	16.9		
	黒曜石3								40	198.7				42	254.7		
	黒曜石4	6	116.8						62	571.5				76	800.6		
	黒曜石5			1	83.7				1	25.5				3	139.0		
	頁岩								1	13.3				3	98.6		
	小計	10	197.5	1	83.7				231	1588.8				268	2454.9		
	16	黒曜石1	5	30.2	1	1454.5	2	968.3	1	1.6	338	3474.3			365	6341.9	
		黒曜石2								5	245.3				5	245.3	
		黒曜石3	1	4.2						30	290.3				38	603.7	
		黒曜石4	2	12.2	2	497.0	1	93.7		141	2331.9				154	3359.6	
		黒曜石5	1	33.4	2	78.1	1	479.6	2	15.7	138	1546.3			150	2492.1	
		安山岩								1	7.9				2	33.9	
		頁岩								1	2.1				3	10.4	
		めのう								1	2.1				1	26.2	
	小計	9	80.0	5	2029.6	4	1541.6	4	21.4	654	7898.1			718	13113.1		
	17	黒曜石1	79	2108.2	2	5349.9	13	12062.2	60	282.1	2	20.1			5589	59107.4	
		黒曜石2	3	34.0						39	682.0				46	797.3	
		黒曜石3	3	63.7			1	117.1	1	2.9	428	3087.7			442	3565.6	
		黒曜石4	21	525.4			2	711.9	10	30.0	1683	12504.9			1776	16611.1	
		黒曜石5	18	541.4	2	1178.3	1	2442.5	6	50.1	650	10007.1			770	17888.8	
安山岩													2	11986.9	5	12088.4	
頁岩									1	3.6				6	126.0		
玊岩									1	15.4				1	15.4		
めのう									2	19.7				3	34.9		
小計		124	3272.7	4	6528.2	17	15333.7	77	365.1	2	20.1			8393	85427.8		
18	黒曜石1	1	12.8					1	105.5			8	2557.1	146	2049.1		
	黒曜石2								1	4.8				1	4.8		
	黒曜石3													2	33.3		
	黒曜石4	1	14.3						156	1899.5				159	1937.1		
	黒曜石5			2	2812.8				21	152.8				24	2972.1		
	めのう								1	1.3				1	1.3		
泥岩								1	1.3				1	1.3			



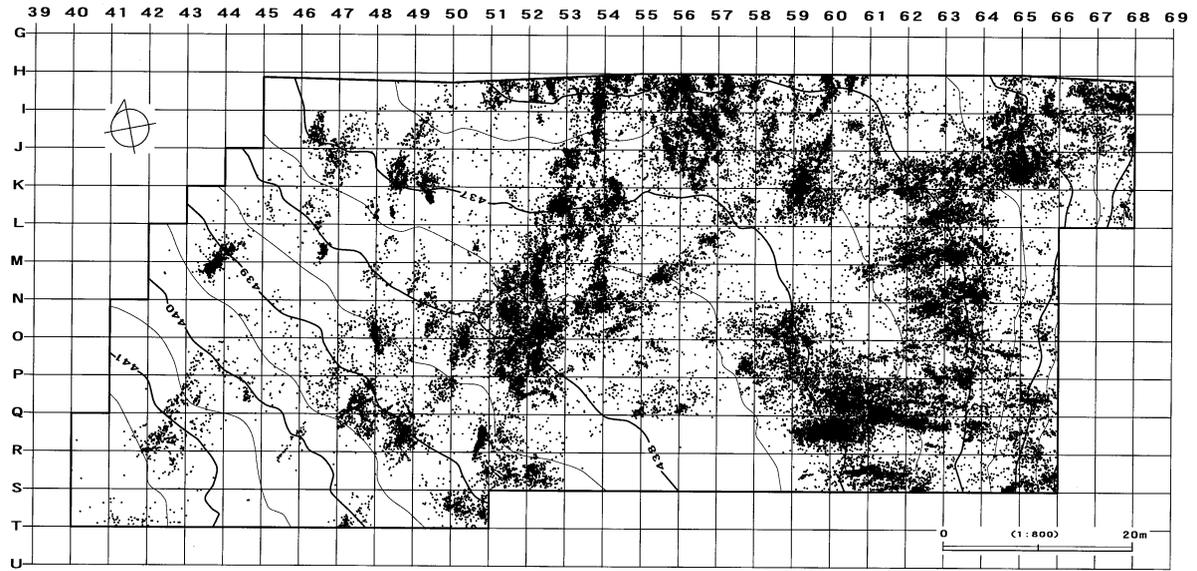




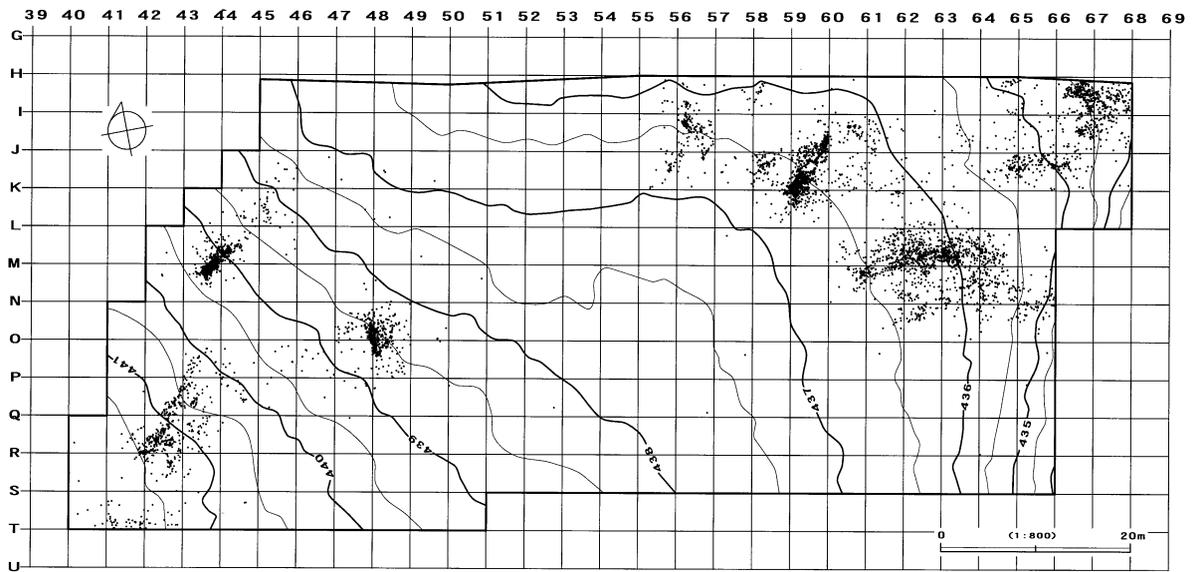




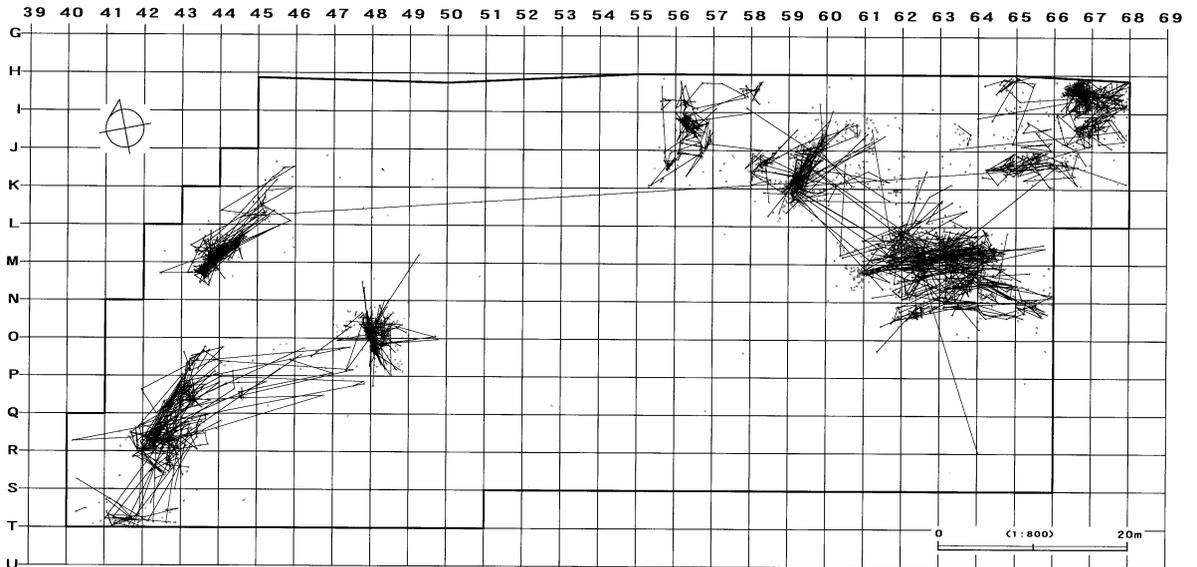




全遺物分布図

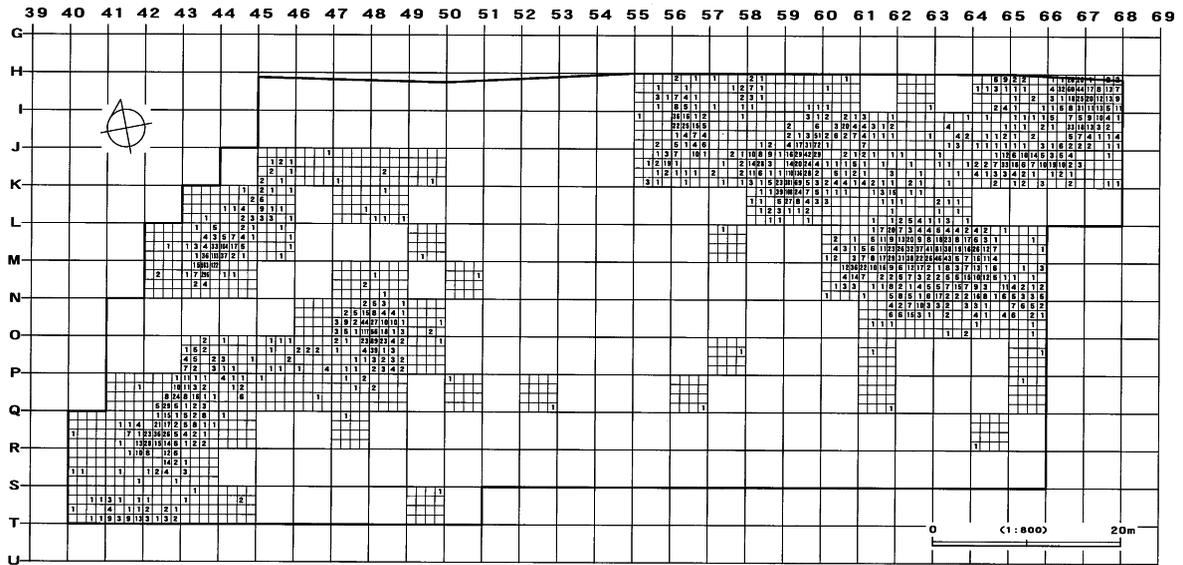


Sb-1~13遺物分布図

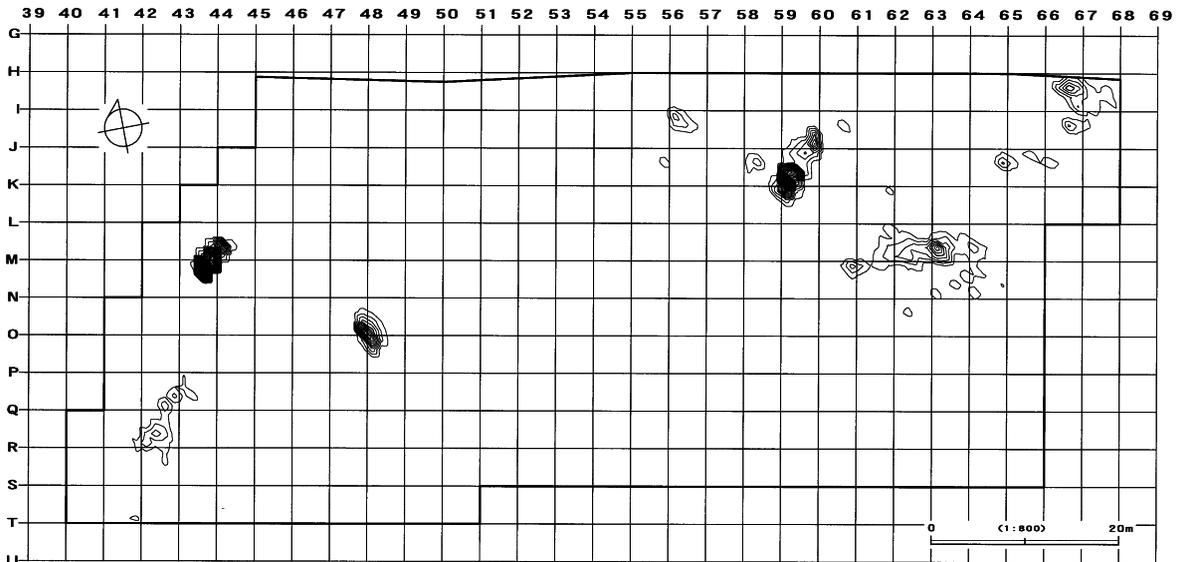


Sb-1~13接合分布図

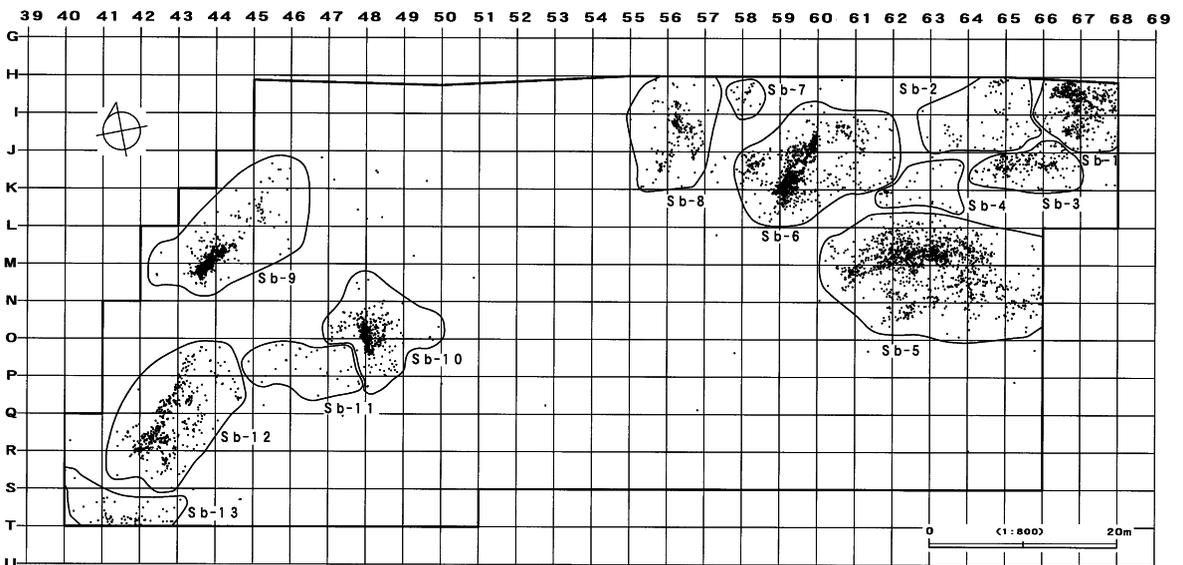
図IV-16 遺物分布(1)・接合分布図(1)



Sb-1~13遺物点数図 (点/m<sup>2</sup>)



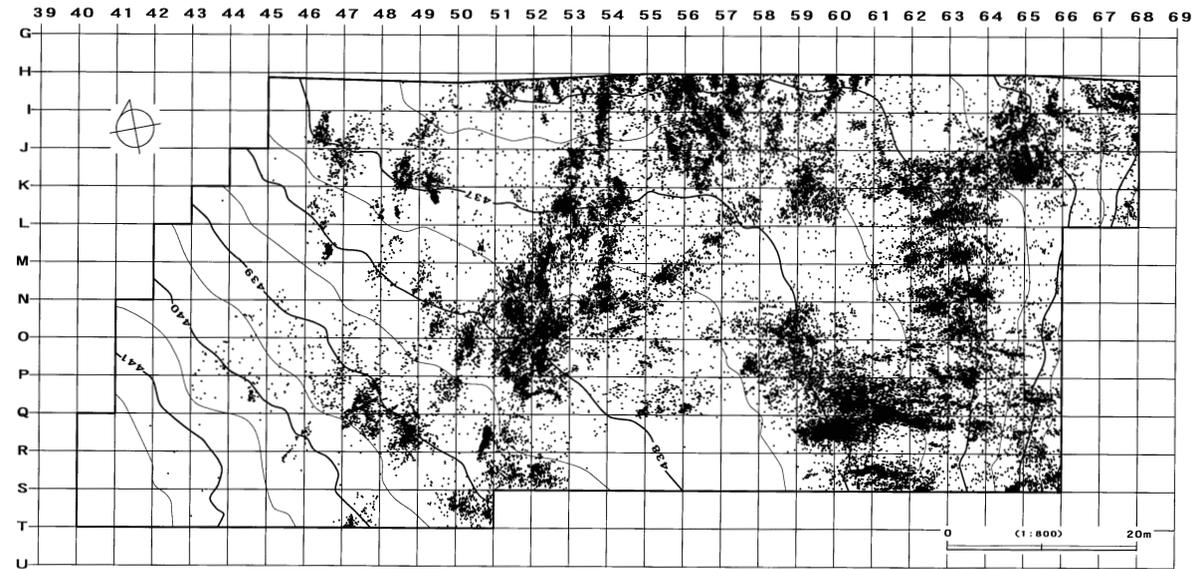
Sb-1~13遺物密度分布図 (10点単位)



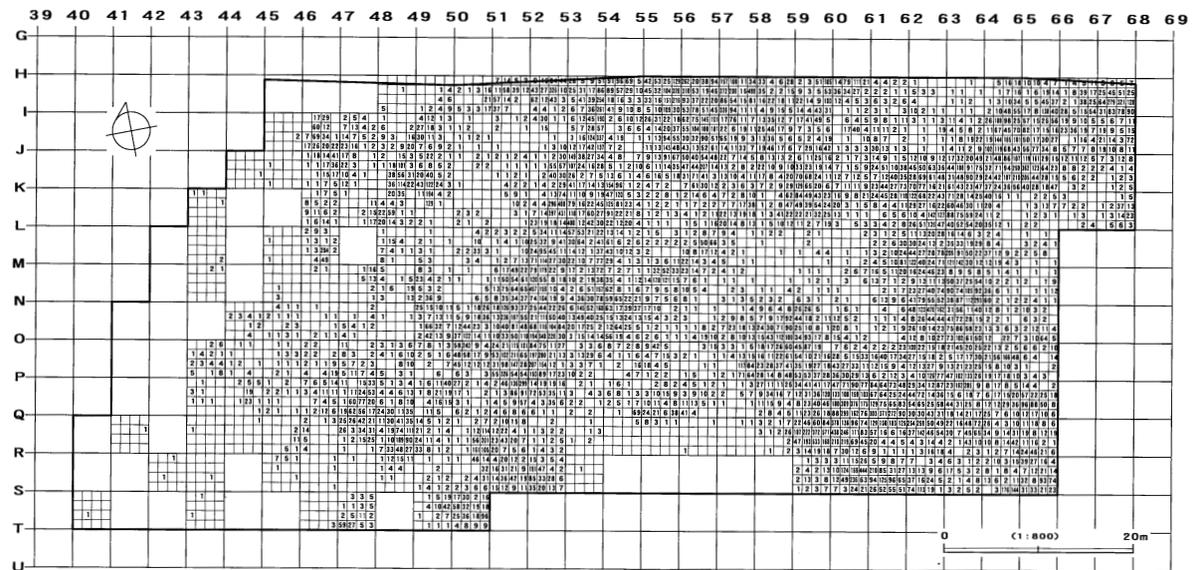
Sb-1~13石器ブロック設定図

図IV-17 遺物点数 (1)・密度分布 (1)・石器ブロック設定図 (1)

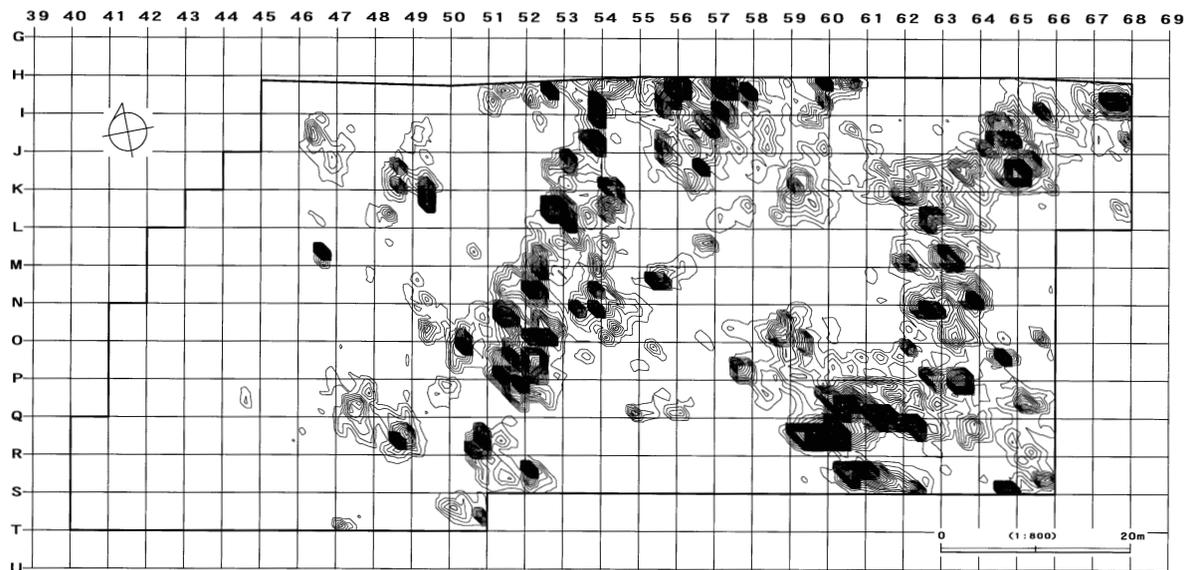
2 遺構と遺物



Sb-14~61遺物分布図

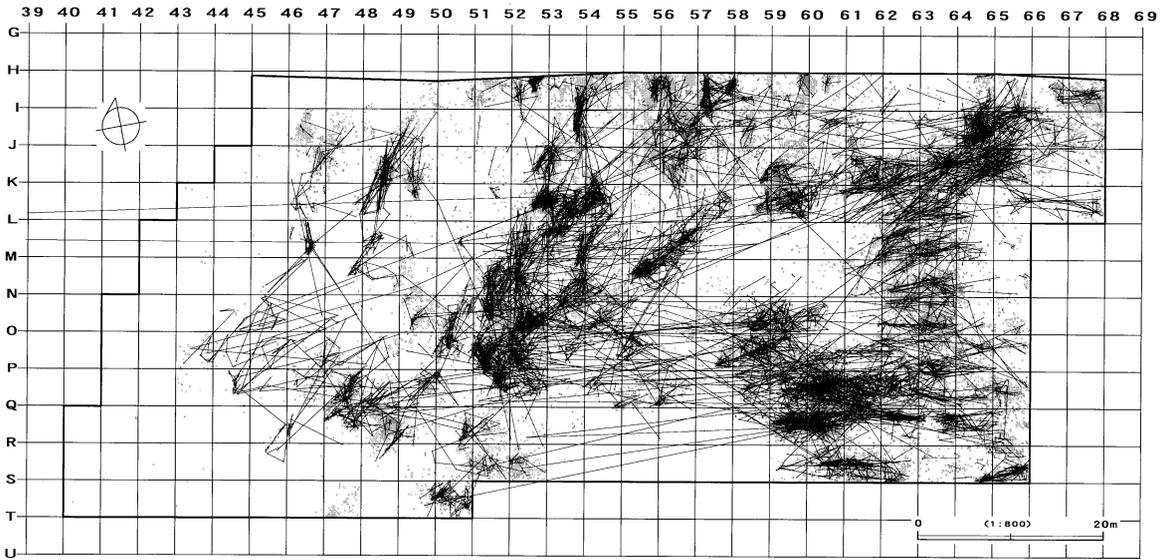


Sb-14~61遺物点数図 (点/m<sup>2</sup>)

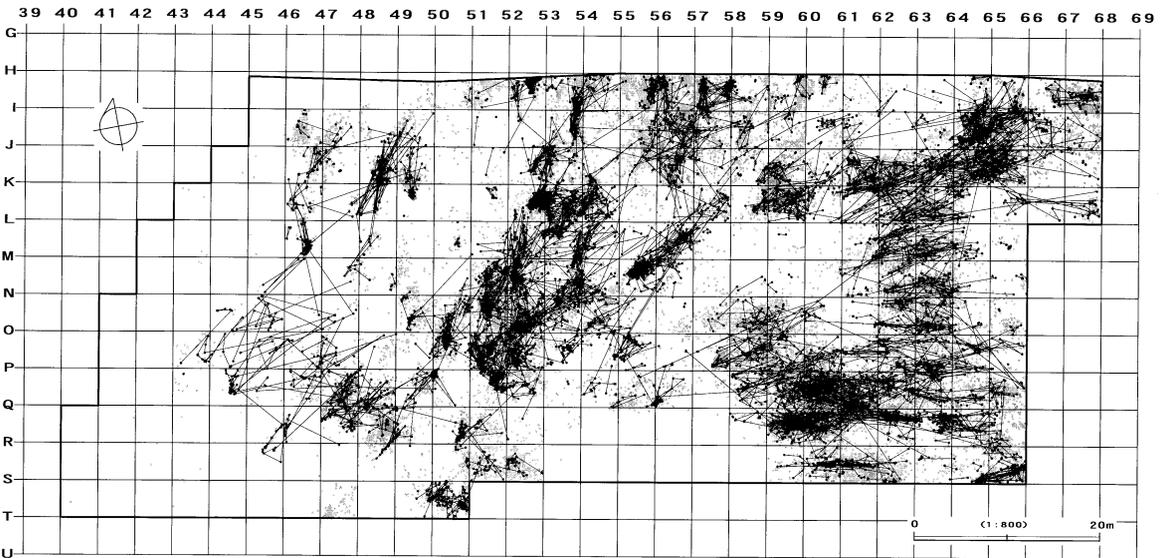


Sb-14~61遺物密度分布図 (10点単位)

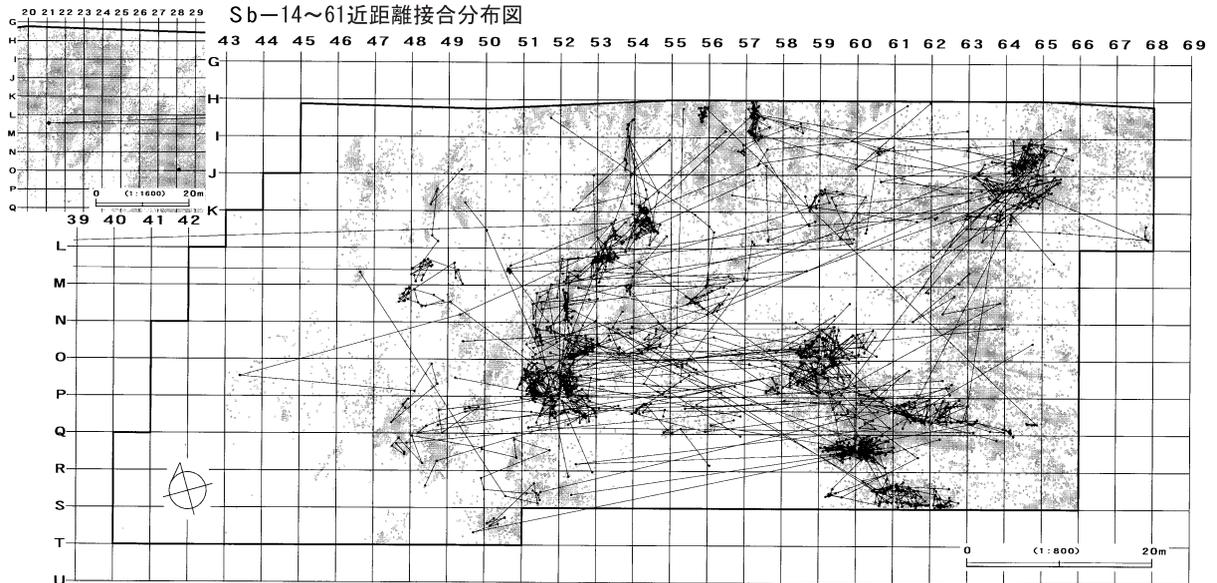
図IV-18 遺物分布 (2)・遺物点数 (2)・密度分布図 (2)



Sb-14~61全接合分布図

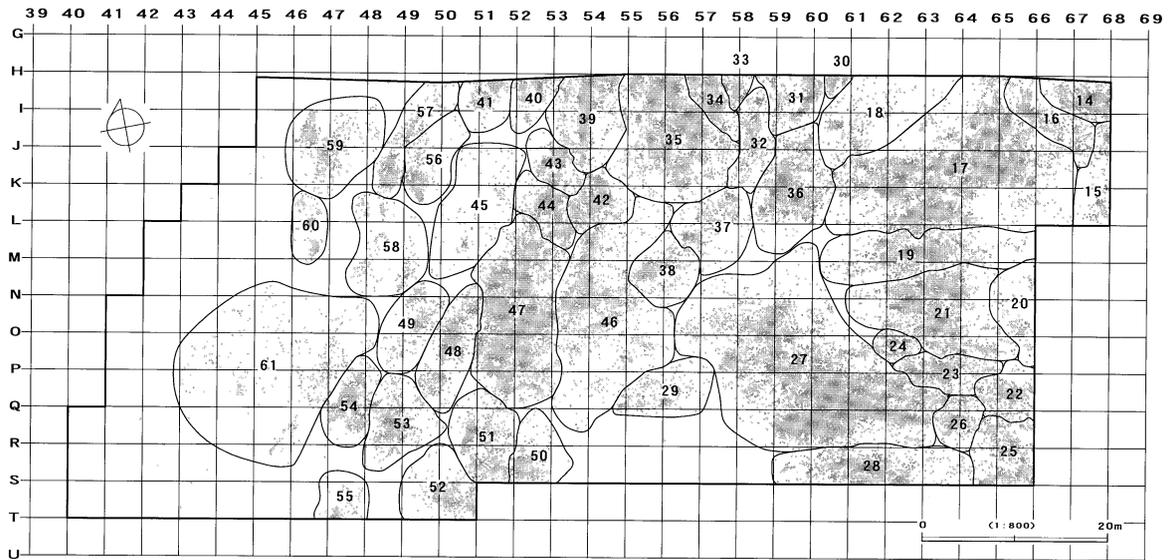


Sb-14~61近距離接合分布図

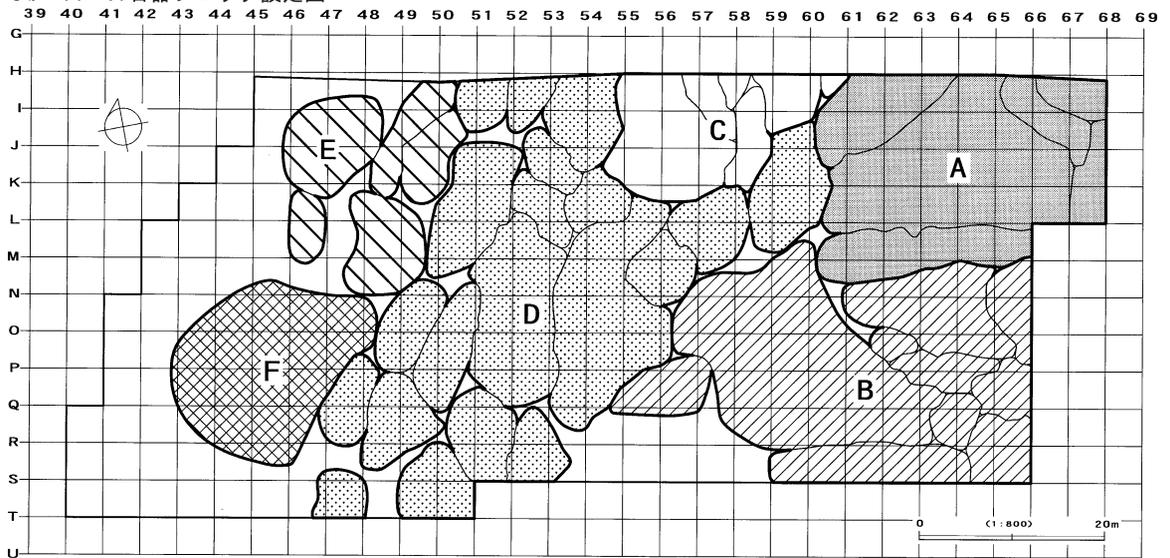


Sb-14~61遠距離接合分布図

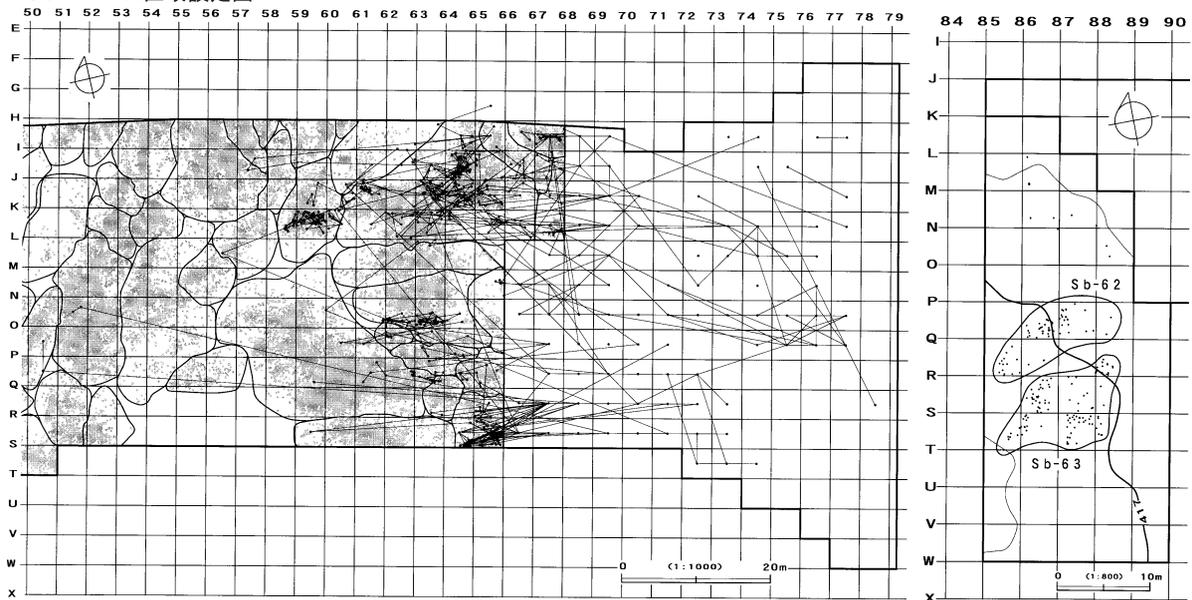
図IV-19 接合分布図(2)



Sb-14~61 石器ブロック設定図



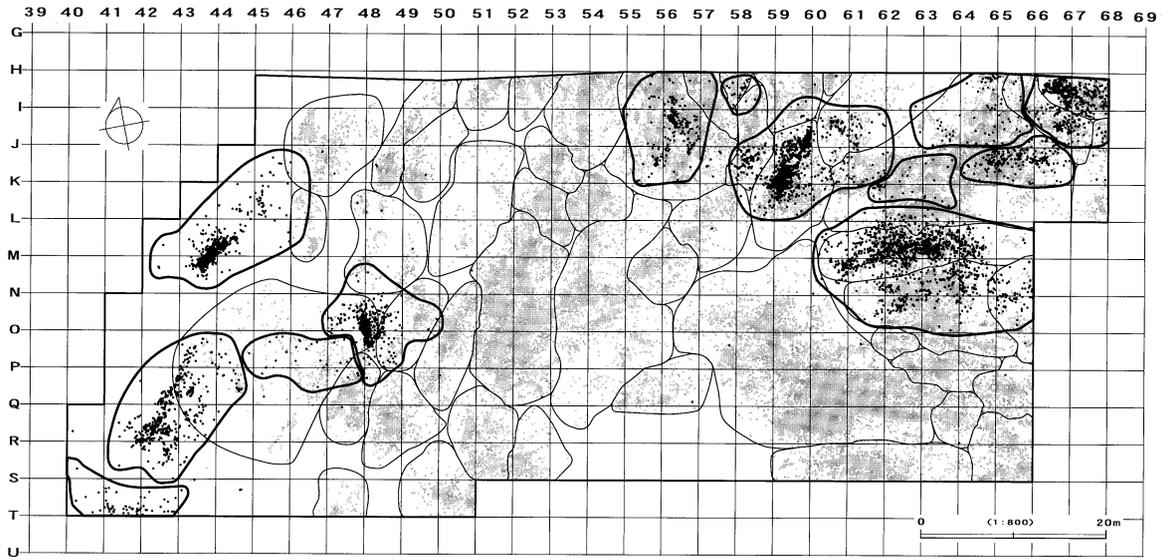
Sb-14~61 区域設定図



斜面部接合分布図

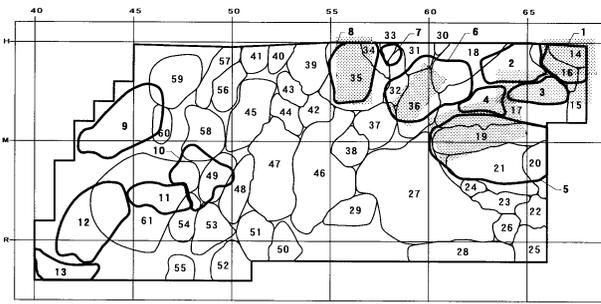
低位部石器ブロック設定図

図IV-20 石器ブロック設定 (2)・区域設定・接合分布図 (3)

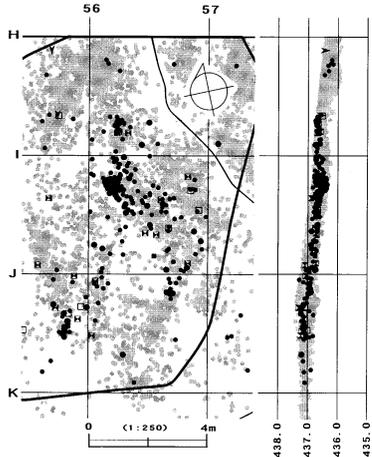


石器ブロック設定図 ※太枠・ドットはSb-1~13(「白滝I群」)

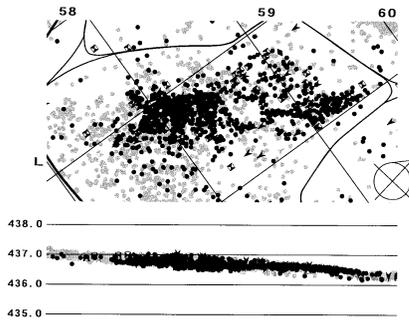
Sb-1・14の遺物分布・立面図



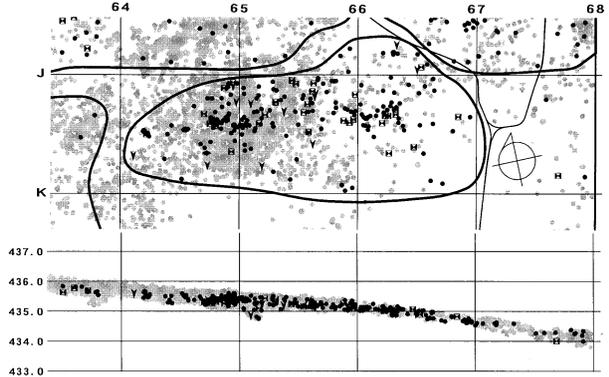
Sb-8・35の遺物分布・立面図



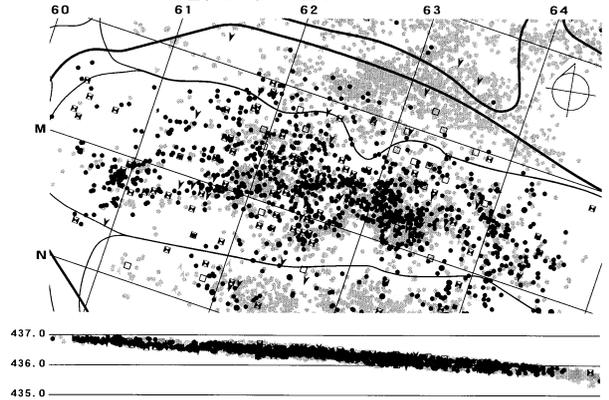
Sb-6・36の遺物分布・立面図



Sb-3・17の遺物分布・立面図



Sb-5・19の遺物分布・立面図



図IV-21 石器ブロック設定図(3)

側を求心状に剥離するものがみられる。原石の形状は角礫が主体的で、縦長剥片を連続的に剥離する石核との結びつきが強い。隣り合う2か所のブロックからなり、接合関係が確認された。

Sb-9は「白滝I群」である。剥片の縁辺に軽微な加工を施した二次加工ある剥片を主体とし、うろこ状剥片の腹面の打瘤部に平坦剥離を施した二次加工ある剥片が出土し、定形的な石器はみられない。石核はサイコロ状のものや剥片の腹面側を求心状に剥離するものなどがみられる。原石の形状はすべて転礫である。他のブロックとの母岩の共有関係・接合関係が希薄なことから独立した石器ブロック群とした。

Sb-10は「白滝I群」である。剥片の縁辺に軽微な加工を施した二次加工ある剥片を主体とし、搔器・削器・錐形石器が伴出している。二次加工技術に切断技法が含まれている可能性が高く、主に二次加工ある剥片の一部と錐形石器にみられる。石核は剥片の腹面側や両面に求心状の剥離をするものが多い。原石の形状はすべて転礫である。西側に隣接するSb-11縁辺部とのブロック間接合が2例確認された。両ブロックは石器の内容や剥離技術、接合状況に相違がみられることから、隣接部で分布が重なったものと判断し独立した石器ブロック群とした。

Sb-11~13は「白滝I群」である。剥片の縁辺に軽微な加工を施した二次加工ある剥片を主体とし、錐形石器が伴出している。石核はサイコロ状のものや剥片の腹面側を求心状に剥離するもの、縦長剥片を連続的に剥離するものなどがみられる。原石の形状はすべて転礫である。まとまった3か所のブロックからなり、それぞれに接合関係が確認された。

A区(Sb-14~19)は、尖頭器、峠下技法関連資料、小型の幌加型細石刃核、舟底形石器(I・II類)、彫器、搔器、石刃核、石核、斧形石器等が出土した。舟底形石器はI類を含み、周縁加工のある左刃の彫器とともに峠下技法関連の石器と分布が重なるが、それらに接合関係は認められない。細石刃核と細石刃核削片、細石刃核削片同士の接合資料、また、それらと石刃等の一次剥離資料との接合資料が確認されている。

B区(Sb-20~29)は、大型尖頭器、小~大型の舟底形石器(II類)、平坦剥離による加工のある削器、大型石刃、石刃核、石核等が出土した。単剥離打面から大型石刃を剥離した接合資料に大型舟底形石器と削器は含まれ、一連の石器製作技術に位置付けられる。また、少量ではあるが峠下技法関連資料が含まれている。

C区(Sb-30~35)は、尖頭器、峠下技法関連資料、小型の幌加型細石刃核、舟底形石器(I・II類)、彫器、小~大型の石刃核・石核等が出土した。密度分布図を見ると高密度の山が、連結するというより点在し、また、峠下技法関連資料や大型石刃関連資料は域内でも局地的な分布であることから、本区域に複数の石器群が混在している可能性がある。

D区(Sb-36~55)は、尖頭器、彫器、搔器、舟底形石器(I・II類)、石刃核、石核、斧形石器等が出土した。多くの舟底形石器が出土し、I類から大型のものまで多様である。甲板面に原礫面を持つものや大型剥片素材である大型のものはB区のものに類似し、関連すると考えられる。小型の舟底形石器・彫器・搔器は、上白滝2遺跡Sb-11・12、13、上白滝5遺跡Sb-6~11に類似する。

E区(Sb-56~60)は、尖頭器、舟底形石器(I・II類)、石刃核等が出土している。横位の裏面調整を施した石刃核から打面調整を伴う石刃剥離が行われるのが特徴である。舟底形石器I類は幅広で、2点とも十勝産であり、搬入されている。

F区(Sb-61)は、広郷型ナイフ形石器、舟底形石器(II類)、石刃核等が出土した。広郷型ナイフ形石器が含まれるのが特徴で素材の石刃技法とともに上白滝7遺跡Sb-4~10に類似する。舟底形石器は分布の周辺部から出土し、共伴関係は不明である。

斜面部は、尖頭器、峠下型細石刃核、幌加型細石刃核、美利河型類似細石刃核、蘭越型類似細石刃核、大型舟底形石器（Ⅱ類）、大型石刃素材削器、大型石刃核等が出土している。大型の舟底形石器には幌加型細石刃核と技術的特徴が類似するものがあり、母型と考えられる。高位部のA・B区と接合するものがあり、それらとの関連が想定されるが、斜面部で原位置を保持していないため、多様な細石刃核の共伴関係を含め不明である。

Sb-62・63は低位部の石器群である。剥片のみで定形的な石器はみられないが、表土から石鏃が1点出土している。隣り合う2か所のブロックからなるが、接合関係は確認されていない。出土した剥片の石質・形態・重量などが類似しているため同一の石器ブロック群とした。点取り遺物は主にⅡ層上部から出土しており、水和層があまり発達していないことから石鏃を含めた縄文時代の石器群であると考えられる。

次に石材別・器種別状況を概観する。石器ブロックが一部重なるため、「白滝Ⅰ群」としたSb-1~13とそれ以外のSb-14~61に分けて行う。なお、出土点数について特に記述がない場合は、点取り遺物の点数で、一括遺物も含む場合は明記する。

### Sb-1~13「白滝Ⅰ群」の石器

#### 黒曜石製の石器（図Ⅳ-22・23、表Ⅳ-2・5・6）

黒曜石の比率が高く、7,090点中7,074点で全体の99.8%を占める。石質毎にみると黒曜石1（黒色）が最も多く、6,645点（93.9%）出土し、以下黒曜石5（黒>紫・茶）の293点（4.1%）、黒曜石4（黒<茶）の68点（1.0%）、黒曜石2（梨肌）の46点（0.7%）、黒曜石3（黒>茶）の22点（0.3%）の順となっている。石質毎に石器ブロックを観察すると、最も多い黒曜石1は全体的に分布し、特にSb-7は黒曜石1のみで構成されている。黒曜石2はSb-10に集中してみられ、その他の石器ブロックではほとんど出土していない。黒曜石3はまとまった分布がみられず、Sb-1・2・5・6・8・9・11・12から僅かに出土している。黒曜石4はSb-2・6からまとまって出土し、Sb-5・10ではブロック全体に散漫に広がっている。黒曜石5はSb-5に多くみられ、ブロック全体に広がって出土している。Sb-6では黒曜石4と同様に中央に集中して分布している。

#### 黒曜石以外の石器（図Ⅳ-23、表Ⅳ-2・5・6）

7,090点のうち16点（0.2%）が黒曜石以外の石材で、その内訳はめのう7点、珪岩5点、碧玉（濃緑色の碧玉1）3点、頁岩1点である。石質ごとに石器ブロックを観察すると、めのうはSb-2・3・12でみられ、特にSb-3で多く、5点出土している。珪岩、碧玉はどちらもSb-12から出土しているが、珪岩がブロック東部にまとまっているのに対し、碧玉はブロック全体の集中域と重なるように北東方向に間延びした分布である。頁岩はSb-6にみられる。Sb-12からは三種類の黒曜石以外の石材が出土し、他の「白滝Ⅰ群」の石器ブロックと比べ、ややバラエティーに富んだ石材構成である。

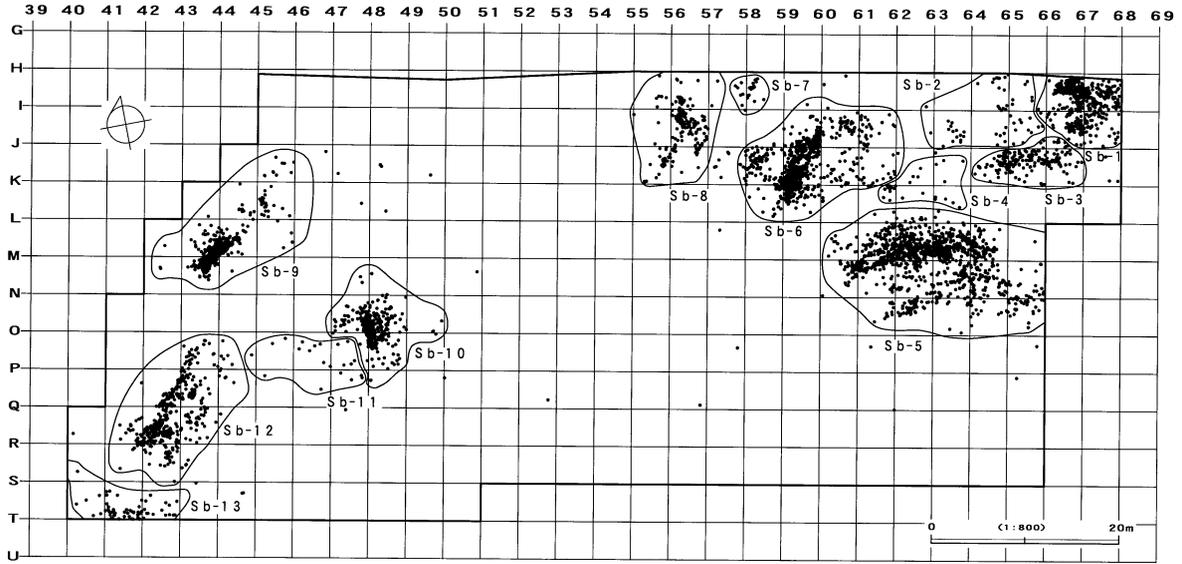
#### 二次加工ある剥片（図Ⅳ-24、表Ⅳ-5・6）

274点出土し、Sb-7を除くすべての石器ブロックでみられる。特にSb-6（75点）・9（61点）で多く出土し、Sb-5（44点）・10（37点）・12（26点）でもまとまってみられる。「白滝Ⅰ群」の二次加工ある剥片は、搔器・削器・錐形石器以外の定形的ではない石器を全て含めて分類している。また、加工も一般的な二次加工のほか、微細剥離が連続的にみられるものも含めている。

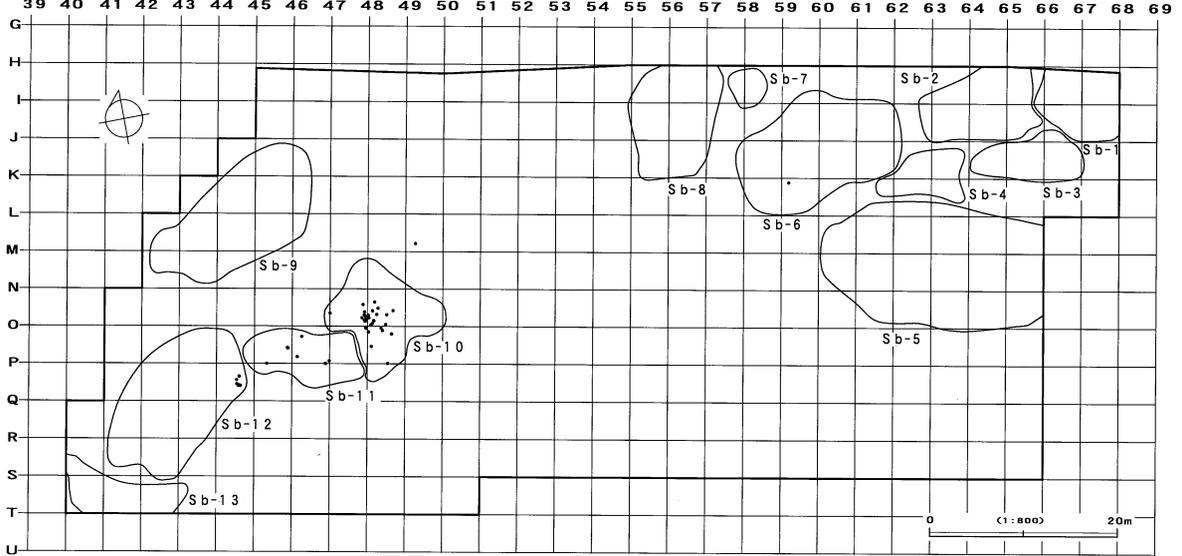
#### 搔器（図Ⅳ-24、表Ⅳ-5・6）

13点出土し、Sb-1（1点）・5（5点）・8（1点）・10（5点）・石器ブロック外（1点）でみられる。Sb-5・10からややまとまって出土している。石器ブロック群としてはSb-9、11~13で組成していない。

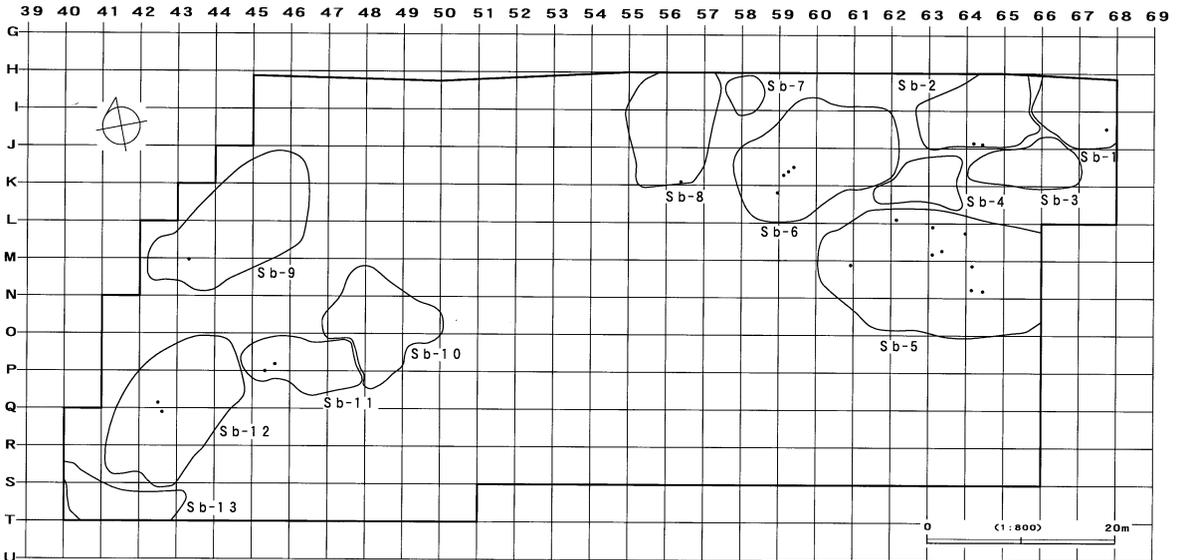
黒曜石 1 「白滝 I 群」



黒曜石 2 「白滝 I 群」

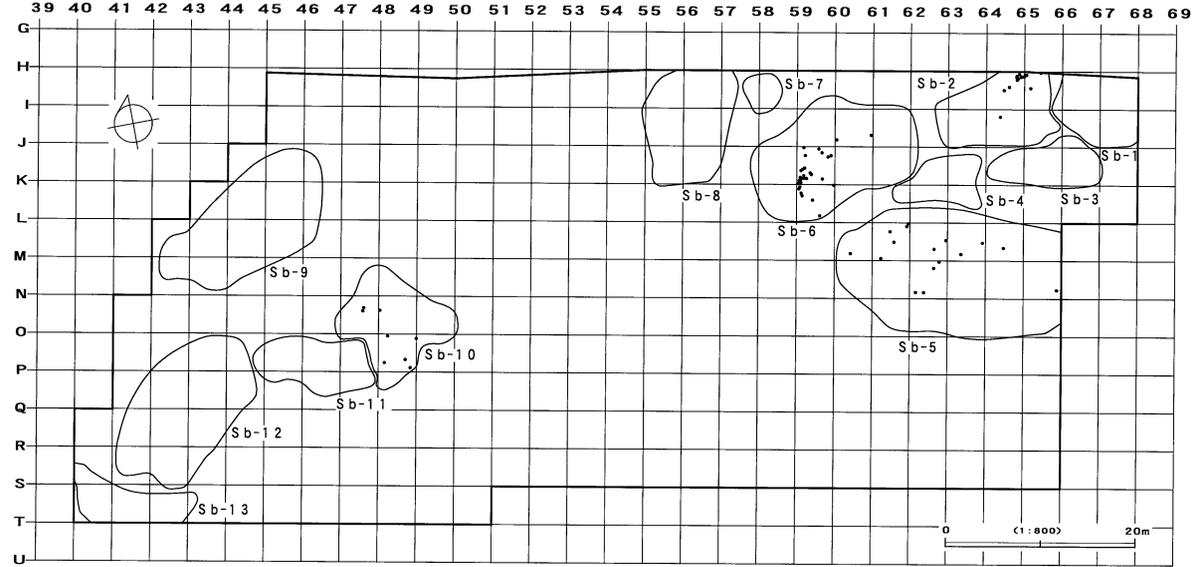


黒曜石 3 「白滝 I 群」

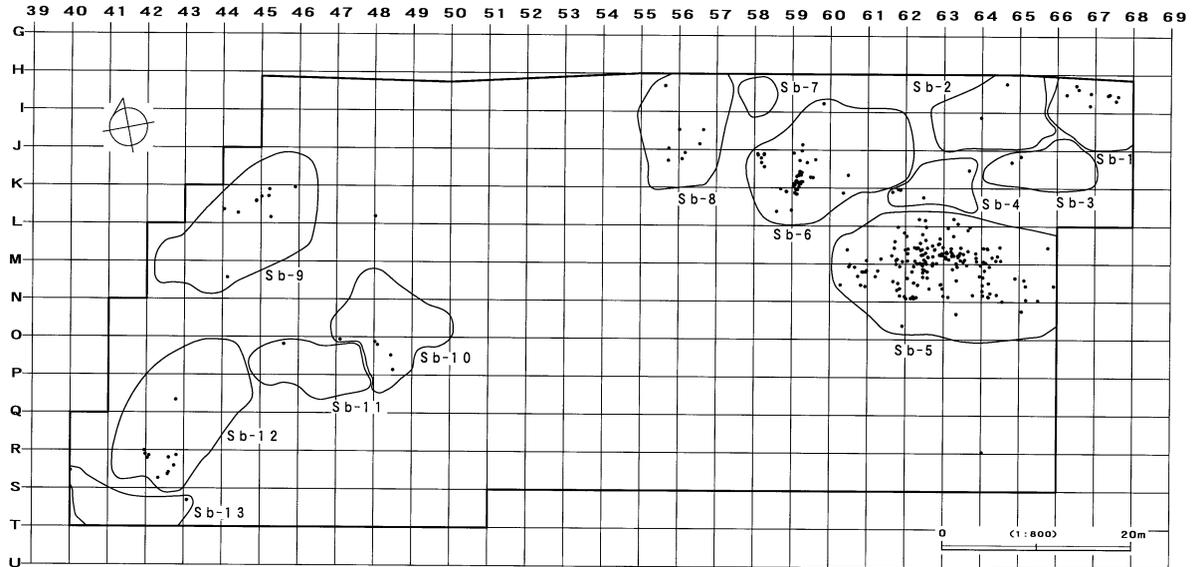


図IV-22 器種・石材別分布図(1)

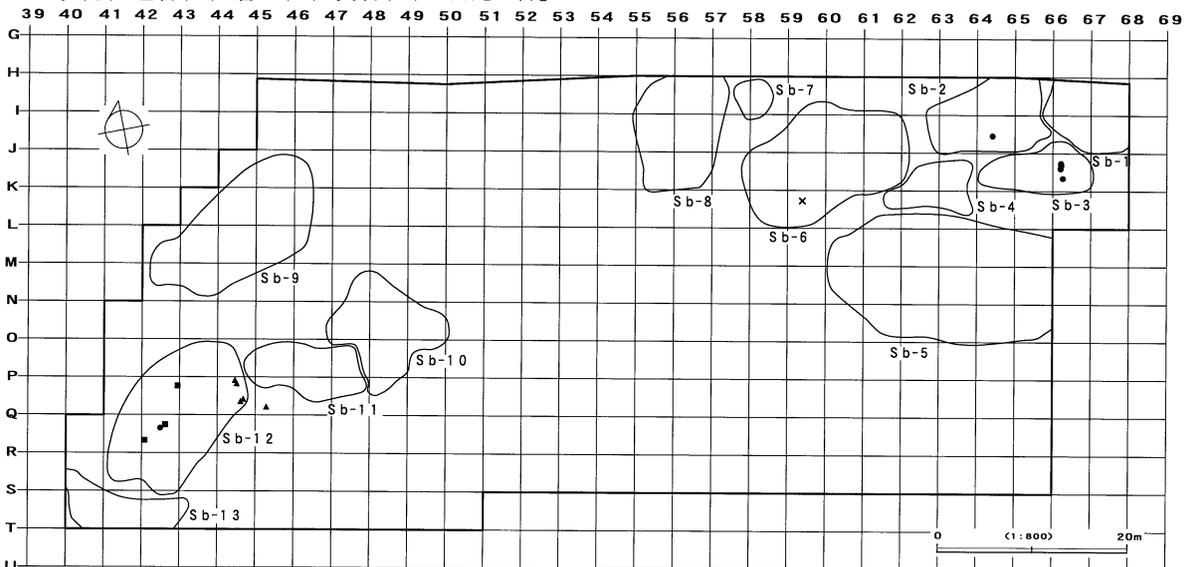
黒曜石4「白滝I群」



黒曜石5「白滝I群」

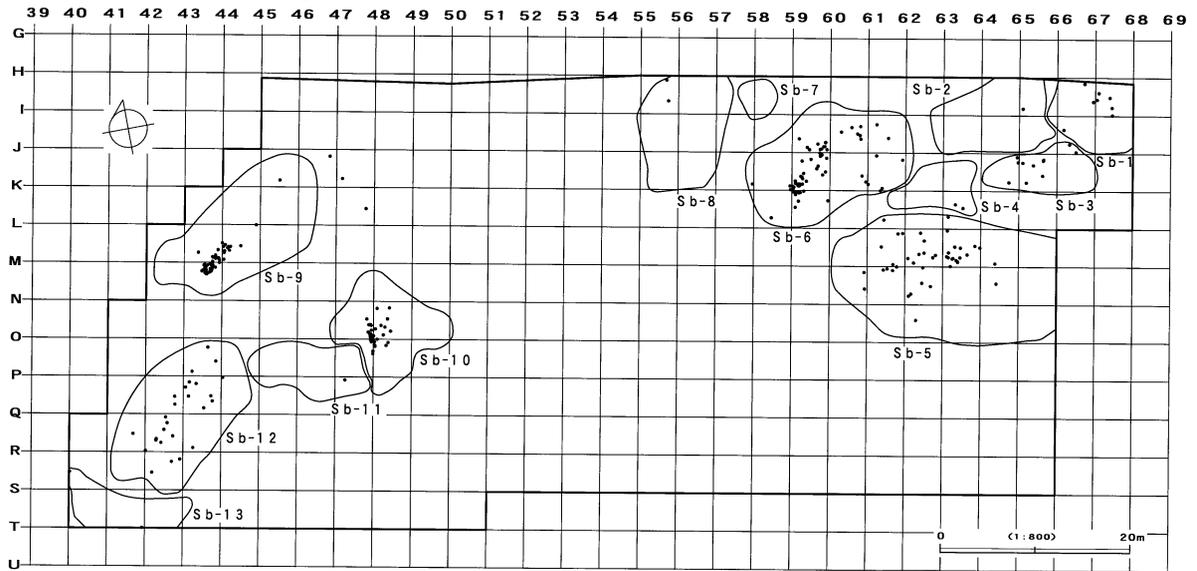


めのう(●)・珪岩(▲)・碧玉(■)・頁岩(x)「白滝I群」

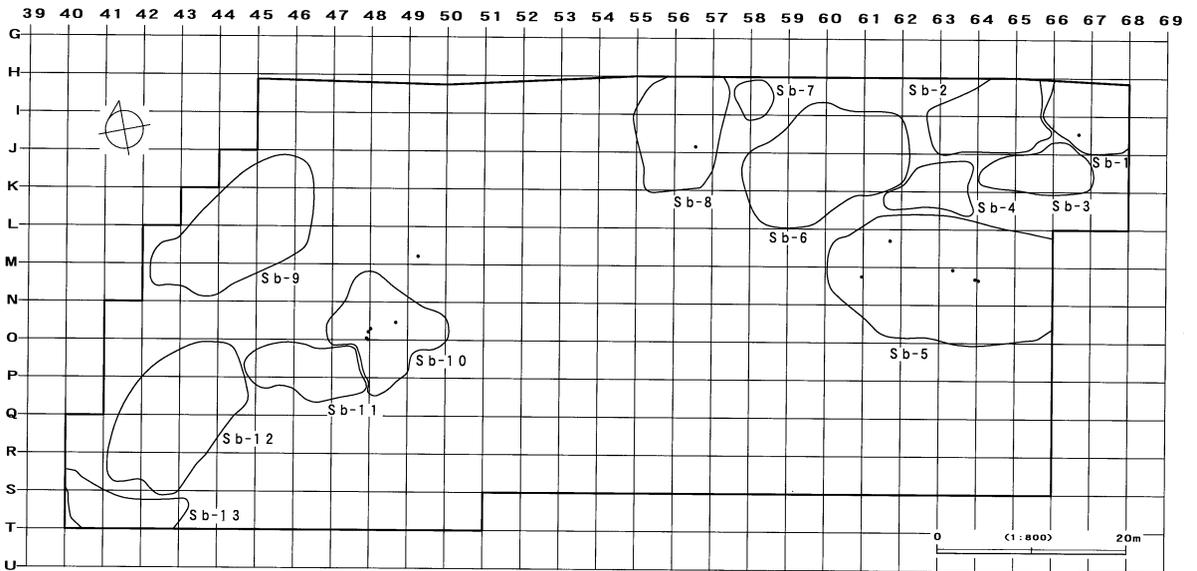


図IV-23 器種・石材別分布図(2)

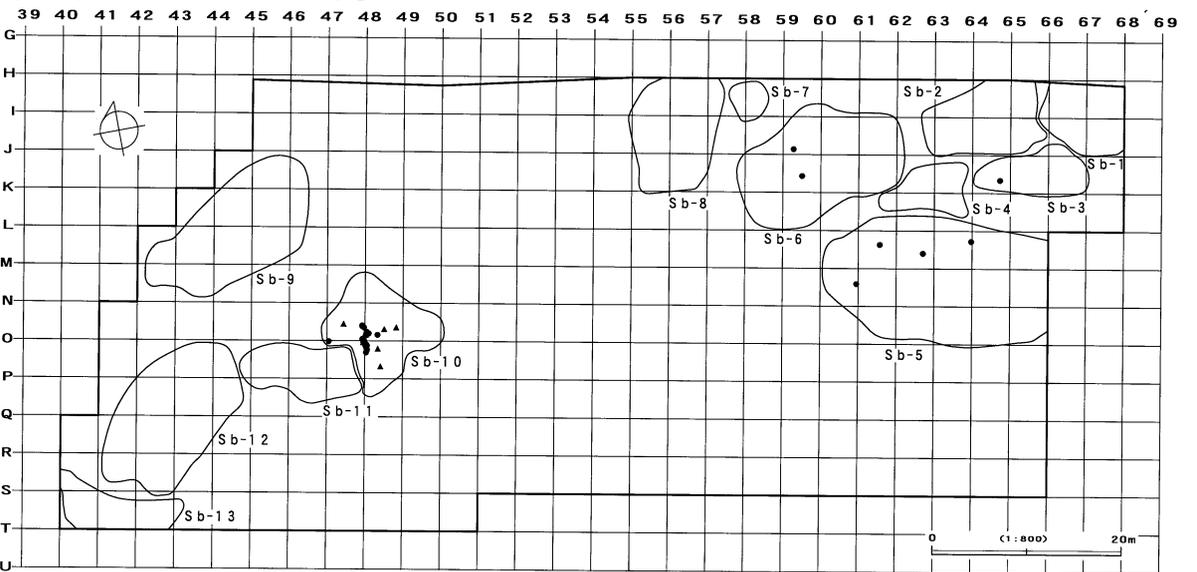
二次加工ある剥片「白滝Ⅰ群」



搔器「白滝Ⅰ群」

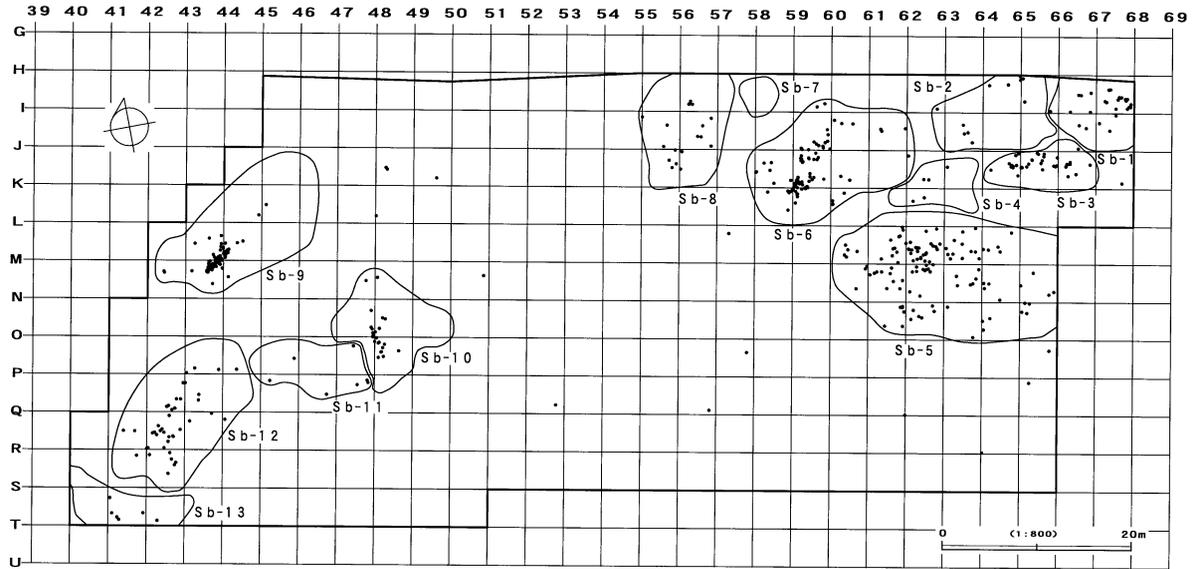


錐形石器(●)・削器(▲)「白滝Ⅰ群」

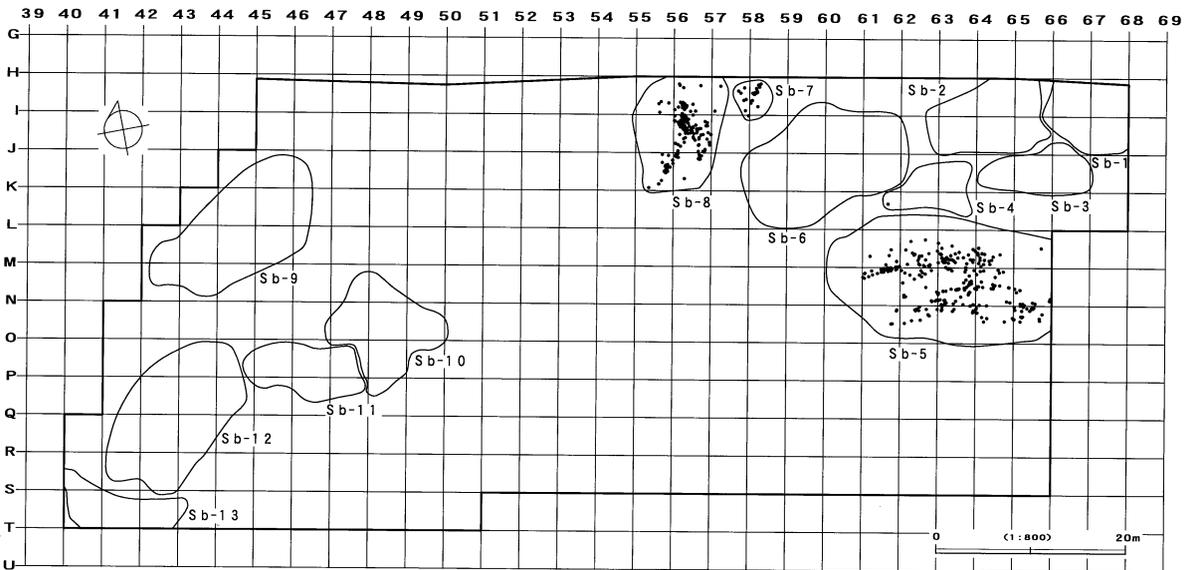


図Ⅳ-24 器種・石材別分布図(3)

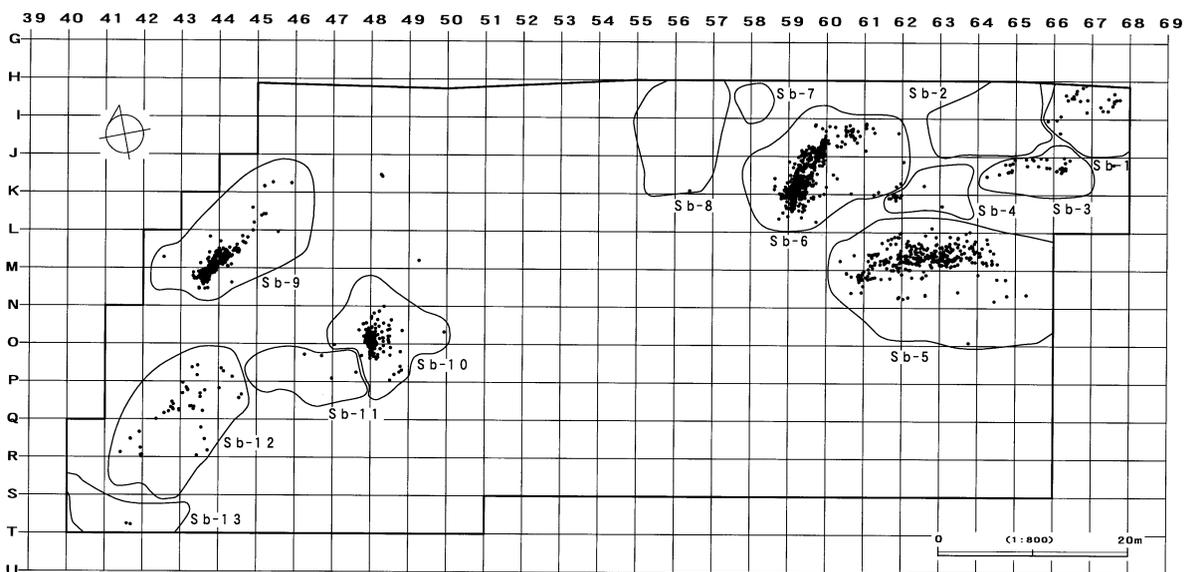
石核「白滝I群」



角礫素材の石器「白滝I群」



被熱石器「白滝I群」



図IV-25 器種・石材別分布図(4)

**錐形石器** (図Ⅳ-24、表Ⅳ-5・6)

25点出土し、Sb-3 (1点)・5 (4点)・6 (2点)・10 (18点) でみられる。Sb-10からの出土が突出して多い。Sb-5ではブロック北側の遺物集中域の中にまばらに分布している。石器ブロック群としてはSb-7・8、9、11~13で組成していない。

**削器** (図Ⅳ-24、表Ⅳ-5・6)

10点すべてSb-10から出土している。背面の縁辺に連続した平坦剥離が施される特徴があり、他の二次加工のある石器と様相が異なる。

**石核** (図Ⅳ-25、表Ⅳ-5・6)

527点出土し、Sb-7を除くすべての石器ブロックでみられる。特にSb-5 (124点)・6 (104点)・9 (103点) で多く出土し、Sb-3 (41点)・12 (42点) でもまとまってみられる。ツール類全ての点数よりも多い数の石核が確認されている。点数の多い要因の一つとして被熱による折れ面接合が多く確認されていることが挙げられる。

**角礫素材の石器** (図Ⅳ-25)

527点出土し、Sb-4・5・7・8で確認されている。特にSb-5 (286点)・8 (218点) で多くみられる。石器ブロック群でみると、Sb-7・8は非常に高い割合で角礫素材の石器が出土しているのに対し、Sb-4~6では角礫以外の石器が半数以上を占め、角礫素材の石器はSb-5からまとまって出土している。

**被熱石器** (図Ⅳ-25、表Ⅳ-13)

2,778点 (39.2%) が被熱している。全体的に高い割合だが、石器ブロック単位でみると、特にSb-6 (68.4%)・9 (64.0%)・4 (54.1%) は非常に多く、Sb-10では39.1%と平均値に近い。その他Sb-5 (23.1%)・3 (16.6%)・11 (12.9%)・12 (8.1%)・1 (4.6%)・13 (2.9%)・8 (0.4%)・2・7 (共に被熱なし) と続き、石器ブロック間での変異が大きい。分布は全体の遺物分布にほぼ対応している。各石器ブロックの被熱石器と炭化木片ブロック (Cb) との関係を見ると (図Ⅳ-12)、Cb-1から東側に間延びしてSb-5、Cb-6の南西側に3m離れてSb-10が分布している。Sb-1~4・6~9・11~13の周辺には炭化木片ブロックはみられない。

**原石面残存の石器** (表Ⅳ-13)

3,030点 (42.7%) に残存している。全体的に高い割合で、特にSb-7 (65.2%)・8 (63.1%)・4 (59.5%) では非常に多くみられる。その他に50%台前半 (Sb-11・13)、40%台 (Sb-1~3・5・10・12)、30%台 (Sb-6・9) に分かれる。原石や原石面に覆われた大型の剥片の状態で遺跡に搬入されたものが多いことを示している。

**Sb-14~61の石器****黒曜石製の石器** (図Ⅳ-26・27、表Ⅳ-2・5~12)

82,020点のうち81,896点 (99.8%) が黒曜石製である。黒曜石全体の中では黒曜石1 (黒色) が43,402点 (53.0%) で約半数を占め、以下黒曜石4 (黒<茶) の20,386点 (24.9%)、黒曜石5 (黒>紫・茶) の11,243点 (13.7%)、黒曜石3 (黒>茶) の6,312点 (7.7%) の順となっている。石質別では、黒曜石1はほぼ全域に分布するが、黒曜石4の多いSb-22 (P65区)、Sb-38 (M55・56区) は密度が低い。黒曜石2は部分的に散漫に分布し、Sb-17 (IJ62~68区)、Sb-21・24 (O62~65区)、Sb-34・35 (HI56・57区)、Sb-46 (M~P53・54区)、Sb-48 (O50区)、Sb-57 (IJ48・49区) にまとまりがある。黒曜石3~5は石質が漸移的であることもあり、全体的に類似した分布で、黒曜石3はSb-27 (PQ59~63区) に大きなまとまりがある。黒曜石4はほぼ全域に分布するが、Sb-

14 (H67区)、19 (L61～65区)、27 (N・O57～59区)、30 (H60区)、46 (L～O53・54区)、55 (S47区)、59 (I・J46・47区)、60 (K・L46区)、61 (N～Q44～46) は密度が低い。黒曜石5は黒曜石3・4の分布密度が低いSb-27 (N・O58・59区) に黒曜石1と共に分布する特徴がある。

#### 黒曜石以外の石器 (図IV-28・29、表IV-2・5～12)

82,020点のうち124点 (0.2%) が黒曜石以外の石材で、その内訳は頁岩57点、安山岩40点、めのう11点、軽石8点、泥岩2点、砂岩2点、流紋岩1点、凝灰岩1点、珪岩1点、碧玉1点である。分布を見ると、頁岩はA (Sb-14～19)・B (Sb-20～29) 区には散漫に、Sb-47 (N51・52区)・52 (S49・50区) にはまとまって分布する。安山岩はSb-27 (O～Q59・60区)、35 (H・I56区) にはまとまって、それ以外には散漫に分布している。めのうは57ラインより東に散漫に、軽石はSb-54 (Q47区) にまとまって分布し、その他の石材はそれぞれ点在している。器種別では、頁岩は搔器 (7点)、削器 (15点) が多く、細石刃核削片 (2点)、細石刃核 (2点) にも利用されるが、彫器は1点のみである。安山岩は台石 (18点) が最も多く、削器が4点で、石核・斧形石器も1点出土している。石核は剥片素材で縁辺に簡単な剥離の行われたものである。めのうは錐形石器 (4点) が多く、細石刃核 (2点) にも利用される。砂岩は2点とも敲石である。

#### 尖頭器 (図IV-30、表IV-5～12)

563点出土し、ほぼ全域に分布する。15点以上のブロックは、Sb-27 (101点)、52 (53点)、46 (50点)、47 (39点)、21 (36点)、54 (31点)、17 (27点)、16 (21点)、19 (21点)、35 (21点)、53 (21点)、51 (19点)、59 (17点)、50 (15点) の順で、特にSb-52は狭い範囲に集中している。

#### 両面調整石器 (図IV-30、表IV-5～12)

100点出土し、Sb-46 (35点)、47 (18点) で集中して分布し、それ以外は散漫な分布である。これらは、尖頭器の製作途中の粗い段階のものである。

#### 細石刃 (図IV-30、表IV-5～12)

29点出土し、Sb-17 (24点) にまとまって分布する。ほとんどは峠下型細石刃核から剥離されたものである。

#### 細石刃核 (図IV-31、表IV-5～12)

36点出土し、Sb-17 (27点)、27 (5点)、34 (2点)、21 (1点) に分布する。小型の幌加型細石刃核を除いて峠下型細石刃核の範疇に入るものである。

#### 削片 (図IV-31、表IV-5～9)

細石刃核削片は104点出土し、Sb-17 (77点)、27 (7点)、34 (8点) に多く分布する。これらは峠下技法で剥離されたものと考えられ、細石刃・細石刃核の分布と一致している。尖頭器削片は18点出土し、Sb-46 (4点)、47 (4点) にまとまって分布し、それ以外は散漫に分布している。その他削片は12点出土し、Sb-47 (4点) 周辺に多い。

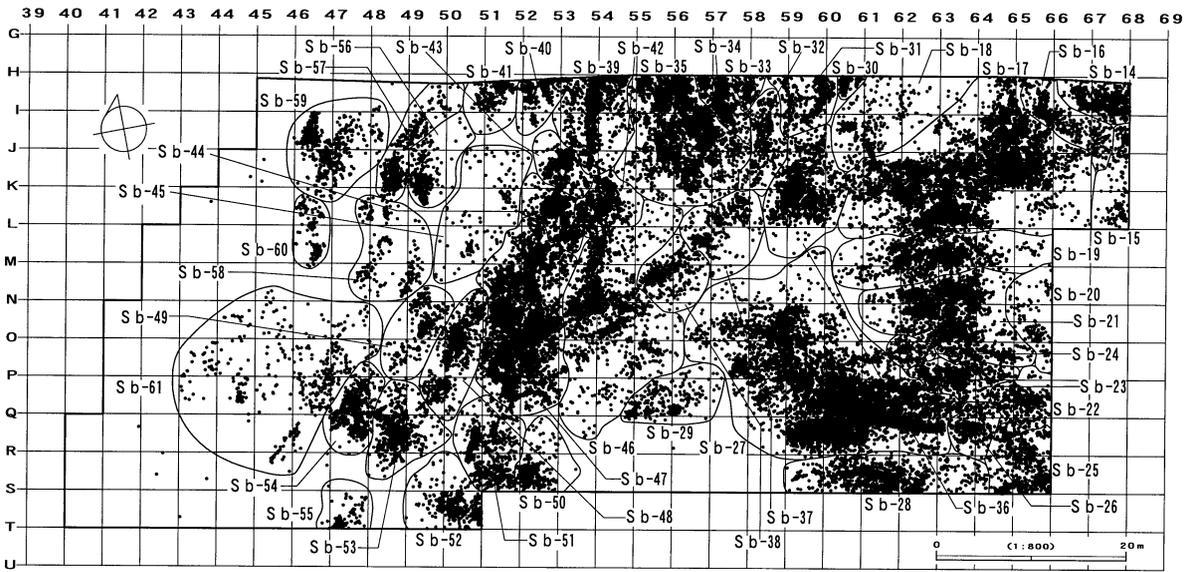
#### 舟底形石器 (図IV-32、表IV-5～12)

I類は一括遺物を合わせて19点出土し、Sb-27 (7点)、30 (1点)、37周辺 (2点)、43周辺 (3点)、46 (1点)、47 (2点)、59 (3点) に分布している。II類は208点出土し、ほぼ全域に分布している。これらは分布範囲が重複しているが、I類はB (Sb-20～29)・F (Sb-61) 区にはみられない。

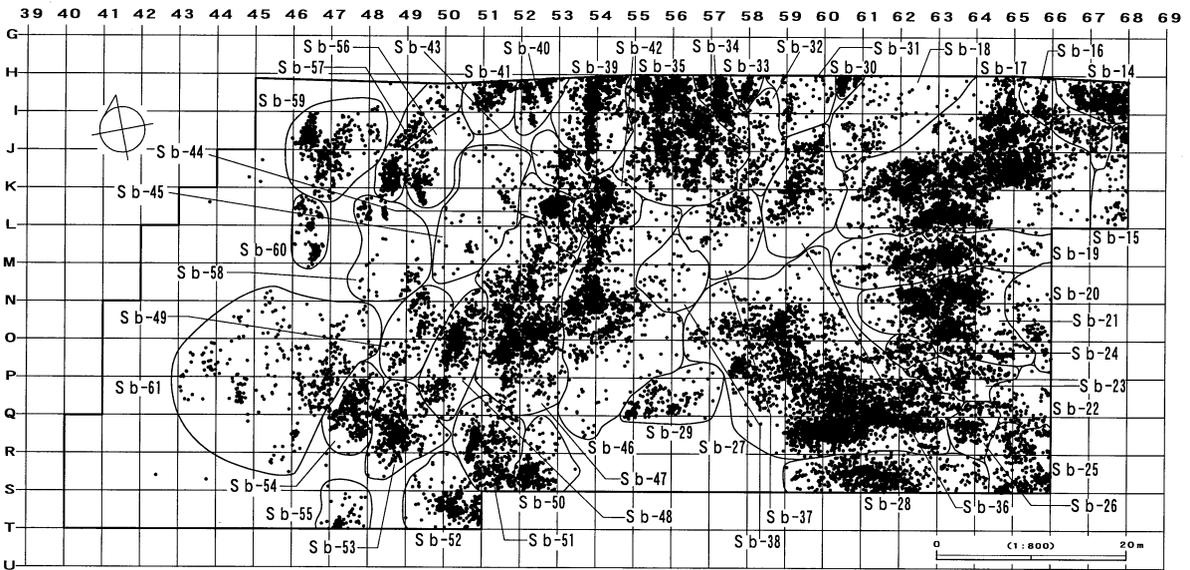
#### ナイフ形石器 (図IV-32、表IV-5～12)

45点出土し、ほとんどがSb-61に分布している。Sb-61周辺のものとは広郷型ナイフ形石器で、F区を特徴づけている。また、それ以外は切り出し形などである。

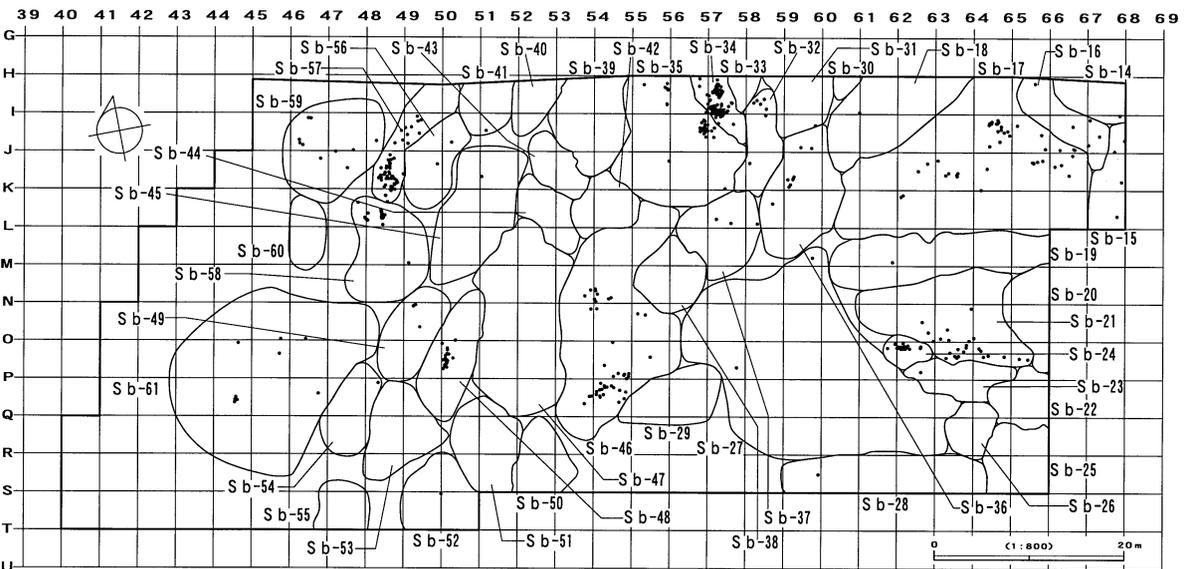
黒曜石 1~5



黒曜石 1

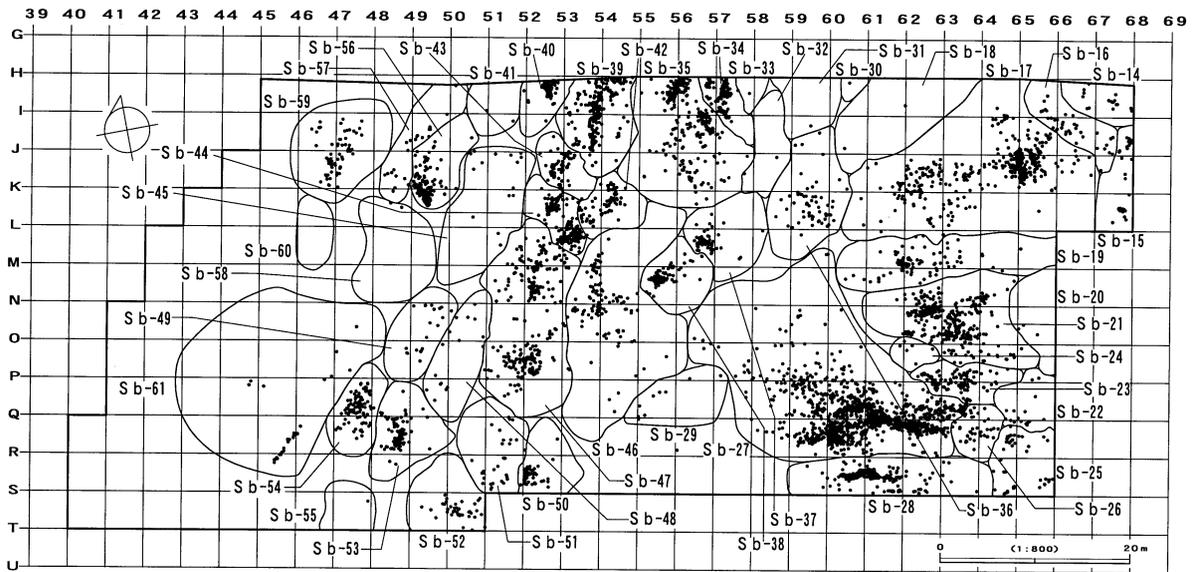


黒曜石 2

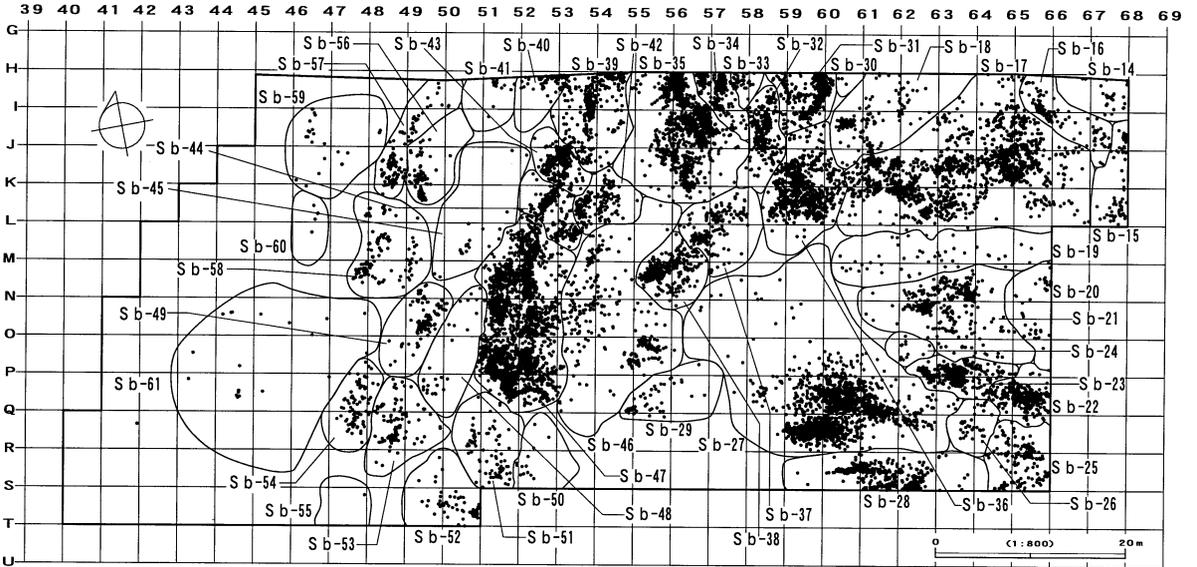


図IV-26 器種・石材別分布図 (5)

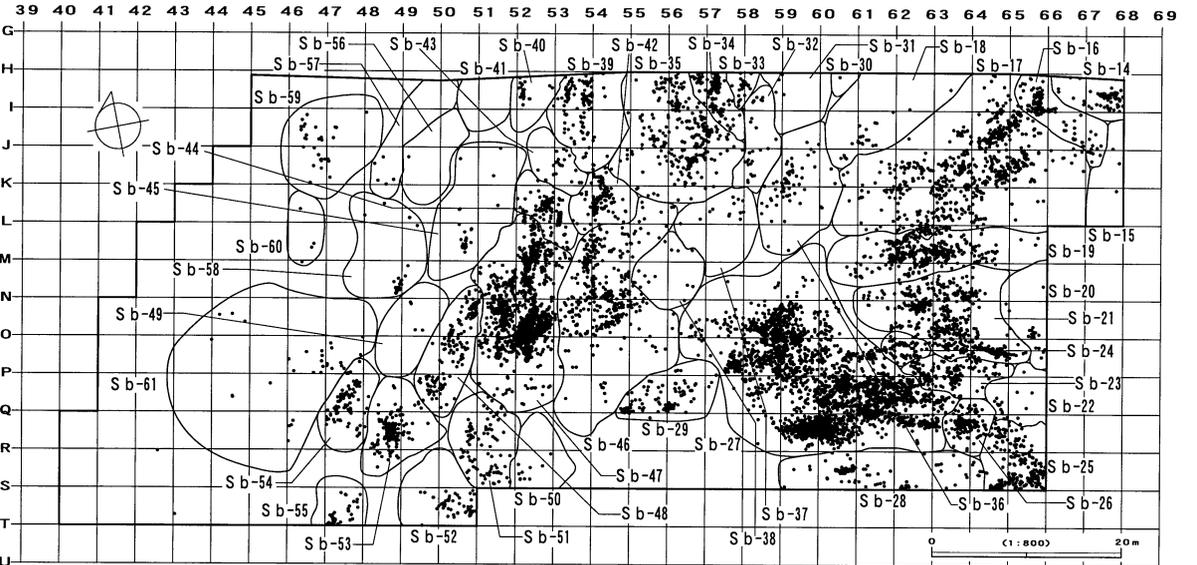
黒曜石 3



黒曜石 4

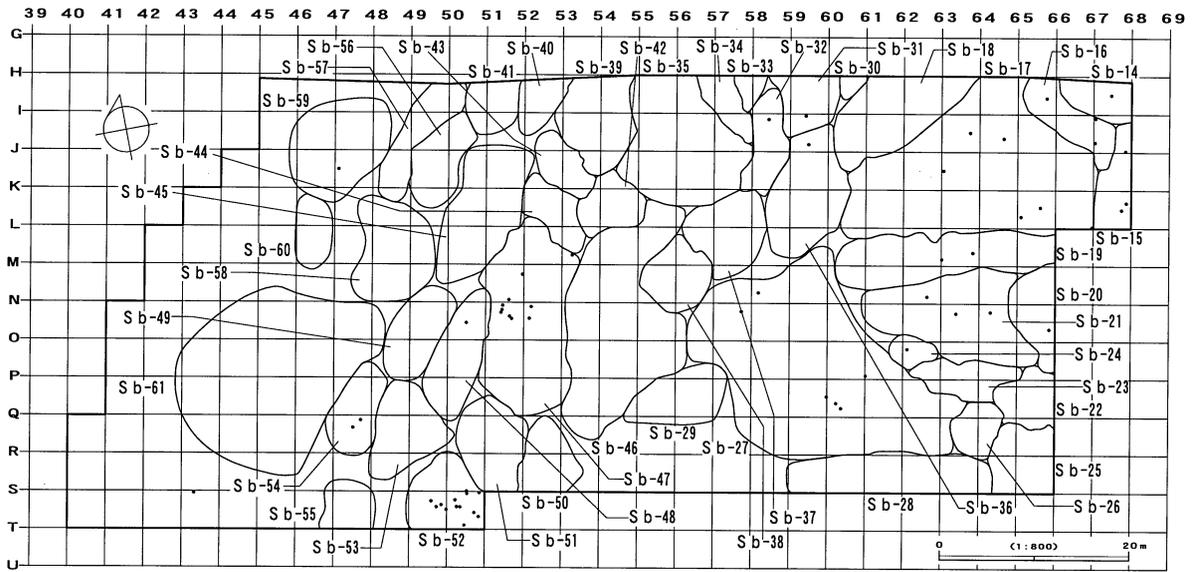


黒曜石 5

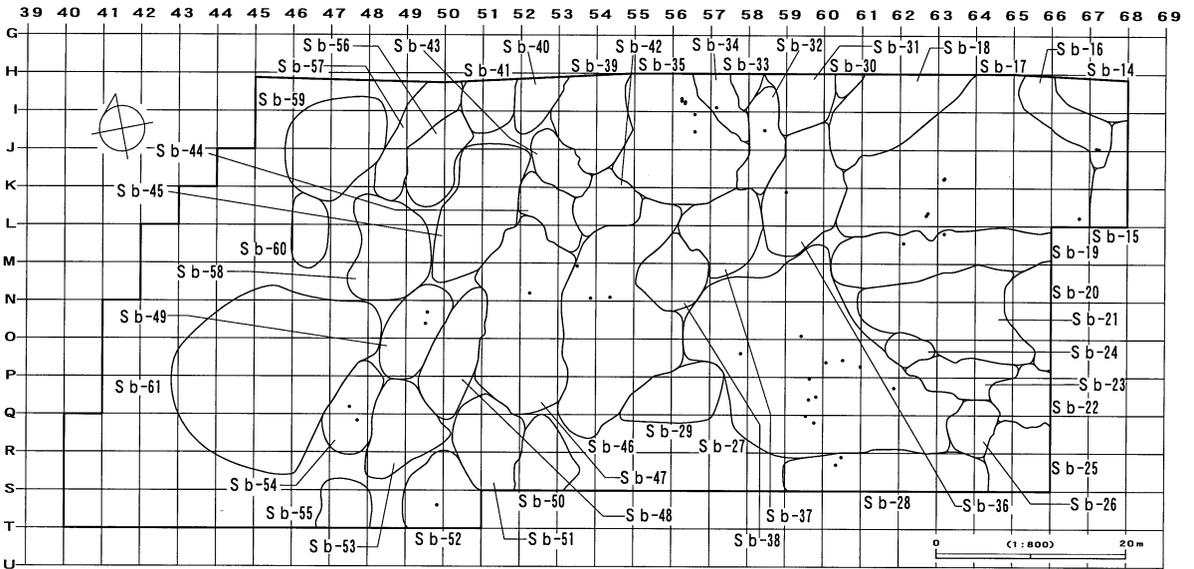


図IV-27 器種・石材別分布図(6)

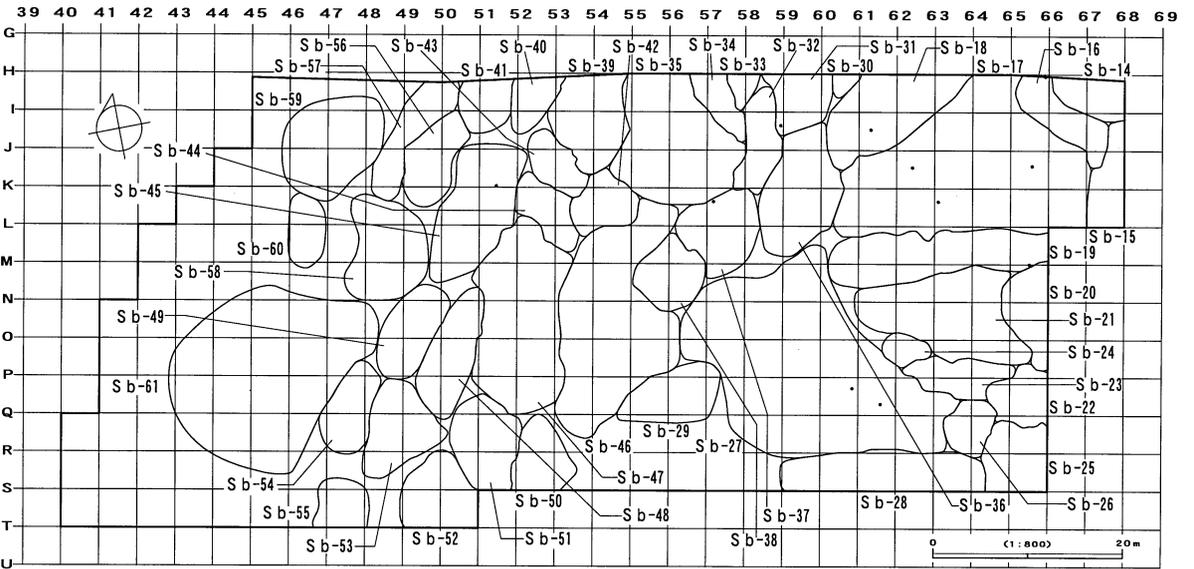
頁岩



安山岩

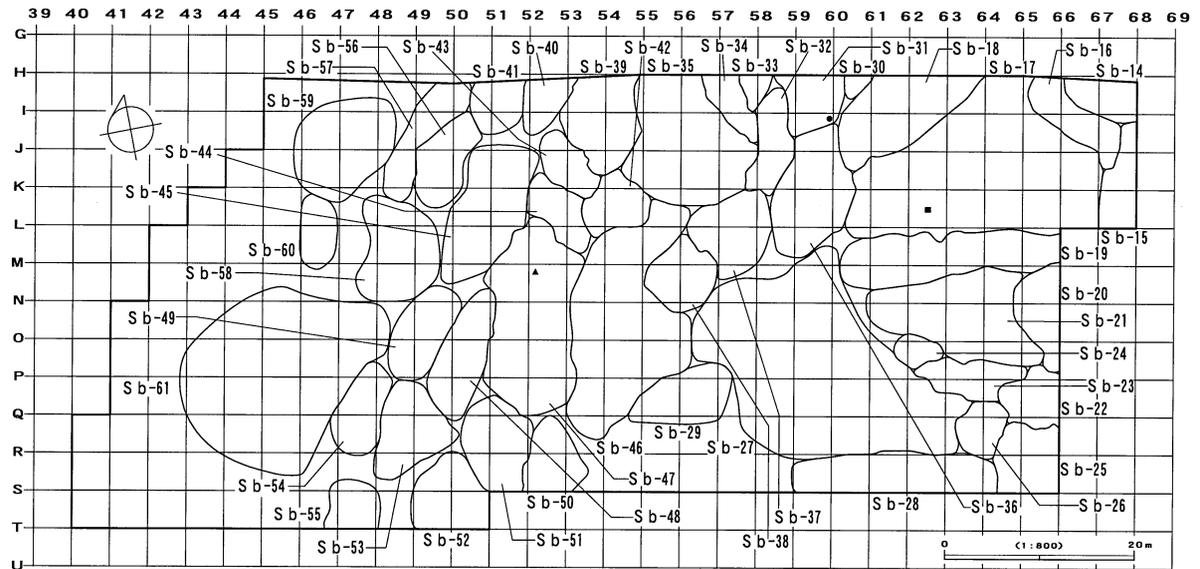


めのう

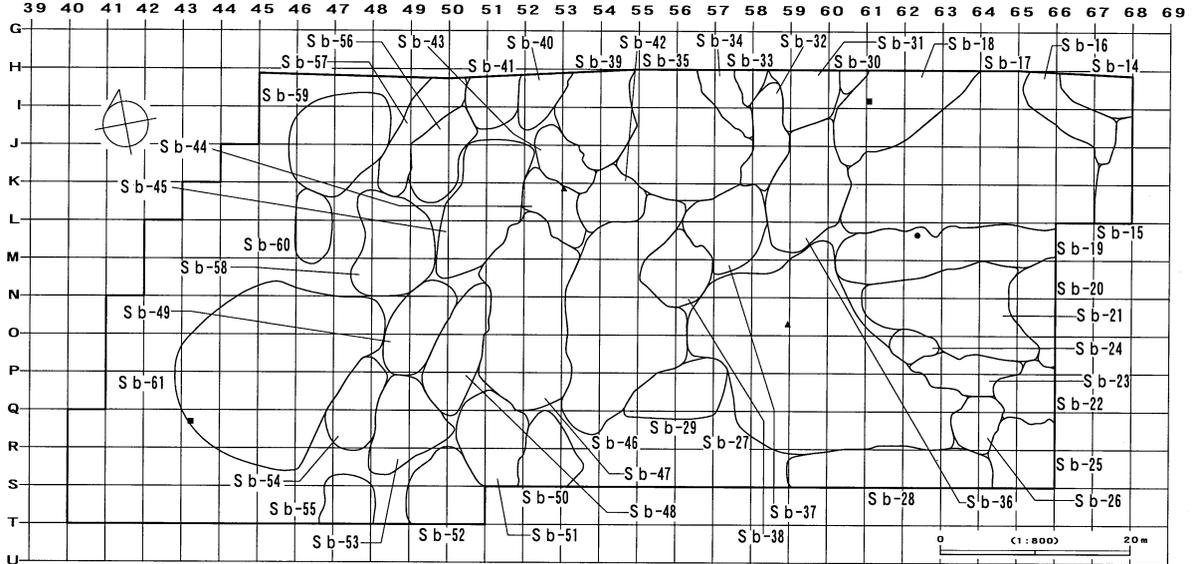


図IV-28 器種・石材別分布図(7)

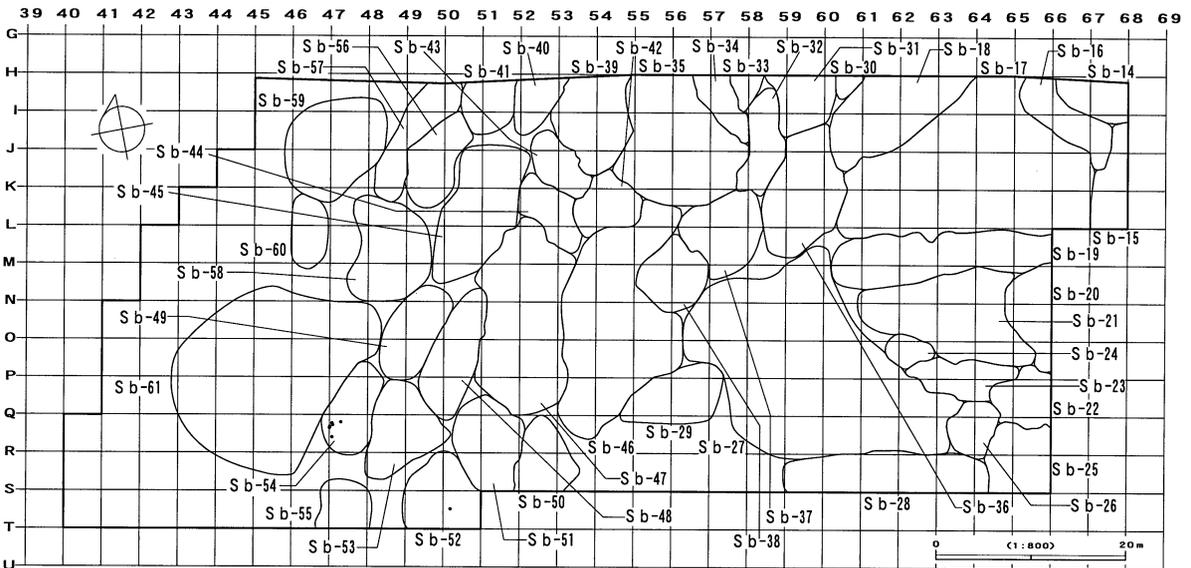
流紋岩 (●)・凝灰岩 (▲)・珪岩 (■)



碧玉 (●)・砂岩 (▲)・泥岩 (■)

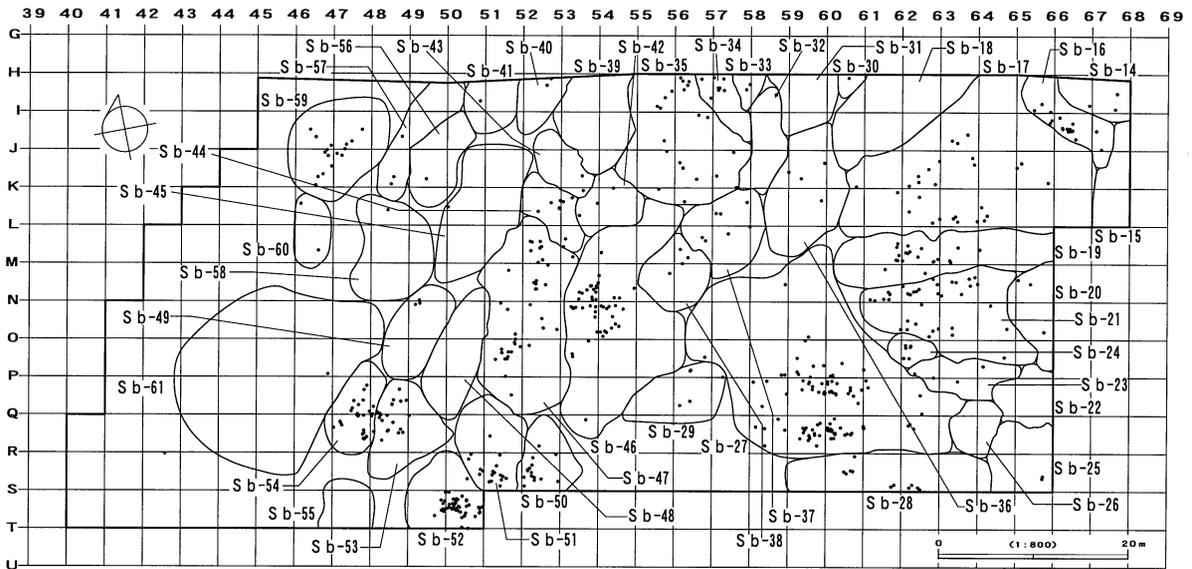


軽石

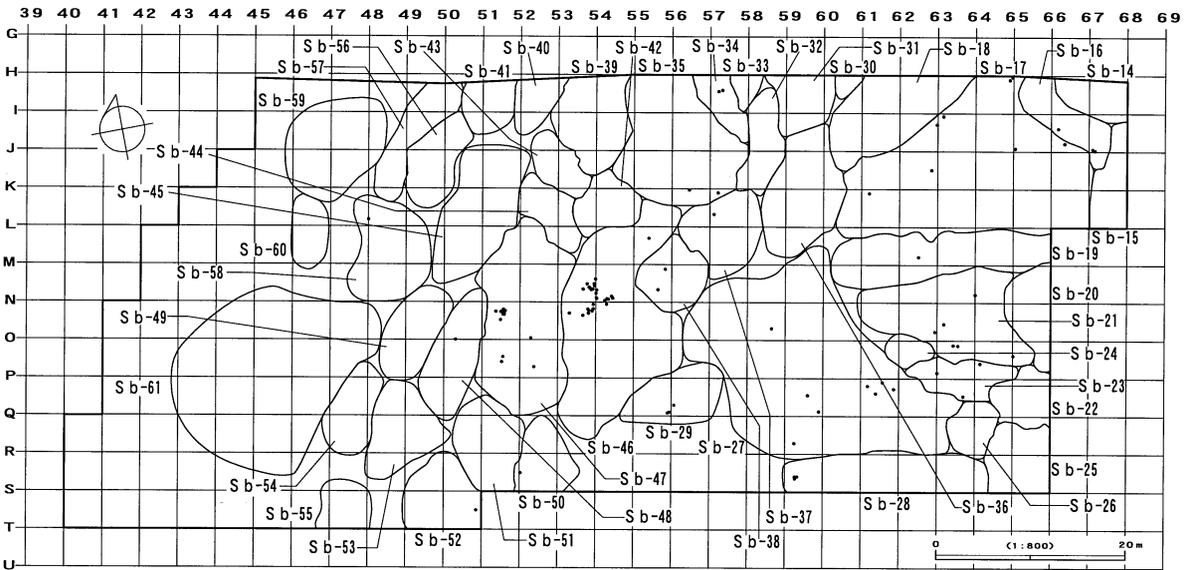


図IV-29 器種・石材別分布図(8)

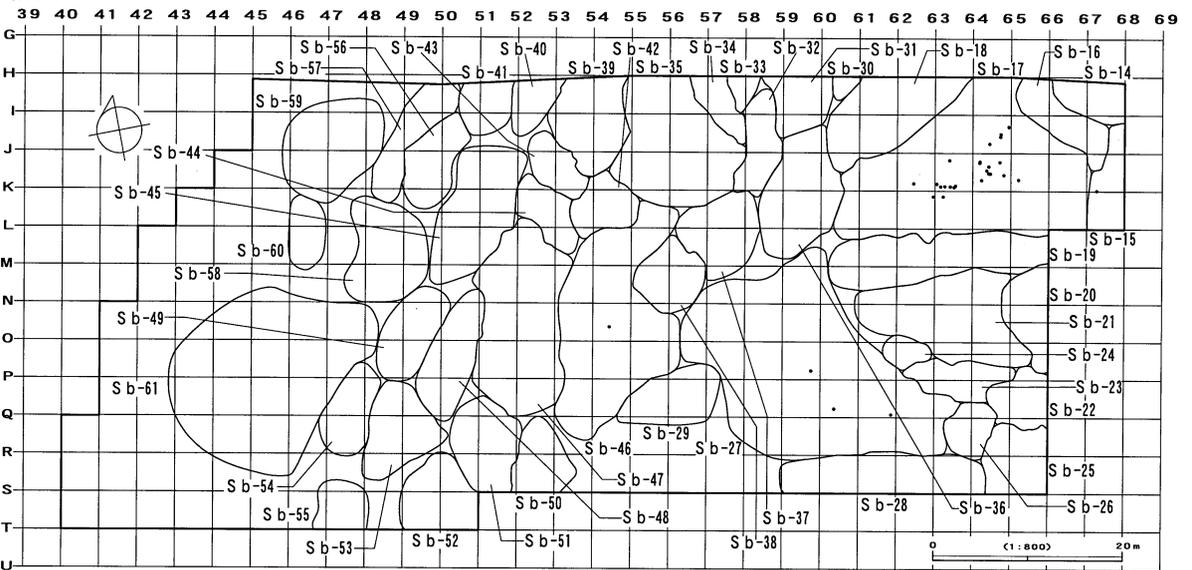
尖頭器



両面調整石器

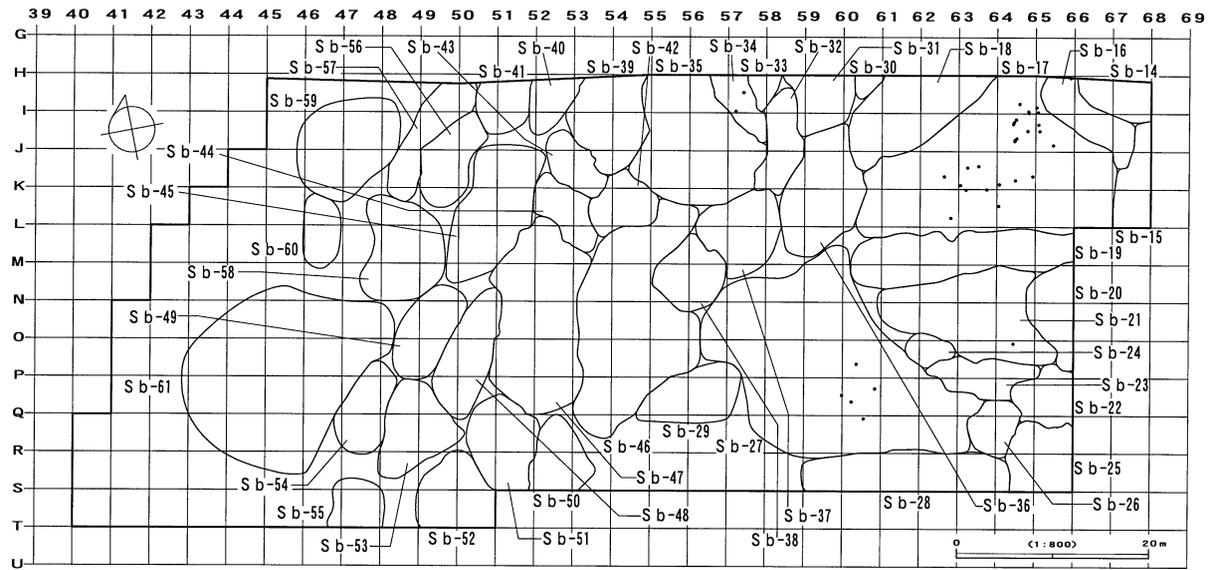


細石刃

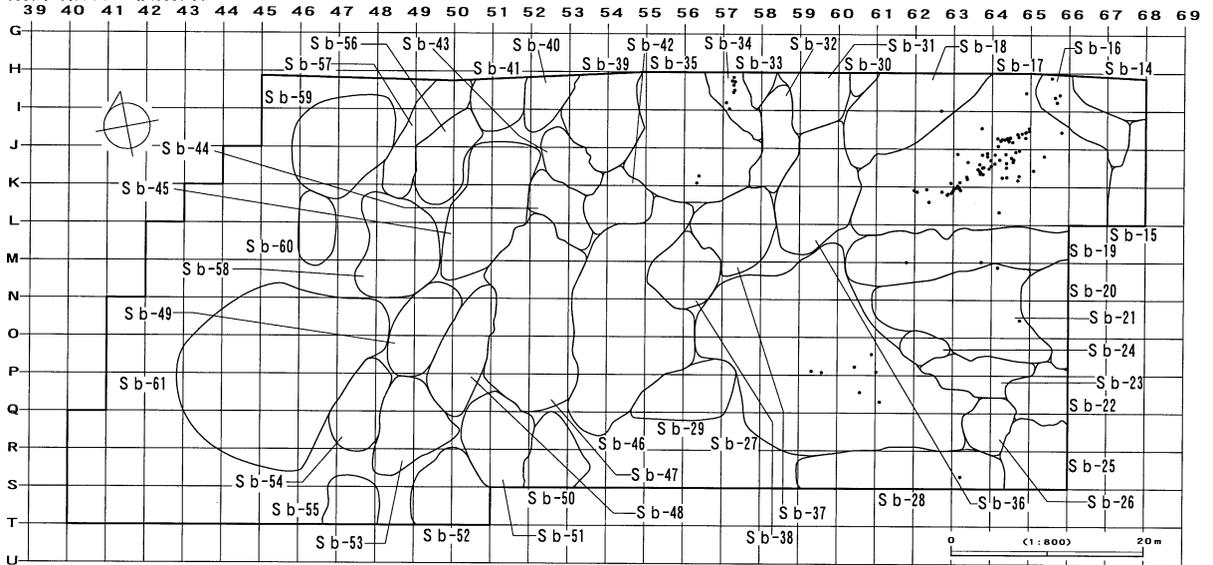


図IV-30 器種・石材別分布図(9)

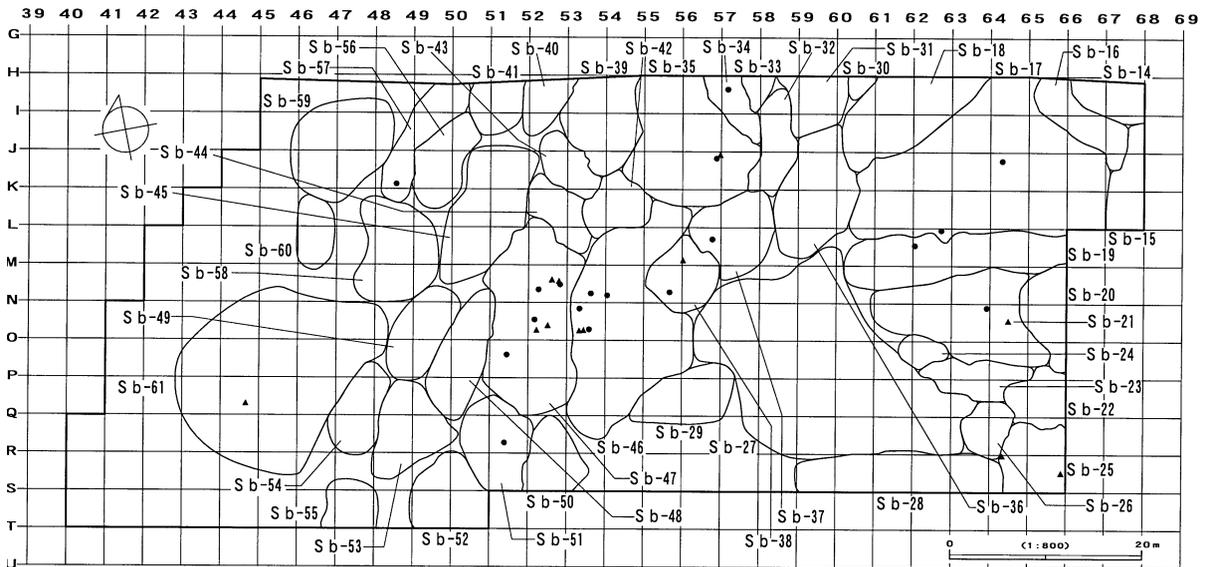
細石刃核



削片(細石刃核削片)



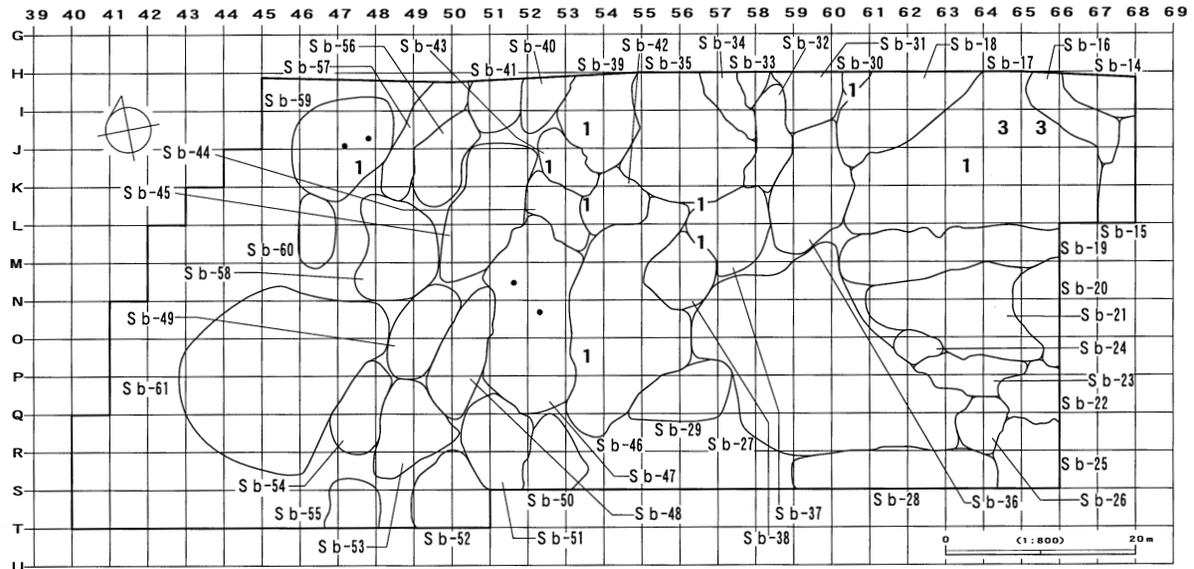
削片(尖頭器削片●・その他削片▲)



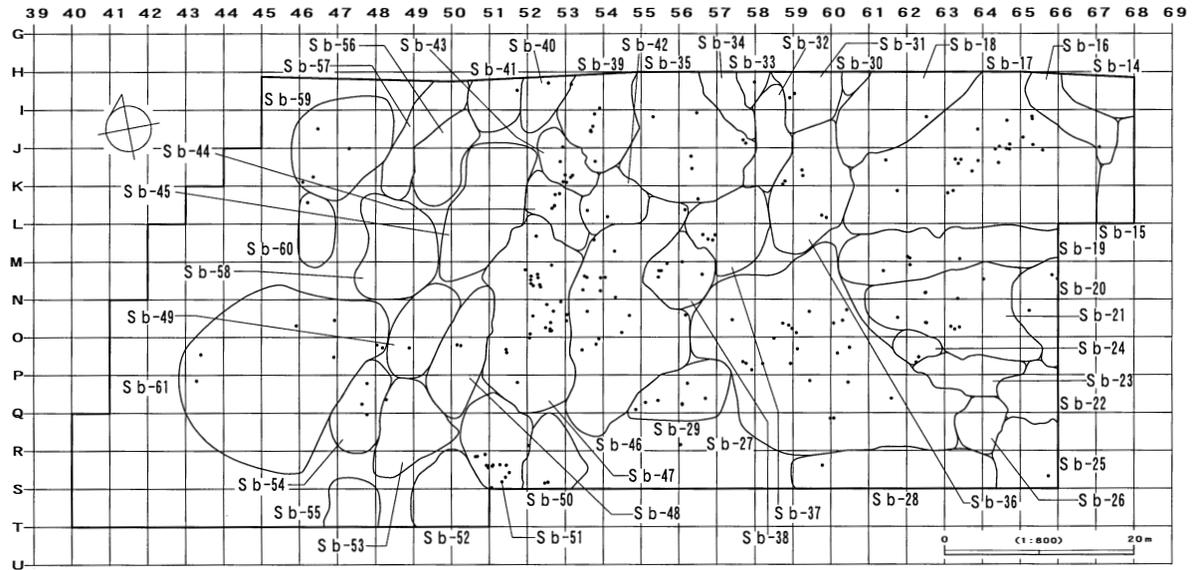
図IV-31 器種・石材別分布図 (10)

2 遺構と遺物

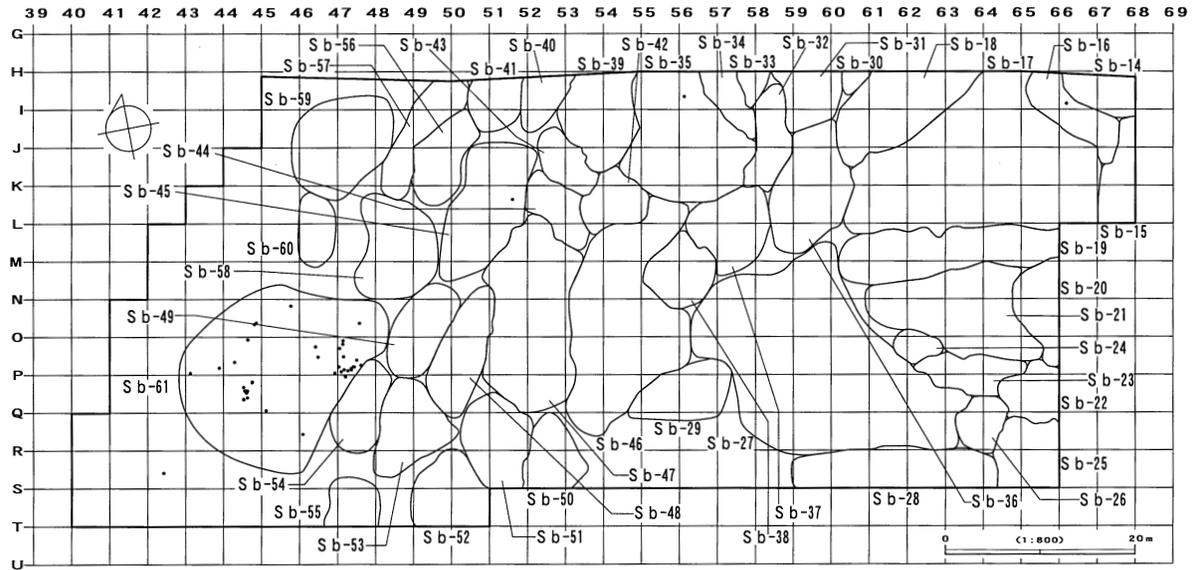
舟底形石器 (I類) ※数字は一括遺物点数



舟底形石器 (II類)

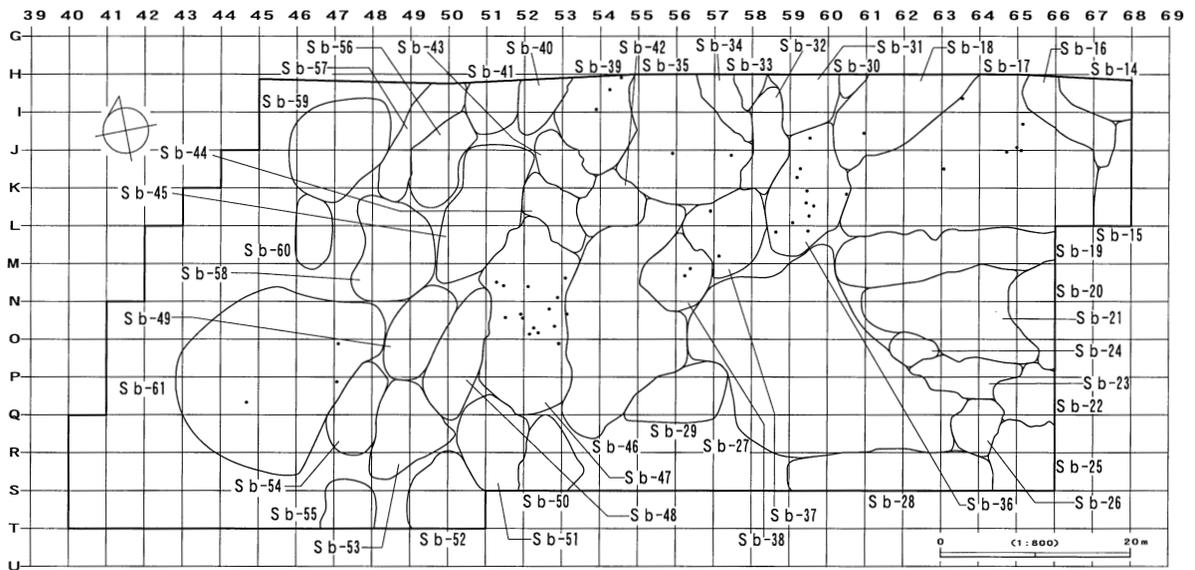


ナイフ形石器

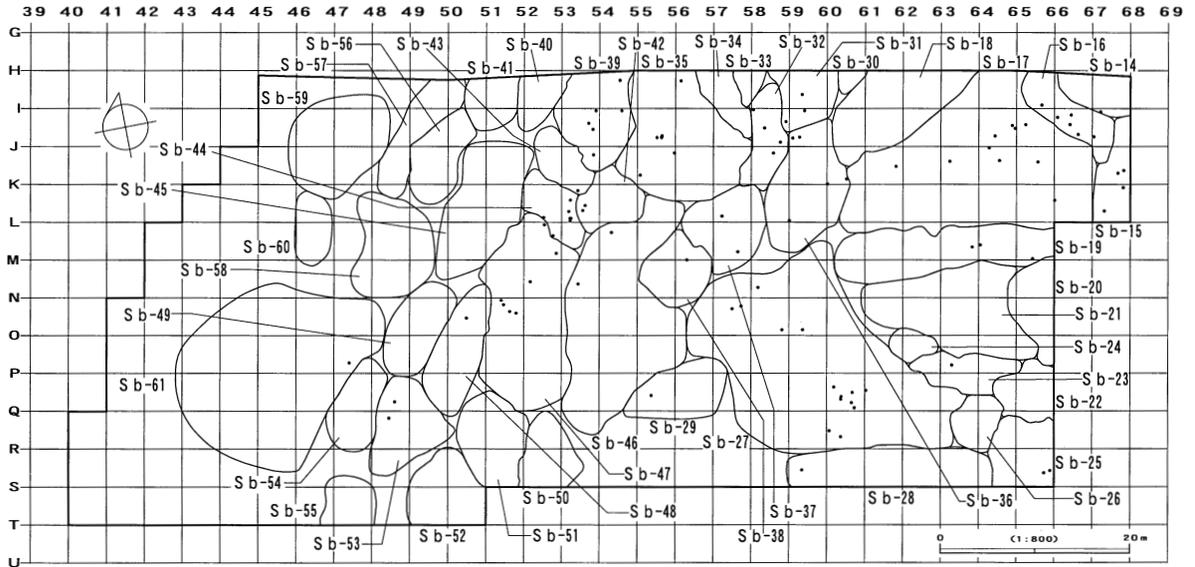


図IV-32 器種・石材別分布図 (11)

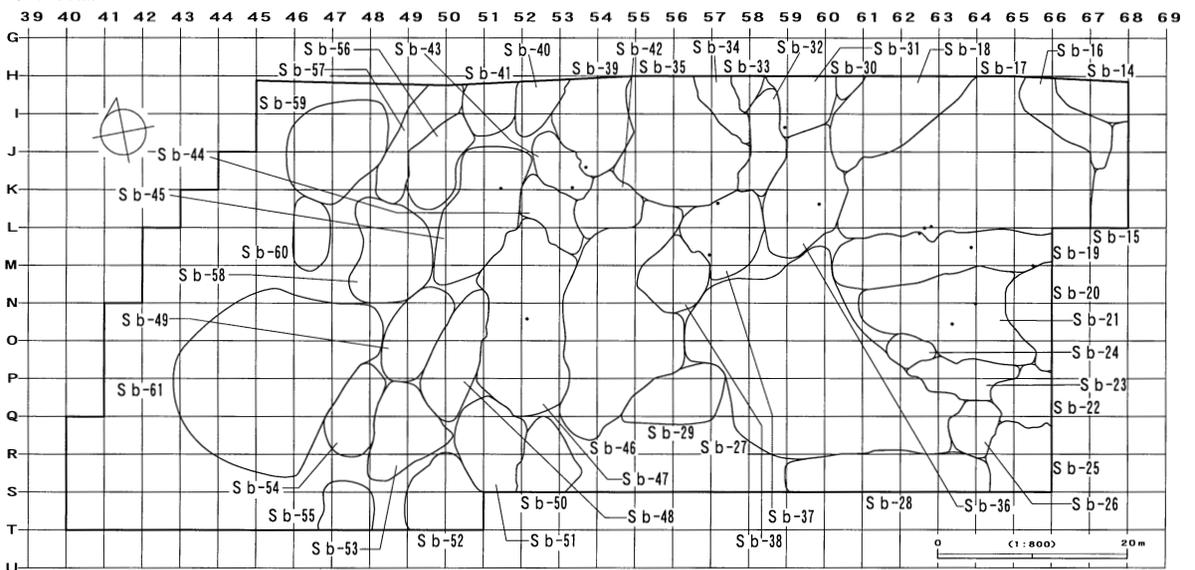
彫器



撚器

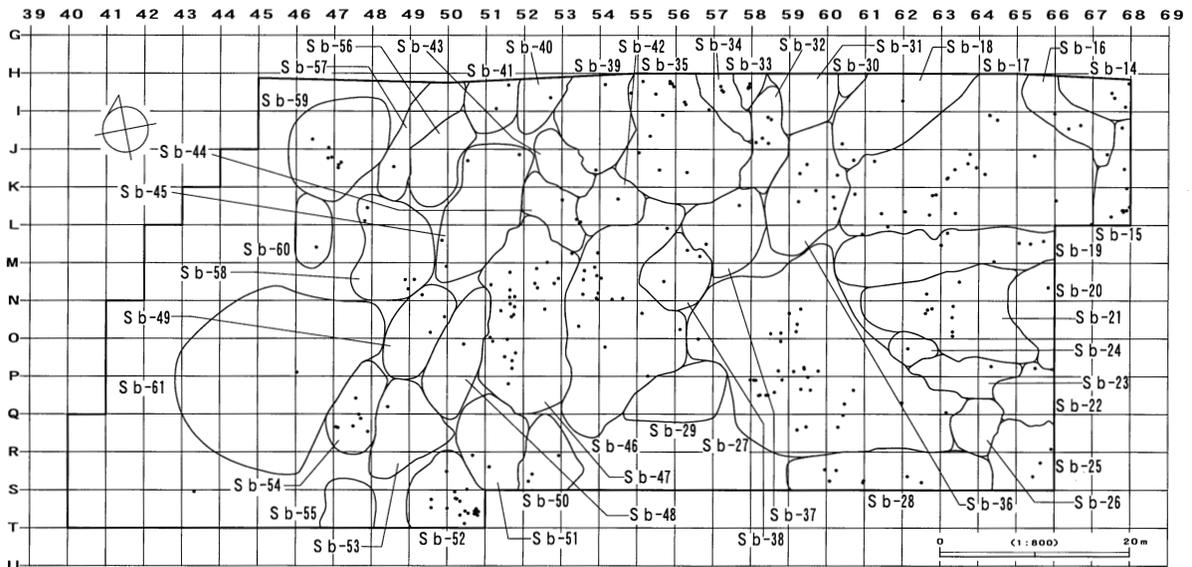


錐形石器

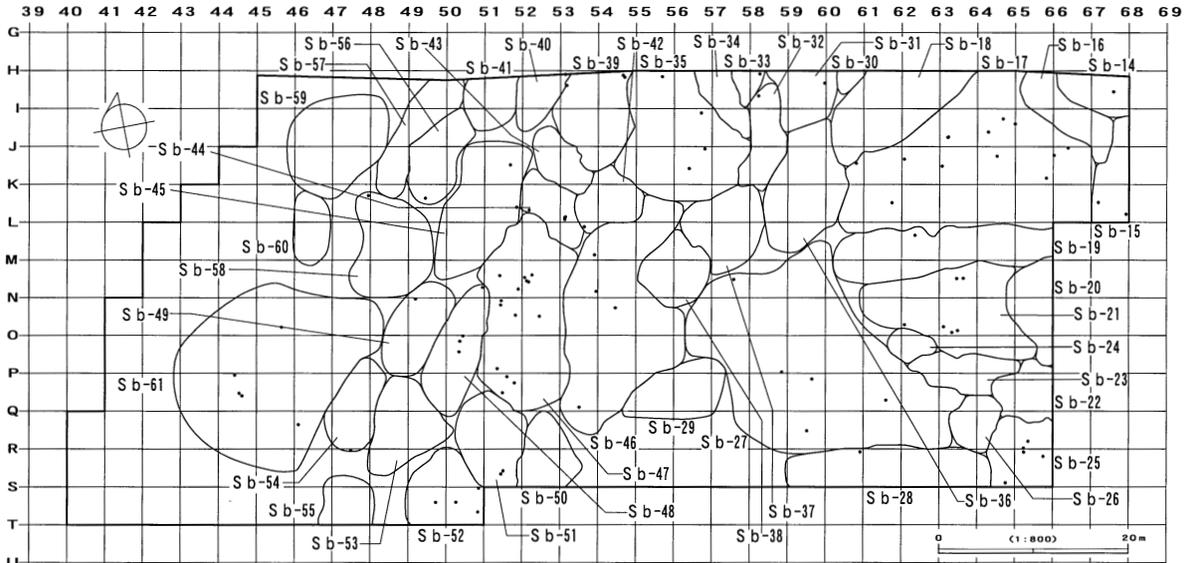


図IV-33 器種・石材別分布図 (12)

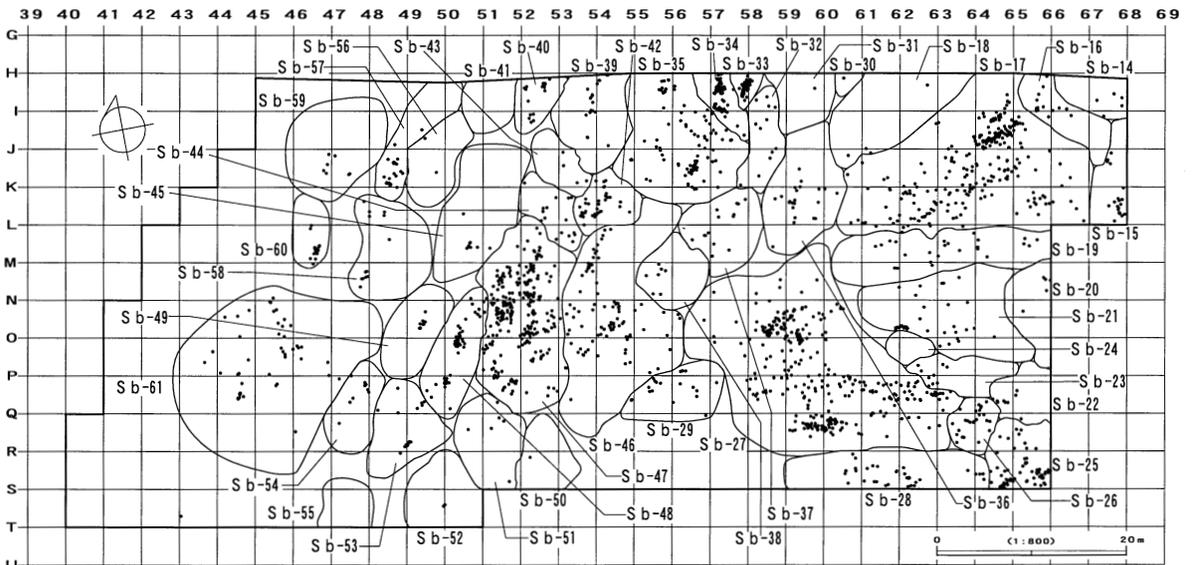
削器



二次加工ある剥片

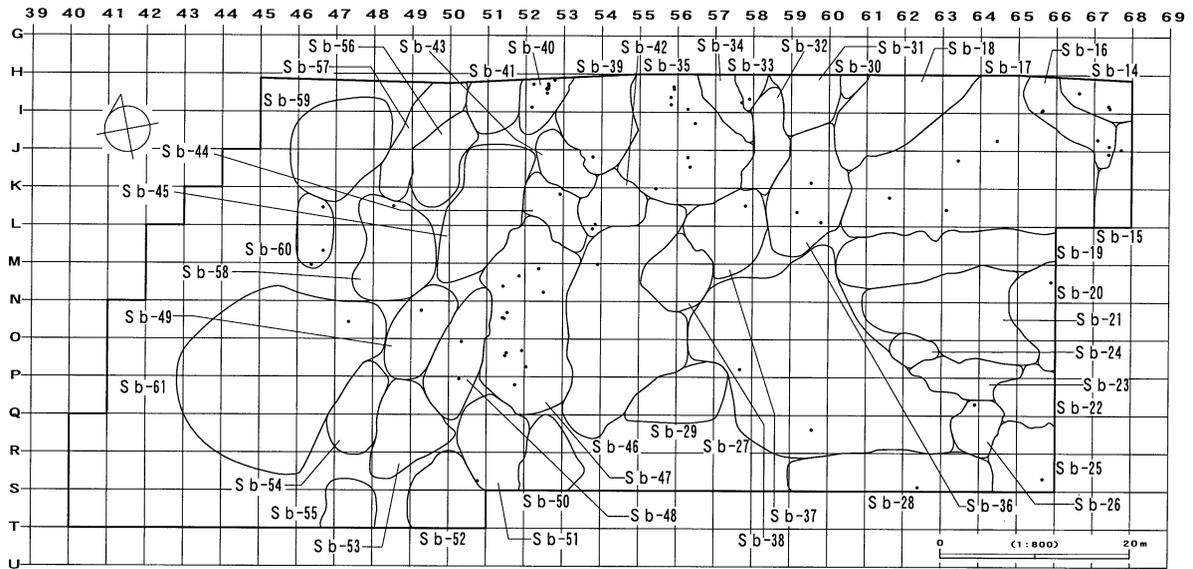


石刃・縦長剥片

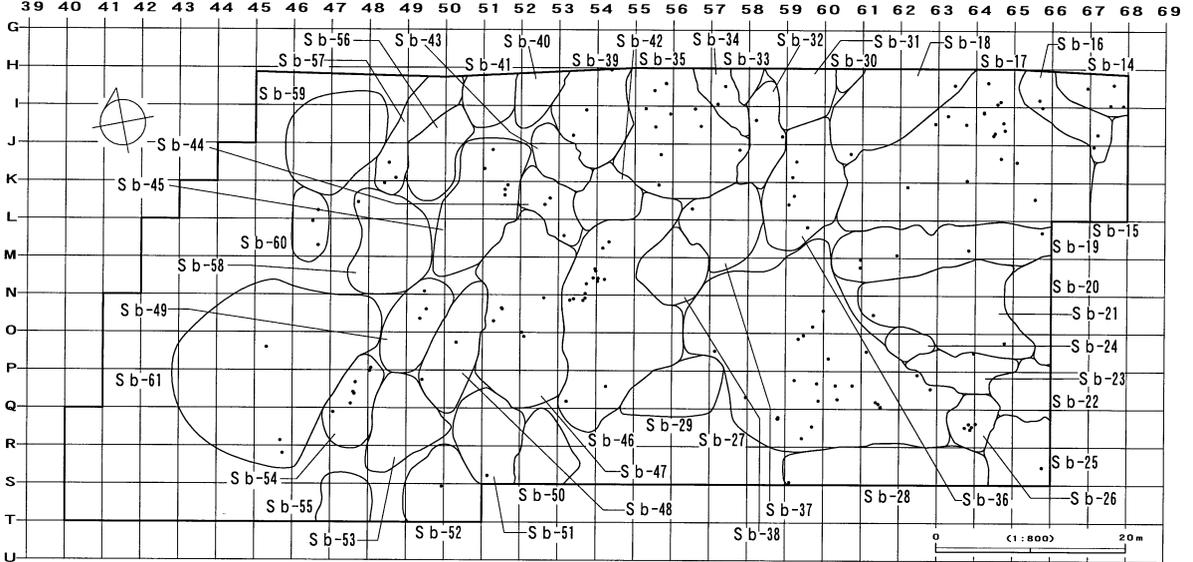


図IV-34 器種・石材別分布図 (13)

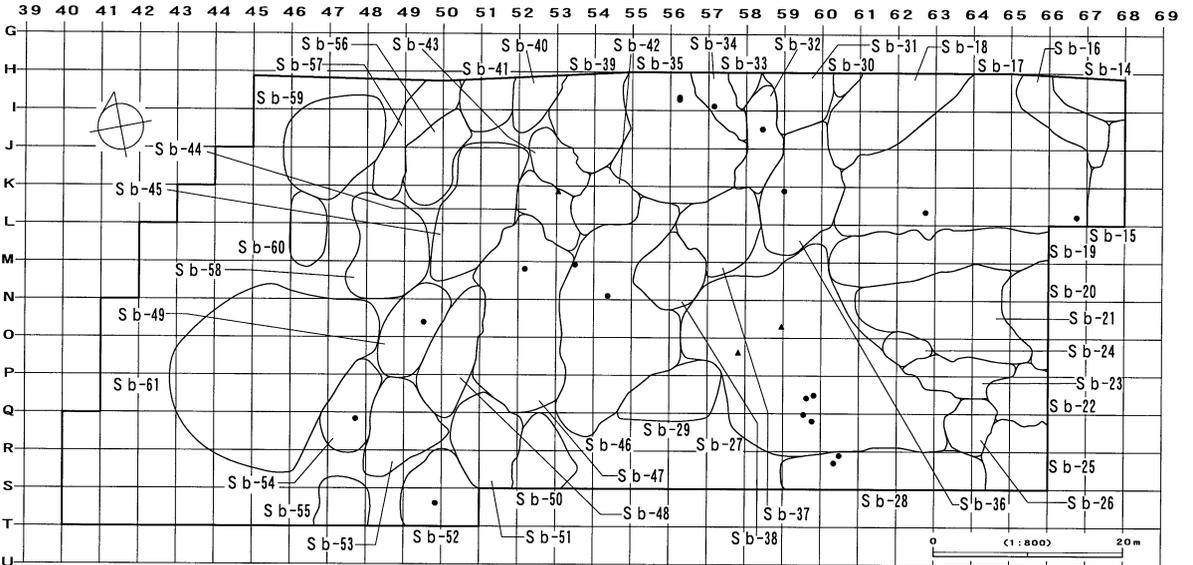
石刃核



石核

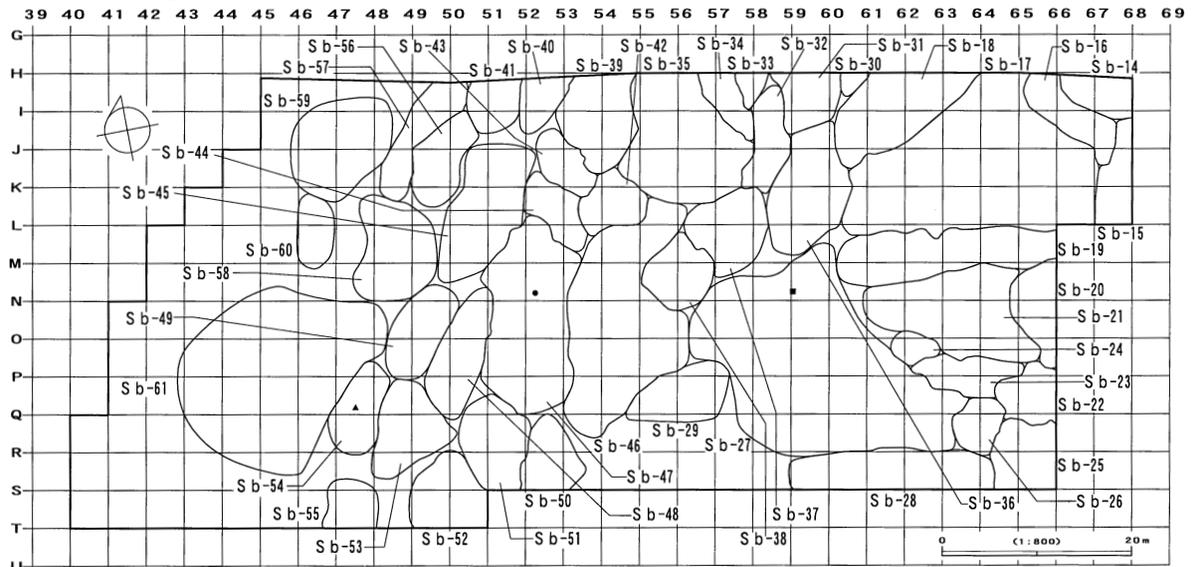


台石(●)・敲石(▲)

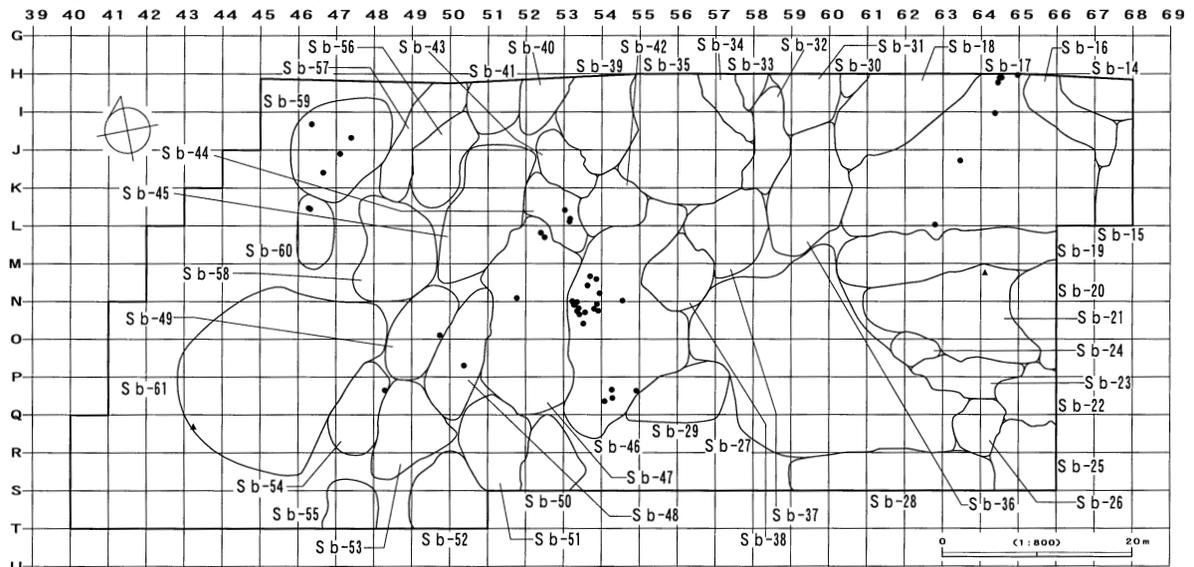


図IV-35 器種・石材別分布図 (14)

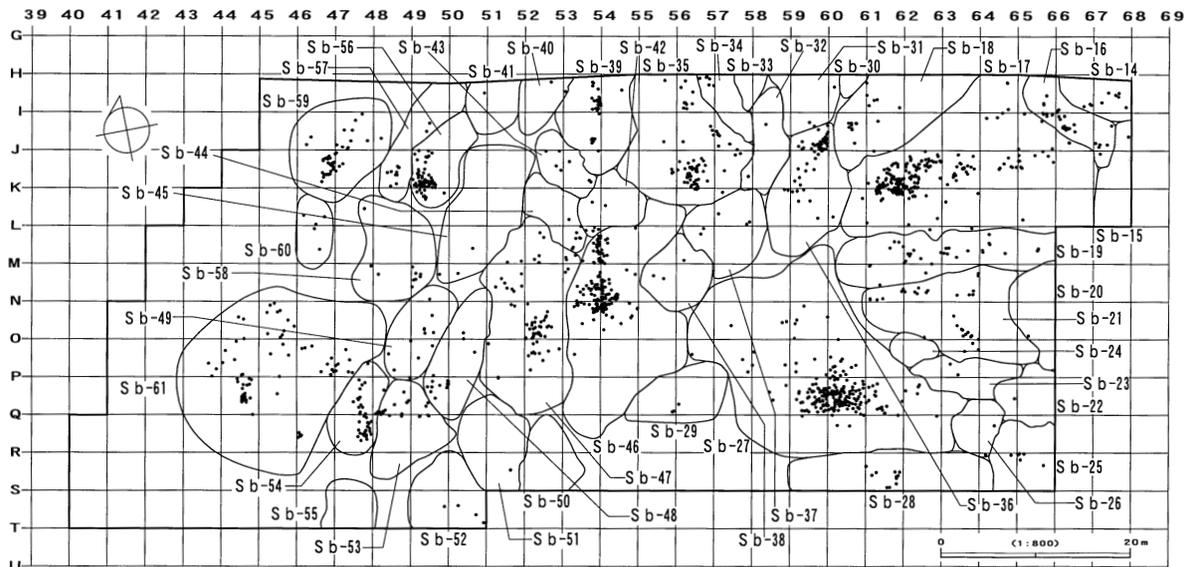
斧形石器(●)・砥石(▲)・石鏟(■)



原石(●)・礫(▲)



被熱石器



図IV-36 器種・石材別分布図 (15)

**彫器** (図IV-33、表IV-5~12)

44点出土し、Sb-17(6点)、18(1点)、35(2点)、36(11点)、37(2点)、38(2点)、39(3点)、46(1点)、47(13点)、61(3点)に分布する。比較的まとまって出土する傾向がある。ほとんどが周縁加工のある左刃の彫器であるが、Sb-61の彫器は異なり、F(Sb-61)区を特徴づけている。また、B(Sb-20~29)・E(Sb-56~60)区には分布せず、同様にその区域を特徴づけている。

**搔器** (図IV-33、表IV-5~12)

93点出土し、E(Sb-56~60)区を除いて全体的に分布する。彫器の分布するSb-36にはほとんどみられず、彫器とは分布が異なるところがある。

**錐形石器** (図IV-33、表IV-5~12)

15点出土し、散漫な分布である。

**削器** (図IV-34、表IV-5~12)

257点出土し、ほぼ全域に分布する。

**二次加工ある剥片** (図IV-34、表IV-5~12)

90点出土し、全体的に分布するが、密度は低い。Sb-47にまとまりがみられる。

**石刃・縦長剥片** (図IV-34、表IV-5~12)

石刃は789点、縦長剥片は1,178点出土し、全体的に分布している。

**石刃核** (図IV-35、表IV-5~12)

72点出土している。3点以上出土しているのはSb-16(5点)、17(4点)、35(9点)、36(3点)、40(12点)、60(3点)で、B(Sb-20~29)・F(Sb-61)区には少なく、分布に偏りがみられる。

**石核** (図IV-35、表IV-5~12)

147点出土し、全体的に分布している。石刃核の少ないB(Sb-20~29)区にも他地区同様に分布がみられる。

**台石** (図IV-35、表IV-5~12)

19点出土し、A~D区に分布し、特にB(Sb-20~29)区のSb-27・29にまとまっている。

**敲石** (図IV-35、表IV-5~12)

3点出土し、Sb-27(2点)、44(1点)に分布する。全体の遺物数に比べ、非常に少ない。

**斧形石器** (図IV-35、表IV-5~12)

1点出土し、Sb-47に分布する。

**砥石** (図IV-35、表IV-5~12)

1点出土し、Sb-54に分布する。

**石鏃** (図IV-35、表IV-5~12)

1点出土し、Sb-27の分布の周縁部に分布する。

**原石** (図IV-35、表IV-5~12)

45点出土し、Sb-17(8点)、46(22点)、59(4点)の3か所にまとまりがある。特にSb-46には厚さ1cm程度の板状ないし短冊状の原石が分布し、被熱しているものが多い。また、Sb-17・59には小型の棒状原石が含まれる。

**礫** (図IV-35、表IV-5~12)

2点出土し、Sb-21(1点)、61(1点)に分布する。

## 2 遺構と遺物

表Ⅳ-13 上白滝8遺跡東地区出土原礫面残存・被熱石器一覧

ブロック	遺物点数(点取り)(点)	原礫面残存石器(点、%)		被熱石器(点、%)	
Sb-1	565	269	47.6	26	4.6
Sb-2	76	36	47.4	0	0.0
Sb-3	223	108	48.4	37	16.6
Sb-4	37	22	59.5	20	54.1
Sb-5	1544	680	44.0	356	23.1
Sb-6	1620	634	39.1	1108	68.4
Sb-7	23	15	65.2	0	0.0
Sb-8	255	161	63.1	1	0.4
Sb-9	1482	507	34.2	949	64.0
Sb-10	581	261	44.9	227	39.1
Sb-11	31	16	51.6	4	12.9
Sb-12	546	268	49.1	44	8.1
Sb-13	68	35	51.5	2	2.9
白滝I群ブロック外	39	18	46.2	4	10.3
Sb-14	1484	169	11.4	9	0.6
Sb-15	268	37	13.8	1	0.4
Sb-16	718	200	27.9	37	5.2
Sb-17	8952	1862	20.8	259	2.9
Sb-18	334	97	29.0	17	5.1
Sb-19	1913	293	15.3	32	1.7
Sb-20	199	39	19.6	1	0.5
Sb-21	4179	546	13.1	33	0.8
Sb-22	623	54	8.7	1	0.2
Sb-23	1323	170	12.8	2	0.2
Sb-24	322	38	11.8	0	0.0
Sb-25	1144	240	21.0	6	0.5
Sb-26	498	154	30.9	2	0.4
Sb-27	15257	1939	12.7	229	1.5
Sb-28	2664	232	8.7	12	0.5
Sb-29	391	49	12.5	4	1.0
Sb-30	278	55	19.8	0	0.0
Sb-31	818	36	4.4	3	0.4
Sb-32	500	63	12.6	2	0.4
Sb-33	718	67	9.3	0	0.0
Sb-34	1813	169	9.3	7	0.4
Sb-35	5537	945	17.1	80	1.4
Sb-36	1574	288	18.3	64	4.1
Sb-37	462	86	18.6	5	1.1
Sb-38	672	203	30.2	3	0.4
Sb-39	2612	378	14.5	51	2.0
Sb-40	784	178	22.7	2	0.3
Sb-41	321	39	12.1	1	0.3
Sb-42	1201	203	16.9	6	0.5
Sb-43	720	137	19.0	7	1.0
Sb-44	2708	439	16.2	8	0.3
Sb-45	161	71	44.1	3	1.9
Sb-46	2622	516	19.7	188	7.2
Sb-47	9101	1463	16.1	71	0.8
Sb-48	1147	206	18.0	19	1.7
Sb-49	395	41	10.4	12	3.0
Sb-50	548	25	4.6	0	0.0
Sb-51	1269	80	6.3	1	0.1
Sb-52	523	114	21.8	4	0.8
Sb-53	1061	67	6.3	22	2.1
Sb-54	763	75	9.8	41	5.4
Sb-55	139	27	19.4	0	0.0
Sb-56	680	49	7.2	87	12.8
Sb-57	684	236	34.5	12	1.8
Sb-58	374	129	34.5	10	2.7
Sb-59	708	47	6.6	48	6.8
Sb-60	342	168	49.1	5	1.5
Sb-61	500	118	23.6	80	16.0
ブロック外	16	4	25.0	0	0.0
Sb-62	69	3	4.3	0	0.0
Sb-63	116	19	16.4	0	0.0
低位部ブロック外	15	0	0.0	0	0.0
合計	89310	15893	17.8	4265	4.8

**被熱石器** (図IV-35、表IV-13)

1487点 (1.8%) が被熱している。被熱率10%以上のブロックは Sb-56・61、5~10%は Sb-16・18・46・59、1~5%は Sb-17・19・27・29・35~37・43・45・48・49・53・54・58・60でそれ以外は1%以下で、8割以上のブロックが被熱率5%以下で、5割以上が1%以下である。全体的には「白滝I群」(Sb-1~13) (39.2%) に比べ、非常に低い割合であるが、既報告で遺物総数5万点以上の上白滝2 (Sb-15を除く)、上白滝5、「白滝I群」を除いた奥白滝1遺跡(鈴木ほか 2000、直江ほか 2001)と比較するとほとんど変わらず、奥白滝1遺跡の「白滝I群」の被熱率26.2%を考慮に入ると、むしろ、「白滝I群」被熱率の高さが目立ち、石器群を特徴づけている。分布に関してはほぼ全域に分布するが、いくつかの集中域があり、その中心に高密度の部分があるのが特徴である。この特徴は技術的に分類した器種毎の分布傾向とは異なり、被熱行為という全く別の要因によるものであるためと解釈できる。しかし、これらと炭化木片ブロックの分布が一致、または近接する場所はなく、炭化木片ブロックと被熱石器を直接的に関連づけるのは困難である。「白滝I群」とI群以外の遺物は Sb-1・14、Sb-3・17、Sb-5・19、Sb-6・36、Sb-8・35で分布上重複している(図IV-21)。このうち Sb-5・19、Sb-6・36に関しては、「白滝I群」である Sb-5 (23.1%)・6 (68.4%) は被熱率が高く、多くの被熱石器が分布している(図IV-25)のに対して、「白滝I群」以外の Sb-19 (1.7%)・36 (4.1%) は、他の「白滝I群」以外と同様に被熱率が低く、ほとんど分布がみられない。「白滝I群」の被熱石器がその場所で被熱したという前提で考えると、被熱を受けた「白滝I群」(Sb-5・6)が残された後に、被熱を受けない「白滝I群」以外(Sb-19・36)が重複して残されたと考えられ、それらには時間差を想定することができる。これらに上下差はないが(図IV-21)、堆積が薄いため、埋没後の土の動きによって上下差を失ったと考えられる。

**原礫面残存の石器** (表IV-13)

原礫面は12,841点 (15.7%) に残存している。原礫面残存率30%以上のブロックは Sb-26・38・45・57・58・60、20~30%は Sb-16~18・25・40・52・61、10~20%は Sb-14・15・19~21・23・24・27・29・30・32・35~37・39・41~44・46~49・55でそれ以外は10%以下である。E (Sb-56~60) 区の Sb-57・58・60は小型の転礫で搬入されるため、比率が高いと考えられる。その他のブロックでも局地的に比率の高い場所では原石に近い形状で搬入されたものが多いと考えられる。また、Sb-28・50・51・53・54は比率が低く、原礫面の少ない粗加工された尖頭器で搬入されたものが多いためと考えられる。このように原礫面残存率は搬入形態を反映している。(鈴木宏行・直江康雄)

**(3) 石器ブロック1~3 (Sb-1~3) の石器****出土石器** (表IV-5・6)

二次加工ある剥片21点、搔器1点、錐形石器1点、縦長剥片17点、石核79点、剥片745点の計864点、重量23,413.6gの石器類が出土した。石材は黒曜石1が最も多く95.8%を占め、以下黒曜石4 (1.6%)、黒曜石5 (1.5%)、めのう (0.7%)、黒曜石3 (0.4%) となっている。

「白滝I群」の二次加工ある剥片は、搔器・削器・錐形石器以外の定形的ではない石器を全て含めて分類している。また、加工も一般的な二次加工のほかに微細剥離が連続的にみられるものも含まれている。

**二次加工ある剥片** (図IV-37-1~11、図版68)

11点(10個体とII層一括出土1個体を加えた11個体)を図示している。1~3は薄手の剥片を素材とし、素材のバルブを除去する加工が施されたものである。1・2とも腹面にのみ長さ5mm程度

の大きな加工がみられる。2の素材打面は除去しきれずに残っている。3は両面に細かな加工が施されている。

4～7は台形または五角形の剥片を素材とし、縁辺もしくは末端辺に加工がみられるものである。素材の末端部は4～6が厚手であるのに対し、7は薄手である。打面幅が小さく、打面付近の両側縁の角度が大きく開いているものが多い(4・6・7)が、5のみ打面幅が大きく、打面付近の両側縁がほぼ平行している。二次加工は、4・5が腹面の片側縁から末端辺にかけての「く」の字状の縁辺に軽微な剥離が連続的にみられる。6は背面左側縁の突出部に急角度の加工があり、反対側縁の腹面には軽微で不連続な剥離がみられる。7は腹面に不連続な剥離がみられる。

8～10は縦長剥片を素材とするもので、8・10は片側縁、9は末端辺に軽微な加工が連続的に施されている。

11は大型の剥片を素材とするものである。腹面に長さ1 cmを越える大きな加工によって突出部が作出されている。錐形石器の可能性もある。

#### 搔器 (図IV-37-12、図版68)

1点(1個体)を図示している。末端側に原石面が残る大型の剥片を素材とする。長幅比は1.6で、背面の剥離面構成は腹面と同方向である。腹面の中ほどには大きな段がみられ、末端部が最も薄い部位となっている。刃部加工は末端の一部にのみ施され、刃部の角度は全体的に65度前後である。

#### 錐形石器 (図IV-37-13、図版68)

1点(1個体)を図示している。原石面が大きく残り、末端まで厚みを保つ剥片を素材とするものである。突出部は2か所みられる。左側は錯向剥離、右側は腹面からの剥離により作出されている。

#### 石核 (図IV-38-14～図IV-43-39、図版68～70)

50点(23個体とI層出土3個体を加えた26個体)を図示している。剥離の際に打面調整、頭部調整などの石核調整は施されず、剥離面のバルブが発達している特徴がみられる。

14～19は剥片を素材とし、扁平で作業面を主に素材の広い面に固定している石核である。主に末端が薄手で寸詰まりの剥片が剥離されている。17は素材の背面側、それ以外は素材の腹面側に作業面が設定されている。14は折れ面を打面とし、ほぼ一方向からの剥離がみられる。15の裏面は原石面に覆われている。16は一回のみ剥離が行われたものであるが、打点付近には数個のパンチマークがみられる。17～19は上下方向から剥離が行われているものである。17の下端にみられる連続した剥離は、正面にある球顆を除去しきれずにヒンジとなっている。18は裏面が原石面に覆われ、被熱による破損が著しい。19の素材は厚手の縦長剥片である。

20～23・32は打面を主に素材の広い面に固定するもので、素材は全て剥片である。20は剥離角が比較的小さく、裏面に素材背面が残っている。21は正面で長幅比が1.5前後の剥片が連続的に剥離され、裏面では横方向の剥離も行われている。22は厚手で大型の縦長剥片を素材とし、一回の剥離のみが行われたものである。23は正面から右側面に渡って縦長剥片が連続的に剥離されている。右側面の剥離は末端が著しいヒンジとなっている。32は被熱による破損が著しい。

24・25は剥片を素材とし、作業面を素材の細長い面に設定するものである。どちらも打面を作出した後、素材の打面側で連続的な剥離が行われる。24は被熱により破損している。25は縦長剥片が剥離されている。

26～31・33～39は打面転移を数多く行っているものである。打面と作業面を入れ替える交互剥離を基本とし、作業場所(交互剥離の二つの作業面)を転移させていく傾向がある。素材は28・29・31・33が剥片、それ以外は礫である。26・27は正面と上面との交互剥離が行われている。26の右側面では

縦長剥片が剥離され、上面には数個のパンチマークがみられる。27は石材の中に節理が多く入っており、素材としての状態は非常に悪い。右側面から裏面にわたる大きな面は素材を分割した際の剥離面である。29・30はめのう製である。29は正面で小型の縦長剥片が剥離されている。被熱によるひび割れがみられる。30は正面と上面で剥離がみられ、右側面には細かい剥離によって突出部が作出されている。28・31～39は2か所以上にわたって交互剥離が行われるもので、特に31・33～38は頻繁に交互剥離の作業場所を転移させているためサイコロ状の石核となっている。28は正面と上面、右側面と裏面との交互剥離がみられ、正面では縦長剥片が剥離されている。31は正面と上面、右側面と裏面との交互剥離がみられ、正面では縦長剥片が剥離されている。33は右側面に原石面が大きく残り、正面と上面、下端で左右の側面での交互剥離がみられる。34は正面に一部原石面が残っているが、六面とも剥離面に覆われている。頻繁に作業面を転移しながら交互剥離を繰り返し、最後は正面と上面での交互剥離がみられる。35は裏面に原石面が大きく残り、正面と上面、正面と右側面、下面と左側面での交互剥離が行われている。上面と下面にはパンチマークがみられる。36は裏面に原石面が大きく残り、正面の剥離によって石核を大きく消費しているため、交互剥離の単位が把握できない。おそらく複数の場所で交互剥離が行われたと思われる。37・38は原石面がほとんどなく、六面とも剥離面に覆われている。37は3、4mmの球顆が多数あり、右側面には軽いヒンジがみられ、打面と作業面が鈍角化している。38は正面と上面、右側面と裏面との交互剥離がみられる。39は扁平な形態で、正面・裏面・下面を中心に剥離が進行したものである。いずれも大型の剥片が剥離されている。

#### 石器ブロック1 (Sb-1) の分布 (図IV-44、表IV-5・6)

H65～67、I65～67区の7.5×9mの範囲で確認されたが、調査区範囲外のG66・67区や斜面部のH・I69区にも分布が広がると考えられる。H66区に三日月状の集中区があり、その他はやや散漫な出土状況である。二次加工ある剥片8点、搔器1点、縦長剥片12点、石核27点、剥片517点の計565点、重量15,433.2gの石器類が出土した。

#### 石器ブロック2 (Sb-2) の分布 (図IV-45、表IV-5・6)

H62～65、I62～65区の8×13mの範囲で確認されたが、若干調査区範囲外のG64・65区にも分布が広がると考えられる。H64・65区の北部に小さなまとまりがあるが、全体的には散漫な分布である。二次加工ある剥片1点、縦長剥片1点、石核11点、剥片63点の計76点、重量4,458.2gの石器類が出土した。石核の比率が高く(14.4%)、H64・65区の境目とI63区に集中してみられる。めのう製の剥片が1点出土している。

#### 石器ブロック3 (Sb-3) の分布 (図IV-46、表IV-5・6)

I65・66、J64～66区の5.5×12mの範囲で確認された。ブロックの北部にまとまって分布し、南側は散漫な分布である。二次加工ある剥片12点、錐形石器1点、縦長剥片4点、石核41点、剥片165点の計223点、重量3,522.2gの石器類が出土した。石核の比率が非常に高い(18.4%)。めのう製の石核が2点出土している。

#### 石器ブロック1～3 (Sb-1～3) の接合状況 (図IV-47)

Sb-1～3ではブロック内の接合を中心として、ブロック間にも接合関係が広がっている。ブロックの集中域同士の接合関係ではなく、集中域と他のブロックの散漫な地点との接合関係が多い。また、Sb-3ではSb-5との剥離面接合、Sb-6との折れ面接合が確認されている。

### 母岩別資料・接合資料

「白滝Ⅰ群」(Sb - 1~13)では多数の接合資料が得られ、それらを検討した結果、素材の形態、打面・作業面の設定場所や転移方法、得られる剥片の形態などにより剥離技術をⅠ～Ⅲ類に大別し、さらに若干の細分を行った。なお、これは一昨年度報告した奥白滝1遺跡(直江ほか 2002)の「白滝Ⅰ群」の剥離技術をもとにしている。

**Ⅰ類**：扁平な石核の広い面で剥離作業を行うもの。

**Ⅰ a類**…片側の広い面で作業を行うもの。主に長幅比が1.0前後の貝殻形・扇形・台形・三角形の剥片が剥離される。

**Ⅰ b類**…表裏両方の広い面で作業を行うもの。主にやや横長の剥片が剥離される。

**Ⅱ類**：素材の小口面で剥離作業を行うもの。

**Ⅱ a類**…素材の広い面に打面を固定するもの。主に打面部が幅広で厚い剥片・両側縁の中央がほぼ平行する寸詰まりの剥片が剥離される。

**Ⅱ b類**…素材の小口面を打面に固定するもの。主に縦長の剥片が剥離される。

**Ⅲ類**：打面と作業面を頻繁に転移するもの。剥離される剥片の形態は最も多様である。主に両側縁の中央がほぼ平行する寸詰まりの剥片・やや横長の剥片・縦長剥片・片側縁が「く」の字状になる剥片などが剥離される。

**Ⅲ a類**…打面と作業面を1～数打ごとに入れ替える交互剥離を基本とし、作業場所(交互剥離の二つの作業面)を転移していくもの。

**Ⅲ b類**…打面と作業面の転移に規則性が見られないもの。

以下、「白滝Ⅰ群」(Sb - 1~3、4~6、7・8、9、10、11~13)に限定し、接合資料の記載に用いる。

### 母岩別資料6・接合資料6 (図Ⅳ-48、図版71-1)

母岩別資料は接合6のみである。

**素材** 7点(7個体)が接合し、重量は254.0g、大きさは6.5×9.5×7 cmである。上面に広く平坦な剥離面があることから、素材は厚手の剥片であった可能性が高い。原石面は転礫面で裏面の一部には半月状の「つめ跡」(以下、「爪状痕」と表現)がみられる。

**剥離工程** 上面で横方向の剥離が行われた後(段階1)、正面から右側面にかけて連続的にⅡ類の剥離が行われている(段階2)。剥離のほとんどがヒンジとなり、最終的に石核23が遺棄される。

**分布** ほとんどがSb - 1のH66・67区の集中域から出土するが、段階2で最初に剥離された剥片と石核23がブロック南東部に離れて分布している。

### 母岩別資料17・接合資料34 (図Ⅳ-48、図版72-1)

母岩別資料は接合34のみである。

**素材** 13点(11個体)が接合し、重量は430.1g、大きさは9.5×9×7.5cmである。全体的に摩滅し、部分的に平滑な面が残る皿円礫を素材とし、ほぼ原石の状態で遺跡内に搬入されている。

**剥離工程** 正面と上面での交互剥離が最終段階まで行われ、石核26が遺棄される。正面の剥片はすべて欠落している。段階1の剥片は石核の素材となり、Ⅰ a類の剥離が行われ、石核15が遺棄される。段階2・3で得られた剥片がそれぞれ二次加工ある剥片6・5となっている。

**分布** Sb - 3からまばらに出土している。

### 母岩別資料1・接合資料1 (図Ⅳ-49・50、図版71-2)

母岩別資料は接合1のみである。

**素材** 37点(36個体)が接合し、重量は716.6g、大きさは13×9.5×9 cmである。平滑な面に覆われ、角が摩滅した亜角礫を素材とし、ほぼ原石の状態で遺跡内に搬入されている。

**剥離工程** Ⅲ類の剥離を基本として剥離が進行していく。段階1・2、4・5、7～11は主に正面と鋭角に交わる裏面に作業場所を設定して交互剥離が行われている。段階1・4の正面の剥離は広く平坦な面を作業面としているため、幅広の剥片が剥離されているのに対して、裏面の段階2・5・8・9・10では石核の稜に沿った作業面が設定されているため、縦長剥片が多く剥離されている。途中でみられる段階3・6は横方向の剥離で、それぞれ前段階の作業面を打面とする打面転移である。段階12・13はⅢb類の剥離で、主に正面と左側面で作業が行われている。その後、途中横方向からの剥離を挟んで(段階16・17)正面と左側面(段階14・15)→正面と左側面(段階18・19)→裏面と右側面(段階20・21)→下面と裏面(段階22・23)は作業場所を転移しながらⅢa類の剥離が行われている。最終的に段階23がヒンジとなり、石核34が遺棄される。

**分布** Sb-1のH66・67区の集中域からまとまって出土している。

**母岩別資料4・接合資料4**(図IV-50・51、図版72-2)

母岩別資料は接合4のみである。

**素材** 37点(29個体)が接合し、重量は948.4g、大きさは14.5×10.5×8.5cmである。全体的に摩滅した円礫を素材とし、ほぼ原石の状態で遺跡内に搬入されている。

**剥離工程** 段階1～7はⅢa類の剥離が行われている。段階1～3は原石の短軸と長軸との剥離である。短軸側の段階1・3は上面、長軸側の段階2では厚手の縦長剥片が正面から左側面にかけて連続的に剥離されている。作業場所を移動した段階4・5は上・下面と左側面との剥離である。段階4は段階2の左側の作業面を打面に設定し、石核の上下で行われる剥離で、段階3からは90度打面転移した状態である。段階6・7は上面の左右で行われた剥離である。欠落部分が大きく前段階とのつながりは不明であるが、段階8は上からの剥離となる。再び段階9・10、11・12ではⅢa類の剥離となる。段階9の正面の剥離は、広い面に施されるため、大きな平坦面が作出され、段階10が下面から左側面にわたる連続的な剥離となっている。この中の縦長剥片が二次加工ある剥片10の素材となっている。段階11・12の間には上面で剥離された欠落部分がある。最終的にサイコロ状の石核35が遺棄される。

**分布** Sb-1のH66区を中心に分布するが、段階1・2・7の剥片の一部がやや離れたブロック南西部から散漫に出土している。

**母岩別資料2・接合資料2**(図IV-51・52、図版73-1)

母岩別資料は接合2・341で構成され、総点数32点、総重量1,581.2gである。

**素材** 30点(19個体)が接合し、重量は1,533.4g、大きさは9.5×13.5×17cmである。角が摩滅し、平滑な面が部分的に残る亜円礫を素材とし、ほぼ原石の状態で遺跡内に搬入されている。

**剥離工程** Ⅲ類の剥離を基本として作業が進行している。段階1・2、4・5は、原石の短軸と長軸とで行われた交互剥離である。途中の段階3は裏面からの剥離で、段階2の作業面を打面としている。段階6からはⅢb類の剥離となる。正面で左右からの対向状の剥離の後(段階6・7)、段階8は90度打面転移を行い、再び裏面での剥離となる。段階9は、段階4でできた平坦面を打面とする正面での連続した剥離である。その後、原石面を打面として、上面からの剥離が行われる(段階10)。段階10の剥片は二次加工ある剥片7の素材となっている。最終的な石核は欠落しているが、空隙部分から遺跡内でほぼ原石を消費し尽くしたことが分かる。

**分布** Sb-1から出土している。段階1～4は南側、段階5～10は北側にそれぞれまとまって分布している。

**母岩別資料5・接合資料5** (図IV-52~54、図版73-2)

母岩別資料は接合5と剥片1点で構成され、総点数90点、総重量1,528.0gである。

**素材** 89点(67個体)が接合し、重量は1,514.1g、大きさは9×12×16cmである。全体的に摩滅した円礫を素材とし、上面で大きな剥離を行った状態で遺跡内に搬入されている。

**剥離工程** III a類の剥離を基本として作業が進行する。段階1~4、6~16、17・18は原石の長軸と短軸上に作業場所を設定している交互剥離である。上面は長軸上の作業面で、段階2・4前半までは幅広剥片が剥離されるが、それ以降は、正面側の剥片と同様に、石核の稜に沿った作業面が設定されているため、長幅比が1.0以上の剥片が多く剥離される。段階2の正面からの剥離は欠落し、横方向からの剥片のみが接合する。段階5は右側面で行われた単独の剥離である。段階4・6とも正面右側での剥離が多く行われたため、上面が大きく傾いている。その後も同一の作業場所での交互剥離が長く続き、石核が相似的に縮小していく。段階14は、右側面全体に及ぶ連続的な剥離である。そのため次の段階15・16は、どちらも段階14との交互剥離であるが、90度打面転移した形となっている。段階18は正面横からの剥離で、以前の交互剥離部の打面縁辺を剥片の稜に利用している。段階19からはIII b類の剥離である。頻繁な打面転移により、最終的にサイコロ状の石核36が遺棄される。

**分布** Sb-1の中央に散漫に分布している。

**母岩別資料47・接合資料337** (図IV-55~59、図版74・75-1)

母岩別資料は接合337・175で構成され、総点数118点、総重量4,543.2gである。

**素材** 116点(92個体)が接合し、重量は4,524.4g、大きさは23×19×16.5cmである。全体的に摩滅し、上端がすぼまる雫状の円礫を素材とし、ほぼ原石の状態に遺跡内に搬入されている。

**剥離工程** III a類の剥離を基本として作業が進行する。正面横からの剥離の後(段階1)、上端で交互剥離が行われる(段階2・3)。90度打面転移した段階4の後、再び上端で交互剥離がみられる(段階5~7)。段階4・5・6・7の大型の剥片は石核の素材となっている(個体A・B・C・D・E)。特に個体B・Dの素材は、類似した厚手の剥片である。また、搔器12は段階6の剥片を素材としている。その後左側面で横からの剥離を行い(段階8)、作業場所を右側端に転移し、交互剥離が行われる(段階9・10)。段階9は連続的な剥離で、石核の右側を大きく消費している。次に作業面を裏面の下端に転移し、交互剥離が行われる(段階11・13)。段階12には1cm程の球顆が取り込まれ、石核からの除去が目的であったとみられる。その後上端で交互剥離が行われる(段階14~17)。段階15では片側縁が「く」の字状の剥片が剥離されている。段階18からはIII b類の剥離が正面と裏面で横方向からみられ、最終的にサイコロ状の石核38が遺棄される。

個体Aは折損後に剥離が行われ、石核は欠落している。

個体BはII a類の剥離が石核を半周して連続的にみられ、石核20が遺棄される。

個体CはII a類の剥離が一回行われ、石核17が遺棄される。

個体DはII類の剥離を基本として作業が進行する。D-段階1・3は裏面横方向のII b類の剥離である。D-段階2・4・5はII a類の剥離で、4・5の間には上面の剥離(欠落)がみられる。全体的に打面転移が数回行われるが、素材腹面を打面とする意識が強い。最終的に石核21が遺棄される。

個体Eは素材の腹面側を作業面に固定するI a類の剥離がみられる。石核は欠落している。

**分布** Sb-1の南北に集中域が分かれるが、段階、個体差によつての分離はできない。最終的な石核38は北側の集中域に、個体の石核や搔器12は南側の集中域に分布している。

**母岩別資料3・接合資料3** (図IV-60、図版75-2)

母岩別資料は接合3のみである。

**素材** 39点 (34個体) が接合し、重量は1,496.2g、大きさは15×17.5×11cm である。正面が摩滅し、裏面に平滑な面がみられる亜円礫を素材としている。欠落部分が大きく搬入形態は不明である。

**剥離工程** Ⅲ a 類の剥離が行われるが、上面の剥離はすべて欠落している。段階1の大型の剥片は個体Aの素材となり、Ⅱ a 類の剥離が連続的に行われる。最終的な石核は欠落しているが、空隙部分から遺跡内ではほぼ個体Aを消費し尽くしたことが分かる。全体の最終的な石核も欠落している。

**分布** Sb - 1・3 から出土している。個体AはSb - 1の南部を中心にSb - 3まで分布が広がっている。個体A以外はSb - 1の北部を中心に散漫に分布する。

#### 母岩別資料7・接合資料7 (図IV-61、図版76-1)

母岩別資料は接合7のみである。

**素材** 17点 (15個体) が接合し、重量は336.1g、大きさは9×9.5×6.5cm である。全体的に摩滅し、部分的に平滑な面が残る亜円礫を素材とし、ほぼ原石の状態に遺跡内に搬入されている。

**剥離工程** Ⅲ 類の剥離を基本として作業が進行する。正面と上面との交互剥離 (段階1~3) の後、裏面横方向からの段階4が行われる。段階2は正面から右側面の広い範囲に作業面が及ぶ。その後、Ⅲ a 類の剥離が下端 (段階5・6) →右側端 (段階7・8) と作業場所を転移しながら行われている。それぞれ一回の剥離で作業面が転移している。段階9からはⅢ b 類の剥離で最終的にサイコロ状の石核37が遺棄される。

**分布** Sb - 1の中央部に散漫に分布している。

#### 母岩別資料9・接合資料11 (図IV-62~64、図版76-2・77)

母岩別資料は接合11のみである。

**素材** 12点 (12個体) が接合し、重量は3,054.9g、大きさは17.5×18.5×16cm である。欠落部分が多いため素材の状態は不明であるが、原石面は平滑な面と摩滅した面がみられる。各面に剥離が及んだ状態で遺跡内に搬入されている。

**剥離工程** Ⅲ 類の剥離を基本として作業が進行している。正面と上面との交互剥離 (段階1・2) の後、裏面横方向 (段階3) →正面下方向 (段階4) とⅢ b 類の剥離が行われ、石核39が遺棄される。段階1・3の大型の剥片が石核の素材となっている (個体A・B、石核16)。個体AではⅠ b 類の剥離が行われ、石核19が遺棄される。個体Bでは一回のみⅡ a 類の剥離が行われ、石核22が遺棄される。また、段階2の剥片は二次加工ある剥片11の素材となっている。

**分布** Sb - 1・2 から散漫に分布している。Sb - 1には二次加工ある剥片11、個体Bの剥片、段階4がみられ、Sb - 2からは個体Aの剥片と石核19、石核16が出土している。

#### 母岩別資料8・接合資料8 (図IV-65~67、図版78・79)

母岩別資料は接合8の他、接合9・10・50002・50003、剥片20点で構成され、総点数141点、総重量3,134.8g である。

**素材** 113点 (64個体) が接合し、重量は3,014.0g、大きさは15×18.5×10cm である。爪状痕がある円礫を素材とし、ほぼ原石の状態に遺跡内に搬入されている。

**剥離工程** 大型の原石を個体A・Bに二分割する。分割面は一部に節理面がみられ、各個体にも内在する割れが入っている。

個体AはⅢ b 類の剥離によって作業が進行する。A-段階1~4・6・8・9はそれぞれ一回の剥離ごとに打面と作業面を転移している。A-段階1・3・7では平坦面を作業面に設定し、幅広の剥片が剥離され、A-段階2・4・5の正面では急角度の稜に沿って剥離軸を設定し、分厚い剥片が剥離される。これらの剥片は石核の素材となっている (個体A-a・b・c・d)。最終的な石核は欠

落している。

個体A-aは右側面で打面を作出した後(a-段階1)、素材の腹面で求心状のI a類の剥離を行っている(a-段階2)。最終的に石核18が遺棄される。

個体A-bは下端を剥離した後(b-段階1)、右側面と裏面との交互剥離が行われる(b-段階2~5)。b-段階3の剥片が二次加工ある剥片9の素材となっている。その後、正面上からの連続的なII a類の剥離が行われ(b-段階6)、最終的に石核32が遺棄される。

個体A-cは上端で交互剥離(c-段階1・2)が行われた後、裏面を中心にIII b類の剥離が続く(c-段階3~6)。その後、再び正面と上面とのIII a類の剥離が行われる(c-段階7~11)。正面の剥離(c-段階7・11)は石核の角の稜に沿って剥離軸を設定しているため、縦長剥片が剥離されている。また、c-段階8の剥片が二次加工ある剥片8の素材となっている。最終的に石核31が遺棄される。

個体A-dはI b類の剥離が正・裏面で行われる(d-段階1~4の左側)。d-段階3は裏面での連続的な求心状の剥離となっている。最後のd-段階4の右側はII b類の剥離で縦長剥片が剥離されている。最終的に石核28が遺棄される。

個体A-eはI a類の剥離が行われ、石核14が遺棄される。剥片は欠落している。

個体Bは上端でIII b類の剥離が行われる(B-段階1~4)。B-段階1の厚手の剥片が個体B-aの素材となり、剥片を分割した後III a類の剥離が行われ石核33が遺棄される。個体Bでは剥離があまり進行せず、最終的に大型の石核27が遺棄される。

**分布** Sb-3を中心としてSb-1・2にも分布が広がっている。個体や段階ごとの明確な違いは見い出せない。やや離れたSb-2の北部からはA-段階3・6、個体Aのa-段階2の剥片と個体Bの石核27が出土している。また、Sb-1からは個体Aのc-段階6、B-段階2の剥片が出土している。(直江康雄)

#### (4) 石器ブロック4~6 (Sb-4~6) の石器

##### 出土石器(表IV-5・6)

二次加工ある剥片121点、搔器5点、錐形石器6点、縦長剥片62点、石核233点、剥片2,753点、原石21点の計3,201点、重量78,021.1gの石器類が出土した。石材は黒曜石1が最も多く90.6%を占め、以下黒曜石5(7.5%)、黒曜石4(1.4%)、黒曜石3(0.4%)、黒曜石2及び頁岩(0.03%)となっている。

##### 二次加工ある剥片(図IV-68-1~図IV-69-30、図版80・81)

33点(29個体とII層一括出土1個体を加えた30個体)を図示している。1~4は薄手の剥片を素材とし、素材のバルブを除去するような加工が施されたものである。1~3は両面、4は腹面に加工がみられる。1の左側縁は両面に細かな剥離があり、上部縁辺には不連続な微細剥離がみられる。2は側縁からの加工が頻繁なため、完全にバルブの盛り上がりを取り除ききれていない。上部縁辺には両面からの剥離がみられ鋸歯縁状となっている。3の腹面には細かな加工しか施されていないため、素材の打面とバルブが残っている。背面には石核の素材腹面のバルブと打面がみられる。4は側縁からの加工が中心で、完全にバルブの盛り上がりを取り除ききれていない。上部縁辺には不連続な微細剥離がみられる。

5~21は台形、扇形、五角形の剥片を素材とし、縁辺もしくは末端に加工がみられるものである。素材の末端部は薄手のものがほとんどだが、8・14・16~18は末端部に最大厚がある。後者のうち17

以外という高い確率で末端部に原石面がみられる。その他に原石面が残存している位置は背面側(13・17・20)と打面部(12・19)である。特に17は背面を覆うように広く原石面が残っている。打面幅が大きく打面付近の両側縁がほぼ平行するものが多く、打面幅が小さく両側縁の角度が大きく開いているものは5・8～11・16・20である。加工は腹面の片側縁(6・12・14・15・19)、末端辺(7・11・13・17)、もしくは両方にわたる「く」の字状の縁辺(8～10)に施されるものが多い。5は背面の右側縁と末端辺の角に急角度の加工が施されている。16は両側縁の一部、20は両側縁と打面に加工がみられ、左側縁と打面の加工は1 cm程の大きなものである。21は末端辺にノッチ状の加工が両面から施されている。

22～30は縦長剥片を素材とし、側縁に加工がみられるものである。素材末端部は薄手のものがほとんどだが、28はヒンジ、30は石核の下面を取り込んでいるためどちらも末端部が厚手である。背面の剥離面構成は、腹面とほぼ同方向(22・26)、逆方向を含むもの(23・24・28～30)、横方向を含むもの(25・27)となっている。原石面は26が末端部、30が背面の大部分に残り、どちらも滑らかな原石面である。ほとんどの加工は、腹面の片側縁に連続的に施されるもの(22・24～28・30)で、その他に腹面の片側縁と末端辺(23)、背面にノッチ状の加工(29)がみられる。また、連続した加工の反対側縁には、不連続な微細剥離がみられるものがある。

#### 搔器(図IV-70-31～35、図版81)

5点(4個体とI層出土1個体を加えた5個体)を図示している。残存状況は31～33が完形品で34・35は基部欠損品である。長幅比は31・32が1.5前後で、33は1.2とやや幅広である。背面の剥離面構成は腹面と同方向のもの(31～33)、横方向を含むもの(34・35)の二種がみられ、原石面は31・34・35の片側に大きく残っている。末端形状はすべて腹面側にやや湾曲する形である。素材打面の幅は31が約5 mmと小さく、32・33は3 cm程度で、バルブは3個体とも発達している。加工は主に刃部のみに施され、周縁には微細な剥離がみられる程度である。刃部の角度は全体として60度前後に集中し、34が最も小さく45～50度、32が55～60度、31が60～70度で、33・35は65～80度となっている。なお、33の右側縁には単独で50～55度の加工が幅1 cm程度みられ、角度の異なる刃部を二つ備えていた可能性がある。34・35の折れ面はどちらも背面からの加撃によって欠損している。

#### 錐形石器(図IV-70-36～40、図版81)

5点(5個体)を図示している。打面部が厚手の剥片を素材とし、36～39は素材の末端もしくは側縁、40は折れ面を利用して突出部を作出している。残存状況は36・40が完形品、37・38が突出部欠損、39が上部欠損品である。なお37には二つの突出部がみられ、右側が欠損している。突出部の加工は36・38・39が腹面から、37右側が背面から、37左側・40は錯向剥離が行われている。36の右側縁は鋸歯縁状の剥離である。37は背面の突出部付近に長軸に沿って数条の擦痕がみられる。上部に内湾する加工があり、右側縁には錯向剥離による加工が施されている。40の突出部は比較的長く、加工の打点が潰れたようにやや摩滅している。

#### 石核(図IV-70-41～図IV-81-88、図版81～86)

61点(43個体とI層出土5個体を加えた48個体)を図示している。残存する原石面の状態や接合資料から摩滅した部位がある転礫(円礫・亜円礫・亜角礫)を母岩とするもの(41～64)と、ほとんど摩滅がみられない角礫を母岩とするもの(65～88)に二分することができる。いずれも剥離の際に打面調整、頭部調整などの石核調整は施されず、剥離面のバルブが発達している特徴がみられる。

41～50は扁平で、作業面を主に素材の広い面に固定している石核である。主に末端が薄手で寸詰まりの剥片が剥離されている。素材は41～49が剥片、50は礫である。作業面は41～46が素材の腹面、47

～49は素材の背面に設定されている。41は素材のバルブ部を除去するように剥離が行われ、裏面の左側縁には急角度の加工が施されている。錐形石器もしくは搔器としての機能を備えていた可能性がある。また、Sb - 9の剥片類と約60m離れて接合する(母岩87・接合244)(図版130-2)。43は上からの一回の剥離時に三つに破損している。44は折れ面を打面とするもので、47と折れ面接合する。45の素材剥片は厚さ約3 cmとやや厚手である。47は折れ面を打面としている。48・49は最終剥離がウートラパッセを起こしている。50は正面に上下からの剥離がみられる。

51・52は打面を主に素材の平坦な広い面に固定するもので、同方向の剥離が連続的に行われている。素材は51が分割礫、52が厚手の剥片で、素材腹面を打面に設定する。剥離作業は51が正面のみ、52は石核をほぼ全周し、長幅比が1.5前後の剥片が連続して剥離されている。

53～56は小口面を打面として作業面を素材の広い面や細長い面に設定するもので、縦長剥片を剥離している割合が高い。素材は53が剥片、54～56は礫である。53は打面作出後、正面から右側面にかけて幅広・縦長剥片が剥離されている。54～56は打面作出後、作業面を広い面に設定しているものである。裏面が原石面に覆われ、全体的に扁平な形態となっていることから、剥離作業が一方向に進んでいたものとみられる。54は打面側にも数面の剥離面があり、交互剥離によって作業が進んでいる。56は細かい球顆を多数含む黒曜石で、上下方向からの剥離がみられる。上からの剥離は激しいヒンジを起こしている。

57～64は打面転移を数多く行っているものである。打面と作業面を入れ替える交互剥離を基本とし、作業場所(交互剥離の二つの作業面)を転移させていく傾向がある。特に58～64は頻繁な打面転移によってサイコロ状の石核となっている。すべて礫素材である。原石面は一面を覆うように残る(57・58)、僅かに残る(61・63・64)ものがある。作業面の大きさから、3 cm前後の58・59、5 cm前後の57・60～62、8 cm前後の63・64に分けられる。57は正面と上面、正面と右側面との交互剥離が行われている。58は左側面と上面との交互剥離がみられる。その他の剥離は多方向からのもので、統一性がない。59は正面と上面、左側面と裏面、右側面・裏面と下面との交互剥離がみられる。剥離が石核の下端まで抜けているものが多いことから、末端まで厚みを保つ剥片が多く剥離されたとみられる。石核形状は最も正六面体に近く、被熱による細かなひび割れがみられる。60は前作業面の末端側に打面を転移するもので、裏面→右側面→上面→正面と剥離が進んでいる。上面と裏面に多くのパンチマークがみられる。61の石質は黒曜石4である。62はやや扁平で、下面では縦長剥片が剥離されている。63は半球状で、正面に石核全体を覆う大きな剥片がみられる。64は正面と上面、左側面と正面との交互剥離がみられる。全体的に石核の下端まで抜ける剥離が少なく、ヒンジになっている部分が多い。

65～88はほとんど摩滅がみられない角礫を素材とするものである。「白滝I群」では、摩滅した部位がある転礫(円礫・亜円礫・亜角礫)を素材とした剥片剥離のみが行われていると認識していた。しかし角礫素材の一群が転礫素材のものと分布が重なる点・剥片剥離技術に石核調整がまったく行われていない点・交互剥離が特徴的にみられる点・打面が大きくバルブが発達する剥片が剥離されている点など共通点が多いことから「白滝I群」に含めて報告を行うこととした。角礫を素材とするものの最大の特徴は、素材の形状を利用して縦長剥片が多く剥離されていることである。石核の打面が固定的なものとは非固定的なものがみられる。前者は、平坦な打面を作出して剥離を行うもの(65～72・76・78・80・83・85)で、最終的に180度打面転移し、下面からも剥離がみられるもの(75・77)もある。打面は分割面であることが多い。非固定的なものは打面と作業面を入れ替える交互剥離を行いながら作業が進行していくもの(74・79・81・84)と、90度打面転移を行うもの(73・86～88)がみ

られる。82は上下の作業面で異なる特徴があり、上端では作業面を固定した剥離が行われているのに対し、下端では交互剥離がみられる。

素材は剥片(65・66)と、礫もしくは分割した剥片・石核・礫(67～88)があり、後者は形態上分別することは困難で、接合作業によって判明したものである。74・82・84以外は石核に原石面が残存し、多くは裏面にみられる。最終剥離がウートラパッセとなるものが多く67・69・70～74・76～78・80にみられ、ヒンジは65・79・82・84・85に起きている。65・66の作業面はウートラパッセを起こした剥片の厚手の末端部を利用している。67・68の剥離は石核の短軸のみで剥離が行われる。72は同方向の剥離がほぼ全周している。74・79の裏面には下方向からの剥離がみられる。81は正面の剥離が下端まで届かず最終剥離は幅広の剥片となっている。82は角柱状の石核で、右側面・裏面・左側面にみられる大きなリングは、素材分割時のものと考えられる。86は正面にみられる上からの剥離の他に、裏面から横方向の剥離も行われている。87は扁平で、裏面と正面には長軸方向で縦長剥片剥離の痕跡がみられる。最終的に幅広の剥片が作出されている。88は正面と上面との交互剥離の他に、裏面と原石面が残る平坦な下面に左右からの剥離が施されている。

#### 棒状原石(図版87-126～143)

27点(18個体)を写真のみ掲載している。126～136・138・140・143は幅と厚さが同様の棒状を呈し、その他は幅が大きな板状である。126～130・132～136・143は上下端に折れ面がみられ、131・138・140～142は下端のみ折れ、137・139は上端のみ折れている。折れ面接合しているもののうち140・143は長軸に沿った内在する割れ面で接合し、末端がステップフラクチャーを起こしている。

原石面は、大きく不規則なリングが残る滑らかな面とザラついた面がある。前者にはザラついた面と同様に褐色に風化したものと、風化が僅かで母岩から分離した状態に近いものがみられる。これらと同様の原石面は角礫を素材とした接合資料にも観察される。両者は同じ地点で採取されたか、もしくは剥片剥離時に剥落したと考えられる。

#### 石器ブロック4(Sb-4)の分布(図IV-82、表IV-5・6)

J62・63、K61～63区の6×9.5mの範囲で確認された。全体的に散漫な出土状況である。二次加工ある剥片2点、縦長剥片3点、石核5点、剥片27点の計37点、重量889.3gの石器類が出土した。

#### 石器ブロック5(Sb-5)の分布(図IV-83～87、表IV-5・6)

K61～63、L60～65、M60～65、N61～65区の14×24mの範囲で確認されたが、東側の斜面部にも分布が広がると考えられる「白滝I群」である。Sb-1～13の中で最も大きく設定したブロックである。斜面方向と調和するようにブロック北部のL62～64にかけて東西に間延びした集中域がみられる。二次加工ある剥片44点、搔器5点、錐形石器4点、縦長剥片57点、石核124点、剥片1,289点、棒状原石21点の計1,544点、重量53,033.6gの石器類が出土した。石核が多くみられ、素材は摩滅した部位がある転礫(円礫・垂円礫・垂角礫)とほとんど摩滅がみられない角礫が利用されている。両者は分布範囲に僅かなズレがあり、転礫素材のものはブロック北部中心、角礫素材のものはブロック中央から南部の散漫な地域に多く分布している。また、角礫素材の石器類と関係が深いと思われる棒状原石はブロック北部に多くみられる。

#### 石器ブロック6(Sb-6)の分布(図IV-88・89、表IV-5・6)

H59・60、I58～61、J57～62、K58～60区の13.5×17.5mの範囲で確認された。J・K59区にまたがって密度の濃い集中域、I59区の南東部に小さな集中域がみられる。二次加工ある剥片75点、錐形石器2点、縦長剥片3点、石核104点、剥片1,435点の計1,619点、重量24,080.9gの石器類が出

土した。二次加工ある剥片、石核が多くみられる。

#### 石器ブロック4～6 (Sb-4～6) の接合状況 (図IV-90～92)

Sb-4～6ではブロック内の接合を中心として、ブロック間にも接合関係が広がっている。特にSb-5・6間のブロック集中域同士の接合関係が10例確認され、両ブロックが密接な関係であり、同時性が非常に高いことを示していると考えられる。素材を摩滅した部位がある転礫(円礫・亜円礫・亜角礫)とほとんど摩滅がみられない角礫に分離してみると、角礫素材のものはSb-5を中心として分布し、他のブロックとの接合関係がみられないのに対し、転礫素材のものは各ブロックに分布し、他のブロックとの接合関係が密接である。また、石器ブロック群間での接合もみられる。転礫素材ではSb-6がSb-8・9と剥離面接合、Sb-3と折れ面接合し、Sb-5がSb-3と剥離面接合している。角礫素材ではSb-4がSb-7と剥離面接合している。特にSb-6は三つの石器ブロック群間での接合関係が確認された。

#### 母岩別資料50・接合資料125 (図IV-93、図版88-1)

母岩資料は接合125の他、接合126～129・344・50049～50051、二次加工ある剥片1点、剥片10点で構成され、総点数45点、総重量708.3gである。

**素材** 11点(9個体)が接合し、重量は364.3g、大きさは8.5×13.5×7.5cmである。全体的に摩滅し、部分的に平滑な面が残る亜円礫を素材とする。同一母岩の資料から、ほぼ原石の状態に遺跡内に搬入されたとみられる。

**剥離工程** 段階1～5は正面でのI a類の剥離である。上下からの剥離が交互に繰り返され、剥片の多くは幅広である。次に裏面で横からの段階6が剥離される。正面の剥離とは対照的に、石核の稜に沿って剥離軸を設定しているため、長幅比が1.0以上の剥片が剥離されている。最終的に石核50が遺棄される。

**分布** Sb-6から散漫に出土している。

#### 母岩別資料56・接合資料141 (図IV-93、図版88-2)

母岩別資料は接合141のみである。

**素材** 6点(4個体)が接合し、重量は133.6g、大きさは13×7×2.5cmである。右側縁に摩滅した原石面がある剥片を素材とし、剥片の状態に遺跡内に搬入されている。透明感が強い黒曜石で、産地分析の結果はあじさい滝産であった(Ⅶ章4)。

**剥離工程** 剥片を二分割し(個体A・B)、それぞれ折れ面を打面として、I a類の剥離を行っている。作業面は素材の腹面側(個体A)と背面側(個体B)に分かれる。個体Aの剥片は欠落し、最終的に石核44が遺棄される。個体Bの末端の剥片は急角度の剥離である。最終的に石核47が遺棄される。

**分布** Sb-5・6から出土している。分布の中心はSb-6のI 59区にあり、南側に4mほど離れたK 59区からは個体Bの剥片、15mほど離れたSb-5からは個体Aの石核が出土し、I 59区と折れ接合している。

#### 母岩別資料23・接合資料49 (図IV-94、図版88-3)

母岩別資料は接合49の他、接合50～52で構成され、総点数29点、総重量1,679.5gである。

**素材** 11点(5個体)が接合し、重量は634.0g、大きさは9.5×14.5×7.5cmである。素材は扁平な分割礫で、原石面は平滑な面が多い亜角礫である。ほぼ原石の状態に搬入され、遺跡内で分割されている。

**剥離工程** I a類の剥離が行われている(段階1)。打面が平坦で剥離角が直角に近いため、ウート

ラパッセを起こしている剥片が多い。最終的に石核51が遺棄される。

**分布** Sb - 5の南部、N62区を中心に出土している。

**母岩別資料48・接合資料115** (図IV-95、図版89)

母岩別資料は接合115のみである。

**素材** 36点(29個体)が接合し、重量は2,311.3g、大きさは17.5×15.5×13.5cmである。全体的に摩滅し、部分的に平滑な面が残る円礫を素材とし、ほぼ原石の状態に遺跡内に搬入されている。

**剥離工程** III a類の剥離を基本として作業が進行している。正面と上面との交互剥離が段階1～6まで行われる。作業場所の転移がないため、石核形状が相似的に縮小している。それぞれ段階3・4の間では上面、段階5・6・7の間では正面側の剥片が欠落している。段階7からは右側面と上面との交互剥離が行われ、最終的にサイコロ状の石核54が遺棄される。

**分布** Sb - 6の西部に集中して分布している。

**母岩別資料32・接合資料70** (図IV-96・97、図版90)

母岩別資料は接合70のみである。

**素材** 33点(27個体)が接合し、重量は3,513.9g、大きさは25.5×16×13.5cmである。平滑な面が多く、角が摩滅した亜角礫を素材とし、ほぼ原石の状態に遺跡内に搬入されている。

**剥離工程** III a類の剥離を基本として作業が進行している。裏面横からの剥離(段階1)の後、正面と裏面(段階2・3)→裏面と右側面(段階3の最後の剥離・4)→左側面と正面(段階5～7)→下面と裏面(段階8～12)と交互剥離が作業場所を転移しながら行われる。段階3の剥離は連続的で、末端が幅広の剥片が多く剥離されている。段階12は下面と左側面の二面に渡って剥離が及ぶ。段階12の剥片が二次加工ある剥片27の素材となっている。最終的に石核64が遺棄される。

**分布** Sb - 5のM63・64区から散漫に出土している。二次加工ある剥片27がやや北側のL63区に分布する。

**母岩別資料36・接合資料74** (図IV-98～100、図版91)

母岩別資料は接合74のみである。

**素材** 50点(42個体)が接合し、重量は4,250.1g、大きさは23×17×14cmである。全体的に摩滅した円礫を素材とし、ほぼ原石の状態に遺跡内に搬入されている。

**剥離工程** III a類の剥離を基本として作業が進行している。上面と正面の交互剥離の後(段階1～3)、段階3の末端側を打面として左側面で段階4が剥離される。その後、再び上面と正面との交互剥離(段階5・8)が行われるが、途中石核の左側で正面と裏面の横方向の剥離(段階6・9と7)がみられる。なお、段階5と6、6～8の前後関係は不明である。次に上端で裏面と左側面(段階10・11)→左側面と正面(段階12～14)とIII a類の剥離がみられる。途中、左側面での横方向の剥離(段階15)を挟んで、再び上端(段階16・17)→左側面と正面(段階18・19)とIII a類の剥離が続いている。段階20からはIII b類の剥離が行われ、最終的に石核63が遺棄される。全体的に石核の稜に沿って剥離軸を設定しており、長幅比が1.0以上となる剥片が多くみられる。それらのうち段階14・19・20の剥片は搔器の素材となっている。また、段階12で剥離された幅広の剥片ではI a類の剥離が行われ、石核43が遺棄される。

**分布** Sb - 5の中央の集中域から散漫に出土している。

**母岩別資料24・接合資料53・54** (図IV-101、図版92-1)

母岩別資料は接合53・54の他、接合55～59・351・50014～50017・50768、石核1点、剥片21点で構成され、総点数80点、総重量1,541.0gである。

**素材** 接合53は8点（6個体）が接合し、重量は229.6g、大きさは7.5×7×7 cmで、接合54は7点（6個体）が接合し、重量は467.9g、大きさは11.5×13.5×5.5cmである。礫素材とみられるが詳しい状態は不明である。接合54の大きさから、かなり大型の原石であったと思われる。原石面は平滑な面が多く、角が摩滅している。

**剥離工程** 初期段階が接合54で、剥離が進行した結果、接合53の状態に至ったものとみられる。接合54の全体の剥離は正面と上面（欠落）との交互剥離である。得られた大型の剥片を用いてⅡa類の剥離を行い、石核145が遺棄されている。

接合53はⅢb類の剥離が行われている。正面上からの剥離（段階1）は連続的で、長幅指数が1.0以上の剥片が得られている。Ⅰa類の剥離を行っている石核42が接合する。段階2～4は右側面→正面→上面と一打ごとに転移した横方向の剥離である。段階4の剥片は厚手で、石核の形状が大きく崩れている。最終的に石核60が遺棄される。

**分布** 接合54はSb-3・5・6の三つのブロックから出土し、石器ブロック群を越えての接合関係が確認された。剥離順、段階、個体による違いはみられず、J66区（Sb-3）出土の剥片はJ59区（Sb-6）と折れ接合をしている。

接合53は、段階1～4までの剥片がSb-5に散漫にみられ、最終的な石核60が約10m北側のSb-4に分布している。

#### 母岩別資料37・接合資料75（図Ⅳ-101、図版92-2）

母岩別資料は接合75・76で構成され、総点数9点、総重量177.3gである。

**素材** 6点（4個体）が接合し、重量は161.1g、大きさは7×4.5×7.5cmである。全体的に摩滅した円礫を素材とし、ほぼ原石の状態で遺跡内に搬入されている。

**剥離工程** 下端の左右の側面（段階1・欠落）→上面と正面（段階2・3）と作業場所を転移しながらⅢa類の剥離が行われている。得られた剥片は段階1が幅広の剥片、段階2・3では長幅指数1.0以上の剥片である。最終的に右側面の下端から剥離が行われ（欠落）、石核57が遺棄される。

**分布** 点取り資料が少ないため詳細は不明である。段階2の剥片がSb-5から出土し、約10m離れて折れ面接合している。

#### 母岩別資料49・接合資料116（図Ⅳ-102、図版93-1）

母岩別資料は接合116の他、接合117～124・346・50046・50048、石核2点、剥片5点で構成され、総点数37点、総重量1,787.3gである。

**素材** 6点（6個体）が接合し、重量は436.5g、大きさは9×9.5×9 cmである。礫素材とみられるが詳しい状態は不明である。同一母岩の資料から、大型の原石であったとみられる。原石面は全体的に摩滅している。

**剥離工程** Ⅲ類の剥離を基本として作業が進行している。左側面（段階1）→右側面（段階2）と作業面転移した後、上面と右側面（段階3～5）との交互剥離が行われている。段階1で剥離された剥片は、Ⅰa類の剥離が行われ石核45が遺棄される。また、段階4の剥片が錐形石器38に加工されている。最終的に石核Ⅳ-208-3が遺棄される。

**分布** Sb-6から散漫にみられ、最終的な石核Ⅳ-208-3はブロック北部に分布している。

#### 母岩別資料51・接合資料130（図Ⅳ-103・104、図版93-2）

母岩別資料は接合130のみである。

**素材** 34点（24個体）が接合し、重量は513.1g、大きさは10×9.5×10.5cmである。全体的に摩滅した亜円礫を素材とし、ほぼ原石の状態で遺跡内に搬入されている。石質は黒曜石4である。

**剥離工程** III類の剥離を基本として作業が進行している。原石の稜に沿って正面上から大型の縦長剥片が剥離される(段階1)。段階1で得られた平坦面を打面に設定し、上面・左側面・下面に渡って石核を半周する連続的な剥離が行われる(段階2)。段階2の剥片は、長幅指数が1.0以上の剥片が多い。この後はIII b類の剥離となり、左側面(段階3)→下面(段階4)→下面横方向(段階5)→右側面(段階6)→裏面(段階7)と作業面転移が行われる。段階1・2の縦長剥片は石核の素材となり(個体A・B)、段階2・6の剥片が二次加工ある剥片20・17の素材となっている。最終的にサイコロ状の石核61が遺棄される。

個体Aは素材の長軸に対して斜行するように上面と正面・左側面との交互剥離が行われている(A-段階1・2)。正面の剥離は素材の縁辺に沿ったものであるため縦長剥片となっている。最終的に石核53が遺棄される。個体Bは素材の広い面でI a類の剥離(B-段階1・3)の間に縁辺に沿ったII b類の剥離(B-段階2)が行われている。最終的な石核は欠落している。

**分布** Sb-6の集中域を中心として分布するが、段階2・5の剥片と二次加工ある剥片17が南東側のSb-5から散漫に出土している。

**母岩別資料21・接合資料47**(図IV-105・106、図版94)

母岩別資料は接合47のみである。

**素材** 31点(19個体)が接合し、重量は1,539.8g、大きさは18×11.5×12cmである。全体的に摩滅した円礫を素材とし、正面と上面で剥離が行われた状態で遺跡内に搬入されている。

**剥離工程** 上面の平坦面を打面として、正面で石核の稜に沿った連続的な剥離が行われる(段階1)。末端がヒンジとなる縦長剥片が多くみられる。段階2は石核下部からの剥離で、先のヒンジによる石核の凹凸を修正するものと思われる。段階3は打面再生のような上面での剥離で、打面部が厚手で幅広の剥片は、石核の素材となり(個体A)、I a類の剥離が行われ、石核49が遺棄される。段階4では左側面から裏面にかけて連続的に縦長剥片が剥離されている。段階5からはIII b類の剥離となり上面(段階5)→正面横から(段階6)→裏面横から(段階7)→右側面上から(段階8)と続いている。最終的な石核は扁平となるが出土しておらず、遺跡外に搬出された可能性が高い。

**分布** Sb-5から散漫に出土し、折れ面接合する石器同士が東西に離れて分布する傾向がある。

**母岩別資料22・接合資料48**(図IV-106・107、図版95)

母岩別資料は接合48のみである。

**素材** 44点(33個体)が接合し、重量は2,130.4g、大きさは20.5×15×13.5cmである。爪状痕がある円礫を素材とし、正面と上面で大きく剥離が行われた状態で遺跡内に搬入されている。

**剥離工程** 石核の長軸と短軸にあたる正面と上面との交互剥離が作業場所を変えずに繰り返し行われる。長軸側の正面(段階1・4・6)では石核の稜に沿った作業面が設定されているため、長幅比が1.0以上の剥片が多くみられる。特に段階6では、連続的な剥離によって縦長剥片が多数剥離されている。最終的に扁平な石核55が遺棄される。また、段階6でウートラパッセを起こした剥片が、石核の素材となっている(個体A)。横方向に打面を作出後(A-段階1)、正面の広い面でI a類で剥離が行われ(A-段階2)、最終的に石核48が遺棄される。

**分布** Sb-5からまとめて出土しているが、段階1・6の縦長剥片がSb-4に分布している。

**母岩別資料34・接合資料72**(図IV-108、図版97-1)

母岩別資料は接合72のみである。

**素材** 20点(16個体)が接合し、重量は622.9g、大きさは19×9×5cmである。ザラついた岩屑面がある扁平な角礫素材で、ほぼ原石の状態で遺跡内に搬入されている。

**剥離工程** 正面と上面との交互剥離が作業場所を変えずに繰り返し行われる。石核の長軸と短軸で行われ、長軸にあたる正面（段階1・3・5）で石核の稜に沿った作業面が設定されているため、長幅比1.0以上の剥片が多くみられる。短軸にあたる上面は剥離の進行によって作業面が裏面に移行していく。その後、180度打面転移して下端からの剥離が行われる（段階7）。最終的な石核は出土しておらず、遺跡外に搬出された可能性が高い。

**分布** Sb - 5の南東部を中心に出土している。

**母岩別資料26・接合資料64**（図IV - 108・109、図版97 - 2）

母岩別資料は接合64のみである。

**素材** 26点（23個体）が接合し、重量は1,277.4g、大きさは34.5×12×5 cmである。素材は扁平な角礫である。露頭から分離してからあまり時間が経過していないとみられる大きなリングがあり、打面・バルブがはっきりせず、ほとんど同化していない平坦面（以下「露頭分離面」と表現）が正面に残り、裏面は平滑な岩屑面に覆われている。ほぼ原石の状態に遺跡内に搬入されている。

**剥離工程** 正面・左右の側面と上面との交互剥離が繰り返し行われる。石核の長軸と短軸で行われ、長軸にあたる正面・左右の側面（段階2・4・5・7・9）で石核の稜に沿った作業面が設定されているため、長幅比1.0以上の剥片が多くみられる。最終的に石核81が遺棄される。

**分布** Sb - 5の南東部を中心に出土するが、段階2の縦長剥片がやや北西のL62区に分布している。

**母岩別資料29・接合資料67**（図IV - 110・111、図版98）

母岩別資料は接合67のみである。

**素材** 28点（23個体）が接合し、重量は1,642.8g、大きさは30.5×9.5×10cmである。ザラついた岩屑面がある角柱状の角礫を素材とする。正面・左側面・裏面には露頭分離面が残る。ほぼ原石の状態に遺跡内に搬入されている。

**剥離工程** 正面と裏面との交互剥離が繰り返し行われる（段階1～12）。お互いの作業面が長軸に対して斜行するように設定されているため、初期段階ではどちらも同様の剥片が剥離されている。剥離の進行に従い、裏面側で長幅比1.0以上の剥片が多く剥離されるようになり、特に段階8・12では縦長剥片が多くみられる。段階3の剥片が二次加工ある剥片21の素材となっている。その後、180度打面転移して下端からの剥離が連続的に行われ（段階13）、正面で横方向の剥離がなされ（段階14）、石核87が遺棄される。

**分布** Sb - 5の集中域であるL63・64区を中心として出土している。二次加工ある剥片21と段階13の剥片がやや西側のL・M61区に分布する。

**母岩別資料27・接合資料65**（図IV - 111・112、図版99）

母岩別資料は接合65のみである。

**素材** 35点（32個体）が接合し、重量は3,641.4g、大きさは36.5×15.5×8.5cmである。平滑な岩屑面がある扁平な角礫を素材とする。上端と下端を分割した状態で遺跡内に搬入されている。

**剥離工程** 段階1は下端での交互剥離の一部で、対応する剥片が欠落している。段階2～7は左側面と右側面との交互剥離が繰り返し行われたものである。お互いの作業面が長軸に対して斜行するように設定されているため、初期段階ではどちらも同様の剥片が剥離されている。段階5・6の欠落部分で厚手の剥片が剥離されたため、段階7の作業面が右側面から上面側に移行している。石核の稜に沿った剥離が連続的に行われているため、長幅比1.0以上の剥片が多くみられる。段階6の縦長剥片が二次加工ある剥片26の素材となっている。その後、右側面（段階8）→上面（段階9）→正面横から（段階10）→裏面下から（段階11）とⅢb類の剥離が行われ、最終的にサイコロ状の石核88が遺棄される。

**分布** Sb - 5 南部のM・N62・63区を中心として出土する。段階4の縦長剥片がL61区、段階7の剥片がL64区とやや離れて分布している。

**母岩別資料35・接合資料73** (図IV-113、図版100-1)

母岩別資料は接合73のみである。

**素材** 6点(5個体)が接合し、重量は253.7g、大きさは15.5×6.5×4.5cmである。正面がザラついた岩屑面、裏面に平滑な面がある扁平な角礫を素材とする。上端を分割した状態で遺跡内に搬入されている。

**剥離工程** 分割面を打面に固定して石核の長軸で連続的な剥離を行っている(段階1)。ウートラパッセが激しく、最終的に作業面高が5cm近くまで減じ、石核70が遺棄されている。極端なウートラパッセを起こした剥片は石核の素材となり(個体A)、素材の末端部を打面に固定した剥離がみられ、石核65が遺棄される。

**分布** Sb - 5 南部の石器がまばらな地点を中心に分布する。

**母岩別資料33・接合資料71** (図IV-113・114、図版100-2)

母岩別資料は接合71のみである。

**素材** 15点(10個体)が接合し、重量は577.7g、大きさは21.5×9.5×4cmである。平滑な岩屑面に覆われた扁平な角礫を素材とする。上端を分割した状態で遺跡内に搬入されている。

**剥離工程** 下端からの右側縁の剥離(段階1)、と上端からの左側縁の連続的な剥離がみられる。その後、石核が分割され(個体A・B)、それぞれ分割面を打面として側縁で剥離が行われている。最終的に石核69(個体A)・67(個体B)が遺棄される。

**分布** Sb - 5 の集中域の東部から散漫に出土している。

**母岩別資料45・接合資料110** (図IV-115~117、図版101・102-1)

母岩別資料は接合110のみである。

**素材** 54点(38個体)が接合し、重量は4,230.7g、大きさは38.5×16×9.5cmである。素材は角錐状の角礫である。正面に露頭分離面が残り、左右の側面と裏面には平滑な岩屑面がある。遺跡内には上端を分割した状態で搬入されている。

**剥離工程** 180度打面転移をしながら右側縁を中心に剥離が行われる(段階1~4)。段階3では右側面の剥離が上面まで抜けるのに対し、左側面の剥離は途中ヒンジを起こし石核末端の形状を大きく崩している。段階5は上面の剥離で、下端での交互剥離である段階6~10との前後関係は不明である。下端での剥離の初期段階は、お互いの打面が長軸に対して斜行するように設定されているため、どちらも同様の剥片が剥離されている。剥離の進行に従い、作業面が左側面に移行していき、段階11では縦長剥片が多くみられる。段階8の剥片と11の縦長剥片は二次加工ある剥片18・30の素材となっている。その後、180度打面転移を行い、正・裏面で剥離がなされ(段階12)、正面・左側面と上面との交互剥離が繰り返される(段階13~16)。石核の長軸と短軸で行われ、長軸にあたる正面・左側面(段階14・16)で石核の稜に沿った作業面が設定されているため、長幅比1.0以上の剥片が多くみられる。その後再び180度打面転移を行い、下方から縦長剥片が連続的に剥離され(段階17)、最終的に石核74が遺棄される。

**分布** Sb - 5 のL・M61区の境界を中心としたまとまりと、集中域であるL62・63区を中心としたまとまりの二つに分かれる。段階による相違もなく、両者に折れ面接合が確認された。

**母岩別資料28・接合資料66** (図IV-118・119、図版102-2)

母岩別資料は接合66のみである。

**素材** 20点 (17個体) が接合し、重量は1,431.2g、大きさは29×9.5×7.5cmである。素材は三角柱状の角礫で、全面的に露頭分離面がみられる。ほぼ原石の状態に遺跡内に搬入されている。

**剥離工程** 石核の短軸で二分割され、それぞれ剥片剥離が行われている (個体A・B)。個体Aはまず、長軸に斜行する剥離が右側面で連続的に行われ (A-段階1)、正面と裏面で上からの剥離がみられる (A-段階2)。180度打面転移し、下端からの剥離の後 (A-段階3)、再び上端で交互剥離が行われる (A-段階4～6)。その後再度下端から剥離がなされる (A-段階7)。A-段階2～4・6・7は石核の長軸の稜に沿った剥離が行われ、長幅比が1.0以上で末端がヒンジの剥片が多く剥離されている。また、A-段階7の剥片が二次加工ある剥片28の素材となっている。最終的に石核82が遺棄される。

個体Bは長軸に斜行する剥離が右側面 (B-段階1) →裏面 (B-段階2) で行われる。その後、上からの剥離の後 (B-段階3)、再び右側面に斜行する剥離がみられる (B-段階4)。最終的な石核は出土しておらず、遺跡外に搬出された可能性が高い。

**分布** Sb-5の集中域から散漫に分布している。個体Aは東側、個体Bは西側にまとまりが偏る傾向がある。

#### 母岩別資料71・接合資料178 (図IV-119～121、図版103)

母岩別資料は接合178のみである。

**素材** 17点 (14個体) が接合し、重量は1,204.2g、大きさは24.5×10×14cmである。素材は三角錐状の角礫で、左右の側面に露頭分離面が残り、裏面には平滑な原石面がみられる。遺跡にはほぼ原石の状態に搬入されたとみられる。

**剥離工程** 横からの剥離によって二分割され (段階1、個体A)、さらに上からの剥離によって分割されている (段階2、個体B・C)。個体Aは上端での連続的な交互剥離 (A-段階1～4) と下端での長軸に斜行する連続的な剥離で (A-段階5)、最終的に石核84が遺棄される。

個体Bは上端を7cm程切断し、平坦面を作出する (B-段階1)。それを打面として長軸に沿って剥離が行われている (B-段階2)。最終的な石核は出土しておらず、遺跡外に搬出された可能性が高い。

個体Cは長軸に斜行する剥離がみられるが (C-段階1)、詳細は不明である。最終的な石核は出土しておらず、遺跡外に搬出された可能性が高い。

**分布** Sb-5の集中域を中心に東西約19mに広がって分布している。

#### 母岩別資料72・接合資料179 (図IV-122～124、図版104)

母岩別資料は接合179のみである。

**素材** 31点 (25個体) が接合し、重量は1,573.4g、大きさは48.5×9×6.5cmである。素材は平滑な岩屑面に覆われた棒状の角礫である。下端を分割した状態で遺跡内に搬入されている。

**剥離工程** 石核の中央で斜めに分割され、それぞれ剥離が行われている (個体A・B)。個体Aは石核の裏面と上面との交互剥離が連続的に行われる (A-段階1～6)。上面の剥離であるA-段階2・4では石核を切断するような分厚い剥片が剥離され、母岩の消費が激しい。その後、180度打面を転移し、個体Bとの分割面から剥離が行われ (A-段階7)、最終的に石核78が遺棄される。また、A-段階7は大きくウートラパッセを起こした剥片で、石核の素材となっている (個体A-a)。分厚い末端側での剥離がみられ、最終的に石核66が遺棄される。

個体Bは下端を4cmほど切断し (B-段階1)、平坦面を作出している。それを打面として裏面で剥離を行い (B-段階2)、180度打面転移して正面でB-段階3を剥離し、最終的に石核75が遺棄

される。また、B-段階1は石核の素材となり（個体B-a）、下からの剥離が行われ、最終的に石核68が遺棄される。

**分布** Sb-5の集中域であるL63区を中心に散漫に分布している。

**母岩別資料31・接合資料69**（図IV-125~128、図版105・106）

母岩別資料は接合69のみである。

**素材** 59点（53個体）が接合し、重量は3,126.5g、大きさは42.5×13.5×7.5cmである。素材は平滑な岩屑面に覆われた棒状の角礫である。ほぼ原石の状態です遺跡内に搬入されている。

**剥離工程** 節理面で剥がれた段階1の後、下から大型の剥片が剥離される（段階2）。段階2と残った石核とも二分され（個体A・B・C・D）、それぞれ剥離が行われている。個体Aでは、下端で交互剥離がみられる（A-段階1・2）。その後180度打面転移し、個体Bとの分割面から連続的な剥離（A-段階3）が行われる。ウートラパッセを起こした縦長剥片が多くみられ、石核の作業面高を5cm近く減少させている。最終的に作業面高が6cm程になり、石核71が遺棄される。

個体Bは正面と上面（個体Aとの分割面）で交互剥離が行われる（B-段階1・2）。その後、下端を切断するような剥離がみられ、（B-段階3）。再び上面から連続的な剥離が行われる（B-段階4）。ウートラパッセを起こした縦長剥片が多くみられ、石核の作業面高を8cmほど減少させている。最終的に作業面高が約7cmとなり、石核72が遺棄される。

個体Cは裏面と下面（個体Dとの分割面）で交互剥離が行われる（C-段階1・2）。その後、Ⅲb類の剥離が裏面→正面→右側面と続き、最終的に石核86が遺棄される。

個体Dは、正面と上面（D-段階1・2、4~7）→裏面と上面（D-段階8~11）と作業場所を転移するⅢa類の剥離である。途中にみられるD-段階3は裏面の上からの剥離である。また、D-段階8では、石核を切断するような分厚い剥片が剥離されている（D-段階8、図IV-128-122）。その後、180度打面転移し、下端から連続的な剥離がみられる。これらの剥離は石核の長軸と短軸で行われ、長軸側の剥離（D-段階1・3・5・7・9・11・12）は石核の稜に沿った作業面が設定されているため、長幅比が1.0以上の剥片が多い。最終的に石核79が遺棄される。

**分布** Sb-5のM63・64区を中心に散漫に分布している。

**母岩別資料30・接合資料68**（図IV-129~133、図版107~109）

母岩別資料は接合68のみである。

**素材** 40点（28個体）が接合し、重量は3,585.4g、大きさは43.5×16×7.5cmである。素材は平滑な岩屑面に覆われた扁平な角礫である。上端を分割した状態で遺跡内に搬入されている。

**剥離工程** 石核の短軸で二分され、それぞれ剥片剥離が行われている（個体A・B）。個体Aはまず、左側面のみを利用して、180度打面転移を繰り返す剥離が行われる（A-段階1~3）。最後のA-段階3は激しいヒンジが起きている。その後、A-段階2の縦長剥片と石核がそれぞれ二分され剥片剥離が行われる（個体A-a・b・c・d）。いずれも平坦な分割面を打面に設定するもので、最終剥離はウートラパッセとなっている。個体A-dのみ180度打面転移を行い、上下からの剥離がみられる。最終的にそれぞれ石核73・76・80・77が遺棄される。

個体Bは下端からの剥離の後（B-段階1）、180度打面転移を行い、個体Aとの分割面を打面に固定し、左右の側面と正面で連続的な剥離が行われる（B-段階2）。最終的に石核83が遺棄される。また、大きなウートラパッセを起こした右側面の剥離は、石核の素材となり（個体B-a）、交互剥離が行われ（分割面側欠落）、石核85が遺棄される。

**分布** Sb-5南部の石器がまばらな地点を中心に東西に広がって分布する。

### 写真のみ掲載の接合資料

母岩25・接合60(図版96)は円礫を素材とするもので、原石を半割した状態で遺跡内に搬入されている。剥離技術はⅢa類で、分割面と上下端での交互剥離がみられる。分割面側では長幅比が1.0以上の剥片が多く剥離され、二次加工ある剥片29が接合する。最終的に石核56が遺棄される。

(直江康雄)

## (5) 石器ブロック7・8(Sb-7・8)の石器

### 出土石器(表Ⅳ-5・6)

二次加工ある剥片2点、搔器1点、縦長剥片48点、石核18点、剥片202点、原石7点の計278点、重量27,048.7gの石器類が出土した。石材は黒曜石1が最も多く96.8%を占め、以下黒曜石5(2.8%)、黒曜石3(0.4%)となっている。剥片や縦長剥片の中には線状・点状の擦痕が多数付着しているものが多い。付着場所が不規則で、多数みられることから、埋没中の土圧やソリフラクションなどの周水河現象を受けた際に石器同士が擦れあって発生したものと思われる。これらの縁辺には加工と区別がつかない連続した剥離がみられることが多い。そのため、擦痕が不規則に付着している石器の縁辺の連続した剥離は加工と認定せず剥片に分類した。

### 搔器(図Ⅳ-134-1、図版110)

1点(1個体)を図示している。右側縁が欠損し、背面は原石面に覆われている。刃部の縦断面形状は僅かに腹面側に湾曲し、薄手である。刃部は末端全体にわたって形成され、刃角は50~60度である。腹面には素材のバルブを除去するような剥離が施されている。

### 石核(図Ⅳ-134-2~図Ⅳ-136-9、図版110・111)

16点(5個体とI層出土1個体とボサ出土2個体を加えた8個体)を図示している。残存する原石面の状態や接合資料から摩滅した部位がある転礫(円礫・亜円礫・亜角礫)を素材とするもの(2)と、ほとんど摩滅がみられない角礫を素材とするもの(3~9)に二分することができる。「白滝I群」では、摩滅した部位がある転礫(円礫・亜円礫・亜角礫)を素材とした剥片剥離のみが行われていると認識していた。しかしSb-4~6で角礫素材の一群が転礫素材のものと分布が重なる点・剥片剥離技術に石核調整がまったく行われていない点・交互剥離が特徴的にみられる点・打面が大きくバルブが発達する剥片が剥離されている点など共通点が多いことから「白滝I群」に含めて報告を行うこととした。角礫を素材とするものの最大の特徴は、素材の形状を利用して縦長剥片が多く剥離されていることである。いずれも剥離の際に打面調整、頭部調整などの石核調整は施されず、剥離面のバルブが発達している特徴がみられる。

2は作業面を主に素材の広い面に固定する石核である。素材は不明で、周辺から求心状の剥離が行われている。主に末端がヒンジを起こしている横長の剥片が剥離されている。

3~9はほとんど摩滅がみられない角礫を素材とするものである。Sb-4~6の石核と同様に、打面が固定的なもの(5)と非固定的なもの(3・4・6)がみられる。後者は打面と作業面を入れ替える交互剥離を基本とし、最終的に180度打面転移を行い、下面での剥離がみられる。また上端と下端で打面固定型と非固定型が共存するもの(7~9)もある。素材は剥片が3・4で、その他は分割礫もしくは礫である。全ての石核に原石面が残存し、側面もしくは裏面にみられるものが多い。形態が角柱状のものは4・6~9、扁平なものは3・5である。作業面にヒンジが起きている割合が高い。3は正面と裏面の平坦で広い面での交互剥離がみられ、幅広の剥片が多く剥離されている。4の交互剥離は正面と上面、裏面と下面の2か所で見られる。5は正面を中心として縦長剥片が連続的に

剥離されている。作業面にはヒンジ、ウートラパッセの両方がみられる。7は28.7×14.5×14.3cmと大型である。原石面が多く面に残っていることから、素材の厚さと幅はあまり減じていないと思われる。下面からは石核を周回するように縦長剥片が連続的に剥離されている。8・9は下端が突出する形態で、8は正面と裏面、9は左右の側面との交互剥離が行われている。

#### 棒状原石（図版111-21~29）

9点（9個体）を写真のみ掲載している。21~28は幅と厚さが同様の棒状を呈し、29は幅が大きく板状である。21~24・26~28は上下端に折れ面がみられ、25は上端のみ折れ、29は完形である。原石面は、大きく不規則なリングが残る滑らかな面とザラついた面がある。前者にはザラついた面と同様に褐色に風化したものと、風化が僅かで母岩から分離した状態に近いものがみられる。これらと同様の原石面は角礫を素材とした接合資料にも観察され、両者は同じ地点で採取されたか、もしくは剥片剥離時に剥落したと考えられる。

#### 石器ブロック7（Sb-7）の分布（図IV-137、表IV-5・6）

H57・58、I57区の4.5×3mの範囲で確認された。全体的に散漫な出土状況である。縦長剥片5点、剥片18点の計23点、重量3,062.2gの石器類が出土した。縦長剥片を除くツール類がまったくみられない。

#### 石器ブロック8（Sb-8）の分布（図IV-137・138、表IV-5・6）

H55~57、I55・56、J55・56区の12×10mの範囲で確認されたが、調査区範囲外のG55~57区にも分布が広がると考えられる。I56区を中心にまとまって分布し、H56、J55区にも小さな集中域がみられる。二次加工ある剥片2点、搔器1点、縦長剥片43点、石核18点、剥片184点、棒状原石7点の計255点、重量23,986.5gの石器類が出土した。縦長剥片・石核ともブロック全体に分布している。

#### 石器ブロック7・8（Sb-7・8）の接合状況（図IV-139）

Sb-7・8ではブロック内の接合を中心として、ブロック間にも接合関係が広がっている。Sb-7からの出土点数が少ないことから、3例のブロック間接合は高い割合といえる。また、Sb-7ではSb-4との剥離面接合が確認されている。

#### 母岩別資料60・接合資料161（図IV-140、図版112）

母岩別資料は接合161のみである。

**素材** 55点（31個体）が接合し、重量は3,963.9g、大きさは32×14×9.5cmである。ザラついた岩屑面がある角柱状の角礫を素材とし、ほぼ原石の状態で遺跡内に搬入されている。

**剥離工程** 左側面と上面との交互剥離によって剥離が進行している（段階1~8）。段階9~11は正面→右側面→裏面と90度の作業面転移を行う剥離である。その後、右側面と裏面で横方向の交互剥離がみられる（段階12・13）。最終的な石核は出土しておらず、遺跡外に搬出された可能性が高い。

**分布** Sb-8のI56区を中心に分布している。

#### 母岩別資料61・接合資料162（図IV-141、図版113）

母岩別資料は接合162のみである。

**素材** 9点（8個体）が接合し、重量は992.1g、大きさは22.5×7.5×6.5cmである。素材は扁平な角礫である。正面と右側面には平滑な原石面、左側面と裏面には露頭分離面が残っている。上端を分割した状態で遺跡内に搬入されている。

**剥離工程** 裏面での下端からの剥離の後（段階1）、180度打面転移し、正面での連続的な剥離がみら

れる（段階2）。当初は正面と側面との稜を剥離軸に設定するが、二回の激しいウートラパッセにより作業面高が約9 cm減少している。長幅比が1.0以上の剥片が多くみられ、最終的に石核5が遺棄される。

**分布** Sb-7に分布するが、段階2の縦長剥片1点が西側に6 mほど離れたSb-8のH56区から出土している。

**母岩別資料69・接合資料176**（図IV-142~149、図版114~117）

母岩別資料は接合176のみである。

**素材** 69点（61個体）が接合し、重量は9,219.4g、大きさは58.5×15×13.5cmである。ザラついた岩屑面がある角柱状の角礫を素材とし、上下端を分割した状態で遺跡内に搬入されている。

**剥離工程** 石核の短軸で二分割され、それぞれ剥片剥離が行われている（個体A・B）。個体Aは、上面と右側面（A-段階2・3）→左側面と上面（A-段階4~8）→正面と上面（A-段階9・10）とⅢa類の剥離が行われる。A-段階1は下端からの剥離で、A-段階8までと前後関係が不明である。右側面での上から剥離の後（A-段階11）、180度打面転移し、右側面と下面での交互剥離がみられる（A-段階12・13）。次に、上面（A-段階14）→正面と上面の交互剥離（A-段階15・16）→左側面上から（A-段階17）とⅢb類の剥離が続き、最終的に石核6が遺棄される。

個体Bは、正面と上面との連続的な交互剥離（B-段階1~4）の後、180度打面転移し、裏面から右側面に渡る連続的な剥離がみられる（B-段階5）。B-段階5は最初の剥離のみ末端まで抜ける大型の剥片で、それ以降はヒンジを起こしているものが多い。その後、再び上端での交互剥離が連続的にみられる（B-段階6~9）。お互いの打面が長軸に対して斜行するように設定されているため、どちら側でも同様の長幅比が1.0以上の剥片が剥離される。最終的に下面からの剥離が行われ（B-段階10）、石核8が遺棄される。

また、B-段階5の最初の板状の剥片は石核の素材となっている（個体B-a）。上端での交互剥離が連続的にみられた後（a-段階1~4）、下面と左側面（a-段階5・6）に作業場所を移すⅢa類の剥離が行われ、最終的に石核3が遺棄される。

**分布** 個体ごとに分布が異なる。個体AはSb-8の集中域のI56区、個体B（B-aを除く）はSb-7、個体B-aはSb-8の集中域北側のH56区から出土している。

**母岩別資料70・接合資料177**（図IV-150~157、図版118~123）

母岩別資料は接合177のみである。

**素材** 75点（46個体）が接合し、重量は17,779.7g、大きさは66.5×14×19.5cmである。平滑な岩屑面がある角柱状の角礫を素材とし、上下端を分割した状態で遺跡内に搬入されている。「白滝I群」の中で最大の接合資料である。

**剥離工程** 長軸に沿った大型の縦長剥片である段階1の後、石核部分が中央短軸で二分割され、それぞれ剥片剥離が行われている（個体B・C）。また、段階1の縦長剥片も石核の素材となっている（個体A）。

個体Aは、左側面と上面（A-段階1~4）→右側面と下面（A-段階5・6）とⅢa類の剥離がみられる。最終的に石核4が遺棄される。

個体Bは、正面で縦長剥片を剥離した後（B-段階1）、裏面で横方向の剥離がみられる（B-段階2）。次に、下面を打面に固定して、石核を周回するように連続的な剥離が行われる（B-段階3）。B-段階3では、石核長軸の稜に沿って剥離軸を設定しているため、縦長剥片が多く剥離されている。その後再び上面と正面との交互剥離（B-段階4~6）が行われ、最終的に石核7が遺棄される。

個体Cは、上面と正面（C-段階1・2）→左側面と上面（C-段階3）とⅢa類の剥離がみられ、その後の剥離が大きく欠落している。次に下面に打面を固定して、石核を周回するように連続的な剥離が行われる（C-段階4）。C-段階4では、石核長軸の稜に沿って剥離軸を設定しているため、縦長剥片が多く剥離されている。その後、正面と右側面との横方向の交互剥離（C-段階5・6）上下からの剥離（C-段階7・8）が行われ、最終的に石核9が遺棄される。

**分布** Sb-8全体から出土している。なかでも個体AはI・J56区東側にまとまって分布する。

（直江康雄）

## （6）石器ブロック9（Sb-9）の石器

### 出土石器（表Ⅳ-5・6）

二次加工ある剥片61点、石核103点、剥片1,318点の計1,482点、重量11,259.9gの石器類が出土した。石材は黒曜石1が最も多く99.3%を占め、以下黒曜石5（0.7%）、黒曜石3（0.07%）となっている。

### 二次加工ある剥片（図Ⅳ-158-1～図Ⅳ-159-36、図版124）

40点（36個体）を図示している。1～5は薄手の剥片を素材とし、素材の打面・バルブを除去するような加工が両面に施されたものである。1～3は完形、4・5は上部欠損品である。1の背面は石核の素材腹面のみで構成されている。上部縁辺には微細剥離がみられる。2は素材の打面部から側縁の広い範囲に加工が施され、素材を大きく変形している。3の素材は縦断面が湾曲し、末端は軽いヒンジとなっている。4は被熱によるひび割れがみられる。5は加工の範囲が狭く、素材の打面部に集中している。

6～27は台形、扇形、三角形、五角形の剥片を素材とし、縁辺もしくは末端に加工が施されるものである。6～15は両側縁が広がる扇状、16～27は両側縁が平行もしくは末端がすぼまり三角形、四角形、五角形となっている。素材の打面部の幅は小さく、5mm前後のものが多い。素材の末端部は薄手のものがほとんどだが、8・9・12・16・17・23・27は末端部に最大厚がある。原石面は6・17・18・21・27にみられるが、いずれも背面を覆うようなものではない。加工の部位は腹面の片側縁（7・9・12～14・20～22・24・26）に施されるものが多い。その他は腹面の末端辺（10）、腹面の側縁から末端辺にかけての「く」の字状の縁辺（18）、腹面の片側縁と打面（6）、腹面の両側縁（11・19）、両面に錯向状の加工（8・15）、背面の片側縁（16・17・25・27）に加工がみられる。加工の状態は基本的に1.5mm前後の剥離が連続するもので、素材の形態を大きく変化させるものではない。7の側縁には3～4mmの比較的大きな加工があり、末端辺には微細剥離が不連続にみられる。8の腹面の加工は側縁から末端辺にかけての「く」の字状の縁辺に施されている。11の腹面左側縁の加工は、打面側にいくに従い急角度となり、対応する背面の縁辺がやや潰れている。15は被熱による破損である。16の腹面は平坦でバルブが発達せず、末端はステップフラクチャーとなっている。17の二次加工は微細で1mmに満たない剥離が連続してみられる。21の末端はヒンジで、両側縁は急角度（70～80度）である。23は打面側に折れ面を利用した突出部が作出されており、錐形石器の可能性もある。27の二次加工は搔器の刃部に類似する急角度で大きな剥離である。

28～36は縦長剥片を素材とするもので、28～34が完形品、35・36が破損品である。素材末端部はすべて薄手で、36は縦断面が湾曲している。背面の剥離面構成は腹面とほぼ同方向（28～30）、逆方向を含むもの（31～33）、横方向を含むもの（34～36）となっている。原石面は29・30・34～36にみられ、それぞれほぼ背面全体（29）、末端辺（30・36）、片側縁（34・35）に残っている。加工は腹面の片側縁全体にわたるもの（28・32・34～36）が多い。その他は部分的な加工にとどまるもので、縁辺上部

と末端辺 (29)、縁辺中央の突出部 (30)、縁辺下部 (31・33) にみられる。29は被熱によるひび割れがある。33は左側縁の末端側に両面からやや内湾するような加工が施されている。35は5 mm 前後の大きな剥離が不規則にみられる。

#### 石核 (図Ⅳ-159-37~図Ⅳ-162-59、図版124・125)

53点 (23個体) を図示している。いずれも打面調整、頭部調整などの石核調整は施されず、剥離面のバルブが発達している特徴がみられる。

37~42は扁平で、作業面を主に素材の広い面に固定する石核である。主に末端が薄手で寸詰まりの剥片が剥離されている。素材は全て剥片で、作業面は素材の腹面側に設定されている。37は上からの剥離が連続的にみられ、最終剥離はウートラパッセとなっている。38は被熱による破損で、内部にはひび割れがみられる。39の破損は正面の最終剥離の末端部から起こったものである。38・39とも素材の打面側にあたる右側縁で、正面と裏面との交互剥離を行っている。40は上下からの剥離がみられ、下からの剥離は比較的小さく1.5mm 前後である。41は上からの剥離が連続的にみられ、被熱により破損している。

43~45は正面と裏面の広い面で作業面転移を行っているものである。素材は全て剥片で、いずれの石核も剥離面のみで構成されている。43の裏面には横方向からの剥離面もみられる。

46~50は打面を主に素材の平坦な広い面に固定するもので、比較的打面幅の広い剥片が剥離される。素材は厚手の剥片である。打面の設定は、平坦な原石面 (46~48) と、素材腹面 (49・50) がみられる。46は正面から左側面にかけて連続的な剥離が行われている。47は被熱により破損し、内部にはひび割れがみられる。48の正面は一回の大きな剥離面である。49・50は折れ面接合するもので、それぞれ一回の剥離が行われている。

51・52は剥片を素材とし、作業面を主に素材の側縁に設定するものである。主に縦長剥片が剥離されている。51は作業面が固定され、最終剥離がステップフラクチャーを起こしている。52は上面に打面を作出して縦長剥片を剥離するもので、裏面や左側面には横方向の剥離もみられる。

53~59は多方向からの剥離面によって構成され、数多くの打面・作業面転移を行っているものである。打面と作業面を入れ替える交互剥離を基本として作業が進行していき、特に54~59は頻繁な打面転移によってサイコロ状の石核となっている。素材は剥片 (53・55・57・58) と、礫 (54・56・59) がみられる。原石面は56を除くすべてに残っている。53は分厚い剥片を素材とし、正面と上面との交互剥離がみられる。素材の状態はほとんど変化していない。54は正面と上面との交互剥離がみられる。その他の剥離は多方向からのもので統一性がなく、一打単位の打面転移を頻繁に行った結果と考えられる。55は正面・左側面と上面、正面と下面との交互剥離がみられる。石核の下端を取り込む剥離があまりみられず、正面の最終剥離はヒンジとなっている。56は石核を横断するように内在する割れが2か所でみられる。正面と上面との交互剥離が行われている。57は石核の下端を取り込む剥離がみられず、末端がヒンジとなっている面が多い。58は正面と上面、右側面と裏面、左側面と裏面、正面と下面との交互剥離がみられる。被熱による破損が激しい。59は10cm を越える大型の石核で、正面と上面、下面と裏面との交互剥離がみられる。

#### 石器ブロック 9 (Sb - 9) の分布・接合状況 (図Ⅳ-163~166、表Ⅳ-5・6)

J 45・K 43~45・L 42~45・M42~44区の10.5×20.5m の範囲から南西方向に細長い形で確認された。L 43・44、M43区にまたがる濃密な集中域がみられ、その他は散漫な分布状況である。二次加工ある剥片61点、石核103点、剥片1,318点の計1,482点、重量11,259.9g の石器類が出土した。トゥー

ルの種類は少ないが、点数が多く、前述の集中域にまとまってみられる。

接合状況はブロック内の集中域を中心として全体に広がっている。また、約60m離れたSb-6とのブロック間接合が1例確認された(母岩87・接合244、図版130-2)。

#### 母岩別資料90・接合資料247(図IV-167、図版126-1)

母岩別資料は接合247のみである。

**素材** 54点(26個体)が接合し、重量は372.6g、大きさは5×10×10cmである。背面が原石面に覆われた剥片を素材とする。原石面は角が摩滅するものである。剥片の状態に遺跡内に搬入されている。

**剥離工程** 正面を中心としたⅡa類の剥離が連続してみられる(段階1~3)。途中、上面での剥離が行われるが欠落している。段階1の剥片は二次加工ある剥片20・30の素材となっている。その後、右側面と正面(段階4~6)→正面と上面(段階7・8)とⅢa類の剥離が続き、下面での剥離が行われ(段階9)、最終的に石核58が遺棄される。

**分布** Sb-9の集中域にまとまって分布している。

#### 母岩別資料84・接合資料239(図IV-168・169、図版126-2)

母岩別資料は接合239・237で構成され、総点数74点、総重量495.3gである。

**素材** 72点(61個体)が接合し、重量は488.8g、大きさは14×10.5×5.5cmである。背面が原石面に覆われた剥片を素材とする。原石面は滑らかで、角がやや摩滅するものである。剥片の状態に遺跡内に搬入されている。

**剥離工程** 左側面での剥離の後(段階1)、裏面から石核を分割する剥離がみられる(段階2)。厚手で幅広の2点の剥片が石核の素材となり、それぞれ剥片剥離が行われている(個体A・B)。以後、図IV-169-65のように下面を正面、右側面を上面に据えて説明する。正面の小口面を中心としてⅢb類の剥離が行われている。正面で上下からの剥離の後(段階3・4)、90度打面を転移し、右側面での剥離がみられる(段階5)。再び正面上からの剥離(段階6・8)が右側面の剥離(段階7)を挟んで行われている。最終的に石核57が遺棄される。

個体Aは、正面と裏面との交互剥離が連続的にみられ(A-段階1~5)、裏面横方向の剥離が行われている(A-段階6)。最終的に石核52が遺棄される。

個体Bは、Ⅲa類の剥離がみられる。正面と上面との交互剥離が連続的に行われた後(B-段階1~5)、右側面と裏面(B-段階6~9)→下端での裏面と正面(B-段階10・11)→横方向の右側面と左側面(B-段階12・13)と作業場所が転移している。また、B-段階13の剥片が二次加工ある剥片9・18の素材となっている。その後、上面(B-段階14)→下面(B-段階15)とⅢb類の剥離がみられ、最終的に石核55が遺棄される。

**分布** Sb-9の集中域にまとまって分布している。

#### 母岩別資料89・接合資料246(図IV-170、図版126-3)

母岩別資料は接合246のみである。

**素材** 30点(27個体)が接合し、重量は140.5g、大きさは5×6.5×6cmである。角が摩滅した亜円礫を素材とし、ほぼ原石の状態に遺跡内に搬入されている。

**剥離工程** 正面・右側面と上面との交互剥離の後(段階1・2)、上面裏からの剥離が行われる(段階3)。再び正面と上面との交互剥離が連続的にみられ(段階4~9)、正面と左側面(段階10~13)→下面と正面(段階14・15)→右側面と正面(段階16・17)とⅢa類の剥離が行われる。段階9は左右の側面での剥離で、右側面の剥離は交互剥離に対応するものだが、左側面の剥離は段階8の末端側

へ打面転移した剥離である。段階3・8・15・16の剥片が二次加工ある剥片13・19・11・17の素材となっている。また、段階9の剥片が石核の素材となり、I a類の剥離が行われ、石核37が遺棄される。最終的な石核は出土しておらず、遺跡外に搬出された可能性が高い。

**分布** Sb - 9の集中域にまとまって分布している。

**母岩別資料86・接合資料242** (図IV-171・172、図版127-1)

母岩別資料は接合242の他、接合243・50172、剥片14点で構成され、総点数109点、総重量499.4gである。

**素材** 91点(68個体)が接合し、重量は470.2g、大きさは9.5×10.5×9 cmである。角がやや摩滅した亜角礫を素材とし、正面、上面、右側面で大きな剥離を行った状態で遺跡内に搬入されている。

**剥離工程** III a類の剥離が正面と上面・右側面(段階1・2)→正面と左側面(段階3~5)→正面と上面(段階6~8)で行われる。段階5の剥片が二次加工ある剥片25の素材となっている。下面での剥離(段階9)を挟んで、再びIII a類の剥離が左側面と裏面(段階10~15)→右側面と上面(段階16・17)→上面から右側面と正面(段階18・19)で行われる。段階19では同一打面から裏面への剥離もみられる。また、段階11の剥片が二次加工ある剥片22の素材となっている。その後、上面・下面(段階20・21)での剥離が行われ、再びIII a類の剥離が正面と上面(段階22・23)→裏面と上面(段階24・25)→左側面と正面(段階26・27)→右側面と下面(段階28・29)と続く。段階1~19までは同段階で二、三回程度の剥離がみられるが、その後は一回の剥離で打面を転移することが多い。前者には長幅比が1.0以上の剥片が若干含まれる。最終的に石核56が遺棄される。

**分布** Sb - 9の集中域にまとまって分布している。

**母岩別資料82・接合資料229** (図IV-172~175、図版127-2)

母岩別資料は接合229のみである。

**素材** 145点(115個体)が接合し、重量は730.7g、大きさは20×8×7.5cmである。ザラついた岩屑面がある角柱状の角礫を素材とし、ほぼ原石の状態で遺跡内に搬入されている。

**剥離工程** III類の剥離を中心として作業が進行している。段階1・2は正面と右側面との交互剥離である。段階1は石核長軸に対して斜めに剥離するもので、段階2は連続した剥離である。次に左側面での剥離がみられ(段階3・4)、この作業面を打面として正面から上面・裏面にかけて剥離が行われる(段階5)。なお、段階1・3~5の剥片は石核の素材となっている(個体A~E)。次に段階5のヒンジによってできた突出部を除去するように、右側面→正面と90度打面を転移させる横方向の剥離がみられる(段階6・7)。段階7の作業面は正面と裏面の二つに分かれ、裏面からIII a類の交互剥離が始まり、裏面と左側面(段階7~10)→上面と正面(段階11~13)の剥離がみられる。これらは石核の角の稜を作業面に設定し、長幅比が1.0以上の剥片が剥離されるものが多い。また、段階12の作業面は正面と左側面の二つに分かれ、どちらも二次加工ある剥片35・34の素材となっている。段階14~17・20・21はIII b類の剥離で、左側面と裏面を中心として作業面転移がみられる。途中の段階18・19は左側面と裏面の交互剥離で、裏面の剥離は横方向と縦方向の剥離が行われている。また、段階14・16・17・20の剥片が二次加工ある剥片26・2・36・14の素材となっている。段階22からは再びIII a類の剥離が始まり、石核下端での作業(段階22~25)→裏面と右側面(段階26~28)→石核下端での裏面と左側面(段階29・30)→右側面と下面(段階31~33)→左側面と裏面(段階34・35)→右側面と正面・左側面(段階36・37)と続く。また、段階26・29の剥片が二次加工ある剥片6・23の素材となっている。正面上からの剥離の後(段階38)、最終的に石核54が遺棄される。

個体AはI b類の剥離が行われ、主に素材の打面側で交互剥離がみられる。最終的な石核は欠落し

ており、遺跡外に搬出された可能性が高い。

個体Bは素材の腹面側でI a類の剥離が行われている。同一の打面から連続的な剥離がみられる。最終的に石核47が遺棄される。

個体Cは細長い右側面と上面で交互剥離が行われている（C-段階1・2・4）。途中のC-段階3・5は切断剥離で、前段のヒンジを修正している。C-段階6からはI b類の剥離で、最終的に石核44が遺棄される。

個体Dは主にI b類の剥離が行われている。途中のD-段階5は細長い小口面での連続的な作業で、長幅比が1.0以上の剥片が多く剥離されている。最終的に石核43が遺棄される。

個体EはII b類の剥離が連続的に行われるが、いずれも激しいステップフラクチャーとなっている。二次加工ある剥片16が接合する。最終的に石核51が遺棄される。

**分布** Sb-9の集中域を中心としてまとまって分布している。段階・個体による分布の差はみられない。

#### 母岩別資料83・接合資料230（図IV-176~179、図版128・129）

母岩別資料は接合230の他、接合231~236・238・50163~50168、石核1点、二次加工ある剥片4点、剥片125点で構成され、総点数330点、総重量4,961.8gである。

**素材** 154点（69個体）が接合し、重量は4,101.9g、大きさは14.5×23×7.5cmである。爪状痕のある円礫を素材とし、正面で大きな剥離を行った状態で遺跡内に搬入されている。

**剥離工程** 下面での剥離の後（段階1）、正面から左側面にわたる上からの連続的な剥離がみられる（段階2・3）。なお、段階2・3の剥片は石核の素材となっている（個体A~F）。その後、III b類の剥離が行われ、正面下から（段階4）→正面横から（段階5）→左側面（段階6）→右側面（段階7）→上面（段階8）と作業面を転移していき、最終的に石核59が遺棄される。なお、段階4~7の剥片が石核の素材となり（個体G~J）、前述と合わせて10個体の石核素材を剥離している。

個体Aは素材の打面から、石核本体を大きく取り込む剥離が行われ（A-段階1）、小さく消耗した石核48が遺棄される。さらにA-段階1は石核の素材となり（個体A-a）、下面での作業の後（a-段階1）、II a類の剥離が連続的に行われている（a-段階2）。最終的な石核は出土しておらず、遺跡外に搬出された可能性が高い。

個体Bは、上端でI b類の剥離が行われている。石核の稜に沿って剥離軸を設定するものがあり、長幅比が1.0以上の剥片がみられる。B-段階1の剥片は二次加工ある剥片31の素材となっている。最終的に石核45が遺棄される。

個体Cは正面でII a類の剥離が行われ、石核46が遺棄される。

個体Dは正面（素材腹面）でI a類の剥離がみられる（D-段階1・3）。途中、石核を切断するような急角度の剥離が行われている（D-段階2）。最終的な石核は出土しておらず、遺跡外に搬出された可能性が高い。

個体E・Fは縦長剥片を切断したもので、それぞれII a類の剥離が行われ、石核50・49が遺棄される。

個体Gは正面と上面で僅かな作業（G-段階1・2）がみられるのみで、素材の状態はほとんど変化していない。石核53が遺棄される。

個体Hは急角度の剥離（H-段階1）→石核の稜に沿って剥離軸を設定する剥離（H-段階2）→平坦な素材腹面での剥離（H-段階3）がみられるが、欠落部分が多く詳細は不明である。最終的な石核も出土していない。

個体IはI a類の剥離が数回行われ、石核42が遺棄される。

個体JはI b類の剥離が行われる（J - 段階1・2）。石核が厚手なため、急角度の剥離が多くみられる。最終的な石核は出土しておらず、遺跡外に搬出された可能性が高い。

**分布** Sb - 9の集中域を中心として広い範囲から出土している。段階・個体による分布の差はみられない。

#### 写真のみ掲載の接合資料

母岩88・接合245（図版130-1）は石核の素材となる厚手の剥片（個体）の腹面に一枚の剥片が接合している。欠落部分が多く詳細は不明であるが、剥片の形態から後段の剥離も剥片素材の石核から剥離された可能性が高い。最終的な石核は出土しておらず、遺跡外に搬出された可能性が高い。図版130-1-94は前段の個体の接合状態である。I b類の剥離が集中的に行われ、次第に急角度の剥離となっていくⅢ類の剥離となる。最終的な石核は欠落しているが、空隙部分から遺跡内ではほぼ個体を消費し尽くしたことが分かる。二次加工ある剥片95・96が接合する。

母岩87・接合244（図版130-2）はほぼ原石の状態で搬入され、Ⅲ a類の剥離を中心とした作業が行われている。最終的な石核は欠落しているが、空隙部分から遺跡内ではほぼ個体を消費し尽くしたことが分かる。初期段階で剥離された上面の剥片が石核の素材となり、I a類の剥離が行われ、石核図IV-70-41が遺棄される。石核は約60m離れたSb - 6から出土している。また、多様な形態の剥片が二次加工ある剥片12・15・24・28・29の素材となっている。（直江康雄）

## （7）石器ブロック10（Sb - 10）の石器

### 出土石器（表IV - 5・6）

二次加工ある剥片37点、搔器5点、削器10点、錐形石器18点、石核25点、剥片486点の計581点、重量3,653.0gの石器類が出土した。石材は黒曜石1が最も多く92.4%を占め、以下黒曜石2（5.3%）、黒曜石4（1.4%）、黒曜石5（0.9%）となっている。

### 二次加工ある剥片（図IV - 181 - 1～10、図版131）

14点（10個体）を図示している。素材となる剥片の選択性が低く、加工の部位や強弱が異なるため形態の斉一性がない。原石面は2・3・6・7・9にみられ、特に2・3は背面全体に残っている。背面の剥離面構成は腹面とほぼ同方向（1・6・7）、逆方向を含む（5）、横方向を含む（8・9・10）ものがみられる。また、1・6・8・9は背面に平坦でリングの大きな面がある。これは素材を剥離した石核が剥片素材で、その腹面にあたると考えられる。二次加工は1～3・5が急角度、4・6が連続した微細なもの、7～10が5 mm前後のやや平坦で鋭角なものである。折れ面を切っている加工は2～5でみられる。

1の形態は台形状で、鋭い直線的な縁辺を残し、周縁に急角度の加工がみられる。背面からの加工が基本であるが、右側縁下部では対向状となっている。上部の縁辺には微細な剥離が連続的にみられる。3は加工が全周するもので、末端辺・左側縁・上部にかけては背面から、右側縁は腹面からの加工が施されている。他の遺物に比べ水和層の発達が弱い。4・5は折れ面によってできた角に錯向状の加工がみられる。6は薄手の剥片が素材で、末端辺は背面から右側縁は腹面からの加工が施されている。8は縁辺全体にわたる加工がみられる。9の末端は激しいヒンジとなっており、パンチマークが数個みられる。薄い灰色の中に透明感のあるスジが入った黒曜石で、肉眼的にケショマツ産のものと類似する。10は打面部に最大幅と最大厚がある縦長剥片を素材としている。

### 搔器（図IV - 181 - 11～13、図版131）

8点(3個体)を図示している。11・12はほぼ完形で、13が欠損品である。長幅比は11・12ともに0.8でやや横長である。背面の剥離面構成は、腹面と同方向(12)、逆方向を含む(11・13)ものがみられる。原石面は12の打面のみに残っている。刃部の縦断面端形状は11・13がほぼ直線状で、12がやや腹面側に湾曲する形である。加工は11・12とも末端辺から片側縁に連続して施されている。刃部の角度は基本的に末端部が急角度で、11が50～65度、12は50～75度、13は60～65度である。11は腹面の器体中央部に多数のパンチマークがみられ、破損は直接加撃したことによって起こったと考えられる。13の腹面には素材のバルブを除去する2cm程の剥離がみられ、石核としても機能していたと思われる。

**削器**(図IV-181-14～図IV-182-16、図版131)

7点(3個体)を図示している。14・16が完形品で、15は末端部が欠損している。背面の縁辺に連続した平坦剥離が施されている。3個体とも打面は幅広で器体中央部の両側縁がほぼ平行し、原石面が残っている。加工は14・15が背面の縁辺全体、16は背面の末端辺にあり、腹面には不連続な剥離が全体的にみられる。

**錐形石器**(図IV-182-17～27、図版131)

14点(11個体)を図示している。折れ面を利用して突出部を加工しているものが多いことから、切断技法を用いていた可能性がある。17～25は素材の末端側に突出部が作出されたもので、19・23・25は折れ面と接する縁辺の角を利用している。原石面は17～19・23・24が打面、20が左側面にみられる。加工は腹面からの剥離がほとんどで、17が背面から、25は左右の突出部とも錯向剥離が行われている。21は薄手で、微細な剥離が連続した加工である。24は腹面のバルブ付近に縦方向の擦痕がみられ、それを切る1.3cm程の剥離がある。また、右側縁には槌状剥離がみられる。

26・27は素材の打面側に突出部が作出されたもので、26は打面と接する側縁の角を利用している。加工は26が腹面から、27が背面からの剥離によるものである。26の打面は幅・厚さに共に大きい。27の右側縁には槌状剥離がみられるが、突出部の加工に切られている。

**石核**(図IV-182-28～図IV-183-35、図版131)

8点(8個体)を図示している。いずれも剥離の際に打面調整、頭部調整などの石核調整は施されず、剥離面のバルブが発達している特徴がみられる。

28～34は作業面を主に素材の広い面に設定している石核である。素材は29・33・34が不明で、それ以外は剥片である。作業面は29が片面のみ、30～33が両面にわたる交互剥離、28・34が広い面の他に細長い小口面でも剥離が行われている。28の正面の剥離は左側面の折損後である。29の裏面は原石面に覆われている。正面の大きくヒンジが起きている面に二次加工ある剥片5が接合する。30は1cm前後の小さな剥離が両面のほぼ全周にわたって施されている。「白滝I群」では類例がなく、両面調整石器や錐形石器とみることできる。31は正面が上から、裏面は下からの剥離が主体的である。末端がヒンジを起こしているものが多い。33は裏面からの剥離が集中的に行われたため急角度になり、小口面化している。34の正面上からの最終剥離はヒンジを起こしている。それ以外の剥離面は打面が原石面で、横方向から行われている。

35は剥片を素材とし、打面を素材の広い面に固定するものである。作業面が短く、1.5cm前後である。末端側の原石面を取り込む横長剥片が多く剥離されている。上面には打点部付近に多数のパンチマークがみられる。

**石器ブロック10(Sb-10)の分布・接合状況**(図IV-183-185、表IV-5・6)

M47・48、N47～49、O47・48、P48区の13×13mの範囲から南側が急にすぼまる形で設定した。

N47・48、O48区にまたがる集中域がみられ、その他は散漫な分布状況である。二次加工ある剥片37点、搔器5点、削器10点、錐形石器18点、石核25点、剥片486点の計581点、重量3,653.0gの石器類が出土した。

接合状況はブロック内の集中域を中心として全体に広がっている。西側に隣接するSb-11縁辺部とのブロック間接合が2例確認された。両ブロックは石器の内容や剥離技術、接合状況に相違がみられることから、隣接部で分布が重複したものと判断した。

#### 母岩別資料73・接合資料180 (図IV-186、図版132-1)

母岩別資料は接合180の他、接合181・182、剥片23点で構成され、総点数89点、総重量576.7gである。

**素材** 43点(38個体)が接合し、重量は352.7g、大きさは11×15×4 cmである。背面に原石面が大きく残る剥片を素材とする。原石面は滑らかな面である。剥片の上端を分割した状態で遺跡内に搬入されている。

**剥離工程** 下端でI b類の剥離が行われた後(段階1・2)、右側面から下面にわたっての連続的な剥離が行われる(段階3)。段階3の後半は急角度の剥離となり、小口面での作業となる。段階4からは180度打面転移したII a類の剥離である。右側面を中心に剥離が行われ、最終的に石核35が遺棄される。

**分布** Sb-10の集中域を中心として分布する。段階4の剥片1点がやや北側のM47区から出土している。

#### 写真のみ掲載の接合資料

母岩76・接合187(図版132-2)は剥片の状態で遺跡内に搬入されている。石核を切断するような分厚い剥離の前後にわたってI a類の剥離がみられる。最終的に石核40が遺棄される。また、初期段階の剥片が錐形石器38、石核39の素材となっている。

母岩480・接合194(図版132-3)は正面を大きく剥離した状態で遺跡内に搬入されている。求心状にI a類の剥離が行われる。最終的な石核は出土しておらず、遺跡外に搬出された可能性が高い。削器42が接合する。

母岩77・接合189(図版132-4)は正面を大きく剥離した状態で遺跡内に搬入されている。正面の平坦面でI a類の剥離が連続的に行われ、二次加工ある剥片44・45が接合する。最終的に石核46が遺棄される。

母岩78・接合190(図版132-5)はI a類の剥離が行われている。石核を輪切りにするような大きな剥離もみられるが、最終的な石核も含め欠落部分が多く、詳細は不明である。(直江康雄)

### (8) 石器ブロック11~13 (Sb-11~13) の石器

#### 出土石器 (表IV-5・6)

二次加工ある剥片29点、縦長剥片22点、石核55点、剥片539点の計645点、重量1,7349.1gの石器類が出土した。石材は黒曜石1が最も多く93.8%を占め、以下黒曜石5(2.3%)、黒曜石2(2.0%)、黒曜石3及び珪岩(0.6%)、碧玉(0.5%)、めのう(0.2%)となっている。

#### 二次加工ある剥片 (図IV-187-1~図IV-188-24、図版133)

25点(23個体とI層出土1個体を含めた24個体)を図示している。1は縦長剥片を素材とし、素材の打面・バルブを除去するような加工が両面に施されたものである。背面の剥離面構成は腹面とほぼ

同方向で、逆方向も含まれる。逆方向の剥離面は平坦で、リングが大きい。これは素材を剥離した石核が剥片素材で、その腹面・バルブスカーにあたると考えられる。加工は基部側の背面両側縁、腹面左側縁に施されている。腹面下端からの加工は急角度で、バルブ部の盛り上がり完全に除去しきれていない。先端は尖り、左側縁には微細な剥離が不連続にみられる。

2～17は縁辺もしくは末端に軽微な加工が施されるものである。2～11は両側縁が広がる扇状、12～17は両側縁が平行に近く四角形、五角形となっている。2・4・6・8・10・12は末端部付近に最大厚があり、5・9・11・13～17は薄手で、形態の違いとほぼ対応している。原石面は2・9・12・13・15・16にみられ、残存部位はすべて側縁と末端辺である。加工の部位は腹面の片側縁(8・13)、腹面の末端辺(3・4)、腹面の片側縁と末端辺(7・10・11・16)、腹面の両側縁(9・12・14・15)、両側縁と末端辺(2・5・6)、背面の片側縁(17)に施され、斉一性がみられない。加工の状態は基本的に1.5mm前後の剥離が連続するものだが、5・10・12・13のように5mmを超える大きな剥離がみられる場合もある。2の加工は側縁から末端辺にかけての「く」の字状の縁辺と鋭角な突出部2か所に分かれてみられる。5の右側縁はノッチ状に加工され、錐形石器と類似する突出部が作出されている。6の両側縁は錯向状の剥離で腹面の加工は末端辺との「く」字状の縁辺にみられる。7の末端部の剥離は急角度である。

18～24は縦長剥片を素材とするものである。素材末端部は薄手のものが多いが、18・20は石核の下面を取り込んでいるため厚手である。背面の剥離面構成は腹面とほぼ同方向(18)、逆方向を含むもの(20・22～24)、横方向を含むもの(19・21)となっている。加工は腹面の片縁辺全体にわたり、19・20・22・23は反対側縁にもみられる。反対側縁の加工部位は、19・22が打面とそれに続く腹面左側縁の小さな範囲、23が腹面右側縁の打面部付近、20が背面右側縁の打面部付近と縁辺の凹部である。

#### 錐形石器 (図IV-188-25、図版133)

1点(I層出土1個体)を図示している。縦長剥片を素材とし、末端側に突出部を作出するものである。突出部は腹面からのノッチ状の加工で、先端部にも及び、右側は背面まで抜けず鈍角化している。右側縁には、打面側が背面に連続的、末端側が両面に不連続で微細な剥離がみられる。

#### 剥片 (図IV-188-26～28、図版133)

3点(2個体とII層一括出土1個体を加えた3個体)を図示している。いずれも珪岩製のもので、流離構造が発達している。26は背面に細かな剥離がみられる。大きさや縦断面の湾曲具合から搔器の刃部調整剥片と思われる。27・28は長幅比が2.0に満たない縦長気味の剥片である。打面は27が単剥離、28が複剥離で、どちらも幅が広い。27の両側縁は急角度で、右側の背面剥離面構成は横方向である。

#### 石核 (図IV-188-29～図IV-190-51、図版133・134)

26点(20個体とI層出土2個体とB調査出土1個体を加えた23個体)を図示している。いずれも剥離の際、打面調整や頭部調整などの石核調整は施されず、剥離面のバルブが発達している特徴がみられる。29～34は平坦で広い面を作業面に設定するものである。主に末端が薄手で、寸詰まりの剥片が剥離されている。素材は全て剥片である。29～32は作業面を素材の腹面に固定、33は作業面を素材の背面に固定、34は正面と裏面の広い面で交互剥離が行われている。29は長軸方向に剥離が行われ、末端まで抜ける剥片が一回みられる。30～32は素材の側縁からの剥離が行われている。30・31とも一回の剥離で作業を終了している。32の上部縁辺には1mm前後の微細な剥離が連続してみられる。34は上端と下端で交互剥離が行われている。

35～46は作業面を主に素材の細長い面に設定するものである。主に縦長剥片が剥離されている。素材は35・36・39～46が剥片で、37・38は不明である。打面は平坦打面によるもので、素材面をそのま

ま利用する35・36・42・44と、剥離によって作出する37～41・43・45・46がみられる。35は左側面に横方向の剥離がみられ、90度打面転移を行っている。37はめのう製で、下端には両側からの加工により突出部が作出されている。38は碧玉製で、裏面にも小口面での剥離がみられる。39は2.5cm程の大きな球顆が残っている。42は正面の細長い面から左側面にかけての連続した剥離がみられる。43は縦長剥片の他に、片側縁が「く」の字状の剥片も剥離されている。44は原石面打面で下端からの剥離もみられる。45は粗い円錐形で、正面から左側面にかけて縦長剥片が剥離されている。46は下端の狭い範囲に急角度の細かい加工があり、搔器として機能していた可能性が考えられる。

47～51は多方向からの剥離面によって構成され、数多くの打面・作業面転移を行っているものである。打面と作業面を入れ替える交互剥離を基本として作業が進行していき、特に49・50は頻繁な打面転移によってサイコロ状の石核となっている。素材は剥片(47～49)と、礫(50・51)がみられる。原石面は47・51を除くものにみられ、裏面や下面に残ることが多い。47の最終剥離は正面を覆う大きなもので、左側面と裏面との交互剥離がみられる。その他の剥離は多方向からのもので統一性がなく、一打単位の打面転移を頻繁に行った結果と考えられる。48は正面と上面・左側面の交互剥離が行われている。49は交互剥離がみられず、打面転移が不規則に行われている。50は正面と右側面との交互剥離がみられる。石核の末端まで取り込んでいる剥離面が多いことから、末端部が厚手の剥片が多く剥離されたと思われる。51の形態は縦長で、全体的にリングの大きな面によって構成されている。下端の剥離は内在する割れによるものである。

#### 石器ブロック11 (Sb-11) の分布 (図IV-191・192、表IV-5・6)

O44～47、P45～47区の6.5×13mの範囲で確認された。全体的に散漫な出土状況である。二次加工ある剥片1点、石核7点、剥片23点の計31点、重量1,876.7gの石器類が出土した。また、Ⅱ層一括遺物ではO46区から珪岩製の剥片26が出土している。石核が22.6%と高い割合でみられる。

#### 石器ブロック12 (Sb-12) の分布 (図IV-191～193、表IV-5・6)

O43・44、P41～44、Q41～44、R41～43区の19×10.5mの範囲で北東方向に間延びした形で確認された。Q42区を中心として北東側にまとまりがみられる。二次加工ある剥片26点、縦長剥片21点、石核42点、剥片457点の計546点、重量14,810.6gの石器類が出土した。縦長剥片がQ42区を中心として分布しているのに対し、二次加工ある剥片・石核はブロック全体から偏りなく出土している。

#### 石器ブロック13 (Sb-13) の分布 (図IV-193、表IV-5・6)

R40、S40～43区の6.5×13mの範囲で確認されたが、調査区範囲外のT40～42区に分布が広がると考えられる。全体的に散漫な出土状況であるが、S41区にややまとまった分布がみられる。二次加工ある剥片2点、縦長剥片1点、石核6点、剥片59点の計68点、重量661.8gの石器類が出土した。ブロックの集中部が調査区外にあると考えられ、出土石器の組成や割合などを正確に反映していない可能性が高い。

#### 石器ブロック11～13 (Sb-11～13) の接合状況 (図IV-194)

Sb-11～13ではブロック内の接合を中心として、ブロック間でもSb-12を中心とした接合関係が多く確認されている。このことから三つのブロックには密接な関係があり、同時性の高さを示すものと思われる。また、Sb-11の縁辺部ではSb-10とのブロック間接合がみられるが、両石器群の石器の内容や剥離技術、接合状況に相違がみられることから、隣接部で分布が重複したものと判断した。

**接合資料302** (図IV-195、図版135-1)

**素材** 5点(5個体)が接合し、重量は47.0g、大きさは5×5.5×3cmである。欠落部分が多く素材は不明である。原石面は角が摩滅している。

**剥離工程** 全体の剥離は同方向からの剥片が2点接合するのみで、最終的な石核も含めて欠落部分が多く、詳細は不明である。背面の剥離面構成と打面の位置に段差があることからⅢ類の剥離が行われていた可能性が高い。なお、2点の剥片はそれぞれ石核の素材となっている(個体A・B)。

個体Aは作業面を大きく取り込むI a類の剥離が一回行われ、最終的に石核30が遺棄されている。

個体Bは素材の側縁と末端部で交互剥離がみられる(B-段階1・2)。どちらも素材の細長い小口面を作業面としているため、長幅比1.0以上の剥片が剥離されている。最終的に石核35が遺棄される。

**分布** 個体A・BともSb-12の集中域からやや離れたブロックの北東縁辺部から散漫に出土している。その中で個体Aは北側、個体Bは南側に分かれて分布する。

**母岩別資料462・接合資料285** (図IV-195、図版135-2)

母岩別資料は接合285の他、接合286・50194、剥片4点で構成され、総点数42点、総重量250.1gである。

**素材** 30点(26個体)が接合し、重量は221.3g、大きさは8.5×4×7.5cmである。背面が原石面に覆われた剥片を素材とする。原石面は滑らかで、角がやや摩滅するものである。剥片の状態で遺跡内に搬入されている。

**剥離工程** 素材の側縁と末端に沿った交互剥離が連続的に行われている(段階1~7)。どちらも素材の細長い小口面を作業面としているため、長幅比1.0以上の剥片が多くみられる。次に平坦な裏面を中心にI b類の剥離が行われ(段階8~11)、再び正面と上面の細長い面での交互剥離となる(段階12~14)。なお、段階9の片側縁が「く」の字状の剥片は、二次加工ある剥片11の素材となっている。最終的にサイコロ状の石核48が遺棄される。

**分布** Sb-12の集中域を中心に分布する。二次加工ある剥片11や段階6の縦長剥片、段階11・12の剥片がやや離れたブロック北側縁辺から出土している。

**母岩別資料459・接合資料278** (図IV-196、図版135-3)

母岩別資料は接合278の他、接合279・280で構成され、総点数26点、総重量248.7gである。

**素材** 18点(18個体)が接合し、重量は148.4g、大きさは7.5×7.5×6.5cmである。角が摩滅した亜角礫を素材とする。欠落部分が大きく、搬入形態は不明である。

**剥離工程** 段階1は正面で石核左右の角の稜に沿って剥離軸を設定した、上からの剥離である。そこからⅢ a類の剥離が始まり、左側面と正面横方向(段階2)→右側面と正面横方向(段階3)→上面と正面(段階4~6)→上端での左右の側面(段階7~10)と作業場所が転移している。その後、右側面を打面として正面から上面にわたる連続的な剥離が行われ(段階11)、再び上面と正面との交互剥離がみられる(段階12・13)。最終的な石核は欠落しているが、空隙部分から遺跡内ではほぼ個体を消費し尽くしたことが分かる。二次加工ある剥片が多く接合し(2・9・12~16)、段階3・7・8・11~13の多様な形態の剥片が素材となっている。

**分布** Sb-12の南部を中心として散漫に分布している。

**母岩別資料463・接合資料287** (図IV-196~198、図版136-1)

母岩別資料は接合287・316で構成され、総点数37点、総重量425.7gである。

**素材** 35点(33個体)が接合し、重量は415.9g、大きさは9×11×7cmである。背面が原石面に覆われた剥片を素材とする。原石面は滑らかで、角が摩滅するものである。剥片の状態で遺跡内に搬入

されている。

**剥離工程** 剥片を二つに分割し、それぞれ剥片剥離が行われている（個体A・B）。個体AはⅢ a類の剥離が行われ、まず正面と上面（分割面）との交互剥離が連続的にみられる（A-段階1～5）。A-段階2は石核の素材となり（個体A-a）、I a類の剥離が行われるが、最終的な石核は欠落している。また、A-段階4の片側縁が「く」の字状の剥片が二次加工ある剥片10の素材となっている。次に180度打面転移し、上面での作業が連続的にみられる（A-段階6）。A-段階6は次第に急角度となり、作業面が裏面に移行していき、下面との交互剥離が開始される（A-段階6～8）。その後、Ⅲ b類の剥離が上面・正面（A-段階9）→右側面（A-段階10）→裏面（A-段階11）と続き、最終的に小型の石核47が遺棄される。また、A-段階9は石核の素材となり（個体A-b）、作業面を大きく取り込むI a類の剥離が一回行われ、最終的に石核29が遺棄される。

個体BはⅢ b類の剥離が行われ、正面→右側面→上面→右側面（B-段階2～5）と作業面が転移している。B-段階1は裏面での作業で、B-段階4までとの前後関係が不明である。最終的にサイコロ状の石核49が遺棄される。

**分布** Sb-11～13に分布している。中心はSb-12で、ブロック全体に散漫にみられ、Sb-11からは個体Bの石核49、Sb-13からは個体B-段階5の剥片が出土している。

**母岩別資料466・接合資料290**（図IV-199・200、図版137）

母岩別資料は接合290の他、接合320・322、剥片4点で構成され、総点数49点、総重量2,114.0gである。

**素材** 40点（31個体）が接合し、重量は2,038.0g、大きさは18.5×16.5×9.5cmである。爪状痕のある円礫を素材とし、原石の状態に遺跡内に搬入されている。

**剥離工程** 右側面で大きな剥離を行い（段階1）、その平坦面を打面に設定して正面から上面・裏面にわたる剥離が行われる（段階3）。段階2は裏面の剥離で、段階1との前後関係は不明である。その後Ⅲ b類の剥離が行われ、裏面→正面と作業面が転移し（段階4・5）、上端で左右の側面との交互剥離が連続的にみられ（段階6～9）、右側面横方向の剥離が行われる（段階10）。最終的な石核は欠落している。また、段階3・4・8・10の剥片4点が石核の素材となっている（個体A～D）。

個体Aは分厚い断面三角形の剥片である。上面で石核の角の稜を剥離軸に設定する交互剥離が行われた後（A-段階1・2）、正面で連続的な剥離がみられる（A-段階3）。最終的な石核は欠落している。

個体Bは直径約3cmの流紋岩球類を内在する剥片である。平坦な左側面での剥離の後（B-段階1）、球類を分割するような急角度の剥離がみられる（B-段階2）。前段の作業面を打面に設定し、正面の細長い面で連続的な剥離が行われている（B-段階3）。最終的に石核39が遺棄される。

個体C・Dとも素材の腹面でI a類の剥離が行われている。打撃の数が少なく、それぞれ石核31・32が遺棄される。

**分布** Sb-11～13に分布している。中心はSb-12で、南北二つのまとまりがみられる。北側には段階1・3～6が多く、南側は段階2と個体A（段階3）が集中している。東側に約12m離れたSb-11からは個体Bの石核39が単独でみられ、Sb-13では個体C・Dを含めた段階7の後半からの剥片・石核が出土している。

**母岩別資料465・接合資料289**（図IV-201～207、図版138～141）

母岩別資料は接合289の他、接合338～340・50207、二次加工ある剥片1点、剥片25点で構成され、総点数168点、総重量8,888.1gである。

**素材** 122点 (92個体) が接合し、重量は8,193.1g、大きさは23×18×33.5cmである。爪状痕のある円礫を素材とする。正面を大きく剥離した状態で遺跡内に搬入されている。

**剥離工程** Ⅲ類の剥離を基本として作業が進行している。細長い小口面である正面の連続的な剥離の後 (段階2)、下面で大きな剥離が行われる (段階3)。下面付近には内在する割れがみられ、段階3によって石核下部の形状が変形してしまう。段階4は下面からの剥離で、前段の修正であったとみられる。なお、段階1は裏面にみられる小さな剥離で、段階6までとの前後関係が不明である。次に再び正面に作業面が戻り、上面との交互剥離が開始される (段階5～9)。段階10からはⅢb類の剥離で、右側面の横方向 (段階10) →右側面の縦方向 (段階11) →上面 (段階12) と続く。また、段階2・7～12の剥片は石核の素材となっている (個体A～L)。最終的に石核51が遺棄されるが、段階12との間に大きな欠落部分がみられる。

個体Aは上面での剥離 (A-段階1) の後、素材の左右の側縁に沿った交互剥離が行われる (A-段階2～5)。どちらも素材の細長い小口面を作業面としているため、長幅比が1.0以上の剥片が多くみられる。最終的に石核40が遺棄される。

個体Bは交互剥離が連続して行われる。B-段階1・2では、お互いの打面が長軸に対して斜行するように設定されているため、どちらも同様の縦長剥片が剥離されている。剥離の進行に従い、作業面が石核の長軸と短軸とに移行し、長軸側である左側面のB-段階5で長幅比1.0以上の剥片が多く剥離されるようになる。縦長剥片を素材とした二次加工ある剥片23・24が接合する。最終的に石核45が遺棄される。

個体C・Dは同一の剥片を分割したものである。個体Cは、まず細長い右側面で連続的なⅡb類の剥離が行われている (C-段階1～3)。途中、上面でも剥離がみられるが (欠落)、小規模であるため打面調整的なものであったと考えられる。C-段階3の剥片は二次加工ある剥片17の素材となっている。最終的に石核46が遺棄される。個体Dは細長い正面でⅡb類の剥離を行った後 (D-段階1)、正面と上面との交互剥離が連続的にみられる (D-段階2・3)。正面では素材の細長い小口面を作業面としているため、長幅比が1.0以上の剥片、上面では片側縁が「く」の字状の剥片が多くみられる。D-段階1・3の剥片が二次加工ある剥片6～8・21の素材となっている。最終的に石核43が遺棄される。

個体E・F・G・Hは同一の剥片を分割したものである。個体Eは左側面から正面と裏面に交互剥離が連続的に行われている (E-段階2～6)。E-段階1は右側面の急角度の剥離で、E-段階5までとの前後関係は不明である。最終的な石核は欠落している。個体F・Gとも分割面からの剥離がみられ、個体Fでは石核33が遺棄され、個体Gでは石核が欠落している。個体Hは図版作成後に接合が確認されたため図IV-205-70に図示していないが、個体Fとの分割面を作業面とし、二枚の剥片が接合する。最終的な石核は欠落している。

個体Iは石核左側ではⅠb類の剥離がみられる (I-段階1・2)。石核右側はⅡb類の剥離がみられ (I-段階1)、長幅比が1.0以上の剥片が多く剥離されている。最終的に石核42が遺棄される。

個体Jは左右の側面でのⅠb類の剥離の後 (J-段階1) (左側面側欠落)、正面下からの大きな剥離が行われ (J-段階2)、石核44が遺棄される。

個体Kは上端と下端でのⅠb類の剥離である (K-段階1～4)。上端裏面のK-段階1・2は石核の稜に沿って剥離軸を設定しているため、長幅比が1.0以上の剥片が多くみられる。最終的に石核34が遺棄される。

個体Lは細長い右側面での剥離の後 (L-段階1)、上面と正面との交互剥離が行われている (L

－段階2・3)。最終的に石核41が遺棄される。

**分布** Sb-11・12から出土している。ほとんどがSb-12の広い範囲に分布し、ブロック全体にまたがるような折れ面接合をしているものが多い。段階9の剥片の一部と最終的な石核が東側に約12m離れたSb-11から出土している。段階・個体ごとの分布の大きな違いはみられない。また、個体L－段階1の剥片がブロック外のQ40区に分布する。

#### 写真のみ掲載の接合資料

母岩80・接合193(図版142-1)は内在する割れのため正面の剥離が大きく石核を分割するような剥離となっている。最終的な石核は欠落している。なお、前述の正面の剥片は石核の素材となり、素材腹面から数回の剥離が行われ、石核98が遺棄される。(直江康雄)

### (9) 白滝I群石器ブロック外の石器

#### 二次加工ある剥片(図IV-208-1、図版142-2)

1は薄手の剥片を素材とし、素材の打面・バルブを除去するような加工が両面に施されたものである。完形品で、先端が尖る形態である。背腹両面に長さ5mm程度の大きな加工がみられる。

#### 石核(図IV-208-2・3、図版142-2)

2は扁平で、平坦な面と小口面との交互剥離が求心状にみられるものである。主に上下からの剥離が行われ、平坦な正面では末端が薄手で寸詰まりの剥片が剥離されている。剥片素材である。

3はサイコロ状の石核である。全面的に剥離面に覆われ、下部に僅かな節理面がみられる。正面以外では横方向の剥離が多い。

#### 分布(図IV-208)

1はSb-9のやや外側であるJ46区から出土している。同様の石器はSb-9にもみられる。2はJ49区から出土し、各ブロックから一定の距離を隔てている。3はH59区から出土し、Sb-6に含まれる。石器ブロックラインの変更を図版作成後に行ったため、本節に図示している。

(直江康雄)

### (10) A区・石器ブロック14~19(Sb-14~19)の石器

#### 出土石器(表IV-5~8)

尖頭器72点、両面調整石器13点、ナイフ形石器1点、彫器7点、搔器24点、削器49点、錐形石器5点、舟底形石器29点(Ⅱ類29点)、二次加工ある剥片17点、細石刃25点、細石刃核28点、石刃189点、縦長剥片165点、石刃核13点、石核32点、削片87点(細石刃核削片84点、尖頭器削片3点)、剥片12,904点、台石2点、原石8点の計13,670点、重量188,721.7gの石器類が出土した。石材は黒曜石1が68.0%で最も多く、黒曜石4(16.4%)、黒曜石5(10.4%)、黒曜石3(4.6%)が続き、以下黒曜石2(0.4%)、頁岩(0.11%)、安山岩(0.07%)、めのう(0.04%)、珪岩(0.01%)、泥岩(0.01%)、碧玉(0.01%)である。彫器・舟底形石器は黒曜石4が多く、細石刃関連資料である細石刃・細石刃核削片・細石刃核は黒曜石1・5が多い。

#### 尖頭器(図IV-209-1~図IV-215-32、図版143~148)

61点(25個体とⅠ層出土6個体とⅡ層出土1個体を加えた32個体)を図示している。1~2は、有舌尖頭器である。1は完形品で、両面とも平行剥離ではない比較的大きな剥離で加工されている。舌部は明瞭で、下端部からの加工もあり、角張った形状に作り出されている。舌部裏面中央には平坦な

加工面があり、平坦剥離で形状を整え、最後に舌部を整形したことが想定できる。舌部側縁は潰れているが、特に最も抉れた部分の潰れが激しく、右側縁裏面には縁辺を潰した際に付いたと考えられる直交方向の擦痕が残る。産地分析では十勝三股産という結果が得られている。2は舌部の折損品である。1と同様に下端部からの加工がみられ、角張った形態である。また、側縁にも潰れが認められる。3は小型の尖頭器の先端部で、有舌尖頭器の可能性もあるが、不明である。

4～32は有舌以外の尖頭器で、4～18は完形品、19～32は折損品である。4～10は剥片素材で長さ15cm以下のものである。4・5は縦長剥片ないし剥片を素材に剥離軸と器体長軸が一致し、6～10は横長剥片を素材に剥離軸と器体長軸が直交している。4は平坦打面から剥離された素材で背面には横方向からの剥離がみられる。二次加工は正面には縁辺部のみ急角度の、裏面は先端部のみ平坦な加工が行われる。5は素材の原礫面打面が残り、裏面には素材面が残存している。6・8は両面とも主に一方の側縁から加工がなされ、縁辺部はやや潰れている。その特徴から細石刃核の母型の可能性がある。7は加工の度合いが少なく、尖頭器に近い形態の素材が利用されている。11～13は15～25cmのもので石核素材と考えられる。11は平坦剥離で比較的良好な形態に整形されているが、中央の球顆で折損している。12は平坦剥離によって薄手に加工されている。13は細長い角礫素材で、中央で折損後、再加工が行われるが尖頭部は作出されずに遺棄されている。14～16は15cm以下の厚手で幅広の尖頭器である。15・16には素材面が残り、厚手の剥片素材である。17・18は25cm以上の大型の尖頭器である。両者とも角礫素材で粗い加工の途中で折損している。18は折損後、再加工が行われるが、加工途中で遺棄されている。19～21は薄手の尖頭器の折損品である。厚さ10mm以下で素材面は残存せず加工の進んだ段階と考えられる。21は平坦剥離による加工後、一部縁辺部に平行剥離が行われている。22・23・25は厚さ20mm前後と厚手で加工も粗く、比較的初期の段階で折損したのと考えられる。23・25は角礫面が残る。24は安山岩製の剥片素材で小型のものである。縁辺部が平坦剥離によって加工されている。26～29は厚さ20mm以下で主に平坦剥離によって加工されたものである。26・27の縁辺部に細かい剥離がみられるが大部分は平坦剥離面が残り、その段階で折損したのと考えられる。30は粗い加工の段階で折損したもので角礫面が残る。31・32は平坦剥離による加工段階で折損したものであるが、折損後折れ面から縁辺部に槌状の剥離が行われる。

#### 両面調整石器 (図IV-215-33、図版148)

8点(1個体)を図示している。33は小型の角礫素材でほぼ円形に加工される。両面とも大きな剥離で加工され、裏面の縁辺部に頭部調整状の潰れた加工が行われる。

#### 細石刃 (図IV-215-34～102、図版148・149)

69点(11個体とI層出土29個体とII層出土21個体とIII層出土8個体を加えた69個体)を図示している。34～62は完形、63～87は頭部、88～92は中間部、93～102は先端部である。34・35は稜付の細石刃で、34は細石刃剥離段階の最初に剥離されたものである。両者とも稜部は左右からの剥離で形成され、側面観は直線的ではなく弧状である。また、背面右側に細石刃核右側面の素材面が残存している。完形品の長さは20～30mmにほぼ収まり、幅は4～6mmで規格性が高い。折損品も含め、幅は4～6mmのものが多いが、84～87は長さ・幅共に大型で、剥離された細石刃核の大きさが異なると考えられる。二次加工がみられるのは84のみで右側縁全体に微細な加工がなされている。66の背面上部右側縁には先行の細石刃剥離後に行われた作業面からの加工痕が残る。細石刃の打面は全て単剥離打面である。背面右側には細石刃核に残る素材腹面がみられるものが多く、素材面を取り込む細石刃はねじれが強い。遺跡には素材面を残さない直線的な細石刃より素材面を残すねじれの強いものが多く、前者は搬出され、後者が遺棄されたと考えられる。以上のことからほとんどの細石刃は20～

30mmの作業面長の峙下型細石刃核から剥離されたものと考えられる。

#### 細石刃核 (図Ⅳ-216-103~図Ⅳ-218-137、図版149~150)

40点(24個体とⅠ層出土11個体を加えた35個体)を図示している。103~117は細石刃剥離痕のあるもの、118~137は細石刃剥離痕の無いものである。103~115は削片剥離によって打面を作出するもの、116・117はそれ以外のものである。103~110は素材の縁辺部のみ加工のみられるもの、111~115は左右側面の大部分に加工のみられるものである。116は縦長剥片素材で、素材形状が細石刃核未製品に類似し、左側面は下縁部のみ右側面はほぼ全体に加工が施され、細石刃が剥離されている。甲板面の作業面付近は欠損しているため、削片剥離が行われたかどうかは厳密には不明である。117は素材腹面を甲板面に設定し、両側面とも主に甲板面からの加工で整形されている幌加型細石刃核である。103は素材剥離軸に直交する方向で削片剥離を行い、削片剥離の先端側から細石刃剥離を行っている。104~110は素材の剥離軸と同一方向で削片剥離を行い、削片剥離の打面側で細石刃剥離を行っている。104・106~108・110は素材背面に残る剥離面と腹面の剥離面の方向が一致し、単設の石核から剥離された縦長剥片ないし石刃を素材としている。105は背面と腹面の剥離面の方向が逆で、両設打面の石核から剥離されたと考えられる。109は背面が原礫面で覆われている。104の甲板面には裏面からの削片剥離が認められるが、作業面付近にはその剥離を切る正面からの削片剥離面が一部残り、正面からの削片剥離打面から細石刃が剥離されている。素材の打面側を細石刃剥離作業面に利用しているのは105・107・110、先端側を利用しているのは104・106・108・109で偏りはみられない。107は裏面に折れ面があるが、削片剥離・周縁加工に切られている。全体的に作業面は素材腹面側に回り込む傾向がある。103~110の細石刃核は全て甲板面の削片剥離が他端に抜けるか、ウートラパッセ状に下縁に抜けている。また、甲板面からの加工のみられるのは108のみで上面の稜の高く突出した部分が加工されている。111~114は全て削片が他端まで抜けずに途中でヒンジになっている。ヒンジによって残った段差を右側面からの加工によって除去し、側面観が直線的になるようにしている。111・112・115は右側面に甲板面を切る加工のみられる。これらの細石刃核は削片剥離とそれに伴う加工の結果、加工範囲が広いと考えられる。細石刃剥離痕のある細石刃剥離作業面長は21~27mmのものが多く、この数値は完形の細石刃長と一致する。また、甲板面と作業面の角度は60度前後である。加工が縁辺部に限定される細石刃核は幅が10mm以下のものが多く、両面調整に近い細石刃核幅は10mm以上である。10mm以上の素材のものは母型作成段階ないし削片剥離段階で加工の度合いを高めることによって細石刃核幅を減少させていると考えられる。

118~131は縁辺部のみ加工が行われる未製品である。全て、縦長剥片ないし石刃素材で素材剥離軸と石器長軸が一致する。素材の打面側から削片を剥離しているのは118・122・127~130で、先端側から剥離しているのは119~121・125である。123は上下に削片剥離がみられ、124・126は左右から削片が剥離されている。118~121は削片剥離が直線的ないしウートラパッセで他端まで抜けているものである。118は削片打面部のみ加工のみられる。119は削片に切られる細石刃剥離痕が一条認められる。加工は左側面の縁辺全体に及んでいるが細石刃剥離部が最も急角度である。120は甲板面の側面形が弧状になっており、最も突出した部分に右側面から甲板面に加工が施される。その後、削片剥離が行われるが、打面周辺が潰れている。121は裏面に残る折れ面を加工が切っている。数回の細石刃剥離痕が残る。122は削片が他端まで抜けていない。最終的には削片剥離の打面部が潰れて遺棄されている。123は上下で削片が剥離されるが両方とも腹面側に傾いて細石刃は剥離されていない。124は両端から削片が剥離されるが中央で折損し、細石刃はわずかに剥離されるのみである。125は左側面に甲板面を切る調整がみられ、最後に幅広の細石刃が剥離されている。126は裏面からの削片剥離後、左側面

に甲板面と下縁から調整が行われる。裏面からの削片剥離後に正面からの削片剥離が行われ、さらにその後、右側面から甲板面中央部に調整が行われる。127は折れ面を切る加工がある。128は削片剥離後右側面調整が行われ、さらに削片剥離、右側面調整が行われる。129は細石刃剥離作業面のみ加工が行われ、削片が剥離されるが、甲板面は素材腹面側に傾き、幅も狭い。130は上面・作業面とも削片状の剥離がみられる。通常、峠下型細石刃核は細石刃剥離面を正面に据えた場合、素材背面が左側面に素材腹面が右側面になり、主に左側面である素材背面に加工が施されるが、130はその逆である。131は折損品であるが、上面の加工が急角度で他の細石刃核に類似すること、同一母岩（母岩153、図IV-276・277）に同様の加工のある細石刃核があることから細石刃核の折損品と分類した。132～137は両面のほぼ全体に加工のあるものである。132～134は削片剥離後の加工はみられず、両面調整の母型から削片が剥離されたものと考えられる。135～137は削片剥離に伴う側面調整が行われている。135は削片剥離後、左側面は甲板面から、右側面は下縁から側面調整が行われている。136は削片剥離後、右側面が上下から調整され、甲板面からの調整は削片剥離によって波打った頂部を中心に行われている。最後に裏面からの削片剥離が行われる。137は上面に削片剥離に切られる横位の調整痕があり、断面V字形の母型が準備された可能性がある。削片剥離後、左側面は上下から右側面は裏面付近が下縁から調整されている。細石刃核未製品の長さはほぼ10cm以下である。

#### 細石刃核削片（図IV-218-138～図IV-223-233、図版150～153）

143点（49個体とI層出土34個体とII層出土11個体とIII層出土2個体を加えた96個体）を図示している。138～152は一次削片である。138～146は上面が素材腹面である右側面からの連続した加工のみで調整された細石刃核母型から、147・148は上面が部分的な加工によって調整された細石刃核母型から、149・150は上面が左右両面からの加工によって調整された細石刃核母型から、151・152は上面が素材腹面である左側面からの連続した加工のみで調整された細石刃核母型から剥離された一次削片である。

153～233は二次削片である。153～221は両面調整以外の細石刃核から剥離された断面が四角形の二次削片で153～188は完形、189～221は折損品である。153～180は側面形が直線的な、181～188は末端部に反りやウートラパッセがみられる二次削片である。先行の削片剥離後に3種類の加工が行われる。一つは先行の削片がヒンジになり、その末端部を右側面から除去し、上縁部を直線的にする加工である（154・161・162・165・170・171・175・184・187・188・194・198・215・218・220・228）。一つは甲板面から側面、特に削片剥離打面近くに行われる加工である（155・161・162・166～169・171・173・176～178・181・185・190・192・194・196～205・209・211・222・224・226・233）。そして、側面から甲板面に行われる加工である（158・160・161・168・171・172・174・178・180・183・189～192・203・222）。222～228は断面三角形のものであるが全て末端部で剥離が最後に左右側面に傾く傾向がある。229～231は両面調整の細石刃核から剥離されたもので両面加工の母型の存在を示している。このうち230・231は15cm以上で他の削片と比べ極端に長く、細石刃核の素材が異なると考えられる。232・233は断面がV字形の細石刃核母型から剥離されたものである。上面は数枚の大きな平坦面で構成されるが、上面を切る素材面が左側面に有ることから上面は素材面と考えられ、楔形の細石刃核に類似した素材の背面・腹面を加工することによって断面V字形の母型を作成している。削片全体では長さは147・185・188・230・231を除いて10cm以下であり、細石刃核未製品の大きさと対応しているが、230・231は15cm以上で剥離された母型の素材の大きさが異なっていたと考えられる。

**舟底形石器** (図Ⅳ-224-234~図Ⅳ-227-264、図版153~155)

36点(20個体とⅠ層出土7個体とⅡ層出土2個体とⅢ層出土2個体を加えた31個体)を図示している。234~238はⅠ類で、234~236は完形、237・238は折損品である。234・235は両端で、236・237は片側で本類に特徴的な細石刃状の縞状剥離が行われている。全て剥片素材と考えられ、石器長軸と素材剥離軸が一致する。完形品である234~236は全て25×10×5mmで、同様な形態である。237・238は、長さは異なるが幅・高さはそれらと類似する。加工は甲板面・下縁の両方から行われ、234を除いて下縁からの加工が切っており、最終調整は下縁から行われている。石質は全て茶に黒が混じる石質4である。上白滝5遺跡(直江ほか 2002)で確認された二重パティナは確認できない。

239~264はⅡ類である。239~257は完形、258~264は折損品である。甲板面がネガ面で剥片を剥離した石核素材と考えられる243・250・255、甲板面が原礫面で原石を素材としていると考えられる264を除いて全て厚手の剥片ないし縦長剥片素材で、それらは244を除いて石器長軸と素材剥離軸が一致する。素材の打面の残るものは全て単剥離打面ないし原礫面打面である。石器の端部に素材面を持つものが多く、また、それらに原礫面が多いことから素材は石器の長さあまり変わらない小型の原石から剥離されたもので、素材の長さを大きく変えないような加工がなされたと考えられる。但し、257は甲板面が平坦で15cm越える大型の剥片素材である。転礫面を持つもの(239・244・245・247・249)と平滑な原礫面を持つもの(240・246・248・252~255・259・260・264)があり、転礫・角礫両者が利用されている。加工は主に甲板面から行われるが、下縁から行われるものもある。251は甲板面に正面からの削片状の剥離痕がある。257は大型の剥片素材で甲板面からの加工も比較的細かく、それらを切る下縁からの加工により下縁の稜線が直線的になり、側面も比較的平坦で形態的に整っている。262・263は高さに比べ、幅が小さい。264は甲板面が平坦な角礫面でおそらく原石から加工されたと考えられる。

**ナイフ形石器** (図Ⅳ-228-265、図版155)

1点(1個体)を図示している。265は石刃素材で背面基部に急角度の、右側縁に平坦な加工がなされている。基部は両側縁とも擦り潰され、背面中央の稜線も潰れている。基部腹面には側縁と平行する擦痕が認められる。

**彫器** (図Ⅳ-228-266~274、図版155)

9点(6個体とⅠ層出土3個体を加えた9個体)を図示している。266はⅠ類、267~274はⅡ類の彫器である。素材は全て縦長剥片・石刃と考えられるが、頁岩製の267・271は厚さ10mm以上で黒曜石製に比べ厚手である。打面の残る266・273・274は全て頭部調整のある単剥離打面の石刃核から剥離されている。267を除いて全て背面全周縁に加工があり、266・273・274以外は腹面基部に加工がある。彫刀面は全て左肩に作出され、267・270以外は素材の先端側である。Ⅱ類のものは全て背面先端部調整が行われるが、Ⅰ類には行われない。267・271は先行の彫刀面作出後、彫刀面末端部が裏面から調整されている。

**彫器削片** (図Ⅳ-228-275~280、図版155)

6点(Ⅰ層出土2個体とⅡ層出土1個体とⅢ層出土3個体を加えた6個体)を図示している。275・276はⅠ類の彫器から剥離されたものである。275は先行の削片剥離後、彫器裏面から彫刀面に加工が行われた後に剥離されている。277~280はⅡ類の彫器から剥離されたものである。277・278は末端部、279・280は完形である。277はめのう製で背面先端部調整がみられる。278は彫刀面末端部が彫器裏面から加工された後に剥離されている。279・280には背面先端部調整痕がある。

**搔器** (図Ⅳ-228-281~図Ⅳ-230-305、図版155~157)

27点(21個体とI層出土3個体とII層出土1個体を加えた25個体)を図示している。281~300は完形、301~305は折損品である。281~295は石刃・縦長剥片素材、296~300は剥片素材である。281は頁岩、282はめのう製である。282・303以外は刃部以外に加工があり、側縁全体に急角度の加工のあるものが多い。刃部は、283・285~287・289・296は急角度の加工で比較的直線的に加工されるが、それ以外は鋭角の加工で円形に加工されている。297・298は両面調整である。304・305は20cm程度の大型石刃素材である。

#### 錐形石器(図IV-231-306~311、図版157)

7点(3個体とI層出土3個体を加えた6個体)を図示している。306は頁岩、307はめのう製である。全て石刃・縦長剥片素材と考えられる。306~308は両端に刃部が作出され、一端は中軸線上に、もう一端は斜めに作出されている。309は12cm程度の石刃の打面側に刃部が形成される。310は主に背面の加工で刃部が作出されるが腹面も加工されている。311は錯向剥離によって刃部が形成される。刃部以外に加工のあるものは308・310で縁辺に細かい剥離があるのみである。

#### 削器(図IV-231-312~316、図版157)

6点(4個体とIII層出土1個体を加えた5個体)を図示している。312は安山岩、315は頁岩製である。剥片素材である312以外は石刃素材である。312は薄い剥片素材で右側縁に平坦剥離がみられる。313・314は縁辺に比較的急角度の加工があり、部分的に平坦剥離が施される。315は18cmの大型石刃の左側縁に部分的に加工が施される。316は20cm以上の大型石刃素材で背面ほぼ全体を覆う平坦な加工が施されている。

#### 二次加工ある剥片(図IV-232-317~321、図版158)

8点(4個体とI層出土1個体を加えた5個体)を図示している。321以外は石刃素材である。317・318は部分的な平坦剥離で加工されている。319は調整打面の石刃素材で打面付近に錯向剥離が行われる。320は中央に上下の破片にまたがるノッチ状の剥離があり折損しているが、その後、上部破片の折れ面付近が再加工されている。峠下型細石刃核に折れ面を持つものがあることから湾曲の度合いの強い先端部をノッチによって折り取り、峠下型細石刃核のブランクを作成した途中の形態である可能性が高い。321は頁岩製で鋸歯縁状に5か所の突起が作出されている。

#### 石刃・剥片(図IV-232-322~図IV-236-343、図版158~161)

石刃は44点(21個体)、剥片は1点(1個体)を図示している。322は複剥離打面を持つものである。左側面には正面からの剥離痕があり、作業面転移が行われたと考えられる。323~339は完形品である。323・324は打面調整のみられるものである。324は左側縁に石核調整痕が残る。325~327は単剥離打面を持つが頭部調整はみられない。328~331・334~338は単剥離打面を持ち、比較的軽微な頭部調整がみられる。338は稜付石刃である。332・333は打面が潰れて形状は不明である。332の裏面には側面からの石核調整がみられ、333の正面下部には稜調整の痕が残る。339は最初に剥離された石刃で頭部調整・打面調整がみられる。石刃剥離に先立つ稜調整はみられない。340~342は折損品である。342の右側面には石刃剥離途中段階での稜調整、裏面の石核調整がみられる。343は背面に平行する稜の残る幅広の剥片である。332・342のような石刃核の裏面を取り込むウートラパッセの石刃剥離の結果、石刃核高が低くなり、剥離されたと考えられる。

#### 石刃核(図IV-236-344~図IV-240-356、図版161~164)

15点(11個体とI層出土2個体を加えた13個体)を図示している。344~347は背稜から左右側面に石核調整を行い、横断面が鋭角の扇形となる母型を製作後、石刃剥離が行われている。下縁からの調整がみられるが、打面は上設の単剥離ないし複剥離打面に固定され、頭部調整を行わないで10cm以

下の石刃が剥離されている。348～350・352・356は上設の単剥離打面から頭部調整を伴う石刃剥離が行われた石刃核である。348・349・356は転礫素材、350・352は角礫素材である。348・349の側面には正面からの石核調整が、350の裏面には横方向の石核調整がみられる。356の石刃核高は17cmで大型である。351は転礫素材の両設の石刃核である。打面は上下とも単剥離打面で軽微な頭部調整を伴って石刃が剥離される。353～355は複剥離打面を持ち、頭部調整のある石刃核で354のみ両設打面である。353・354は転礫素材、355は礫形状不明である。354・355は背稜から石核調整が行われている。石刃核高は17cm以上で大型である。

#### 石核 (図Ⅳ-240-357～図Ⅳ-243-365、図版163～166)

17点(8個体とI層出土1個体を加えた9個体)を図示している。357は亜角礫素材で正面中央に大きな剥離痕のあるものである。358・359・361は、裏面では上・左・右の三方向から、正面では主に上から剥離が行われる円盤状の石核である。裏面の左右からの剥離は石核調整、上からの剥離は正面作業面の打面調整と考えられ、正面では縦長の剥片が剥離されている。358は角礫、359は転礫素材、361は礫形状不明である。360は角礫素材で両設打面の石核である。上設打面は単剥離打面、下設打面は打面調整のある複剥離打面である。右側面には裏面からの側面調整がみられる。362は転礫素材で大きな剥離による打面作出後、剥片が剥離されている。363は転礫素材で上面・正面・右側面に三方向からの剥離がみられ、打面転移が行われている。364は左右側面での剥片剥離後、裏面・正面で縦長の剥片が剥離されている。打面は大きな剥離で作出される単剥離打面であるが、左側面縁辺では部分的に打面調整が行われる。365は転礫素材で裏面には横方向の剥離が行われ、上面・正面で交互に剥離が行われている。

#### 斧形石器 (図Ⅳ-244-366、図版167)

1点(I層出土1個体)を図示している。366は安山岩製である。正面左側に原礫面が残り、大型の剥片素材と考えられる。正面・裏面共に平坦剥離で加工され、刃部は長軸方向の剥離によって直線的に整形されている。

#### 台石 (図Ⅳ-244-367、図版167)

1点(1個体)を図示している。367は安山岩製である。正面は平坦で下方向になだらかに傾斜し、裏面は剥落している。

#### 石器ブロック14 (Sb-14) の分布 (図Ⅳ-245、表Ⅳ-5・6)

H66・67、I67区の8×5mの範囲で確認されたが、斜面部である東側に若干分布が広がると思われる。H67区は密度が高く、傾斜方向である東西方向に分布が伸びている。尖頭器3点、搔器1点、削器4点、二次加工ある剥片1点、石刃1点、縦長剥片4点、石刃核3点、石核4点、剥片1,473点の計1,484点、重量8,554.1gの石器類が出土した。石核類が多く、集中域の外縁部に分布する。細石刃は幅広のものが出土している。石材は黒曜石1が最も多く92%を占め、以下黒曜石5(4.7%)、黒曜石4(2.0%)、黒曜石3(1.1%)、黒曜石2(0.1%)、頁岩(0.1%)である。

#### 石器ブロック15 (Sb-15) の分布 (図Ⅳ-245、表Ⅳ-5・6)

I～K67区の11×4mの範囲で確認されたが、斜面部である東側に若干分布が伸びると思われる。I67、K67区の2か所に集中域が認められるが、比較的密度は低い。搔器4点、削器9点、二次加工ある剥片2点、細石刃1点、石刃10点、縦長剥片10点、石刃核1点、剥片231点の計268点、重量2,454.9gの石器類が出土した。搔器・削器が多く、搔器はK67区の集中域の外縁部に、削器は大型の石刃素材で背面を覆う平坦な二次加工によるものがあり、主にK67区に分布する。石材は黒曜石

1が52.2%を占め、以下黒曜石4(28.4%)、黒曜石3(15.7%)、黒曜石2(1.5%)、黒曜石5(1.1%)、頁岩(1.1%)である。

#### 石器ブロック16 (Sb-16) の分布 (図IV-246、表IV-5・6)

H65・66、I65～67、J67区の13×5mの範囲で確認された。高密度のH・I65区とそれ以外の散漫な分布に分けられる。尖頭器16点、両面調整石器3点、ナイフ形石器1点、搔器6点、削器4点、舟底形石器1点(Ⅱ類1点)、細石刃核1点、石刃5点、縦長剥片9点、石刃核5点、石核4点、削片4点(細石刃核削片4点)、剥片654点の計718点、重量13,113.1gの石器類が出土した。石材は黒曜石1が50.8%を占め、以下黒曜石4(21.4%)、黒曜石5(20.9%)、黒曜石3(5.2%)、黒曜石2(0.7%)、頁岩(0.4%)、安山岩(0.3%)、めのう(0.1%)である。尖頭器は厚手で幅広のものが多く、I66区周辺に分布する。細石刃・細石刃核削片・細石刃核の細石刃関連資料はH65区にまとまって分布する。石核類は単剥離打面と幅広の作業面を持つものと調整打面と幅の狭い作業面を持つものがあり、それらは分布を異にし、それぞれH・I65区とI・J67区に分布する。

#### 石器ブロック17 (Sb-17) の分布 (図IV-247～254、表IV-5・6)

H63～65、I62～66、J60～66、K60～66、L60～65区の28×17mの範囲で確認された。A区の中で最大のブロックである。尖頭器27点、両面調整石器9点、彫器6点、搔器10点、削器23点、錐形石器2点、舟底形石器22点(Ⅱ類22点)、二次加工ある剥片13点、細石刃24点、細石刃核27点、石刃162点、縦長剥片124点、石刃核4点、石核17点、削片79点(細石刃核削片77点、尖頭器削片2点)、剥片8,394点、台石2点、原石8点の計8,953点、重量138,954.1gの石器類が出土した。石材は黒曜石1が65.9%を占め、以下黒曜石4(19.8%)、黒曜石5(8.6%)、黒曜石3(4.9%)、黒曜石2(0.5%)、頁岩(0.07%)、安山岩(0.06%)、めのう(0.03%)、珪岩(0.01%)である。彫器・舟底形石器は黒曜石4が多く、細石刃・細石刃核削片・細石刃核の細石刃関連資料は黒曜石1・5が多い。細石刃関連資料はH64・65、I64・65、J63・64、K62・63区に分布するが、細石刃と細石刃核削片は分布がほぼ重複し、細石刃核はやや北側(I64・65区)にずれ、それらには細石刃核未製品が多い。舟底形石器も細石刃関連資料と分布が重複し、小型の舟底形石器であるⅠ類も同様でこれらを積極的に分離することは不可能である。尖頭器はJ62区周辺とK63・64区周辺の2か所にまとまり、前者には剥片素材の15cm以下の尖頭器が、後者には石核素材の20cm以上の大型尖頭器が含まれる。有舌尖頭器は両者のはずれであるK62区から出土している。彫器は細石刃関連資料の東側から出土し、その他のツールは全体的に分布している。石核類は全体的に分布するが、I63・64区周辺のものとは平坦打面と幅広の作業面を持つものが多く、K61・63区には複剥離打面の石刃核が分布する。以上の石器分布から本ブロックは細石刃核関連資料と舟底形石器が分布するI64、J63・64区周辺、剥片素材の尖頭器が分布するJ62区周辺、大型の尖頭器が分布するK63区周辺の3か所に分けられる。

#### 石器ブロック18 (Sb-18) の分布 (図IV-255、表IV-5～8)

H60～63、I60～62、J60・61区の17×8mの範囲で確認された。低密度の小規模な集中域がみられる。彫器1点、削器3点、舟底形石器1点(Ⅱ類1点)、石刃2点、縦長剥片2点、石核2点、削片1点(細石刃核削片1点)、剥片322点の計334点、重量6,999.0gの石器類が出土した。石材は黒曜石4(47.6%)と黒曜石1(43.7%)で90%を占め、以下黒曜石5(7.2%)、黒曜石3(0.6%)、黒曜石2(0.3%)、めのう(0.3%)、泥岩(0.3%)である。剥片以外の石器は散漫に分布している。

#### 石器ブロック19 (Sb-19) の分布 (図IV-256、表IV-7・8)

L60～65、M60～65区の23×6mの範囲で確認された。尖頭器21点、両面調整石器1点、搔器3点、削器6点、錐形石器3点、舟底形石器5点(Ⅱ類5点)、二次加工ある剥片1点、石刃9点、縦長剥

片16点、石核5点、削片3点（細石刃核削片2点、尖頭器削片1点）、剥片1,840点の計1,913点、重量18,646.5gの石器類が出土した。石材は黒曜石1が71.5%を占め、以下黒曜石5（21.2%）、黒曜石3（4.6%）、黒曜石4（2.4%）、頁岩（0.1%）、安山岩（0.1%）、黒曜石2（0.05%）、めのう（0.05%）、碧玉（0.05%）である。20cmを越える大型の尖頭器片が多く、L61・62区にまとまっている。

#### 石器ブロック14～19（Sb-14～19）の接合状況（図IV-257）

全体的には接合分布は各ブロック内での小集中域を単位としてまとまるが、ブロックや地区をまたがる接合資料もある。

#### 母岩別資料163・接合資料1194（図IV-258、図版169-1）

母岩別資料は接合1194の他、接合1195・51087、剥片26点で構成され、総点数100点、総重量844.4gである。

**素材** 54点（39個体）が接合し、重量は648.7g、大きさは24×13×5cmである。平滑な原礫面と潰れた角を持つ亜角礫素材で粗加工された両面調整体で搬入されている。

**剥離工程** 段階1～5は遺跡内での初期段階である。段階2では突出した稜部を除去するように加工が行われ、段階4・5では原礫面が残る先端部を薄く尖らせるように加工されている。段階6の尖頭器30が折損した後、段階7～12の再加工が行われる。段階7・12・13は折れ面周辺の尖頭部作出のための剥離で、段階8・9は縁辺全体の剥離である。段階8以降の加工によって断面が凸レンズ状になり、遺跡から搬出されている。

**分布** Sb-17・19のK62～64、L61～64区に斜面方向に伸びるが、比較的まとまった分布を示している。

#### 母岩別資料144・接合資料1154（図IV-259～262、図版168）

母岩別資料は接合1154の他、接合1155～1163・51077・51079、剥片79点で構成され、総点数288点、総重量3,743.7gである。

**素材** 167点（105個体）が接合し、重量は3,365.1g、大きさは25×23×12cmである。爪状痕のある比較的扁平な転礫素材で原石で搬入されている。

**剥離工程** 裏面右下からの剥離の後、正面左側面からAが剥離された際にB～EとF・Gの2つに分割される。B～Eの個体ではB～Dが正・裏面で交互に剥離される。F・Gの個体では分割面を打面としてFが剥離される。個体A～Fはそれぞれ尖頭器に加工されている。

個体A～C・E～Gは最初、縁辺部の調整を伴わない縁辺から5～10mmを加撃する粗い加工が行われた後、縁辺部の調整を伴う打面の小さい剥片が剥離される加工が行われ、断面が凸レンズ状の尖頭器が製作されている。個体Dは粗い加工の段階で遺棄されている。個体A～C・E～Gから製作された尖頭器は断面凸レンズ状の端正な形態で搬出されたと考えられる。

**分布** Sb-17・18のH60・61、I61～63、J60～62・64区にまとまって出土し、個体毎に分布の違いはみられない。

#### 接合資料2640（図IV-263、図版169-2）

**素材** 5点（3個体）が接合し、重量は30.0g、大きさは13×3×1.2cmである。原石形状は不明であるが石刃素材である。

**剥離工程** 母型作成：石刃の先端側を細石刃核基部に、打面側を細石刃剥離作業面に設定し、背面周縁と腹面下縁部・基部周辺に加工を施している。上面の加工のみ急角度で断面はV字状である。

削片剥離：一次削片は欠落している。先行の削片剥離後、甲板面を右側面から加工し、削片剥離打

面周辺には左側面に甲板面から加工を行った後、168が剥離される。168は末端部がヒンジであり、剥離後甲板面に段差が残る。その段差を除去するように右側面から加工が行われ、再度甲板面から左側面に加工を施した後に161が剥離されている。

**細石刃剥離：**細石刃核114の細石刃剥離作業面は甲板面上の打点のある長軸方向の剥離に切られているが、細石刃剥離作業面を観察するとその打点位置は削片161の腹面の位置に推定され、削片161を剥離した面が細石刃剥離打面になっていたと考えられる。細石刃剥離は削片161の打点位置から細石刃核作業面の位置まで長さにして7 cm 分行われている。この間、打面再生は行われず、細石刃剥離終了後、甲板面に長軸方向の剥離がなされている。細石刃が剥離された甲板面の面積を70×12mm、細石刃の平均的な幅を5 mm、厚さを1.5mm とすると220本程度の細石刃が剥離された計算になる。

**分布** Sb - 17の I64区に全て分布している。

**接合資料2642** (図IV - 263、図版169 - 3)

**素材** 4点 (3 個体) が接合し、重量は15.3g、大きさは8 × 3 × 0.9cm である。原石形状は不明であるが、石刃素材である。

**剥離工程** 母型作成：石刃の打面側を細石刃核基部に、先端側を細石刃剥離作業面に設定し、背面の基部周辺には鋭角の、下縁部には細かい加工を、腹面の下縁部・基部周辺には平坦な加工を施している。

**削片剥離：**一次削片は欠落している。先行の削片剥離後、部分的に甲板面を右側面から加工し、214が剥離される。214はほぼ他端まで達している。その後、甲板面の中央部まで達しない削片が2本剥離された後、それらの稜付近を右側面から加工して183が剥離されている。183は下縁に抜け、細石刃核の甲板面の側面形は弧状になっている。183の打面部には細石刃状の剥離痕が残るが、連続して剥離されたものではない。

**細石刃剥離：**183が剥離された後、細石刃が剥離されるが、甲板面の再生は行われず、細石刃核106が遺棄される。細石刃剥離作業面に残る最終剥離面はヒンジになっている。細石刃剥離は削片183の打点位置から細石刃核作業面の位置まで長さにして2.8cm 分行われている。細石刃が剥離された甲板面の面積を28 × 7 mm、細石刃の平均的な幅を5 mm、厚さを1.5mm とすると50本程度の細石刃が剥離された計算になる。

**分布** Sb - 17の I64、J63・64区に分布している。

**接合資料2644** (図IV - 263、図版169 - 4)

**素材** 2点 (2 個体) が接合し、重量は10.2g、大きさは6 × 2.2 × 0.9cm である。原石形状は不明、背面と腹面の剥離方向が反対の石刃ないし縦長剥片素材と考えられる。

**剥離工程** 母型作成：素材の先端側を細石刃核基部に、打面側を細石刃剥離作業面に設定し、背面はほぼ全周縁に、腹面は下縁部に加工を施している。

**削片剥離：**218の上面はほとんどが右側面からの加工であるが、端部に長軸方向の剥離が残っている。このことは本削片が一次削片ではなく先行する削片剥離の後、甲板面全体をほぼ右側面からの剥離によって一新する加工が行われていたことを示している。その後、218が剥離される。細石刃核105の左側面には細石刃剥離作業面付近に削片剥離段階で行われたと考えられる上面からの剥離痕がある。最終削片である218はウートラパッセで下縁部に抜け、甲板面の側面形は「へ」の字状になる。

**細石刃剥離：**218の打面部が欠損しているため、細石刃剥離がどの程度行われたか不明であるが、打面再生は行われずに細石刃が連続的に剥離されている。

**分布** Sb - 17の I64、J62区に分布している。

**接合資料2748** (図IV-264、図版169-5)

**素材** 2点(2個体)が接合し、重量は17.9g、大きさは7.4×2×0.8cmである。平滑面のある角礫から剥離された縦長剥片を素材としている。素材の打面は単剥離打面で頭部調整が認められる。

**剥離工程** 母型作成：石刃の打面側を細石刃核基部に、先端側を細石刃剥離作業面に設定し、背面の上縁には急角度の、下縁部には細かい加工を、腹面の下縁の一部には平坦な加工を施している。

削片剥離：一次削片は欠落している。先行の削片剥離後、甲板面のヒンジによる段差を右側面から除去し、IV-579-47が剥離される。IV-579-47は下縁に抜け、細石刃核の甲板面の側面形は「へ」の字状になっている。

細石刃剥離：IV-579-47の打面部が欠損しているため、細石刃剥離がどの程度行われたか不明であるが、打面再生は行われずに細石刃が連続的に剥離されている。細石刃核作業面はヒンジになり、遺棄される。

**分布** Sb-17のJ63区に分布している。

**接合資料2639** (図IV-264、図版170-1)

**素材** 5点(3個体)が接合し、重量は857.7g、大きさは8.4×2.8×1.1cmである。原石形状は不明、両面とも加工が多く、素材形状は不明であるが剥片ないし石刃素材と考えられる。

**剥離工程** 母型作成：左側面は、上縁は比較的大きい剥離で、下縁は小さい剥離で加工され、右側面は下縁・基部に加工が施される。

削片剥離：一次削片は欠落している。先行の削片剥離後、その末端部を左右から、右側面を部分的に加工した後、229が剥離される。229の打面には細石刃状の剥離痕があるが、連続的に剥離されたものではない。その後、229の剥離によってできた甲板面末端部の段差を除去する加工、甲板面に削片打面周辺、右側面から加工が行われた後に189が剥離される。189は中間部までしか到達せず、その末端部を右側面から加工し、また、左側面の削片打面近くを加工した後、162が剥離される。162の打面付近にも細石刃状の剥離痕があるが、連続的なものではない。

細石刃剥離：162の剥離面を打面として細石刃が剥離されるが、甲板面の再生は行われず、細石刃核111が遺棄される。細石刃核には削片162剥離後、下縁から剥離された加工痕があり、細石刃剥離直前ないし途中で細石刃核の調整が行われたと考えられる。細石刃剥離は削片162の打点位置から細石刃核作業面の位置まで長さにして4.3cm分行われている。細石刃が剥離された甲板面の面積を43×12mm、細石刃の平均的な幅を5mm、厚さを1.5mmとすると140本程度の細石刃が剥離された計算になる。

**分布** 全てSb-17のI64区に分布している。

**母岩別資料157・接合資料1186** (図IV-264、図版170-2)

母岩別資料は接合1186のみである。

**素材** 6点(5個体)が接合し、重量は28.6g、大きさは9.4×3.6×1.2cmである。平滑面を持つ角礫から剥離された剥片ないし縦長剥片素材である。

**剥離工程** 母型作成：素材の打面側を細石刃剥離作業面に、先端側を細石刃核基部に設定し、背面のみ全周縁加工を施している。削片160の打面部に残る剥離から削片打面周辺は背面側の急角度の剥離で調整されている。

削片剥離：一次削片は欠落しているが、先行の削片剥離後、甲板面の削片打面周辺、末端部付近を加工し、160が剥離される。160は他の削片と比べ打面厚が9mmと厚く、縁辺に平行ではなく斜めに剥離されている。その後、削片打面部を大きく再加工し、2cm程度短くなっている。次に154が

剥離され、2本削片が剥離された後、156が剥離される。その後、削片剥離面末端部の段差を右側面から除去した後、左側面に斜めに傾く削片が剥離され、さらに215が剥離されている。その後、甲板面の長軸方向に剥離が行われるが、打面から5mmでステップ剥離になり、細石刃が剥離されずに遺棄されている。

**分布** 全てSb-17のI64区に分布する。

**接合資料2645** (図IV-265、図版170-3)

**素材** 5点(3個体)が接合し、重量は28.9g、大きさは11×2.8×1.2cmである。原石形状は不明、石刃素材である。

**剥離工程** 母型作成：素材の背面・腹面とも縁辺部に細かい剥離で母型が作成されている。

削片剥離：一次削片は欠落している。接合資料の上面と削片192・166の切り合いから判断すると先行の削片剥離が正面・裏面から行われた後、裏面から192が剥離され、最後に正面から166が剥離されている。192の剥離に先だって右側面から甲板面に、甲板面から左側面に加工が行われ、166の剥離に先だって左側面に加工が行われている。両端共に細石刃状の剥離痕があるが、連続的なものではない。

**分布** Sb-17のJ63・64、K63区に分布する。

**接合資料2637** (図IV-265、図版170-4)

**素材** 6点(4個体)が接合し、重量は74.7g、大きさは10.8×4×2cmである。亜角礫から剥離された削片ないし縦長削片を素材としている。

**剥離工程** 母型作成：素材の打面側を細石刃核基部に、先端側を細石刃剥離作業面に設定し、背面の上縁には急角度の、下縁部の細石刃剥離作業面側には平坦な加工を、腹面の下縁の細石刃剥離作業面には平坦な、基部側には細かい加工を施している。削片剥離打面(細石刃剥離作業面)は左右両側面から稜状に形成される。

削片剥離：一次削片は欠落している。先行の削片剥離後、甲板面のヒンジによる末端部の段差を右側面から除去し、170が剥離される。甲板面の削片打面付近にできた段差を除去する左側面からの調整の後、172が剥離される。さらに、左側面の打面部付近・先行削片末端部付近、右側面から甲板面末端部の加工の後、173が剥離される。その後、甲板面から左側面に加工を行い、細石刃剥離作業面で細石刃状の剥離が行われるが、連続せずに細石刃核125は遺棄される。

**分布** Sb-17のI64区に分布する。

**接合資料2638** (図IV-266、図版170-5)

**素材** 4点(4個体)が接合し、重量は65.7g、大きさは10×5.2×1.2cmである。原石形状は不明、縦長削片素材である。

**剥離工程** 母型作成：素材の打面側を細石刃剥離作業面に、先端側を細石刃核基部に設定し、背面の上縁には急角度の、下縁には平坦な加工を、腹面の下縁には細かい加工を施している。裏面の折れ面を切る加工が両側面にみられ、折損後、左側面には折れ面から、右側面には下縁から加工が行われている。

削片剥離：素材背面側のみ加工のある断面三角形の一次削片146の剥離後、甲板面から左側面、甲板面の削片打面周辺に加工を行い、190が剥離される。190は左側面に傾く剥離で甲板面長軸に稜が残る。削片打面周辺の甲板面縁辺部を細かく加工した後、191が剥離されている。191は他端に達している。その後、細石刃核127は、細石刃が全く剥離されずに遺棄される。

**分布** Sb-17のH64、I64区に分布する。

**接合資料2643** (図IV-266、図版170-6)

**素材** 6点(4個体)が接合し、重量は125.7g、大きさは12×5.8×2.2cmである。原石形状は不明、剥片素材である。

**剥離工程** 母型作成：素材の打面側を細石刃剥離作業面に、先端側を細石刃核基部に設定し、背面の下縁には散漫に平坦な加工を、腹面の基部には連続的な加工を施している。

削片剥離：一次削片は欠落しているが、先行の削片剥離後、甲板面末端部に右側面から調整を行い、221が剥離される。次に、削片打面付近で甲板面から調整を行った後、204が剥離される。さらに、甲板面から右側面に加工が行われ、178が剥離されている。その後、甲板面から右側面に加工が行われるが、下縁まで達し、細石刃核128は遺棄される。

**分布** Sb-17のJ63~65区に分布している。

**接合資料2641** (図IV-267、図版170-7)

**素材** 3点(2個体)が接合し、重量は20.1g、大きさは7.8×2.2×1.2cmである。原石形状は不明、剥片ないし縦長剥片素材である。

**剥離工程** 母型作成：素材の打面側を細石刃剥離作業面に、先端側を細石刃核基部に設定し、背面の下縁全体に加工を施している。腹面には細石刃作業面から加工が施されているが、基部側の加工は全て甲板面を切るもので、母型作成段階でどのような加工が施されたかは不明である。

削片剥離：一次削片は欠落している。細石刃剥離作業面側から末端部が波打つ削片剥離後、細石刃核基部側から削片剥離が行われ、腹面には細石刃核基部側の二分の一以上の範囲で甲板面・下縁から加工が行われる。その後、163が剥離され、そのまま細石刃核136は遺棄されている。

**分布** Sb-17のI64区に分布する。

**接合資料2654** (図IV-267、図版171-1)

**素材** 2点(2個体)が接合し、重量は4.1g、大きさは5.7×0.8×1.2cmである。原石形状は不明、剥片ないし縦長剥片・石刃素材である。

**剥離工程** 母型作成：素材の打面側を細石刃核基部に、先端側を細石刃剥離作業面に設定し、背面の上縁に連続した加工を施している。その他の加工は不明である。

削片剥離：削片打面部には端部から長軸方向の剥離、上縁からの剥離による調整が行われ、一次削片138が剥離される。その後、無調整で164が剥離される。

**分布** Sb-17のI64区に分布する。

**接合資料2656** (図IV-267、図版171-2)

**素材** 4点(3個体)が接合し、重量は5.6g、大きさは5.6×1.1×1cmである。原石形状は不明、剥片ないし縦長剥片素材である。

**剥離工程** 母型作成：素材の打面側を細石刃剥離作業面に、先端側を細石刃核基部に設定する。どのような加工がなされたかは不明である。

削片剥離：一次削片は欠落している。削片打面部が左右両面から稜状に調整された後、157が剥離される。その後、削片打面部から右側面にかけて細かい加工が行われ、155が剥離される。薄い削片剥離後、右側面から甲板面に細かい調整が行われ、158が剥離される。

**分布** Sb-17のI64、J63区に分布する。

**接合資料2655** (図IV-267、図版171-3)

**素材** 2点(2個体)が接合し、重量は11.7g、大きさは7.4×2.6×1.3cmである。原石形状は不明、剥片ないし縦長剥片素材である。

**剥離工程** 母型作成：素材の打面側を細石刃剥離作業面に、先端側を細石刃核基部に設定する。細石

刃核作業面から腹面に平坦な加工が行われている。その他の加工は不明である。

**削片剥離：**一次削片は欠落している。先行の削片剥離後、甲板面には削片末端部の段差を除去する加工が右側面から、削片打面周辺には正面から加工が行われ、左側面には甲板面から加工が行われる。その後、194が剥離され、再度甲板面から左側面に加工が行われ、169が剥離されている。194・169共に他端まで達していたと考えられる。

**分布** Sb-17のI64、J64区に分布する。

**接合資料2652** (図IV-268、図版171-4)

**素材** 5点(4個体)が接合し、重量は36.1g、大きさは9.3×3.0×2.0cmである。原石形状は不明、剥片素材と考えられる。

**剥離工程** 母型作成：素材の打面側を細石刃剥離作業面に、先端側を細石刃核基部に設定する。背面は上縁に連続的な剥離を行い、腹面の削片打面周辺には細石刃核作業面から平坦な加工が、上縁には細石刃核基部側・削片打面付近に加工が行われているが、その他の加工は不明である。

**削片剥離：**一次削片143の剥離後、甲板面から左側面に加工が行われ、201が剥離される。右側面のみを取り込む断面三角形の削片剥離後、甲板面から左側面に加工を行い、また、削片打面を稜状に作り直して177が剥離される。次に細石刃核作業面から左側面にかけて細かい調整がなされ、右側面中央に甲板面からの加工がなされた後、176が剥離される。

**分布** Sb-17のI64区に分布する。

**接合資料2651** (図IV-268、図版171-5)

**素材** 11点(6個体)が接合し、重量は42.7g、大きさは11.6×3.6×1.6cmである。転礫から剥離された剥片ないし縦長剥片を素材としている。

**剥離工程** 母型作成：素材の打面側を細石刃剥離作業面に、先端側を細石刃核基部に設定し、上縁の背面側に急角度の部分的な剥離を行っているが、その他の加工は不明である。

**削片剥離：**一次削片139の剥離後、210・212が連続して剥離されるが、端部が欠損しているため削片剥離に伴う調整の有無は不明である。次に左側面の甲板面末端部周辺に甲板面から加工が、甲板面の削片打面付近には左側面から加工が行われ、174が剥離される。その後、甲板面末端部には左右両面から稜状に加工が施され、左側面全体には甲板面から、甲板面には右側面から加工が行われ、幅が2mm程度細くなっている。その後、171が剥離され、再び甲板面末端部に両側面から稜状に加工が行われ、228が剥離される。

**分布** 全てSb-17のI64区に分布している。

**接合資料2658** (図IV-269、図版171-6)

**素材** 3点(2個体)が接合し、重量は11.2g、大きさは12.1×1.4×1.0cmである。原石形状は不明、石刃素材である。

**剥離工程** 母型作成：素材の打面側を細石刃剥離作業面に、先端側を細石刃核基部に設定し、上縁の背面・腹面両面に鋭角の剥離を行っているが、その他の加工は不明である。素材の形状をほとんど変えずに上縁は直線的である。

**削片剥離：**一次削片148の剥離後、195が剥離されるが、148剥離後も母型同様の直線的な素材縁辺形状が維持されている。

**分布** Sb-17のJ63・64、K63区に分布している。

**接合資料2659** (図IV-269、図版171-8)

**素材** 5点(3個体)が接合し、重量は18.3g、大きさは14.9×1.8×1.2cmである。原石形状は不明、

単剥離打面から剥離された15cm以上の比較的長い石刃を素材としている。

**剥離工程** 母型作成：素材の打面側を細石刃剥離作業面に、先端側を細石刃核基部に設定し、上縁の背面には削片打面周辺部と細石刃核基部側に、腹面には細石刃核基部側に加工が行われる。削片の打面部は端部から背面にノッチ状の加工がなされている。その他の部位の加工は不明である。素材の形状をほとんど変えずに上縁は直線的である。

削片剥離：他端に及ぶ長い一次削片147の剥離後、甲板面のねじれた左側面に加工が行われ、196が剥離される。その後、217が剥離されるが、細石刃核の中央付近でヒンジになり、剥離が止まっている。

**分布** Sb-17のJ63、K62区に分布する。

**接合資料2660** (図IV-269、図版171-7)

**素材** 5点(4個体)が接合し、重量は10.3g、大きさは6.6×1.7×1.7cmである。原石形状・素材は不明である。

**剥離工程** 母型作成：接合資料の両側面ともネガ面で覆われている。左側面は長軸両方向・上から剥離され、右側面は上縁部から加工された面と考えられる。

削片剥離：先行の削片剥離後、右側面削片打面付近に調整を加え、稜状に調整された削片打面から200が剥離される。右側面全体を甲板面から加工し、改めて削片打面を稜状に調整し直し、199が剥離される。その後、左側面を調整し、断面三角形の224が剥離され、数本の削片剥離後、右側面に甲板面からの調整を伴う211が剥離されている。

**分布** Sb-17のJ63・64区に分布する。

**接合資料2657** (図IV-270、図版177-2)

**素材** 12点(7個体)が接合し、重量は225.9g、大きさは23.6×6.0×2.5cmである。原石形状・素材は不明である。

**剥離工程** 母型作成：主に上下からの剥離によって長さ約24cmの上縁が直線的で下縁が弧状の両面調整体が製作される。

削片剥離：まず断面三角形の一次削片149が剥離されるが、長軸方向の三分の一程しか達していない。その後、他端にほぼ達する230が剥離された後、反対側から193が剥離される。次に、231が剥離されるが、下縁に抜けて、大きく器体の長さを減少させている。231の剥離によって細石刃核基部の形状が大きく変化したため下縁からの剥離で円く加工されている。甲板面から左側面への加工後、203が剥離され、さらに、甲板面から両側面への加工の後、202が剥離される。次にIV-579-48が剥離されるが、231同様下縁に抜けて大きく器体の長さを減少させている。最終形態は8×2×2cmの両面調整のある未製品であったと想定される。

**分布** Sb-17・斜面部のJ63・64、K61・62・65・73、L74、O75区に散漫に分布する。剥離の順番による分布の違いはなく、高位部と斜面部で折れ面接合している。

**接合資料2653** (図IV-271、図版170-9)

**素材** 2点(2個体)が接合し、重量は23.2g、大きさは6.3×3.0×1.4cmである。原石形状は不明、左側面・背面・腹面の三面で構成される断面三角形の削片素材である。

**剥離工程** 母型作成：素材の打面側を細石刃核基部、先端側を細石刃剥離作業面、背面を右側面、腹面を左側面に設定する。腹面である左側面には下縁から加工が行われ、背面である右側面には上下から加工が行われる。甲板面である上面は素材の平坦面が利用され、加工は行われず、素材の形態が利用されている。

削片剥離：一次削片は欠落している。先行の削片剥離後、233が剥離され、さらに232が剥離される。

233は他端に達していないが、232は下縁に抜けている。

**分布** Sb-17のI64区に分布する。

**母岩別資料101・接合資料1001** (図IV-272・273、図版172)

母岩別資料は接合1001の他、接合1002～1005・51001、剥片60点で構成され、総点数113点、総重量1,960.8gである。

**素材** 32点(17個体)が接合し、重量は977.5g、大きさは27×16×7 cmである。平滑な原礫面を持つ角礫を素材としておそらく原石で搬入されている。

**剥離工程** 比較的大型の剥片剥離により作出された下設単剥離打面から石刃が剥離された後、頭部調整・打面調整を伴う石刃339が剥離される(1)。339の末端部がヒンジになり、その段差を除去するように下設打面から頭部調整を伴う剥離が行われる(2)。再び上設打面から下端部に達する石刃が剥離される(3)が、再度末端部がヒンジになり、下設打面から剥離が行われる(4)。以後、同様に上設打面からの石刃剥離(5・7)、下設打面からの剥離(6・8)が交互に行われる。石刃剥離に伴う稜形成は行われぬ。このうち、段階6で剥離された石刃(個体A)を素材として細石刃核が製作されている。個体Aに関して以下に説明を行う。

個体A母型作成：石刃の打面側を細石刃核基部、先端側を細石刃剥離作業面、背面を左側面、腹面を右側面に設定する。一次削片が欠落するが、削片剥離面に切られる古い加工がみられないことから素材の内部に及ばない縁辺部の加工によって母型が作成されたと考えられる。

削片剥離：先行の削片剥離後、削片末端部を両側面から稜状に、左側面削片打面周辺を細かい剥離で加工した後、159が剥離され、さらに、左側面削片打面周辺、削片末端部段差を左側面から加工した後、198が剥離されている。右側面に偏る断面三角形の削片剥離後、左側面打面周辺、右側面打面周辺・削片末端部周辺を加工した後、197が剥離される。石刃という素材形態を反映して甲板面は直線的である。

**分布** Sb-17のI64・65、J62～64区に分布する。個体A以外はほとんどがI64区に分布し、個体AはJ62・63区に分布している。

**母岩別資料155・接合資料1183** (図IV-274～276、図版173・174)

母岩別資料は接合1183の他、接合1184、剥片1点で構成され、総点数47点、総重量1,130.4gである。

**素材** 44点(27個体)が接合し、重量は1,066.4g、大きさは20×11×10cmである。平滑な原礫面を持つ角礫を素材として一枚の大型の剥離面のある状態で搬入されている。

**剥離工程** 大型剥離面と原礫面の稜を利用して石刃作業面に設定し、左側面は下面から石核調整(段階1)を、右側面は稜調整(段階2)を行い、頭部調整を伴う石刃338が剥離される。以後、連続的に石刃が剥離される(段階3)が、ヒンジの石刃剥離によって作業面形状が悪化した際には作業面下部に左側面から調整(段階4)が行われる。338・341・340・336・335・334は段階3で剥離された石刃である。剥離された石刃のうち、個体A・Bは細石刃核の素材となり、320は部分的な加工が行われている。320は両側縁にノッチ状の加工がみられ、それらの剥離によって中央で折損している。ノッチの施される部位は石刃先端部の湾曲の始まる部分であるため、この湾曲を折り取る目的でなされたと考えられる。折損後は素材打面側の破片を折れ面部周辺を両面加工することでU字状に整形している。端部がU字状に加工され、且つその中央部に折れ面を持つ細石刃核・細石刃関連接合資料が存在することからノッチ状の剥離によって端部を折り取る技術が峠下型細石刃核母型作成工程で行われたと考えられる。個体A・Bに関して以下に説明を行う。

個体A母型作成：石刃の打面側を細石刃剥離作業面、先端側を細石刃核基部、背面を左側面、腹

面を右側面に設定する。先端部の折損後、左側面は下縁の折れ面付近に、右側面は下縁に連続的な細かい剥離を、上縁に平坦な剥離を行っている。削片打面は両側面から稜状に加工されている。加工は細かく、素材形態を大きく変化させていない。

削片剥離：一次削片は欠落している。先行の削片剥離後、甲板面のヒンジによる段差を右側面から除去し、側面形を直線的にし、188が剥離される。188は他端に達しているが末端部がウートラパッセになっている。甲板面から左側面に加工を行った後、剥離が左側面に偏る断面三角形の209が剥離され、続けてIV-569-13が剥離される。

細石刃剥離：IV-569-13の剥離面を打面として細石刃が剥離されるが、甲板面の再生は行われず、細石刃核110が遺棄される。細石刃核の作業面付近には削片IV-569-13剥離後、甲板面からの加工痕があり、細石刃剥離途中で細石刃核の調整が行われたと考えられる。細石刃剥離は削片IV-569-13の打点位置から細石刃核作業面の位置まで長さにして2.4cm分行われている。細石刃が剥離された甲板面の面積を24×12mm、細石刃の平均的な幅を5mm、厚さを1.5mmとすると80本程度の細石刃が剥離された計算になる。

個体B母型作成：石刃の背面の左側縁を上縁に右側縁を下縁に設定し、上縁に加工を行い、下縁に関してはその後の加工に切られるため不明である。腹面は下縁に細かい加工が行われる。

削片剥離：削片剥離は両端から行われるが裏面からの152・213剥離後、削片剥離末端部段差を腹面からの加工により除去し、175を剥離、正面からの削片剥離後、削片剥離末端部段差を腹面からの加工による除去、及び左側面を甲板面・下縁から、そして、右側面を端部から加工を行った後、最終的に正面からの削片剥離によって細石刃核126は折損している。175の背面には正面からの削片剥離痕があり、175剥離以前に正面から削片が剥離されたことが分かる。細石刃状の剥離痕は細石刃核126の裏面にはなく、正面には剥離痕が残るが、連続的なものではない。

分布 Sb-17・19のI64、M61区に分布し、334を除いて全てI64区から出土している。個体A・Bに分布の違いはみられない。

#### 母岩別資料153・接合資料1180 (図IV-276・277、図版175)

母岩別資料は接合1180の他、接合1181、剥片1点で構成され、総点数32点、総重量1,199.4gである。  
**素材** 27点(18個体)が接合し、重量は1,048.2g、大きさは15×12×13cmである。角礫を素材として原礫面の他に大型の剥離面の残る形態で搬入されている。

**剥離工程** 上設の単剥離打面から頭部調整を伴う石刃剥離(段階1)後、正面から打面再生が行われ(段階2)、さらに上設打面から石刃剥離(段階3)、打面再生(段階4)が繰り返される。最後に下設打面から頭部調整を行いながら石刃が剥離される(段階5)。段階1で剥離された石刃は、背面上縁に急角度の、下縁に細かい剥離の施された細石刃核131に加工され、318は左側縁に鋭角の加工がなされる。また、段階3で剥離された石刃(個体A)は細石刃核に加工されている。331は接合しないが同一母岩と考えられ、大きく欠落した段階1・3の石刃と考えられる。個体Aに関しては以下に説明を行う。

個体A母型作成：石刃の打面側を細石刃核基部、先端側を細石刃剥離作業面、背面を左側面、腹面を右側面に設定する。左側面の上下縁全体に角度のある加工を、右側面の下縁に鋭角の加工を施している。

削片剥離：一次削片141剥離後、甲板面末端部段差を右側面からの加工で除去し、165が剥離される。再度同様の調整後、184が剥離される。甲板面・削片打面部に右側面から加工が行われた後、削片剥離が行われるが、削片打面部で潰れてしまい細石刃剥離は行われずに遺棄される。

**分布** Sb-17のH64・65、I64、J64区に分布し、個体Aとそれ以外の分布差はない。

**母岩別資料158・接合資料1187** (図IV-278・279、図版176・177-1)

母岩別資料は接合1187の他、接合1188、細石刃1点、剥片8点で構成され、総点数106点、総重量1,739.0gである。

**素材** 94点(67個体)が接合し、重量は1,728.2g、大きさは15×15×11cmである。爪状痕のある原礫面を持つ転礫を素材として正面・上面に大きい剥離面のある状態で搬入されている。

**剥離工程** 左側面から裏面下部への剥離(1)後、上設打面から打面調整(3)、下縁からの調整(4)を行いながら正面で石刃剥離が行われる(2)。その後、作業面を裏面に転移し、左側面を打面に設定し、打面調整(6)を行いながら石刃が剥離される(5)。327は段階2、326は段階5で剥離された石刃である。段階2で剥離された石刃(個体A)は細石刃核の素材となっている。個体Aに関しては以下に説明する。

個体A母型作成：石刃の打面側を細石刃核基部、先端側を細石刃剥離作業面、背面を左側面、腹面を右側面に設定する。左側面の細石刃核基部周辺の上下縁全体に角度のある加工を、その他の部分には細かい加工が行われる。細石刃核基部は折損しているが母型作成段階か削片剥離段階かは不明である。

削片剥離：一次削片145剥離後、153が剥離される。欠落している削片剥離後、さらに、続けて206・207・208・223が剥離されるが、途中で右側面から末端部の調整が行われるものの全て他端には達していない。最後に186の剥離が下縁に抜け平坦な甲板面が確保されるが、細石刃核長は3.5cmと非常に小型化している

**分布** Sb-17・30のH63~65、I63~65、J64・66区に分布する。個体AはI64、J64区に分布し分布差は認められない。

**母岩別資料152・接合資料1178** (図IV-280・281、図版178)

母岩別資料は接合1178の他、接合1179で構成され、総点数48点、総重量2,191.5gである。

**素材** 44点(28個体)が接合し、重量は1,554.3g、大きさは18×15×8cmである。爪状痕のある原礫面を持つ転礫を素材として原石の形態で搬入されている。

**剥離工程** 大型削片剥離によって打面を作出し、石核調整は行われずに頭部調整を伴う石刃が剥離される(1)。石刃剥離の途中、正面右下部で稜調整が行われる(2)。段階1で剥離された個体A~Cは細石刃核に加工されている。石刃は石核調整がほとんど行われなため、作業面形状(原石形状)を反映し、比較的幅広である。また、作業面の下端部の調整も行われなため石刃の先端部形態は不安定である。個体Aは大型削片素材で斜めに分割した後、素材背面側が片面加工されている。接合部品が少なく製作された石器は不明であるが、同一母岩で他に2個体細石刃核を製作していることから細石刃核を製作したものと考えられる。個体B・Cに関しては以下に説明する。

個体B母型作成：石刃の打面側を細石刃剥離作業面、先端側を細石刃核基部に設定しているが、削片状の剥離が上下にみられるため作業面は不明である。石刃先端部の折損後、素材の背面左側縁に急角度の加工がなされる。右側縁は削片が剥離されており、不明である。

削片剥離：401の上面には折れ面からの削片状の剥離があり、下面でも削片が剥離されている。下面では一次削片144の剥離後、甲板面から素材背面に加工が行われ、226が剥離される。その後、数本の削片が剥離されるが、細石刃は剥離されずに細石刃核130は遺棄される。

個体C母型作成：石刃の打面側を細石刃核基部、先端側を細石刃剥離作業面、背面を左側面、腹面を右側面に設定する。左側面の上下縁には細かい加工が、下縁細石刃剥離作業面付近には急角度の

加工が施される。折損している先端部（模式図中個体Cの離れた部分）にも両側縁に加工があることから素材の両側縁に加工が行われた後、折損し、折れ面周辺が再加工されたと考えられる。

削片剥離：一次削片は欠落しているが187に残る先行の削片はヒンジになり、大きな段差ができています。その段差を除去する加工は行われずに187が剥離される。187は下縁に抜けて細石刃核119は大きく長さが減少し、細石刃剥離は行われずに遺棄されている。

**分布** Sb-17のI63~65、J64・65区に分布する。個体A・Bは全体の分布同様I64・65区から出土しているが、個体CはJ64・65区から出土し、やや分布がずれる。

**母岩別資料127・接合資料1088・1087**（図IV-281・282、図版178・179）

母岩別資料は接合1088・1087の他、接合1089・1093、細石刃9点、剥片28点で構成され、総点数143点、総重量1,409.4gである。

**素材** 接合1088は74点（44個体）が接合し、重量は1250.0g、大きさは20×18×10cmである。接合1087は23点（14個体）が接合し、重量は108.1g、大きさは8×4×1cmである。平滑な原礫面を持ち角が摩滅した扁平な亜角礫素材で原石ないしそれに近い形状で搬入されている。灰色の特徴的な黒曜石である。

**剥離工程** 接合1088は正面右上で剥離が行われた（1）後、上面から左側面にかけて厚手の剥片が剥離され（2~4）、最後に正面で厚手の剥片が剥離されている（5）。厚手の剥片が剥離されているため石核357は大型の剥離面で構成される。頭部調整・打面調整は行われない。段階4で剥離された剥片である個体A・Bは細石刃核に加工されている。個体Bは横長剥片素材で一枚の調整剥片のみ接合している。同一母岩で他に2点の細石刃核があることから細石刃核母型を作成したものと考えられる。個体Aに関しては以下に説明する。

個体A母型作成：横長剥片の背面右側縁を細石刃剥離作業面、左側縁を細石刃核基部、背面を左側面、腹面を右側面に設定する。加工は左側面に関しては長軸方向の剥離によって厚さを減少させた後、上下縁からの加工によって整形している。上縁は両面加工が施され、縦断面形がほぼ左右対称になるように加工され、下縁部に関しては細石刃核が欠落しているため不明である。石刃素材とは異なり素材形状を反映して上縁部がやや弧状になっている。

削片剥離：一次削片150の剥離後、182・216が剥離される。150・182は他端に達しているが、216は途中で剥離が終了している。この段階で甲板面を右側面から連続的に加工し、甲板面の側面形を直線的に大きく変化させている。その後、他端に達する220が剥離され、甲板面から左側面全体に加工を施した後、181が剥離されている。細石刃核は出土していないが長さ5cm程度の小型品である。

接合1087は接合1088の段階3以前の上面から正面に剥離されたもので、4点の一次剥離剥片の接合資料である。その内、1点は個体Aで、1点は部分的に両面調整された石核であるが、細石刃核の母型の可能性がある。個体Aに関しては以下に説明する。

個体A母型作成：剥片の打面側を細石刃核基部、先端側を細石刃剥離作業面、背面を左側面、腹面を右側面に設定する。加工は左側面に関しては長軸方向の剥離によって厚さを減少させた後、上下縁からの加工によって整形される。右側面に関しては細石刃核の加工が削片剥離の後に行われているため、母型作成段階でどの程度加工が行われたか不明である。

削片剥離：一次削片142の剥離後、無調整で227が剥離される。断面三角形の227の剥離により左側面に傾いた甲板面全体を右側面から加工し、140が剥離される。その後、右側面に下縁部から加工を行い、225が剥離され、左側面削片打面部付近を加工して最終削片167が剥離される。

細石刃剥離：167の剥離面を打面として細石刃が剥離されるが、甲板面の再生は行われず、細石刃

核112が遺棄される。細石刃剥離は削片167の打点位置から細石刃核作業面の位置まで長さにして5.0cm 分行われている。細石刃が剥離された甲板面の面積を50×12mm、細石刃の平均的な幅を5 mm、厚さを1.5mm とすると160本程度の細石刃が剥離された計算になる。

**分布** 接合1088はSb -15・17のH63・64、I62・64・65、J65、K62・67区に散漫に分布し、個体A・Bとそれ以外の分布差はみられない。接合1087はSb -17のH64・65、I64、K62、L63区に分布する。個体Aは接合1088の分布と一致するが、細石刃核母型の可能性ある石核とその調整剥片はK62、L63に分布し、違いがみられる。

**母岩別資料160・接合資料1190** (図IV - 283~285、図版180)

母岩別資料は接合1190のみである。

**素材** 67点(37個体)が接合し、重量は4,668.5g、大きさは26×20×11cmである。平滑な原礫面を持つ扁平な幅広の角礫素材で原石の形状で搬入されている。

**剥離工程** 左側面下部を両面からの剥離で正面観がU字状になるように整形し(1・2)、右側面でも両面で加工が行われ(3・4)、正面上から石刃337が剥離される(5)。337の剥離によって中央に段差ができ、それを除去するように正面左下(6)、裏面下(7)、正面右下(8)、正面左(9)から剥離が行われ、右側面から裏面への剥離(11)・打面調整(12)を挟みながら上設の複剥離打面から頭部調整を伴う石刃剥離が行われる(10)。全体的に石核の正面形がU字形になるように両面で加工が行われ、そのため石核IV - 594 - 123の形状が円盤状になるが、石刃剥離打面は上面に固定され、石刃剥離は正面で行われる。作業面形状が平坦なため石刃は幅広のものが多く。

**分布** Sb -17のI64区周辺、J63・64、K63・64区の2か所に分布が分かれる。段階10の後半の石刃以降の石器はJ63・64、K63・64区から出土し、それ以前の石器はI64区から出土している。P61区から出土しているのは石刃の打面部である。石刃核は斜面部のO70区から出土している。

**母岩別資料154・接合資料1182** (図IV - 285・286、図版181)

母岩別資料は接合1182のみである。

**素材** 16点(8個体)が接合し、重量は635.9g、大きさは17×6×8 cmである。平滑な原礫面を持つ角礫素材で大型の剥離面のある状態で搬入される。

**剥離工程** 右側面に原礫面、左側面・裏面上部に大型の剥離面、右側面から裏面に連続的な石核調整のある母型を製作し、正面の稜を利用して上設の単剥離打面から頭部調整無しで石刃が剥離される(1)。正面稜調整(2)後、頭部調整を伴う石刃剥離が行われる(3)。段階3で剥離された石刃は全てウートラパッセで石刃剥離に伴って石刃核高が徐々に短くなる。石核調整も行われず、作業面形状は長方形で変化しないため石刃は短冊状である。

**分布** Sb -17のH・I64区に分布する。

**母岩別資料156・接合資料1185** (図IV - 286~288、図版182・183)

母岩別資料は接合1185のみである。

**素材** 50点(39個体)が接合し、重量は1,930.9g、大きさは19×11×14cmである。爪状痕のある原礫面を持つ転礫素材で、原石で搬入される。

**剥離工程** 原石の角を右側面から大きく剥離した後、正面からの剥離で打面を作出する(1)。右側面下部を調整した(2)後、上設の単剥離打面から頭部調整を伴う石刃剥離が行われる(3)。正面右側面調整(4)・正面下縁部調整(5)を挟んで石刃剥離が継続される(6)。その後、180度の打面転移が行われ、打面調整・頭部調整を伴う石刃が剥離される(7)。最後に左側面から裏面に打面調整を伴う石刃剥離が行われる(8)。三回の打面転移の結果、石核IV - 594 - 124は扁平な円盤状で

ある。図版183は段階1の剥片を外した写真であるが、段階3で剥離された原礫面を持たない中央部の15cm程度の石刃が欠落しているのが分かる。

**分布** Sb-17~19のI64、J60・64・65、K64、L65区の主にJ64区を中心として分布している。石刃核は斜面部であるM66区から出土している。

**母岩別資料143・接合資料1147** (図IV-288・289、図版184-1)

母岩別資料は接合1147の他、接合1146・1148~1153、石刃1点、剥片27点で構成され、総点数86点、総重量1,146.3gである。

**素材** 14点(11個体)が接合し、重量は315.3g、大きさは15×8×5cmである。平滑な原礫面を持つ角礫素材で稜形成により整形された直方体に近い石刃核母型で搬入されている。

**剥離工程** 稜調整(1・3)を挟みながら打面調整を伴う石刃剥離が行われる(2・4)。作業面は左右側面に及び、ウートラパッセが頻繁に起こり、打面調整も行われるため石刃核高は著しく減少し、同一母岩資料である接合資料1146と合わせると長さ22cmの石刃核が最終的には8cmに変化している。

**分布** Sb-15・17のJ65、K65~67区に分布している。

**母岩別資料141・接合資料1141** (図IV-289、図版184-2)

母岩別資料は接合1141の他、剥片1点で構成され、総点数17点、総重量194.7gである。

**素材** 16点(15個体)が接合し、重量は186.6g、大きさは8×6×7cmである。爪状痕のある原礫面を持つ転礫素材で原石ないし粗割りされた状態で搬入されている。

**剥離工程** 石刃剥離痕のある右側面下部で正面からの剥離(1)の後、上設打面から正面・右側面で剥離が行われる(2)。正面と上面の稜調整(3)の後、上面で頭部調整を伴う石刃剥離が行われる。打面転移が頻繁に行われ、段階2で剥離された石刃322や石刃核348にも多方向の剥離がみられる。

**分布** Sb-16・17のH65、I65、J64区に分布し、主にH65区にまとまっている。

**母岩別資料145・接合資料1164** (図IV-290、図版185-1)

母岩別資料は接合1164の他、接合51080、剥片1点で構成され、総点数12点、総重量297.7gである。

**素材** 9点(9個体)が接合し、重量は288.3g、大きさは7×11×8cmである。爪状痕のある原礫面を持つ転礫素材で原石ないし粗割りされた状態で搬入されている。

**剥離工程** 一回の剥離で作出された上設打面から左側面で剥離が行われた(1)後、上面の剥離を挟んで左右側面で剥離が行われる(2)。最後に上面で剥離が行われる(3)。全体を通して作業面転移が頻繁に行われ、調整は行われない。

**分布** Sb-16・17のH64、I64・65区に分布している。

**母岩別資料140・接合資料1140** (図IV-290、図版185-2)

母岩別資料は接合1140の他、剥片13点で構成され、総点数36点、総重量352.6gである。

**素材** 23点(19個体)が接合し、重量は338.9g、大きさは11×11×7cmである。平滑な原礫面を持つ小型の角礫素材で原石の形状で搬入されている。

**剥離工程** 原石の端部を加撃し、個体A・Bに二分割し、剥片素材の個体Aと石核素材の個体Bで舟底形石器を製作している。個体Aは分割面を甲板面に設定して加工が行われる。途中で折損したものが259であるが、比較的小型に加工されている。折れた片側は出土していない。個体Bは分割面を甲板面に設定して加工が行われるが底面からの加工で254の左側面が大きく内湾し、若干の加工の後に遺棄される。

**分布** Sb-16・17のH64、I63・64、J63区に散漫に分布し、個体A・Bに分布の差はみられない。

### 写真のみ掲載の接合資料

母岩別資料103・接合資料1009（図版186・187）は、扁平な垂角礫素材で原石の形態で搬入される。上面に打面作出後、最初に石核調整を行わずに下縁調整を挟みながら頭部調整を伴う石刃剥離が行われる。最後は裏面調整が施され、石刃核形態は扁平であったと考えられる。正面で最初に剥離された剥片は削器IV-587-97に加工されている。作業面に扁平な原礫面が利用されるため剥離される石刃は幅広である。図版187-416は打面作出剥片を外した写真である。

母岩別資料136・接合資料1133（図版188）は、30cmを越える扁平ではない垂角礫素材で原石の形態で搬入される。大型の剥片剥離によって打面を作出し、最初に石核調整を行わずに頭部調整を伴う石刃剥離が行われる。途中で打面再生・下縁調整が行われる。

母岩別資料102・接合資料1006（図版189・190）は、爪状痕のある原礫面を持つ扁平な転礫素材でほぼ原石の形態で搬入される。原石の端部に一回の剥離で打面を作出し、扁平な正面で頭部調整を伴う石刃剥離が行われる。初期の厚手の剥片を素材に削器が製作されている。図版190-419は打面作出剥片を外した写真であるが、中央の石刃が欠落している。

母岩別資料444・接合資料2005（図版191-1）は、爪状痕のある原礫面を持つ転礫素材でほぼ原石の形態で搬入される。正面にある大きな剥離面から左側面・上面で粗い石核調整が行われ、上面の剥離面を打面として正面で石刃が剥離される。

母岩別資料159・接合資料1189（図版191-2）は、垂角礫素材で石核の形態で搬入されている。上設の単剥離打面から頭部調整を伴う石刃剥離が行われ、右側面に正面からの石核調整がみられる。

母岩別資料135・接合資料1132（図版192・193）は、爪状痕のある原礫面を持つ最大長40cmを越える大型の扁平な転礫素材である。正面右上の突出部を正面から除去する剥離の後、正面で頭部調整を伴う石刃剥離が行われる。しかし、下縁まで石刃が抜けずにさらに打面再生のみ継続される。石核高が37cmから17cmに半分以下に減少しているが、まともな石刃は剥離されない。（鈴木宏行）

## (11) B区・石器ブロック20～29（Sb-20～29）の石器

### 出土石器（表IV-7・8）

尖頭器168点、両面調整石器23点、搔器19点、削器56点、錐形石器2点、舟底形石器47点（Ⅱ類47点）、二次加工ある剥片17点、細石刃3点、細石刃核6点、石刃251点、縦長剥片303点、石刃核6点、石核36点、削片14点（細石刃削片10点、尖頭器削片1点、その他削片3点）、剥片25,639点、石鏃1点、台石6点、敲石2点、礫1点の計26,600点、重量213,398.4gの石器類が出土した。石材は黒曜石1が47.2%で最も多く、黒曜石4（21.8%）、黒曜石5（20.1%）、黒曜石3（10.6%）が続き、以下黒曜石2（0.2%）、安山岩（0.05%）、頁岩（0.04%）、めのう（0.01%）、砂岩（0.004%）である。彫器が含まれないのが特徴である。細石刃核の石材は黒曜石1・5が主体であるSb-14～19とは異なり、頁岩・めのう・黒曜石4・ケシヨマップ産の黒曜石が利用されている。

### 尖頭器（図IV-291-1～図IV-305-44、図版194～203）

135点（42個体とⅠ層出土2個体を加えた44個体）を図示している。素材は、20・21・24・32の小形品に原礫面以外の素材面の残るものがあるが、それ以外は大型品が多く、全て原礫面以外の素材面が無い場合ほとんどは石核素材と考えられる。1～14は完形ないしそれに準じるものである。1～12は平坦剥離による加工が全体を覆い、縁辺部に細かい加工がなされている。平坦剥離面は滑らかな表面を形成し、平面形は左右対称で、断面形も凸レンズ状で対称のものが多く、反りはなく、側縁の側面観は直線的である。

1には器体に2か所の折れ面と下端部に折れ面がある。それぞれ3か所の折れ面には全て長い方の破片に再加工が行われる。2には左側面に折れ面があり、裏面の加工は折れ面に切られ、正面の加工は折れ面を切っている。加工途中で折損し、正面で再加工が行われるが、最後は球顆が原因で折損している。形態が左右非対称であるのはそのためである。3には上端部に加工に切られる折れ面があり、折損後再加工されたと考えられる。右側縁から正面への加工で折損している。右側縁下部の正面には平行剥離に近い剥離が、その打面にあたる裏面には縁辺に角度のある剥離がみられる。4には2か所折れ面があり、下部の折れ面は左側縁から裏面への加工が原因で、上部の折れ面は器体中央から放射状に折れている。5には大きく3か所の折れ面がある。上部の折れ面は左側縁から裏面への加工が、中部の折れ面は下部の折損後、再加工が行われた加工が、下部の折れ面は右側面から正面への加工が原因である。平面形態は半月状であるが、裏面右上の加工の打点位置を復元すると、一段階前は左右対称で左側縁上部を加工することによって半月形になったと考えられる。6には大きく上下2か所の折れ面がある。下部の折れ面は右側縁から正面への剥離に原因のあるもので、その折れ面を切る上部の折れ面は器体中央から放射状に延びている。7には大きく2か所の折れ面があり、上部の折れ面は右側縁から正面への剥離が原因で、下部の折れ面は器体の中央から放射状に延びている。8には大きく2か所の折れ面があり、上部の折れ面は球顆から放射状に延び、下位の折れ面は左側縁から正面への剥離が原因である。9には2か所の折れ面があり、上下とも球顆が原因である。ほぼ器体の中央で折損後、折れ面から裏面に加工が施されるが剥離は正面に抜けている。さらに、その剥片の左側縁に加工が行われている。10には3か所の折れ面があり、上部の折れ面は正面の球顆が原因で、中部の折れ面は上部の折れ面を切り、放射状に延びる。下部の折れ面は下端から裏面への加工が原因である。11には2か所の折れ面があり、上部の折れ面は左側縁から正面への加工が、下部の折れ面は左側縁から正面への加工が原因である。12は長さ36.5cmの大型の尖頭器で、角礫素材である。接合する剥片や同一母岩と考えられる剥片はなく、ほぼこの形状で搬入されたと考えられる。表面に凹凸がなく比較的滑らかで、断面形も正面が凸状ではあるがほぼ断面凸レンズ状で、原礫面が正面上部の一部にしか残存しないことから考えると、素材原石は非常に大きいものであったと想定される。大きく4か所の折れ面があり、上から1・3番目の折れ面は器体中央から放射状に延びるもので、2番目は球顆が、4番目は左側縁下部から裏面への加工が原因である。13は角礫素材、両面とも粗い剥離で加工される。折れ面は被熱によるものと剥離が原因のものがある。14は両面とも粗い剥離がみられ、中央の稜を越える剥離が少なく、断面は菱形になる。側縁の側面観も直線的ではなく、先端部も尖頭状ではない。

15～17は折損後、再加工が行われたものである。15の縁辺部以外は平坦剥離で覆われ、断面形は非対称で、下部の折損後、両側縁下部が再加工されている。16は角礫素材で正面に残る平坦剥離面から、大型の尖頭器の端部が折損した後に、折れ面を中心に裏面に再加工が行われたと想定される。石材は流理構造のある特徴的な黒曜石で、白滝以外の産地の可能性がある。17は粗い剥離で構成されるもので、下端部に折れ面があり、その周辺を中心に再加工がなされている。

18・19は扁平な細長い角礫を素材として加工されたものである。18は15cm程度の原石素材で、加工途中で折損し、再加工が行われるが厚みを取ることができずに遺棄される。19は30cm以上の原石素材で裏面を中心に加工されるが、上部の原礫面を除去できずに、中央で折損している。下部の破片は再加工が行われるが、再度下端部で折損している。全体的な形態は素材である原石形状を反映して細長い。

20～44は折損品である。20・21・24は剥片素材で、20・21は小型の尖頭器である。22・23・27は小型であるがやや厚みのあるものである。26は頁岩製で縁辺には平行剥離がみられ、側縁は交互剥離状

である。基部は円く、側縁は直線的である。24・25・28は薄く、側縁は直線的である。28～39の表面は平坦剥離によって滑らかで整った形態である。29は細長い尖頭器で、折損後、下部破片の左側縁を正面からの急角度の加工で幅を減少させているが、粗い剥離のため側縁がギザギザしている。32は剥片素材で左側縁から正面への剥離で折損している。33は主に正面の加工で尖頭部が作出されている。34は左側縁から正面への加工により中央で折損している。上下端の折れ面は被熱によるものである。35～39は幅広の尖頭器片である。38には放射状の折れ面がみられる。40～43は比較的粗い剥離で加工された尖頭器である。44は角礫素材で本来全長30cmを越える尖頭器の折損品と考えられる。右側縁上部には素材面が残るが、器面は滑らかで正面形・断面形共に整った形態である。

#### 両面調整石器 (図IV-306-45～図IV-308-49、図版203～205)

17点(4個体とI層出土1個体を加えた5個体)を図示している。45・46は転礫、47・48は角礫素材である。45は両面とも平坦剥離で覆われ、整った形態である。46は1cm程度の球顆が含まれる石材で比較的粗い加工が行われ、最終的に球顆が原因で折損している。47は2cm程度の球顆が含まれる30cmを越える角礫素材で粗い加工の段階で表面に段差ができ、折損後に遺棄されている。48は粗い加工で覆われたもので折損品である。49は安山岩製の剥片素材で表面の風化が激しい。加工は両側縁を中心に、特に正面上部に行われる。

#### 細石刃 (図IV-308-50・51、図版205)

2点(II層出土1個体とIII層出土1個体を加えた2個体)を図示している。50・51共に頭部である。50にはねじれがある。

#### 細石刃核 (図IV-308-52～58、図版205)

7点(6個体とI層出土1個体を加えた7個体)を図示している。52・53は頁岩製、55はめのう製、54は流理構造のある灰色の黒曜石で同一接合資料である59にケシヨマップ産の分析結果が得られている。52は石刃素材で左右側面に下縁から加工が行われ、削片剥離後、細石刃剥離が行われる。最後に剥離された細石刃はヒンジになり、遺棄される。53は石刃素材である。彫器から細石刃核に転用されている。石刃の先端部に作出された彫刀面打面から素材左側縁に彫刀面が作出され、背面先端部調整が行われる。その後、素材右側縁に素材基部側から削片剥離を行い、細石刃剥離打面を作出し、細石刃を剥離している。最終的に作業面にヒンジによる段差ができ、遺棄される。54は縦長剥片素材で、左右両面の下縁部に部分的な加工がみられる。55は剥片素材で左側面には上下から、右側面には下縁部に加工が行われる。削片剥離後、細石刃が剥離されるが、ヒンジのため作業面に段差ができ、遺棄される。56は縦長剥片ないし剥片素材で、素材背面のみ周縁部に加工が行われる。右側面は削片剥離後に甲板面から加工されている。細石刃剥離は行われない。素材背面が右側面に、素材腹面が左側面に設定され、通常の峙下型細石刃核の逆である。57は剥片素材で左側面には全面を覆う下縁からの加工が行われ、削片が剥離される。断面三角形の二次削片剥離によって甲板面長軸に稜が残っている。細石刃状の剥離はみられるが、削片に切れ、削片剥離が打面付近で潰れ、遺棄される。58の素材は不明である。左側面は甲板面からの剥離とそれを切る下縁からの剥離で加工され、右側面は甲板面からの剥離で加工されている。甲板面には削片剥離面と考えられる二枚の剥離面が残り、素材形状を大きく変化させている点で美利河型細石刃核に類似する。

#### 細石刃核削片 (図IV-308-59～図IV-309-65、図版206)

9点(7個体)を図示している。59～61は一次削片である。59は左側面には縁辺全体に、右側面には削片打面のみ加工がみられる。前述のとおりケシヨマップ産の結果が得られている。60は通常の峙下型とは素材の利用が逆で右側面に素材背面を設定し、右側面の上下縁辺に加工を施している。端部

に折れ面があり、折損後に母型製作の加工が行われ、60自体は下縁に抜ける剥離になっている。61は上縁両面に細かい加工が施された母型から剥離されている。

62～65は二次削片である。62は頁岩製、先行の削片剥離後、右側面から甲板面への加工・削片打面周辺の加工が行われ、剥離されている。63は先行の削片剥離後、甲板面から右側面に加工を施し、剥離される。64は先行の削片剥離後、左側面の一部に甲板面から加工が行われた後、先行の削片と反対方向で剥離されている。65は先行の削片剥離による末端部段差を右側面から除去し、直線的にした後、剥離される。62～65は他端に達している。

#### 尖頭器削片 (図IV-309-66、図版206)

2点(1個体)を図示している。66は厚さ2cmの尖頭器の縁辺から剥離された削片である。打面は稜状で断面形は台形である。削片剥離に先行する加工は行われない。

#### 舟底形石器 (図IV-309-67～図IV-316-96、図版206～209)

42点(28個体とI層出土2個体を加えた30個体)を図示している。67～88は完形品である。67～69は幅の狭いものである。67・68は甲板面が平坦でリングが密集することから素材は大型の剥片ないし両極剥離のような方法で剥離されたと考えられる。両者共に上下からの加工で整形され、67はより細かい加工がみられる。68の甲板面はネガ面で原石を半分分割した素材と考えられる。69は縦長剥片素材で原礫面を甲板面として腹面のみ加工が行われる。70・71は小型のものである。71は転礫から剥離された剥片素材である。両者とも粗い剥離と縁辺部の細かい剥離によって整形されている。部分的に下縁からの加工もみられる。72～79は表面に凹凸が全くなくザラつきのない原礫面を持つもので、72・76・77は素材打面部である正面に、73・74・78は甲板面に、75・79は左側面に原礫面が残る。図示していないが、77・79は甲板面同士で接合し、また、甲板面に原礫面が残るものもあることから小型の角礫を分割したものや原石を素材としていると考えられる。大きさは78を除いて長さ10cm以下で高さは3～4cmである。加工は全て甲板面からなされ、側面形は三角形のものが多く特徴的である。80～83はザラつきのある平滑な原礫面があるもので、80・83は甲板面がネガ面で石核ないし石刃核素材、81・82は大型の剥片素材である。全て底面に原礫面残り、剥片素材のものは初期の段階で剥離されたものと考えられる。全て甲板面からの粗い加工で整形され、側面形は長方形に近く素材は一定の厚さのある盤状のものと考えられる。84～87は大型のもので上下から比較的細かい加工が行われる。84・87は平滑面と潰れた転礫面を持つ垂角礫から剥離された剥片素材である。88は大型品で部分的な粗い加工の途中で折損し、遺棄されたものである。甲板面にはねじれた素材腹面ではなく、平坦な素材右側面を利用している。

89～96は折損品である。89はザラついた平滑な原礫面を甲板面として上下から細かい剥離で加工される。主に下縁からの加工が切っている。91は比較的幅が狭い。92・96はザラついた平滑面を持つ角礫から剥離された剥片素材で92の側面形は長方形に近い。93の右側面は主に下縁から加工されている。94は角礫から剥離された剥片素材である。急角度の加工がなされずに遺棄される。95は転礫素材で甲板面から粗い加工の段階で折損し、遺棄される。

#### 彫器 (図IV-316-97、図版209)

1点(I層出土1個体)を図示している。97は頁岩製。正面左側縁と右側縁基部、裏面基部に加工が行われ、素材先端部側に左側縁から右肩に彫刀面が作出される。彫刀面傾斜角は鈍角で背面先端部調整がみられる。

#### 搔器 (図IV-316-98～図IV-317-107、図版209・210)

14点(10個体)を図示している。99は頁岩製。98・101は単剥離打面から無調整で剥離された縦長

剥片・剥片素材、99・100・105は頭部調整のある石刃素材、102～104は剥片素材、106は大型の石刃素材である。98～100・105は刃部以外には軽微な加工が行われ、99・100の刃部幅は狭い。101・102は側縁全体に加工が行われ、特に102の右側縁には急角度の加工がみられる。103は背面全体に平坦な加工で覆われ、腹面側基部・刃部にも加工がみられる。104は両側縁・素材打面側に急角度の粗い加工が行われる。その加工状態から舟底形石器の可能性もある。106は素材先端部に軽微な加工で刃部が形成される。107は両端に折れ面があるが、打点側の折れ面に加工がみられる。

#### 錐形石器 (図Ⅳ-317-108～109、図版210)

2点(1個体とⅢ層出土1個体を加えた2個体)を図示している。108はめのう製。108・109共に5cm程度の小型の石刃ないし剥片素材で、108は素材打面側に長軸と同一方向に、109は先端側に長軸とはやや斜めに細長い刃部が作出される。また、108の右側縁の両面には加工がみられる。

#### 削器 (図Ⅳ-317-110～図Ⅳ-319-123、図版210～212)

27点(13個体とⅠ層出土1個体を加えた14個体)を図示している。123は頁岩製。110～120は石刃素材、121・122は剥片素材である。石刃素材のうち115～120は15cmを越える大型の石刃が利用される。110・111は素材背面の縁辺部に平坦な加工が施される。112～118は両面に加工が行われるものである。112は基部の両面とも平坦剥離で尖頭状に整形され、両側縁は急角度の加工によって整形されるが、特に右側縁は内湾するように整形される。明らかに基部とそれ以外で加工技術が異なっている。113～120は部分的な平坦加工がみられる。特に115～120の15cm以上の大型石刃素材のものは素材の背面先端部に加工が施され、腹面縁辺にはその打面となる細かい剥離がみられる。121は背面全周縁、腹面打面部に加工がみられる。両側縁とも弧状の平坦剥離加工部とやや内湾する角度のある加工部に分かれ、それらは左右点対称である。122は背面に角度のある部分的な加工があり、123は縦長剥片素材で両側縁に急角度の加工が施される。

#### 石鏃 (図Ⅳ-319-124、図版212)

1点(1個体)を図示している。212は薄い剥片素材で背面は部分的な細かい平坦な加工が、腹面は基部を中心に加工が行われる。技術形態学的に石鏃に分類したが、本石器が弓矢の先として機能するものかどうかは不明である。また、包含層であるⅡ層から出土しているが、1点のみであり定形的な石器として共伴するかどうか不明である。

#### 石刃 (図Ⅳ-319-125～図Ⅳ-322-134、図版212～214)

27点(10個体)を図示している。125～131・134は完形、ないし、ほぼ完形で、132・133は折損品である。長さは18～25cmと非常に大型で、全て単剥離打面から剥離され、打面縁辺部を直線的にする頭部調整がみられる。下からの剥離痕を持つものがあり、両設の石刃核から剥離されたものと考えられる。133には稜調整が行われている。

#### 石刃核 (図Ⅳ-323-135～図Ⅳ-324-141、図版215～216)

7点(5個体とⅠ層出土2個体を加えた7個体)を図示している。135は原礫面打面、136・138～141は単剥離打面、137は複剥離打面である。135～138は角礫素材、139～141は転礫素材である。136は表裏で石刃が剥離され、正面では上からの、裏面では下からの打撃で剥離される。137は正面・右側面・裏面に石刃剥離痕があり、左側面には下からの剥離痕がある。これら2点以外は全て単設打面であるが、138は接合資料(図Ⅳ-371～373)から両設打面から石刃剥離が行われた残核であることが分かる。頭部調整は、作業面の打面部が打面再生に切られて不明である137を除いて全てに行われるが、140・141は特に顕著で、それ以外は軽微なものである。139～141は大型剥片剥離による打面作出後、打点側から石刃剥離が行われ、一方向に石刃剥離が進行した結果、裏面に原礫面が残る。

**石核** (図Ⅳ-325-142~図Ⅳ-328-153、図版216~219)

18点(10個体とⅠ層出土2個体を加えた12個体)を図示している。142は複剥離打面であるが、右側面では単剥離打面から頭部調整を伴う石刃剥離が行われている。正面・右側面・裏面には上設打面からの剥離面が残り、作業面転移が行われたと考えられる。143は角礫素材で原礫面打面を持つ。144~146は角礫素材で単剥離打面を持つものである。144・146は上面から145は左下から顕著な頭部調整を伴う石刃剥離が行われ、最後にそれぞれ右側面、上面から剥離が行われる。148~150は角の潰れた転礫素材で、148・149は単剥離打面、150は原礫面に近い古い剥離面打面から顕著な頭部調整を伴い石刃が剥離されている。これらの剥離は一方向に進行し、裏面に原礫面が残る。151~153は盤状の角礫素材で、151・152は角礫の縁辺部を加工した後、短軸方向に分割し、分割面を打面として剥片が剥離される。153は原礫面打面から剥片が剥離される。

**敲石** (図Ⅳ-328-154、図版219)

1点(1個体)を図示している。154は上部を欠損しているが5cm程度の砂岩を利用している。正面形は円形、断面形は半月形に近い。潰打痕は下端部に限定され、特に潰れの激しい10×7mmの範囲は平坦になっている。

**石器ブロック20 (Sb-20) の分布** (図Ⅳ-329、表Ⅳ-7・8)

L65、M64・65、N64・65、O65区の11×5mの範囲で確認されたが、Mラインでは斜面部である東側に若干分布が伸びると思われる。N65区に小集中域が、M65区の東端にツールの混じる極小さなまとまりがある。尖頭器3点、削器1点、舟底形石器3点(Ⅱ類3点)、縦長剥片5点、石刃核1点、剥片186点の計199点、重量2,808.9gの石器類が出土した。石材は黒曜石1が63.8%を占め、以下黒曜石4(23.6%)、黒曜石5(10.5%)、黒曜石3(1.5%)、頁岩(0.5%)である。斜面部との境界であるM66区では大型の縦長剥片素材の舟底形石器が出土している。

**石器ブロック21 (Sb-21) の分布** (図Ⅳ-329~331、表Ⅳ-7・8)

M61~64、N61~65、O62~65区の19×11mの範囲で確認された。尖頭器36点、両面調整石器6点、削器9点、錐形石器2点、舟底形石器10点(Ⅱ類10点)、二次加工ある剥片6点、細石刃核1点、石刃22点、縦長剥片12点、石核2点、削片4点(細石刃核削片2点、尖頭器削片2点、その他削片1点)、剥片4,068点、礫1点の計4,179点、重量22,374.0gの石器類が出土した。石材は黒曜石1が62.8%を占め、以下黒曜石5(16.2%)、黒曜石4(10.8%)、黒曜石3(9.5%)、黒曜石2(0.6%)、頁岩(0.07%)である。尖頭器は20cm以上の大型のものが多く、分布はM61~63区とN62・63区の2か所に分かれる。北側に隣接するSb-17の南側・Sb-19にも大型尖頭器が出土しており、関連が強いと考えられる。舟底形石器は大型のものが含まれる。細石刃・細石刃核削片・細石刃核はM~O64区に分布し、集中域から外れる傾向にあり、尖頭器削片は40m以上西側のM52・53区と接合関係がある。また、Ⅰ層出土であるが、頁岩製の石刃の彫器が出土している。

**石器ブロック22 (Sb-22) の分布** (図Ⅳ-332、表Ⅳ-7・8)

O65、P64・65、Q64・65区の7×7mの範囲で確認された。削器1点、石刃2点、縦長剥片7点、剥片613点の計623点、重量4,384.0gの石器類が出土した。石材は黒曜石4が75.4%を占め、以下黒曜石1(18.9%)、黒曜石5(2.9%)、黒曜石3(2.7%)である。ツールがほとんど無く、黒曜石4が多数を占めるのが特徴である。

**石器ブロック23 (Sb-23) の分布** (図Ⅳ-332、表Ⅳ-7・8)

O62~65、P62~64区の12×5mの範囲で確認された。尖頭器4点、両面調整石器3点、搔器1点、

削器1点、石刃4点、縦長剥片5点、石核1点、剥片1,304点の計1,323点、重量10,908.4gの石器類が出土した。石材は黒曜石4が46.9%を占め、以下黒曜石1(27.4%)、黒曜石5(15.9%)、黒曜石3(9.8%)、黒曜石2(0.08%)である。ツールのほとんどは北側に隣接するSb-21と接合関係がある。

#### 石器ブロック24 (Sb-24) の分布 (図IV-333、表IV-7・8)

N61・62、O61・62区の5×4mの範囲で確認された。尖頭器6点、削器1点、舟底形石器2点(Ⅱ類2点)、剥片313点の計322点、重量2,540.3gの石器類が出土した。石材は黒曜石1が54.7%を占め、以下黒曜石5(28.3%)、黒曜石2(10.9%)、黒曜石4(4.0%)、黒曜石3(1.9%)、頁岩(0.3%)である。黒曜石2が特徴的に含まれる。大小の舟底形石器があり、尖頭器・削器は隣接するSb-21・23と接合関係がある。唯一出土している頁岩は欠損した尖頭器である。

#### 石器ブロック25 (Sb-25) の分布 (図IV-333、表IV-7・8)

Q64・65、R64・65区の8×7mの範囲で確認されたが、斜面部である東側・調査区域外である南側に分布が広がると思われる。尖頭器2点、搔器2点、削器3点、舟底形石器1点(Ⅱ類1点)、二次加工ある剥片5点、石刃41点、縦長剥片42点、石刃核1点、石核1点、削片2点(その他削片2点)、剥片1,044点の計1,144点、重量15,931.2gの石器類が出土した。石材は黒曜石1が55.4%を占め、以下黒曜石5(24.8%)、黒曜石4(15.7%)、黒曜石3(4.0%)である。R64・R65区に小集中域があり、それ以外は散漫な分布を示す。R64区の集中域には石刃類が多く、R65区の集中域にはツールが多い。R65区出土石核類は全て原礫面打面である。

#### 石器ブロック26 (Sb-26) の分布 (図IV-334、表IV-7・8)

P63・64、Q63・64、R64区の6×6mの範囲で確認された。石刃1点、縦長剥片24点、石刃核1点、石核5点、剥片467点の計498点、重量18,341.5gの石器類が出土した。石材は黒曜石1が50.6%を占め、以下黒曜石5(33.9%)、黒曜石3(8.4%)、黒曜石4(7.0%)である。剥片類以外は石核類のみで、図示した3点は全て転礫素材で単剥離打面から顕著な頭部調整を伴う石刃剥離が行われている。

#### 石器ブロック27 (Sb-27) の分布 (図IV-334~340、表IV-7・8)

L59、M57~60、N56~60、O56~62、P57~63、Q57~63、R59区の30×22mの範囲で確認された。B区の中で最大のブロックである。尖頭器101点、両面調整石器8点、搔器14点、削器33点、舟底形石器23点(Ⅱ類23点)、二次加工ある剥片5点、細石刃3点、細石刃核5点、石刃154点、縦長剥片182点、石刃核2点、石核26点、削片7点(細石刃核7点)、剥片14,687点、石鏃1点、台石4点、敲石2点の計15,257点、重量116,039.6gの石器類が出土した。石材は黒曜石1が44.0%を占め、以下黒曜石5(23.8%)、黒曜石4(20.4%)、黒曜石3(11.7%)、安山岩(0.07%)、頁岩(0.04%)、黒曜石2(0.01%)、めのう(0.01%)、砂岩(0.01%)である。尖頭器は黒曜石3が、石刃は黒曜石5が多い。尖頭器は20cm以上の大型のものが多く、P59・60区周辺とQ59・60区周辺の2か所にまとまりがある。また、40m離れたS49・50区、36m離れたR52区出土の尖頭器と接合した例がある。細石刃削片・細石刃核はO・P60区周辺にまとまっている。舟底形石器はやや散漫に分布するがN58~60、O57・58区にまとまりがある。特にN59・60区出土のものは全て平滑なザラつきのない原礫面を持つものである。搔器はP・Q60区に分布し、大型石刃素材の削器はN58・59区周辺とP58区周辺に多い。石核類はほぼ全域に分布している。以上のことからツールは①N58~60、O57・58区の舟底形石器の分布域、②P59・60区の尖頭器の分布域、③Q59・60区の尖頭器の分布域、の3か所に分離でき、①の分布域には大型石刃素材の削器・敲石が、②の分布域には細石刃関連資料が重なる。

また、大型の石刃素材の削器は②の分布域の西側からずれて分布し、搔器は②と③にまたがるように分布している。石核類は全体に分布している。

#### 石器ブロック28 (Sb-28) の分布 (図IV-341、表IV-7・8)

Q61・62、R59～64区の22×5 mの範囲で確認されたが、調査範囲外である南側に分布が伸びると思われる。尖頭器11点、両面調整石器3点、搔器1点、削器7点、舟底形石器1点(Ⅱ類1点)、二次加工ある剥片1点、石刃19点、縦長剥片15点、石刃核1点、石核1点、削片1点(細石刃核削片1点)、剥片2,601点、台石2点の計2,664点、重量17,552.6gの石器類が出土した。石材は黒曜石1が49.3%を占め、以下黒曜石4(30.9%)、黒曜石3(14.4%)、黒曜石5(5.3%)、安山岩(0.08%)、黒曜石2(0.04%)である。大型の尖頭器・両面調整石器が全体に分布し、一部は北側のSb-27の石器と接合している。

#### 石器ブロック29 (Sb-29) の分布 (図IV-342、表IV-7・8)

O56・57、P54～57、Q54～56区の12×6 mの範囲で確認された。尖頭器5点、両面調整石器3点、搔器10点、削器1点、錐形石器2点、舟底形石器7点(Ⅱ類7点)、石刃8点、縦長剥片11点、剥片356点の計391点、重量2,517.9gの石器類が出土した。石材は黒曜石1が58.1%を占め、以下黒曜石5(27.6%)、黒曜石4(12.0%)、黒曜石3(2.3%)である。舟底形石器が多く、両面調整石器はSb-46出土石器と接合している。

#### 石器ブロック20～29 (Sb-20～29) の接合状況 (図IV-343)

全体的には接合分布は各ブロック内での小集中域を単位としてまとまるが、ブロックや地区をまたがる接合資料もあり、特にD地区との接合資料が多い。

#### 母岩別資料231・接合資料1367 (図IV-344、図版220-1)

母岩別資料は接合1367の他、剥片4点で構成され、総点数21点、総重量304.3gである。

**素材** 17点(11個体)が接合し、重量は301.5g、大きさは20×8×2.5cmである。平滑な原礫面を持つ角礫を素材として尖頭器の形態で搬入されている。

**剥離工程** 表裏共に右側から加工が行われる(1・2)が、段階2の最終剥離が裏面に抜けて折損している。下部の折れ面は放射状でその起点を打撃して折損した可能性がある。

**分布** Sb-27のP60、Q59・60区に分布している。

#### 母岩別資料458・接合資料2732 (図IV-344・345、図版220-2)

母岩別資料は接合2732の他、剥片3点で構成され、総点数54点、総重量613.9gである。

**素材** 51点(30個体)が接合し、重量は607.7g、大きさは24×12×4.5cmである。平滑な原礫面を持つ角礫を素材として尖頭器の形態で搬入されている。

**剥離工程** 裏面(1～3)、正面(4・5)の加工の後、本体はIV-418-41にみられる上部の球顆で折損している。折損後、大きい方の破片の折れ面付近を再加工(6～8)しているが、縁辺の角度が大きくなり、最終的に遺棄されている。遺跡搬入時は断面が整った凸レンズ状で、折損するまでは両面加工により徐々に小型化しているが、折損後の再加工は比較的粗く、断面形状は非対称形に変化している。

**分布** Sb-28のR60～62、Sb-46のM53、N53・54区に分布し、最大40mの距離を隔てている。それらは完全に段階で分けることができ、Sb-28からは段階1～5が、Sb-46からは段階6～8・尖頭器が出土し、工程上は尖頭器の折損前と折損後に対応する。つまり、Sb-28で加工され折損した後、Sb-46に持ち込まれ再加工が行われたか、あるいは、Sb-28で加工された後、Sb-46に持

ち込まれ、加工中に折損し、再加工が行われたと考えられる。

**母岩別資料200・接合資料1277** (図IV-345・346、図版222-1)

母岩別資料は接合1277のみである。

**素材** 18点(14個体)が接合し、重量は550.9g、大きさは27×8×4 cmである。平滑な原礫面を持つ扁平で長大な角礫を素材として原石の形態で搬入されている。

**剥離工程** 表裏両面とも加工されているが(1~7)、上半部は右側面の原礫面を除去できていない。また、上半部の裏面は平坦なため中央部ではヒンジによる段差が形成されている。折れ面は下端部を含め4か所あるが上・下位・下端の折れ面は潜在的な折れによるもので、中位の折れ面は段階7の剥離によるものである。中位の折損後、下部の破片に再加工が行われるが、左側縁から正面への粗い剥離の後、遺棄される。

**分布** Sb-27のO60、P59~61区に分布し、尖頭器と剥片では若干分布がずれている。

**母岩別資料197・接合資料1270** (図IV-346・347、図版221)

母岩別資料は接合1270のみである。

**素材** 75点(36個体)が接合し、重量は3,681.1g、大きさは30×18×10cmである。平滑な原礫面を持つ盤状の角礫を素材として原石の形態で搬入されている。

**剥離工程** 最初、左側面から表裏両面への加工(2~5)が行われるが、内在する直径2.5cm大の球顆を除去できないため、加工は右側面(6・7)に移行する。最終的には右側縁から裏面への加工(7)によって器体は折損し、遺棄されている。原礫面で確認できない内部の大型球顆を除去できずに、また、除去しようとしたことが原因で剥離作業を終了せざるを得なくなっている。

**分布** Sb-27のP59、Q59・60、Sb-28のR59~61、Sb-29のP55、Sb-47のO51区に分布し、最大で40mの距離を隔てている。ほとんどの剥片はQ59・60区にまとまって分布するが、両面調整石器はR59区に分布し、R60・61、P55、O51区に分布する剥片は段階3・5で剥離された原礫面を持つやや大型の剥片である。

**母岩別資料239・接合資料1401** (図IV-348・349、図版222-2・223-1)

母岩別資料は接合1401の他、剥片2点で構成され、総点数17点、総重量1,752.2gである。

**素材** 15点(9個体)が接合し、重量は1746.2g、大きさは28×14×5 cmである。平滑な原礫面を持つ盤状の角礫を素材として左側縁の両面が加工された形態で搬入されている。

**剥離工程** 左側縁からの加工により中央で折損し、個体A・Bに分割される。個体Aは折れ面を打面として厚手の縦長剥片が剥離され、個体Bは折れ面を打面として厚手の縦長剥片が剥離された(1)後、その剥離面を打面として剥片剥離が行われる(3)。個体Bの段階3のみ頭部調整がみられる。

**分布** Sb-27のO57~60、Q58・59区に分布し、個体A・Bでは分布が異なる。

**母岩別資料214・接合資料1324** (図IV-350、図版223-2)

母岩別資料は接合1324の他、接合1325~1328・51142~51144・53966、削器1点、縦長剥片1点、剥片9点で構成され、総点数36点、総重量300.1gである。

**素材** 3点(3個体)が接合し、重量は20.7g、大きさは8×5×1.0cmである。原石形状は不明であるが、剥片ないし縦長剥片素材で、素材または母型で搬入されたと考えられる。流理構造のある灰色の特徴的な石質で、産地分析ではケショマップ産の結果が得られている。

**剥離工程** 母型作成：素材の先端側を細石刃核基部に、打面側を細石刃剥離作業面に設定し、背面の上・下縁と腹面下縁部・基部周辺に加工が施される。

削片剥離：断面三角形の一次削片59の剥離後、その末端部を腹面から加工して上縁を直線的にし、

甲板面の末端まで達しない中途の削片剥離の後、65が剥離される。65は緩やかな弧を描いて下縁部に達し、平坦な打面が形成される。

**細石刃剥離**：65が剥離された後、細石刃が剥離されるが、打面再生は行われず、細石刃が連続的に剥離されている。最終細石刃作業面には段差が無く、細石刃を剥離しきった状態であると考えられる。細石刃剥離は削片65の打点位置から細石刃核作業面の位置まで長さにして4.7cm 分行われ、細石刃が剥離された甲板面の面積を $47 \times 7$  mm、細石刃の平均的な幅を5 mm、厚さを1.5mm とすると90本程度の細石刃が剥離された計算になる。

**分布** 一次削片59はSb - 21のN64区、二次削片65はSb - 27のP61区、細石刃核54はQ60区に分布し、最大20m の距離を隔てている。

**接合資料2647** (図IV - 350、図版223 - 3)

**素材** 2点(2個体)が接合し、重量は7.3g、大きさは $4.6 \times 2.4 \times 0.8$ cm である。原石形状は不明であるが、石刃ないし剥片素材で素材または母型で搬入されている。頁岩製。

**剥離工程** 母型作成：素材の打面側を細石刃核基部に、先端側を細石刃剥離作業面に設定し、背面の上・下縁と腹面下縁部に加工が施される。

**削片剥離**：一次削片は欠落しているが、先行の削片剥離後、腹面から甲板面の傾斜のある部分、甲板面から削片剥離打面周辺に加工が行われ、62が剥離される。62は他端に抜け、平坦な甲板面が形成される。

**細石刃剥離**：62が剥離された後、細石刃が剥離されるが、打面再生は行われず、細石刃が連続的に剥離されている。最終細石刃作業面はステップになり、段差ができたため遺棄されたと考えられる。細石刃剥離は削片62の打点位置から細石刃核作業面の位置まで長さにして2.0cm 分行われ、細石刃が剥離された甲板面の面積を $20 \times 7$  mm、細石刃の平均的な幅を5 mm、厚さを1.5mm とすると40本程度の細石刃が剥離された計算になる。

**分布** Sb - 27のO61、P60区に分布している。

**接合資料2646** (図IV - 351、図版223 - 4)

**素材** 2点(2個体)が接合し、重量は15.8g、大きさは $5.3 \times 2.6 \times 1.1$ cm である。平滑な原礫面を持つ角礫から剥離された縦長剥片を素材として、素材ないし母型で搬入されている。石材は細石刃剥離にはほとんど利用されない黒曜石4である。

**剥離工程** 母型作成：素材の先端側を細石刃核基部に、打面側を細石刃剥離作業面に設定し、背面の上・下縁に加工が施される。素材背面を右側面、素材腹面を左側面に設定し、通常の峠下技法の素材面と作業面の位置関係とは逆になっている。

**削片剥離**：腹面側に傾き下縁に抜ける一次削片60の剥離後、細石刃核基部側から右側面に粗い加工が行われ、さらに背面に傾く削片が剥離される。細石刃剥離は行われずに遺棄されている。

**分布** Sb - 27のO60区に分布する。

**接合資料2648** (図IV - 351、図版223 - 5)

**素材** 2点(2個体)が接合し、重量は32.2g、大きさは $6 \times 3 \times 2$  cm である。めのうの小型の原石を素材として原石ないし素材の形態で搬入されている。

**剥離工程** 7 cm 程度の小型の原石を分割し、細石刃核の素材としている。55は素材背面の上下縁、腹面の下縁に加工が施された後、削片剥離が行われる。甲板面には削片剥離痕が二枚あり、削片剥離は最低二回行われている。削片剥離により直線的で平坦な甲板面が形成され、細石刃剥離が行われる。細石刃剥離作業面には最終の細石刃剥離によりステップ状の段差が残り、細石刃剥離が困難になり、

廃棄されたと考えられる。

**分布** Sb-27のP60・61区に分布する。

**母岩別資料451・接合資料2028** (図IV-351・352、図版223-6)

母岩別資料は接合2028の他、縦長剥片1点で構成され、総点数9点、総重量102.0gである。

**素材** 8点(5個体)が接合し、重量は27.8g、大きさは11.4×4.0×1.2cmである。原石形状は不明、石刃素材であるが搬入形態は不明。

**剥離工程** 母型作成：素材の打面側を細石刃核基部に、先端側を細石刃剥離作業面に設定し、両面の上・下縁に加工が施される。上縁の加工は、背面については部分的で、腹面については細かいもので素材の形状をほとんど変えていない。上縁形は軽い弧状である。

削片剥離：断面三角形の一次削片61の剥離後、甲板面の傾きの強い部分を甲板面から腹面に調整を行い、63が剥離される。再度甲板面の傾いた部分を同様に調整した後、IV-221-185が剥離されている。IV-221-185剥離後、甲板面から腹面側に幅が2、3mm減少するほどの大きな加工が行われ、その加工を切る下縁からの加工が行われる。IV-223-222を含む他端に達しない削片剥離後、下縁に抜けるIV-222-219が剥離されている。

**分布** Sb-17のJ63、K62、Sb-19のL61、Sb-27のO59・60区に分布している。最初の61・63はSb-27から出土し、次のIV-221-185はSb-19から、IV-223-222・IV-222-219はSb-17から出土している。A地区とB地区の細石刃関連資料の集中域にまたがるように分布し、剥離順ではB地区→A地区の方向性がある。

**接合資料2661** (図IV-352、図版223-7)

**素材** 2点(2個体)が接合し、重量は7.4g、大きさは5.8×2.0×0.9cmである。原石形状は不明。石刃ないし剥片素材であるが搬入形態は不明。

**剥離工程** 母型作成：素材の打面側を細石刃核基部に、先端側を細石刃剥離作業面に設定し、背面の周縁、腹面の基部に加工が施される。母型の上縁は直線的である。

削片剥離：素材先端側からの削片剥離後、素材打面側から断面三角形の削片IV-219-151が剥離され、甲板面が傾き突出した部分に甲板面から左側面に調整が行われた後、再度素材先端側から64が剥離される。64は下縁に抜けており、細石刃核の甲板面の側面形は「へ」の字状であったと想定できる。

**分布** IV-219-151はSb-17のJ64区、64はSb-21のM64区に分布している。

**母岩別資料397・接合資料1885** (図IV-353・354、図版224・225-1)

母岩別資料は接合1885のみである。

**素材** 33点(28個体)が接合し、重量は1,542.3g、大きさは21×15×10cmである。平滑な原礫面を持つ角礫を素材として粗割りされた形態で搬入されている。

**剥離工程** 左側面から裏面、裏面から左側面に石核調整が行われ、上下に正面からの剥離によって打面が作出された後、頭部調整を行いながら上下から石刃が剥離される(1・2)。石刃剥離に伴い、裏面から左側面に側面調整が行われる(3)。下設の打面再生が行われた後、上下からの石刃剥離(4・5)が継続される。最後に石刃核を素材として作業面を甲板面に設定して舟底形石器が製作されている(個体A)。剥離された石刃は15cm程度で、内側で剥離された石刃、舟底形石器が欠落しており、搬出されたと考えられる。

**分布** Sb-27とSb-46・47の2か所に分けられる。Sb-46・47には段階1・2の石刃類が分布し、Sb-27には段階3～5の石核調整剥片・石刃類・石核素材の舟底形石器調整剥片が分布している。Sb-46・47には、段階1・2の良好な石刃類のみが出土していることからそれらが選択されて持ち

込まれたと考えられる。

**母岩別資料186・接合資料1249**（図IV-354・355、図版225-2・226-1）

母岩別資料は接合1249のみである。

**素材** 78点（52個体）が接合し、重量は2,791.0g、大きさは28×17×12cmである。爪状痕のある転礫を素材として原石の形態で搬入されている。

**剥離工程** 大型の剥片剥離による打面作出（1）後、稜調整無しで頭部調整を伴う石刃剥離が行われる（2）。石刃剥離の途中で作業面から左側面に稜調整が行われる。剥離された石刃は15cm程度で原礫面を持たない内側の石刃が欠落しており、搬出されたと考えられる。段階1で剥離された大型剥片A・Bは舟底形石器に加工され、個体Aから加工された舟底形石器は片側を中心に加工され、折損して95が遺棄されている。個体Bの舟底形石器は欠落し、搬出されている。

**分布** Sb-21・23・24に分布するが、N61・62、N63区の2か所にまとまりがある。段階2の石刃はN61・62区に、舟底形石器に加工された個体A・BはN63区に分布が分かれ、石刃核はそれらとやや離れたO63・64区に分布している。

**母岩別資料184・接合資料1243**（図IV-356・357、図版226-2）

母岩別資料は接合1243の他、接合1244～1246、石刃1点で構成され、総点数29点、総重量1,752.6gである。

**素材** 12点（9個体）が接合し、重量は921.1g、大きさは26×9×5cmである。平滑な原礫面を持つ角礫素材で搬入形態は不明。

**剥離工程** 裏面に大型の剥離面を持つ剥片を素材として上設打面から石刃が剥離された（1）後、下面から厚手の縦長剥片が剥離され（2）、再度、上設打面から厚手の縦長剥片が剥離される（3）。20cm程度の段階2・3で剥離された厚手の縦長剥片、石核は舟底形石器の素材となり、全て平坦な素材の大型剥離面を甲板面に設定している。IV-582-63は甲板面・下縁から、88は右側面の一部に、IV-582-62は甲板面からのみ加工が行われ、それぞれ加工途中で折損し、再加工されることなく遺棄される。舟底形石器は短冊状の素材形状を反映して長方形に近い側面形である。

**分布** Sb-20と東側の斜面部に分布するが、斜面部であるM66区に最も多く、分布の中心があったと考えられる。

**母岩別資料245・接合資料1415**（図IV-357・358、図版227）

母岩別資料は接合1415のみである。

**素材** 20点（12個体）が接合し、重量は2,995.2g、大きさは21×19×12cmである。角の潰れた転礫を素材として原石の形態で搬入されている。

**剥離工程** 上面に大型の剥片剥離による打面作出（1）後、縦方向の剥離が行われる（2）。作業面から裏面への剥離による下設打面作出（3）後、同打面から頭部調整を伴う縦長剥片剥離が行われ（4）、再度、上設打面から石刃が剥離された後に石刃核IV-237-351は遺棄される。

**分布** Sb-17・26・27に分布し、Sb-17のJ63、K63区とSb-26・27のP62～64、Q64区に分かれる。Sb-17には段階2の折損した石刃、段階4の石刃、石刃核が分布し、それ以外はSb-26・27に分布している。

**母岩別資料244・接合資料1414**（図IV-358～360、図版228）

母岩別資料は接合1414のみである。

**素材** 77点（52個体）が接合し、重量は2,090.5g、大きさは33×13×12cmである。平滑な原礫面を持つ角柱状の角礫を素材として原石の形態で搬入されている。

**剥離工程** 角礫の稜を利用して最初の石刃を剥離する位置に作業面を設定し、打面が作出される(1)。上設打面から頭部調整を伴う石刃が剥離される(2)が、石刃の末端部がヒンジになり、作業面に段差ができると、作業面の側面形を弧状に維持するように下設打面に打面転移を行い石刃が剥離される(3)。以後、同様に上設打面からの石刃剥離(4)→下設打面再生(5)→下設打面からの石刃剥離(6)→上設打面からの石刃剥離(7)と打面転移が頻繁に繰り返され、最終的に石刃核を素材として正・裏面で横方向の剥離が行われ(8~10)、尖頭器が製作されている。石刃は最大20cm程度のもので剥離され、原礫面を持たない内側で剥離されたものが欠落している。

**分布** Sb-27とSb-46の2か所に分布している。ほとんどはSb-27のQ59・60区に分布するが、連続的に剥離されたものではない比較的大型の石刃がSb-46のN53・54区に分布するため、Sb-27からSb-46に持ち込まれたものと考えられる。

**母岩別資料238・接合資料1398** (図IV-360・361、図版229)

母岩別資料は接合1398の他、接合1399・1400、剥片3点で構成され、総点数44点、総重量4,820.3gである。

**素材** 27点(18個体)が接合し、重量は4,252.5g、大きさは19×19×11cmである。平滑な原礫面を持つ角礫を素材として原石ないし原石に近い形態で搬入されている。

**剥離工程** 裏面から左側面への石核調整・裏面から右側面への剥離(1)・正面から下面へ下設打面作出(2)後、下設打面から石刃剥離が行われる。裏面からの右側面下端部調整(3)後、上設打面から頭部調整を伴う石刃剥離(4)が行われ、途中、右側面下端部稜調整(5・6)を挟んで上設打面から石刃剥離(7)が継続され、最後に上設打面から右側面への石刃剥離(8)が行われる。最大18cmの石刃が剥離されるが、平坦な作業面形状を反映して、幅広である。

**分布** Sb-25のR64・65、斜面部のQ67、R66・67・69区に分布し、南側は調査区範囲外に伸びる可能性がある。

**母岩別資料202・接合資料1281** (図IV-362~364、図版230・231)

母岩別資料は接合1281の他、接合1282で構成され、総点数99点、総重量2,514.7gである。

**素材** 95点(57個体)が接合し、重量は2,483.9g、大きさは34×16×10cmである。平滑な原礫面を持つ角礫を素材として原石の形態で搬入されている。

**剥離工程** 右側面から正・裏面への石核調整(1~3)の後、アクシデンタルな割れで個体A・Bに分割される(4)。

個体Aは左側面調整(1)・作業面下部調整(2)後、打面再生(3)を行いながら頭部調整を伴う石刃剥離が行われる(4)。

個体Bは稜調整(1)・打面作出(2)後、石刃剥離(3)が行われ、途中稜調整(4・6)を挟んで石刃剥離(5・7)が継続される。その後、裏面で石刃剥離(8)が行われ、左側面から裏面への剥離(9)後、正面で下面から石刃剥離(10)が行われる。石刃剥離は全て頭部調整を伴う。

個体A・Bから剥離された石刃の長さは8~18cmで、頭部調整が著しく、打面の縁辺を直線的にするために、剥離される石刃の打面形態は凸レンズ状になる。

**分布** Sb-27のQ61、Sb-28のR59~62、Sb-46のL54区に分布する。個体A・Bの分布に違いはなく、1点を除いてはR59~62区周辺にまとまって分布する。唯一L54区から出土しているのは個体Bの段階3で剥離された石刃の打面部である。

**母岩別資料195・接合資料1267** (図IV-364・365、図版232・233)

母岩別資料は接合1267の他、接合1268・52627で構成され、総点数47点、総重量2,351.4gである。

**素材** 42点(22個体)が接合し、重量は1,630.6g、大きさは19×18×13cmである。平滑な原礫面を持つ角礫素材で搬入形態は不明である。

**剥離工程** 正面右下からの作業面調整後、古い大きな剥離面である単剥離打面から頭部調整を伴い最大20cmの石刃が連続的に剥離されている。作業面の正面形はホームベース型に近い五角形、横断面形は弧状で石刃剥離に伴い断面形は維持される。途中で下縁部調整が行われるが、ほとんど石核形状を変化させることなく、ほぼ理想的に石刃剥離が行われたと考えられる。IV-585-90は両側縁への平坦剥離によって削器に加工されている。

**分布** Sb-25のR64・65、斜面部のQ67・68・70~72、R66・68~70区に分布し、南側は調査範囲外に伸びる可能性がある。分布は東西の広範囲に及ぶが、東側は斜面による影響があると考えられる。

**母岩別資料193・接合資料1266** (図IV-366、図版233・234-1)

母岩別資料は接合1266の他、剥片13点で構成され、総点数65点、総重量2,543.9gである。

**素材** 52点(21個体)が接合し、重量は2,476.7g、大きさは16×16×15cmである。爪状痕のある原礫面を持つ転礫を素材として原石ないし打面作出された形態で搬入されている。

**剥離工程** 大型の剥片剥離による打面作出後、稜調整無しで頭部調整を伴う石刃剥離が行われる。原石の中には1~2cmの球顆が含まれ、前半の石刃は球顆による折損が多くみられる。後半は石刃核141にみられるように作業面形状が平坦化し、幅広の石刃が剥離されるが、それらは欠落しており、搬出されたと考えられる。

**分布** Sb-22・23・25~27のP62~65、Q64区に分布する。折れ面接合の分布が東西方向に伸びていることから、本来一つのまとまりであった可能性が強い。

**母岩別資料192・接合資料1264** (図IV-367、図版234-2)

母岩別資料は接合1264の他、接合1265、剥片9点で構成され、総点数51点、総重量885.4gである。

**素材** 35点(22個体)が接合し、重量は783.2g、大きさは28×9×5cmである。平滑な原礫面を持つ扁平な角礫を素材として原石の形態で搬入されている。

**剥離工程** 両側面から両面に加工(1~3)が行われた後、両面調整石器48が折損している(4)。折損した上部破片は上端に打面が作出され(5)、正面で石刃が剥離される。その後、段階4の折れ面を打面として左側面で石刃剥離(6)が行われ、徐々に正面に作業面をずらし、最終的には幅広の剥片が剥離される。最後に横方向からの剥離(7)が行われ、石核146は遺棄される。石刃は最大15cmで全て頭部調整が行われる。本資料は両面調整の尖頭器を製作する途中で折損し、石刃核に転用されたものである。

**分布** Sb-27のO60、P59~61、Q60・61、Sb-28のR60区に分布し、P60区周辺にまとまっている。

**母岩別資料191・接合資料1260** (図IV-368、図版241-2)

母岩別資料は接合1260の他、接合1261~1263・51127、剥片15点で構成され、総点数66点、総重量943.7gである。

**素材** 32点(21個体)が接合し、重量は762.7g、大きさは25×14×7cmである。平滑な原礫面を持つ扁平な角礫を素材として原石の形態で搬入されている。

**剥離工程** 主に右側面を中心に正・裏面にやや粗い加工(1~4)が行われた後、頭部調整のある打面の小さい剥片剥離による加工が行われる(5~8)。尖頭器本体は欠落し、搬出されたと考えられる。

**分布** Sb-27のP61、Q59・60区にまとまって分布する。

**母岩別資料241・接合資料1404** (図IV-368~371、図版242~246)

母岩別資料は接合1404のみである。

**素材** 150点(98個体)が接合し、重量は11,888.6g、大きさは48×30×19cmである。平滑な原礫面を持つ大型の盤状の角礫を素材として原石ないし原石に近い形態で搬入されている。

**剥離工程** 左側面から裏面への剥離(1)後、正面からの大型剥片剥離によって上設打面が作出される(2)。上設打面から右側面への厚手の剥片剥離(4)後、下設打面が作出され(3)、下設打面から石刃剥離が行われる(5)。段階5の剥離によって作業面に段差ができ、それを修正するように上設打面から石刃剥離が行われる(6)。段階6の途中で下設打面から剥片が剥離され(7)、さらに、下設打面から石刃が剥離される(8)。その後、上設打面で厚さ4.8cmの大型剥片の剥離による打面再生が行われ(9)、上設打面から石刃が剥離される(10)。正面右側縁の調整(11)後、引き続き上設打面から石刃剥離(12)が、途中に下設打面からの石刃剥離(13)と側縁調整(14)を挟みながら行われる。最後は右側面からの調整を挟みながら上設打面から剥片が剥離され(15)、右側縁上部を欠損(16)して石核145が遺棄されている。一連の石刃剥離を通じて作業面形状は比較的平坦で、両設打面からの石刃剥離によって石刃核の側面形は「く」の字状に維持され、作業面にヒンジにより段差ができると打面を転移させてその段差を除去している。段階1・2・4で剥離された大型剥片A・B・Cは舟底形石器に加工され、段階6で剥離された大型石刃は削器120に加工されている。石刃剥離の際には頭部調整が行われる。段階6で剥離された石刃である134は25×12cmと非常に大型である。図版244・245は打面作出剥片と段階1～3の石核調整剥片を外したものであるが、段階9の大型剥片剥離による打面再生によって大きく高さが減少していること、側面形が「く」の字状に維持されているのが分かる。また、中央の石刃類は欠落し、搬出されている。石刃剥離途中で打面再生のために厚さ4.8cmの大型剥片が剥離されているが、原石が非常に大きいため打面を完全に刷新するためにはこのサイズの打面再生剥片を剥離する必要があったと考えられる。

**分布** Sb-23・27・29・46の広い範囲に分布する。個体A・BはO57～59区、個体CはP61・62区、個体A～C以外はN58・59区に主に分布し、舟底形石器に加工された個体A～Cとそれ以外の分布に違いがみられる。個体A～C以外のうち段階3の打面作出剥片がO54・55区、127の石刃がP55・57区、段階1の剥片がO62・P61区からそれぞれ離れて出土している。

**母岩別資料243・接合資料1409**(図IV-371～373、図版236～241-1)

母岩別資料は接合1409の他、接合1410～1413で構成され、総点数209点、総重量13,602.8gである。

**素材** 198点(115個体)が接合し、重量は13,333.0g、大きさは42×31×19cmである。平滑な原礫面を持つ盤状の大型角礫素材である。裏面は一枚の剥離面、その他は原礫面が残り、上設打面が作出された状態で搬入されている。

**剥離工程** 裏面から右側面への稜調整(2)・厚さ4.2cmの大型剥片剥離による下設打面作出(1)の後、正面から左側面への稜形成(3)、下設打面から石刃剥離(4)が行われる。打面転移が行われ、上設打面から石刃が剥離(5)された後、下設打面から石刃剥離が行われる(6)。さらに上設打面から左側面で石刃剥離(7)、上設打面再生(8)、上設打面から石刃剥離(9)、正面下部調整(10)、上設打面から石刃剥離(11)、上設打面再生(12)、上設打面から石刃剥離(13)、正面下部左右の石核調整(14)を挟みながらの上設打面からの石刃剥離(15)が行われる。

段階3～5の石刃剥離は右側面に、段階7～15の石刃剥離は左側面に偏って行われる。

段階1・8・12の打面再生剥片、段階2・6の側面調整剥片、段階7の石刃を外したものが図版238・239であるが、前半と後半で作業面転移が行われていることと中央部の石刃が欠落しているのが分かる。石刃剥離の際には頭部調整が行われ、最大24cmの石刃が剥離されている。

**分布** Sb-23・27・46に分布し、N54区周辺、N58・59区、P61・62区周辺、Q59・60区周辺の4か所の小集中域に分かれる。量が多いのはP61・62区周辺とQ59・60区周辺で前者からは段階1～3、後者からはそれ以外の段階の石器が出土している。量の少ないN54区周辺からはIV-449-246（段階7）・IV-448-243（段階11）・IV-449-248（段階13）・IV-448-245（段階13）と剥片1点が出土し、石刃が選択されて持ち込まれていると考えられる。また、N58・59区周辺からは段階1・4の一部の剥片が出土している。

**母岩別資料198・接合資料1271**（図IV-373・374、図版235）

母岩別資料は接合1271のみである。

**素材** 34点（16個体）が接合し、重量は4,077.3g、大きさは34×13×12cmである。平滑な原礫面を持つ角柱状の角礫を素材として原石の形態で搬入されている。

**剥離工程** 正面から上面への剥離によって打面が作出され（1）、頭部調整を伴う石刃が剥離される（2）。段階2の最終剥離の際、石核は節理面から個体A・Bに分割され、その後、それぞれ小口面で剥片剥離が行われる。

**分布** Sb-23・27のP60～63区にまとまって分布している。

**母岩別資料399・接合資料1887**（図IV-375、図版241-3）

母岩別資料は接合1887の他、接合1888・1889で構成され、総点数16点、総重量290.6gである。

**素材** 12点（11個体）が接合し、重量は279.5g、大きさは16×7×4cmである。原石形状は不明、個体A・Bの舟底形石器の形態で搬入されている。

**剥離工程** 個体AとBは甲板面同士で接合して、個体Aの甲板面はポジ面で剥片素材である。個体Bの甲板面はネガ面で石核の作業面を甲板面に設定した石核素材か、剥片の背面を甲板面に設定した剥片素材かは不明である。しかし、舟底形石器製作において通常は剥片を素材として背面を甲板面に設定することは無いのでおそらく石核素材と考えられる。個体A・B共に甲板面・下縁から加工された比較的細かい剥離の状態が搬入されている。遺跡内では個体Aは縁辺から5mm程度内側を加撃する粗い加工が甲板面からのみ行われる。個体Bは比較的細かい加工が甲板面・下面からなされている。個体Aの舟底形石器本体である86の左側面の左半分には搬入時の加工が残り、右半分と右側面の全面には遺跡内で加工された粗い加工が残る。両者共に折損していないが遺棄されている。

**分布** Sb-24・29・46ブロック外に分布する。個体A・Bとも調整剥片はP54・55区に分布しているが、舟底形石器はそれぞれO62、Q56区に分布する。

#### 写真のみ掲載の遺物

母岩別資料182・接合資料1237（図版247）は、長さ28cmの尖頭器で搬入される。遺跡内で加工されるが、折損し、再加工されずに遺棄される。石材は黒曜石2（梨肌）である。

母岩別資料230・接合資料1364（図版248-1）は、平滑な原礫面を持つ角礫素材で長さ30cm程度の粗加工された尖頭器で搬入される。正面は左側縁から、裏面は両側縁から加工が行われるが、先端部である40が折損、再加工が行われるが、最終的にIV-567-2が折損している。

母岩別資料237・接合資料1390・1391（図版248-2・249-1）は、石核素材の尖頭器調整剥片で表裏の関係にあたる。平滑な原礫面を持つ原石を素材として30cm程度の粗加工された尖頭器で搬入される。両面とも左右両側縁から加工が行われ、長さをほとんど変えずに厚さ・幅を減少させて搬出されている。

母岩別資料290・接合資料1568（図版249-2）は、平滑な原礫面を持つ角礫素材で裏面のみ粗加工された状態で搬入されている。両面とも左右両側縁から加工されるが、尖頭器本体は折損し、遺棄さ

れている。

母岩別資料190・接合資料1258（図版251-2）は、爪状痕のある転礫素材で非常に粗い加工のされた状態で搬入されている。主に裏面を中心に加工されるが、1～2 cmの球顆が原因で折損し、遺棄されている。

母岩別資料199・接合資料1272（図版250・251-1）は、平滑な原礫面を持つ角礫素材ではほぼ原石の状態での搬入されている。正面下部の稜調整後、下設打面から石刃が剥離される。その後、打面を転移し、上設の原礫面打面から石刃が剥離されるが、途中で作業面下部に稜調整・下設打面調整・下設打面からの石刃剥離が行われる。石刃は20cm程度で剥離の際には頭部調整が行われ、中央から左側面にかけての石刃が欠落し、搬出されている。最後は石刃核の作業面を甲板面に設定して舟底形石器が製作される。図版251-1は石刃核部分の接合写真である。素材となる石刃核は平坦な作業面と平滑な原礫面に覆われ盤状で、その形状を反映して舟底形石器の側面形は長方形である。

母岩別資料201・接合資料1278（図版252・253-1）は、平滑な原礫面を持つ角礫素材で原石に近い状態で搬入されたと考えられる。右側面下部調整・上設打面作出後、石刃剥離が行われ、打面再生を挟みながら継続される。最後は石刃核の作業面を甲板面に設定して舟底形石器が製作されるが、折損して遺棄されている。加工された舟底形石器（図版253-1-83）は盤状の石刃核形状を反映して側面形が長方形である。石刃剥離の際には頭部調整が行われる。剥離される石刃は20cm程度で、平坦な作業面形状を反映し、幅広である。中央の石刃が欠落し、搬出されている。打面作出剥片1個体、大型石刃4個体、石刃核1個体の計6個体を素材として舟底形石器が製作され、石刃核素材の1個体以外は搬出されている。また、石刃のうち1点は背面先端部の右側縁に平坦剥離が施され、削器に加工されている。

母岩別資料165・接合資料1197（図版253-2）は、爪状痕のある転礫素材で原石の形状で搬入されている。正面を大きく取り去る剥離の後、一回の剥離によって打面が作出され、頭部調整を伴う石刃剥離が行われる。

母岩別資料164・接合資料1196（図版254）は、平滑な原礫面を持つ角礫素材で、上・裏面を粗く剥離した状態で搬入される。正面下部の石核調整後、下設打面が作出され、下設打面からの石刃剥離、上設打面からの石刃剥離が交互に行われる。最後は石刃核の右側面下部から横方向の剥離がみられる。石刃剥離の際には頭部調整が行われる。作業面は平坦で17cm程度の幅広の石刃が剥離されているが、ほとんどは欠落し、搬出されている。

母岩別資料187・接合資料1250（図版255）は、爪状痕のある原礫面を持つ転礫素材で、打面が作出された状態で搬入されている。正面から左側面への稜調整後、平坦な単剥離打面から頭部調整を伴う石刃剥離が行われ、15cm程度の石刃が剥離されている。中央から右側面にかけての石刃が欠落し、搬出されている。  
(鈴木宏行)

## (12) C区・石器ブロック30～35 (Sb - 30～35) の石器

### 出土石器 (表IV-7～10)

尖頭器33点、両面調整石器4点、ナイフ形石器1点、彫器2点、搔器13点、削器27点、錐形石器1点、舟底形石器10点（Ⅱ類10点）、二次加工ある剥片7点、細石刃核2点、石刃98点、縦長剥片197点、石刃核11点、石核15点、削片13点（細石刃核削片10点、尖頭器削片2点、その他削片1点）、剥片9,226点、台石4点の計9,664点、重量104,341.3gの石器類が出土した。石材は黒曜石1が55.3%で最も多く、黒曜石4（31.7%）、黒曜石5（5.9%）、黒曜石3（4.5%）、黒曜石2（2.5%）が続き、以下安

山岩 (0.08%)、頁岩 (0.02%)、めのう (0.01%)、流紋岩 (0.01%) である。石刃・縦長剥片は黒曜石 1 が多い。

#### 尖頭器 (図IV-376-1~図IV-377-12、図版256・257)

16点 (10個体と I 層出土 2 個体を加えた12個体) を図示している。1 は比較的薄手の尖頭器である。平坦な裏面の加工を正面の加工が切り、最後は裏面右下の加工で下端部を欠損している。2・4 は厚手で、比較的加工が粗い。平坦な裏面から正面に加工が行われるため断面が三角形となる。3・5 は両面とも平坦加工が施される薄手の尖頭器である。3 は幅広で折損後、下端部が再加工されている。5 の正面上部には左側縁から右側縁を取り込む加工があり、やや幅広であったと考えられる。6~8 は幅狭の尖頭器の欠損品である。7 は角礫素材で裏面縁辺部の加工を打面にして正面の加工が行われる。9・11 は厚手で比較的粗い加工で構成される。11 は角礫素材で裏面・右側面に角礫面が残る。10 は両面とも平坦剥離で加工され、下端部の折れ面から裏面に加工がある。正面には右側縁を取り込む加工があり幅広であったと考えられる。裏面には素材腹面が残り、剥片素材である。12 は平坦剥離で構成される裏面とそれを切る正面の加工で構成され、断面は三角形である。

#### 両面調整石器 (図IV-377-13~図IV-378-14、図版257)

2 点 (2 個体) を図示している。13 は角柱状の角礫素材で左側面と裏面の稜線を中心に左側面・裏面に加工が行われる。剥離角は90度に近く剥離が困難な状態で、左側面と裏面の稜線は潰れている。14 は両面調整石器ないし尖頭器の折損品を素材として、左側縁では折れ面から右側縁では下端部から削片状の剥離が行われる。右側縁から剥離された削片は腹面から加工が行われ、舟底形石器 I 類の加工途中と考えられる。

#### 細石刃 (図IV-378-15~17、図版257)

3 点 (II 層出土 3 個体) を図示している。15~17 は長さ20~23mm で全て同様な大きさの細石刃核から剥離されている。16 には器体にねじれがみられ、17 の右側面には細石刃核の右側面下縁部調整が残る。

#### 細石刃核 (図IV-378-18~20、図版257)

4 点 (2 個体と I 層出土 1 個体を加えた 3 個体) を図示している。18・19 は細石刃剥離痕のあるもの、20 は細石刃剥離痕のないものである。18 は素材の打面側を細石刃剥離作業面に、先端側を細石刃核基部に設定し、右側面には素材面と下縁からの加工が、左側面には下縁からの加工がみられる。甲板面の側縁形は「へ」の字状で、甲板面は削片剥離後に右側面から加工が行われる。19 は幌加型細石刃核である。両側面は大部分が甲板面からの加工で整形され、下縁からの加工も一部みられる。左右側面上縁部の加工は非常に細かく、また、縁辺は擦り潰されて直線的に仕上げられている。作業面形状は U 字形に近い18に比べ、未製品の断面形を反映して両側縁が直線的に立ち上がる V 字状である。そのため、作業面に残る細石刃の形状は両側縁が平行しない先細りである。18・19 の作業面長はそれぞれ21、24mm であまり差がない。20 は大型の剥片素材で素材の打面側を細石刃剥離作業面に先端側を細石刃核基部に設定し、背面の周縁に比較的急角度の加工が、腹面の一部に細かい加工が施される。削片剥離後、左側面から甲板面に加工が行われるが、その際の剥離で折損している。

#### 細石刃核削片 (図IV-378-21~25、図版257)

6 点 (5 個体) を図示している。21~25 は二次削片である。全て左側面に先行の削片剥離後の甲板面からの調整がみられ、22 には右側面から甲板面に先行の削片剥離による末端部の段差を除去するための加工が、23・24 には甲板面の削片剥離打面周辺に加工が行われる。22 は他の削片に比べ打面が大きく厚手である。

**舟底形石器** (図IV-378-26~図IV-380-32、図版258)

9点(5個体とI層出土1個体とII層出土1個体を加えた7個体)を図示している。26はI類、27~32はII類である。素材剥離軸と石器長軸が直交する31を除いて素材剥離軸と石器長軸は一致する。26は両端に細石刃状の縞状剥離痕がある。30・32は甲板面からの加工によって整形され、それ以外は甲板面と下縁から加工される。特に細長い形状である29は下縁からの加工頻度が高い。原礫面が残るのは29・31のみで平滑な原礫面である。29は素材剥離に伴う調整はなく、31は甲板面がネガ面で石核素材と考えられる。

**ナイフ形石器** (図IV-380-33、図版258)

1点(1個体)を図示している。33は横長剥片を素材として素材剥離軸と直交するように両面共に急角度の加工によって基部が作り出される。素材の一侧縁は加工されずに端部に残される。素材背面と腹面の剥離面は直交し、素材は90度の打面転移が行われた石核から剥離されている。

**彫器** (図IV-380-34~37、図版258)

4点(2個体とI層出土2個体を加えた4個体)を図示している。34~36はI類、37はII類である。素材は全て石刃・縦長剥片素材と考えられる。打面の残る34・37は頭部調整のある単剥離打面の石刃核から剥離されている。彫刀面打面部のみ加工の施される34以外は背面全周縁・腹面の一部に加工が施される。彫刀面は36のみ素材打面側に作出される。36は器体端部を断ち切るように作出された彫刀面打面から形態軸・彫刀面交叉角の小さい直線的な彫刀面が作出される。背面の加工は平行剥離で腹面も基部全体に加工が施され、他とは形態・加工とも異質である。37には背面先端部調整がみられる。

**搔器** (図IV-380-38~図IV-381-50、図版258・259)

15点(13個体)を図示している。38~46は完形、47~50は折損品である。全て石刃・縦長剥片素材である。40は頁岩製。打面の残るものは39・42・43で、39・42は頭部調整を伴う単剥離打面、43は原礫面打面の石刃核から、44・45は打面調整の施される石刃核から剥離されている。刃部形状は直線的なものが多く42・44・46・50は弧状である。40・41は両側縁に急角度の加工が行われるが、それ以外は全く加工されないか軽微な加工が施される程度である。

**錐形石器** (図IV-381-51、図版259)

1点(1個体)を図示している。51はめのう製、単剥離打面から頭部調整を行わずに剥離された縦長剥片素材で先端部に長軸に対して斜めに刃部が形成される。加工は刃部のみである。

**削器** (図IV-381-52~図IV-382-57、図版259)

7点(5個体とI層出土1個体を加えた6個体)を図示している。53・54・56・57は完形、55は折損品である。大型剥片素材である57を除き石刃素材で、55・56は大型の石刃素材である。52~54は両側縁に連続した急角度の加工が行われる。55~57は平坦剥離で加工されるもので、55は素材の中央部は背面の両側縁には鋭角の、基部には両面に平行剥離が施され尖頭状に加工される。56は左側縁のみ、57の右側縁は弧状に左側縁はやや直線的に加工が行われる。

**石刃** (図IV-382-58~図IV-383-62、図版260)

11点(5個体)を図示している。58・59は稜付石刃である。58は両側面への比較的大型の剥片剥離によって稜が形成され、59は細かい剥離で稜調整が行われる。58の稜の突出部は擦り潰されている。59の背面打面部付近はステップ状に潰れ、単剥離打面から頭部調整を伴わずに剥離されている。60・62は頭部調整のある単剥離打面から剥離され、62は両設打面の石刃核から剥離されている。長さは20cm前後である。

**石刃核・石核** (図IV-384-63~図IV-388-77、図版261~264)

石刃核は11点（11個体）、石核は4点（4個体）を図示している。63は折れた大型尖頭器素材で、折れ面から左側面への加工の後、折れ面を打面として両端で削片状の縦長剥片が剥離され、主に正面側で頭部調整を伴った剥離が行われる。64～72は転礫素材で単剥離打面を持ち、頭部調整を伴う石刃・剥片剥離が行われたものである。64～67は作業面長が10cm以下である。67は左側面に石刃剥離痕があり、左側面での石刃剥離後、正面で石刃核を斜めに断ち切るような石刃剥離が行われる。68・69は作業面長が10cmを越えるもので69は顕著な頭部調整がみられる。70～72は幅広で平坦な作業面を持ち、10cm前後の幅広な石刃が剥離されている。作業面形状が幅広になるのは原石の長軸を横方向に設定しているためである。73は角礫素材で単剥離打面を持ち、頭部調整を伴う18cm程度の石刃が剥離されている。74は転礫素材で背稜を作出した後、打面調整・頭部調整を行いながら15cm程度の石刃が剥離される。75は角礫素材、表裏両面で剥片剥離が行われるが、正面では上部から左側縁にかけて180度の弧状の打面から剥片剥離が行われ、下部では右下に打面を固定して剥片が剥離され、最後に右側縁下部から剥離が行われる。裏面も同様で上部では弧状の打面から剥離が行われ、左側からの剥離を挟む。結果的に円盤状の形態になる。76は小型の転礫素材で原石を分割するように原礫面を打撃して剥離が行われる。77は小型の角礫素材で、原礫面を打撃して剥離が行われる。

#### 石器ブロック30 (Sb-30) の分布 (図IV-389、表IV-7・8)

H60区の3×2mの範囲で確認されたが、調査範囲外である北側に分布が伸びると考えられる。尖頭器1点、縦長剥片1点、剥片276点の計278点、重量2,130.8gの石器類が出土した。分布密度は高い。石材は黒曜石1が98.2%を占め、以下黒曜石4（1.1%）、黒曜石3（0.4%）、黒曜石5（0.4%）である。非常に小規模なブロックである。

#### 石器ブロック31 (Sb-31) の分布 (図IV-389、表IV-7・8)

H58～60、I58・59区の7×6mの範囲で確認されたが、調査区範囲外である北側に分布が伸びると考えられる。分布密度の高い60ライン周辺と密度の低い59ライン周辺に分けられる。搔器3点、錐形石器1点、舟底形石器2点（Ⅱ類2点）、二次加工ある剥片1点、縦長剥片1点、剥片810点の計818点、重量2,761.1gの石器類が出土した。石材は黒曜石4が86.4%を占め、以下黒曜石1（12.3%）、黒曜石5（0.6%）、黒曜石2（0.1%）、黒曜石3（0.1%）、頁岩（0.1%）、流紋岩（0.1%）、めのう（0.1%）である。黒曜石4が多く、ツールでは搔器・舟底形石器の出土が特徴的で、それらは分布密度の低い59ライン周辺に分布する。

#### 石器ブロック32 (Sb-32) の分布 (図IV-390、表IV-7・8)

H57・58、I58、J57・58区の11×5mの範囲で確認された。分布密度は比較的低い。尖頭器1点、搔器4点、削器5点、二次加工ある剥片1点、石刃6点、縦長剥片6点、石核2点、剥片474点、台石1点の計500点、重量6,546.5gの石器類が出土した。石材は黒曜石4が65.8%を占め、以下黒曜石1（26.8%）、黒曜石5（5.2%）、黒曜石2（1.4%）、黒曜石3（0.4%）、頁岩（0.2%）、安山岩（0.2%）である。石材では黒曜石4が多く、ツールでは搔器・削器が多いのが特徴である。

#### 石器ブロック33 (Sb-33) の分布 (図IV-390、表IV-7・8)

H57・58区の4×4mの範囲で確認された。尖頭器2点、削器4点、舟底形石器1点（Ⅱ類1点）、二次加工ある剥片1点、石刃47点、縦長剥片67点、石刃核1点、剥片595点の計718点、重量17,282.7gの石器類が出土した。石材は黒曜石1が91.8%を占め、以下黒曜石4（4.6%）、黒曜石5（3.5%）、黒曜石3（0.1%）である。分布密度は高く、石刃・縦長剥片が非常に多い。

#### 石器ブロック34 (Sb-34) の分布 (図IV-391、表IV-7～10)

H56・57、I57区の9×4mの範囲で確認されたが、調査範囲外である北側に分布は伸びると考えられる。尖頭器8点、両面調整石器2点、削器3点、細石刃核2点、石刃13点、縦長剥片64点、石刃核1点、石核2点、削片9点（細石刃核削片8点、尖頭器削片1点）、剥片1,708点、台石1点の計1,813点、重量21,470.2gの石器類が出土した。石材は黒曜石1が52.7%を占め、以下黒曜石4（20.2%）、黒曜石2（10.7%）、黒曜石5（9.3%）、黒曜石3（7.0%）、安山岩（0.06%）である。分布密度の高い小集中域が3か所ある。石材は黒曜石2が含まれ、周辺ブロックにはみられない細石刃関連資料が含まれるのが特徴である。剥片以外の石器はHI57区に集中している。

#### 石器ブロック35（Sb-35）の分布（図IV-391～393、表IV-9・10）

H54～56、I54～57、J54～57、K55～57区の15×14mの範囲で確認されたが、若干調査範囲外の北側に分布は伸びると考えられる。C区の中で最大のブロックである。尖頭器21点、両面調整石器2点、ナイフ形石器1点、彫器2点、搔器6点、削器15点、舟底形石器7点（Ⅱ類7点）、二次加工ある剥片4点、石刃32点、縦長剥片58点、石刃核9点、石核11点、削片4点（細石刃核削片2点、尖頭器削片1点、その他削片1点）、剥片5,363点、台石2点の計5,537点、重量54,150.0gの石器類が出土した。石材は黒曜石1が58.2%を占め、以下黒曜石4（29.4%）、黒曜石5（6.2%）、黒曜石3（5.5%）、黒曜石2（0.6%）、安山岩（0.1%）である。H55・56、I56、I・J55、J56区の4か所の小集中域に分けられる。H55・56区の小集中域には転礫素材で作業面が幅広い石刃核が含まれ、尖頭器が多い。I56区の小集中域はツールが少ない。I・J55区の小集中域は刃部が弧状の搔器が多く、J56区の小集中域には舟底形石器・尖頭器が多い。彫器はJ55・56区に分布し、型式の異なる36のみJ57区に分布する。細石刃関連資料は一括遺物を含め散漫に分布している。石核類は石質4の小型のものがJ55・56区周辺に分布する。

#### 石器ブロック30～35（Sb-30～35）の接合状況（図IV-394）

全体的には各ブロック内の小集中域を単位としてまとまるが、Sb-33・34では小集中域内での接合率が高く、相互にまたがる接合が多い。また、区域を越えた接合もみられる。

#### 接合資料2662（図IV-395、図版267-3）

**素材** 接合2662は3点（3個体）が接合し、重量は6.6g、大きさは3.5×1.4×1.1cmである。原石形状は不明、剥片ないし石刃・縦長剥片素材で搬入形態は不明。

**剥離工程** 母型作成：素材の先端側を細石刃剥離作業面に、打面側を細石刃核基部に設定しているが、母型作成時の二次加工は不明。

削片剥離：先行の削片剥離後、甲板面から左側面、側面から甲板面の削片打面周辺に加工が行われ、24が剥離される。その後、同様に23・25が剥離される。25の剥離の際には削片剥離打面部を甲板面からの加工で尖頭状に調整している。

**分布** Sb-34のH57区に分布している。

#### 母岩別資料260・接合資料1464（図IV-395～397、図版265・266）

母岩別資料は接合1464の他、接合51184、縦長剥片1点、剥片41点で構成され、総点数99点、総重量5,305.9gである。

**素材** 54点（33個体）が接合し、重量は4,722.1g、大きさは24×22×18cmである。角の潰れた亜角礫を素材として原石ないし原石に近い形態で搬入されている。

**剥離工程** 右側面から裏面へ剥離が行われ（1）、正面左上から縦長剥片が剥離（2）された後、正面右上から縦長剥片が剥離される（3）。以後、正面左下からの剥離（4）→正面右上からの剥離（5）

→右側面調整（6）→裏面左上からの剥離（7）→正面左上からの剥離（8）が行われる。正面では主に左右上縁・下縁から、裏面では右側面下部・上縁からの剥離が行われる。頻繁な打面転移の結果、石核75の形状は円盤状になる。石核の縁辺部には頭部調整状の細かい剥離が残る。段階2で剥離された厚手で大型の剥片（個体A）は細石刃核に加工されている。個体Aに関して以下に説明を行う。

個体A母型作成：縦長剥片の先端側を細石刃核基部に、打面側を細石刃剥離作業面に設定し、上縁部は背面・腹面側の一部に、下縁部は背面側の全体・腹面側の一部に加工が施される。

削片剥離：一次削片に近い二次削片IV-569-12剥離後、甲板面中央部に右側面から、削片剥離打面周辺の左側面に甲板面から加工が行われ、22が剥離される。再度、甲板面・左側面への加工の後、21が剥離される。右側面に傾く断面三角形の削片剥離後、削片剥離打面部に甲板面から加工を行い、甲板面中央部を左側面から加工した際に細石刃核は折損している。22の打面は厚く、厚手の削片を意図して剥離されたと考えられる。

**分布** Sb-32・34のH57・58、I57区に分布している。分布はH57区の北西部、南西部、H58区の3か所に分かれるが、それらは段階差や大きさで分けることはできない。細石刃関連の個体AはH57区北西部に分布する。

**母岩別資料259・接合資料1456・1457**（図IV-398・399、図版266・267-1・2）

母岩別資料は接合1456・1457の他、接合1458～1463・51182・51183、縦長剥片2点、剥片80点で構成され、総点数172点、総重量3,977.7gである。

**素材** 接合1456は62点（38個体）が接合し、重量は3,399.7g、大きさは25×15×14cmである。接合1457は5点（3個体）が接合し、重量は34.5g、大きさは8.2×2.4×2.0cmである。角の潰れた垂角礫を素材として原石の形態で搬入されている。

**剥離工程** 稜形成を含む石核調整（1）後、上設の複剥離打面から石刃が剥離される（2）。下設打面作出（3）後、打面調整（5）を挟んで下面から石刃剥離が行われる（4）。最後に裏面で石刃剥離が行われる（6）。接合1457は段階1で左側面から正面側で剥離されたと考えられる厚手の剥片を素材としている。接合1457に関しては以下に説明を行う。

接合1457母型作成：剥片の先端側を細石刃核基部に、打面側を細石刃剥離作業面に設定している。一次削片・細石刃核が欠落し、母型作成時の加工は不明である。

削片剥離：先行の削片剥離後、削片打面周辺を甲板面から調整し、IV-222-205が剥離される。下縁部から左側面への加工後、再度削片打面周辺の調整が行われ、IV-220-179が剥離される。IV-220-179の剥離によってできた甲板面の段差を除去するように右側面から甲板面に加工が行われ、削片剥離打面部周辺の甲板面への加工後、IV-220-180が剥離される。

**分布** Sb-17のI64・65、J63、Sb-34のH57区の2か所に分布している。段階1の大型剥片、段階2・4の最終剥離剥片を除いた段階1～5はSb-34に、段階6以降のものはSb-17に分布する。段階1で剥離された剥片素材の細石刃核削片接合資料である接合1457は、H64・65、I64区に分布している。段階で分布に違いがあり、段階1～5はH57区周辺で剥離が行われた後、I64区周辺に持ち込まれ剥離が行われたと考えられる。また、段階1の剥片も選択されてI64区に持ち込まれ、細石刃核に加工されている。

**母岩別資料261・接合資料1465**（図IV-400・401、図版268）

母岩別資料は接合1465の他、接合1466～1469・51185～51191、剥片142点で構成され、総点数236点、総重量4,805.5gである。

**素材** 66点（38個体）が接合し、重量は3,407.2g、大きさは29×20×17cmである。爪状痕のある原

礫面を持つ転礫を素材として正面を稜状に粗割りした形態で搬入されている。

**剥離工程** 上面から右側面への剥離(1)、正面から上面への剥離(2)、裏面から左側面への剥離(3)、右側面から裏面への剥離(4)、稜調整右側面(5)、稜調整左側面(6)の一連の石核調整後、頭部調整を伴う石刃が剥離される(7)。石刃剥離の際には打面再生(8)が頻繁に行われ、下縁部調整(9)も行われる。石刃剥離の際の稜調整が顕著で稜部は擦り潰され、頻繁な打面再生により石刃核高が8cm程度減少している。剥離された石刃は20cm程度で、多くは欠落し、搬出されている。

**分布** Sb-34・35のH57、I56・57、J56区に分布する。分布は大きくH57区とJ56区の2か所に分かれるが、それらに段階差は認められず、石器の内容による違いも明確には認められない。

**母岩別資料189・接合資料1257** (図IV-401・402、図版267-4)

母岩別資料は接合1257の他、接合51125、剥片1点で構成され、総点数42点、総重量2,366.1gである。

**素材** 39点(21個体)が接合し、重量は2,327.1g、大きさは21×14×12cmである。角の潰れた転礫を素材として原石の形態で搬入されている。

**剥離工程** 正面からの剥離による打面作出(1)後、石刃核の打面縁辺部を直線的にする顕著な頭部調整を伴う石刃剥離が行われる(3)。(2)の横方向の剥離がみられるが原石内部に内在する割れであった可能性が強い。剥離された石刃は12cm程度で、中央部で剥離された幅広のものは欠落し、搬出されたと考えられる。

**分布** Sb-22のP64、Sb-35のH55区の2か所に分かれて分布している。P64区から出土したのは比較的形の整った石刃・剥片で、H55区から出土したのはそれ以外の遺物であるため、P64区に選択された石刃類が持ち込まれたと考えられる。

**母岩別資料270・接合資料1499** (図IV-402・403、図版269)

母岩別資料は接合1499の他、接合1500、剥片1点で構成され、総点数15点、総重量1,567.3gである。

**素材** 10点(7個体)が接合し、重量は1,367.3g、大きさは11×14×14cmである。角の潰れた亜角礫を素材として原石に近い形態で搬入されている。

**剥離工程** 左側面を打面として正面で剥離が行われた後、上面に打面を転移させ、正面上から幅広の石刃が剥離されている。

**分布** Sb-35のH55・56区にまとまって分布している。

**母岩別資料343・接合資料1698** (図IV-403、図版269)

母岩別資料は接合1698のみである。

**素材** 24点(12個体)が接合し、重量は2,100.9g、大きさは23×16×13cmである。爪状痕のある原礫面を持つ転礫を素材として原石で搬入されている。

**剥離工程** 転礫の長軸を横方向に利用し、末端部を粗い剥離(1)によって切り落とし、横方向の剥離(2)の後、反対側の端部を切り落とす剥離を行い、さらに頭部調整を伴う石刃剥離(3)が行われている。

**分布** Sb-35のH55区にまとまって分布している。

**母岩別資料289・接合資料1557** (図IV-404~407、図版272~278)

母岩別資料は接合1557の他、接合1558~1567・51218~51221、縦長剥片8点、剥片224点で構成され、総点数476点、総重量16,131.7gである。

**素材** 200点(128個体)が接合し、重量は499,641.1g、大きさは37×28×34cmである。平滑な原礫面を持つ大型の角礫を素材として原石の形態で搬入されている。

**剥離工程** 大型剥片である個体Aの剥離によって個体Bの打面が作出される。

個体 A は先端部折損(1)、打面作出(2)、稜調整後、顕著な頭部調整を伴う石刃が剥離される(3)。石刃剥離の途中で下面からの調整(4)が行われる。図版278-93は個体 A の打面作出剥片・先端部折損剥片を外した写真である。上面を見ると石刃核に近い中央の石刃が欠落しており、搬出されたものと考えられる。

個体 B は打面作出時の欠損(1)、稜調整(2)後、顕著な頭部調整を伴う石刃剥離が行われる(3)。石刃剥離の進行に伴い作業面が平坦化すると下面から剥離が行われ(4)、作業面の末端部側面形が弧状になるように維持される。最後は薄くなった石刃核を横方向に分割している(5)。

段階3で剥離された厚手の縦長剥片(個体 A)、段階5で剥離された剥片(個体 B)、石核(個体 C・図版276-91)は舟底形石器に加工され、それぞれ搬出されている。図版274-90の上面を見ると内側から左側面にかけての石刃が欠落し、搬出されている。

個体 A・Bとも15~20cmの石刃が剥離されている。

**分布** Sb-32~35の H56~58、I56~58、J55・57区に分布し、ほとんどは Sb-33の H57・58区にまとまっている。H57・58区以外に分布する石器は石刃が多いが、他の石刃と明確な違いはみられない。

#### 写真のみ掲載の遺物

母岩別資料265・接合資料1482(図版270・271)は爪状痕のある黒曜石2(梨肌)の転礫素材で原石の形状で搬入されている。石核調整の後、正面で頭部調整を伴う石刃剥離が行われる。石刃核は出土していない。30cmを越える大型の原石素材であるが接合する石器は、ほとんどが石核調整剥片で良形の石刃は無い。

母岩別資料339・接合資料1690(図版271)は10cm以下の非常に小型の転礫を素材として上下方向から分割されている。分割された剥片は側縁が加工されている。(鈴木宏行)

### (13) D区・石器ブロック36~55(Sb-36~55)の石器

#### 出土状況(表Ⅳ-9~12)

尖頭器264点、両面調整石器59点、ナイフ形石器1点、彫器34点、搔器36点、削器109点、錐形石器7点、舟底形石器111点(I類2点、II類109点)、二次加工ある剥片41点、細石刃1点、石刃201点、縦長剥片440点、石刃核37点、石核54点、削片18点(尖頭器削片11点、その他削片7点)、剥片27,329点、斧形石器1点、台石1点、砥石1点、敲石1点、原石31点の計28,783点、重量257,068.5gの石器類が出土した。石材は黒曜石1が48.6%で最も多く、黒曜石4(30.7%)、黒曜石5(13.2%)、黒曜石3(7.0%)が続き、以下黒曜石2(0.3%)、頁岩(0.09%)、安山岩(0.04%)、軽石(0.03%)、めのう(0.007%)、凝灰岩(0.003%)、砂岩(0.003%)である。細石刃1点を除くと細石刃関連資料が無く、他の区域に比べ彫器が多いのが特徴である。彫器(74%)、錐形石器(100%)、舟底形石器(I類100%、II類45%)は黒曜石4が多く利用されている。今回報告地区では最大の区域で最多の遺物が出土している。

#### 尖頭器(図Ⅳ-408-1~図Ⅳ-421-51、図版279~287)

132点(46個体とI層出土5個体を加えた51個体)を図示している。1~5は斜平行剥離のみられる尖頭器である。1は石刃素材、2は扁平な角礫素材、3~5は石核素材と考えられる。1・2は断面三角形の素材が利用され、加工の度合いは低い。3~5は素材面が残らず、断面が凸レンズ状で、両面の中央に平坦剥離面を残すことから大型の素材から整形され平坦剥離による加工を経て斜平行剥離が行われたと考えられる。3は両端が折損しているが縁辺部で両端から削片状の加工がなされている。

6～39は主に両面とも平坦剥離によって加工されるものでほとんどは断面形が凸レンズ状になる。6～31は比較的幅が狭く、32～39は幅広の尖頭器であるが、これらは漸移的なものである。6～17、32～34は完形ないしほぼ完形、18～31、35～39は折損品である。原礫面の残存するものは10・12・14・15・17・24・32で、角の潰れた亜角礫である14以外は平滑な原礫面を持つ角礫素材である。32は両面に原礫面が残り、扁平な原礫素材である。6は折れ面から再加工されており、結果的に小型になっている。7の縁辺には削片状の加工がみられる。8～10は薄手で形態が整っているが加工の際に折損している。9は、裏面右上の剥離面からその打点位置を推定し、前段階の形態を復元すると、本来は左右対称の尖頭器で、右上を取り込む加工により大きな形態変化があったと考えられる。11は正面両側縁が最終的に角度のある加工によって調整されているため断面形が三角形に近い。12は正面左からの最終剥離面で折損し、13の中央の折れ面は放射状である。14は裏面右からの剥離が反対側縁を取り込んでいるため直線的になっている。また、折損後、折れ面から加工が行われる。15の両端には原礫面ないし古い面が残存し、素材形状を残す。細長い16は左側縁を取り込む加工により大きく形態を変化させている。17は23cmと大型で左右非対称である。19は先端部の折損後、再加工が行われる。22には剥離による折れ面を切る2か所の放射状の折れ面がある。23の左側縁下部は右側縁下部からの剥離によって切り取られている。28の下部の折損は被熱によるものである。30・33は裏面に大型の剥離面が残るが、古い面であるため石核素材と考えられる。31は縁辺を取り込む割れによって不安定な平面形である。35は中央を斜めに二分する折損後、折れ面から再加工される。

40～44・48・50は粗い加工で整形されたものである。原礫面が残るのは40・43・44・48・50で、角の潰れた亜角礫素材である40・44以外は平滑な原礫面を持つ角礫素材である。41・42は折損後、再加工が行われる。48・50は被熱による折れ面が含まれる。50は初期の加工により不安定な下部形状が決定されている。20cmを越える大型品が多く、原礫面を残すものが多いことから石核素材の尖頭器の初期段階であると考えられる。

45～47・49は両側縁に角度のある加工のみられる細長い形態のものである。45～47は両端に折れ面があり、その面から加工がみられる。両側縁の急角度の加工は折れた後の再加工の結果と考えられ、再加工を繰り返した最終的な形態と考えられる。

51は尖頭器折損後、折れ面から側縁で削片状の剥離が行われている。

#### 両面調整石器 (図IV-422-52～図IV-425-57、図版288～291)

34点(6個体)を図示している。52以外は原礫面が残り、全て平滑な原礫面を持つ角礫素材である。55は厚さ2cmの薄い扁平な原石素材で、56・57は4cm程度の扁平な原石素材である。部分的な粗い加工のものが多く、また、厚手のものが多いことから尖頭器製作の最初の段階であると考えられる。また、56・57は同一母岩が無く、試し割りされた状態で搬入され、そのまま遺棄されたと考えられる。

#### 尖頭器削片 (図IV-425-58～62、図版291)

7点(3個体とI層出土2個体を加えた5個体)を図示している。58～60・62は両面加工、61は片面加工に近い尖頭器の縁辺を取り込むように剥離されている。61のみ打面が残存し、折れ面ではなく尖頭器縁辺を打面としている。

#### ナイフ形石器 (図IV-425-63、図版291)

1点(1個体)を図示している。63は原礫面が残る幅広の削片を横方向に利用し、直線的な一側縁を残し、素材打面部・末端部を斜めにやや内湾するように断ち切る急角度の加工が施される。腹面には素材のバルブを除去する加工が右側縁から行われ、両側縁の縁辺部は潰れている。素材背面と腹面の剥離方向は直交し、打面転移の行われた石核から剥離されている。

**彫器** (図Ⅳ-426-64～図Ⅳ-427-94、図版291・292)

35点(27個体とⅠ層出土4個体を加えた31個体)を図示している。素材は石刃・縦長剥片と考えられるものが多い。素材の打面が残るものは少ないが、頭部調整のある単剥離打面を持つものと打面縁辺部が潰れた複剥離打面を持つものがある。彫刀面は両端に作出される64を含め、全て素材先端部に作出され、右刃の93以外は全て左刃である。彫刀面打面は全て腹面からの加工で作出される。彫刀面形状は64～67・93がⅠ類、68～92・94がⅡ類である。周縁加工は、Ⅰ類のうち64は彫刀面打面のみに、65・67・93は両側縁に行われ、66は基部に左右側縁から背面を覆う加工が行われ、断面が三角形になる。Ⅱ類のうち68～74は背面を覆う加工により断面三角形になり、76～90は縁辺部に急角度の加工がなされ、75・91・92・94は微細な加工が施される。腹面に加工のみられるものは65・66・68・70・72・77・78・81～83・85・90で片側に偏るものが多い。73・88・89は側縁が内湾し、基部が舌状に整形されている。背面先端部調整はⅠ類にはみられないが、Ⅱ類には77・88・92・94を除いて全てみられる。そのうち6割程度の調整は彫刀面に切られ、打点が残らない。形態軸・彫刀面交叉角はⅠ類が60度前後である。Ⅱ類は45～95度と幅があるが、平均は73度でⅠ類より横刃である。彫刀面傾斜角はⅠ類が55度前後で、Ⅱ類は130～140度が多い。彫刀面打面は右側面の背面先端部調整を打面とする70以外は右側縁上端に腹面からの加工でノッチ状に作出される。75は頁岩製で素材と二次加工面の風化の度合いが異なり、素材剥離と二次加工とに時間差があると考えられる。

**彫器削片** (図Ⅳ-427-95、図版292)

1点(Ⅰ層出土1個体)を図示している。95はⅡ類の横刃の彫器から剥離されたものである。右側面にみられる背面先端部調整には打点がなく、直前の彫刀面再生以後、背面先端部調整を行わずに本削片剥離による彫刀面再生が行われる。彫刀面傾斜角は再生前後では約120度でほとんど変化がなく、刃部形状も直線的で変化がみられない。

**搔器** (図Ⅳ-427-96～図Ⅳ-430-131、図版292～294)

41点(27個体とⅠ層出土9個体を加えた36個体)を図示している。96～128は両側縁が平行ないしやや刃部に向かって広がるもので、96～117は両側縁の加工の頻度が低く、ほとんど素材形態が変化しないもの、118～128は両側縁の加工の頻度が相対的に高く、形態変化の度合いの大きいものである。素材はほとんどが石刃・縦長剥片で、打面の残存するものでは118・124・131以外は頭部調整がみられ、原礫面打面である119以外は単剥離打面である。100には稜調整がみられる。129・130は撥形に刃部が開くもので、素材は剥片である。腹面に加工がみられるのは126・129で、126は折損後に腹面加工が行われている。両者とも刃部は摩耗し、円くなり、刃部腹面には刃部に直交する線状痕が観察できる。131は右側縁に加工が偏る厚手の剥片素材のものである。全体的に長幅比の大きいものは直線的な、小さいものは円い刃部のものが多い。96は頁岩製、119・126・128・131は産地分析の結果、それぞれ赤井川・あじさい滝・所山・ケシヨマップ産と判定されている。当センターによる一連の調査で赤井川と判定されたのは奥白滝1遺跡に続いて2例目である。

**錐形石器** (図Ⅳ-430-132～136、図版294)

5点(5個体)を図示している。132は頁岩、133・136はめのう製で黒曜石以外の割合が高い。両側縁に加工がみられる134以外は刃部のみ加工が行われる。また、直線的な加工による134以外はノッチ状の剥離で刃部が作出される。素材は、132～134は石刃・縦長剥片、135は不明、136は剥片である。刃部は素材剥離軸に対して斜めに作出されるものが多い。

**削器** (図Ⅳ-430-137～図Ⅳ-433-159、図版294～296)

39点(19個体とⅠ層出土4個体を加えた23個体)を図示している。143は頁岩製。137～153は石刃

ないし縦長剥片素材で、137～149は片面加工、150～153は両面加工である。長さは7 cm程度の小型品から17cmの大型品まで多様な長さの素材が利用されている。137～145は細かい剥離によって加工され、素材形状はほとんど変化していない。147は平坦剥離によって、148は比較的大きな剥離で加工される。149の下部は平行剥離によって尖頭状に加工され、上部は折損後、折れ面から加工が行われる。腹面の折れ面付近には平坦剥離面が残り、150と同様の石器の再加工品である可能性がある。150の先端部は素材背面の平行剥離によって尖頭状で断面三角形に加工がなされ、基部は両面とも平坦剥離によって幅広な尖頭状に加工されている。151・152は背面両側縁と腹面のバルブを除去するような加工がみられる。153は背面のほぼ全体が平坦剥離によって覆われ、腹面側はバルブ周辺と先端部に平坦剥離が施される。

154～159は剥片素材である。154は厚手の剥片、155は薄手の剥片の端部を尖頭状にする加工がなされている。156は左側縁の素材先端部に平坦剥離がみられ、157は尖頭器調整剥片と考えられる横長剥片の、159は剥片の両側縁に加工がみられる。159は両面が平滑な原礫面で覆われる非常に扁平な原石素材で、正面左側縁には比較的小急角度の、正面右側縁・裏面左側縁には平坦な加工がみられる。

#### 二次加工ある剥片 (図IV-433-160、図版296)

1点(1個体)を図示している。160は厚手の剥片素材で背面右側縁先端部に加工が施される。

#### 舟底形石器 (図IV-433-161～図IV-447-234、図版297～302)

110点(59個体とI層出土14個体とIII層出土1個体を加えた74個体)を図示している。161～167はI類で、端部に細石刃状の剥離痕のあるものが161～163、無いものが164～167である。161は幅が4mmで162(9mm)・163(11mm)に比べ狭い。162は両面調整石器の縁辺部から剥離された削片素材である。163のみ両端に細石刃状の剥離痕がある。163は流理構造のある黒曜石で産地分析の結果、所山産と判定されている。164は素材打面の端部を除いて幅が4mmで161に近く、165は平均して6～7mmで側面の加工にはヒンジによる段差が残る。166も幅が7mmであるが加工は非常に精緻で表面は滑らかである。以上のことから幅によって4～8mmのもの(161・164～167)、8～12mmのもの(162・163)に分けることができる。

168～234はII類で、168～223は完形品、224～234は折損品である。168～207、214～231は剥片あるいは石核素材である。170・174・181・185・202は甲板面に大型のネガティブな剥離面を残す石核素材である。素材剥離軸と石器長軸が一致するものが多く、基本的には石器の長さは素材の長さを反映している。10cm以下のものは小型の剥片ないし石核素材でほとんど黒曜石4が利用され、10～15cmのものは黒曜石1・3～5が、15cm以上のものは大型の剥片ないし石核素材で全て黒曜石1が利用されている。また、角礫・転礫ともに利用されている。加工はほとんどが甲板面から行われ、下縁からの加工のみられるものは甲板面からの加工後に行われたものが多く、さらに甲板面の加工に切られるものもある。特に下縁からの加工範囲の広い189・190・203・226・229～231は、側面が平坦かつ下縁部がシャープで側面形は細長い形状である。205・207の側面には著しい階段状の剥離がみられ、そのため遺棄されたと考えられる。

208～212・233・234は甲板面が原礫面の舟底形石器である。側面形は細長く甲板面が直線的で、234の甲板面・両側面に原礫面が残ることから素材には石器形状に近い棒状原石が利用されたと考えられる。210・212は下縁からの加工もみられ精巧である。213は尖頭器の折損品を素材として片面加工が行われる。214～223は加工の初期の段階で折損あるいは形状の悪化に伴い遺棄されたものである。

#### 石刃・剥片 (図IV-447-235～図IV-450-255、図版303～305)

石刃は40点(20個体)、剥片は2点(1個体)を図示している。235～254は完形、255は折損品であ

る。235～240は剥片素材の石刃核から剥離されたものである。長さは10cm程度で打面は平坦で頭部調整がみられる。239・240は稜付石刃で、236・238には稜調整が残る。241～249は単剥離打面の石刃核から頭部調整を伴って剥離されたものである。長さは12～19cmで大型のものは幅広である。250～254は調整打面の石刃核から剥離されたもので打面の大きいものが多い。長さは12～16cmで252～254は幅広である。242・254・255には角礫面が、250・251には転礫面が残る。

#### 石刃核 (図IV-451-256～図IV-458-280、図版305～309)

37点(23個体とI層出土2個体を加えた25個体)を図示している。256～270は頭部調整のある石刃核で、原礫面打面の259・265・268以外は単剥離打面ないし二、三枚の複剥離打面である。256は作業面が周回し、257・258は剥片素材である。259～263・265・269・270は上下方向ないし多方向の剥離が、264・266～268は上設打面からの剥離のみ行われる。大きさは5～18cmと多様であるが269・270を除くとほぼ10cm以下である。

271～275は調整打面の石刃核である。271は打面転移が行われる。272は裏面に横方向の石核調整があり、273・274は上設打面からの剥離のみで石核調整はみられない。大きさは10～15cmであるが、打面調整による石刃核高の減少を考慮に入れると15cm程度の石刃が剥離されたと考えられる。275は左右両面に石核調整が行われ、頭部調整のある複剥離打面の石刃核である。長さは21cmと大型である。

276～280は頭部調整の無いもので、原礫面打面である278以外は単剥離打面ないし二、三枚の複剥離打面である。角柱状の角礫が主に利用される。一方向のみの276、横方向の剥離のある279以外は上下方向の剥離が行われる。大きさは10～20cmで小型のものはウートラパッセが、大型のものは中央にヒンジがみられる。

#### 石核 (図IV-459-281～図IV-463-299、図版309～312)

20点(15個体とI層出土4個体を加えた19個体)を図示している。281～283は5cm以下の石核で非常に小さい剥離面で構成される。多方向の剥離がみられ、頭部調整・打面調整は行われない。284～293は5～10cmの石核である。多方向の剥離がみられ、頭部調整・打面調整は行われない。大型の剥離面が残るものが多く、舟底形石器の素材となる厚手の剥片が剥離されたと考えられる。294～297は比較的扁平な石核である。主に正面で上下または左右方向から剥離が行われた結果、扁平になったと考えられる。298は扁平な盤状の角礫の正面・裏面で部分的な剥離が行われる。299は両面加工により断面三角形に整形されている。長さ24cmと大型で、275のような石刃核の母型と考えられる。

#### 敲石 (図IV-463-300、図版312)

1点(1個体)を図示している。300は砂岩製。上面は欠損し、下端部に潰打痕がみられる。

#### 砥石 (図IV-464-301、図版312)

1点(1個体)を図示している。301は安山岩製。厚さは14mmと薄く、中央に擦痕のある平滑面がある。周縁は全て欠損している。

#### 斧形石器 (図IV-464-302、図版312)

1点(1個体)を図示している。302は安山岩製。表面は風化し、剥離面が非常に見づらい。刃部には裏面から大きな剥離がみられ、右側縁も加工が施される。

#### 台石 (図IV-464-303・304、図版313)

2点(2個体)を図示している。303・304ともに安山岩製で風化している。303の正面は平滑であるが、裏面は全体が剥落している。304は両面とも平滑で擦痕が部分的に観察される。

**石器ブロック36 (Sb-36) の分布** (図IV-465、表IV-9・10)

I59・60、J58~60、K58~60、L58・59区の15×8mの範囲で確認された。尖頭器4点、彫器11点、搔器5点、削器7点、錐形石器1点、舟底形石器6点(Ⅱ類6点)、石刃9点、縦長剥片14点、石刃核3点、石核5点、剥片1,508点、台石1点の計1,574点、重量11,744.7gの石器類が出土した。石材は黒曜石4が57.6%を占め、以下黒曜石1(33.6%)、黒曜石5(4.1%)、黒曜石3(3.9%)、黒曜石2(0.6%)、頁岩(0.06%)、安山岩(0.06%)である。彫器が多く、基部を舌状に整形した3点が含まれる。彫器11点中9点は黒曜石4である。器種による分布の偏りはあまりなく、全体的に分布している。

**石器ブロック37 (Sb-37) の分布** (図IV-466、表IV-9・10)

K56~58、L56~58、M57区の10×8mの範囲で確認された。尖頭器7点、両面調整石器1点、彫器2点、搔器2点、削器2点、錐形石器2点、舟底形石器4点(Ⅱ類4点)、石刃1点、縦長剥片13点、石刃核1点、石核1点、削片1点(尖頭器削片1点)、剥片425点の計462点、重量4,344.0gの石器類が出土した。石材は黒曜石4が45.2%を占め、以下黒曜石1(36.6%)、黒曜石3(14.5%)、黒曜石5(2.8%)、黒曜石2(0.6%)、めのう(0.2%)、である。L56区に密度の高い集中域があり、舟底形石器がまとまっている。一括遺物には舟底形石器Ⅰ類が含まれる。量は多くないが、ツールの種類が多いのが特徴である。

**石器ブロック38 (Sb-38) の分布** (図IV-467、表IV-9・10)

L55・56、M55・56、N55・56区の8×8mの範囲で確認された。尖頭器4点、両面調整石器2点、彫器2点、搔器1点、削器3点、舟底形石器6点(Ⅱ類6点)、縦長剥片7点、削片2点(尖頭器削片1点、その他削片1点)、剥片645点の計672点、重量8,360.0gの石器類が出土した。石材は黒曜石4が77.2%を占め、以下黒曜石3(14.9%)、黒曜石1(5.7%)、黒曜石5(2.2%)である。搬入された形態の大型両面調整石器が2点出土している。黒曜石1が少ないものの器種組成・石材組成はSb-36・37に類似する。

**石器ブロック39 (Sb-39) の分布** (図IV-467・468、表IV-9・10)

H52~54、I52~54、J53・54区の11×9mの範囲で確認されたが、調査範囲外である北側に分布が広がると思われる。彫器3点、搔器6点、削器2点、錐形石器1点、舟底形石器9点(Ⅱ類9点)、二次加工ある剥片3点、石刃2点、縦長剥片19点、石刃核1点、石核3点、剥片2,563点の計2,612点、重量16,150.0gの石器類が出土した。石材は黒曜石1が61.7%を占め、以下黒曜石4(19.8%)、黒曜石3(13.6%)、黒曜石5(4.9%)、である。分布は南北方向に細長い。ツールの種類・量が多いのが特徴だが、ほとんどの彫器・搔器には黒曜石1が、全ての舟底形石器には黒曜石4が利用されている。舟底形石器は10cm以下のもので小型の原石から剥離された剥片・石核を素材としている。

**石器ブロック40 (Sb-40) の分布** (図IV-469、表IV-9・10)

H51~53、I51・52区の8×5mの範囲で確認されたが、調査範囲外である北側に分布が広がると思われる。尖頭器2点、削器1点、舟底形石器1点(Ⅱ類1点)、二次加工ある剥片1点、石刃8点、縦長剥片12点、石刃核12点、剥片747点の計784点、重量10,026.2gの石器類が出土した。石材は黒曜石1が62.1%を占め、以下黒曜石3(23.2%)、黒曜石4(11.1%)、黒曜石5(3.6%)である。3か所の小集中域があり、特に、H52区中央東側の集中域は密度が高い。石刃核は3個体出土し、それぞれの打面形状は、単剥離打面・複剥離打面・調整打面と異なっている。

**石器ブロック41 (Sb-41) の分布** (図IV-469、表IV-9・10)

H50・51、I50・51区の6×5mの範囲で確認されたが、調査範囲外である北側に分布が広がると

思われる。尖頭器 1 点、削器 2 点、舟底形石器 1 点（Ⅱ類 1 点）、剥片 317 点の計 321 点、重量 1,583.1g の石器類が出土した。石材は黒曜石 1 が 92.5% を占め、以下黒曜石 4（6.5%）、黒曜石 3（0.6%）、黒曜石 2（0.3%）である。石材は黒曜石 1 がほとんどである。

#### 石器ブロック 42 (Sb-42) の分布 (図Ⅳ-470、表Ⅳ-9・10)

J53・54、K53～55、L53・54区の 7×7 m の範囲で確認された。尖頭器 3 点、搔器 2 点、削器 2 点、舟底形石器 2 点（Ⅱ類 2 点）、二次加工ある剥片 1 点、石刃 16 点、縦長剥片 20 点、石刃核 2 点、剥片 1,153 点の計 1,201 点、重量 12,603.0g の石器類が出土した。石材は黒曜石 1 が 64.0% を占め、以下黒曜石 4（18.6%）、黒曜石 5（11.2%）、黒曜石 3（6.2%）である。舟底形石器は幅広のⅠ類と甲板面が原礫面のⅡ類が出土し、Ⅰ類の舟底形石器は産地分析の結果、所山産という結果が得られている。石刃核は調整打面のもと頭部調整を行わない単剥離打面のものが出土している。

#### 石器ブロック 43 (Sb-43) の分布 (図Ⅳ-470、表Ⅳ-9・10)

I52・53、J52・53、K52・53区の 8×5 m の範囲で確認された。尖頭器 2 点、搔器 1 点、錐形石器 1 点、舟底形石器 7 点（Ⅱ類 7 点）、石刃 2 点、縦長剥片 2 点、剥片 705 点の計 720 点、重量 3,647.3g の石器類が出土した。石材は黒曜石 4 が 58.5% を占め、以下黒曜石 1（26.9%）、黒曜石 3（11.7%）、黒曜石 5（2.9%）である。舟底形石器が多く、10cm 以下の小型の素材が利用されている。

#### 石器ブロック 44 (Sb-44) の分布 (図Ⅳ-471、表Ⅳ-9・10)

J52、K52・53、L52・53区の 9×6 m の範囲で確認された。尖頭器 9 点、搔器 7 点、削器 3 点、舟底形石器 5 点（Ⅱ類 5 点）、二次加工ある剥片 4 点、石刃 4 点、縦長剥片 12 点、石刃核 1 点、石核 3 点、剥片 2,656 点、原石 3 点、敲石 1 点の計 2,708 点、重量 19,058.1g の石器類が出土した。石材は黒曜石 1 が 60.4% を占め、以下黒曜石 4（16.8%）、黒曜石 5（13.2%）、黒曜石 3（9.6%）、砂岩（0.04%）である。高密度のブロックで彫器以外のツールが多い。石材と器種に偏りがみられ、尖頭器・搔器・削器には黒曜石 1 が、舟底形石器・石刃・縦長剥片には黒曜石 4 が多い。ブロックの東に搔器が、西に舟底形石器・石核類が出土している。石核は多方向の剥離面が残る小型のもので、舟底形石器の素材となる厚手の剥片が剥離されたと考えられる。119の搔器は産地分析で赤井川産という結果が得られている。

#### 石器ブロック 45 (Sb-45) の分布 (図Ⅳ-472、表Ⅳ-9・10)

I50・51、J50～52、K50・51、L49～51、M49・50区の 16×11m の範囲で確認された。尖頭器 1 点、ナイフ形石器 1 点、削器 4 点、錐形石器 1 点、二次加工ある剥片 2 点、石刃 4 点、縦長剥片 6 点、石核 5 点、剥片 137 点の計 161 点、重量 1,757.7g の石器類が出土した。石材は黒曜石 1 が 55.3% を占め、以下黒曜石 5（20.5%）、黒曜石 4（13.7%）、黒曜石 3（9.3%）、黒曜石 2（0.6%）めのう（0.6%）である。分布範囲は広範囲であるが非常に散漫である。J・K51区 of 石核は多方向からの剥離によって薄手の不定形剥片が剥離されたもので、63のナイフ形石器の素材はそのような不定形剥片である。

#### 石器ブロック 46 (Sb-46) の分布 (図Ⅳ-473～475、表Ⅳ-9・10)

K55・56、L53～55、M53～55、N53～56、O53～56、P53・54、Q53区の 26×13m の範囲で確認された。尖頭器 50 点、両面調整石器 35 点、彫器 1 点、搔器 2 点、削器 20 点、舟底形石器 17 点（Ⅱ類 17 点）、二次加工ある剥片 4 点、細石刃 1 点、石刃 33 点、縦長剥片 66 点、石刃核 1 点、石核 16 点、削片 6 点（尖頭器削片 4 点、その他削片 2 点）、剥片 2,346 点、台石 2 点、原石 22 点の計 2,622 点、重量 32,399.5g の石器類が出土した。石材は黒曜石 1 が 65.2% を占め、以下黒曜石 5（16.4%）、黒曜石 4（11.9%）、黒曜石 3（4.7%）、黒曜石 2（1.6%）、安山岩（0.1%）である。L～N53・54区に集中域があり、その周辺は散漫な分布である。出土している多量のツールのほとんどはこの集中域に

分布している。尖頭器は角礫素材・剥片素材で、平行剥離のみられる小型のものから比較的大型のものまで多様で、薄い板状の原石の縁辺のみに加工が施された初期段階で遺棄されたものがある。原石は22点出土しているが全てこの種の板状、あるいは棒状のもので尖頭器・原礫面の甲板面を持つ舟底形石器の素材となっていたと考えられる。舟底形石器は10cmを越える大型のものが多く、甲板面に原礫面の残るものもみられ、黒曜石1の原石ないし大型剥片素材と考えられる。一括遺物では両面調整石器の削片素材であるI類の162がある。また、頁岩製彫器がM53区のI層から出土している。石核は集中域には少なく、扁平な原石に部分的な剥離の行われた石核以外は、頭部調整の無い単剥離打面の276のみである。128・131の搔器は産地分析によりそれぞれ所山・ケシヨマップ産の結果が得られている。

#### 石器ブロック47 (Sb-47) の分布 (図IV-476~480、表IV-9・10)

K52、L51~53、M50~53、N51~53、O50~53、P50~53区の21×11mの範囲で確認された。尖頭器39点、両面調整石器18点、彫器15点、搔器7点、削器26点、錐形石器1点、舟底形石器29点(I類2点、II類27点)、二次加工ある剥片14点、石刃103点、縦長剥片183点、石刃核12点、石核6点、削片8点(尖頭器削片4点、その他削片4点)、剥片8,635点、斧形石器1点、台石1点、原石3点の計9,101点、重量82,129.8gの石器類が出土した。石材は黒曜石4が50.7%を占め、以下黒曜石1(24.6%)、黒曜石5(21.2%)、黒曜石3(3.4%)、頁岩(0.1%)、安山岩(0.01%)、凝灰岩(0.01%)である。D区の中で最大の遺物量のブロックである。長径2~3mの高密度の小集中域が連続した分布を示している。尖頭器は20cmを越える大型のものから10cm以下の小型のものまで出土し、分布にあまり偏りがなく、全体的に分布している。彫器はM・N51・52区に散漫に分布している。搔器はM・N51区にまとまりがある。舟底形石器はM52区とN52区に分布が分けられ、前者には10cm以下の黒曜石4のII類が、後者には10cm以上の黒曜石1の棒状原石ないし剥片素材のII類が分布している。I類は両地点から出土している。石核類は10cm以下の黒曜石4の素材を剥離したと考えられる小型の石核、石刃核がほとんどでM~P51区に分布している。これらと舟底形石器の分布は一致しない。M52区には頭部調整のない単剥離打面の石刃核が分布している。利用される石材は尖頭器には黒曜石1が、両面調整石器・彫器・搔器には黒曜石4が、削器には黒曜石1・5が、舟底形石器には黒曜石1・4が多い。また、石核・石刃核は黒曜石4が多く、黒曜石1・5が少なく、剥片類も同様であるため、黒曜石4の剥片剥離が主体的であると考えられる。一方、石刃類は黒曜石1・5の比率が高く、それらは他の場所から持ち込まれたと考えられる。

#### 石器ブロック48 (Sb-48) の分布 (図IV-481、表IV-9・10)

M50・51、N49~51、O49・50、P49・50、Q49・50区の15×5mの範囲で確認された。両面調整石器1点、搔器1点、削器1点、舟底形石器2点(II類2点)、二次加工ある剥片4点、石刃10点、縦長剥片52点、石刃核2点、石核2点、剥片1,071点、原石1点の計1,147点、重量12,501.5gの石器類が出土した。石材は黒曜石1が79.9%を占め、以下黒曜石5(14.0%)、黒曜石4(2.4%)、黒曜石2(2.2%)、黒曜石3(1.4%)、頁岩(0.1%)である。高密度のN・O50区の集中域と低密度のP49・50区の集中域がある。前者には多方向の剥離による扁平な石核と頭部調整のない単剥離打面の石刃核が、後者には打面調整のある石核と5cm以下の小型の石核が出土している。

#### 石器ブロック49 (Sb-49) の分布 (図IV-481、表IV-9・10)

M49、N48~50、O48・49、P48区の11×5mの範囲で確認された。尖頭器3点、削器3点、舟底形石器1点(II類1点)、二次加工ある剥片1点、石刃1点、縦長剥片8点、石刃核1点、石核3点、剥片372点、台石1点、原石1点の計395点、重量8,780.6gの石器類が出土した。石材は黒曜石1が

59.5%を占め、以下黒曜石4(32.7%)、黒曜石3(5.3%)、黒曜石2(1.0%)、黒曜石5(1.0%)、安山岩(0.5%)である。作業面が周回する小型の石刃核、折損後折れ面から再加工の行われた尖頭器が出土している。

#### 石器ブロック50 (Sb-50) の分布 (図IV-482、表IV-9~12)

Q52・53、R51~53区の8m×7mの範囲で確認された。尖頭器15点、両面調整石器1点、削器3点、舟底形石器2点(Ⅱ類2点)、縦長剥片1点、剥片526点の計548点、重量2,480.9gの石器類が出土した。石材は黒曜石1が85.6%を占め、以下黒曜石3(10.2%)、黒曜石4(2.4%)、黒曜石5(1.8%)である。尖頭器が多いのが特徴で、10~20cmの比較的薄手のものが出土している。舟底形石器は10cmを越える大型のものである。

#### 石器ブロック51 (Sb-51) の分布 (図IV-483、表IV-11・12)

P50・51、Q50~52、R50・51区の10×7mの範囲で確認されたが、調査範囲外である南側に分布が若干広がると考えられる。尖頭器19点、削器2点、舟底形石器15点(Ⅱ類15点)、二次加工ある剥片2点、石刃1点、縦長剥片5点、石刃核1点、石核1点、削片1点(尖頭器削片1点)、剥片1,222点の計1,269点、重量6,493.7gの石器類が出土した。石材は黒曜石1が83.4%を占め、以下黒曜石5(7.6%)、黒曜石4(6.7%)、黒曜石3(2.4%)である。尖頭器が多いのが特徴で、10~20cmの比較的薄手で整った形状の尖頭器がみられるものの折損品が多い。舟底形石器は10cmを越える大型のもので、石刃核は打面調整のあるものである。

#### 石器ブロック52 (Sb-52) の分布 (図IV-484、表IV-11・12)

R49・50、S49・50区の8×8mの範囲で確認されたが、調査範囲外である南東部に分布が広がると思われる。尖頭器53点、両面調整石器1点、削器20点、二次加工ある剥片4点、縦長剥片2点、石核1点、剥片441点、台石1点の計523点、重量9,074.8gの石器類が出土した。石材は黒曜石1が63.3%を占め、以下黒曜石4(15.1%)、黒曜石5(10.3%)、黒曜石3(8.2%)、頁岩(2.5%)、黒曜石2(0.2%)、安山岩(0.2%)、軽石(0.2%)である。器種は偏り、非常に多くの尖頭器・削器が出土している。尖頭器は20cmを越える大型のものから平行剥離のみられる小型のものまで出土しているが、ほとんどが折損品である。また、尖頭器製作の初期段階と考えられる両面調整石器も出土している。削器は大型の石刃・剥片素材で縁辺部に連続的な加工がみられる。尖頭器はSb-27・60と接合関係のあるものがあり、その距離はそれぞれ44m・30mである。

#### 石器ブロック53 (Sb-53) の分布 (図IV-485、表IV-11・12)

P48・49、Q48~50、R48・49区の11×9mの範囲で確認された。尖頭器21点、搔器2点、削器1点、舟底形石器1点(Ⅱ類1点)、石刃3点、縦長剥片13点、剥片1,020点の計1,061点、重量3,895.8gの石器類が出土した。石材は黒曜石1が63.2%を占め、以下黒曜石5(15.2%)、黒曜石4(11.7%)、黒曜石3(9.9%)である。尖頭器が多く、20cm前後の大型のものが多い。搔器は幅広の石刃が利用される。隣接するSb-54と複数の接合関係がみられる。

#### 石器ブロック54 (Sb-54) の分布 (図IV-486、表IV-11・12)

O47・48、P46~48、Q46~48、R47区の10×5mの範囲で確認された。尖頭器31点、削器7点、舟底形石器3点(Ⅱ類3点)、二次加工ある剥片1点、石刃4点、縦長剥片5点、石核8点、剥片701点、台石1点、砥石1点、原石1点の計763点、重量9,721.5gの石器類が出土した。石材は黒曜石1が59.8%を占め、以下黒曜石3(14.3%)、黒曜石5(13.4%)、黒曜石4(11.0%)、軽石(0.9%)、頁岩(0.3%)、安山岩(0.3%)、黒曜石2(0.1%)である。尖頭器が多く、20cm前後の大型のものが多い。舟底形石器は10~15cmの中型のもので、石核は単剥離打面を持つ5cm以下の小型のもの

が多い。隣接するSb-54と複数の接合関係がみられる。

#### 石器ブロック55 (Sb-55) の分布 (図IV-487、表IV-11・12)

R46、S46・47区の5×5mの範囲で確認されたが、調査範囲外である南側に分布が広がると思われる。剥片139点、重量316.3gの石器が出土した。石材は黒曜石1が62.6%を占め、以下黒曜石5(36.0%)、黒曜石3(0.7%)、黒曜石4(0.7%)である。ツールを含まない小規模なブロックである。

#### 石器ブロック36～55 (Sb-36～55) の接合状況 (図IV-487)

全体的には接合分布は各ブロック内での小集中域を単位としてまとまるが、ブロックや地区をまたがる接合資料もあり、特にSb-47とB地区のSb-27との接合資料が多く、関連が強い。折れ面接合ではSb-47とA地区のSb-17との接合が多く認められる。これは尖頭器調整剥片の接合資料(母岩142・接合1142・1143)であるが、分布は剥離段階に対応せず、また、剥離後にそれぞれの地点に廃棄されたと考えられる。

#### 母岩別資料414・接合資料1926 (図IV-488～490、図版314)

母岩別資料は接合1926のみである。

**素材** 222点(103個体)が接合し、重量は2,684.1g、大きさは34×20×9cmである。平滑な原礫面を持つ角礫を素材として粗加工された大型の尖頭器で搬入されている。

**剥離工程** 遺跡内に搬入された時点では粗い加工で表面に凹凸がみられる。最初は、それらを除去するように比較的厚手で大型の剥片が剥離され、全体の形状が整えられる(1～8)。一連の剥離によって厚みが減少し、断面は凸レンズ状に変化している。さらに、薄手の幅広剥片剥離によって薄く整形され(9～13)、28×13×2cmの尖頭器で搬出される。尖頭器形状は長さの変化が少なく、厚さが最も変化している。

**分布** Sb-14～37のL56、Sb-38のM55・56、Sb-46のN54、Sb-47のL52、M52、N51・52、O50・51、P50・51区に分布しているが、ほとんどはO51区に集中している。Sb-37・38に分布する剥片は段階1・2で剥離されたものである。

#### 母岩別資料345・接合資料1700 (図IV-490・491、図版315-1)

母岩別資料は接合1700の他、接合1701・1702で構成され、総点数49点、総重量600.2gである。

**素材** 43点(30個体)が接合し、重量は581.7g、大きさは20×13×4cmである。角が潰れた平滑な原礫面を持つ角礫を素材としておそらく原石に近い形態で搬入されている。

**剥離工程** 縁辺部調整を伴わない打面の大きい厚手の剥片が剥離された(1)後、縁辺部調整を伴う両面加工が行われ(2～9)、厚さ・幅が減少していく。正面右側縁中央の瘤を除去する段階9の加工の際に本体は中央で折損し、その後、より大型である下部破片の縁辺で削片状の剥離が行われる(11)。

**分布** Sb-37のK57、L56・57、Sb-38のL55、M55・56区に分布する。初期の段階1～4と折損後の本体と削片はK57、L56区を中心に、加工の進んだ段階5～9はM55・56区に分布している。

#### 母岩別資料452・接合資料2029 (図IV-492・493、図版316)

母岩別資料は接合2029の他、接合2030・51618、剥片23点で構成され、総点数151点、総重量1,080.3gである。

**素材** 120点(62個体)が接合し、重量は1,011.8g、大きさは35×21×6cmである。おそらく角礫素材で、両面共に大型の平坦剥離によって整形された表面の凹凸の少ない比較的薄手で大型の尖頭器で搬入されている。

**剥離工程** 搬入時の形態が整った形状をしており、遺跡内では最初から縁辺部調整を伴う平坦剥離に

よる幅広剥片の剥離によって加工される（1～5）。段階1・3・5は縁辺部の広い範囲に及ぶ連続した剥離群であり、搬入時の良好な形態を反映して初期段階から順調に剥離が進んだと考えられる。34×18×3 cmの尖頭器で搬出されている。

**分布** Sb-46のM54、Sb-47のN52、O51・52、P52、Sb-50のQ52区に分布し、O52区に集中している。

**接合資料2624**（図IV-493、図版315-2）

**素材** 2点（2個体）が接合し、重量は18.7g、大きさは9×3×1 cmである。素材は不明。小型の尖頭器で搬入されている。

**剥離工程** 60の背面には二条の削片状剥離痕が残り、尖頭器の右側縁に下端部から削片状剥離が行われている。その後、同様に60が剥離されるが、その剥離に先行する打面作出はみられず、剥離は裏面から正面へ行われ、右側面にねじれて正面と直交するように進行する。その後、器体先端部の正面・裏面に左側縁から加工が行われる。

**分布** 尖頭器はL51区のI層、削片はSb-47のM52区に分布する。

**母岩別資料352・接合資料1720**（図IV-494・495、図版317）

母岩別資料は接合1720の他、接合1721～1725、剥片39点で構成され、総点数175点、総重量1,664.3gである。

**素材** 118点（63個体）が接合し、重量は1,486.6g、大きさは27×17×9 cmである。平滑な原礫面を持つ角礫を素材として原石に近い形態で搬入されている。

**剥離工程** まず、縁辺から3～5 mm内側を加撃し、比較的大型の剥片剥離によって断面が菱形から凸レンズ状になるまで加工される（1～6）。この段階で原礫面はほぼ除去される。その後、縁辺部の加撃による平坦剥離（7～14）によって厚みを減らし、25×13×2 cmの尖頭器で搬出される。

**分布** Sb-47のM51、N51、O50・51、P51区に分布するが、段階によって偏りがみられる。段階1～5の途中まではO51区に、段階5の途中から段階14まではP51区にまとまる。これらの段階は加工技術の変化にほぼ対応している。

**母岩別資料291・接合資料1572・1573**（図IV-496・497、図版318）

母岩別資料は接合1572・1573の他、接合1574～1576・51227～51230、剥片30点で構成され、総点数140点、総重量2,546.8gである。

**素材** 接合1572は46点（25個体）が接合し、重量は1,169.2g、大きさは37×14×6 cmである。接合1573は47点（21個体）が接合し、重量は1,007.4g、大きさは31×19×4 cmである。これらは同一個体の尖頭器調整剥片で表裏の関係にあたる。角の潰れた亜角礫を素材として粗加工が行われ、断面が台形状の大型尖頭器の形態で搬入されている。

**剥離工程** 平坦な裏面側（接合1573）を中心に剥離が行われ（接合1573-1～5）、幅が減少する。その後、正面側（接合1572）で比較的大型の剥片剥離（接合1572-1～3）によって断面形が凸レンズ状になるように整形される。

**分布** 両者併せてSb-39のH53、I53、J52～54、K53・54、L53区から出土している。ほとんどはJ・K54区に集中しているが、一部H53区に分布し、その内容は接合1572の段階1、段階1573の段階1・5である。つまり、最初と最後の段階の剥片が出土していることになる。

**母岩別資料436・接合資料1966**（図IV-498・499、図版319-1）

母岩別資料は接合1966の他、接合1967～1973・51342～51344、剥片75点で構成され、総点数168点、総重量1,202.7gである。

**素材** 64点(49個体)が接合し、重量は822.5g、大きさは21×15×6 cmである。爪状痕のある転礫を素材として片側に原礫面が残り、裏面が片面加工された断面三角形の形態で搬入されている。

**剥離工程** 最初に凸状の正面で縁辺部調整を伴わない粗い加工が行われ(段階1・2・4)、裏面でも同様の加工が行われる(3)。これらの舟底形石器の調整剥片に類似する打面の大きい急角度の加工では幅は減少するが、断面形は相似的に小型化し、凸レンズ状には変化していない。次に正面中央の稜から左右に加工が行われ(5・6)、厚みが減少する。以後軽微な縁辺部調整を伴う正面左右からの加工(7～9)の後、裏面で左右から加工が行われ(10・11)、最終剥離で本体が折損し、尖頭器16は遺棄される。段階6で剥離された右側縁を取り込む大型の剥片Aは腹面から片側に加工が行われ、舟底形石器213が製作されている。

**分布** Sb-40のH52区の狭い範囲に集中して分布しているが、調査範囲外である北側に若干分布が広がる可能性がある。個体Aと個体A以外では分布差は認められない。

**接合資料2675**(図IV-499、図版319-2)

**素材** 9点(7個体)が接合し、重量は96.4g、大きさは13×7×2 cmである。原石形状、搬入形態は不明。

**剥離工程** 扁平で幅広の剥片を素材として縁辺部を両面調整し木葉形に加工している。下端部から削片162と58を剥離した後、再度下端部から剥離を行うがヒンジになっている。段差になった打面周辺を調整した後、61を剥離し(1)、上端から連続した削片剥離を行う。最初に剥離された断面三角形の削片は中央で折損し、打面側の削片を素材として舟底形石器162が製作される。162は左側面のみ軽微な加工がなされ、端部で細石刃状の縞状剥離が行われている。尖頭器ないし両面調整石器の縁辺から剥離された一次削片は断面形が高さのある三角形であるため、舟底形石器I類に適した素材といえる。通常は舟底形石器I類の素材は剥片が利用されるが、これらの削片は素材供給の一形態と考えられる。

**分布** Sb-27のN63、Sb-46の52・53、Sb-47のO51区に分布している。舟底形石器162はO53区の一括遺物である。全体的に散漫に分布し、IV-309-66は48mを隔てて接合している。

**母岩別資料396・接合資料1883**(図IV-500・501、図版320・321-1)

母岩別資料は接合1883の他、接合1884で構成され、総点数30点、総重量4,837.6gである。

**素材** 28点(12個体)が接合し、重量は4,675.3g、大きさは24×20×12cmである。30cmを越える大型の平滑な原礫面を持つ角礫を素材として上・下・左右側面で大型剥片の剥離により石核調整された母型で搬入されている。

**剥離工程** 正面から下面への大型剥片剥離(1)によって作出された打面から石刃が剥離(2)された後、180度の打面転移が行われ、上設打面から頭部調整を伴う石刃剥離が行われる(3)。石刃剥離の段階では作業面形状の補正のために逆方向の剥離が施される。15～20cmの石刃が剥離されるが、ほとんどは欠落しており、搬出されたと考えられる。

**分布** Sb-47のN52、O51・52、P52区に分布している。

**母岩別資料439・接合資料1995**(図IV-502・503、図版321-2)

母岩別資料は接合1995の他、接合1996・1997、剥片14点で構成され、総点数61点、総重量1,394.1gである。

**素材** 42点(28個体)が接合し、重量は1300.0g、大きさは17×12×9 cmである。平滑な原礫面を持つ角礫を素材として原石の形態で搬入されている。

**剥離工程** 節理ないし潜在的な割れによる不規則な割れ方でA・Bに分割される。個体Aは一部が

欠損した(A-1)後、原礫面打面から頭部調整を伴う石刃剥離が行われる(A-2)。途中で下面から石核調整が行われる(A-3)。個体Bは下面から石刃剥離後、打面再生(B-1)、頭部調整を伴う石刃剥離(B-2)が行われ、以後、180度の打面転移を繰り返しながら石刃が剥離される(B-3~5)。最後は下面で全体を取り込むような剥離が行われ(6)、剥離は終了する。石核には左側面に石刃剥離痕が残り、上面・正面には広い剥離面が残る。

**分布** Sb-47のL51・52、M51・52、N51・52区に分布する。個体AはN51区に分布の中心があるが、個体BはM・N51区にまたがって分布している。

**母岩別資料344・接合資料1699** (図IV-504、図版322)

母岩別資料は接合1699のみである。

**素材** 30点(19個体)が接合し、重量は1,969.3g、大きさは16×13×12cmである。平滑な原礫面を持つ角礫を素材として原石で搬入されている。

**剥離工程** 角礫の角部で交互に剥離しながら石核形状を整えた(1~4)後、頭部調整を行いながら石刃が剥離される(5)。石刃剥離の最終剥離がヒンジになり、作業面形状が悪化した段階で180度の打面転移により下面から剥離が行われる(6)が、厚手の剥片が剥離され、剥離が終了している。模様のある不均質な石質のためか端正な石刃は剥離されていない。

**分布** Sb-46・47のM51・53、N52・53、O52・54区に分布している。斜面方向に分布が広がり、折れ面接合も同様である。

**母岩別資料441・接合資料1999** (図IV-505・506、図版322)

母岩別資料は接合1999の他、接合2000~2002、剥片3点で構成され、総点数31点、総重量599.0gである。

**素材** 接合1999は22点(17個体)が接合し、重量は438.4g、大きさは13×9×8cmである。角の潰れた亜角礫を素材として原石の形態で搬入されている。

**剥離工程** 原石上端からの剥離(1)後、上面で正面から厚手の剥片が剥離される(2)。下面からの剥離(3)後、段階1の剥離面を打面として頭部調整を伴う石刃剥離が行われる(4)。下面からの剥離(5)が行われた後、下面を取り込む剥離が行われる(6)。石核289には打面転移の結果、多方向からの剥離面が残る。

段階2で剥離された打面作出剥片である10cm程度の厚手の剥片(個体A)は舟底形石器に加工、搬出され、段階6で剥離された厚手の剥片(個体B)は同時割れによる剥離(個体B-1)の後、厚手の剥片が剥離される(個体B-2)。個体Bの石核である287の打面には複数の打痕が残り、以後も剥離をしようとしていたようである。

**分布** Sb-42のK53、Sb-44のK52・53、L53区に分布する。個体AはL53区、個体BはK52区、個体A・B以外はK53区に分布の中心があり、微妙に違いがみられる。

**母岩別資料346・接合資料1703** (図IV-506、図版323-1)

母岩別資料は接合1703の他、縦長剥片1点、剥片3点で構成され、総点数13点、総重量744.3gである。

**素材** 9点(8個体)が接合し、重量は708.6g、大きさは17×9×8cmである。平滑な原礫面を持つ角礫を素材として原石で搬入されている。

**剥離工程** 原石端部に一回の剥離によって打面が作出(1)された後、上設打面から石刃が剥離される。作業面中央にヒンジによる段差が生じると下設の原礫面打面からの剥離(2)により作業面形状を回復させている。その後も上(3)下(2)から石刃が剥離されるが、下設打面作出以降は下設打

面から剥離が行われている。

**分布** Sb-47のM・N51区にやや散漫に分布する。

**母岩別資料350・接合資料1715** (図IV-507、図版324)

母岩別資料は接合1715の他、剥片2点で構成され、総点数49点、総重量2,843.0gである。

**素材** 47点(26個体)が接合し、重量は2,840.4g、大きさは22×17×10cmである。爪状痕のある原礫面を持つ転礫を素材として原石で搬入されている。

**剥離工程** 原石端部から長軸方向への剥離(1~3)の後、上縁部に横位の調整を行い(4)、さらに長軸方向の剥離によって打面が作出される(5)。正面で剥離(6)後、横位の打面再生を行い(7)、頭部調整を伴う石刃剥離が行われる(8)。石刃剥離は正面から右側面に偏っている。

**分布** Sb-42のK53・54、Sb-43のJ52、Sb-44のK52・53、L53区に散漫に分布している。

**母岩別資料442・接合資料2003** (図IV-508、図版323-2)

母岩別資料は接合2003のみである。

**素材** 11点(9個体)が接合し、重量は534.6g、大きさは11×9×7cmである。原礫面に爪状痕のある小型の転礫を素材として原石で搬入されている。

**剥離工程** 原石端部に長軸方向への一回の剥離によって打面が作出され(1)、縁辺部を擦り潰すような頭部調整を行いながら石刃剥離が行われる(2)。剥離された縦長剥片は6~7cmでほとんどが接合している。石刃剥離に伴う石核調整はみられない。

**分布** Sb-45のL51、Sb-47のK52、L51・52、M51・52、N51・52区に非常に散漫に分布している。

**母岩別資料410・接合資料1917** (図IV-508、図版325-1)

母岩別資料は接合1917の他、接合1918で構成され、総点数72点、総重量396.5gである。

**素材** 69点(48個体)が接合し、重量は382.1g、大きさは11×10×7cmである。爪状痕のある転礫を素材として原石ないし粗い剥離が行われた形態で搬入されている。

**剥離工程** 一回の剥離によって作出された打面から頭部調整を伴う石刃剥離が行われる(1)。潜在的な割れによる不規則な剥離(2)が起こった後も剥片剥離は行われる(3)。石核調整は行われないうが、打面と作業面の角度が比較的小さく、作業面形状がV字状という石刃核として良好な形態的特徴があり、石刃剥離は左右に打点をずらしながら一方向に順調に進行している。作業面形状が比較的平坦なため石刃の形状も幅広で搔器98の素材になっている。また、138や137のように縁辺に細かい加工が連続する削器が製作されている。

**分布** Sb-49のO48、Sb-53のPQ48、Sb-54のP47・48、Q47、Sb-61のO46・47、P47区に分布するが、ほとんどはP・Q47区に集中している。

**母岩別資料390・接合資料1860** (図IV-509、図版325-2・326-1)

母岩別資料は接合1860の他、接合1861~1866・51315~51318、剥片32点で構成され、総点数114点、総重量2,152.0gである。

**素材** 54点(28個体)が接合し、重量は1,745.5g、大きさは21×15×10cmである。爪状痕のある原礫面を持つ転礫を素材として原石で搬入されている。

**剥離工程** 転礫の横断面形が三角形になるような石核調整(1・2)後、稜調整(3)を行い、打面調整(4)を行いながら石刃が剥離される(5)。打面調整・再生のため石刃核高は20cmから14cmに減少している。石刃は初期の比較的形状の悪いものと左右の原礫面を持つものが残存しているが、中間段階の形の良いものは欠落し、搬出されている。また、初期の10cm程度の比較的短い幅広の石

刃を素材として搔器IV-380-44が製作されている。

**分布** Sb-35のI55、J54、Sb-42のJ54、K53・54区に分布するが、搔器を除きK53・54区周辺にまとまっている。

**母岩別資料440・接合資料1998** (図IV-510、図版326-2)

母岩別資料は接合1998のみである。

**素材** 46点(28個体)が接合し、重量は1,889.5g、大きさは27×11×7 cmである。爪状痕のある細長い転礫を素材として原石の形態で搬入されている。

**剥離工程** 原石の端部左側面を斜めに剥離し(1)、その剥離面を打面として上部を斜めに断ち切るように剥離が行われる(2・3)。正面からの剥離(4)により水平な打面が作出され、主に左側面で打面調整を伴う石刃が剥離される(5)。さらに、正面からの打面再生(6)後、打面調整を伴う連続的な石刃剥離が行われる(7)。石刃剥離の際に打面の縁の稜線の頂部を除去する頭部調整が行われず、石刃はその頂部から1 cm程度内側を加撃して剥離されるため、その打面形状は高さが1 cmの直角三角形に近い。その結果、厚みのある10~15cmの石刃が剥離されている。

**分布** Sb-42のK54・55、Sb-46のL53・54、M53区に分布している。K54区とL・M54区の2か所に分布のまとまりがあり、段階1~5は両者に、段階6・7は後者に分布し、石刃核は少し離れたK55区に分布している。

**母岩別資料295・接合資料1581** (図IV-511・512、図版327・328)

母岩別資料は接合1581のみである。

**素材** 109点(53個体)が接合し、重量は3,975.2g、大きさは21×21×15cmである。平滑な原礫面を持つ角礫を素材として原石の形態で搬入されている。

**剥離工程** 左側面から正面への剥離(1)、上面での剥離(2)の後、正面で連続的な石刃剥離が行われ(3)、打面再生(4・6・8)・石刃剥離(5・7・10)が繰り返される。段階10の石刃剥離の前にはヒンジにより悪化した作業面形状を修正するように下面から剥離が行われる(9)。以後、頻繁に打面転移が行われ、下面から(11)、左側面から(12)、上面から(13)、左側面から(14)剥離が行われる。その結果、石核297は多方向の剥離面のある扁平な形状である。石刃は頭部調整・打面調整が行われないものが多いが、253・252のように打面調整が行われるものもある。図版328-354は打面を外した状態の写真であるが、打面縁辺から1~2 cmを加撃して剥離されたものが多く、打面形状は252のような三角形のものが多い。また、両側縁が平行になるものは少ない。

**分布** Sb-45のL51、Sb-48のNO50、Sb-49のN49区に分布し、非常に集中した分布である。

**母岩別資料351・接合資料1716** (図IV-513~515、図版329)

母岩別資料は接合1716の他、接合1717・1718、縦長剥片1点、剥片28点で構成され、総点数113点、総重量1,783.5gである。

**素材** 77点(65個体)が接合し、重量は1,668.7g、大きさは21×18×12cmである。平滑な原礫面を持つ角礫を素材として原石の形態で搬入されている。

**剥離工程** 正面下部の稜調整(1)後、上面・正面で交互剥離が行われ(2)、下面からの剥離(5)、上面からの剥離(6)が行われる。また、裏面では下面調整(4)を挟んで上面から厚手の剥片が剥離される(3)。上面では裏面から(7)、下面では正面から(8)厚手の剥片が剥離され、後者の剥離面を打面として頭部調整を伴う石刃が剥離される(9)。さらに、上面で右側面から厚手の剥片が剥離され(10)、その剥離面を打面として裏面で石刃剥離が行われる(11)。最後に石刃核は右側面への加撃(12)により大きく二分割されている。段階3で剥離された厚手で幅広の剥片(個体A)は

素材背面である左側面を加工し、弧状の素材先端部を作業面に設定し、稜調整後、石刃が剥離される。また、238の背面に稜調整がみられ、石刃剥離途中で稜調整が行われている。段階7・8・10で剥離された打面作出剥片である厚手の剥片は、それぞれ個体B・C・Dとして舟底形石器に加工されているが、本体は欠落し、搬出されたと考えられる。また、これらの素材は断面形が三角形に近く舟底形石器に加工するのに適しているため、選択されたと考えられる。

**分布** Sb-44のL52、Sb-47のL52、M51・52、N51・52、O52、P51区に分布する。大きくM52区とP51区にまとまりがあり、M51・52、N51区には散漫に分布する。個体A～D以外のほとんどはP51区に分布するが、石刃・厚手の剥片はM・N51・52区に分布する。個体Aは、一次剥離の際に折れた部分はP51区、石刃剥離の部分はN52区周辺に分布する。個体B～Dの舟底形石器調整剥片は2か所に分布するが全て初期の段階がP51区、後半の段階がM52区周辺に分布する。以上から、P51区には一次剥離の剥片、及び、舟底形石器調整剥片の初期段階の剥片が分布し、M52区には舟底形石器調整剥片の後半段階、M・N51・52区には石刃ないし厚手の剥片が分布している。

**母岩別資料353・接合資料1726** (図IV-516・517、図版330)

母岩別資料は接合1726の他、接合2741、剥片3点で構成され、総点数65点、総重量1,230.3gである。

**素材** 60点(44個体)が接合し、重量は1,216.4g、大きさは22×13×10cmである。平滑な原礫面を持つ角礫を素材として原石で搬入されている。

**剥離工程** 原石の端部に連続する剥離によって打面が作出され(1)、そのうち厚手の剥片Aは舟底形石器に加工される。作業面下部の稜調整(2)後、石刃剥離が行われ(3)、さらに稜調整(4)、側面調整(5)、稜調整(6)の後、平坦な右側面で幅広の石刃が剥離される(7)。しかし、この段階の石刃は欠落している。次に下面で横方向の剥離によって打面を作出し(8)、小口面で下設打面から比較的厚手の石刃が剥離されている(9)。途中、ヒンジの石刃剥離による作業面形状の悪化に伴い、上下に打面を転移させ(10)、稜調整も行われる(11)。

**分布** Sb-47のL52、M51・52、N51、P51区に分布している。個体Aは全てP51区に、石刃剥離が行われる段階3・9・10は特に形の良好な石刃がM・N51・52区に分布する。個体A・段階3・9・10以外のものでは大型の剥片がM・N51区に、それらを除く全てがP51区に分布している。以上から良形の石刃・大型剥片はM・N51・52区に散漫に分布し、それ以外の一次剥片・舟底形石器調整剥片はP51区に集中して分布している。

**母岩別資料366・接合資料1759** (図IV-517・518、図版330)

母岩別資料は接合1759のみである。

**素材** 77点(65個体)が接合し、重量は1,251.9g、大きさは17×14×10cmである。角の潰れた亜角礫を素材として原石の形態で搬入されている。

**剥離工程** 上面から正面への剥離(1)の後、上面では正面から(2)、下面では裏面から厚手の剥片が剥離される(3)。段階3の剥離面を打面として裏面で厚手の剥片が剥離され(4)、稜調整(5)後、頭部調整を伴う石刃剥離が行われる(6)。最終剥離がヒンジになり、石核は遺棄される。

**分布** Sb-29のO56、Sb-47のN51・52、O51・52、P51区に分布し、ほぼO51・52区に集中している。それらと離れたO56区に分布するのは段階5の剥片である。

**母岩別資料364・接合資料1749** (図IV-519・520、図版331)

母岩別資料は接合1749の他、接合1750・1751・1760、剥片1点で構成され、総点数55点、総重量691.1gである。

**素材** 39点(26個体)が接合し、重量は590.6g、大きさは14×13×9cmである。平滑な原礫面を持

つ角礫を素材として原石ないし原石に近い形態で搬入されている。

**剥離工程** 上設打面から厚手の縦長剥片が剥離され（1）、下面からの調整（2）の後、石刃が剥離される（3）。さらに、作業面からの側面調整（4）の後に頭部調整を伴う石刃剥離が行われる（5）。段階1で剥離された厚手の縦長剥片（個体A）は側縁を作業面に設定し、素材の打面部周辺を加工し、石刃剥離が行われる。また、段階5で剥離された厚手の縦長剥片（個体B）を素材として舟底形石器が製作される。

**分布** Sb-47のN51、O50・51、P51区に分布している。狭い範囲にまとまっており、個体A・Bとそれ以外の分布に違いはみられない。

**母岩別資料438・接合資料1991**（図IV-520・521、図版331）

母岩別資料は接合1991の他、接合1992～1994、縦長剥片2点、剥片59点で構成され、総点数124点、総重量821.2gである。

**素材** 51点（37個体）が接合し、重量は540.4g、大きさは15×12×11cmである。角の潰れた亜角礫を素材として原石の形態で搬入されている。

**剥離工程** 上設打面から右側面での剥離（1）の後、ヒンジになった作業面形状を修正するために下面からの剥離（2）、稜調整（3）が行われ、石刃が剥離される（4）。段階1で剥離された剥片（個体A）は舟底形石器の製作途中で折損し、遺棄されている。また、石核（個体B）を素材として作業面を甲板面に設定し、舟底形石器が製作され、さらにその調整剥片である個体Cを素材にして舟底形石器が製作されるが最終剥離で右側面を大きく取り込み遺棄される。

**分布** Sb-43のK53、Sb-44のK52区に分布し、非常に集中した分布である。

**母岩別資料363・接合資料1745**（図IV-521・522、図版332-1）

母岩別資料は接合1745の他、接合1746～1748、剥片12点で構成され、総点数52点、総重量618.8gである。

**素材** 31点（24個体）が接合し、重量は165.1g、大きさは15×8×6cmである。角の潰れた亜角礫を素材として原石で搬入されている。

**剥離工程** 原石の端部に一回の剥離により作出された（1）打面から、頭部調整を伴う石刃剥離が行われる（2）。作業面は平坦で長さ10cm程度の幅広の石刃が剥離されている。裏面での剥離（3）の後、下縁からの剥離（4）で作出された打面から縦長剥片が剥離されている（5）。段階1の厚手の打面作出剥片（個体A）は舟底形石器製作途中で遺棄される。腹面左側縁付近に打痕が残っていることから上手く割れずに遺棄されたものと考えられる。

**分布** Sb-47のL51、M51、N51・52区に分布し、比較的まとまっている。N51区とそれ以外では段階・内容に違いはみられない。

**母岩別資料405・接合資料1903**（図IV-522～525、図版332-2）

母岩別資料は接合1903の他、石核1点、剥片68点で構成され、総点数183点、総重量2,314.4gである。

**素材** 114点（80個体）が接合し、重量は2,065.8g、大きさは19×16×10cmである。爪状痕のある転礫を素材として原石の形態で搬入されている。

**剥離工程** 右側面での厚手の剥片剥離（1）後、右側面から横方向の剥離によって打面が作出され（2）、稜調整を挟みながら正面で縦長剥片剥離が行われる（3）。裏面では稜調整（5）が行われ、厚手の縦長剥片が剥離される（6）。その後、右側面下部調整（7）・正面右側面からの調整（9）・裏面下部調整（11）を挟んで裏面で縦長剥片が剥離される（8・10）。縦長剥片剥離の際には頭部調整は

行われず、打面の大きい厚手の縦長剥片が剥離されている。段階1（個体A）・2（個体B・C）・3（個体D）・6（個体E）で剥離された厚手の剥片・縦長剥片は舟底形石器に加工されるが、本体が欠落・搬出されたと考えられる個体A以外は、折損などが原因で途中で遺棄されている。

**分布** Sb-37のL56、Sb-38のL56、M55・56区に分布している。大きくL56区とM55区に集中域が分かれる。前者には個体A～D、個体A～E以外の段階1～5が、後者には個体E、個体A～E以外の段階6～11が分布している。つまり、舟底形石器製作も含め段階1～5はL56区に、段階6～11はM55区に分布し、完全に段階で分けることができる。

**母岩別資料447・接合資料2014**（図IV-526～528、図版333）

母岩別資料は接合2014の他、接合2015～2021で構成され、総点数127点、総重量2,401.5gである。

**素材** 108点（64個体）が接合し、重量は2,335.1g、大きさは19×16×14cmである。爪状痕のある転礫を素材として原石の形態で搬入されている。

**剥離工程** 正面から上面（1）、上面から正面（2）、上面から左側面（3）、上面から裏面（4）、上面から正面（5）の一連の交互剥離による石核調整の後、左側面の段階5の剥離面を打面として石核を周回する頭部調整を伴う石刃剥離が行われる（6）。段階5で剥離された厚手の剥片（個体A・B・C）、段階6で剥離された厚手の剥片（個体D・E）は舟底形石器に加工されるが、本体が残存しているのは折損した個体Cのみである。

**分布** Sb-37のL56・57、Sb-38のL55・56、M55区に分布している。分布はL56区とM55区に分かれ、個体A・B・D・EはL56区に、個体Cと個体A～E以外の一次剥離の剥片はM55区に分布している。個体A・B・D・Eは素材で持ち込まれ、加工が行われたと考えられる。

**母岩別資料334・接合資料1680**（図IV-528・529、図版334-1）

母岩別資料は接合1680のみである。

**素材** 30点（28個体）が接合し、重量は650.6g、大きさは15×11×9cmである。平滑な原礫面を持つ角礫を素材として原石の形態で搬入されている。

**剥離工程** 原礫面を打面として石核調整を行わずに縁辺から2cm程度内側を加撃して、連続的に厚手の剥片が剥離されている（1・2）。その後、裏面から右側面に剥離が行われる（3）。石核IV-388-77は粗い剥離が行われているため大きい剥離面で構成される。最初の剥離の際、同時割れで1a、1b、1cの3個体に分割されるが、1a（個体A）・1b（個体B）は舟底形石器に加工される。また、段階2で剥離された厚手の剥片（個体C・D）も舟底形石器に加工される。これらのうち本体が残存するのは、素材の縦折れた面を甲板面に設定し、片面加工で終了している個体Bの223のみで他は搬出されている。15cm程度の小型の原石であるが、厚手の剥片が連続的に剥離され、ほとんど舟底形石器に加工されており、非常に効率的である。

**分布** Sb-35のK55・56、Sb-38のL55・56、M55・56、Sb-41のH51区に広範囲に分布している。個体A・C・DはM55区に分布しているが、個体A～D以外の剥片はやや離れたK55・56区に、個体Bは約23m離れたH51区に分布している。

**母岩別資料335・接合資料1681**（図IV-530、図版334-2）

母岩別資料は接合1681の他、接合1682・1683、剥片7点で構成され、総点数39点、総重量425.7gである。

**素材** 27点（25個体）が接合し、重量は369.5g、大きさは11×11×8cmである。平滑な原礫面を持つ角礫を素材として原石の形態で搬入されている。

**剥離工程** 原礫面を打面として石核調整を行わずに縁辺から2cm程度内側を加撃して厚手の剥片が

2枚（個体A・B）剥離されている。その後、下面から石核を二分割するような剥離が行われるが、剥離された剥片は接合していない。個体A・Bと石核である個体Cは舟底形石器に加工されるが、本体は搬出されている。個体Cは作業面を甲板面に設定している。10cm程度の小型の原石であるが厚手の剥片が連続的に剥離され、石核と併せて3個体の舟底形石器が製作されている。

**分布** Sb-37のL56、Sb-38のL55・56、M55区にまとまって分布している。

**母岩別資料336・接合資料1684**（図IV-531・532、図版335-1）

母岩別資料は接合1684のみである。

**素材** 25点（20個体）が接合し、重量は454.5g、大きさは11×10×8cmである。平滑な原礫面を持つ角礫を素材として原石の形態で搬入されている。

**剥離工程** 原礫面を打面として裏面と右側面の角から2cm程度内側を加撃して厚手の剥片が剥離される（1）が、同時割れが発生している。その後、正面の角で下面から同様に厚手の剥片が剥離される（2）。さらに正面で2cm程度内側を加撃して連続的に厚手の剥片が剥離される（3）。石核は厚手の剥片が剥離された結果、中央に幅広の剥離面が残る平坦な形状である。段階1で剥離された個体A、段階2で剥離された個体Bは舟底形石器に加工され、搬出されている。一次剥離で剥離された剥片は、縦長で厚さが幅に近い断面三角形の形状で舟底形石器に適した素材であり、舟底形石器の素材として目的的に剥離されたと考えられる。

**分布** Sb-35のJ56、Sb-37のK56・57、Sb-38のL55・56、M55、Sb-46のL55区にやや散漫に分布し、個体A・Bとその他の遺物に分布の差はみられない。

**母岩別資料338・接合資料1687**（図IV-532、図版335-2）

母岩別資料は接合1687の他、接合1688・1689、剥片9点で構成され、総点数35点、総重量180.3gである。

**素材** 21点（14個体）が接合し、重量は147.0g、大きさは9×5.5×5cmである。平滑な原礫面を持つ小型の角礫を素材として原石で搬入されている。

**剥離工程** 長軸方向に厚手の剥片Aを剥離後、横方向からの剥離によって幅広の厚手の剥片Bが剥離され、さらに、長軸方向に二分割するように剥片Cが剥離される。厚手の剥片（個体A・B・C）はそれぞれ舟底形石器に加工され、個体Aは片面側面を中心に加工され、折損後に215が遺棄される。個体Bは長軸方向である横方向に素材を利用して両側縁を加工しているが、やはり、折損後に遺棄されている。個体Cは幅が10mm程度まで加工されるが中央で折損後に遺棄される。遺棄された167はやや大きめのI類である。右側面は比較的平坦で上縁部には細かい剥離が、下縁部の一部には平坦な加工がみられる。左側面は上縁部には細かい加工がみられるがヒンジになっており、折損の原因となっている。また、下縁部全体に押圧剥離状の細長い平坦剥離がみられる。

**分布** 個体A・BともにSb-39のJ53、Sb-43のJ52・53区に分布し、個体Cは全てI53、J52区の一括遺物として出土しており、全体として分布差はない。

**母岩別資料293・接合資料1579**（図IV-533、図版336-1）

母岩別資料は接合1579のみである。

**素材** 28点（22個体）が接合し、重量は196.6g、大きさは19×5.5×2.5cmである。原石形状は不明。20cmを越える腹面の平坦な大型の剥片を素材として高さ／幅の比率の大きい大型の舟底形石器の形態で搬入されている。両側面は左側面の一部を除き甲板面から加工され、部分的にヒンジがみられるが比較的滑らかな表面である。

**剥離工程** 加工は全て甲板面から行われるが、それらは縁辺部を擦るような頭部調整を伴う。下縁部

が尖るため加工はウートラパッセになり反対側面に抜けている。そのため本体の高さは5.5cmから2cmへ大きく減少する。本体である230を見ると中央で折損後再加工が行われ、さらに折損しているのが分かる。

**分布** 折損した舟底形石器のみSb-47のN52区に分布するが、それ以外は全てK・L53区の狭い範囲に集中して分布している。

**母岩別資料142・接合資料1143・1142** (図IV-533・534、図版336-2・337-1)

母岩別資料は接合1143・1142の他、接合1144・1145・51075・51076、剥片18点で構成され、総点数163点、総重量1,125.1gである。

**素材** 接合1143は55点(27個体)が接合し、重量は412.5g、大きさは43×15×3cmである。接合1142は73点(33個体)が接合し、重量は612.9g、大きさは38×15×4cmである。これらは同一個体の尖頭器調整剥片で表裏の関係にあたる。原石形状は不明であるが角礫素材と考えられる。表面に凹凸の少ない断面形が凸レンズ状の端正な大型の尖頭器で搬入されている。

**剥離工程** 両接合資料とも搬入時の尖頭器の端正な形状を反映して、順調に加工が行われたため段階単位の剥離群が連続している。一回り小型化する加工が行われ、43×12×3cmで本体は搬出される。

**分布** 大きくA区のSb-17のI・J64・65区周辺、D区のSb-47のO52区周辺に分布が分かれ、前者は集中した、後者は散漫な分布を示す。これらは非常に特異な分布状態である。図IV-533・534の右側の模式図は出土した区域を示したものである。分布差は段階によるものではない。また、折れ面接合を破線で示したが、本来同一剥片が別々の区域から出土しているものがある。このことから、尖頭器の加工後、これらの調整剥片が一度まとまった状態の後に、ランダムに抽出されてそれぞれの地点に遺棄されたと考えられる。

**母岩別資料267・接合資料1488** (図IV-535、図版338)

母岩別資料は接合1488の他、接合1489・1490・2742・2743・51202～51206、剥片78点で構成され、総点数216点、総重量1,313.0gである。

**素材** 119点(70個体)が接合し、重量は1,169.3g、大きさは23×16×7cmである。平滑な原礫面を持つ盤状の角礫を素材として原石の形態で搬入されている。

**剥離工程** 原礫面及び角礫の角を除去するような粗い剥離(1～6)の後、器体を薄くする加工が行われ(7～12)、断面形が凸レンズ状の21×9×2.5cmの尖頭器で搬出される。

**分布** Sb-36のJ59・60、K58～60区に分布している。東西方向にやや伸びた分布で、折れ面接合も同様な分布を示す。

**母岩別資料292・接合資料1577** (図IV-535、図版337-2)

母岩別資料は接合1577の他、接合1578、剥片12点で構成され、総点数76点、総重量378.9gである。

**素材** 61点(46個体)が接合し、重量は330.3g、大きさは21×11×3.5cmである。平滑な原礫面を持つ盤状の角礫を素材として原石の形態で搬入されている。

**剥離工程** 角礫の角を除去するような剥離(1～4)の後、縁辺部調整を伴う加工(5～7)が行われる。段階1・2では両端部で交互剥離がみられる。断面が凸レンズ状の20×8×2cmの尖頭器で搬出される。

**分布** Sb-42のK54、Sb-44のK53区に集中して分布している。

**母岩別資料389・接合資料1847** (図IV-536～539、図版340～342)

母岩別資料は接合1847の他、接合1848～1859・51313・51314、縦長剥片1点、剥片49点で構成され、総点数264点、総重量7,269.5gである。

**素材** 143点(93個体)が接合し、重量は5,107.2g、大きさは34×27×21cmである。平滑な原礫面を持つ角礫を素材としておそらく原石の形態で搬入されている。

**剥離工程** 左側面に裏面(1)、右側面(2)から加工が行われ、段階2の剥離面を打面とした右側面への稜調整(3)の後、右側面で頭部調整を伴う石刃剥離(4)が行われる。段階4の途中で右側面下部に石核調整(5)が行われ、最後は180度の打面転移による右側面への連続した剥離(6)が正面下部の打面再生(7)を伴って行われる。

段階2で剥離された三角錐の形状をした個体Aは石刃核の素材として利用される。下端からの石核調整(個体A-2)を挟みながら三角形の二辺で主に左側縁から右側縁の順でV字状に頭部調整を伴う石刃剥離(個体A-1)が行われ、244・241のような整った石刃が剥離されている。最後は裏面から横方向の剥離が行われる(個体A-3)。

段階4で剥離された石刃は249のように平坦な作業面形状を反映して幅広である。また、段階4で剥離された厚手の大型剥片である個体Bを素材として頭部調整を伴う石刃剥離(個体B-1)が行われる。途中で下端部からの作業面調整(個体B-2)が行われる。

**分布** 大きくSb-27のO58・59区周辺、Sb-47のN・O52区周辺に分布が分かれる。前者は散漫な分布であるが、後者は比較的まとまった分布である。Sb-47以外から出土しているのは個体Aのみである。個体Aは二側縁で石刃剥離が行われるが、そのうち右側縁で行われる後半の剥離以降は全てSb-27・36に分布し、Sb-47での石刃剥離後、Sb-27に持ち込まれて石刃剥離が行われたと考えられる。Sb-47ではN・O52区に集中域があるがL・M51・52、N51区には散漫な分布がみられ、そこには石刃類が多い。

**母岩別資料268・接合資料1491**(図IV-539・540、図版339-1)

母岩別資料は接合1491の他、接合1492・1493、剥片1点で構成され、総点数58点、総重量539.4gである。

**素材** 38点(28個体)が接合し、重量は375.2g、大きさは15×12×4.5cmである。平滑な原礫面を持つ角礫を素材として両面加工された母型の形態で搬入されている。

**剥離工程** 上部に縦方向の剥離によって打面を作出し(1)、頭部調整を伴う石刃が剥離される(2)。右側面からの打面調整(3)、石刃剥離(4)の後、下面から裏面へ剥離(5)が行われ、その剥離面を甲板面に設定し、石核素材の舟底形石器(個体B)が製作される。また、段階1で剥離された厚手の剥片(個体A)は舟底形石器に加工されているが、両者とも本体は欠落している。

**分布** 大きくSb-36とSb-47に分布が分かれる。前者には舟底形石器を製作した個体A・Bが、後者にはそれ以外の遺物が分布し、厚手の剥片・石核が選択されてSb-47から持ち出され、Sb-37で舟底形石器に加工されたと考えられる。

**母岩別資料342・接合資料1697**(図IV-540、図版339-2)

母岩別資料は接合1697の他、剥片14点で構成され、総点数37点、総重量380.2gである。

**素材** 23点(18個体)が接合し、重量は326.1g、大きさは12×10×5.5cmである。平滑な原礫面を持つ角礫を素材として原石ないしそれに近い形態で搬入されている。

**剥離工程** 単剥離打面から頭部調整を伴う石刃剥離(1)の後、打面再生(2)、石刃剥離(3)が行われ、石刃核(個体B)は舟底形石器に加工される。段階2で剥離された打面再生剥片である個体Aは舟底形石器に加工されるが、両者とも本体は欠落している。

**分布** Sb-42~44に散漫に分布し、個体A・B、個体A・B以外の分布の差はみられない。

**母岩別資料354・接合資料1727**(図IV-541、図版343-1)

母岩別資料は接合1727の他、剥片2点で構成され、総点数28点、総重量471.2gである。

**素材** 26点(24個体)が接合し、重量は464.1g、大きさは14×9×9 cmである。平滑な原礫面を持つ角礫を素材として原石の形態で搬入されている。

**剥離工程** 左側面から下端部(1)、裏面から正面(2)、正面から裏面(3)への剥離の後、石核を二分割するような剥離(4)が左側面から行われる。段階2で剥離された剥片(個体A)、段階4で分割された厚手の剥片(個体B)と石核(個体C)は舟底形石器に加工され、全て搬出されている。

**分布** Sb-47のO・P51区にまとまって分布している。

#### 母岩別資料358・接合資料1737(図IV-541・542、図版343-2)

母岩別資料は接合1737の他、剥片24点で構成され、総点数71点、総重量750.9gである。

**素材** 47点(45個体)が接合し、重量は704.9g、大きさは12×9×8.5cmである。平滑な原礫面を持ち、角の潰れた亜角礫を素材として原石の形態で搬入されている。

**剥離工程** 原礫面を打面として正面と左側面の角から2.5cm程度内側を加撃して厚手の剥片が剥離され、以後、直前の剥離によって形成された角から2cm程度内側を加撃して10cm以下の厚手の剥片が連続的に剥離される。石核286は厚手の剥片が剥離された結果、中央に幅広の剥離面が残る平坦な形状である。四枚の厚手の剥片(個体A～D)は舟底形石器に加工され、途中で遺棄された個体Dの180を除いて搬出されている。180は甲板面と左側面の角度が鈍角で鋭角にするのが困難なため遺棄されたと考えられる。また、右側縁の一部に加工のある160は、頭部調整の無い打面の大きい剥片が剥離される二次加工が舟底形石器の加工に類似するため、舟底形石器製作が意図された最初期段階で遺棄されたと考えられる。一次剥離で剥離された剥片は縦長で非常に厚い形状で舟底形石器に適した素材であり、本個体は舟底形石器の素材を剥離することを目的として利用されたと考えられる。

**分布** Sb-46のO55、Sb-47のL52、M52・53、N52、O55区に分布している。個体A～DはほとんどM52区に分布し、個体A～D以外の初期の一次剥離剥片はやや離れたO55区に分布している。

#### 母岩別資料359・接合資料1738(図IV-542、図版343-3)

母岩別資料は接合1738の他、剥片1点で構成され、総点数15点、総重量147.6gである。

**素材** 14点(10個体)が接合し、重量は147.2g、大きさは8×7×5 cmである。平滑な原礫面を持ち、角の潰れた亜角礫を素材として非常に小型の原石の形態で搬入されている。

**剥離工程** 横断面が三角形の原石の縦方向に三回剥離が行われ、長さ7cmの断面三角形の石核(個体A)を素材として舟底形石器が製作され、搬出される。

**分布** Sb-39のH・I53区に分布する。

#### 写真のみ掲載の遺物

母岩別資料437・接合資料1974・1975(図版344・345-1)は、石核素材の尖頭器調整剥片で表裏の関係にあたる。平滑な原礫面を持つ長さ35cmを越える大型の盤状の角礫素材で原石の形状で搬入される。主に、接合1974側で加工が行われ、長さをほとんど変えずに厚さ・幅を減少させて断面形が凸レンズ状で長さ30cm程度の大型の尖頭器で搬出される。また、接合1974の原礫面を除去する粗い加工段階の厚手の幅広剥片を素材として舟底形石器が製作されている。

母岩別資料328・接合資料1658(図版345-2・346)は、長さ32cmの平滑な原礫面を持つ角礫素材で原石の形状で搬入されている。原礫面を除去する粗い加工の後に縁辺部調整のある平坦剥離が行われるが、途中43や42が折損し、大きく長さを減少させている。L21区から出土したIV-565-4を除いて全てL53区周辺に分布し、これらの距離は約130mである。

母岩別資料296・接合資料1582(図版347)は、長さ35cmの平滑な原礫面を持つ角礫素材で原石の

形態で搬入されている。正面側で原礫面を除去する粗い加工が行われるが、途中で54が折損している。折損後、長さ20cm程度の本体は長軸方向に三分割され、それぞれ、舟底形石器状の加工が行われる。

母岩別資料392・接合資料1876（図版348・349）は、長さ40cmの平滑な原礫面を持つ角礫素材で、片面加工の形態で搬入される。原礫面で覆われた正面側で原礫面を除去する粗い加工が連続して行われ、厚さが大きく減少するが、幅・断面形はほとんど変化がみられない。最後は中央で折損している。

母岩別資料294・接合資料1580（図版350-1）は、爪状痕のある原礫面と平滑な原礫面を持つ原石素材で粗加工された尖頭器で搬入されている。粗い加工の後、平坦加工が行われ、厚さが減少するが、2か所で折損し、尖頭器33は遺棄される。

母岩別資料391・接合資料1868・1867（図版350-2・351）は、平滑な原礫面を持つ立方体に近い形状の原石の表裏で行われた剥離の接合資料と考えられる。両者とも上面の原礫面打面から剥離が行われ、接合1868側では20cm程度の打面の大きい厚手の大型剥片が剥離され、接合1867側では稜調整・頭部調整を伴う20cm程度の石刃剥離が行われた後、接合1868同様打面の大きい厚手の大型剥片が剥離される。これらの大型剥片を素材として3個体の舟底形石器が製作されているが、中央で折損した198以外は搬出されている。

母岩別資料394・接合資料1880（図版351）は、平滑な原礫面を持つ角礫素材で搬入形態は不明。稜調整後、正面から右側面にかけて上面の単剥離打面から縁辺を斜めに削ぎ落とす頭部調整を伴って15cm程度の石刃が剥離される。石刃剥離の途中で稜調整がみられる。

母岩別資料393・接合資料1878（図版352）は平滑な原礫面を持つ角礫素材で原石の形状で搬入される。打面作出後、縁辺を削ぎ落とす頭部調整を伴う石刃剥離が行われ、打面再生の後、継続される。剥離された石刃は15～20cmで、原礫面を持たない中央部で剥離された石刃は欠落し、搬出されている。分布はSb-45のL50区にほとんどが分布するが、一部石刃はSb-35・36・37に分布している。

母岩別資料333・接合資料1679（図版352）は、爪状痕のある転礫素材で一回の剥離で打面作出後、頭部調整を伴う石刃剥離が行われる。途中で打面再生が行われる。多く含まれる球顆が原因で折損している剥片が多い。

母岩別資料300・接合資料1587（図版353）は、平滑な原礫面を持つ角礫素材で原石の形状で搬入されている。比較的小型の剥片を剥離することにより打面を作出し、同様な剥片を剥離する打面調整を行いながら石刃が剥離される。石刃剥離は頻繁に上下に打面を転移させながら行われ、また、頭部調整は行われない。結果として残核277は平坦な形状になる。中央の15cm程度の石刃は欠落し、搬出されている。

母岩別資料299・接合資料1586（図版354）は、平滑な原礫面を持つ角礫素材で原石の形状で搬入されている。比較的小型の剥片を剥離することにより打面を作出し、同様な剥片を剥離する打面調整を行いながら石刃が剥離される。石刃剥離は頻繁に上下に打面を転移させながら行われ、頭部調整は行われない。作業面は正面に固定される。上設打面からの連続的なヒンジによって石刃核の側面形は「く」の字状に内湾している。

母岩別資料411・接合資料1919（図版354）は、平滑な原礫面を持つ角礫素材で原石の形状で搬入されている。短軸方向の剥離と長軸方向の剥離が交互に行われ、頭部調整の無い石刃剥離ないしは尖頭器製作の初期段階の可能性が考えられる。

母岩別資料298・接合資料1585（図版355-1）は、平滑な原礫面を持つ球形に近い原石素材で原石の形状で搬入されている。正面と上面で頭部調整・打面調整を伴わない交互剥離が行われる。また、途中で下面と裏面においても交互剥離がみられ、残核であるIV-573-37は多方向の剥離面の残るサ

イコロ状に近い形状である。

母岩別資料360・接合資料1739（図版355-2）は、角の潰れた亜角礫素材で長さ10cmの小型の原石で搬入されている。側縁に沿って厚手の剥片が剥離された後、その面を打面として他の側縁で厚手の剥片が剥離されている。8cm前後の剥片・石核3個体は舟底形石器に加工され、折損した石核素材の170以外は搬出されている。

母岩別資料297・接合資料1583（図版356-1）は、平滑な原礫面を持つ角礫素材で原石の形状で搬入されている。単剥離打面から頭部調整を行わないで石刃が剥離されるが、途中でヒンジにより段差が形成される。最後は裏面で下面からの剥離が行われ、ウートラパッセで正面に抜けて石核高が半減している。

母岩別資料357・接合資料1736（図版356-2）は、爪状痕のある転礫から剥離された厚手の剥片素材である。おそらく石刃剥離の打面作出剥片と考えられる。舟底形石器調整剥片の接合資料である。

（鈴木宏行）

## （14）E区・石器ブロック56～60（Sb - 56～60）の石器

### 出土石器（表IV-11・12）

尖頭器24点、両面調整石器1点、削器14点、舟底形石器7点（I類2点、II類5点）、二次加工ある剥片2点、石刃34点、縦長剥片40点、石刃核4点、石核7点、削片1点（尖頭器削片1点）、剥片2,648点、原石6点の計2,788点、重量29,945.1gの石器類が出土した。石材は黒曜石1が65.3%で最も多く、以下黒曜石4（15.0%）、黒曜石3（13.8%）、黒曜石2（3.4%）、黒曜石5（2.6%）である。彫器・搔器・細石刃関連資料が組成されないのが特徴である。

### 尖頭器（図IV-543-1～7、図版357）

13点（6個体とI層出土1個体を加えた7個体）を図示している。1は、柳葉形の尖頭器である。裏面は平坦剥離で覆われるが、正面は比較的角のある加工で断面形は三角形に近い。2～4は幅広いの尖頭器で、2は角の潰れた亜角礫の原礫面が残り、やや粗い加工の段階で折損し、遺棄される。3は、厚さ10mmで薄手である。全体的に平坦剥離で覆われ、縁辺部には細かい剥離がみられる。下端に折れ面があり、右側面下部は再加工されている。4は長さ15cm以上の比較的大型の尖頭器の折損品と考えられる。平坦剥離で加工され、縁辺部に細かい剥離はみられない。5は、厚さ8mmで非常に薄く、長さは68mmと小型で両側縁は対称で整った形態である。中央の平坦剥離と縁辺部の細かい平坦剥離が漸移的に分布し、平坦剥離から細かい剥離に徐々に変化したと考えられる。6は平滑な原礫面を持つおそらく薄手の板状の原石素材と考えられる。器体の中央には平坦剥離が、縁辺には細かい平坦剥離がみられ、下端部は四角く、原石形状を変化させていない。中央・上端が折損し、中央部の折損後、折れ面付近を中心に再加工が行われる。7は、平滑面を持つ角礫を素材とした複剥離打面の石核から剥離された縦長剥片を素材としている。左側面は両面に、右側面は正面のみ加工がなされるが、素材面が大きく残存する。

### ナイフ形石器（図IV-544-8、図版357）

1点（I層出土1個体）を図示している。8は広郷型ナイフ形石器の基部である。背面左側縁・腹面基部に平坦剥離による加工がみられ、背面左側縁からの加工で上部を欠損している。

### 削器（図IV-544-9～11、図版357・358）

5点（3個体）を図示している。9の石質は特徴的で、灰色で磨りガラス状の黒曜石である。背面と腹面の剥離方向が逆の横長剥片素材で、背面周縁には角度のある、腹面には平坦な加工が行われ、

背面の加工で上部を折損している。10・11は剥片素材で、10は背面右側縁のみ、11は背面ほぼ全体に平坦加工がみられる。

#### 舟底形石器 (図Ⅳ-544-12~図Ⅳ-545-17、図版358)

8点(6個体)を図示している。12・13はⅠ類である。12はネガティブな甲板面を持ち、13は素材を横方向に利用している。それぞれ幅が8・9mmで通常のⅠ類に比べ幅広である。12・13とも上下から加工されているが、13の甲板面からの加工は潰れて段差になっている。細石刃状の縞状剥離が端部で最後に行われるが、両者とも右側面に回り込んでいる。産地分析の結果、両者とも十勝産と判定されている。14~17はⅡ類である。14は15cmを越える転礫の石核素材で、甲板面が大きく湾曲している。加工は非常に粗く、最終剥離で折損している。15は転礫から剥離された10cmを越える剥片素材で甲板面が平坦である。ほとんどは甲板面からの加工で甲板面縁辺部には細かい加工がみられる。甲板面からの加工後の下縁からの加工の際に折損している。16・17は棒状の角礫素材で同一個体である。加工は原礫面打面から行われ、16は主に甲板面から、17は主に下縁から行われる。

#### 石刃核・石核 (図Ⅳ-545-18~図Ⅳ-546-23、図版358・359)

石刃核は4点(3個体とⅢ層出土1個体を加えた4個体)、石核は2点(2個体)を図示している。18は転礫素材で頭部調整を伴う石刃剥離が周回している。19~23は角の潰れた垂角礫ないし転礫素材で打面調整のある単設の石刃核・石核である。19・20は裏面に横方向の石核調整が行われ、扁平である。10cm前後の石刃・縦長剥片が剥離されている。

#### 石器ブロック56 (Sb-56) の分布 (図Ⅳ-547、表Ⅳ-11・12)

I49・50、J49・50、K49区の11×6mの範囲で確認された。尖頭器1点、二次加工ある剥片1点、石刃1点、縦長剥片1点、剥片676点の計680点、重量4,069.1gの石器類が出土した。石材は黒曜石3が43.4%を占め、以下黒曜石1(35.9%)、黒曜石4(20.3%)、黒曜石2(0.3%)、黒曜石5(0.1%)である。J・K49区に高密度の集中域があり、斜面方向に広がっている。比較的幅の狭い尖頭器が出土し、32m離れた地点のものと折れ面接合している。

#### 石器ブロック57 (Sb-57) の分布 (図Ⅳ-547、表Ⅳ-11・12)

H49・50、I48・49、J48、K48区の15×4mの範囲で確認された。尖頭器3点、削器1点、石刃11点、縦長剥片11点、石核3点、削片1点(尖頭器削片1点)、剥片654点の計684点、重量9,970.4gの石器類が出土した。石材は黒曜石1が69.3%を占め、以下黒曜石4(17.8%)、黒曜石2(8.9%)、黒曜石3(3.2%)、黒曜石5(0.7%)である。J48区に集中域があり、斜面方向に広がっている。薄い角礫素材の尖頭器、原石を分割したような石核が出土している。

#### 石器ブロック58 (Sb-58) の分布 (図Ⅳ-548、表Ⅳ-11・12)

K47~49、L48・49、M47~49区の11×8mの範囲で確認された。尖頭器1点、両面調整石器1点、削器5点、二次加工ある剥片1点、石刃7点、縦長剥片6点、石刃核1点、石核1点、剥片351点の計374点、重量4,250.1gの石器類が出土した。石材は黒曜石1が51.3%を占め、以下黒曜石4(34.0%)、黒曜石5(8.6%)、黒曜石2(5.6%)、黒曜石3(0.5%)である。4か所の非常に小規模な集中域で構成されるブロックである。K47・48区で尖頭器・削器・調整打面の石刃核が出土している。

#### 石器ブロック59 (Sb-59) の分布 (図Ⅳ-549、表Ⅳ-11・12)

H48、I45~48、J46~48、K46・47区の12×9mの範囲で確認された。尖頭器17点、削器7点、舟底形石器6点(Ⅰ類2点、Ⅱ類4点)、縦長剥片7点、剥片667点、原石4点の計708点、重量4,012.8gの石器類が出土した。石材は黒曜石1が81.5%を占め、以下黒曜石3(9.2%)、黒曜石5

(4.4%)、黒曜石4 (3.4%)、黒曜石2 (1.4%)、頁岩 (0.1%) である。全点数はSb-56・57と変わらないが、本地区では最もツールの多いブロックで、それらに分布の偏りはみられない。尖頭器は大型から小型のものまで、舟底形石器はI・II類ともに出土している。

#### 石器ブロック60 (Sb-60) の分布 (図IV-550、表IV-11・12)

K46、L46、M46区の8×4mの範囲で確認された。尖頭器2点、削器1点、舟底形石器1点 (II類1点)、石刃15点、縦長剥片15点、石刃核3点、石核3点、剥片300点、原石2点の計342点、重量7,642.7gの石器類が出土した。石材は黒曜石1が97.1%を占め、以下黒曜石4 (1.8%)、黒曜石5 (1.2%) である。L46区に高密度の集中域があるが、多く出土している石核類はブロック全体に分布している。また、L46区から出土した尖頭器は30m離れたR・S50・51区と接合関係がある。

#### 石器ブロック56～60 (Sb-56～60) の接合状況 (図IV-551)

全体的には接合分布は各ブロック内での小集中域を単位としてまとまるが、ブロックや地区をまたがる資料もある。特にSb-57・58では密な接合関係がみられ、また、尖頭器はB地区のR50～52区と遠距離の接合関係がある。

#### 母岩別資料419・接合資料1939 (図IV-552、図版360-1)

母岩別資料は接合1939のみである。

**素材** 10点 (5個体) が接合し、重量は1,716.5g、大きさは16×14×13cmである。角に爪状痕のある転礫を素材として原石の形態で搬入されている。

**剥離工程** 側面調整 (1) と裏面調整 (2) が交互に行われ、石核が整形される。その後、打面調整を行いながら石刃が剥離される。10は段階1で剥離された剥片を素材として加工された削器である。

**分布** Sb-56のI49、Sb-57のJ48、Sb-58のK47、Sb-59のI48、Sb-60のI46区に散漫に分布する。段階1・2の前半はSb-56・57・59に、後半はSb-60に、削器はSb-58に分布する。剥離された12cm前後の石刃は欠落し、搬出されている。

#### 母岩別資料423・接合資料1943 (図IV-552・553、図版360-2)

母岩別資料は接合1943のみである。

**素材** 13点 (12個体) が接合し、重量は194.0g、大きさは20×4×3cmである。平滑な原礫面を持つ棒状の角礫を素材として原石の形態で搬入されている。

**剥離工程** 下縁からの加工 (1・2) 後の甲板面から行われた加工 (3) の際に中央で折損 (4) し、片方は再加工が行われる。甲板面からの加工 (5)、下縁部からの加工 (6) の後に本体16は遺棄される。

**分布** Sb-59のJ46、Sb-60のK46区にほぼまとまって分布する。

#### 母岩別資料422・接合資料1942 (図IV-553、図版361-1)

母岩別資料は接合1942の他、接合51332で構成され、総点数18点、総重量847.1gである。

**素材** 15点 (10個体) が接合し、重量は830.8g、大きさは14×12×7cmである。角が潰れた転礫を素材として原石の形態で搬入されている。

**剥離工程** 横方向の裏面加工 (1)、右側面加工 (2) の交互剥離による石核調整の後、頭部調整を伴う石刃剥離 (3) が行われる。頻繁な打面調整の結果、石核20の打面にはヒンジによる段差が残る。剥離された石刃は10cm程度で中央部の石刃が欠落し、搬出されたと考えられる。

**分布** Sb-60のL46、M46、Sb-61のM45区に分布する。

#### 母岩別資料416・接合資料1930 (図IV-553、図版361-1)

母岩別資料は接合1930の他、剥片4点で構成され、総点数12点、総重量719.1gである。

**素材** 8点(7個体)が接合し、重量は700.3g、大きさは11×9×8 cmである。角の潰れた亜角礫を素材として原石の形態で搬入されている。

**剥離工程** 上面に打面作出後、打面調整を伴う石刃剥離が行われる。

**分布** Sb-57のI49、J48、K48、Sb-58のK48区に分布する。

#### 写真のみ掲載の遺物

母岩別資料413・接合資料1925(図版361-2)は、角の潰れた亜角礫素材で原石の形態で搬入される。裏面横方向の剥離によって石核調整を行い、上面から正面への石刃剥離の後、打面転移が行われ、下面から剥離される。(鈴木宏行)

### (15) F区・石器ブロック61(Sb-61)の石器

#### 出土石器(表Ⅳ-11・12)

尖頭器1点、ナイフ形石器40点、彫器3点、搔器1点、削器1点、舟底形石器7点(Ⅱ類7点)、二次加工ある剥片5点、石刃16点、縦長剥片32点、石刃核1点、石核3点、削片1点(その他削片1点)、剥片388点、礫1点の計500点、重量6,068.5gの石器類が出土した。石材は黒曜石1が80.4%で最も多く、黒曜石3(7.2%)、黒曜石5(6.0%)、黒曜石4(4.2%)が続き、以下黒曜石2(2.0%)、泥岩(0.2%)である。黒曜石1の割合が非常に高く、また、ナイフ形石器が40点と多く、細石刃関連資料が含まれないのが特徴である。

#### ナイフ形石器(図Ⅳ-554-1~図Ⅳ-555-26、図版362)

37点(22個体とⅠ層出土4個体を加えた26個体)を図示している。加工は全て平坦剥離によるものである。1~7は剥片・石刃を素材とし、ほぼ左右対称な柿の種子のような形状に整形された小型の石器である。全て腹面加工により基部が円形に整形され、背面加工は全面的に行われる1・2・6、片側縁に行われる3・4、先端部に行われる5に分けられ、それらの順で素材形態の変形の度合いが高い。1~3は素材の先端側、4~6は打面側が基部に設定される。7は中央で折損後、破片の一つを利用して背面の両側縁・腹面基部が加工される。

8~19は石刃を素材としたより大型の石器である。8・9は先端部を斜めに断ち切る加工が行われ、8は腹面基部にも加工がある。10~19は背面片側縁ないし先端部調整によってほぼ左右対称な平面形に加工されるものである。10・12・13・15~19は主に片側縁調整、11・14は先端部調整によって背面加工が、10・12・14・16・18・19には腹面基部加工が行われる。12・16・17・19は素材の先端側、8~11・13~15・18は打面側が基部に設定される。

20~26は折損品で、20~23は先端部、24~26は基部である。20・21は片側縁に、22は先端部に背面加工が行われ、23は片側縁加工の後、折損し、右側縁に再加工が行われる。24は腹面のみに、25・26は両面に加工が施される。25は背面基部加工の際、腹面側に剥離が抜けてしまったものである。

全体的に加工は平坦剥離によって行われ、基部は両面加工により円形で平坦に作出されるのが特徴である。逆に背面加工に関しては背面を覆う加工、右側縁のみ、左側縁のみ、先端部のみの加工があり、それらに偏りが無い。同様に、素材の打点位置と基部の位置にも偏りがみられず、基部を平坦な円形に、先端部を尖頭状に整形することを目的として加工が行われ、その形態を作成するのに適した素材の利用のされ方があったと考えられる。つまり、素材の直線的な縁辺は尖頭状の形態を作成するのに最大限利用されたと考えられる。その点ではナイフ形石器というよりむしろ尖頭器に分類した方が良いと思われる。

**彫器** (図IV-555-27~図IV-556-29、図版363)

3点(2個体とI層出土1個体を加えた3個体)を図示している。27は頁岩製の彫器である。両側縁に急角度の加工が行われ、左肩に作出された打面から右肩に彫刀面が作出される。28は打面の大きい石刃素材で先端部に作出された打面から左側縁に直線的に彫刀面が作出される。29は比較的大型の石刃の折れ面を打面として左右両側縁で彫刀面が作出される。左側縁上部には一部彫刀面作出前の加工が残る。

**搔器** (図IV-556-30、図版363)

1点(1個体)を図示している。30は石刃素材で円い刃部が作出される。左側縁には微細な、右側縁には平坦な加工がみられる。

**削器** (図IV-556-31、図版363)

1点(1個体)を図示している。31は石刃素材で背面の両側縁には連続した平坦剥離による加工がみられる。上下両端部には両極打法によるものと考えられる平坦でリングの密集した剥離がある。

**二次加工ある剥片** (図IV-556-32・33、図版363)

4点(2個体)を図示している。32は頭部調整の無い剥片素材で左側縁先端部に平坦な剥離がみられる。33は打面の縁に微細な頭部調整のある打面の大きい縦長剥片素材である。先端部折損後、左側縁先端部に加工が行われる。

**舟底形石器** (図IV-556-34~図IV-557-37、図版363)

6点(4個体)を図示している。34~37はII類である。34~36は15cmを越える大型の剥片・石核素材である。特に36は長さ21cmで非常に大型である。34・35ともに転礫素材で、34は剥片、35は石核素材である。3点とも甲板面からのみの加工で整形されている。37は棒状の角礫素材で、左側面に加工が行われ、折損している。

**剥片** (図IV-557-38、図版364-1)

4点(1個体)を図示している。38は長幅比2以下の縦長の剥片である。石核の縁辺に微細な剥離による頭部調整を行い、剥離されている。頭部調整は打面縁辺の稜の張り出しを除去するものではなく、また、加撃は作業面上の二本の稜を取り込むように稜と稜の間に行われるため、打面形状は台形に近い。

**石刃核・石核** (図IV-557-39~図IV-558-42、図版364-1)

石刃核は2点(1個体とI層出土1個体を加えた2個体)、石核は2点(2個体)を図示している。39・40は角の潰れた亜角礫素材で単剥離打面から軽微な頭部調整を伴って石刃が剥離される。両者ともに両設の石刃核である。41・42は爪状痕のある原礫面を持つ転礫素材で、単剥離打面から頭部調整を行わずに剥片が剥離される。41は剥離が進み、平坦である。

**石器ブロック61 (Sb-61) の分布** (図IV-559~561)

M45、N44~47、O43~48、P43~47、Q43~46、R45区の24×18mの範囲で確認された。P44区にナイフ形石器がまとまる非常に小規模な集中域が、O47、P46区周辺にはナイフ形石器がまとまるO47区と剥片がまとまるP46区が接続した低密度の集中域があり、それ以外は散漫な分布である。ナイフ形石器は、前者には加工の少ないものが、後者には加工が多く、形態の整ったものが多い。また、ナイフ形石器16は西地区であるN28区と70m離れた接合関係がある。舟底形石器・石核類は集中域から離れて分布し、彫器・搔器はO47、P46区周辺の集中域に分布する。

**石器ブロック61 (Sb-61) の接合状況** (図IV-562)

主にブロック内での散漫な接合関係がみられ、周辺ブロックとの接合関係は少ない。

#### 母岩別資料412・接合資料1922 (図IV-563・564、図版365)

母岩別資料は接合1922の他、接合1923・51617で構成され、総点数81点、総重量1,648.5gである。

**素材** 77点(46個体)が接合し、重量は1,633.1g、大きさは15×15×11cmである。爪状痕のある転礫を素材として原石の形態で搬入されている。

**剥離工程** 一回の剥離によって作出された打面から石核調整を行わずに石刃が剥離され(1)、打面再生の後、継続される(2)。石刃剥離に伴う頭部調整は打面の縁辺部に軽微な加工で行われ、稜の頂部を除去するようなものではない。また、石刃剥離の際の加撃点が作業面の稜の頂部ではなく頂部と頂部の間であるため38のように石刃の打面幅は広く、石刃自体も幅広で打面幅と最大幅はほとんど変わらない形状である。また、そのような石刃が剥離されるため、石核の作業面も扁平で、最終的に石核41のように扁平となる。10cm前後の石刃が剥離され、ナイフ形石器(9・23・22・24・8)、二次加工ある剥片(32・33)に加工されるが、それらの加工は部分的で加工途中のものが多い。また、欠落したものがほとんど無く、ほとんど搬出されていない。

**分布** Sb-60のM46、Sb-61のM45、N44・45・47、O43~47、P44・45、Sb-53のP48区の広い範囲に散漫に分布するが、ナイフ形石器はP44区に集中している。人為的に集められたと考えられる。

#### 写真のみ掲載の遺物

母岩別資料407・接合資料1911(図版364-2)は、角の潰れた亜角礫素材で原石の形状で搬入される。上設打面からの石刃剥離の後に横方向の剥離によって石核は中央で分割され、両者ともに両設の単剥離打面から石刃剥離が行われる。(鈴木宏行)

### (16) 白滝I群以外石器ブロック外の石器

#### 尖頭器(図IV-565-1、図版366)

1点(1個体)を図示している。1は長さ16cmでやや厚手の尖頭器である。やや粗い平坦剥離で加工されている。

#### ナイフ形石器(図IV-565-2、図版366)

1点(1個体)を図示している。2は先細りした縦長剥片素材のナイフ形石器である。基部は両面とも平坦剥離によって加工されるが、先端部は加工されずに先細りの素材形状が残される。

#### 搔器(図IV-565-3、図版366)

1点(I層出土1個体)を図示している。3は頭部調整の行われる単剥離打面の石刃核から剥離された石刃素材である。両側縁には急角度の加工が施され、刃部はやや直線的に加工される。

#### 二次加工ある剥片(図IV-565-4、図版366)

1点(1個体)を図示している。4は幅広の尖頭器調整剥片素材で、素材打点部周辺に平坦剥離による両面加工がみられる。

#### 舟底形石器(図IV-565-5、図版366)

1点(1個体)を図示している。5は甲板面がネガ面で10cm以上の石核素材と考えられる。主に甲板面からの加工で整形されるが、最後は右側面に下縁から加工が行われ、端部には細石刃状の剥離がみられる。甲板面の縁辺部は細かい加工で直線的に加工される。側面形は長方形に近く、両側面の表面は比較的滑らかである。

**石刃核** (図IV-566-6、図版366)

1点 (I層出土1個体) を図示している。6は角の潰れた扁平な直角礫素材である。上設の単剥離打面から頭部調整を伴い石刃が剥離される。素材が扁平なため裏面に作出された打面と作業面の角度は40度と小さい。また、途中で裏面下端からの剥離、正面下端からの剥離、左側縁から裏面への剥離が行われる。素材形状を反映して作業面形状は平坦で、幅広の石刃が剥離されている。

**分布** (図IV-566)

1・2は広郷型ナイフ形石器の出土するSb-60の南西に位置し、また、Sb-12と重複することから、2はいずれかと関連があると考えられる。しかし、尖頭器はどちらにも含まれないため、1の関連性は不明である。3・6はSb-18・30に隣接するグリッドで採集され、6はH57区 (Sb-34) から出土したIV-388-75に類似する。4は西地区であるL21区から出土している。主にL53区 (Sb-44) に分布する母岩328・接合1658 (図版345-2・346) に単体で含まれるため、L21区に搬入されたと考えられる。5はSb-29出土の舟底形石器IV-309-68と接合し、Sb-29と関連がある。

**(17) 表土 (重機調査) の石器**

ここでは、調査の最初の段階で行われた重機による笹根除去作業の際の排土中から得られた遺物について説明する。土は一定の範囲から集められているため正確な地点は不明である。

**尖頭器** (図IV-567-1~図IV-568-5、図版367)

8点 (5個体) を図示している。1は直角礫素材で長さ28cmの大型品である。正面は主に左側縁から裏面は両側縁から大型の剥片剥離による平坦剥離が行われ、正面左側縁からの加工で折損している。正面の加工が左側縁に偏るため最大厚度も右に偏っている。2は角礫素材の尖頭器で、平坦剥離によって加工され、縁辺には細かい剥離がみられる。3は非常に幅広の横長剥片素材で、背面は全体に、腹面は素材のバルブの部分に押圧剥離状の薄く、器体の奥に侵入する加工が行われ、非常に細長い形状である。左側縁から正面への最終剥離で折損している。4・5は珪岩製の尖頭器である。4は裏面が大型の平坦剥離によって、正面がやや小さな剥離で加工され、断面形は背面側が凸状になる。5は正面が粗い加工により、裏面が比較的細かい加工によって整形されるが、側面形はやや湾曲し、あまり整った形態ではない。

**両面調整石器** (図IV-568-6、図版368)

1点 (1個体) を図示している。6は角柱状の角礫素材で平坦な裏面には全体に、正面は右側縁のみに粗い加工が行われる。ヒンジや潰れによる表面形態の悪化により途中で遺棄されたと考えられる。

**細石刃核** (図IV-568-7~図IV-569-11、図版368)

5点 (5個体) を図示している。7は素材の背面を左側面に設定し、素材打面側から削片が剥離される。両側面とも下端部に加工があり、作業面長は29mmである。作業面は素材腹面である右側面に偏り、裏面は折損している。8は小型の剥片素材で素材背面を左側面に、素材先端側を細石刃剥離作業面に設定している。腹面には上縁から粗い加工が、背面には縁辺部に急角度の加工が施され、最後に削片が剥離される。削片剥離は器体の中央付近までしか到達せず、細石刃剥離は行われない。9は両面加工された母型の裏面から削片が剥離され、裏面で細石刃が剥離される。その後、正面から削片が剥離され、正面で細石刃が剥離される。他の峙下型細石刃核に比べ幅広の細石刃が剥離されている。10は素材背面を左側面に、先端部を細石刃剥離作業面に設定している。左側面の上縁には比較的急角度の、その他の周縁には平坦な加工が施され、特に素材打面部には平坦剥離による両面加工で尖頭状

に加工される。最後に正面に細石刃状の剥離が行われる。11は幌加型細石刃核である。素材を横方向に利用し、舟底形の細石刃核未製品が製作され、端部で細石刃が剥離される。側面の加工は甲板面・下縁から行われ、右側面甲板面からの加工、右側縁下縁からの加工、左側縁下縁からの加工、左側面甲板面からの加工の順で整形される。特に甲板面の縁辺には細かい加工が行われ、上面から見た縁辺は直線的で滑らかである。作業面長は24mmである。

#### 細石刃核削片（図Ⅳ-569-12・13、図版368）

2点（2個体）を図示している。12・13ともに峠下技法の二次削片である。12は原礫面の残る大型のもので、先行の削片剥離後、末端部の段差を右側面から除去し、剥離されている。

#### 舟底形石器（図Ⅳ-569-14～図Ⅳ-572-28、図版368・369）

15点（15個体）を図示している。甲板面が原礫面で原石素材である17・28、甲板面がネガ面で石核素材である14・25以外は剥片素材である。14～17、24～26は完形、18～23、27・28は折損品である。14～16は10cm以下の小形品、17・24・25は10～15cm、26は15cm以上の大型品である。ほとんどは甲板面からの加工であるが、15・19～26には下縁からの加工がみられる。26の甲板面の縁辺は、細かい剥離により滑らかである。

#### 彫器（図Ⅳ-572-29～31、図版370）

3点（3個体）を図示している。29は小型の細長い石刃素材で素材打面側の端部を断ち切るように作出された彫刀面打面から縁辺に沿って彫刀面が作出される。彫刀面と接する腹面には彫刀面と直交する細かい線状痕が観察できる。30は頁岩製である。剥片素材で素材打面側である基部には両面に平坦剥離が施され、尖頭状に整形される。右肩に斜めに作出された彫刀面打面から左肩に彫刀面が作出されるⅡ類の彫器である。31は打面調整のある石刃素材で、素材先端側に腹面からの急角度の加工によって内湾するように作出された彫刀面打面の左右の端部から左右側縁に彫刀面打撃が行われる。腹面側に加撃されるため彫刀面は腹面側に傾いている。

#### つまみ付きナイフ（図Ⅳ-572-32、図版370）

1点（1個体）を図示している。32は斜めに湾曲した剥片素材でバルブの下につまみが作られ、内湾した右側縁、左側縁先端部には連続した加工が施される。

#### 石刃核（図Ⅳ-572-33～図Ⅳ-573-36、図版370）

4点（4個体）を図示している。33～36は単剥離打面の石刃核である。33・35・36には頭部調整がみられる。33には打面の裏面側に横方向の剥離がある。34は裏面に横方向の加工があり、それを切る下面からの縦方向の剥離がみられる。35は作業面が周回している。33・36は角礫素材である。

#### 石核（図Ⅳ-573-37～図Ⅳ-575-41、図版370・371）

5点（5個体）を図示している。37は、頭部調整・打面調整を伴わない剥離が、頻繁な打面転移を繰り返して行われ、サイコロ状に近い形状である。38は、正面・左側面・上面で剥片が剥離されている。39は角礫素材で単剥離打面から幅広の剥片が剥離される。正面左側縁下部・裏面下部には石核調整がみられる。40は転礫素材で単剥離打面から頭部調整を伴う幅広の剥片剥離が行われ、最後に下縁から剥片が剥離されている。41は転礫素材で当初裏面左側の一枚の剥離面を打面として右側縁から正面に頭部調整を伴う剥片剥離が行われる。その後、打面を上面に90度転移させ、上面から頭部調整を伴って幅広の剥片が剥離されている。（鈴木宏行）

### (18) 斜面部（重機調査）の石器

ここでは高位部の東側に位置し、低位部との間にある斜面部から出土した遺物について説明する。

調査は、重機によって発掘区単位で土壌を掘り上げ、人力によって遺物を採集する方法で行った。

斜面部は高位部の東端である A・B 区と接するため両者の遺物が混在し、また、斜面のため原位置を保っていないという立地上の問題から厳密に石器群を抽出するのは困難である。

#### 出土石器 (表Ⅳ-8)

全て一括遺物で尖頭器43点、両面調整石器2点、ナイフ形石器2点、彫器8点、搔器31点、削器67点、錐形石器1点、舟底形石器24点(Ⅱ類24点)、二次加工ある剥片7点、細石刃50点、細石刃核20点、石刃310点、縦長剥片69点、石刃核10点、石核37点、削片45点(細石刃核削片45点)、剥片18,179点、原石4点の計18,910点、重量193,059.0gの石器類が出土した。一括遺物から抜き出した遺物1,078点の石材は黒曜石1が57.2%で最も多く、黒曜石4(22.9%)、黒曜石5(13.0%)、黒曜石3(4.6%)が続く、以下黒曜石2(1.4%)、頁岩(0.8%)である。彫器・舟底形石器は黒曜石4が多く、細石刃関連資料である細石刃・細石刃核削片・細石刃核は黒曜石1・5が多い。

#### 尖頭器 (図Ⅳ-576-1~11、図版372)

11点(11個体)を図示している。1は剥片素材と考えられる10cm程度の断面三角形の尖頭器である。比較的粗い加工で正面左側縁は階段状に潰れ、先端部は欠損している。2は15cmを越える大型石刃素材で両側縁は加工されずに、両面の平坦剥離によって、素材打面側は尖頭状に、先端側は円形に加工される。3~11は欠損品で全て小型の尖頭器片である。3・10・11は幅広の、それ以外は幅の狭いものである。9は厚手の断面三角形で正面の稜からの加工がみられる。

#### 両面調整石器 (図Ⅳ-577-12、図版372)

1点(1個体)を図示している。12は大型剥片素材で裏面は大型の平坦剥離、正面は両側縁からの奥に侵入する剥離によって断面形が蒲鉾状に整形される。下端部から腹面に剥離が行われ、下端部の刃部形状は円のみ状であるが、潰れや擦痕は観察できない。形態上は斧形石器であるが、黒曜石製であり、両面調整石器に分類した。

#### 細石刃 (図Ⅳ-577-13~28、図版373)

16点(16個体)を図示している。13~19は完形ないしほぼ完形、20~24は頭部、25~27は先端部、28は中間部である。完形品の長さは22~38mmであるが、26~32mmのものが多く、折損品を含めて30mm前後が多いと考えられる。幅は5~10mmであるが、7~9mmのものが多い。この数値はA区の峠下型細石刃核から剥離された細石刃の規格と異なりやや大型で、異なる細石刃核から剥離されたものと考えられる。

#### 細石刃核 (図Ⅳ-577-29~図Ⅳ-578-46、図版373・374)

19点(18個体)を図示している。29~37は細石刃剥離痕のある細石刃核である。29~31・36・37は削片剥離によって細石刃剥離打面が作出されるもの、32~35はそれ以外のものである。29~31は剥片・石刃素材で、峠下型細石刃核の範疇に入る。29・30は素材先端側から、31は素材打面側から削片剥離が行われ、29・31は他端まで達し、30は途中でヒンジになっている。29は両側面下縁部に加工が施される。裏面の折れ面を切る加工がみられ、折損後に加工が行われている。30は背面の縁辺に細かい加工が行われるが、上縁の削片剥離部では削片剥離前に角度のある比較的しっかりした加工が行われる。31は左側面ほぼ全体、右側面上部・細石刃作業面周辺に加工がみられるが、左側面を覆う上面からの加工は先行の削片剥離後に行われたものと考えられる。29~31の甲板面と作業面の角度は、31が75度であるが、29・30はほぼ60度でA地区の峠下型細石刃核と一致する。一方、細石刃剥離作業面長は22~33mm、細石刃核高は29~31mmでやや大きい。

32~35は大型の剥片素材で主に腹面から両側面への加工で未製品が作成される幌加型細石刃核であ

る。素材腹面である甲板面が平坦であることが特徴で大型の剥片が利用されていると考えられる。素材の剥離軸と石器長軸との関係では32・34は素材を縦方向に、33・35は横方向に利用している。33・34は下縁からの加工によって側面の湾曲が弱まり、表面の凹凸が減り、滑らかになり、また、全ての甲板面の縁辺には頭部調整状の細かい加工が行われ、直線的に仕上げられている。これらの特徴はⅡ類の10cm以下の舟底形石器にはみられないものである。細石刃剥離は、素材を横方向に利用する33・35は両端で、縦方向に利用する32・34は素材先端側のみで行われる。甲板面と作業面の角度は峠下型細石刃核と異なり、45～85度と幅がある。細石刃剥離作業面長は28～36mmで30mm前後が多く、斜面部出土細石刃長と一致する。

36・37は蘭越型に類似するものである。36は左側面・裏面に素材面と思われる縦方向の剥離面が残り、素材が縦方向に利用されている。細石刃核未製品の形状は不明であるが、背縁から右側面に細石刃核母型作成時の加工がみられる。細石刃剥離作業面側から削片剥離が行われ、細石刃が剥離されている。甲板面の削片剥離面は打点が遠く、細石刃剥離が進んでいると考えられる。作業面長は34mmで比較的長い細石刃が剥離されている。37は剥片素材で素材を縦方向に利用し、横切るように削片が剥離される。加工は素材背面である左側面にはほぼ全面的に、素材腹面である右側面には縁辺部に平坦剥離によって行われる。甲板面には数枚の剥離面が残る。素材を縦に利用し、横に断ち切るように削片剥離が行われ、54mmもの長い細石刃剥離作業面長を持つ点で蘭越型細石刃核に類似するが、剥片素材であり、細石刃剥離に先立つ石刃剥離が行われない点が蘭越型と異なる。

39～46は細石刃剥離痕の無い細石刃核未製品である。全て削片剥離によって甲板面が作出される。38～40・42～44は厚手の剥片素材、46は石核素材、41・45は不明である。40・46には原礫面が残り、角の潰れた亜角礫が利用されている。38～40・43は素材打面側から、42・44は素材先端側から削片剥離が行われる。40の削片剥離は正面からの後、裏面から行われる。片面加工(39・40・44)と両面加工(41～43・45・46)があり、それらは削片剥離前のものもあるが、ほとんどは削片剥離後に行われ、特に38・40～42は削片剥離後、甲板面から片側縁ないし両側縁に比較的粗い側面調整が行われ、大きく幅を減少させている。また、45は両面とも全体的な加工がみられるが、接合資料から2本前の削片剥離後にほとんどの側面調整が行われており、削片を剥離しながら幅を減少させる美利河技法の特徴がこれら一群にはみられる。

#### 細石刃核削片 (図Ⅳ-579-47～54、図版374)

8点(8個体)を図示している。47は峠下型細石刃核の二次削片である。先行する削片剥離後、そのヒンジによる段差を除去する腹面からの剥離が行われ、剥離されるが、下縁に抜け、細石刃核本体の長さを大きく減少させている。48は両面加工された細石刃核母型から剥離されたもので、先行の削片剥離後、左側面に下縁から全面的に加工が行われ、剥離されるが、下端に抜けて細石刃本体の長さを大きく減少させている。49～51は一次削片である。49・50は削片剥離前に、甲板面に設定する面の削片打面部周辺を横方向の剥離によって、また、49はさらにその面から両側面への加工によって準備された断面V字形の細石刃核母型から剥離される。両者とも上面に平坦な原礫面が残り、石核素材と考えられる。幅は4cm程度で細石刃核母型は非常に幅広である。51は大型の剥片素材で腹面から急角度の加工によって母型が作成される。52は両側面、53・54は片側面に先行の削片剥離後に大きく幅を減少させる加工が行われ、剥離されている。削片剥離打面の残る49・50・53の打面周辺には細石刃状の細かい剥離がみられ、50・53は打面の厚さが1.5cmで大きく母型の高さが減少したと考えられる。4cm程度の幅で断面V字状の母型を作成し、削片剥離後、側面調整を繰り返し、幅・高さが減少する点で美利河技法に類似する。

**舟底形石器** (図IV-580-55~図IV-583-67、図版374~376)

15点(13個体)を図示している。55は小型で甲板面からとそれを切る下縁からの加工が行われる。56~61は下縁の側面形が整った弧状で甲板面の縁辺に細かい剥離が行われ、縁辺が滑らかな形状のものである。素材は大型の剥片ないし石核で甲板面は非常に平坦である。幅に対して高さが高く、幌加型細石刃核の未製品と考えられる。57・58は幅広で加工も粗いが、56・59~61は上下から丹念に、特に下縁部に細かい加工を施して直線的になるように加工され、側面の表面が滑らかで非常に整った形状である。62・63は大型の石刃素材である。62は甲板面のみから、63は上下から加工が行われ、細長い側面形である。甲板面の縁辺部は細かい剥離により直線的になっている。64は大型剥片素材で粗い加工が行われる。65は剥片素材で素材の側面である原礫面を甲板面に設定し、両面で粗い加工が行われる。素材の利用の仕方、剥離の種類から石核の可能性がある。66・67は折損品である。66は縦長剥片素材で平坦な加工が施され、67は稜付石刃素材で細かい加工と部分的に粗い加工がみられる。

**ナイフ形石器** (図IV-583-68・69、図版376)

2点(2個体)を図示している。68は剥片ないし縦長剥片素材で右側縁は直線的でほぼ直角の急角度の加工、左側縁は下半部に内湾する急角度の加工が行われる。加工はほとんどが腹面から施されるが、右側縁の先端部には一部背面からの加工がみられる。それらの加工は素材を断ち切るような加工で素材を斜めに利用した切り出し形の形状である。69は背面と腹面の剥離方向が直交する剥片素材で、腹面側の両側縁に背面からほぼ直角の急角度の加工が行われる。背面は平坦な単一面でポジ面の可能性がある。

**彫器** (図IV-583-70~73、図版376)

4点(4個体)を図示している。70は単設の単剥離打面を持つ石刃核から剥離された石刃素材で、背面基部を中心とした周縁加工が行われ、上端部右側に作出された打面から素材縁辺に沿って彫刀面剥離が行われる。その後、彫刀面の先端から右側縁に彫刀面状の剥離が行われ、また、腹面には彫刀面打面から平坦な加工がみられる。71はⅡ類の彫器である。両設の石刃核から剥離された石刃素材で両側縁全体に急角度の加工が行われ、左肩に腹面側に傾く彫刀面が作出され、背面先端部調整もみられる。72は転礫面を持つ石刃素材で、加工は右上の彫刀面打面のみに行われ、左肩に背面に傾く彫刀面が作出される。また、彫刀面に切られる背面先端部調整がみられる。73は石刃素材で、まず右肩に彫刀面剥離が行われ、背面先端部に細部調整が行われた後、左側縁に沿って剥離軸とほぼ同じ角度で彫刀面が作出される。二次加工は背面基部を中心に行われ、先端部は細かい平坦剥離である。

**搔器** (図IV-584-74~85、図版376・377)

12点(12個体)を図示している。74~83は石刃ないし縦長剥片素材で、74~80は完形、81~83は折損品である。打面の残る74は調整打面の石刃核から、75・77・79は頭部調整を伴う単剥離打面の石刃核から剥離されている。74は正面右に正面側からの剥離がみられ、打面転移が行われたと考えられる。側縁の加工は、76には左側縁に平坦剥離による加工が、77には両側縁に急角度の加工が、80には右側縁下半部に平行剥離が行われるが、その他には行われない。80の刃角は35度と小さく、82の刃部加工は縁辺に限定される。

84・85は剥片素材で両側縁には簡単な加工が行われ、84は素材打面側に刃部が形成されている。両者とも転礫素材で85は原礫面打面である。

**錐形石器** (図IV-585-86、図版377)

1点(1個体)を図示している。86は石刃素材で先端部に錯向剥離によって刃部が形成される。

**削器** (図IV-585-87~図IV-587-97、図版377~379)

14点(11個体)を図示している。87～92は片面加工の削器で、87～89は完形、90～92は折損品である。87は周縁を細かい急角度の加工で尖頭状に整形している。基部縁辺部は潰れ、右側縁裏面には若干の加工がみられる。88・89はそれぞれ17、23cmの大型石刃素材で非常に端正な形態である。89には打面が残存し、頭部調整を伴う単剥離打面であるが、打面に残る剥離面の打点が近く、調整打面の可能性もある。88は右側縁に平坦剥離による加工が行われ、89は左側縁下部・右側縁上部に平行剥離がみられ、特に右側縁の加工は上部から下部に向かって順番に行われるが、折損部付近で中央の稜を越せずに段差になり、折損している。88は頁岩製で、単体で搬入されている。90・92は頭部調整を伴う単剥離打面から剥離された石刃素材で両側縁縁辺部に平坦剥離による加工が行われる。91は転礫面のある厚手の剥片素材で粗い加工がみられる。

93～96は両面加工の削器である。93は基部の両面に平坦剥離によって加工が行われ、やや先端部が尖る円形に整形される。先端部の右側縁は45度程度の剥離によって加工されるが左側縁はそれより若干急角度でやや内湾している。94は厚手で大型の石刃素材で背面打面部周辺・腹面はほぼ全周に比較的粗い平坦剥離が行われる。95・96は長さ22.5cmで非常に大型の石刃素材である。打面の残る95は頭部調整を伴う単剥離面打面から剥離された石刃である。95の左側面には平滑な原礫面が残り、96の先端部には先行の石刃剥離面を切る稜調整痕が残る。95の加工は尖頭器製作に類似し、先端部の両側縁・両側面に行われ、尖頭状に整形される。一方、96は両面で加工部位が異なり、右側縁では腹面加工が先端部に、背面加工がそれより中央に施され、左側縁も同様の範囲に細かい加工が行われる。

97は、剥片素材で背面は右側縁上部、腹面は左側縁上部に比較的粗い錯向剥離が行われる。

#### 石刃・剥片 (図Ⅳ-587-98～図Ⅳ-590-114、図版379～381)

石刃は18点(16個体)、剥片は1点(1個体)を図示している。98～111は完形ないし打面部で、99・100・102・103・106～109は頭部調整を伴う単剥離打面から、110・111は調整打面から剥離された石刃で、98・101・104・105は打面が石刃剥離時に欠損し、打面形状の不明なものである。また、112・113は先端部で打面形状は不明である。98を除き全て単設打面の石刃核から剥離された石刃であるが、98は下からの大きい剥離痕があり、下面からの調整に近い剥離によるものと考えられる。原礫面は100・101・108・113に残るが、全て平滑なものであることから大型の角礫素材が多いと考えられる。長さは完形で15cm以上のものが多く、折損品である113は20cmを越えると考えられ、高さ15cm以上の大型の石刃核から剥離されたものが多いと考えられる。調整打面を持つ110・111は15cm以下で小型であるが、打面調整によって石刃核高の減少があるため素材の原石は20cmを越えると考えられる。114は頭部調整を伴う石刃剥離の際に剥離された剥片である。

#### 石刃核・石核 (図Ⅳ-590-115～図Ⅳ-594-124、図版381～385)

石刃核は9点(9個体)、石核は1点(1個体)を図示している。115～118は単剥離打面を持ち、頭部調整を伴う石刃剥離が行われた石刃核である。115・116は平滑な原礫面を持つ角礫素材で背面に平坦な原礫面があり、裏面以外の270度で裏面方向に向かって石刃剥離が行われている。115は正面左側縁に側縁調整がみられ、また、右側面は大型の縦長剥片剥離後、さらに剥離が行われるが、作業面が階段状になり、遺棄される。116の上面形は蒲鉾形に近く、正面形も逆台形と非常に整った形態で、両側縁が平行な石刃が剥離されている。117・118は爪状痕のある原礫面を持つ転礫素材である。117の作業面は平坦で下端部にヒンジによる段差がみられる。118は上面形が扇形で整った形状で、両側縁が平行な石刃が剥離されている。剥離された石刃はウトラパッセで下端部を取り込んでおり石刃核高が減少し、遺棄されたと考えられる。

119・120は打面調整ないし打面再生の行われるものである。119は折損した大型の尖頭器素材で端

部に打面を作出し、打面調整を行いながら側縁に沿って石刃が剥離される。120は裏面・右側面調整の後、打面調整を行いながら石刃が剥離される。

121～124は多方向の剥離が行われ、扁平な形態のものである。121は裏面左右からの剥離、裏面から左右側面への石核調整後、正面上下から打面調整・再生を伴う石刃剥離が行われる。122は転礫素材で、右側面の単剥離打面から裏面で頭部調整を伴う幅広の剥片剥離が行われた後、裏面上部に打面を作出し、正面で剥片剥離が行われるが、あまり連続して剥離されていない。123は平滑な原礫面を持つ角礫素材で、裏面調整・正面左側縁からの石核調整を挟みながら正面で石刃剥離が行われ、正面作業面形状は平坦である。124は正面上からの石刃剥離後、正面右側縁を打面として裏面で打面調整を伴う石刃剥離が行われる。両面での打面転移・石核調整などで最終形態は扁平な円盤状である。

#### 分布 (図IV-595～599)

図IV-20は斜面部の遺物を含む接合資料の分布である。斜面部の遺物はグリッド一括で取り上げているため、グリッドの中央に座標を与えて接合線を書いている。この図を見るとPラインより北側ではA区との、南側ではB区との接合関係が強い。また、図IV-11では斜面部の等高線がPライン付近で湾曲し、東南東に向かって傾斜しており、接合関係も東南東に伸びる傾向がある。それらにまたがる接合関係があることから厳密には区分は困難であるが、O66区から東南東に伸ばしたラインを挟んで、便宜的に北側を北地区、南側を南地区とする。

尖頭器は、ほとんど北地区から出土し、多くがA区寄りに分布する。両面調整石器は、南地区B区寄りに円鑿形の斧形石器に類似する12が出土している。細石刃は北地区のK73区に多いが、A区寄りに散漫に分布している。細石刃核は北地区を中心に散漫に分布し、幌加型細石刃核はその分布のうち、北と南の両端に分かれて分布する。K73区周辺には蘭越型類似、峠下型細石刃核が分布する。また、中央のL～Nラインには美利河型類似の削片剥離と側面調整を繰り返す一群が分布し、同一の剥離技術から剥離された細石刃核削片もその分布に一致する。舟底形石器は幌加型細石刃核の未製品と考えられるものはJ・K74区を除くと細石刃核同様、北と南の両端に分かれて分布し、大型石刃素材の62・63は北地区のB地区寄りに分布し、それ以外は散漫に分布する。彫器は北地区の北東に分布し、搔器は北地区の西と東に分布する。削器は、小型で基部に両面加工があり先端部が尖頭状の93と剥片素材の91・97、大型石刃素材の89が北地区のA区寄りに、大型で先端部が尖頭状の95・96が南地区に分布し、その他は散漫に分布する。ナイフ形石器は北地区のA区寄りに分布し、錐形石器は北地区の中央に分布する。石核類は打面調整のある石核が北地区の北側に、打面転移により扁平になる石核は北地区の南側に、裏面に原礫面を持ち、比較的整った形態の石刃核が南地区のB区寄りに分布する。

以上をまとめると北地区のA区寄りには小型尖頭器、細石刃、搔器、両面加工で基部を作り出し先端部を尖らせた削器、大型石刃素材で平坦な平行剥離のある削器、剥片素材の削器、ナイフ形石器が、北地区の中央には美利河技法類似の削片・細石刃核、峠下型細石刃核、蘭越型類似細石刃核、幌加型細石刃核未製品の舟底形石器、彫器、搔器が、北地区の南側には打面転移により扁平になる石核が分布している。また、南地区のB区寄りには円鑿形の斧形石器類似の尖頭器・裏面に原礫面が残る稜の平行する石刃核が、中央から東には幌加型細石刃核及び未製品の舟底形石器、大型で先端部が尖頭状の削器が分布する。

#### 接合資料2636 (図IV-600、図版386-1)

**素材** 2点(2個体)が接合し、重量は105.9g、大きさは11×5×2.5cmである。平滑な原礫面を持つ角礫素材で搬入形態は不明である。

**剥離工程** 先行の削片剥離後、甲板面から両側面全体を覆う加工が行われ、大きく幅を減少させている。その後、削片52が剥離されるが、そのまま遺棄されている。45は細石刃核形状からは札滑型に分類されるが、接合資料からは削片剥離と甲板面からの加工によって細石刃核形態を整える点で美利河技法に類似する。残核形状から技法を推定するのは困難と言われるが、細石刃核45の側面調整を観察すると断面凸レンズ状の縁辺を打点として加工が行われたのではなく、断面V字形の甲板面から加工されたことが判定できる。両面加工があるという理由で札滑型と判断するのではなく、側面の加工の打点位置を推定することで母型形状を推定できるのではないかと考える。今後の課題としたい。

**分布** 削片52はK70区に細石刃核45はL74区に分布し、離れて分布する原因が人為的なものかどうかは判断できない。

**接合資料2649** (図IV-600、図版386-2)

**素材** 2点(2個体)が接合し、重量は90.1g、大きさは13×4×3cmである。転礫から剥離された幅広の大型剥片を素材で搬入形態は不明である。

**剥離工程** 幅広の剥片の剥離軸を細石刃核の短軸方向に設定し、素材先端部に急角度の加工を施し、打面側の加工は不明であるが、おそらく断面がD字状になるように母型が製作される。削片51の直前の中央まで達しない一次削片が剥離された後、甲板面から削片打面周辺に細石刃状の剥離を行い、端部の上面形が円形になるように削片打面調整が行われ、削片51が剥離される。その後、甲板面から背面側へ加工が行われ、削片54が剥離される。削片51の剥離後の側面調整で幅は最大10mm減少し、大きく母型の形態が変化したと考えられる。その特徴は美利河技法に類似する。

**分布** 削片51はN71区に、削片54はN66区に分布し、離れて分布する原因が人為的なものかどうかは判断できない。

#### 写真のみ掲載の接合資料

母岩別資料240・接合資料1402(図版386-3)は、平滑な原礫面を持つ角礫素材で搬入形態は不明である。下面から正面への石核調整後、単剥離打面から頭部調整を伴って20cm程度の石刃が剥離されている。石刃核形状は、下面に向かって先が細くなる五角形の端正な形態であるため、石刃剥離が順調に連続して行われている。(鈴木宏行)

### (19) 低位部・石器ブロック62・63(Sb-62・63)の石器

#### 出土石器

185点、重量38.4gの剥片のみが出土した。石材は黒曜石1が最も多く84.5%を占め、以下黒曜石3(5.5%)、黒曜石2(4.5%)、黒曜石4(3.0%)、黒曜石5(2.5%)となっている。剥片はすべて小型で重量も少なく(平均0.2g)、表土出土の石鏃同様に水和層の発達が見られない。Sb-1~61が出土した段丘面より一段低い東白滝面に立地することも合わせて考えると、本石器ブロック群は縄文時代に属するものと思われる。

**石鏃**(図IV-601-1、図版386-4)

1点(I層出土1個体)を図示している。1は基部が内湾する無茎の石鏃で、両側縁は僅かに外湾するものである。剥片素材で、先端部が欠損している。背面は丁寧な調整面に覆われ、腹面は縁辺部だけの加工で、素材面が残存している。

**石器ブロック62 (Sb-62) の分布 (図IV-601)**

P86~88、Q85・86区の15×7mの範囲で確認された。全体的に散漫な出土状況である。剥片のみ69点、重量12.1gが出土した。剥片はすべて小型で重量も少ない。石鏃1は表土一括で、Sb-62・63間のR85区から出土した。

**石器ブロック63 (Sb-63) の分布 (図IV-601)**

Q88、R86~88、S85~88区の11×13.5mの範囲で確認された。全体的に散漫な出土状況であるが、R86、S87区にややまとまった分布がみられる。剥片のみ116点、重量26.3gが出土した。Sb-62と同様に剥片が小型で重量が少ないものが多い。  
(直江康雄)

## V 上白滝6遺跡の調査（平成13年度調査分）

### 1 調査の概要

#### （1）調査要項

事業名 一般国道450号白滝丸瀬布道路工事に伴う埋蔵文化財発掘調査（平成14年度）  
 委託者 国土交通省北海道開発局網走開発建設部  
 受託者 財団法人北海道埋蔵文化財センター  
 遺跡名 上白滝6遺跡（I-20-89）  
 所在地 紋別郡白滝村字上白滝123  
 調査面積 607m<sup>2</sup>  
 調査期間 平成13年4月2日～平成14年3月29日（現地調査平成13年7月16日～9月14日）  
 平成14年4月1日～平成15年3月31日（整理作業のみ）

#### （2）調査体制

財団法人北海道埋蔵文化財センター 理事長 大澤 満（平成14年6月30日まで）  
 森重楯一（平成14年7月1日から）  
 専務理事 宮崎 勝（平成11年6月1日から） 常務理事 木村尚俊（平成13年7月17日まで）  
 畑 宏明（平成14年6月1日から）  
 総務部長 柳瀬茂樹（平成14年3月31日まで） 第1調査部長 木村尚俊（平成13年7月17日まで）  
 下村一久（平成14年4月1日から） （兼務）  
 大沼忠春（平成14年3月31日まで）  
 （兼務）  
 畑 宏明（平成14年4月1日から）  
 （兼務）

平成13年度 第1調査部第3調査課課長 長沼 孝（発掘担当者）  
 同 主任 鈴木宏行（発掘担当者）  
 同 文化財保護主事 直江康雄  
 平成14年度 第1調査部第3調査課課長 長沼 孝  
 同 主任 鈴木宏行  
 同 主任 立田 理  
 同 文化財保護主事 直江康雄

#### （3）調査日誌抄

平成13年  
 7月16日（月）調査員白滝入り。 19日（木）（白滝3遺跡25%・包含層調査）  
 17日（火）開所式ほか。 8月21日（火）調査区設定基準杭など確認、調査準備。  
 18日（水）（白滝3遺跡表土除去、杭打ち） 22日（水）北側表土除去終了。  
 23日（木）北側重機調査、北端で剥片が出土したの

## 1 調査の概要

- で、その周辺を手掘り調査とする。
- 24日（金）南側表土除去終了、北側（本線側）で剥片出土。明治大学杉原重夫氏来訪。
- 27日（月）雨天のため、遺物水洗ほか、作業半日。
- 28日（火）雨天のため、遺物水洗ほか、作業半日。
- 29日（水）北側および南側調査区包含層調査、北側 A22区尖頭器、南側 W17区石鏃・石刃鏃・尖頭器・つまみ付きナイフ出土。北側は尖頭器石器群、南側は石刃鏃石器群と判明。
- 30日（木）南側 W17区石鏃・石刃鏃・尖頭器・つまみ付きナイフ・搔器出土。
- 31日（金）雨天のため遺物水洗ほか、作業半日で終了。
- 9月4日（火）北側 A21区尖頭器出土、調査終了。南側 X16区石刃鏃・石核出土。
- 6日（水）南側包含層調査終了。
- 7日（木）完掘写真撮影、杭撤去など、調査完了。調査面積670㎡。点取り遺物1,063点。（白滝3・下白滝遺跡の調査）
- 14日（金）事務所備品・レンタカーなど引き上げ、調査員白滝引き上げ。平成13年度最終調査面積3,660㎡（上白滝6遺跡670㎡、白滝3遺跡2,900㎡、下白滝遺跡90㎡）。

### （4）発掘区の設定

発掘区はアルファベットの大文字と数字の組み合わせで表示し、規格は4×4 mとした。調査区は平成10年度の本線部分の調査区を復元した。平成10年度調査区の設定は、工事測点のSP61900とSP62000を基準点とし、その2点を通る直線を南北方向の基線とし、東西方向は基準点を通り、南北方向の基線に直交する直線とした。

ラインの設定は、南北方向をアルファベットの大文字とし、基線をMに設定後、南側にN、O、P、Q、北側は逆にL、K、J、I・・・とした。東西方向は数字で、SP61900を通る基線を25とし、東側26、27、28・・・と進行し、SP62000では50、西側は逆に24、23、22とした。調査区域は、アルファベットラインでは、K～T、数字ラインでは15～68の範囲で、基準点の測量成果は下記のとおりである。

SP61900 (M25) X = -14124.977 Y = 72263.341

SP62000 (M50) X = -14143.918 Y = 72361.531

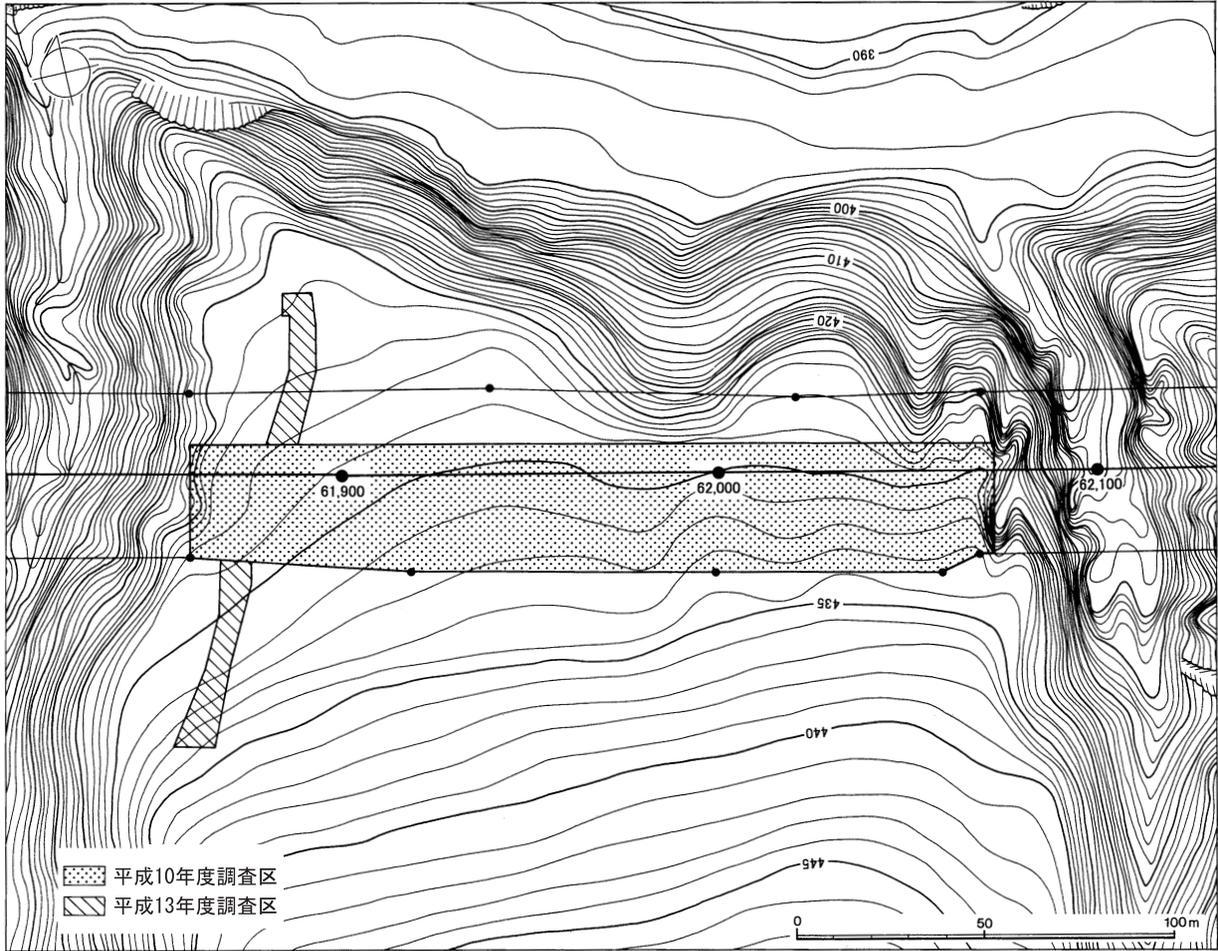
(平面直角座標系 第XⅡ系)

平成13年度の調査は連絡道路建設に伴う工事用道路建設に伴うもので、調査区は本線の北側と南側に角状に突き出た形となった。北側の調査区は、平成10年設定の発掘区内に収まったが、南側は南北方向がアルファベットのZまでに入らなかったため、Zより南側は小文字のa、b、c・・・とした。調査区域は北側の発掘区はA～Kラインと20～24ライン、南側の発掘区はR～eラインと14～19ラインの範囲である。

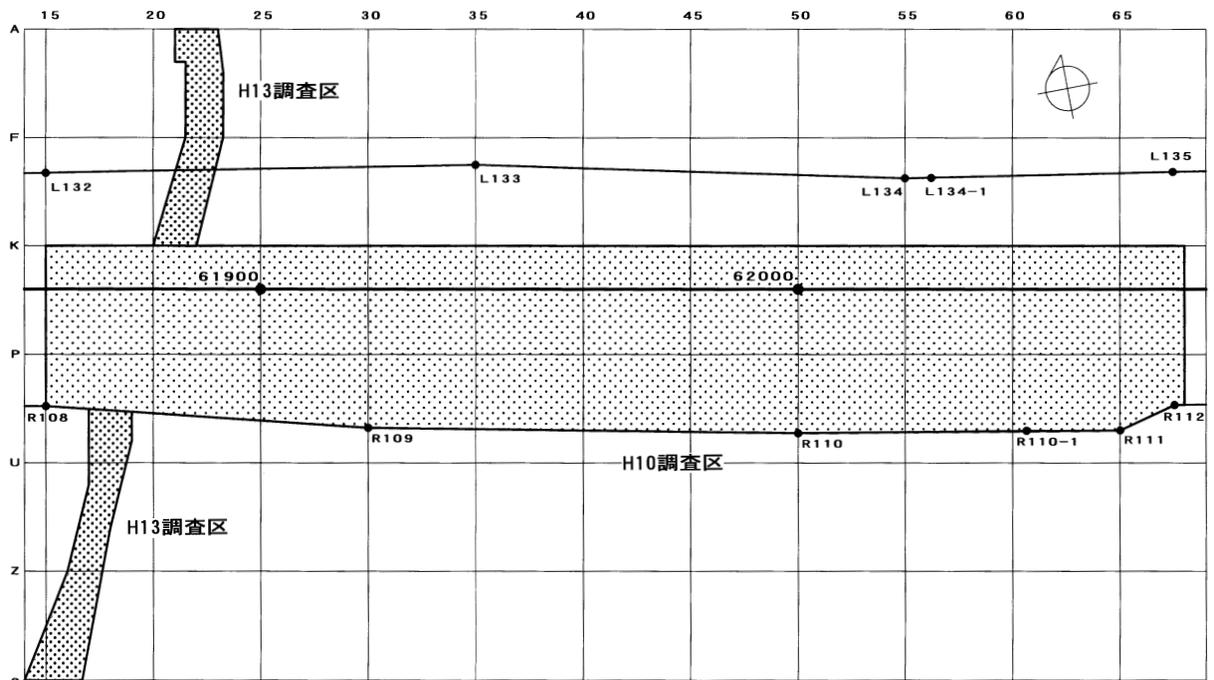
発掘区の呼称は、4 m 四方区画の西隅のライン交点で示した。例えば、Nラインと12ラインの交点の東側がN12区ということになる。また、発掘区の方法は、公共座標の北方向に対して右回りで東側に10° 55′ 06″ 傾いている。(長沼 孝)

### （5）土層

上白滝6遺跡の土層堆積状況は、Ⅱ章で記載した基本土層とほぼ同様で、上からⅠ層（表土）、Ⅱa層（褐色粘質土）、Ⅱc層（赤褐色～灰褐色砂質土）Ⅲ層（赤褐色～褐色砂質土）の順に堆積している。遺物包含層であるⅡa層は、遺跡内のほとんどの地点で連続的に確認された。南側調査区ではe～Yラインでは斜面の傾斜はややきついが、遺物が出土したY～Sラインでは傾斜はやや緩やかになっている。北側調査区では遺物が出土した北端部分の傾斜がややきつくなっている。(長沼 孝)



調査範囲・周辺の地形図



発掘区設定図(1)

図V-1 調査範囲・発掘区設定図(1)

## (6) 調査の方法

北側調査区は、平成10年の本線部分の調査結果から、遺物出土の可能性が薄いと考えられたので、表土除去後、本線部分に接する南端から重機によって包含層を少しずつ除去する重機調査を進めた。その結果、北端に近いB22区で剥片が確認できたので、その周辺は人力による手掘り調査とした。遺物はA21・22・23区、B22・23区、C23区で確認され、調査区外に続いていることが予想される。

南側調査区は、本線部分の調査で確認された石刃鏃石器群のSb-1に近いことから、関連する石器群の広がり予想された。本線に接する北側から表土除去を進めたところ、V17、W17区から黒曜石2の大型剥片が出土したので、その周辺では重機による表土除去を最小限にして手掘り調査を開始した。一方Zラインより南側では表土除去の際に遺物がまったく出土しなかったため、重機調査を進めたが、遺物はまったく見られなかった。

南北いずれの調査区も遺物の出土する部分が限られていたので、通常の25%調査などは行わず、排土の運搬路を確保しながら包含層調査を進めた。

調査期間は2週間程度となったが、雨天が多く、実質の調査日数は7日間ほどであった。

遺物の取り上げは、他の遺跡と同様に、I層（表土および耕作土）については発掘区単位で一括して取り上げ、遺物包含層であるII層については、出土位置を可能な限り計測した。しかし、II層の遺物でも指先より小さい剥片類については、発掘区単位で一括して取り上げた。出土位置の記録はトータル・ステーションを使用し、さらに遺構・遺物データシステム（シン技術コンサルタント）にデータを蓄積すると同時に毎日遺物一覧表とドットマップ（分布図）を作成し、データのチェックと遺物の分布状況を把握しながら調査を進めた。現場終了時の上白滝6遺跡のデータ数は1,063件である。

(長沼 孝)

## (7) 整理の方法

遺物の水洗作業は、基本的に現地で行った。その後、札幌の整理作業所に運び、注記などの整理作業を開始した。

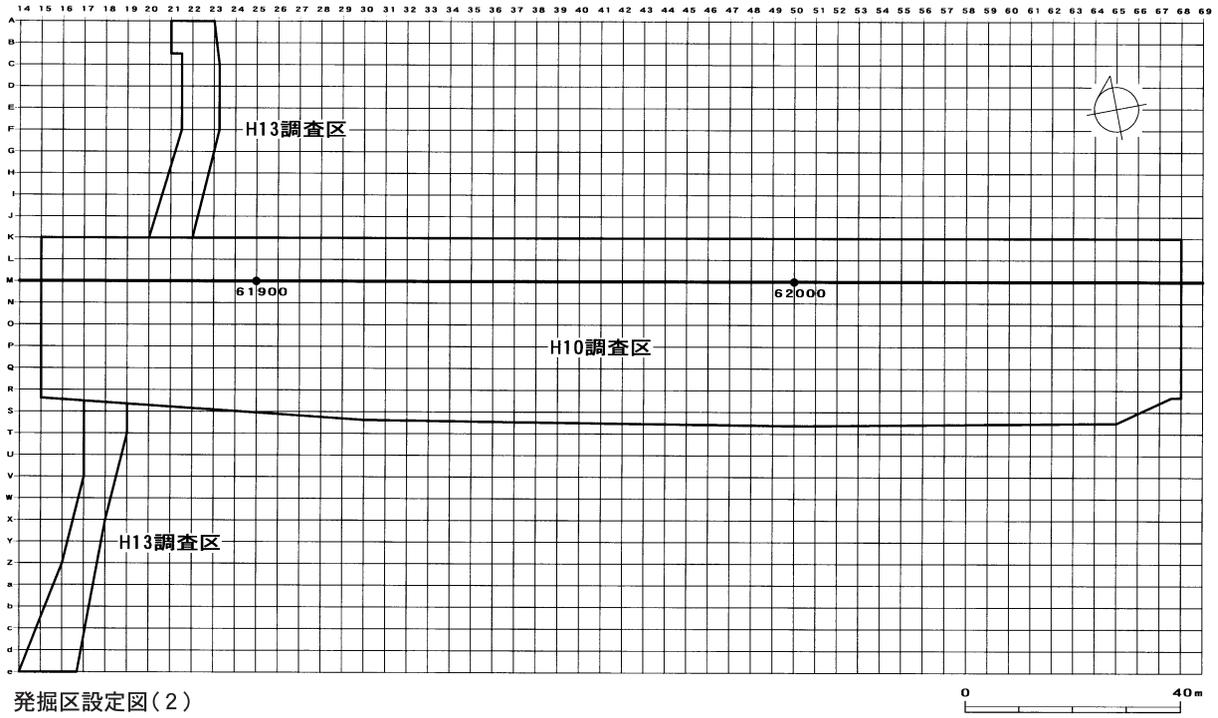
遺物の整理作業は、他の遺跡と同様に点取り遺物と一括遺物に分けて進めた。点取り遺物は注記後に、器種分類、重量計測、石質、残存状況、打点・自然面・被熱の有無など一次の属性観察を行い、次に接合・実測などの二次整理作業を進めた。遺物の注記は、道教委の登録番号、発掘区、遺物番号の順としたので、上白滝6遺跡、W17区出土、遺物番号30の石器の場合は「89W17・30」となる。

また、一括遺物は、定形的なものや点取り遺物と接合したものを抽出し、台帳を作成した。したがって、その注記は、点取り遺物と区別するため、発掘区と台帳の整理番号の間に層位を記入した。例えば、W17区、I層出土、台帳番号5の石器は、「89W17・I・5」となる。

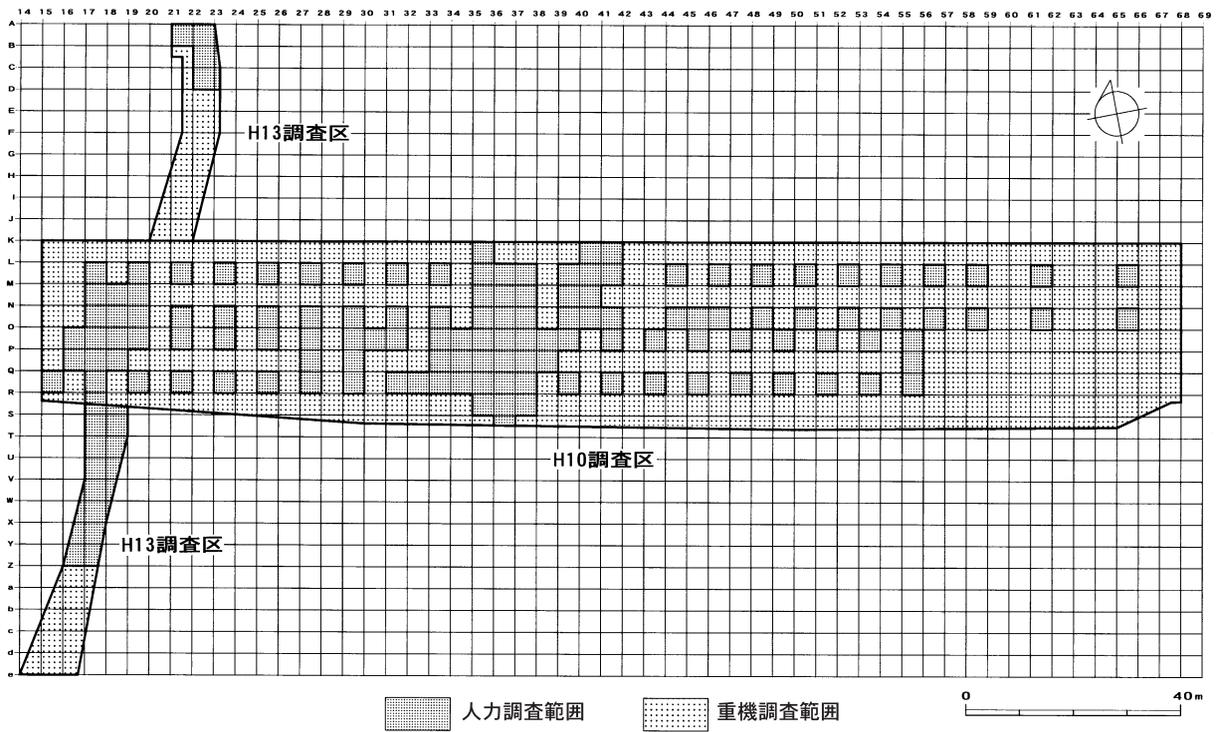
現場で取り上げた点取り遺物は、1,063点であったが、水洗後に精査し、地山に含まれている自然礫や黒曜石の原石を除いた結果、点取り遺物は最終的に1,058点となった。

遺物の接合作業は、石質、発掘区そして南北の調査区の順に進めたが、北側は全体量が少なく、遺物の分布が調査区域外に広がっていることなどから、あまり進展しなかった。南側は定形的な石器類の大部分が搬入品であったため、接合は在地の梨肌の黒曜石2の剥片類が主体であった。また、同じ石刃鏃石器群の平成10年度調査のSb-1や隣接する上白滝5遺跡のSb-6との接合も試みたが、接合しなかった。

最終的に折れ面接合は191例（50052～50134 \* 500001～50051、51例は平成10年調査分）、剥離面接合は34例（40～73 \* 1～39、38例は平成10年度調査分、21は欠番）となった。母岩抽出は、南側



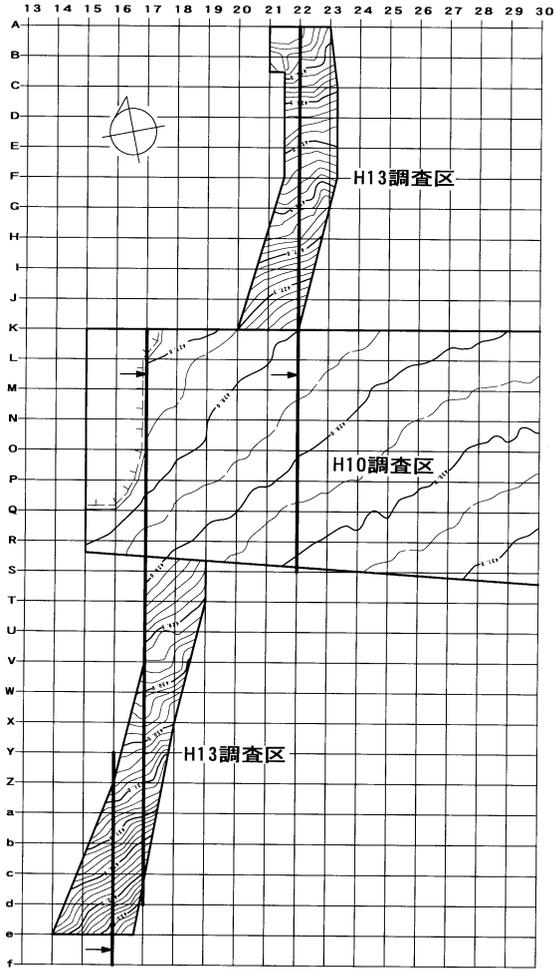
発掘区設定図(2)



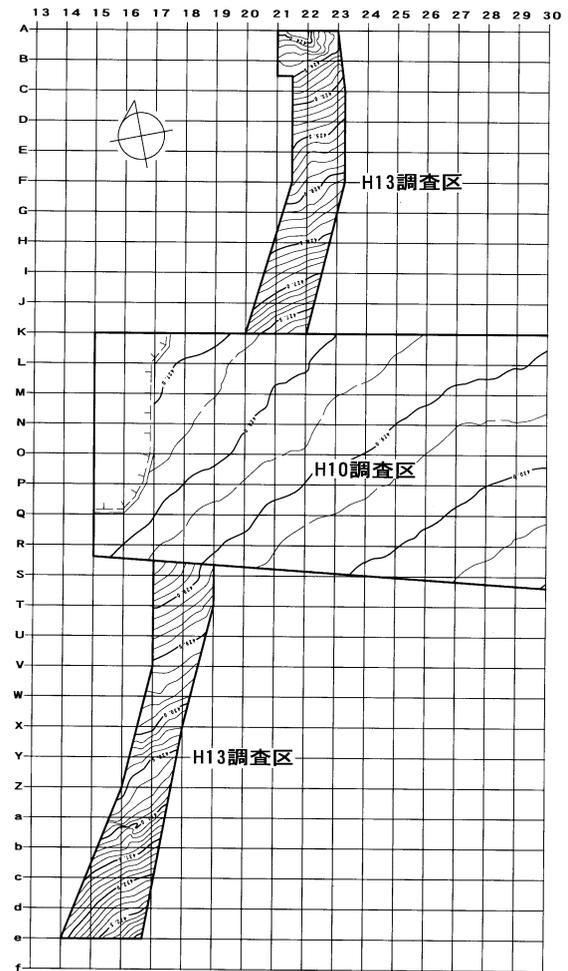
人力及び重機調査範囲図

図V-2 発掘区設定(2)・調査範囲図

1 調査の概要

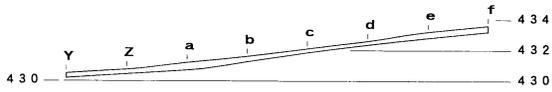


表土除去後の地形図

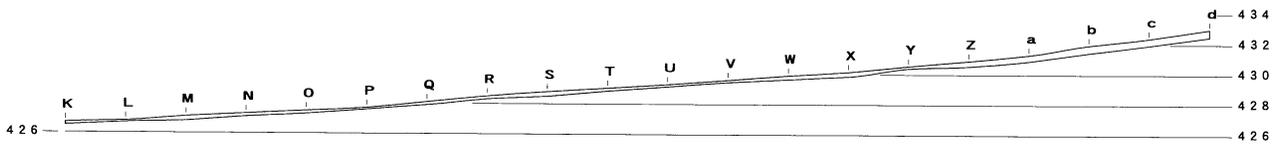


調査終了後の地形図

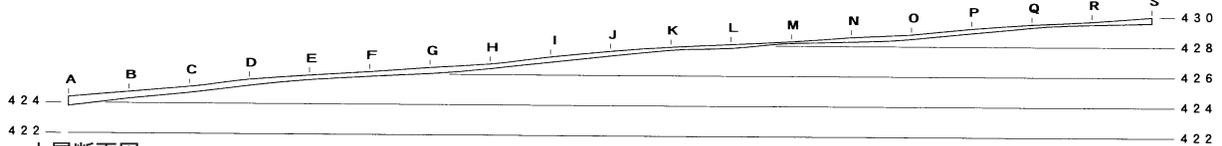
16ライン



17ライン



22ライン



土層断面図

図V-3 発掘区域地形・土層断面図

表V-1 上白滝6遺跡出土遺物点数・重量一覧 ※重量の単位は(g)

種類	尖頭器		両面調整石器		搔器		削器		二次加工ある剥片		石刃		縦長剥片		石核		剥片		石鏃		石刃鏃		つまみ付きナイフ		礫石器等		合計	
	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量
点取り	8	209.5	5	1219.2	6	280.3	8	211.1	3	204.0	10	27.3	2	101.6	1	2324.8	995	10840.8	6	9.1	11	11.7	2	6.2	1	2996.8	1058	18442.4
一括	I								1	247.0					1	664.3	98	1472.1									100	2383.4
	II																437	175.5									437	175.5
合計	8	209.5	5	1219.2	6	280.3	8	211.1	4	451.0	10	27.3	2	101.6	2	2989.1	1530	12488.4	6	9.1	11	11.7	2	6.2	1	2996.8	1595	21001.3

表V-2 上白滝6遺跡出土遺物石質別一覧 ※重量の単位は(g)

種類	石質	尖頭器		両面調整石器		搔器		削器		二次加工ある剥片		石刃		縦長剥片		石核		剥片		石鏃		石刃鏃		つまみ付きナイフ		礫石器等		合計	
		点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量
点取り	黒曜石	8	209.5	5	1219.2	6	280.3	8	211.1	3	204.0	9	20.0	2	101.6	1	2324.8	995	10840.8	6	9.1	11	11.7	2	6.2			1056	15438.3
	安山岩																									1	2996.8	1	2996.8
	頁岩											1	7.3															1	7.3
	小計	8	209.5	5	1219.2	6	280.3	8	211.1	3	204.0	10	27.3	2	101.6	1	2324.8	995	10840.8	6	9.1	11	11.7	2	6.2	1	2996.8	1058	18442.4
一括	黒曜石									1	247.0					1	664.3	535	1647.6									537	2558.9
	小計									1	247.0					1	664.3	535	1647.6								537	2558.9	
合計		8	209.5	5	1219.2	6	280.3	8	211.1	4	451.0	10	27.3	2	101.6	2	2989.1	1530	12488.4	6	9.1	11	11.7	2	6.2	1	2996.8	1595	21001.3

調査区出土の黒曜石2の接合資料5個体についてのみ行い、母岩番号は平成10年度調査分の3個体(母岩別資料1～3)に続けて母岩別資料4～8とした。

接合に関わる点数は332点(折れ面接合のみ69点、剥離面接合263点)で、点取り遺物の総数1,058点に対しては31.4%、点取り及び一括遺物の総数1,595点に対しては20.8%の接合率である。5個体の母岩別資料の点数は154点で、点取り遺物の総数1,058点に対しては14.6%、点取り及び一括遺物の総数1,595点に対しては9.7%の母岩抽出率である。

最終的に実測図などを掲載した石器類は46個体、55点、接合資料は5個体(うち模式図・写真を掲載したもの3個体)、分布・接合図などを示した石器ブロックは2か所である。石器類の掲載割合は、点取り及び一括遺物の総数1,595点から剥片1,530点を引いた石器類65点に対して84.6%である。

(長沼 孝)

### (8) 調査結果の概要

平成10年度の上白滝6遺跡の調査では炭化木片ブロックなどの遺構は確認されなかった。

遺物の総数は1,595点、総重量は21,001.3gである。そのうち点取り遺物は1,058点、一括遺物は537点で、詳細は表V-1を参照願いたい。

出土した遺物はすべて石器類で、時期的には縄文時代と旧石器時代のものがある。器種としては尖頭器、両面調整石器、搔器、削器、二次加工ある剥片、石刃、縦長剥片、石核、石鏃、石刃鏃、つまみ付きナイフ、剥片、台石などがある。

石器類は平成10年度の本線調査区を挟んだ北側と南側の調査区でそれぞれまとまって確認され、北側調査区のを石器ブロック4(Sb-4)、南側調査区のを石器ブロック5(Sb-5)とした(Sb-1～3は平成10年度調査区)。

Sb-4は尖頭器、搔器、削器、縦長剥片、剥片などがみられ、尖頭器の製作を行っているブロックであるが、調査区外にも広がり、全体の状況は不明である。

Sb-5は尖頭器、両面調整石器、搔器、削器、二次加工ある剥片、石刃、石核、石鏃、石刃鏃、つまみ付きナイフ、剥片、台石などがみられ、石刃鏃石器群と考えられる。尖頭器、搔器、削器、石

鏃、石刃鏃、つまみ付きナイフ、石刃などはいずれも石器の状態に遺跡に搬入され、簡単な二次調整や刃部の再加工などが行われているだけで、ブロック内での石器製作は、梨肌の黒曜石2を原石の状態を持ち込んでの剥片剥離や尖頭器の素材としての両面調整石器作りなどである。

産地分析の結果、石鏃では赤井川産と名寄産、石刃鏃では置戸・所山産と十勝産、尖頭器、搔器、つまみ付きナイフでは置戸・所山産、削器、石刃では置戸・所山産と白滝・あじさいの滝産の黒曜石が確認された。石鏃は6点のうち5点分析し、名寄産が3点、赤井川産が2点であるが、分析を行わなかった基部側の破片も石質は赤井川産と判定されたものに類似しているため、赤井川産とみられ、名寄産と赤井川産がそれぞれ3点ずつで、白滝産がないということになる。石刃鏃は11点出土しているが、被熱しているものが多く、産地分析を行ったのは2点で、置戸・所山産と十勝産という判定が出ている。分析を行っていない9点を観察すると、茶色が入った黒曜石3が1点だけで、他は黒色の黒曜石1である。黒曜石3は白滝産の可能性はあるが、残りの黒曜石1は白滝産以外で、置戸・所山産のものが多いとみられる。尖頭器は3点あるが、いずれも灰色の縞模様が入る類似した石質で、分析した1点の置戸・所山産同様、置戸・所山産とみられる。搔器3点、つまみ付きナイフ2点はすべて分析し、置戸・所山産と判定された。削器と石刃は15点あり、1点が頁岩で、残りの14点が黒曜石製である。14点の黒曜石の石質は、肉眼的に三つのグループに分けられる。一つは分析を行わなかったが梨肌の黒曜石2で、明らかに白滝産と考えられる。他の二つは、それぞれに産地分析で置戸・所山産と白滝・あじさいの滝産と判定されたものが対応し、置戸・所山産は9点（分析は4点）、白滝・あじさいの滝産は4点（分析は3点）である。いずれにしろ搬入された石器類は白滝産以外の赤井川産、名寄産、置戸・所山産、十勝産の黒曜石で製作されたものが多く、なかでも置戸・所山産のものが多いということがいえる。

時期としては、Sb-4は後期旧石器時代終末頃、Sb-5では土器は出土していないが、他の石刃鏃石器群の遺跡同様に縄文時代早期と考えられる。なお、Sb-5の石器について水和層測定による年代換算を行ったところ、 $6,643 \pm 281\text{yBP}$ （石刃鏃：置戸・所山産）、 $4,633 \pm 393\text{yBP}$ （石刃鏃：十勝産）、 $6,394 \pm 492\text{yBP}$ （尖頭器：置戸・所山産）、 $6,410 \pm 78\text{yBP}$ （つまみ付きナイフ：置戸・所山産）、 $5,948 \pm 414\text{yBP}$ （削器：置戸・所山産）という数値が得られた。（長沼 孝）

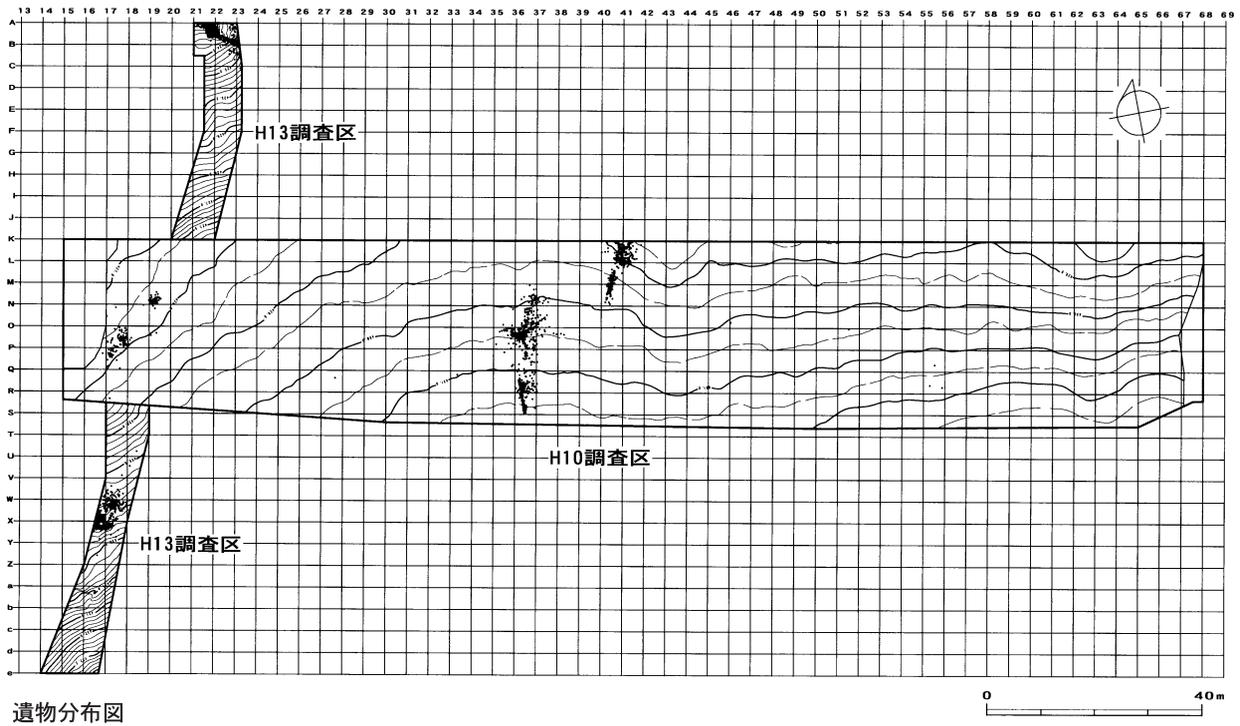
## 2 遺構と遺物

焼土や炭化木片ブロックなどの遺構は確認されなかった。

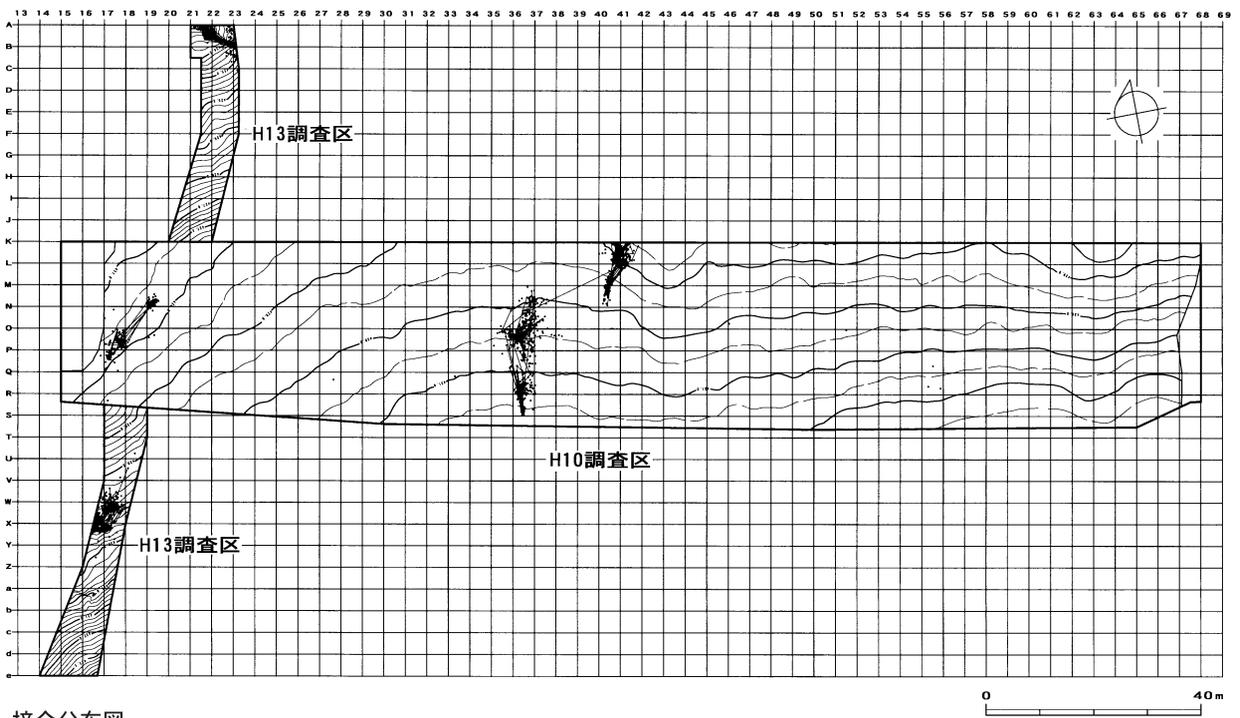
出土した遺物はすべて石器類で、平面的にはいくつかの小さなまとまりがみられるが、南北いずれの調査区も調査区域外に遺物分布が広がり、石器ブロックの全体状況が把握できないので、細かなブロック設定は行わなかった。

### (1) 遺物分布と石器ブロック

北側は調査区北端のA21・22区に主に分布して調査区外に広がっている。南側は平成10年度調査のSb-1のO・P17区の南方20mのV・W・X16区、V・W・X17区を中心に分布している。北側・南側いずれもブロック内の接合のみで、平成10年度調査のSb-1～3を含めても、他のブロックとの接合はない。したがって、平成10年度調査のSb-1～3に続けて北側をSb-4、南側をSb-5とした。

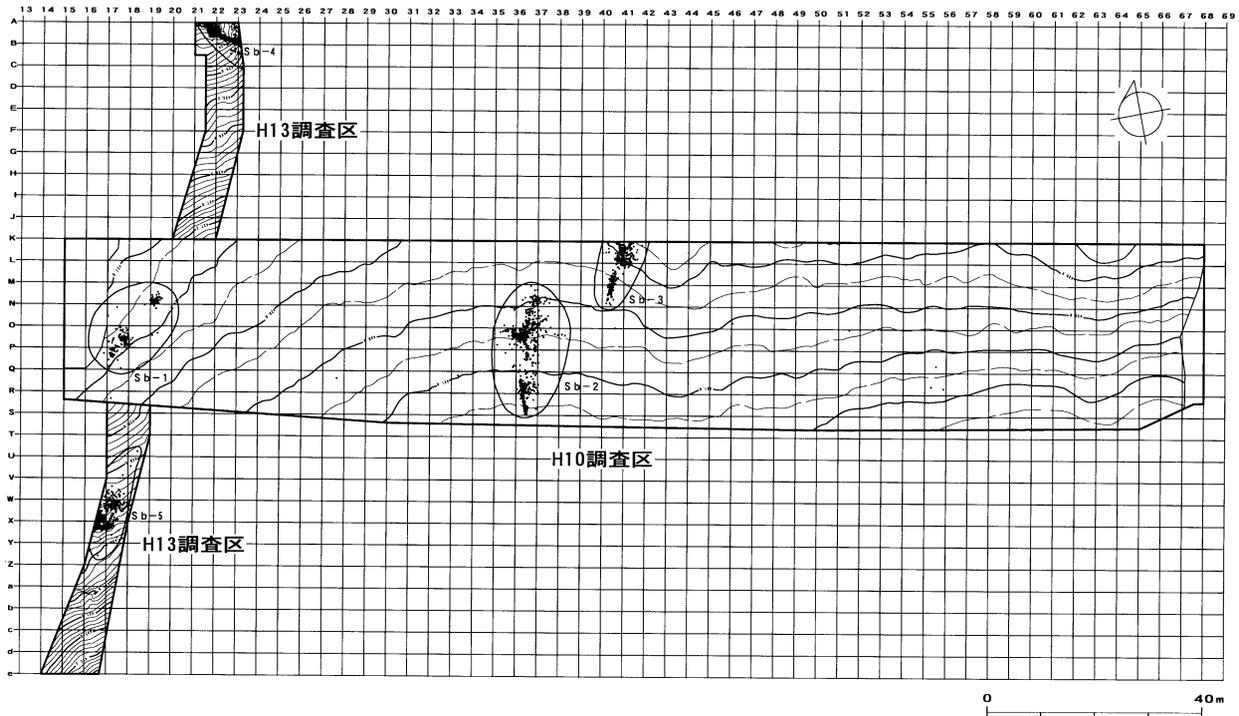


遺物分布図



接合分布図

図V-4 遺物分布・接合分布図



図V-5 石器ブロック設定図

**尖頭器・両面調整石器 (図V-6)**

尖頭器はSb-4で3点、Sb-5で5点、計8点、両面調整石器はSb-5のみで5点、2個体出土している。

**彫器・錐形石器 (図V-6)**

Sb-4・5とも出土していない。

**搔器 (図V-6)**

Sb-4で1点、Sb-5で5点、計6点出土している。

**削器・つまみ付きナイフ (図V-6)**

削器はSb-4で1点、Sb-5で7点、計8点、つまみ付きナイフはSb-5のみで2点出土している。

**石刃・縦長剥片 (図V-6)**

石刃・縦長剥片はSb-4で2点、Sb-5で10点、計12点出土している。そのうちSb-5出土の石刃1点が頁岩製である。

**石鏃・石刃鏃 (図V-6)**

石鏃・石刃鏃いずれもSb-5出土で、石鏃6点、石刃鏃11点、計17点である。平成10年度の調査ではSb-1で石刃鏃1点とブロック外で石鏃1点が出土している。

**黒曜石製の石器 (図V-6・7)**

点取り遺物1,058点のうち1,056点、99.8%が黒曜石製の石器で、そのうち黒色の黒曜石1は137点(黒曜石全体に対して13.0%、以下同じ)、梨肌の黒曜石2は469点(44.4%)、黒に茶の黒曜石3は101点(9.6%)、茶に黒の黒曜石4は349点(33.0%)、黒に紫・茶の黒曜石5は1点(0.1%)である。分布状況を見ると、黒曜石1はSb-4・5ともにあるが、Sb-4がやや多い。黒曜石2はSb-5が大部分で、Sb-4では3点のみ、逆に黒曜石3はSb-4が大部分で、Sb-5では1点のみ、黒曜

表V-3 上白滝6遺跡出土点取り遺物ブロック・石質別一覧 ※重量の単位は(g)

ブロック	石質	尖頭器		両面調整石器		搔器		削器		二次加工ある剥片		石刃		縦長剥片		石核		剥片		石鎌		石刃鎌		つまみ付きナイフ		礫石器等		合計	
		点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量
Sb-4	黒曜石	1	65.8															86	283.9									87	349.7
	黒曜石																		3	18.0								3	18.0
	黒曜石	1	2.2										1	58.4					98	600.2								100	660.8
	黒曜石	1	91.5			1	34.3	1	29.4						1	43.2			344	2562.5								348	2760.9
	黒曜石																		1	7.6								1	7.6
	小計	3	159.5			1	34.3	1	29.4						2	101.6			532	3472.2								539	3797.0
Sb-5	黒曜石	5	50.0			4	36.9	6	18.9			9	20.0					8	22.8	6	9.1	10	9.9	2	6.2			50	173.8
	黒曜石			5	1219.2	1	209.1	1	162.8	3	204.0					1	2324.8	455	7345.8									466	11465.7
	黒曜石																					1	1.8					1	1.8
	安山岩																								1	2996.8	1	2996.8	
	頁岩											1	7.3															1	7.3
小計	5	50.0	5	1219.2	5	246.0	7	181.7	3	204.0	10	27.3			1	2324.8	463	7368.6	6	9.1	11	11.7	2	6.2	1	2996.8	519	14645.4	
合計	8	209.5	5	1219.2	6	280.3	8	211.1	3	204.0	10	27.3	2	101.6	1	2324.8	995	10840.8	6	9.1	11	11.7	2	6.2	1	2996.8	1058	18442.4	

表V-4 上白滝6遺跡出土原礫面残存・被熱石器一覧

ブロック	遺物点数(点取り)(点)	原礫面残存石器(点.%)		被熱石器(点.%)	
		点数	比率	点数	比率
Sb-4	539	69	12.8	20	3.7
Sb-5	519	155	29.9	10	1.9
合計	1058	224	21.2	30	2.8

石4はSb-4のみで、Sb-5では出土していない。黒曜石5はSb-4で1点出土しているだけである。

黒曜石以外の石器 (図V-7)

点取り遺物1,058点のうち2点、0.2%が黒曜石以外の石材を利用した石器である。Sb-4にはなく、Sb-5出土の頁岩製の石刃1点と凝灰岩製の台石1点である。

原礫面残存の石器 (図V-7、表V-4)

点取り遺物1,058点のうち224点、21.2%が原礫面が残存している石器である。Sb-4では69点、Sb-5では155点、それぞれのブロック内の比率は12.8%と29.9%で、Sb-5が高い。

被熱石器 (図V-7、表V-4)

点取り遺物1,058点のうち30点、2.8%が被熱石器である。Sb-4では20点、Sb-5では10点、それぞれのブロック内の比率は3.7%と1.9%で、Sb-4がやや高いが、全体的に少ない。

(2) 石器ブロック4 (Sb-4) の石器

出土石器

尖頭器3点、搔器1点、削器1点、縦長剥片2点、剥片532点、計539点、総重量3,797.0gの石器類が出土した。石材はすべて黒曜石で、黒曜石4が348点(64.6%)と最も多く、黒曜石3の100点(18.6%)、黒曜石1の87点(16.1%)が続き、黒曜石2は3点(0.6%)、黒曜石5は1点(0.2%)と極めて少ない。

尖頭器 (図V-8-1・2、図版394-1・2)

1・2はいずれも破片である。1は小型で、両面の加工も細かく、完成品に近い。縁辺に透明部分がみられる黒曜石3である。2は片面に原礫面が残り、横断面が三角形に近い製作途中の破片である。

2 遺構と遺物

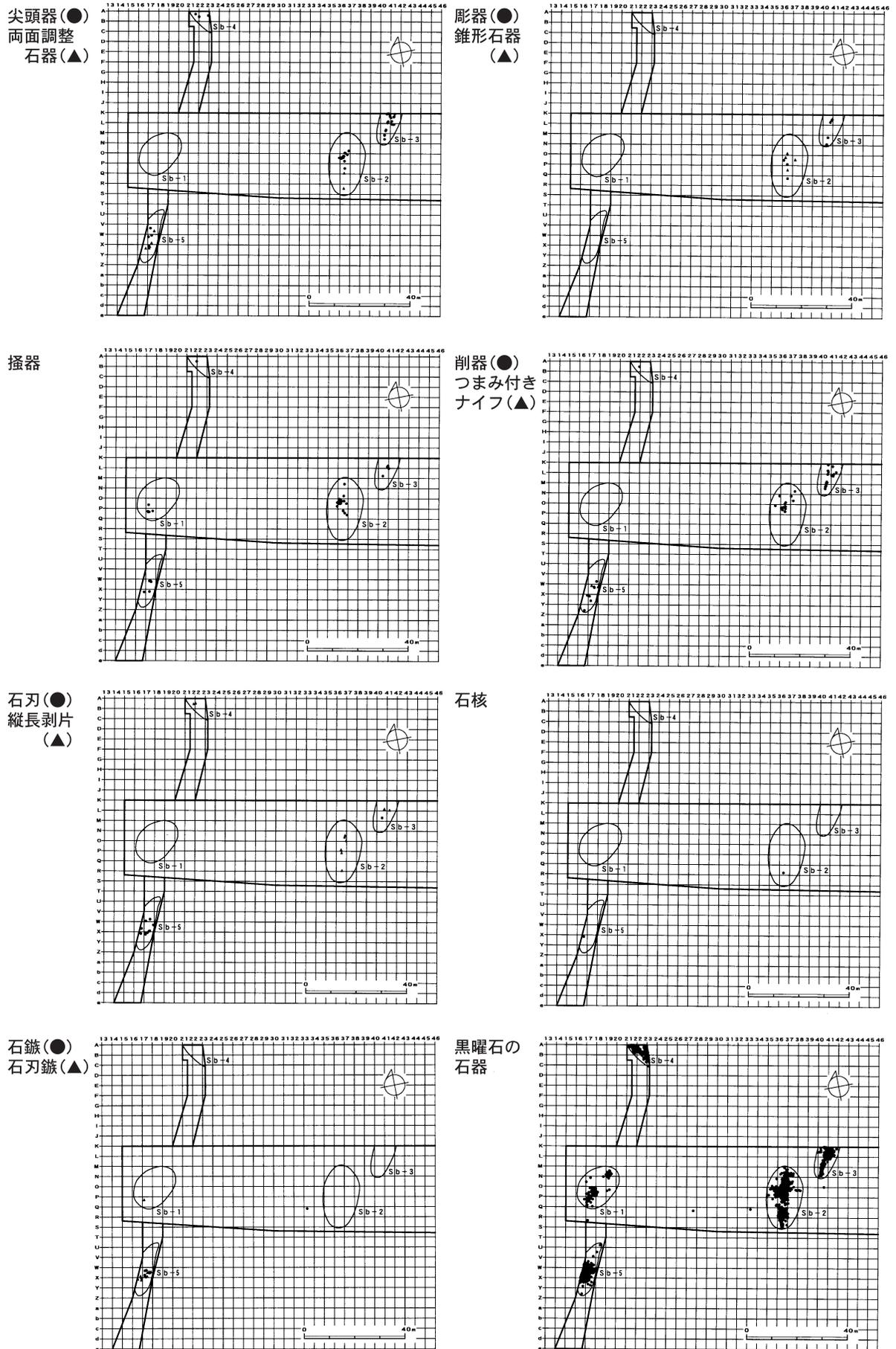
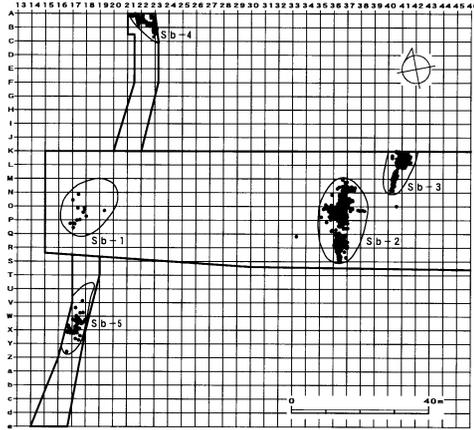
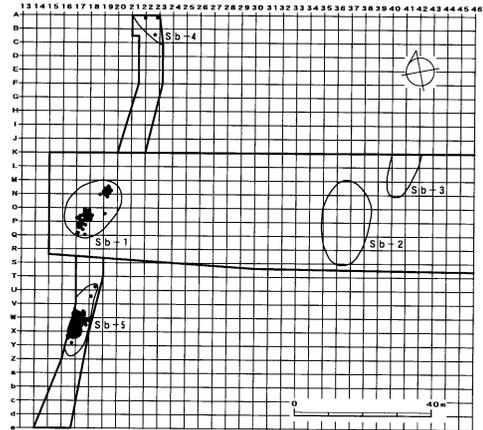


図 V-6 器種・石材別分布図(1)

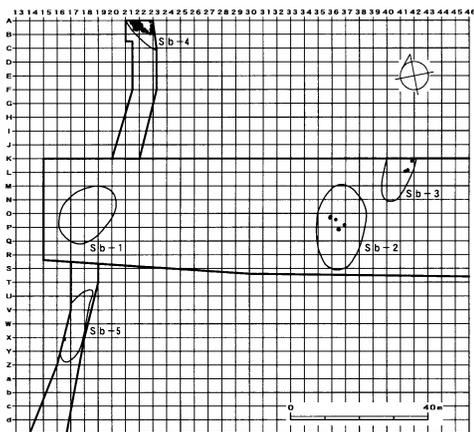
黒曜石1  
の石器



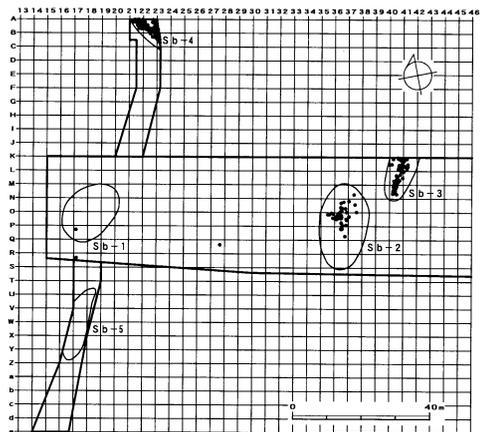
黒曜石2  
の石器



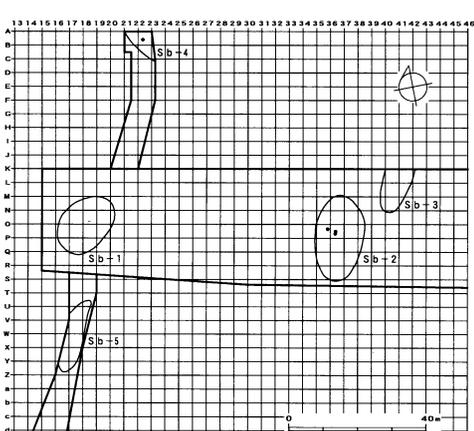
黒曜石3  
の石器



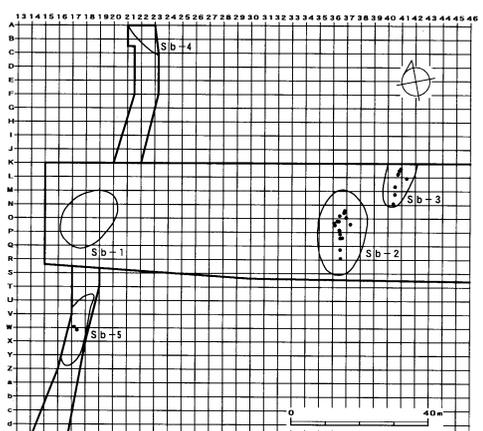
黒曜石4  
の石器



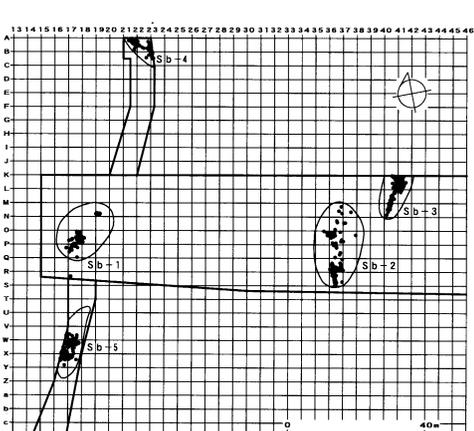
黒曜石5  
の石器



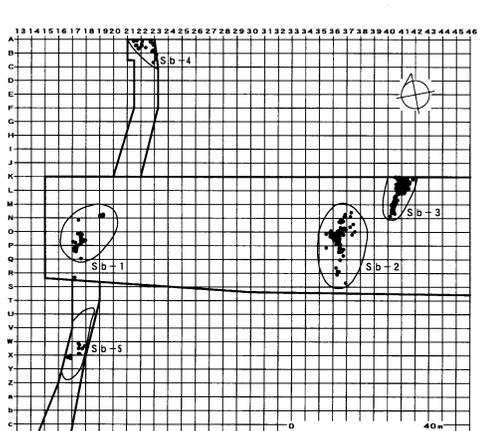
黒曜石  
以外の  
石器



原礫面  
残存の  
石器



被熱石器



図V-7 器種・石材別分布図(2)

石質は縁辺に透明部分がみられる良質の黒曜石1である。

**搔器** (図V-8-3、図版394-3)

3は横長剥片を素材にした搔器とみられるが、刃部の大半が欠損している。両側縁の加工はやや粗く、全体にねじれているので、尖頭器製作時の剥片を利用していると考えられる。石質は茶色に黒色がまだらに混じる黒曜石4である。

**縦長剥片** (図V-8-4、図版394-4)

4は黒曜石3の稜付きの縦長剥片である。両側縁の細かな不連続の剥離は、人為的な二次加工ではなく、稜などにも摩滅がみられることから、土中での移動などの自然の営力によるものとみられる。

**石器ブロック4 (Sb-4) の分布** (図V-8・9)

遺物はA21・22区に細長く溝状に調査区外の東側から流れてきたような状態で分布している。ブロックの主体は調査区外の北東側にあると考えられる。図示した石器類はA21・22区から出土している。

**石器ブロック4 (Sb-4) の接合状況** (図V-9)

接合は遺物の集中部のA21区を中心にみられ、他のブロックとは接合しない。

### (3) 石器ブロック5 (Sb-5) の石器

#### 出土石器

尖頭器5点、両面調整石器5点、搔器5点、削器7点、二次加工ある剥片3点、石刃10点、石核1点、石鏃6点、石刃鏃11点、つまみ付きナイフ2点、台石1点、計519点、総重量14,645.4gの石器類が出土した。石材は頁岩1点、凝灰岩1点のほかはすべて黒曜石である。黒曜石は梨肌の黒曜石2が466点(点数89.8%、重量78.3%)と圧倒的に多く、他は黒曜石1が50点(9.6%)、黒曜石3が1点だけで、黒曜石4・5は全くみられない。

**石鏃** (図V-10-1~6、図版394-1~6)

6点とも両面加工である。1は全体の形状が凸レンズに近いが、基部がやや丸い。石質は白い斑晶鉱物が全体にみられるが、比較的良質で、産地分析の結果、赤井川産と判定された。2は両端がわずかに欠損しているが、全体の形状は上側が長い菱形である。横断面は凸レンズ状で、側面で見ると基部側が少し厚い。石質は透明感がある黒曜石1であるが、裏面にはうろこ状のクラックが見られるので、被熱している。産地分析の結果、名寄産と判定された。3は先端がやや丸みを帯びるが、横断面が凸レンズ状にバランスよく二次加工されている。石質は2、4に類似し、縁辺が曇りガラスに近い感じで、産地分析の結果、名寄産と判定された。4は両端が欠損しているが、全体の形状は細長い菱形とみられる。裏面に素材面が残り、側面形はやや屈曲している。石質は2、3と同様の質感で、産地分析の結果、同様に名寄産と判定された。5は両端が欠損しているが、1に近い凸レンズ状の形態と考えられる。裏面のやや上側にコブ状の高まりがあるが、側面形は整っている。石質は白い斑点状の斑晶鉱物が全体にみられ、良質とはいえない。産地分析の結果、1と同様に赤井川産と判定された。6は平坦に二次加工された基部の破片である。石質は白い細かな斑晶鉱物がみられ、1に近い。

**石刃鏃** (図V-10-7~17、図版394-7~17)

7~10は完形またはほぼ完形、11~13は先端側、14は中間部、15~17は基部側である。7、8の側面はやや湾曲しているが、その他は直線的で、9、10は特にバランスがよい。素材の石刃は稜が2本あり、横断面が台形を呈するものが多い。二次加工は基本的に腹面側が多いが、先端と基部では背面

側にもみられる。基部加工は背面側に打面を確保する程度の細かな剥離後、腹面側にえぐり込むようにやや深く剥離が行われている。8～10、12、15は表面が光沢を失い、場所によっては細かな凸凹がありあばた状になっているので、被熱していると考えられる。石質はいずれも良質で、もっとも長い10は黒曜石3であるが、他は黒曜石1である。全体の形状が分かり被熱していない7、11を産地分析したところ、極めて透明感が強い7は置戸・所山産、部分的に透明感がある11は十勝産と判定された。また、水和層年代測定では、7は $6,643 \pm 281\text{yBP}$ 、11は $4,633 \pm 393\text{yBP}$ という数値が得られた。

**尖頭器** (図V-10-18～20、図版394-18～20)

3点とも破片である。いずれも横断面は扁平な凸レンズ状で、両面とも縁辺からのやや深い押圧剥離が施されているが、中央部にまで及んでいない。石質はいずれも小さな球顆がわずかにあり、縞状の流理構造がみられ、類似しているが、接合はしなかった。19について産地分析を行ったところ、置戸・所山と判定された。また、水和層年代測定では $6,394 \pm 492\text{yBP}$ という数値が得られた。

**両面調整石器** (図V-10-21、図V-11-22、図版394-21、図版395-22)

2点とも梨肌の黒曜石2で、いずれも調整剥片が接合し、21は母岩8・接合44、22は母岩4・接合40である。21は両面の粗い剥離後、右側縁表側と左側縁裏側の錯向剥離で全体を薄みにしようとしているが、厚みが解消されず、欠損している。22も原石の周縁から薄みにしようとする剥離が行われているが、正面左側が大きく階段状になり、中央上側のコブ状が解消されずに破損している。

**搔器** (図V-11-23～26、図版395-23～26)

23は横断面が三角形の小型の縦長剥片の末端に刃部を作出している。両側縁の二次加工はやや不連続で浅い剥離である。刃部は直線的で角度は55～70度前後である。石質は透明感が強く、灰色の縞状の流理構造が顕著で、産地分析の結果、置戸・所山産と判定された。24、25はいずれも厚手の剥片を素材とした搔器の刃部側の破片である。いずれも刃部は丸みがあり、角度は24は70～80度、25は75度前後と急角度である。石質は24は灰色の縞模様があり、やや光沢が鈍い。25は透明感があるがうろこ状のひび割れがみられ、いずれも被熱している。産地分析の結果、2点とも置戸・所山産と判定された。26は厚手の剥片の末端部に急角度の刃部作出しているもので、22の両面調整石器と同一母岩で接合する(母岩4・接合40)。

**つまみ付きナイフ** (図V-11-27・28、図版395-27・28)

27は薄手のポイントフレイクを素材とし、打点側の両側縁に左側は腹面のみ、右側は背腹両面にノッチ状の浅い加工で、つまみ部を作出している。28は石刃素材で、両側縁に浅い急角度の加工を施し、さらに打点側にノッチ状のつまみ部を作出している。石質は2点とも透明感が強い良質の黒曜石1で、産地分析の結果、いずれも置戸・所山産と判定された。また、28の水和層年代測定では $6,410 \pm 78\text{yBP}$ という数値が得られた。

**削器** (図V-12-29～35、図版395-29～35)

29～34は石刃の背面側の両側縁に連続的な浅い剥離がみられるが、大きさがバラバラで、さらに腹面側にも不連続な剥離がみられることなどから、二次加工というよりは使用による刃こぼれの可能性がある。29は打点に近い右側縁がノッチ状になっているが、28・29のように腹面側に加工がないことからつまみ付きナイフとしなかった。石質は29～34は透明感が強いが、9～33は27、28と類似し、34は黒色の模様が他とは異なっている。産地分析の結果、30、33は置戸・所山産、34は白滝・あじさいの滝産と判定された。分析を行わなかった29、31、32も置戸所山産と考えられる。また、30の水和層年代測定では $5,948 \pm 414\text{yBP}$ という数値が得られた。35は原礫面が残る厚手の剥片の右側縁に粗い加工が施されている。22の両面調整石器、26の搔器と同一母岩(母岩4・接合40)で接合する。

### 石刃 (図V-12-36~43、図版395-36~43)

36~43はいずれも欠損している石刃である。36は頁岩製で、両側縁に不連続な浅い剥離がみられる。また、腹面端部は火バネによる欠損がみられるので、被熱している。39は2本の稜が通り、横断面が台形の形態が整った石刃であるが、被熱のため全面があばた状になっている。37~43の石質はいずれも透明感が強いが、模様や質感の相違から37、38、43と39、40~42の二つのグループに分けられる。産地分析の結果、38、43は白滝・あじさいの滝産、40、42は置戸・所山産と判定された。したがって、分析を行わなかったが、37は白滝・あじさいの滝産、39、41は置戸・所山産と考えられる。

### 石核 (図V-12-44、図V-13-45、図版396-44・45)

2点とも梨肌の黒曜石2の石核である。44は母岩4・接合40で、原石の状態に遺跡に搬入されたものの一部である。単剥離打面から厚手の剥片が剥離され、26の搔器が接合している。45は横断面が三角形に近い垂角礫の一部に大きな剥離で打面を形成し、大型の剥片を剥離している。打面形成時の剥片と大型の剥片が2点接合し、母岩5・接合41とした。

### 台石 (図V-13-46、図版396-46)

凝灰岩製の扁平な台石とみられる。両側が欠損しているが、表面は平坦で、部分的に窪みがある。右側の窪み周辺が赤変しているので、被熱したものと考えられる。

### 石器ブロック5 (Sb-5) の分布 (図V-14・15)

平成10年度に調査したSb-1の南側に位置し、調査区外の西側に若干広がっている可能性がある。ブロックの広がりには南北はT~Zライン、東西は16~19ラインの22×7.5mの細長い範囲であるが、集中部はV・W・X16区、V・W・X17区の8×5mの楕円形の範囲である。また、その集中部もW16区の北側(a)とXラインを中心としたW16区、X16・17区(b)の二つのまとまりがある。石鏃・石刃鏃はa・b両方にみられるが、aがやや多く、aとbの中間部にも分布している。尖頭器、両面調整石器、搔器、削器、石刃などはa・b両方にみられる。

### 石器ブロック5 (Sb-5) の接合状況 (図V-16)

a・bそれぞれのまとまり内のほか、a・b間の折れ面接合が多い。接合の大部分は黒曜石2に関するもので、母岩4では両面調整石器(図V-11-22)本体が7m、さらに剥片は5m離れて接合し、全体では12mの接合距離となる。平成10年度に調査した同じ石刃鏃石器群のSb-1でも黒曜石2の搔器や剥片類が出土していたので、接合を試みたが、接合はしなかった。また、沢を挟んだ上白滝5遺跡の石刃鏃石器群のSb-12とも接合を試みたが、Sb-12は搬入された石刃鏃、削器のみで、剥片剥離を行っていないので、接合しなかった。当然ながら平成10年度調査のSb-2・3との接合も認められない。

### 母岩別資料・接合資料

Sb-5では、折れ面接合13例、剥離面接合13例が確認され、そのうち特徴的な石質で、原石の形状をある程度把握できる5個体の母岩別資料(母岩別資料4~8:1~3は平成10年度調査分)を抽出した。結果的に5個体の母岩別資料はすべて梨肌の黒曜石2となった。5個体については接合状態の写真をすべて掲載した(図版397~400)が、実測図はなく、剥離過程の模式図と分布図を示した。

### 母岩別資料8・接合資料44 (図V-17、図版397)

母岩別資料8は接合44のみで、両面調整石器1点、剥片68点、計69点で構成され、総重量は2,568.6gである。石質は梨肌の黒曜石2で、良好とはいえない。

**素材** 両面に原礫面が観察できることから、板状の23.1×11.1×8.7cmの角礫とみられる。

**剥離工程** 最初は裏面の左右両側からの剥離（1～3）と正面右側の剥離（4）で、原礫面を除去すると同時に粗い両面体の整形を行っている。次に上方と左右の錯交剥離（6・7）で、両面体を薄くしようとしているが、剥離が階段状となり、結果的に破損している。

**分布** ブロック中央の二つのまとまり（a・b）、およびその周辺に広く分布し、その広がりには8×3mの範囲である。最終的に欠損した両面調整石器（図V-10-21）は南側のまとまりbのX16区で出土している。

#### 母岩別資料4・接合資料40（図V-18、図版398、399-1）

母岩別資料4は接合40のみで、両面調整石器4点（1個体）、搔器1点、削器1点、石核1点、剥片38点、計45点で構成され、総重量は3,048.5gである。石質は梨肌の黒曜石2で、良好とはいえない。

**素材** 原石は縦断面が三角形に近い板状の21.9×14.4×11.1cm（中間部厚）の角礫である。

**剥離工程** 厚みのある上方を右側面からの加撃で、打面を確保すると同時に二分割（A・B）し、剥片剥離と両面調整石器の製作を行っている。上方の個体Aでは、最初の分割で形成された剥離面を打面にして両面で厚手の剥片剥離を行っている。残核（図V-12-44）は断面が三角形となり、剥離された厚手の剥片は搔器（図V-11-26）の素材となっている。下方の個体Bは両面の突出した原礫面の除去（1～3）後、分割時に作出された上方の打面からの連続的な剥離（4）、周縁からの剥離（5～8）を行い、両面体を製作しようとしているが、瘤状の突出部ができ、さらに強い加撃のため長方形の両面体が4点に破損している。4の上方からの剥離で得られた原礫面の残る厚手の剥片は削器（図V-12-35）の素材となっている。

**分布** ブロック中央の二つのまとまりそれぞれの南東側を中心に分布するが、ブロック北側のU18区にも1点みられ、その広がりには13×3mと広い範囲である。個体Aの石核はX17区のI層出土で、破損した両面調整石器の破片4点はV・W・X17区の3発掘区から出土し、両端の距離は約7mである。

#### 母岩別資料5・接合資料41（図V-19、図版399-2）

母岩別資料5は接合41のみで、石核1点、剥片3点、計4点で構成され、総重量は3,006.2gである。石質は梨肌の黒曜石2で、良好とはいえない。

**素材** 大きさ21.3×13.5×12.9cm程の垂円礫を素材にしている。

**剥離工程** 原石の長軸方向やや斜め上方、正面から裏面への加撃で、打面を作出（1）し、その後上方から厚手の剥片を剥離（2）している。

**分布** Xラインを挟んだW・X16区の2×1mの範囲に分布するが、石核は3点の剥片とは少し離れている。

#### 母岩別資料6・接合資料42（図V-19、図版400）

母岩別資料6は接合42のみで、二次加工ある剥片3点、剥片16点、計19点で構成され、総重量は1,721.3gである。石質は梨肌の黒曜石2で、良好とはいえない。

**素材** 大きさ21.9×12.9×12cm程の山形の角礫を素材にしている。

**剥離工程** 平らな正面の上下からの剥離（1・2）で、原礫面の除去を行い、厚みのある上方を正面から裏面に剥離して打面を形成（3）し、正面から右側面で剥片剥離（4）を行っている。石核はないが、あまり有効な剥片は得られていないようである。

**分布** W17区北側のまとまりの3.5×2.5mの範囲に大部分が分布し、少し離れてX16区に1点みられる。V17区とX16区出土剥片の接合距離は約6.5mである。

**母岩別資料7・接合資料43** (図V-19、図版400)

母岩別資料7は接合43のみで、剥片18点のみで構成され、総重量は1,384.6gである。石質は梨肌の黒曜石2で、良好とはいえない。

**素材** 母岩別資料6に近い、大きさ20.4×10.8×9 cm程の山形の角礫を素材にしている。

**剥離工程** 最初の大きな剥離(1)以外は基本的に交互剥離(2~4、5・6)で剥片剥離を行っているが、有効な剥片は得られていないようで、石核もない。

**分布** W17区北側まとまりの2×1.5mの範囲に大部分が分布し、少し離れたV16・17区に4点がみられる。全体の分布範囲は5×2 mである。 (長沼 孝)

## VI 白滝第30地点遺跡の調査

### 1 調査の概要

#### (1) 調査要項

事業名 一般国道450号白滝丸瀬布道路工事に伴う埋蔵文化財発掘調査（平成14年度）  
 委託者 国土交通省北海道開発局網走開発建設部  
 受託者 財団法人北海道埋蔵文化財センター  
 遺跡名 白滝第30地点遺跡（I-20-6）  
 所在地 紋別郡白滝村字白滝382-4  
 調査面積 636㎡  
 調査期間 平成12年4月3日～平成13年3月30日（現地調査平成12年5月8日～10月27日）  
 平成13年4月2日～平成14年3月29日（整理作業のみ）  
 平成14年4月1日～平成15年3月31日（整理作業のみ）

#### (2) 調査体制

財団法人北海道埋蔵文化財センター 理事長 大澤 満（平成14年6月30日まで）  
 森重楯一（平成14年7月1日から）

専務理事 宮崎 勝（平成11年6月1日から） 常務理事 木村尚俊（平成13年7月17日まで）  
 畑 宏明（平成14年6月1日から）

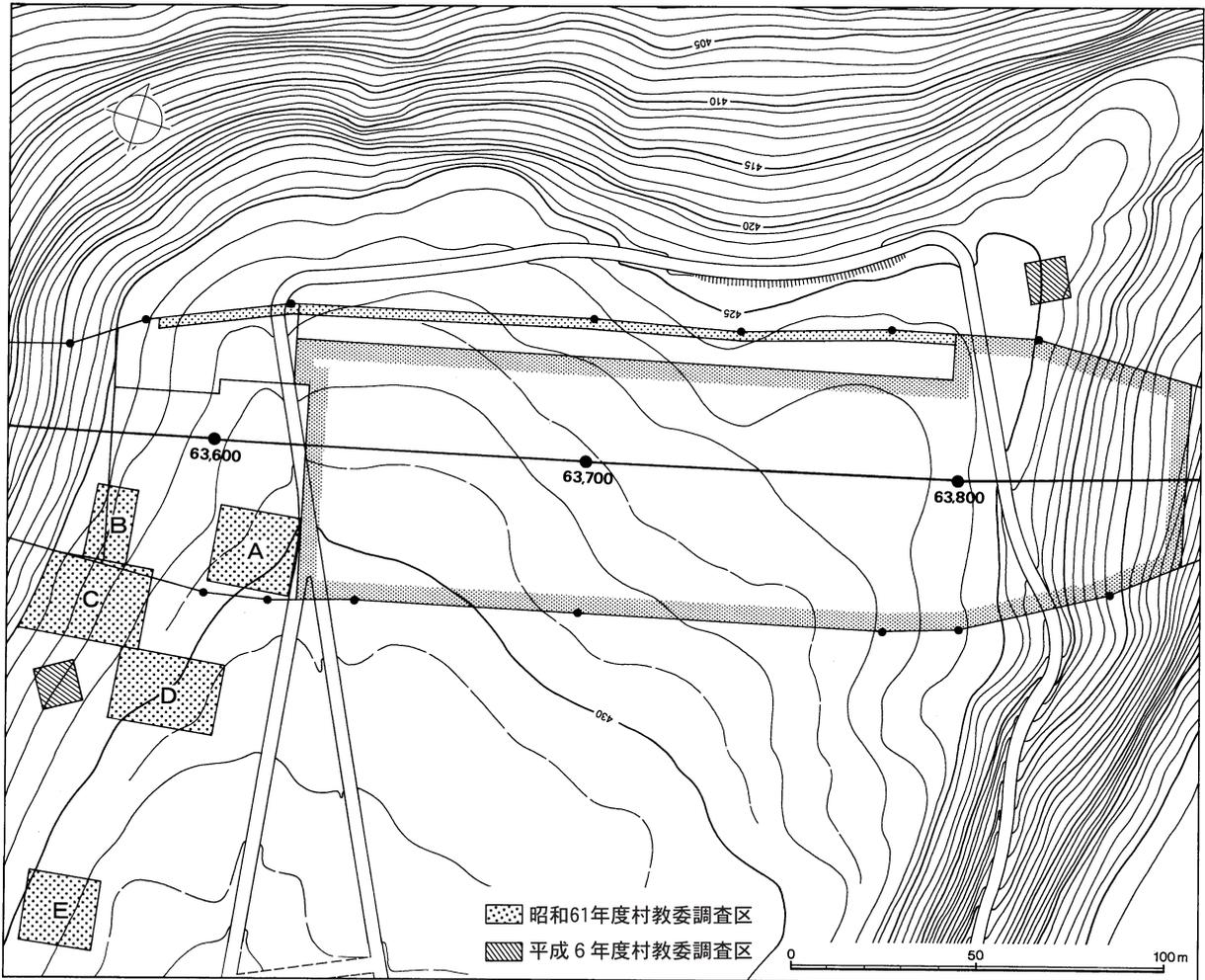
総務部長 中田 仁（平成13年3月31日まで） 第1調査部長 木村尚俊（平成13年7月17日まで）  
 柳瀬茂樹（平成14年3月31日まで） （兼務）  
 下村一久（平成14年4月1日から） 大沼忠春（平成14年3月31日まで）  
 （兼務）  
 畑 宏明（平成14年4月1日から）  
 （兼務）

平成12年度 第1調査部第3調査課 課長 長沼 孝（発掘担当者）  
 同 主任 越田雅司（発掘担当者）  
 同 主任 鈴木宏行（発掘担当者）  
 同 文化財保護主事 直江康雄（発掘担当者）

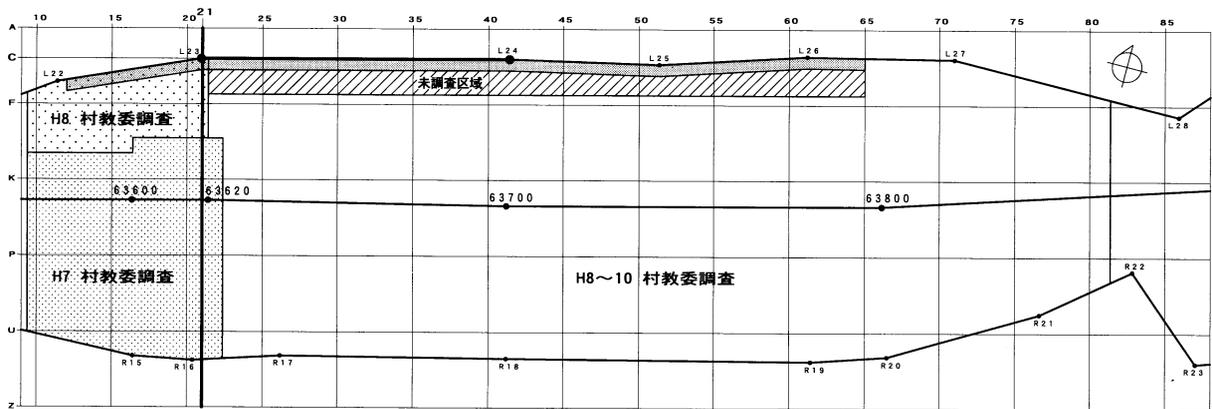
平成13年度 第1調査部第3調査課 課長 長沼 孝  
 同 主任 鈴木宏行  
 同 文化財保護主事 直江康雄

平成14年度 第1調査部第3調査課 課長 長沼 孝  
 同 主任 鈴木宏行  
 同 主任 立田 理  
 同 文化財保護主事 直江康雄

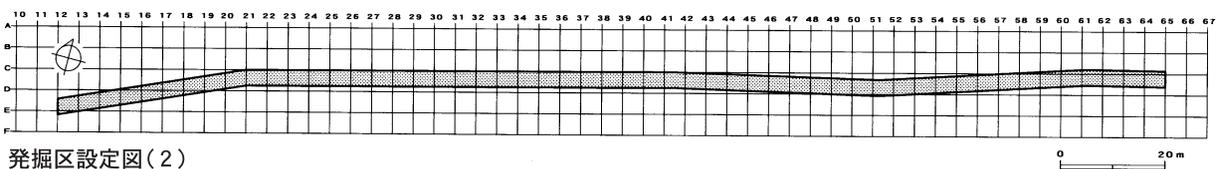
1 調査の概要



調査範囲・周辺の地形図



発掘区設定図(1)・村教委調査区関係図



発掘区設定図(2)

図VI-1 調査範囲・発掘区設定図

### (3) 調査日誌抄

平成12年		C19～20区に細石刃石器群のブロックを確認。
5月8日(月)	調査員白滝入り。	
5月9日(火)	～11日(木) 現場開始準備・環境整備ほか。	6月15日(木) 包含層調査、C19区細石刃、C20区削器・両面調整石器出土、C20区の石器集中部で散発的ながら炭化木片を確認、位置を記録(22点)して取り上げる。
5月12日(金)	現場開所式。 (白滝18、服部台2遺跡の調査)	
5月31日(水)	トイレ設置、表土除去開始。	6月16日(金) 包含層調査終了。
6月2日(金)	表土除去終了。	6月20日(火) 土層断面実測終了。
6月6日(火)	杭打ち。	6月21日(水) 杭撤去、調査完了。
6月8日(木)	包含層調査開始、全体状況を把握するため発掘区を一つ置きに調査(C21・23・25・27・29・31・33・35・37区から開始)。 C21区表土搔器出土。	調査面積636㎡、点取り遺物データ314点。 (白滝8・白滝18・上白滝8・奥白滝1・服部台2遺跡の調査)
6月13日(火)	包含層調査、C57・59区表土尖頭器出土。	10月16日(月) 平成12年度の現地調査終了。
6月14日(水)	包含層調査、C18・19・21区細石刃、C19区舟底形石器出土。	10月17日(火)～26日(木) 遺物水洗、器材整備・片付け、環境整備ほか。 10月27日(金) 調査員引き上げ。

### (4) 発掘区の設定

白滝第4地点遺跡と白滝第30地点遺跡は吉崎による調査地点の名称を踏襲して分けているが、同一の台地上にあり、地形的や遺物分布から分離することが困難で、便宜上、既存の道路を境に遺跡を分けている。また、両遺跡は村教委による農地造成、移設鉄塔建設、高規格道路本線工事などに伴う調査が一部調査区が重複する形で行われている(図VI-1)。今回の調査区の大部分は、村教委の平成7～10年度に実施した高規格道路本線工事に伴う調査での未調査区になる。平成7・8年の村教委の調査では用地内をすべて調査したが、発掘面積の縮小という観点から平成9年以降は掘削が及ばない範囲は調査を実施しなかった。防雪柵建設に伴う今回の調査区は用地の北端で、村教委の調査区とは接しておらず、7～10mの距離があり、その部分は未調査区域として残っている。また、調査を進める段階で、平成8年の村教委の調査(白滝第4地点遺跡)で、笹藪であったために未調査となっている部分があることが判明したので、その部分も同時に調査した。したがって、調査範囲の一部は平成8年の村教委の白滝第4地点遺跡の調査区と重複しているが、連続していることから、ここでは白滝第30地点遺跡の調査成果として報告する。

発掘区はアルファベットの大きい文字と数字の組み合わせで表示し、規格は4×4mとした。調査区の設定基準は、調査の効率上、村教委と同じにすることはできなかったが、調査区の方法は同じにした。

村教委の発掘区設定の基準点はSP63600とSP63620であったが、今回は道路用地境界のL23とL24を使用した。L23とL24を結んだ直線を南北方向の基線とし、東西方向はL23を通り、南北の基線の直行する直線とした。ライン設定は南北方向の基線をCとし、南側をD、E、北側をB、Aとした。東西方向は数字で、基線を21とし、東側を22、23、24・・・、西側を20、19、18・・・とした。調査区域は南北方向のアルファベットラインではB～F、東西方向の数字のラインでは12～65の範囲で、基準点の測量成果は下記のとおりである。

L23	X = -13963.39	Y = 73944.12
L24	X = -13942.82	Y = 74023.05

(平面直角座標系 第XII系)

発掘区の呼称は、4m四方区画の北西隅のライン交点で示した。例えば、Cラインと21ラインの

交点の南東側がC21区ということになる。また、発掘区の方法は、公共座標の北方向に対して右回りで東側に345° 23′ 26″ 傾いている。(長沼 孝)

### (5) 土層

土層堆積状況は、Ⅱ章で記載した基本土層とほぼ同様に、上からⅠ層(表土)、Ⅱb層(灰白色粘質土)、Ⅱc層(赤褐色～灰褐色砂質土)、Ⅲ層(赤褐色～褐色砂質土)の順に堆積しているが、遺物包含層である明確なⅡa層(褐色粘質土)は見られなかった。しかし、笹藪や沢地形の部分で確認されたⅡb層はⅡa層に近く乾燥のため白色化したものと考えられる。土層は遺物の出土した19～22ラインと51～52ライン部分を中心に記録し、他は間隔を置いた部分的な記録とした。19～22ラインと51～52ライン以外は耕作土の下はⅡc層ないしⅢ層となり、耕作による攪乱が進んでいることが確認された。(長沼 孝)

### (6) 調査の方法

重機による表土上層の除去を行った後、杭打ち、測量、包含層調査、測量という手順で調査を進めた。調査区域が細長い範囲であったため通常の25%調査は実施しなかった。また、表土上層の重機による除去を行った段階で、土層の残存状況が把握できたので、耕作土については重機による掘り上げ後に人力による遺物採取を行った。したがって、人力による調査を行ったのは笹藪部分の22ラインより西側と耕作土の下にⅡb層が残存していた50～54ライン部分である。

遺物の取り上げは、他の遺跡と同様に、Ⅰ層(表土および耕作土)については発掘区単位で一括して取り上げ、遺物包含層であるⅡ層については、出土位置を可能な限り計測した。しかし、Ⅱ層の遺物でも指先より小さい剥片類については、発掘区単位で一括して取り上げた。出土位置の記録はトータル・ステーションを使用し、さらに遺構・遺物データシステム(シン技術コンサルタント)にデータを蓄積すると同時に毎日遺物一覧表とドットマップ(分布図)を作成し、データのチェックと遺物の分布状況を把握しながら調査を進めた。現場終了時の白滝第30地点遺跡のデータ数は314件である。(長沼 孝)

### (7) 整理の方法

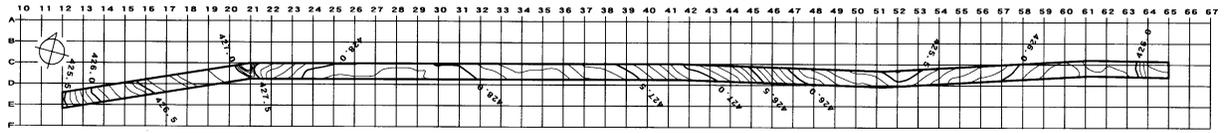
遺物の水洗作業は、基本的に現地で行った。その後、札幌の整理作業所に運び、注記などの整理作業を開始した。

遺物の整理作業は、他の遺跡と同様に点取り遺物と一括遺物に分けて進めた。点取り遺物は注記後に、器種分類、重量計測、石質、残存状況、打点・自然面・被熱の有無など一次の属性観察を行い、次に接合・実測などの二次整理作業を進めた。遺物の注記は、道教委の登録番号、発掘区、遺物番号の順としたので、白滝第30地点遺跡、C21区出土、遺物番号10の石器の場合は「6 C21・10」となる。

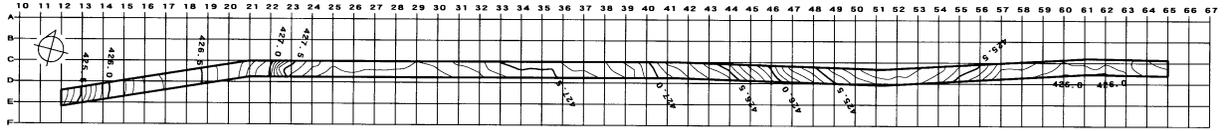
また、一括遺物は、定形的なものや点取り遺物と接合したものを抽出し、台帳を作成した。したがって、その注記は、点取り遺物と区別するため、発掘区と台帳の整理番号の間に層位を記入した。例えば、C21区、Ⅰ層出土、台帳番号5の石器は、「6 C21・Ⅰ・5」となる。

現場で取り上げた点取り遺物は314点であったが、水洗後に精査し、地山に含まれている自然礫や黒曜石の原石を除いた結果、点取り遺物は最終的に313点となった。

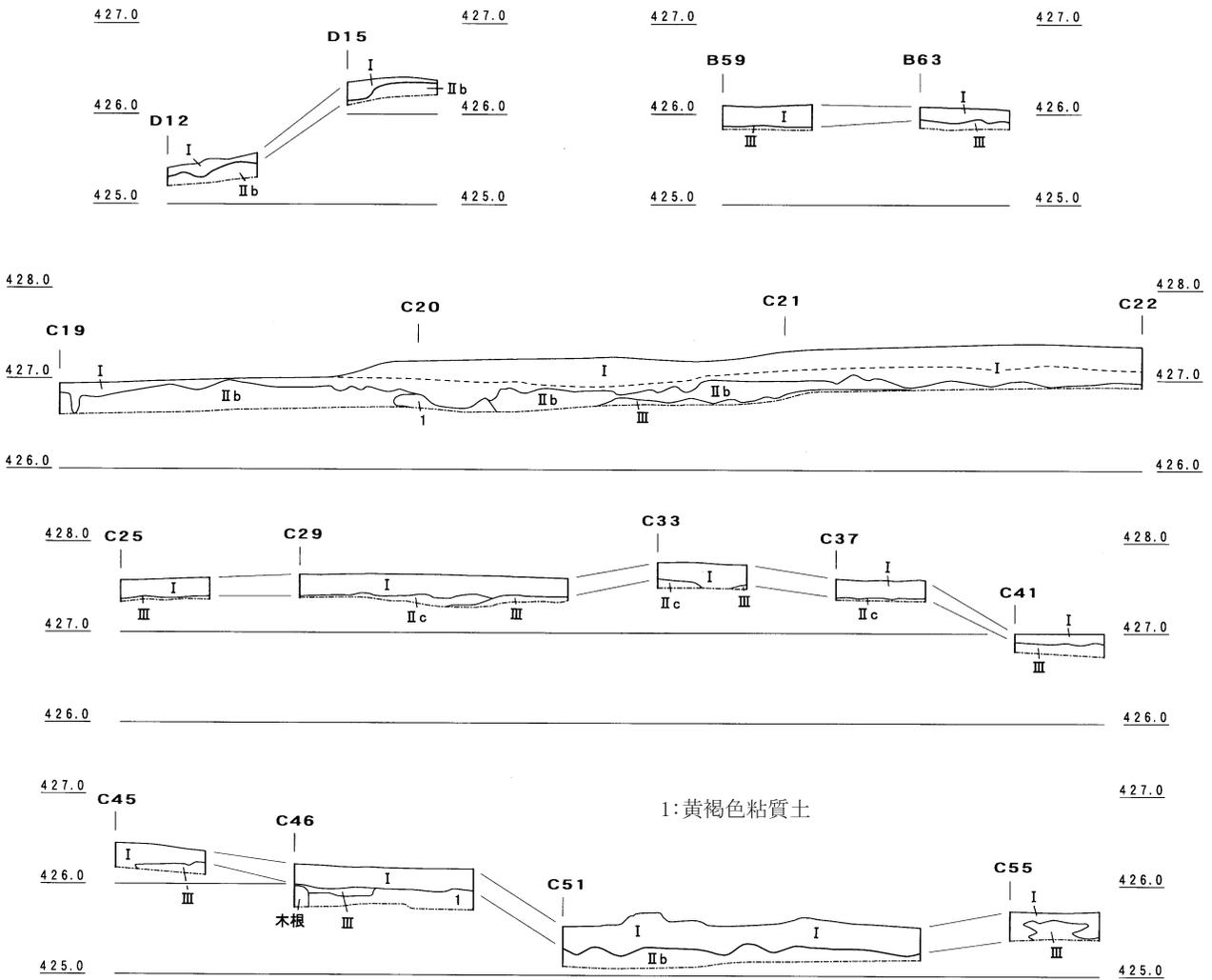
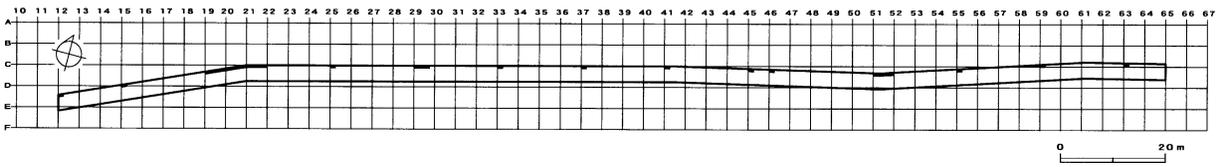
遺物の接合作業は、石質、発掘区そして全体の順に進めたが、全体量が少なく、遺物の分布が調査区域外に広がっていることなどから、あまり進展しなかった。



表土除去後の地形図



調査終了後の地形図



土層断面概略図

図VI-2 発掘区域地形・土層断面図

1 調査の概要

表VI-1 白滝第30地点遺跡出土遺物点数・重量一覧 ※重量の単位は(g)

種類	尖頭器		彫器		搔器		削器		舟底形石器		二次加工ある剥片		細石刃		石刃		縦長剥片		石刃核		石核		削片		剥片		石鏃		合計		
	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	
点取り	1	5.5			1	41.5	2	36.2			2	10.3	6	1.7	5	46.2	3	70.6			3	83.8	1	0.8	289	1246.3			313	1542.9	
一括	I	2	5.1			2	71.8	1	9.7	1	168.8	1	0.7	3	0.7	1	3.5			1	63.0	1	41.7	1	1.0	3600	8290.6	1	1.1	3615	8657.7
	II													12	1.5											626	79.9			638	81.4
ボサ																									60	135.3			60	135.3	
合計	2	5.1	1	5.5	3	113.3	3	45.9	1	168.8	3	11.0	21	3.9	6	49.7	3	70.6	1	63.0	4	125.5	2	1.8	4575	9752.1	1	1.1	4626	10417.3	

表VI-2 白滝第30地点遺跡出土遺物石質別一覧 ※重量の単位は(g)

種類	石質	尖頭器		彫器		搔器		削器		舟底形石器		二次加工ある剥片		細石刃		石刃		縦長剥片		石刃核		石核		削片		剥片		石鏃		合計	
		点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量
点取り	黒曜石			1	5.5	1	41.5	2	36.2			2	10.3	6	1.7	4	39.9	3	70.6			3	83.8	1	0.8	285	1240.9			308	1531.2
	頁岩														1	6.3										4	5.4			5	11.7
	小計			1	5.5	1	41.5	2	36.2			2	10.3	6	1.7	5	46.2	3	70.6			3	83.8	1	0.8	289	1246.3			313	1542.9
一括	黒曜石	2	5.1			1	6.4	1	9.7	1	168.8			14	2.1					1	63.0	1	41.7	1	1.0	4278	8488.4	1	1.1	4301	8787.3
	頁岩					1	65.4					1	0.7	1	0.1	1	3.5									7	17.3			11	87.0
	めのう																								1	0.1			1	0.1	
	小計	2	5.1			2	71.8	1	9.7	1	168.8	1	0.7	15	2.2	1	3.5			1	63.0	1	41.7	1	1.0	4286	8505.8	1	1.1	4313	8874.4
合計	2	5.1	1	5.5	3	113.3	3	45.9	1	168.8	3	11.0	21	3.9	6	49.7	3	70.6	1	63.0	4	125.5	2	1.8	4575	9752.1	1	1.1	4626	10417.3	

最終的に折れ面接合は9例(50001~50009)、剥離面接合は5例(1~5)となった。接合に関わる点数は28点(折れ面接合のみ16点、剥離面接合12点)で、点取り遺物の総数313点に対しては8.9%、点取り及び一括遺物の総数4,626点に対しては0.6%の接合率である。遺物・接合点数が少ないので、母岩別資料の抽出は行わなかった。

最終的に実測図などを掲載した石器類は35個体、36点で、接合資料はない。分布・接合図などを示した石器ブロックは2か所である。石器類の掲載割合は、点取り及び一括遺物の総数4,626点から剥片4,575点を引いた石器51点に対して70.6%である。(長沼 孝)

(8) 調査結果の概要

白滝第30地点遺跡では1か所の炭化木片ブロック(Cb-1)が石器ブロック(Sb-1)に重複して確認されたが、AMS法年代測定では2,590±40yBP(Beta-150458・SHIRA-91)、2,500±60yBP(Beta-150459・SHIRA-92)という数値で、細石刃が出土しているSb-1に伴うものではないと考えられる。遺物の総数は4,626点、重量は10,417.3gで、詳細は表VI-1を参照願いたい。

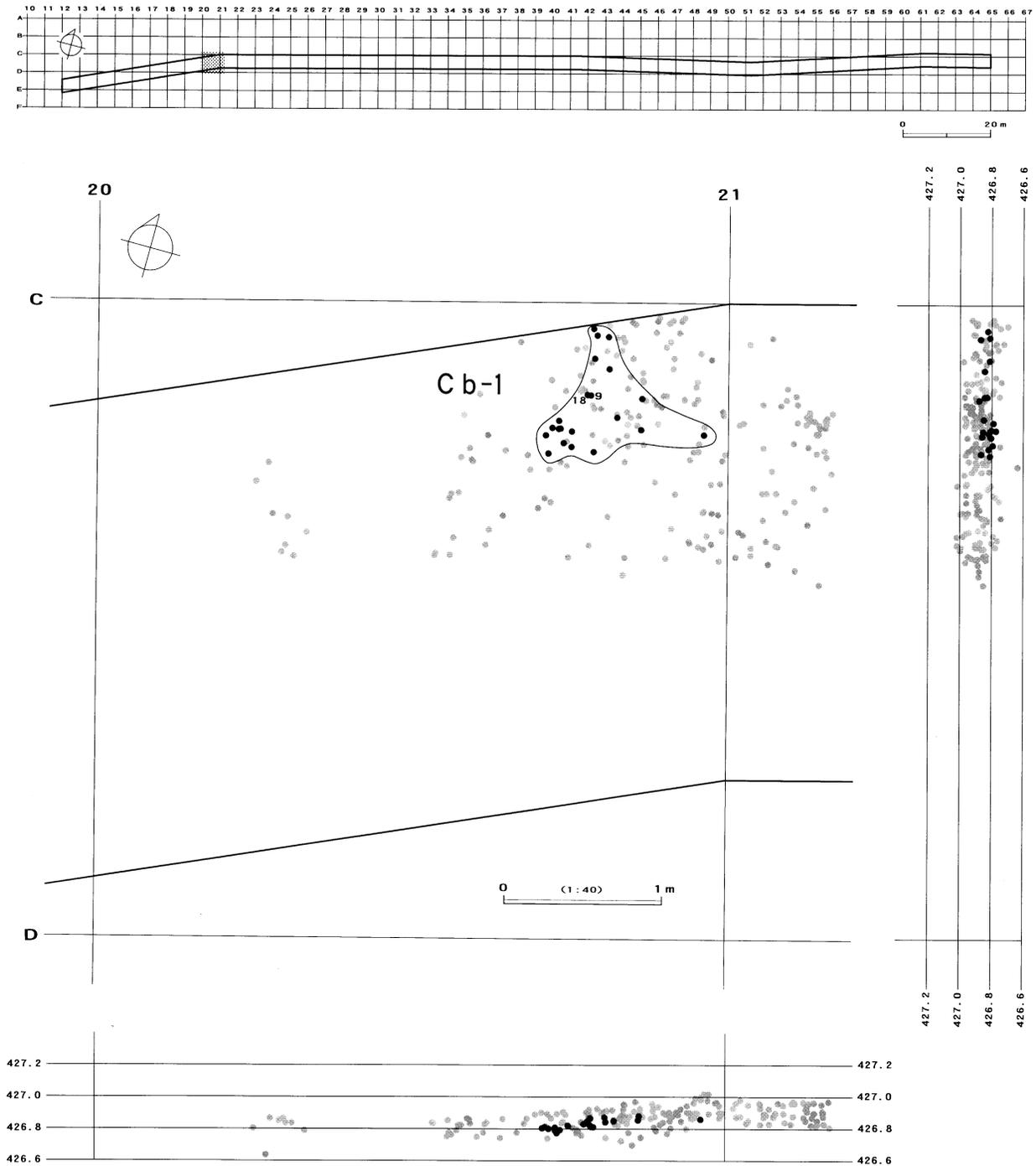
出土した遺物はすべて石器類で、時期的には縄文時代のものと旧石器時代のものがある。器種としては、尖頭器、彫器、搔器、削器、舟底形石器、細石刃、石刃、縦長剥片、削片、石刃核、石核、石鏃、二次加工ある剥片、剥片などである。これらのうち縄文時代と考えられるのは、石鏃である。

石器類は、耕作による攪乱を免れた笹藪と浅い沢地形部分で確認され、小規模ながら、それぞれを石器ブロック(Sb-1・2)とした。

Sb-1は細石刃石器群と考えられ、村教委調査の白滝第4地点遺跡のブロックa-1の一部と見られる(松村・瀬下 2002)。ブロックa-1では、彫器、搔器、削器、細石刃、石刃、斧形石器などがあるが、細石刃核は出土していない。しかし、接合関係のあるブロックb-2で幌加型細石刃核が出土していることから、Sb-1、ブロックa-1も幌加型細石刃核の伴う石器群の可能性が高い。

Sb-2は剥片のみ出土で、詳細は不明である。

縄文時代と考えられる石鏃1点は、I層の耕作土中出土のものである。村教委の白滝第30地点遺跡



図VI-3 炭化木片ブロックの平面・断面図

の調査でも耕作土中から石鏃が4点出土している（松村・瀬下 2003）ので、それらと関連した白滝の縄文時代を語るることができる貴重な資料と言える。（長沼 孝）

## 2 遺構と遺物

確認された遺構は炭化木片ブロックのみである。

2 遺構と遺物

表VI-3 白滝第30地点遺跡炭化木片ブロック一覧

	土 壌		炭化物重量 (g)	石 器		14C年代 (yBP)	
	体積 (cc)	重量 (g)		点 数	重量 (g)		
Cb-1	—	—	1.47	1	0.1	2500±60	2590±40

表VI-4 白滝第30地点遺跡出土点取り遺物ブロック・石質別一覧 ※重量の単位は(g)

ブロック	石質	彫 器		搔 器		削 器		二次加工ある剥片		細石刃		石 刃		縦長剥片		石 核		削 片		剥 片		合 計		
		点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	
Sb-1	黒曜石1	1	5.5			2	36.2			6	1.7	4	39.9	2	54.9			1	0.8	110	404.0	126	543.0	
	黒曜石2																			1	0.2	1	0.2	
	黒曜石3																			7	17.8	7	17.8	
	黒曜石4			1	41.5								1	15.7						8	13.2	10	70.4	
	黒曜石5							2	10.3							2	56.9			93	639.1	97	706.3	
	頁岩											1	6.3							4	5.4	5	11.7	
	小計	1	5.5	1	41.5	2	36.2	2	10.3	6	1.7	5	46.2	3	70.6	2	56.9	1	0.8	223	1079.7	246	1349.4	
Sb-2	黒曜石1																			23	21.1	23	21.1	
	黒曜石2																			2	3.2	2	3.2	
	黒曜石3																			3	7.7	3	7.7	
	黒曜石4																			36	132.4	36	132.4	
	黒曜石5																			2	2.2	2	2.2	
	小計																			66	166.6	66	166.6	
ブロック外	黒曜石															1	26.9						1	26.9
	小計															1	26.9						1	26.9
合 計	1	5.5	1	41.5	2	36.2	2	10.3	6	1.7	5	46.2	3	70.6	3	83.8	1	0.8	289	1246.3	313	1542.9		

表VI-5 白滝第30地点遺跡出土原礫面残存・被熱石器一覧

ブロック	遺物点数 (点取り) (点)	原礫面残存石器 (点,%)		被熱石器(点,%)	
Sb-1	246	20	8.1	1	0.4
Sb-2	66	12	18.2	3	4.5
ブロック外	1	1	100.0		
合 計	313	33	10.5	4	1.3

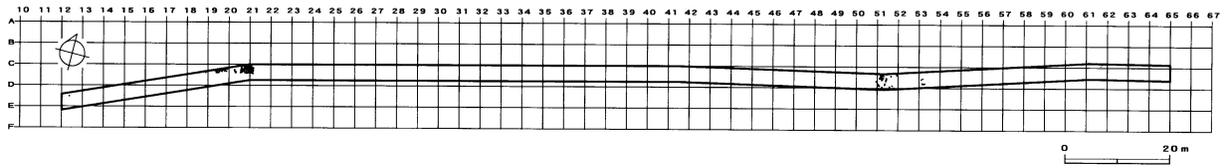
出土した遺物はすべて石器類で、畑の耕作による攪乱が著しいため遺物包含層が残存している部分が少なかったことや調査範囲が狭いことなどから位置を記録したものは少ない。点取り遺物が出土した区域2か所をそれぞれ石器ブロック1・2 (Sb-1・2) とした。

(1) 炭化木片ブロック

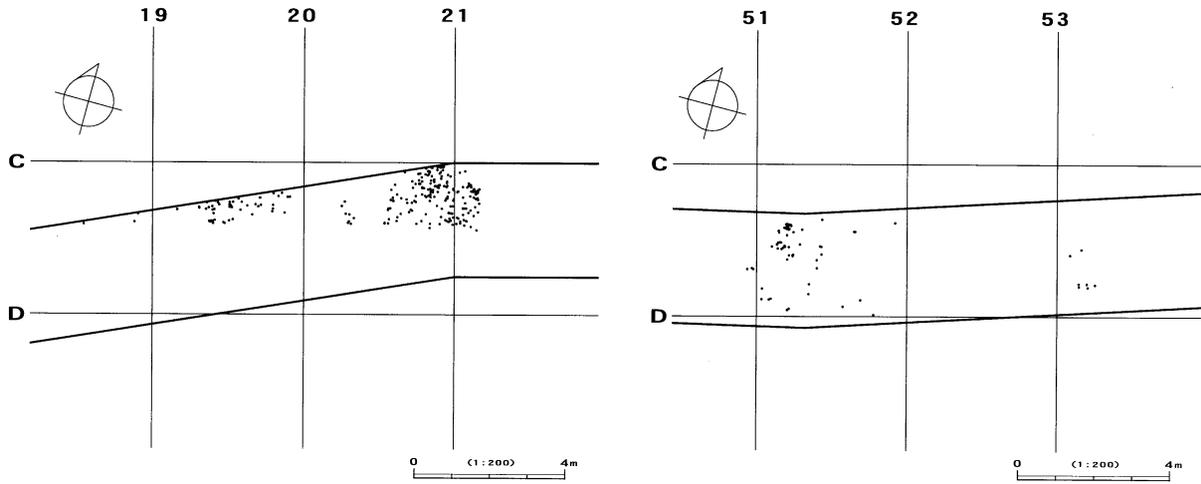
Cb-1 (図VI-3、表VI-3)

確認された炭化木片は小さく、分布も散漫であったので、土壌を採取するのではなく、炭化木片の位置を記録し、番号を付して取り上げた。

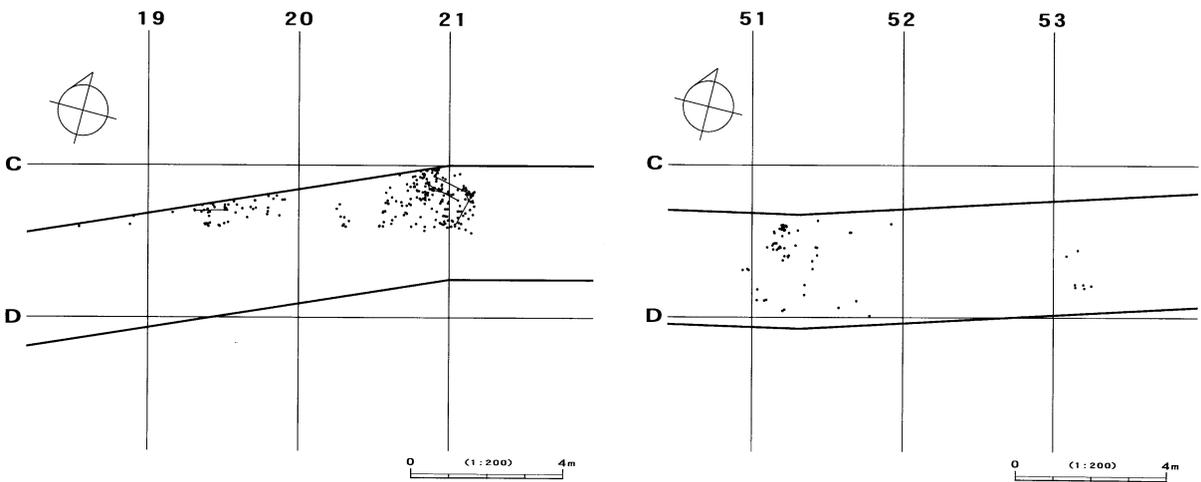
C20区の北東隅で、調査区の境界に接し、Sb-1に重複して確認された。炭化木片は20点ほどで、その分布範囲は1.1×0.9mである。保存状態が良好で、測定可能な2点 (No. 9・18) について放射性炭素年代測定を行ったところ、2,590±40yBP (Beta-150458・SHIRA-91)、2,500±60yBP (Beta-150459・SHIRA-92) という数値が得られた。細石刃石器群のSb-1とは平面分布的には重複しているが、その年代観とは大きく異なっているので、Cb-1とSb-1は共伴するものではない。



遺物分布図



接合分布図



石器ブロック設定図

図VI-4 遺物分布・接合分布・石器ブロック設定図

ない。

## (2) 遺物分布と石器ブロック

18～22ラインと50～54ライン部分で表土下から遺物がまとまって確認されただけである。また、接合もそれぞれで若干みられるだけで、それぞれを石器ブロック1・2 (Sb - 1・2) とした。

Sb - 1 では細石刃を含む若干の石器類がみられるが、Sb - 2 は剥片のみで、その内容は不明である。

原礫面が残存している石器はSb - 1 では20点 (点取り遺物246点の8%)、Sb - 2 では12点 (点取り遺物66点の18%)、被熱石器はSb - 1 では1点 (点取り遺物246点の0.4%)、Sb - 2 では3点 (点取り遺物66点の4.5%) と、いずれも少ない割合である。

## (3) 石器ブロック1 (Sb - 1) の石器

### 出土石器

点取りでは彫器1点、搔器1点、削器2点、二次加工ある剥片2点、細石刃6点、石刃5点、縦長剥片3点、石核2点、削片1点、剥片223点、計246点、重量1,349.4gの石器類が出土したが、ブロックに重なる発掘区の表土などの一括取り上げの中にも定形的な石器類が多くあり、石器ブロックに含まれると考えられる。頁岩製の石刃1点、剥片4点以外は黒曜石で、全体の98.0%を占める。最も多いのは黒曜石1の126点で黒曜石全体の52.3%を占め、以下黒曜石5の97点 (40.2%)、黒曜石4の10点 (4.1%)、黒曜石3の7点 (2.9%)、黒曜石2の1点 (0.4%) と続く。

### 細石刃 (図VI - 5 - 1～19、図版406 - 1～19)

1～3は短いながらも完形、4～12は打点側、13～17は中間部、18、19末端側である。両側縁と2本の稜が平行で、形状が整ったものは7、14、15の3点と少ない。残存部分の最大幅は、1、13、18が4 mm、2～4、14、19が5 mm、5～8、15、16が6 mm、9、17が7 mm、10～12が8 mmである。石質は13が頁岩で、他はすべて黒曜石1であるが、12は被熱しているとみられ、灰色で光沢を失っている。12、13以外は、透明感が強い良質の黒曜石で、10は黒色の縞模様が顕著であるが、他はモヤ状の模様がみられ、同一母岩の可能性はある。いずれも両側縁に明瞭な二次加工はない。

### 搔器 ((図VI - 5 - 20～22、図版406 - 20～22)

20は厚手で幅広の剥片を素材としたもので、頁岩製である。両側縁にやや粗い浅めの二次加工が施されている。形状は刃部に最大幅があり、左右は非対称である。刃部の角度は80度前後と急角度である。21は幅広の縦長剥片を素材として刃部にのみ浅い二次加工を施したものである。刃部は弧状で、角度は50度前後である。石質は黒色にやや赤味がかかった茶色の模様がみられる良質の黒曜石3で、薄い両側縁は透明な部分もある。22は刃部側の破片で、素材剥片の末端側に浅い二次加工で刃部を作出している。刃部中央右側のやや大きな剥離は、刃部再生の加工であるが、その左側が階段状になり、連続的な再生加工を困難にしているようである。

### 削器 (図VI - 5 - 23・24、図版406 - 23・24)

いずれも破片である。22は石刃素材で、二次加工の状態は左側は連続的であるが、右側はやや不連続である。折れは径5 mmの球顆から広がっている。石質は灰色に黒色の大小の斑点が入る黒曜石1である。23は幅広の剥片の周縁に浅い二次加工がみられるものであるが、全体の形状は分からない。折れは径5 mmの球顆から広がっている。

### 舟底形石器 (図VI - 6 - 26、図版406 - 26)

I層出土である。甲板面がわずかに波打ち、正面右側にみられる甲板面からの大きな剥離が内反剥離となり、全体のバランスを崩している。石質は漆黒色の良質な黒曜石1である。

#### 石刃 (図VI-6-27~30、図版406-27~30)

4点とも破片で、27は打点側、28~30は中間部である。石質は28が頁岩で、他は良質の黒曜石1である。

#### 削片 (図VI-6-31、図版406-31)

断面が三角形で、細かな剥離がみられる。石質は透明感のある黒曜石1である。

#### 石器ブロック1 (Sb-1) の分布 (図VI-7)

遺物はC18~21区の東西11m、南北1.5mの範囲で確認されたが、調査区域外の北側に広がっている可能性がある。分布は東西に二つのまとまりがあり、西側は2×0.6m、東側は2.5×1.5mで、東側が大きい。石器類は西側は細石刃と縦長剥片だけであるが、東側は細石刃のほかに搔器、削器、石刃などがみられる。

#### 石器ブロック1 (Sb-1) の接合状況 (図VI-7)

接合は、西側と東側のそれぞれのまとまりがあるだけで、全体にはみられない。

### (4) 石器ブロック2 (Sb-2) の石器

#### 出土石器

点取りでは剥片66点、重量166.6gの石器類が出土したのみである。石材はすべて黒曜石で、最も多いのは黒曜石4の36点で、黒曜石全体の54.5%を占め、以下黒曜石1の23点(34.8%)、黒曜石3の3点(4.5%)、黒曜石2の2点(3.0%)、黒曜石5の2点(3.0%)と続く。剥片のみで、実測図を掲載したものはない。剥片類は尖頭器を製作したと考えられるものが多い。

#### 石器ブロック2 (Sb-2) の分布 (図VI-8)

C50~53区の東西10m、南北3mの範囲に分布するが、C52区は全くなく、C51区全域とC53区西側の二つのまとまりがある。

#### 石器ブロック2 (Sb-2) の接合状況 (図VI-8)

C51区の近接して出土した剥片の接合が1例あるだけである。(長沼 孝)

### (5) 石器ブロック外・表土層の石器

調査区域の西端D12区で小型の石核が1点出土している。また、耕作により攪乱された表土層からは、尖頭器2点、搔器2点、削器1点、舟底形石器1点、細石刃3点、石刃1点、石刃核1点、石核1点、削片1点、石鏃1点、剥片3,660点(ボサを含む)、総計3,675点、重量8,793.0gの石器類が出土している。ブロック外の石核1点と表土層の細石刃1点、搔器2点、削器3点、舟底形石器1点、石鏃1点、尖頭器2点について実測図を掲載した。なお、細石刃1点、搔器2点、削器2点、舟底形石器1点、削片1点は出土位置からみてSb-1に伴うものと考えられるので、Sb-1の石器類とともに図示した。ここでは、ブロック外の石核1点と調査区の50ラインより東側の表土層から出土した石器を説明する。

#### 石核 (図VI-5-25、図版406-25)

小型の角礫原石を素材とし、打面を90度転移した剥片剥離がみられる石核である。打面調整がみら

## 2 遺構と遺物

れず、白滝Ⅰ群の石核の可能性はあるが、単独出土なので、明確でない。

### 石鏃 (図Ⅵ-6-32、図版406-32)

先端と左脚部が欠損しているが、ほぼ左右対称の長脚鏃とみられる。石質は透明感が強く、モヤ状の細かい縞模様がみられる黒曜石1である。

### 尖頭器 (図Ⅵ-6-33・34、図版406-33・34)

2点とも下半部が欠損し、全体の形状が不明な小型の尖頭器である。33は両面の加工も細かく、完成品とみられるが、裏面中央にわずかに素材面が残っている。石質は茶に黒がまじる黒曜石3で、比較的良質である。34は両面加工であるが、加工はやや粗い、石質は灰色がかった黒曜石1である。

### 削器 (図Ⅵ-6-35、図版406-35)

石刃素材である。両側縁の剥離は極めて浅く、人為的な二次加工というよりは、耕作土中での潰れの可能性がある。(長沼 孝)

## VII 自然科学的分析等

## 1 放射性炭素年代測定

(株) 地球科学研究所

## 放射性炭素年代測定結果報告書

放射性炭素年代測定の依頼を受けました試料について、別表の結果を得ましたのでご報告申し上げます。

## 報告内容の説明

$^{14}\text{C}$ age (yBP)	: $^{14}\text{C}$ 年代“measured radiocarbon age” 試料の $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比から、単純に現在(1950年AD)から何年前(BP)かを計算した年代。 半減期はリビークの5568年を用いた。
補正 $^{14}\text{C}$ age (yBP)	: 補正 $^{14}\text{C}$ 年代“conventional radiocarbon age” 試料の炭素安定同位体比( $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ )を測定して試料の炭素の同位体分別を知り $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ の測定値に補正値を加えた上で、算出した年代。 試料の $\delta^{13}\text{C}$ 値を-25(‰)に標準化することによって得られる年代値である。 暦年代を得る際にはこの年代値をもちいる。
$\delta^{13}\text{C}$ (permil)	: 試料の測定 $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比を補正するための $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比。 この安定同位体比は、下式のように標準物質(PDB)の同位体比からの千分偏差(‰)で表現する。 $\delta^{13}\text{C} (\text{‰}) = \frac{(^{13}\text{C}/^{12}\text{C})_{\text{[試料]}} - (^{13}\text{C}/^{12}\text{C})_{\text{[標準]}}}{(^{13}\text{C}/^{12}\text{C})_{\text{[標準]}}} \times 1000$ ここで、 $(^{13}\text{C}/^{12}\text{C})_{\text{[標準]}} = 0.0112372$ である。
暦年代	: 過去の宇宙線強度の変動による大気中 $^{14}\text{C}$ 濃度の変動に対する補正により、暦年代を算出する。 具体的には年代既知の樹木年輪の $^{14}\text{C}$ の測定、サンゴのU-Th年代と $^{14}\text{C}$ 年代の比較により、補正曲線を作成し、暦年代を算出する。最新のデータベース(“INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration” Stuiver et al. 1998, Radiocarbon 40 (3))により約19,000yBPまでの換算が可能となった*。

\*但し、10,000yBP以前のデータはまだ不完全であり今後も改善される可能性が高いので、補正前のデータの保管を推奨します。  
“The calendar calibrations were calculated using the newest calibration data as published in Radiocarbon, Vol. 40, No. 3, 1998 using the cubic spline fit mathematics as published by Talma and Vogel, Radiocarbon, Vol. 35, No. 2, pg 317-322, 1993: A Simplified Approach to Calibrating C14 Dates. Results are reported both as cal BC and cal BP. Note that calibration for samples beyond about 10,000 years is still very subjective. The calibration data beyond about 13,000 years is a “best fit” compilation of modeled data and, although an improvement on the accuracy of the radiocarbon date, should be considered illustrative. It is very likely that calibration data beyond 10,000 years will change in the future. Because of this, it is very important to quote the original BP dates and these references in your publications so that future refinements can be applied to your results.”

---

測定方法などに関するデータ	
測定方法	AMS : 加速器質量分析 Radiometric : 液体シンチレーションカウンタによる $\beta$ -線計数法
処理・調製・その他	: 試料の前処理、調製などの情報
前処理	acid-alkali-acid : 酸-アルカリ-酸洗浄 acid washes : 酸洗浄 acid etch : 酸によるエッチング none : 未処理
調製、その他	Bulk-Low Carbon Material : 低濃度有機物処理 Bone Collagen Extraction : 骨、歯などのコラーゲン抽出 Cellulose Extraction : 木材のセルロース抽出 Extended Counting : Radiometricによる測定の際、測定時間を延長する
分析機関	BETA ANALYTIC INC. 4985 SW 74 Court, Miami, FL, U.S.A 33155

1 放射性炭素年代測定

測定番号	試料名	試料種	14C age (yBP)	$\delta^{13}C$ (permil)	補正14C age (yBP)	暦年代
Beta-101787	No.1	charred material	12460 ± 60	-26.1	12440 ± 60	交点 Cal BC 12400 2SIGMA Cal BC 13510 to 12190 95% probability 1SIGMA Cal BC 13470 to 12580 and 68% probability Cal BC 12520 to 12220
整理番号 4511	測定方法	AMS LLNL	処理・調製・その他	acid-alkali-acid graphite		
Beta-101788	No.2	charred material	18570 ± 60	-24.3	18580 ± 60	交点 Cal BC 20110 2SIGMA Cal BC 20600 to 19640 95% probability 1SIGMA Cal BC 20530 to 19710 68% probability
整理番号 4512	測定方法	AMS LLNL	処理・調製・その他	acid-alkali-acid graphite		
Beta-101790	No.4	charred material	26900 ± 120	-25.8	26880 ± 120	交点 2SIGMA 95% probability 1SIGMA 68% probability
整理番号 4514	測定方法	AMS LLNL	処理・調製・その他	acid-alkali-acid graphite		
Beta-101791	No.5	charred material	27600 ± 130	-24.4	27610 ± 130	交点 2SIGMA 95% probability 1SIGMA 68% probability
整理番号 4515	測定方法	AMS LLNL	処理・調製・その他	acid-alkali-acid graphite		
Beta-101792	No.6	charred material	26390 ± 480	-24.5	26400 ± 480	交点 2SIGMA 95% probability 1SIGMA 68% probability
整理番号 4516	測定方法	AMS Kiel	処理・調製・その他	acid-alkali-acid graphite		
Beta-112894	SHIRA-22	charred material	12420 ± 100	-25.1	12420 ± 100	交点 Cal BC 12400 2SIGMA Cal BC 13540 to 12160 95% probability 1SIGMA Cal BC 13480 to 12190 68% probability
整理番号 7085	測定方法	AMS	処理・調製・その他	acid-alkali-acid graphite		
Beta-112895	SHIRA-23	charred material	18650 ± 160	-25.0	18650 ± 160	交点 Cal BC 20190 2SIGMA Cal BC 20920 to 19500 95% probability 1SIGMA Cal BC 20730 to 19680 68% probability
整理番号 7086	測定方法	AMS	処理・調製・その他	acid-alkali-acid graphite		
Beta-112896	SHIRA-24	charred material	18780 ± 160	-25.4	18770 ± 160	交点 Cal BC 20330 2SIGMA Cal BC 21060 to 19630 95% probability 1SIGMA Cal BC 20870 to 19810 68% probability
整理番号 7087	測定方法	AMS	処理・調製・その他	acid-alkali-acid graphite		

測定番号	試料名	試料種	14C age (yBP)	$\delta^{13}C$ (permil)	補正14C age (yBP)	暦年代
Beta-112899	SHIRA-27	charred material	17940 ± 180	-24.5	17950 ± 180	交点 Cal BC 19390 2SIGMA Cal BC 20140 to 18650 95% probability 1SIGMA Cal BC 19930 to 18860 68% probability
整理番号 7090	測定方法	AMS	処理・調製・その他 acid-alkali-acid graphite			
Beta-112900	SHIRA-28	charred material	18760 ± 170	-24.2	18770 ± 170	交点 Cal BC 20330 2SIGMA Cal BC 21090 to 19610 95% probability 1SIGMA Cal BC 20880 to 19800 68% probability
整理番号 7091	測定方法	AMS	処理・調製・その他 acid-alkali-acid graphite			
Beta-112901	SHIRA-29	charred material	27500 ± 470	-23.7	27520 ± 470	交点 2SIGMA 95% probability 1SIGMA 68% probability
整理番号 7092	測定方法	AMS	処理・調製・その他 acid-alkali-acid graphite			
Beta-112902	SHIRA-30	charred material	27690 ± 320	-25.1	27690 ± 320	交点 2SIGMA 95% probability 1SIGMA 68% probability
整理番号 7093	測定方法	AMS	処理・調製・その他 acid-alkali-acid graphite			
Beta-112903	SHIRA-31	charred material	21980 ± 210	-24.9	21980 ± 210	交点 2SIGMA 95% probability 1SIGMA 68% probability
整理番号 7094	測定方法	AMS	処理・調製・その他 acid-alkali-acid graphite			
Beta-112904	SHIRA-32	charred material	14030 ± 110	-26.2	14010 ± 110	交点 Cal BC 14850 2SIGMA Cal BC 15330 to 14360 95% probability 1SIGMA Cal BC 15210 to 14480 68% probability
整理番号 7095	測定方法	AMS	処理・調製・その他 acid-alkali-acid graphite			
Beta-126162	SHIRA-51	charred material	13780 ± 100	-25.0	13780 ± 100	交点 Cal BC 14590 2SIGMA Cal BC 15050 to 14130 95% probability 1SIGMA Cal BC 14950 to 14240 68% probability
整理番号 10336	測定方法	AMS	処理・調製・その他 acid-alkali-acid			
Beta-150458	SHIRA-91	charred material	2590 ± 40	-28.0	2540 ± 40	交点 Cal BC 780 2SIGMA Cal BC 800 to 740 and 95% probability Cal BC 710 to 530 1SIGMA Cal BC 790 to 760 and 68% probability Cal BC 620 to 590
整理番号 16461	測定方法	AMS	処理・調製・その他 acid-alkali-acid			

1 放射性炭素年代測定

測定番号	試料名	試料種	14C age (yBP)	$\delta^{13}C$ (permil)	補正14C age (yBP)	暦年代
Beta-150459	SHIRA-92	charred material	2500 ± 60	-27.0	2470 ± 60	交点 Cal BC 750 and Cal BC 700 and Cal BC 540 2SIGMA Cal BC 790 to 400 95% probability 1SIGMA Cal BC 780 to 420 68% probability
整理番号 16462	測定方法	AMS	処理・調製・その他 acid-alkali-acid			
Beta-174487	SHIRA-93	charred material	24340 ± 160	-22.4	24380 ± 160	交点 2SIGMA 95% probability 1SIGMA 68% probability
整理番号 21693	測定方法	AMS	処理・調製・その他 acid-alkali-acid			
Beta-174488	SHIRA-94	charred material	13930 ± 50	-25.6	13920 ± 50	交点 Cal BC 14750 2SIGMA Cal BC 15100 to 14390 95% probability 1SIGMA Cal BC 15040 to 14440 68% probability
整理番号 21694	測定方法	AMS	処理・調製・その他 acid-alkali-acid			

表Ⅶ-1 放射性炭素年代測定一覧

測定番号	試料名	遺跡名	出土地点	層位	14C年代 (yBP)	補正14C年代 (yBP)	暦年代	
							交点	1σ
Beta-101787	No1	上白滝8	Cb-1	II a	12460 ± 60	12440 ± 60	Cal BC 12400	Cal BC 13470 to 12580 and Cal BC 12520 to 12220
Beta-101788	No2	上白滝8	Cb-2(2)	II a	18570 ± 60	18580 ± 60	Cal BC 20110	Cal BC 20530 to 19710
Beta-101790	No4	上白滝8	Cb-13(5)上	II a-c	26900 ± 120	26880 ± 120		
Beta-101791	No5	上白滝8	Cb-13(5)中	II a-c	27600 ± 130	27610 ± 130		
Beta-101792	No6	上白滝8	Cb-13(5)下	II a-c	26390 ± 480	26400 ± 480		
Beta-112894	SHIRA-22	上白滝8	Cb-1	II a	12420 ± 100	12420 ± 100	Cal BC 12400	Cal BC 13480 to 12190
Beta-112895	SHIRA-23	上白滝8	Cb-6	II a-c	18650 ± 160	18650 ± 160	Cal BC 20190	Cal BC 20730 to 19680
Beta-112896	SHIRA-24	上白滝8	Cb-6	II a-c	18780 ± 160	18770 ± 160	Cal BC 20330	Cal BC 20870 to 19810
Beta-112899	SHIRA-27	上白滝8	Cb-10(1)	II a	17940 ± 180	17950 ± 180	Cal BC 19390	Cal BC 19930 to 18860
Beta-112900	SHIRA-28	上白滝8	Cb-11(1)	II a	18760 ± 170	18770 ± 170	Cal BC 20330	Cal BC 20880 to 19800
Beta-112901	SHIRA-29	上白滝8	Cb-13(3)	II a	27500 ± 470	27520 ± 470		
Beta-112902	SHIRA-30	上白滝8	Cb-13(5)	II a-c	27690 ± 320	27690 ± 320		
Beta-112903	SHIRA-31	上白滝8	Cb-14	III	21980 ± 210	21980 ± 210		
Beta-112904	SHIRA-32	上白滝8	Cb-15	III	14030 ± 110	14010 ± 110	Cal BC 14850	Cal BC 15210 to 14480
Beta-126162	SHIRA-51	上白滝8	Cb-4	III	13780 ± 100	13780 ± 100	Cal BC 14590	Cal BC 14950 to 14240
Beta-150458	SHIRA-91	白滝第30地点	Cb-1	II a	2590 ± 40	2540 ± 40	Cal BC 780	Cal BC 790 to 760 and Cal BC 620 to 590
Beta-150459	SHIRA-92	白滝第30地点	Cb-1	II a	2500 ± 60	2470 ± 60	Cal BC 750 and Cal BC 700 and Cal BC 540	Cal BC 780 to 420
Beta-174487	SHIRA-93	上白滝8	Cb-14	III	24340 ± 160	24380 ± 160		
Beta-174488	SHIRA-94	上白滝8	Cb-15	III	13930 ± 50	13920 ± 50	Cal BC 14750	Cal BC 15040 to 14440

## 2 上白滝8遺跡出土黒曜石のフィッシュントラック年代測定

山梨県環境科学研究所 輿水達司

### (1) はじめに

北海道白滝村の上白滝8遺跡から出土した加熱を受けたと見られる黒曜石片5点につき、フィッシュントラック年代測定を実施したので、その結果を報告する。

### (2) 分析資料

今回の実験に用いた黒曜石は上白滝8遺跡から出土した剥片3点、石刃1点、尖頭器1点である(表VII-2)。

### (3) フィッシュントラック年代測定

すべての天然鉱物・天然ガラスおよび人工ガラスには、一般に不純物として数ppmから数ppbの微量のウランが含まれている。ウラン同位体のうちウラン-238は、自発核分裂を起こして、それを含んでいる鉱物・ガラスに飛跡を残す。一方、ウラン-235は、原子炉で熱中性子を照射してはじめて核分裂(誘発核分裂)を起こして、同様に飛跡を残す。これらの飛跡がフィッシュントラックである。

フィッシュントラック年代とは、一般に火山活動などにより鉱物・ガラス等が晶出あるいは固結した時、すなわちフィッシュントラックが記録・保存される状態になってから現在までの経過時間を示すものである。しかし、熱効果あるいは圧力効果などによりフィッシュントラックが完全に消失した場合には、その時から新たに自発フィッシュントラックの蓄積が始まる訳である。フィッシュントラックの消失の原因が、例えば先史人類によって資料に与えられた熱効果-遺跡における火の使用-であれば、測定された年代値は考古学的な意味を持つことになる。このような事情から、遺跡から出土した焼けた黒曜石のフィッシュントラック年代を測定する重要性が生じる。

フィッシュントラック年代(A)は、標準ガラスについての定数が明らかにされている場合には、次式により算出される(Fleicher et al., 1975)。

$$A = \zeta (\rho_s / \rho_i) \rho_d$$

ここで、 $\rho_s$ は自発フィッシュントラック密度、 $\rho_i$ は誘発フィッシュントラック密度、 $\zeta$ は定数である。

実際には、同一の黒曜石から2箇の試料を用意し、その一つを標準ガラスと共に立教大学原子力研究所のTRIGA Mark II回転試料棚で熱中性子を照射した。その後、これら2箇の黒曜石(一方は自発フィッシュントラック密度用、他方は誘発フィッシュントラック密度用である)を樹脂に包埋し、黒曜石の内面を観察するため研磨した。ついで、48%HFを用いて23°Cで15秒間のエッチングを行い、エッチング面のレプリカを作り、これを光学顕微鏡下で観察した。測定の詳細については、輿水(1981)を参照されたい。

### (4) 結果

得られた結果を表VII-2に示す。5箇の黒曜石につき21,500~24,100年の測定結果が得られ、各々の年代値の測定誤差は2,100~2,400年が見積もられた。これらの測定誤差を考慮すれば、今回得られた結果は互いに重なりあう年代であり、考古学的には同一の生活面に対する年代と考えて矛盾はない。北海道の旧石器時代の編年に寄与するものと思われる。

参考文献

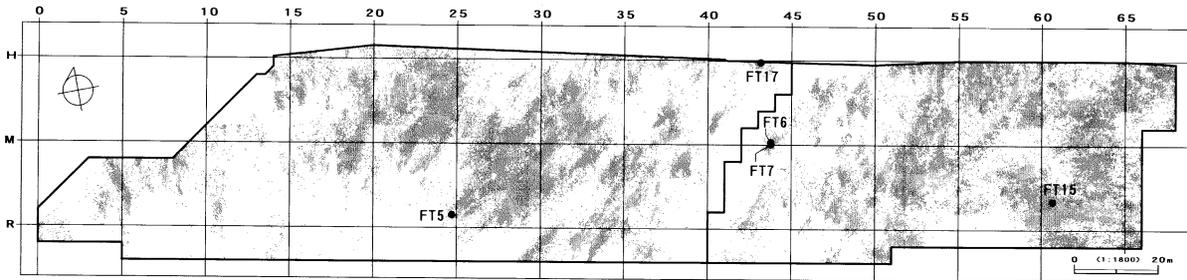
Fleischer, R. L., Plice, P. B. and Walker, R. M. (1975) Nuclear Tracks in Solids: Principles and Applications. University of California Press. 605p.  
 輿水達司 (1981) 石狩低地帯に出土する黒曜石片の原産地. 地球科学, 35, 267-273.

表Ⅶ-2 上白滝8 遺跡出土黒曜石のフィッシュントラック年代測定結果

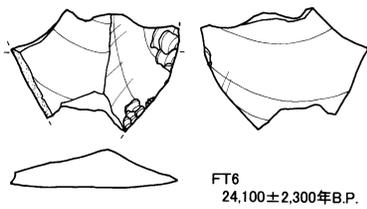
sample	試料番号	遺跡名	ブロック	グリッド	遺物番号	母岩番号	接合番号	Ns	$\rho s$	Ni	$\rho i$	Nd	$\phi$	Age ( $\pm 1\sigma$ )	遺物名	ブロックの内容
No.5	F T5	上白滝8	95	Q24	21	-	-	103	18.4	2000	2.62	2000	5.41	22800 $\pm$ 2400	石刃	ナイフ形石器
No.6	F T6	上白滝8	9	L43	16	-	-	124	19.1	2000	2.57	2000	5.41	24100 $\pm$ 2300	剥片	白滝I群
No.7	F T7	上白滝8	9	L43	38	98	255	143	17.5	2000	2.42	2000	5.41	23400 $\pm$ 2100	剥片	白滝I群
No.15	F T15	上白滝8	27	P60	1843	-	52506	108	15.8	2000	2.38	2000	5.41	21500 $\pm$ 2200	尖頭器	尖頭器
No.17	F T17	上白滝8	64	H43	116	-	-	135	16.8	2000	2.33	2000	5.41	23400 $\pm$ 2100	剥片	白滝I群

Ns : 自発フィッシュントラック計測数 (tracks)  
 $\rho s$  : 自発フィッシュントラック密度 (tracks/cm)  
 Ni : 誘発フィッシュントラック計測数 (tracks)  
 $\rho i$  : 誘発フィッシュントラック密度 ( $\times 10^4$ tracks/cm)

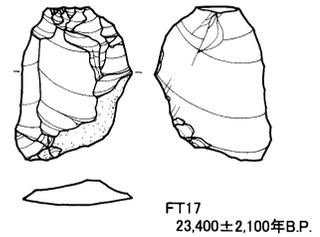
Nd : 標準ガラス中に観察された誘発フィッシュントラック数 (tracks)  
 $\phi$  : 熱中性子線量 ( $\times 10^5$ neutrons/cm)  
 Age : 年代 (years B.P.)



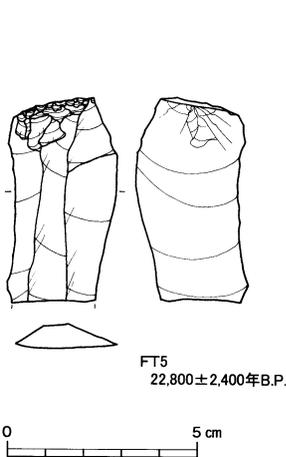
Sb-9



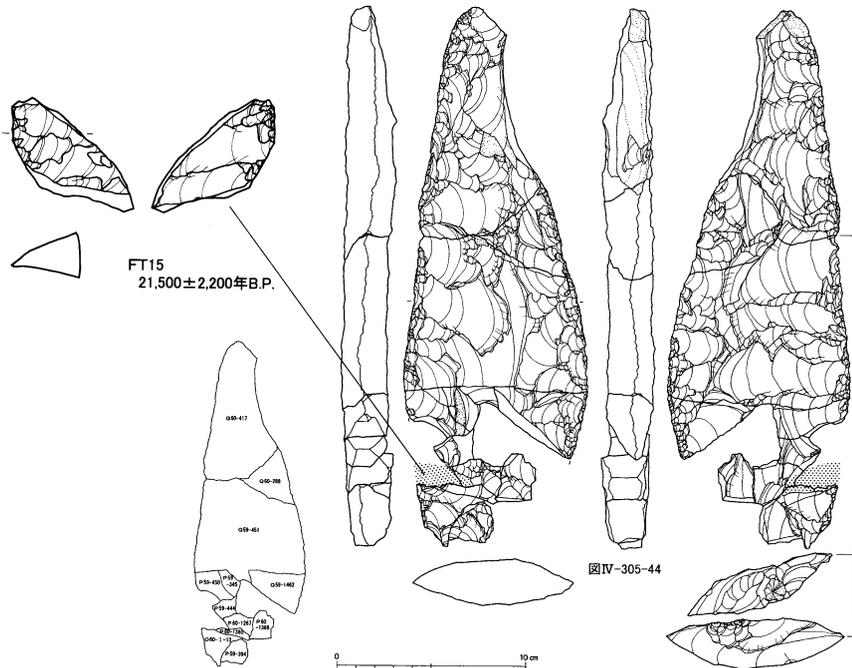
Sb-64



Sb-95



Sb-27



図Ⅶ-1 フィッシュントラック年代測定試料

### 3 上白滝 8 遺跡の堆積層・古植生の検討

パリノ・サーヴェイ株式会社

#### (1) はじめに

白滝遺跡群を構成する遺跡の一つである上白滝 8 遺跡は、遺跡群の他の遺跡と同様に湧別川沿いの段丘上に位置している。上白滝 8 遺跡の位置する段丘は、白滝団体研究会（1963）により第 3 段丘とされ、中村・平川（1998）による最近の研究では、上白滝面に分類されている。上白滝面の形成年代は、段丘礫層直上に 15～20 万年前に噴出したとされるトエトコテフラが確認されたことから、酸素同位体比ステージ 7 後半～ステージ 6 初期と考えられている（平川ほか，2000）。したがって、上白滝 8 遺跡で観察された礫を多量に含む土層やその上位の遺物包含層は、温暖期である最終間氷期や寒冷期である最終氷期を経た、およそ 20 万年間に及ぶ時間により形成されたものといえる。出土した遺物は古くとも最近 3 万年間に形成された表層の土壌層中にしか認められないが、過去 20 万年間における環境変遷は、遺跡が立地する背景としての資料価値がある。

今回の分析調査では、上白滝 8 遺跡で認められた土層断面について、その中に含まれている珪藻化石、花粉化石および植物珪酸体の産状を調べるとともに粒度分析も行い、過去の環境変遷および植生について考察する。

#### (2) 基本土層および採取試料

試料は、上白滝 8 遺跡平成 8 年度調査区内の S27 区南壁より採取した。また、参考試料として、遺跡に近接する切り通しで白滝層の試料 1 点を採取した。この切り通しで試料を採取した地点を、ここでは上白滝 8 遺跡露頭 1 地点とする。

S27 区南壁では、白滝遺跡群における基本土層の I 層から III 層までが確認された。厚さ 10cm ほどの I 層の下位に遺物包含層である厚さ約 15cm の II a 層、同程度の厚さの II b 層が分層され、その下位に白滝 1 テフラ (Sit1) の軽石を多く含む II c 層が認められ、さらに下位に厚さ 30cm ほどの III 層とされる土壌層がある。なお、Sit1 は約 3 万年前に大雪山御鉢平カルデラから噴出した大雪御鉢平軽石 (Ds-Oh) に対比されている（平川ほか，2000）。III 層よりも下位には、径 10～数 10mm の礫を含んだ砂質シルト層が厚く堆積し、段丘の構成層に連続する。

試料は、基本的に細粒の堆積層について厚さ 5 cm で連続に採取したが、砂礫層や砂層などは層の中部付近や上部、中部、下部各 1 点ずつ採取するなど、層相や堆積状況に応じた採取方法をとった。南深掘における層序と試料採取層準を柱状図にして、図 VII-2 に示す。

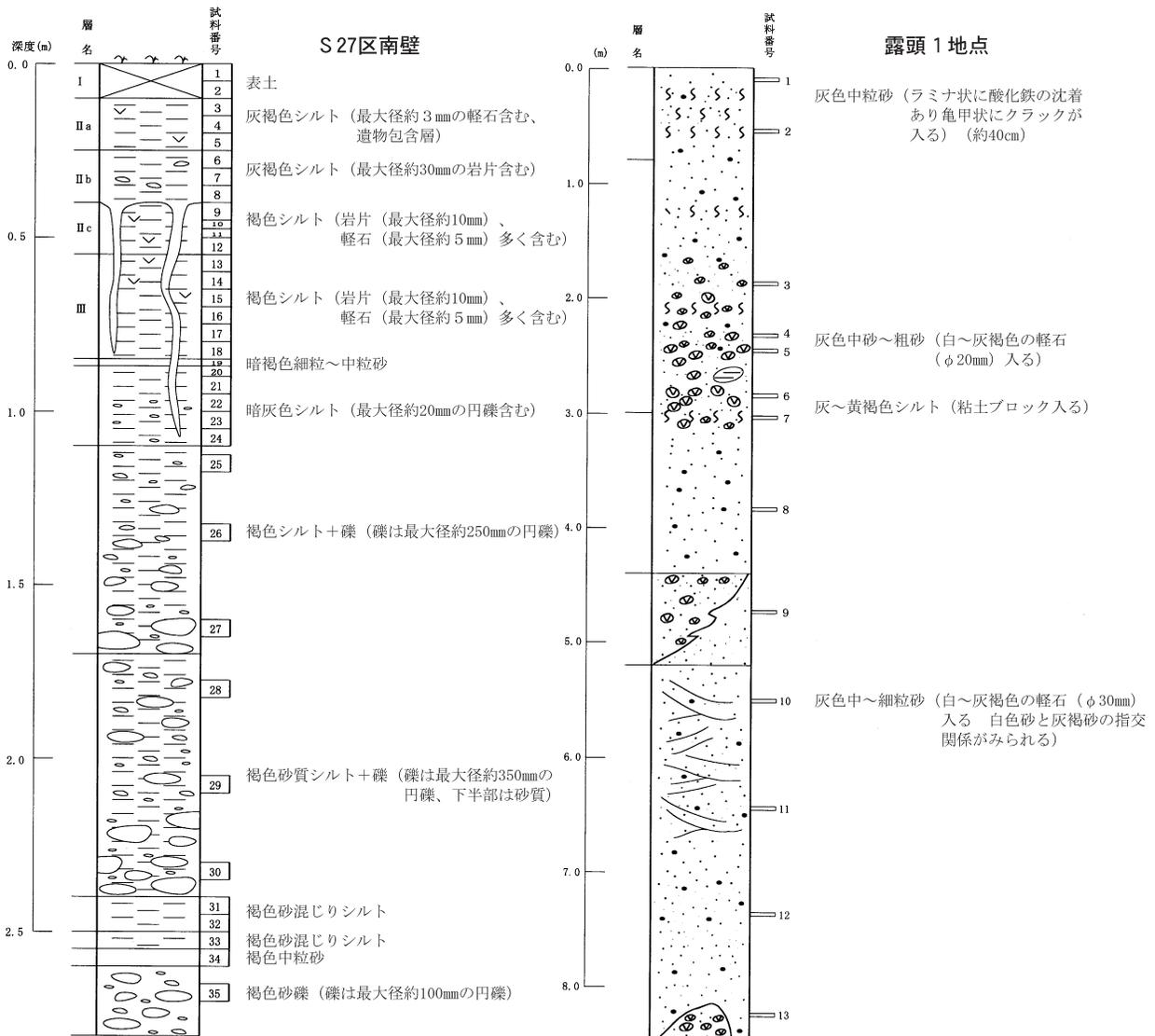
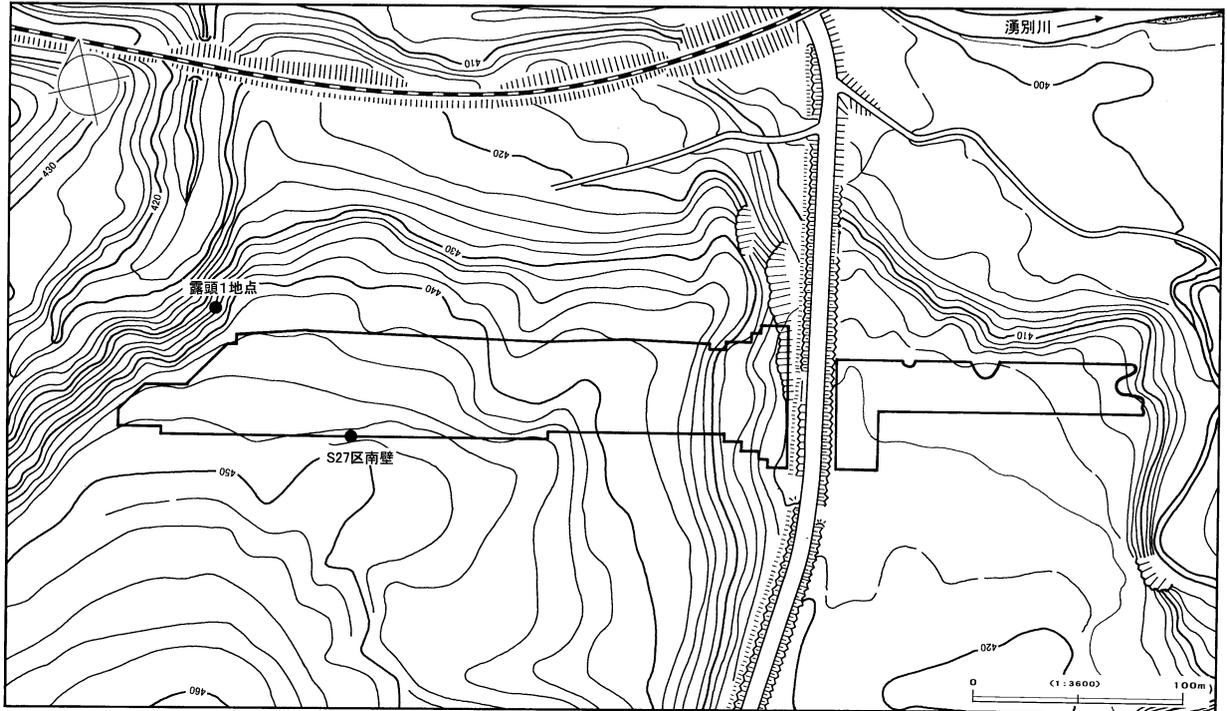
#### (3) 堆積層の検討

##### (ア) 分析方法および試料の選択

堆積層の特徴は、堆積構造や碎屑物の種類とその構成比など様々な捉え方があるが、ここでは特に分層の基準となっている堆積層の粒度について、それを数値化した粒度分布を求める。また、堆積環境を示唆する珪藻化石の産状についても調べる。S27 区南壁において対象とする試料は、両分析ともに同一試料の 15 点であるが、上白滝 8 遺跡露頭 1 地点から採取した白滝層の試料 1 点については、珪藻分析のみを行う。以下に各分析方法を述べる。

##### (a) 粒度分析

碎屑性堆積物研究会（1983）の方法を参考に、礫・砂粒子画分はふるい分け法、シルト・粘土粒子画分はピペット法で行った。また、粒径区分は、Wentworth（1922）に従った。以下に分析方法を示す。



図VII-2 上白滝8遺跡サンプル採取地点と各地点の柱状図

表Ⅶ-3 上白滝8遺跡S27区南壁の粒度分析結果

層名	試料番号	礫 2.00mm<	極粗粒砂 2.00~ 1.00mm	粗粒砂 1.00~ 0.50mm	中粒砂 0.50~ 0.25mm	細粒砂 0.25~ 0.125mm	極細粒砂 0.125~ 0.063mm	シルト 0.063~ 0.0039mm	粘土 0.0039mm>
Ⅱ a	3	2.3	1.0	3.5	4.4	6.5	9.0	42.5	30.8
	5	0.5	1.2	3.5	4.7	6.3	7.1	41.3	35.5
Ⅱ b	6	0.2	0.5	2.7	4.2	5.4	6.4	41.9	38.7
	8	1.4	0.9	3.6	5.2	6.5	6.4	37.3	38.6
Ⅱ c	10	3.2	2.2	5.5	5.0	7.6	7.4	35.0	34.0
	12	0.9	0.9	3.6	5.9	8.3	7.0	35.5	38.0
Ⅲ	14	1.4	1.9	4.2	6.1	8.8	6.0	34.5	37.0
	16	0.3	0.8	2.5	3.7	6.0	8.0	44.1	34.7
斜面堆積	19	0.9	0.3	4.2	16.8	31.1	12.1	17.1	17.5
	23	5.7	0.9	2.4	3.4	4.6	4.7	31.1	47.2
	26	13.2	0.8	2.1	2.2	2.8	3.8	27.8	47.3
	29	16.4	4.4	8.5	7.7	6.6	4.9	13.8	37.7
	31	3.3	4.1	9.1	11.6	10.9	5.7	11.6	43.8
	34	13.2	0.5	3.6	10.8	12.2	7.9	18.6	33.2
段丘礫層	35	61.4	3.4	6.3	4.5	2.6	1.5	5.8	14.5

表Ⅶ-4 上白滝8遺跡S27区南壁の粒度分析評価結果

層名	試料番号	Md (中央値)	Mz (平均値)	Mo (最頻値)	Sk (歪度)	σ (分級度)	Kg (尖度)
Ⅱ a	3	7.53 φ (0.005mm) (シルト)	6.77 φ (0.009mm) (シルト)	7.64 φ (0.005mm) (シルト)	-0.28負の歪み	3.21非常に悪い	1.57非常に突出
	5	7.64 φ (0.005mm) (シルト)	7.01 φ (0.008mm) (シルト)	7.64 φ (0.005mm) (シルト)	-0.21負の歪み	3.26非常に悪い	1.66非常に突出
Ⅱ b	6	7.71 φ (0.005mm) (シルト)	7.63 φ (0.005mm) (シルト)	7.64 φ (0.005mm) (シルト)	-0.06ほぼ対称	2.88非常に悪い	1.72非常に突出
	8	7.69 φ (0.005mm) (シルト)	7.01 φ (0.008mm) (シルト)	7.64 φ (0.005mm) (シルト)	-0.20負の歪み	3.46非常に悪い	1.56非常に突出
Ⅱ c	10	7.54 φ (0.005mm) (シルト)	6.62 φ (0.010mm) (シルト)	7.64 φ (0.005mm) (シルト)	-0.29負の歪み	3.65非常に悪い	1.08中間的
	12	7.66 φ (0.005mm) (シルト)	6.93 φ (0.008mm) (シルト)	7.64 φ (0.005mm) (シルト)	-0.21負の歪み	3.45非常に悪い	1.31突出
Ⅲ	14	7.62 φ (0.005mm) (シルト)	6.80 φ (0.009mm) (シルト)	7.64 φ (0.005mm) (シルト)	-0.24負の歪み	3.58非常に悪い	1.16突出
	16	7.64 φ (0.005mm) (シルト)	7.40 φ (0.006mm) (シルト)	7.64 φ (0.005mm) (シルト)	-0.12負の歪み	2.83非常に悪い	1.71非常に突出
斜面堆積	19	3.39 φ (0.096mm) (細粒砂)	4.62 φ (0.041mm) (シルト)	2.99 φ (0.126mm) (細粒砂)	0.60著しい正	2.92非常に悪い	0.77偏平
	23	7.91 φ (0.004mm) (シルト)	7.25 φ (0.007mm) (シルト)	7.64 φ (0.005mm) (シルト)	-0.23負の歪み	3.98非常に悪い	1.82非常に突出
	26	7.91 φ (0.004mm) (シルト)	6.64 φ (0.010mm) (シルト)	7.64 φ (0.005mm) (シルト)	-0.31著しい負	4.49極めて悪い	1.63非常に突出
	29	6.49 φ (0.011mm) (シルト)	5.38 φ (0.024mm) (シルト)	-0.66 φ (1.585mm) (粗粒砂)	-0.20負の歪み	4.72極めて悪い	0.68偏平
	31	7.59 φ (0.005mm) (シルト)	6.51 φ (0.011mm) (シルト)	7.97 φ (0.004mm) (シルト)	-0.25負の歪み	4.28極めて悪い	0.75偏平
	34	6.36 φ (0.012mm) (シルト)	5.85 φ (0.017mm) (シルト)	-0.66 φ (1.585mm) (粗粒砂)	-0.14負の歪み	4.13極めて悪い	0.81偏平
段丘礫層	35	-0.60 φ (1.518mm) (粗粒砂)	2.11 φ (0.232mm) (細粒砂)	-0.66 φ (1.585mm) (粗粒砂)	0.94著しい正	3.90非常に悪い	1.50非常に突出

注) 評価は Folk&Ward (1957) による

試料を風乾して 2 mm φ 篩でふるい分ける。2 mm φ 篩上粒子は水洗して重量を測定する。一方、2 mm φ 篩下粒子は 40.00g をビーカーに秤量し、蒸留水と 30% 過酸化水素水を加え、熱板上で有機物分解を行う。分解終了後、蒸留水と分散剤 (4% カルゴン) を加え、攪拌しながら 30 分間音波処理を行う。沈底瓶にこの懸濁液を移し、往復振とう機で 1 時間振とうする。振とう終了後、水で全量を 1,000ml にする。この沈底瓶を 1 分間手で激しく振り、直ちに静置する。ピペット法に準じて、所定時間に所定深度から粘土・シルト画分 (0.063mm>)、粘土画分 (0.0039mm>) を 10ml 採取し、105℃ で 24 時間乾燥させた後、重量を測定し加積通過率 (質量%) を求める。ピペット法終了後、懸濁液を 63 μ m 篩で水洗いする。63 μ m 篩残留物を 105℃ で 5 時間熱乾後、1.0、0.5、0.25、0.125mm φ 篩

でふるい分け、各篩毎に篩上残留物の質量を測定し、加積通過率（質量%）を求める。ピペット法およびふるい分けで求められる加積通過率（質量%）から粒径加積曲線を描き、Wentworth（1922）の粒径区分毎の質量を算出する。

#### (b) 珪藻分析

試料を湿重で約70～80 g 秤量し、過酸化水素水、塩酸処理、自然沈降法の順に物理化学処理を施して、珪藻化石を濃集する。検鏡に適する濃度まで希釈した後、カバーガラス上に滴下し、乾燥させる。乾燥後、プリユラックスで封入して、永久プレパラートを作製する。検鏡は、光学顕微鏡で油浸600倍あるいは1000倍で行い、メカニカルステージで任意の視野を走査し珪藻殻が半分以上残存するものを対象に、200個体以上同定・計数する。同定は、K.Krammer（1992）、K.Krammer and Lange-Bertalot（1986・1988・1991a・1991b）などを参考とする。

同定結果は、海水生種、海水～汽水生種、淡水生種順に並べ、その中の各種類はアルファベット順に並べた一覧表で示す。なお、淡水生種についてはさらに細かく生態区分し、塩分・水素イオン濃度（pH）・流水に対する適応能についても示す。また、環境指標種に相当する種については、その内容を示す。

#### (イ) 結果

##### (a) 粒度分析

粒度分析結果を表Ⅶ-3に、Folk & Ward（1957）による評価結果を表Ⅶ-4に示す。また、図Ⅶ-3・4に粒径加積曲線および粒径別の頻度を示す。

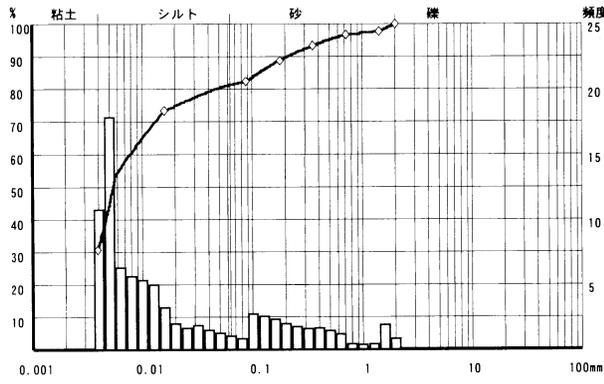
試料番号3～19は平均値（Mz）から全てシルトに区分されるが、中央値（Md）、最頻値（Mo）からは試料番号19が細粒砂に区分される。各堆積物の分級度（ $\sigma$ ）は、非常に悪い。歪度（Sk）が試料番号19において著しく正に片寄っているほかは、全て負に片寄っていることから、本堆積層は主として細粒堆積物から構成されていることが指摘される。尖度（Kg）は試料番号19において偏平であるが、そのほかは突出している。

試料番号23～34は、平均値（Mz）からはシルトに、試料番号35は細粒砂に区分されるが、中央値（Md）からは試料番号35が粗粒砂に、また最頻値（Mo）からは試料番号29、34、35が粗粒砂に区分される。各堆積物の分級度（ $\sigma$ ）は試料番号23、35において非常に悪く、試料番号26から34において極めて悪いものとなっている。歪度（Sk）が試料番号35において著しく正に片寄っているほかは、全て負に片寄っていることから、本堆積層は主として細粒堆積物から構成されていることが指摘される。尖度（Kg）は試料番号23、26、35において非常に突出しているが、そのほかは偏平である。

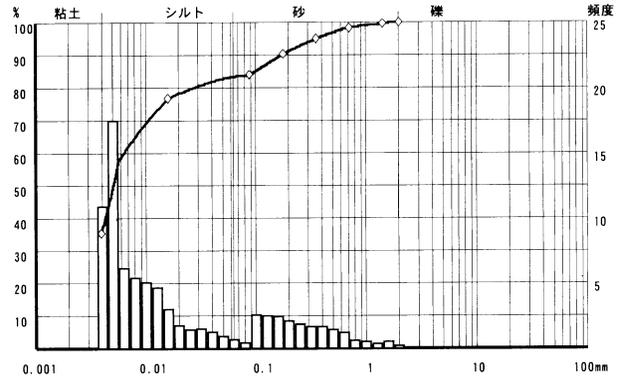
これら堆積物の特徴により、各堆積物の粒径加積曲線は試料番号3～16の粘土含量が30～50%の堆積物で、対数曲線に類似した加積曲線を描くグループ、および試料番号19の粘土含量が20%以下と低く、砂画分、特に細粒砂画分において急激に傾きが大きくなるグループ、試料番号23、26の粘土含量が50%前後の堆積物で、対数曲線に類似した加積曲線を描くグループ、試料番号29、31、34の粘土含量が40%前後、砂画分において急激に傾きが大きくなるグループ、および試料番号35の粘土・シルト・砂含量が極めて低く、礫画分において急激に傾きが大きくなるグループに大きく分類される。

##### (b) 珪藻分析

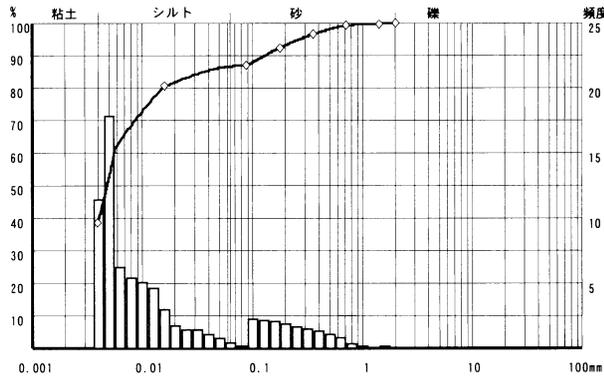
結果を表Ⅶ-5、図Ⅶ-5に示す。S27区南壁は、何れの試料も珪藻化石の産出が少ない。一方、露頭1地点の白滝層（試料番号12）は、完形殻の出現率が約90%と極めて高い。淡水浮遊性の *Melosira cf. longispina* が約70%と優占し、その変種の *Melosira cf. longispina var. tenuis*、同じ生態性の



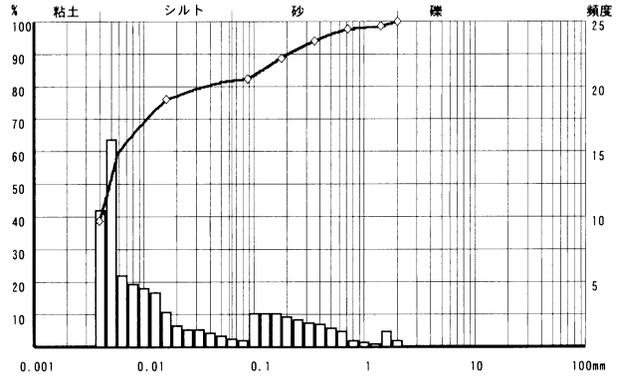
Ⅱ a層 試料番号3



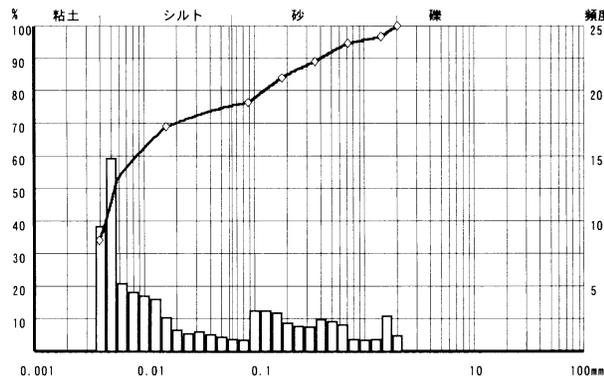
Ⅱ a層 試料番号5



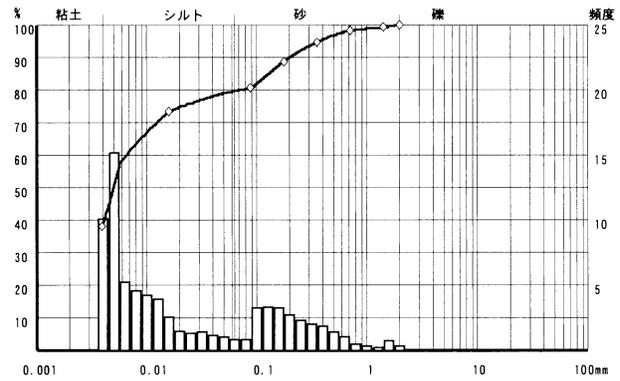
Ⅱ a層 試料番号6



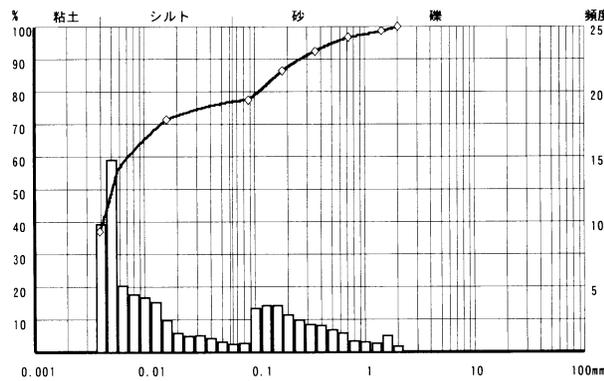
Ⅱ a層 試料番号8



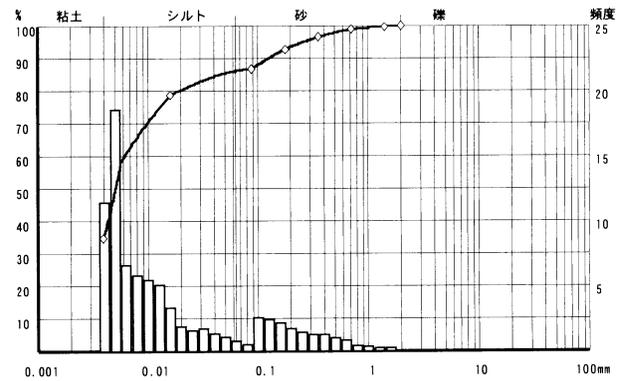
Ⅱ c層 試料番号10



Ⅱ c層 試料番号12



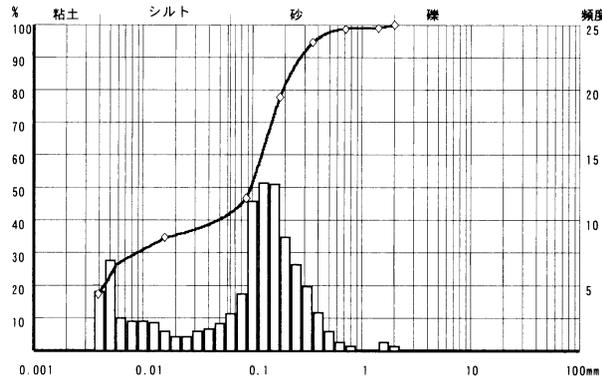
Ⅲ層 試料番号14



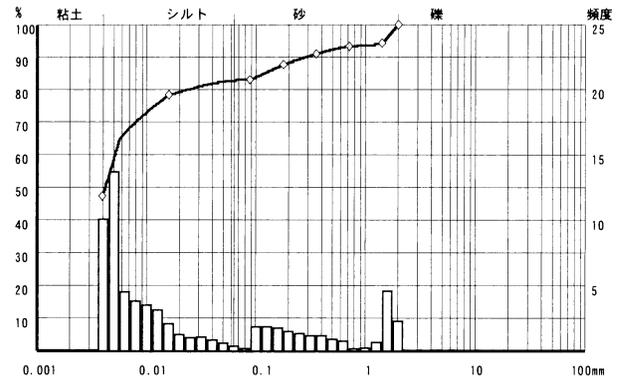
Ⅲ層 試料番号16

図Ⅶ-3 上白滝8遺跡 S27区南壁の粒径加積曲線(1)

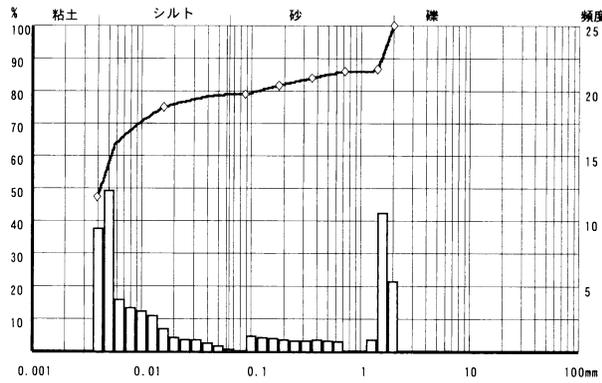
3 上白滝8遺跡の堆積層・古植生の検討



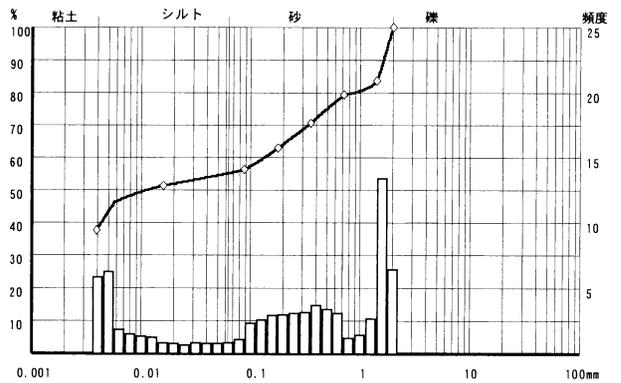
斜面堆積層 試料番号19



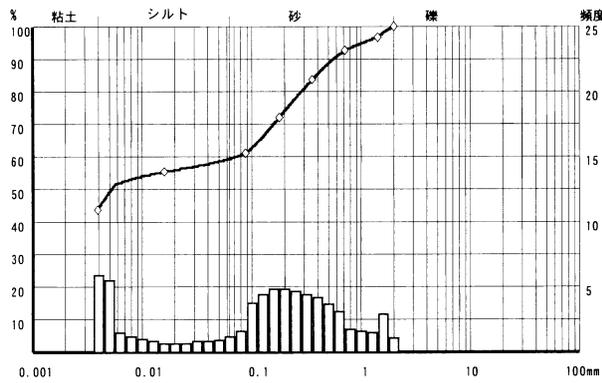
斜面堆積層 試料番号23



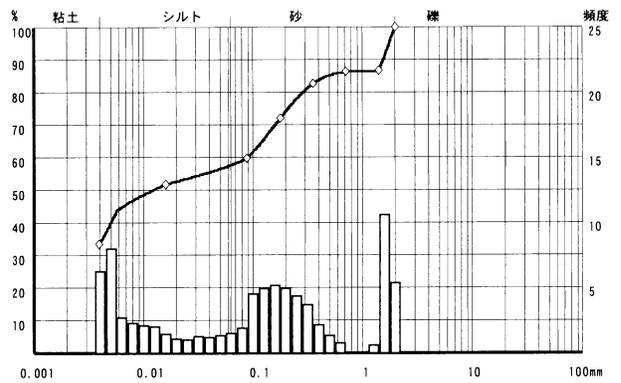
斜面堆積層 試料番号26



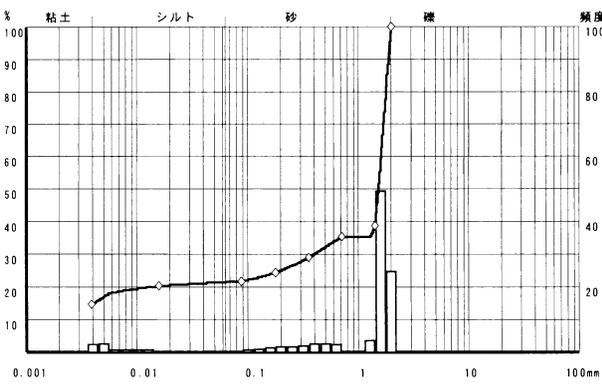
斜面堆積層 試料番号29



斜面堆積層 試料番号31

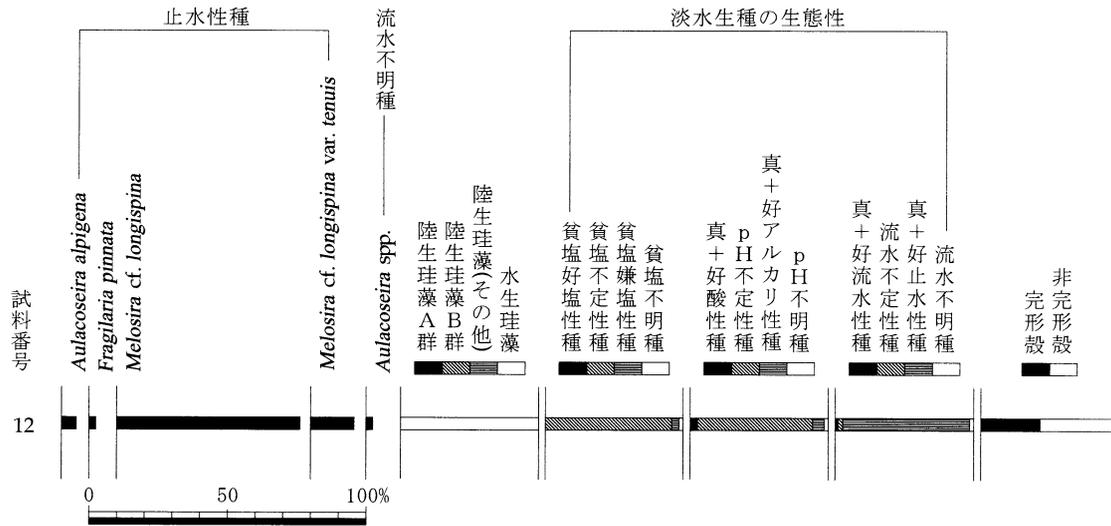


斜面堆積層 試料番号34



斜面堆積層 試料番号35

図Ⅶ-4 上白滝8遺跡 S27区南壁の粒径加積曲線(2)



淡水水生種産出率・各種産出率・完形殻産出率は全体基数、淡水水生種の生態性の比率は淡水水生種の合計を基数として百分率で算出した。

図Ⅶ-5 上白滝8遺跡露頭1地点の主要珪藻化石群集

表Ⅶ-5 上白滝8遺跡各地点の珪藻分析結果

種 類	生 態 性			環 境 指 標 種	上白滝8 S27区南壁												露頭12			
	塩分	pH	流水		3	5	6	8	10	12	14	16	19	23	26	29		31	34	35
Achnanthes clevei Grunow	Ogh-ind	al-il	l-ph	T	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
Amphora pediculus (Kuetz.) Grunow	Ogh-ind	al-bi	ind	T	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
Aulacoseira alpigena (Grun.) Krammer	Ogh-hob	ac-il	l-bi	N,U	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11
Aulacoseira italica var. valida (Grun.) Simonsen	Ogh-ind	al-il	l-ph		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
Aulacoseira spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
Cocconeis placentula (Ehr.) Cleve	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
Cydothecium dubius (Fricke) Round	Ogh-ind	al-bi	l-bi		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
Cymbella silesiaca Bleisch	Ogh-ind	ind	ind	T	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
Cymbella sinuata Gregory	Ogh-ind	ind	r-ph	K,T	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
Cymbella turgidula var. nipponica Skvortzow	Ogh-ind	al-il	r-ph	T	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
Fragilaria lapponica Grunow	Ogh-ind	al-il	ind		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
Fragilaria parasitica (W.Smith) Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
Fragilaria pinnata Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	l-ph	S	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
Fragilaria spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
Melosira cf. longispina Hustedt	Ogh-ind	ind	l-bi		-	-	-	-	-	-	-	2	1	-	5	-	-	-	-	135
Melosira cf. longispina var. tenuis Hustedt	Ogh-ind	ind	l-bi		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	32
Navicula contenta Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	RA,T	-	-	-	-	-	-	-	2	1	-	-	-	-	-	-	-
Orthoseira roeseana (Rabh.) O'Meara	Ogh-ind	ind	ind	RA	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
Pinnularia borealis Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind	RA	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-
海水生種合計					0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
海水-汽水生種合計					0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
汽水生種合計					0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
淡水-汽水生種合計					0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
淡水生種合計					0	0	0	0	0	0	0	7	3	0	5	0	0	0	0	204
珪藻化石総数					0	0	0	0	0	0	0	7	3	0	5	0	0	0	0	204

凡例

- |                   |                    |                 |   |
|-------------------|--------------------|-----------------|---|
| H.R.: 塩分濃度に対する適応性 | pH: 水素イオン濃度に対する適応性 | C.R.: 流水に対する適応性 | 環境指標種   |
| Ogh-ind: 貧塩不定性種   | al-bi: 真アルカリ性種     | l-bi: 真止水性種     | K: 中～下流性河川指標種 N: 湖沼沼沢湿地指標種 (以上は安藤, 1990)                      |
| Ogh-hob: 貧塩嫌塩性種   | al-il: 好アルカリ性種     | l-ph: 好止水性種     | S: 好汚濁性種 U: 広適応性種 T: 好清水性種 (以上は Asai, K. & Watanabe, T. 1995) |
| Ogh-unk: 貧塩不明種    | ind: pH不定性種        | ind: 流水不定性種     | R: 陸生珪藻 (RA: A群, RB: B群, RI: 未区分陸生珪藻、伊藤・堀内, 1991)             |
|                   | ac-il: 好酸性種        | r-ph: 好流水性種     |   |
|                   | unk: pH不明種         | unk: 流水不明種      |   |

*Aulacoseira alpigena* が多産することを特徴とする。優占種の *Melosira cf. longispina* は、その種小名の示すとおり長い棘を持つ珪藻で、1943年フステット氏によって中禅寺湖で新種記載されたもの、その変種の *Melosira cf. longispina var. tenuis* も基本種と同様に湯の湖から記載されたものである

(小島・小林, 1976)。本種は、小島・小林 (1976) も指摘しているように日光付近でしか見つかっていない種であり、今回の出現は本種の分布を考える上で重要な発見と言える。

なお、すでに報告した上白滝5遺跡では、場所によってⅡb層とⅢ層との間に灰白色粘土層が挟まれているが、この灰白色粘土層の下部からは、*Melosira cf. longispina* と *Melosira cf. longispina* var. *tenuis* が多産した (パリノ・サーヴェイ, 2002)。この灰白色粘土層下部は、周囲の状況から、白滝層の再堆積物であると考えたが、今回の分析結果は、それを支持するものとなった。

#### (ウ) 考察

段丘を構成する堆積層については、白滝団体研究会 (1963) により、段丘の地形を構成する段丘砂礫層と、その上位に堆積する段丘上細粒堆積物とに分けられている。段丘上細粒堆積物は、湧別川の洪水性堆積物と段丘背後に広がる緩斜面からの solifluction (凍結融解作用による斜面堆積物の緩慢な流動) による碎屑物とが混在し、段丘形成後現在に至るかなり長期にわたって形成された堆積物と考えられている。

S27区南壁では、粒径組成により、1) 粘土含量の比較的高いⅡa層からⅢ層までの層位、2) 試料番号19の砂層、3) 粘土含量の比較的高い、礫を含む砂層上部 (試料番号20~27)、4) 粘土含量のやや低い、礫を含む砂層下部 (試料番号28~34)、5) 最下位の砂礫層 (試料番号35) に分類できた。これらのうち、基本的にシルトに区分される1) から4) までの層位が、上記の段丘上細粒堆積物に対比されると考えられる。特に3) と4) の層位における試料の粒径組成は、融解時に水で飽和した細粒物質 (粘土) の堆積とその流れによって斜面上を移動した粗粒碎屑物 (礫) とから構成されることを示唆しており、上記のソリフラクションによる段丘上細粒堆積物の形成過程をよく反映していると考えられる。

また、その形成過程は1) から4) までの4段階に細分されること、そのうちの2) については洪水性堆積物の可能性があることが、本地点における特徴であると言える。これまでに、同じ地形面に対比される段丘上に位置する上白滝2遺跡や奥白滝1遺跡においても、段丘上に堆積する土壤層について粒度分析による記載を行ったが、その層位的な特徴などは、それぞれ本地点とは異なる様相を呈している (パリノ・サーヴェイ, 2001・2002)。現時点では、上白滝8遺跡S27区南壁付近における段丘上細粒堆積物形成時の各段階の年代観と環境がどのように変化したかは不明であるが、段丘上細粒堆積物の形成過程は、平面的な位置の違いによりそれぞれ異なっていた可能性がある。

### (4) 古植生について

#### (ア) 分析方法および試料の選択

ここでは古植生を推定する方法として、堆積物中に含まれる花粉化石と植物珪酸体の産状を調べる。花粉分析試料は6点、植物珪酸体分析試料は9点の試料を選択する。以下に、各分析方法を述べる。

#### (a) 花粉分析

試料約10gについて、水酸化カリウムによる泥化、篩別、重液 (臭化亜鉛：比重2.3) による有機物の分離、フッ化水素酸による鉱物質の除去、アセトリシス処理 (無水酢酸：濃硫酸 = 9 : 1) の順に物理・化学的処理を施し、花粉化石を濃集する。残渣をグリセリンで封入してプレパラートを作製し、光学顕微鏡下でプレパラート全面を操作し、出現する全ての種類について同定・計数する。結果は、同定・計数結果の一覧表として示す。なお、表中で複数の種類をハイフオンで結んだものは、種類間の区別が困難なものである。

(b) 植物珪酸体分析

湿重 5 g 前後の試料について、過酸化水素水・塩酸処理、超音波処理 (70W, 250KHz, 1 分間)、沈定法、重液分離法 (ポリタングステン酸ナトリウム, 比重2.5) の順に物理・化学処理を行い、植物珪酸体を分離・濃集する。これを検鏡し易い濃度に希釈し、カバーガラス上に滴下・乾燥させる。乾燥後、プリユラックスで封入しプレパラートを作製する。400倍の光学顕微鏡下で全面を走査し、その間に出現するイネ科葉部 (葉身と葉鞘) の葉部短細胞に由来した植物珪酸体 (以下、短細胞珪酸体と呼ぶ) および葉身機動細胞に由来した植物珪酸体 (以下、機動細胞珪酸体と呼ぶ) を、近藤・佐瀬 (1986) の分類に基づいて同定・計数する。結果は、検出される種類とその検出個数の一覧表で示す。

(イ) 結果

(a) 花粉分析

結果を表Ⅶ-6 に示す。いずれの試料も検出個体数が少ない。また、検出される花粉化石は、全体的に保存状態が悪く、外膜が溶けて薄くなり壊れている。

(b) 植物珪酸体

結果を表Ⅶ-7 に示す。各試料からは植物珪酸体が検出されるものの、検出個数が少ない試料も多く、保存状態も悪い。Ⅱ b 層からⅢ層およびその下位の土層 (試料番号 6~23) でクマザサ属などがわずかに認められるに過ぎない。また、Ⅱ a 層の試料番号 5~3 では、クマザサ属の機動細胞珪酸体の産出が目立つ。

表Ⅶ-6 上白滝 8 遺跡 S27区南壁の花粉分析結果

種 類	試料番号	上白滝 8 S27区南壁					
		3	5	6	8	10	14
木本花粉							
モミ属		3	-	-	-	-	-
トウヒ属		7	-	-	-	-	-
マツ属		3	-	-	-	-	-
シナノキ属		-	1	-	-	-	-
草本花粉							
イネ科		1	-	-	-	-	-
シダ類胞子							
シダ類胞子		163	4	4	-	-	-
合 計							
木本花粉		13	1	0	0	0	0
草本花粉		1	0	0	0	0	0
不明花粉		0	0	0	0	0	0
シダ類胞子		163	4	4	0	0	0
総計 (不明を除く)		177	5	4	0	0	0

(ウ) 考察

今回の試料では、花粉化石がほとんど検出されなかった。また、前述のように、段丘上の細粒堆積物の堆積過程を考慮すると、誘導化石が含まれている可能性もある。したがって、今回の結果からは、当時の森林植生について検討することができない。

一方、植物珪酸体分析結果でも、各地点のⅡ b 層以深の堆積層が形成される過程で生育していた草本類について検討す

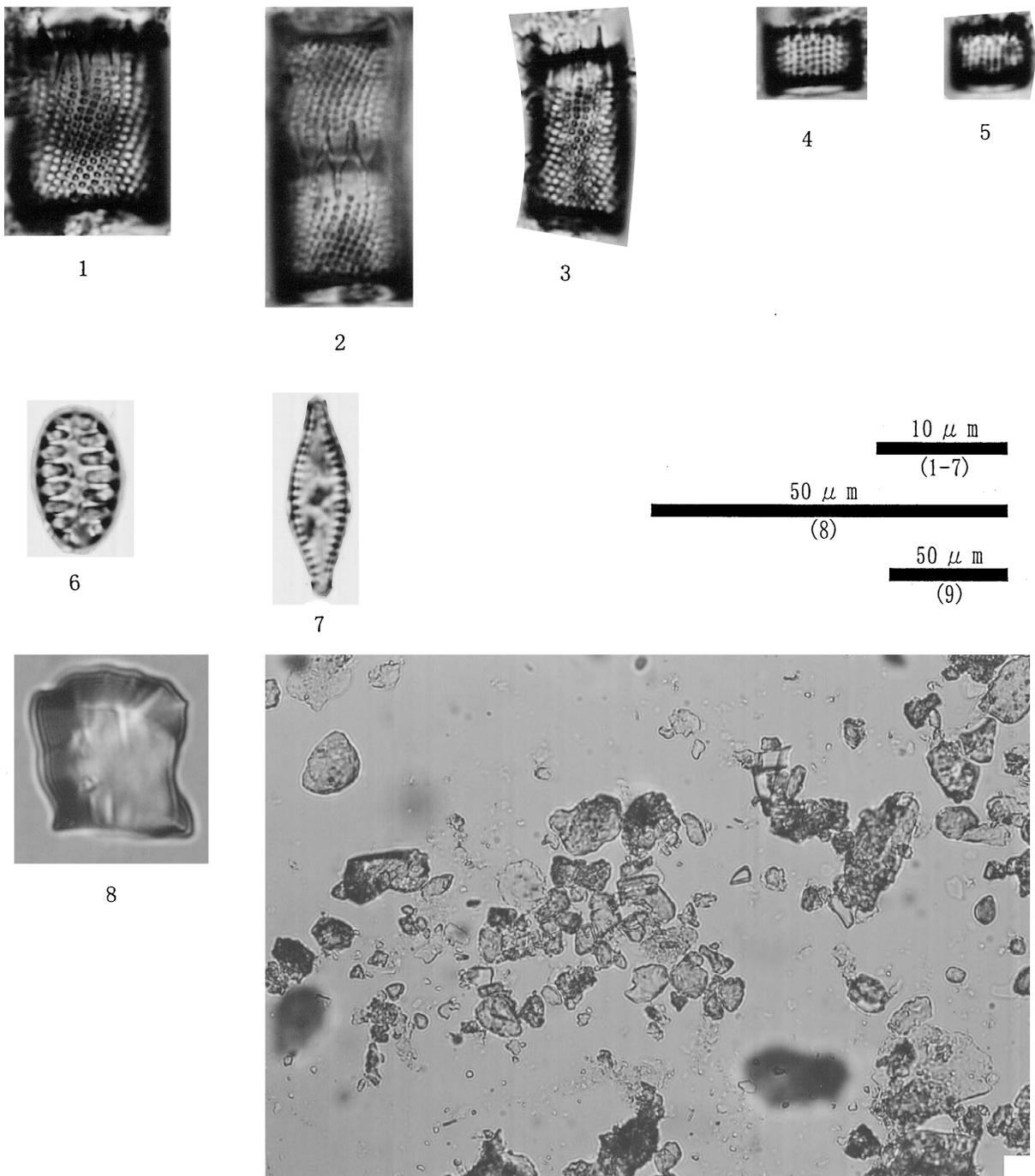
表Ⅶ-7 上白滝 8 遺跡 S27区南壁の植物珪酸体分析結果

種 類	試料番号	上白滝 8 S27区南壁								
		3	5	6	8	10	12	14	16	23
イネ科葉部短細胞珪酸体										
タケ亜科クマザサ属		59	37	1	7	6	12	5	-	-
イチゴツナギ亜科		1	-	-	2	1	-	3	-	-
不明キビ型		-	-	-	1	-	-	-	-	-
不明ヒゲシバ型		-	-	-	1	-	-	-	-	-
不明ダンチク型		-	-	-	1	1	-	-	-	-
イネ科葉身機動細胞珪酸体										
タケ亜科クマザサ属		316	224	1	44	7	15	19	4	-
不明		-	-	-	-	-	-	-	-	-
合 計										
イネ科葉部短細胞珪酸体		60	37	1	12	8	12	8	0	0
イネ科葉身機動細胞珪酸体		316	224	1	44	7	15	19	4	0
総 計		376	261	2	56	15	27	27	4	0

ることは難しい。しかし、少なくとも検出されたクマザサ属などのタケ亜科が生育していた可能性はある。II a層が形成される過程では、クマザサ属が林床の下草として繁茂し、イチゴツナギ亜科などが生育していたと考えられる。クマザサ属には、クマザサやチシマザサ、チマキザサなどが含まれる。これらは、亜高山帯針葉樹林では多くみられ、疎林な場所の林床や、林の間の開けた空間などに群生する。今回検出されたクマザサ属もこうした植生に由来すると考えられる。

## 引用文献

- 安藤一男 (1990) 淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用. 東北地理, 42, p.73-88.
- Asai, K. and Watanabe, T. (1995) Statistic Classification of Epilithic Diatom Species into Three Ecological Groups relating to Organic Water Pollution (2) Saprophilous and saproxenous taxa. Diatom, 10, 35-47.
- Fork, R.L. and Ward, W. (1957) Brazons river bara study in the significance of grain size parameters. J.Sed.Petrol., 27, p3-26.
- 平川一臣・中村有吾・石川 守 (2000) 北海道白滝遺跡と周辺地域のテフラ層序と地形環境. (財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書 第140集 白滝遺跡群I 白滝村上白滝7遺跡 一般国道450号白滝村道路改良工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書, p.235-249, (財)北海道埋蔵文化財センター.
- 伊藤良永・堀内誠示 (1991) 陸生珪藻の現在に於ける分布と古環境解析への応用. 珪藻学会誌, 6, p.23-45.
- 小島貞男・小林 弘 (1976) 素顔の水処理微生物 (34) ケイソウ植物⑧. 「水」臨時増刊号, 素顔の水処理微生物 総集版I, 月刊「水」発行所, p.68-69.
- 近藤鎌三・佐瀬 隆 (1986) 植物珪酸体分析, その特性と応用. 第四紀研究, 25, p.31-64.
- Krammer, K. and Lange-Bertalot, H. (1986) Bacillariophyceae, Teil 1, Naviculaceae. Band 2/1 von: Die Suesswasserflora von Mitteleuropa, 876p., Gustav Fischer Verlag.
- Krammer, K. and Lange-Bertalot, H. (1988) Bacillariophyceae, Teil 2, Epithemiaceae, Bacillariaceae, Surirellaceae. Band 2/2 von: Die Suesswasserflora von Mitteleuropa, 536p., Gustav Fischer Verlag.
- Krammer, K. and Lange-Bertalot, H. (1991a) Bacillariophyceae, Teil 3, Centrales, Fragilariaceae, Eunotiaceae. Band 2/3 von: Die Suesswasserflora von Mitteleuropa, 230p., Gustav Fischer Verlag.
- Krammer, K. and Lange-Bertalot, H. (1991b) Bacillariophyceae, Teil 4, Achnantheaceae, Kritische Ergaenzungen zu Navicula (Lineolatae) und Gomphonema. Band 2/4 von: Die Suesswasserflora von Mitteleuropa, 248p., Gustav Fischer Verlag.
- Krammer, K. (1992) PINNULARIA, eine Monographie der europäischen Taxa. BIBLIOTHECA DIATOMOLOGICA BAND 26. p.1-353. BERLIN-STUTTGART.
- Lange-Bertalot, H. unter Mitarbeit von A. Steindorf (1995) Rote Liste der Kieselalgen (Bacillariophyceae) Deutschlands. Schr.-R.f. Vegetationskde. H. 28 000-000 BfN, Bonn-Bad Godesberg p.1-31.
- Lange-Bertalot, H. and D. Metzeltin (1996) Oligotrophie-Indikatoren. 800 Taxa representativ fur drei diverse Seen-Typen. Iconographia Diatomologica 2. Koeltz.-Koenigstein.
- Lange-Bertalot, H., K. Kulbs, T. Lauser, M. Noerpel-Schempp and M. Willmann (1996) Dokumentation und Revision der von G. Krasske beschriebenen Taxa. Iconographia Diatomologica 3. Koeltz.-Koenigstein.
- Metzeltin, D. and A. Witkowski (1996) Diatomeen der Baren-Insel. Suesswasser- und marine Arten. Iconographia Diatomologica 4. Koeltz.-Koenigstein.
- 中村有吾・平川一臣 (1998) 北海道・白滝遺跡周辺のテフラ層序と地形環境. 日本地理学会 発表要旨集, No.54, p.162-163.
- バリノ・サーヴェイ株式会社 (2001) 上白滝2遺跡の堆積層・古植生の検討. (財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書 第154集 白滝遺跡群II 一般国道450号白滝村道路改良工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書, p.203-222, (財)北海道埋蔵文化財センター.
- バリノ・サーヴェイ株式会社 (2002) 奥白滝1・上白滝5遺跡における堆積層・古植生の検討. (財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書 第169集 白滝遺跡群III 一般国道450号白滝村道路改良工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書, p.265-288, (財)北海道埋蔵文化財センター.
- Powers, M.C. (1953) A new roundness scale for sedimentary particles. J.Sed.Petrol., 23, p117-119.
- Reichardt, E. (1995) Die Diatomeen (Bacillariophyceae) in Ehrenbergs Material von Cayenne, Guyana Gallica (1843). Iconographia Diatomologica 1. Koeltz.-Koenigstein.
- 碎屑性堆積物研究会編 (1983) 「地学双書24 堆積物の研究法」, 377p. 地学団体研究会.
- 白滝団体研究会 (1963) 白滝遺跡の研究. 71p, 地学団体研究会.
- 徳永重元・山内輝子 (1971) 花粉・胞子. 「化石の研究法」, 化石研究会編, p.50-73, 共立出版株式会社.
- Wentworth, C.K. (1922) A scale of grade and class terms for clasticsediments. J.Geol, 30, p.377-392.



1. *Melosira* cf. *longispina* Hustedt (露頭1地点;12)
2. *Melosira* cf. *longispina* Hustedt (露頭1地点;12)
3. *Melosira* cf. *longispina* Hustedt (露頭1地点;12)
4. *Aulacoseira alpigena* (Grun.)Krammer (露頭1地点;12)
5. *Aulacoseira alpigena* (Grun.)Krammer (露頭1地点;12)
6. *Fragilaria pinnata* Ehrenberg (露頭1地点;12)
7. *Fragilaria parasitica* (W. Smith)Grunow (露頭1地点;12)
8. クマザサ属短細胞珪酸体 (南壁深掘;3)
9. 状況写真 (鉱物粒子が散在) (南壁深掘;12)

図Ⅶ-6 珪藻化石・植物珪酸体

## 4 上白滝8・上白滝6 遺跡出土の黒曜石製石器の 原材産地分析および非破壊分析による水和層の測定

藁科 哲男

(京都大学原子炉実験所)

### (1) はじめに

石器石材の産地を自然科学的手法を用いて、客観的に、かつ定量的に推定し、古代の交流、交易および文化圏、交易圏を探ると言う目的で、蛍光X線分析法によりサヌカイトおよび黒曜石製遺物の石材産地推定を行っている<sup>1, 2, 3)</sup>。石材移動を証明するには必要条件と十分条件を満たす必要がある。地質時代に自然の力で移動した岩石の出発露頭を元素分析で求めるとき、移動原石と露頭原石の組成が一致すれば必要条件を満たし、その露頭からの流れたルートを地形学などで証明できれば、他の露頭から原石が流れて来ないことが証明されて、十分条件を満たし、ただ1カ所の一致する露頭産地の調査のみで移動原石の産地が特定できる。遺物の産地分析では『遺物とある産地の原石組成が一致する必要はあるが、他の産地の原石にも一致する可能性が残っているから、その産地のものと言い切れない。従って、他の産地に一致しない証明も同時に必要である。一致しなかった産地との交流がなかったと証明され、考古学資料として非常に有用と思われる』。考古学では、人工品の様式が一致するという結果が非常に重要な意味があり、見える様式としての形態、文様、見えない様式として土器、青銅器、ガラスなどの人手が加わった調合素材があり一致するということは古代人が意識して一致させた可能性があり、一致するということは、古代人の思考が一致すると考えてもよく、相互関係を調査する重要な意味をもつ結果である。石器の様式による分類ではなく、自然の法則で決定した石材の元素組成を指標にした分類では、例えば石材産地が遺跡から近い、移動キャンプ地のルート上に位置する、産地地方との交流を示す土器が出土しているなどを十分条件の代用にすると産地分析は中途半端な結果となり、遠距離伝播した石材を近くの産地と誤判定する可能性がある。人が移動させた石器の元素組成とA産地原石の組成が一致し、必要条件を満足しても、原材産地と出土遺跡の間に地質的関連性がないため、十分条件の移動ルートを自然の法則に従って地形学で証明できず、その石器原材がA産地の原石と決定することができない。従って、石器原材と産地原石が一致したことが、直ちに考古学の資料とならない、確かにA産地との交流で伝播した可能性は否定できなくなったが、B、C、Dの産地でないと証拠がないために、A産地だと言い切れない。B産地と一致しなかった場合、結果は考古学の資料として非常に有用である。それは石器に関してはB産地と交流がなかったと言い切れる。ここで、十分条件として、可能なかぎり地球上の全ての原産地(A、B、C、D・・・)の原石群と比較して、A産地以外の産地とは一致しないことを十分条件として証明すれば、石器がA産地の原石と決定することができる。この十分条件を肉眼観察で求めることは分類基準が混乱し不可能であると思われる。また、自然科学的分析を用いても、全ての産地が区別できるかは、それぞれが使用している産地分析法によって、それぞれ異なり実際に行ってみなければ分からない。産地分析の結果の信頼性は何ヶ所の原材産地の原石と客観的に比較して得られたかにより、比較した産地が少なければ、信頼性の低い結果と言える。黒曜石、安山岩などの主成分組成は、原産地ごとに大きな差はみられないが、不純物として含有される微量成分組成には異同があると考えられるため、微量成分を中心に元素分析を行い、これを産地を特定する指標とした。分類の指標とする元素組成を遺物について求め、あらかじめ、各原産地ごとに数十個の原石を分析して求めておいた各原石群の元素組成の平均値、分散などと遺物のそれを対比して、各平均値からの離れ具合(マハラノビスの距離)を求める。次に、古代人が採取した原石産出地点と現代人が分析のために採取した原石産出地点と異なる地点の可

能性は十分に考えられる。従って、分析した有限個の原石から産地全体の無限の個数の平均値と分散を推測して判定を行うホテリングのT<sup>2</sup>乗検定を行う。この検定を全ての産地について行い、ある原石遺物原材と同じ成分組成の原石はA産地では10個中に一個みられ、B産地では一万個中に一個、C産地では百万個中に一個、D産地では・・・一個と各産地毎に求められるような、客観的な検定結果からA産地の原石を使用した可能性が高いと同定する。即ち多変量解析の手法を用いて、各産地に帰属される確率を求めて産地を同定する。

今回分析した遺物は白滝村上白滝6遺跡出土の縄文時代の黒曜石製石器の20個、上白滝8遺跡出土の旧石器時代の黒曜石製石器35個、剥片35個の合計90個の産地分析および上白滝6遺跡出土黒曜石製石器5個、上白滝8遺跡出土の黒曜石製石器25個、剥片32個の合計62個について非破壊分析による水和層の厚さの結果が得られたので報告する。

## (2) 黒曜石原石の分析

黒曜石原石の自然面を打ち欠き、新鮮面を出し、塊状の試料を作り、エネルギー分散型蛍光X分析装置によって元素分析を行う。分析元素はAl、Si、K、Ca、Ti、Mn、Fe、Rb、Sr、Y、Zr、Nbの12元素をそれぞれ分析した。塊試料の形状差による分析値への影響を打ち消すために元素量の比を取り、それでもって産地を特定する指標とした。黒曜石は、Ca/K、Ti/K、Mn/Zr、Fe/Zr、Rb/Zr、Sr/Zr、Y/Zr、Nb/Zrの比量を産地を区別する指標をしてそれぞれ用いる。黒曜石の原産地は北海道、東北、北陸、東関東、中信高原、伊豆箱根、伊豆七島の神津島、山陰、九州の各地に分布する。調査を終えた原産地を図Ⅶ-7に示す。黒曜石原産地のほとんどすべてがつくされている。元素組成によってこれら原石を分類し表Ⅶ-8～10に示す。この原石群に原石産地は不明の遺物で作った遺物群を加えると225個の原石群になる。ここでは北海道地域および一部の東北地域の産地について記述すると、白滝地域の原産地は、北海道紋別郡白滝村に位置し、鹿砦北方2 kmの採石場の赤石山の露頭、鹿砦東方約2 kmの幌加沢地点、また白土沢、八号沢などより転礫として黒曜石が採取できる。赤石山の産地の黒曜石は色に関係無く赤石山群(旧白滝第一群)にまとまる。また、あじさいの滝の露頭からは赤石山と肉眼観察では区別できない原石が採取でき、あじさい滝群を作った(旧白滝第二群)、また、八号沢の黒曜石原石と白土沢の転礫は梨肌の黒曜石で組成はあじさい滝群に似るが石肌で区別できる。幌加沢よりの転礫の中で70%は幌加沢群になりあじさい滝群と元素組成から両群を区別できず、残りの30%は赤石山群に一致する。置戸地域産原石は、北海道常呂郡置戸町の清水の沢林道より採取された原石の元素組成は置戸・所山群にまとまり、また同町の秋田林道で採取される原石は置戸山群にまとまる。留辺蘂町のケショマップ川一帯で採取される原石はケショマップ第一および第二群に分類される。また、白滝地域、ケショマップ、置戸地域産原石は、湧別川および常呂川に通じる流域にあり、両河川の流域で黒曜石の円礫が採取され、湧別川下流域から採取した黒曜石円礫247個の組成分類結果を表Ⅶ-11に示し、中ノ島、北見大橋間の常呂川から採取した37個の円礫の中には、独特の組成の原石も見られ、新しい原石群を追加し分類結果を表Ⅶ-12に示した。十勝三股産原石は、北海道河東郡上士幌町の十勝三股の十三ノ沢の谷筋および沢の中より原石が採取され、この原石の元素組成は十勝三股群にまとまる。この十勝三股産原石は十三ノ沢から音更川さらに十勝川に流れた可能性があり、十勝川から採取される黒曜石円礫の組成は、十勝三股産の原石の組成と相互に近似している。また、上士幌町のサンケオルベ川より採取される黒曜石円礫の組成も十勝三股産原石の組成と相互に近似している。これら組成の近似した原石の原産地は区別できず、遺物石材の産地分析でたとえ、この遺物の原石産地が十勝三股群に同定されたとしても、これら十勝三股、

4 上白滝8・上白滝6 遺跡出土の黒曜石製石器の原産地分析および非破壊分析による水和層の測定

表Ⅶ-8 各黒曜石の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値(1)

原産地原石群名		分析 個数	元素比											
			Ca/K	Ti/K	Mn/Zr	Fe/Zr	Rb/Zr	Sr/Zr	Y/Zr	Nb/Zr	Al/K	Si/K		
北海道	白滝地区	名寄第一群	114	0.478±0.011	0.121±0.005	0.035±0.007	2.011±0.063	0.614±0.032	0.574±0.022	0.120±0.017	0.024±0.016	0.033±0.002	0.451±0.010	
		名寄第二群	35	0.309±0.015	0.103±0.005	0.021±0.006	1.774±0.055	0.696±0.044	0.265±0.011	0.301±0.022	0.026±0.020	0.028±0.007	0.394±0.010	
		赤石山	130	0.173±0.014	0.061±0.003	0.079±0.013	2.714±0.142	1.340±0.059	0.283±0.019	0.341±0.030	0.073±0.026	0.034±0.002	0.374±0.010	
		白土沢	27	0.138±0.004	0.021±0.002	0.102±0.015	3.049±0.181	1.855±0.088	0.097±0.016	0.492±0.039	0.107±0.019	0.027±0.002	0.368±0.006	
		八号沢	30	0.138±0.010	0.022±0.002	0.105±0.017	3.123±0.127	1.846±0.065	0.105±0.019	0.475±0.045	0.076±0.046	0.027±0.008	0.359±0.042	
		幌加	23	0.139±0.009	0.023±0.001	0.099±0.015	2.975±0.102	1.794±0.077	0.104±0.010	0.470±0.037	0.103±0.027	0.027±0.002	0.369±0.007	
		あじさい滝	29	0.142±0.010	0.023±0.001	0.101±0.014	3.038±0.125	1.787±0.076	0.115±0.015	0.457±0.035	0.076±0.044	0.027±0.005	0.365±0.011	
		近文台第一群	30	0.819±0.013	0.165±0.006	0.081±0.010	3.266±0.117	0.604±0.031	0.941±0.030	0.165±0.020	0.039±0.016	0.039±0.002	0.457±0.008	
		近文台第二群	107	0.517±0.011	0.099±0.005	0.067±0.090	2.773±0.097	0.812±0.037	0.818±0.034	0.197±0.024	0.041±0.019	0.035±0.002	0.442±0.009	
		近文台第三群	47	0.529±0.014	0.096±0.008	0.068±0.018	2.746±0.262	0.838±0.100	0.796±0.081	0.220±0.043	0.035±0.021	0.036±0.004	0.413±0.014	
		台場第一群	50	1.076±0.052	0.142±0.005	0.072±0.011	2.912±0.117	0.291±0.020	0.678±0.035	0.126±0.022	0.022±0.012	0.049±0.005	0.517±0.014	
		台場第二群	42	0.670±0.030	0.126±0.006	0.074±0.017	3.046±0.163	0.759±0.044	0.849±0.045	0.204±0.032	0.035±0.018	0.038±0.004	0.414±0.019	
		秩父別第一群	51	0.249±0.017	0.122±0.006	0.078±0.011	1.614±0.068	0.995±0.037	0.458±0.023	0.235±0.024	0.023±0.021	0.022±0.004	0.334±0.013	
		秩父別第二群	48	0.519±0.016	0.097±0.005	0.065±0.016	2.705±0.125	0.814±0.034	0.789±0.043	0.204±0.025	0.032±0.016	0.037±0.003	0.417±0.016	
		滝川第一群	31	0.253±0.018	0.122±0.006	0.077±0.009	1.613±0.090	1.017±0.045	0.459±0.025	0.233±0.029	0.038±0.018	0.025±0.003	0.370±0.023	
		滝川第二群	44	0.498±0.077	0.103±0.011	0.068±0.018	2.658±0.324	0.828±0.081	0.752±0.106	0.206±0.033	0.041±0.019	0.036±0.004	0.414±0.022	
		置戸・所山	65	0.326±0.008	0.128±0.005	0.045±0.008	1.813±0.062	0.824±0.034	0.454±0.020	0.179±0.023	0.044±0.020	0.030±0.002	0.412±0.010	
		置戸・置戸山	58	0.464±0.016	0.138±0.005	0.049±0.008	1.726±0.072	0.449±0.024	0.407±0.023	0.133±0.019	0.026±0.014	0.032±0.003	0.456±0.010	
		北見・常呂川第2群	48	0.548±0.025	0.145±0.007	0.037±0.007	1.691±0.134	0.380±0.024	0.409±0.020	0.120±0.015	0.031±0.012	0.039±0.004	0.477±0.019	
		北見・常呂川第3群	48	0.390±0.011	0.137±0.006	0.030±0.006	1.510±0.059	0.372±0.018	0.238±0.014	0.179±0.019	0.029±0.015	0.033±0.004	0.414±0.011	
		北見・常呂川第4群	50	0.291±0.017	0.109±0.008	0.046±0.012	1.812±0.098	0.807±0.041	0.445±0.029	0.192±0.033	0.034±0.015	0.031±0.003	0.362±0.023	
		ケショマップ第一群	68	0.575±0.056	0.110±0.011	0.051±0.011	2.555±0.086	0.595±0.058	0.636±0.027	0.167±0.027	0.037±0.020	0.030±0.003	0.397±0.013	
		ケショマップ第二群	65	0.676±0.011	0.145±0.005	0.056±0.014	2.631±0.126	0.606±0.030	0.712±0.032	0.170±0.028	0.030±0.013	0.030±0.003	0.392±0.010	
		十勝	十勝三股	60	0.256±0.018	0.074±0.005	0.068±0.010	2.281±0.087	1.097±0.055	0.434±0.023	0.334±0.029	0.064±0.025	0.029±0.002	0.396±0.013
		美僝第一群	41	0.499±0.020	0.124±0.007	0.032±0.010	2.635±0.181	0.802±0.061	0.707±0.044	0.199±0.029	0.039±0.023	0.033±0.002	0.442±0.015	
		美僝第二群	28	0.593±0.036	0.144±0.012	0.056±0.010	3.028±0.251	0.762±0.040	0.764±0.051	0.197±0.026	0.038±0.022	0.034±0.002	0.449±0.009	
		赤井川第一群	50	0.254±0.029	0.070±0.004	0.086±0.010	2.213±0.104	0.969±0.060	0.428±0.021	0.249±0.024	0.058±0.023	0.027±0.002	0.371±0.009	
		赤井川第二群	30	0.258±0.065	0.072±0.002	0.080±0.010	2.207±0.083	0.970±0.045	0.436±0.026	0.245±0.021	0.021±0.029	0.025±0.002	0.371±0.007	
		北見・常呂川第一群	75	0.473±0.019	0.148±0.007	0.060±0.015	1.764±0.072	0.438±0.027	0.607±0.028	0.157±0.020	0.025±0.017	0.032±0.002	0.469±0.013	
		豊泉第一群	40	0.377±0.009	0.133±0.006	0.055±0.008	1.723±0.066	0.516±0.019	0.513±0.018	0.177±0.016	0.007±0.015	0.030±0.005	0.431±0.010	
		奥尻島・幌内川	58	0.285±0.026	0.087±0.005	0.193±0.032	1.834±0.182	2.043±0.224	1.475±0.207	0.269±0.068	0.085±0.031	0.031±0.004	0.347±0.011	
		折腰内	35	0.190±0.015	0.075±0.003	0.040±0.008	1.575±0.066	1.241±0.046	0.318±0.014	0.141±0.033	0.076±0.021	0.024±0.002	0.348±0.010	
		出来島	27	0.346±0.022	0.132±0.007	0.231±0.019	2.268±0.085	0.865±0.044	1.106±0.056	0.399±0.038	0.179±0.031	0.038±0.003	0.499±0.013	
		六角沢	36	0.080±0.008	0.097±0.011	0.013±0.002	0.697±0.021	0.128±0.008	0.002±0.002	0.064±0.007	0.035±0.004	0.026±0.002	0.379±0.010	
		八森山	41	0.077±0.005	0.098±0.003	0.013±0.002	0.701±0.018	0.134±0.005	0.002±0.002	0.070±0.005	0.034±0.006	0.027±0.002	0.348±0.010	
		戸門第一群	28	0.250±0.024	0.069±0.003	0.068±0.012	2.358±0.257	1.168±0.062	0.521±0.063	0.277±0.065	0.076±0.025	0.026±0.002	0.362±0.015	
戸門第二群	28	0.084±0.006	0.104±0.004	0.013±0.002	0.691±0.021	0.123±0.006	0.002±0.002	0.069±0.010	0.033±0.005	0.025±0.002	0.369±0.007			
鶴ヶ坂	33	0.344±0.017	0.132±0.007	0.232±0.023	2.261±0.143	0.861±0.052	1.081±0.060	0.390±0.039	0.047±0.031	0.037±0.002	0.496±0.018			
鷹森山	47	0.252±0.017	0.068±0.009	0.079±0.033	2.548±0.131	1.149±0.069	0.568±0.108	0.288±0.037	0.049±0.036	0.028±0.005	0.383±0.018			
下湯川	36	9.673±0.479	2.703±0.149	3.267±0.217	21.648±1.500	0.090±0.021	1.708±0.102	0.155±0.015	0.169±0.031	0.053±0.042	0.858±0.088			
大釈迦	67	0.253±0.016	0.067±0.008	0.077±0.029	2.519±0.148	1.147±0.065	0.558±0.087	0.286±0.035	0.047±0.040	0.038±0.003	0.385±0.018			
黒石	41	8.905±0.243	2.484±0.055	0.161±0.018	7.570±0.336	0.068±0.014	1.621±0.063	0.244±0.022	0.027±0.014	0.124±0.014	1.409±0.044			
金ヶ崎	43	0.294±0.009	0.087±0.004	0.220±0.018	1.644±0.081	1.493±0.081	0.930±0.043	0.287±0.039	0.098±0.040	0.029±0.002	0.368±0.008			
鷹	45	0.295±0.008	0.087±0.004	0.219±0.017	1.671±0.077	1.503±0.072	0.939±0.054	0.286±0.045	0.108±0.034	0.028±0.006	0.367±0.009			
山形県	月	44	0.285±0.021	0.123±0.007	0.182±0.016	1.906±0.096	0.966±0.069	1.022±0.071	0.276±0.036	0.119±0.033	0.033±0.002	0.443±0.014		
寒河江	48	0.385±0.008	0.116±0.005	0.049±0.017	1.806±0.054	0.580±0.025	0.441±0.023	0.212±0.020	0.056±0.015	0.033±0.003	0.460±0.010			
岩手県	雫石	25	0.636±0.033	0.187±0.012	0.032±0.007	1.764±0.061	0.305±0.016	0.431±0.021	0.209±0.016	0.045±0.014	0.041±0.003	0.594±0.014		
	折居	22	0.615±0.055	0.180±0.016	0.058±0.007	1.751±0.062	0.306±0.033	0.421±0.051	0.228±0.079	0.045±0.011	0.041±0.005	0.594±0.055		
	花泉	30	0.596±0.046	0.177±0.018	0.056±0.008	1.742±0.072	0.314±0.019	0.420±0.025	0.220±0.016	0.044±0.013	0.041±0.003	0.586±0.030		
宮城県	湯倉	21	2.174±0.068	0.349±0.017	0.057±0.005	2.544±0.149	0.116±0.009	0.658±0.024	0.138±0.015	0.020±0.013	0.073±0.003	0.956±0.040		
	塩釜	37	4.828±0.395	1.630±0.104	0.178±0.017	11.362±1.150	0.168±0.018	1.298±0.063	0.155±0.016	0.037±0.018	0.077±0.002	0.720±0.032		
栃木県	高原山	40	0.738±0.067	0.200±0.010	0.044±0.007	2.016±0.110	0.381±0.025	0.502±0.028	0.190±0.017	0.023±0.014	0.036±0.002	0.516±0.012		
	神津島第一群	56	0.381±0.014	0.136±0.005	0.102±0.011	1.729±0.079	0.471±0.027	0.689±0.037	0.247±0.021	0.090±0.026	0.036±0.003	0.504±0.012		
東京都	神津島第二群	23	0.317±0.016	0.120±0.008	0.114±0.014	1.833±0.069	0.615±0.039	0.656±0.050	0.303±0.034	0.107±0.026	0.033±0.002	0.471±0.009		
	長根	40	0.318±0.020	0.120±0.005	0.118±0.014	1.805±0.096	0.614±0.036	0.664±0.045	0.291±0.029	0.093±0.039	0.034±0.006	0.476±0.012		
	箱根・笛塚	30	6.765±0.254	2.219±0.057	0.228±0.019	9.282±0.622	0.048±0.017	1.757±0.061	0.252±0.017	0.025±0.019	0.140±0.008	1.528±0.046		
神奈川県	箱根・畑宿	41	2.056±0.064	0.669±0.019	0.076±0.007	2.912±0.104	0.602±0.007	0.680±0.029	0.202±0.011	0.011±0.010	0.030±0.005	1.126±0.031		
	鍛冶屋	31	1.663±0.071	0.381±0.019	0.056±0.007	2.139±0.097	0.073±0.008	0.629±0.025	0.154±0.009	0.011±0.009	0.067±0.005	0.904±0.020		
	熱海峠	52	2.225±0.149	0.506±0.015	0.042±0.009	2.228±0.164	0.085±0.008	0.737±0.039	0.135±0.013	0.007±0.007	0.071±0.006	0.880±0.033		
静岡県	上多賀	31	1.329±0.078	0.294±0.018	0.041±0.006	1.697±0.068	0.087±0.009	0.551±0.023	0.138±0.011	0.010±0.009	0.059±0.004	0.856±0.018		
	柏崎西	35	1.213±0.164	0.314±0.028	0.031±0.004	1.699±0.167	0.113±0.007	0.391±0.022	0.143±0.007	0.009±0.009	0.047±0.004	0.663±0.020		
	小豆峠	40	0.110±0.008	0.052±0.0										

表VII-9 各黒曜石の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値(2)

原産地原石群名		分析 個数	元素比										
			Ca / K	Ti / K	Mn / Zr	Fe / Zr	Rb / Zr	Sr / Zr	Y / Zr	Nb / Zr	Al / K	Si / K	
長野県	う つ ぎ 沢	81	0.222±0.014	0.099±0.006	0.038±0.008	1.189±0.060	0.748±0.075	0.392±0.031	0.140±0.022	0.046±0.021	0.025±0.005	0.340±0.009	
	立 科	49	0.155±0.007	0.068±0.003	0.102±0.018	1.320±0.077	1.033±0.063	0.362±0.030	0.285±0.035	0.104±0.040	0.030±0.003	0.356±0.011	
	麦 草 峠	97	0.274±0.017	0.136±0.010	0.051±0.012	1.397±0.099	0.542±0.058	0.736±0.044	0.110±0.024	0.043±0.017	0.031±0.003	0.383±0.013	
	双 子 池	83	0.252±0.027	0.129±0.007	0.059±0.010	1.630±0.179	0.669±0.052	0.802±0.058	0.111±0.024	0.037±0.032	0.027±0.007	0.401±0.011	
	冷 山	87	0.267±0.011	0.134±0.006	0.048±0.013	1.382±0.066	0.546±0.034	0.727±0.036	0.109±0.031	0.045±0.022	0.031±0.004	0.381±0.011	
	大 窪 沢	42	1.481±0.117	0.466±0.021	0.042±0.006	2.005±0.135	0.182±0.011	0.841±0.044	0.105±0.010	0.009±0.008	0.033±0.005	0.459±0.012	
新潟県	横 川	41	3.047±0.066	1.071±0.026	0.115±0.015	7.380±0.366	0.158±0.016	0.833±0.040	0.186±0.015	0.023±0.012	0.045±0.005	0.513±0.021	
	佐 渡 第 一 群	34	0.228±0.013	0.078±0.006	0.020±0.005	1.492±0.079	0.821±0.047	0.288±0.018	0.142±0.018	0.049±0.017	0.024±0.004	0.338±0.013	
	佐 渡 第 二 群	12	0.263±0.032	0.097±0.018	0.020±0.006	1.501±0.053	0.717±0.106	0.326±0.029	0.091±0.022	0.046±0.015	0.026±0.002	0.338±0.009	
	上 石 川	45	0.321±0.007	0.070±0.003	0.069±0.011	2.051±0.070	0.981±0.042	0.773±0.034	0.182±0.023	0.038±0.027	0.026±0.007	0.359±0.009	
	板 山	44	0.232±0.011	0.068±0.003	0.169±0.017	2.178±0.110	1.772±0.098	0.772±0.046	0.374±0.047	0.154±0.034	0.027±0.002	0.359±0.009	
	大 白 川	22	0.569±0.012	0.142±0.007	0.033±0.005	1.608±0.049	0.261±0.012	0.332±0.011	0.150±0.015	0.033±0.011	0.036±0.003	0.491±0.014	
	金 津	46	0.331±0.011	0.097±0.037	0.030±0.007	1.711±0.066	0.618±0.027	0.283±0.012	0.181±0.016	0.035±0.018	0.027±0.009	0.402±0.012	
	羽 根 川	55	0.163±0.019	0.053±0.005	0.099±0.011	1.354±0.058	1.615±0.063	0.084±0.012	0.309±0.036	0.100±0.028	0.023±0.007	0.340±0.030	
石川県	比 那	17	0.370±0.014	0.087±0.004	0.060±0.009	2.699±0.167	0.639±0.028	0.534±0.023	0.172±0.028	0.052±0.018	0.032±0.002	0.396±0.017	
	安 島	21	0.407±0.007	0.123±0.005	0.038±0.006	1.628±0.051	0.643±0.031	0.675±0.030	0.113±0.020	0.061±0.016	0.032±0.002	0.450±0.041	
福井県	三 里 山	21	0.350±0.018	0.123±0.008	0.036±0.006	1.561±0.081	0.608±0.031	0.798±0.039	0.069±0.020	0.062±0.013	0.028±0.002	0.381±0.008	
	香 住 第 一 群	30	0.216±0.005	0.062±0.002	0.045±0.007	1.828±0.056	0.883±0.034	0.265±0.012	0.097±0.021	0.139±0.018	0.024±0.007	0.365±0.008	
兵庫県	香 住 第 二 群	40	0.278±0.012	0.100±0.004	0.048±0.009	1.764±0.066	0.813±0.045	0.397±0.020	0.112±0.026	0.138±0.024	0.026±0.012	0.446±0.042	
	雨 滝(微粒集)	48	0.123±0.004	0.056±0.002	0.083±0.012	1.967±0.061	1.171±0.040	0.157±0.013	0.183±0.044	0.221±0.021	0.026±0.025	0.316±0.006	
島根県	加 茂	20	0.166±0.006	0.093±0.008	0.014±0.003	0.899±0.031	0.278±0.017	0.009±0.003	0.061±0.015	0.154±0.018	0.020±0.001	0.249±0.016	
	津 井	30	0.161±0.008	0.132±0.182	0.015±0.003	0.940±0.041	0.301±0.014	0.015±0.005	0.060±0.013	0.144±0.008	0.020±0.002	0.244±0.008	
岡山県	久 見	31	0.145±0.006	0.061±0.003	0.021±0.004	0.980±0.023	0.386±0.011	0.007±0.003	0.109±0.013	0.238±0.011	0.023±0.002	0.315±0.006	
	津	48	0.268±0.009	0.078±0.003	0.077±0.018	1.927±0.150	1.721±0.113	0.808±0.060	0.244±0.051	0.083±0.036	0.031±0.004	0.367±0.009	
香川県	奥 池 第 一 群	51	1.202±0.077	0.141±0.010	0.032±0.008	3.126±0.170	0.686±0.065	1.350±0.082	0.026±0.026	0.065±0.019	0.041±0.004	0.507±0.011	
	奥 池 第 二 群	50	1.585±0.126	0.194±0.018	0.035±0.007	2.860±0.160	0.423±0.058	1.044±0.077	0.024±0.019	0.042±0.013	0.045±0.004	0.507±0.013	
	雄 山	50	1.224±0.081	0.144±0.011	0.035±0.012	3.138±0.163	0.669±0.078	1.335±0.091	0.023±0.027	0.061±0.020	0.041±0.003	0.500±0.012	
	神 谷・南 山	51	1.186±0.057	0.143±0.008	0.038±0.012	3.202±0.163	0.707±0.061	1.386±0.088	0.029±0.025	0.073±0.021	0.041±0.005	0.500±0.014	
	大 麻 山 南 第 一 群	39	1.467±0.120	0.203±0.023	0.042±0.009	3.125±0.179	0.494±0.080	1.010±0.073	0.038±0.023	0.047±0.013	0.041±0.003	0.487±0.016	
	大 麻 山 南 第 二 群	34	1.018±0.043	0.116±0.012	0.043±0.014	3.305±0.199	0.895±0.048	1.256±0.050	0.029±0.030	0.072±0.018	0.038±0.004	0.476±0.012	
福岡県	八 女 昭 和 池	68	0.261±0.010	0.211±0.007	0.033±0.003	0.798±0.027	0.326±0.013	0.283±0.015	0.071±0.009	0.034±0.008	0.024±0.006	0.279±0.009	
	中 野 第 二 群	39	0.267±0.007	0.087±0.003	0.027±0.005	1.619±0.083	0.628±0.028	0.348±0.015	0.103±0.018	0.075±0.018	0.023±0.007	0.321±0.011	
佐賀県	中 野 第 一 群	40	0.345±0.007	0.104±0.003	0.027±0.005	1.535±0.039	0.455±0.017	0.397±0.014	0.069±0.016	0.059±0.014	0.026±0.008	0.328±0.008	
	梅 野	39	0.657±0.014	0.202±0.006	0.071±0.013	4.239±0.205	1.046±0.065	1.269±0.058	0.104±0.032	0.380±0.047	0.028±0.005	0.345±0.009	
	腰 岳	44	0.211±0.009	0.031±0.005	0.075±0.019	2.572±0.212	1.600±0.086	0.414±0.042	0.311±0.046	0.256±0.043	0.025±0.002	0.335±0.002	
	椎 葉 川	59	0.414±0.009	0.071±0.003	0.101±0.017	2.947±0.142	1.253±0.081	2.015±0.099	0.147±0.035	0.255±0.040	0.030±0.007	0.388±0.009	
	松 尾 第 一 群	40	0.600±0.067	0.153±0.029	0.125±0.018	4.692±0.369	1.170±0.114	2.023±0.122	0.171±0.032	0.255±0.037	0.032±0.003	0.376±0.008	
	松 尾 第 二 群	40	0.953±0.027	0.307±0.010	0.126±0.013	6.666±0.342	0.856±0.070	1.907±0.119	0.147±0.029	0.194±0.028	0.033±0.008	0.383±0.010	
大分県	姫 島 地 域	観 音 崎	42	0.223±0.010	0.046±0.005	0.409±0.086	6.691±0.878	1.805±0.257	1.562±0.231	0.344±0.087	0.579±0.126	0.039±0.003	0.400±0.011
		両 瀬 第 一 群	51	0.226±0.011	0.045±0.003	0.411±0.066	6.743±0.900	1.845±0.286	1.553±0.230	0.318±0.087	0.560±0.144	0.038±0.004	0.401±0.012
		*両 瀬 第 二 群	50	0.649±0.044	0.141±0.010	0.186±0.046	4.355±0.683	0.610±0.095	3.017±0.459	0.142±0.050	0.188±0.056	0.041±0.004	0.427±0.014
		*両 瀬 第 三 群	46	1.038±0.131	0.211±0.024	0.110±0.027	3.367±0.617	0.311±0.058	3.756±0.668	0.105±0.030	0.094±0.037	0.042±0.007	0.442±0.021
		*才 イ 崎	50	1.059±0.143	0.214±0.030	0.120±0.043	3.598±1.035	0.335±0.106	4.000±1.162	0.118±0.048	0.092±0.036	0.044±0.004	0.449±0.018
		*稲 積	45	0.680±0.061	0.145±0.013	0.168±0.037	4.397±0.776	0.612±0.095	3.080±0.476	0.147±0.046	0.194±0.060	0.041±0.005	0.431±0.015
		塚	30	0.313±0.023	0.127±0.009	0.065±0.010	1.489±0.124	0.600±0.051	0.686±0.082	0.175±0.018	0.102±0.020	0.028±0.002	0.371±0.009
		荻 台 地	50	1.615±0.042	0.670±0.013	0.096±0.008	5.509±0.269	0.284±0.031	1.526±0.053	0.097±0.016	0.032±0.018	0.032±0.005	0.310±0.011
		緒 方 下 尾 半	64	0.482±0.036	0.286±0.015	0.051±0.008	1.361±0.095	0.303±0.019	0.712±0.043	0.089±0.018	0.055±0.021	0.012±0.010	0.288±0.016
		久 喜ノ 辻	37	0.172±0.009	0.066±0.002	0.030±0.005	1.176±0.043	0.385±0.012	0.011±0.004	0.135±0.018	0.354±0.014	0.023±0.002	0.276±0.007
長崎県	志 岐 島	君 ケ 浦	28	0.174±0.007	0.065±0.002	0.033±0.006	1.174±0.035	0.389±0.012	0.013±0.005	0.129±0.014	0.356±0.012	0.023±0.003	0.275±0.008
		角 川	28	0.146±0.009	0.038±0.002	0.059±0.009	1.691±0.100	1.726±0.085	0.035±0.008	0.344±0.040	0.717±0.047	0.023±0.002	0.338±0.010
		貝 畑	49	0.135±0.010	0.037±0.002	0.056±0.009	1.746±0.073	1.834±0.064	0.022±0.013	0.334±0.046	0.714±0.040	0.021±0.009	0.339±0.015
		松 浦 第 一 群	23	0.215±0.018	0.032±0.008	0.072±0.016	2.554±0.181	1.538±0.176	0.429±0.026	0.271±0.064	0.254±0.046	0.025±0.002	0.340±0.006
		松 浦 第 二 群	17	0.183±0.011	0.031±0.005	0.071±0.024	2.288±0.319	1.523±0.193	0.309±0.083	0.244±0.074	0.204±0.049	0.024±0.002	0.337±0.010
		松 浦 第 三 群	16	0.249±0.023	0.062±0.006	0.051±0.016	1.936±0.231	0.856±0.112	0.405±0.093	0.148±0.052	0.139±0.031	0.025±0.002	0.333±0.014
		松 浦 第 四 群	22	0.284±0.022	0.066±0.008	0.045±0.012	1.890±0.157	0.774±0.179	0.454±0.036	0.120±0.044	0.132±0.036	0.026±0.002	0.343±0.010
		淀 姫	44	0.334±0.014	0.080±0.004	0.044±0.009	1.744±0.069	0.533±0.030	0.485±0.039	0.094±0.022	0.119±0.017	0.027±0.002	0.353±0.011
		中 町 第 一 群	25	0.243±0.019	0.059±0.007	0.057±0.015	1.849±0.104	0.811±0.089	0.398±0.028	0.135±0.035	0.147±0.023	0.026±0.002	0.345±0.009
		中 町 第 二 群	17	0.322±0.034	0.081±0.015	0.045±0.011	1.788±0.108	0.654±0.085	0.485±0.042	0.118±0.025	0.099±0.016	0.026±0.002	0.338±0.015
		古 里 第 一 群	50	0.202±0.012	0.029±0.004	0.076±0.018	2.628±0.214	1.695±0.146	0.403±0.060	0.319±0.073	0.233±0.074	0.030±0.003	0.342±0.011
		古 里 第 二 群	40	0.423±0.016	0.075±0.007	0.089±0.017	2.797±0.274	1.148±0.133	1.814±0.192	0.103±0.060	0.208±0.053	0.034±0.003	0.367±0.009
熊本県	志 岐 島	古 里 第 三 群	41	0.265±0.032	0.064±0.009	0.046±0.010	1.931±0.143	0.799±0.110	0.433±0.049	0.122±0.041	0.119±0.044	0.031±0.003	0.347±0.010
		松	43	0.194±0.009	0.054±0.005	0.040±0.008	1.686±0.114	0.833±0.058	0.251±0.025	0.192±0.032	0.124±0.039	0.018±0.011	0.331±0.017
		大 崎	74	0.176±0.012	0.053±0.002	0.041±0.012	1.710±0.081	0.912±0.036	0.181±0.022	0.202±0.029	0.133±0.024	0.023±0.002	0.319±0.010
		小	30	0.317±0.023	0.127±0.005	0.063±0.007	1.441±0.070	0.611±0.032	0.703±0.044	0.175±0.233	0.097±0.017	0.023±0.002	0.320±0.007
		南	30	0.261±0.016	0.214±0.007	0.034±0.003	0.788±0.033	0.326±0.012	0.278±0.015	0.069±0.012	0.031±0.009	0.021±0.002	0.243±0.008

4 上白滝8・上白滝6遺跡出土の黒曜石製石器の原産地分析および非破壊分析による水和層の測定

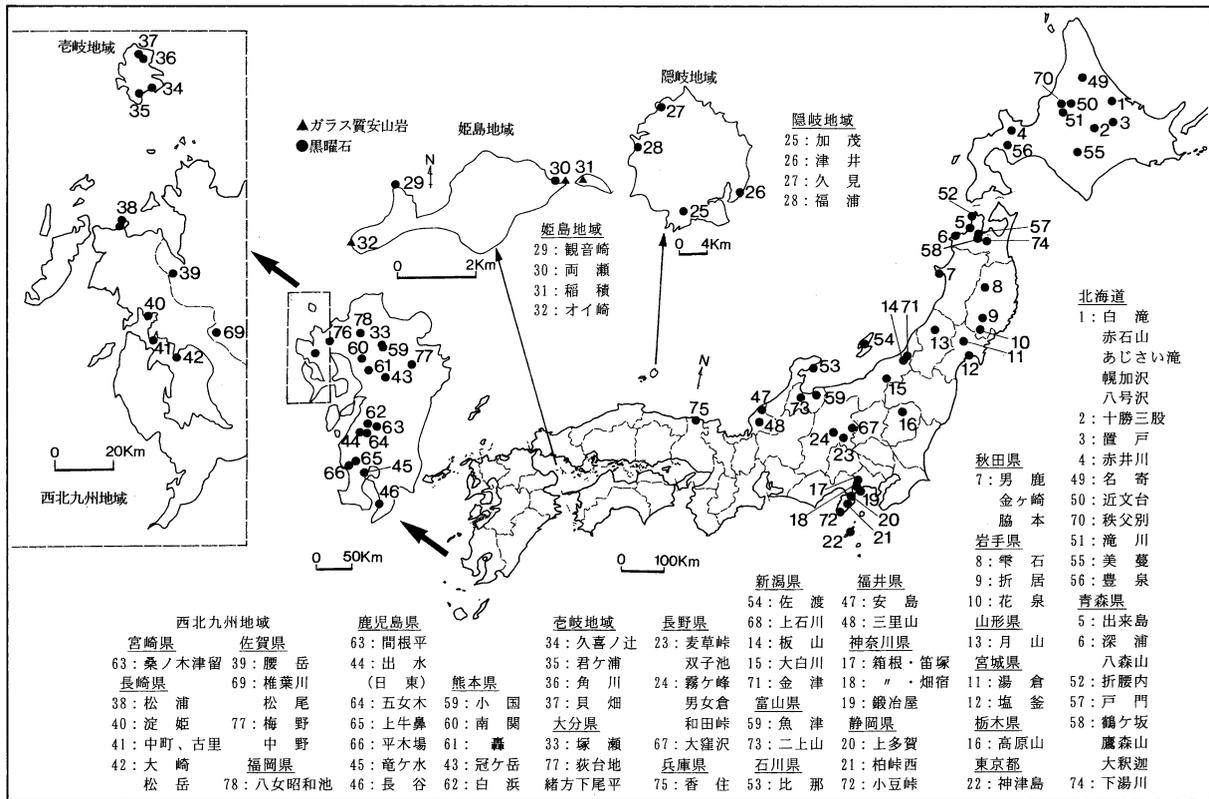
表VII-10 各黒曜石の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値(3)

原産地原石群名	分析 個数	元素比											
		Ca/K	Ti/K	Mn/Zr	Fe/Zr	Rb/Zr	Sr/Zr	Y/Zr	Nb/Zr	Al/K	Si/K		
鹿児島県	間根ヶ平第二群	45	0.247±0.018	0.106±0.006	0.047±0.008	1.488±0.074	0.768±0.034	0.428±0.049	0.235±0.020	0.039±0.027	0.024±0.008	0.378±0.013	
	間根ヶ平第三群	42	0.584±0.012	0.176±0.005	0.037±0.007	1.484±0.097	0.449±0.031	0.675±0.049	0.143±0.023	0.036±0.022	0.023±0.014	0.390±0.019	
	日東	42	0.262±0.018	0.143±0.006	0.022±0.004	1.178±0.040	0.712±0.028	0.408±0.025	0.100±0.018	0.029±0.013	0.019±0.001	0.275±0.006	
	五女木	37	0.266±0.021	0.140±0.006	0.019±0.003	1.170±0.064	0.705±0.027	0.405±0.021	0.108±0.015	0.028±0.013	0.019±0.001	0.275±0.006	
	上牛鼻	41	1.629±0.098	0.804±0.037	0.053±0.006	3.342±0.215	0.188±0.013	1.105±0.056	0.087±0.009	0.022±0.009	0.036±0.002	0.391±0.011	
	平木場	34	1.944±0.054	0.912±0.028	0.062±0.005	3.975±0.182	0.184±0.011	1.266±0.049	0.093±0.010	0.021±0.010	0.038±0.003	0.408±0.010	
	竜ヶ水	48	0.533±0.029	0.167±0.006	0.061±0.013	1.494±0.093	0.611±0.039	0.688±0.052	0.127±0.023	0.069±0.022	0.033±0.003	0.494±0.011	
	長谷	30	0.553±0.032	0.137±0.006	0.065±0.010	1.815±0.062	0.644±0.028	0.553±0.029	0.146±0.021	0.066±0.020	0.037±0.003	0.524±0.012	
	台湾	台東山脈	37	0.510±0.010	0.198±0.007	0.038±0.007	1.862±0.079	0.353±0.019	0.519±0.017	0.123±0.012	0.024±0.017	0.029±0.007	0.407±0.010
ロシア	カムチャッカ	72	0.473±0.012	0.166±0.007	0.046±0.007	1.572±0.059	0.497±0.011	0.499±0.016	0.126±0.011	0.009±0.014	0.039±0.010	0.460±0.030	
北朝鮮	白頭山灰皿	50	0.154±0.009	0.067±0.003	0.018±0.005	1.081±0.028	0.530±0.013	0.081±0.008	0.151±0.015	0.338±0.012	0.027±0.003	0.306±0.008	
北海道	H S 1 遺物群	67	0.241±0.021	0.107±0.005	0.018±0.006	1.296±0.077	0.430±0.016	0.153±0.009	0.140±0.015	0.008±0.013	0.018±0.012	0.325±0.042	
	H S 2 遺物群	60	0.453±0.011	0.135±0.008	0.041±0.008	1.765±0.075	0.448±0.021	0.419±0.019	0.130±0.015	0.015±0.019	0.034±0.010	0.500±0.015	
	F R 1 遺物群	51	0.643±0.012	0.124±0.008	0.052±0.007	2.547±0.143	0.530±0.032	0.689±0.032	0.156±0.015	0.004±0.008	0.029±0.011	0.407±0.047	
	F R 2 遺物群	59	0.535±0.061	0.106±0.012	0.053±0.009	2.545±0.138	0.557±0.051	0.685±0.029	0.165±0.021	0.016±0.022	0.027±0.009	0.373±0.043	
	F R 3 遺物群	37	0.380±0.037	0.084±0.007	0.052±0.009	2.548±0.145	0.586±0.056	0.681±0.033	0.164±0.021	0.017±0.023	0.023±0.006	0.292±0.037	
	F R 4 遺物群	44	0.261±0.043	0.074±0.010	0.051±0.008	2.500±0.117	0.639±0.057	0.679±0.032	0.155±0.021	0.009±0.017	0.018±0.008	0.258±0.036	
	F H 1 遺物群	32	0.898±0.032	0.221±0.007	0.054±0.006	2.540±0.101	0.426±0.018	0.802±0.023	0.109±0.013	0.017±0.021	0.037±0.003	0.447±0.011	
	K T 1 遺物群	56	1.103±0.050	0.146±0.007	0.081±0.008	2.942±0.133	0.314±0.053	0.775±0.082	0.133±0.016	0.019±0.021	0.043±0.007	0.516±0.015	
	K T 2 遺物群	38	0.959±0.027	0.154±0.005	0.085±0.010	2.882±0.092	0.542±0.028	1.111±0.040	0.107±0.015	0.012±0.016	0.042±0.008	0.519±0.010	
	K S 1 遺物群	32	0.275±0.007	0.107±0.005	0.047±0.010	1.751±0.051	0.836±0.038	0.468±0.021	0.180±0.019	0.023±0.028	0.025±0.007	0.345±0.010	
	K S 2 遺物群	62	0.244±0.003	0.070±0.004	0.056±0.013	1.749±0.168	1.080±0.108	0.424±0.036	0.327±0.042	0.037±0.031	0.023±0.011	0.379±0.010	
	K S 3 遺物群	48	0.164±0.008	0.041±0.002	0.080±0.013	2.565±0.126	1.460±0.057	0.162±0.019	0.389±0.042	0.069±0.028	0.024±0.002	0.337±0.015	
	K 1 9 遺物群	48	0.185±0.007	0.049±0.003	0.081±0.013	2.162±0.122	1.031±0.041	0.435±0.025	0.263±0.028	0.050±0.019	0.023±0.002	0.260±0.009	
	N I 2 9 遺物群	51	5.445±0.122	2.301±0.074	0.207±0.024	13.422±1.113	0.151±0.018	1.839±0.134	0.207±0.022	0.007±0.011	0.069±0.006	0.622±0.021	
	青森県	H Y 遺物群	31	0.238±0.011	0.131±0.006	0.048±0.008	1.636±0.066	0.418±0.028	1.441±0.015	0.482±0.024	0.029±0.028	0.020±0.015	0.481±0.026
S N 1 遺物群		33	0.287±0.006	0.087±0.004	0.033±0.005	1.597±0.037	0.244±0.011	0.258±0.011	0.281±0.012	0.009±0.012	0.021±0.006	0.329±0.006	
S N 2 遺物群		29	0.209±0.006	0.116±0.006	0.076±0.008	1.571±0.082	0.716±0.035	0.292±0.017	0.264±0.029	0.028±0.030	0.023±0.009	0.383±0.015	
K N 2 遺物群		107	0.351±0.011	0.121±0.006	0.053±0.007	1.581±0.071	0.347±0.020	0.619±0.014	0.216±0.015	0.054±0.017	0.029±0.011	0.475±0.040	
秋田県	T B 遺物群	60	0.252±0.014	0.113±0.007	0.124±0.015	1.805±0.088	0.875±0.056	0.663±0.038	0.272±0.029	0.083±0.037	0.026±0.008	0.378±0.021	
	H R 遺物群	48	0.259±0.008	0.093±0.003	0.067±0.011	2.055±0.067	0.741±0.028	0.293±0.016	0.331±0.021	0.064±0.019	0.036±0.003	0.444±0.010	
	A I 1 遺物群	41	1.519±0.026	0.277±0.010	0.078±0.006	2.849±0.073	0.167±0.010	0.526±0.017	0.251±0.013	0.009±0.012	0.058±0.017	0.929±0.024	
岩手県	A I 2 遺物群	61	3.141±0.074	0.552±0.021	0.080±0.008	2.752±0.062	0.094±0.009	0.716±0.019	0.242±0.011	0.008±0.014	0.083±0.029	1.353±0.049	
	A I 3 遺物群	61	0.950±0.013	0.215±0.004	0.117±0.009	4.306±0.100	0.114±0.008	0.909±0.028	0.248±0.012	0.014±0.016	0.028±0.006	0.360±0.009	
	A I 4 遺物群	122	1.850±0.059	0.474±0.025	0.067±0.007	2.055±0.077	0.083±0.006	0.531±0.030	0.177±0.010	0.011±0.013	0.064±0.025	1.061±0.105	
	A I 5 遺物群	122	3.167±0.092	0.696±0.027	0.101±0.009	3.787±0.108	0.114±0.010	0.892±0.026	0.241±0.012	0.006±0.012	0.091±0.020	1.234±0.052	
	F S 遺物群	45	0.272±0.090	0.097±0.029	0.053±0.007	1.791±0.083	0.327±0.019	0.453±0.024	0.207±0.018	0.029±0.027	0.017±0.011	0.339±0.011	
	S D 遺物群	48	2.900±0.050	0.741±0.016	0.118±0.010	3.922±0.077	0.117±0.012	0.906±0.026	0.246±0.013	0.008±0.017	0.083±0.013	1.195±0.029	
	新潟県	A C 1 遺物群	63	0.479±0.014	0.192±0.006	0.054±0.008	1.561±0.075	0.400±0.017	0.440±0.019	0.169±0.019	0.061±0.015	0.033±0.005	0.427±0.016
		A C 2 遺物群	48	0.251±0.007	0.081±0.003	0.112±0.013	2.081±0.076	0.901±0.035	0.406±0.020	0.409±0.024	0.108±0.023	0.036±0.003	0.419±0.007
A C 3 遺物群		36	0.657±0.016	0.144±0.005	0.083±0.010	1.891±0.051	0.202±0.010	0.381±0.017	0.286±0.018	0.041±0.012	0.049±0.005	0.616±0.013	
I N 1 遺物群		48	0.326±0.012	0.078±0.004	0.066±0.010	2.056±0.177	0.901±0.048	0.751±0.045	0.172±0.030	0.068±0.016	0.028±0.030	0.338±0.007	
長野県	I N 2 遺物群	48	0.745±0.013	0.110±0.004	0.140±0.015	3.176±0.212	0.728±0.039	1.582±0.080	0.104±0.030	0.038±0.013	0.036±0.003	0.396±0.010	
	N K 遺物群	57	0.566±0.019	0.163±0.007	0.086±0.011	1.822±0.084	0.467±0.031	1.691±0.064	0.102±0.021	0.041±0.028	0.038±0.003	0.500±0.014	
	Y M 遺物群	56	0.381±0.016	0.138±0.005	0.038±0.012	1.611±0.102	0.112±0.039	0.497±0.026	0.128±0.022	0.047±0.016	0.023±0.003	0.331±0.013	
山口県	N M 遺物群	40	0.330±0.010	0.103±0.003	0.042±0.012	1.751±0.083	1.048±0.057	0.518±0.034	0.196±0.037	0.058±0.018	0.022±0.003	0.326±0.011	
	M K 1 遺物群	48	0.087±0.008	0.059±0.002	0.010±0.003	0.677±0.023	0.370±0.097	0.006±0.002	0.125±0.012	0.292±0.010	0.022±0.002	0.337±0.010	
大分県	M K 2 遺物群	48	0.258±0.010	0.026±0.002	0.055±0.013	1.745±0.121	1.149±0.092	0.297±0.029	0.202±0.037	0.177±0.022	0.021±0.002	0.268±0.007	
	I 遺物群	54	0.794±0.070	0.202±0.009	0.061±0.013	1.774±0.132	0.380±0.030	1.350±0.096	0.076±0.032	0.079±0.022	0.040±0.004	0.434±0.015	
宮崎県	H B 1 遺物群	48	0.197±0.035	0.754±0.055	0.098±0.042	7.099±0.844	0.434±0.062	0.975±0.130	0.368±0.079	0.126±0.079	0.093±0.022	6.312±0.525	
	H B 2 遺物群	48	0.414±0.100	1.557±0.674	0.110±0.044	9.900±1.595	0.176±0.088	1.209±0.459	0.327±0.052	0.178±0.069	0.178±0.044	9.938±1.532	
	U T 1 遺物群	46	0.297±0.013	0.107±0.005	0.053±0.010	1.638±0.104	1.012±0.056	0.736±0.039	0.168±0.027	0.034±0.028	0.024±0.011	0.390±0.014	
	K U 4 遺物群	48	1.871±0.365	1.018±0.094	3.790±0.705	14.990±4.008	0.673±0.081	2.043±0.233	0.752±0.079	0.056±0.045	0.090±0.017	4.302±0.246	
	K I 1 遺物群	45	0.383±0.012	0.101±0.005	0.061±0.024	1.913±0.158	0.985±0.057	0.527±0.038	0.197±0.030	0.079±0.028	0.028±0.002	0.409±0.009	
	K I 2 遺物群	46	0.402±0.015	0.146±0.008	0.060±0.017	1.529±0.148	0.729±0.052	0.565±0.038	0.137±0.024	0.083±0.026	0.029±0.003	0.443±0.022	
	K I 3 遺物群	48	1.545±0.154	0.557±0.045	0.074±0.011	3.746±0.455	0.284±0.018	0.783±0.044	0.106±0.021	0.025±0.011	0.047±0.006	0.499±0.021	
	S G 遺物群	48	1.668±0.034	0.778±0.038	0.082±0.010	4.106±0.222	0.202±0.014	0.699±0.025	0.133±0.013	0.015±0.019	0.027±0.021	0.553±0.033	
鹿児島県	O K 遺物群	32	1.371±0.074	0.687±0.025	0.061±0.008	3.109±0.161	0.202±0.012	0.579±0.027	0.122±0.014	0.009±0.014	0.027±0.018	0.518±0.021	
	K K 1 遺物群	48	0.347±0.010	0.080±0.003	0.081±0.012	3.085±0.155	0.887±0.036	1.487±0.065	0.119±0.036	0.184±0.023	0.027±0.002	0.265±0.009	
	K K 2 遺物群	46	0.521±0.012	0.122±0.004	0.076±0.013	3.125±0.222	0.222±0.018	1.500±0.074	0.109±0.034	0.187±0.023	0.035±0.004	0.359±0.010	
	H M 1 遺物群	44	0.683±0.024	0.861±0.021	0.063±0.013	8.6							

音更川、十勝川、サンケオルベ川の複数の地点を考えなければならない。しかし、この複数の産地をまとめて、十勝地域としても、古代の地域間の交流を考察する場合、問題はないと考えられる。また、清水町、新得町、鹿追町にかけて広がる美蔓台地から産出する黒曜石から2個の美蔓原石群が作られた。この原石は産地近傍の遺跡で使用されている。名寄市の智南地域、智恵文川および忠烈布貯水池から上名寄にかけて黒曜石の円礫が採集される。これらを組成で分類すると88%は名寄第一群に、また12%は名寄第二群にそれぞれなる。旭川市の近文台、台場、嵐山遺跡付近および雨文台北部などから採集される黒曜石の円礫は、20%が近文台第一群、69%が近文台第二群、11%が近文台第三群それぞれ分類され、台場の砂礫採取場からは近文台諸群に一致するもの以外に、黒、灰色系円礫も見られ、台場第一、二群を作った。また、滝川市江別乙で採集される親指大の黒曜石の礫は、組成で分類すると約79%が滝川群にまとめられ、21%が近文台第二、三群に組成が一致する。滝川群に一致する組成の原石は、北竜市恵袋別川培本社からも採取される。秩父別町の雨竜川に開析された平野を見下す丘陵中腹の緩斜面から小円礫の黒曜石原石が採取される。産出状況と礫状は滝川産黒曜石と同じで、秩父別第一群は滝川第一群に組成が一致し、第二群も滝川第二群に一致しさらに近文台第二群にも一致する。赤井川産原石は、北海道余市郡赤井川村の土木沢上流域およびこの付近の山腹より採取できる。この原石には、少球類の列が何層にも重なり石器の原材料として良質とはいえない原石で赤井川第一群を、また、球類の非常に少ない握り拳半分大の良質な原石などで赤井川第二群を作った。これら第一、二群の元素組成は非常に似ていて、遺物を分析したときしばしば、赤井川両群に同定される。豊泉産原石は豊浦町から産出し、組成によって豊泉第一、二群の2群に区別され、豊泉第二群の原石は斑晶が少なく良質な黒曜石である。豊泉産原石の使用圏は道南地方に広がり、一部は青森県に伝播している。また、青森県教育庁の斉藤岳氏提供の奥尻島幌内川産黒曜石の原石群が確立されている。出来島群は青森県西津軽郡木造町七里長浜の海岸部より採取された円礫の原石で作られた群で、この出来島群と相互に似た組成の原石は、岩木山の西側を流れ鱒ヶ沢地区に流入する中村川の上流で1点採取され、また、青森市の鶴ヶ坂および西津軽郡森田村鶴ばみ地区より採取されている。青森県西津軽郡深浦町の海岸と同町の六角沢およびこの沢筋に位置する露頭より採取された原石で六角沢群をまた、八森山産出の原石で八森山群をそれぞれ作った。深浦の両群と相互に似た群は青森市戸門地区より産出する黒曜石で作られた戸門第二群である。戸門第一群、成田群、浪岡町県民の森地区より産出の大釈迦群(旧浪岡群)は赤井川産原石の第一、二群と弁別は可能であるが原石の組成は比較的似ている。戸門、大釈迦産黒曜石の産出量は非常に少なく、希に石鏃が作れる大きさがみられる程度であるが、鷹森群は鷹森山麓の成田地区産出の黒曜石中中には5 cm大のものもみられる。また、考古学者の話題になる下湯川産黒曜石についても原石群を作った。産地分析は、日本、近隣国を含めた産地の合計225個の原石群と比較し、必要条件と十分条件を求めて遺物の原石産地を同定する。

### (3) 結果と考察

遺跡から出土した黒曜石製石器、石片は風化に対して安定で、表面に薄い水和層が形成されているにすぎないため、表面の泥を水洗するだけで完全な非破壊分析が可能であると考えられる。黒曜石製の石器で、水和層の影響を考慮するとすれば、軽い元素の分析ほど表面分析になるため、水和層の影響を受けやすいと考えられる。Ca/K、Ti/Kの両軽元素比量を除いて産地分析を行った場合、また除かずに産地分析を行った場合、いずれの場合にも同定される産地は同じである。他の元素比量についても風化の影響を完全に否定することができないので、得られた確率の数値にはやゝ不確実さを伴うが、遺物の石材産地の判定を誤るようなことはない。また、安山岩製の遺物は、白っぽく表面が風



図VII-7 黒曜石原産地

表VII-11 湧別川河口域の河床から採取した247個の黒曜石円礫の分類結果

原石群名	個数	百分率	備考
赤石山群	90個	36%	白滝産地赤石山群に一致
八号沢・白土沢群	120個	49%	割れ面が梨肌の黒曜石
あじさい滝・幌加沢	31個	13%	割れ面が梨肌でないもの
ケシヨマップ第二群	5個	2%	
K S 3 遺物群	1個	0.04%	

注：8号沢、白土沢、あじさい滝、幌加沢の一部は組成が酷似し、分類は割れ面の梨肌か否かで区別した。

表VII-12 常呂川（中ノ島～北見大橋）から採取した37個の黒曜石円礫の分類結果

原石群名	個数	百分率	備考
所山群	21個	57%	
置戸山群	8個	22%	H S 2 遺物群に似る
ケシヨマップ第二群	1個	3%	FR 1、FR 2 遺物群に似る
八号沢群	1個	3%	割れ面梨肌
常呂川第1群	1個	3%	
常呂川第2群	2個	5%	
常呂川第3群	1個	3%	
常呂川第4群	2個	5%	K S 1 遺物群、所山群に似る

注：常呂川第1～2は分析場所を変えて複数回測定して作る。

化しているために、アルミナ粉末を風化面に吹き付け、新鮮面を出して分析している。

今回分析した上白滝6、上白滝8遺跡出土黒曜石製遺物の分析結果を表Ⅶ-13・14に示した。石器の分析結果から石材産地を同定するためには数理統計の手法を用いて原石群との比較をする。説明を簡単にするためRb/Zrの一変量だけを考えると、表Ⅶ-13の試料番号88234番の遺物ではRb/Zrの値は0.805で、所山群の[平均値] ± [標準偏差値]は、 $0.824 \pm 0.034$ である。遺物と原石群の差を標準偏差値( $\sigma$ )を基準にして考えると遺物は原石群から $0.6\sigma$ 離れている。ところで所山群原産地から100個の原石を採ってきて分析すると、平均値から $\pm 0.6\sigma$ のずれより大きいものが54個ある。すなわち、この遺物が、所山群の原石から作られていたと仮定しても、 $0.6\sigma$ 以上離れる確率は54%であると言える。だから、所山群の平均値から $0.6\sigma$ しか離れていないときには、この遺物が所山群の原石から作られたものでないとは、到底言い切れない。ところがこの遺物を赤石山群に比較すると、赤石山群の平均値からの隔たりは、約 $9\sigma$ である。これを確率の言葉で表現すると、赤石山の原石を採ってきて分析したとき、平均値から $9\sigma$ 以上離れている確率は、十億分の一であると言える。このように、十億個に一個しかないような原石をたまたま採取して、この遺物が作られたとは考えられないから、この遺物は、赤石山の原石から作られたものではないと断定できる。これらのことを簡単にまとめて言うと、「この遺物は所山群に54%の確率で帰属され、信頼限界の0.1%を満たしていることから所山群産原石が使用されいると同定され、さらに赤石山群に一千万分の1%の低い確率で帰属され、信頼限界の0.1%に満たないことから赤石山の原石でないと同定される」。遺物が1ヶ所の産地(所山群産地)と一致したからと言って、例え所山群と赤石山群の原石は成分が異なっても、分析している試料は原石でなく遺物で、さらに分析誤差が大きくなる不定形(非破壊分析)であることから、他の産地に一致しないとは言えない、同種岩石の中での分類である以上、他の産地にも一致する可能性は推測される。即ちある産地(所山群産地)に一致し必要条件を満足したと言っても一致した産地の原石とは限らないために、帰属確率による判断を表Ⅶ-8~10の225個すべての原石群について行い十分条件を求め、低い確率で帰属された原石群の原石は使用していないとして消していくことにより、はじめて所山群産地の石材のみが使用されていると判定される。実際はRb/Zrといった唯一つの変量だけでなく、前述した8つの変量で取り扱うので変量間の相関を考慮しなければならない。

例えば、A原産地のA群でCa元素とRb元素との間に相関がありCaの量を計ればRbの量は分析しなくても分かるようなときは、A群の石材で作られた遺物であれば、A群と比較したとき、Ca量が一致すれば当然Rb量も一致するはずである。したがって、もしRb量だけが少しずれている場合には、この試料はA群に属していないと言わなければならない。このことを数量的に導き出せるようにしたのが相関を考慮した多変量統計の手法であるマハラノビスの距離を求めて行うホテリングのT<sup>2</sup>乗検定である。これによって、それぞれの群に帰属する確率を求めて産地を同定する<sup>4, 5)</sup>。産地の同定結果は1個の遺物に対して、黒曜石製では225個の推定確率結果が得られている。今回産地分析を行った遺物の産地推定結果については低い確率で帰属された原産地の推定確率は紙面の都合上記入を省略しているが、本研究ではこれら産地の可能性が非常に低いことを確認したという非常に重要な意味を含んでいる。すなわち所山産原石と判定された遺物に対して、カムチャッカ産原石とかロシア、北朝鮮の遺跡で使用されている原石および信州和田峠産の原石の可能性を考える必要がないという結果であり、ここでは高い確率で同定された産地のみの結果を表Ⅶ-15・16に記入した。原石群を作った原石試料は直径3 cm以上であるが、多数の試料を処理するために、小さな遺物試料の分析に多くの時間をかけられない事情があり、短時間で測定を打ち切る。このため、得られた遺物の測定値には、大きな誤差範囲が含まれ、ときには原石群の元素組成のバラツキの範囲を越えて大きくなる。し

表Ⅶ-13 上白滝8・上白滝6 遺跡出土黒曜石製遺物の元素比分析結果(1)

分析 番号	元 素 比									
	Ca/K	Ti/K	Mn/Zr	Fe/Zr	Rb/Zr	Sr/Zr	Y/Zr	Nb/Zr	Al/K	Si/K
88234	0.321	0.130	0.038	1.886	0.805	0.449	0.216	0.043	0.034	0.397
88235	0.311	0.124	0.052	1.835	0.833	0.470	0.159	0.024	0.033	0.369
88236	0.315	0.116	0.054	1.915	0.888	0.481	0.180	0.061	0.035	0.411
88237	0.299	0.114	0.039	1.724	0.821	0.439	0.186	0.024	0.025	0.354
88238	0.251	0.069	0.066	2.110	0.915	0.388	0.251	0.054	0.026	0.345
88239	0.483	0.123	0.025	1.994	0.610	0.539	0.128	0.018	0.031	0.435
88240	0.491	0.129	0.031	1.965	0.614	0.542	0.099	0.009	0.030	0.418
88241	0.488	0.132	0.035	1.922	0.597	0.534	0.067	0.011	0.037	0.423
88242	0.249	0.070	0.084	2.234	1.022	0.435	0.252	0.031	0.026	0.353
88243	0.152	0.026	0.129	2.996	1.762	0.151	0.533	0.125	0.028	0.334
88244	0.334	0.128	0.041	1.887	0.810	0.476	0.204	0.026	0.034	0.391
88245	0.340	0.118	0.055	1.822	0.819	0.439	0.162	0.015	0.033	0.397
88246	0.127	0.021	0.112	2.863	1.845	0.105	0.483	0.066	0.030	0.295
88247	0.309	0.118	0.051	1.900	0.826	0.451	0.181	0.040	0.026	0.371
88248	0.100	0.016	0.108	2.899	1.693	0.111	0.402	0.096	0.021	0.253
88264	0.328	0.127	0.050	1.747	0.779	0.428	0.211	0.014	0.031	0.388
88265	0.341	0.120	0.051	1.795	0.793	0.431	0.131	0.031	0.037	0.396
88266	0.216	0.063	0.087	2.325	1.121	0.426	0.309	0.037	0.030	0.357
88267	0.324	0.128	0.042	1.776	0.840	0.435	0.185	0.020	0.031	0.393
88268	0.316	0.121	0.041	1.939	0.811	0.469	0.153	0.000	0.033	0.394
63850	0.183	0.051	0.061	2.175	1.118	0.408	0.323	0.089	0.020	0.291
63851	0.162	0.051	0.078	2.038	1.115	0.417	0.283	0.067	0.019	0.288
63852	0.228	0.066	0.073	2.351	1.176	0.401	0.404	0.049	0.034	0.406
88256	0.157	0.027	0.068	2.751	1.673	0.103	0.445	0.065	0.030	0.340
88257	0.191	0.063	0.075	2.909	1.362	0.271	0.347	0.058	0.031	0.338
88258	0.134	0.050	0.075	2.558	1.362	0.274	0.320	0.039	0.023	0.274
88259	0.325	0.131	0.028	1.749	0.801	0.429	0.172	0.017	0.031	0.380
88260	0.259	0.067	0.087	2.293	0.993	0.420	0.258	0.067	0.032	0.354
88261	0.330	0.137	0.040	1.724	0.798	0.422	0.186	0.054	0.027	0.377
88262	0.162	0.024	0.072	2.559	1.579	0.098	0.486	0.098	0.030	0.340
88263	0.667	0.136	0.052	2.639	0.621	0.701	0.129	0.037	0.036	0.403
63946	0.160	0.057	0.078	2.736	1.404	0.257	0.301	0.050	0.028	0.348
63947	0.171	0.065	0.074	2.751	1.352	0.283	0.392	0.077	0.025	0.363
63948	0.177	0.057	0.054	2.623	1.387	0.278	0.318	0.075	0.023	0.345
63952	0.168	0.060	0.092	2.783	1.349	0.276	0.327	0.040	0.026	0.368
63953	0.161	0.060	0.076	2.768	1.382	0.287	0.316	0.035	0.024	0.366
63954	0.173	0.062	0.096	2.907	1.326	0.283	0.348	0.068	0.023	0.370
63955	0.179	0.059	0.065	2.831	1.299	0.263	0.363	0.069	0.024	0.351
63956	0.167	0.062	0.069	2.621	1.315	0.272	0.328	0.047	0.029	0.370
63957	0.175	0.063	0.071	2.902	1.332	0.295	0.338	0.053	0.027	0.362
63960	0.168	0.062	0.069	2.934	1.399	0.290	0.337	0.050	0.030	0.366
63961	0.164	0.058	0.075	2.936	1.331	0.249	0.372	0.121	0.030	0.366
63962	0.164	0.060	0.081	2.995	1.409	0.319	0.369	0.035	0.028	0.352
88269	0.167	0.061	0.074	2.760	1.271	0.300	0.286	0.052	0.033	0.369
88270	0.172	0.057	0.070	2.658	1.295	0.266	0.397	0.017	0.028	0.342
88271	0.197	0.059	0.067	2.544	1.261	0.258	0.371	0.037	0.028	0.341
88272	0.182	0.066	0.074	2.782	1.352	0.309	0.346	0.048	0.029	0.336
88273	0.196	0.062	0.077	2.642	1.274	0.263	0.326	0.059	0.031	0.350
88274	0.178	0.060	0.070	3.063	1.418	0.326	0.377	0.038	0.029	0.366
88275	0.196	0.058	0.093	2.662	1.290	0.251	0.318	0.039	0.027	0.347

表VII-14 上白滝8・上白滝6遺跡出土黒曜石製遺物の元素比分析結果(2)

分析 番号	元 素 比									
	Ca/K	Ti/K	Mn/Zr	Fe/Zr	Rb/Zr	Sr/Zr	Y/Zr	Nb/Zr	Al/K	Si/K
88276	0.194	0.060	0.075	2.783	1.404	0.320	0.403	0.103	0.032	0.336
88277	0.182	0.060	0.063	2.714	1.301	0.294	0.400	0.080	0.034	0.351
88278	0.186	0.059	0.050	2.783	1.263	0.264	0.317	0.068	0.028	0.340
88279	0.184	0.061	0.094	2.744	1.335	0.282	0.350	0.045	0.030	0.337
88280	0.190	0.059	0.073	2.959	1.357	0.268	0.284	0.020	0.032	0.349
88281	0.177	0.058	0.092	3.188	1.382	0.289	0.287	0.036	0.028	0.376
88282	0.144	0.025	0.143	3.097	1.812	0.122	0.540	0.045	0.035	0.347
88283	0.184	0.062	0.052	2.863	1.345	0.277	0.326	0.066	0.027	0.345
88284	0.178	0.062	0.074	2.650	1.250	0.282	0.340	0.088	0.029	0.350
88285	0.191	0.059	0.078	2.672	1.324	0.264	0.327	0.046	0.034	0.344
88286	0.189	0.056	0.071	2.887	1.340	0.297	0.351	0.038	0.026	0.343
88287	0.178	0.062	0.056	2.781	1.410	0.298	0.377	0.084	0.036	0.348
88288	0.167	0.058	0.069	2.971	1.392	0.295	0.372	0.000	0.036	0.359
88289	0.683	0.136	0.056	2.797	0.605	0.758	0.203	0.020	0.034	0.416
88290	0.195	0.057	0.089	2.688	1.349	0.311	0.349	0.054	0.025	0.349
88291	0.152	0.056	0.089	2.770	1.349	0.305	0.439	0.044	0.027	0.322
88292	0.190	0.061	0.075	2.757	1.307	0.268	0.374	0.077	0.025	0.342
88293	0.194	0.058	0.092	2.633	1.299	0.286	0.388	0.039	0.030	0.337
88294	0.164	0.062	0.063	2.640	1.360	0.286	0.382	0.016	0.027	0.347
88295	0.171	0.064	0.090	2.700	1.316	0.285	0.367	0.029	0.026	0.340
88296	0.193	0.063	0.090	2.627	1.322	0.300	0.446	0.000	0.027	0.345
88297	0.201	0.063	0.062	2.629	1.352	0.256	0.362	0.089	0.029	0.359
88298	0.193	0.057	0.073	2.700	1.297	0.271	0.371	0.062	0.028	0.346
88299	0.182	0.054	0.082	2.645	1.291	0.277	0.349	0.065	0.029	0.348
88300	0.196	0.061	0.085	2.853	1.370	0.253	0.351	0.104	0.029	0.348
88301	0.191	0.060	0.053	2.831	1.339	0.305	0.354	0.075	0.027	0.345
88302	0.203	0.057	0.077	2.326	1.231	0.294	0.350	0.063	0.027	0.350
88303	0.203	0.061	0.063	2.626	1.277	0.273	0.329	0.076	0.033	0.358
88304	0.177	0.062	0.055	2.230	1.230	0.252	0.313	0.035	0.027	0.321
88305	0.219	0.060	0.072	2.310	1.183	0.413	0.392	0.017	0.030	0.372
88306	0.173	0.063	0.082	2.532	1.234	0.289	0.400	0.088	0.030	0.342
88307	0.191	0.062	0.081	2.692	1.291	0.259	0.379	0.085	0.028	0.331
88308	0.189	0.065	0.072	2.221	1.196	0.245	0.303	0.076	0.028	0.326
JG-1	0.801	0.213	0.074	3.952	0.973	1.280	0.278	0.074	0.030	0.316

JG-1: 標準試料-Ando, A., Kurasawa, H., Ohmori, T. & Takeda, E. 1974 compilation of data on the GJS geochemical reference samples JG-1 granodiorite and JB-1 basalt. *Geochemical Journal*, Vol.8 175-192 (1974)

たがって、小さな遺物の産地推定を行ったときに、判定の信頼限界としている0.1%に達しない確率を示す場合が比較的多くみられる。この場合には、原石産地（確率）の欄の確率値に替えて、マハラノビスの距離D 2乗の値を記した。この遺物については、記入されたD 2乗の値が原石群の中で最も小さなD 2乗値で、この値が小さい程、遺物の元素組成はその原石群の組成と似ていると言えるため、推定確率は低いが、その原石産地と考えてほぼ間違いないと判断されたものである。白滝地域産黒曜石の中で、赤石山産原石の割れ面はガラス光沢を持っているが、元素組成が相互に似たあじさい滝、八号沢、白土沢、幌加沢などの群の原石は、あじさい滝、幌加沢産はガラス光沢を示し、八号沢、白土沢産は梨肌を示すため、原石産地の判定に梨肌か、ガラス光沢かを指標に加えた。また、赤井川および十勝産原石を使用した遺物の判定は複雑である。これは青森市戸門、鷹森山地区、浪岡町大釈迦より産出する黒曜石で作られた戸門第一、鷹森山、大釈迦の各群の組成が赤井川第一、二群、十勝三

表Ⅶ-15 上白滝8・上白滝6 遺跡出土黒曜石製遺物の原産地推定結果(1)

分析番号	試料番号	遺跡名	ブロック	グリット	遺物番号	母岩番号	接合番号	挿図番号	原産地(確率)	判定	遺物種名
63850	SHIRA X9	上白滝8	59	I47	5	-	-	IV-544-13	被熱?風化層厚い【十勝三股(48%),鷹森山(7%),戸門第I群(8%)】	十勝	小型舟底形石器
63851	SHIRA X10	上白滝8	59	I47	29	-	-	IV-544-12	被熱?風化層厚い【十勝三股(1%),戸門第I群(8%)】	十勝	小型舟底形石器
63852	SHIRA X11	上白滝8	17	K62	252	-	-	IV-209-1	十勝三股(36%)	十勝	有舌尖頭器
63946	SHIRA W5	上白滝8	9	L44	97	97	254	-	赤石山(38%)	赤石山	石核
63947	SHIRA W6	上白滝8	9	L43	69	-	-	IV-158-1	赤石山(73%)	赤石山	二次加工ある剥片
63948	SHIRA W7	上白滝8	9	L44	52	91	248	IV-158-8	赤石山(27%)	赤石山	二次加工ある剥片
63952	SHIRA W11	上白滝8	10	N48	99	-	198	IV-181-14	赤石山(94%)	赤石山	削器
63953	SHIRA W12	上白滝8	10	N47	146	-	50158	IV-182-23	赤石山(82%)	赤石山	鎌形石器
63954	SHIRA W13	上白滝8	10	O48	23	-	-	IV-183-32	赤石山(68%)	赤石山	石核
63955	SHIRA W14	上白滝8	17	H64	220	-	-	IV-216-104	赤石山(67%)	赤石山	細石刃核
63956	SHIRA W15	上白滝8	17	I64	941	-	2639	IV-216-111	赤石山(96%)	赤石山	細石刃核
63957	SHIRA W16	上白滝8	17	J64	80	-	2642	IV-216-106	赤石山(69%)	赤石山	細石刃核
63960	SHIRA W19	上白滝8	61	N44	3	-	54242	IV-555-19	赤石山(70%)	赤石山	ナイフ形石器
63961	SHIRA W20	上白滝8	61	O47	17	-	-	IV-554-1	赤石山(7%)	赤石山	ナイフ形石器
63962	SHIRA W21	上白滝8	61	O47	13	-	2790	IV-554-7	赤石山(28%)	赤石山	ナイフ形石器
88234	SHIRA X147	上白滝6	5	X17	28	-	-	V-11-23	所山(45%),常呂川第4群(8%),滝川第二群(3%)	所山	搔器
88235	SHIRA X148	上白滝6	5	W17	88	-	50083	V-11-25	所山(49%),常呂川第4群(44%),滝川第二群(6%)	所山	搔器
88236	SHIRA X149	上白滝6	5	W17	87	-	-	V-11-24	所山(30%),滝川第二群(21%),常呂川第4群(11%)	所山	搔器
88237	SHIRA X150	上白滝6	5	W17	12	-	-	V-11-27	常呂川第4群(85%),KS1遺物群(22%),滝川第二群(6%),所山(2%)	所山	つまみ付きナイフ
88238	SHIRA X151	上白滝6	5	W17	90	-	-	V-10-1	赤井川第一群(59%),赤井川第二群(42%),大釈迦(1%)	赤井川	石鎌
88239	SHIRA X152	上白滝6	5	W17	6	-	-	V-10-3	名寄第一群(60%),美蔓第一群(0.4%)	名寄	石鎌
88240	SHIRA X153	上白滝6	5	W17	92	-	-	V-10-2	名寄第一群(57%)	名寄	石鎌
88241	SHIRA X154	上白滝6	5	W17	7	-	-	V-10-4	名寄第一群(4%)	名寄	石鎌
88242	SHIRA X155	上白滝6	5	W17	8	-	-	V-10-5	赤井川第一群(94%),赤井川第二群(81%),大釈迦(10%),戸門第一群(14%)	赤井川	石鎌
88243	SHIRA X156	上白滝6	5	X17	21	-	50081	V-12-38	あじさい滝(8%),八号沢(2%)	あじさい滝	石刃
88244	SHIRA X157	上白滝6	5	W16	15	-	-	V-12-40	所山(47%),滝川第二群(12%),常呂川第4群(6%)	所山	石刃
88245	SHIRA X158	上白滝6	5	X16	64	-	-	V-12-42	所山(14%),常呂川第4群(6%),滝川第二群(3%)	所山	石刃
88246	SHIRA X159	上白滝6	5	V17	20	-	50082	V-12-43	白土沢(42%),8号沢(15%),あじさい滝(15%),幌加沢(11%)	あじさい滝	石刃
88247	SHIRA X160	上白滝6	5	Y16	1	-	-	V-12-33	常呂川第4群(73%),所山(48%),滝川第二群(5%)	所山	削器
88248	SHIRA X161	上白滝6	5	V17	17	-	-	V-12-34	8号沢(1%),あじさい滝(1%),幌加沢(1%)	あじさい滝	削器
88256	SHIRA X169	上白滝8	6	I59	142	56	141	-	あじさい滝(20%),幌加沢(23%),八号沢(4%),白土沢(0.1%)	あじさい滝	剥片
88257	SHIRA X170	上白滝8	3	J65	1	17	34	-	赤石山(62%)	赤石山	剥片
88258	SHIRA X171	上白滝8	9	K44	14	87	244	-	赤石山(0.4%)	赤石山	剥片
88259	SHIRA X172	上白滝8	-	K53	I-54	-	-	IV-433-163	所山(63%),常呂川第4群(16%),滝川第二群(1%)	所山	舟底形石器
88260	SHIRA X173	上白滝8	44	L52	460	-	-	IV-429-119	赤井川第一群(87%),赤井川第二群(20%),大釈迦(2%),十勝三股(0.7%)	赤井川	搔器
88261	SHIRA X174	上白滝8	46	L54	33	-	-	IV-430-128	所山(67%),常呂川第4群(10%),滝川第二群(3%)	所山	搔器
88262	SHIRA X175	上白滝8	37	K57	125	-	-	IV-429-126	幌加沢(6%),あじさい滝(3%),8号沢(0.8%)	あじさい滝	搔器
88263	SHIRA X176	上白滝8	46	M53	11	-	-	IV-430-131	ケンヨマップ第二群(49%),台場第二群(9%),FR2遺物群(1%)	ケンヨマップ	搔器
88264	SHIRA H109	上白滝6	-	W17	91	-	-	V-11-28	所山(29%),常呂川第4群(30%),滝川第二群(5%)	所山	つまみ付きナイフ
88265	SHIRA H110	上白滝6	5	W17	9	-	-	V-10-7	所山(11%),常呂川第4群(7%),滝川第二群(1%)	所山	石刃鎌
88266	SHIRA H111	上白滝6	5	W16	56	-	-	V-10-11	十勝三股(6%),大釈迦(3%),鷹森山(2%)	十勝	石刃鎌
88267	SHIRA H112	上白滝6	5	W17	11	-	50085	V-10-19	所山(82%),常呂川第4群(15%),滝川第二群(6%)	所山	尖頭器
88268	SHIRA H113	上白滝6	-	W17	89	-	-	V-12-30	所山(3%),常呂川第4群(1%),滝川第二群(0.5%)	所山	削器
88269	SHIRA H114	上白滝8	1	H66	374	1	1	-	赤石山(15%)	赤石山	剥片
88270	SHIRA H115	上白滝8	1	H66	365	4	4	-	赤石山(24%)	赤石山	剥片
88271	SHIRA H116	上白滝8	1	I67	229	7	7	-	赤石山(42%),ST139遺物群(0.2%)	赤石山	剥片
88272	SHIRA H117	上白滝8	5	M62	380	21	47	-	赤石山(58%),ST139遺物群(0.2%)	赤石山	剥片
88273	SHIRA H118	上白滝8	5	M63	1095	26	64	-	赤石山(82%),ST139遺物群(0.3%)	赤石山	剥片
88274	SHIRA H119	上白滝8	5	M64	55	30	68	-	赤石山(7%)	赤石山	剥片
88275	SHIRA H120	上白滝8	5	L62	849	36	74	-	赤石山(24%)	赤石山	剥片
88276	SHIRA H121	上白滝8	6	J58	123	49	116	-	赤石山(35%)	赤石山	剥片

表Ⅶ-16 上白滝8・上白滝6遺跡出土黒曜石製遺物の原産地推定結果(2)

分析番号	試料番号	遺跡名	ブロック	グリット	遺物番号	母岩番号	接合番号	挿図番号	原産地(確率)	判定	遺物種類
88277	SHIRA H122	上白滝8	6	J59	206	51	130	-	赤石山(69%)	赤石山	剥片
88278	SHIRA H123	上白滝8	8	H56	19	60	161	-	赤石山(30%)	赤石山	剥片
88279	SHIRA H124	上白滝8	8	H56	154	69	176	-	赤石山(92%)	赤石山	剥片
88280	SHIRA H125	上白滝8	8	I56	634	70	177	-	赤石山(7%)	赤石山	剥片
88281	SHIRA H126	上白滝8	9	K45	26	86	242	-	赤石山(1%)	赤石山	剥片
88282	SHIRA H127	上白滝8	10	O48	53	73	180	-	あじさい滝(19%),八号沢(11%),幌加沢(2%),白土沢(0.1%)	あじさい滝	剥片
88283	SHIRA H128	上白滝8	12	Q41	1	459	278	-	赤石山(41%)	赤石山	剥片
88284	SHIRA H129	上白滝8	12	P42	6	462	285	-	赤石山(91%)	赤石山	剥片
88285	SHIRA H130	上白滝8	12	P42	9	465	289	-	赤石山(81%),ST139遺物群(0.2%)	赤石山	剥片
88286	SHIRA H131	上白滝8	32	H58	130	260	1464	-	赤石山(33%)	赤石山	剥片
88287	SHIRA H132	上白滝8	34	H57	1952	259	1456	-	赤石山(40%)	赤石山	剥片
88288	SHIRA H133	上白滝8	33	H57	1020	289	1557	-	赤石山(7%)	赤石山	剥片
88289	SHIRA H134	上白滝8	21	N64	48	214	1324	Ⅳ-308-59	ケショマップ第二群(32%),FR2遺物群(10%),FR1遺物群(4%)	ケショマップ	削片
88290	SHIRA H135	上白滝8	27	O60	220	451	2028	Ⅳ-309-61	赤石山(45%)	赤石山	削片
88291	SHIRA H136	上白滝8	17	J64	53	-	2657	Ⅳ-221-193	赤石山(3%)	赤石山	削片
88292	SHIRA H137	上白滝8	-	J69	下-3	-	-	Ⅳ-577-35	赤石山(83%)	赤石山	細石刃核
88293	SHIRA H138	上白滝8	-	K74	上-1	-	-	Ⅳ-577-37	赤石山(35%)	赤石山	細石刃核
88294	SHIRA H139	上白滝8	-	K70	上-2	-	2636	Ⅳ-579-52	赤石山(27%)	赤石山	削片
88295	SHIRA H140	上白滝8	61	O43	31	412	1922	-	赤石山(77%)	赤石山	剥片
88296	SHIRA H141	上白滝8	47	N51	623	268	1491	-	赤石山(1%),ST139遺物群(0.2%)	赤石山	剥片
88297	SHIRA H142	上白滝8	44	K53	671	293	1579	-	赤石山(17%),ST139遺物群(0.7%)	赤石山	剥片
88298	SHIRA H143	上白滝8	47	P51	386	353	1726	-	赤石山(69%)	赤石山	縦長剥片
88299	SHIRA H144	上白滝8	27	O59	103	201	1278	-	赤石山(54%)	赤石山	剥片
88300	SHIRA H145	上白滝8	27	Q60	1550	243	1409	-	赤石山(19%)	赤石山	剥片
88301	SHIRA H146	上白滝8	-	Q68	上-9	195	1267	-	赤石山(38%)	赤石山	剥片
88302	SHIRA H147	上白滝8	60	L46	103	413	1925	-	赤石山(5%),ST139遺物群(0.1%)	赤石山	剥片
88303	SHIRA H148	上白滝8	60	L46	275	422	1942	-	赤石山(67%),ST139遺物群(0.1%)	赤石山	剥片
88304	SHIRA H149	上白滝8	57	I49	117	416	1930	-	赤石山(5%),ST139遺物群(0.1%)	赤石山	剥片
88305	SHIRA H150	上白滝8	17	K62	252	-	-	Ⅳ-209-1	十勝三股(10%),鷹森山(0.3%)	十勝	有舌尖頭器
88306	SHIRA H151	上白滝8	47	O52	933	452	2029	-	赤石山(33%)	赤石山	剥片
88307	SHIRA H152	上白滝8	-	H53	I-128	291	1572	-	赤石山(60%)	赤石山	剥片
88308	SHIRA H153	上白滝8	47	O52	225	142	1142	-	赤石山(7%),ST139遺物群(0.6%)	赤石山	剥片

股群に比較的似ているために、遺物の産地を同定したときに、戸門原産地と赤井川または十勝産地、またこれら3ヶ所の原産地に同時に同定される場合がしばしば見られる。戸門産地の原石が使用されたか否かは、一遺跡で多数の遺物を分析し戸門第一群と第二群に同定される頻度を求め、これを戸門産地における第一群(50%)と第二群(50%)の産出頻度と比較し戸門産地の原石である可能性を推定する。今回分析した遺物のなかに全く戸門第二群に帰属される遺物が見られないことから戸門産地からの原石は使用されなかったと推測できる。また浪岡町大釈迦産原石は非常に小さい原石が多く使用された可能性は低いと思われる。また、赤井川第一または二群に高確率で同定され、大釈迦、戸門と十勝産地に同定された確率は赤井川に比べて十分の一~百分の一がほとんどで、分析番号88242、88260は赤井川産の、88266、88305番には十勝産の原石がそれぞれ使用されていたと判定した。また、赤石山、八号沢・白土沢、あじさい滝、幌加沢群、ケショマップ第二群に一致する組成の原石は白滝地域、ケショマップ産地以外に湧別川下流域でも円礫状で原石が採取される(表Ⅶ-11)。

また、所山群、置戸山群、ケショマップ第二群、割れ面が梨肌の親指大の八号沢群に一致する組成の円礫状の原石が北見・常呂川流域で採取される(表Ⅶ-12)。分析した遺物が、白滝地域、置戸地域、

留辺蘂・ケシヨマップ地域の露頭産か、また湧別川下流域、常呂川流域産の何れかの産地から伝播したかを推測するには、多数の遺物を分析して、各産地群に同定される頻度を求め、湧別川、常呂川採取黒曜石原石の頻度分布と比較して決定される。原石・遺物群の中で、所山群、常呂川第4群、KS1遺物群、滝川第二群は相互に組成が似ていて、水和層の影響（K元素比が少し小さくなる傾向）を受けた黒曜石製遺物では、複数の産地に同時に信頼限界の0.1%を越えて同定される。複数の群に同定されたとき、遺物に原石の自然面が残る場合は円礫か、角礫かで、河川産か、露頭産を判断する。

今回分析した上白滝6 遺跡出土の黒曜石製石器、剥片の20個の中で所山産が55%（11個）、名寄産とあじさい滝産が15%（3個）で、赤井川産が10%（2個）、十勝産が5%（1個）と同定された。所山産と同定された11個が常呂川流域から採取された可能性は否定できないが、20個の遺物の中に常呂川流域でのみ見られる常呂川第1、2、3群が見られないことから、常呂川流域から採取した証拠はない。また、上白滝8 遺跡出土の黒曜石製石器、剥片の70個の中で、赤石山産が80%（56個）、あじさい滝産が6%（4個）、所山産とケシヨマップ産がそれぞれ3%（2個）、十勝産は3%（2個）であるが、原石産地不明で札幌K19遺物群と判定した分析番号63850、6385番は軽元素を抜いて判定を行うと十勝三股、松浦第一群、戸門第一群の複数の原石群に同定され1カ所に特定できない。これら複数の原石産地の中で上白滝8 遺跡で使用されている産地は十勝産原石であることから、十勝産地と判定すると、十勝産は6%（4個）になる。赤井川産と原産地不明のFR2群は1%（1個）であった。

#### （4）非破壊分析による黒曜石製遺物の水和層測定

今回分析した遺物は上白滝6 遺跡出土黒曜石製石器5個、上白滝8 遺跡出土の黒曜石製石器、剥片57個の合計62個について非破壊分析による水和層の厚さの結果が得られたので報告する。

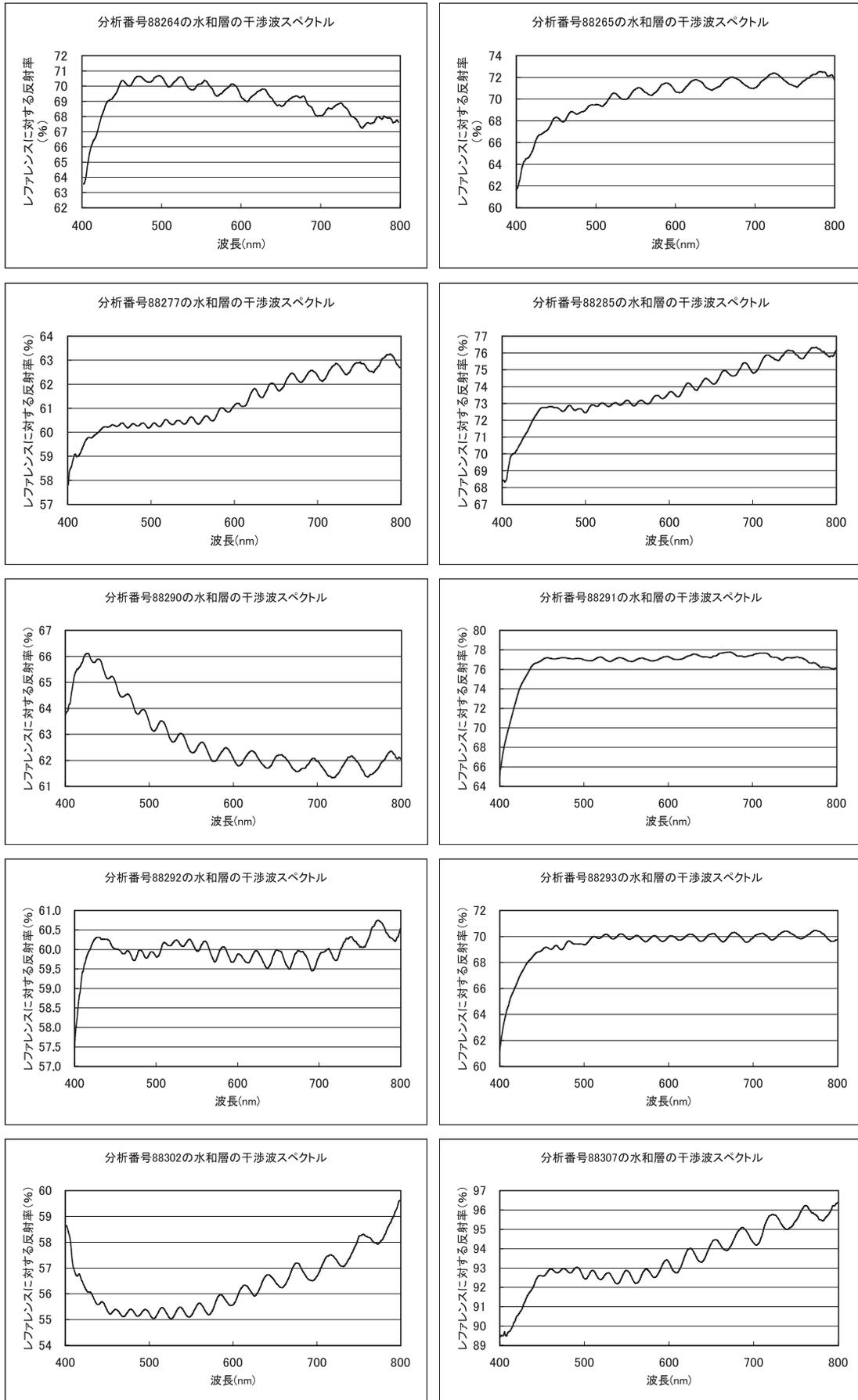
分析は黒曜石の表面に顕微鏡を通して光を照射したときに、黒曜石の表面で反射する光と、水和層で反射する光で生じる干渉波の波長から水和層の厚さを求める方法。光の反射を利用するため、遺物の表面にできた使用痕および埋土中にできた摩耗傷などが水和層測定の障害になり測定できない場合が多々ある。また、水和層と新鮮面との境界面での反射光が非常に弱いため、境界面が明確に発達した部分を探して測定しなければならない。従って、傷のない場所を顕微鏡下で探して分析を行うため、試料によっては1個に三時間以上かかることもある。石器について2～3ヶ所を分析し、代表的な水和層の干渉波スペクトルを選択し図Ⅶ-8に示した。また分析値の最大、中間、最小値を選んで表Ⅶ-17に記した。水和層の厚さを経過年代に換算するには、水和層を分析した黒曜石の経過年代を炭素-14法、フィッシュトラック法で求めた絶対年代から、水和速度を求めて行う。この水和速度は黒曜石の埋土中に受ける温度によって異なるため、黒曜石が環境から受けた温度を正確に求めなければ、正確な年代の換算はできない。従って、遺物が経過した年代の間に受けた温度を約7.5℃を平均効果温度として水和速度<sup>6)</sup>を推定したとき、赤石山産・八号沢(あじさい滝)産原石は1.48 ( $\mu^2/1000$ 年)、所山産原石は1.35、十勝産は1.56、縄文時代(約8.5℃)では、十勝産は1.75 ( $\mu^2/1000$ 年)、所山産は1.517 ( $\mu^2/1000$ 年)を用いて下記の式により水和層厚を経過年代に換算した。

$$\text{推定換算年代 (千年)} = \frac{\text{測定水和層厚} (\mu\text{m}) \times \text{測定水和層厚} (\mu\text{m})}{\text{水和速度} (\mu^2/1000\text{年})}$$

今回非破壊分析で水和層が測定できた遺物の経過年代の結果を表Ⅶ-17に示した。水和層厚を経過年代に換算するときの重要な係数である水和速度を決める重要な要因は、黒曜石の化学組成と温度で

表VII-17 上白滝8・上白滝6遺跡出土黒曜石製遺物の水和層厚測定結果

分析番号	試料番号	遺跡名	ブロック	グリット	遺物番号	母岩番号	接合番号	挿図番号	判定	水和層の厚さ3ヶ所測定 ( $\mu\text{m}$ )			経過年代 (B.P.)	水和速度 ( $\mu\text{m}/1000\text{年}$ )	遺物名
63946	SHIRA W5	上白滝8	9	L44	97	97	254	-	赤石山	5.09	5.08	4.65	16,467 $\pm$ 1,349	1.48	石核
63947	SHIRA W6	上白滝8	9	L43	69	-	-	IV-158-1	赤石山	5.53	5.44	5.18	19,546 $\pm$ 1,072	1.48	二次加工ある剥片
63948	SHIRA W7	上白滝8	9	L44	52	91	248	IV-158-8	赤石山	3.42	4.02	2.99	8,238 $\pm$ 2,010	1.48	二次加工ある剥片
63952	SHIRA W11	上白滝8	10	N48	99	-	198	IV-181-14	赤石山	3.69	3.98	4.68	11,517 $\pm$ 2,366	1.48	削器
63953	SHIRA W12	上白滝8	10	N47	146	-	50158	IV-182-23	赤石山	4.92	4.9	4.55	15,472 $\pm$ 1,086	1.48	錐形石器
63954	SHIRA W13	上白滝8	10	O48	23	-	-	IV-183-32	赤石山	4.89	5.02	5.15	16,985 $\pm$ 720	1.48	石核
63955	SHIRA W14	上白滝8	17	H64	220	-	-	IV-216-104	赤石山	3.86	3.81	3.64	9,559 $\pm$ 476	1.48	細石刃核
63956	SHIRA W15	上白滝8	17	I64	941	-	2639	IV-216-111	赤石山	4.33	4.33	4.25	12,463 $\pm$ 219	1.48	細石刃核
63957	SHIRA W16	上白滝8	17	J64	80	-	2642	IV-216-106	赤石山	4.69	4.8	4.45	14,553 $\pm$ 912	1.48	細石刃核
63960	SHIRA W19	上白滝8	61	N44	3	-	54242	IV-555-19	赤石山	4.17	4.35	4.41	12,508 $\pm$ 590	1.48	ナイフ形石器
63961	SHIRA W20	上白滝8	61	O47	17	-	-	IV-554-1	赤石山	4.52	4.29	4.27	12,803 $\pm$ 674	1.48	ナイフ形石器
63962	SHIRA W21	上白滝8	61	O47	13	-	2790	IV-554-7	赤石山	4.57	4.3	4.09	12,586 $\pm$ 1,151	1.48	ナイフ形石器
88264	SHIRA H109	上白滝6	5	W17	91	-	-	V-11-28	所山	3.1278	3.1559	3.11	6,410 $\pm$ 78	1.517	つまみ付きナイフ
88265	SHIRA H110	上白滝6	5	W17	9	-	-	V-10-7	所山	3.1551	3.1252	3.2788	6,643 $\pm$ 281	1.517	石刃鏃
88266	SHIRA H111	上白滝6	5	W16	56	-	-	V-10-11	十勝	3.0286	2.767	2.7883	4,633 $\pm$ 393	1.75	石刃鏃
88267	SHIRA H112	上白滝6	5	W17	11	-	50085	V-10-19	所山	3.1841	3.2344	2.9566	6,394 $\pm$ 492	1.517	尖頭器
88268	SHIRA H113	上白滝6	5	W17	89	-	-	V-12-30	所山	3.1207	3.0534	2.872	5,948 $\pm$ 414	1.517	削器
88269	SHIRA H114	上白滝8	1	H66	374	1	1	-	赤石山	4.3407	4.1436	4.2084	12,046 $\pm$ 471	1.48	剥片
88270	SHIRA H115	上白滝8	1	H66	365	4	4	-	赤石山	5.4028	5.5519	5.7631	20,944 $\pm$ 1,116	1.48	剥片
88271	SHIRA H116	上白滝8	1	I67	229	7	7	-	赤石山	5.9453	5.8627	5.8972	23,482 $\pm$ 270	1.48	剥片
88272	SHIRA H117	上白滝8	5	M62	380	21	47	-	赤石山	4.2752	4.1172	3.8282	11,182 $\pm$ 1,011	1.48	剥片
88273	SHIRA H118	上白滝8	5	M63	1095	26	64	-	赤石山	測定不能				1.48	剥片
88274	SHIRA H119	上白滝8	5	M64	55	30	68	-	赤石山	3.9456	4.1332	4.4609	11,783 $\pm$ 1,213	1.48	剥片
88275	SHIRA H120	上白滝8	5	L62	849	36	74	-	赤石山	4.9332	4.9406	5.4941	17,724 $\pm$ 1,851	1.48	剥片
88276	SHIRA H121	上白滝8	6	J58	123	49	116	-	赤石山	4.2051	3.983	4.3279	11,721 $\pm$ 800	1.48	剥片
88277	SHIRA H122	上白滝8	6	J59	206	51	130	-	赤石山	6.2892	5.8978	6.2992	25,627 $\pm$ 1,540	1.48	剥片
88278	SHIRA H123	上白滝8	8	H56	19	60	161	-	赤石山	4.6513	4.9482	4.3976	14,690 $\pm$ 1,422	1.48	剥片
88279	SHIRA H124	上白滝8	8	H56	154	69	176	-	赤石山	4.4425	4.15	4.921	13,725 $\pm$ 1,954	1.48	剥片
88280	SHIRA H125	上白滝8	8	I56	634	70	177	-	赤石山	3.9607	4.0788	4.1481	11,103 $\pm$ 423	1.48	剥片
88281	SHIRA H126	上白滝8	9	K45	26	86	242	-	赤石山	4.2082	4.3646	4.3742	12,535 $\pm$ 441	1.48	剥片
88282	SHIRA H127	上白滝8	10	O48	53	73	180	-	あじさい滝	5.0229	4.8926	4.4918	15,565 $\pm$ 1,448	1.48	剥片
88283	SHIRA H128	上白滝8	12	Q41	1	459	278	-	赤石山	5.3949	5.5334	5.7105	20,743 $\pm$ 970	1.48	剥片
88284	SHIRA H129	上白滝8	12	P42	6	462	285	-	赤石山	5.2762	4.9233	5.7222	19,051 $\pm$ 2,355	1.48	剥片
88285	SHIRA H130	上白滝8	12	P42	9	465	289	-	赤石山	6.274	6.4515	5.9183	26,076 $\pm$ 1,849	1.48	剥片
88286	SHIRA H131	上白滝8	32	H58	130	260	1464	-	赤石山	4.5477	4.5363	4.2964	13,397 $\pm$ 692	1.48	剥片
88287	SHIRA H132	上白滝8	34	H57	1952	259	1456	-	赤石山	3.8676	3.881	3.7395	9,858 $\pm$ 328	1.48	剥片
88288	SHIRA H133	上白滝8	33	H57	1020	289	1557	-	赤石山	4.5262	4.4744	4.2379	13,115 $\pm$ 742	1.48	剥片
88289	SHIRA H134	上白滝8	21	N64	48	214	1324	IV-308-59	ケショマップ	測定不能					削片
88290	SHIRA H135	上白滝8	27	O60	220	451	2028	IV-309-61	赤石山	3.9523	3.8972	4.046	10,573 $\pm$ 330	1.48	削片
88291	SHIRA H136	上白滝8	17	J64	53	-	2657	IV-221-193	赤石山	3.9357	3.8337	3.9056	10,181 $\pm$ 224	1.48	削片
88292	SHIRA H137	上白滝8	-	J69	下-3	-	-	IV-577-35	赤石山	5.5917	5.5464	5.1254	19,834 $\pm$ 1,518	1.48	細石刃核
88293	SHIRA H138	上白滝8	-	K74	上-1	-	-	IV-577-37	赤石山	5.5501	5.25	5.4973	19,899 $\pm$ 953	1.48	細石刃核
88294	SHIRA H139	上白滝8	-	K70	上-2	-	2636	IV-579-52	赤石山	5.5561	5.5161	5.9521	21,732 $\pm$ 1,527	1.48	削片
88295	SHIRA H140	上白滝8	61	O43	31	412	1922	-	赤石山	4.8763	4.6313	4.3834	14,461 $\pm$ 1,259	1.48	剥片
88296	SHIRA H141	上白滝8	47	N51	623	268	1491	-	赤石山	5.6886	5.67	5.5494	21,412 $\pm$ 468	1.48	剥片
88297	SHIRA H142	上白滝8	44	K53	671	293	1579	-	赤石山	5.4725	5.5096	5.2234	19,674 $\pm$ 920	1.48	剥片
88298	SHIRA H143	上白滝8	47	P51	386	353	1726	-	赤石山	6.6479	6.1979	6.3926	27,756 $\pm$ 1,601	1.48	縦長剥片
88299	SHIRA H144	上白滝8	27	O59	103	201	1278	-	赤石山	4.1357	3.9108	4.2309	11,276 $\pm$ 737	1.48	剥片
88300	SHIRA H145	上白滝8	27	Q60	1550	243	1409	-	赤石山	5.0716	4.6601	4.9484	16,146 $\pm$ 1,131	1.48	剥片
88301	SHIRA H146	上白滝8	-	Q68	上-9	195	1267	-	赤石山	5.5137	5.5234	6.2687	22,516 $\pm$ 2,817	1.48	剥片
88302	SHIRA H147	上白滝8	60	L46	103	413	1925	-	赤石山	4.3301	4.9331	4.6231	14,465 $\pm$ 1,542	1.48	剥片
88303	SHIRA H148	上白滝8	60	L46	275	422	1942	-	赤石山	5.1109	5.484	5.8827	20,398 $\pm$ 2,342	1.48	剥片
88304	SHIRA H149	上白滝8	57	I49	117	416	1930	-	赤石山	6.0353	5.9875	5.947	24,191 $\pm$ 292	1.48	剥片
88305	SHIRA H150	上白滝8	17	K62	252	-	-	IV-209-1	十勝	4.3384	4.2409	4.2233	11,623 $\pm$ 278	1.56	有舌尖頭器
88306	SHIRA H151	上白滝8	47	O52	933	452	2029	-	赤石山	6.055	6.3089	6.095	25,536 $\pm$ 932	1.48	剥片
88307	SHIRA H152	上白滝8	-	H53	I-128	291	1572	-	赤石山	4.6219	4.5903	4.5567	14,180 $\pm$ 165	1.48	剥片
88308	SHIRA H153	上白滝8	47	O52	225	142	1142	-	赤石山	5.6276	5.6185	6.0611	22,464 $\pm$ 1,630	1.48	剥片



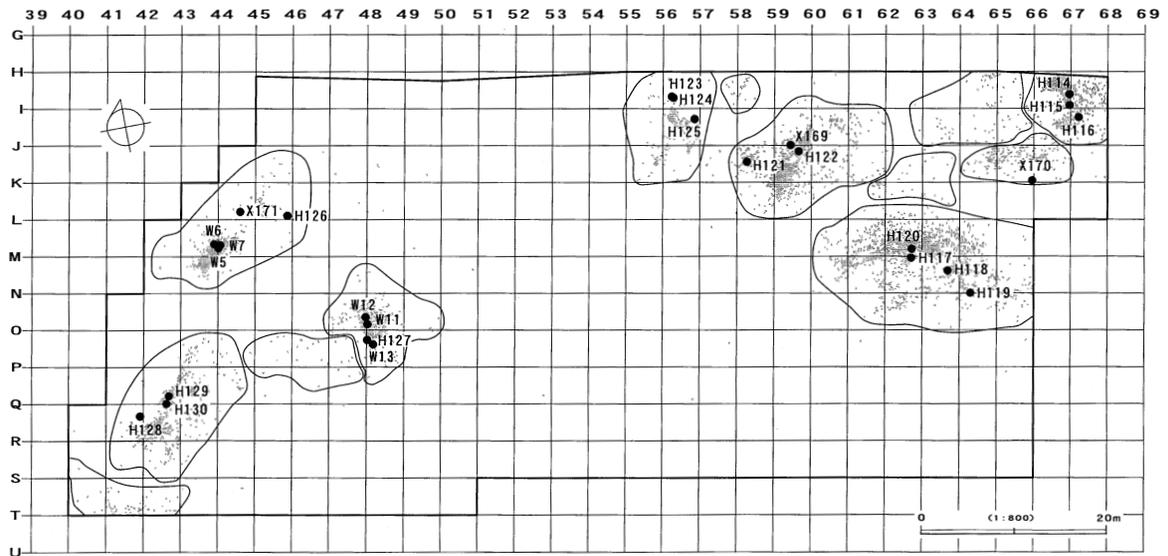
図Ⅶ-8 黒曜石水和層の干渉波スペクトル

あるため、自然科学者の実験室で水和実験によって水和速度を決定できるが、国内産黒曜石に関して研究はそこまで進んでいないのが現状である。現在は水和速度の決定については考古学者の協力なしでは決定できない。実験室での水和層生成が困難である限り、水和速度の決定の舞台は遺跡になる。今回の年代が炭素-14年代に比べて古すぎる場合は、温泉地とか温度の高い地下水などで埋土中の遺物温度が異常に高かったことが推測され、水和層は非常に厚くなり推定換算年代は古くなる。これは遺物の埋土位置の地温測定で推測できるが、しかし、過去の地温の測定はできない。炭素-14年代などで年代の分かる層から出土する黒曜石の水和層から水和速度を決定するため、発掘が重要な鍵を握ることは言うまでもない。石器の組成（原産地）さえ分かれば、考古学者が炭素-14年代と水和層のデータを集積し整理するだけで、正確な水和層年代が得られるようになる。これら考古学的作業により求められた水和速度は、水和機構（理論）が証明されていないが、考古学試料として実用するには問題ないと推測できる。したがって、水和層年代は考古学者が企画するだけで実用的な年代が得られるため、将来、水和層年代が石器における土器編年のように身近な存在になると推測できる。

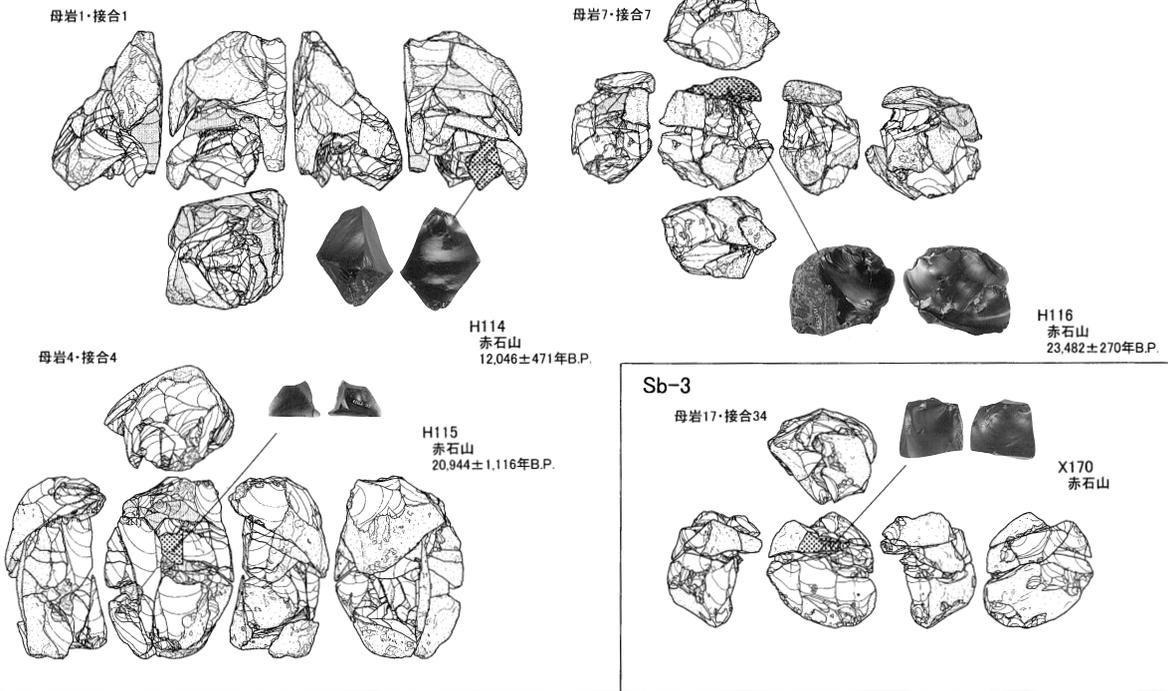
### 参考文献

- 1) 藁科哲男・東村武信(1975), 蛍光X線分析法によるサヌカイト石器の原産地推定(II)。考古学と自然科学, 8:61-69
- 2) 藁科哲男・東村武信・鎌木義昌(1977), (1978), 蛍光X線分析法によるサヌカイト石器の原産地推定(III)。(IV)。考古学と自然科学, 10, 11:53-81:33-47
- 3) 藁科哲男・東村武信(1983), 石器原材の産地分析。考古学と自然科学, 16:59-89
- 4) 東村武信(1976), 産地推定における統計的手法。考古学と自然科学, 9:77-90
- 5) 東村武信(1990), 考古学と物理化学。学生社
- 6) 近堂祐弘(1986), 北海道における黒曜石年代測定法について。北海道考古学, 22:1~15

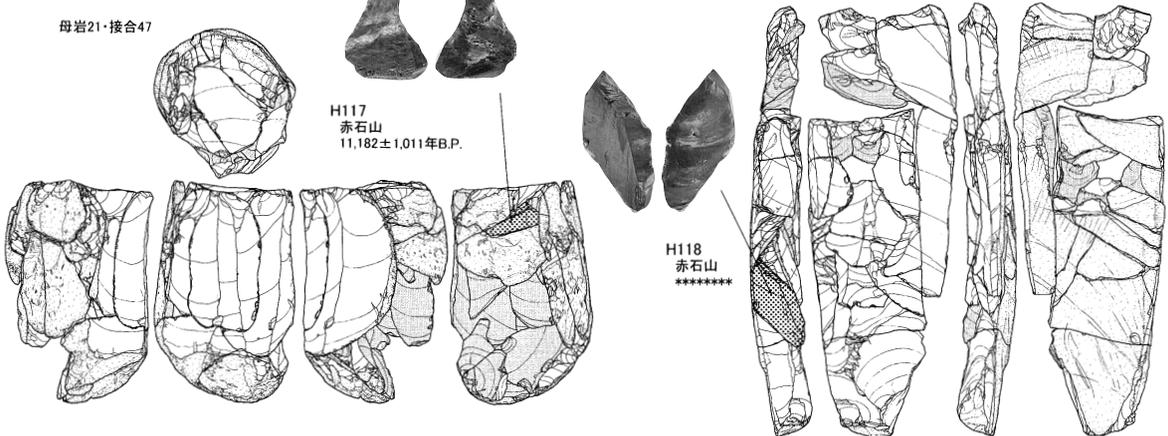
上白滝8 遺跡



Sb-1

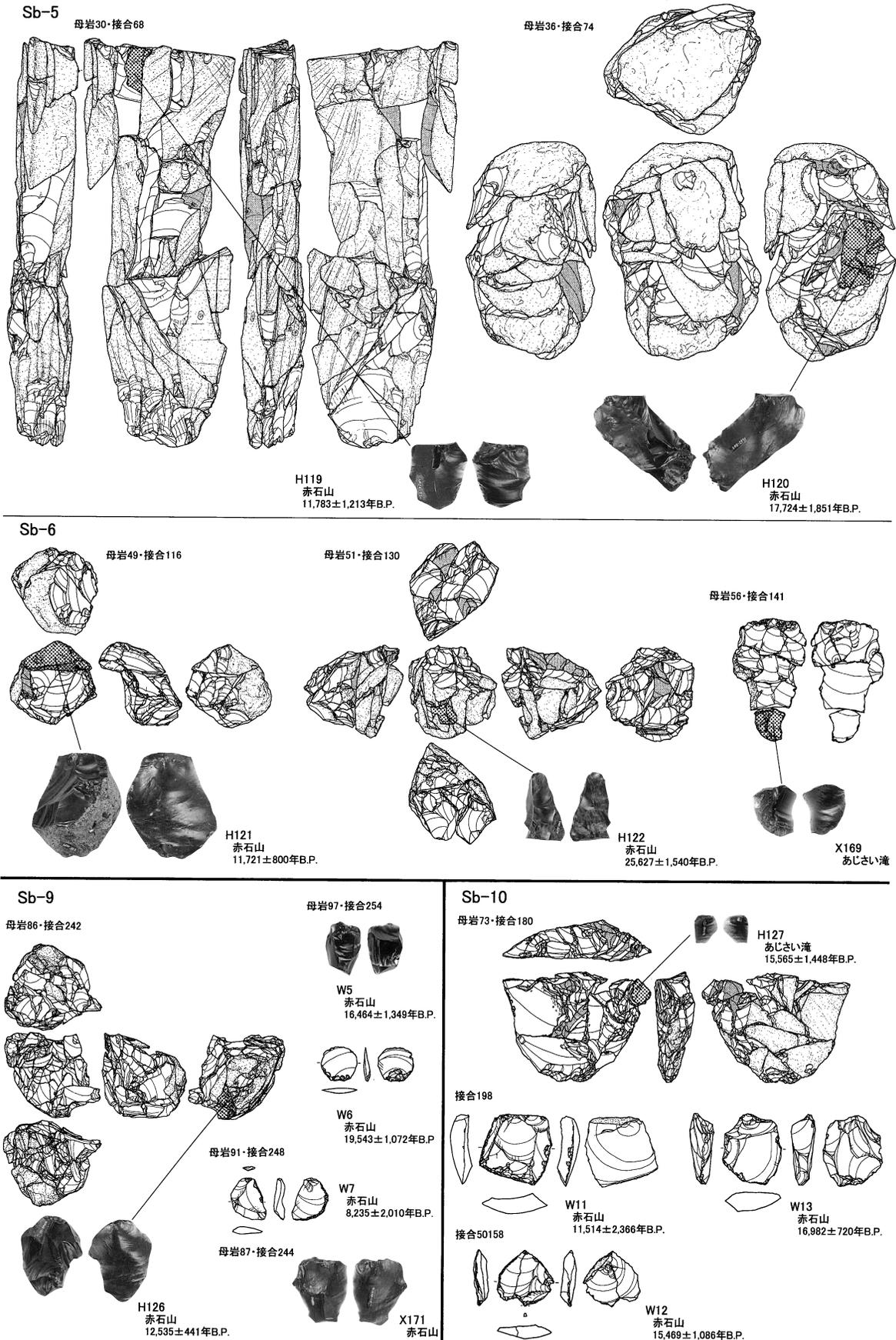


Sb-5



図Ⅶ-9 産地分析・水和層測定試料(1)

上白滝 8 遺跡



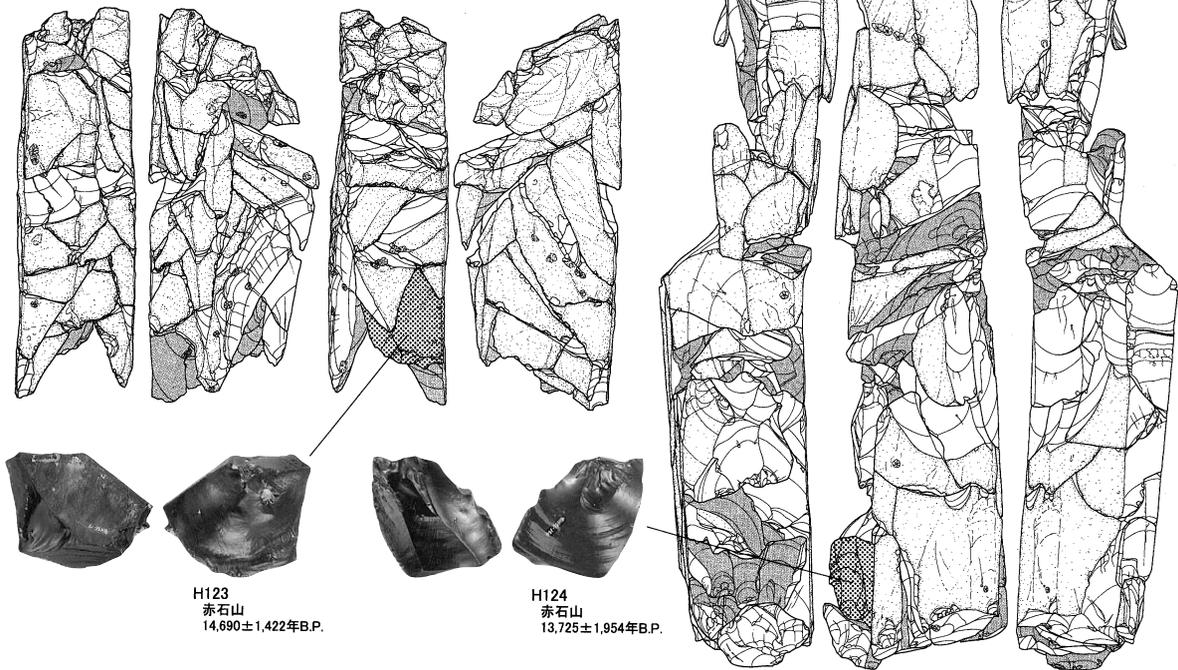
図Ⅶ-10 産地分析・水和層測定試料(2)

上白滝8 遺跡

Sb-8

母岩60・接合161

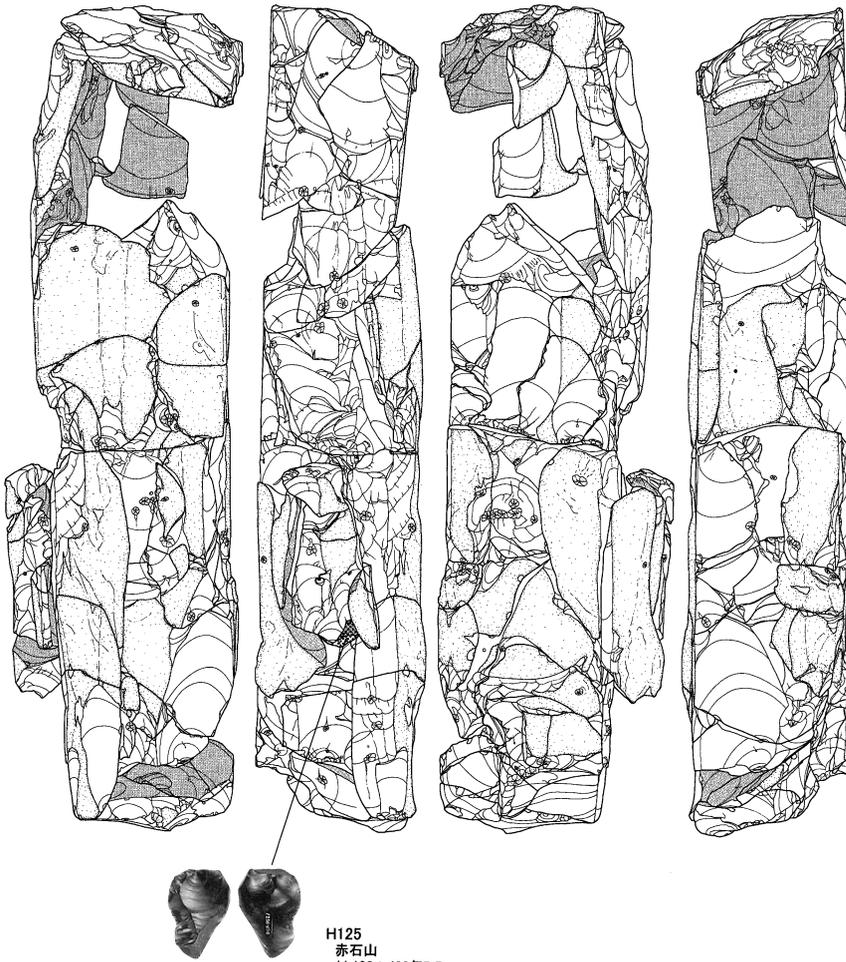
母岩69・接合176



H123  
赤石山  
14,690±1,422年B.P.

H124  
赤石山  
13,725±1,954年B.P.

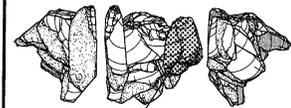
母岩70・接合177



H125  
赤石山  
11,103±423年B.P.

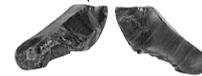
Sb-12

母岩459・接合278



H128  
赤石山  
20,743±970年B.P.

母岩462・接合285



H129  
赤石山  
19,051±2,355年B.P.

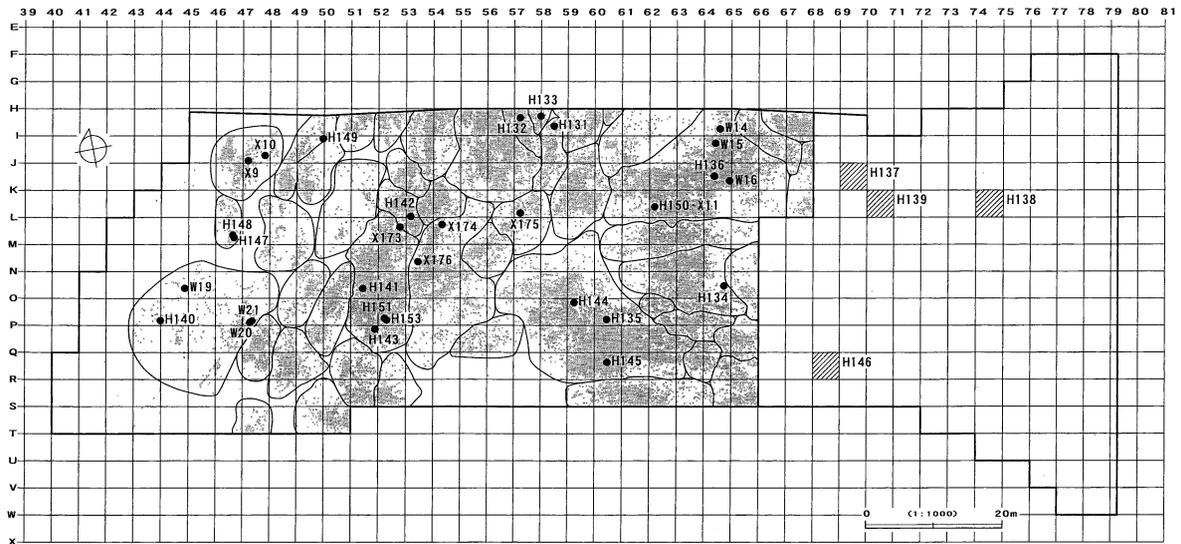
母岩465・接合289



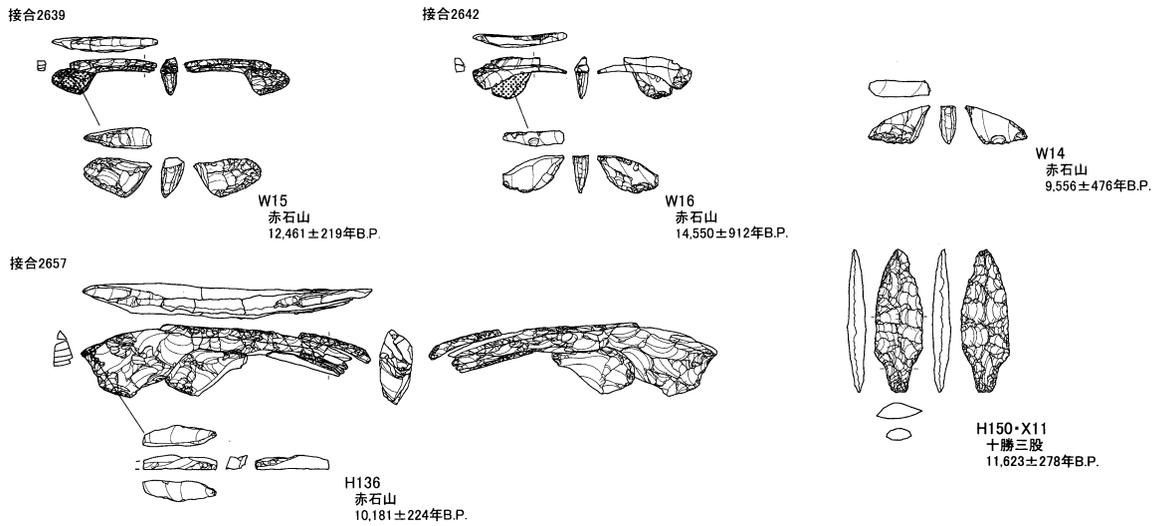
H130  
赤石山  
26,076±1,849年B.P.

図Ⅶ-11 産地分析・水和層測定試料(3)

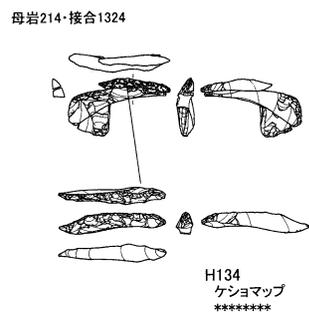
上白滝 8 遺跡



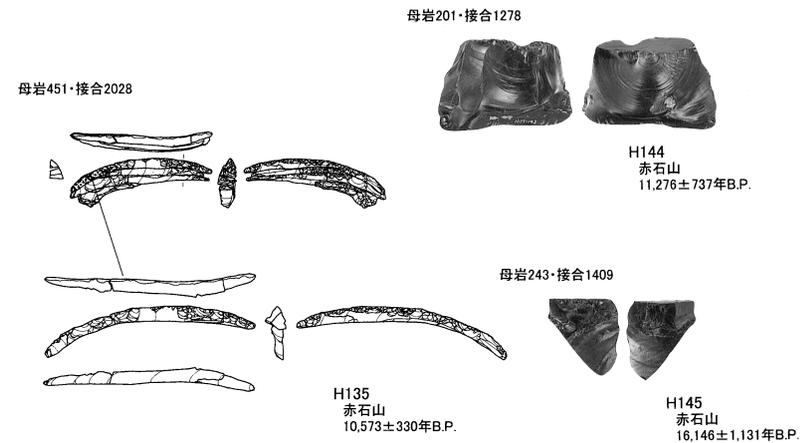
Sb-17



Sb-21



Sb-27

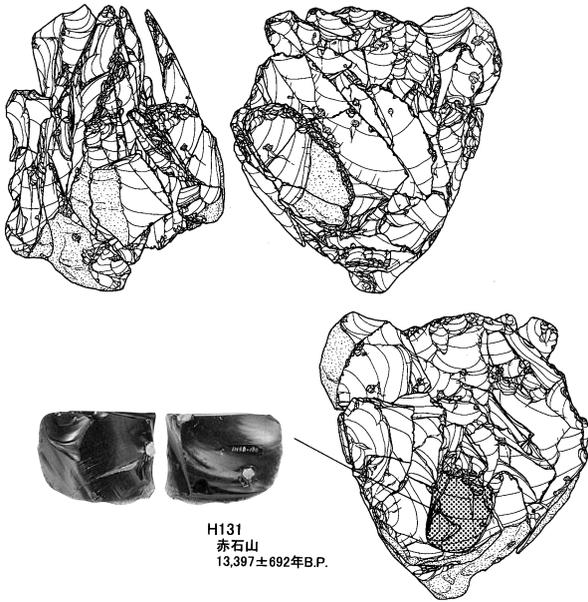


図Ⅶ-12 産地分析・水和層測定試料(4)

上白滝8遺跡

Sb-32

母岩260・接合1464



H131  
赤石山  
13,397±692年B.P.

Sb-33

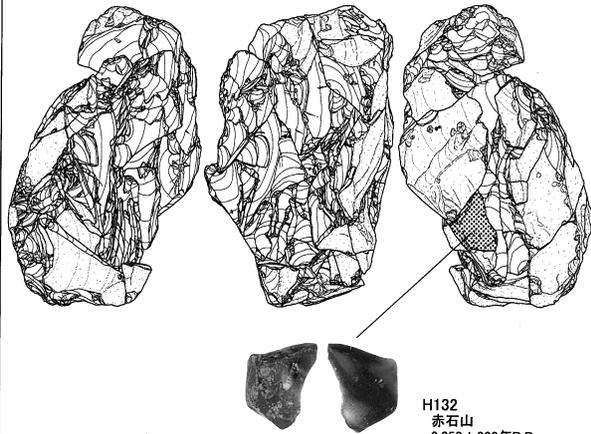
母岩289・接合1557



H133  
赤石山  
13,115±742年B.P.

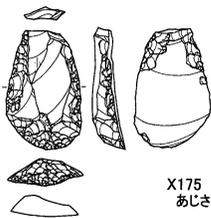
Sb-34

母岩259・接合1456



H132  
赤石山  
9,858±328年B.P.

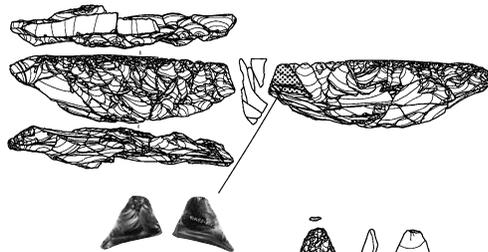
Sb-37



X175  
あじさい滝

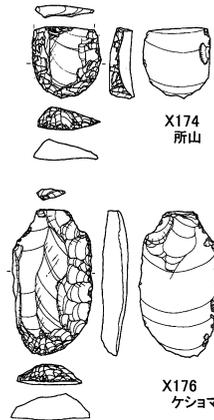
Sb-44

母岩293・接合1579



H142  
赤石山  
19,674±920年B.P.

Sb-46

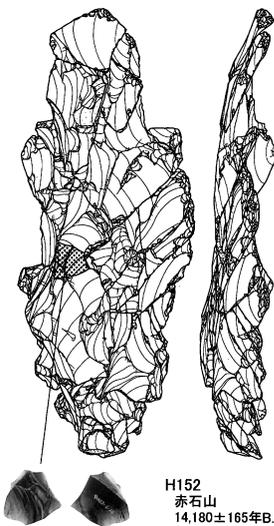


X174  
所山

X176  
ケンヨマップ

Sb-39

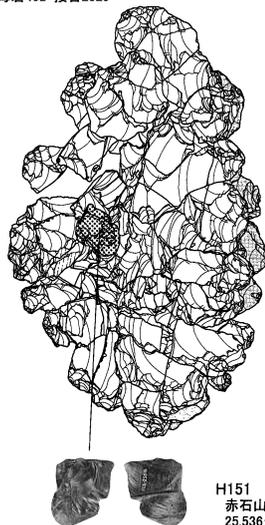
母岩291・接合1572



H152  
赤石山  
14,180±165年B.P.

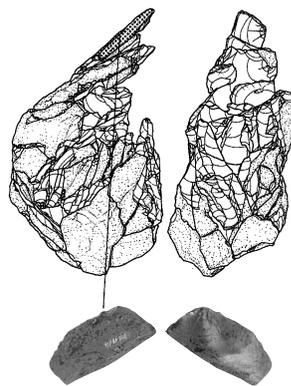
Sb-47

母岩452・接合2029



H151  
赤石山  
25,536±932年B.P.

母岩353・接合1726



H143  
赤石山  
27,756±1,601年B.P.

母岩268・接合1491



H141  
赤石山  
21,412±468年B.P.

母岩142・接合1142



H153  
赤石山  
22,464±1,630年B.P.

Sb-42



X172  
所山

図Ⅶ-13 産地分析・水和層測定試料(5)

上白滝 8 遺跡

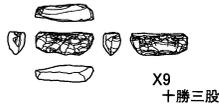
Sb-57

母岩416・接合1930



H149  
赤石山  
24,191±292年B.P.

Sb-59



X9  
十勝三股

X10  
十勝三股

Sb-60

母岩413・接合1925



H147  
赤石山  
14,465±1,542年B.P.

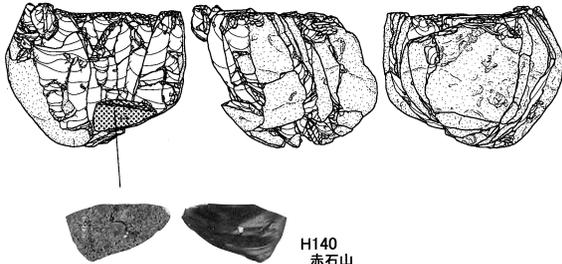
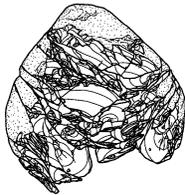
母岩422・接合1942



H148  
赤石山  
20,398±2,342年B.P.

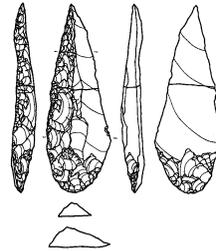
Sb-61

母岩412・接合1922



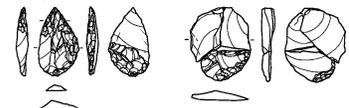
H140  
赤石山  
14,461±1,259年B.P.

接合54242



W19  
赤石山  
12,505±590年B.P.

接合2790

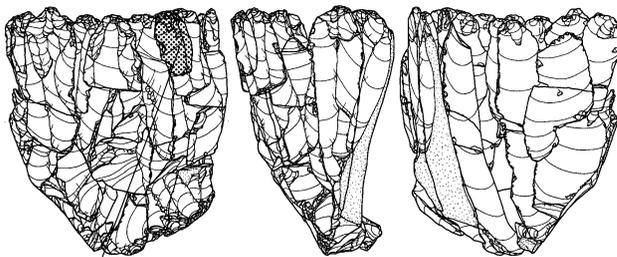


W20  
赤石山  
12,800±674年B.P.

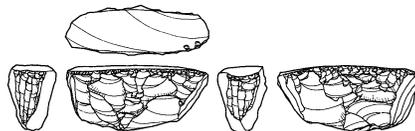
W21  
赤石山  
12,583±1,151年B.P.

斜面部

母岩195・接合1267

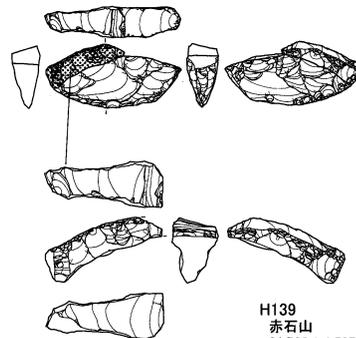


H146  
赤石山  
22,516±2,817年B.P.

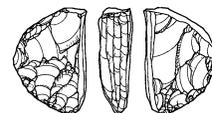


H137  
赤石山  
19,834±1,518年B.P.

接合2636



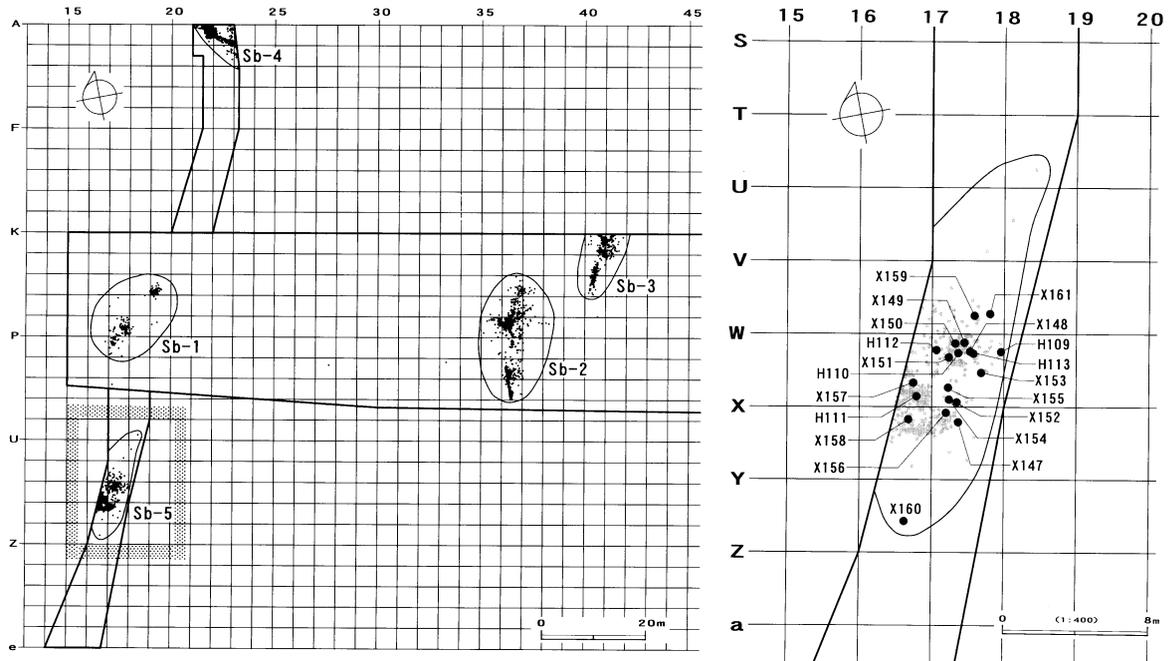
H139  
赤石山  
21,732±1,527年B.P.



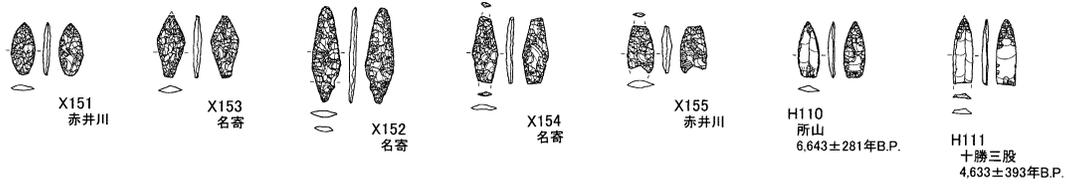
H138  
赤石山  
19,899±953年B.P.

図Ⅶ-14 産地分析・水和層測定試料(6)

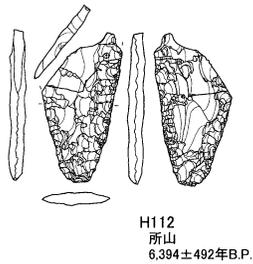
上白滝6 遺跡



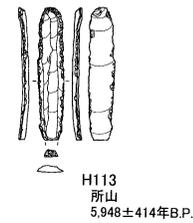
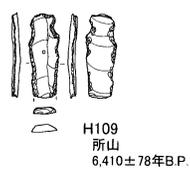
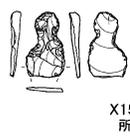
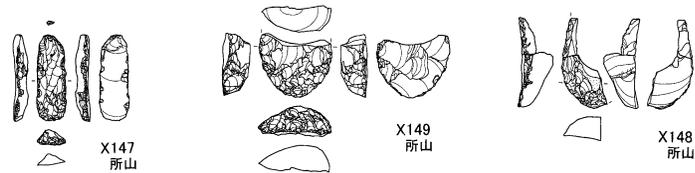
Sb-5



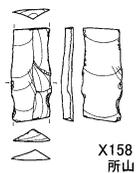
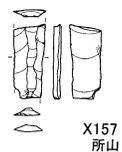
接合50085



接合50083



接合50081



接合50082



図VII-15 産地分析・水和層測定試料(7)

## VIII 章 ま と め

### 1 上白滝 8 遺跡「白滝 I 群」(Sb - 1 ~ 13) について

上白滝 8 遺跡の東地区では、接合分布・剥片剥離技術・二次加工技術などから「白滝 I 群」と呼称する後期旧石器時代前半期の石器群が、8,055点、197,507.1g 出土している。内、点取り遺物は7,090点、162,212.8g である。これらは主に遺物分布から13か所の石器ブロック (Sb - 1 ~ 13) に分け、さらに母岩分布や接合分布・石器組成から同時性が高いと思われる Sb - 1 ~ 3、4 ~ 6、7・8、9、10、11 ~ 13 の 6 つの石器ブロック群に分けて報告を行った。ここでは「白滝 I 群」の特徴を (1) 石器・石材組成、(2) 剥片剥離技術、(3) 分布と遺跡の構造、(4) 年代測定について概観し、(5) 石器ブロック群間の関係と石器群の編年的位置付けについてまとめてみたい。

#### (1) 石器・石材組成

全体的に定形的な石器が少なく、剥片の縁辺に軽微な剥離がみられる二次加工ある剥片が多い。その他に石器ブロック群ごとに異なるが、錐形石器、搔器、削器が出土している (図 VIII - 1・2)。

**二次加工ある剥片** 295点出土し、全ての石器ブロック群に分布している。加工された石器の中で最も数が多く、「白滝 I 群」において主体的な石器と考えられる。多様な形態だが、長幅比1.8の前後に二つの大きなピークがある (図 VIII - 3)。加工は軽微なものが多いため、ほとんどが素材の形状を変化させていない。それを踏まえ、素材は以下の四つに大きくまとめることができる。

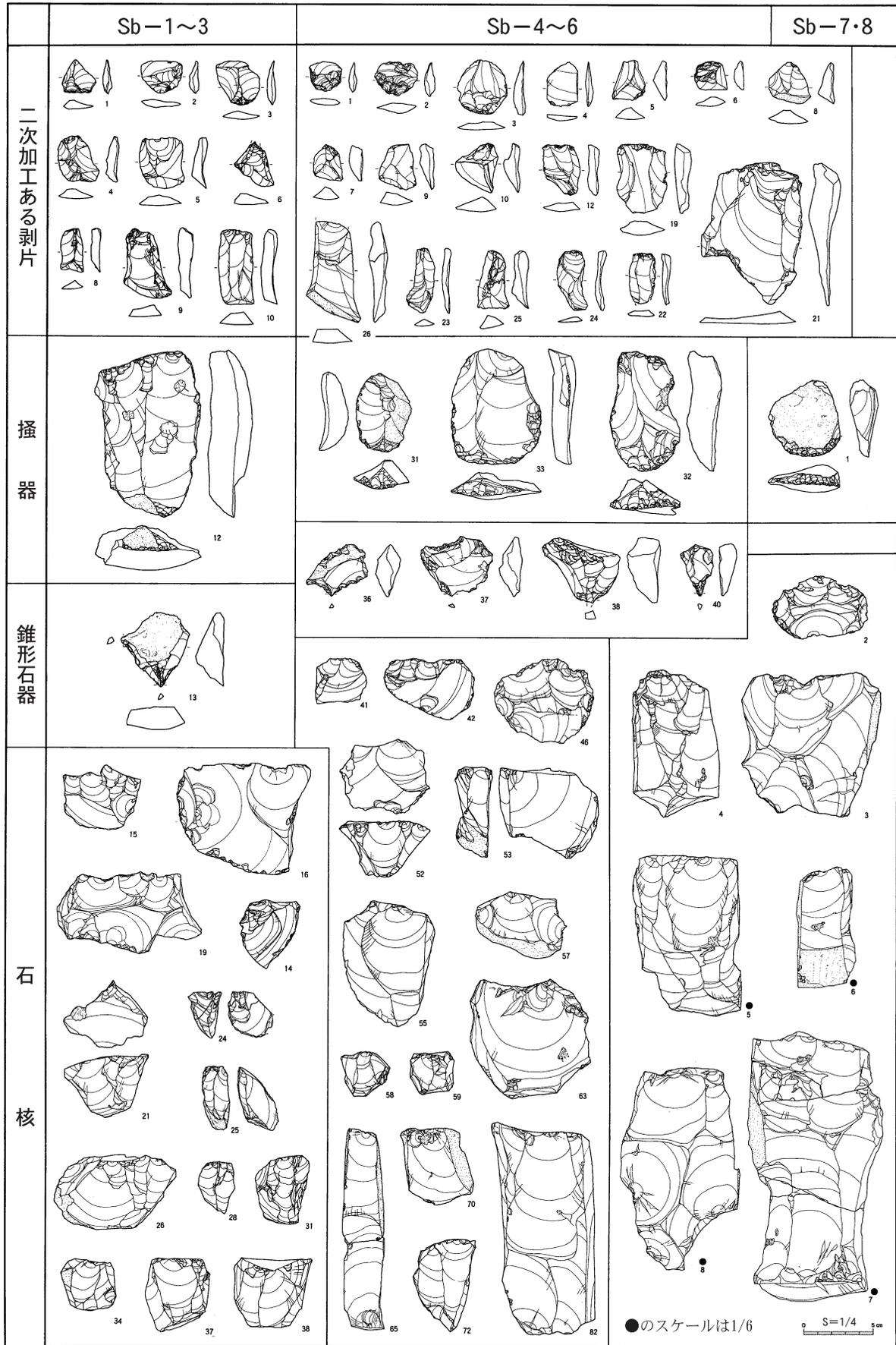
- (a) 長幅比が1.8以下で、打面側が末端側より狭く、両側縁が「ハ」の字状に開くもの
- (b) 長幅比が1.8以下で、器体中央付近の両側縁がおおむね平行する寸詰まりのもの
- (c) 長幅比が1.8以下で、背面に剥片素材の石核の腹面部が残っているうろこ状のもの
- (d) 長幅比が1.8以上で、器体中央の両側縁がほぼ平行する縦長の剥片
- (e) 上記の分類に入らないもの

また、施される加工は、以下の三つがみられる。

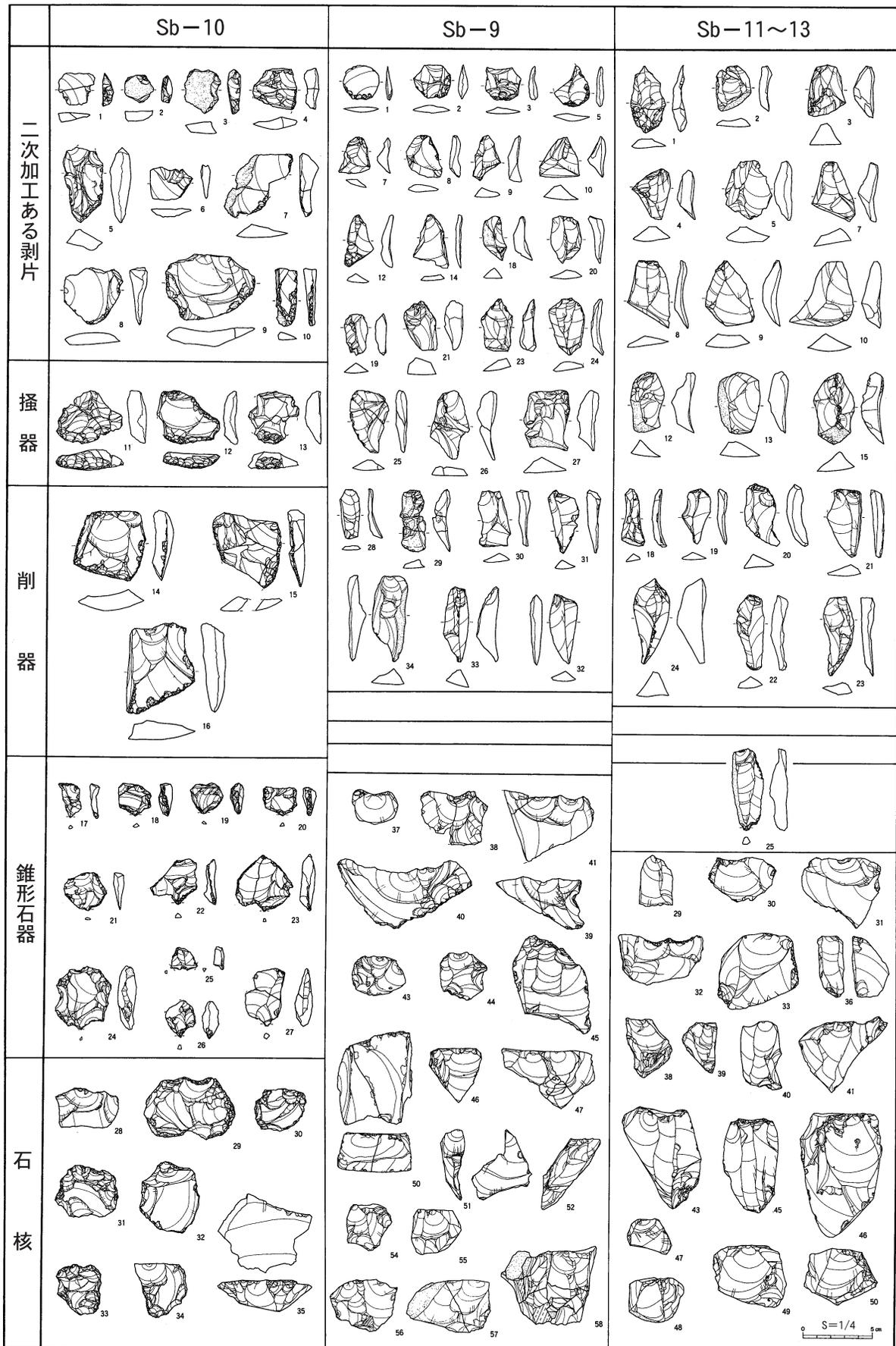
- (ア) 素材の形状をほとんど変えない長さ 2 mm 前後の軽微なもの
- (イ) 長さ 8 mm を越える平坦剥離
- (ウ) 素材を断ち切るような急角度の剥離

計測は掲載資料124点 (112個体) について行った。その結果、素材 (長幅比が計測可能な96個体) は (b) (d) が最も多く、ついで (a) の順となっている (表 VIII - 1)。全体的に突出した値がなく、選択される素材の多様性がみてとれる。加工は (ア) が78%を占めている。素材と加工の組み合わせは、素材 (d) に加工 (ア) を施すものが28%、素材 (b) に加工 (ア) を施すものが25%、素材 (a) に加工 (ア) を施すものが20%で主体的である。全体的に両側縁がほぼ平行する剥片を多用する傾向がある。また、素材 (a) には片側縁が「く」の字状になる斜軸状の剥片が多く含まれ、加工は「く」の字側の縁辺に施されるものが多い。全体的な大きさは40mm 前後のものも多く、加工される部位は腹面側の片側縁がほとんどである。これらの素材剥片の形態は、剥片剥離技術の差異によることが接合資料から確認された。

少数だが特徴的なものとして、素材 (c) もしくは (b) の一部に加工 (イ) を施すものがある (図 VIII - 1・Sb - 1 ~ 3 の 1 ~ 3・Sb - 4 ~ 6 の 1 ~ 4、図 VIII - 2・Sb - 9 の 1 ~ 3・5)。加工 (イ) はバルブを除去するように腹面側に施される。加工された部位を基部として下に置いたとき、上端に



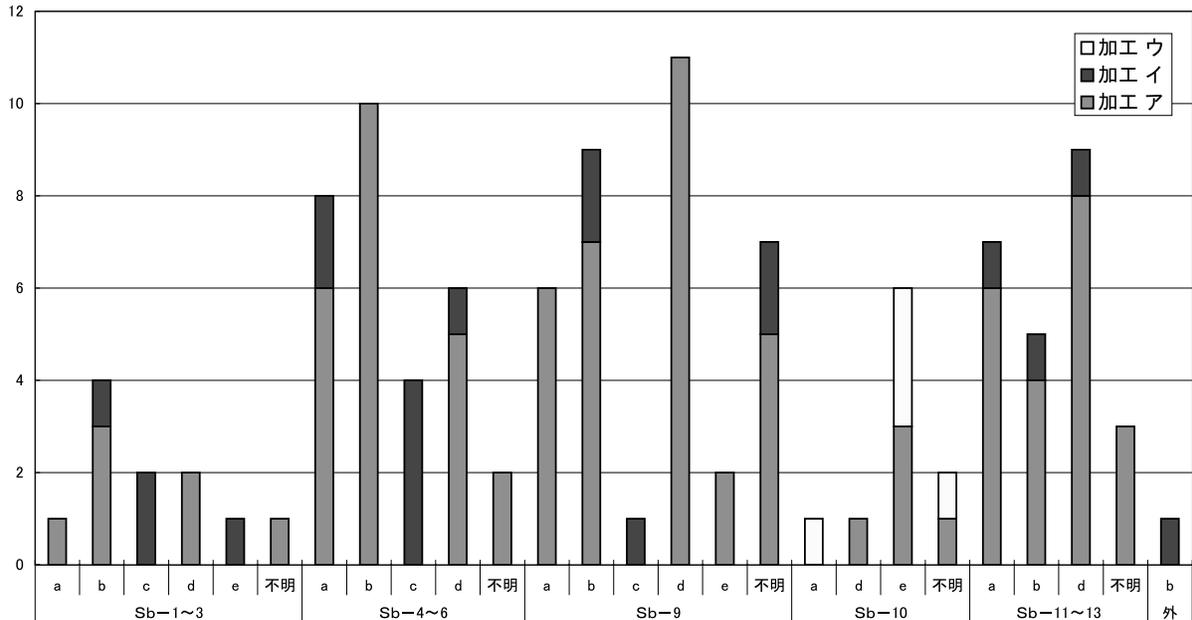
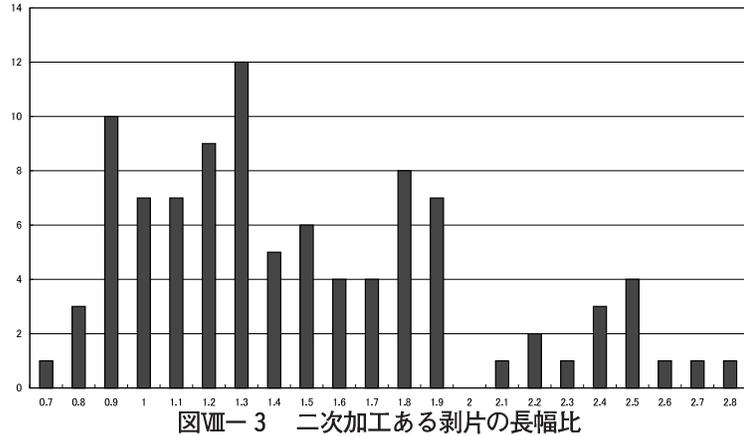
図Ⅷ-1 「白滝I群」石器組成図(1)



図Ⅷ-2 「白滝Ⅰ群」石器組成図(2)

表Ⅷ-1 二次加工ある剥片の素材と加工

		加工			
		(ア)	(イ)	(ウ)	総計
素材	(a)	19	3	1	23
	(b)	24	5		29
	(c)		7		7
	(d)	27	2		29
	(e)	5	1	3	9
	不明	12	2	1	15
	総計	87	20	5	112



図Ⅷ-4 石器ブロック群別二次加工ある剥片の素材と加工

は鋭い縁辺が残り、先端が尖るものと横刃になるものがみられる。さらに、素材(d)を用いやや角度のある加工(イ)を施すものが2点みられる(図Ⅷ-2・Sb-11~13の1、図Ⅳ-565-2)。このうち1点はI群以外の石器ブロック外の石器として掲載しているが、技術形態的な特徴や出土位置から「白滝I群」の石器として積極的に考えたい。これらは前述の一群よりも縦長の素材を利用しているが、技術的な特徴が類似している。この様な腹面のバルブ部に平坦剥離を加える一群は、素材や加工部位・技術などの諸特徴から二次加工ある剥片から分離可能な石器と考えられる。定義的には台形様石器(佐藤 1988)の枠の中で捉えることができる。しかし、当該期は石器群の様相が本州島とやや異なり(佐藤 2003)、技術的にもバルブを除去するような薄く平坦な基部加工が特徴的にみられるなど、後続すると思われる広郷型ナイフ形石器の加工に類似する点から、新たな型式名を設定することが可能であろう。今後の課題としたい。道内では白滝村奥白滝1遺跡Sb-4~6(直江ほか2002)、千歳市祝梅下層遺跡三角山地点(横山・吉崎 1974)等で出土している。

また、加工(ウ)を施す石器が5点みられる。変形度が大きく素材の推定が困難で、鋭い縁辺がまったく残らない例(図Ⅷ-2・Sb-10の2・3)がある。さらに、1点のみ素材(c)が利用されている(同-1)。これは素材の一側辺を横刃になるように残して、両側縁に急角度の加工が施される

ものであり、台形様石器（佐藤 1988）として認定しうる資料である。

石器ブロック群ごとの組成をみると、Sb - 1 ~ 3、4 ~ 6 は、素材（b）を中心とし、Sb - 9、11 ~ 13 は、素材（d）が高い割合でみられる（図Ⅷ - 4）。また、Sb - 11 ~ 13 では、素材（a）を利用する割合が、他の石器ブロック群より高い。これに対し、Sb - 10 では上記の石器ブロック群と異なり、素材剥片の形態、加工部位、加工技術がより多様である。素材には（c）、（d）もみられるが（e）が多く、形態・大きさの斉一性がない。また、加工（ウ）を施す石器は全て Sb - 10 から出土している。

**搔器** Sb - 1 ~ 3、4 ~ 6、7・8、10 から 17 点出土している。各石器ブロック群とも少数で、加工は、端部にのみやや粗い剥離が施されるものが主体的である。しかし、Sb - 10 の搔器は加工がほぼ全周する。素材は Sb - 1 ~ 3、4 ~ 6 では大型の縦長剥片、Sb - 7・8 では背面が原石面に覆われた剥片、Sb - 10 では横長剥片が利用され、各石器ブロック群によって差異がある。

**削器** Sb - 10 のみで 11 点出土している。打面幅が大きく、器体中央部の両側縁がほぼ平行する剥片を素材とし、背面側の縁辺に奥まで入る平坦剥離が連続的に施されるのが特徴である。素材の形状を大きく変える加工ではないため、粗く急角度の加工が多い同ブロックの石器とは対照的である。

**錐形石器** Sb - 1 ~ 3、4 ~ 6、10、11 ~ 13 で 28 点出土している。打面部が幅広く厚い剥片を素材とする例が多い。しかし、Sb - 11 ~ 13 では縦長剥片が素材である。加工部位は、末端部、打面と側縁の交差部、折れ面と側縁の交差部などに背面側のみ、腹面側のみ、錯向状に施されており、非常に多様である。特に Sb - 10 では折れ面と側縁の交差部に加工が施されるものが比較的高い割合でみられ、切断技法を用いていた可能性がある。

**石核** 623 点出土し、全ての石器ブロック群に分布している。素材と剥離技術から以下の四つに大きくまとめることができる。

- ①剥片素材で、作業面を主に素材の扁平な広い面に設定しているもの
- ②剥片素材で、作業面を主に素材の小口面に設定しているもの
- ③転礫素材で、打面転移を数多く行い、最終形態がサイコロ状になるもの
- ④角礫素材で、作業面を主に素材の長軸に沿って設定しているもの

いずれも剥離の際に打面調整、頭部調整などの石核調整は施されない。③は打面と作業面を入れ替える交互剥離を基本とし、作業場所（交互剥離の二つの作業面）を転移させていく傾向がある。④は素材の形状を利用して縦長剥片が多く剥離されている。打面が固定的なものと非固定的なものに分かれる。前者は両設打面のものであり、後者は打面と作業面を入れ替える交互剥離を行いながら作業が進行していくものが主体的である。Sb - 4 ~ 6、7・8 のみで出土している。

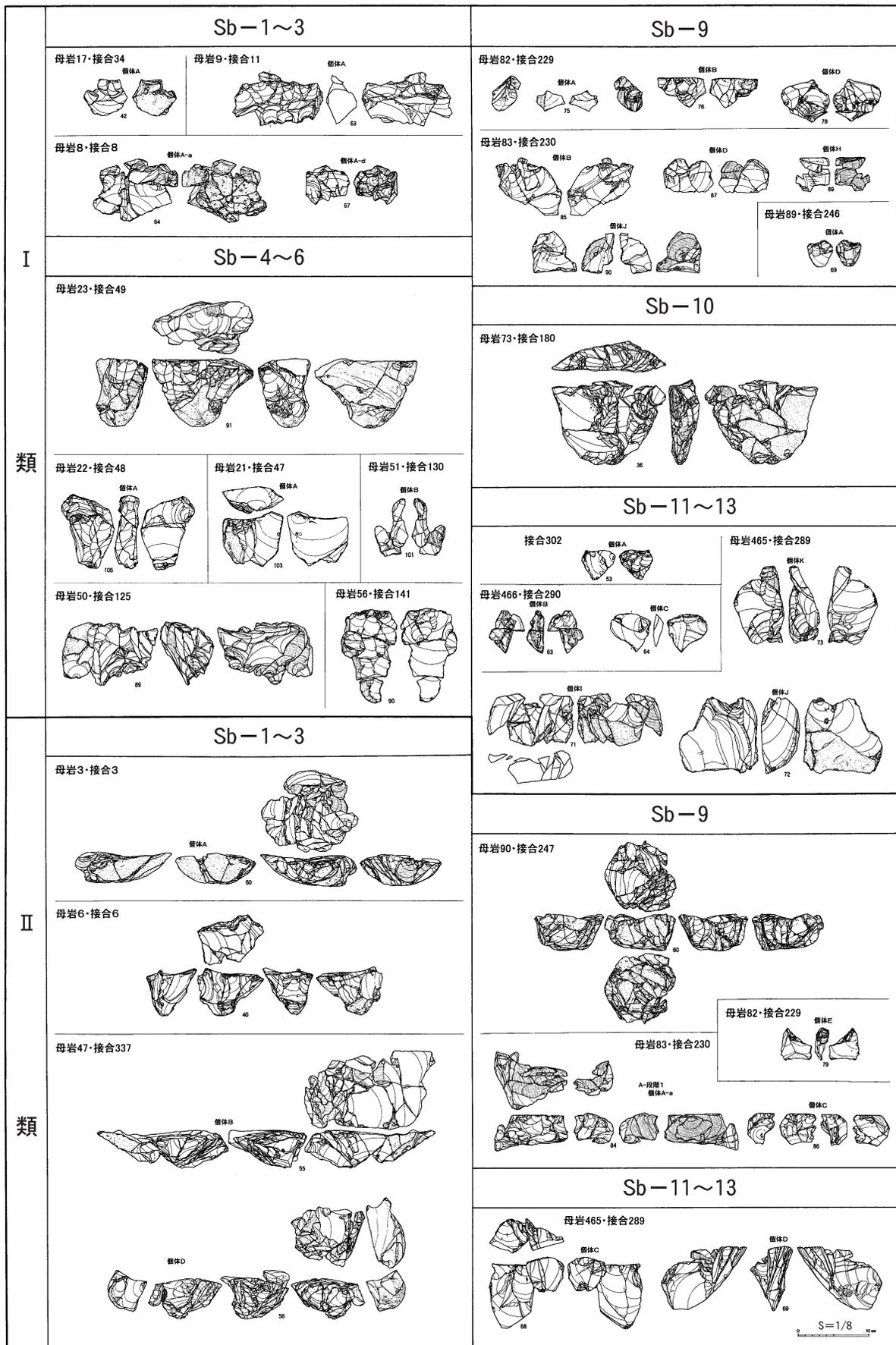
**石材** 非常に高い割合で黒曜石を利用している。中でも黒曜石 1 の比率が高く、各石器ブロック群とも 90% 以上を占めている。また、原石面が残存する石器、被熱石器の割合が高いことも特徴である。

原石の形状は大半が円礫や角が摩滅した亜角礫など（以下総合して転礫と記載）である。ただし、Sb - 4 ~ 6、7・8 では摩滅がない角礫を利用している一群が出土している。

角礫の原石形状は角柱状、棒状、扁平な板状のものが多い。原石面はザラついた岩屑面が主体であるが、一部の原石にはほとんど風化がなく、打点・バルブがはっきりせず、大きなリングがある平坦面がみられ、露頭から分離してからさほど時間が経過していない面（Ⅳ章中では「露頭分離面」と表現）と考えられる。

黒曜石以外の石材としては Sb - 1 ~ 3 でめのう、Sb - 4 ~ 6 で頁岩、Sb - 11 ~ 13 でめのう、珪岩、碧玉が出土している。肉眼的に各石材を観察すると以下のような特徴が挙げられる。頁岩は珪質

1 「白滝I群」(Sb-1~13) について



図VIII-5 「白滝I群」母岩別資料(1)

分が弱く、やや質が悪い。碧玉は深い緑色で、興部産（藁科 2002）に類似している。めのうは透明感が無い。大半は接合資料がなく、単体で遺跡内に持ち込まれた後、遺棄されている状況であるが、碧玉は遺跡内で石核からの剥片剥離が行われている。

## （2）剥片剥離技術

剥片剥離技術は、素材の形態、打面・作業面の設定場所や転移方法、剥離された剥片の形態などからⅠ～Ⅲ類に大別し、さらに若干の細分を行った。なお、これは一昨年度報告した奥白滝1遺跡（直江ほか 2002）の「白滝Ⅰ群」の剥離技術をもとにしている。

**Ⅰ類**：扁平な石核の広い面で剥離作業を行うもの。

**Ⅰ a類**…片側の広い面で作業を行うもの。主に長幅比が1.0前後の貝殻形・扇形・台形・三角形の剥片が剥離される。

**Ⅰ b類**…表裏両方の広い面で作業を行うもの。主にやや横長の剥片が剥離される。

**Ⅱ類**：素材の小口面で剥離作業を行うもの。

**Ⅱ a類**…素材の広い面を打面に固定するもの。主に打面部が幅広で厚い剥片・両側縁の中央がほぼ平行する寸詰まりの剥片が剥離される。

**Ⅱ b類**…素材の小口面を打面に固定するもの。主に縦長剥片が剥離される。

**Ⅲ類**：打面と作業面を頻繁に転移するもの。剥離される剥片の形態は最も多様である。主に両側縁の中央がほぼ平行する寸詰まりの剥片・やや横長の剥片・縦長剥片・片側縁が「く」の字状になる剥片などが剥離される。

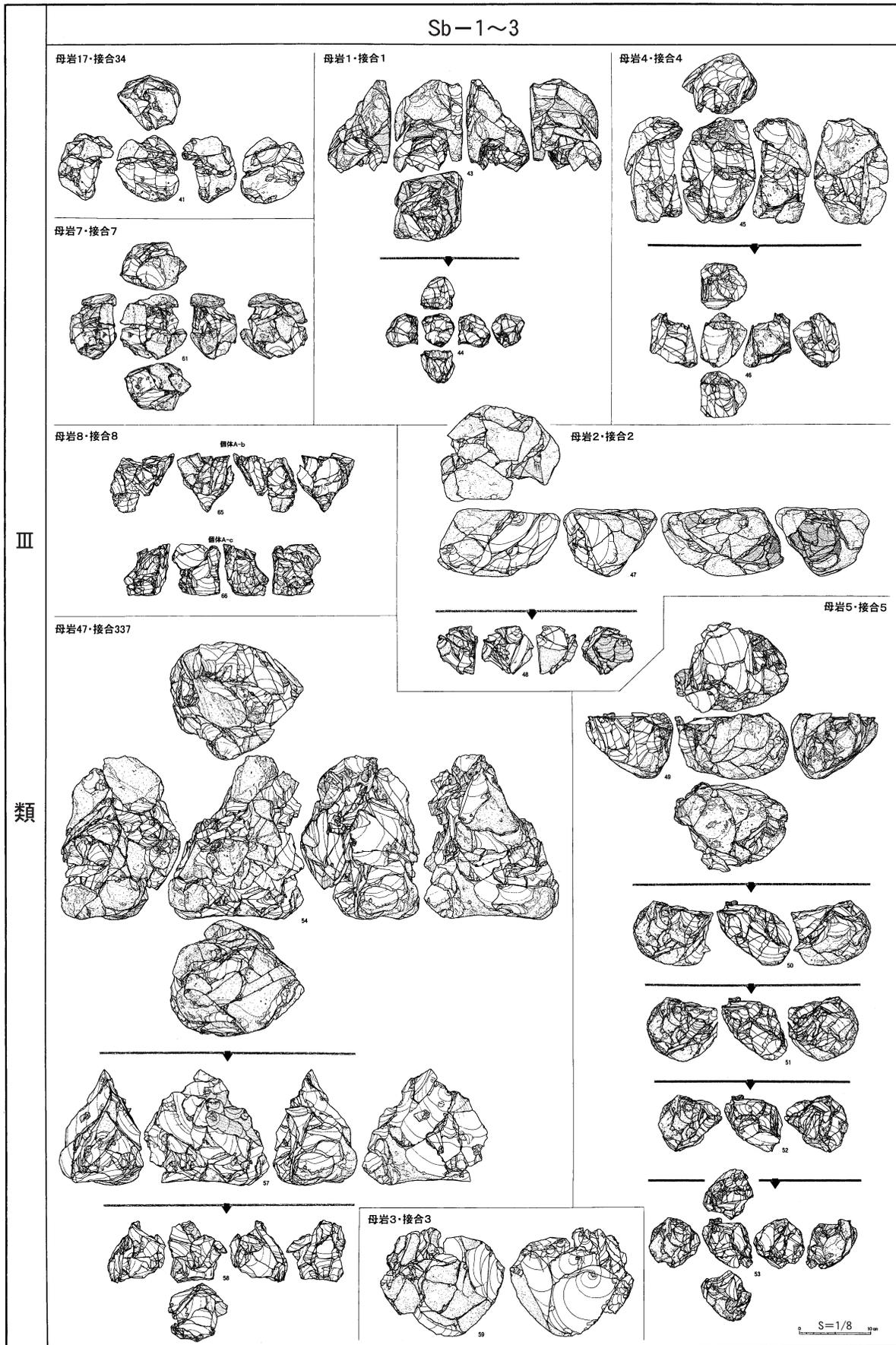
**Ⅲ a類**…打面と作業面を1～数打ごとに入れ替える交互剥離を基本とし、作業場所を転移していくもの。

**Ⅲ b類**…打面と作業面の転移に規則性が見られないもの。

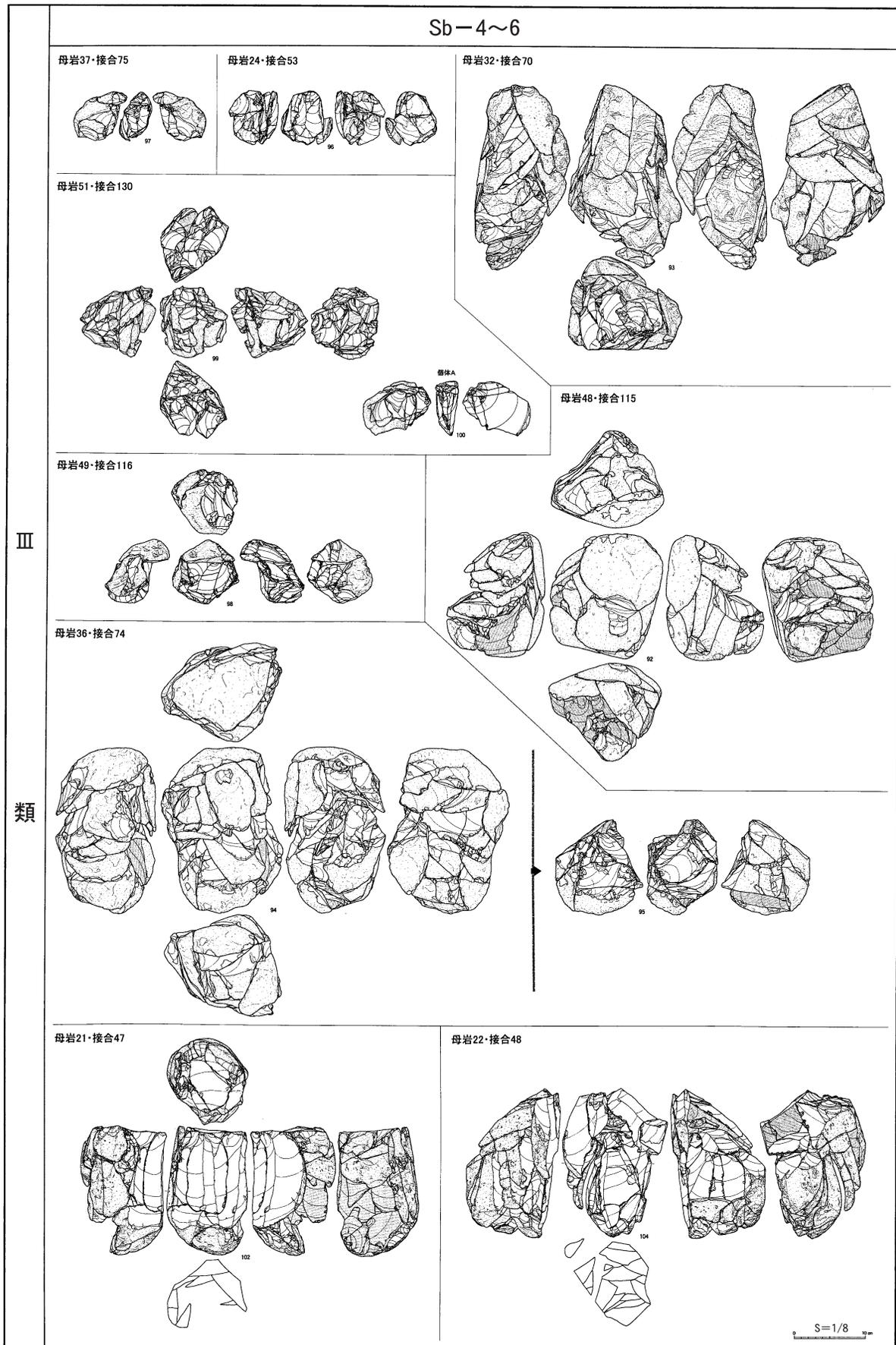
各類型とも、打面調整や頭部調整などの各種の石核調整は行われていない。接合資料はほぼ原石の段階まで復元できるものが大多数である。原石形状が転礫と角礫の資料とも上記の剥離技術の中でとらえられるが、若干傾向が異なるため、以下に分けて説明する。

**転礫** 全体的な傾向として、Ⅲ類（図Ⅷ-6～8）の剥離技術を用いて作業が進行することが多く、初期段階に剥離された大型の剥片がⅠ類・Ⅱ類（図Ⅷ-5）の石核素材となっている。そのため、Ⅰ・Ⅱ類の石核は剥片素材のものが大半である。また、Ⅲ類の剥離の中ではⅢ a類の割合が高く、作業の最終段階になってランダムな剥離のⅢ b類に変わることが多い。その他に、剥離技術が途中で変化するものとして、Ⅰ類→Ⅱ類（母岩51・接合130個体B、母岩73・接合180）、Ⅱ類→Ⅲ a類（母岩90・接合247）がある。これらのことから、「白滝Ⅰ群」はⅠ～Ⅲ類の剥片剥離技術が同一の母岩に共存する技術構造であると指摘できる。

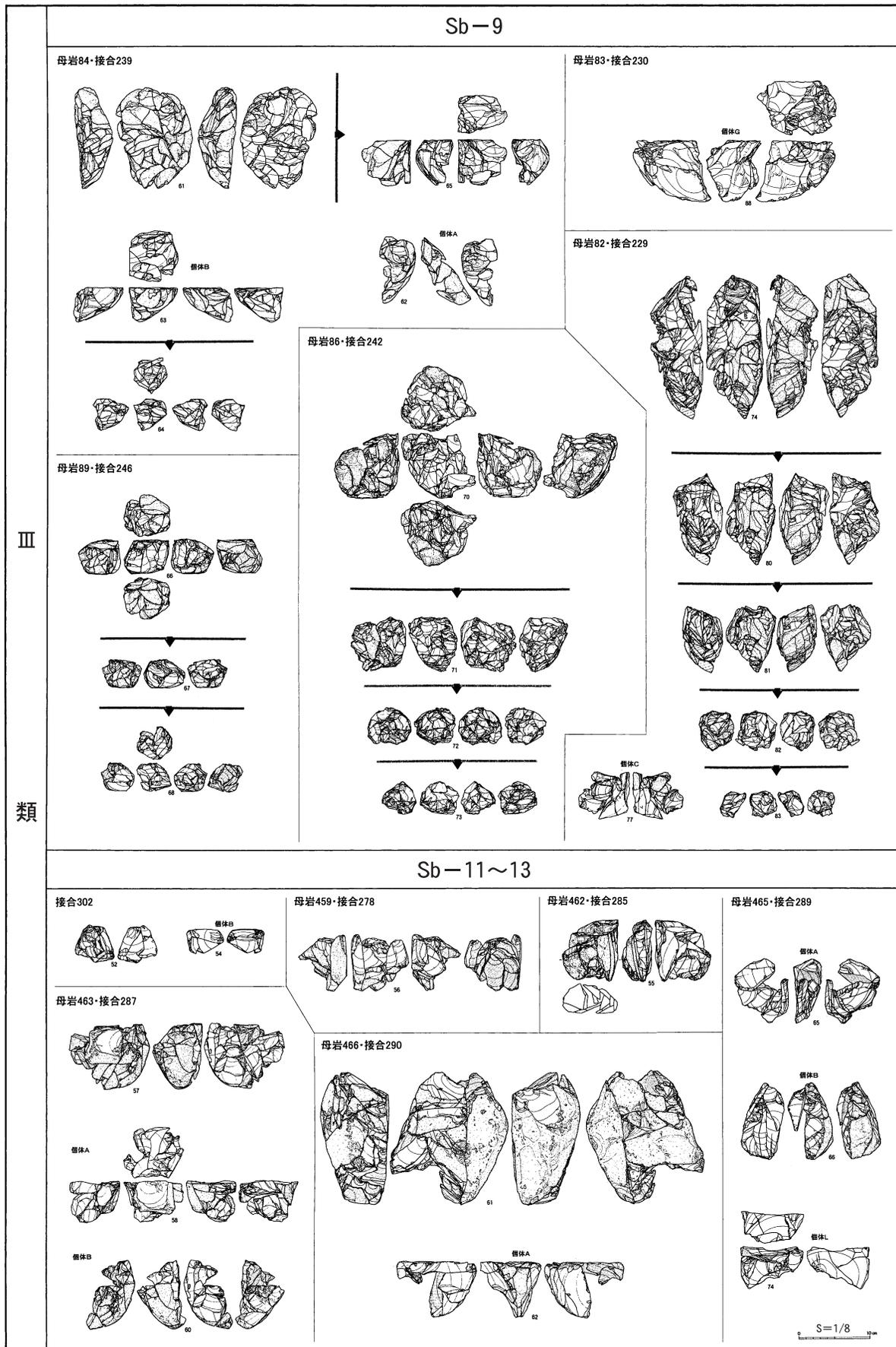
縦長剥片が生産される技術は、Ⅱ b・Ⅲ a類の二種の中にみられる。さらに、Ⅲ a類には剥片素材で、小口面同士で交互剥離を行うもの（母岩51・接合130-個体A、母岩462・接合285、母岩465・接合289-個体A）と礫素材のものがある。前者はⅡ b類と同様、目的的な作業面の設定の仕方である。これに対し、礫素材のⅢ a類は一つの作業面において、石核の稜に沿って複数回剥離が行われ、結果的に縦長剥片を含んだ長幅比が1.0以上の剥片が不定形な剥片に混って剥離されており、両者は対照的である。また、礫素材のⅢ a類の交互剥離が石核の長軸と短軸で行われた場合、一見石刃技法のように見受けられる（母岩21・接合47、母岩22・接合48）。しかし、剥離技術全体の中で捉えた場合、Ⅲ a類の交互剥離の中での縦長剥片剥離と位置付けることができ、「白滝Ⅰ群」の剥離技術の中で孤



図Ⅷ-6 「白滝I群」母岩別資料(2)



図Ⅷ-7 「白滝I群」母岩別資料(3)



図VIII-8 「白滝I群」母岩別資料(4)

立したものではない。

剥離技術とツール類との結びつきについては、ある程度の相関関係がみられる。二次加工ある剥片の素材（a）はⅢ類、素材（b）はⅠb・Ⅱa・Ⅲ類、素材（c）はⅠa類、素材（d）はⅡb・Ⅲ類の技術から剥離された剥片が用いられている。搔器はⅢ類の技術でも比較的早い段階で剥離された大型のものを素材としているものが多い。錐形石器の素材はⅡa類の技術を主とし、Ⅰ・Ⅲ類の技術のものも少数確認されている。また、石核については、類型①がⅠ類、類型②がⅡ類、類型③がⅢ類の技術とほぼ対応する。

石器ブロック群ごとに剥離技術の特徴を抽出すると、Sb - 1～3、4～6、9、11～13では類似点が多く、前述の全体的な傾向と一致する。この中でSb - 11～13ではⅡb類及び剥片素材で、小口面同士で交互剥離を行っているⅢa類が多くみられる。これに対してSb - 10ではやや様相が異なる。Ⅲ類の技術も確認されているが、よりⅠ類の技術を多用している傾向がある。

**角礫** 原石形状が判別できるまで復元できた個体は15個体である（図Ⅷ - 9・10）。剥離技術は原石の短軸で分割して剥離を開始することが多く、主にⅡb類、Ⅲa類の技術が用いられる。Ⅱb類は分割面を打面として固定し、長軸に沿って作業面が設定される。角柱状のもの（母岩70・接合177、母岩69・接合176上端）と扁平な板状の母岩（母岩33・接合71、母岩35・接合73、母岩30・接合68、母岩61・接合162）があり、前者は石核を周回するように剥離が行われ、後者は細長い小口面に作業面を固定するものが主体で、どちらも両設打面であるものが多い。Ⅲa類の剥離は、お互いの作業面が長軸に対して斜行するように設定されているもの（母岩27・接合65、母岩60・接合161など）と、作業面が石核の長軸と短軸に設定されているもの（母岩45・接合110、母岩26・接合64など）がみられる。

原石形状別にみると、扁平な板状原石の剥離では、比較的作業が連続し、原石を多く消費しているのに対し、角柱状原石のⅡb類の剥離は、石核を1周して作業を終了する程度の剥離しか行われず、原石形状に近い石核が遺棄されている。

Ⅱb・Ⅲa類の剥離技術とも剥片に大きな違いがみられず、いずれかの作業面では石核の稜に沿って剥離を行っているため、縦長剥片が比較的多く剥離されている。縦長剥片の特徴は、厚手で打面が大きく、バルブが発達するもので、転礫を素材とした一群の剥片と同様の傾向がある。また、剥片の末端形状がウートラパッセやヒンジになる割合が高い。その他に打撃の長軸と剥片の長軸が一致しない縦長状の剥片や大型で長幅比が2.0に満たない寸詰まりの剥片も一定量みられる。このように縦長剥片の獲得を目的としているとみられるが、その生産は不安定な面が多い。そのため原石形状に依存した母岩の採取を行っていたと考えられる。

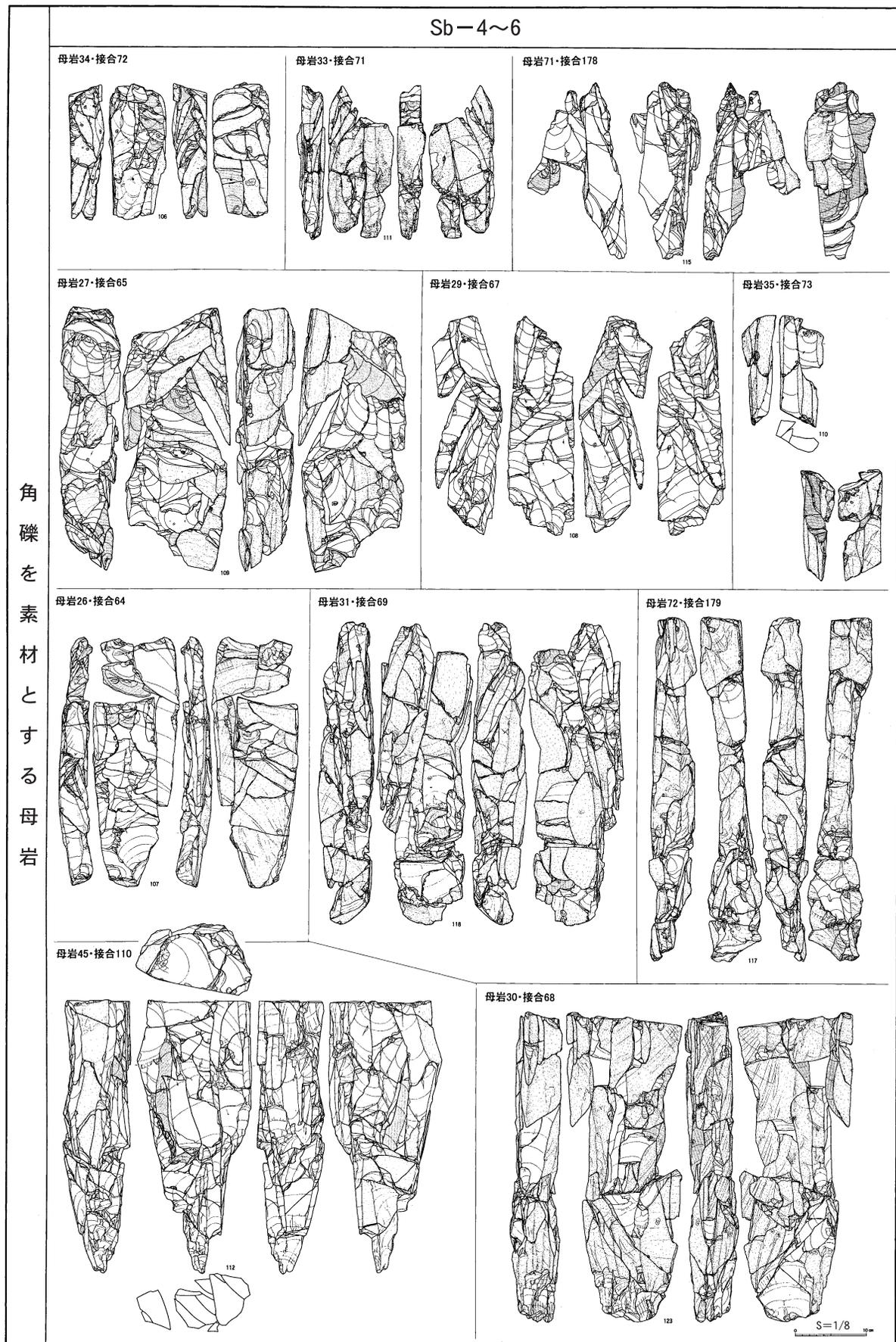
剥片とツール類との結びつきは非常に薄い。遺跡内では縦長剥片素材の二次加工ある剥片（図Ⅷ - 1・Sb - 4～6 - 26など）が僅かにみられるのみである。

これらの母岩はSb - 4～6、7・8でみられ、特にSb - 7・8は角礫を素材とするものが主体の石器ブロック群である。

### （3）分布と遺跡の構造

北東方向に緩やかに傾斜する地形のなかで、ほぼ平坦な北東部とやや傾斜が強い南西部に大きく分布が分かれる。前者がSb - 1～3、4～6、7・8、後者がSb - 9、10、11～13で、標高437～438mの中央部は大きな空白地帯となっている。

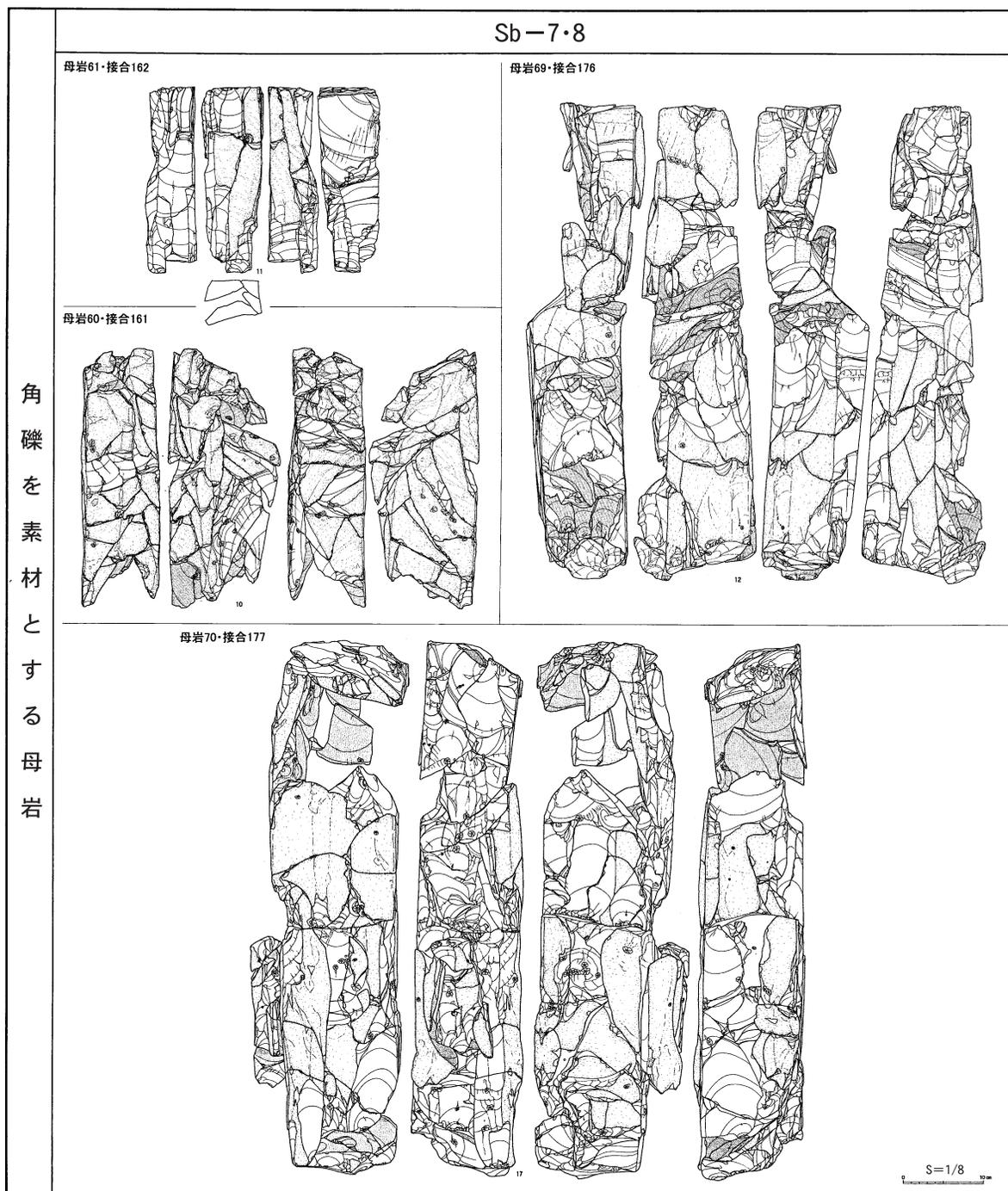
複数の石器ブロックからなる石器ブロック群間では、接合関係がみられ、点数が多く分布密度が高



図Ⅷ-9 「白滝I群」母岩別資料(5)

い中核的な石器ブロックと、点数が少なく分布密度が低い石器ブロックとの組み合わせとなっている。

母岩ごとの分布状況を見てみると、掲載した58個体中、散漫に分布が広がるものが35個体、集中した分布を示すものが18個体である。また、石器ブロック内を含めて集中域同士に分かれて分布するものや、数点の石器が離れて分布するものが28個体と半数近くみられる。さらにそれらは段階や剥片素材の個体に関連性が無く、剥片や石器類のみが離れて分布するもの（20個体）と、石器製作の段階によって場所が移動しているもの（8個体）に分けられる（表Ⅷ-2）。接合資料中の離れて分布する石器や剥片は、比較的点数が少なく分布密度が低い石器ブロックに分布することが多い。出土傾向の散漫と集中の違いは同一ブロック内に見られる現象であり、一概に自然営力による石器の移動のみで



図Ⅷ-10 「白滝Ⅰ群」母岩別資料（6）

1 「白滝I群」(Sb - 1~13) について

表Ⅷ-2 母岩別資料接合・分布状況

石器 ブロック群	母岩・接合番号	出土 ブロック	搬入形態	最終的な 石核	中心	出土 傾向	離れた地点での接合状況
1~3	母岩6・接合6	1	剥片	有り	-	散漫	段階2で最初に剥離された剥片と石核23が、ブロック南東部に離れて分布
	母岩17・接合34	3	ほぼ原石	有り	-	散漫	-
	母岩1・接合1	1	ほぼ原石	有り	-	集中	-
	母岩4・接合4	1	ほぼ原石	有り	-	集中	段階1・2・7の剥片の一部がやや離れたブロック南西部から散漫に出土
	母岩2・接合2	1	ほぼ原石	無し	-	散漫	段階4からブロック南部、5~10が北部から出土
	母岩5・接合5	1	粗割石核	有り	-	散漫	-
	母岩47・接合337	1	ほぼ原石	有り	-	集中	段階、個体差によっての分離はできない。最終的な石核8は北側の集中域に、個体の石核や石器12は南側の集中域に分布
	母岩3・接合3	1・3	不明	無し	1	集中	個体AはSb - 1の南部を中心にSb - 3まで分布が広がる。個体A以外はSb - 1の北部を中心に散漫に分布
	母岩7・接合7	1	ほぼ原石	有り	-	散漫	-
母岩9・接合11	1・2	粗割石核	有り	均等	散漫	Sb - 1には二次加工ある剥片11、個体Bの剥片、段階4がみられ、Sb - 2からは個体Aの剥片と石核19、石核6が出土	
母岩8・接合8	1・2・3	ほぼ原石	有り	3	散漫	a - 段階2の剥片と個体Bの石核27が出土。また、Sb - 1からは個体Aのc - 段階6、B - 段階2の剥片が出土	
4~6	母岩50・接合125	6	ほぼ原石	有り	-	散漫	-
	母岩56・接合141	5・6	剥片	有り	6	集中	分布の中心はSb - 6のI59区にあり、南側に4mほど離れたK59区からは個体Bの剥片、15mほど離れたSb - 5からは個体Aの石核が出土し、I59区と折れ接合
	母岩23・接合49	5	ほぼ原石	有り	-	集中	-
	母岩48・接合115	6	ほぼ原石	有り	-	集中	-
	母岩32・接合70	5	ほぼ原石	有り	-	散漫	-
	母岩36・接合74	5	ほぼ原石	有り	-	散漫	-
	母岩24・接合53	4・5	不明	有り	5	散漫	段階1~4までの剥片がSb - 5に散漫にみられ、最終的な石核6が約10m北側のSb - 4に分布
	母岩37・接合75	5	ほぼ原石	有り	-	散漫	約10m離れた折れ接合
	母岩49・接合116	6	不明	有り	-	散漫	8m四方に大きく広がる
	母岩51・接合130	5・6	ほぼ原石	有り	6	散漫	段階2・5の剥片と二次加工ある剥片17が南東側のSb - 5から散漫に出土
	母岩21・接合47	5	粗割石核	無し	-	散漫	-
	母岩22・接合48	4・5	粗割石核	有り	5	散漫	段階1・6の縦長剥片がSb - 4に分布
	母岩34・接合72	5	ほぼ原石	無し	-	散漫	-
	母岩26・接合64	5	ほぼ原石	有り	-	散漫	段階2の縦長剥片がやや北西のL62区に分布
	母岩29・接合67	5	ほぼ原石	有り	-	散漫	二次加工ある剥片21と段階3の剥片がやや西側のL・M61区に分布
	母岩27・接合65	5	分割礫	有り	-	散漫	段階4の縦長剥片がL61区、段階7の剥片がL64区とやや離れて分布
	母岩35・接合73	5	分割礫	有り	-	散漫	-
	母岩33・接合71	5	分割礫	有り	-	散漫	-
	母岩45・接合110	5	分割礫	有り	-	集中	L・M61区の境界を中心としたままと、集中域であるL62・63区を中心としたままとの二つに分かれる。段階による相違もなく、お互いで折れ面接合が確認
	母岩28・接合66	5	ほぼ原石	A有り/B無し	-	散漫	個体Aは東側、個体Bは西側にままとりがずれる傾向
母岩71・接合178	5	ほぼ原石	A有り/B無し	-	散漫	集中域を中心に東側9mに広がって分布	
母岩72・接合179	5	分割礫	有り	-	散漫	-	
母岩31・接合69	5	ほぼ原石	有り	-	散漫	-	
母岩30・接合68	5	分割礫	有り	-	散漫	-	
7・8	母岩60・接合161	8	ほぼ原石	無し	-	集中	-
	母岩61・接合162	7・8	分割礫	有り	7	散漫	段階2の縦長剥片1点が西側に6mほど離れたSb - 8のH56区から出土
	母岩69・接合176	7・8	分割礫	有り	8	集中	個体ごとに分布が異なる。個体AはSb - 8の集中域のI56区、個体B (B - aを除く) はSb - 7、個体B - aはSb - 8の集中域北側のH56区から出土
9	母岩70・接合177	8	分割礫	有り	-	散漫	-
	母岩90・接合247	9	剥片	有り	-	集中	-
	母岩84・接合239	9	剥片	有り	-	集中	-
	母岩89・接合246	9	ほぼ原石	無し	-	集中	-
	母岩86・接合242	9	粗割石核	有り	-	集中	-
	母岩82・接合229	9	ほぼ原石	有り	-	集中	-
	母岩83・接合230	9	ほぼ原石	有り	-	集中	-
母岩87・接合244	6・9	ほぼ原石	無し	9	集中	初期段階で剥離された剥片が石核に利用され、約60m離れたSb - 6から出土	
10	母岩73・接合180	10	剥片	有り	-	散漫	段階4の剥片1点がやや北側のM47区から出土
	接合302	12	不明	無し	-	散漫	個体Aは北側、個体Bは南側に分かれて分布
11~13	母岩462・接合285	12	剥片	有り	-	散漫	二次加工ある剥片11や段階6の縦長剥片、段階11・12の剥片がやや離れたブロック北側東部から出土
	母岩459・接合278	12	不明	無し	-	散漫	-
	母岩463・接合287	11・12・13	剥片	有り	12	散漫	Sb - 11からは個体Bの石核19、Sb - 13からは個体B - 段階5の剥片が出土
	母岩466・接合290	11・12・13	ほぼ原石	無し	12	集中	Sb - 12には南北二つのままとりがみられる。北側には段階1・3・4・6が多く、南側は段階2と個体A (段階3) が集中している。東側に約12m離れたSb - 11からは個体Bの石核39が単独でみられ、Sb - 13では個体C・Dを含めた段階7の後半からの剥片・石核が出土
	母岩465・接合289	11・12	ほぼ原石	有り	12	散漫	Sb - 12ではブロック全体にまたがるような折れ面接合をしているものが多い。段階9の剥片の一部と最終的な石核が東側に約12m離れたSb - 11から出土している。段階・個体ごとの分布の大きな違いはない。また、個体L - 段階1の剥片がブロック外のQ40区に分布

解決できる問題ではないであろう。石器製作中もしくは石器製作後における何らかの行動の違いを示している可能性があり、今後もデータを蓄積し、総合的に検討していきたい。

石器製作の状況として、58個体中50個体（離れた接合状況が無い母岩30個体と、段階や剥片素材の個体に関連性が無く剥片や石器類のみが離れて分布する母岩20個体）は、1か所で剥離作業が行われていたとみられる。その中の20個体については離れた接合状況がみられるが、それら全てが石器や剥片が持ち出されたと判断するのは難しい。特に上白滝8遺跡の「白滝I群」は、I群以外の石器群と分布が重なる状況があり、後世の集団によって石器類が移動した可能性も考えなくてはならない。しかし、

石器製作の段階によって場所が移動しているものが8個体あることを考慮すれば、石器や剥片を石器製作した場以外に持ち出した可能性は十分あると思われる。具体的な場の機能については検討していないが、器種ごとの石器の偏りなどは観察されない。しかし、接合資料中の離れて分布する石器や剥片が、比較的点数が少なく分布密度が低い石器ブロックに分布する傾向から、それらの石器ブロックが、使用の場の一部であった可能性がある。

接合作業の結果、転礫、角礫とも原石の状態まで復元でき、最終的な石核まで接合する母岩が多数を占めた(表Ⅷ-2)。また、確実に剥片の状態に遺跡内に持ち込まれ剥片剥離を行っている資料はSb-1~3の母岩6・接合6、Sb-4~6の母岩56・接合141、Sb-9の母岩90・接合247、Sb-10の母岩73・接合180、Sb-11~13の母岩462・接合285である。これと分布状況を総合すると、「白滝I群」では、遺跡内に原石を持ち込み、最終的な石核を遺棄するまで集中的に剥片剥離を行い、単体の石器もしくは剥片の状態にブロック外・遺跡外に搬出しているものと考えられる。以上のことから「白滝I群」では非常に弱いながらも遺跡間の連鎖がみとれる。これは原産地分析の結果ともある程度相関性があり、剥片素材で搬入された3個体を分析した結果、2個体があじさい滝産で、原石まで復元できる母岩は全て赤石山産であった(Ⅶ章4)。

#### (4) 年代測定

**放射性炭素年代** 炭化木片ブロックに対して行った(Ⅶ章1)。現在のところ、炭化木片ブロックは近接した石器ブロックとの関係性が最も高いと捉えている。しかし、「白滝I群」とそれ以外の石器群の分布が重なる状況であるため年代値をそのまま採用する事は注意を要する。そのような条件の中で「白滝I群」の石器ブロックに近接した炭化木片ブロックは、Cb-1・6である。Sb-5の西縁辺部にCb-1があり、 $12,460 \pm 60$ yBP、 $12,420 \pm 100$ yBPの年代値が得られている。また、Sb-10の北東縁辺部にCb-6があり、 $18,650 \pm 160$ yBP、 $18,780 \pm 160$ yBPの年代値が得られている。逆に、近接した石器ブロックがない炭化木片ブロックはCb-14・15である。Cb-14は $21,980 \pm 210$ yBP、 $24,340 \pm 160$ yBP、Cb-15は $14,030 \pm 110$ yBP、 $13,930 \pm 50$ yBPの年代値が得られている。Cb-14が全体の中でも古い年代値であり、「白滝I群」と関わりがあるかもしれない。

**水と層測定年代** Sb-1の出土石器に $12,046 \pm 471$ yBP (H114)、 $20,944 \pm 1,116$ yBP (H115)、 $23,482 \pm 270$ yBP (H116)、Sb-5の出土石器に $11,182 \pm 1,011$ yBP (H117)、 $11,783 \pm 1,213$ yBP (H119)、 $17,724 \pm 1,851$ yBP (H120)、Sb-6の出土石器に $11,721 \pm 800$ yBP (H121)、 $25,627 \pm 1,540$ yBP (H122)、Sb-8の出土石器に $14,690 \pm 1,422$ yBP (H123)、 $13,725 \pm 1,954$ yBP (H124)、 $11,103 \pm 423$ yBP (H125)、Sb-9出土石器に $16,467 \pm 1,349$ yBP (W5)、 $19,546 \pm 1,072$ yBP (W6)、 $8,238 \pm 2,010$ yBP (W7)、 $12,535 \pm 441$ yBP (H126)、Sb-10の出土石器に $11,517 \pm 2,366$ yBP (W11)、 $15,472 \pm 1,086$ yBP (W12)、 $16,985 \pm 720$ yBP (W13)、 $15,565 \pm 1,448$ yBP (H127)、Sb-12の出土石器に $20,743 \pm 970$ yBP (H128)、 $19,051 \pm 2,355$ yBP (H129)、 $26,076 \pm 1,849$ yBP (H130)の年代値が得られている(Ⅶ章4)。

同一石器ブロックでも年代差が大きく、単純に年代値を採用できない状況であるが、以下に石器ブロック群毎の特徴を概観する。Sb-1~3では、3点中2点が20,000年以上の年代値である。Sb-4~6では、角礫を素材とした母岩とそれに類似した剥離技術を行っている転礫素材の母岩(母岩21・接合47)が11,000年近くにまとまっている。Sb-7・8はすべて角礫を素材とした母岩で11,000~15,000年の測定値である。比較的まとまり、前述のSb-4~6の角礫素材の母岩ともやや近い。Sb-10は、4点中3点が16,000年前後にまとまっている。Sb-11~13は、最も新しいH129が19,000

年代で、全体的に古めの年代値である。

フィッシュトラック年代 Sb-9の剥片に $24,100 \pm 2,300$ yBP (FT6)、 $23,400 \pm 2,100$ yBP (FT7)の年代値が得られている。まとまった測定値で、石器群の想定される年代との整合性も高いが、「白滝I群」以外の試料に関しても20,000年以上の古い年代値が得られている(Ⅶ章2)。年代順に「白滝I群」→ナイフ形石器群→尖頭器石器群となり、現在考えられている石器群の変遷観を支持するが、年代が全体的に古い値にまとまっているため、「白滝I群」も含めて採用には検討を要する。

### (5) 石器ブロック群間の関係と石器群の編年的位置付け

以上のことを総合すると、石器組成、石器製作技術、接合分布から「白滝I群」を以下の二つに細分することが可能である。

「白滝I a群」 加工(ア)による二次加工ある剥片のほかに、加工(イ)による腹面側のバルブ部に平坦剥離を施す二次加工ある剥片(台形様石器)が特徴的に出土する。搔器、錐形石器を少数組成し、搔器は端部にのみやや粗い剥離が施されるものが主体的である。剥片剥離はⅠ～Ⅲ類まで確認され、その他に角礫を素材とする母岩が伴う場合もあり、縦長剥片を目的的に剥離していた可能性が高い。

Sb-1~3、4~6、7・8、9、11~13がこれに該当し、同一の石器群として捉えることが可能である。このような一群は道内で白滝村奥白滝1遺跡Sb-1~3、4~6(直江ほか 2002)、千歳市祝梅下層遺跡三角山地点(横山・吉崎 1974)で確認され、現在、北海道の後期旧石器時代の中で最古の一群として捉えられている(佐藤 2003、山原 1996、寺崎 2003など)。

この中でSb-11~13は、他の石器ブロック群と若干異なる傾向がある。二次加工ある剥片の素材は(a)・(d)が多く、剥片剥離技術においてⅡb類や剥片を素材とし、小口面同士のⅢa類が行われるものが多い。特徴的な石器として、縦長剥片を素材として腹面側のバルブ部に平坦剥離を施す二次加工ある剥片が出土している。これは技術形態的に粗製の広郷型ナイフ形石器といった感がある。石器製作技術的にも広郷型ナイフ形石器は、北見市広郷8遺跡(宮 1985)でサイコロ状の石核が出土し、白滝村上白滝7遺跡(坂本ほか 2000)でチョッピングツール状の交互剥離を行う「白滝I群」に類似した剥離技術が伴っている。これらのことから広郷型ナイフ形石器群と台形様石器群との関係性を重視する見方がある(坂本 2003、寺崎 2003)。現段階では他の石器ブロック群と明確に分離できないため、同一の石器群とする。しかし、Sb-11~13は、広郷型ナイフ形石器を伴う石器群との関係を考える中で重要な石器ブロック群と考えられる。

「白滝I b群」 加工(ア)による二次加工ある剥片のほかに、加工(ウ)による二次加工ある剥片(台形様石器)が出土する。搔器、削器、錐形石器を組成し、搔器の加工は器体をほぼ全周する。剥離技術に関しては、Ⅲ類よりはⅠ類の技術が多用される傾向がある。

Sb-10がこれに該当する。このような一群と同様の組成を持つ石器群は、現在のところ確認されていない。個別の石器をみると、急角度の二次加工を施す台形様石器は函館市桔梗2遺跡(石川・長沼 1988)、清水町共栄3遺跡(山原 1992)で出土している。さらに搔器は、上土幌町嶋木遺跡(辻 1973、加藤・山田 1988)に代表される搔器を主体とする石器群や今金町神丘2遺跡(寺崎 1990)や広郷8遺跡の広郷型ナイフ形石器に伴う円形搔器とも類似するものである。

当該期の石器群は近年調査例が増加したものの、石器群ごとの様相は、異なる点と類似する点が複雑で、一系統の単純な発展段階論では説明がつかない状況となっている。「白滝I a群」と「白滝I b群」の関係についても同様である。詳細な編年的・系統的関係については、次年度以降報告予定の

上白滝8遺跡西地区の搔器を中心とした「白滝I群」を検討した後の課題としたい。上述のように上白滝8遺跡東地区の「白滝I群」は大きく二つの石器群として捉えることが可能である。

(直江康雄)

## 2 上白滝8遺跡「白滝I群」以外について

白滝村には黒曜石の原石山である赤石山に隣接する立地環境を背景として非常に多くの遺跡が密集している。当センターは、旭川・紋別自動車道建設に伴う発掘調査として平成7年以来、白滝村において17遺跡（平成15年時点）の調査を行ってきたが、それらのほとんどが黒曜石の獲得を目的として形成されている点で共通して原産地遺跡の性格を持つ。しかし、遺跡群で看取される石材獲得から石材消費に至る戦略については遺跡群を構成する個々の遺跡・石器群等の諸階層で様々な違いがあることも明らかになりつつある。

上白滝8遺跡は17遺跡の中で最も大量の遺物が出土し、分布密度では低位部を除くと服部台2・奥白滝1とならんで1㎡あたり100点前後である。遺物分布は、他の遺跡に比べ最も広範囲に連続し、巨視的に見ると直径50m規模の集中域とみなすことができる。しかし、これらは、複数の石器群が重複する複雑な様相を示している。今回はこのような遺跡の状況をふまえ、連続した分布を把握・記述するための資料操作単位として便宜的に等密度線図からブロック設定を行い、さらに、最大公約数的な「石器群」の分類を目的として、特徴的な石器・近距離での接合関係を基に「区域」の設定を行った。この資料操作を経て、おぼろげながら「石器群」の特徴をつかむことができた。本節では、以上の資料操作を経てたどり着いた「区域」毎の特徴をまとめたいと思うが、前述の理由により厳密な「石器群」抽出には至っていない。しかしながら、このような、分布のあり方こそが原産地遺跡である白滝遺跡群の中でも最大級の規模を誇る本遺跡の性格を特徴づけていると考えることができる。なお、遺跡全体の検討は次年度以降の西地区報告時に行いたい。

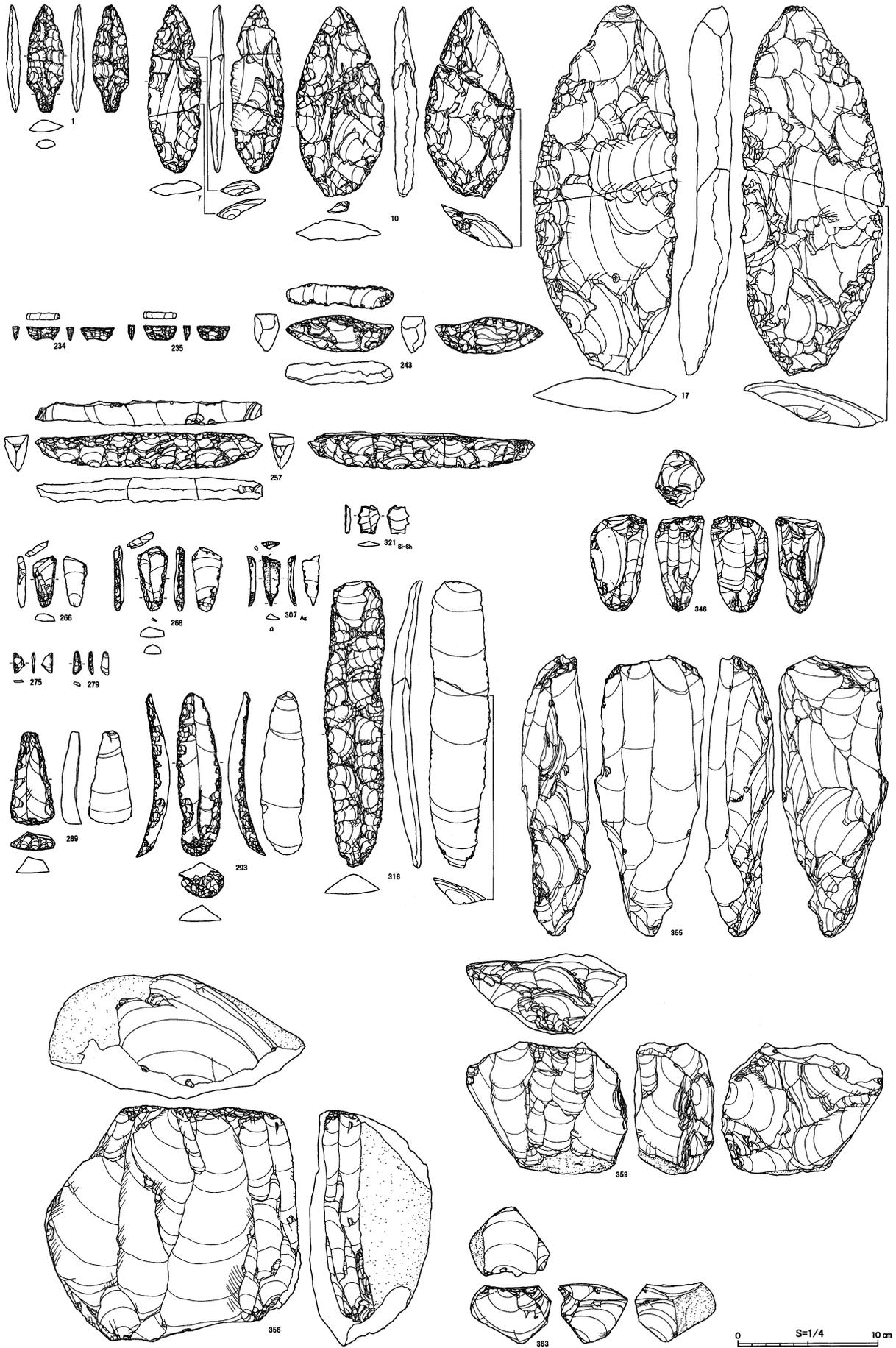
### (1) A区・石器ブロック14～19 (Sb - 14～19)

**石器・石材組成** (図VIII-11) 点取り遺物13,670点、188,721.7gの石器類が出土した。定形的な石器は尖頭器・尖頭器削片・両面調整石器・ナイフ形石器・彫器・彫器削片・搔器・削器・錐形石器・舟底形石器 (I・II類)・細石刃・細石刃核・細石刃核削片・石刃・縦長剥片・石刃核・石核・台石が出土している。石材は黒曜石1 (68.0%) が最も多く、次いで黒曜石4 (16.4%)、黒曜石5 (10.4%)、黒曜石3 (4.6%)、黒曜石2 (0.4%)、頁岩 (0.11%)、安山岩 (0.07%)、めのう (0.04%)、珪岩 (0.01%)、泥岩 (0.01%)、碧玉 (0.01%) である。彫器・舟底形石器には黒曜石4が、細石刃関連資料には黒曜石1・5が多く利用される。

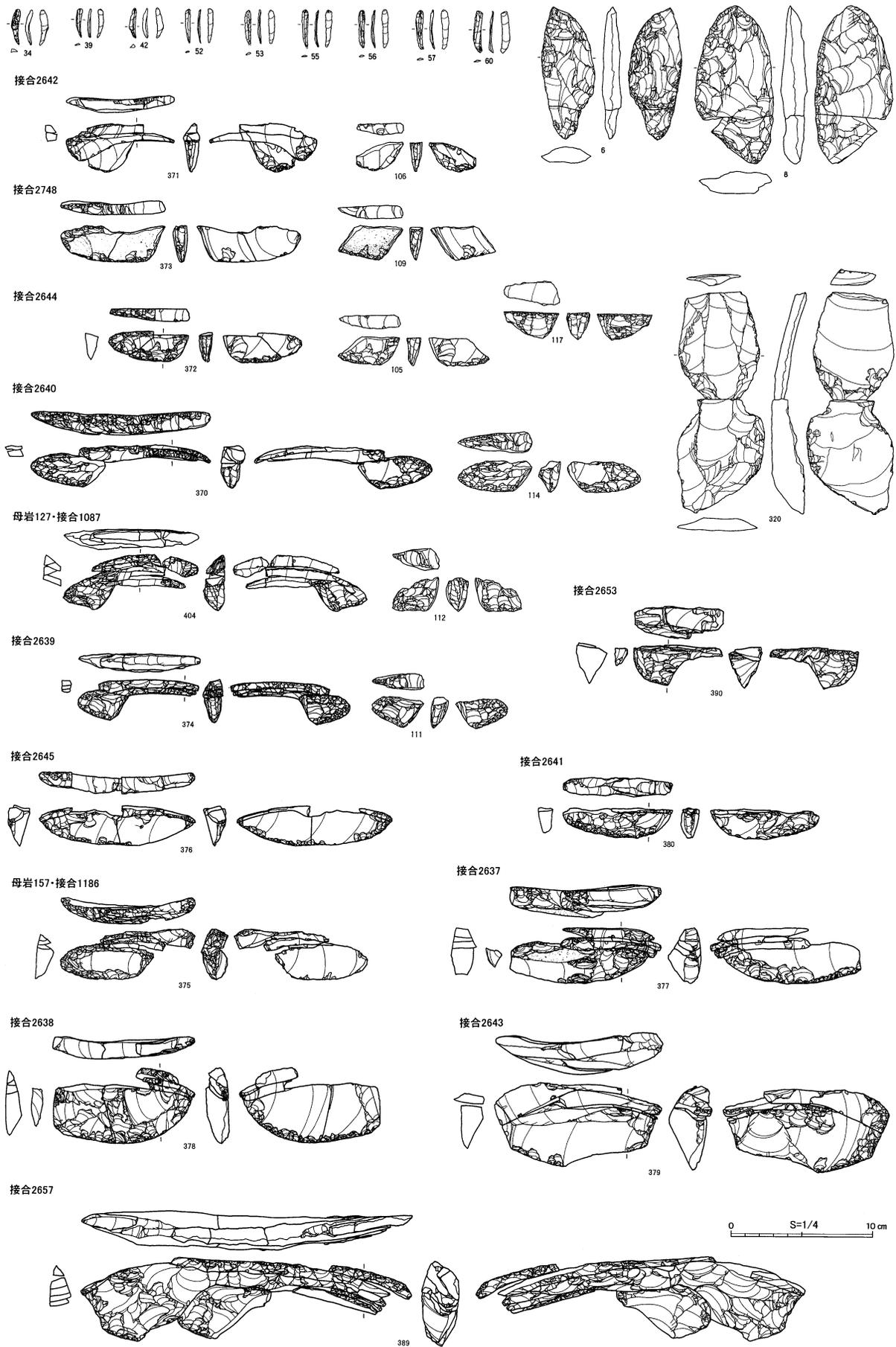
**石器製作技術** 尖頭器製作技術と石刃剥離を含む剥片剥離技術に分けられ、石刃剥離を含む剥片剥離技術の中に細石刃剥離技術が含まれる。

〈尖頭器製作技術〉 尖頭器は有舌尖頭器と通常の尖頭器が出土している。有舌尖頭器 (図VIII-11-1) は平行剥離ではない比較的大きい剥離で加工され、角張った舌部を持ち、舌部の縁辺は潰れている。単体で搬入され、産地分析で十勝三股産の結果が得られている。通常の尖頭器は剥片素材 (図VIII-11-7・10) と石核素材 (図VIII-11-17) があり、前者は15cm以下、後者は15～25cmである。剥片素材は転・角礫とも利用され、横長剥片素材が多く、石核素材は角礫が利用される。

〈剥片剥離技術〉 大きく6種類に分けられる。

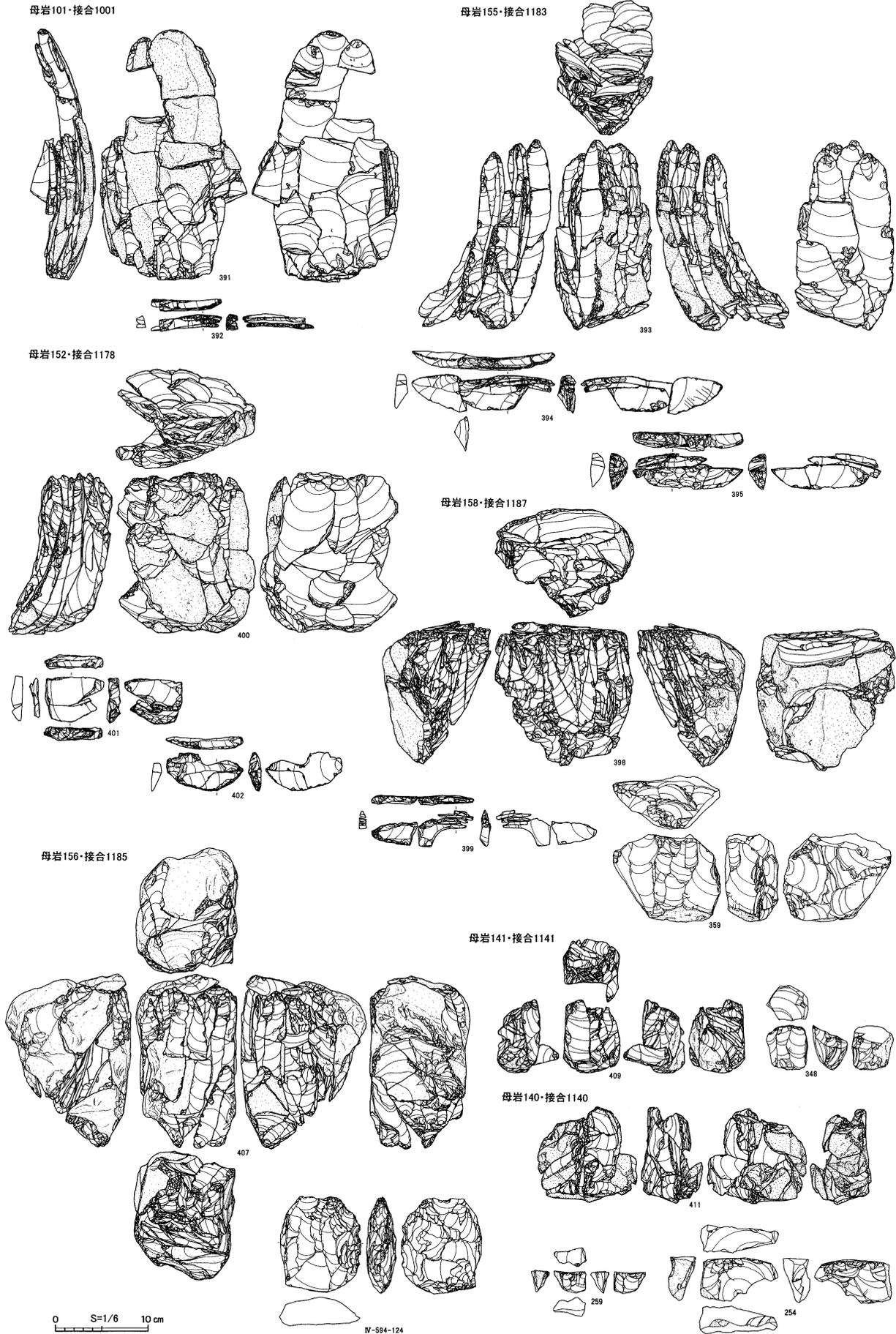


図Ⅷ-11 A区(Sb-14~19)石器組成図



図Ⅷ-12 A区(Sb-14~19)細石刃関連資料

2 上白滝8遺跡「白滝I群」以外



図Ⅷ-13 A区(Sb-14~19)母岩別資料

- ①背稜から左右側面に石核調整を行い、横断面が扇形の母型から石刃が剥離される。単設の主に単剥離打面から頭部調整を伴わない10cm以下の小型のもの（図Ⅷ-11-346）。
- ②背稜から左右側面に石核調整を行い、横断面が扇形の母型から石刃が剥離される。複剥離（調整）打面から頭部調整を伴う20cm前後の大型のもの（図Ⅷ-11-355）。
- ③20～30cmの角礫ないし転礫の平坦面で、石核調整を行わずに一度の大型剥片剥離により作出された打面から石刃が剥離される（図Ⅷ-11-356、母岩101・接合1001、母岩155・接合1183、母岩152・接合1178）。平坦な作業面形状を反映して剥離される石刃は幅広である。また、作業面形状が平坦であるためヒンジになりやすく、悪化した作業面を修正するため180度の打面転移が行われるものが多い。
- ④20～30cmの主に扁平な角礫ないし転礫を素材とし、裏面調整・打面調整を伴う石刃剥離が行われ、打面転移の結果、円盤状になる（図Ⅷ-11-359、母岩158・接合1187）。③の工程を経て移行するものがある（母岩156・接合1185）。
- ⑤10cm程度の小型の転礫を素材とし、単剥離打面から石刃剥離が行われ、打面転移の結果、多面体をなすもの（図Ⅷ-11-363、母岩141・接合1141）。
- ⑥10cm程度の小型の原石を二分割するもの。（母岩140・接合1140）

峠下技法関連の接合関係が認められるのは③④である。舟底形石器が接合するのは⑥であるが、舟底形石器に小型の原石から剥離された厚手の剥片ないし縦長剥片素材が多く存在することから、そのような剥片剥離技術が存在したと考えられる。

②④⑤は打面調整・再生、打面転移の結果、石核は小型化し、剥離される石刃のサイズも小型化するが、①③は変化が少ない。

〈細石刃剥離技術〉 細石刃核は削片剥離によって打面が作出されるもの（図Ⅷ-12-106ほか）と素材腹面を打面に設定する幌加型（図Ⅷ-12-117）がある。前者は主に③④の削片剥離技術で剥離されたと考えられる10～20cmの石刃・縦長剥片・剥片を素材とするが、石核素材の可能性のあるもの（接合2657）もある。後者は、甲板面が非常に平坦で大型の剥片素材と考えられる。細石刃核に残る細石刃剥離作業面長は21～27mmのものが多く、細石刃長と一致する。また、細石刃剥離角は60度前後である。細石刃剥離痕のある細石刃核の高さはほぼ一致するが、細石刃剥離痕のない細石刃核の高さは多様である。

削片剥離によって打面が作出される細石刃核母型は、主に縁辺部を中心とした加工により製作される（接合2642、2748、2644、2640）が、両面調整に近い母型（接合2639）、断面三角形の母型（接合2653）が準備されることもある。尖頭器に分類した図Ⅷ-12-6・8は縁辺部の潰れた状況から両面調整体の母型の可能性がある。また、図Ⅷ-12-320のように母型作成時に素材の反りのある先端部をノッチ状の剥離によって折り取る場合がある。

削片剥離は、ほとんどが母型の一方向の端部から行われ、その打点位置には素材打面・先端部の偏りは見られない。また、ほとんどの細石刃剥離は削片剥離打面側で行われ、細石刃剥離作業面を正面に据えると素材背面が左側面に、素材腹面が右側面に設定される。削片剥離の頻度は、3～5本が主体的であるが、削片の打面厚はほとんど変わらないこと、目的とする細石刃核未製品の大きさが一定であることからその数は細石刃核母型の大きさに規定されている。

削片剥離後、甲板面・下縁から側面に加工が行われるものがあり、面的な加工の施されるもの（母岩127・接合1087、接合2641、2637、2643、2657）と側面から甲板面への加工を含めた縁辺に細かい加工の施されるもの（接合2642、2645、2638、母岩157・接合1186）とに分けられる。前者は細石刃核の形態を変化させる調整、後者は次の削片剥離に先立つ調整と考えられる。これらには側面調整の

頻度に違いがあるが、細石刃剥離が行われている細石刃核の大きさを比較すると幅においては前者が14・15mm、後者が8・9mmで違いが見られるものの高さ・細石刃剥離作業面長はほとんど違いが無く、剥離される細石刃の大きさに違いが見られない。つまり、削片剥離段階での加工頻度を薄い素材には低く、厚手の素材には高くすることによって同一規格の細石刃核を製作し、同一規格の細石刃製作を保証しているのである。このことから、上白滝8遺跡における峠下技法の細石刃剥離技術は、目的とする細石刃の規格に対応した細石刃核を製作するために、削片剥離段階で加工頻度を変化させる技術であるといえる。このことは、また、本石器群における加工頻度の異なる細石刃核は同一規格の細石刃を剥離するという脈絡の中では同一の細石刃剥離技術の変異に過ぎないということを示している。

以上の結果を踏まえると、今後は、一遺跡内の石器群を単位として目的剥片である細石刃の大きさを基準にした細石刃剥離技術の変異幅を検討し、細石刃剥離技術を再構築する必要があるだろう。

1個体あたりの細石刃剥離頻度は、接合資料を観察すると細石刃剥離は全く行われなかったか、残核まで連続して行われるか両極端である。細石刃核の幅・高さ等の形状が細石刃剥離の条件を満たしたと判断できるものには消費しきるまで一気に細石刃が剥離されたものと考えられる。また、細石刃剥離中に打面再生は行われなかった。

削片のみ・細石刃核・未製品のみ資料があり、素材・細石刃核母型・細石刃核未製品など搬入形態は多様であったと考えられる。また、接合資料の欠落部分から素材・細石刃核母型・細石刃核未製品など搬出形態も搬入形態同様、多様であったと考えられる。

〈二次加工技術〉 舟底形石器はI類(図Ⅷ-11-234・235)とII類がある。I類の加工は上下から行われ、最終的に下縁からの加工によって整形される。端部で細石刃状の縞状剥離が行われる。II類(図Ⅷ-11-243)は、甲板面がポジ面とネガ面があり、剥片・石核が素材となる。端部に原礫面・素材面が残るものが多く、小型の原石から剥離されたと考えられる。加工は主に甲板面から行われる。15cmを越える大型品(図Ⅷ-11-257)、甲板面が原礫面のものがあり、それらは素材・上下からの加工状況が他のII類と異なる。彫器(図Ⅷ-11-266・268)は、両側縁に加工が行われ、腹面基部に加工が行われるものが多い。彫刀面は全て左肩に作出され、ほとんどが素材先端側である。腹面側に傾くものがほとんどでそれらには背面先端部調整が施される。搔器は、両側縁に急角度の加工が行われるものが多く、刃部形状は急角度の加工で直線的に整形されるもの(図Ⅷ-11-289)と斜角の加工で円形に整形されるもの(図Ⅷ-11-293)がある。錐形石器(図Ⅷ-11-307)は、石刃の端部に刃部が作出され、両端に刃部のあるものは、一端には中軸線上に、もう一端には斜めに作出される。削器には大型石刃素材で加工が背面を覆うもの(図Ⅷ-11-316)がある。

**分布** 細石刃関連資料、舟底形石器I・II類、彫器は分布が一致し、有舌尖頭器を含む尖頭器はその分布とは異なる。15cmを越える大型の尖頭器、大型ないし甲板面が原礫面の舟底形石器はB区近くに分布し、また、B区に同様の石器が分布することから関連がある。細石刃関連資料と舟底形石器は同一母岩に含まれる資料はなく、別の削片剥離技術から製作されているが、分布上ではこれらを分離することは困難である。

個々の接合資料はほとんど一か所のまとまりに分布するが、ブロック内の近接した場所で前半と後半の分布が分かれるものがある。

炭化木片ブロックはCb-1がSb-19の西端に位置するが、周辺に被熱石器はみられない。

**年代** Cb-1には $12,460 \pm 60$ yBP、 $12,420 \pm 100$ yBPの放射性炭素年代測定値が得られている。水層年代測定は、Sb-17出土の細石刃核に $9,556 \pm 476$ yBP (W14)、 $12,461 \pm 219$ yBP (W15)、 $14,550$

±912yBP (W16)、細石刃核削片に10,181±224yBP (H136)、有舌尖頭器に11,623±278yBP (H150)の水和層年代測定値が得られている。Cb-1はA区の南西端に位置し、被熱石器との関連も無く、石器群との対応関係は不明で、年代値の採用には検討を要する。細石刃核のサイズでは小型の峠下型細石刃核(寺崎 1999a)に対応し、それらは後期旧石器時代後半期前半と位置付けられているが、分布上分離できない後期旧石器時代終末期と位置付けられている(山原 1998b)舟底形石器I類を共伴とすると従来の編年観には整合しない。(鈴木宏行)

## (2) B区・石器ブロック20～29 (Sb-20～29)

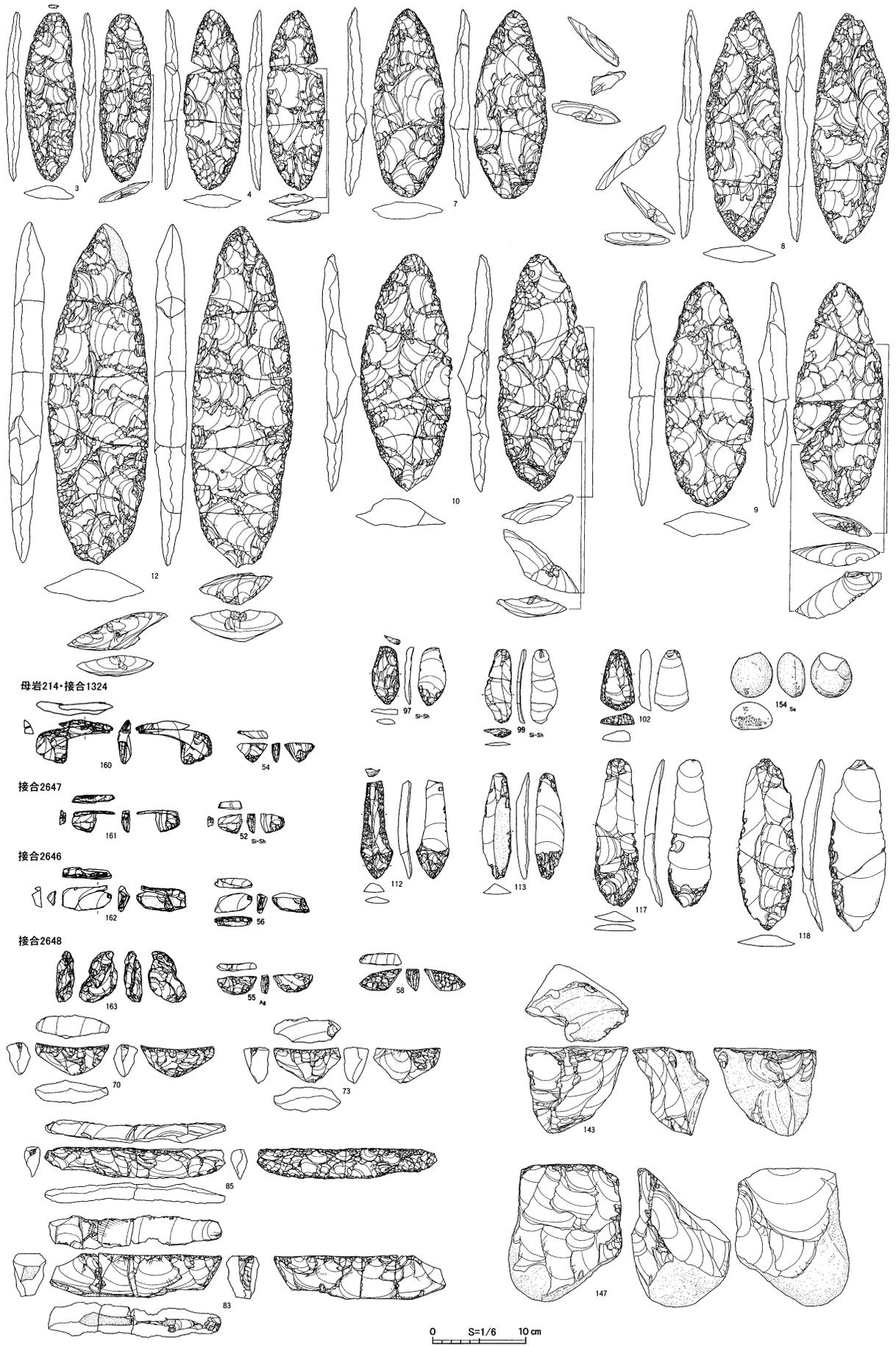
**石器・石材組成** (図VIII-14) 点取り遺物26,600点、213,398.4gの石器類が出土している。定形的な石器は尖頭器・尖頭器削片・両面調整石器・搔器・削器・錐形石器・舟底形石器・細石刃・細石刃核・細石刃核削片・石刃・縦長剥片・石刃核・石核・石鏃・台石・敲石が出土している。石材は黒曜石1(47.1%)が最も多く、以下、黒曜石4(21.8%)、黒曜石5(20.1%)、黒曜石3(10.6%)、黒曜石2(0.2%)、安山岩(0.05%)、頁岩(0.04%)、めのう(0.01%)、砂岩(0.004%)である。彫器がほとんど含まれないのが特徴である。細石刃核の石材は黒曜石1・5が利用されるA区(Sb-14～19)と異なり、頁岩・めのう・黒曜石4・ケシヨマップ産の黒曜石が利用される。

**石器製作技術** 尖頭器製作技術と石刃剥離を含む剥片剥離技術に分けられ、石刃剥離を含む剥片剥離技術の中に細石刃剥離技術が含まれる。

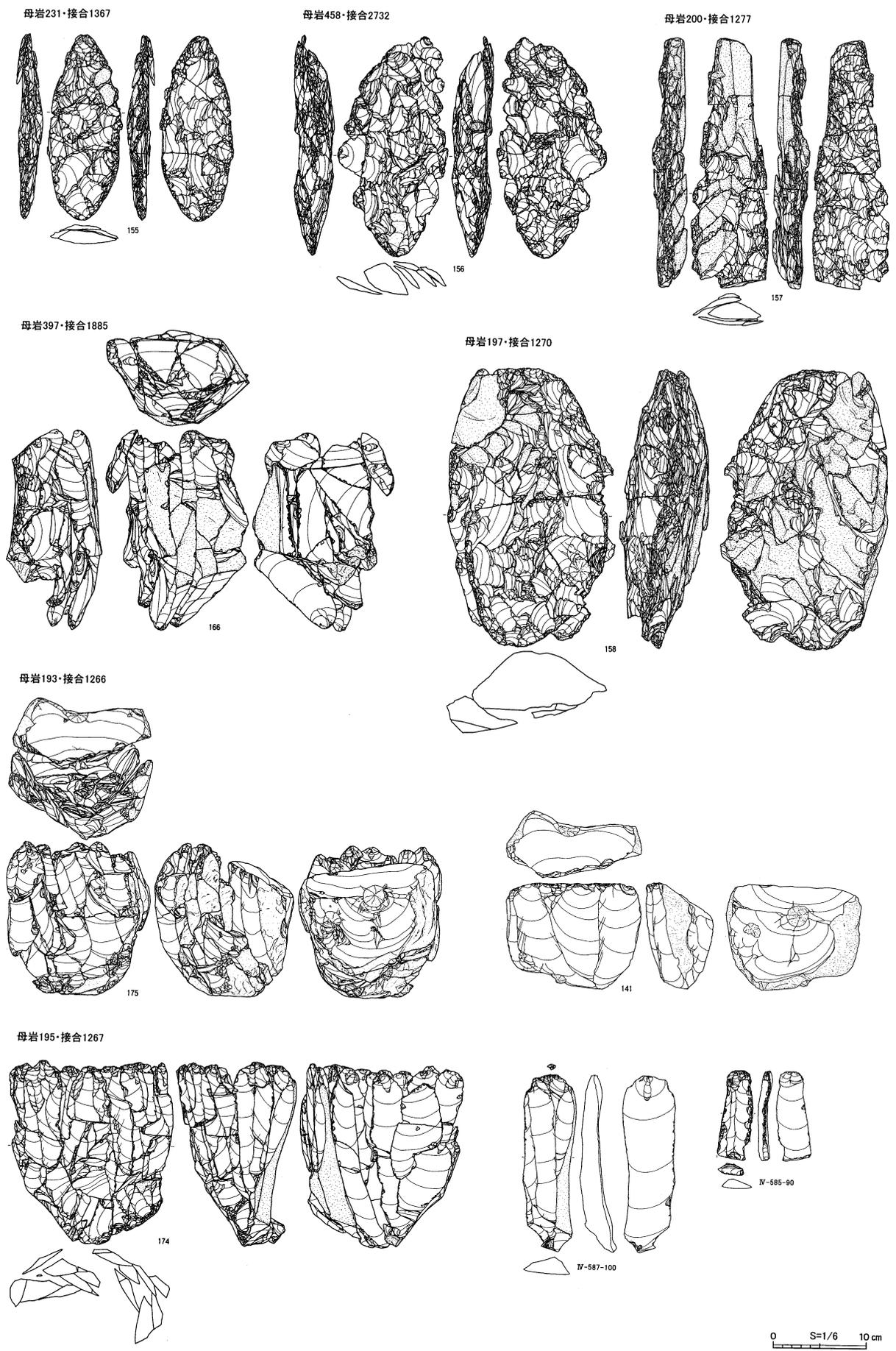
〈尖頭器製作技術〉 角礫素材と考えられる平坦剥離面に覆われた15～35cmの大型の尖頭器(図VIII-14-3～12)が多数出土している。形態は断面凸レンズ状で左右対称の均整のとれた形態である。これらは、ほとんど同一母岩の剥片が無く、ほぼ搬入形態を示している。接合資料(母岩231・接合1367、母岩458・接合2732)もほぼ同様の形状で大型の均整のとれた尖頭器で搬入され、加工が行われている。これらは、角礫素材であり、露頭周辺で初期段階の加工が行われ、搬入されたと考えられる。また、細長い扁平な角礫(母岩200・接合1277)や盤状の角礫(母岩197・接合1270)で搬入され、加工されるものがある。小型のものは再加工されたものが多く、基本的には遺跡内で小型品にするような連続した加工は行われない。大型のものは放射状の折れ面を持つもの(図VIII-14-12など)が多く、それらはその他に調整の際に折損したと考えられる折れ面を持つことから、調整加工の折損後に器体中央を加撃して折損したと考えられる。

〈剥片剥離技術〉 平滑な原礫面を持つ45cmを越える大型の盤状原石、30cm程度の角礫、20～30cmの転礫が利用される。大型剥片剥離によって作出された単剥離打面ないし原礫面打面から頭部調整を伴い20cm程度の大型石刃が剥離される。石刃剥離時に打面再生が行われるものがある。石核調整は転礫・中型の原石には行われないが、大型の原石素材の場合、最初の石刃剥離段階で稜調整・裏面調整などがみられる。また、石刃剥離途中で若干の稜調整・下縁調整などの作業面調整が行われるものがある。作業面形状がホームベース型の石刃核(母岩195・接合1267)は形態の整った石刃が連続的に剥離されている。大型原石素材の石刃技法は厚さ5cm程度の大型打面再生剥片が剥離されるが、このサイズの石刃核の打面更新にはこの厚さの打面再生剥片が必要である。また、原石を半分に分割する剥片剥離技術がある。

〈細石刃剥離技術〉 素材は小型の石刃・縦長剥片で、めのう製の細石刃核(接合2648)は10cm弱の小型の原石を分割したような素材である。細石刃核は甲板面からの側面調整によって大きく変形する美利河型に類似する1点(図VIII-14-58)を除き峠下型である。細石刃剥離作業面長は彫器から転用された頁岩製を除き20～25mmで、甲板面と作業面の角度は60度前後である。これらは、A地区



図VIII-14 B区(Sb-20~29)石器組成図



図Ⅷ-15 B区(Sb-20~29)母岩別資料

の細石刃長・細石刃核の数値と一致する。しかし、A地区と異なり、頁岩（接合2647）・めのう（接合2648）・ケシヨマップ産の黒曜石（母岩214・接合1324）・黒曜石4（接合2646）などが利用され、それらの素材は薄く、調整は母型作成時の周辺可能のみで、削片剥離後の側面調整は行われない。1個体あたりの細石刃剥離頻度はA区と同様である。

〈二次加工技術〉 舟底形石器は小型、大型のものがある。小型のもの（図Ⅷ-14-70・73）はザラつきの無い平坦な原礫面を持つ原石を分割した素材で側面形が三角形のものが多く、大型のものは大型石刃剥離の際に剥離された大型剥片・石刃、その石核・石刃核素材で側面形状が長方形になる。また、大型のものは主に甲板面からの粗い加工で整形されたもの（図Ⅷ-14-83）と上下からの細かい加工で整形されたもの（図Ⅷ-14-85）があり、後者は前者に比べ、幅・高さが小さい。後者が前者より加工が進んだ状態である可能性がある。また、甲板面が平滑な原礫面で原石から直接加工されたものもある。彫器（図Ⅷ-14-97）は一点のみ出土し、頁岩製の右刃である。搔器は石刃素材で端部に細かい剥離によって刃部が作出されるもの（図Ⅷ-14-99）と両側縁に連続した加工を施し、刃部にもしっかりした加工がみられるもの（図Ⅷ-14-102）がある。削器は大型の石刃素材で片面・両面に平坦剥離による加工がみられる。特に大型のもの（図Ⅷ-14-117・118）は素材の先端部背面に平坦加工が施され、その打面となる細かい剥離が裏面縁辺にみられる。また、両面加工で基部を整形し、先端部は背面の急角度の加工で尖頭状に加工されたもの（図Ⅷ-14-112）がある。敲石は5cm程度の円形の砂岩製である。

**分布** 大型尖頭器はSb-19・21・24、Sb-27・28にまとまりがある。舟底形石器は、前者には大型剥片素材の精製品・甲板面が原礫面の精製品が、後者にはざらつきのない平滑な原礫面を持つ原石素材の小型のもの・大型剥片素材の粗製品が伴う。Sb-26には転礫素材の石核類がまとまり、Sb-27には細石刃関連資料が分布する。

接合資料は基本的には一か所のまとまりに分布するが、近距離で複数のまとまりを持つものや長距離を隔てて分布するものがある。

近距離で複数のまとまりを持つものは、舟底形石器調整剥片とそれ以外の一次剥片の分布が異なるもの、段階で分布が異なるものがある。

長距離を隔てた接合資料として尖頭器単体ではSb-21とSb-50（D区）、Sb-27とSb-50・52（D区）の接合がある。剥離面接合資料ではA区とD区にまたがるものがある。A区にまたがる資料は細石刃関連資料・石刃関連資料があり、両者とも前半部分はB区（Sb-26、27）に、後半部分はA区（Sb-17）に分布する。特に、石刃関連資料は前半の石刃の一部もA区に分布している。D区にまたがる資料は尖頭器関連資料・大型石刃関連資料がある。尖頭器関連資料は、前半部分がB区（Sb-28）に、後半部分がD区（Sb-46）に分布するものほとんどの剥片がB区（Sb-27）に、大型の剥片がB区（Sb-28）・D区（Sb-47）に分布するものがある。大型石刃関連資料は、ほとんどの一次剥片ないし舟底形石器調整剥片がB区（Sb-27・28）に、良好な石刃類がD区（Sb-46・47）に分布し、良好な石刃類がB区からD区に持ち込まれたものと考えられる。

遠距離接合に関しては単体の尖頭器接合資料はSb-50・52との関連が強いのにに対し、剥離面接合資料ではSb-46・47との関連が強く、違いが見られる。これは、それぞれの遺物の移動・遺棄の脈絡の違いに起因すると考えられる。

**年代** 炭化木片ブロックは無く、Sb-27出土の細石刃核削片に $10,573 \pm 330$ yBP（H135）、大型石刃と舟底形石器の接合資料（母岩201・接合1278）に $11,276 \pm 737$ yBP（H144）、大型石刃の接合資料（母岩243・接合1409）に $16,146 \pm 1,131$ yBP（H145）、細石刃核削片に $10,181 \pm 224$ yBP（H136）の

水和層年代測定値が得られている。細石刃関連資料に10,000～11,000年の年代値が得られているが水和層年代値のみでは採用に検討を要する。大型石刃・舟底形石器を含む石器群は、当センターで調査を行った服部台2遺跡（未報告）で確認されているが、現段階では編年的位置付けは不明である。

（鈴木宏行）

### （3）C区・石器ブロック30～35（Sb-30～35）

**石器・石材組成**（図Ⅷ-16） 点取り遺物9,664点、104,341.3gの石器類が出土した。定形的な石器は尖頭器・尖頭器削片・両面調整石器・ナイフ形石器・彫器・搔器・削器・錐形石器・舟底形石器・細石刃核・細石刃核削片・細石刃・石刃・縦長剥片・石刃核・石核・台石が出土している。石材は黒曜石1（55.3%）が最も多く、以下、黒曜石4（31.7%）、黒曜石5（5.9%）、黒曜石3（4.5%）、黒曜石2（2.5%）、安山岩（0.08%）、頁岩（0.02%）、めのう（0.01%）、流紋岩（0.1%）、である。石刃・縦長剥片は、黒曜石1が多い。

**石器製作技術** 尖頭器製作技術と石刃剥離を含む剥片剥離技術に分けられ、石刃剥離を含む剥片剥離技術の中に細石刃剥離技術が含まれる。

〈尖頭器製作技術〉 主に角礫の石核素材と考えられる。両面調整石器には20cmを越えるものがあるが、尖頭器には無く、小型のものが主体である。片面が平坦で断面形が三角形のもの（図Ⅷ-16-4）、平坦剥離で覆われる薄手のもの（図Ⅷ-16-3）がある。両面調整石器には折損後、側縁に沿って剥離された削片を素材として舟底形石器が加工されるもの（図Ⅷ-16-14）がある。

〈剥片剥離技術〉 大きく5種類に分けられる。

①20～30cm程度の転礫を素材として裏面・裏面から両側面・正面からの稜調整により、断面三角形の母型を作成し、頻繁に打面再生を行いながら頭部調整を伴って15～20cm程度の石刃が剥離される（図Ⅷ-16-74、母岩261・接合1465）。

②25cm程度の垂角礫を素材として多方向の剥離によって15～20cm程度の幅広の縦長剥片が剥離され、石核形状は円盤状になる（母岩260・接合1464）。剥離された縦長剥片は細石刃核の素材となる。

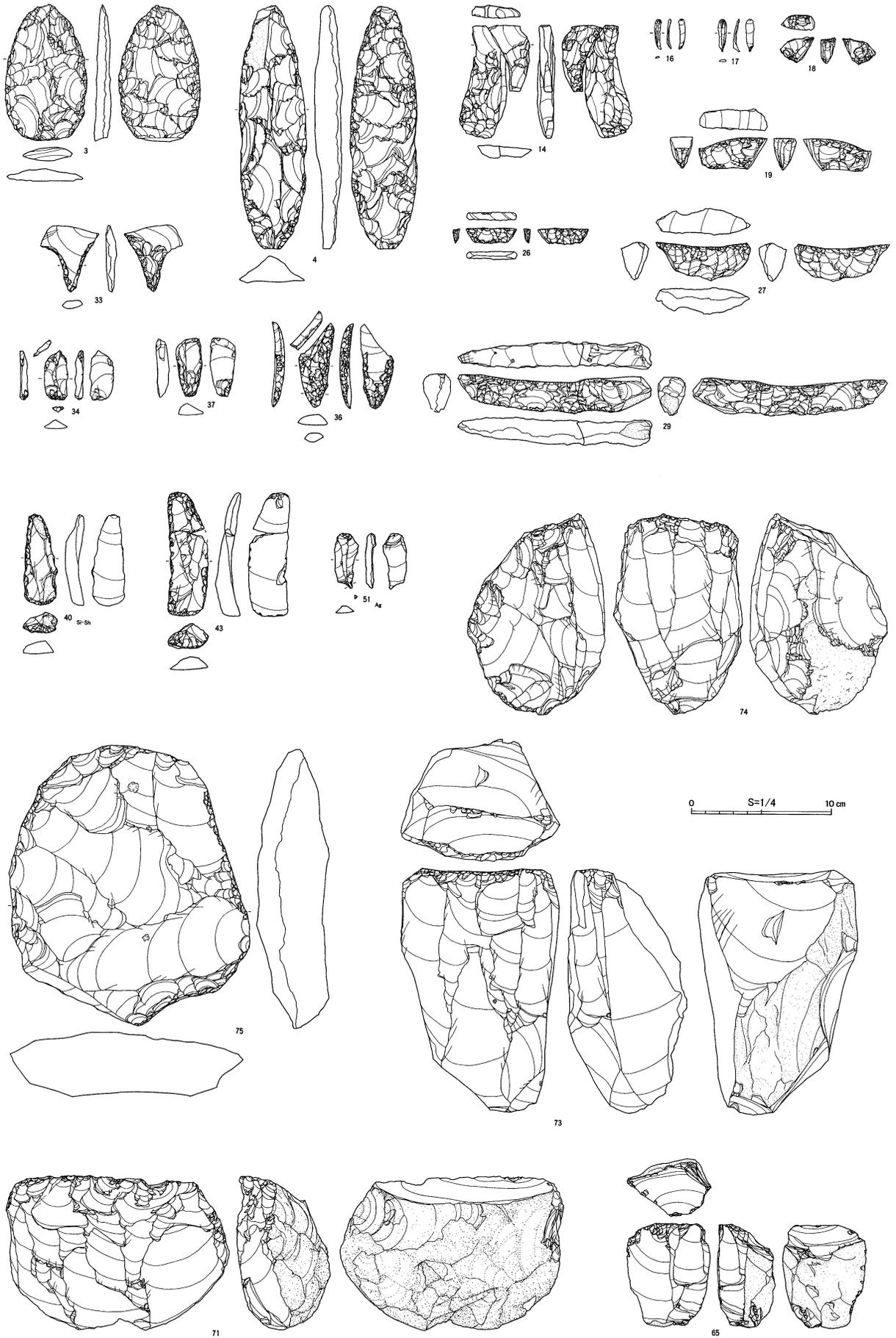
③40cm程度の大型の角礫を素材として一回の剥離によって作出された単剥離打面から頭部調整を伴って石刃が剥離されるもので、15cm程度の石刃が剥離される。厚手の石刃・石刃核を分割したものは舟底形石器の素材となる。

④15cm程度の転礫を素材として一回の剥離によって作出された単剥離打面から頭部調整を伴って石刃が剥離されるもので、作業面形状が平坦で10cm前後の幅広の石刃が剥離される（図Ⅷ-16-71、母岩189・接合1257）。

⑤10cm程度の転礫を素材として一回の剥離によって作出された単剥離打面から頭部調整を伴って石刃が剥離されるもので、10cm以下の比較的小型の石刃が剥離される（図Ⅷ-16-65）。

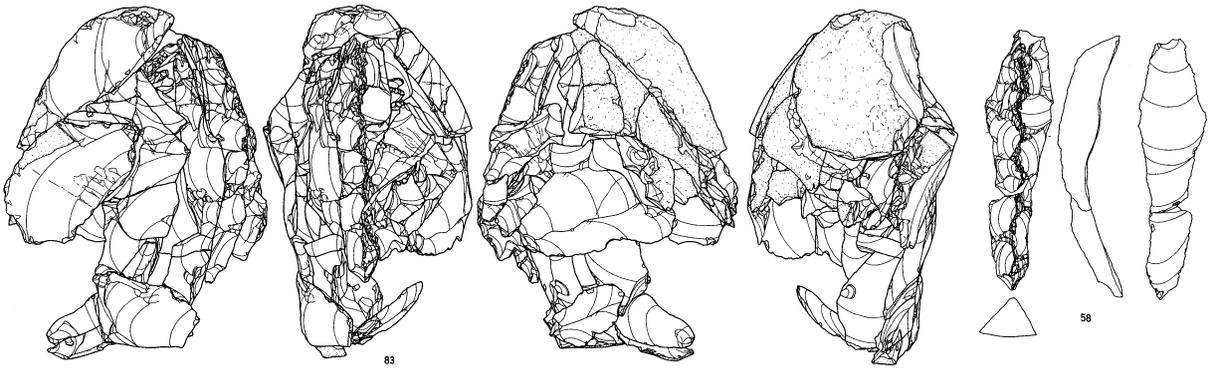
〈細石刃剥離技術〉 比較的厚手で幅広の縦長剥片を素材として細石刃核母型が製作される。厚手であるが、両面加工は行われず、縁辺のみの加工で母型は製作される。二次削片剥離に先立つ加工が側面・甲板面に行われるが、幅を減少させるような広範囲の側面調整は行われない。細石刃剥離痕のある細石刃核は峠下型（図Ⅷ-16-18）・幌加型細石刃核（図Ⅷ-16-19）が出土し、それぞれ細石刃作業面長は22・27mm、甲板面と作業面の角度は60度程度でA区の細石刃核と一致する。また、細石刃の長さもそれらと一致する。

〈二次加工技術〉 舟底形石器はI・II類が出土している。I類には尖頭器の側縁で剥離された削片を素材とするものがある。II類には小型（図Ⅷ-16-27）と大型のもの（図Ⅷ-16-29）がある。ナ

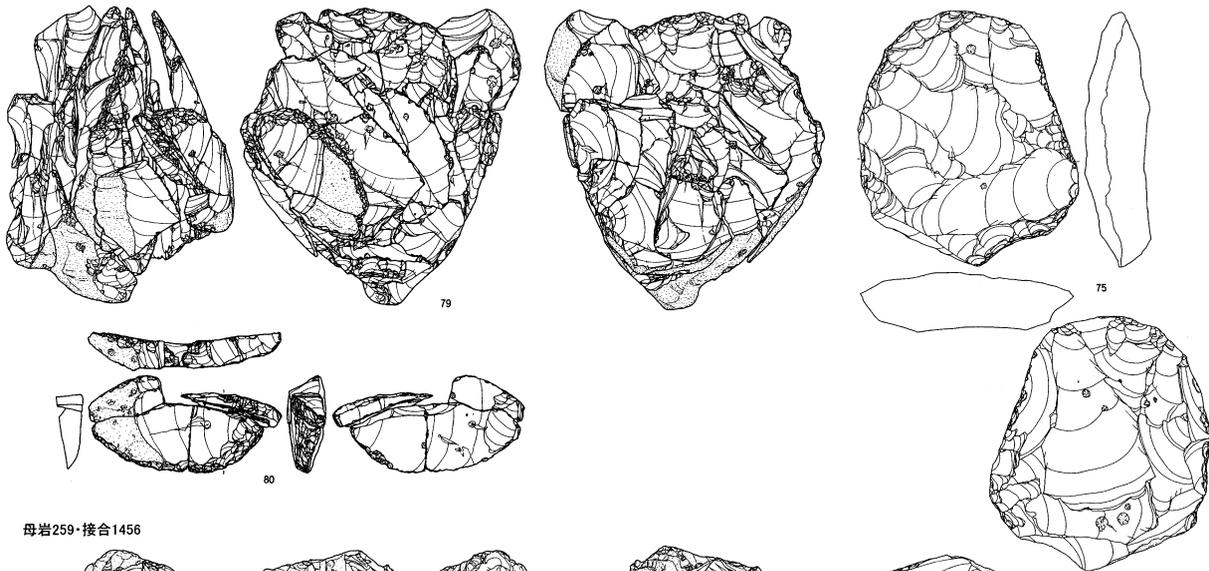


図Ⅷ-16 C区(Sb-30~35)石器組成図

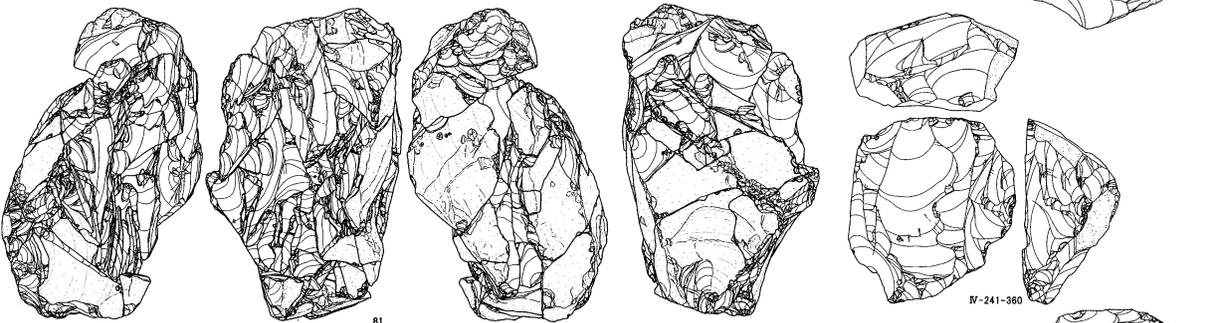
母岩261・接合1465



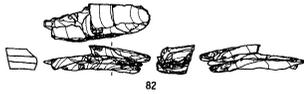
母岩260・接合1464



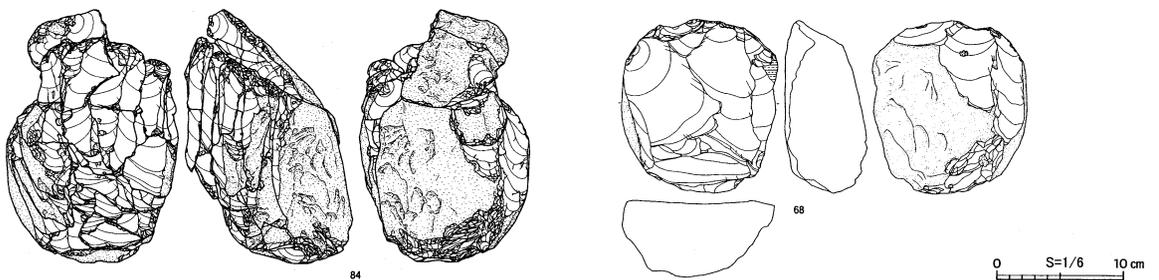
母岩259・接合1456



母岩259・接合1457



母岩189・接合1257



0 S=1/6 10 cm

図Ⅷ-17 C区(Sb-30~35)母岩別資料

イフ形石器(図Ⅷ-16-33)は幅広の剥片素材で素材剥離軸に直交する基部が両面急角度の加工によって作出される。彫器は素材背面に平行剥離による加工が行われ、端部に作出された打面から斜めに直線的な彫刀面が作出されるもの(図Ⅷ-16-36)がある。搔器は刃部形状が直線的で側縁調整が軽微なもの(図Ⅷ-16-40・43)が多い。錐形石器(図Ⅷ-16-51)は小型の縦長剥片に斜めに刃部が作出される。

**分布** C地区は、それぞれ石器の内容が異なる小規模なブロックが多いのが特徴である。Sb-31・32には石刃素材の搔器が多く、刃部形状は直線的である。また、黒曜石4が多い。Sb-33は単剥離打面から大型の石刃が剥離されたほぼ一母岩(母岩289)で構成される。Sb-34には峠下技法の細石刃関連資料がまとまって分布する。細石刃関連の接合資料(母岩259・接合1456・1457)は峠下技法の細石刃関連資料が最も多いA地区と接合関係があり、初期の大型剥片・それを素材とした細石刃核削片の接合資料・後半段階の石器類がA区(Sb-17)から出土している。Sb-34で剥離された後、A区に持ち込まれ、剥離が行われたと考えられ、また、初期段階の大型剥片も選択して持ち込まれ、細石刃核に加工されたと考えられる。Sb-35は、作業面が幅広の石刃核、搔器、舟底形石器・尖頭器にそれぞれ分布の偏りがみられる。複剥離打面から石刃が剥離された接合資料(母岩189・接合1257)はB地区と接合関係があり、形態の良好な石刃がB区(Sb-22)に持ち出されている。Sb-34とSb-35にまたがる石刃剥離の接合資料があるが、それらの内容に明確な違いが見られない。

**年代** 炭化木片ブロックは無く、Sb-32出土の細石刃核を含む接合資料(母岩260・接合1464)に $13,397 \pm 692\text{yBP}$ (H131)、Sb-33出土の大型石刃と舟底形石器の接合資料(母岩289・接合1557)に $13,115 \pm 742\text{yBP}$ (H133)、細石刃核削片を同一母岩に持つ接合資料(母岩259・接合1456)に $9,858 \pm 328\text{yBP}$ (H132)の水和層年代測定値が得られている。10,000~13,500年の測定値が得られているが、水和層年代測定値のみでは採用に検討を要する。A・B・D区に関連する複数の石器群があり、編年の位置付けはそれぞれの石器群に対応すると考えられる。

(鈴木宏行)

#### (4) D区・石器ブロック36~55(Sb-36~55)

**石器・石材組成**(図Ⅷ-18・19) 点取り遺物28,783点、257,068.5gの石器類が出土した。定形的な石器は尖頭器・尖頭器削片・両面調整石器・ナイフ形石器・彫器・搔器・削器・錐形石器・舟底形石器・細石刃・石刃・縦長剥片・石刃核・石核・斧形石器・台石・砥石・敲石が出土している。石材は黒曜石1(48.6%)が最も多く、以下、黒曜石4(30.7%)、黒曜石5(13.2%)、黒曜石3(7.0%)、黒曜石2(0.3%)、頁岩(0.09%)、安山岩(0.04%)、軽石(0.03%)、めのう(0.007%)、凝灰岩(0.003%)、砂岩(0.003%)である。細石刃1点を除くと細石刃関連資料が無く、他の区域に比べ彫器が多いのが特徴である。彫器・錐形石器・舟底形石器には黒曜石4が多く利用される。今回報告地区(東地区)では最大の区域で最多の遺物が出土している。

**石器製作技術** 尖頭器製作技術と石刃剥離技術を含む剥片剥離技術に分けられる。

〈尖頭器製作技術〉 剥片素材と石核素材があるが、ほとんどは石核素材である。石核素材の大部分は角礫素材で、多くの剥片で構成される接合資料は20~45cmの原石ないし粗加工された両面調整体で搬入されるものが多い。その内、25cm以下のものは原石ないし、それに近い形状で搬入されるのがほとんど(母岩352・接合1720、母岩345・接合1700)であるが、30cmを越えるものは両面調整体が多い(母岩414・接合1926、母岩452・接合2029)。また、厚さ2cm以下の扁平な板状の角礫を素材としたものがある。同一母岩剥片が少なく母岩別資料に含まれないものも多く、あまり加工が行わ

れずに折損し、搬入形状に近いものもあると考えられる。遺跡内では主に厚さと幅を減少させて尖頭器は搬出される。折損後、折れ面を打面として側縁で剥片剥離が行われるもの（母岩345・接合1700）があり、一次剥片は断面三角形の形態的特徴を利用して舟底形石器Ⅰ類に加工されることがある（接合2675）。大型の尖頭器から小型の尖頭器にかけて粗い剥離（図Ⅷ-18-48・57）、平坦剥離（図Ⅷ-8~17）、平行剥離（図Ⅷ-3・4）が漸移的に見られ、幅・厚さも同様に小型化していることから大きさに応じて二次加工が変化し、平行剥離のある尖頭器が最終形態であると考えられる。

〈剥片剥離技術〉 石刃剥離が行われる①~③と石刃以外の剥片剥離が行われる④~⑥の大きく6種類に分けられる。

①単剥離打面・原礫面打面・2~3枚の複剥離打面から頭部調整を伴って石刃が剥離される。大型のもの（母岩396・接合1883）は25cmを越える角礫が、小型のもの（母岩351・接合1716、母岩366・接合1759）は20cm以下の亜角礫・転礫が利用される。剥離される石刃は5~20cmと多様であるが大型のものを除くとほぼ10cm以下で、後者は彫器・搔器の素材となっている。また、一連の石刃剥離の中で剥離された打面作出剥片・厚手の剥片・石刃核は舟底形石器の素材となっている。

②調整打面の石刃核から石刃が剥離される。20cm程度の角礫・亜角礫が利用され、石核調整の無いもの（母岩390・接合1860）、裏面に横方向の石核調整が行われるもの、左右両側面に石核調整が行われるものがある。剥離される石刃は、前2者は15cm程度で、両側面に石核調整の行われるものは20cm程度である。

③角柱状の角礫から頭部調整無しで石刃が剥離される。打面再生が頻繁に行われ、両設のものが多い。原石の大きさは20~30cmが多く、作業面の中央がヒンジにより内湾するものが多い。

④5cm程度の小型の転礫素材で打面転移を頻繁に行い、頭部調整・打面調整を伴わずに剥片が剥離される。剥離された剥片は図Ⅳ-425-63のナイフ形石器の素材と考えられる。

⑤10~15cm程度の亜角礫素材で打面をほぼ固定し、頭部調整を伴わずに縁辺から2cm程度内側を加撃し、連続的に厚手の剥片が剥離される（母岩334・接合1680・母岩336・接合1684）。剥離される厚手の剥片は舟底形石器の素材となる。

⑥角礫を素材として正面で多方向から剥片剥離を行う（母岩295・接合1581）。

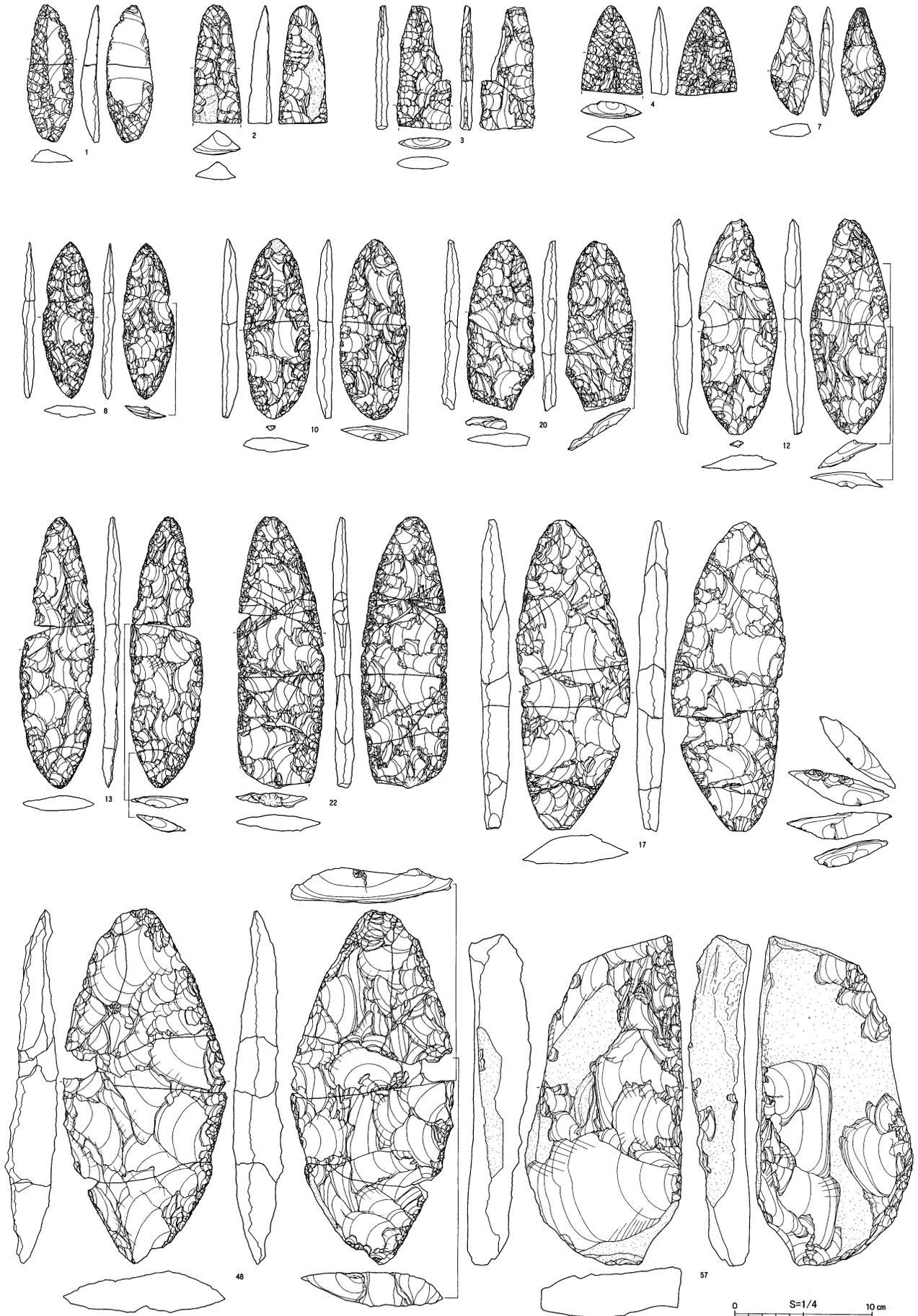
全体として①の大型の石刃剥離が行われたもの以外は原石で搬入されるものが多い。

〈二次加工技術〉 彫器（図Ⅷ-19-65~88）は石刃・縦長剥片素材が多い。ほとんどが両側縁に加工が施され、その3分の1には腹面に加工があり、片側に偏るものが多い。彫刀面はノッチ状に作出された彫刀面打面から素材先端部の左肩に作出される。背面先端部調整は彫刀面が腹面に傾くⅡ類のほとんどに行われ、6割程度の調整は彫刀面に切られる。形態軸・彫刀面交叉角はⅠ類が60度前後、Ⅱ類は45~95度と幅があるが、平均は73度でⅠ類より横刃である。彫刀面傾斜角はⅠ類が55度程度、Ⅱ類は130~140度が多い。

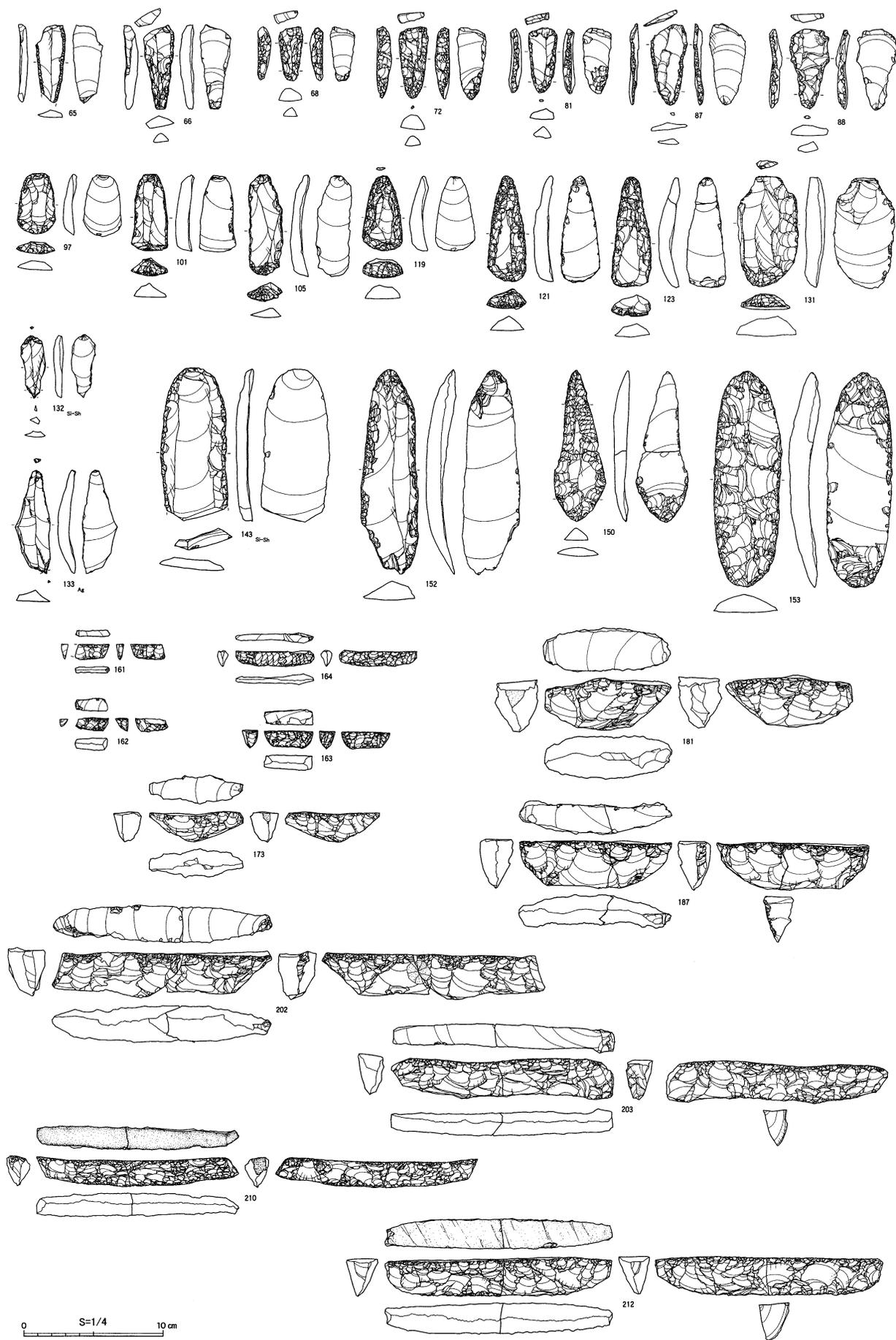
搔器はほとんどが石刃・縦長剥片素材である。両側縁の加工が軽微で素材形態を変化させないもの（図Ⅷ-19-97~105）と加工頻度が高く、素材形態変化の度合いの高いもの（図Ⅷ-19-119~123）がある。肉眼的に赤石山産と区別できる黒曜石が含まれ、原産地分析では、赤井川（図Ⅷ-19-119）・あじさい滝・所山・ケシヨマップ産（図Ⅷ-19-131）の結果が得られている。この中には、刃部が摩滅し、円くなっているものがある。赤井川産の結果は、当センターによる一連の調査では奥白滝1遺跡に次いで2例目である。

錐形石器（図Ⅷ-19-132・133）は黒曜石以外の石材（頁岩・めのう）が多く利用され、刃部は素材剥離軸に対して斜めに作出される。

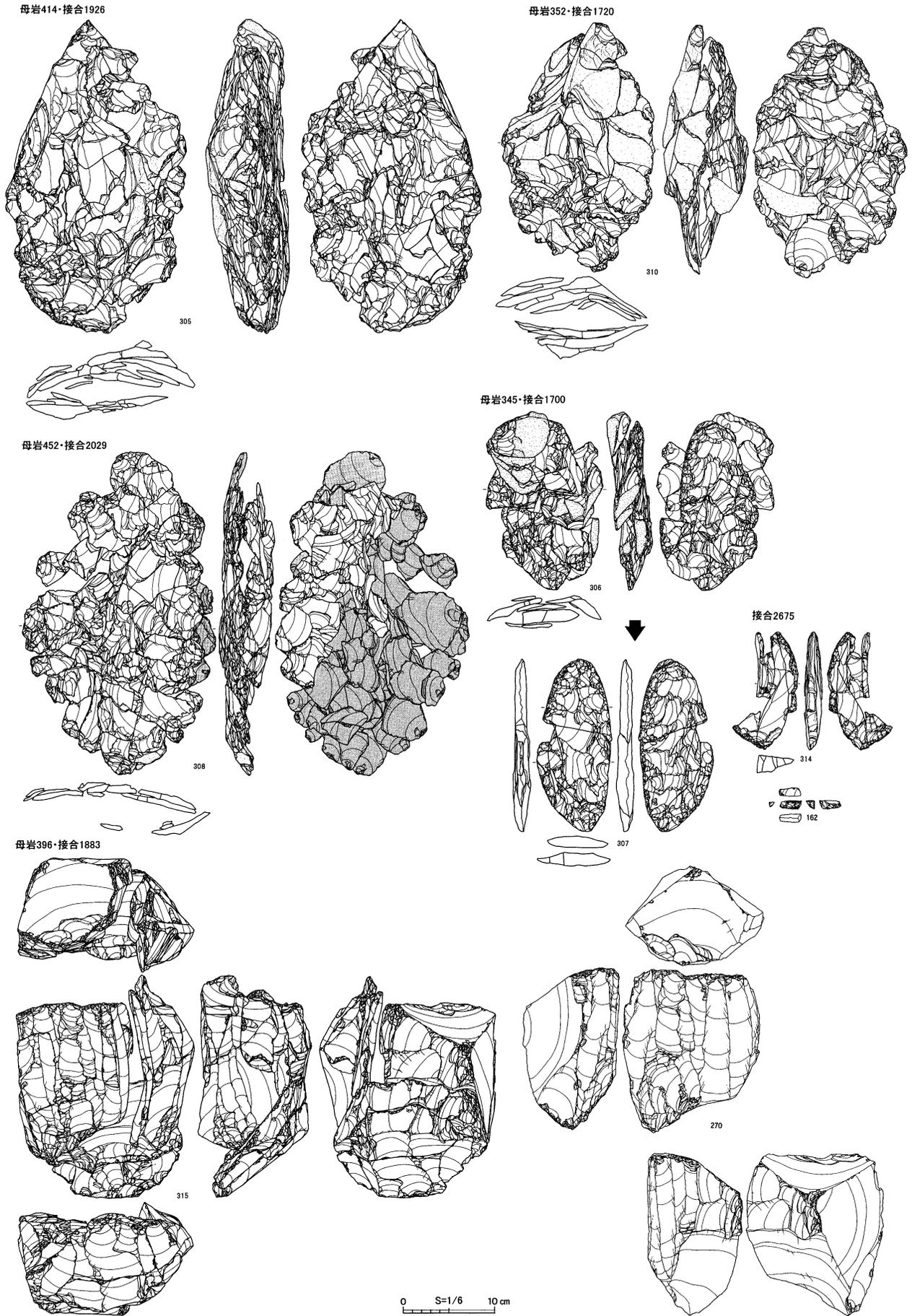
2 上白滝8遺跡「白滝I群」以外



図Ⅷ-18 D区(Sb-36~55)石器組成図(1)

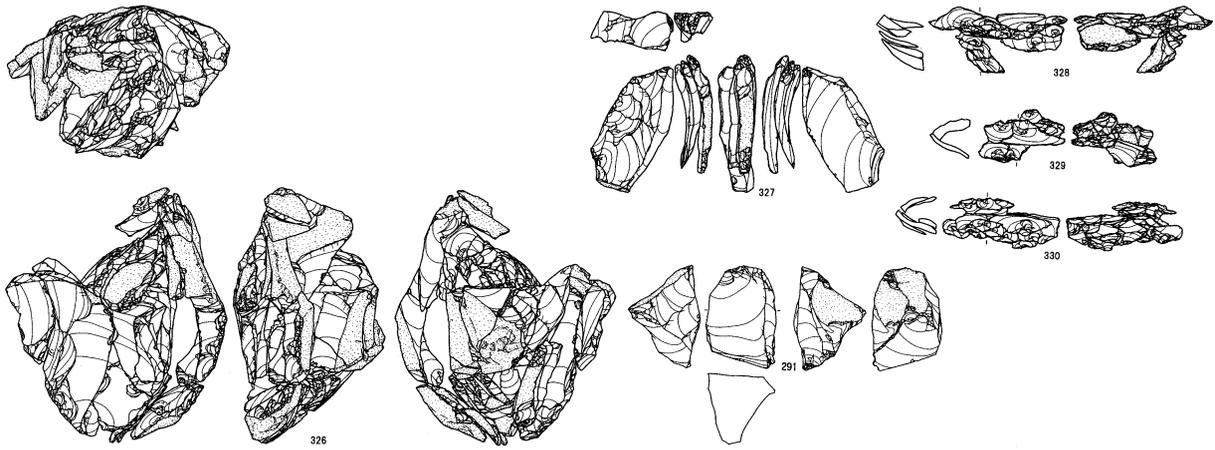


図Ⅷ-19 D区(Sb-36~55)石器組成図(2)

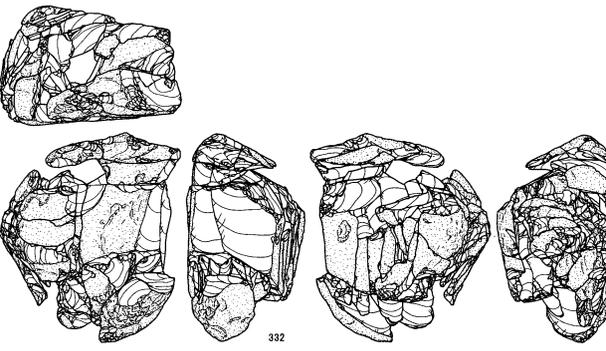


図Ⅷ-20 D区(Sb-36~55)母岩別資料(1)

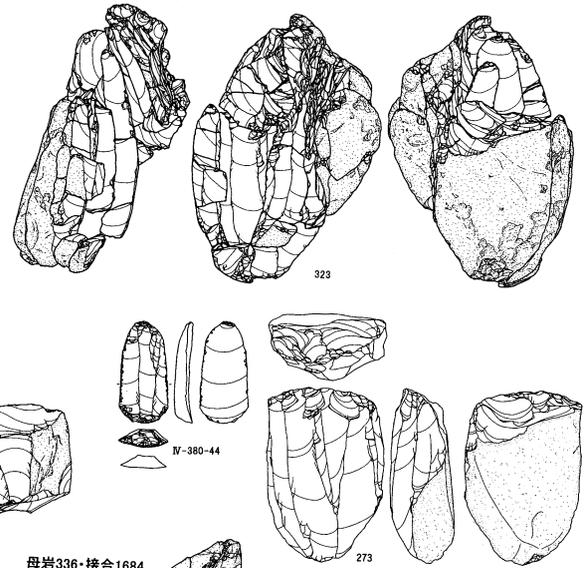
母岩351・接合1716



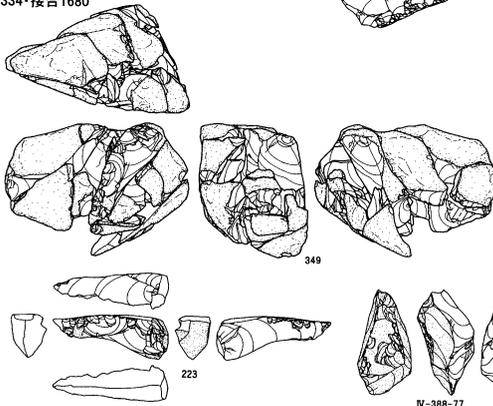
母岩366・接合1759



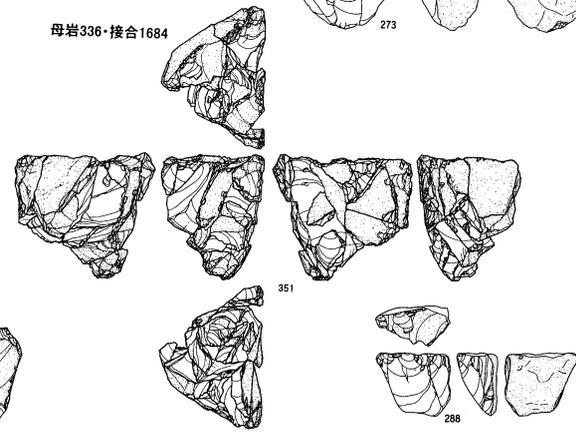
母岩390・接合1860



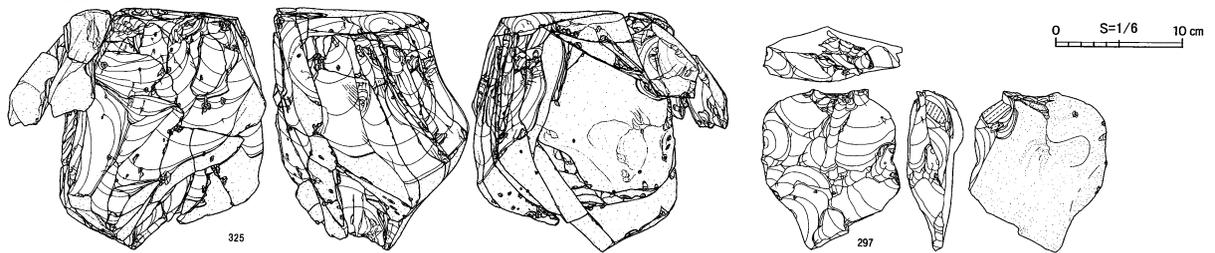
母岩334・接合1680



母岩336・接合1684



母岩295・接合1581



図Ⅷ-21 D区(Sb-36~55)母岩別資料(2)

削器は大型の石刃素材が多く、片面加工(図Ⅷ-19-143)と両面加工がある。両面加工のものは、腹面のバルブを除去するもの(図Ⅷ-19-152)、基部は平坦剥離による両面加工、先端部は背面に平行剥離を施して尖頭状にするもの(図Ⅷ-19-150)、背面ほぼ全体と腹面両端に平坦剥離が行われるもの(図Ⅷ-19-153)などがある。

舟底形石器はI・II類共に出土し、素材剥離軸と石器長軸が一致するものが多く、II類に関しては長さを変化させないように加工が行われるため、基本的には石器の長さは素材の長さを反映している。I類は幅で4~8mmのもの(図Ⅷ-19-161・164)と8~12mmのもの(図Ⅷ-19-162・163)に分けることができ、後者には所山産(図Ⅷ-19-163)がある。I類には端部に細石刃状の剥離痕のあるものと無いものがあり、石材は所山産の黒曜石1以外、全て黒曜石4である。II類は大きさ・素材・石質から3種類に分けられる。

- ①15cm以下、主に10cm以下で小型の剥片・石核素材のもの(図Ⅷ-19-181・187)。石質4が多い。
- ②10cm以上、主に15cm以上で大型の剥片・石核素材のもの(図Ⅷ-19-202・203)。下縁からの加工範囲の広いものは側面が平坦かつ下縁部がシャープである。大型の素材であるため甲板面は平坦で、側面形は細長い形状である。石質1が多く利用される。
- ③石器形状に近い棒状の原石素材のもの(図Ⅷ-19-210・212)。石器の特徴は②と同様であるが、下縁からの加工が顕著でより細長い形状である。

①は利用石材・接合資料・分布・上白滝5遺跡(Sb-6~11)の成果から二次加工による一連の形態変化に位置付けられるI類の母型と考えられるが、②③は形態変化がI類に連続せず、異なる最終形態であったと考えられる。最終形態は図Ⅳ-437-189・図Ⅷ-19-210の様な小型のものかもしれないし、あるいは、全てが一連の形態変化に位置付けられず、下縁からの精巧な加工の行われたものが大きさに関わらず完成品である可能性もある。いずれにしても現時点ではそれを判断する材料が無く、今後の課題としたい。

**分布** 舟底形石器を基準に分布を分けると、①はSb-36~39・41・43・44・47の北側に分布し、②③はSb-46・47の中央東寄り・50・51・53・54に分布している。大局的に見るとD区の北側に①が南側に②③が分布する。尖頭器は前者には偏りを持って分布し、後者には各ブロックに大小多量に分布する。彫器は前者にはSb-36・47を中心に多く含まれ、後者にはSb-47以外含まれない。搔器は前者には安定して組成されるが、後者には少なく、前者には赤井川・あじさい滝産、後者にはケシヨマップ・所山産のものが含まれる。石核類は全ての種類の舟底形石器が出土しているSb-47に舟底形石器とずれて多く分布し、それ以外は散漫に分布している。

他の区域との関連では舟底形石器②③はB区のSb-21・25・27にも分布し、尖頭器もSb-21・27・28に大小のものが多く分布する。接合資料にも前述のようにSb-46・47(D区)とSb-27・28(B区)には密接な接合関係があり、②③の分布するブロックはB区と関連が強い。

接合資料は基本的には一か所のまとまりに分布するが、区域内でブロックをまたいで分布するものがある。Sb-37・38にまたがるものは、尖頭器関連接合資料では初期・最終段階がSb-37に、中間段階がSb-38に分布し、あたかも両ブロックを往復したような関係を示す。同様な関係がSb-39とSb-42でも見られる。また、舟底形石器関連接合資料では前半がSb-37に、後半がSb-38に分布するもの、一次剥片がSb-38に、舟底形石器の個体のみがSb-37に分布するもの、など多様な様相を示す。

また、大規模ブロックであるSb-47ではブロック内で分布が分かれるものがある。尖頭器関連接合資料では粗い加工の初期段階がO51区に、後半の平坦剥離段階がP51区に分布するものがある。ま

た、舟底形石器関連接合資料では一次剥片・初期の舟底形石器調整剥片がP51区に、後半の舟底形石器調整剥片・石刃・厚手の剥片がMN51・52区に分布するようにP51区に一次剥離の痕跡が残り、MN51区に選択された石器や二次加工の調整剥片が分布する傾向がある。これらは全て石質4の舟底形石器I類を含む石器群で、同様な石器群である上白滝5遺跡Sb-6~11でも看取されたこのような関係はSb-47→Sb-36の間でも見られ、本石器群の遺跡構造を形成する一つの特徴的なパターンと言えよう。

尖頭器の接合資料には特徴的な分布を示すものがある。母岩142・接合1143・1142はSb-17(A区)とSb-47(D区)の間に55mの距離を隔てた接合関係があり、前者は集中した、後者は散漫な分布である。これらの内容には剥離段階や剥片形状の違いが無く、両者にまたがる折れ面接合も多数見られることから、尖頭器調整剥片が剥離後、一度埋積した状態からランダムに分けられ、それぞれの地点に廃棄されたか、あるいはどちらか一方で堆積した剥片の一部をもう一方に運んで廃棄された状態が推測される。

炭化木片ブロックはSb-47の北端にCb-13、南西にCb-4、Sb-51との境界にSb-10が、Sb-49の北部にCb-6が、Sb-51の北西にCb-7・8、南部にCb-11・12が、Sb-52の西部にCb-5が、Sb-53の中央南にCb-2が分布する。これらの周辺には被熱石器が分布せず、石器群との直接的な関連は不明である。

**年代** Cb-2には $18,570 \pm 60$ yBP、Cb-4には $13,780 \pm 100$ yBP、Cb-6には $18,650 \pm 160$ yBP、 $18,780 \pm 160$ yBP、Cb-10には $17,940 \pm 180$ yBP、Cb-11には $18,760 \pm 170$ yBP、Cb-13には $27,500 \pm 470$ yBP、 $26,900 \pm 120$ yBP、 $27,600 \pm 130$ yBP、 $26,390 \pm 480$ yBP、 $27,690 \pm 320$ yBPの放射性炭素年代測定値が得られている。水和層年代測定は、Sb-39出土の尖頭器調整剥片の接合資料(母岩291・接合1572)に $14,180 \pm 165$ yBP(H152)、Sb-44出土の舟底形石器接合資料(母岩293・接合1579)に $19,674 \pm 920$ yBP(H142)、Sb-47出土の石刃と舟底形石器の接合資料(母岩268・接合1491)に $21,412 \pm 468$ yBP(H141)、尖頭器調整剥片の接合資料(母岩142・接合1142)に $22,464 \pm 1,630$ yBP(H153)、石刃と舟底形石器の接合資料(母岩353・接合1726)に $27,756 \pm 1,601$ yBP(H143)、尖頭器調整剥片の接合資料(母岩452・接合2029)に $25,536 \pm 932$ yBPの水和層年代測定値が得られている。炭素年代測定値は18,000~19,000年が多いが、石器群との対応関係は不明である。水和層年代測定値はばらつきが大きく、また、現在想定される年代値とかけ離れており、採用するのは困難である。本地区は大きく南北に分けられ、北側の石器群は上白滝2(鈴木ほか 2001)、上白滝5(直江ほか 2002)、落合遺跡(北沢 1992、山原 1998a、2000)、南町1遺跡(山原・北沢 1995)、西町1遺跡(今井 1999)があり、後期旧石器時代終末期に位置付けられている(山原 1998b、寺崎 1999b)。また、南側の石器群はB地区に関連するが、現段階では編年的位置付けは不明である。

(鈴木宏行)

### (5) E区・石器ブロック56~60(Sb-56~60)

**石器・石材組成**(図VIII-22上段) 点取り遺物2,788点、29,945.1gの石器類が出土した。定形的な石器は尖頭器・尖頭器削片・両面調整石器・削器・舟底形石器・石刃・縦長剥片・石刃核・石核である。石材は黒曜石1(65.3%)が最も多く、以下、黒曜石4(15.0%)、黒曜石3(13.8%)、黒曜石2(3.4%)、黒曜石5(2.6%)である。彫器・搔器・細石刃関連資料が組成されないのが特徴である。

**石器製作技術** 尖頭器製作技術と石刃剥離技術を含む剥片剥離技術に分けられる。

〈尖頭器製作技術〉 石核素材と剥片素材がある。加工は平坦剥離(図VIII-22上段-3)と細かい加

工(図Ⅷ-22上段-1)によるものがあり、前者から後者に変化したものと考えられる。石核素材のものは薄手で板状の原石が利用されるものがある。

〈剥片剥離技術〉 15cm 前後の小型の亜角礫・転礫が利用される打面調整を伴い10cm 前後の石刃が剥離されるものが主体で、裏面は横位の調整により、平坦にされるもの(図Ⅷ-22上段-20)がある。単剥離打面から頭部調整を伴う石刃剥離が周回するもの(図Ⅷ-22上段-18)もある。

〈二次加工技術〉 舟底形石器は大型の剥片ないし石核素材、原石素材のものがある。I類(図Ⅷ-22上段-12・13)は他のI類に比べ幅広で2点とも十勝三股産と判定されている。II類には棒状の角礫素材のもの(図Ⅷ-22上段-17)があり、原石形状を反映して甲板面は平坦である。また、大型のものは原石を分割するような、石刃技法と異なる剥片剥離技術から剥離されたものである。

**分布** B区のR50~52、S50区と接合関係のある尖頭器がある。Sb-59にツール、Sb-60に石核類が多い。

**年代** 炭化木片ブロックは無く、Sb-57出土の調整打面から石刃を剥離した接合資料(母岩416・接合1930)に $24,191 \pm 292$ yBP (H149)、Sb-60出土の同接合資料(母岩413・接合1925)に $14,465 \pm 1,542$ yBP (H147)、同接合資料(母岩422・接合1942)に $20,398 \pm 2,342$ yBP (H148)の水和層年代測定値が得られている。水和層年代測定値はばらつきが大きく、採用するのは困難である。また、類似する石器群も現時点では不明である。

(鈴木宏行)

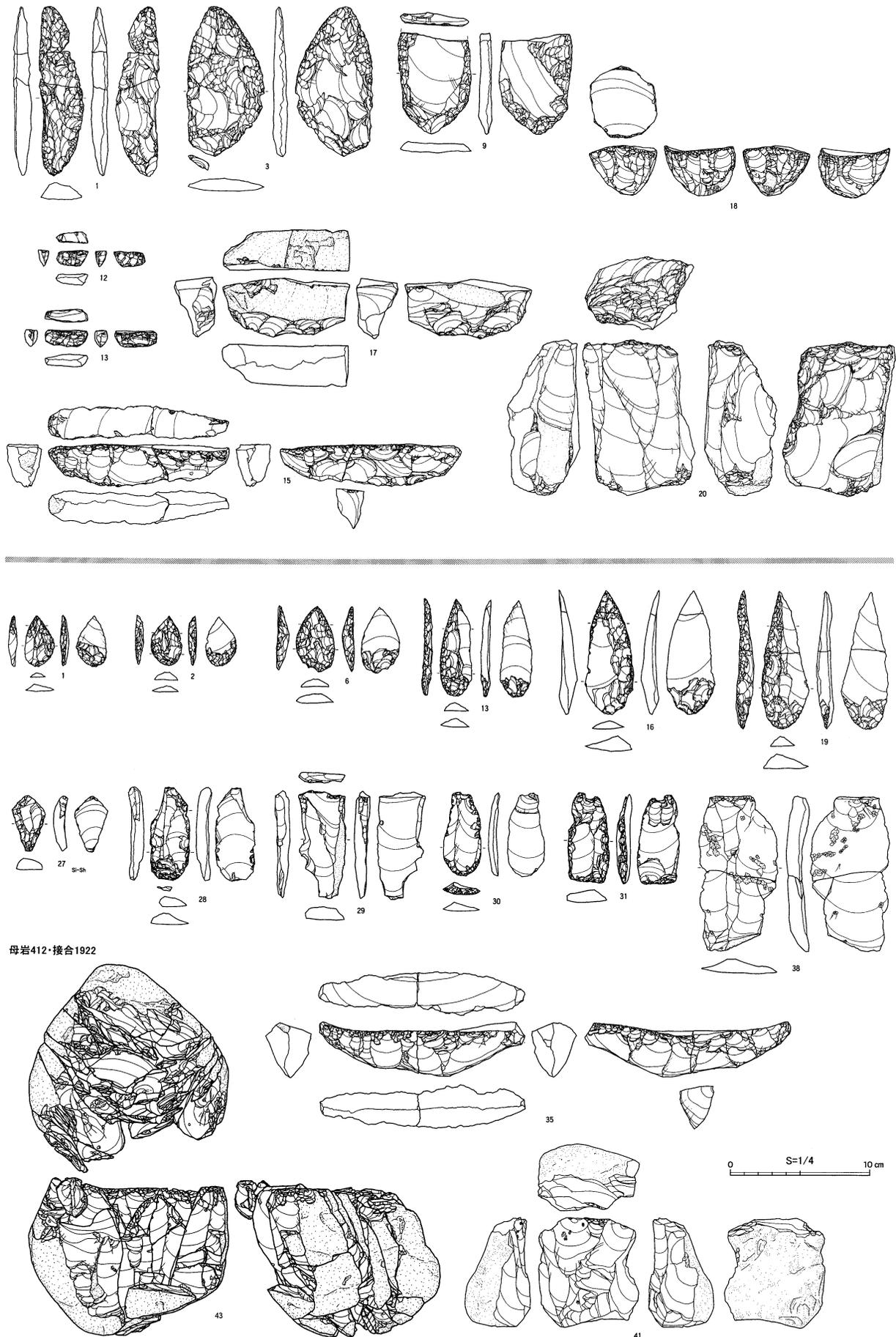
## (6) F区・石器ブロック61 (Sb-61)

**石器・石材組成**(図Ⅷ-22下段) 点取り遺物500点、6,068.5gの石器類が出土した。定形的な石器は尖頭器・広郷型ナイフ形石器・彫器・搔器・削器・舟底形石器・石刃・縦長剥片・石刃核・石核が出土している。石材は黒曜石1(80.4%)が最も多く、以下、黒曜石3(7.2%)、黒曜石5(6.0%)、黒曜石4(4.2%)、黒曜石2(2.0%)、泥岩(0.2%)である。黒曜石1の割合が非常に高く、ナイフ形石器が多く、細石刃関連資料が組成されないのが特徴である。

**石器製作技術** 石刃剥離技術のみ見られる。

〈石刃剥離技術〉 15cm程度の転礫を素材として一回の剥離によって作出された打面から石核調整を行わずに石刃が剥離される(母岩412・接合1922)。石刃剥離に伴う頭部調整は打面の縁辺部に行われ、稜の頂部を除去するものではない。また、稜の頂部と頂部の間を加撃するため、石刃の打面幅は広く、石刃も幅広である。また、それらの石刃剥離により石核形状も扁平になる。これらの特徴は上白滝7遺跡Sb-4~10(坂本ほか 2000)に一致する。

〈二次加工技術〉 石刃を素材として加工は平坦剥離によって行われる。基部が両面加工により円形で平坦に作出されるのに対し、先端部の背面加工部位は背面を覆う加工(図Ⅷ-22下段-1・2・6)、右側縁のみ(図Ⅷ-22下段-16)、左側縁のみ(図Ⅷ-22下段-13・19)、先端部のみと多様で、偏りが見られない。同様に素材の打点位置と基部の位置関係にも偏りが見られず、尖頭状の形態を整形することを目的として縁辺を残す柔軟な素材利用があったと考えられる。その点で広郷型ナイフ形石器は尖頭器として分類した方が良いと思われる。形態は左右対称な柿の種子状で5cm以下の小型のものと7~10cmの大型のものがある。前者は上白滝7遺跡のI A類(坂本ほか 2000)に相当し、後者は上白滝7遺跡に比べ加工頻度が高いがII B類に相当する。彫器は両側縁に加工があり、右肩に彫刀面が作出されるもの(図Ⅷ-22下段-27)、先端部に作出された打面から左肩に直線的な彫刀面が作出されるもの(図Ⅷ-22下段-28)、石刃の折れ面から両側縁に彫刀面が作出されるもの(図Ⅷ



母岩412・接合1922

図Ⅷ—22 E区(Sb-56~60)(上段)・F区(Sb-61)(下段)石器組成・母岩別資料

-22下段-29)があり、多様である。削器には端部に両極打法による剥離の残るもの(図Ⅷ-22下段-31)がある。舟底形石器(図Ⅷ-22下段-35)は大型のものが多く、石刃技法とは異なる剥片剥離技術によるものと考えられる。また、棒状の角礫素材のものも見られる。

**分布** P44区のナイフ形石器がまとまる非常に小規模な集中域、ナイフ形石器がまとまるO47区と剥片がまとまるP46区が接続した低密度の集中域があり、それ以外は散漫な分布である。前者には加工の少ないものが多く、後者には加工が多く形態の整ったものが多い。ナイフ形石器には西地区のN28区と70m離れた接合関係のあるものがある。舟底形石器・石核類は集中域から離れて分布し、彫器・搔器はO47、P46区周辺の集中域に分布する。接合資料は非常に散漫な分布で、母岩412・接合1922は主にナイフ形石器がP44区に集中し、人為的に集められたと考えられる。

**年代** 炭化木片ブロックは無く、Sb-61出土のナイフ形石器を含む接合資料(母岩412・接合1922)に $14,461 \pm 1,259$ yBP (H140)、ナイフ形石器に $12,505 \pm 590$ yBP (W19)、 $12,800 \pm 674$ yBP (W20)、 $12,583 \pm 1,151$ yBPの水和層年代測定値が得られている。12,000~14,500年の測定値が得られているが水和層測定値のみでは採用に検討を要する。広郷型ナイフ形石器が出土する遺跡は上白滝7遺跡(坂本ほか 2000)、広郷8遺跡(宮 1985)、神丘2遺跡(寺崎 1990)などがある。本地区のナイフ形石器は石刃素材で石刃剥離技術と併せて上白滝7遺跡に類似する。本石器群は不定形剥片剥離技術と石刃技法が共存し、細石刃・周縁加工左刃彫器を含まないことから不定形剥片石器群に後続し、細石刃石器群に先行すると位置付けられている(坂本 2003など)。

(鈴木宏行)

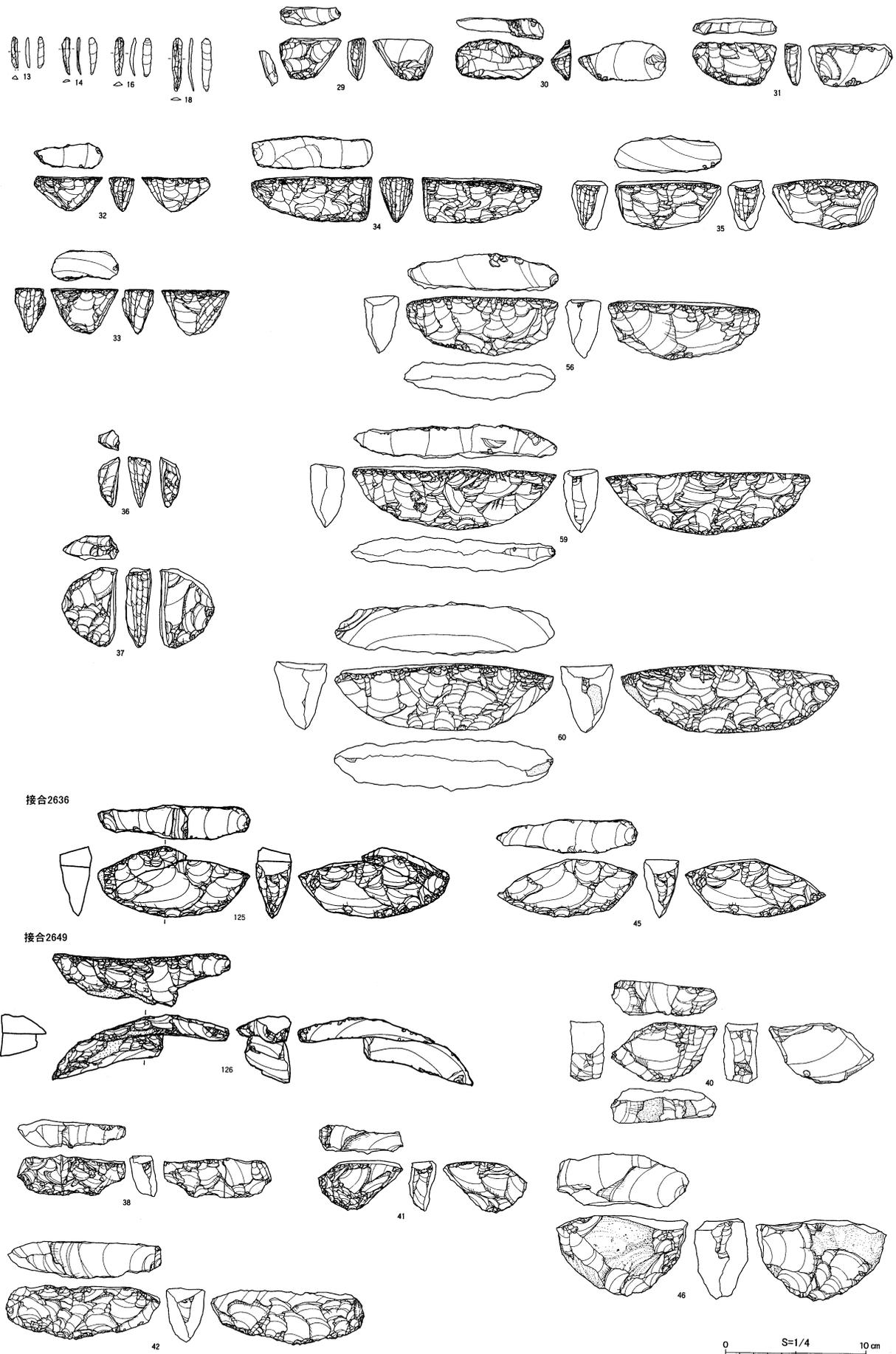
## (7) 斜面部

**石器・石材組成** 全て一括遺物で18,910点、193,059.0gの石器類が出土した。定形的な石器は尖頭器・両面調整石器・ナイフ形石器・彫器・搔器・削器・錐形石器・舟底形石器・細石刃核・細石刃核削片・細石刃・石刃・縦長剥片・石刃核・石核が出土している。抽出された定形的な石器・高位部の石器と接合したものを対象とした石材比率は、黒曜石1(57.2%)が最も高く、以下黒曜石4(22.9%)、黒曜石5(13.0%)、黒曜石3(0.05%)、黒曜石2(0.01%)、頁岩(0.008%)である。彫器・舟底形石器には黒曜石4が、細石刃関連資料には黒曜石1・5が多く利用される。

**石器製作技術** 斜面部は高位部の東端であるA・B区と接するため両者の遺物が混在し、また、斜面で原位置を保っていないため石器群を抽出するのは困難である。しかし、A・B地区では見られない細石刃剥離技術があるため、ここでは細石刃剥離技術に関して説明を行う。

〈細石刃剥離技術〉 細石刃核は峠下型(図Ⅷ-23-29~31)、幌加型(図Ⅷ-23-32~35)、蘭越型類似(図Ⅷ-23-36・37)、美利河型類似(図Ⅷ-23-38~46)がある。峠下型細石刃核は、甲板面と作業面の角度がほぼ60度でA地区の峠下型細石刃核に一致するが、細石刃剥離作業面長が22~33mm、細石刃核高が29~31mmでやや大きい。

幌加型細石刃核は素材腹面である甲板面が非常に平坦で大型の剥片素材と考えられる。素材の剥離軸と石器長軸の関係では素材を縦方向に利用するもの(図Ⅷ-23-32・34)と横方向に利用するもの(図Ⅷ-23-33・35)があり、前者では素材先端部、後者では両端で細石刃剥離が行われ、素材打面部では細石刃剥離が行われない。主に、未製品は甲板面からの加工で整形されるが、下縁からの加工も多く、それにより、側面は凹凸が減り、滑らかな表面になる。また、下縁部への細かい加工により下縁が器軸に対して直線的に仕上げられている。下縁部と同様に甲板面の縁辺には頭部調整状の細かい加工が行われ、縁辺部が直線的に仕上げられている。舟底形石器に分類している幌加型細石刃核未



図Ⅷ-23 斜面部細石刃関連資料

製品(図Ⅷ-23-56・59・60)の下縁部の側面形は整った弧状である。甲板面と作業面の角度は峠下型細石刃核と異なり、45~85度と幅があり、細石刃剥離作業面長は30mm前後で斜面部出土細石刃長と一致する。

蘭越型類似の細石刃核は素材を縦に利用し、背縁からの加工により母型が作成され、横に断ち切るような削片剥離が行われ、50mmを越える細石刃剥離作業面を持つ点で蘭越型細石刃核に類似するが、剥片素材であり、細石刃剥離に先立つ石刃剥離が行われない点が蘭越技法と異なる。

美利河型類似の細石刃核は細石刃核未製品のみが出土し、小型原石ないし大型剥片素材である。削片剥離面となる上面を横方向の剥離によって加工し、幅が4cm程度の断面V字状の母型を作成し、比較的厚手の削片剥離後、幅を大きく減少させる側面調整を行う。削片同士の接合資料・細石刃核未製品のみでの限定された資料体での検討であるが、その技術的特徴・細石刃剥離が行われない点など新道4遺跡(千葉 1988)の美利河技法に類似する。

**分布** 峠下型細石刃核・蘭越型類似細石刃核・一部の幌加型細石刃核未製品はK74区周辺に、幌加型細石刃核と未製品の多くは斜面部の南北両端に分かれて分布し、美利河技法関連資料は斜面部中央の広い範囲に分布している。これらに分布の偏りが見られるが、前述の通り、斜面部で原位置を保っている保証が無いためこれらの細石刃核の関連性を明確にするのは厳密には困難である。

**年代** 炭化木片ブロックは無く、石刃の接合資料(母岩195・接合1267)に $22,516 \pm 2,817$ yBP(H146)、幌加型細石刃核に $19,834 \pm 1,518$ yBP(H137)、美利河型類似細石刃核接合資料(接合2636)に $21,732 \pm 1,527$ yBP(H139)、蘭越型類似細石刃核に $19,899 \pm 953$ yBP(H138)の水和層年代測定値が得られている。細石刃核については想定される年代値に近いが、水和層年代値のみでは採用に検討を要する。蘭越・美利河技法は約20,000年前の後期旧石器時代後半期前半に位置付けられている(寺崎1999a)が、本石器群とこれらの関係は不明である。幌加型細石刃核を主体とする石器群は今まで確認されていなかったが、白滝第4地点でまとまった石器群として確認された(松村・瀬下 2002)。本地区の幌加型細石刃核はこれに非常に類似しているが、編年的位置付けは不明である。

(鈴木宏行)

## 引用文献

- 石川 朗・長沼 孝 1988 「Ⅲ-2 第Ⅳ層の遺構と遺物」・「Ⅴ-4 旧石器について」『函館市 桔梗2遺跡』(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書第46集 (財)北海道埋蔵文化財センター
- 今井真司 1999 『西町1遺跡』下川町教育委員会
- 遠藤岸朗 1929 「本邦産玻璃質火山岩の化学成分に就きて」『岩石破物破床学』第2巻 日本岩石破物破床学会
- 河野義礼 1950 『本邦産玻璃質岩石の研究』地質調査所報告第134号 地質調査所
- 加藤晋平・山田昌久編 1988 「北海道河東郡上土幌町嶋木遺跡の石器文化 -北海道最古の石器群の発掘調査報告-」『歴史人類』筑波大学歴史・人類学系紀要第16号
- 北沢 実 1992 『帯広・落合遺跡』帯広市埋蔵文化財調査報告第11冊 帯広市教育委員会
- 木村英明 2003 『白滝幌加沢遺跡遠間地点と黒曜石原産地 [第九次調査概報]』札幌大学埋蔵文化財展示室
- 神津俣祐 1930 「黒曜石の岩石学的研究により浮石の成因を論ず」『岩石破物破床学』第3巻 日本岩石破物破床学会
- 坂本尚史・長沼 孝・直江康雄・鈴木宏行 2000 『白滝遺跡群Ⅰ』(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書第140

- 集 (財) 北海道埋蔵文化財センター
- 坂本尚史 2003 「広郷型ナイフ形石器を伴う石器群への一理解」 『古代文化』 第55巻第4号
- 佐藤宏之 1988 「台形様石器研究序論」 『考古学雑誌』 73巻3号 日本考古学会
- 佐藤宏之 2003 「北海道の後期旧石器時代前半期の様相」 『古代文化』 第55巻第4号
- 札幌大学木村英明ゼミナール 1988 「白滝村幌加沢遺跡遠間地点における考古学的調査」 『札幌大学教養ゼミナール論集』 14
- 札幌大学木村英明ゼミナール 1989 「白滝村幌加沢遺跡遠間地点における考古学的調査」 『札幌大学教養ゼミナール論集』 15
- 札幌大学木村英明ゼミナール 1990 「白滝村幌加沢遺跡遠間地点における考古学的調査」 『札幌大学教養ゼミナール論集』 16
- 札幌大学木村英明ゼミナール 1996 「白滝村幌加沢遺跡遠間地点における考古学的調査」 『札幌大学教養ゼミナール論集』 22
- 白滝団体研究会 1963 『白滝遺跡の研究』
- 杉原荘介・戸沢充則 1975 『北海道白滝服部台における細石器文化』 明治大学文学部研究報告考古学5 明治大学
- 鈴木宏行・長沼 孝・越田雅司・直江康雄 2001 『白滝遺跡群Ⅱ』 (財) 北海道埋蔵文化財センター調査報告書第154集 (財) 北海道埋蔵文化財センター
- 地学団体研究会 1996 「黒曜石」 『新版地学辞典』 平凡社
- 千葉英一 1985 「日本の旧石器第3回-北海道(3)」 『考古学ジャーナル』 249 ニューサイエンス社
- 千葉英一 1988 「第2章 旧石器時代の遺跡」 『木古内町 新道4遺跡』 (財) 北海道埋蔵文化財センター調査報告書第52集 (財) 北海道埋蔵文化財センター
- 千葉英一・畑 宏明 1982 『服部台2遺跡・近藤台1遺跡』 白滝村教育委員会
- 辻 秀子 1973 「北海道土幌嶋木遺跡の調査報告」 『石器時代』 10号
- 津中 治 1938 「北見国白滝産黒曜石に就きて」 『岩石磁物磁床学』 第20巻 日本岩石磁物磁床学会
- 寺崎康史 1990 『神丘2遺跡』 今金町文化財調査報告2 今金町教育委員会
- 寺崎康史 1999a 「北海道細石刃石器群理解への一試論」 『先史考古学論集』 第8集 pp.71-88 安斎正人
- 寺崎康史 1999b 「細石刃石器群の変遷とその終末」 『シンポジウム 海峡と北の考古学 ―文化の接点を探る― 資料集Ⅰ・テーマ：旧石器から縄文へ』 日本考古学協会1999年度釧路大会実行委員会
- 寺崎康史 2003 「北海道地方における後期旧石器時代初頭の文化」 『日本旧石器学会第1回シンポジウム予稿集 後期旧石器時代のはじまりを探る』 JPRA
- 直江康雄・鈴木宏行・長沼 孝 2002 『白滝遺跡群Ⅲ』 (財) 北海道埋蔵文化財センター調査報告書第169集 (財) 北海道埋蔵文化財センター
- 中村有吾・平川一臣 1998 「北海道・白滝遺跡周辺のテフラ層序と地形環境」 『日本地理学会発表要旨集』 54 日本地理学会
- 中村有吾・平川一臣・長沼 孝 1999 「白滝遺跡と周辺地域のテフラ」 『地学雑誌』 108-5 東京地学協会
- 平川一臣・中村有吾・石川 守 2000 「Ⅳ-3 北海道白滝遺跡と周辺地域のテフラ層序と地形環境」 『白滝遺跡群Ⅰ』 (財) 北海道埋蔵文化財センター調査報告書第140集 (財) 北海道埋蔵文化財センター
- 北大調査団 1960 「白滝遺跡出土の遺物」 『北方文化研究報告』 15 北海道大学
- (財) 北海道埋蔵文化財センター 1996 「上白滝8遺跡」 『調査年報』 8
- (財) 北海道埋蔵文化財センター 1997 「上白滝8・2遺跡」 『調査年報』 9
- (財) 北海道埋蔵文化財センター 1998 「白滝遺跡群・奥白滝1・上白滝8・2・5・7遺跡」 『調査年報』 10

引用文献

- (財)北海道埋蔵文化財センター 1999 「白滝遺跡群・服部台2・奥白滝1・上白滝5・6・7・8・北支湧別4遺跡」 『調査年報』 11
- (財)北海道埋蔵文化財センター 2000 「白滝遺跡群・服部台2・奥白滝11遺跡」 『調査年報』 12
- (財)北海道埋蔵文化財センター 2001 「白滝遺跡群・服部台2・奥白滝1・上白滝8・白滝第30地点・白滝8・18遺跡」 『調査年報』 13
- (財)北海道埋蔵文化財センター 2002 「白滝遺跡群・上白滝6・白滝3・下白滝遺跡」 『調査年報』 14
- (財)北海道埋蔵文化財センター 2003 「白滝遺跡群・旧白滝8・9・下白滝遺跡」 『調査年報』 15
- 松村愉文 1995 『白滝第4地点・第30地点遺跡』 白滝村教育委員会
- 松村愉文・瀬下直人 2002 『白滝第4地点』 白滝村教育委員会
- 松村愉文・瀬下直人 2003 『白滝第30地点』 白滝村教育委員会
- 松谷純一 1987a 『白滝第4地点遺跡』 白滝村教育委員会
- 松谷純一 1987b 『白滝村の遺跡』 白滝村教育委員会
- 三野紀雄 2002 「V-3 白滝遺跡群の旧石器文化層から検出された炭化材」 『白滝遺跡群Ⅲ』 (財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書第169集 (財)北海道埋蔵文化財センター
- 宮 宏明 1985 『広郷8遺跡(Ⅱ)』 北見市立北見郷土博物館
- 宗像公司 1999 「白滝村赤石山採集の石器について」 『北海道旧石器文化研究』 第4号 北海道旧石器文化研究会
- 山田秀三 1977 「黒曜石のアイヌ地名を尋ねて」 『北海道の文化』 38 北海道文化財保護協会
- 山原敏朗 1992 「V-4 旧石器時代の遺物」・「IX-3 共栄3遺跡におけるV層の石器群の位置付け」 『清水町上清水2遺跡・共栄3遺跡(2)・東松沢遺跡・芽室町北明1遺跡』 (財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書第76集 (財)北海道埋蔵文化財センター
- 山原敏朗 1993 「北海道における台形様石器を伴う石器群について」 『考古論集』 潮見浩先生退官記念論文集
- 山原敏朗 1996 「北海道における細石刃文化以前の石器群について -十勝地域の恵庭a火山灰降下以前の石器群の分析から-」 『帯広百年記念館紀要』 第14号
- 山原敏朗 1998a 『帯広・落合遺跡2』 帯広市埋蔵文化財調査報告第17冊 帯広市教育委員会
- 山原敏朗 1998b 「北海道の旧石器時代終末期についての覚書」 『北海道考古学』 34 北海道考古学会
- 山原敏朗 2000 『帯広・落合遺跡3』 帯広市埋蔵文化財調査報告第23冊 帯広市教育委員会
- 山原敏朗・北沢 実 1995 『帯広・南町遺跡』 帯広市埋蔵文化財調査報告第14冊 帯広市教育委員会
- 吉崎昌一 1959 「北海道白滝村 Loc.30の石器群」 『考古学手帖』 6
- 吉崎昌一 1961 「白滝遺跡と北海道の無土器文化」 『民族学研究』 26-1 民族学研究会
- 吉崎昌一・横山英介 1974 『祝梅三角山地点』 千歳市教育委員会
- 米村哲英 1975 「白滝遺跡」 『日本の旧石器文化』 2 雄山閣
- 米村哲英 1977 『白滝遺跡-幌加川遺跡・遠間地点』 白滝村教育委員会
- 藁科哲男 2002 「V-5 奥白滝1遺跡出土の碧玉製石器、剥片の産地分析」 『白滝遺跡群Ⅲ』 (財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書第169集 (財)北海道埋蔵文化財センター

表1 奥白滝11遺跡掲載石器一覧

挿図	図版	番号	器種名	石器ブロック	発掘区	層位	遺物番号	長さ	幅	厚さ	重量	石質	母岩番号	接合番号	備	考
III-4	4	1	細石刃		N15	I	1	(15)	7	2	(0.2)	黒曜石1				
III-4	4	2	両面調整石器		ボサ		2	(92)	(81)	48	(367.8)	黒曜石2				
III-4	4	3	削器	1	N15		1	137	63	21	194.3	黒曜石2				
III-4	4	4	石刃核	1	N16		1	82	87	52	378.9	黒曜石1				
III-4	4	5	石核	1	N15		302	71	115	59	543.8	黒曜石1				

表2 上白滝8遺跡掲載石器一覧

挿図	図版	番号	器種名	石器ブロック	発掘区	層位	遺物番号	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	母岩番号	接合番号	備	考
IV-37	68	1	二次加工ある剥片		H65	II	138	24	24	6	2.5	黒曜石1				
IV-37	68	2	二次加工ある剥片	3	I66		115	23	30	7	3.3	黒曜石1				
IV-37	68	3	二次加工ある剥片	2	H65		289	32	32	9	4.3	黒曜石1				
IV-37	68	4	二次加工ある剥片	3	J64		876	33	29	8	6.5	黒曜石1	19			
IV-37	68	5	二次加工ある剥片	3	J65		1197	37	33	8	9.1	黒曜石1	17	34		
IV-37	68	6	二次加工ある剥片	3	J65		954	(32)	28	8	3.9	黒曜石1	17	34		
IV-37	68	7	二次加工ある剥片	1	H66		270	45	36	8	8.1	黒曜石1	2	2		
IV-37	68	8	二次加工ある剥片	3	J65		957	32	17	6	2.8	黒曜石1	8	8		
IV-37	68	9	二次加工ある剥片	3	J65		1127	51	34	11	14.3	黒曜石1	8	8		
IV-37	68	10	二次加工ある剥片	1	H66		349	54	25	9	15.0	黒曜石1	4	4		
IV-37	68	11	二次加工ある剥片	1	H67		722	123	103	33	313.1	黒曜石5	9	11		
IV-37	68	12	搔器	1	I66		234	120	76	30	243.3	黒曜石1	47	337		
IV-37	68	13	錐形石器	3	J64		1234	54	49	20	30.1	黒曜石1				
IV-38	68	14	石核	3	I66		112	50	43	14	22.6	黒曜石1	8	8		
IV-38	68	15	石核	3	J66		88	46	56	15	37.3	黒曜石1	17	34		
IV-38	68	16	石核	2	H64		67	79	97	32	243.6	黒曜石5	9	11		
IV-38	69	17	石核	1	I67		158	89	126	32	284.0	黒曜石1	47	337		
IV-38	69	18	石核	3	J64		1107	83	80	30	189.0	黒曜石1	8	8		
					J64		1143									
					J64		1167									
					J64		1170									
					J64		1171									
					J65		111									
					J65		219									
					J65		561									
					J65		566									
					J65		593									
					J65		635									
					J65		766									
					J65		767									
					J65		867									
					J65	III	25									
IV-38	69	19	石核	2	H65		33	58	105	37	189.7	黒曜石1	9	11		
IV-39	69	20	石核	1	I66		163	30	62	62	78.8	黒曜石1	47	337		
IV-39	69	21	石核	1	I66		160	45	60	45	77.9	黒曜石1	47	337		
IV-39	69	22	石核		H67	I	79	77	180	100	869.0	黒曜石1	9	11		
IV-40	69	23	石核	1	I67		162	63	66	42	130.3	黒曜石1	6	6		
IV-40	69	24	石核	3	J64		973	33	24	29	15.4	黒曜石1		41		
					J64		974									
IV-40	69	25	石核	3	J64		671	45	20	23	18.6	黒曜石1		44		
IV-40	69	26	石核	3	J66		19	53	88	51	254.3	黒曜石1	17	34		
IV-40	70	27	石核	2	H64		121	139	108	110	1,475.4	黒曜石1	8	8		
					H64	II	129									
IV-41	70	28	石核	3	J64		1168	38	26	21	17.1	黒曜石1	8	8		
IV-41	70	29	石核	3	J66		102	31	44	34	53.7	めのう				
IV-41	70	30	石核		J66	I	2	33	66	39	82.6	めのう				
IV-41	70	31	石核	3	J65		716	49	39	37	77.8	黒曜石1	8	8		
IV-41	70	32	石核	3	J64		875	50	51	53	76.8	黒曜石1	8	8		
					J66		83									
					J66		103									
					J66		104									

上白滝8遺跡

挿図	図版	番号	器種名	石器ブロック	発掘区	層位	遺物番号	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	母岩番号	接合番号	備	考
					J66		117									
					J66		118									
					J66	II	11									
					J66	II	12									
					不明		不明									
IV-41	70	33	石核	3	J65		879	48	45	41	84.4	黒曜石1	8	8		
IV-42	70	34	石核	1	H66		485	36	42	31	55.0	黒曜石1	1	1		
IV-42	70	35	石核	1	H66		258	43	53	45	114.6	黒曜石1	4	4		
IV-42	70	36	石核	1	H67		979	54	49	38	106.1	黒曜石1	5	5		
IV-42	70	37	石核	1	I67		268	53	46	43	101.6	黒曜石1	7	7		
IV-43	70	38	石核	1	H66		286	50	56	49	149.6	黒曜石1	47	337		
IV-43	70	39	石核		H67	I	78	104	160	51	784.8	黒曜石1	9	11		
IV-68	80	1	二次加工ある剥片		J63	II	120	21	23	6	2.2	黒曜石1				
IV-68	80	2	二次加工ある剥片	5	M62		601	24	31	27	3.8	黒曜石1				
IV-68	80	3	二次加工ある剥片	6	I60		118	39	35	7	7.8	黒曜石1				
IV-68	80	4	二次加工ある剥片	5	L62		226	32	22	5	2.6	黒曜石1				
IV-68	80	5	二次加工ある剥片	6	K59		667	28	24	10	4.1	黒曜石1	53	132		
IV-68	80	6	二次加工ある剥片	6	J60		44	21	23	7	2.8	黒曜石1				
IV-68	80	7	二次加工ある剥片	5	L62		107	25	21	10	3.5	黒曜石1				
IV-68	80	8	二次加工ある剥片	6	I60		46	29	31	11	7.0	黒曜石1	54	133		
IV-68	80	9	二次加工ある剥片	6	I59		263	32	26	10	6.0	黒曜石1				
IV-68	80	10	二次加工ある剥片	6	J59		1289	35	30	10	6.5	黒曜石5				
IV-68	80	11	二次加工ある剥片	6	K59		617	32	27	6	3.7	黒曜石1		348		
IV-68	80	12	二次加工ある剥片	5	L61		56	36	27	7	7.2	黒曜石1				
IV-68	80	13	二次加工ある剥片	6	J59		216	33	29	9	8.0	黒曜石1	53	349		
IV-68	80	14	二次加工ある剥片	6	J61		403	37	29	9	8.3	黒曜石1				
IV-68	80	15	二次加工ある剥片	6	J59		932	39	30	9	6.9	黒曜石1				
IV-68	80	16	二次加工ある剥片	6	I59		300	36	32	10	9.3	黒曜石1				
IV-68	80	17	二次加工ある剥片	5	L63		1156	41	45	15	25.7	黒曜石4	51	130		
IV-68	80	18	二次加工ある剥片	5	L63		795	41	33	11	10.7	黒曜石1	45	110		
IV-68	80	19	二次加工ある剥片	6	J59		1004	49	36	12	18.6	黒曜石1	59			
IV-68	80	20	二次加工ある剥片	6	K59		445	41	46	15	22.0	黒曜石4	51	130		
IV-68	80	21	二次加工ある剥片	5	M61		106	101	72	18	90.1	黒曜石1	29	67		
IV-68	80	22	二次加工ある剥片	6	J59		589	(36)	19	6	3.5	黒曜石1		350		
IV-68	80	23	二次加工ある剥片	6	I60		121	46	21	5	3.3	黒曜石1				
IV-69	80	24	二次加工ある剥片	5	L63		714	42	22	6	3.3	黒曜石1	39			
IV-69	80	25	二次加工ある剥片	6	I60		21	41	22	10	6.6	黒曜石1				
IV-69	80	26	二次加工ある剥片	5	M62		311	(72)	39	13	26.0	黒曜石1	27	65		
					M62		451									
IV-69	80	27	二次加工ある剥片	5	L63		1040	64	35	17	27.2	黒曜石1	32	70		
IV-69	80	28	二次加工ある剥片	5	L63		986	93	53	19	82.0	黒曜石1	28	66		
					B調		145									
IV-69	80	29	二次加工ある剥片	5	L63		950	77	52	18	37.7	黒曜石1	25	60		
IV-69	81	30	二次加工ある剥片	5	L63		475	208	82	36	481.8	黒曜石1	45	110		
					M61		172									
IV-70	81	31	搔器	5	M63		1177	56	40	16	32.0	黒曜石5	36	74		
IV-70	81	32	搔器		L62	I	8	86	50	21	75.0	黒曜石5	36	74		
IV-70	81	33	搔器	5	M64		150	82	65	16	83.1	黒曜石5	36	74		
IV-70	81	34	搔器	5	M63		462	(24)	33	(10)	7.1	黒曜石5	36	74		
IV-70	81	35	搔器	5	M60		22	(33)	41	11	13.7	黒曜石1	38	77		
IV-70	81	36	錐形石器	5	L61		156	37	43	16	13.7	黒曜石1				
IV-70	81	37	錐形石器	5	L63		143	42	51	16	24.5	黒曜石1	40			
IV-70	81	38	錐形石器	6	I59		67	(47)	56	23	38.1	黒曜石5	49	116		
IV-70	81	39	錐形石器	6	J59		1009	(35)	28	13	7.8	黒曜石1				
IV-70	81	40	錐形石器	5	L62		407	37	23	12	5.7	黒曜石1				
IV-70	81	41	石核	6	J59		1044	33	37	11	16.1	黒曜石1	87	244		
IV-70	81	42	石核		L63	I	24	44	65	15	33.4	黒曜石1	24	53		
IV-71	81	43	石核	5	M62		49	57	62	21	54.5	黒曜石5	36	74		
					M62		386									
					M62		395									

掲載遺物一覧

挿図	図版	番号	器種名	石器ブロック	発掘区	層位	遺物番号	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	母岩番号	接合番号	備	考	
IV-71	81	44	石核	6	I59		250	76	54	17	53.1	黒曜石1	56	141			
				5			M61										57
							排土										114
IV-71	82	45	石核	6	J59		733	47	77	33	119.8	黒曜石5	49	116			
IV-71	82	46	石核	6	I60		2	60	71	23	80.0	黒曜石1					
IV-71	82	47	石核	6	I59		422	60	57	14	49.7	黒曜石1	56	141			
IV-71	82	48	石核	5	L61		242	63	62	25	71.4	黒曜石1	22	48			
IV-71	82	49	石核	5	M61		70	77	84	34	129.9	黒曜石5	21	47			
IV-71	82	50	石核		J60	I	3	64	109	34	118.2	黒曜石1	50	125			
IV-72	82	51	石核	5	N61		21	74	141	43	349.4	黒曜石1		23	49		
							N62										123
							N62										232
							N62										640
							N62										3
IV-72	82	52	石核	5	L62		1	40	65	49	102.4	黒曜石1		89			
IV-72	82	53	石核	6	K59		636	64	72	26	111.9	黒曜石4	51	130			
IV-72	82	54	石核	6	J58		49	51	52	29	66.2	黒曜石1	48	115			
IV-72	82	55	石核	5	L64		108	90	66	30	168.2	黒曜石1	22	48			
IV-73	83	56	石核	5	M62		264	125	107	48	595.6	黒曜石1	25	60			
IV-73	83	57	石核		L63	I	18	48	66	34	109.9	黒曜石1	37	75			
IV-73	83	58	石核	4	J63		579	31	35	27	31.7	黒曜石1					
IV-73	83	59	石核	6	J59		440	31	32	35	41.2	黒曜石1					
IV-73	83	60	石核	4	J62		542	37	57	48	89.4	黒曜石1	24	53			
IV-74	83	61	石核	6	J59		754	49	59	45	110.7	黒曜石4	51	130			
IV-74	83	62	石核	5	M64		214	58	62	37	104.8	黒曜石1					
IV-74	83	63	石核	5	M62		394	85	87	56	366.1	黒曜石5	36	74			
IV-75	83	64	石核	5	M63		750	116	99	89	866.6	黒曜石1	32	70			
IV-75	83	65	石核	5	M65		24	144	30	27	128.0	黒曜石1	35	73			
							七南60~65										20
IV-75	84	66	石核		L63	I	8	145	44	52	210.1	黒曜石1	72	179			
				5			N61										36
IV-76	84	67	石核	5	L64		175	36	49	22	32.1	黒曜石1	33	71			
IV-76	84	68	石核	5	M62		444	46	72	30	90.2	黒曜石1	72	179			
IV-76	84	69	石核	5	L63		77	56	28	36	54.2	黒曜石1	33	71			
IV-76	84	70	石核	5	M63		690	55	52	19	54.8	黒曜石1	35	73			
IV-76	84	71	石核	5	M63		897	62	41	33	80.7	黒曜石1	31	69			
IV-76	84	72	石核	5	M64		50	66	46	36	90.1	黒曜石1	31	69			
IV-76	84	73	石核	5	M62		564	64	68	52	180.7	黒曜石1	30	68			
IV-76	84	74	石核	5	M61		201	73	81	30	159.1	黒曜石1	45	110			
IV-77	84	75	石核	5	L63		237	86	62	20	118.2	黒曜石1	72	179			
IV-77	84	76	石核	5	N65		81	85	35	52	161.6	黒曜石1	30	68			
IV-77	84	77	石核	5	N65		90	91	54	43	219.2	黒曜石1	30	68			
IV-77	85	78	石核		L64	I	11	110	54	44	200.9	黒曜石1	72	179			
IV-78	85	79	石核	5	M64		53	117	59	31	182.0	黒曜石5	31	69			
IV-78	85	80	石核	5	N62		1002	105	86	37	329.9	黒曜石1	30	68			
IV-78	85	81	石核	5	M63		631	137	87	32	372.6	黒曜石1	26	64			
							M63										916
IV-79	85	82	石核	5	L62		830	152	74	51	573.1	黒曜石1	28	66			
IV-79	85	83	石核		N64	I	9	132	101	57	490.2	黒曜石1	30	68			
IV-80	86	84	石核	5	L62		601	171	71	51	524.4	黒曜石1	71	178			
							M61										180
IV-80	86	85	石核	5	N62		777	133	128	57	472.5	黒曜石1	30	68			
							N63										436
IV-80	86	86	石核	5	N64		84	63	72	36	169.9	黒曜石1	31	69			
IV-81	86	87	石核	5	L64		168	95	148	32	442.0	黒曜石1	29	67			
IV-81	86	88	石核	5	N61		48	105	112	63	684.1	黒曜石1	27	65			
-	87	126	原石	5	L63		151	(29)	12	5	2.1	黒曜石1					
-	87	127	原石	5	L63		410	(38)	8	3	1.3	黒曜石1					
-	87	128	原石	5	L63		1121	39	7	4	1.5	黒曜石1					
-	87	129	原石	5	L63		135	(38)	7	4	1.9	黒曜石1					

上白滝8遺跡

挿図	図版	番号	器種名	石器ブロック	発掘区	層位	遺物番号	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	母岩番号	接合番号	備	考
-	87	130	原石	5	M62		130	45	11	9	3.8	黒曜石1				
-	87	131	原石	5	M62		495	(81)	8	5	3.1	黒曜石1				
-	87	132	原石	5	L61 L61		237 243	(69)	8	5	2.3	黒曜石1		50045		
-	87	133	原石	5	L63		204	74	17	9	7.7	黒曜石1				
-	87	134	原石	5	L63		26	71	14	8	8.0	黒曜石1				
-	87	135	原石	5	M63		110	(91)	17	9	17.6	黒曜石1				
-	87	136	原石	5	M61 M61		86 118	(108)	(30)	18	52.6	黒曜石1		50043		
-	87	137	原石	5	L63 L63	I	633 20	110	38	13	66.0	黒曜石1		50044		
-	87	138	原石	5	K63 K63 L63	I	220 15 367	160	39	16	125.0	黒曜石5		50041		
-	87	139	原石	5	L62 七北20~65		306 139	(153)	33	15	98.1	黒曜石1		50040		
-	87	140	原石	5	K63 K63	I	514 16	148	25	16	57.3	黒曜石1		50042		
-	87	141	原石		L63	I	5	(149)	39	24	161.6	黒曜石1				
-	87	142	原石	5	L63		330	172	55	21	290.5	黒曜石1				
-	87	143	原石	5	L62 L62 七北22~59	I	182 7 122	325	45	33	538.6	黒曜石1		50033		
IV-134	110	1	搔器	8	I56		1014	54	(52)	20	40.5	黒曜石5				
IV-134	110	2	石核	8	J56		102	45	68	25	55.4	黒曜石1	52			
IV-134	110	3	石核		七北22~59		108	103	102	34	345.5	黒曜石1	69	176		
IV-134	110	4	石核	8	I56		685	104	63	48	305.3	黒曜石1	70	177		
IV-134	110	5	石核		J57	I	3	114	80	30	262.9	黒曜石1	61	162		
IV-135	111	6	石核	8	I56		871	129	64	85	778.5	黒曜石1	69	176		
IV-135	110	7	石核	8	H56 H56 H56 H56 J55 J55 J56	I	283 521 648 991 2 100 193 396	287	145	143	6,043.1	黒曜石1	70	177		
IV-136	111	8	石核		七北20~65		58	216	129	80	1,825.5	黒曜石1	69	176		
IV-136	111	9	石核	8	I56 J56	I	242 7	203	158	104	3,896.4	黒曜石1	70	177		
-	111	21	原石	8	H55		875	(29)	7	4	0.8	黒曜石1				
-	111	22	原石	8	I56		974	(37)	6	4	1.1	黒曜石1				
-	111	23	原石	8	J55		157	(64)	12	13	11.6	黒曜石1				
-	111	24	原石	8	I56		485	(75)	10	7	3.8	黒曜石1				
-	111	25	原石		I56	I	4	(97)	19	15	26.2	黒曜石1				
-	111	26	原石		H56	I	3	(74)	14	12	11.7	黒曜石1				
-	111	27	原石	8	I56		752	(67)	15	9	11.3	黒曜石1				
-	111	28	原石		I56	I	5	(126)	27	14	49.1	黒曜石1				
-	111	29	原石	8	J55		276	158	67	23	242.4	黒曜石1				
IV-158	124	1	二次加工ある剥片	9	L43		69	24	26	5	2.3	黒曜石1			水和層 W6	
IV-158	124	2	二次加工ある剥片	9	L43		109	24	26	7	2.8	黒曜石1				
IV-158	124	3	二次加工ある剥片	9	L44		165	24	26	5	2.7	黒曜石1	83			
IV-158	124	4	二次加工ある剥片	9	M43		729	(21)	24	5	1.7	黒曜石1				
IV-158	124	5	二次加工ある剥片	9	M43		565	(29)	(26)	5	2.7	黒曜石1	83			
IV-158	124	6	二次加工ある剥片	9	M43		691	(27)	18	4	1.4	黒曜石1	82	229		
IV-158	124	7	二次加工ある剥片	9	M43		925	26	23	7	2.7	黒曜石1				
IV-158	124	8	二次加工ある剥片	9	L44		52	30	26	7	4.1	黒曜石1	91	248	水和層 W7	
IV-158	124	9	二次加工ある剥片	9	M43		449	33	20	8	2.7	黒曜石1	84	239		
IV-158	124	10	二次加工ある剥片	9	L44		73	29	29	13	6.2	黒曜石1	88			
IV-158	124	11	二次加工ある剥片	9	L44		148	32	25	10	6.1	黒曜石1	89	246		

掲載遺物一覧

挿図	図版	番号	器種名	石器ブロック	発掘区	層位	遺物番号	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	母岩番号	接合番号	備	考
IV-158	124	12	二次加工ある剥片	9	L43		97	37	21	8	3.7	黒曜石1	87	244		
IV-158	124	13	二次加工ある剥片	9	M43		808	39	21	11	4.6	黒曜石1	89	246		
IV-158	124	14	二次加工ある剥片	9	M43		572	39	25	4	2.5	黒曜石1	82	229		
IV-158	124	15	二次加工ある剥片	9	L44		153	(26)	(19)	(8)	2.4	黒曜石1	87	244		
IV-158	124	16	二次加工ある剥片	9	M43		306	22	16	5	1.7	黒曜石1	82	229		
IV-158	124	17	二次加工ある剥片	9	M43		35	26	24	9	4.8	黒曜石1	89	246		
IV-158	124	18	二次加工ある剥片	9	M43		177	32	17	9	3.2	黒曜石1	84	239		
IV-158	124	19	二次加工ある剥片	9	M43		62	30	17	8	2.8	黒曜石1	89	246		
IV-158	124	20	二次加工ある剥片	9	M43		106	34	22	9	4.9	黒曜石1	90	247		
IV-158	124	21	二次加工ある剥片	9	M43		667	36	24	13	10.2	黒曜石1	82	229		
IV-158	124	22	二次加工ある剥片	9	M43		37	(35)	23	9	5.4	黒曜石1	86	242		
IV-158	124	23	二次加工ある剥片	9	M43		333	37	22	11	5.7	黒曜石1	82	229		
IV-158	124	24	二次加工ある剥片	9	L43		190	40	25	6	5.9	黒曜石1	87	244		
IV-158	124	25	二次加工ある剥片	9	L43 L43		39 52	44	28	8	8.0	黒曜石1	86	242		
IV-158	124	26	二次加工ある剥片	9	M43 M43		364 821	49	28	13	9.6	黒曜石1	82	229		
IV-158	124	27	二次加工ある剥片	9	M43		299	43	33	13	16.3	黒曜石1	82	229		
IV-158	124	28	二次加工ある剥片	9	L44		14	35	14	6	2.6	黒曜石1	87	244		
IV-158	124	29	二次加工ある剥片	9	L44 M43 M43		162 450 462	44	18	9	6.9	黒曜石1	87	244		
IV-159	124	30	二次加工ある剥片	9	M43		820	40	23	8	5.0	黒曜石1	90	247		
IV-159	124	31	二次加工ある剥片	9	L44		9	46	22	10	5.8	黒曜石1	83	230		
IV-159	124	32	二次加工ある剥片	9	M43		882	50	20	9	5.6	黒曜石1				
IV-159	124	33	二次加工ある剥片	9	L44		141	54	19	18	8.0	黒曜石1		259		
IV-159	124	34	二次加工ある剥片	9	M43		126	61	25	12	12.1	黒曜石1	82	229		
IV-159	124	35	二次加工ある剥片	9	M43		10	(29)	(18)	11	4.1	黒曜石1	82	229		
IV-159	124	36	二次加工ある剥片	9	M43		81	(46)	28	7	6.5	黒曜石1	82	229		
IV-159	124	37	石核	9	M43		816	25	32	12	8.4	黒曜石1	89	246		
IV-159	124	38	石核	9	M43 M43		733 735	38	48	21	17.3	黒曜石1		50191		
IV-159	124	39	石核	9	M43 M43		331 806	36	65	11	11.4	黒曜石1	91	50175		
IV-159	124	40	石核	9	M43		1	49	97	22	61.4	黒曜石1	94	251		
IV-159	124	41	石核	9	L43 M43		149 555	(51)	(64)	(22)	44.0	黒曜石1		261		
IV-160	125	42	石核	9	M44		1	104	145	62	831.5	黒曜石5	83	230		
IV-160	124	43	石核	9	L43		117	28	38	17	14.5	黒曜石1	82	229		
IV-160	124	44	石核	9	L44		17	34	44	20	16.9	黒曜石1	82	229		
IV-160	125	45	石核	9	L43		170	70	57	26	78.0	黒曜石1	83	230		
IV-160	125	46	石核	9	L44		101	38	38	30	36.5	黒曜石1	83	230		
IV-160	125	47	石核	9	L43 L43 L43 L44 L44		54 184 209 161 8	42	67	29	35.3	黒曜石1	82	229		
IV-160	125	48	石核	9	M43 M43		211 516	49	78	28	54.4	黒曜石1	83	230		
IV-160	125	49	石核	9	K45 M43		21 340	39	63	60	79.0	黒曜石1	83	230		
IV-161	125	50	石核	9	M43 M43		976 977	28	53	65	93.5	黒曜石1	83	230		
IV-161	125	51	石核	9	M43		294	50	17	40	13.9	黒曜石1	82	229		
IV-161	125	52	石核	9	L43 L44		155 177	50	43	32	31.5	黒曜石1	84	239		
IV-161	125	53	石核	9	L43 L43 L43 L44		185 213 214 166	80	113	71	443.7	黒曜石1	83	230		

上白滝8遺跡

挿図	図版	番号	器種名	石器ブロック	発掘区	層位	遺物番号	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	母岩番号	接合番号	備	考
					M43		13									
					M43		914									
					M43		915									
					M43		981									
IV-161	125	54	石核	9	M43		539	33	32	22	22.7	黒曜石1	82	229		
IV-161	125	55	石核	9	L43		12	33	36	30	39.1	黒曜石1	84	239		
IV-162	125	56	石核	9	M43		228	38	49	26	35.9	黒曜石1	86	242		
IV-162	125	57	石核	9	L44		96	38	60	47	79.9	黒曜石1	84	239		
					M43		720									
IV-162	125	58	石核	9	L43		113	56	69	36	127.0	黒曜石1	90	247		
					L43		114									
					M43		535									
					M43		698									
					M43		707									
					M43		708									
					M43		712									
					M43		726									
					M43		748									
					M43	II	91									
					M43	II	94									
IV-162	125	59	石核	9	L43		1	128	109	61	731.8	黒曜石1	83	230		
IV-181	131	1	二次加工ある剥片	10	N47		212	23	26	8	3.3	黒曜石1		50155		
					N48	II	45									
IV-181	131	2	二次加工ある剥片	10	N47		49	20	21	8	2.9	黒曜石1				
IV-181	131	3	二次加工ある剥片	10	N47		28	32	26	9	7.7	黒曜石1				
IV-181	131	4	二次加工ある剥片	10	N48		6	(29)	(32)	10	6.6	黒曜石1		50154		
					O47		54									
IV-181	131	5	二次加工ある剥片	10	O48		166	(53)	28	15	15.7	黒曜石2	480	342		
IV-181	131	6	二次加工ある剥片	10	O48		10	24	31	6	2.7	黒曜石1				
IV-181	131	7	二次加工ある剥片	10	N47		210	45	49	14	13.8	黒曜石1		50157		
					N48		109									
IV-181	131	8	二次加工ある剥片	10	O48		225	40	42	13	14.7	黒曜石1				
IV-181	131	9	二次加工ある剥片	10	N48		136	46	64	14	32.8	黒曜石1		50746		
					O47		81									
IV-181	131	10	二次加工ある剥片	10	O48		125	41	16	9	4.7	黒曜石1				
IV-181	131	11	搔器	外	L49		4	37	48	13	17.2	黒曜石2	480	345		
					N47		194									
					N48		55									
					N48	II	41									
IV-181	131	12	搔器	10	N48		118	38	(45)	9	12.5	黒曜石1				
IV-181	131	13	搔器	10	N47		23	38	(36)	11	11.6	黒曜石1	79	50114		
					N47		27									
					N47	I	9									
IV-181	131	14	削器	10	N48		99	50	52	12	29.8	黒曜石1		198	水和層 W11	
IV-181	131	15	削器	10	N47		97	(55)	48	11	26.1	黒曜石1		50162		
					N48		117									
					O47		103									
					O48		130									
					O48	III	5									
IV-182	131	16	削器	10	O48		43	64	49	16	40.6	黒曜石1		199		
IV-182	131	17	錐形石器	10	O48		137	25	16	7	1.4	黒曜石1				
IV-182	131	18	錐形石器	10	N48		93	23	23	10	4.8	黒曜石1				
IV-182	131	19	錐形石器	10	O48		165	22	24	9	3.9	黒曜石1				
IV-182	131	20	錐形石器	10	N48		24	20	24	10	3.4	黒曜石1				
IV-182	131	21	錐形石器	10	N47		21	27	(30)	8	3.7	黒曜石1				
IV-182	131	22	錐形石器	10	O48		241	33	33	8	4.8	黒曜石1				
IV-182	131	23	錐形石器	10	N47		146	40	41	9	11.0	黒曜石1		50158	水和層 W12	
					N48		111									
IV-182	131	24	錐形石器	10	N47		145	45	40	13	20.4	黒曜石1		228		

掲載遺物一覧

挿図	図版	番号	器種名	石器ブロック	発掘区	層位	遺物番号	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	母岩番号	接合番号	備	考
					N47		167									
IV-182	131	25	錐形石器	10	N47		71	16	19	7	1.4	黒曜石1				
IV-182	131	26	錐形石器	10	N48		97	26	(21)	11	4.2	黒曜石1				
IV-182	131	27	錐形石器	10	O47		67	42	28	12	8.4	黒曜石1		50159		
					O47		94									
IV-182	131	28	石核	10	N48		22	28	45	14	15.3	黒曜石1		50161		
IV-182	131	29	石核	10	O48		44	44	66	24	67.5	黒曜石2	480	342		
IV-182	131	30	石核	10	N47		222	30	37	14	15.2	黒曜石1				
IV-182	131	31	石核	10	O48		92	37	46	13	17.5	黒曜石1		206		
IV-183	131	32	石核	10	O48		23	51	43	17	28.6	黒曜石1			水和層 W13	
IV-183	131	33	石核	10	O48		57	36	32	22	21.4	黒曜石1				
IV-183	131	34	石核	10	O48		156	39	38	20	21.5	黒曜石1				
IV-183	131	35	石核	10	O48		216	23	68	55	50.4	黒曜石1	73	180		
IV-187	133	1	二次加工ある剥片	12	Q42		193	48	25	9	6.9	黒曜石1	476	300		
					Q42	I	35									
IV-187	133	2	二次加工ある剥片	12	Q41		24	33	25	7	5.3	黒曜石1	459	278		
IV-187	133	3	二次加工ある剥片	12	R42		21	37	26	14	11.6	黒曜石1				
IV-187	133	4	二次加工ある剥片	12	Q42		206	36	28	11	7.5	黒曜石1	460	281		
IV-187	133	5	二次加工ある剥片	12	P43		24	42	33	12	13.2	黒曜石1		310		
IV-187	133	6	二次加工ある剥片	12	Q42		86	(43)	(28)	9	8.6	黒曜石1	465	289		
IV-187	133	7	二次加工ある剥片	12	P43		4	42	32	11	9.4	黒曜石1	465	289		
IV-187	133	8	二次加工ある剥片	12	P44		17	47	31	7	7.6	黒曜石1	465	289		
IV-187	133	9	二次加工ある剥片	12	R42		2	47	36	10	12.9	黒曜石1	459	278		
IV-187	133	10	二次加工ある剥片	12	P43		12	47	46	13	15.4	黒曜石1	463	287		
IV-187	133	11	二次加工ある剥片	12	O43		24	(34)	35	8	5.7	黒曜石1	462	285		
IV-187	133	12	二次加工ある剥片	12	Q42		47	43	24	13	10.0	黒曜石1	459	278		
IV-187	133	13	二次加工ある剥片		Q43	I	11	44	31	13	16.0	黒曜石1	459	278		
IV-187	133	14	二次加工ある剥片	12	P42		68	45	35	9	9.0	黒曜石1	459	278		
IV-187	133	15	二次加工ある剥片	12	R42		18	51	29	13	15.4	黒曜石1	459	278		
IV-187	133	16	二次加工ある剥片	12	P43		2	50	29	10	9.7	黒曜石1	459	278		
IV-187	133	17	二次加工ある剥片	12	O43		56	56	36	16	26.4	黒曜石1	465	289		
IV-187	133	18	二次加工ある剥片	12	Q42		75	41	17	5	2.7	黒曜石1				
IV-187	133	19	二次加工ある剥片	12	P43		1	40	21	6	3.4	黒曜石1				
IV-187	133	20	二次加工ある剥片	11	P47		26	44	25	12	8.6	黒曜石1				
IV-187	133	21	二次加工ある剥片	12	O43		59	49	(25)	9	9.3	黒曜石1	465	289		
IV-188	133	22	二次加工ある剥片	12	Q42		188	53	20	9	6.8	黒曜石1				
IV-188	133	23	二次加工ある剥片	12	P43		65	56	22	10	8.9	黒曜石1	465	289		
IV-188	133	24	二次加工ある剥片	12	P43		52	61	26	18	21.0	黒曜石1	465	289		
IV-188	133	25	錐形石器		S41	I	5	58	22	13	11.5	黒曜石1	470	294		
IV-188	133	26	剥片		O46	II	2	13	18	3	0.4	珪岩				
IV-188	133	27	剥片	12	P44		25	49	25	11	12.7	珪岩				
IV-188	133	28	剥片	12	P44		24	(82)	52	21	87.6	珪岩				
IV-188	133	29	石核	12	P42		42	37	24	13	12.3	黒曜石1	463	287		
IV-188	133	30	石核	12	Q44		1	31	48	11	14.8	黒曜石1		302		
IV-188	133	31	石核	13	S41		4	50	57	11	22.1	黒曜石1	466	290		
IV-188	133	32	石核	13	S41		1	36	61	20	34.9	黒曜石1	466	290		
IV-188	134	33	石核	12	R42		50	55	58	28	73.5	黒曜石5	465	289		
IV-188	134	34	石核	12	R42		4	75	69	37	179.6	黒曜石5	465	289		
IV-188	134	35	石核	12	O44		12	41	27	24	12.2	黒曜石1		302		
IV-188	134	36	石核	12	Q42		183	43	21	25	19.1	黒曜石1		305		
IV-188	134	37	石核		P42	I	3	42	23	28	19.5	めのう				
IV-189	134	38	石核	12	P42		3	42	33	44	45.8	碧玉1	478	343		
IV-189	134	39	石核	11	P46		6	36	25	27	2.1	黒曜石1	466	290		
IV-189	134	40	石核	12	Q42		27	49	30	32	43.4	黒曜石1	465	289		
IV-189	134	41	石核	12	Q41		23	54	63	31	49.5	黒曜石1	465	289		
					Q42		87									
IV-189	134	42	石核		B調		140	51	36	48	99.4	黒曜石1	465	289		
IV-189	134	43	石核	12	P42		40	71	58	63	195.7	黒曜石1	465	289		
IV-189	134	44	石核	12	R42		36	105	101	58	405.8	黒曜石5	465	289		
IV-189	134	45	石核	12	R41		1	68	40	42	113.9	黒曜石1	465	289		

上白滝8遺跡

挿図	図版	番号	器種名	石器ブロック	発掘区	層位	遺物番号	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	母岩番号	接合番号	備	考
IV-190	134	46	石核	12	P42		29	88	59	39	200.1	黒曜石5	465	289		
IV-190	134	47	石核	12	Q43		10	25	32	17	11.6	黒曜石1	463	287		
IV-190	134	48	石核		P42	I	2	32	40	34	50.8	黒曜石1	462	285		
IV-190	134	49	石核	11	P45		4	44	53	33	74.5	黒曜石1	463	287		
IV-190	134	50	石核	12	R42		34	40	52	39	85.9	黒曜石1		303		
IV-190	134	51	石核	11	P47		3	97	60	41	164.3	黒曜石1	465	289		
					P47		98									
					P47		179									
IV-208	142	1	二次加工ある剥片	外	J46		77	26	25	6	3.3	黒曜石1				
IV-208	142	2	石核	外	J49		215	48	67	20	44.4	黒曜石1				
IV-208	142	3	石核	外	H59		219	60	55	40	129.8	黒曜石5	49	116		
IV-209	143	1	尖頭器	17	K62		252	77	26	10	15.7	黒曜石1			産地分析X11 水和層H150	
IV-209	143	2	尖頭器		I65	I	135	(14)	(12)	(6)	(0.9)	黒曜石1				
IV-209	143	3	尖頭器		J64	II	86	(22)	(17)	(7)	(1.4)	黒曜石5				
IV-209	143	4	尖頭器	16	I66		105	55	26	9	9.3	黒曜石3				
IV-209	143	5	尖頭器		K62	I	25	87	42	13	43.7	黒曜石1				
IV-209	143	6	尖頭器	17	J62		146	93	38	13	41.2	黒曜石1		52357		
					J62		598									
IV-209	143	7	尖頭器	17	J62		134	120	38	10	(46.2)	黒曜石4		52363		
					J62		189									
					K61		146									
IV-209	143	8	尖頭器	17	J63		277	112	56	19	(103.2)	黒曜石1		52356		
					J63		750									
IV-209	143	9	尖頭器	17	K62		346	131	53	19	(95.0)	黒曜石4		52494		
					七北郎-65		1									
IV-209	143	10	尖頭器	17	J62		220	136	64	17	(122.2)	黒曜石5		52498		
					J62	I	7									
IV-210	144	11	尖頭器		K63	I	2	182	63	19	197.0	黒曜石1		52358		
					K64	I	1									
IV-210	144	12	尖頭器	19	L61		110	193	57	15	(125.0)	黒曜石5		52373		
					L61		123									
					L62		41									
					L62		450									
IV-210	144	13	尖頭器		H65	I	8	220	53	21	(239.8)	黒曜石1		2620		
					H65	I	9									
IV-210	144	14	尖頭器	16	I66		15	120	72	26	(158.3)	黒曜石5		52364		
					I66		16									
					I66		47									
					I66		100									
					I67	I	68									
IV-211	145	15	尖頭器	16	H65		90	132	69	28	213.8	黒曜石5		52365		
					H65	I	11									
IV-211	145	16	尖頭器	16	I66		10	115	70	24	(165.2)	黒曜石3		52360		
					I67	I	1									
IV-211	145	17	尖頭器	17	K63		600	264	104	30	(753.2)	黒曜石1		52496		
					K64		75									
IV-212	146	18	尖頭器	17	K63		1	346	127	57	(2,249.1)	黒曜石1		2723		
					J63	I	44									
					J63	I	45									
					七北郎-59		17									
IV-213	146	19	尖頭器	17	J65		205	(27)	(33)	(9)	(5.1)	黒曜石1				
IV-213	146	20	尖頭器	16	I66		18	(47)	(41)	(9)	(12.7)	黒曜石1				
IV-213	146	21	尖頭器		H65	I	10	(79)	(42)	(9)	(30.0)	黒曜石4				
IV-213	146	22	尖頭器	19	M61		92	(62)	(46)	(17)	(31.9)	黒曜石5				
IV-213	147	23	尖頭器		H67	I	7	(82)	(38)	(26)	(60.4)	黒曜石4				
IV-213	147	24	尖頭器	16	I67		1	(71)	42	(8)	(26.0)	安山岩1				
IV-213	147	25	尖頭器	17	K62		367	(156)	60	19	(165.8)	黒曜石1		52359		
					K63		152									
					K63		226									
					K64		15									

掲載遺物一覧

挿図	図版	番号	器種名	石器ブロック	発掘区	層位	遺物番号	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	母岩番号	接合番号	備	考
					K63	I	28									
IV-213	147	26	尖頭器	16	I65 I66		150 168	(157)	(77)	(15)	(131.2)	黒曜石3		52361		
IV-214	147	27	尖頭器	19	L63		937	(47)	(63)	(13)	(35.5)	黒曜石1	172	1208		
IV-214	147	28	尖頭器	19	L62 L62 L64		645 701 174	(141)	75	19	(154.3)	黒曜石3		52370		
IV-214	147	29	尖頭器	19	L63 21 M62		1 72	(154)	(67)	(19)	(184.8)	黒曜石1		52369		
IV-214	148	30	尖頭器	19	L61		320	(87)	(99)	(37)	(240.7)	黒曜石1	163	1194		
IV-214	148	31	尖頭器	14	H67		1310	(76)	(73)	(18)	(87.7)	黒曜石4				
IV-215	148	32	尖頭器	17	J60		60	(96)	(80)	(22)	(140.8)	黒曜石4				
IV-215	148	33	両面調整石器	17 16	I66 I66 I67 I67 I67 I67 I67 I67		88 114 45 46 2 3 10 18	(83)	(79)	(23)	(133.1)	黒曜石1	105	1015		
IV-215	148	34	細石刃		J63	I	39	25	6	3	0.3	黒曜石1				
IV-215	148	35	細石刃		J63	II	86	25	7	3	0.3	黒曜石1				
IV-215	148	36	細石刃		I64	II	293	19	4	2	0.1	黒曜石1				
IV-215	148	37	細石刃		H65	I	87	18	6	2	0.1	黒曜石1				
IV-215	148	38	細石刃		J63	I	15	19	5	1	0.1	黒曜石1				
IV-215	148	39	細石刃		I64	II	509	20	4	2	0.1	黒曜石1				
IV-215	148	40	細石刃		J63	II	85	20	4	2	0.1	黒曜石1				
IV-215	148	41	細石刃		J64	I	13	20	5	2	(0.1)	黒曜石1				
IV-215	148	42	細石刃		I64	II	480	21	5	3	0.2	黒曜石1				
IV-215	148	43	細石刃		J64	I	96	22	6	3	0.1	黒曜石1				
IV-215	148	44	細石刃	17	I64		643	21	5	2	0.1	黒曜石1				
IV-215	148	45	細石刃		K63	II	29	22	5	2	0.1	黒曜石1				
IV-215	148	46	細石刃		J64	II	60	23	5	2	0.2	黒曜石1				
IV-215	148	47	細石刃		J64	I	1	23	4	1	(0.1)	黒曜石1				
IV-215	148	48	細石刃		J64	II	69	23	5	2	0.1	黒曜石1				
IV-215	148	49	細石刃		I64	III	546	22	5	2	0.1	黒曜石1				
IV-215	148	50	細石刃		I64	II	491	23	6	3	0.2	黒曜石1				
IV-215	148	51	細石刃	17	J64		453	23	4	2	0.1	黒曜石1				
IV-215	148	52	細石刃		I64	II	512	24	4	1	0.1	黒曜石1				
IV-215	148	53	細石刃		J63	I	23	24	5	2	(0.1)	黒曜石1				
IV-215	148	54	細石刃	17	J63		225	24	6	3	0.3	黒曜石1				
IV-215	148	55	細石刃	17	J64		750	26	4	1	0.1	黒曜石1				
IV-215	148	56	細石刃		I65	I	79	26	4	2	0.2	黒曜石1				
IV-215	148	57	細石刃		J63	I	69	27	6	2	0.2	黒曜石1				
IV-215	148	58	細石刃		J63	I	1	28	4	2	0.1	黒曜石1				
IV-215	148	59	細石刃		J63	I	70	28	6	2	0.3	黒曜石1				
IV-215	148	60	細石刃		J63	I	19	29	7	2	0.3	黒曜石1				
IV-215	148	61	細石刃		J63	I	10	32	4	2	0.1	黒曜石1				
IV-215	148	62	細石刃	17	J64		320	31	12	4	1.7	黒曜石1				
IV-215	148	63	細石刃		J63	II	94	(12)	4	1	(0.1)	黒曜石1				
IV-215	148	64	細石刃		I64	II	493	(15)	4	2	(0.1)	黒曜石1				
IV-215	148	65	細石刃		J63	I	11	(15)	5	1	(0.1)	黒曜石4				
IV-215	148	66	細石刃		J64	II	57	(20)	4	2	(0.1)	黒曜石1				
IV-215	148	67	細石刃		J65	II	19	(24)	4	1	(0.1)	黒曜石1				
IV-215	148	68	細石刃		J63	III	101	(18)	5	1	(0.1)	黒曜石1				
IV-215	148	69	細石刃		J62	I	71	21	5	2	0.2	黒曜石1				
IV-215	148	70	細石刃		J64	I	97	(17)	5	1	(0.1)	黒曜石1				
IV-215	148	71	細石刃		H64	II	82	(15)	5	2	(0.2)	黒曜石1				
IV-215	148	72	細石刃		J63	I	24	(20)	5	1	(0.1)	黒曜石1				
IV-215	148	73	細石刃	17	J62		436	(22)	5	1	(0.2)	黒曜石3				

上白滝8遺跡

挿図	図版	番号	器種名	石器ブロック	発掘区	層位	遺物番号	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	母岩番号	接合番号	備	考
IV-215	148	74	細石刃	17	J63		217	(22)	6	2	(0.1)	黒曜石1				
IV-215	148	75	細石刃		J63	I	71	(23)	6	1	(0.2)	黒曜石1				
IV-215	148	76	細石刃	17	J63		692	(27)	5	3	(0.1)	黒曜石1				
IV-215	148	77	細石刃		I64	II	497	(15)	6	2	(0.1)	黒曜石1				
IV-215	148	78	細石刃		J64	III	64	(21)	5	1	(0.1)	黒曜石1				
IV-215	148	79	細石刃		J62	I	70	(23)	5	2	(0.2)	黒曜石1				
IV-215	148	80	細石刃		J63	I	12	(25)	6	2	(0.2)	黒曜石1				
IV-215	148	81	細石刃		I63	I	1	(17)	6	1	(0.1)	黒曜石1				
IV-215	148	82	細石刃		J63	III	99	(22)	6	3	(0.2)	黒曜石1				
IV-215	148	83	細石刃	17	J65		969	(28)	7	3	(0.2)	黒曜石1				
IV-215	148	84	細石刃		I64	II	373	(42)	6	3	(0.8)	黒曜石1				
IV-215	148	85	細石刃		J63	I	130	(26)	7	3	(0.5)	黒曜石1				
IV-215	148	86	細石刃		H66	I	1	(24)	8	2	(0.4)	黒曜石1				
IV-215	148	87	細石刃		H67	I	1	(28)	8	2	(0.4)	黒曜石1				
IV-215	148	88	細石刃		J64	III	111	(8)	(3)	2	(0.1)	黒曜石1				
IV-215	148	89	細石刃		J63	II	142	(11)	(5)	1	(0.1)	黒曜石1				
IV-215	148	90	細石刃		I64	II	462	(14)	(5)	2	(0.1)	黒曜石1				
IV-215	148	91	細石刃		J64	II	59	(24)	(5)	2	(0.3)	黒曜石1				
IV-215	148	92	細石刃		H66	I	46	(17)	(7)	1	(0.2)	黒曜石1				
IV-215	149	93	細石刃		J64	II	70	(17)	(3)	2	(0.1)	黒曜石1				
IV-215	149	94	細石刃		J63	I	2	(17)	(5)	2	(0.1)	黒曜石1				
IV-215	149	95	細石刃		I64	III	442	(19)	(4)	3	(0.1)	黒曜石1				
IV-215	149	96	細石刃	17	J64		427	(22)	(6)	2	(0.1)	黒曜石1				
IV-215	149	97	細石刃		J63	I	13	(22)	(6)	1	(0.1)	黒曜石1				
IV-215	149	98	細石刃	17	J64		392	(23)	(5)	2	(0.1)	黒曜石1				
IV-215	149	99	細石刃		I64	I	245	(22)	(6)	2	(0.2)	黒曜石1				
IV-215	149	100	細石刃		J63	III	98	(23)	(6)	4	(0.3)	黒曜石1				
IV-215	149	101	細石刃		J63	III	97	(25)	(5)	2	(0.1)	黒曜石1				
IV-215	149	102	細石刃		J63	I	3	(29)	(5)	3	(0.1)	黒曜石1				
IV-216	149	103	細石刃核	17	K63		340	16	23	8	2.7	黒曜石1				
IV-216	149	104	細石刃核	17	H64		220	21	34	9	5.1	黒曜石1			水和層W14	
IV-216	149	105	細石刃核	17	J62		440	19	43	9	6.8	黒曜石1	2644			
IV-216	149	106	細石刃核	17	J64		80	20	33	8	4.1	黒曜石1	2642		水和層W16	
IV-216	149	107	細石刃核	17	I65		90	22	33	9	7.8	黒曜石1				
IV-216	149	108	細石刃核	17	I64		1132	22	47	12	9.9	黒曜石1				
IV-216	149	109	細石刃核	17	J63		463	24	46	9	9.3	黒曜石1	2748			
IV-216	149	110	細石刃核		H65	I	2	30	74	14	28.9	黒曜石5	155	1183		
IV-216	149	111	細石刃核	17	I64		941	21	37	11	7.2	黒曜石1	2639		水和層W15	
IV-216	149	112	細石刃核		H64	I	1	24	33	15	8.7	黒曜石1	127	1087		
IV-216	149	113	細石刃核	17	K64		21	22	38	14	10.4	黒曜石1				
IV-216	149	114	細石刃核		I64	I	5	22	52	15	14.0	黒曜石1	2640			
IV-216	149	115	細石刃核	17	J63		765	23	56	14	16.0	黒曜石1				
IV-216	149	116	細石刃核		I64	I	9	22	56	12	13.5	黒曜石1				
IV-216	149	117	細石刃核	17	K62		306	19	40	17	8.9	黒曜石5				
IV-216	149	118	細石刃核	17	J63		412	14	42	10	5.5	黒曜石5				
IV-216	149	119	細石刃核	17	J64		812	22	48	12	9.2	黒曜石5	152	1178		
IV-216	149	120	細石刃核	17	H64		42	28	71	14	26.0	黒曜石5	153	1180		
IV-216	149	121	細石刃核	17	I65		300	19	46	9	9.3	黒曜石1				
IV-216	149	122	細石刃核	17	I64		548	24	65	12	19.3	黒曜石1	157	1186		
IV-216	149	123	細石刃核	17	H65		32	37	67	12	29.2	黒曜石1				
IV-216	149	124	細石刃核	17	J64		60	25	107	12	24.3	黒曜石5	2645			
					K63		211									
IV-217	149	125	細石刃核		H65	I	1	30	98	20	52.4	黒曜石1			2637	
IV-217	149	126	細石刃核	17	I64		539	27	107	17	42.2	黒曜石5	155	1183		
					I64	I	3									
IV-217	150	127	細石刃核		I64	I	6	40	97	12	59.3	黒曜石1	2638			
IV-217	150	128	細石刃核		I64	I	7	43	109	25	91.0	黒曜石1	2643			
IV-217	150	129	細石刃核	17	I65		348	53	137	18	87.3	黒曜石1	101	1002		
					I64	I	593									
					I64	I	600									

掲載遺物一覧

挿図	図版	番号	器種名	石器ブロック	発掘区	層位	遺物番号	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	母岩番号	接合番号	備	考
IV-217	150	130	細石刃核		I65	I	1	33	63	11	30.9	黒曜石5	152	1178		
IV-217	150	131	細石刃核		K63	I	40	(29)	(60)	12	(21.6)	黒曜石5	153	1180		
IV-217	150	132	細石刃核	17	H64		43	23	47	14	12.8	黒曜石1				
IV-217	150	133	細石刃核		I64	I	2	21	57	12	13.5	黒曜石4				
IV-217	150	134	細石刃核		J63	I	30	22	66	15	20.0	黒曜石1				
IV-218	150	135	細石刃核	17	I64		850	25	67	14	19.4	黒曜石1		52458		
					I64	I	8									
IV-218	150	136	細石刃核	17	I64		831	20	76	13	18.3	黒曜石1		2641		
IV-218	150	137	細石刃核	17	H65		182	23	91	17	34.9	黒曜石1				
IV-218	150	138	細石刃核削片	17	I64		916	(7)	(41)	9	(1.8)	黒曜石5		2654		
IV-218	150	139	細石刃核削片		I64	I	41	7	85	11	(4.2)	黒曜石1		2651		
					I64	I	242									
					I64	II	453									
IV-218	150	140	細石刃核削片	17	H64		116	(7)	(53)	10	(3.2)	黒曜石1	127	1087		
IV-218	150	141	細石刃核削片	17	I64		765	(8)	(56)	7	(2.9)	黒曜石3	153	1180		
IV-218	150	142	細石刃核削片		I64	I	11	16	75	9	(4.5)	黒曜石1	127	1087		
					I64	I	12									
					I64	I	13									
IV-218	150	143	細石刃核削片		I64	I	30	18	88	11	(9.2)	黒曜石1		2652		
					I64	I	37									
IV-218	151	144	細石刃核削片	17	I65		71	(22)	(52)	13	(10.6)	黒曜石5	152	1178		
IV-218	151	145	細石刃核削片		I64	II	304	(5)	(17)	(5)	(0.3)	黒曜石5	158	1187		
IV-218	151	146	細石刃核削片		I64	I	31	(10)	(31)	(10)	(2.3)	黒曜石1		2638		
IV-218	151	147	細石刃核削片	17	J63		6	18	138	9	11.5	黒曜石1		2659		
					J63		557									
					K62		764									
IV-218	151	148	細石刃核削片	17	J63		425	(11)	(91)	9	(6.8)	黒曜石1		2658		
					J64	I	3									
IV-218	151	149	細石刃核削片		K61	III	14	(11)	(62)	8	(3.3)	黒曜石1		2657		
			斜面		L74	上	5									
IV-219	151	150	細石刃核削片		I64	I	14	(15)	(64)	9	(4.3)	黒曜石1	127	1088		
IV-219	151	151	細石刃核削片	17	J64		303	(6)	(35)	6	(1.4)	黒曜石1		2661		
IV-219	151	152	細石刃核削片		I64	I	39	(7)	(48)	(10)	(2.5)	黒曜石5	155	1183		
					I64	II	444									
IV-219	151	153	細石刃核削片		I64	II	445	6	39	7	0.7	黒曜石5	158	1187		
IV-219	151	154	細石刃核削片		I64	II	446	(7)	(41)	7	(1.1)	黒曜石1	157	1186		
IV-219	151	155	細石刃核削片		I64	I	34	9	38	9	2.1	黒曜石1		2656		
IV-219	151	156	細石刃核削片		I64	II	307	10	44	9	2.7	黒曜石5	157	1186		
IV-219	151	157	細石刃核削片	17	I64		177	9	58	8	(2.3)	黒曜石1		2656		
					I64	I	216									
IV-219	151	158	細石刃核削片	17	J63		343	4	37	9	1.2	黒曜石1		2656		
IV-219	151	159	細石刃核削片		J63	I	35	6	48	9	2.0	黒曜石1	101	1001		
IV-219	151	160	細石刃核削片		I64	I	16	12	34	11	4.3	黒曜石5	157	1186		
IV-219	151	161	細石刃核削片	17	I64		902	13	84	12	12.6	黒曜石1		2640		
					I64	II	310									
IV-219	151	162	細石刃核削片		I64	II	318	7	58	12	3.1	黒曜石1		2639		
					I64	III	333									
IV-219	151	163	細石刃核削片		I64	II	504	5	43	12	(1.8)	黒曜石5		2641		
					I64	II	506									
IV-219	151	164	細石刃核削片	17	I64		891	(7)	(54)	13	(2.3)	黒曜石5		2654		
IV-219	151	165	細石刃核削片		I64	II	313	9	69	12	(4.5)	黒曜石5	153	1180		
					I64	II	431									
					I64	II	475									
IV-219	151	166	細石刃核削片	17	J63		154	11	54	12	3.2	黒曜石1		2645		
					J63	I	40									
IV-219	151	167	細石刃核削片		H65	I	6	10	62	13	(4.6)	黒曜石1	127	1087		
					H65	II	145									
					H65	II	146									
IV-219	151	168	細石刃核削片		I64	I	40	7	53	13	(3.4)	黒曜石1		2640		
					I64	III	323									

上白滝8遺跡

挿図	図版	番号	器種名	石器ブロック	発掘区	層位	遺物番号	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	母岩番号	接合番号	備	考
IV-219	151	169	細石刃核削片		I64	I	198	12	73	14	6.9	黒曜石1		2655		
IV-220	151	170	細石刃核削片	17	I64		510	10	(66)	15	(6.8)	黒曜石1		2637		
IV-220	151	171	細石刃核削片		I64	I	25	12	98	16	17.8	黒曜石1		2651		
IV-220	151	172	細石刃核削片		I64	I	213	8	56	16	(4.7)	黒曜石1		2637		
					I64	I	219									
					I64	II	314									
IV-220	151	173	細石刃核削片	17	I64		283	11	70	17	10.8	黒曜石1		2637		
IV-220	151	174	細石刃核削片	17	I64		253	10	80	17	6.3	黒曜石1		2651		
					I64	II	329									
					I64	II	433									
IV-220	151	175	細石刃核削片	17	I64		325	14	81	17	(13.9)	黒曜石1	155	1183		
					I64	I	26									
IV-220	151	176	細石刃核削片	17	I64		1281	11	78	17	13.2	黒曜石1		2652		
IV-220	152	177	細石刃核削片	17	I64		269	13	75	17	9.6	黒曜石1		2652		
IV-220	152	178	細石刃核削片	17	J65		895	11	75	20	(3.6)	黒曜石1		2643		
					J64	II	65									
IV-220	152	179	細石刃核削片	17	I64		141	13	72	25	(8.7)	黒曜石1	259	1457		
					I64	II	611									
IV-220	152	180	細石刃核削片		H65	I	3	11	76	26	14.9	黒曜石1	259	1457		
IV-221	152	181	細石刃核削片		H65	I	5	13	53	9	3.2	黒曜石1	127	1088		
IV-221	152	182	細石刃核削片		H64	I	5	18	74	12	6.9	黒曜石1	127	1088		
IV-221	152	183	細石刃核削片	17	J63		700	19	77	10	8.5	黒曜石1		2642		
					I64	II	306									
IV-221	152	184	細石刃核削片	16	H65		291	16	84	14	(8.4)	黒曜石5	153	1180		
					H65	I	4									
					I64	II	517									
IV-221	152	185	細石刃核削片	19	L61		5	16	114	12	(11.4)	黒曜石1	451	2028		
					L61	I	8									
IV-221	152	186	細石刃核削片	17	J64		781	28	55	10	8.6	黒曜石5	158	1187		
					J64	III	107									
IV-221	152	187	細石刃核削片	17	J64		33	39	81	12	23.8	黒曜石5	152	1178		
IV-221	152	188	細石刃核削片	17	I64		541	25	104	14	(12.4)	黒曜石5	155	1183		
					I64	II	297									
					I64	III	324									
IV-221	152	189	細石刃核削片		I64	II	489	(4)	(37)	9	(0.6)	黒曜石1		2639		
					I64	II	544									
IV-221	152	190	細石刃核削片		H64	I	4	(6)	(39)	10	(1.3)	黒曜石1		2638		
IV-221	152	191	細石刃核削片		I64	I	36	(8)	(35)	(10)	(2.8)	黒曜石1		2638		
IV-221	152	192	細石刃核削片	17	J63		769	(5)	(25)	(15)	(1.4)	黒曜石1		2645		
IV-221	152	193	細石刃核削片	17	J64		53	(8)	(40)	11	(2.0)	黒曜石1		2657	水和層H136	
IV-221	152	194	細石刃核削片	17	J64		144	(10)	(45)	(12)	(4.8)	黒曜石1		2655		
IV-221	152	195	細石刃核削片	17	K63		485	(9)	(58)	(12)	(4.4)	黒曜石1		2658		
IV-221	152	196	細石刃核削片		J63	I	34	(10)	(69)	12	(4.8)	黒曜石1		2659		
IV-222	152	197	細石刃核削片	17	J63		130	(6)	(72)	11	(4.0)	黒曜石1	101	1001		
					J62	I	5									
IV-222	152	198	細石刃核削片	17	J62		475	(12)	(66)	(13)	(6.2)	黒曜石1	101	1001		
IV-222	152	199	細石刃核削片	17	J63		60	(9)	(58)	(14)	(4.1)	黒曜石1		2660		
IV-222	152	200	細石刃核削片	17	J64		536	(8)	(58)	(15)	(3.1)	黒曜石1		2660		
					J63	I	126									
IV-222	152	201	細石刃核削片		I64	I	33	(13)	(31)	(15)	(4.1)	黒曜石1		2652		
IV-222	152	202	細石刃核削片	17	K61		236	(8)	(61)	19	(5.2)	黒曜石1		2657		
IV-222	152	203	細石刃核削片	17	K62		890	(6)	(41)	(19)	(3.5)	黒曜石1		2657		
IV-222	152	204	細石刃核削片	17	J63		376	(14)	(73)	21	(14.1)	黒曜石1		2643		
IV-222	152	205	細石刃核削片	17	I64		924	(9)	(49)	(26)	(10.9)	黒曜石1	259	1457		
					H64	I	73									
IV-222	153	206	細石刃核削片		H64	III	142	(5)	(20)	(7)	(0.4)	黒曜石5	158	1187		
IV-222	153	207	細石刃核削片		I64	I	347	(5)	(28)	(8)	(0.6)	黒曜石5	158	1187		
IV-222	153	208	細石刃核削片		H65	I	81	(4)	(26)	(8)	(0.5)	黒曜石5	158	1187		
IV-222	153	209	細石刃核削片	17	I64		348	(7)	(53)	(7)	(2.1)	黒曜石1	155	1183		
IV-222	153	210	細石刃核削片		I64	I	20	(6)	(45)	(12)	(3.1)	黒曜石1		2651		

掲載遺物一覧

挿図	図版	番号	器種名	石器ブロック	発掘区	層位	遺物番号	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	母岩番号	接合番号	備考
IV-222	153	211	細石刃核削片		J63	I	54	(3)	(18)	(15)	(0.7)	黒曜石1		2660	
IV-222	153	212	細石刃核削片	17	I64 排土		796 8	(9)	(55)	(15)	(8.1)	黒曜石1		2651	
IV-222	153	213	細石刃核削片	17	I64		551	(7)	(58)	(13)	(3.7)	黒曜石5	155	1183	
IV-222	153	214	細石刃核削片	17	J64		315	(10)	(47)	(8)	(2.7)	黒曜石1		2642	
IV-222	153	215	細石刃核削片		I64 I64	II II	435 477	(5)	(33)	(10)	(1.2)	黒曜石1	157	1186	
IV-222	153	216	細石刃核削片		H65	I	56	(5)	(22)	(22)	(0.5)	黒曜石1	127	1088	
IV-222	153	217	細石刃核削片	17	K62		781	(6)	(38)	11	(2.0)	黒曜石1		2659	
IV-222	153	218	細石刃核削片		I64	I	27	(16)	(33)	(8)	(3.4)	黒曜石1		2644	
IV-222	153	219	細石刃核削片	17	K62		768	(14)	(46)	(9)	(4.3)	黒曜石1	451	2028	
IV-223	153	220	細石刃核削片		H64	I	6	(15)	(41)	(11)	(4.7)	黒曜石1	127	1088	
IV-223	153	221	細石刃核削片	17	J63 J65		758 607	(27)	(91)	(15)	(17.0)	黒曜石1		2643	
IV-223	153	222	細石刃核削片		J63	I	37	(6)	(36)	(5)	(0.5)	黒曜石1	451	2028	
IV-223	153	223	細石刃核削片		J64	II	120	(4)	(24)	6	(0.5)	黒曜石5	158	1187	
IV-223	153	224	細石刃核削片	17	J63		134	(10)	(50)	8	(2.4)	黒曜石1		2660	
IV-223	153	225	細石刃核削片		I64 I64	I III	10 364	(8)	(38)	(11)	(2.1)	黒曜石1	127	1087	
IV-223	153	226	細石刃核削片		I64	II	432	(8)	(30)	10	(1.2)	黒曜石5	152	1178	
IV-223	153	227	細石刃核削片		H64	I	7	(8)	(46)	(12)	(2.7)	黒曜石1	127	1087	
IV-223	153	228	細石刃核削片		I64	I	238	(10)	(46)	(12)	(3.2)	黒曜石1		2651	
IV-223	153	229	細石刃核削片		I64 I64	I II	17 502	(9)	(70)	11	(5.4)	黒曜石1		2639	
IV-223	153	230	細石刃核削片	17 斜面	J63 J63 O75		562 756 1	(16)	(155)	16	(17.5)	黒曜石1		2657	
IV-223	153	231	細石刃核削片	18	H62 K62 K65		1 2 1	57	213	24	(145.5)	黒曜石1		2657	
IV-223	153	232	細石刃核削片	17	I64		703	(30)	(40)	(21)	(17.9)	黒曜石1		2653	
IV-223	153	233	細石刃核削片		I64	I	206	(9)	(42)	(18)	(5.3)	黒曜石1		2653	
IV-224	153	234	舟底形石器		J63	II	108	10	25	5	1.0	黒曜石4			
IV-224	153	235	舟底形石器		I65	III	103	10	25	5	1.2	黒曜石4			
IV-224	153	236	舟底形石器		I65	III	102	10	25	5	1.2	黒曜石4			
IV-224	153	237	舟底形石器		I64	I	47	10	37	5	2.0	黒曜石4			
IV-224	153	238	舟底形石器		I64	II	325	(11)	(29)	(6)	(1.8)	黒曜石4			
IV-224	153	239	舟底形石器	17	J63		121	24	51	19	16.9	黒曜石4			
IV-224	153	240	舟底形石器	19	L63		328	18	51	22	15.2	黒曜石4			
IV-224	154	241	舟底形石器		I64	I	49	20	64	15	15.2	黒曜石5			
IV-224	154	242	舟底形石器	17	J64		454	28	77	19	31.4	黒曜石1			
IV-224	154	243	舟底形石器		I65	I	7	26	78	17	28.8	黒曜石3			
IV-224	154	244	舟底形石器	17	J63		698	34	80	23	53.2	黒曜石5			
IV-224	154	245	舟底形石器	17	J63		755	24	82	17	26.9	黒曜石1			
IV-224	154	246	舟底形石器		I65	I	8	27	86	25	47.7	黒曜石4			
IV-225	154	247	舟底形石器		I64	I	48	27	90	23	47.4	黒曜石5			
IV-225	154	248	舟底形石器	17	J64		751	21	97	17	30.1	黒曜石4			
IV-225	154	249	舟底形石器	17	I64		71	30	98	21	42.3	黒曜石1			
IV-225	154	250	舟底形石器	17	I64		315	33	98	18	41.7	黒曜石3			
IV-225	154	251	舟底形石器	17	K61		122	33	98	25	77.2	黒曜石5			
IV-225	154	252	舟底形石器	17	J63		480	32	107	20	37.9	黒曜石4			
IV-226	154	253	舟底形石器	17	J64 I65		430 6	30	114	18	(44.5)	黒曜石4		52590	
IV-226	154	254	舟底形石器		I64	I	50	47	84	29	89.2	黒曜石4	140	1140	
IV-226	154	255	舟底形石器		H64 H64	I I	3 8	45	116	23	(83.5)	黒曜石4	272	1508	
IV-226	155	256	舟底形石器	17	J63		770	42	120	44	167.0	黒曜石5			
IV-227	155	257	舟底形石器	19	L62 M62 L62		126 131 3	27	163	18	71.3	黒曜石1		52591	

上白滝8遺跡

挿図	図版	番号	器種名	石器ブロック	発掘区	層位	遺物番号	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	母岩番号	接合番号	備考
IV-227	155	258	舟底形石器	18	I62		32	(23)	(37)	(24)	(13.4)	黒曜石4			
IV-227	155	259	舟底形石器	17	I64		396	(23)	(35)	(19)	(11.9)	黒曜石4	140	1140	
IV-227	155	260	舟底形石器	17	I65		103	(25)	(87)	(32)	(57.9)	黒曜石4	150	1174	
					I65	I	9								
IV-227	155	261	舟底形石器	17	K63		482	(27)	(56)	(17)	(19.1)	黒曜石5			
IV-227	155	262	舟底形石器	17	K63		427	(30)	(63)	16	(26.9)	黒曜石1	116	1048	
IV-227	155	263	舟底形石器	17	I63		108	(41)	(57)	(24)	(47.9)	黒曜石5			
IV-227	155	264	舟底形石器	19	L62		286	(29)	(85)	(19)	(40.9)	黒曜石1			
IV-228	155	265	ナイフ形石器	16	H66		300	59	20	8	6.8	黒曜石1			
IV-228	155	266	彫器		I61	I	29	37	17	6	4.1	黒曜石1			
IV-228	155	267	彫器		J64	I	6	37	20	12	8.5	頁岩			
IV-228	155	268	彫器	17	J64		660	46	22	7	7.2	黒曜石4			
IV-228	155	269	彫器	17	I64		588	45	19	5	4.8	黒曜石4			
IV-228	155	270	彫器	17	J65		1340	46	19	10	8.6	黒曜石1			
IV-228	155	271	彫器	17	J63		310	53	22	13	13.3	頁岩			
IV-228	155	272	彫器		I65	I	5	(54)	25	9	(11.5)	黒曜石4			
IV-228	155	273	彫器	17	H63		3	60	21	9	9.2	黒曜石4			
IV-228	155	274	彫器	18	I60		122	59	23	9	9.9	黒曜石4			
IV-228	155	275	彫器削片		I64	I	226	15	8	3	0.2	黒曜石1			
IV-228	155	276	彫器削片		I64	III	465	24	9	4	0.4	黒曜石4			
IV-228	155	277	彫器削片		I65	I	115	(14)	(6)	(2)	(0.2)	めのう			
IV-228	155	278	彫器削片		I65	II	130	(15)	(7)	3	(0.1)	黒曜石1			
IV-228	155	279	彫器削片		J64	III	98	17	6	3	0.2	黒曜石4			
IV-228	155	280	彫器削片		J63	III	123	20	7	4	0.3	黒曜石3			
IV-228	155	281	搔器	19	L63		380	48	19	7	4.8	頁岩			
IV-228	155	282	搔器	17	J65		550	63	25	12	15.2	めのう			
IV-228	155	283	搔器		K66	I	2	60	23	9	13.4	黒曜石1			
IV-228	155	284	搔器	17	J64		246	50	23	13	10.2	黒曜石4			
IV-228	155	285	搔器		J63	III	105	64	28	10	17.9	黒曜石4			
IV-228	156	286	搔器	14	I67		290	58	26	12	14.8	黒曜石1			
IV-228	156	287	搔器	17	J61		252	68	26	10	17.2	黒曜石4			
IV-229	156	288	搔器	15	K67		50	64	25	9	14.0	黒曜石1			
IV-229	156	289	搔器		J62	I	9	66	32	12	24.1	黒曜石4			
IV-229	156	290	搔器	17	I64		538	72	30	15	31.1	黒曜石4			
IV-229	156	291	搔器	15	K67		2	94	28	13	29.8	黒曜石5			
IV-229	156	292	搔器	19	L65		1	94	24	10	21.4	黒曜石4			
IV-229	156	293	搔器	15	J67		21	117	32	11	36.0	黒曜石1			
IV-229	156	294	搔器	17	K66		4	134	32	15	66.2	黒曜石1			
IV-229	156	295	搔器	16	I66		9	126	55	14	97.4	黒曜石4		52478	
					G64	I	1								
IV-230	156	296	搔器	17	I64		1024	56	28	13	19.2	黒曜石4			
IV-230	156	297	搔器	17	J63		590	55	33	10	17.7	黒曜石5			
IV-230	156	298	搔器	16	I66		48	63	44	11	28.4	黒曜石1			
IV-230	156	299	搔器	15	J67		50	79	44	18	40.3	黒曜石1	121	1061	
IV-230	156	300	搔器	17	I64		1276	84	61	22	103.2	黒曜石1			
IV-230	156	301	搔器	16	I66		26	(31)	41	(11)	(13.1)	黒曜石1			
IV-230	156	302	搔器	16	I66		131	(48)	27	13	(14.8)	黒曜石1			
IV-230	157	303	搔器		K66	I	11	82	41	12	(36.7)	黒曜石1			
IV-230	157	304	搔器	17	J64		323	133	39	20	(90.1)	黒曜石1		52477	
					七北前-65		5								
IV-230	157	305	搔器	17	I65		450	144	38	10	(46.7)	黒曜石4			
IV-231	157	306	錐形石器		I65	I	104	35	16	14	2.1	頁岩			
IV-231	157	307	錐形石器	19	M65		15	37	13	5	1.8	めのう			
IV-231	157	308	錐形石器		J62	I	8	82	20	6	8.0	黒曜石3			
IV-231	157	309	錐形石器	17	K62		357	112	29	12	32.7	黒曜石5		52529	
					L62		667								
IV-231	157	310	錐形石器		K66	I	1	(42)	(15)	(5)	(2.4)	黒曜石1			
IV-231	157	311	錐形石器	19	L62		664	(59)	(37)	(12)	(16.3)	黒曜石3			
IV-231	157	312	削器	19	L63		621	61	42	7	19.5	安山岩1			
IV-231	157	313	削器		J63	III	106	(102)	35	17	(54.1)	黒曜石4			

掲載遺物一覧

挿図	図版	番号	器種名	石器ブロック	発掘区	層位	遺物番号	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	母岩番号	接合番号	備	考
IV-231	157	314	削器	17	K66		2	(66)	(20)	10	(11.8)	黒曜石4				
IV-231	157	315	削器	17	K66		1	(183)	48	11	(94.7)	頁岩				
IV-231	157	316	削器	15	K67 K68	I	82 2	204	44	14	115.7	黒曜石1		52539		
IV-232	158	317	二次加工ある剥片	17	I64		1163	(97)	32	7	(16.8)	黒曜石5	156	1185		
IV-232	158	318	二次加工ある剥片	17	J64 H64 H65	I I I	143 171 19	110	49	12	40.3	黒曜石5	153	1180		
IV-232	158	319	二次加工ある剥片	17	J60		126	98	25	10	14.4	黒曜石1				
IV-232	158	320	二次加工ある剥片	17	I64 I64	I	1287 291	157	62	23	(118.5)	黒曜石5	155	1183		
IV-232	158	321	二次加工ある剥片		H65	I	89	21	16	4	1.1	頁岩				
IV-232	158	322	石刃	16	H65		342	68	31	18	27.7	黒曜石4	141	1141		
IV-232	158	323	石刃	17	K66		3	87	29	15	24.6	黒曜石4	143	1147		
IV-232	158	324	石刃	15	K67 L67	I	32 6	138	33	18	43.0	黒曜石4	143	1147		
IV-232	158	325	石刃	17	H64 I64		79 830	103	32	20	48.9	黒曜石5	154	1182		
IV-232	158	326	石刃	17	H64 H64		12 17	95	29	11	26.3	黒曜石5	158	1187		
IV-233	158	327	石刃	17	I64 I64		498 619	111	51	20	96.6	黒曜石5	158	1187		
IV-233	159	328	石刃	17	J64 七ヶ塚2-59		174 81	128	46	10	(48.1)	黒曜石5	156	1185		
IV-233	159	329	石刃	17	J64		299	(122)	48	18	(73.6)	黒曜石5	156	1185		
IV-233	159	330	石刃	17	J64 J64 19 L65		329 402 20	130	52	12	56.3	黒曜石5	156	1185		
IV-233	159	331	石刃	19	L61		332	140	49	20	100.6	黒曜石5	153	1181		
IV-233	159	332	石刃		I67 取付道路	I	67 15	140	58	30	127.1	黒曜石5	154	1182		
IV-234	159	333	石刃	17	J64 J64		45 630	160	62	30	151.4	黒曜石5	156	1185		
IV-234	159	334	石刃	19	M61 M61 M61		80 112 134	181	47	14	(79.7)	黒曜石5	155	1183		
IV-234	159	335	石刃	17	I64		702	157	51	15	111.4	黒曜石5	155	1183		
IV-234	160	336	石刃	17	I64 I64 I64		509 706 1058	190	62	13	(145.7)	黒曜石1	155	1183		
IV-235	160	337	石刃	17	I64 I64	I	105 576	162	79	23	(275.3)	黒曜石5	160	1190		
IV-235	160	338	石刃	17	I64 I64 I64	I I I	62 22 284	205	48	34	(194.4)	黒曜石5	155	1183		
IV-235	160	339	石刃	17	I64 I64 I64 I64	I I I I	674 159 199 200	216	77	17	(229.4)	黒曜石1	101	1001		
IV-236	161	340	石刃	17	I64 I64	I	964 75	(116)	(32)	12	(24.9)	黒曜石5	155	1183		
IV-236	161	341	石刃	17	I64 七ヶ塚2-59		180 93	(104)	(41)	14	(41.5)	黒曜石5	155	1183		
IV-236	161	342	石刃	17	I64 I64 I64		822 939 1046	(156)	45	33	(90.3)	黒曜石5	154	1182		
IV-236	161	343	剥片	17	I64 I64		26 397	96	57	17	(60.6)	黒曜石5	154	1182		
IV-236	161	344	石刃核	16	I67 I66	I	209 24	48	31	26	38.0	黒曜石5		52717		

上白滝8遺跡

挿図	図版	番号	器種名	石器ブロック	発掘区	層位	遺物番号	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	母岩番号	接合番号	備	考
					I66	I	25									
IV-236	161	345	石刃核	14	H66		177	50	27	31	46.1	黒曜石1				
IV-236	161	346	石刃核	15	I67		50	69	30	41	83.7	黒曜石5		2708		
IV-236	161	347	石刃核	16	I67		145	75	28	35	68.1	黒曜石5				
IV-236	161	348	石刃核	16	H65		230	48	45	36	72.2	黒曜石4	141	1141		
IV-237	161	349	石刃核	16	H65		315	76	88	63	424.8	黒曜石4	444	2005		
IV-237	161	350	石刃核		H64	I	53	90	63	40	199.8	黒曜石1	154	1182		
IV-237	162	351	石刃核		K63	I	17	156	139	94	1,429.5	黒曜石5	245	1415		
IV-238	162	352	石刃核	17	I64		537	107	92	55	479.7	黒曜石5	153	1180		
IV-238	162	353	石刃核	17	K61		296	172	125	110	2,506.3	黒曜石1		2709		
IV-239	163	354	石刃核	16	J67		1	177	89	106	1,454.5	黒曜石1				
IV-239	163	355	石刃核	17	K63		355	201	79	48	698.6	黒曜石5				
IV-240	164	356	石刃核	17	J63		690	168	186	87	2,843.6	黒曜石1	102	1006		
IV-240	163	357	石核	17	H64		82	76	86	29	(136.0)	黒曜石1	127	1088		
					H64		225									
					I64		961									
					I64		1069									
					H64	III	106									
					I64	I	131									
					I64	I	132									
					I64	I	134									
					I64	I	187									
IV-241	163	358	石核	16	I65		490	59	74	22	93.7	黒曜石4	147			
IV-241	164	359	石核	18	H63		2	94	116	58	653.0	黒曜石5	158	1187		
IV-241	165	360	石核	17	I64		553	146	133	74	1,358.5	黒曜石1	259	1456		
IV-242	165	361	石核	17	K65		40	96	108	147	459.7	黒曜石4	477			
IV-242	165	362	石核	18	J60		26	146	117	130	2,159.8	黒曜石5		2719		
IV-243	166	363	石核		H65	I	51	42	58	47	91.8	黒曜石4	145	1164		
IV-243	166	364	石核	17	I63		125	52	55	81	227.8	黒曜石1	124			
IV-243	166	365	石核	17	I64		200	126	154	84	5,134.6	黒曜石1	135	1132		
IV-244	167	366	斧形石器		H62	I	1	195	87	32	504.1	安山岩1				
IV-244	167	367	台石	17	K62		650	298	248	56	6,953.4	安山岩2				
IV-291	194	1	尖頭器	27	Q61		337	141	52	10	(61.3)	黒曜石4		2630		
				50	Q61		371									
					R52		331									
					M55	I	2									
IV-291	194	2	尖頭器	27	Q60		1723	161	54	15	114.0	黒曜石4		52371		
					M62	I	1									
					M62	I	2									
						七前00-65	40									
IV-291	194	3	尖頭器	27	O59		50	181	56	15	120.5	黒曜石4		52505		
					O59		111									
IV-291	194	4	尖頭器	21	N62		1080	192	63	16	(157.6)	黒曜石4		52508		
				23	P63		537									
				斜面	O67	上	1									
IV-292	194	5	尖頭器	27	Q58		8	207	81	17	(174.6)	黒曜石3		52507		
					Q58		17									
					Q58		18									
					Q59		509									
					Q59		1265									
						七前02-59	36									
IV-292	195	6	尖頭器	27	Q59		1	216	81	28	(287.8)	黒曜石5		52383		
					Q59		304									
					Q59		510									
					Q59		1649									
					Q60		1081									
					Q60		1470									
					Q59	I	1									
IV-293	195	7	尖頭器	27	P60		100	201	79	21	(262.1)	黒曜石4	231	1367		
					Q60		425									

挿図	図版	番号	器種名	石器ブロック	発掘区	層位	遺物番号	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	母岩番号	接合番号	備	考	
							Q60 920 Q60 1046										
IV-293	195	8	尖頭器	27			Q59 1277 Q59 1299 Q59 2396 Q60 1400 Q60 1401	245	84	24	(336.9)	黒曜石3		52509			
IV-294	196	9	尖頭器	21			M63 299 M63 1127 N63 1 七北60~65 9	240	97	30	(495.2)	黒曜石1		52500			
IV-295	196	10	尖頭器	21			M62 230 M62 420 M63 1081 N64 1 M63 2 七南60~65 32	253	100	31	(536.0)	黒曜石1	171	1207			
IV-296	198	11	尖頭器	21			N62 200 N63 741 24 O62 475	280	118	27	683.8	黒曜石2	182	1237			
IV-297	197	12	尖頭器	27			Q59 450 Q59 1477 Q59 2350 Q60 26 Q60 363 Q60 414 Q60 1332 Q60 1513	362	109	36	(1,218.0)	黒曜石3		52510			
IV-298	199	13	尖頭器	27			O59 120 O59 142 P59 18 P59 334 P59 488 28 R60 1081 O59 I 45 P60 I 88 七南62~59 2	265	114	42	(834.6)	黒曜石1	222	1347			
IV-298	198	14	尖頭器	25 斜面			R65 127 O71 I 2	168	54	23	(227.4)	黒曜石1		52376			
IV-299	198	15	尖頭器	27			P60 1002 P60 2396	136	70	17	171.5	黒曜石3		52377			
IV-299	199	16	尖頭器				Q65 I 2	68	48	16	44.6	黒曜石1					
IV-299	199	17	尖頭器				O65 I 1	64	27	10	14.1	黒曜石1					
IV-299	199	18	尖頭器	27			M58 7 J54 I 2	149	59	19	(105.2)	黒曜石5		2724			
IV-299	200	19	尖頭器	27			P59 217 P60 14 P60 388 O60 I 3 O60 I 12	(265)	66	25	(397.1)	黒曜石1	200	1277			
IV-300	200	20	尖頭器	20			M65 14	(32)	(39)	(7)	(7.6)	黒曜石1					
IV-300	200	21	尖頭器	27			P58 50	(34)	(35)	(10)	(8.9)	黒曜石5					
IV-300	200	22	尖頭器	27			P60 30	(51)	(36)	(15)	(18.0)	黒曜石1					
IV-300	200	23	尖頭器	29			O56 14 O56 15	(54)	(37)	(12)	(23.2)	黒曜石1		52495			
IV-300	200	24	尖頭器	20			N65 1	(57)	(50)	(12)	(29.2)	黒曜石1					
IV-300	200	25	尖頭器	27			P60 2320 P61 1260	(66)	(48)	(10)	(22.5)	黒曜石4		52378			
IV-300	200	26	尖頭器	24			O62 135	68	38	11	33.7	頁岩					
IV-300	200	27	尖頭器	27			O60 109	(85)	(42)	(14)	(32.9)	黒曜石1	227	1360			

上白滝8遺跡

挿図	図版	番号	器種名	石器ブロック	発掘区	層位	遺物番号	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	母岩番号	接合番号	備	考
					P58		137									
IV-300	200	28	尖頭器	27	P62		300	(90)	(47)	(13)	(52.4)	黒曜石1				
IV-300	200	29	尖頭器	21	M63	I	1100	(194)	65	(20)	(214.9)	黒曜石1		52372		
					M55		1									
					七南60~65		2									
IV-301	201	30	尖頭器	27	O60		52	(86)	(66)	(16)	(66.1)	黒曜石3		52385		
					O60		108									
IV-301	201	31	尖頭器	21	N62		996	(58)	(65)	(19)	(54.9)	黒曜石1				
IV-301	201	32	尖頭器	27	P60		2440	(91)	69	19	(101.3)	黒曜石4	233	1369		
					Q61		368									
IV-301	201	33	尖頭器	27	O59		420	(101)	(70)	(16)	(75.6)	黒曜石1				
IV-301	201	34	尖頭器	21	M61		121	(150)	(71)	(20)	(175.4)	黒曜石5		52502		
					M63		92									
IV-302	201	35	尖頭器	21	M62		351	(65)	(83)	(16)	(70.9)	黒曜石1				
IV-302	201	36	尖頭器	27	Q58		16	(102)	(85)	(22)	(130.9)	黒曜石5				
IV-302	201	37	尖頭器	21	M63		517	(61)	(58)	(22)	(61.6)	黒曜石1				
IV-302	202	38	尖頭器	21	M62		53	(134)	(64)	(15)	(80.3)	黒曜石1		52367		
					M62		57									
					M62		67									
					M62		281									
IV-303	202	39	尖頭器	27	O58		293	(144)	(95)	(13)	(120.4)	黒曜石1		52504		
					P58		69									
					P59		413									
					七南62~59		3									
					七南62~59		38									
IV-303	202	40	尖頭器	28	R60		1156	(85)	(72)	(28)	(129.1)	黒曜石5	230	1364		
IV-303	202	41	尖頭器	27	P62		639	(130)	(94)	(39)	(366.6)	黒曜石1	209	1302		
IV-304	202	42	尖頭器	21	M62	I	268	(167)	122	37	(614.2)	黒曜石1	290	1568		
				50	Q52		4									
					M62		4									
					M63		1									
					Q52		2									
IV-304	203	43	尖頭器	21	N61		30	(184)	107	26	(445.5)	黒曜石1	181	51119		
					N62		247									
					N63		760									
IV-305	203	44	尖頭器	27	P59	I	345	(286)	98	(27)	(561.0)	黒曜石1		52506		
					P59		394									
					P59		444									
					P59		450									
					P60		1267									
					P60		1366									
					P60		1380									
					Q59		451									
					Q59		1462									
					Q60		288									
					Q60	417										
					O60	13										
IV-306	203	45	両面調整石器	21	O63	I	233	181	96	28	(392.0)	黒曜石5		52453		
					O63		303									
				23	O63		360									
					O64		71									
				21	O65		27									
				27	P61		1560									
					O64		3									
					O64		4									
					七南60~65		57									
IV-306	205	46	両面調整石器	23	P63			500	(176)	141	(51)	(1,295.8)	黒曜石1	190	1258	
IV-307	204	47	両面調整石器	27	P59		228	300	154	66	2,532.5	黒曜石1	197	1270		
				28	R59		44									
					R59		50									

掲載遺物一覧

挿図	図版	番号	器種名	石器ブロック	発掘区	層位	遺物番号	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	母岩番号	接合番号	備考
					R59		51								
IV-308	205	48	両面調整石器		O60 P62	I I	6 6	(57)	(91)	(41)	168.2	黒曜石1	192	1264	
IV-308	205	49	両面調整石器	27	P61		1450	195	86	22	358.3	安山岩1			
IV-308	205	50	細石刃		N64	III	5	(16)	5	1	(0.1)	黒曜石1			
IV-308	205	51	細石刃		N64	II	4	(16)	6	1	(0.1)	黒曜石1			
IV-308	205	52	細石刃核	27	P60		631	21	26	9	5.8	頁岩		2647	
IV-308	205	53	細石刃核	27	P59		350	14	33	8	4.3	頁岩			
IV-308	205	54	細石刃核	27	Q60		1577	21	33	8	4.5	黒曜石1	214	1324	
IV-308	205	55	細石刃核	27	P60		271	20	43	8	8.3	めのう		2648	
IV-308	205	56	細石刃核	27	O60		232	21	41	10	8.5	黒曜石4		2646	
IV-308	205	57	細石刃核	21	O64		402	34	54	12	23.6	黒曜石1			
IV-308	205	58	細石刃核		N58	I	1	23	45	13	10.7	黒曜石1			
IV-308	206	59	細石刃核削片	21	N64		48	11	58	9	3.4	黒曜石1	214	1324	水和層H134
IV-308	206	60	細石刃核削片	27	O60		245	(23)	(52)	(11)	(7.3)	黒曜石4		2646	
IV-309	206	61	細石刃核削片	27	O59 O60 O60	  I	127 220 9	21	111	9	(5.5)	黒曜石1	451	2028	水和層H135
IV-309	206	62	細石刃核削片	27	O61		87	6	45	7	1.5	頁岩		2647	
IV-309	206	63	細石刃核削片	27	O59		177	(10)	(85)	11	(6.1)	黒曜石1	451	2028	
IV-309	206	64	細石刃核削片	21	M64		12	(14)	(57)	(9)	(6.0)	黒曜石1		2661	
IV-309	206	65	細石刃核削片	27	P61		300	24	82	12	12.8	黒曜石1	214	1324	
IV-309	206	66	尖頭器削片	47 21	N52 N63		649 412	(71)	(21)	(9)	(11.9)	黒曜石4		2675	
IV-309	206	67	舟底形石器	21	M62 M62 M63		299 336 623	27	121	15	41.8	黒曜石5		2740	
IV-309	206	68	舟底形石器	29	P55 P55 七南2~59		21 88 47	39	102	20	91.9	黒曜石1		2674	
IV-309	206	69	舟底形石器	27	O57		346	38	95	18	71.6	黒曜石2			
IV-310	206	70	舟底形石器	24	O62		349	35	79	24	46.6	黒曜石5			
IV-310	206	71	舟底形石器	27	O58		213	39	92	31	88.9	黒曜石1			
IV-310	206	72	舟底形石器	27	N60		53	29	80	28	42.9	黒曜石1			
IV-310	206	73	舟底形石器	27	N58		499	38	72	27	53.5	黒曜石1			
IV-310	206	74	舟底形石器	27	N60		1	35	80	32	57.3	黒曜石1			
IV-311	206	75	舟底形石器		N61	I	1	34	83	26	49.5	黒曜石1			
IV-311	207	76	舟底形石器	27	N60		25	36	91	32	65.2	黒曜石1			
IV-311	207	77	舟底形石器	27	N59		30	39	90	23	84.6	黒曜石1		2672	
IV-311	207	78	舟底形石器	27	O60		303	64	131	58	355.0	黒曜石1			
IV-312	207	79	舟底形石器	27	N59		170	48	97	29	101.9	黒曜石1		2672	
IV-312	207	80	舟底形石器	27	P59		335	48	118	36	188.1	黒曜石1	199	1272	
IV-312	207	81	舟底形石器	27	O60		115	37	149	44	185.9	黒曜石1			
IV-313	207	82	舟底形石器	27	N58 N58		467 468	51	131	33	171.1	黒曜石3		52593	
IV-313	208	83	舟底形石器	27	O57 O58 O58		1 28 136	47	183	35	(286.6)	黒曜石1	201	1278	
IV-313	208	84	舟底形石器	21	N62 N62		520 661	30	166	33	159.5	黒曜石3		52592	
IV-314	208	85	舟底形石器		M55 N63	I I	7 3	33	195	20	123.6	黒曜石4		2670	
IV-314	208	86	舟底形石器	24	O62		347	46	159	29	151.1	黒曜石3	399	1887	
IV-314	208	87	舟底形石器		R65 七南0~65	I	1 74	42	200	30	300.4	黒曜石1		52594	
IV-315	209	88	舟底形石器	20	M65 M65		19 43	49	198	41	364.7	黒曜石4	184	1243	
IV-315	209	89	舟底形石器	21	M64		154	(19)	(79)	(15)	(18.2)	黒曜石1			
IV-315	209	90	舟底形石器	21	N61		31	(21)	(78)	(18)	(38.7)	黒曜石1			
IV-315	209	91	舟底形石器	29	P54		79	(35)	(30)	(15)	(10.8)	黒曜石5			

上白滝8遺跡

挿図	図版	番号	器種名	石器ブロック	発掘区	層位	遺物番号	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	母岩番号	接合番号	備	考
IV-315	209	92	舟底形石器	27	P61		538	(31)	(71)	(26)	(42.9)	黒曜石5				
IV-315	209	93	舟底形石器	27	N57		1	(28)	(100)	23	(44.4)	黒曜石1				
IV-316	209	94	舟底形石器	29	P56		4	(18)	(68)	29	(29.1)	黒曜石5				
IV-316	209	95	舟底形石器	21	N63 N63		673 689	(32)	(77)	29	(43.2)	黒曜石3	186	1249		
IV-316	209	96	舟底形石器	27	P60		250	(45)	(68)	(28)	(64.3)	黒曜石1				
IV-316	209	97	彫器		N62	I	2	62	30	17	13.1	頁岩				
IV-316	209	98	搔器	27	Q60		62	74	34	12	19.1	黒曜石1				
IV-316	209	99	搔器	27	M58 N57 排土		6 88 108	79	29	5	(11.6)	頁岩		52484		
IV-316	209	100	搔器	28	R59		53	81	32	11	24.8	黒曜石4				
IV-316	209	101	搔器	29	P55		89	55	34	10	18.6	黒曜石1				
IV-316	209	102	搔器	27	P60		251	65	37	13	28.0	黒曜石1				
IV-316	209	103	搔器	23	O63		283	82	49	10	41.1	黒曜石3				
IV-317	210	104	搔器	27	N57		50	104	41	19	76.5	黒曜石1				
IV-317	210	105	搔器	27	P60 P60 P61		556 1445 150	116	51	11	54.8	黒曜石1		52481		
IV-317	210	106	搔器	27	N59		100	176	73	23	206.7	黒曜石5				
IV-317	210	107	搔器	27	N58		484	(80)	44	10	(31.0)	黒曜石1				
IV-317	210	108	錐形石器		N64	III	6	41	14	4	2.0	頁岩				
IV-317	210	109	錐形石器	21	N63		742	(42)	12	4	(1.8)	黒曜石4				
IV-317	210	110	削器	21	N63		666	89	37	9	23.8	黒曜石4				
IV-317	210	111	削器	21	N62 N63		602 296	115	36	11	40.2	黒曜石1		52544		
IV-317	210	112	削器	24 23	O62 O64		132 91	104	35	10	32.3	黒曜石1		52548		
IV-318	210	113	削器	27	P57		21	113	31	13	38.1	黒曜石5				
IV-318	210	114	削器	27	P59 P59		207 409	123	42	14	(39.9)	黒曜石1		52545		
IV-318	211	115	削器	27	P58 P58 P58		8 31 144	159	46	14	87.8	黒曜石5	226	1359		
IV-318	211	116	削器	27	P58 O59 七北院~59	I	198 2 107	141	54	10	(74.9)	黒曜石1		52546		
IV-318	211	117	削器	27	O59 P58		52 179	157	46	12	76.3	黒曜石1		52549		
IV-318	211	118	削器	27	O58 P58		54 178	182	62	17	(146.8)	黒曜石1		52552		
IV-319	211	119	削器	27	N59		231	(112)	(51)	(21)	(98.6)	黒曜石5				
IV-319	211	120	削器	27	O58		391	(142)	(70)	(21)	(33.5)	黒曜石5	241	1404		
IV-319	211	121	削器	21	M63 N62 N62 N63 七南60~65		1007 609 791 83 1	129	58	13	96.2	黒曜石1		52368		
IV-319	212	122	削器		R64	I	1	138	65	34	211.2	黒曜石4		2665		
IV-319	212	123	削器	21	M62		606	(62)	23	11	(18.0)	頁岩				
IV-319	212	124	石鏃	27	M59		8	27	13	3	0.8	黒曜石1				
IV-319	212	125	石刃	27	P61 P62 P63 P61 P62	I I	11 366 47 21 13	182	57	16	(111.3)	黒曜石5	243	1409		
IV-320	212	126	石刃	27	N58 N58 N58		57 201 221	188	57	20	(150.6)	黒曜石5	241	1404		
IV-320	212	127	石刃	29	P55		169	185	70	18	(158.7)	黒曜石5	241	1404		

掲載遺物一覧

挿図	図版	番号	器種名	石器ブロック	発掘区	層位	遺物番号	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	母岩番号	接合番号	備	考
							P57 P55 I 1									
IV-320	212	128	石刃	27	N59		176	191	72	17	(174.2)	黒曜石5	241	1404		
					P58 O58 I 14		177									
IV-320	213	129	石刃	27	P61		1461	217	55	14	(138.8)	黒曜石5	243	1409		
					P61 I 19		19									
IV-321	213	130	石刃	27	Q60		378	237	92	21	311.8	黒曜石5	243	1409		
					Q60		1603									
IV-321	213	131	石刃	27	P61		185	(206)	(84)	(17)	(235.4)	黒曜石5	243	1409		
					P62 P62 P60 I 1		16 20 1									
IV-322	214	132	石刃	27	N58		255	(144)	(86)	25	(235.5)	黒曜石5	241	1404		
					N58 N59		625 280									
IV-322	214	133	石刃	23	O62		6	(181)	62	17	(116.8)	黒曜石5	243	1409		
				27	P61		1559									
IV-322	214	134	石刃	27	N60		43	251	117	27	684.5	黒曜石5	241	1404		
IV-323	215	135	石刃核	25	R65		25	75	52	41	140.7	黒曜石1				
IV-323	215	136	石刃核	28	R62		159	95	58	31	142.7	黒曜石1	202	1281		
IV-323	215	137	石刃核		Q61	I	1	112	68	61	492.7	黒曜石4				
IV-323	215	138	石刃核		O60	I	2	150	97	49	648.5	黒曜石5	243	1409		
IV-324	215	139	石刃核	27	O57		320	87	99	66	571.4	黒曜石1				
IV-324	216	140	石刃核	27	Q59		273	107	77	70	614.6	黒曜石1	165	1197		
IV-324	216	141	石刃核	26	P63		501	113	145	71	1,080.4	黒曜石1	193	1266		
IV-325	216	142	石核	27	O59		439	64	72	69	270.0	黒曜石5	389	1847		
IV-325	216	143	石核		R65	I	16	93	110	65	571.0	黒曜石1	195	1268		
IV-325	217	144	石核	27	O61		148	120	116	70	579.6	黒曜石1	164	1196		
IV-326	217	145	石核	27	N59		45	163	102	47	655.7	黒曜石5	241	1404		
IV-326	217	146	石核	27	P60		2423	116	75	21	169.2	黒曜石1	192	1264		
IV-326	218	147	石核	26	Q63		215	147	122	106	1,751.4	黒曜石1		2715		
IV-327	218	148	石核	26	Q63		51	109	110	62	760.8	黒曜石1	210	1306		
IV-327	218	149	石核	23	O63		550	(142)	133	77	(1,106.5)	黒曜石5	186	1249		
				21	O64		366									
					七南60~65		31									
IV-327	219	150	石核	27	P62		345	160	136	70	1,447.1	黒曜石5		2717		
IV-328	219	151	石核		O58	I	8	62	41	121	340.1	黒曜石5	239	1401		
IV-328	219	152	石核	27	O57		5	115	50	109	(565.7)	黒曜石5	239	1401		
					Q58		4									
					Q58		6									
					Q58		7									
					Q59		130									
IV-328	219	153	石核	27	P62		481	108	62	97	702.5	黒曜石1	198	1271		
IV-328	219	154	敲石	27	N58		450	(47)	45	29	(74.3)	砂岩				
IV-376	256	1	尖頭器	35	J55		105	97	36	14	34.7	黒曜石1		52391		
					J57		50									
IV-376	256	2	尖頭器	35	I55		371	122	41	20	94.4	黒曜石5				
IV-376	256	3	尖頭器	32	H58		87	97	59	11	64.5	黒曜石4				
IV-376	256	4	尖頭器		H55	I	51	174	50	20	152.6	黒曜石1				
IV-376	256	5	尖頭器	35	J56		472	(137)	51	(8)	(52.1)	黒曜石5		52396		
					K56		23									
					J56	I	8									
IV-376	256	6	尖頭器	35	K55		29	(37)	(30)	(7)	(7.0)	黒曜石1				
IV-376	256	7	尖頭器	35	J57		64	(41)	(25)	(9)	(9.3)	黒曜石1				
IV-376	256	8	尖頭器	34	H57		1822	(41)	(34)	(16)	(17.3)	黒曜石4				
IV-377	256	9	尖頭器	35	J56		2	(105)	(68)	(27)	(186.7)	黒曜石1				
IV-377	256	10	尖頭器	35	I56		1054	(122)	(61)	(17)	(105.2)	黒曜石1		52390		
					七北2~59		23									
IV-377	257	11	尖頭器		H55	I	1	(122)	(70)	(23)	(199.2)	黒曜石1				

上白滝8遺跡

挿図	図版	番号	器種名	石器ブロック	発掘区	層位	遺物番号	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	母岩番号	接合番号	備考
IV-377	257	12	尖頭器	35	J57		53	(96)	(48)	(15)	(77.1)	黒曜石5			
IV-377	257	13	両面調整石器	34	H57		1750	(209)	53	(34)	(495.2)	黒曜石5			
IV-378	257	14	舟底形石器 両面調整石器	31	H58 I58	I	11 1	80	51	12	(43.4)	黒曜石4		2635	
IV-378	257	15	細石刃		H57	II	40	21	4	2	0.1	黒曜石1			
IV-378	257	16	細石刃		H55	II	52	22	5	2	0.1	黒曜石1			
IV-378	257	17	細石刃		I55	II	25	23	7	2	0.2	黒曜石1			
IV-378	257	18	細石刃核	34	H57		97	19	25	11	3.9	黒曜石3			
IV-378	257	19	細石刃核		J55	I	1	23	50	15	15.5	黒曜石1			
IV-378	257	20	細石刃核	34	H57 H58	I	4 1	54	134	25	(156.1)	黒曜石1	260	1464	
IV-378	257	21	細石刃核削片	34	H57		1979	7	66	20	6.1	黒曜石1	260	1464	
IV-378	257	22	細石刃核削片	34	H57 H57		59 923	18	82	21	24.4	黒曜石1	260	1464	
IV-378	257	23	細石刃核削片	34	H57		902	(6)	(27)	(15)	(1.4)	黒曜石1		2662	
IV-378	257	24	細石刃核削片	34	H57		1900	(6)	(26)	(15)	(1.8)	黒曜石1		2662	
IV-378	257	25	細石刃核削片	34	H57		1841	(8)	(36)	(15)	(3.4)	黒曜石1		2662	
IV-378	258	26	舟底形石器		H60	II	5	12	37	6	2.1	黒曜石4			
IV-378	258	27	舟底形石器	33	H57		1017	28	69	19	27.7	黒曜石1			
IV-378	258	28	舟底形石器	35	I55 七前00-65		246 8	19	92	15	20.8	黒曜石1		54145	
IV-379	258	29	舟底形石器	35	I57 I57		25 145	28	141	19	64.0	黒曜石1		52597	
IV-379	258	30	舟底形石器	35	J56		500	37	112	44	163.3	黒曜石3			
IV-379	258	31	舟底形石器		H59	I	2	52	188	48	321.3	黒曜石1			
IV-380	258	32	舟底形石器	35	K56		45	(28)	(73)	(32)	(56.0)	黒曜石3			
IV-380	258	33	ナイフ形石器	35	H56		444	48	42	7	7.7	黒曜石1			
IV-380	258	34	彫器	35	J55		37	36	18	6	3.5	黒曜石3			
IV-380	258	35	彫器		J55	I	2	71	26	6	10.5	黒曜石3			
IV-380	258	36	彫器	35	J57		70	61	25	7	9.4	黒曜石1			
IV-380	258	37	彫器		J56	I	1	42	19	8	7.1	黒曜石1			
IV-380	258	38	搔器	31	H59 I59	I	75 1	51	26	6	7.6	黒曜石4		52485	
IV-380	258	39	搔器	35	J55		60	57	24	11	9.8	黒曜石4			
IV-380	258	40	搔器	31	I59		280	66	24	16	17.0	真岩			
IV-380	258	41	搔器	32	J58		150	62	24	13	15.1	黒曜石1			
IV-380	258	42	搔器	35	I55		511	77	30	10	15.6	黒曜石1	322		
IV-380	259	43	搔器	32	I58 H58	I	94 2	88	29	13	(28.1)	黒曜石4		52486	
IV-380	259	44	搔器	35	I55		393	79	39	12	36.4	黒曜石5	390	1860	
IV-381	259	45	搔器	35	I55		510	82	38	9	24.0	黒曜石5			
IV-381	259	46	搔器	35	H56		1237	66	46	12	32.4	黒曜石1			
IV-381	259	47	搔器	31	I58		155	(37)	27	(5)	(5.3)	黒曜石4			
IV-381	259	48	搔器	32	I58		147	(48)	31	(6)	(10.2)	黒曜石4			
IV-381	259	49	搔器	32	I58		285	(49)	24	(7)	(8.4)	黒曜石4			
IV-381	259	50	搔器	35	J55		85	(72)	36	(12)	(28.9)	黒曜石1			
IV-381	259	51	錐形石器	31	I58		1	39	17	7	3.3	めのう			
IV-381	259	52	削器	32	I58		224	65	28	13	20.9	黒曜石4			
IV-381	259	53	削器	32	I58		2	73	22	11	18.8	真岩			
IV-381	259	54	削器	32	I58		143	77	26	12	20.0	黒曜石4			
IV-381	259	55	削器	35	I55		73	(83)	47	10	(44.2)	黒曜石4			
IV-381	259	56	削器	35	H55 I55	I	1312 5	192	60	18	150.7	黒曜石5		52557	
IV-382	259	57	削器		J57	I	1	158	62	15	135.8	黒曜石5			
IV-382	260	58	石刃	34	H57 七前02-59		1874 71	204	54	32	(178.8)	黒曜石1	261	1465	
IV-382	260	59	石刃	33	H57 H57	I	1201 20	196	59	37	312.8	黒曜石1	289	1557	
IV-383	260	60	石刃	34 33	H57 H57		5 540	166	54	21	(109.9)	黒曜石1	289	1557	

掲載遺物一覧

挿図	図版	番号	器種名	石器ブロック	発掘区	層位	遺物番号	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	母岩番号	接合番号	備考
IV-383	260	61	石刃	33	H57		541	197	56	17	(88.8)	黒曜石1	289	1557	
					H57		1483								
					H57		1598								
IV-383	260	62	石刃	33	H57		1186	212	104	35	(360.3)	黒曜石1	289	1557	
					H57		1609								
IV-384	261	63	石刃核	35	J56		600	69	29	69	115.9	黒曜石4		2711	
IV-384	261	64	石刃核	35	I56		1301	80	64	45	162.5	黒曜石5	280	1537	
IV-384	261	65	石刃核	35	J56		3	73	60	41	162.6	黒曜石4	275	1521	
IV-384	261	66	石刃核	35	K55		13	92	68	47	273.1	黒曜石4	440	1998	
IV-384	261	67	石刃核	35	H55		578	101	71	42	279.1	黒曜石4		2710	
IV-385	261	68	石核	35	H55		479	136	123	64	1,176.1	黒曜石1	189	1257	
IV-385	262	69	石刃核	35	H56		7	126	122	81	1,043.8	黒曜石1			
IV-386	262	70	石刃核	35	H55		812	79	106	36	428.5	黒曜石4			
IV-386	262	71	石刃核	35	H55		420	110	162	65	1,172.0	黒曜石4	277	1534	
IV-386	263	72	石刃核	35	H55		440	106	140	68	1,133.3	黒曜石4	270	1499	
IV-387	263	73	石刃核	33	H57		833	174	114	85	1,655.0	黒曜石1	289	1557	
IV-387	263	74	石刃核	34	H57		1	144	94	99	1,235.2	黒曜石5			
IV-388	264	75	石核	34	H57		1250	200	175	51	1,771.5	黒曜石1	260	1464	
IV-388	264	76	石核	35	I55		266	66	67	27	87.6	黒曜石4	339	1690	
IV-388	264	77	石核	35	K55		17	83	43	41	114.4	黒曜石4	334	1680	
IV-408	279	1	尖頭器	46	M53		135	100	34	12	36.9	黒曜石1		52400	
					M53	I	3								
IV-408	279	2	尖頭器	46	O53		51	(86)	(36)	(17)	(42.6)	黒曜石1			
IV-408	279	3	尖頭器	36	J59		572	(91)	(41)	(9)	(32.5)	黒曜石4		2622	
					J59		1191								
IV-408	279	4	尖頭器	52	S50		354	(64)	(45)	(13)	(32.4)	黒曜石1			
IV-408	279	5	尖頭器		Q47	I	1	(30)	(49)	(10)	(13.8)	黒曜石3			
IV-408	279	6	尖頭器		L52	I	1	(61)	(24)	(13)	(16.2)	黒曜石1			
IV-408	279	7	尖頭器		L51	I	4	79	32	11	17.8	黒曜石1		2624	
IV-408	279	8	尖頭器	47	L52		141	114	38	9	28.8	黒曜石1		52513	
					M52		506								
IV-408	279	9	尖頭器	46	M53		21	127	53	11	(61.1)	黒曜石1		52399	
					M53		162								
					M53	I	2								
IV-408	279	10	尖頭器	46	N54		100	132	50	12	71.4	黒曜石1		52512	
					N54		280								
IV-409	279	11	尖頭器	56	J49		160	137	48	16	81.1	黒曜石1		2731	
				45	K50		6								
				50	R52		32								
IV-409	279	12	尖頭器	47	M52		329	158	58	14	(105.8)	黒曜石1		52514	
				46	N53		100								
					N51	I	1								
IV-409	280	13	尖頭器	27	Q60		995	197	54	11	99.2	黒曜石4		52525	
				52	S49		33								
					S50		313								
IV-409	280	14	尖頭器	53	P48		36	192	56	19	139.6	黒曜石1		2726	
					R51	II	4								
IV-410	280	15	尖頭器	44	K52		186	172	58	16	143.6	黒曜石1		52515	
				47	L52		430								
IV-410	280	16	尖頭器	40	H52		50	185	43	22	136.1	黒曜石1	436	1966	
					H52		475								
IV-410	280	17	尖頭器	54	P48		136	226	85	21	(351.8)	黒曜石1		52523	
					Q48		37								
				53	Q48		261								
					P48	I	9								
					Q47	I	2								
					ボサ		1								
IV-411	281	18	尖頭器	53	P48		94	(48)	(39)	(7)	(11.4)	黒曜石3		52437	
					P48	I	3								
IV-411	281	19	尖頭器	54	P47		300	(126)	(56)	(9)	(48.7)	黒曜石3		2632	

上白滝8遺跡

挿図	図版	番号	器種名	石器ブロック	発掘区	層位	遺物番号	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	母岩番号	接合番号	備	考	
							P47 Q47 P47	461 227 2									
IV-411	281	20	尖頭器	51	R50 R51		70 272	(124)	(50)	(10)	(66.1)	黒曜石5		52520			
IV-411	281	21	尖頭器	47	P51 O51	I	57 2	(176)	(73)	(15)	(152.4)	黒曜石1		52407			
						七前2-59	34										
IV-411	281	22	尖頭器	53 54	P48 P48 Q47 Q47 Q48 P47 P47 P48 Q47 Q47 Q47 Q48		102 153 40 99 141 429 3 5 33 11 12 13 2	(197)	(64)	(14)	(178.9)	黒曜石1		52433			
IV-412	281	23	尖頭器	52	S49 S50 S50 S50		32 98 163 302	(176)	(76)	(15)	(147.8)	黒曜石4		52427			
IV-412	282	24	尖頭器	37	L56		101	(138)	(73)	(23)	(213.6)	黒曜石3		2627			
IV-412	282	25	尖頭器	52	S50 S50 S50		178 267 267	(192)	(76)	(24)	(294.3)	黒曜石5		52519			
IV-413	282	26	尖頭器		P47 P48	I I	1 6	(165)	(73)	(20)	(191.8)	黒曜石5		52438			
IV-413	282	27	尖頭器	35 37	J56 L56		367 120	(104)	(48)	17	(63.8)	黒曜石4		52393			
IV-413	282	28	尖頭器	53	P48 P47 P48	I I I	17 9 2	(147)	(75)	(19)	(201.1)	黒曜石1	428	1953			
IV-413	282	29	尖頭器	47	O51		850	(103)	(69)	(14)	(89.8)	黒曜石1					
IV-414	283	30	尖頭器	53	Q48 P47	I	38 7	(161)	89	(17)	(111.8)	黒曜石1		52524			
IV-414	283	31	尖頭器	52	S50 S50 S50 S50		1 233 322 323	(159)	77	15	(169.6)	黒曜石3		52522			
IV-415	283	32	尖頭器	47	O51 O51		1111 1387	142	67	13	98.2	黒曜石5		52516			
IV-415	283	33	尖頭器	44	K52 K52 K53		7 8 342	154	73	21	222.2	黒曜石1	294	1580			
IV-415	283	34	尖頭器	51	R51 R51		85 141	176	83	20	222.8	黒曜石1		52521			
IV-416	284	35	尖頭器	54 53 51	Q47 Q49 Q51 Q51	II	126 7 109 2	(178)	108	25	(275.4)	黒曜石4		2725			
IV-416	284	36	尖頭器	38	L56 L56 M55		26 164 69	108	72	9	67.7	黒曜石4		52409			
IV-416	284	37	尖頭器	50	R52 R52 R52		1 22 210	(122)	(88)	(15)	(102.7)	黒曜石1		52423			

挿図	図版	番号	器種名	石器ブロック	発掘区	層位	遺物番号	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	母岩番号	接合番号	備考
					R52		396								
IV-417	284	38	尖頭器	37	L57		32	(50)	(72)	(13)	(33.6)	黒曜石1			
IV-417	284	39	尖頭器	52	S49		87	(130)	(116)	(24)	(299.0)	黒曜石1			
IV-417	285	40	尖頭器	36	J59		646	196	93	37	656.4	黒曜石1		52392	
					七北60~65		66								
IV-418	285	41	尖頭器	46	M53		20	216	92	36	(351.0)	黒曜石4	458	2732	
					N54		95								
IV-418	285	42	尖頭器	42	K53		111	(162)	(81)	24	(213.7)	黒曜石3	328	1658	
				44	L53		40								
IV-418	285	43	尖頭器		K52	I	1	(46)	(75)	(26)	(82.6)	黒曜石4	328	1658	
IV-419	286	44	尖頭器		L51	I	1	236	128	43	1,076.8	黒曜石4		52517	
				47	L52		1								
IV-419	286	45	尖頭器	49	M49		30	57	34	14	26.8	黒曜石1			
IV-419	286	46	尖頭器	49	N49		39	81	41	17	51.8	黒曜石4		52446	
					N49		233								
IV-419	286	47	尖頭器	37	K57		115	(70)	56	15	(44.5)	黒曜石5			
IV-420	287	48	尖頭器	52	S49		1	260	121	36	(805.0)	黒曜石1		52518	
					S49		2								
					S49		4								
					S49		53								
					S49		62								
					S50		99								
					S50		114								
IV-420	286	49	尖頭器	50	R52		78	117	41	23	79.8	黒曜石4		2678	
					R52		407								
IV-421	287	50	尖頭器	52	S49		63	257	113	25	(432.3)	黒曜石1	425	1946	
					S49		88								
					S50		97								
					S50		146								
					S50		147								
					S50		230								
IV-421	286	51	尖頭器	37	K57		12	(100)	(63)	(19)	(105.4)	黒曜石4	345	1700	
IV-422	288	52	両面調整石器		S49	I	7	(192)	(180)	(75)	(1,955.5)	黒曜石5	392	1876	
					T48	I	1								
					七北30~51		20								
					七南30~51		9								
IV-423	289	53	両面調整石器	47	N51		44	227	(140)	(35)	(839.1)	黒曜石4		52528	
					N51		71								
					N51		72								
					N51		169								
					N51		170								
					N51		312								
					N51		474								
					N51		484								
					N51		532								
					N51		656								
					N51		658								
					N51		833								
					N51		971								
IV-423	289	54	両面調整石器	47	N52		325	(141)	(120)	(43)	(764.1)	黒曜石1	296	1582	
IV-424	290	55	両面調整石器	46	M53		14	217	130	23	(470.3)	黒曜石1		52455	
					M53		82								
					M53		420								
					M54		157								
					M53	I	16								
					七北30~51		19								
					七南32~59		32								
					七南32~59		92								
IV-424	290	56	両面調整石器	38	M55		59	208	141	47	1,484.2	黒曜石4			
IV-425	291	57	両面調整石器	38	M55		449	242	116	41	1,158.4	黒曜石4			

上白滝8遺跡

挿図	図版	番号	器種名	石器ブロック	発掘区	層位	遺物番号	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	母岩番号	接合番号	備考
IV-425	291	58	尖頭器削片		N53	I	17	(68)	(11)	(14)	(7.7)	黒曜石4		2675	
IV-425	291	59	尖頭器削片	37 38	L56 M55		121 375	70	10	14	6.9	黒曜石4	345	1700	
IV-425	291	60	尖頭器削片	47	M52		610	39	8	4	0.9	黒曜石1		2624	
IV-425	291	61	尖頭器削片	47	O51		1362	93	17	26	38.6	黒曜石4		2675	
IV-425	291	62	尖頭器削片		L56 M55	I I	4 3	116	18	34	37.6	黒曜石4	345	1700	
IV-425	291	63	ナイフ形石器	45	K51		29	31	28	8	3.1	黒曜石1			
IV-426	291	64	彫器	36	K59		559	58	21	8	8.4	黒曜石1			
IV-426	291	65	彫器		N52	I	1	(56)	22	(6)	(7.3)	黒曜石5			
IV-426	291	66	彫器	47	M51		83	61	23	10	10.5	黒曜石4			
IV-426	291	67	彫器	47	M53 N51		8 36	71	32	5	(10.8)	黒曜石4		52476	
IV-426	291	68	彫器	37	L57		15	39	18	9	6.6	黒曜石4			
IV-426	291	69	彫器	36	K59		460	42	20	12	7.8	黒曜石5			
IV-426	291	70	彫器	39	H54		56	42	19	9	6.8	黒曜石1			
IV-426	291	71	彫器		I53	I	118	51	20	9	8.8	黒曜石5			
IV-426	291	72	彫器	37	K56		32	52	22	11	11.2	黒曜石3			
IV-426	291	73	彫器	36	L59		2	40	26	11	10.5	黒曜石4			
IV-426	292	74	彫器	47	N52		634	49	21	11	10.1	黒曜石4			
IV-426	292	75	彫器		M53	I	1	38	20	6	3.6	頁岩			
IV-426	292	76	彫器	36	I59		427	42	19	7	5.8	黒曜石4			
IV-426	292	77	彫器		H54	I	38	46	17	8	6.2	黒曜石1			
IV-426	292	78	彫器	47	M52		39	47	21	6	6.7	黒曜石4			
IV-426	292	79	彫器	47	N52		1292	38	22	8	6.6	黒曜石3			
IV-426	292	80	彫器	36	L58		6	43	22	7	6.5	黒曜石4			
IV-426	292	81	彫器	38	M56		43	47	21	8	8.5	黒曜石4			
IV-426	292	82	彫器	36	J59		10	54	21	7	7.4	黒曜石4			
IV-426	292	83	彫器	47	N52 N51		1162 14	56	21	8	8.4	黒曜石4		52474	
IV-427	292	84	彫器	47	O52 O52		1266 1275	60	23	6	8.1	黒曜石4		52475	
IV-427	292	85	彫器	47	N52		491	58	26	7	9.8	黒曜石3			
IV-427	292	86	彫器	47	N51		30	58	27	9	12.1	黒曜石4			
IV-427	292	87	彫器	36	K59		479	59	27	6	7.1	黒曜石4			
IV-427	292	88	彫器	36	K59		457	58	29	7	10.6	黒曜石4			
IV-427	292	89	彫器	36	K59		95	55	27	9	12.4	黒曜石4			
IV-427	292	90	彫器	36	K60		6	60	26	8	11.9	黒曜石4			
IV-427	292	91	彫器	38	M56		29	72	24	10	13.1	黒曜石4			
IV-427	292	92	彫器	39	H53		769	92	21	7	10.4	黒曜石1			
IV-427	292	93	彫器	47	M52		109	75	22	8	11.2	黒曜石1		52473	
IV-427	292	94	彫器	36	J59		21	66	37	6	13.6	黒曜石4			
IV-427	292	95	彫器削片		K57	I	1	22	7	3	0.1	黒曜石4			
IV-427	292	96	搔器	47	N51		962	33	19	8	4.5	頁岩			
IV-427	292	97	搔器	53	Q48		144	44	28	7	9.8	黒曜石1			
IV-427	292	98	搔器	53	P48		63	46	28	7	9.8	黒曜石1	410	1917	
IV-427	292	99	搔器	44	K52		948	53	32	9	15.4	黒曜石1			
IV-427	292	100	搔器	47	N51		830	56	24	12	12.1	黒曜石4			
IV-427	292	101	搔器		K59	I	3	55	26	10	16.4	黒曜石1			
IV-428	292	102	搔器		J53	I	49	53	29	8	11.1	黒曜石3			
IV-428	292	103	搔器	44	K53		814	59	29	10	13.5	黒曜石1			
IV-428	293	104	搔器	44	K53		538	64	30	8	12.4	黒曜石1			
IV-428	293	105	搔器	47	N51		344	73	25	9	16.4	黒曜石3			
IV-428	293	106	搔器	39	I53 J53		119 55	87	29	9	18.6	黒曜石1		52488	
IV-428	293	107	搔器	39	I53 H53		866 123	82	35	12	(30.1)	黒曜石4		54093	
IV-428	293	108	搔器		J59	I	2	99	39	14	44.4	黒曜石3			
IV-428	293	109	搔器		I54	I	1	(40)	(17)	(4)	(2.9)	黒曜石1			

掲載遺物一覧

挿図	図版	番号	器種名	石器ブロック	発掘区	層位	遺物番号	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	母岩番号	接合番号	備	考
IV-428	293	110	搔器	47	M52		1172	(60)	24	(9)	(9.6)	黒曜石4				
IV-428	293	111	搔器		I54	I	2	(55)	23	(9)	(13.0)	黒曜石1				
IV-428	293	112	搔器	44	K53		503	(53)	28	10	(13.6)	黒曜石1				
IV-428	293	113	搔器	39	I54		8	(53)	(24)	9	(9.6)	黒曜石1				
IV-428	293	114	搔器	39	H54		104	(63)	28	8	(12.8)	黒曜石1				
IV-428	293	115	搔器		I54	I	3	(70)	30	8	(13.6)	黒曜石1				
IV-428	293	116	搔器	37	L57		10	(70)	32	9	(16.5)	黒曜石3				
IV-429	293	117	搔器		I52	I	1	(103)	56	23	(104.2)	黒曜石1				
IV-429	293	118	搔器	36	J60		27	46	24	13	12.7	黒曜石1				
IV-429	293	119	搔器	44	L52		460	54	29	10	15.6	黒曜石1			産地分析 X173	
IV-429	293	120	搔器	36	J60		101	58	28	15	24.8	黒曜石1				
IV-429	293	121	搔器	47	L52		92	77	28	11	22.4	黒曜石4				
IV-429	293	122	搔器	36	I59		151	76	25	9	17.0	黒曜石3		52487		
					I59		363									
IV-429	293	123	搔器	47	L52		477	79	29	11	23.5	黒曜石4		52492		
					L52	I	53									
IV-429	294	124	搔器	43	K53		411	80	39	14	(30.7)	黒曜石1		52489		
					J53	I	58									
IV-429	294	125	搔器		K54	I	1	87	40	15	50.2	黒曜石1				
IV-429	294	126	搔器	37	K57		125	66	42	15	36.8	黒曜石3			産地分析 X175	
IV-429	294	127	搔器	38	L56		100	(49)	33	14	(22.6)	黒曜石1				
IV-430	294	128	搔器	46	L54		33	(39)	38	13	(17.4)	黒曜石1			産地分析 X174	
IV-430	294	129	搔器		K53	I	49	64	41	11	25.5	黒曜石1				
IV-430	294	130	搔器	39	I53		410	66	44	7	17.7	黒曜石1				
IV-430	294	131	搔器	46	M53		11	80	45	14	51.7	黒曜石1			産地分析 X176	
IV-430	294	132	錐形石器	47	N52		1	45	18	7	3.8	頁岩				
IV-430	294	133	錐形石器	37	K57		200	74	26	9	13.7	めのう				
IV-430	294	134	錐形石器	39	J53		61	101	25	9	23.4	黒曜石4		52530		
					J53		92									
IV-430	294	135	錐形石器	36	K59		173	(37)	(28)	(6)	(4.2)	黒曜石4				
IV-430	294	136	錐形石器	45	J51		14	35	26	8	7.6	めのう				
IV-430	294	137	削器	54	P47		382	73	29	6	(9.7)	黒曜石1	410	1917		
					Q47		140									
IV-430	294	138	削器		P48	I	34	81	32	10	(17.6)	黒曜石1	410	1917		
					P48	I	35									
					P48	I	36									
					P48	I	37									
IV-430	294	139	削器		J54	I	3	(72)	(29)	(7)	(13.2)	黒曜石4	342	1697		
IV-430	294	140	削器	36	K59		401	86	28	9	22.3	黒曜石1				
IV-430	294	141	削器	50	R52		126	111	36	11	38.7	黒曜石5				
IV-431	294	142	削器	47	M51		324	111	40	9	(43.3)	黒曜石1		52561		
					L51	I	5									
IV-431	295	143	削器	52	S50		25	(110)	(49)	(9)	(64.7)	頁岩				
IV-431	295	144	削器	36	K59		8	(116)	47	12	(70.0)	黒曜石1				
IV-431	295	145	削器	47	O51		1353	(146)	49	13	(53.5)	黒曜石1		52571		
					N51	I	2									
IV-431	295	146	削器	47	M51		221	176	51	15	(118.4)	黒曜石1		52564		
					M51		514									
					N51		477									
IV-431	295	147	削器		P48	I	7	(46)	(31)	(8)	(10.1)	黒曜石1				
IV-431	295	148	削器		J59	I	3	81	29	12	31.6	黒曜石4	446	2008		
IV-431	295	149	削器	52	S50		270	(101)	40	(11)	(42.7)	黒曜石1				
IV-432	295	150	削器	47	M52		612	109	38	10	31.7	黒曜石1		52566		
					M52	I	44									
IV-432	295	151	削器	47	M51		551	(101)	40	(9)	(36.5)	黒曜石1		52563		
					L51	I	3									
IV-432	295	152	削器	46	O54		35	147	42	15	79.6	黒曜石5				
IV-432	296	153	削器	38	M55		450	154	49	17	120.5	黒曜石1				
IV-432	296	154	削器	47	M52		1025	87	58	20	94.4	黒曜石5				
IV-432	296	155	削器	46	L55		32	87	55	9	27.3	黒曜石1				

上白滝8遺跡

挿図	図版	番号	器種名	石器ブロック	発掘区	層位	遺物番号	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	母岩番号	接合番号	備考
IV-432	296	156	削器	54	Q47		131	(90)	41	8	(20.5)	黒曜石4			
IV-432	296	157	削器	47	O51		646	(81)	32	11	(23.4)	黒曜石1			
IV-432	296	158	削器	41 40 45	H51 H52 J51		259 400 8	(71)	36	(6)	(15.6)	黒曜石4		52569	
IV-433	296	159	削器	46	M53 M53 M53 M53 七南2~59 七南2~59 七南2~59 七南2~59 七南2~59		134 137 287 288 10 24 25 26 27	(202)	115	(13)	(227.0)	黒曜石5		52572	
IV-433	296	160	二次加工ある剥片	47	N52		895	78	40	22	56.3	黒曜石4	358	1737	
IV-433	297	161	舟底形石器		K56	I	1	(11)	(25)	(4)	(1.4)	黒曜石4			
IV-433	297	162	舟底形石器		O53	III	3	10	19	9	2.3	黒曜石4		2675	
IV-433	297	163	舟底形石器		K53	I	54	13	36	11	5.2	黒曜石1			産地分析 X172
IV-433	297	164	舟底形石器	47	N52		846	12	57	7	4.1	黒曜石4			
IV-433	297	165	舟底形石器		L56	I	2	12	68	8	5.3	黒曜石4			
IV-433	297	166	舟底形石器	47	M51		150	(15)	(51)	(7)	(5.5)	黒曜石4			
IV-433	297	167	舟底形石器		I53 J52	II I	122 35	19	70	12	15.4	黒曜石4	338	1687	
IV-433	297	168	舟底形石器	44	K52		1261	20	38	16	9.2	黒曜石4	438	1991	
IV-433	297	169	舟底形石器	39	I53		818	23	49	14	13.2	黒曜石4	372	1771	
IV-434	297	170	舟底形石器	47	M52		252	24	50	18	15.5	黒曜石4	360	1739	
IV-434	297	171	舟底形石器	39	I53		464	22	61	22	29.0	黒曜石4	372	1771	
IV-434	297	172	舟底形石器	39	I53		824	23	64	16	21.5	黒曜石4			
IV-434	297	173	舟底形石器	43	J52		217	22	68	19	23.0	黒曜石4	349	1713	
IV-434	297	174	舟底形石器	39	I53		817	32	70	23	49.2	黒曜石4	368	1764	
IV-434	297	175	舟底形石器		I53	I	110	19	71	15	18.1	黒曜石4			
IV-434	297	176	舟底形石器	47	M52		747	25	77	24	42.5	黒曜石4			
IV-434	297	177	舟底形石器	47	L52		2	27	76	23	41.7	黒曜石4			
IV-434	297	178	舟底形石器	39	I53		402	29	80	18	33.1	黒曜石4			
IV-435	297	179	舟底形石器	43	I52		30	35	97	24	73.9	黒曜石4		2728	
IV-435	297	180	舟底形石器		L52	I	4	34	84	28	53.6	黒曜石4	358	1737	
IV-435	297	181	舟底形石器	47	M51		446	38	93	31	99.3	黒曜石4		2727	
IV-435	297	182	舟底形石器	38	M55		140	26	97	18	37.4	黒曜石1			
IV-435	298	183	舟底形石器	47	M52		1270	38	104	30	99.6	黒曜石4			
IV-436	298	184	舟底形石器	46	M54		50	31	104	27	73.3	黒曜石5			
IV-436	298	185	舟底形石器	46	N56		20	34	108	31	88.7	黒曜石1			
IV-436	298	186	舟底形石器	46	N54		75	40	106	39	138.9	黒曜石5			
IV-436	298	187	舟底形石器	47 51	O51 Q52		1210 2	35	111	22	79.8	黒曜石3		2729	
IV-437	298	188	舟底形石器	47	M52		1291	46	116	34	148.0	黒曜石4		2727	
IV-437	298	189	舟底形石器		P47 P49	I I	12 1	20	113	17	30.0	黒曜石1		52615	
IV-437	298	190	舟底形石器	51	Q51 R50	I	1 69	26	106	19	41.0	黒曜石1		52613	
IV-437	298	191	舟底形石器	51	R50 R50		68 72	26	111	24	50.0	黒曜石1		2677	
IV-437	298	192	舟底形石器	36	J58 J59		293 16	34	124	31	87.3	黒曜石4	269	1494	
IV-438	299	193	舟底形石器		O51	I	208	35	124	32	144.6	黒曜石1			
IV-438	299	194	舟底形石器	44	K52 K52		50 1260	31	126	23	69.0	黒曜石4	341	1696	
IV-438	299	195	舟底形石器	46	M53 N53	I	65 4	32	134	20	(57.8)	黒曜石1		52609	
IV-438	299	196	舟底形石器	47	M52 N52	I	9 1116	24	144	18	50.7	黒曜石1		52605	

掲載遺物一覧

挿図	図版	番号	器種名	石器ブロック	発掘区	層位	遺物番号	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	母岩番号	接合番号	備	考
IV-438	299	197	舟底形石器	47	N53 M52	I	90 8	29	142	26	(90.6)	黒曜石5		52607		
IV-439	299	198	舟底形石器		N51 七区2-59	I	4 53	38	142	32	(148.0)	黒曜石5	391	1867		
IV-439	299	199	舟底形石器		M54 N54	I I	36 5	45	146	32	153.8	黒曜石1	304	1600		
IV-439	299	200	舟底形石器	47	M52 M52	I	634 48	31	154	25	91.9	黒曜石5	400	1890		
IV-440	299	201	舟底形石器	47 46	N52 O53		343 62	38	156	28	(122.6)	黒曜石1	310	1615		
IV-440	300	202	舟底形石器	46 47	L54 N52		9 1246	34	159	26	(138.5)	黒曜石1	311	1616		
IV-440	300	203	舟底形石器	51	R51 R51		45 238	31	162	17	88.7	黒曜石1		52610		
IV-441	300	204	舟底形石器	50	R52 R52		258 415	36	180	20	(126.9)	黒曜石1		2676		
IV-441	300	205	舟底形石器	47	N52		158	46	147	45	279.4	黒曜石1				
IV-441	300	206	舟底形石器	46 47	M54 N52		17 988	54	173	32	(219.4)	黒曜石1		52602		
IV-442	300	207	舟底形石器		M52	I	2	67	165	57	547.6	黒曜石1				
IV-442	301	208	舟底形石器	46	O53 O53		1 10	24	104	17	(37.4)	黒曜石1		52604		
IV-442	301	209	舟底形石器	47	M52 M52		415 950	27	136	21	52.0	黒曜石1		52608		
IV-442	301	210	舟底形石器		K56 七区2-59	I	2 54	22	147	16	48.5	黒曜石1		52598		
IV-443	301	211	舟底形石器	47	M52 M52	I	173 7	30	188	27	113.3	黒曜石1		52603		
IV-443	301	212	舟底形石器	46 47	M53 N52		27 1013	28	166	22	108.1	黒曜石1		52606		
IV-443	301	213	舟底形石器	40	H52		333	41	123	18	64.8	黒曜石1	436	1966		
IV-443	301	214	舟底形石器	43	J52 J52		113 249	26	64	30	(37.1)	黒曜石4	338	1687		
IV-444	301	215	舟底形石器	39	J53 J52 J52	I I	64 25 34	28	71	27	(44.2)	黒曜石4	338	1687		
IV-444	301	216	舟底形石器	43	J53 J53		71 420	30	86	23	46.3	黒曜石4	369	1765		
IV-444	301	217	舟底形石器	44	K52 K52		47 1566	28	88	43	(58.7)	黒曜石4	438	1991		
IV-444	301	218	舟底形石器	38	M56		26	(29)	(76)	46	(76.3)	黒曜石4	405	1903		
IV-444	302	219	舟底形石器	38	M55 M55		28 165	33	87	45	(92.1)	黒曜石4	405	1903		
IV-445	302	220	舟底形石器	37 38	L56 M56		142 35	37	110	39	119.3	黒曜石4	405	1903		
IV-445	302	221	舟底形石器	47	N52		43	35	86	63	200.4	黒曜石4	363	1745		
IV-445	302	222	舟底形石器		M55	I	59	33	90	75	160.4	黒曜石4	405	1903		
IV-446	302	223	舟底形石器	41	H51		248	35	90	28	57.2	黒曜石4	334	1680		
IV-446	302	224	舟底形石器	36	K59		312	(18)	(57)	(24)	(21.0)	黒曜石4				
IV-446	302	225	舟底形石器	54	P47 P47		2 259	19	(81)	(16)	(22.0)	黒曜石4		52616		
IV-446	302	226	舟底形石器		M52	I	3	(23)	(71)	(16)	(26.0)	黒曜石1				
IV-446	302	227	舟底形石器	37	L56 L56		89 176	(22)	(79)	(12)	(18.5)	黒曜石1		52600		
IV-446	302	228	舟底形石器	36	J58		69	(25)	(75)	(28)	(36.7)	黒曜石4	271	1501		
IV-446	302	229	舟底形石器	51	R50 R50 R50		43 57 125	(23)	(115)	(16)	(37.9)	黒曜石1		52612		
IV-447	302	230	舟底形石器	47	N52 N52		8 631	(25)	(113)	(16)	(40.0)	黒曜石1	293	1579		

上白滝8遺跡

挿図	図版	番号	器種名	石器ブロック	発掘区	層位	遺物番号	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	母岩番号	接合番号	備	考
IV-447	302	231	舟底形石器	53 54	P48 Q47		166 19	(28)	(110)	(28)	(59.0)	黒曜石1	406	1909		
IV-447	302	232	舟底形石器		M52	I	1	(30)	(61)	(21)	(33.9)	黒曜石1				
IV-447	302	233	舟底形石器	42	K54		15	(19)	(54)	(18)	(16.1)	黒曜石1				
IV-447	302	234	舟底形石器		N55	I	1	(24)	(70)	(21)	(31.9)	黒曜石1				
IV-447	303	235	石刃	47	O51		1171	72	19	7	6.6	黒曜石4	364	1749		
IV-447	303	236	石刃	47	O51		624	80	16	10	11.7	黒曜石4	364	1749		
IV-447	303	237	石刃	47	N52		691	82	20	8	8.2	黒曜石4	351	1716		
IV-447	303	238	石刃	47	N52		881	83	17	10	9.3	黒曜石4	351	1716		
IV-447	303	239	石刃	47	M52		238	94	20	11	13.0	黒曜石4	351	1716		
IV-447	303	240	石刃	47	O51		144	108	15	25	28.0	黒曜石4	364	1749		
IV-448	303	241	石刃	47	M52 N51	I	333 151	123	36	15	(43.2)	黒曜石5	389	1847		
IV-448	303	242	石刃	47	M52 N52		292 802	142	41	16	74.3	黒曜石5	397	1885		
IV-448	303	243	石刃	46	N54		290	122	49	16	82.5	黒曜石5	243	1409		
IV-448	303	244	石刃	47	N52 O52 N51	I	92 879 160	168	55	33	(108.4)	黒曜石5	389	1847		
IV-448	303	245	石刃	46 27	N54 N54 P61		127 291 16	185	50	18	(127.6)	黒曜石5	243	1409		
IV-449	304	246	石刃	46	N54 N54		247 257	170	58	15	(94.0)	黒曜石5	243	1409		
IV-449	304	247	石刃	47	O52 N53	I	270 1	171	86	23	(158.6)	黒曜石5	396	1883		
IV-449	304	248	石刃	46	N54 N54 N54 N54 N55		68 126 138 345 17	163	72	12	(129.0)	黒曜石5	243	1409		
IV-449	304	249	石刃	47	N52 N51	I	414 136	188	65	23	(198.0)	黒曜石5	389	1847		
IV-450	304	250	石刃	42	K53 K54 K54		334 5 262	150	42	13	(54.3)	黒曜石5	390	1860		
IV-450	304	251	石刃	42	K54 K54 K54		189 219 222	136	44	17	80.8	黒曜石5	390	1860		
IV-450	304	252	石刃	48	O50 O50 O50		420 448 493	125	52	21	(70.1)	黒曜石1	295	1581		
IV-450	305	253	石刃	49 48	N49 N50		209 187	160	60	19	102.4	黒曜石1	295	1581		
IV-450	305	254	剥片	48	O50 O50		284 326	141	77	28	213.2	黒曜石1	295	1581		
IV-450	305	255	石刃	46	N56		51	(126)	48	(15)	(88.4)	黒曜石5	397	1885		
IV-451	305	256	石刃核	49	N49		45	45	30	28	40.1	黒曜石1				
IV-451	305	257	石刃核	47	N51		806	99	30	53	138.4	黒曜石4	351	1716		
IV-451	305	258	石刃核	47	O51 O51		365 842	114	23	37	86.2	黒曜石4	364	1749		
IV-451	305	259	石刃核	47	P51		381	83	42	41	145.6	黒曜石4	353	1726		
IV-451	305	260	石刃核	47	N51		995	96	59	51	219.9	黒曜石4	346	1703		
IV-451	305	261	石刃核	36	J59		23	60	64	33	129.3	黒曜石4	446	2008		
IV-451	305	262	石刃核		Q53	I	1	64	53	27	74.5	黒曜石4				
IV-452	306	263	石刃核	47	M51		538	72	58	31	100.4	黒曜石4	363	1745		
IV-452	306	264	石刃核	47	M51		107	74	76	65	335.5	黒曜石4	442	2003		
IV-452	306	265	石刃核	37	K57		36	86	78	57	328.1	黒曜石1				
IV-452	306	266	石刃核	40	H52 H52		186 386	94	87	72	(628.6)	黒曜石3	333	1679		

挿図	図版	番号	器種名	石器ブロック	発掘区	層位	遺物番号	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	母岩番号	接合番号	備考	
							H52 469									
							H52 512									
							H52 551									
							H52 570									
							H52 609									
							H52 620									
							H52 632									
							H52 633									
IV-453	306	267	石刃核	44	K52		1415	104	82	57	481.5	黒曜石4	350	1715		
					K52	II	2									
IV-453	306	268	石刃核	47	N51		210	99	79	59	311.8	黒曜石4	439	1995		
IV-453	306	269	石刃核	47	O52		200	132	99	55	685.4	黒曜石4	394	1880		
IV-454	307	270	石刃核	47	O51		621	177	151	103	2,464.9	黒曜石5	396	1883		
IV-455	307	271	石刃核	48	P50		58	123	134	99	1,628.3	黒曜石5				
IV-455	307	272	石刃核	51	R50		19	102	66	34	221.8	黒曜石5				
IV-456	308	273	石刃核	42	K53		338	137	93	50	718.5	黒曜石1	390	1860		
IV-456	308	274	石刃核	40	H52		25	144	105	96	1,612.6	黒曜石5				
IV-457	308	275	石刃核	40	H52		2	204	98	85	1,443.2	黒曜石5		2730		
					H52	I	7									
IV-457	308	276	石刃核	46	M53		185	107	56	28	185.1	黒曜石5	398	1886		
IV-457	308	277	石刃核	48	O50		470	105	72	36	249.4	黒曜石1	300	1587		
IV-458	309	278	石刃核	47	M52		447	87	46	38	179.3	黒曜石5	297	1583		
IV-458	309	279	石刃核		K54	I	6	144	65	63	520.5	黒曜石1	316	1623		
IV-458	309	280	石刃核	47	M52		277	200	74	73	1,086.4	黒曜石5	299	1586		
IV-459	309	281	石核	48	P49		142	29	40	19	19.8	黒曜石1				
IV-459	309	282	石核	54	Q47		68	26	46	33	34.9	黒曜石1				
IV-459	309	283	石核	54	P47		423	32	33	29	30.2	黒曜石5				
IV-459	309	284	石核	45	K51		30	49	47	33	90.2	黒曜石1	314	1621		
IV-459	309	285	石核	54	P47		402	53	63	47	132.1	黒曜石1				
IV-459	309	286	石核	47	N52		67	54	61	37	106.0	黒曜石4	358	1737		
IV-459	309	287	石核	44	K52		692	53	53	42	113.8	黒曜石4	441	1999		
IV-459	310	288	石核		L55	I	1	49	59	32	72.5	黒曜石4	336	1684		
IV-459	310	289	石核	44	K52		240	86	51	30	108.8	黒曜石4	441	1999		
IV-460	310	290	石核		N53	I	2	73	75	52	315.9	黒曜石4	344	1699		
IV-460	310	291	石核	47	N51		644	81	56	56	168.7	黒曜石4	351	1716		
IV-460	310	292	石核	47	N51		1062	87	99	61	524.3	黒曜石4	366	1759		
IV-460	310	293	石核	47	N51		311	79	83	64	293.5	黒曜石4	439	1995		
IV-461	310	294	石核	46	P53		1	90	82	45	290.4	黒曜石1				
IV-461	310	295	石核		H51	I	1	113	121	48	509.1	黒曜石5	202	1281		
IV-461	311	296	石核	39	H54		196	116	114	63	711.3	黒曜石4				
IV-462	311	297	石核	48	O50		524	125	110	43	462.4	黒曜石1	295	1581		
IV-462	311	298	石核	47	O52		343	142	72	39	546.8	黒曜石1		2737		
IV-463	312	299	石核		H53	I	1	228	140	94	2,425.3	黒曜石1		54305		
					H53	I	130									
IV-463	312	300	敲石	44	K53		506	(64)	(70)	(57)	(267.6)	砂岩				
IV-464	312	301	砥石	54	P47		121	(205)	(85)	36	(132.7)	安山岩2				
IV-464	312	302	斧形石器	47	M52		323	83	84	14	869.6	安山岩1				
IV-464	313	303	台石	49	N49		231	280	257	55	5,705.8	安山岩2				
IV-464	313	304	台石	54	Q47		158	287	221	43	4,773.2	安山岩2				
IV-543	357	1	尖頭器	59	I47		27	122	33	12	(41.9)	黒曜石1		52527		
					J46		36									
					I47	I	1									
IV-543	357	2	尖頭器	57	J48		75	117	59	23	156.6	黒曜石1		52526		
				58	K48		41									
IV-543	357	3	尖頭器	59	I46		53	108	56	10	59.6	黒曜石5				
IV-543	357	4	尖頭器	59	I47		31	(124)	63	(18)	(122.6)	黒曜石1		52443		
					J46		162									
IV-543	357	5	尖頭器		I47	I	4	68	44	8	25.1	黒曜石5				
IV-543	357	6	尖頭器	57	I48		57	(102)	48	(11)	(57.8)	黒曜石1		2633		
				59	J46		13									

上白滝8遺跡

挿図	図版	番号	器種名	石器ブロック	発掘区	層位	遺物番号	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	母岩番号	接合番号	備	考
IV-543	357	7	尖頭器	59 60	J46 K46		109 40	163	44	17	(105.0)	黒曜石1		52444		
IV-544	357	8	ナイフ形石器		M48	I	2	(29)	(26)	7	(4.2)	黒曜石1				
IV-544	357	9	削器	59	J47		50	(73)	(53)	(10)	(44.0)	黒曜石1				
IV-544	357	10	削器	58	K47		24	117	54	17	101.8	黒曜石1	419	1939		
IV-544	358	11	削器	59	J46 J47 J47		12 1 53	128	78	15	163.5	黒曜石1		52579		
IV-544	358	12	舟底形石器	59	I47		29	11	23	8	2.1	黒曜石1			産地分析X10	
IV-544	358	13	舟底形石器	59	I47		5	13	31	9	3.9	黒曜石1			産地分析X9	
IV-544	358	14	舟底形石器	59 61	J46 N46		107 7	53	169	40	(266.7)	黒曜石4		52620		
IV-545	358	15	舟底形石器	59	I47 J47	I	2 8	31	132	23	82.6	黒曜石3		52619		
IV-545	358	16	舟底形石器	60	K46		14	25	52	23	27.5	黒曜石1	423	1943		
IV-545	358	17	舟底形石器	59	J46		161	43	92	29	112.2	黒曜石1	423	1943		
IV-545	358	18	石刃核		J48	Ⅲ	1	36	49	51	85.4	黒曜石1				
IV-545	358	19	石核	60	L46		37	93	63	46	184.6	黒曜石1	413	1925		
IV-545	359	20	石刃核	60	M46		1	111	82	51	447.6	黒曜石5	422	1942		
IV-546	359	21	石核	60	L46		93	86	84	60	392.0	黒曜石1	415	1927		
IV-546	359	22	石刃核	58	K48		50	94	87	68	551.8	黒曜石5	416	1930		
IV-546	359	23	石刃核	60	K46		30	107	101	85	823.9	黒曜石1	419	1939		
IV-554	362	1	ナイフ形石器	61	O47		17	37	22	6	3.1	黒曜石1			水和層W20	
IV-554	362	2	ナイフ形石器	61	O47		52	36	23	6	3.5	黒曜石1				
IV-554	362	3	ナイフ形石器	61	P47		282	39	19	8	3.1	黒曜石1	409	1916		
IV-554	362	4	ナイフ形石器	61	O44		1	49	24	4	3.7	黒曜石2				
IV-554	362	5	ナイフ形石器	61	P44		66	47	23	8	5.4	黒曜石1				
IV-554	362	6	ナイフ形石器	61	O47		57	48	29	8	7.6	黒曜石1				
IV-554	362	7	ナイフ形石器	61	O47 O47 O47	I I I	13 7 16	30	32	7	6.1	黒曜石1		2790	水和層W21	
IV-554	362	8	ナイフ形石器	61	P44 P44		35 37	62	29	9	11.5	黒曜石1	412	51617		
IV-554	362	9	ナイフ形石器	61	P44 P44	I	34 1	93	29	7	12.7	黒曜石1	412	1922		
IV-554	362	10	ナイフ形石器		O47	I	1	63	17	7	3.8	黒曜石1				
IV-554	362	11	ナイフ形石器	61	O47		34	64	18	9	6.2	黒曜石1				
IV-554	362	12	ナイフ形石器	61	O46		33	68	27	7	8.6	黒曜石1				
IV-554	362	13	ナイフ形石器	61	P47		1	70	23	7	8.3	黒曜石1				
IV-554	362	14	ナイフ形石器		O47	I	2	71	30	8	10.2	黒曜石1				
IV-554	362	15	ナイフ形石器	61	P45		10	76	27	10	15.4	黒曜石1				
IV-554	362	16	ナイフ形石器	外	N28 P45	Ⅲ	165 1	89	35	11	24.0	黒曜石1		54241		
IV-555	362	17	ナイフ形石器	61	N47 O46 O47		5 60 24	90	30	9	16.8	黒曜石3		52531		
IV-555	362	18	ナイフ形石器	61	O46 O47		19 79	95	31	8	18.5	黒曜石1		52532		
IV-555	362	19	ナイフ形石器	61	N44 O43		3 14	99	35	11	25.0	黒曜石1		54242	水和層W19	
IV-555	362	20	ナイフ形石器	61	P44		11	(19)	(15)	(4)	(0.7)	黒曜石1				
IV-555	362	21	ナイフ形石器		P44	I	2	(48)	(32)	(7)	(8.8)	黒曜石1	407	1912		
IV-555	362	22	ナイフ形石器	61	P44		13	(56)	31	8	(10.1)	黒曜石1	412	1922		
IV-555	362	23	ナイフ形石器	61	P44 P44 P44		2 18 59	71	32	5	(7.0)	黒曜石1	412	1922		
IV-555	362	24	ナイフ形石器		P45	I	5	55	34	9	(14.9)	黒曜石1	412	1922		
IV-555	362	25	ナイフ形石器	61	O47		44	27	23	7	(4.5)	黒曜石1				
IV-555	362	26	ナイフ形石器	61	O47		42	(30)	(30)	(10)	(7.5)	黒曜石1				
IV-555	363	27	彫器		P46	I	1	40	24	8	7.0	頁岩				

掲載遺物一覧

挿図	図版	番号	器種名	石器ブロック	発掘区	層位	遺物番号	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	母岩番号	接合番号	備	考
IV-555	363	28	彫器	61	O47		58	67	29	9	15.3	黒曜石1				
IV-556	363	29	彫器	61	P47		281	77	34	10	22.8	黒曜石1				
IV-556	363	30	搔器	61	O47		59	61	28	6	7.9	黒曜石1				
IV-556	363	31	削器	61	O46		47	65	30	10	17.4	黒曜石1				
IV-556	363	32	二次加工ある剥片	61	N45		10	71	40	20	49.6	黒曜石1	412	1922		
IV-556	363	33	剥片 二次加工ある剥片 剥片	61	O44 P44 P44		17 52 54	100	46	12	(42.2)	黒曜石1	412	1922		
IV-556	363	34	舟底形石器	61	O43 排土		22 68	41	98	30	94.8	黒曜石4	429	1956		
IV-556	363	35	舟底形石器		O46 P43	I	1 33	39	150	30	115.6	黒曜石4		52617		
IV-557	363	36	舟底形石器	61	N45		1	59	212	46	435.7	黒曜石1				
IV-557	363	37	舟底形石器	61	O48		1	20	98	23	50.9	黒曜石1				
IV-557	364	38	剥片	61	O46 O46 N47 O46	II III	52 54 12 9	111	57	14	71.9	黒曜石1	412	1922		
IV-557	364	39	石刃核		N47	I	1	50	38	52	75.2	黒曜石1	407	1911		
IV-558	364	40	石刃核	61	N47		7	68	54	36	148.8	黒曜石1	407	1911		
IV-558	364	41	石核	61	O45		17	79	72	47	259.8	黒曜石1	412	1922		
IV-558	364	42	石核	61	Q45		5	103	97	88	800.7	黒曜石3		2739		
IV-565	366	1	尖頭器	外	R42		52	163	98	25	376.8	黒曜石5				
IV-565	366	2	ナイフ形石器	外	R42		16	42	19	8	4.4	黒曜石1				
IV-565	366	3	搔器		G61	I	1	54	23	11	13.8	黒曜石1				
IV-565	366	4	二次加工ある剥片	外	L21		427	92	67	18	68.0	黒曜石3	328	1658		
IV-565	366	5	舟底形石器	外	Q56		2	30	107	20	66.0	黒曜石3	399	1887		
IV-566	366	6	石刃核		G60	I	6	158	131	50	936.6	黒曜石1				
IV-567	367	1	尖頭器		七北22~59 七北22~59 七北60~65		119 120 24	281	88	24	(588.4)	黒曜石4		52450		
IV-567	367	2	尖頭器		七北60~65		2	(91)	(88)	(26)	(136.6)	黒曜石4	230	1364		
IV-567	367	3	尖頭器		七北22~59 七北22~59		13 22	(132)	39	13	(68.7)	黒曜石1		52448		
IV-568	367	4	尖頭器		七北22~59		118	128	54	15	115.8	珪岩				
IV-568	367	5	尖頭器		七北60~65		22	193	68	26	341.5	珪岩				
IV-568	368	6	両面調整石器		七北60~65		21	180	64	29	333.5	黒曜石4				
IV-568	368	7	細石刃核		七北22~59		3	29	22	9	5.4	黒曜石4				
IV-568	368	8	細石刃核		七北22~59		1	31	57	14	23.8	黒曜石1				
IV-568	368	9	細石刃核		七北22~59		2	24	54	18	20.6	黒曜石1				
IV-569	368	10	細石刃核		七南22~59		1	47	108	15	65.8	黒曜石1				
IV-569	368	11	細石刃核		七北22~59		4	24	62	14	21.8	黒曜石1				
IV-569	368	12	細石刃核削片		七北22~59		228	29	62	28	45.5	黒曜石1	260	1464		
IV-569	368	13	細石刃核削片		七北60~65		68	10	62	13	6.3	黒曜石5	155	1183		
IV-569	368	14	舟底形石器		七北22~59		55	25	73	20	23.5	黒曜石4				
IV-569	368	15	舟底形石器		七北22~59		44	29	89	20	41.2	黒曜石1				
IV-569	368	16	舟底形石器		七北22~59		51	32	91	25	63.5	黒曜石4				
IV-570	368	17	舟底形石器		七北22~59		52	38	115	32	130.3	黒曜石1				
IV-570	368	18	舟底形石器		七北22~59		46	19	(52)	(18)	(17.1)	黒曜石4	275	1521		
IV-570	368	19	舟底形石器		七北22~59		43	23	(66)	(19)	(26.3)	黒曜石1				
IV-570	369	20	舟底形石器		七北22~59		38	25	(83)	(17)	(28.5)	黒曜石1				
IV-570	369	21	舟底形石器		七北22~59		40	28	(88)	25	(49.5)	黒曜石1				
IV-570	369	22	舟底形石器		七北22~59		50	(35)	(92)	(21)	(65.2)	黒曜石1				
IV-570	369	23	舟底形石器		七北22~59		49	(33)	(101)	27	(68.3)	黒曜石4				
IV-571	369	24	舟底形石器		七北22~59		48	34	113	23	78.4	黒曜石1				
IV-571	369	25	舟底形石器		七北22~59		56	42	137	36	166.8	黒曜石3				
IV-571	369	26	舟底形石器		七南60~65		7	51	176	35	274.7	黒曜石1				
IV-572	369	27	舟底形石器		七北22~59		47	(46)	(60)	(21)	(53.4)	黒曜石1				
IV-572	369	28	舟底形石器		七南22~59		13	(29)	(57)	(20)	(30.7)	黒曜石5				
IV-572	370	29	彫器		七北22~59		179	(50)	16	(6)	(3.7)	黒曜石1				

上白滝8遺跡

挿図	図版	番号	器種名	石器ブロック	発掘区	層位	遺物番号	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	母岩番号	接合番号	備	考
IV-572	370	30	彫器		七前2~59		61	45	31	9	11.9	頁岩				
IV-572	370	31	彫器		七前2~59		7	61	29	14	27.9	黒曜石1				
IV-572	370	32	つまみ付きナイフ		七北2~59		37	72	41	8	10.9	黒曜石1				
IV-572	370	33	石刃核		七北60~65		59	66	44	44	98.6	黒曜石4	446	2008		
IV-572	370	34	石刃核		七北2~59		110	85	44	24	81.6	黒曜石4	405	1903		
IV-573	370	35	石刃核		七北2~59		116	91	70	57	277.3	黒曜石3	447	2014		
IV-573	370	36	石刃核		掛土		62	131	74	63	620.0	黒曜石5	393	1878		
IV-573	370	37	石核		七前2~59		22	66	82	51	254.1	黒曜石1	298	1585		
IV-574	370	38	石核		七前60~65		23	94	94	62	605.4	黒曜石1	198	1271		
IV-574	371	39	石核		七前60~65		13	167	126	59	1,135.2	黒曜石5		2712		
IV-575	371	40	石核		七北60~65		65	85	95	53	422.0	黒曜石4	159	1189		
IV-575	371	41	石核		ボヤ		4	296	124	70	1,223.0	黒曜石3	196	1269		
IV-576	372	1	尖頭器	斜面	I69	下	3	(85)	33	18	(35.3)	黒曜石1				
IV-576	372	2	尖頭器	斜面	K73	I	9	142	58	18	(100.9)	黒曜石1	130	1115		
IV-576	372	3	尖頭器	斜面	J69	上	6	(34)	(42)	(11)	(13.5)	黒曜石1				
IV-576	372	4	尖頭器	斜面	I69	下	4	(64)	37	(11)	(23.7)	黒曜石1				
IV-576	372	5	尖頭器	斜面	O71	上	1	(70)	40	13	(30.0)	黒曜石1				
IV-576	372	6	尖頭器	斜面	K74	上	3	(49)	32	(9)	(15.6)	黒曜石1				
IV-576	372	7	尖頭器	斜面	I68	下	3	(63)	(47)	(14)	(30.3)	黒曜石1				
IV-576	372	8	尖頭器	斜面	H68	I	3	(67)	(47)	(16)	(45.2)	黒曜石1				
IV-576	372	9	尖頭器	斜面	K73	上	8	(88)	(41)	(21)	(56.0)	黒曜石4				
IV-576	372	10	尖頭器	斜面	J69	上	8	(73)	57	12	(46.6)	黒曜石1				
IV-576	372	11	尖頭器	斜面	L68	下	2	(61)	(50)	(12)	(32.9)	黒曜石1				
IV-577	372	12	両面調整石器	斜面	R66	下	5	150	61	30	261.4	黒曜石1				
IV-577	373	13	細石刃	斜面	M75	下	1	22	5	2	0.2	黒曜石1				
IV-577	373	14	細石刃	斜面	I69	下	1	26	6	2	0.1	黒曜石1				
IV-577	373	15	細石刃	斜面	M68	下	1	32	6	2	0.3	黒曜石1				
IV-577	373	16	細石刃	斜面	J69	下	1	27	7	2	0.3	黒曜石1				
IV-577	373	17	細石刃	斜面	N70	上	1	31	7	3	0.4	黒曜石1				
IV-577	373	18	細石刃	斜面	L72	上	1	38	7	2	0.4	黒曜石1				
IV-577	373	19	細石刃	斜面	P69	下	1	28	10	2	0.3	黒曜石1				
IV-577	373	20	細石刃	斜面	J74	I	3	(25)	7	2	(0.2)	黒曜石3				
IV-577	373	21	細石刃	斜面	K73	上	27	(18)	9	2	(0.2)	黒曜石1				
IV-577	373	22	細石刃	斜面	K73	上	1	(25)	(8)	2	(0.3)	黒曜石1				
IV-577	373	23	細石刃	斜面	K73	上	33	(27)	8	2	(0.4)	黒曜石1				
IV-577	373	24	細石刃	斜面	K71	上	2	(29)	8	3	0.3	黒曜石1				
IV-577	373	25	細石刃	斜面	K73	上	2	(30)	(9)	(1)	(0.3)	黒曜石1				
IV-577	373	26	細石刃	斜面	K71	上	3	(22)	(15)	(3)	(0.3)	黒曜石1				
IV-577	373	27	細石刃	斜面	N67	上	1	(23)	(9)	(2)	(0.4)	黒曜石1				
IV-577	373	28	細石刃	斜面	K69	上	1	(23)	(9)	(2)	(0.5)	黒曜石1				
IV-577	373	29	細石刃核	斜面	K74	下	2	30	44	14	17.5	黒曜石1				
IV-577	373	30	細石刃核	斜面	Q78	下	2	29	63	14	19.7	黒曜石1				
IV-577	373	31	細石刃核	斜面	K73	上	3	31	60	11	21.8	黒曜石1				
IV-577	373	32	細石刃核	斜面	H73	下	1	25	49	18	17.1	黒曜石1				
IV-577	373	33	細石刃核	斜面	Q78	上	1	32	48	21	30.4	黒曜石4				
IV-577	373	34	細石刃核	斜面	S72	上	3	32	86	24	74.6	黒曜石1				
IV-577	373	35	細石刃核	斜面	J69	下	3	35	76	26	69.6	黒曜石1			水和層H137	
IV-577	373	36	細石刃核	斜面	K72	下	1	36	16	14	5.8	黒曜石5				
IV-577	373	37	細石刃核	斜面	K74	上	1	57	40	18	39.3	黒曜石1			水和層H138	
IV-578	373	38	細石刃核	斜面	N70	I	5	29	78	20	(40.4)	黒曜石1		54094		
				斜面	N70	上	2									
IV-578	373	39	細石刃核	斜面	N67	上	12	29	75	24	50.7	黒曜石5				
IV-578	373	40	細石刃核	斜面	L74	上	2	43	76	25	81.3	黒曜石1				
IV-578	373	41	細石刃核	斜面	N67	下	2	37	61	19	32.8	黒曜石1				
IV-578	373	42	細石刃核	斜面	O73	下	1	39	111	26	101.8	黒曜石1				
IV-578	374	43	細石刃核	斜面	N68	下	1	35	48	17	21.7	黒曜石1				
IV-578	374	44	細石刃核	斜面	L73	上	1	37	75	23	55.6	黒曜石1				
IV-578	374	45	細石刃核	斜面	L74	上	1	41	101	24	81.1	黒曜石1		2636		
IV-578	374	46	細石刃核	斜面	L68	下	1	58	95	37	184.7	黒曜石1				
IV-579	374	47	細石刃核削片	斜面	R66	上	6	27	45	8	8.6	黒曜石1		2748		

掲載遺物一覧

挿図	図版	番号	器種名	石器ブロック	発掘区	層位	遺物番号	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	母岩番号	接合番号	備	考
IV-579	374	48	細石刃核削片	斜面	K73	I	4	(38)	(70)	23	(48.9)	黒曜石1		2657		
IV-579	374	49	細石刃核削片	斜面	L74	上	3	14	77	42	38.8	黒曜石1				
IV-579	374	50	細石刃核削片	斜面	K70	上	1	(26)	(67)	(41)	(78.3)	黒曜石1				
IV-579	374	51	細石刃核削片	斜面	N71	上	15	21	98	35	39.3	黒曜石5		2649		
IV-579	374	52	細石刃核削片	斜面	K70	上	2	(23)	(64)	(24)	(24.8)	黒曜石1		2636	水と層H139	
IV-579	374	53	細石刃核削片	斜面	O72	下	1	(26)	(63)	48	(88.7)	黒曜石1				
IV-579	374	54	細石刃核削片	斜面	N66	上	1	(26)	(85)	(29)	(50.8)	黒曜石5		2649		
IV-580	374	55	舟底形石器	斜面	H68	下	8	21	73	15	18.1	黒曜石3				
IV-580	374	56	舟底形石器	斜面	K74	上	6	42	110	26	115.4	黒曜石3				
IV-580	375	57	舟底形石器	斜面	R67	上	3	47	99	40	170.6	黒曜石1				
IV-580	375	58	舟底形石器	斜面	G75	上	3	60	136	48	349.9	黒曜石1				
IV-581	375	59	舟底形石器	斜面	J74	下	1	45	146	23	149.9	黒曜石5				
IV-581	375	60	舟底形石器	斜面	S72	上	14	47	157	38	262.6	黒曜石3				
IV-581	375	61	舟底形石器	斜面	S72	上	1	44	155	30	209.5	黒曜石1				
IV-582	375	62	舟底形石器	斜面	M68 N67	上 上	2 10	34	183	24	(152.8)	黒曜石4	184	1243		
IV-582	376	63	舟底形石器	斜面	N66 不明	I 不明	2 不明	36	199	24	157.0	黒曜石4	184	1243		
IV-582	376	64	舟底形石器	斜面	K71	上	1	52	112	46	296.3	黒曜石1				
IV-583	376	65	舟底形石器	斜面	N77	上	3	42	91	28	86.1	黒曜石1				
IV-583	376	66	舟底形石器	斜面	N74	下	3	(15)	(49)	(21)	(10.7)	黒曜石1				
IV-583	376	67	舟底形石器	斜面	N67	I	11	(39)	(117)	46	(159.0)	黒曜石1				
IV-583	376	68	ナイフ形石器	斜面	J69	上	9	44	21	8	4.8	黒曜石1				
IV-583	376	69	ナイフ形石器	斜面	H68	下	4	39	29	8	4.2	黒曜石1				
IV-583	376	70	彫器	斜面	J76	下	1	88	37	13	34.2	黒曜石1				
IV-583	376	71	彫器	斜面	I73	下	2	46	19	9	8.3	黒曜石3				
IV-583	376	72	彫器	斜面	K73	上	11	96	37	13	34.2	黒曜石1				
IV-583	376	73	彫器	斜面	H74	上	4	95	29	10	26.3	黒曜石1				
IV-584	376	74	搔器	斜面	H68	上	5	57	22	12	9.6	黒曜石1				
IV-584	376	75	搔器	斜面	Q67	下	1	57	27	12	14.0	黒曜石1				
IV-584	376	76	搔器	斜面	H75	下	2	46	28	9	12.4	黒曜石1				
IV-584	377	77	搔器	斜面	K69	上	2	85	24	12	22.0	黒曜石4				
IV-584	377	78	搔器	斜面	K74	上	5	91	38	18	31.4	黒曜石1				
IV-584	377	79	搔器	斜面	H75	下	5	96	36	10	35.4	黒曜石1				
IV-584	377	80	搔器	斜面	M73	下	1	122	33	15	41.7	黒曜石4				
IV-584	377	81	搔器	斜面	K74	上	4	(37)	(38)	(7)	(9.7)	黒曜石1				
IV-584	377	82	搔器	斜面	K68	I	1	(72)	42	(14)	(33.2)	黒曜石4				
IV-584	377	83	搔器	斜面	N74	下	2	(56)	27	10	(15.6)	黒曜石4				
IV-584	377	84	搔器	斜面	I70	上	1	88	49	15	67.6	黒曜石1				
IV-584	377	85	搔器	斜面	N74	上	1	85	56	16	(61.6)	黒曜石2				
IV-585	377	86	錐形石器	斜面	K73	下	12	69	28	12	18.2	黒曜石1				
IV-585	377	87	削器	斜面	O76	下	3	82	20	6	9.8	黒曜石4				
IV-585	377	88	削器	斜面	K74 M72	上 上	22 1	170	38	13	80.3	真岩		52538		
IV-585	377	89	削器	斜面	L68 L68	上 下	3 4	230	42	16	121.9	黒曜石1		52535		
IV-585	377	90	削器	斜面	Q70	上	2	(95)	(38)	(12)	(38.4)	黒曜石1	195	1267		
IV-585	378	91	削器	斜面	J69	上	28	(59)	(56)	(24)	(75.5)	黒曜石4				
IV-585	378	92	削器	斜面	K74	上	20	(116)	(53)	(14)	(75.3)	黒曜石5				
IV-586	378	93	削器	斜面	H68	下	6	109	43	11	40.0	黒曜石5				
IV-586	378	94	削器	斜面	I77	下	2	177	60	32	298.9	黒曜石1				
IV-586	378	95	削器	斜面	R72	上	4	223	58	21	202.8	黒曜石1				
IV-586	378	96	削器	斜面	R72 R72	上 上	3 5	223	51	21	(169.9)	黒曜石1		52534		
IV-587	379	97	削器	斜面	K70	上	3	132	84	23	192.6	黒曜石1	103	1009		
IV-587	379	98	石刃	斜面	K73	下	13	89	29	12	22.7	黒曜石1				
IV-587	379	99	石刃	斜面	R73	上	2	141	45	18	72.9	黒曜石1				
IV-587	379	100	石刃	斜面	R69	下	2	189	58	29	235.6	黒曜石1	195	1267		
IV-587	379	101	石刃	斜面	Q67	下	7	162	45	14	83.4	黒曜石1	195	1267		
IV-588	379	102	石刃	斜面	R66	下	10	187	71	28	(182.4)	黒曜石1	195	1267		

上白滝 8 遺跡

挿図	図版	番号	器種名	石器アロク	発掘区	層位	遺物番号	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	母岩番号	接合番号	備	考
					R66	下	11									
					R66	下	12									
IV-588	380	103	石刃	斜面	L68	下	18	(131)	42	12	(59.8)	黒曜石1				
IV-588	380	104	石刃	斜面	L68	上	15	(127)	(45)	(12)	(54.6)	黒曜石4				
IV-588	380	105	石刃	斜面	M76	下	1	(153)	45	(11)	(69.6)	黒曜石4				
IV-588	380	106	石刃	斜面	J69	上	23	(105)	55	(17)	(72.7)	黒曜石3	435	2785		
IV-588	380	107	石刃	斜面	J69	下	25	(107)	(55)	(17)	(62.3)	黒曜石1				
IV-589	380	108	石刃	斜面	J69	下	26	(122)	(58)	(15)	(81.1)	黒曜石1				
IV-589	380	109	石刃	斜面	J69	上	24	(131)	78	22	(136.2)	黒曜石3	435	1965		
IV-589	381	110	石刃	斜面	L69	上	5	128	52	48	135.8	黒曜石4	143	1147		
IV-589	381	111	石刃	斜面	L68	上	16	(98)	31	12	(29.0)	黒曜石4				
IV-589	381	112	石刃	斜面	M69	上	3	(138)	43	(18)	(85.9)	黒曜石4	143	1148		
IV-589	381	113	石刃	斜面	L68	上	17	(187)	47	(16)	(109.0)	黒曜石1				
IV-590	381	114	剥片	斜面	K69	上	8	137	77	19	171.3	黒曜石3	435	2785		
IV-590	382	115	石刃核	斜面	R66	上	4	183	177	82	2,577.7	黒曜石5	238	1398		
IV-591	381	116	石刃核	斜面	Q68	上	2	139	120	59	1,056.8	黒曜石5	246	1416		
IV-591	383	117	石刃核	斜面	P72	下	5	142	148	80	1,936.9	黒曜石4				
IV-592	383	118	石刃核	斜面	R68	I	1	122	94	59	602.6	黒曜石3	187	1250		
IV-592	383	119	石刃核	斜面	I75	I	4	95	56	30	144.4	黒曜石1				
IV-592	383	120	石刃核	斜面	K74	I	25	111	72	36	311.2	黒曜石1				
IV-593	384	121	石刃核	斜面	N73	下	8	142	108	49	827.4	黒曜石4				
IV-593	384	122	石核	斜面	N68	I	14	129	117	61	862.5	黒曜石5		2714		
IV-594	385	123	石刃核	斜面	O70	I	1	193	170	82	2,134.2	黒曜石5	160	1190		
IV-594	384	124	石刃核	斜面	M66	上	2	104	87	32	313.1	黒曜石5	156	1185		
IV-601	386	1	石鏃		R85	I	1	(19)	(18)	3	(1.0)	黒曜石1				

表 3 上白滝 8 遺跡掲載接合資料一覧

挿図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO	挿図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO					
IV-48	71	40	接合資料	1				254.0	7	1	6	6				剥片	1	H66		399	52.6		1							
			剥片	1	H66		303	10.9		1						-	71	71	縦長剥片	1	H66		431	13.9		1				
			剥片	1	H66		453	15.0		1						-	71	69	縦長剥片	1	H66		432	29.6		1				
			剥片	1	H66		465	24.8		1									剥片	1	H66		434	5.9		1				
			剥片	1	H66		469	9.4		1									剥片	1	H66		440	28.8		1				
			剥片	1	H67		228	14.7		1									剥片	1	H66		449	10.3		1				
			剥片	1	I67		17	48.9		1						IV-42	70	34	石核	1	H66		485	55.0		1				
IV-40	69	23	石核	1	I67		162	130.3		1									剥片	1	H66		486	5.9		1				
IV-48	72	41	接合資料	3				430.1	13	1	17	34				-	71	68	縦長剥片	1	H66		496	25.3		1				
			剥片		I66	II	65	2.9		1									剥片	1	H66		507	60.3		1				
			剥片	3	J65		1	20.0		1									剥片	1	H66		509	47.9		1				
			剥片	3	K66	I	9	30.9		1									剥片	1	H66		521	28.3		1				
			剥片	3	J65		336	24.1		1									剥片	1	H66		524	34.6		1				
			剥片	3	J69	下	29	23.9		1									剥片		H66	II	90	3.0		1				
			剥片	3	J65		421	4.7		1									剥片		H66	III	87	4.7		1				
			剥片	3	J65		941	2.0		1									剥片		H66	III	89	0.8		1				
IV-37	68	6	二次加工ある剥片	3	J65		954	3.9		1									剥片	1	H67		210	4.3		1				
IV-37	68	5	二次加工ある剥片	3	J65		1197	9.1		1									剥片	1	H67		361	19.4		1				
			剥片	3	J66		4	15.9		1									剥片	1	H67		836	5.5		1				
IV-40	69	26	石核	3	J66		19	254.3		1									剥片	1	H67		594	65.8		1				
			剥片	3	J66		57	1.1		1									剥片	1	H67		683	4.8		1				
IV-38	68	15	石核	3	J66		88	37.3		1									剥片	1	H67		963	12.8		1				
IV-49	71	43	接合資料	1				716.6	37	1	1	1				-	71	70	縦長剥片	1	H67		964	2.2		1				
			縦長剥片	1	H66		39	6.9		1									剥片	1	H67		967	7.5		1				
			剥片	1	H66		45	6.9		1									剥片	1	H67		1269	27.2		1				
			剥片	1	H66		122	22.4		1									剥片		H67	II	126	46.7		1				
			剥片	1	H66		171	3.7		1									剥片		不明	不明	1.4		1					
			剥片	1	H66		174	4.2		1									剥片		不明	不明	8.1		1					
			縦長剥片	1	H66		184	5.5		1									IV-50	72	45	接合資料	1			948.4	37	1	4	4
			剥片	1	H66		348	8.0		1										剥片	1	H66		73	6.7		1			
			剥片	1	H66		351	20.0		1										剥片	1	H66		129	8.1		1			
			剥片	1	H66		374	26.4		1										剥片	1	H66		131	7.1		1			

掲載遺物一覧

挿図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
				1	H66		263	16.0		1		
				1	H66		356	52.7		1		
			剥片	1	H66		119	5.8		1		
-	72	75	縦長剥片	1	H66		135	1.8		1		
			剥片	1	H66		236	29.7		1		
			剥片	1	H66		247	9.5		1		
IV-42	70	35	石核	1	H66		258	114.6		1		
			剥片	1	H66		268	25.7		1		
			剥片	1	H66		275	3.8		1		
			剥片	1	H66		296	24.0		1		
			剥片	1	H66		328	15.0		1		
			剥片	1	H66		332	10.2		1		
IV-37	68	10	二次加工ある剥片	1	H66		349	15.0		1		
			剥片	1	H66		358	10.5		1		
			剥片	1	H66		365	4.0		1		
			剥片	1	H66		437	18.9		1		
			剥片	1	H66		375	3.6		1		
			剥片	1	H66		395	12.8		1		
			剥片	1	H66		433	3.1		1		
			剥片	1	H66		454	6.9		1		
			剥片	1	H66		458	12.8		1		
			剥片	1	H66		497	36.2		1		
			剥片	1	H66		498	14.9		1		
			剥片	1	H66	II	65	5.2		1		
-	72	74	縦長剥片	1	H67		116	5.2		1		
			剥片	1	H67		227	7.2		1		
			剥片	1	H67		328	4.2		1		
			剥片	1	H67	I	113	15.3		1		
			剥片	1	I65	I	106	4.4		1		
			剥片	1	I66		191	277.0		1		
			剥片	1	I66	II	51	2.9		1		
			剥片	1	I67		119	15.9		1		
			剥片	1	I67		179	115.1		1		
			剥片	1	I67		227	26.6		1		
IV-51	73	47	接合資料	1				1,533.4	30	1	2	2
			剥片	1	H66		178	49.0		1		
			剥片	1	H66		223	21.6		1		
			剥片	1	H66		252	22.4		1		
			剥片	1	H66		319	11.7		1		
			剥片	1	H66		251	13.4		1		
IV-37	68	7	二次加工ある剥片	1	H66		270	8.1		1		
			剥片	1	H66		293	9.8		1		
			剥片	1	H66		455	8.3		1		
			剥片	1	H66		322	10.6		1		
			剥片	1	H66		353	64.6		1		
			剥片	1	H66		385	50.3		1		
			剥片	1	H66		396	40.9		1		
			剥片	1	H66		421	6.7		1		
			剥片	1	H66		427	98.4		1		
			剥片	1	I66		173	156.3		1		
			剥片	1	I66		206	36.0		1		
			剥片	1	I66		211	5.3		1		
			剥片	1	I66		218	101.3		1		
			剥片	1	H66		468	28.6		1		
			剥片	1	H66		473	20.6		1		
			剥片	1	H66		512	6.5		1		
			剥片	1	H67		852	7.5		1		
			剥片	1	H66		525	55.8		1		
			剥片	1	H67		970	140.2		1		
			剥片	1	I67		281	33.8		1		

挿図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
			剥片	1	I66		176	39.1		1		
			剥片	1	I66		182	11.5		1		
			剥片	1	I66		204	149.0		1		
			剥片	1	I66		196	183.0		1		
			剥片	1	I67		191	143.1		1		
IV-52	73	49	接合資料	1				1,514.1	89	1	5	5
			剥片	1	H66		20	3.7		1		
			剥片	1	H66		21	5.6		1		
			剥片	1	H66	III	84	1.0		1		
			剥片	1	H66		100	292.7		1		
			剥片	1	H66	III	91	0.8		1		
			剥片	1	H66		101	5.5		1		
-	73	77	縦長剥片	1	H66		124	3.1		1		
			剥片	1	H66		155	8.4		1		
			剥片	1	H66		168	10.8		1		
			剥片	1	H66		173	9.7		1		
			剥片	1	H66		179	25.0		1		
			剥片	1	H66	III	85	0.6		1		
			剥片	1	H66		206	3.2		1		
			剥片	1	H66		239	49.6		1		
			剥片	1	I67	I	14	9.3		1		
			剥片	1	H66		240	2.7		1		
			剥片	1	H67	I	59	20.7		1		
			剥片	1	H66		245	4.9		1		
			剥片	1	H66	I	16	2.8		1		
			剥片	1	H67		81	9.2		1		
			剥片	1	H66		248	9.3		1		
			剥片	1	H66		256	15.7		1		
			剥片	1	H66		307	49.0		1		
			剥片	1	H66		308	4.9		1		
			剥片	1	H66	I	17	1.8		1		
			剥片	1	I66	II	54	1.5		1		
			剥片	1	H66		338	34.4		1		
			剥片	1	H66		350	9.1		1		
			剥片	1	H66		366	4.6		1		
			剥片	1	H66		368	41.3		1		
			剥片	1	H66		369	26.7		1		
			剥片	1	H66		370	100.0		1		
			剥片	1	H67		349	32.5		1		
			剥片	1	H66		392	11.5		1		
			剥片	1	H66		402	3.7		1		
			剥片	1	H66		414	6.9		1		
			剥片	1	H66	III	83	3.0		1		
			剥片	1	H66		425	12.9		1		
			剥片	1	H67		1257	19.4		1		
			剥片	1	H66		441	8.6		1		
			剥片	1	H66		451	22.3		1		
			剥片	1	H66	II	72	0.8		1		
			剥片	1	H66		474	1.7		1		
			剥片	1	H66		484	16.5		1		
			剥片	1	H67		1093	7.0		1		
			剥片	1	H66		489	25.9		1		
			剥片	1	H66		517	21.0		1		
			剥片	1	H66		520	14.0		1		
			剥片	1	H66	I	48	1.6		1		
			剥片	1	H66	II	63	5.8		1		
			剥片	1	H66	II	71	0.5		1		
			剥片	1	H67		99	5.1		1		
			剥片	1	H66	III	77	0.5		1		
			剥片	1	H66	III	79	1.7		1		

上白滝8遺跡

種図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
			剥片		H66	Ⅲ	80	0.9		1		
					I66	Ⅱ	55	0.4		1		
			剥片		H66	Ⅲ	82	2.8		1		
			剥片		H66	Ⅲ	92	0.8		1		
			剥片	1	H67		1	6.4		1		
			剥片	1	H67		209	9.3		1		
			剥片	1	H67		222	7.4		1		
			剥片	1	H67		226	3.3		1		
				1	I66		156	1.8		1		
			剥片	1	H67		350	2.1		1		
			剥片	1	H67		484	17.8		1		
				1	H67		1163	3.8		1		
				1	I66		164	30.0		1		
					I66	Ⅱ	50	1.4		1		
			剥片	1	H67		858	19.5		1		
			剥片	1	H67		887	40.4		1		
IV-42	70	36	石核	1	H67		979	106.1		1		
			剥片		H67	I	34	0.9		1		
			剥片		H67	I	63	2.3		1		
					I66	Ⅱ	45	1.5		1		
			剥片		H67	Ⅱ	117	42.1		1		
					H67	Ⅱ	119	7.1		1		
			剥片	1	I66		223	21.1		1		
			剥片	1	I66		224	6.8		1		
			剥片	1	I66		250	1.9		1		
			剥片		I66	Ⅱ	73	0.5		1		
			剥片		I66	Ⅲ	60	3.3		1		
			剥片	1	I67		188	27.3		1		
-	73	76	縦長剥片	1	I67		189	2.9		1		
			剥片	1	I67		190	33.3		1		
			剥片	1	I67		218	42.3		1		
			剥片	1	I67		285	38.1		1		
			剥片		I67	I	11	14.2		1		
			剥片		I67	I	13	4.1		1		
			剥片		M67	下	15	19.7		1		
IV-55	74	54	接合資料	1				4,524.4	116	1	47	337
			剥片	1	H66		1	11.4		1		
			剥片	1	H66		65	27.0		1		
				1	H66		408	52.7		1		
				1	H66		418	5.3		1		
				1	I66		184	21.0		1		
				1	I66		240	8.5		1		
				1	I67		20	11.4		1		
			剥片	1	H66		71	7.6		1		
			剥片	1	H66		72	39.7		1		
				1	H66		185	16.7		1		
				1	H66		359	25.8		1		
				1	H66		362	63.6		1		
					H66	I	50	65.1		1		
			剥片	1	H66		75	11.1		1		
			剥片	1	H66		118	8.1		1		
			剥片	1	H66		120	13.1		1		
			剥片	1	H66		121	23.0		1		
			剥片	1	H66		136	35.0		1		
			剥片	1	H66		176	46.2		1		
				1	H66		183	6.3		1		
				1	H66		261	41.5		1		
				1	H66		354	15.2		1		
				1	H66		416	71.1		1		
				1	I66		207	249.4		1		

種図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
			剥片	1	H66		186	26.0		1		
				1	I66		253	9.1		1		
				1	I67		266	147.2		1		
			剥片	1	H66		202	12.4		1		
			剥片	1	H66		207	4.6		1		
			剥片	1	H66		226	17.3		1		
			剥片	1	H66		231	13.7		1		
			剥片	1	H66		260	5.1		1		
			剥片	1	H66		269	89.1		1		
			剥片	1	H66		271	18.8		1		
			剥片	1	H66		283	22.2		1		
			剥片	1	H66		284	4.8		1		
IV-43	70	38	石核	1	H66		286	149.6		1		
			剥片	1	H66		290	32.8		1		
			剥片	1	H66		291	31.3		1		
			剥片	1	H66		294	11.2		1		
			剥片	1	H66		320	32.2		1		
			剥片	1	H66		326	30.6		1		
			剥片	1	H66		330	10.2		1		
			剥片	1	H66		355	35.0		1		
			剥片	1	H66		357	13.3		1		
			剥片	1	H66		363	18.7		1		
			剥片	1	H66		367	27.3		1		
				1	H66		426	120.2		1		
				1	H66		438	6.5		1		
			剥片	1	H66		378	28.4		1		
			剥片	1	H66		383	18.1		1		
					H67	I	109	14.6		1		
			剥片	1	H66		387	9.8		1		
			剥片	1	H66		388	7.5		1		
			剥片	1	H66		397	30.7		1		
			剥片	1	H66		398	6.0		1		
			剥片	1	H66		409	14.8		1		
			剥片	1	H66		412	5.4		1		
			剥片	1	H66		413	14.1		1		
			剥片	1	H66		423	8.9		1		
			剥片	1	H66		429	5.4		1		
			剥片	1	H66		459	15.9		1		
			剥片	1	H66		461	6.8		1		
			剥片	1	H66		464	21.7		1		
			剥片	1	H66		466	8.4		1		
			剥片	1	H66		470	37.2		1		
			剥片	1	H66		475	3.6		1		
			剥片	1	H66		508	26.3		1		
			剥片	1	H66		510	23.1		1		
			剥片	1	H66		513	4.6		1		
			剥片	1	H66		514	12.2		1		
			剥片	1	H66		515	4.4		1		
			剥片	1	H66		516	16.4		1		
			剥片	1	H66		519	13.8		1		
			剥片	1	H66		533	6.2		1		
			剥片		H66	Ⅱ	68	1.7		1		
			剥片	1	H67		86	17.4		1		
			剥片	1	H67		354	5.5		1		
			剥片	1	H67		478	8.1		1		
			剥片	1	I66		121	5.1		1		
			剥片	1	I66		150	9.6		1		
			剥片	1	I66		153	14.6		1		
			剥片	1	I66		157	14.6		1		
IV-39	69	21	石核	1	I66		160	77.9		1		

掲載遺物一覧

挿図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
			剥片	1	I66		161	2.9		1		
IV-39	69	20	石核	1	I66		163	78.8		1		
			剥片	1	I66		180	17.2		1		
			剥片	1	I66		181	22.6		1		
			剥片	1	I66		199	15.6		1		
			剥片	1	I66		183	64.5		1		
			剥片	1	I66		200	4.7		1		
			剥片	1	I66		202	6.7		1		
			剥片	1	I66		215	22.4		1		
			剥片	1	I66		203	222.7		1		
			剥片	1	I66		205	131.6		1		
			剥片	1	I66		209	5.7		1		
			剥片	1	I66		214	28.7		1		
			剥片	1	I66		217	21.5		1		
			剥片	1	I66		232	56.9		1		
			剥片	1	I66		231	416.1		1		
IV-37	68	12	掻器	1	I66		234	243.3		1		
			剥片	1	I66		239	52.6		1		
			剥片	1	I66		259	69.8		1		
			剥片	1	I66		246	35.8		1		
			剥片	1	I66		247	214.9		1		
			剥片	1	I66		248	7.2		1		
			剥片	1	I66	II	56	1.7		1		
			剥片	1	I67		228	6.9		1		
			剥片	1	I66	II	57	3.7		1		
IV-38	69	17	石核	1	I67		158	284.0		1		
			剥片	1	I67		193	32.5		1		
			剥片	1	I67		215	3.3		1		
			剥片	1	I67		236	12.3		1		
			剥片	1	I67		237	125.4		1		
			剥片	1	I67		267	12.0		1		
			剥片	1	I67		269	16.6		1		
IV-60	75	59	接合資料	1・3				1,496.2	39	1	3	3
			剥片	1	H66		141	308.5		1		
			剥片	1	H66		232	5.0		1		
			剥片	1	H66		318	12.8		1		
			剥片	1	H66		352	179.6		1		
			剥片	1	H66		415	9.2		1		
			剥片	1	H66		472	26.3		1		
			剥片	1	H66		522	307.5		1		
			剥片	1	I66		146	6.0		1		
			剥片	1	I66		154	3.2		1		
			剥片	3	I66		159	10.3		1		
			剥片	1	I66		179	16.8		1		
			剥片	1	I66		187	13.0		1		
			剥片	1	I66		185	6.8		1		
			剥片	1	I66		186	19.0		1		
			剥片	1	I66		190	42.0		1		
			剥片	斜	I68	I	12	24.9		1		
			剥片	1	I66		194	7.3		1		
			剥片	1	I66		212	19.5		1		
			剥片	1	I66		233	16.2		1		
			剥片	1	I66		235	10.1		1		
			剥片	1	I66		237	10.9		1		
			剥片	1	I66		238	26.8		1		
			剥片	1	I66		241	12.5		1		
			剥片	1	I66		242	6.4		1		
			剥片	1	I66		254	8.8		1		
			剥片	1	I67		270	11.2		1		
			剥片	1	I66		258	4.1		1		

挿図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
			剥片		I66	III	58	5.6		1		
			剥片		I66	III	59	4.1		1		
-	75	79	縦長剥片		I66	III	62	4.8		1		
			剥片	1	I67		19	12.0		1		
			剥片	1	I67		93	22.1		1		
			剥片	1	I67		141	24.1		1		
			剥片	1	I67		147	3.5		1		
			剥片	1	I67		150	264.6		1		
-	75	78	縦長剥片	1	I67		194	2.3		1		
			剥片	1	I67		235	14.1		1		
			剥片	1	I67		254	11.6		1		
			剥片		I67	I	16	2.7		1		
IV-61	76	61	接合資料	1				336.1	17	1	7	7
			剥片	1	H66		463	10.5		1		
			剥片	1	H66		492	8.1		1		
			剥片	1	H67		36	23.2		1		
			剥片	1	H67		676	24.4		1		
			剥片	1	I66		90	7.9		1		
			剥片	1	I66		220	21.3		1		
			剥片	1	I66		221	17.3		1		
			剥片	1	I66		249	14.3		1		
			剥片		I66	III	61	0.8		1		
			剥片	1	I67		83	23.2		1		
			剥片	1	I67		229	55.6		1		
IV-42	70	37	石核	1	I67		268	101.6		1		
			剥片	1	I67		286	4.1		1		
			剥片	1	I67		289	1.6		1		
			剥片	1	I67		288	3.9		1		
			剥片	斜	I68	上	13	12.8		1		
			剥片	斜	I68	上	14	5.5		1		
IV-62	77	62	接合資料	1・2				3,054.9	12	1・5	9	11
IV-38	68	16	石核	2	H64		67	243.6		5		
IV-38	69	19	石核	2	H65		33	189.7		1		
			剥片		H65	I	72	35.1		1		
			剥片	1	H66		400	301.8		1		
IV-37	68	11	二次加工ある剥片	1	H67		722	313.1		5		
-	76	80	縦長剥片	1	H67		1258	11.1		5		
IV-43	70	39	石核		H67	I	78	784.8		1		
IV-39	69	22	石核		H67	I	79	869.0		1		
			剥片		H67	I	81	13.4		5		
			剥片		H67	I	93	5.1		5		
			剥片	2	I63		46	7.5		5		
			剥片	斜	M71	I	5	280.7		5		
IV-65	78	81	接合資料	1・2・3				3,014.0	113	1	8	8
IV-40	70	27	石核	2	H64		121	1,471.8		1		
			剥片	2	H64	II	129	3.6		1		
			剥片	2	H64		173	25.8		1		
			剥片	2	H64		181	11.1		1		
			剥片	2	H64		182	47.6		1		
			剥片		H64	北60 ~65	34	29.7		1		
-	79	83	縦長剥片	2	H64		183	10.3		1		
			剥片	2	H65		189	14.9		1		
			剥片	3	I65		81	40.6		1		
			剥片	3	I65		259	4.8		1		
			剥片		I66	II	70	4.6		1		
			剥片		H65	I	23	13.4		1		
			剥片	2	I65		377	3.9		1		
			剥片		H65	I	36	1.1		1		
			剥片	3	J64		534	2.6		1		
			剥片		H65	I	37	2.0		1		

上白滝 8 遺跡

挿図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
				2	I65		236	51.2		1		
					I65	II	108	4.2		1		
IV-41	70	33	石核	3	J65		879	84.4		1		
			剥片	2	I64		872	20.9		1		
				2	I65		442	3.4		1		
					I65	II	113	2.7		1		
				3	J64		364	10.3		1		
				3	J64		1075	6.4		1		
				3	J64		1297	3.2		1		
			剥片		I64	II	374	2.4		1		
					J63	III	111	1.6		1		
				3	J66		116	10.2		1		
					不明		不明	1.9		1		
			剥片		I64	II	375	2.3		1		
			剥片	3	I65		82	5.8		1		
			剥片	2	I65		139	1.4		1		
			剥片	2	I65		375	8.2		1		
			剥片	2	I65		448	17.0		1		
			剥片	2	I65		510	182.1		1		
					I66	I	8	91.1		1		
			剥片		I65	I	14	3.2		1		
			剥片		I65	I	15	4.8		1		
			剥片	3	I66		72	18.1		1		
IV-38	68	14	石核	3	I66		112	22.6		1		
					I66	II	74	2.3		1		
-	79	84	縦長剥片	3	I66		116	11.4		1		
			剥片	1	I66		267	14.4		1		
			剥片		I66	I	10	1.8		1		
				1	I67		247	2.2		1		
			剥片		I66	I	15	2.3		1		
			剥片		I67	I	8	14.3		1		
				3	J64		344	12.2		1		
			剥片		I67	I	32	20.8		1		
			剥片		J63	III	109	9.0		1		
					J63	III	113	1.2		1		
					J63	III	115	3.0		1		
-	79	86	縦長剥片	3	J64		206	6.6		1		
			剥片	3	J64		278	21.6		1		
-	79	87	縦長剥片	3	J64		386	8.5		1		
			剥片	3	J64		495	3.9		1		
			剥片	3	J64		604	1.5		1		
-	79	85	縦長剥片	3	J64		685	3.0		1		
IV-41	70	32	石核	3	J64		875	6.4		1		
				3	J66		83	8.1		1		
				3	J66		103	13.4		1		
				3	J66		104	16.3		1		
				3	J66		117	15.3		1		
				3	J66		118	12.9		1		
					J66	II	11	1.7		1		
					J66	II	12	2.7		1		
					不明		不明	15.6		1		
			剥片	3	J64		958	4.1		1		
				3	J65		959	13.7		1		
			剥片	3	J64		1043	1.8		1		
IV-38	69	18	石核	3	J64		1107	1.8		1		
				3	J64		1143	28.2		1		
				3	J64		1167	7.8		1		
				3	J64		1170	10.8		1		
				3	J64		1171	6.2		1		
				3	J65		111	17.2		1		

挿図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
				3	J65		219	9.2		1		
				3	J65		561	12.1		1		
				3	J65		566	38.8		1		
				3	J65		593	18.4		1		
				3	J65		635	20.0		1		
				3	J65		766	9.5		1		
				3	J65		767	4.1		1		
				3	J65		867	1.7		1		
				J65	III	25	3.2			1		
IV-41	70	28	石核	3	J64		1168	17.1		1		
			剥片	3	J64		1193	11.2		1		
			剥片	3	J65		57	7.7		1		
			剥片	3	J65		115	4.1		1		
			剥片	3	J65		279	1.6		1		
			剥片	3	J65		376	11.0		1		
			剥片	3	J65		380	2.2		1		
			剥片	3	J65		589	1.8		1		
IV-41	70	31	石核	3	J65		716	77.8		1		
			剥片	3	J65		776	3.2		1		
			剥片	3	J65		946	2.6		1		
IV-37	68	8	二次加工ある剥片	3	J65		957	2.8		1		
			剥片	3	J65		1040	7.9		1		
IV-37	68	9	二次加工ある剥片	3	J65		1127	14.3		1		
			剥片	3	J65		1271	1.6		1		
			剥片	3	J65		1405	28.7		1		
			剥片	3	J65		1409	11.5		1		
			剥片		J65	I	7	13.8		1		
					J65	III	24	16.7		1		
			剥片	3	J66		2	2.9		1		
			剥片	3	J66		25	2.4		1		
			剥片	3	J66		26	5.8		1		
			剥片	3	J66		42	1.5		1		
			剥片	3	J66		79	2.0		1		
			剥片	3	J66		105	11.9		1		
			剥片	外	J67		17	28.7		1		
			剥片		K66	I	8	27.0		1		
-	79	88	縦長剥片		排土		47	6.0		1		
IV-93	88	89	接合資料	6				364.3	11	1	50	125
			剥片	6	I61		2	113.9		1		
			剥片	6	J59		1109	16.1		1		
			剥片	6	J59		1257	18.5		1		
				6	J61		22	2.9		1		
			剥片		J59	I	16	5.0		1		
			剥片	6	J60		120	13.8		1		
IV-71	82	50	石核		J60	I	3	118.2		1		
			剥片	6	J61		65	16.5		1		
			剥片	6	K59		304	38.8		1		
				6	K60		88	8.7		1		
			剥片	6	K59		566	11.9		1		
IV-93	88	90	接合資料	5・6				133.6	6	1	56	141
			剥片	6	I59		142	9.9		1		
IV-71	81	44	石核	6	I59		250	3.7		1		
				5	M61		57	9.6		1		
					排土		114	39.8		1		
IV-71	82	47	石核	6	I59		422	49.7		1		
			剥片	6	K59		263	20.9		1		
IV-94	88	91	接合資料	5				634.0	11	1	23	49
IV-72	82	51	石核	5	N61		21	53.4		1		
				5	N62		123	15.9		1		
				5	N62		232	25.2		1		

掲載遺物一覧

挿図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
				5	N62		640	191.9		1		
					N62	I	3	63.0		1		
			剥片	5	N61		47	157.4		1		
				5	N62		509	40.6		1		
			剥片	5	N62		121	13.5		1		
			剥片	5	N62		231	27.4		1		
					N62	I	4	38.0		1		
			剥片	5	N62		909	7.7		1		
IV-95	89	92	接合資料	6				2,311.3	36	1	48	115
			剥片	6	J58		148	20.1		1		
			剥片	6	J58		160	40.1		1		
			剥片	6	J59		96	86.9		1		
			剥片		J57	I	9	72.6		1		
			剥片	6	J58		12	94.3		1		
			剥片	6	J58		36	269.2		1		
			剥片	6	J58		44	58.0		1		
			剥片	6	J58		45	188.5		1		
				6	J58		115	472.8		1		
				6	J58		246	7.4		1		
			剥片	6	J58		46	56.3		1		
			剥片	6	J58		47	37.3		1		
				6	J58		62	13.0		1		
				6	J58		225	46.8		1		
			剥片	6	J58		48	61.3		1		
IV-72	82	54	石核	6	J58		49	66.2		1		
			剥片	6	J58		82	8.2		1		
			剥片	6	J58		83	72.9		1		
			剥片	6	J58		86	27.6		1		
			剥片	6	J58		87	58.2		1		
				6	J58		226	2.8		1		
			剥片	6	J58		88	82.7		1		
			剥片	6	J58		111	36.9		1		
			剥片	6	J58		121	145.5		1		
			剥片	6	J58		128	24.5		1		
			剥片	6	J58		152	43.8		1		
			剥片	6	J58		156	24.0		1		
				6	J58		282	19.6		1		
			剥片	6	J58		161	15.8		1		
			剥片	6	J58		180	23.6		1		
			剥片	6	J58		190	5.9		1		
			剥片	6	J58		218	17.1		1		
						七北52 ~59	128	23.7		1		
			剥片	6	J58		219	53.7		1		
			剥片	6	J58		220	11.7		1		
			剥片	6	J58		264	22.3		1		
IV-96	90	93	接合資料	5				3,513.9	33	1	32	70
IV-69	80	27	二次加工ある剥片	5	L63		1040	27.2		1		
			剥片	5	M63		18	59.9		1		
			剥片	5	M63		80	5.4		1		
				5	M63		1071	37.7		1		
			剥片	5	M63		285	15.0		1		
				5	M64		140	57.1		1		
			剥片	5	M63		498	38.2		1		
				5	M64		22	112.1		1		
			剥片	5	M63		739	84.9		1		
IV-75	83	64	石核	5	M63		750	866.6		1		
			剥片	5	M63		873	53.6		1		
			剥片	5	M63		1082	11.2		1		
			剥片	5	M63		1128	10.4		1		
				5	M64		2	88.9		1		

挿図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
				5	M64		136	227.8		1		
			剥片	5	M64		6	53.2		1		
			剥片	5	M64		7	162.3		1		
			剥片	5	M64		19	129.6		1		
			剥片	5	M64		21	28.5		1		
			剥片	5	M64		54	179.5		1		
			剥片	5	M64		98	70.3		1		
			剥片	5	M64		134	49.2		1		
			剥片	5	M64		152	159.5		1		
			剥片		M64	I	9	48.9		1		
					M64	I	10	17.3		1		
			剥片		M64	II	2	163.6		1		
			剥片		M65	I	7	23.4		1		
			剥片		N64	I	11	52.0		1		
			剥片		N64	I	20	86.5		1		
			剥片		N64	I	29	195.0		1		
			剥片	5	N65		23	80.1		1		
			剥片	5	N65		54	214.9		1		
			剥片	5	N65		88	104.1		1		
IV-98	91	94	接合資料	5				4,250.1	50	5	36	74
			剥片	5	L62		229	74.8		5		
				5	L62		534	107.0		5		
			剥片	5	L62		235	285.5		5		
			剥片	5	L62		325	11.9		5		
				5	M63		461	18.4		5		
			剥片	5	L62		329	127.1		5		
			剥片	5	L62		334	52.8		5		
				5	L62		335	47.5		5		
				5	L63		478	4.4		5		
			剥片	5	L62		336	134.3		5		
			剥片	5	L62		532	101.6		5		
			剥片	5	L62		533	10.9		5		
			剥片	5	L62		783	606.9		5		
			剥片	5	L62		796	4.2		5		
				5	L64		16	29.7		5		
			剥片	5	L62		849	63.9		5		
IV-70	81	32	接器		L62	I	8	75.0		5		
			剥片	5	L63		461	4.2		5		
			剥片	5	L63		539	79.6		5		
			剥片	5	L63		605	24.0		5		
			剥片	5	L63		806	5.6		5		
			剥片	5	L63		893	74.2		5		
			剥片	5	L63		922	14.6		5		
			剥片	5	L63		923	11.5		5		
				5	L65		5	55.7		5		
			剥片	5	L63		963	50.0		5		
			剥片	5	L63		1016	38.6		5		
			剥片	5	L63		1034	24.5		5		
			剥片	5	L63		1116	4.3		5		
			剥片	5	L64		55	5.4		5		
			剥片	5	L64		85	127.1		5		
			剥片	5	L64		89	135.3		5		
			剥片		L64	I	7	278.4		5		
			剥片		L64	I	8	97.6		5		
			剥片		L64	I	9	42.7		5		
			剥片		L64	I	12	10.7		5		
			剥片	5	M61		100	95.5		5		
			剥片	5	M61		173	163.0		5		
IV-71	81	43	石核	5	M62		49	28.4		5		
				5	M62		386	9.2		5		

上白滝8遺跡

挿図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
				5	M62		395	16.9		5		
IV-74	83	63	石核	5	M62		394	366.1		5		
			剥片	5	M62		446	180.4		5		
			剥片	5	M62		605	187.8		5		
			剥片	5	M63		34	129.4		5		
IV-70	81	34	掻器	5	M63		462	7.1		5		
			剥片	5	M63		540	6.7		5		
			剥片	5	M63		681	104.6		5		
IV-70	81	31	掻器	5	M63		1177	32.0		5		
IV-70	81	33	掻器	5	M64		150	83.1		5		
IV-101	92	96	接合資料	4・5				229.6	8	1	24	53
IV-73	83	60	石核	4	J62		542	89.4		1		
			剥片	5	K62		115	58.6		1		
			剥片	5	L61		220	7.4		1		
			剥片	5	M61		185	9.4		1		
			剥片	5	B調		142	3.9		1		
			剥片	5	L62		31	15.4		1		
IV-70	81	42	石核		L63	I	24	33.4		1		
			剥片	5	M62		208	12.1		1		
-	92	144	接合資料	3・5・6				467.9	7	1	24	54
			剥片	6	J59		231	316.5		1		
			剥片	6	J59		1107	20.3		1		
			剥片	3	J66		100	19.3		1		
-	92	145	石核		J60	I	38	30.1		1		
			剥片		L62	I	39	8.6		1		
			剥片	5	L63		1134	15.6		1		
			剥片	5	L64		20	57.5		1		
IV-101	92	97	接合資料	5				161.1	6	1	37	75
			剥片	5	L61		196	15.2		1		
			剥片	5	L62	I	32	2.9		1		
			剥片	5	L64		71	2.7		1		
			剥片		L62	I	16	8.6		1		
IV-73	83	57	石核		L63	I	18	109.9		1		
			剥片		NG3	I	4	21.8		1		
IV-102	93	98	接合資料	6				436.5	6	1・5	49	116
IV-208	142	3	石核	6	H59		219	129.8		5		
			剥片	6	J59		52	3.0		1		
IV-70	81	38	錐形石器	6	J59		67	38.1		5		
			剥片	6	J58		123	125.6		5		
			剥片	6	J58		136	20.2		5		
IV-71	82	45	石核	6	J59		733	119.8		5		
IV-103	93	99	接合資料	5・6				513.1	34	3・4	51	130
			剥片	6	J60		59	2.0		4		
			剥片	6	J59		206	10.8		4		
			剥片		J60	I	33	5.7		4		
			剥片		J58	II	9	1.0		4		
			剥片	6	J59		977	2.4		4		
			剥片	6	J59		200	4.5		4		
			剥片	6	J59		323	11.0		4		
			剥片	6	J59		334	5.0		4		
			剥片	6	J59		333	6.8		4		
			剥片	6	J59		434	10.7		4		
			剥片	6	J59		559	3.9		4		
			剥片	6	J59		622	4.0		4		
			剥片	6	J59		690	7.6		4		
			剥片	6	J59		798	1.3		4		
			剥片	6	J59		1163	3.4		4		
			剥片	6	K59		526	14.6		4		
IV-74	83	61	石核	6	J59		754	110.7		4		
			剥片	6	J59		839	4.3		3		

挿図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
			剥片	6	J59		1065	8.0		4		
			剥片	6	J59		1157	30.6		4		
			剥片	6	J59		1409	3.8		4		
			剥片	6	J59		1448	2.7		4		
			剥片		J65	I	12	42.4		4		
IV-68	80	20	二次加工ある剥片	6	K59		445	22.0		4		
			剥片	6	K59		517	23.7		4		
			剥片	6	K59		569	11.3		4		
IV-72	82	53	石核	6	K59		636	111.9		4		
			剥片	5	L61	II	223	5.0		4		
			剥片		L61	II	3	2.8		4		
			剥片		L61	III	4	0.9		4		
			剥片		L61		2	1.9		4		
			剥片	5	L62		71	4.2		4		
			剥片		L62	I	10	6.5		4		
IV-68	80	17	二次加工ある剥片	5	L63		1156	25.7		4		
IV-105	94	102	接合資料	5				1,539.8	31	1・5	21	47
			剥片	5	L63		398	11.4		1		
-	94	148	縦長剥片	5	L63		497	22.0		1		
			剥片	5	L63		775	7.4		1		
			剥片	5	M64		235	7.9		1		
			剥片		B調		137	51.3		1		
			剥片	5	L63		692	12.1		1		
			剥片	5	L64		39	10.1		1		
			剥片	5	L64		206	4.5		1		
			剥片	5	L63		768	2.2		5		
			剥片	5	M62		229	89.2		5		
			剥片	5	L64		100	9.3		1		
			剥片	5	L64		123	3.0		1		
			剥片		L64	I	16	40.1		1		
IV-71	82	49	石核	5	M61		70	129.9		5		
			剥片	5	M61		115	296.8		5		
-	94	147	縦長剥片	5	M61		176	65.9		5		
			剥片	5	M62		430	5.8		5		
			剥片	5	M64		129	31.6		5		
			剥片		M64	I	7	23.6		1		
			剥片	5	M62		231	151.3		5		
			剥片	5	M62		380	29.4		5		
-	94	146	縦長剥片	5	M62		443	174.9		5		
			剥片	5	M62		535	116.5		5		
			剥片	5	M62		562	28.7		5		
			剥片	5	M62		587	80.8		5		
			剥片	5	M64		119	27.9		5		
-	94	149	縦長剥片	5	M63		91	69.5		5		
			剥片	5	M63		1000	23.7		1		
			剥片	5	M64		39	6.7		1		
			剥片	5	M64		141	3.7		5		
			剥片	5	M64		228	2.6		5		
IV-106	95	104	接合資料	4・5				2,130.4	44	1・5	22	48
-	95	156	縦長剥片	4	J63		148	59.1		1		
			剥片	4	K62		901	24.3		1		
IV-71	82	48	石核	5	L61		242	71.4		1		
-	95	154	縦長剥片	5	L62		146	57.1		1		
			剥片	5	L62		647	57.2		1		
			剥片	5	L63		730	4.7		5		
			剥片	5	L64		11	5.1		1		
			剥片		L64	I	27	2.2		1		
			剥片	5	L62		256	140.8		1		
-	95	153	縦長剥片	5	L62		531	32.7		1		
			剥片	5	L62		788	13.1		1		

掲載遺物一覧

種図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
-	95	160	縦長剥片	5	L62		600	40.2		1		
				5	L63		314	2.8		1		
			剥片	5	L62		642	97.0		1		
				5	M64		227	4.4		5		
			剥片	5	L63		155	67.8		1		
			剥片	5	L63		199	1.5		1		
			剥片	5	L63		292	1.5		5		
			剥片	5	L63		519	29.8		1		
-	95	157	縦長剥片	5	L63		543	58.1		1		
			剥片	5	L63		1028	148.5		1		
-	95	159	縦長剥片	5	L63		1056	14.6		1		
				5	L64		197	15.2		1		
					L65	I	1	19.5		1		
			剥片	5	L63		1097	13.6		1		
			剥片	5	L63		1137	6.6		5		
			剥片	5	L64		44	6.8		5		
				5	L64		130	1.9		1		
					L64	I	18	23.1		1		
IV-72	82	55	石核	5	L64		108	168.2		1		
			剥片	5	L64		145	4.8		1		
-	95	161	縦長剥片	5	L64		158	77.9		1		
-	95	163	縦長剥片		L64	I	19	42.8		1		
					七北60 ~65		99	26.1		1		
			剥片		L64	I	28	1.8		1		
-	95	151	縦長剥片	5	M62		440	121.4		1		
-	95	162	縦長剥片	5	M62		486	207.6		1		
-	95	158	縦長剥片	5	M63		295	100.4		1		
			剥片	5	M63		325	4.6		1		
				5	M64		236	196.5		1		
-	95	155	縦長剥片	5	M63		495	13.3		1		
				5	M63		682	84.9		1		
-	95	152	縦長剥片		七北60 ~65		98	14.7		1		
-	95	150	縦長剥片		B調		5	44.8		1		
-	96	164	接合資料	5				1,954.0	66	1	25	60
-	96	165	縦長剥片	5	L61		225	126.0		1		
				5	L62		529	3.1		1		
				5	L63		1032	2.1		1		
			剥片	5	L62		540	125.4		1		
			剥片	5	L62		567	17.1		1		
			剥片	5	L62		712	3.9		1		
				5	L64		72	2.1		1		
			剥片	5	L62		798	16.9		1		
					七北60 ~65		56	8.3		1		
			剥片	5	L62		822	3.5		1		
			剥片	5	L62		874	17.7		1		
			剥片		L62	II	5	1.8		1		
			剥片	5	L63		19	15.5		1		
			剥片	5	L63		110	4.2		1		
				5	L63		238	25.7		1		
			剥片	5	L63		253	13.9		1		
				5	L63		346	6.3		1		
			剥片	5	L63		298	1.6		1		
				5	L63		801	1.3		1		
			剥片	5	L63		304	2.8		1		
				5	L63		778	1.9		1		
			剥片	5	L63		337	4.7		1		
			剥片	5	L63		385	1.7		1		
				5	L63		685	14.9		1		
				5	L63		983	11.3		1		
				5	L63		1039	1.7		1		

種図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
			剥片	5	L63		386	1.4		1		
			剥片	5	L63		387	5.1		1		
				5	L63		799	18.2		1		
				5	L63		1044	1.7		1		
			剥片	5	L63		470	4.5		1		
			剥片	5	L63		476	6.2		1		
			剥片	5	L63		559	49.8		1		
			剥片	5	L63		582	54.3		1		
				5	L63		583	13.6		1		
			剥片	5	L63		704	28.3		1		
			剥片	5	L63		705	1.9		1		
				5	L63		1046	8.7		1		
				5	L64		65	13.9		1		
			剥片	5	L63		707	2.1		1		
			剥片	5	L63		771	1.8		1		
				5	L63		960	18.0		1		
			剥片	5	L63		787	7.6		1		
				5	L63		959	5.7		1		
			剥片	5	L63		790	126.1		1		
				5	L63		956	37.7		1		
					L63	III	16	1.5		1		
			剥片	5	L63		914	13.0		1		
IV-69	80	29	二次加工ある剥片	5	L63		950	37.7		1		
			剥片	5	L63		1036	13.0		1		
			剥片	5	L63		1055	1.3		1		
					L64	I	6	0.7		1		
			剥片	5	L64		12	23.3		1		
			剥片	5	L64		36	23.2		1		
			剥片	5	L64		127	2.4		1		
			剥片	5	L64		137	3.1		1		
			剥片	5	L64		157	2.2		1		
			剥片	5	L64		161	1.7		1		
			剥片	5	L64		179	2.0		1		
			剥片		L64	I	1	130.3		1		
			剥片		L64	I	2	16.9		1		
					L64	I	5	1.8		1		
IV-73	83	56	石核	5	M62		264	595.6		1		
			剥片	5	M62		370	88.9		1		
-	96	166	縦長剥片	5	M62		485	150.4		1		
			剥片		排土		32	3.0		1		
IV-108	97	106	接合資料	5				622.9	20	1	34	72
			剥片	5	M63		324	10.4		1		
				5	M63		515	6.4		1		
-	97	167	縦長剥片	5	M63		633	9.1		1		
			剥片	5	M63		909	36.4		1		
			剥片	5	M63		928	17.5		1		
				5	M63		1083	38.4		1		
			剥片	5	M64		3	51.9		1		
			剥片	5	M64		14	71.7		1		
			剥片	5	M64		24	28.2		1		
			剥片	5	M64		30	23.4		1		
			剥片	5	M64		42	36.7		1		
			剥片		M64	I	3	22.4		1		
					七南60 ~65		21	43.3		1		
			剥片	5	M65		55	36.5		1		
				5	N65		31	8.7		1		
			剥片		N64	I	10	116.6		1		
			剥片	5	N65		20	5.5		1		
			剥片	5	N65		78	10.4		1		
			剥片		O65	I	4	12.6		1		

上白滝 8 遺跡

種目	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
			剥片		七南60 ~65		62	36.8		1		
IV-108	97	107	接合資料	5				1,277.4	26	1	26	64
-	97	168	縦長剥片	5	L62		40	122.2		1		
			剥片	5	M63		366	30.3		1		
			剥片	5	M63		529	140.3		1		
IV-78	85	81	石核	5	M63		631	137.2		1		
				5	M63		916	235.4		1		
			剥片	5	M63		683	51.6		1		
			剥片	5	M63		693	42.8		1		
			剥片	5	M63		925	5.2		1		
			剥片	5	M63		926	15.8		1		
				5	M63		1009	12.9		1		
			剥片	5	M63		1011	23.8		1		
			剥片	5	M63		1095	33.7		1		
			剥片	5	M64		17	31.5		1		
			剥片	5	M65		6	6.7		1		
					N64	I	19	39.9		1		
			剥片	5	M65		37	50.5		1		
			剥片	5	M65		38	20.1		1		
			剥片	5	M65		59	32.3		1		
			剥片	斜	M66	上	12	23.7		1		
			剥片	斜	M70	上	5	54.6		1		
			剥片		N64	I	13	24.0		1		
			剥片	5	N65		17	46.0		1		
			剥片	5	N65		77	16.5		1		
			剥片	5	N65		156	12.3		1		
			剥片	斜	N66	上	4	34.7		1		
			剥片		七南60 ~65		25	33.4		1		
IV-110	98	108	接合資料	5				1,642.8	28	1	29	67
			剥片	5	L61		222	34.1		1		
			剥片	5	L62		138	54.0		1		
					L63	I	27	4.6		1		
			剥片	5	L62		525	53.4		1		
			剥片		L62	I	18	24.5		1		
			剥片	5	L63		52	64.6		1		
			剥片	5	L63		111	33.4		1		
			剥片	5	L63		231	18.9		1		
-	98	169	縦長剥片	5	L63		390	4.7		1		
				5	L64		171	84.8		1		
			剥片	5	L63		428	19.3		1		
			剥片	5	L63		462	92.4		1		
				5	L64		141	38.0		1		
			剥片	5	L63		863	12.5		1		
				5	L64		33	66.7		1		
			剥片	5	L63		1073	54.5		1		
			剥片	5	L64		40	3.4		1		
					L64	I	35	3.6		1		
IV-81	86	87	石核	5	L64		168	442.0		1		
			剥片		L64	I	24	175.5		1		
			剥片		L64	I	25	32.6		1		
			剥片		L64	I	26	65.8		1		
IV-68	80	21	二次加工ある剥片	5	M61		106	90.1		1		
			剥片		M62	I	6	7.5		1		
			剥片	5	M63		496	2.0		1		
			剥片	5	M64		94	58.9		1		
			剥片	5	M64		232	54.3		1		
			剥片		B調		144	46.7		1		
IV-111	99	109	接合資料	5				3,641.4	35	1	27	65
-	99	170	縦長剥片	5	L61		53	157.9		1		
-	99	171	縦長剥片	5	L62		846	162.0		1		

種目	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
			剥片	5	L64		167	64.1		1		
			剥片		L64	I	34	13.8		1		
			剥片	5	M62		174	96.6		1		
IV-69	80	26	二次加工ある剥片	5	M62		311	6.6		1		
				5	M62		451	19.4		1		
			剥片	5	M62		575	103.3		1		
			剥片	5	M62		595	65.8		1		
			剥片	5	M62		597	58.4		1		
			剥片	5	M62		620	80.5		1		
			剥片	5	M63		105	412.9		1		
			剥片	5	M63		133	91.3		1		
			縦長剥片	5	M63		191	134.2		1		
			剥片	5	M63		460	60.1		1		
			剥片	5	M63		482	26.3		1		
			剥片	5	M63		483	107.1		1		
			剥片	5	M63		493	82.3		1		
				5	N62		1091	78.4		1		
			剥片	5	M63		595	9.9		1		
			剥片		M63	I	5	109.8		1		
			剥片	5	N61		46	76.8		1		
IV-81	86	88	石核	5	N61		48	684.1		1		
			剥片	5	N62		930	14.0		1		
			剥片	5	N62		995	265.2		1		
			剥片	5	N62		1077	34.3		1		
			剥片	5	N62		1083	93.8		1		
			剥片	5	N62		1084	175.0		1		
			剥片	5	N62		1102	171.9		1		
			剥片	5	N63		745	27.9		1		
			剥片	5	N64		25	63.5		1		
			剥片	5	N64		70	9.4		1		
					N64	I	12	22.3		1		
					N64	I	28	12.5		1		
			剥片		N64	I	26	50.0		1		
IV-113	100	110	接合資料	5				253.7	6	1	35	73
IV-76	84	70	石核	5	M63		690	54.8		1		
			剥片	5	M63		765	32.8		1		
			剥片	5	M64		32	23.3		1		
			剥片		M64	II	1	14.8		1		
IV-75	83	65	石核	5	M65 七南60 ~65		24	79.3		1		
							20	48.7		1		
IV-113	100	111	接合資料	5				577.7	15	1	33	71
			剥片	5	L62		535	41.9		1		
			剥片	5	L63		68	12.3		1		
				5	L63		375	20.6		1		
				5	L63		505	4.8		1		
IV-76	84	69	石核	5	L63		77	54.2		1		
			剥片	5	L63		145	13.0		1		
			剥片	5	L63		607	3.2		1		
					不明		不明	24.2		1		
			剥片	5	L63		1110	17.6		1		
IV-76	84	67	石核	5	L64		175	32.1		1		
			剥片	5	M62		159	47.6		1		
			縦長剥片	5	M63		569	90.8		1		
			剥片	5	M63		751	22.0		1		
				5	M64		4	46.3		1		
					排土		33	147.1		1		
IV-115	101	112	接合資料	5				4,230.7	54	1・5	45	110
			剥片	5	K63	I	42	26.7		1		
					L61		209	19.8		1		
			剥片		K63	I	45	53.6		1		

掲載遺物一覧

挿図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
			剥片	5	L61		8	18.0		1		
				5	M61		7	13.4		1		
				5	M61		170	92.8		1		
			剥片	5	L61		55	65.8		1		
			剥片	5	L61		60	21.9		1		
					L62	I	22	31.9		1		
			剥片	5	L61		326	10.2		1		
			剥片	5	L62		57	13.6		1		
			剥片	5	L62		257	196.0		1		
				5	L63		240	58.2		1		
			剥片	5	L62		259	39.7		1		
				5	L62		556	90.7		1		
			剥片	5	L62		330	140.5		1		
			剥片	5	L62		420	38.1		1		
				5	L63		6	8.8		1		
-	102	173	縦長剥片	5	L62		884	168.5		5		
			剥片		L62	I	23	14.2		1		
			剥片	5	L63		5	6.0		1		
					L64	I	29	26.6		1		
			剥片	5	L63		306	102.8		1		
IV-69	81	30	二次加工ある剥片	5	L63		475	287.8		1		
				5	M61		172	194.0		1		
			剥片	5	L63		689	17.7		1		
			剥片	5	L63		761	15.2		1		
				5	M61		76	23.9		1		
				5	M61		78	20.1		1		
				5	M61		160	560.4		1		
				5	M61		204	222.1		1		
-	102	172	縦長剥片	5	L63		791	6.8		1		
				5	M61		38	69.9		1		
				5	M61		39	75.2		1		
IV-68	80	18	二次加工ある剥片	5	L63		795	10.7		1		
			剥片	5	L63		911	132.1		1		
			剥片	5	L63		1094	95.7		1		
			剥片	5	L63		1104	26.7		1		
					七北 <sup>60</sup> ~ <sup>65</sup>		53	45.5		1		
			剥片	5	L64		1	53.6		1		
			剥片	5	L64		121	77.4		1		
			剥片	5	L64		198	18.8		1		
			剥片		L64	I	30	43.9		1		
			剥片	5	M61		99	20.7		1		
			剥片	5	M61		132	38.6		1		
			剥片	5	M61		163	191.1		1		
			剥片	5	M61		171	210.4		1		
			剥片	5	M61		182	105.4		1		
			剥片	5	M61		197	72.0		1		
			剥片	5	M61		199	42.1		1		
IV-76	84	74	石核	5	M61		201	159.1		1		
			剥片	5	M61		205	38.3		1		
			剥片	5	M62		96	9.2		1		
			剥片	5	M62		265	88.5		1		
IV-118	102	114	接合資料	5				1,431.2	20	1	28	66
			剥片	5	L61		113	13.3		1		
				5	M62		397	19.3		1		
			剥片	5	L61		327	26.5		1		
IV-79	85	82	石核	5	L62		830	573.1		1		
			剥片	5	L62		834	11.4		1		
			剥片	5	L63		431	8.2		1		
			剥片	5	L63		586	46.9		1		
-	102	174	縦長剥片	5	L63		961	12.1		1		

挿図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
IV-69	80	28	二次加工ある剥片	5	L63		986	11.6		1		
					B調		145	70.4		1		
			剥片	5	L64		102	12.3		1		
-	102	175	縦長剥片	5	L64		146	84.2		1		
			剥片	5	L64		170	37.1		1		
			剥片	5	M61		44	198.1		1		
			剥片	5	M61		98	29.8		1		
			剥片	5	M62		390	18.9		1		
			剥片	5	M63		320	29.5		1		
				5	M63		1002	67.2		1		
			剥片	5	M63		853	58.3		1		
			剥片	5	M64		234	103.0		1		
IV-119	103	115	接合資料	5				1,204.2	17	1・5	71	178
			剥片	5	L61		73	20.5		5		
				5	L65		7	67.6		1		
			剥片	5	L61		88	26.4		1		
			剥片	5	L61		114	6.6		1		
				5	L61		115	12.9		1		
			剥片	5	L62		403	12.6		1		
			剥片	5	L62		583	29.9		5		
IV-80	86	84	石核	5	L62		601	98.8		1		
				5	M61		180	425.6		1		
			剥片	5	L63		499	9.1		5		
			剥片	5	L63		946	11.3		1		
-	103	176	縦長剥片	5	L63		1062	27.9		1		
			剥片		L64	I	23	50.5		1		
			剥片		L64	I	40	26.9		1		
			剥片	5	M61		45	28.4		1		
			剥片	5	M61		131	336.5		1		
			剥片	5	M61		133	12.7		1		
IV-122	104	117	接合資料	5				1,573.4	31	1・5	72	179
			剥片	5	L62		328	3.0		5		
			剥片	5	L62		845	172.2		1		
IV-77	84	75	石核	5	L63		237	118.2		1		
			剥片	5	L63		332	7.1		5		
			剥片	5	L63		925	6.3		1		
-	104	180	縦長剥片	5	L63		1000	43.0		1		
IV-75	84	66	石核		L63	I	8	190.7		1		
				5	N61		36	19.4		1		
			剥片	5	L64		17	12.0		1		
			剥片	5	L64		18	13.1		1		
			剥片	5	L64		96	38.1		1		
-	104	181	縦長剥片	5	L64		162	13.0		1		
				5	M64		87	127.9		1		
				5	M64		133	16.9		1		
				5	M64		231	31.5		1		
			剥片	5	L64		205	10.2		1		
					L64	I	33	3.9		1		
				5	M63		852	10.3		1		
IV-77	85	78	石核		L64	I	11	200.9		1		
			剥片		L64	I	32	9.3		1		
			剥片	5	M62		317	25.5		1		
			剥片	5	M62		324	14.3		1		
IV-76	84	68	石核	5	M62		444	90.2		1		
			剥片	5	M62		579	9.0		1		
-	104	179	縦長剥片	5	M62		603	48.1		1		
			剥片	5	M63		35	16.9		1		
			剥片	5	M63		1001	17.9		1		
			剥片		M63	I	10	17.3		1		
			剥片	5	M64		233	228.4		5		

上白滝8遺跡

挿図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
-	104	178	縦長剥片		M64	I	8	4.3		1		
-	104	177	縦長剥片		B調		143	54.5		1		
IV-125	105	118	接合資料	5				3,126.5	59	1・5	31	69
			剥片	5	L62		673	10.2		1		
			剥片	5	L64		5	37.9		1		
			剥片		M62	I	3	102.1		1		
			剥片	5	M63		43	86.4		1		
			剥片	5	M63		44	91.0		1		
			剥片	5	M63		118	12.2		1		
			剥片	5	M63		491	39.5		1		
			剥片	5	M63		785	74.6		1		
			剥片	5	M63		786	29.5		1		
IV-76	84	71	石核	5	M63		897	80.7		1		
			剥片	5	M63		924	41.9		1		
					N64	I	17	3.9		1		
			剥片	5	M63		992	77.6		1		
			剥片	5	M63		1013	18.0		1		
			剥片	5	M63		1037	34.6		1		
			剥片	5	M63		1069	8.5		1		
			剥片	5	M63		1085	45.9		1		
			剥片	5	M63		1093	80.0		1		
					七南60 ~65		58	30.5		1		
			剥片	5	M63		1126	8.0		1		
			剥片	5	M63		1178	47.6		1		
			剥片	5	M63		1184	99.2		1		
			剥片		M63	I	8	29.5		1		
			剥片	5	M64		9	19.3		1		
			剥片	5	M64		25	14.1		1		
					M64	I	4	48.4		1		
			剥片	5	M64		31	21.7		1		
			剥片	5	M64		49	25.5		1		
IV-76	84	72	石核	5	M64		50	90.1		1		
IV-78	85	79	石核	5	M64		53	182.0		5		
			剥片	5	M64		205	23.1		1		
			剥片	5	M64		212	123.4		5		
			剥片	5	M65		13	32.6		5		
			剥片	5	M65		30	6.0		1		
			剥片	5	M65		41	95.8		5		
			剥片	5	M65		58	13.6		1		
					N65		119	13.8		1		
			剥片	5	M65		60	137.0		1		
-	106	182	縦長剥片		M65	I	1	123.6		1		
			剥片		M65	I	4	56.7		1		
			剥片		M65	I	5	105.9		1		
			剥片		M65	I	6	2.7		1		
			剥片	5	N63		200	7.8		1		
					N64	I	22	6.3		1		
					N64	I	23	58.0		1		
			剥片	5	N63		743	31.7		1		
IV-80	86	86	石核	5	N64		84	169.9		1		
			剥片		N64	I	8	6.3		1		
			剥片		N64	I	16	3.1		1		
			剥片		N64	I	21	7.4		1		
			剥片		N64	I	24	21.0		1		
			剥片		N64	I	27	5.3		1		
			剥片	5	N65		18	45.0		1		
IV-128	106	122	剥片	5	N65		32	293.3		1		
			剥片	5	N65		39	35.1		1		
			剥片	5	N65		138	19.0		1		
			剥片		N65	I	1	55.5		1		

挿図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
			剥片		七南60 ~65		19	58.9		1		
			剥片		七南60 ~65		26	78.3		1		
IV-129	107	123	接合資料	5				3,585.4	40	1	30	68
IV-76	84	73	石核	5	M62		564	180.7		1		
			剥片	5	M62		566	110.3		1		
			剥片	5	M62		589	9.2		1		
					N64		99	11.9		1		
-	108	183	縦長剥片	5	M63		16	204.1		1		
			剥片	5	M63		68	25.2		1		
			剥片	5	M63		494	37.7		1		
					M63		812	203.3		1		
-	109	185	縦長剥片	5	M63		510	24.2		1		
			剥片	5	M63		813	53.9		1		
					N63		576	26.4		1		
			剥片		M63	I	6	21.7		1		
					N63		411	8.5		1		
					N63		781	11.3		1		
			剥片	5	M64		55	23.3		1		
			剥片	5	M64		57	13.9		1		
					N62		1088	17.9		1		
			剥片	5	N61		45	58.6		1		
					N62		180	142.7		1		
IV-80	86	85	石核	5	N62		777	145.1		1		
					N63		436	327.4		1		
			剥片	5	N62		799	32.4		1		
IV-78	85	80	石核	5	N62		1002	329.9		1		
-	108	184	縦長剥片	5	N63		199	246.5		1		
					N64		94	19.8		1		
					N64	I	18	3.1		1		
			剥片	5	N63		648	64.2		1		
			剥片	5	N64		65	2.2		1		
			剥片	5	N64		69	43.1		1		
			剥片	5	N64		80	22.2		1		
					N65		82	3.4		1		
			剥片	5	N64		108	22.6		1		
IV-79	85	83	石核		N64	I	9	490.2		1		
			剥片		N64	I	25	13.8		1		
			剥片	5	N65		25	4.4		1		
					N65		38	9.9		1		
IV-77	84	76	石核	5	N65		81	161.6		1		
IV-77	84	77	石核	5	N65		90	219.2		1		
			剥片	5	N65		93	8.2		1		
			剥片		七南60 ~65		29	231.4		1		
IV-140	112	10	接合資料	8				3,963.9	55	1	60	161
			剥片	8	H56		19	97.0		1		
			剥片	8	H56		53	105.8		1		
			剥片	8	H56		508	321.4		1		
			剥片	8	H56		1029	289.5		1		
			剥片		H56	I	43	124.3		1		
			剥片	8	I56		8	10.4		1		
			剥片		H56	I	45	53.5		1		
			剥片		H57	I	57	14.2		1		
					I56		1098	36.1		1		
			剥片	8	I56		16	67.2		1		
					I56		189	10.2		1		
					I56		893	25.8		1		
					I56		913	28.7		1		
					I56		1071	6.8		1		
-	112	33	縦長剥片	8	I56		64	32.7		1		
					I56		1286	94.5		1		

挿図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
			剥片	8	I56		68	25.9		1		
				8	I56		816	39.4		1		
					七北52 ~59		248	47.2		1		
			剥片	8	I56		72	87.5		1		
			剥片	8	I56		190	9.4		1		
				8	I56		730	11.0		1		
				8	I56		1157	46.2		1		
			剥片	8	I56		288	13.0		1		
-	112	31	縦長剥片	8	I56		491	351.1		1		
				8	I56		1159	56.3		1		
			剥片	8	I56		512	4.7		1		
				8	I56		1280	34.3		1		
				8	I56		1285	323.0		1		
			剥片	8	I56		573	45.2		1		
				8	I56		1278	11.4		1		
			剥片	8	I56		683	48.8		1		
				8	I56		994	14.6		1		
				8	I56		1075	36.0		1		
			剥片	8	I56		716	126.2		1		
				8	I56		1154	107.0		1		
			剥片	8	I56		811	13.7		1		
				8	I56		912	25.9		1		
-	112	30	縦長剥片	8	I56		879	26.7		1		
				8	I56		1158	74.5		1		
			剥片	8	I56		882	57.9		1		
			剥片	8	I56		889	40.8		1		
-	112	34	縦長剥片	8	I56		987	24.0		1		
				8	I56		1076	35.9		1		
			剥片	8	I56		1151	97.4		1		
-	112	32	縦長剥片	8	I56		1185	32.4		1		
				8	I56		1281	26.4		1		
			剥片	8	I56		1189	21.6		1		
			剥片	8	I56		1193	23.6		1		
				8	I56		1273	68.1		1		
			剥片	8	I56		1197	31.1		1		
				8	I56		1251	15.0		1		
			剥片	8	I56		1262	80.8		1		
			剥片		七北52 ~59		242	431.8		1		
			剥片		七北52 ~59		249	80.0		1		
IV-141	113	11	接合資料	7・8				992.1	9	1	61	162
-	113	37	縦長剥片	8	H56		142	46.4		1		
-	113	35	縦長剥片	7	H57		10	289.6		1		
				7	H58		157	30.2		1		
-	113	36	縦長剥片	7	H57		135	265.1		1		
			剥片	7	H58		137	55.9		1		
-	113	39	縦長剥片	7	H58		158	18.8		1		
IV-134	110	5	石核		J57	I	3	262.9		1		
-	113	38	縦長剥片		K57	I	48	22.0		1		
			剥片		B調		41	1.2		1		
IV-142 -143	114 -115	12	接合資料	7・8				9,219.4	69	1	69	176
			剥片	8	H56		49	41.1		1		
			剥片	8	H56		58	26.3		1		
			剥片	8	H56		154	74.2		1		
			剥片	8	H56		214	20.8		1		
			剥片	8	H56		337	148.3		1		
			剥片	8	H56		786	35.7		1		
			剥片	8	H56		788	43.5		1		
				8	H57		890	30.1		1		
			剥片	8	H56		1175	86.4		1		
			剥片		H56	I	42	55.3		1		

挿図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
			剥片	7	H57		1220	214.5		1		
			剥片	7	H57		1376	62.8		1		
			剥片	7	H58		29	15.6		1		
				7	H58		178	13.1		1		
			剥片	7	H58		70	164.5		1		
			剥片	7	H58		122	151.8		1		
			剥片	7	H58		140	193.2		1		
			剥片	7	H58		141	229.0		1		
			剥片	7	H58		142	146.6		1		
			剥片	7	H58		179	162.3		1		
			剥片	7	H58		201	151.8		1		
			剥片	7	H58		218	141.1		1		
			剥片		H58	I	4	241.9		1		
					H58	I	9	106.4		1		
			剥片	8	I56		14	50.6		1		
			剥片	8	I56		15	132.3		1		
			剥片	8	I56		38	44.8		1		
				8	I56		398	86.4		1		
-	115	41	縦長剥片	8	I56		67	66.6		1		
			剥片	8	I56		73	296.3		1		
			剥片	8	I56		74	189.7		1		
			剥片	8	I56		171	25.5		1		
			剥片	8	I56		299	29.2		1		
			剥片	8	I56		301	38.1		1		
			剥片	8	I56		302	8.8		1		
				8	I56		1182	7.4		1		
				8	I56		1191	18.9		1		
			剥片	8	I56		304	93.7		1		
			剥片	8	I56		552	49.3		1		
				8	I56		1208	10.1		1		
			剥片	8	I56		555	3.6		1		
			剥片	8	I56		700	35.8		1		
			剥片	8	I56		806	17.4		1		
IV-135	111	6	石核	8	I56		871	778.5		1		
			剥片	8	I56		922	65.0		1		
			剥片	8	I56		925	206.9		1		
				8	I56		1289	8.9		1		
			剥片	8	I56		933	83.8		1		
			剥片	8	I56		996	29.6		1		
			剥片	8	I56		1147	18.2		1		
			剥片	8	I56		1155	16.1		1		
			剥片	8	I56		1187	25.2		1		
				8	I56		1272	73.1		1		
			剥片	8	I56		1202	33.7		1		
			剥片	8	I56		1267	32.0		1		
			剥片	8	I56		1276	22.7		1		
			剥片	8	I56		1296	110.6		1		
			剥片	8	I56		1297	22.7		1		
-	115	40	縦長剥片	8	I56		1329	13.7		1		
			剥片		I56	I	6	715.6		1		
-	116	43	縦長剥片	7	I57		117	40.0		1		
			剥片		K57	I	47	150.0		1		
IV-134	110	3	石核		七北52 ~59		108	345.5		1		
			剥片		七北52 ~59		190	222.8		1		
			剥片		七北52 ~59		244	123.6		1		
			剥片		七北52 ~59		245	162.2		1		
			剥片		七北52 ~59		246	143.3		1		
IV-136	111	8	石核		七北60 ~65 B調 表採		58	1,825.5		1		
-	116	42	縦長剥片				44	189.4		1		
IV-150 -151	118 -119	17	接合資料	8				17,779.7	75	1	70	177

上白滝8遺跡

挿図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
			剥片	8	H55		69	276.9	1			
			剥片	8	H55		96	54.2	1			
			剥片	8	H55		383	375.4	1			
			剥片	8	H55		433	22.6	1			
			剥片		H55	I	71	79.2	1			
			剥片		H55	I	70	17.0	1			
			剥片	8	I56		562	138.1	1			
-	122	49	縦長剥片	8	H56		5	13.8	1			
				8	J55		81	113.7	1			
				8	J55		127	16.8	1			
			縦長剥片	8	H56		15	95.7	1			
				8	H56		339	70.0	1			
				8	H56	I	44	6.6	1			
					H56	七北52 ~59	247	250.2	1			
			剥片	8	H56		272	93.6	1			
				8	H56		526	45.1	1			
			剥片	8	H56		279	94.3	1			
				8	H56		440	20.1	1			
				8	J55		205	43.6	1			
IV-135	110	7	石核	8	H56		283	45.9	1			
				8	H56		521	180.4	1			
				8	H56		648	516.0	1			
				8	H56		991	22.2	1			
				8	H56	I	2	2,065.2	1			
				8	J55		100	34.4	1			
				8	J55		193	3,149.2	1			
				8	J56		396	29.8	1			
			剥片	8	H56		296	21.2	1			
				8	J55		294	13.2	1			
			剥片	8	H56		522	464.7	1			
			剥片	8	H56		988	16.5	1			
				8	I56		1012	155.8	1			
			剥片	8	H56		1249	2.6	1			
				8	I56		275	9.5	1			
-	120	45	縦長剥片		H57	I	17	220.5	1			
					H57	I	18	126.0	1			
					H57	I	19	19.6	1			
			剥片	8	I56		33	13.6	1			
				8	J56		618	10.6	1			
			剥片	8	I56		34	17.5	1			
			剥片	8	I56		63	8.7	1			
-	120	48	縦長剥片	8	I56		84	303.1	1			
				8	J55		103	171.3	1			
			剥片	8	I56		181	71.9	1			
IV-136	111	9	石核	8	I56		242	6.0	1			
					J56	I	7	3,890.4	1			
			剥片	8	I56		256	31.8	1			
				8	J55		192	6.4	1			
			剥片	8	I56		332	13.0	1			
			剥片	8	I56		634	11.3	1			
IV-134	110	4	石核	8	I56		685	305.3	1			
			剥片	8	I56		833	6.5	1			
			剥片	8	I56		921	240.6	1			
			剥片	8	I56		948	42.7	1			
				8	I56		1026	533.9	1			
			剥片	8	J55		58	16.3	1			
-	122	50	縦長剥片	8	J55		63	63.4	1			
					H56	七北52 ~59	221	79.7	1			
			剥片	8	J55		78	156.5	1			
				8	J55		189	18.3	1			

挿図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
-	120	47	縦長剥片	8	J55		150	602.6	1			
			剥片	8	J55		151	100.1	1			
			剥片	8	J55		156	76.6	1			
			剥片	8	J55		195	261.4	1			
			剥片	8	J55		196	340.7	1			
			剥片	8	J55		207	80.9	1			
-	120	46	縦長剥片	8	J55		277	375.0	1			
			剥片	8	J55		328	15.2	1			
			剥片	8	J56		75	19.9	1			
			剥片	8	J56		209	7.1	1			
			剥片	8	J56		349	397.1	1			
-	120	44	縦長剥片	8	J56		428	39.7	1			
			縦長剥片	8	J56		501	285.7	1			
			剥片	8	J56		507	51.8	1			
			剥片	8	J56		620	187.5	1			
IV-167	126	60	接合資料	9				372.6	54	1	90	247
			剥片	9	K45		9	2.8	1			
			剥片	9	L43		84	5.3	1			
				9	L43		92	8.7	1			
				9	L44		90	4.2	1			
IV-162	125	58	石核	9	L43		113	5.1	1			
				9	L43		114	3.4	1			
				9	M43		535	18.3	1			
				9	M43		698	11.3	1			
				9	M43		707	5.6	1			
				9	M43		708	3.6	1			
				9	M43		712	6.2	1			
				9	M43		726	28.3	1			
				9	M43		748	36.6	1			
				9	M43		769	7.2	1			
					M43	II	91	0.6	1			
					M43	II	94	0.8	1			
			剥片	9	L43		187	3.9	1			
				9	M43		528	5.7	1			
			剥片	9	L44		2	7.4	1			
				9	M43		360	1.8	1			
				9	M43		618	3.4	1			
			剥片	9	L44		47	6.4	1			
				9	L44		48	7.3	1			
				9	M43		230	5.1	1			
				9	M43		584	2.9	1			
				9	M43		814	6.3	1			
			剥片	9	L44		117	2.6	1			
				9	M43		216	2.1	1			
			剥片	9	M43		78	6.1	1			
				9	M43		114	9.2	1			
				9	M43		351	4.0	1			
IV-158	124	20	二次加工ある剥片	9	M43		106	4.9	1			
			剥片	9	M43		111	16.3	1			
			剥片	9	M43		201	3.0	1			
			剥片	9	M43		262	6.3	1			
			剥片	9	M43		288	1.6	1			
				9	M43		293	18.3	1			
				9	M43		384	5.0	1			
				9	M43		436	1.4	1			
				9	M43		715	6.2	1			
			剥片	9	M43		292	3.1	1			
			剥片	9	M43		297	7.5	1			
				9	M43		562	3.2	1			
			剥片	9	M43		347	4.9	1			

掲載遺物一覧

種図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
			剥片	9	M43		353	11.5		1		
			剥片	9	M43		379	3.4		1		
			剥片	9	M43		440	8.6		1		
			剥片	9	M43		454	5.5		1		
			剥片	9	M43		567	8.3		1		
			剥片	9	M43		610	3.8		1		
			剥片	9	M43		754	2.5		1		
IV-159	124	30	二次加工ある剥片	9	M43		820	5.0		1		
			剥片	9	M43		868	16.1		1		
			剥片	9	M43		960	4.0		1		
IV-168	126	61	接合資料	9			488.8	72	1	84	239	
			剥片	9	L43		2	3.6		1		
IV-161	125	55	石核	9	L43		12	39.1		1		
IV-161	125	52	石核	9	L43		155	10.8		1		
				9	L44		177	20.7		1		
			剥片	9	L43		205	1.7		1		
				9	M43		867	0.8		1		
			剥片	9	L44		3	18.5		1		
			剥片	9	L44		10	2.8		1		
			剥片	9	L44		71	28.7		1		
				9	M43		501	15.2		1		
				9	M43		635	3.7		1		
			剥片	9	L44		74	5.1		1		
				9	M43		443	1.1		1		
			剥片	9	L44		83	1.7		1		
IV-162	125	57	石核	9	L44		96	27.9		1		
				9	M43		720	52.0		1		
			剥片	9	L44		98	2.6		1		
			剥片	9	L44		103	5.4		1		
			剥片	9	L44		106	2.4		1		
			剥片	9	L44		150	7.4		1		
			剥片	9	L44		163	3.9		1		
			剥片	9	L44		170	4.1		1		
			剥片	9	M43		3	8.2		1		
				9	M43		369	2.7		1		
			剥片	9	M43		19	5.7		1		
				9	M43		21	7.2		1		
			剥片	9	M43		20	2.0		1		
				9	M43		970	3.0		1		
			剥片	9	M43		24	1.0		1		
			剥片	9	M43		29	5.3		1		
			剥片	9	M43		31	3.3		1		
			剥片	9	M43		56	2.0		1		
			剥片	9	M43		69	1.7		1		
			剥片	9	M43		99	4.1		1		
			剥片	9	M43		104	4.2		1		
			剥片	9	M43		128	7.1		1		
			剥片	9	M43		135	3.2		1		
			剥片	9	M43		138	1.7		1		
				9	M43		395	3.2		1		
			剥片	9	M43		163	7.9		1		
IV-158	124	18	二次加工ある剥片	9	M43		177	3.2		1		
			剥片	9	M43		191	2.4		1		
			剥片	9	M43		203	5.7		1		
			剥片	9	M43		205	5.2		1		
			剥片	9	M43		214	10.0		1		
			剥片	9	M43		252	2.9		1		
			剥片	9	M43		275	8.7		1		
			剥片	9	M43		310	1.1		1		
			剥片	9	M43		315	5.5		1		

種図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
			剥片	9	M43		362	2.8		1		
			剥片	9	M43		367	10.6		1		
			剥片	9	M43		390	3.7		1		
			剥片	9	M43		393	1.1		1		
			剥片	9	M43		401	0.7		1		
			剥片	9	M43		405	2.1		1		
			剥片	9	M43		419	16.4		1		
			剥片	9	M43		434	10.8		1		
IV-158	124	9	二次加工ある剥片	9	M43		449	2.7		1		
			剥片	9	M43		502	5.8		1		
			剥片	9	M43		518	3.7		1		
			剥片	9	M43		541	6.8		1		
			剥片	9	M43		602	1.0		1		
				9	M43		611	8.6		1		
			剥片	9	M43		631	2.5		1		
			剥片	9	M43		669	2.3		1		
			剥片	9	M43		680	6.7		1		
			剥片	9	M43		795	4.0		1		
			剥片	9	M43		811	2.1		1		
			剥片	9	M43		835	8.2		1		
			剥片	9	M43		846	3.2		1		
			剥片	9	M43		847	3.0		1		
			剥片	9	M43		924	2.6		1		
IV-170	126	66	接合資料	9				140.5	30	1	89	246
			剥片	9	L43		24	2.3		1		
			剥片	9	L43		137	4.0		1		
				9	M43		608	2.6		1		
			剥片	9	L43		159	2.8		1		
			剥片	9	L44		41	7.5		1		
			剥片	9	L44		126	1.7		1		
IV-158	124	11	二次加工ある剥片	9	L44		148	6.1		1		
					L44	II	10	0.6		1		
IV-158	124	17	二次加工ある剥片	9	M43		35	4.8		1		
IV-158	124	19	二次加工ある剥片	9	M43		62	2.8		1		
			剥片	9	M43		74	5.6		1		
			剥片	9	M43		88	4.4		1		
			剥片	9	M43		112	8.7		1		
			剥片	9	M43		183	15.6		1		
			剥片	9	M43		195	9.6		1		
			剥片	9	M43		197	2.1		1		
				9	M43		577	4.5		1		
			剥片	9	M43		243	5.0		1		
			剥片	9	M43		282	3.4		1		
			剥片	9	M43		337	9.9		1		
			剥片	9	M43		348	6.2		1		
			剥片	9	M43		407	0.7		1		
			剥片	9	M43		509	1.2		1		
				9	M43		724	3.7		1		
			剥片	9	M43		510	5.2		1		
			剥片	9	M43		526	2.7		1		
IV-158	124	13	二次加工ある剥片	9	M43		808	4.6		1		
IV-159	124	37	石核	9	M43		816	8.4		1		
			剥片	9	M43		862	2.9		1		
			剥片	9	M43		1008	0.9		1		
IV-171	127	70	接合資料	9				470.2	91	1	86	242
			剥片	9	K45		4	15.5		1		
			剥片	9	K45		19	3.3		1		
				9	L44		175	1.6		1		
				9	L44		176	1.6		1		
			剥片	9	K45		26	29.9		1		

上白滝8遺跡

挿図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
			剥片	9	L43		6	9.7		1		
				9	M43		231	2.3		1		
			剥片	9	L43		14	4.2		1		
			剥片	9	L43		19	17.2		1		
IV-158	124	25	二次加工ある剥片	9	L43		39	4.4		1		
				9	L43		52	3.6		1		
			剥片	9	L43		44	1.7		1		
				9	M43		295	3.5		1		
			剥片	9	L43		48	10.8		1		
			剥片	9	L43		53	3.0		1		
			剥片	9	L43		58	16.1		1		
			剥片	9	L43		59	1.8		1		
			剥片	9	L43		60	1.4		1		
			剥片	9	L43		66	3.0		1		
			剥片	9	L43		71	2.6		1		
			剥片	9	L43		72	12.5		1		
			剥片	9	L43		76	2.2		1		
			剥片	9	L43		79	2.9		1		
					L43	II	35	0.8		1		
					L44	II	31	1.0		1		
				9	M43		250	10.5		1		
			剥片	9	L43		83	7.9		1		
			剥片	9	L43		96	1.3		1		
			剥片	9	L43		140	1.5		1		
			剥片	9	L43		108	1.5		1		
			剥片	9	L43		124	13.2		1		
			剥片	9	L43		172	1.1		1		
			剥片	9	L43		177	2.2		1		
			剥片	9	L43		208	2.5		1		
			剥片	9	L43		218	8.0		1		
			剥片		L43	II	26	0.5		1		
			剥片		L43	II	37	0.2		1		
			剥片	9	L44		23	2.5		1		
					L44	II	27	1.6		1		
				9	M43		734	1.4		1		
				9	M43		869	0.6		1		
				9	M43		877	8.0		1		
				9	M43		878	2.3		1		
				9	M43		899	1.7		1		
			剥片	9	L44		44	2.0		1		
			剥片	9	L44		51	1.0		1		
				9	M43		50	1.5		1		
			剥片	9	L44		53	22.5		1		
				9	M43		254	1.5		1		
			剥片	9	L44		99	21.2		1		
			剥片	9	L44		129	1.0		1		
			剥片	9	L44		167	5.5		1		
			剥片	9	L44		184	4.9		1		
			剥片	9	M43		2	16.3		1		
				9	M43		15	3.5		1		
			剥片	9	M43		18	2.6		1		
IV-158	124	22	二次加工ある剥片	9	M43		37	5.4		1		
			剥片	9	M43		41	9.1		1		
				9	M43		634	2.3		1		
			剥片	9	M43		66	4.7		1		
			剥片	9	M43		68	3.7		1		
			剥片	9	M43		80	1.5		1		
			剥片	9	M43		107	5.3		1		
			剥片	9	M43		173	4.6		1		
				9	M43		959	2.2		1		
			剥片	9	M43		181	1.0		1		
IV-162	125	56	石核	9	M43		228	35.9		1		
			剥片	9	M43		328	3.4		1		
				9	M43		372	1.4		1		
			剥片	9	M43		368	0.7		1		
			剥片	9	M43		406	2.6		1		
			剥片	9	M43		466	1.8		1		
			剥片	9	M43		467	11.2		1		
			剥片	9	M43		488	2.3		1		
			剥片	9	M43		504	9.1		1		
				9	M43		954	2.0		1		
			剥片	9	M43		549	0.9		1		
			剥片	9	M43		587	4.2		1		
			剥片	9	M43		662	1.2		1		
				9	M43		663	2.9		1		
			剥片	9	M43		682	14.0		1		
			剥片	9	M43		731	1.8		1		
			剥片	9	M43		753	3.2		1		
			剥片	9	M43		755	8.3		1		
			剥片	9	M43		852	1.3		1		
			剥片	9	M43		890	2.2		1		
			剥片	9	M43		891	0.8		1		
			剥片	9	M43		913	1.4		1		
			剥片	9	M43		979	1.4		1		
			剥片		M43	I	6	5.0		1		
			剥片		M43	I	18	2.8		1		
IV-172	127	74	接合資料	9				730.7	145	1	82	229
			剥片	9	K44		7	1.0		1		
			剥片	9	K45		24	1.3		1		
			剥片	9	L43		45	3.1		1		
IV-160	125	47	石核	9	L43		54	3.3		1		
				9	L43		184	17.4		1		
				9	L43		209	2.9		1		
					L44	II	161	9.9		1		
					L44	II	8	1.8		1		
			剥片	9	L43		93	1.2		1		
			剥片	9	L43		102	6.1		1		
IV-160	124	43	石核	9	L43		117	14.5		1		
			剥片	9	L43		131	4.2		1		
				9	M43		530	46.6		1		
			剥片	9	L43		158	11.7		1		
			剥片	9	L43		161	11.8		1		
			剥片	9	L43		164	2.6		1		
				9	M43		903	14.7		1		
			剥片	9	L43		181	9.1		1		
					M43	II	89	0.1		1		
			剥片	9	L43		197	6.1		1		
				9	L43		198	3.4		1		
				9	L43		199	6.0		1		
					L43	II	29	1.0		1		
				9	M43		246	0.8		1		
			剥片	9	L43		217	7.2		1		
			剥片	9	L43		221	5.3		1		
			剥片		L43	II	24	1.2		1		
			剥片		L43	II	40	0.4		1		
IV-160	124	44	石核	9	L44		17	16.9		1		
			剥片	9	L44		40	1.4		1		
					M43	II	53	0.6		1		
			剥片	9	L44		77	10.2		1		
				9	不明	不明		0.5		1		

掲載遺物一覧

種図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
			剥片	9	L44		87	2.1	1			
			剥片	9	L44		89	6.2	1			
			剥片	9	L44		92	1.7	1			
			剥片	9	L44		95	3.9	1			
			剥片	9	M43	II	44	0.6	1			
			剥片	9	L44		113	3.8	1			
			剥片	9	L44		118	4.5	1			
			剥片	9	L44		144	1.1	1			
			剥片	9	L44	II	4	0.8	1			
			剥片	9	M43		108	6.0	1			
			剥片		L44	II	9	0.6	1			
			剥片		L44	II	18	1.0	1			
			剥片		M43	II	60	0.6	1			
			剥片		L44	II	43	1.0	1			
			剥片		L44	II	45	1.2	1			
			剥片	9	M43		865	3.2	1			
			剥片	9	M43		5	7.8	1			
			剥片	9	M43		7	2.9	1			
			剥片	9	M43		581	4.1	1			
			剥片		M43	II	48	0.8	1			
IV-159	124	35	二次加工ある剥片	9	M43		10	4.1	1			
			剥片	9	M43		25	1.9	1			
			剥片	9	M43		28	6.0	1			
			剥片	9	M43		44	2.6	1			
			剥片	9	M43		60	6.7	1			
			剥片	9	M43		61	6.8	1			
			剥片	9	M43		75	2.4	1			
IV-159	124	36	二次加工ある剥片	9	M43		81	6.5	1			
			剥片	9	M43		100	6.8	1			
			剥片	9	M43		103	3.5	1			
			剥片	9	M43		117	5.8	1			
			剥片	9	M43		122	13.4	1			
			剥片	9	M43		125	3.5	1			
			剥片	9	M43		570	4.7	1			
			剥片		M43	II	51	1.0	1			
IV-159	124	34	二次加工ある剥片	9	M43		126	12.1	1			
			剥片	9	M43		134	7.1	1			
			剥片	9	M43		157	13.7	1			
			剥片	9	M43		161	4.5	1			
			剥片	9	M43		168	0.4	1			
			剥片	9	M43		182	8.0	1			
			剥片	9	M43		187	1.3	1			
			剥片	9	M43		194	11.0	1			
			剥片		M43	II	45	0.3	1			
			剥片		M43	II	55	0.2	1			
			剥片	9	M43		251	7.9	1			
			剥片	9	M43		253	0.7	1			
			剥片	9	M43		259	8.1	1			
			剥片	9	M43		276	3.0	1			
			剥片	9	M43		268	2.5	1			
			剥片		M43	II	54	0.3	1			
			剥片	9	M43		284	12.6	1			
IV-161	125	51	石核	9	M43		294	13.9	1			
IV-158	124	27	二次加工ある剥片	9	M43		299	16.3	1			
			剥片	9	M43		302	6.7	1			
IV-158	124	16	二次加工ある剥片	9	M43		306	1.7	1			
			剥片	9	M43		308	1.7	1			
			剥片	9	M43		318	2.4	1			
			剥片	9	M43		326	2.1	1			
			剥片	9	M43		327	1.2	1			

種図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
IV-158	124	23	二次加工ある剥片	9	M43		333	5.7	1			
			剥片	9	M43		356	4.7	1			
			剥片	9	M43		358	10.7	1			
			剥片	9	M43		363	1.8	1			
IV-158	124	26	二次加工ある剥片	9	M43		364	2.9	1			
			剥片	9	M43		821	6.7	1			
			剥片	9	M43		374	1.5	1			
			剥片	9	M43		408	0.6	1			
			剥片	9	M43		431	1.0	1			
			剥片	9	M43		444	21.7	1			
			剥片	9	M43		831	3.5	1			
			剥片	9	M43		447	2.2	1			
			剥片	9	M43		456	13.6	1			
			剥片	9	M43		473	2.5	1			
IV-161	125	54	石核	9	M43		539	22.7	1			
			剥片	9	M43		556	9.1	1			
			剥片		M43	II	75	0.1	1			
			剥片	9	M43		559	4.6	1			
IV-158	124	14	二次加工ある剥片	9	M43		572	2.5	1			
			剥片	9	M43		578	0.9	1			
			剥片	9	M43		603	1.7	1			
			剥片	9	M43		621	1.7	1			
			剥片	9	M43		627	1.5	1			
IV-158	124	21	二次加工ある剥片	9	M43		667	10.2	1			
			剥片	9	M43		685	9.6	1			
IV-158	124	6	二次加工ある剥片	9	M43		691	1.4	1			
			剥片	9	M43		713	6.4	1			
			剥片	9	M43		742	0.8	1			
			剥片	9	M43		747	4.2	1			
			剥片	9	M43		933	1.5	1			
			剥片	9	M43		782	0.6	1			
			剥片	9	M43		797	6.1	1			
			剥片	9	M43		828	1.2	1			
			剥片	9	M43		838	4.6	1			
			剥片	9	M43		855	1.5	1			
			剥片	9	M43		860	9.2	1			
			剥片	9	M43		908	8.1	1			
			剥片	9	M43		910	28.0	1			
			剥片		M43	II	58	0.6	1			
			剥片		M43	I	7	3.8	1			
			剥片		M43	I	8	4.2	1			
			剥片		M43	I	14	3.1	1			
			剥片		M43	I	16	2.7	1			
			剥片		M43	I	22	1.5	1			
			剥片		M43	I	24	1.0	1			
			剥片		M43	II	47	0.4	1			
			剥片		M43	II	49	0.5	1			
			剥片		M43	II	50	0.4	1			
			剥片		M43	II	52	0.8	1			
			剥片		M43	II	68	0.2	1			
			剥片		M43	II	71	0.1	1			
			剥片		M43	II	85	0.5	1			
IV-176	128	91	接合資料	9				4,101.9	154	1・5	83	230
			剥片	9	J45		2	53.8	1			
			剥片	9	J45		4	5.5	1			
			剥片	9	K45		17	10.4	5			
			剥片	9	K45		28	17.4	5			
			剥片	9	J45		5	4.2	1			
			剥片		J46	I	1	8.7	1			
			剥片	9	L44		157	84.1	1			

上白滝8遺跡

挿図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
				9	M43		730	27.0		1		
				9	M43		760	49.7		1		
			剥片	9	K44		1	10.1		5		
				9	L44		132	16.4		1		
			剥片	9	K45		12	7.0		1		
				9	L44		22	3.0		1		
				9	L44		168	11.8		1		
				9	M43		392	3.8		1		
IV-160	125	49	石核	9	K45		21	76.6		1		
				9	M43		340	2.4		1		
			剥片	9	K45		27	2.7		5		
IV-162	125	59	石核	9	L43		1	731.8		1		
			剥片	9	L43		3	10.9		1		
				9	L44		178	11.9		1		
				9	M43		158	23.0		1		
				9	M43		162	24.2		1		
				9	M43		793	1.9		1		
			剥片	9	L43		13	5.2		1		
			剥片	9	L43		21	13.8		1		
			剥片	9	L43		35	132.4		1		
				9	L43		122	5.8		1		
				9	L43		132	9.6		1		
				9	L44		18	2.8		1		
				9	L44		100	12.2		1		
			剥片	9	L43		56	23.5		1		
			剥片	9	L43		94	3.2		1		
				9	M43		486	6.7		1		
			剥片	9	L43		119	20.7		1		
			剥片	9	L43		128	25.2		1		
				9	L43		133	5.6		1		
			剥片	9	L43		144	1.1		1		
				9	L43		156	7.1		1		
				9	L43		201	1.8		1		
				9	L43		212	3.6		1		
				9	L44		13	2.2		1		
				9	L44		27	14.6		1		
				9	L44		63	23.6		1		
				9	L44		135	1.5		1		
				9	L44		146	2.4		1		
				9	L44	II	14	1.3		1		
				9	M43		145	1.2		1		
				9	M43		280	8.4		1		
				9	M43		287	1.2		1		
				9	M43		411	5.6		1		
				9	M43		475	26.1		1		
				9	M43		589	1.7		1		
				9	M43		614	5.1		1		
				9	M43		636	15.6		1		
				9	M43		757	1.5		1		
				9	M43		944	4.6		1		
			剥片	9	L43		167	32.3		1		
				9	M43		896	4.7		1		
IV-160	125	45	石核	9	L43		170	78.0		1		
			剥片	9	L43		178	23.5		1		
IV-161	125	53	石核	9	L43		185	3.6		1		
				9	L43		213	346.6		1		
				9	L43		214	4.6		1		
				9	L44		166	3.7		1		
				9	M43		13	20.2		1		
				9	M43		914	26.3		1		

挿図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
				9	M43		915	5.0		1		
				9	M43		981	33.7		1		
			剥片	9	L43		202	29.2		1		
				9	M43		110	14.5		1		
				9	M43		198	16.1		1		
				9	M43		267	13.9		1		
				9	M43		386	1.8		1		
				9	M43		525	12.9		1		
				9	M43		537	3.3		1		
				9	M43		607	6.6		1		
				9	M43		759	8.1		1		
				9	M43		956	1.7		1		
			剥片	9	L43		207	3.8		1		
			剥片	9	L44		4	10.8		1		
IV-159	124	31	二次加工ある剥片	9	L44		9	5.8		1		
			剥片	9	L44		24	18.9		1		
			剥片	9	L44		61	2.5		1		
				9	M43		159	4.0		1		
			剥片	9	L44		65	4.1		1		
				9	L44		66	3.9		1		
				9	L44	II	7	2.2		1		
				9	M43		91	8.0		1		
				9	M43		147	13.7		1		
				9	M43		150	2.0		1		
				9	M43		240	1.7		1		
				9	M43		321	1.8		1		
				9	M43		323	1.1		1		
				9	M43		461	1.1		1		
				9	M43		494	1.0		1		
IV-160	125	46	石核	9	L44		101	36.5		1		
			剥片	9	L44		156	15.5		1		
			剥片	9	L44		182	3.6		1		
			剥片	9	L44		185	1.6		1		
				9	M43		481	6.6		1		
			剥片	9	M43		12	5.7		1		
			剥片	9	M43		55	5.6		1		
				9	M43		391	1.6		1		
			剥片	9	M43		63	3.1		1		
			剥片	9	M43		71	5.2		1		
				9	M43		82	3.3		1		
			剥片	9	M43		92	71.9		1		
				9	M43		115	28.6		1		
				9	M43		141	14.8		1		
				9	M43		271	18.9		1		
				9	M43		459	43.2		1		
				9	M43		620	6.0		1		
			剥片	9	M43		129	14.0		1		
			剥片	9	M43		131	2.2		1		
			剥片	9	M43		140	26.4		1		
			剥片	9	M43		176	1.2		1		
			剥片	9	M43		209	6.4		1		
			剥片	9	M43		210	37.7		1		
				9	M43		290	5.7		1		
				9	M43		785	20.3		1		
IV-160	125	48	石核	9	M43		211	36.6		1		
				9	M43		516	17.8		1		
			剥片	9	M43		232	2.5		1		
			剥片	9	M43		281	13.2		1		
			剥片	9	M43		298	6.1		1		
			剥片	9	M43		313	8.1		1		

掲載遺物一覧

挿図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
			剥片	9	M43		341	70.0		1		
			剥片	9	M43		365	12.6		1		
			剥片	9	M43		474	5.6		1		
			剥片	9	M43		497	0.9		1		
			剥片	9	M43		507	1.4		1		
			剥片	9	M43		723	1.7		1		
			剥片	9	M43		622	5.8		1		
			剥片	9	M43		668	15.6		1		
			剥片	9	M43		673	1.7		1		
			剥片	9	M43		844	0.9		1		
			剥片	9	M43		681	6.9		1		
			剥片	9	M43		702	3.4		1		
			剥片	9	M43		739	16.3		1		
			剥片	9	M43		714	16.9		1		
			剥片	9	M43		812	14.9		1		
			剥片	9	M43		722	5.1		1		
			剥片	9	M43		761	1.6		1		
			剥片	9	M43		798	1.4		1		
			剥片	9	M43		837	3.4		1		
			剥片	9	M43		854	3.4		1		
			剥片	9	M43		871	8.2		1		
			剥片	9	M43		888	8.5		1		
IV-161	125	50	石核	9	M43		976	63.6		1		
				9	M43		977	29.9		1		
IV-160	125	42	石核	9	M44		1	831.5		5		
			剥片		M45	I	3	127.4		1		
			剥片		不明		不明	1.5		1		
-	130	93	接合資料	9				233.6	60	1	88	245
-	130	95	二次加工ある剥片	9	J45		3	6.7		1		
			剥片	9	K44		13	5.4		1		
			剥片	9	K45		23	3.7		1		
			剥片	9	L43		30	5.5		1		
			剥片	9	L43		33	3.7		1		
			剥片	9	L43		34	1.0		1		
			剥片	9	L43		41	2.5		1		
			剥片	9	L43		50	4.0		1		
			剥片	9	L43		65	3.7		1		
			剥片	9	L43		87	1.4		1		
			剥片	9	L43		101	11.3		1		
			剥片	9	L43		103	1.9		1		
			剥片	9	L43		104	2.3		1		
			剥片	9	L43		106	2.7		1		
			剥片	9	L43		165	5.4		1		
			剥片	9	L44		179	2.2		1		
			剥片	9	L43		168	1.4		1		
			剥片	9	L43		169	2.6		1		
			剥片	9	L43		196	2.6		1		
			剥片	9	L43	II	7	2.1		1		
			剥片	9	L44		32	3.9		1		
			剥片	9	M43		485	1.6		1		
			剥片	9	L44		42	8.3		1		
			剥片	9	M43		370	2.7		1		
			剥片	9	L44		54	3.0		1		
			剥片	9	L44		59	1.4		1		
			剥片	9	L44		120	2.7		1		
			剥片	9	L44		122	1.7		1		
			剥片	9	L44		140	5.7		1		
			剥片	9	L44		183	1.9		1		
			剥片	9	M43		36	2.6		1		
			剥片	9	M43		49	3.1		1		

挿図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
			剥片	9	M43		116	10.3		1		
			剥片	9	M43		170	7.6		1		
			剥片	9	M43		186	2.3		1		
			剥片	9	M43		278	8.7		1		
			剥片	9	M43		213	8.1		1		
			剥片	9	M43		237	3.2		1		
-	130	96	二次加工ある剥片	9	M43		242	9.0		1		
			剥片	9	M43		346	4.8		1		
			剥片	9	M43		415	7.0		1		
			剥片	9	M43		425	2.7		1		
			剥片	9	M43		479	2.1		1		
			剥片	9	M43	II	503	2.9		1		
			剥片	9	M43	II	86	0.5		1		
			剥片	9	M43		543	1.5		1		
			剥片	9	M43		574	5.0		1		
			剥片	9	M43		649	1.5		1		
			剥片	9	M43		651	4.1		1		
			剥片	9	M43	不明	不明	0.3		1		
			剥片	9	M43		745	2.3		1		
			剥片	9	M43		893	1.0		1		
			剥片	9	M43		800	4.6		1		
			剥片	9	M43		928	10.4		1		
			剥片	9	M43		839	8.2		1		
			剥片	9	M43		880	0.7		1		
			剥片	9	M43		886	5.5		1		
			剥片	9	M43		889	3.2		1		
			剥片	9	M43		958	1.7		1		
			剥片	9	M43		951	3.7		1		
-	130	97	接合資料	6・9				223.2	52	1	87	244
IV-70	81	41	石核	6	J59		1044	16.1		1		
			剥片	9	K44		14	19.9		1		
			剥片	9	L43		27	1.9		1		
			剥片	9	L44		76	2.2		1		
			剥片	9	L43		37	0.9		1		
			剥片	9	L43		112	6.7		1		
			剥片	9	L43		49	3.8		1		
			剥片	9	L44		25	1.8		1		
			剥片	9	M43		887	2.6		1		
			剥片	9	L43		70	10.6		1		
IV-158	124	12	二次加工ある剥片	9	L43		97	3.7		1		
			剥片	9	L43		98	1.1		1		
			剥片	9	M43	I	31	1.6		1		
IV-158	124	24	二次加工ある剥片	9	L43		190	5.9		1		
			剥片	9	L43	II	6	0.7		1		
			剥片	9	L44	II	46	8.8		1		
			剥片	9	L44	II	6	0.4		1		
			剥片	9	L43	II	23	1.3		1		
			剥片	9	L44	II	12	1.7		1		
			剥片	9	M43	II	617	3.1		1		
			剥片	9	M43	II	842	1.0		1		
			剥片	9	M43	II	90	0.9		1		
IV-158	124	28	二次加工ある剥片	9	L44		14	2.6		1		
			剥片	9	L44		45	15.3		1		
			剥片	9	L44		78	2.6		1		
IV-158	124	15	二次加工ある剥片	9	L44		153	2.4		1		
IV-158	124	29	二次加工ある剥片	9	L44		162	3.0		1		
			剥片	9	M43		450	2.2		1		
			剥片	9	M43		462	1.7		1		
			剥片	9	L44		171	4.9		1		
			剥片	9	L44	II	19	0.9		1		

上白滝8遺跡

挿図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
			剥片		L44	II	23	0.4		1		
			剥片	9	M43		57	0.7		1		
			剥片	9	M43		105	4.9		1		
				9	M43		508	8.0		1		
				9	M43		822	10.6		1		
			剥片	9	M43		223	2.3		1		
				9	M43		412	3.0		1		
				9	M43		422	11.6		1		
				9	M43		426	10.2		1		
			剥片	9	M43		241	1.4		1		
				9	M43		343	3.5		1		
			剥片	9	M43		506	2.3		1		
			剥片	9	M43		540	4.5		1		
			剥片	9	M43		547	1.0		1		
			剥片	9	M43		592	9.6		1		
			剥片	9	M43		650	2.9		1		
			剥片	9	M43		765	1.9		1		
			剥片	9	M43		848	5.0		1		
			剥片	9	M43		864	1.0		1		
			剥片	9	M43		997	5.3		1		
			剥片		M43	II	70	0.8		1		
IV-186	132	36	接合資料	10				352.7	43	1	73	180
			剥片	10	M47		39	3.7		1		
			剥片	10	N47		50	3.0		1		
			剥片	10	N47		78	2.4		1		
			剥片	10	N47		81	3.5		1		
			剥片	10	N47		83	16.2		1		
			剥片	10	N47		92	1.0		1		
					O47	II	21	1.1		1		
			剥片	10	N47		105	62.1		1		
			剥片	10	N47		109	5.1		1		
			剥片	10	N47		110	18.3		1		
			剥片	10	N47		116	16.1		1		
			剥片	10	N47		121	1.4		1		
			剥片	10	N47		143	2.2		1		
			剥片	10	N47		163	47.8		1		
					N47	II	28	0.3		1		
			剥片	10	N47		168	3.8		1		
			剥片	10	N47		198	13.3		1		
			剥片	10	N47		199	2.1		1		
			剥片		N47	I	6	3.7		1		
			剥片		N47	I	7	1.8		1		
			剥片		N47	II	17	0.6		1		
			剥片		N47	II	19	0.1		1		
			剥片		N47	II	37	0.7		1		
			剥片	10	N48		33	30.1		1		
					N48	II	10	0.8		1		
			剥片	10	N48		69	2.0		1		
			剥片	10	N48		91	2.7		1		
			剥片	10	N48		150	3.0		1		
				10	O48		55	8.3		1		
			剥片		N48	II	36	0.5		1		
			剥片		N48	II	51	0.3		1		
			剥片	10	O47		65	1.3		1		
			剥片		O47	II	13	0.8		1		
			剥片	10	O48		53	1.4		1		
			剥片	10	O48		59	0.6		1		
			剥片	10	O48		65	13.7		1		
			剥片	10	O48		162	5.7		1		
			剥片	10	O48		226	6.8		1		

挿図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
			剥片	10	O48		206	3.3		1		
			剥片	10	O48		215	9.3		1		
IV-183	131	35	石核	10	O48		216	50.4		1		
			剥片		O48	II	23	0.8		1		
			剥片		O48	II	25	0.6		1		
-	132	37	接合資料	10				42.9	11	1	76	187
			剥片		M48	II	5	0.5		1		
-	132	39	石核	10	N47		30	8.4		1		
-	132	40	石核	10	N48		25	14.8		1		
-	132	38	錐形石器		N48	I	6	2.5		1		
					N48	II	61	0.1		1		
			剥片	10	O47		100	2.8		1		
					O47	II	15	0.4		1		
			剥片	10	O48		14	9.4		1		
				10	O48		46	2.9		1		
			剥片		O48	II	4	1.0		1		
			剥片		O48	III	10	0.1		1		
-	132	41	接合資料	10				70.4	14	2	480	194
			剥片	10	N47		122	6.5		2		
			剥片	10	N48		4	1.3		2		
					N48	I	42	2.8		2		
			剥片	10	N48		12	5.3		2		
			剥片	10	N48		64	2.0		2		
			剥片	10	N48		65	1.5		2		
			剥片	10	N48		135	1.5		2		
					N48	II	35	1.3		2		
-	132	42	削器	10	N48		145	18.0		2		
			剥片		N48	I	8	6.4		2		
			剥片		N48	I	53	0.7		2		
			剥片	10	O48		237	18.2		2		
			剥片		O48	II	26	3.1		2		
			剥片		P48	I	11	1.8		2		
-	132	43	接合資料	10				171.3	32	1・5	77	189
			剥片	10	M48		52	2.5		1		
				10	N47		101	7.5		1		
				10	N48		30	2.1		1		
				10	N48		61	18.2		1		
				10	O47		33	21.3		5		
			剥片		M48	II	8	0.3		1		
-	132	45	二次加工ある剥片	10	N47		40	3.9		1		
			剥片	10	N47		76	12.5		1		
			剥片	10	N47		113	0.9		1		
				10	N48		76	3.3		1		
			剥片		N47	I	32	5.7		1		
					N47	I	33	2.3		1		
					N47	I	35	13.1		1		
			剥片		N47	II	46	1.1		1		
				10	N48		95	7.6		1		
					N48	II	46	0.8		1		
			剥片	10	N48		26	1.3		1		
			剥片	10	N48		62	2.0		1		
				10	N48		153	1.8		1		
			剥片	10	N48		68	3.7		1		
			剥片	10	N48		105	0.8		1		
			剥片	10	N48		113	5.4		1		
-	132	44	二次加工ある剥片		N48	I	49	5.0		1		
					N48	I	64	2.1		1		
					N48	II	48	0.9		1		
			剥片		N48	I	62	2.6		1		
			剥片		N48	I	63	2.7		1		

掲載遺物一覧

挿図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
					O48	Ⅲ	36	0.8		1		
			剥片	10	N48	I	65	4.9		1		
					O47		88	2.9		1		
			剥片		N48	Ⅱ	32	1.4		1		
			剥片		N48	Ⅱ	54	0.5		1		
-	132	46	石核	10	O47		101	9.8		1		
			剥片		O47	Ⅱ	26	0.7		1		
				10	O48		232	12.8		1		
			剥片	10	O48		71	11.1		1		
			剥片	10	O48		154	31.6		5		
			剥片	10	O48		243	15.3		1		
-	132	47	接合資料	10				35.1	3	1	78	190
			剥片	10	N47		80	1.7		1		
				10	N48		103	10.1		1		
			剥片	10	N47		87	14.3		1		
			剥片		N47	I	5	24.2		1		
			剥片	10	O48		76	174.7		1		
				10	O48		77	3.5		1		
				10	O48		78	5.1		1		
				10	O48		127	4.4		1		
				10	O48		128	1.6		1		
			剥片	10	O48		134	31.1		1		
			剥片	10	O48		164	1.2		1		
			剥片	10	O48		205	2.8		1		
IV-195	135	52	接合資料	12				47.0	5	1	-	302
IV-188	134	35	石核	12	O44		12	12.2		1		
			剥片	12	P44		5	4.0		1		
			剥片	12	Q42		125	9.0		1		
			剥片	12	Q43		14	7.0		1		
IV-188	133	30	石核	12	Q44		1	14.8		1		
IV-195	135	55	接合資料	12				221.3	30	1	462	285
IV-187	133	11	二次加工ある剥片	12	O43		24	5.7		1		
			剥片	12	O43		33	13.4		1		
			剥片	12	O43		40	3.7		1		
			剥片		O43	I	3	7.4		1		
				12	Q42		42	1.7		1		
			剥片	12	O44		9	13.7		1		
			剥片		O44	I	9	1.8		1		
			剥片	12	P42		6	22.8		1		
IV-190	134	48	石核		P42	I	2	50.8		1		
			剥片		P42	I	17	14.7		1		
			剥片		P42	I	31	1.0		1		
-	135	76	縦長剥片	12	P43		36	3.6		1		
					P43	I	16	1.1		1		
			剥片		P43	I	23	0.5		1		
				12	Q43		8	0.6		1		
			剥片	12	Q42		6	1.4		1		
				12	Q42		7	1.5		1		
			剥片	12	Q42		104	2.5		1		
			剥片	12	Q42		106	4.9		1		
			剥片	12	Q42		113	8.8		1		
-	135	78	縦長剥片	12	Q42		126	10.1		1		
-	135	77	縦長剥片	12	Q42		201	16.1		1		
-	135	75	縦長剥片	12	Q42		204	1.5		1		
			剥片		Q42	I	4	10.3		1		
			剥片		Q42	I	11	0.4		1		
			剥片		Q42	I	24	1.4		1		
			剥片		Q42	I	25	4.6		1		
			剥片		Q42	Ⅱ	28	0.6		1		
			剥片		Q42	Ⅱ	29	0.6		1		

挿図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
-	135	79	縦長剥片		S41	I	1	14.1		1		
IV-196	135	56	接合資料	12				148.4	18	1	459	278
			剥片	12	O43		16	4.2		1		
IV-187	133	14	二次加工ある剥片	12	P42		68	9.0		1		
			剥片		P42	I	32	0.9		1		
-	135	80	縦長剥片		P42	I	34	21.7		1		
IV-187	133	16	二次加工ある剥片	12	P43		2	9.7		1		
			剥片		P43	I	13	4.5		1		
			剥片		P44	I	19	5.2		1		
			剥片	12	Q41		1	19.4		1		
IV-187	133	2	二次加工ある剥片	12	Q41		24	5.3		1		
			剥片	12	Q42		31	3.0		1		
IV-187	133	12	二次加工ある剥片	12	Q42		47	10.0		1		
			剥片	12	Q42		48	2.5		1		
			剥片	12	Q42		156	3.3		1		
			剥片	12	Q42		184	2.9		1		
			剥片	12	Q43		31	2.5		1		
IV-187	133	13	二次加工ある剥片		Q43	I	11	16.0		1		
IV-187	133	9	二次加工ある剥片	12	R42		2	12.9		1		
IV-187	133	15	二次加工ある剥片	12	R42		18	15.4		1		
IV-196	136	57	接合資料	11・12・13				415.9	35	1	463	287
			剥片	12	O43		48	5.8		1		
			剥片	12	O43		69	1.5		1		
			剥片		O43	I	9	2.5		1		
			剥片	12	P41		1	14.8		1		
			剥片	12	P42		1	47.4		1		
IV-188	133	29	石核	12	P42		42	12.3		1		
			剥片	12	P42		76	9.3		1		
			剥片		P42	I	4	18.6		1		
			剥片		P42	I	10	12.9		1		
			剥片		P42	I	28	2.0		1		
			剥片		P42	I	33	7.8		1		
			剥片		P42	I	35	11.4		1		
IV-187	133	10	二次加工ある剥片	12	P43		12	15.4		1		
			剥片	12	P43		31	14.1		1		
			剥片	12	P43		41	3.1		1		
			剥片	12	P43		67	10.9		1		
					P43	I	1	12.3		1		
					Q42	I	21	14.4		1		
			剥片		P43	I	25	2.1		1		
			剥片	12	P44		26	6.6		1		
IV-190	134	49	石核	11	P45		4	74.5		1		
			剥片	12	Q42		101	2.6		1		
			剥片	12	Q42		120	2.7		1		
			剥片	12	Q42		123	3.4		1		
			剥片	12	Q42		124	4.1		1		
			剥片	12	Q42		179	8.5		1		
			剥片	12	Q42		208	2.6		1		
			剥片		Q42	I	17	36.8		1		
			剥片		Q42	I	34	1.9		1		
			剥片	12	Q43		6	3.3		1		
IV-190	134	47	石核	12	Q43		10	11.6		1		
			剥片	12	Q43		12	6.7		1		
			剥片	12	Q43		15	9.9		1		
			剥片	12	Q43		20	6.3		1		
			剥片	13	S41		19	15.8		1		
-	136	81	接合資料	12				102.1	9	1	471	295
			剥片	12	O43		9	23.9		1		
			剥片	12	O43		45	6.7		1		
			剥片	12	O43		52	7.9		1		

上白滝8遺跡

種別	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
			石核		P42	I	1	29.2		1		
			剥片	12	P43		47	3.9		1		
			石核	12	P43		60	12.3		1		
-	136	82	縦長剥片		Q42	I	32	5.0		1		
			剥片	12	R42		28	5.6		1		
			剥片	12	R43		5	7.6		1		
-	136	83	接合資料	12				54.3	3	碧1	478	343
IV-189	134	38	石核	12	P42		3	45.8		碧1		
-	136	85	剥片	12	Q42		20	5.8		碧1		
-	136	84	剥片	12	Q42		95	2.7		碧1		
-	136	86	接合資料	12				87.5	8	1	460	281
			石核	12	O43		1	37.0		1		
			剥片		P42	I	11	11.5		1		
			剥片		P43	I	3	8.4		1		
			剥片	12	Q42		129	1.7		1		
			剥片	12	Q43		11	3.8		1		
IV-187	133	4	二次加工ある剥片	12	Q42		206	7.5		1		
			剥片	12	Q42		209	5.5		1		
			剥片	12	Q43		9	12.1		1		
IV-199	137	61	接合資料	11-12-13				2,038.0	40	1	466	290
			剥片		O42	I	1	103.4		1		
			剥片	12	P42		4	20.8		1		
			剥片	12	P42		52	50.8		1		
			剥片	12	P42		7	18.2		1		
			剥片	12	P42		13	272.5		1		
			剥片	12	P42		26	61.5		1		
			剥片	12	P42		46	25.1		1		
			剥片	12	P42		49	22.6		1		
			剥片	12	P42		48	10.8		1		
			剥片	12	P42		62	44.4		1		
-	137	87	縦長剥片	12	P42		74	60.1		1		
			剥片	12	P42		82	14.2		1		
			剥片	12	P43		10	6.0		1		
			剥片	12	Q42		17	2.9		1		
			剥片	12	P43		15	926.9		1		
			剥片	12	P43		20	3.9		1		
IV-189	134	39	石核	11	P46		6	2.1		1		
			剥片	12	Q41		13	3.3		1		
			剥片	12	Q42		10	29.8		1		
			剥片	12	Q42		12	7.6		1		
			剥片	12	R41		9	4.3		1		
			剥片	12	Q42		71	2.1		1		
			剥片	12	Q42		78	36.7		1		
			剥片	12	Q42		79	37.7		1		
			剥片	12	Q42		137	4.6		1		
			剥片	12	Q42		82	23.6		1		
			剥片	12	Q42		146	1.2		1		
			剥片	12	Q42		85	20.1		1		
			剥片	12	Q42		200	6.6		1		
			剥片	12	Q42		122	6.9		1		
			剥片		Q42	I	14	1.3		1		
			剥片	12	R41		6	33.5		1		
			剥片	12	R41		8	79.4		1		
IV-188	133	32	石核	13	S41		1	34.9		1		
			剥片	13	S41		3	8.8		1		
IV-188	133	31	石核	13	S41		4	22.1		1		
			剥片	13	S41		15	4.1		1		
			剥片	13	S41		22	13.9		1		
			剥片	13	S41		23	2.2		1		
			剥片	13	S41		31	7.1		1		

種別	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
IV-201	138 139	88	接合資料	11・12				8,193.1	122	1・5	465	289
			剥片	12	O43		21	12.6		1		
			剥片	12	O43		38	1.0		1		
			剥片	12	P42		22	34.1		1		
			剥片	12	P42		27	41.8		1		
			剥片	12	P42		60	9.0		1		
			剥片	12	O43		44	10.0		1		
			剥片	12	R42		51	906.2		5		
			剥片	12	O43		50	9.7		1		
IV-187	133	17	二次加工ある剥片	12	O43		56	26.4		1		
IV-187	133	21	二次加工ある剥片	12	O43		59	9.3		1		
			剥片	12	O43		60	307.7		1		
			剥片	12	P43		64	14.0		1		
			剥片	12	Q42		25	409.8		1		
			剥片	12	O44		7	11.6		1		
			剥片	12	Q42		102	1.7		1		
			剥片	11	O47		8	474.3		1		
			剥片	12	Q42	I	16	8.3		1		
			剥片	12	P42		9	14.6		1		
			剥片	12	Q42		186	6.3		1		
			剥片	12	P42		10	91.5		1		
			剥片	12	P42		23	8.7		1		
			剥片	12	Q42	I	31	8.4		1		
			剥片	12	P42		25	21.8		1		
IV-190	134	46	石核	12	P42		29	200.1		5		
			剥片	12	P42		32	2.7		1		
			剥片	12	P42		58	775.7		1		
			剥片	12	P42		59	7.0		1		
			剥片	12	P42		63	297.5		1		
			剥片	12	Q42		131	36.2		1		
IV-189	134	43	石核	12	P42		40	195.7		1		
			剥片	12	P42		45	1.9		1		
			剥片	12	P42		53	235.7		1		
			剥片	12	P42		54	63.1		1		
			剥片	12	Q41		5	8.4		1		
			剥片	12	Q41		8	68.7		1		
			剥片	12	Q42	I	6	10.0		1		
			剥片	12	P42		56	122.1		1		
			剥片	12	P42		61	7.5		1		
			剥片	12	P42		64	109.5		1		
			剥片		P42	I	12	3.8		1		
-	140	93	縦長剥片		P42	I	14	12.2		1		
			剥片		P42	I	15	10.0		1		
			剥片		P42	I	20	8.3		1		
IV-187	133	7	二次加工ある剥片	12	P43		4	9.4		1		
			剥片	12	P43		13	4.5		1		
			剥片	12	P43		16	4.1		1		
			剥片	12	P43		17	12.9		1		
			剥片	12	Q41		3	7.7		1		
			剥片	12	R42		30	5.8		1		
			剥片	12	P43		25	2.6		1		
			剥片	12	Q41		6	9.9		1		
			剥片	12	P43		28	3.1		1		
			剥片	12	P43	I	6	11.7		1		
			剥片	12	P43		34	12.6		1		
			剥片	12	Q41		16	27.3		1		
			剥片	12	P43		45	18.8		1		
IV-188	133	24	二次加工ある剥片	12	P43		52	21.0		1		
			剥片	12	P43		54	5.0		1		
			剥片	12	P43		55	21.5		1		

掲載遺物一覧

挿図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
			剥片	12	P43		56	5.3	1			
			剥片	12	P43		59	8.3	1			
			剥片	12	P43		61	44.2	1			
IV-188	133	23	二次加工ある剥片	12	P43		65	8.9	1			
-	141	94	縦長剥片		P43	I	4	5.6	1			
			剥片		P43	I	5	14.8	1			
			剥片		P43	I	7	4.0	1			
			剥片		P43	I	11	5.5	1			
				12	Q42		180	10.7	1			
IV-187	133	8	二次加工ある剥片	12	P44		17	7.6	1			
IV-190	134	51	石核	11	P47		3	86.7	1			
				11	P47		98	6.6	1			
				11	P47		179	71.0	1			
			剥片		Q40		1	33.7	1			
			剥片	12	Q41		19	1.1	1			
IV-189	134	41	石核	12	Q41		23	44.4	1			
				12	Q42		87	5.1	1			
			剥片	12	Q41		29	1,057.5	1			
			剥片		Q41	I	1	12.6	1			
			剥片	12	Q42		2	33.2	1			
			剥片	12	Q42		3	4.3	1			
-	140	91	縦長剥片	12	Q42		9	31.7	1			
			剥片	12	Q42		26	25.8	1			
				12	Q42		144	165.0	1			
					Q42	I	5	101.4	1			
IV-189	134	40	石核	12	Q42		27	43.4	1			
			剥片	12	Q42		53	2.1	1			
			剥片	12	Q42		70	10.1	1			
IV-187	133	6	二次加工ある剥片	12	Q42		86	8.6	1			
			剥片	12	Q42		107	1.5	1			
			剥片	12	Q42		119	10.2	1			
			剥片	12	Q42		130	234.6	1			
				12	Q42		210	165.6	1			
			剥片	12	Q42		157	5.1	1			
			剥片	12	Q42		167	0.9	1			
			剥片	12	Q42		175	19.6	1			
			剥片	12	Q42		177	22.6	1			
			剥片	12	Q42		185	10.1	1			
-	141	95	縦長剥片	12	Q42		190	1.7	1			
			剥片		Q42	I	8	12.7	1			
-	141	96	縦長剥片		Q42	I	9	9.3	1			
			剥片		Q42	I	15	10.7	1			
			剥片		Q42	I	22	8.9	1			
			剥片	12	Q43		35	19.7	1			
-	140	90	縦長剥片	12	Q43		37	4.9	1			
				12	Q43		40	4.2	1			
			剥片	12	Q43		39	8.0	1			
			剥片	12	Q43		41	13.1	1			
			剥片		Q43	I	2	10.4	1			
			剥片		Q43	I	3	9.9	1			
			剥片		Q43	I	4	17.2	1			
			剥片		Q43	I	5	11.4	1			
			剥片		Q43	I	6	6.4	1			
			剥片		Q43	I	8	15.4	1			
			剥片		Q43	I	10	1.2	1			
IV-189	134	45	石核	12	R41		1	113.9	1			
			剥片	12	R41		3	19.2	1			
IV-188	134	34	石核	12	R42		4	179.6	5			
-	140	89	縦長剥片	12	R42		35	6.2	1			
IV-189	134	44	石核	12	R42		36	405.8	5			

挿図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
IV-188	134	33	石核	12	R42		50	73.5	5			
IV-189	134	42	石核		B調		140	99.4	1			
			剥片		B調		141	8.2	1			
IV-258	169	368	接合資料	17・19				648.7	54	1・5	163	1194
			剥片	17	K62		13	10.3	1			
			剥片	17	K62		304	7.6	1			
				17	L62		265	17.3	5			
			剥片	17	K62		456	4.8	1			
				L62	I	26	6.7	1				
				L62	I	27	1.9	1				
			剥片	17	K62		607	8.4	1			
				17	K62		668	1.5	1			
			剥片	17	K62		670	11.6	1			
				K62	I	26	10.8	1				
			剥片	17	K63		5	13.7	1			
			剥片		K63	I	48	12.6	1			
				17	K64		77	11.0	1			
				19	L62		756	5.8	5			
			剥片		K63	I	49	1.3	1			
			剥片		K63	I	50	4.3	1			
			剥片		K63	I	51	4.7	1			
			剥片	17	K64		5	13.4	5			
				K64	I	4	2.0	1				
				L62	I	33	3.1	1				
			剥片	17	K64		12	3.2	1			
			剥片	17	K64		45	1.0	1			
			剥片	17	K64		51	2.6	1			
			剥片	19	L61		319	4.2	1			
				19	L64		28	12.1	5			
IV-214	148	30	尖頭器	19	L61		320	240.7	1			
			剥片	19	L61		331	34.0	1			
			剥片	19	L62		22	4.3	5			
			剥片	17	L62		85	1.5	5			
			剥片	19	L62		101	1.6	5			
			剥片	19	L62		169	10.1	5			
				17	L62		280	5.7	1			
			剥片	17	L62		173	7.2	5			
			剥片	17	L62		175	5.0	5			
				17	L62		279	1.1	5			
			剥片	19	L62		185	13.1	5			
			剥片	19	L62		365	6.2	5			
				19	L62		491	1.4	5			
			剥片	17	L62		419	26.5	1			
			剥片	19	L62		429	10.4	5			
			剥片	19	L62		431	24.8	1			
			剥片	19	L62		497	0.7	5			
			剥片	17	L62		505	3.6	5			
			剥片	19	L62		635	8.0	5			
				L62	I	34	1.0	1				
			剥片	19	L62		729	2.0	5			
				L62	I	28	24.3	1				
			剥片	19	L62		815	5.3	5			
			剥片		L62	I	25	20.1	1			
			剥片		L62	I	35	2.7	1			
			剥片		L62	I	36	1.1	1			
			剥片	19	L63		409	1.0	5			
			剥片		L63	I	26	7.5	1			
			剥片	19	L64		80	1.9	5			
IV-259	168	369	接合資料	17・18				3,488.6	168	1・3・4・5	144	1154
			剥片	18	L60		93	237.8	4			

上白滝8遺跡

挿図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
					J61	I	66	2.0		4		
			剥片	18	I60		119	198.4		4		
			剥片	18	I61		108	257.7		4		
					不明		不明	123.5		4		
			剥片	17	J61		23	4.8		4		
					K61		5	3.2		4		
			剥片	17	J61		29	39.9		4		
					K61		20	4.4		4		
			剥片	17	J61		30	3.5		4		
			剥片	17	J61		33	4.6		1		
			剥片	17	J61		38	8.3		4		
			剥片	17	J61	I	43	0.9		3		
					J61		17	3.6		4		
					J62		113	6.9		3		
					K61		35	5.1		4		
					K61	Ⅲ	18	1.3		4		
			剥片	17	J61		48	24.3		4		
					J62		307	2.0		3		
			剥片	17	J61		49	8.1		4		
					J61		257	1.8		4		
			剥片	17	J61		61	1.0		4		
			剥片	17	J61		90	1.7		4		
					J61		294	1.3		4		
			剥片	17	J61		98	7.0		4		
			剥片	17	J61		99	11.0		4		
			剥片	17	J61		110	14.2		3		
					J62	I	66	12.7		3		
			剥片	17	J61		131	3.9		4		
					J62		296	2.1		3		
			剥片	17	J61		146	2.6		1		
					J61		279	5.6		4		
					J62		335	1.8		3		
			剥片	17	J61		175	30.5		4		
			剥片	17	J61		181	2.7		4		
			剥片	17	J61		187	6.7		4		
					J61		310	5.7		3		
					J61		350	15.8		3		
					J61	I	9	11.6		4		
			剥片	17	J61		195	0.6		4		
			剥片	17	J61		205	19.6		4		
					J62	I	27	5.5		4		
			剥片	17	J61		230	12.8		4		
			剥片	17	J61		243	25.2		4		
					J62		261	12.7		4		
			剥片	17	J61		251	2.8		4		
			剥片	17	J61		254	8.3		4		
			剥片	17	J61		290	3.4		4		
			剥片	17	J61		299	2.7		4		
			剥片	17	J61		305	6.2		4		
			剥片	17	J61		306	9.3		4		
			剥片	17	J61		315	6.9		3		
					J61	I	22	10.4		4		
			剥片	17	J61		318	23.2		4		
			剥片	17	J61		325	7.2		4		
			剥片	17	J61		327	4.5		3		
					J61		351	5.4		3		
					J62	I	38	5.4		4		
			剥片	17	J61		329	3.0		3		
					J62	I	48	9.2		4		
			剥片	17	J61		335	27.5		4		

挿図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
			剥片	17	J61		345	23.1		4		
					K61		101	30.2		4		
			剥片	17	J61		352	10.9		4		
			剥片	17	J61		372	30.3		4		
					J62		308	12.4		3		
					K61		186	13.2		4		
			剥片	17	J61		396	2.3		1		
			剥片	17	J61		416	7.2		4		
			剥片	17	J61		421	1.6		4		
			剥片	17	J61		425	4.6		3		
			剥片		J61	I	8	9.0		4		
					K61	I	2	11.3		4		
			剥片		J61	I	10	119.7		4		
			剥片		J61	I	11	1.8		4		
			剥片		J61	I	15	6.0		4		
					J62	I	14	4.6		1		
					K61	Ⅱ	56	2.8		4		
			剥片		J61	I	16	9.6		4		
					J62		185	5.3		3		
					J62	I	25	6.7		4		
					K61		83	20.2		4		
			剥片		J61	I	19	4.9		4		
			剥片		J61	I	20	26.8		4		
					J62	I	47	57.5		4		
			剥片		J61	I	33	4.2		4		
					K61	I	9	3.5		4		
			剥片		J61	I	34	4.1		4		
			剥片		J61	I	40	3.8		4		
			剥片	17	J62		29	58.3		3		
					七北60 ~65		93	32.9		3		
			剥片	17	J62		45	3.6		4		
					J62		158	5.3		4		
			剥片	17	J62		54	89.6		3		
			剥片	17	J62		78	46.7		4		
			剥片	17	J62		80	1.7		3		
			剥片	17	J62		81	11.6		3		
					J62		336	3.5		3		
					J62	I	50	26.3		4		
					K61		87	17.0		4		
					K62		774	41.7		5		
			剥片	17	J62		117	15.2		4		
			剥片	17	J62		129	2.9		3		
					J62	I	67	3.3		3		
					J62	I	68	3.0		3		
					K61		46	3.3		4		
			剥片	17	J62		237	5.4		4		
					K61	Ⅲ	22	1.0		4		
			剥片	17	J62		267	6.8		3		
			剥片	17	J62		271	2.3		3		
					K60		33	3.2		1		
			剥片	17	J62		300	3.8		3		
					J63		812	15.2		4		
					K62		782	4.9		4		
			剥片	17	J62		328	9.5		4		
			剥片	17	J62		362	13.3		3		
			剥片	17	J62		394	2.9		3		
			剥片	17	J62		410	3.4		3		
			剥片	17	J62		449	19.2		3		
			剥片	17	J62		548	37.6		3		
					K61		6	19.9		4		

掲載遺物一覧

種図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
			剥片	17	J62		604	14.3		5		
			剥片		J62	I	17	9.2		4		
			剥片		J62	I	20	4.1		4		
					排土		99	10.1		3		
			剥片		J62	I	28	43.2		4		
				17	K61		174	14.1		4		
			剥片		J62	I	29	3.7		4		
			剥片		J62	I	30	22.8		4		
			剥片		J62	I	35	31.5		4		
			剥片		J62	I	43	15.4		4		
			剥片		J62	I	45	3.9		4		
				17	K61		244	9.3		4		
			剥片		J62	I	46	1.7		4		
				17	K61		294	4.0		5		
			剥片		J62	I	51	11.5		4		
			剥片	17	J63		92	9.0		5		
				17	K61		154	51.2		4		
				17	K61		221	7.5		5		
				17	K62		507	33.1		5		
				17	K62		578	11.1		5		
					七北60 ~85		92	95.1		3		
			剥片	17	K60		111	11.4		4		
			剥片	17	K61		4	3.4		4		
			剥片	17	K61		19	8.1		4		
					K63	I	24	4.1		4		
			剥片	17	K61		25	4.4		4		
			剥片	17	K61		36	3.7		4		
			剥片	17	K61		107	2.6		4		
				17	K61		109	3.1		4		
			剥片	17	K61		162	1.6		4		
			剥片	17	K61		185	4.4		4		
			剥片	17	K61		234	3.5		4		
				17	K62		206	11.5		4		
			両面調整石器	17	K61		247	240.2		4		
					K61	I	1	98.8		4		
			剥片	17	K61		278	4.3		5		
			剥片	17	K61		279	5.5		4		
			剥片	17	K61		290	9.3		4		
			剥片		K61	I	3	4.0		4		
			剥片		K61	I	4	3.1		4		
			剥片		K61	Ⅲ	20	1.2		4		
			剥片	17	K62		435	6.2		4		
					K62	Ⅲ	15	3.1		4		
			剥片	17	K64		3	192.9		4		
			剥片		七北60 ~85		90	28.3		3		
			剥片		七北60 ~85		94	19.9		3		
			剥片		七北60 ~85		95	160.5		3		
IV-263	169	370	接合資料	17				30.0	5	1	-	2640
IV-219	151	161	細石刃核削片	17	I64		902	9.9		1		
					I64	II	310	2.7		1		
IV-216	149	114	細石刃核	17	I64	I	5	14.0		1		
IV-219	151	168	細石刃核削片		I64	I	40	1.6		1		
					I64	III	323	1.8		1		
IV-263	169	371	接合資料	17				15.3	4	1	-	2642
IV-221	152	183	細石刃核削片		I64	II	306	1.1		1		
				17	J63		700	7.4		1		
IV-216	149	106	細石刃核	17	J64		80	4.1		1		
IV-222	153	214	細石刃核削片	17	J64		315	2.7		1		
IV-263	169	372	接合資料	17				10.2	2	1	-	2644
IV-222	153	218	細石刃核削片		I64	I	27	3.4		1		

種図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
IV-216	149	105	細石刃核	17	J62		440	6.8		1		
IV-264	169	373	接合資料	17				17.9	2	1	-	2748
IV-216	149	109	細石刃核	17	J63		463	9.3		1		
IV-579	374	47	細石刃核削片	斜	R66	土	6	8.6		1		
IV-264	170	374	接合資料	17				16.3	7	1	-	2639
IV-216	149	111	細石刃核	17	I64		941	7.2		1		
IV-223	153	229	細石刃核削片		I64	I	17	4.1		1		
					I64	II	502	1.3		1		
IV-219	151	162	細石刃核削片		I64	II	318	1.6		1		
					I64	III	333	1.5		1		
IV-221	152	189	細石刃核削片		I64	II	489	0.3		1		
					I64	II	544	0.3		1		
IV-264	170	375	接合資料	17				28.6	6	1・5	157	1186
IV-216	149	122	細石刃核	17	I64		548	19.3		1		
IV-219	151	160	細石刃核削片		I64	I	16	4.3		5		
IV-219	151	156	細石刃核削片		I64	II	307	2.7		5		
IV-222	153	215	細石刃核削片		I64	II	435	0.4		1		
					I64	II	477	0.8		1		
IV-219	151	154	細石刃核削片		I64	II	446	1.1		1		
IV-265	170	376	接合資料	17				28.9	5	1・5	-	2645
IV-219	151	166	細石刃核削片	17	J63		154	2.3		1		
					J63	I	40	0.9		5		
IV-221	152	192	細石刃核削片	17	J63		769	1.4		1		
IV-216	149	124	細石刃核	17	J64		60	11.1		5		
				17	K63		211	13.2		5		
IV-265	170	377	接合資料	17				74.7	6	1	-	2637
IV-217	149	125	細石刃核		H65	I	1	52.4		1		
IV-220	151	173	細石刃核削片	17	I64		283	10.8		1		
IV-220	151	170	細石刃核削片	17	I64		510	6.8		1		
IV-220	151	172	細石刃核削片		I64	I	213	1.4		1		
					I64	I	219	1.1		1		
					I64	II	314	2.2		1		
IV-266	170	378	接合資料					65.7	4	1	-	2638
IV-221	152	190	細石刃核削片		H64	I	4	1.3		1		
IV-217	150	127	細石刃核		I64	I	6	59.3		1		
IV-218	151	146	細石刃核削片		I64	I	31	2.3		1		
IV-221	152	191	細石刃核削片		I64	I	36	2.8		1		
IV-266	170	379	接合資料	17				125.7	6	1	-	2643
IV-217	150	128	細石刃核		I64	I	7	91.0		1		
IV-222	152	204	細石刃核削片	17	J63		376	14.1		1		
IV-223	153	221	細石刃核削片	17	J63		758	4.6		1		
				17	J65		607	12.4		1		
IV-220	152	178	細石刃核削片		J64	II	65	0.9		1		
				17	J65		895	2.7		1		
IV-267	170	380	接合資料	17				20.1	3	1・5	-	2641
IV-218	150	136	細石刃核	17	I64		831	18.3		1		
IV-219	151	163	細石刃核削片		I64	II	504	1.3		5		
					I64	II	506	0.5		5		
IV-267	171	381	接合資料	17				4.1	2	5	-	2654
IV-219	151	164	細石刃核削片	17	I64		891	2.3		5		
IV-218	150	138	細石刃核削片	17	I64		916	1.8		5		
IV-267	171	382	接合資料	17				5.6	4	1	-	2656
IV-219	151	157	細石刃核削片	17	I64		177	1.5		1		
					I64	I	216	0.8		1		
IV-219	151	155	細石刃核削片		I64	I	34	2.1		1		
IV-219	151	158	細石刃核削片	17	J63		343	1.2		1		
IV-267	171	383	接合資料	17				11.7	2	1	-	2655
IV-219	151	169	細石刃核削片		I64	I	198	6.9		1		
IV-221	152	194	細石刃核削片	17	J64		144	4.8		1		
IV-268	171	384	接合資料	17				36.1	5	1	-	2652

上白滝8遺跡

種図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
IV-220	152	177	細石刃核削片	17	I64		269	9.6		1		
IV-220	151	176	細石刃核削片	17	I64		1281	13.2		1		
IV-218	150	143	細石刃核削片		I64	I	30	5.6		1		
					I64	I	37	3.6		1		
IV-222	152	201	細石刃核削片		I64	I	33	4.1		1		
IV-268	171	385	接合資料	17				42.7	11	1	-	2651
IV-220	151	174	細石刃核削片	17	I64		253	3.7		1		
					I64	II	329	1.9		1		
					I64	II	433	0.7		1		
IV-222	153	212	細石刃核削片	17	I64	排土	796	4.6		1		
							8	3.5		1		
IV-222	153	210	細石刃核削片		I64	I	20	3.1		1		
IV-220	151	171	細石刃核削片		I64	I	25	17.8		1		
IV-218	150	139	細石刃核削片		I64	I	41	2.0		1		
					I64	I	242	0.9		1		
					I64	II	453	1.3		1		
IV-223	153	228	細石刃核削片		I64	I	238	3.2		1		
IV-269	171	386	接合資料	17				11.2	3	1・5	-	2658
IV-218	151	148	細石刃核削片	17	J63		425	5.4		1		
					J64	I	3	1.4		5		
IV-221	152	195	細石刃核削片	17	K63		485	4.4		1		
IV-269	171	387	接合資料	17				18.3	5	1	-	2659
IV-218	151	147	細石刃核削片	17	J63		6	4.1		1		
					J63		557	3.3		1		
					K62		764	4.1		1		
IV-221	152	196	細石刃核削片		J63	I	34	4.8		1		
IV-222	153	217	細石刃核削片	17	K62		781	2.0		1		
IV-269	171	388	接合資料	17				10.3	5	1	-	2660
IV-222	152	199	細石刃核削片	17	J63		60	4.1		1		
IV-223	153	224	細石刃核削片	17	J63		134	2.4		1		
IV-222	153	211	細石刃核削片		J63	I	54	0.7		1		
IV-222	152	200	細石刃核削片		J63	I	126	0.7		1		
					J64		536	2.4		1		
IV-270	177	389	接合資料	17・18				225.9	12	1	-	2657
IV-223	153	231	細石刃核削片	18	H62		1	105.5		1		
					K62	III	2	2.9		1		
					K65	I	1	37.1		1		
IV-223	153	230	細石刃核削片	17	J63		562	4.4		1		
					J63		756	1.8		1		
					斜	O75	下	1	11.3	1		
IV-221	152	193	細石刃核削片	17	J64		53	2.0		1		
IV-222	152	202	細石刃核削片	17	K61		236	5.2		1		
IV-218	151	149	細石刃核削片		K61	III	14	0.8		1		
					斜	L74	上	5	2.5	1		
IV-222	152	203	細石刃核削片	17	K62		890	3.5		1		
IV-579	374	48	細石刃核削片	斜	K73	I	4	48.9		1		
IV-271	171	390	接合資料	17				23.2	2	1	-	2653
IV-223	153	232	細石刃核削片	17	I64		703	17.9		1		
IV-223	153	233	細石刃核削片		I64	I	206	5.3		1		
IV-272	172	391	接合資料	16・17				977.5	32	1	101	1001
			剥片		I63	I	8	11.3		1		
			石刃	17	I64		1	6.4		1		
				17	I64		293	30.2		1		
					I64	I	596	0.8		1		
					I64	I	597	5.8		1		
			石刃	17	I64		97	81.4		1		
				17	I64		324	72.7		1		
				17	I64		680	17.0		1		
				17	I64		707	45.0		1		
					I64	I	598	11.2		1		

種図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
			剥片	17	I64		108	20.7		1		
			剥片	17	I64		112	47.7		1		
			縦長剥片	17	I64		199	6.8		1		
				17	I64		723	6.7		1		
			剥片	17	I64		275	45.7		1		
				17	I64		686	9.9		1		
			剥片	17	I64		276	8.1		1		
			剥片	17	I64		660	33.4		1		
				16	I65		538	59.3		1		
IV-235	160	339	石刃	17	I64		674	88.8		1		
					I64	I	159	44.4		1		
					I64	I	199	67.2		1		
					I64	I	200	29.0		1		
			剥片	17	I64		678	35.3		1		
			剥片	17	I64		1135	13.6		1		
IV-222	152	198	細石刃核削片	17	J62		475	6.2		1		
IV-222	152	197	細石刃核削片		J62	I	5	0.9		1		
					J63		130	3.1		1		
			剥片	17	J63		420	8.5		1		
					J64		168	128.9		1		
IV-219	151	159	細石刃核削片	17	J63	I	35	2.0		1		
			石刃	斜	M67	土	8	29.5		1		
IV-273	173	393	接合資料	17・19				1,066.4	44	1・5	155	1183
IV-216	149	110	細石刃核		H65	I	2	28.9		5		
			石刃		I63	I	4	21.9		5		
IV-235	160	338	石刃	17	I64		62	107.8		5		
					I64	I	22	32.1		5		
					I64	I	284	54.5		5		
IV-236	161	341	石刃	17	I64		180	18.5		1		
					七北52 ~59		93	23.0		5		
IV-220	151	175	細石刃核削片	17	I64		325	8.7		1		
					I64	I	26	5.2		5		
IV-222	153	209	細石刃核削片	17	I64		348	2.1		1		
			剥片	17	I64		437	25.9		1		
				17	I64		1062	16.6		1		
			剥片	17	I64		481	12.4		5		
			剥片	17	I64		505	13.2		5		
IV-234	160	336	石刃	17	I64		509	65.5		1		
				17	I64		706	64.0		5		
				17	I64		1058	16.2		1		
IV-217	149	126	細石刃核	17	I64		539	12.3		1		
					I64	I	3	29.9		5		
IV-221	152	188	細石刃核削片	17	I64		541	4.7		1		
					I64	II	297	6.0		5		
					I64	III	324	1.7		5		
IV-222	153	213	細石刃核削片	17	I64		551	3.7		5		
IV-234	159	335	石刃	17	I64		702	111.4		5		
			剥片	17	I64		716	11.5		5		
IV-236	161	340	石刃	17	I64		964	12.7		1		
					I64	I	75	12.2		5		
IV-232	158	320	二次加工ある剥片	17	I64		1287	70.5		5		
					I64	I	291	48.0		5		
IV-219	151	152	細石刃核削片		I64	I	39	1.5		5		
					I64	II	444	1.0		5		
			石刃		I64	I	279	20.9		5		
					I64	I	621	6.3		5		
			剥片		I64	I	280	19.9		5		
			剥片		I64	I	282	5.4		5		
					I64	I	619	4.7		5		
			縦長剥片		I64	I	286	19.2		5		

掲載遺物一覧

種図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
			剥片		I64	I	289	35.1		5		
			剥片		I64	I	620	5.2		5		
IV-234	159	334	石刃	19	M61		80	50.9		5		
				19	M61		112	14.2		1		
				19	M61		134	14.6		5		
IV-569	368	13	細石刃核削片		七北60 ~65		68	6.3		5		
			石刃		七北60 ~65		137	20.1		5		
IV-276	175	396	接合資料	16・17				1,048.2	27	1・3・5	153	1180
IV-216	149	120	細石刃核	17	H64		42	26.0		5		
IV-232	158	318	二次加工ある剥片		H64	I	171	4.2		5		
					H65	I	19	27.5		5		
					J64		143	8.6		5		
			剥片	16	H65		22	31.0		5		
IV-221	152	184	細石刃核削片	16	H65		291	5.5		5		
					H65	I	4	1.9		5		
					I64	II	517	1.0		1		
			剥片	17	I64		66	4.6		5		
				17	I64		271	11.2		5		
				17	I64		358	12.5		5		
			剥片	17	I64		126	6.2		5		
			剥片	17	I64		142	27.2		5		
			縦長剥片	17	I64		165	43.3		5		
			剥片	17	I64		443	10.3		5		
IV-238	162	352	石刃核	17	I64		537	479.7		5		
			縦長剥片	17	I64		679	20.8		5		
					I64	I	269	4.5		5		
IV-218	150	141	細石刃核削片	17	I64		765	2.9		3		
			縦長剥片	17	I64		886	35.3		5		
			剥片		I64	I	249	6.1		5		
			縦長剥片		I64	I	275	4.4		5		
IV-219	151	165	細石刃核削片		I64	II	313	1.6		5		
					I64	II	431	1.7		5		
					I64	II	475	1.2		1		
			剥片		J65	I	10	247.4		5		
IV-217	150	131	細石刃核		K63	I	40	21.6		5		
IV-278	176	398	接合資料	17・18				1,728.2	94	5	158	1187
IV-241	164	359	石核	18	H63		2	653.0		5		
IV-232	158	326	石刃	17	H64		12	8.7		5		
				17	H64		17	17.6		5		
			剥片	17	H64		15	46.4		5		
					七北60 ~65		33	159.1		5		
			剥片	17	H64		28	10.4		5		
				17	H65		263	2.3		5		
			剥片	17	H64		80	5.1		5		
					I64	II	379	3.0		5		
					I64	II	417	1.2		5		
			剥片		H64	I	37	8.0		5		
			剥片		H64	I	38	3.7		5		
			剥片		H64	I	39	2.1		5		
			剥片		H64	II	110	2.3		5		
IV-222	153	206	細石刃核削片		H64	III	142	0.4		5		
			剥片		H65	I	48	0.8		5		
			剥片		H65	I	55	1.4		5		
IV-222	153	208	細石刃核削片		H65	I	81	0.5		5		
			剥片		H65	I	203	2.0		5		
				17	I64		247	5.1		5		
				17	I64		868	80.0		5		
				17	I64		1277	5.6		5		
				17	I65		521	8.9		5		
			縦長剥片		H65	I	204	3.7		5		

種図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
					七北60 ~65		43	5.8		5		
			縦長剥片	17	I63		32	3.8		5		
					I64	I	84	53.5		5		
			剥片	17	I64		52	3.6		5		
			石刃	17	I64		117	13.4		5		
			剥片	17	I64		123	13.5		5		
			剥片	17	I64		131	18.4		5		
					I64		1251	3.5		5		
					I65	I	23	5.4		5		
			剥片	17	I64		132	2.2		5		
					I64	III	404	2.6		5		
			剥片	17	I64		248	2.0		5		
			剥片	17	I64		252	3.8		5		
					I64		452	3.7		5		
					I64		496	16.3		5		
			石刃	17	I64		296	7.9		5		
			縦長剥片	17	I64		361	5.7		5		
			縦長剥片	17	I64		366	3.5		5		
			剥片	17	I64		439	2.2		5		
					I64		606	7.8		5		
			剥片	17	I64		444	6.0		5		
IV-233	158	327	石刃	17	I64		498	28.1		5		
				17	I64		619	68.5		5		
			剥片	17	I64		561	11.5		5		
			剥片	17	I64		620	24.4		5		
			剥片	17	I64		645	1.8		5		
			剥片	17	I64		773	2.9		5		
			削器	17	I64		845	10.4		5		
			剥片	17	I64		871	2.9		5		
			剥片	17	I64		887	8.9		5		
			剥片	17	I64		1043	7.5		5		
			剥片	17	I64		1071	5.9		5		
			剥片	17	I64		1073	2.2		5		
					I65	I	56	0.9		5		
			剥片	17	I64		1159	6.0		5		
			石刃		I64	I	69	22.2		5		
			剥片		I64	I	85	19.3		5		
					I64	I	86	6.8		5		
					I64	II	415	3.8		5		
					七北52 ~59		125	4.9		5		
			剥片		I64	I	186	15.3		5		
IV-222	153	207	細石刃核削片		I64	I	347	0.6		5		
			縦長剥片		I64	I	615	1.0		5		
IV-218	151	145	細石刃核削片		I64	II	304	0.3		5		
			剥片		I64	II	380	2.4		5		
			剥片		I64	II	381	2.0		5		
			剥片		I64	II	383	1.7		5		
			剥片		I64	II	384	1.4		5		
			剥片		I64	II	385	1.0		5		
					I64	III	421	3.9		5		
			剥片		I64	II	387	0.7		5		
			剥片		I64	II	410	6.2		5		
			剥片		I64	II	411	1.5		5		
			剥片		I64	II	412	1.0		5		
			剥片		I64	II	414	3.9		5		
			剥片		I64	II	416	1.9		5		
					七北52 ~59		129	5.0		5		
IV-219	151	153	細石刃核削片		I64	II	445	0.7		5		
			剥片		I64	II	519	1.8		5		
			剥片		I64	III	403	4.8		5		

上白滝8遺跡

種図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
			剥片	17	I65		411	4.1		5		
			剥片		I65	I	22	51.4		5		
			剥片		I65	I	57	11.8		5		
			剥片		I65	I	58	8.7		5		
					I67	I	25	124.5		5		
IV-221	152	186	細石刃核削片	17	J64		781	7.9		5		
					J64	III	107	0.7		5		
IV-223	153	223	細石刃核削片		J64	II	120	0.5		5		
			剥片	17	J66		67	4.7		5		
					J66	I	6	2.0		5		
IV-280	178	400	接合資料	17・19				1,554.3	44	1・5	152	1178
			石刃	17	H65	I	15	83.1		5		
					I64		1131	5.5		5		
					I64	I	65	12.8		5		
					I64	I	66	18.8		5		
			石刃	17	I63		28	23.7		5		
			石刃	17	I64		20	94.9		5		
					I64		446	110.3		5		
					I64	I	285	10.4		5		
			剥片	17	I64		43	37.4		5		
					I64		359	8.0		5		
			剥片	17	I64		48	5.6		5		
					I64		219	58.6		5		
			石刃	17	I64		54	69.2		5		
					I64	I	54	21.7		5		
			石刃	17	I64		60	7.2		5		
					I64		560	11.3		5		
					J65	I	15	78.4		5		
					七南60 ~65		75	47.4		5		
			石刃	17	I64		264	92.8		5		
					I64		1256	11.0		5		
			剥片	17	I64		355	5.2		5		
			剥片	17	I64		427	31.7		5		
			剥片	17	I64		559	149.3		5		
					I64	I	263	33.3		5		
			縦長剥片	17	I64		582	27.6		1		
					I64		583	117.8		5		
					I64		681	97.1		5		
			剥片	17	I64		747	24.6		5		
			剥片	17	I64		825	20.7		1		
			剥片	17	I64		1004	10.5		5		
			剥片	17	I64		1048	7.7		5		
			剥片	17	I64		1051	5.0		5		
			剥片		I64	I	273	19.6		5		
IV-223	153	226	細石刃核削片		I64	II	432	1.2		5		
IV-218	151	144	細石刃核削片	17	I65		71	10.6		5		
			剥片	17	I65		108	11.1		5		
			石刃	17	I65		316	10.8		5		
					I65		528	18.7		5		
			石刃	17	I65		573	10.7		5		
IV-217	150	130	細石刃核		I65	I	1	30.9		5		
IV-221	152	187	細石刃核削片	17	J64		33	23.8		5		
IV-216	149	119	細石刃核	17	J64		812	9.2		5		
			削器	17	J65		411	19.5		1		
			剥片	19	M60		100	49.6		5		
IV-281	179	413	接合資料	15・16・ 17・18				1,250.0	74	1	127	1088
			剥片		G65	I	3	0.6		1		
					H64	III	124	2.9		1		
					七北60 ~65		32	88.9		1		
			剥片		G65	I	4	89.6		1		

種図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
					H64	I	23	22.2		1		
			剥片	18	H63		10	4.3		1		
			剥片	17	H64		38	108.9		1		
					H64	I	36	1.0		1		
IV-240	163	357	石核	17	H64		82	8.6		1		
					H64		225	23.7		1		
					H64	III	106	0.3		1		
					I64		961	18.6		1		
					I64		1069	7.5		1		
					I64	I	131	44.6		1		
					I64	I	132	22.5		1		
					I64	I	134	4.7		1		
					I64	I	187	5.5		1		
			剥片	17	H64		92	2.4		1		
			石刃	17	H64		246	3.2		1		
					H64		247	4.9		1		
IV-221	152	182	細石刃核削片	17	H64	I	5	6.9		1		
IV-223	153	220	細石刃核削片	17	H64	I	6	4.7		1		
			剥片		H64	I	20	1.3		1		
					H64	III	123	2.9		1		
					H65	I	30	52.4		1		
			剥片		H64	I	21	48.2		1		
					H64	I	168	0.1		1		
			剥片		H64	I	27	11.5		1		
					H64	I	32	1.5		1		
				17	I64		1127	16.0		1		
			剥片		H64	I	28	1.3		1		
			剥片		H64	I	29	4.0		1		
			剥片		H64	I	31	1.3		1		
					I64	I	173	0.4		1		
			剥片		H64	I	33	1.6		1		
			剥片		H64	I	35	0.8		1		
			剥片		H64	I	65	3.8		1		
			剥片		H64	II	93	0.4		1		
			剥片		H64	II	96	1.2		1		
					H64	II	109	5.4		1		
					H64	II	117	1.2		1		
			剥片		H64	II	112	0.8		1		
			剥片		H64	III	104	0.8		1		
					I64	I	348	6.3		1		
					I65		352	3.1		1		
			剥片		H64	III	126	1.0		1		
IV-221	152	181	細石刃核削片	16	H65	I	5	3.2		1		
			剥片		H65	I	29	0.9		1		
			剥片		H65	I	31	11.7		1		
					I64		904	27.2		1		
			剥片		H65	I	54	30.6		1		
IV-222	153	216	細石刃核削片	16	H65	I	56	0.5		1		
			剥片		H65	II	140	0.8		1		
			剥片	17	I62		14	117.2		1		
			剥片	17	I64		573	7.5		1		
			剥片	17	I64		894	36.7		1		
IV-219	151	150	細石刃核削片	17	I64	I	14	4.3		1		
			剥片		I64	I	130	74.2		1		
					I64	I	133	10.5		1		
					I64	I	137	1.1		1		
			剥片		I64	II	366	0.8		1		
			剥片	17	J65		204	3.6		1		
					J65		439	5.2		1		
					J65		1215	17.3		1		

掲載遺物一覧

挿図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
			剥片	17	K62		299	1.6		1		
			剥片	15	K67		47	1.7		1		
					排土		119	6.9		1		
			剥片	斜	K69	I	9	21.0		1		
				斜	L68	上	24	3.4		1		
			剥片	斜	L68	上	14	104.0		1		
			剥片	斜	L68	上	23	2.7		1		
			剥片	斜	M66	上	13	0.8		1		
			剥片	斜	M68	I	4	2.4		1		
			剥片		取付 道路		21	108.4		1		
IV-282	179	404	接合資料	17				25.8	11	1	127	1087
IV-218	150	140	細石刃核削片	17	H64		116	3.2		1		
IV-216	149	112	細石刃核		H64	I	1	8.7		1		
IV-223	153	227	細石刃核削片		H64	I	7	2.7		1		
IV-219	151	167	細石刃核削片		H65	I	6	3.1		1		
					H65	II	145	1.0		1		
					H65	II	146	0.5		1		
IV-223	153	225	細石刃核削片		I64	I	10	1.5		1		
					I64	III	364	0.6		1		
IV-218	150	142	細石刃核削片		I64	I	11	1.2		1		
					I64	I	12	1.8		1		
					I64	I	13	1.5		1		
IV-283	180	405	接合資料	17・27				4,668.5	67	1・5	160	1190
			剥片	17	I63		33	4.3		5		
				17	I64		317	27.7		1		
				17	I64		518	14.8		5		
					I64	I	585	2.0		5		
			剥片	17	I63		61	233.0		5		
IV-235	160	337	石刃	17	I64		105	150.6		5		
					I64	I	576	124.7		5		
			剥片	17	I64		244	59.4		5		
				17	I64		938	5.2		5		
				17	I64		1209	8.8		5		
			剥片	17	I64		263	14.5		5		
			縦長剥片	17	I64		272	25.3		5		
					I64	I	575	35.7		5		
			石刃	17	I64		278	6.9		5		
				17	I64		536	1.6		5		
			剥片	17	I64		329	51.9		5		
			石刃	17	I64		395	79.7		5		
				17	I64		935	28.2		5		
			剥片	17	I64		533	12.8		5		
				17	I65		568	20.9		5		
			剥片	17	I64		556	60.6		5		
			縦長剥片	17	I64		634	24.9		5		
				17	I65		349	18.5		5		
			縦長剥片	17	I64		656	11.0		1		
				17	I64		1086	42.6		5		
					I64	I	579	5.8		5		
			剥片	17	I64		713	14.9		1		
			剥片	17	I64		793	94.6		5		
			剥片	17	I64		936	86.2		5		
			石刃	17	I64		1023	25.9		5		
					I64	I	581	16.9		5		
					I64	I	582	0.7		5		
					I64	I	587	1.6		5		
			縦長剥片	17	I64		1141	12.6		5		
			剥片		I64	I	577	18.5		5		
					I64	I	578	5.3		5		
			剥片		I64	I	580	29.3		5		

挿図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
			剥片		I64	I	583	4.5		5		
					七北60 ~65		105	57.1		5		
			剥片		I64	I	584	1.4		5		
			剥片		I64	I	586	2.1		5		
					七北60 ~65		106	32.8		5		
			剥片		I64	I	588	8.9		5		
			剥片	17	I65		185	13.9		5		
			剥片	17	I65		245	52.1		5		
			石刃	17	J63		317	6.7		5		
				17	J64		513	9.7		5		
				17	J64		514	40.2		5		
					J64	I	135	30.0		5		
				17	K63		341	264.8		5		
			剥片	17	J63		406	40.5		5		
					J64	I	137	2.4		5		
			剥片		J63	I	159	13.5		5		
			剥片	17	J64		698	25.9		5		
				17	K63		694	72.7		5		
			石刃		J64	I	136	5.8		5		
				17	K63		343	51.1		5		
				17	K63		448	8.4		5		
				17	K63		561	3.9		5		
				17	K64		137	70.4		5		
			剥片	17	J65		1,165	6.1		5		
			石刃	17	J65		1370	12.5		5		
IV-594	385	123	石刃核	斜	O70	I	1	2,134.2		5		
			剥片	27	P61		456	8.5		5		
					P61	I	40	58.2		5		
			剥片		七北60 ~65		103	215.8		5		
			剥片		七北60 ~65		104	36.5		5		
IV-285	181	406	接合資料	17				635.9	16	1・5	154	1182
IV-232	158	325	石刃	17	H64		79	36.1		5		
				17	I64		830	12.8		5		
			石刃		H64	I	44	64.3		1		
				17	I64		1050	23.1		5		
IV-237	161	350	石刃核		H64	I	53	199.8		1		
IV-236	161	343	剥片	17	I64		26	9.0		5		
				17	I64		397	51.6		5		
			剥片	17	I64		261	8.1		5		
				17	I64		607	1.2		5		
			石刃	17	I64		399	3.7		5		
					I64	I	622	8.8		5		
IV-236	161	342	石刃	17	I64		822	65.1		5		
				17	I64		939	16.8		5		
				17	I64		1046	8.4		5		
IV-233	159	332	石刃		I67	I	67	102.7		5		
					取付 道路		15	24.4		1		
IV-286	182	407	接合資料	17・18・19				1,930.9	50	3・4・5	156	1185
			石刃	17	I64		91	5.2		5		
			剥片	17	I64		214	4.7		5		
			剥片	17	I64		223	1.5		4		
			剥片	17	I64		301	2.6		5		
			剥片	17	I64		639	12.1		5		
				17	I64		746	6.6		5		
IV-232	158	317	二次加工ある剥片	17	I64		1163	16.8		5		
			剥片		I64	I	271	55.6		5		
			剥片		I64	I	272	48.6		5		
			剥片		I64	I	277	0.7		5		
			石刃	18	J60		132	6.5		5		
				17	J64		608	10.8		5		

上白滝8遺跡

種図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
			剥片	17	J63	Ⅲ	156	62.9		5		
				17	J64		142	561.7		5		
			剥片	17	J64		4	7.3		5		
			剥片	17	J64		35	3.5		5		
				17	J64		1114	8.9		5		
IV-234	159	333	石刃	17	J64		45	119.7		5		
				17	J64		630	31.7		5		
			剥片	17	J64		74	9.7		5		
			剥片	17	J64		114	3.0		5		
			剥片	17	J64		160	22.9		5		
			石刃	17	J64		164	9.9		5		
				17	J64		1301	5.0		5		
IV-233	159	328	石刃	17	J64		174	15.4		5		
					七北52 ~59		81	32.7		5		
			剥片	17	J64		237	30.8		5		
			剥片	17	J64		259	0.8		5		
IV-233	159	329	石刃	17	J64		299	73.6		5		
IV-233	159	330	石刃	17	J64		329	8.5		5		
				17	J64		402	20.9		5		
				19	L65		20	26.9		5		
			剥片	17	J64		441	3.4		3		
			石刃	17	J64		510	19.8		5		
			剥片	17	J64		1276	1.4		5		
				17	J65		924	2.8		5		
			剥片	17	J64		1280	14.7		5		
			剥片	17	J64		1306	2.8		5		
			剥片		J64	I	46	19.1		5		
			剥片		J64	I	49	74.2		5		
			剥片		J64	I	50	14.0		5		
			剥片		J64	I	144	52.6		5		
			剥片	17	J65		153	57.4		5		
			剥片	17	J65		927	2.8		5		
			石刃	17	J65		1190	41.0		5		
			剥片	17	J65		1233	1.4		5		
			石刃		斜	J69	上	13	6.8	5		
			剥片	17	K64		100	17.7		5		
				17	K64		125	58.4		5		
IV-594	384	124	石刃核	斜	M66	上	2	313.1		5		
IV-288	184	408	接合資料	15・17				315.3	14	4	143	1147
			石刃	17	J65		1307	1.6		4		
				15	K67		25	4.9		4		
			縦長剥片	17	K65		3	8.5		4		
IV-232	158	323	石刃	17	K66		3	24.6		4		
			石刃		K66	I	4	66.8		4		
			縦長剥片		K66	I	17	3.9		4		
			石刃		K66	Ⅱ	22	1.6		4		
					K67	I	2	5.2		4		
IV-232	158	324	石刃	15	K67		32	15.3		4		
				斜	L67	I	6	27.7		4		
			剥片	15	K67		37	4.0		4		
			剥片	15	K67		56	6.4		4		
			剥片		K67	I	12	9.0		4		
IV-589	381	110	石刃	斜	L69	上	5	135.8		4		
IV-289	184	409	接合資料	16・17				186.6	16	4	141	1141
			剥片	16	H65		95	1.8		4		
			剥片	16	H65		132	2.7		4		
			剥片	16	H65		141	3.5		4		
					H65	Ⅱ	165	2.7		4		
IV-236	161	348	石刃核	16	H65		230	72.2		4		
IV-232	158	322	石刃	16	H65		342	27.7		4		

種図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
			剥片	16	H65		360	5.9		4		
			剥片	16	H65		365	34.2		4		
			剥片		H65	I	95	4.5		4		
			剥片		H65	I	105	1.6		4		
			剥片		H65	I	121	1.6		4		
			剥片		H65	Ⅲ	160	1.2		4		
			剥片	17	L65		341	4.9		4		
			剥片	16	L65		546	6.9		4		
			剥片	17	J64		490	7.2		4		
			剥片	17	J64		535	8.0		4		
IV-290	185	410	接合資料	16・17				288.3	9	1・4	145	1164
			剥片	16	H65		195	15.3		4		
			剥片	16	H65		209	55.9		4		
			剥片	16	H65		362	15.4		4		
			剥片	16	H65		370	15.6		4		
IV-243	166	363	石核		H65	I	51	91.8		4		
			剥片		H65	I	64	6.5		1		
			剥片		H65	I	73	23.7		4		
			剥片	17	L64		1291	36.2		4		
			剥片	17	L65		370	27.9		4		
IV-290	185	411	接合資料	16・17				338.9	23	4	140	1140
			剥片		H64	Ⅱ	159	1.0		4		
			剥片		H64	Ⅲ	173	1.1		4		
			剥片	16	H65		270	4.2		4		
			剥片		H65	I	38	36.6		4		
			剥片		H65	I	117	42.8		4		
					I64	Ⅱ	194	0.4		4		
			剥片		H65	I	123	0.9		4		
			剥片		H65	I	127	7.3		4		
			剥片		H65	I	130	1.5		4		
IV-227	155	259	舟底形石器	17	L64		396	11.9		4		
			剥片	17	L64		576	38.9		4		
				17	L65		229	33.7		4		
					I65	I	83	4.6		4		
			剥片	17	L64		811	9.2		4		
				17	L64		1244	17.9		4		
IV-226	154	254	舟底形石器		L64	I	50	89.2		4		
			剥片		L64	Ⅱ	552	0.7		4		
			剥片		L64	Ⅲ	553	2.0		4		
			剥片		L64	Ⅲ	554	1.9		4		
			剥片		L64	Ⅲ	556	0.6		4		
			剥片	17	L65		130	19.8		4		
			剥片	17	J64		192	11.8		4		
-	186	415	接合資料	17・18・31 ・34・35				2,140.7	101	1・4・5	103	1009
			剥片	18	H62		22	81.0		1		
			石刃		H65	I	16	118.8		1		
					I63	I	51	0.9		1		
					I64	I	567	1.6		1		
				17	K64		99	45.3		1		
			剥片	34	I57		96	10.1		1		
				35	I57		241	7.6		1		
				31	I59		270	19.0		4		
				17	K62		886	3.4		1		
			剥片		I62	I	6	6.2		1		
					I63	I	49	1.4		1		
			剥片	17	L63		11	7.7		1		
			剥片	17	I63		12	5.5		1		
					I64	I	565	16.1		1		
					I64	I	572	1.3		1		

掲載遺物一覧

挿図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
				17	J64		75	0.6		1		
			剥片	17	I63		15	1.2		1		
			石刃	17	I63		36	9.7		1		
				17	I63		68	3.9		1		
					I63	I	41	3.1		1		
					I63	I	42	0.9		1		
					I63	I	46	7.6		1		
			石刃		I63	I	3	50.8		1		
					I63	I	18	23.8		1		
					I63	I	43	2.6		1		
				17	J64		524	120.0		1		
			剥片		I63	I	16	4.9		1		
			剥片		I63	I	17	32.5		1		
				17	J63		399	10.9		1		
					J63	I	49	14.3		4		
				17	J64		170	13.4		1		
				17	J64		658	21.1		1		
				17	J64		687	7.9		1		
					J64	I	8	21.8		1		
					J65	I	9	19.2		1		
					J66	I	17	5.2		1		
				17	K63		98	8.3		1		
				17	K63		639	6.7		1		
				17	K63		685	8.4		1		
				17	K63		696	4.4		1		
				17	K63		705	5.6		1		
					K63	I	10	10.6		1		
					K64	I	5	12.3		1		
			石刃		I63	I	19	5.1		1		
				17	J63		387	3.5		1		
			剥片		I63	I	40	12.8		1		
			剥片		I63	I	44	9.2		1		
				17	J63		783	13.5		1		
			剥片		I63	I	45	7.9		1		
					I63	I	47	2.9		1		
				17	J63		280	7.1		1		
			剥片		I63	I	48	6.4		1		
			剥片	17	I64		512	16.6		1		
				17	J64		398	4.5		1		
			剥片		I64	I	564	109.7		1		
			剥片		I64	I	566	8.5		1		
			石刃		I64	I	568	1.2		1		
				17	J63		694	2.8		1		
					J63	I	47	117.2		4		
					J63	I	167	0.7		1		
				17	K63		492	16.2		1		
				17	K63		560	2.7		1		
			剥片		I64	I	569	0.3		1		
				17	J63		430	11.1		1		
					K67	I	11	97.7		1		
			剥片		I64	I	570	5.6		1		
					不明	不明	不明	0.7		1		
			剥片		I64	I	571	2.8		1		
			剥片		I64	I	573	3.1		1		
			剥片		I64	I	591	2.5		1		
			剥片		J62	I	69	29.2		1		
				17	K62		44	42.5		1		
				17	K63		368	1.9		1		
			剥片	17	J63		119	27.5		1		
			剥片	17	J63		135	2.5		5		

挿図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
			剥片	17	J63		260	3.2		1		
			剥片	17	J63		305	1.5		1		
				17	J63		424	13.3		1		
				17	J64		188	42.4		1		
				17	J64		500	1.9		1		
			剥片	17	J63		381	6.5		1		
			剥片	17	J63		433	2.7		1		
					J63	III	117	2.4		1		
			剥片	17	J63		438	2.6		1		
			剥片	17	J63		631	15.8		1		
				17	J63		632	9.3		1		
			剥片	17	J63		666	66.3		1		
			剥片	17	J63		716	21.3		1		
			剥片	17	J63		733	2.4		1		
			石刃		J63	I	48	79.9		4		
				17	K62		902	112.2		1		
			剥片		J63	I	158	2.4		1		
				17	J64		57	10.4		1		
			剥片	17	J64		146	6.6		1		
			剥片	17	J64		372	2.0		1		
			剥片	17	J64		523	4.0		1		
			剥片		J64	I	12	20.7		1		
IV-587	379	97	削器		K70	上	3	192.6		1		
			剥片		N67	上	33	62.0		1		
			剥片		N76	上	9	100.7		1		
			剥片		七北60 ~65		117	22.1		1		
-	188	417	接合資料	17				6,557.2	29	1	136	1133
			剥片		H64	I	22	26.8		1		
			剥片	17	I63		31	158.5		1		
			剥片	17	I64		207	11.0		1		
					I64	I	161	15.9		1		
					七北60 ~65		27	85.3		1		
			剥片	17	I64		303	3.7		1		
					七北52 ~59		124	21.2		1		
			剥片	17	I64		328	17.2		1		
					I64	I	96	30.7		1		
			剥片	17	I64		330	1,699.8		1		
			剥片	17	I64		520	7.7		1		
			剥片	17	I64		547	12.6		1		
				17	I64		676	84.4		1		
			剥片	17	I64		662	153.6		1		
				17	I64		700	190.8		1		
				17	I64		701	23.2		1		
			剥片	17	I64		665	53.6		1		
					I64	I	190	162.5		1		
			剥片	17	I64		800	2,253.8		1		
					七北60 ~65		29	259.7		1		
			剥片	17	I64		888	72.0		1		
				17	I65		571	87.8		1		
			剥片		I64	I	79	174.7		1		
			剥片		I64	I	111	476.7		1		
			剥片		I64	I	158	61.7		1		
			剥片		I64	I	174	67.5		1		
			剥片		I64	III	428	85.7		1		
			剥片		I65	I	40	91.5		1		
			剥片		七北60 ~65		51	167.6		1		
-	189	418	接合資料	17				5,814.8	24	1・5	102	1006
			石刃		H65	I	13	178.7		1		
				17	I64		1049	46.0		1		
			石刃		H65	I	202	12.3		1		

上白滝 8 遺跡

種図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
				17	I64		937	17.7		1		
			剥片	17	I64		13	92.5		1		
				17	I64		584	310.4		5		
				17	I64		1165	168.1		1		
			石刃	17	I64		15	50.4		1		
				17	I64		804	96.2		1		
			剥片	17	I64		350	102.7		1		
				17	I64		946	76.8		1		
			剥片	17	I64		1003	339.7		1		
			削器		I64	I	46	274.3		1		
			石刃		I64	I	139	55.2		1		
					I65	I	55	33.1		1		
				17	J64		312	38.6		1		
			石刃	17	I65		253	117.3		5		
			剥片	17	I65		526	657.9		1		
				17	I65		551	36.0		1		
IV-240	164	356	石刃核	17	J63		690	2,843.6		1		
			剥片	17	J63		699	27.6		5		
			石刃	17	K63		504	75.2		5		
				17	K63		643	122.0		5		
			剥片		七北60 ~ 65		131	42.5		1		
-	191	420	接合資料	16・17				998.4	7	4	444	2005
			剥片	16	H65		97	51.8		4		
			剥片	16	H65		198	320.9		4		
IV-237	161	349	石刃核	16	H65		315	424.8		4		
			剥片	17	I64		777	170.8		4		
			剥片	17	I65		353	9.5		4		
			剥片	17	I65		404	18.9		4		
			剥片	16	I65		549	1.7		4		
-	191	421	接合資料	17・19				618.5	10	4・5	159	1189
			剥片	17	J62		101	62.8		5		
			剥片	17	J63		49	1.6		5		
			石刃	17	K61		191	9.2		4		
				17	K61		254	6.5		5		
			剥片	17	K62		834	4.5		5		
			剥片		K63	I	39	15.6		5		
			剥片		K63	I	41	6.7		5		
			剥片	17	K64		35	3.6		5		
			石刃	19	L61		346	86.0		5		
IV-575	371	40	石核		七北60 ~ 65		65	422.0		4		
-	192	422	接合資料	16・17				20,041.1	151	1・4	135	1132
			剥片	17	H64		193	19.6		1		
					H64	I	12	3.0		1		
					H64	I	13	38.7		1		
				17	I64		74	76.6		1		
				17	I64		76	47.8		1		
				17	I64		150	8.0		1		
				17	I64		861	17.8		1		
				17	I64		1125	14.5		1		
				17	I64		1221	42.4		1		
					I64	I	82	22.5		1		
					I64	I	83	43.4		1		
					I64	I	113	87.9		1		
					I64	I	114	47.2		1		
					I64	I	115	16.4		1		
					I64	I	116	23.3		1		
					I64	I	118	14.9		1		
					I64	I	119	13.0		1		
					I64	I	120	5.9		1		
					I64	I	123	39.6		1		

種図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
					I64	I	124	6.6		1		
					I64	I	144	20.2		1		
					I64	I	146	20.8		1		
					I64	I	149	10.1		1		
					I64	I	150	7.9		1		
					I64	I	152	3.8		1		
					I64	I	607	93.0		1		
					I64	I	608	68.7		1		
					I64	II	406	6.4		1		
					I64	III	336	20.8		1		
					七北52 ~ 59		133	157.4		1		
					七北60 ~ 65		125	114.0		1		
			剥片	16	H65		142	76.7		1		
				17	I65		178	4.0		1		
					I65	I	43	60.1		1		
					七北60 ~ 65		39	24.5		1		
			剥片		H65	I	40	42.4		1		
				17	I64		600	37.4		1		
				17	I64		601	14.9		1		
				17	I64		755	16.2		1		
				17	I64		876	43.7		1		
				17	I64		880	78.6		1		
				17	I64		885	230.8		1		
				17	I64		896	43.0		1		
				17	I64		914	26.3		1		
				17	I64		986	74.3		1		
				17	I64		990	24.8		1		
				17	I64		999	36.4		1		
				17	I64		1090	8.8		1		
				17	I64		1091	49.6		1		
				17	I64		1105	85.3		1		
				17	I64		1151	105.7		1		
				17	I64		1268	39.0		1		
					I64	I	343	9.6		1		
					I64	II	388	6.5		1		
				17	I65		65	41.4		1		
				17	I65		565	51.5		1		
					I65	I	29	11.9		1		
					I65	I	38	37.9		1		
					I65	I	39	20.0		1		
					I65	I	53	37.1		1		
					I65	I	110	19.4		1		
					七北60 ~ 65		50	54.1		1		
					七北60 ~ 65		55	25.8		1		
					排土		88	347.5		1		
			剥片		H65	I	201	39.3		1		
					I65	I	44	22.5		1		
			剥片	17	I64		113	53.7		1		
				17	I64		978	355.1		1		
				17	I64		1014	138.4		1		
				17	I64		1227	38.9		1		
					I64	I	148	15.7		1		
					I64	I	157	280.4		1		
					I65	I	52	102.4		1		
					七北60 ~ 65		52	105.1		1		
			剥片	17	I64		143	118.5		1		
IV-243	166	365	石核	17	I64		200	5,134.6		1		
			剥片	17	I64		477	2,281.6		1		
			剥片	17	I64		552	1,362.8		1		
			剥片	17	I64		599	10.1		1		

掲載遺物一覧

挿図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
				17	I64		754	14.4		1		
				17	I64		756	34.8		1		
				17	I64		899	60.9		1		
				17	I64		989	96.0		1		
				17	I64		1104	185.9		1		
				17	I64		1150	24.8		1		
				17	I65	I	17	41.3		1		
			剥片	17	I64		637	80.5		1		
					I65	I	20	357.5		1		
					I65	I	21	88.0		1		
			剥片	17	I64		901	38.2		1		
				17	I64		926	8.6		1		
				17	I64		1018	6.0		1		
				17	I64		1034	78.4		1		
				17	I64		1036	16.0		1		
				17	I64		1109	33.7		1		
				17	I64		1110	30.7		1		
				17	I65		129	11.3		1		
				17	I65		147	159.3		1		
				17	I65	I	16	51.9		1		
			剥片	17	I64		903	20.1		1		
				17	I65		228	10.6		1		
				17	I65	I	170	52.8		1		
			剥片	17	I64		913	13.0		1		
			剥片	17	I64		919	8.6		1		
			剥片	17	I64		920	14.0		1		
					I64	I	342	4.9		1		
					I65	I	24	12.1		1		
			剥片	17	I64		922	89.5		1		
				17	I65		468	61.7		1		
			剥片	17	I64		992	8.9		1		
				17	I64		1092	48.5		1		
			剥片	17	I64		998	18.3		1		
			剥片	17	I64		1031	10.3		1		
			剥片	17	I64		1032	27.9		1		
			剥片	17	I64		1033	45.4		1		
			剥片	17	I64		1054	265.3		1		
				17	I65		306	13.9		1		
				17	I65		309	5.0		1		
				16	I65		487	13.4		1		
					七北60 ~65		28	17.5		1		
			剥片	17	I64		1100	190.9		1		
				17	I65		575	84.2		1		
				17	I65		580	39.6		1		
				17	I65	I	19	526.5		1		
			剥片	17	I64		1101	32.3		1		
			剥片	17	I64		1103	380.8		1		
					I64	I	104	76.1		1		
					I64	I	105	192.4		1		
					I64	I	106	13.3		1		
					I64	I	107	19.9		1		
					I64	I	108	14.1		1		
					I64	I	109	7.4		1		
					I64	I	110	1.5		1		
					I64	I	155	6.0		1		
					I65	I	8	1,600.0		4		
			剥片	17	I64		1107	92.2		1		
			剥片	17	I64		1148	62.1		1		
				17	I64		1189	27.4		1		
			剥片	17	I64		1153	10.0		1		

挿図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
			剥片	17	I64		1274	109.6		1		
			剥片		I64	I	103	67.6		1		
					J63	I	46	899.3		4		
			剥片	17	I65		110	8.3		1		
			剥片	17	I65		393	35.6		1		
			剥片	17	I65		536	40.8		1		
			剥片	17	I65		566	46.8		1		
					I65	I	13	44.5		1		
			剥片		I65	I	41	93.3		1		
			剥片		I65	I	50	9.0		1		
			剥片		I67	I	27	80.7		1		
			剥片		七北52 ~59		126	92.5		1		
IV-344	220	155	接合資料	27				301.5	17	3・4	231	1367
IV-293	195	7	尖頭器	27	P60		100	89.7		3		
				27	Q60		425	116.2		3		
				27	Q60		920	6.6		4		
				27	Q60		1046	49.6		3		
			剥片	27	Q59		197	8.7		4		
				27	Q59		684	3.1		4		
				27	Q59		1319	1.9		4		
			剥片	27	Q59		220	7.2		3		
			剥片	27	Q59		802	1.4		4		
				27	Q59		2159	4.0		4		
			剥片	27	Q59		1013	2.0		3		
			剥片	27	Q59		2233	1.2		4		
			剥片	27	Q60		346	3.1		4		
			剥片	27	Q60		723	1.6		3		
			剥片	27	Q60		1266	2.6		3		
			剥片	27	Q60		1759	1.2		4		
			剥片	27	Q60		2146	1.4		4		
IV-344	220	156	接合資料	28・46				607.7	51	3・4	458	2732
IV-418	285	41	尖頭器	46	M53		20	292.5		4		
				46	N54		95	58.5		4		
			剥片		M53	I	12	0.8		4		
			剥片	46	N53		251	4.1		4		
			剥片		N53	I	16	17.2		4		
			剥片	28	R60		164	10.0		4		
				28	R60		420	1.4		4		
			剥片	28	R60		318	11.9		4		
				28	R60		814	2.1		4		
				28	R61		336	1.7		4		
			剥片	28	R60		397	2.7		4		
				28	R61		21	3.5		4		
			剥片	28	R60		484	23.0		4		
				28	R60		829	9.5		4		
				28	R60		982	7.1		4		
			剥片	28	R60		705	9.8		4		
				28	R60		855	4.4		4		
				28	R60	II	2	2.6		4		
				28	R61		326	4.6		4		
			剥片	28	R60		766	2.2		4		
			剥片	28	R60		815	1.6		4		
				28	R60		1037	1.6		4		
			剥片	28	R60		825	1.5		4		
			剥片	28	R60		839	0.7		4		
				28	R61		727	16.6		4		
			剥片	28	R60		849	5.5		4		
				28	R61		536	1.3		4		
				28	R61		743	3.3		4		
				28	R61		938	8.1		4		

上白滝8遺跡

種図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
				28	R61		945	2.3		4		
			剥片	28	R60		853	2.8		4		
				28	R60		902	1.9		3		
				28	R61		546	2.1		4		
			剥片	28	R60		854	24.7		4		
			剥片	28	R60		863	3.1		4		
				28	R61		579	13.4		4		
			剥片	28	R60		1086	2.7		4		
			剥片	28	R60		1097	1.5		4		
				28	R60		1104	4.7		4		
			剥片	28	R60		1110	1.8		4		
			剥片	28	R60		1191	2.2		4		
			剥片		R60	II	1	1.6		4		
			剥片	28	R61		449	2.2		4		
				28	R61		591	5.7		4		
				28	R61		713	2.6		4		
			剥片	28	R61		462	1.1		4		
			剥片	28	R61		662	7.7		4		
			剥片	28	R61		724	3.8		4		
			剥片	28	R61		731	4.2		4		
			剥片	28	R61		745	1.6		4		
			剥片	28	R62		203	4.2		4		
IV-345	222	157	接合資料	27				550.9	18	1・4・5	200	1277
			剥片	27	O60		50	17.6		1		
				27	P60		291	10.0		1		
IV-299	200	19	尖頭器		O60	I	3	142.9		4		
				27	P60		14	5.0		1		
				27	P60		388	14.5		1		
					O60	I	12	150.2		1		
				27	P59		217	84.5		5		
			剥片	27	P59		27	27.1		1		
			剥片	27	P60		155	12.9		1		
			剥片	27	P60		1247	15.7		1		
			剥片	27	P60		1768	2.5		1		
			剥片	27	P60		2207	5.6		1		
			剥片	27	P60		2248	13.1		1		
			剥片	27	P60		2302	5.5		1		
			剥片	27	P60		2306	9.1		1		
			剥片	27	P60		2443	6.5		1		
			剥片	27	P61		51	16.5		1		
			剥片	27	P61		1489	11.7		1		
IV-346	221	158	接合資料	27・28・29・47				3,681.1	75	1・5	197	1270
			剥片	47	O51		184	71.0		1		
				27	Q59		2526	6.5		1		
				27	Q60		165	10.9		5		
			剥片	29	P55		83	10.3		1		
IV-307	204	47	両面調整石器	27	P59		228	177.4		1		
				28	R59		44	3.4		1		
				28	R59		50	1,533.5		1		
				28	R59		51	818.2		1		
			剥片	27	P59		507	8.8		1		
				27	Q60		161	5.2		1		
			剥片		P60	I	86	9.7		1		
				27	Q60		122	4.0		5		
			剥片		P60	I	91	4.6		1		
				27	Q59		1862	3.8		1		
				27	Q60		1045	3.1		1		
			剥片	27	Q59		59	9.1		1		
				27	Q59		867	4.3		1		
				27	Q60		1884	4.9		5		

種図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
				27	Q60		1893	8.5		5		
			剥片	27	Q59		108	6.8		1		
			剥片	27	Q59		825	2.3		1		
				27	Q60		684	7.0		1		
				27	Q60		1777	17.2		1		
				27	Q60		1995	1.8		1		
			剥片	27	Q59		881	5.6		1		
			剥片	27	Q59		996	16.2		1		
				27	Q59		1663	13.3		1		
				27	Q59		2353	2.9		1		
				27	Q60		307	6.5		1		
				27	Q60		413	6.3		1		
				27	Q60		1765	4.2		1		
				28	R59		40	2.0		1		
				28	R59		47	5.3		1		
			剥片	27	Q59		1225	8.4		1		
				Q60	I	24	3.1			1		
			剥片	27	Q59		1700	9.3		1		
				27	Q59		2286	1.9		1		
				27	Q60		954	1.5		1		
			二次加工ある剥片	27	Q59		1752	87.5		1		
			剥片	27	Q59		1874	4.2		1		
				27	Q60		492	3.7		1		
			剥片	27	Q59		2181	3.4		1		
				27	Q60		851	3.8		1		
			剥片	27	Q59		2183	2.7		1		
			剥片	27	Q59		2292	17.1		1		
			剥片	27	Q59		2515	1.5		1		
			剥片	27	Q59		2528	4.6		1		
			剥片	27	Q60		17	8.7		1		
				27	Q60		597	6.8		1		
			剥片	27	Q60		185	7.6		1		
			剥片	27	Q60		186	6.5		1		
				27	Q60		390	14.0		1		
				27	Q60		940	1.2		5		
				27	Q60		1073	14.1		1		
				27	Q60		1572	5.7		5		
			剥片	27	Q60		323	36.5		5		
				27	Q60		460	7.1		5		
				27	Q60		796	6.8		5		
			剥片	27	Q60		528	15.9		1		
				27	Q60		746	2.1		1		
				27	Q60		984	9.4		5		
			剥片	27	Q60		555	5.0		1		
				27	Q60		1702	4.1		1		
			剥片	27	Q60		779	27.3		5		
			剥片	27	Q60		1177	3.8		1		
			剥片	27	Q60		1195	18.2		1		
				27	Q60		1688	4.4		1		
			剥片	27	Q60		1439	13.4		5		
			剥片	27	Q60		1598	27.4		1		
			剥片	27	Q60		1894	1.7		1		
			剥片	28	R60		168	38.1		1		
				R60	I	3	6.5			1		
			剥片	28	R60		1174	131.0		1		
			剥片	28	R60		1175	91.1		1		
			剥片	28	R61		893	219.4		1		
IV-348	222	159	接合資料	27				1,746.2	15	4・5	239	1401
			剥片		N60	I	11	36.6		5		
IV-328	219	152	石核	27	O57		5	364.5		5		

掲載遺物一覧

挿図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
				27	Q58		4	9.5		5		
				27	Q58		6	143.9		5		
				27	Q58		7	33.0		5		
				27	Q59		130	14.8		4		
			縦長剥片		O57	I	7	25.1		5		
				27	O58		8	164.7		5		
			縦長剥片	27	O58		26	410.8		5		
			剥片	27	O58		435	12.4		5		
				27	O59		438	6.1		5		
IV-328	219	151	石核		O58	I	8	340.1		5		
			剥片	27	O60		70	10.3		5		
			剥片		P59	I	20	16.2		5		
			剥片	27	Q58		13	158.2		5		
IV-350	223	160	接合資料	21・27				20.7	3	1	214	1324
IV-308	206	59	細石刃核削片	21	N64		48	3.4		1		
IV-309	206	65	細石刃核削片	27	P61		300	12.8		1		
IV-308	205	54	細石刃核	27	Q60		1577	4.5		1		
IV-350	223	161	接合資料	27				7.3	2	真	-	2647
IV-309	206	62	細石刃核削片	27	O61		87	1.5		真		
IV-308	205	52	細石刃核	27	P60		631	5.8		真		
IV-351	223	162	接合資料	27				15.8	2	4	-	2646
IV-308	205	56	細石刃核	27	O60		232	8.5		4		
IV-308	206	60	細石刃核削片	27	O60		245	7.3		4		
IV-351	223	163	接合資料	27				32.2	2	め	-	2648
IV-308	205	55	細石刃核	27	P60		271	8.3		め		
			二次加工ある剥片	27	P61		85	23.9		め		
IV-351	223	164	接合資料	17・19・27				27.8	8	1	451	2028
IV-223	153	222	細石刃核削片		J63	I	37	0.5		1		
IV-222	153	219	細石刃核削片	17	K62		768	4.3		1		
IV-221	152	185	細石刃核削片	19	L61		5	4.9		1		
					L61	I	8	6.5		1		
IV-309	206	61	細石刃核削片	27	O59		127	0.7		1		
				27	O60		220	1.5		1		
					O60	I	9	3.3		1		
IV-309	206	63	細石刃核削片	27	O59		177	6.1		1		
IV-352	223	165	接合資料	17・21				7.4	2	1	-	2661
IV-219	151	151	細石刃核削片	17	J64		303	1.4		1		
IV-309	206	64	細石刃核削片	21	M64		12	6.0		1		
IV-353	224	166	接合資料	27・46・47				1,542.3	33	1・4・5	397	1885
IV-448	303	242	石刃	47	M52		292	32.5		5		
				47	N52		802	41.8		5		
			剥片	47	M52		308	78.3		5		
			縦長剥片	47	M52		608	28.8		5		
				47	N52		167	23.7		5		
			石刃		N51	I	118	66.7		5		
			剥片	46	N53		231	5.7		5		
				46	N53		320	23.5		5		
				46	N53		326	27.4		5		
IV-450	305	255	石刃	46	N56		51	88.4		5		
			剥片		O58	I	7	63.2		5		
			剥片	27	O59		26	13.7		1		
			剥片	27	Q59		49	62.0		5		
			石刃	27	Q59		96	16.5		5		
			剥片	27	Q59		97	61.3		5		
			剥片	27	Q59		232	72.4		5		
			剥片	27	Q59		271	38.3		5		
					Q59	I	3	9.1		5		
			剥片	27	Q59		342	64.8		5		
			剥片	27	Q59		357	125.6		5		
			剥片	27	Q59		475	126.6		5		

挿図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
			剥片	27	Q59		498	15.3		5		
			剥片	27	Q59		876	19.1		5		
			剥片	27	Q59		897	30.0		5		
			剥片	27	Q59		1080	44.5		5		
			剥片	27	Q59		1148	63.0		5		
			剥片	27	Q59		1384	52.5		4		
			剥片	27	Q59		1385	39.1		4		
			剥片	27	Q59		2016	24.8		1		
			縦長剥片	27	Q59		2231	25.4		5		
			剥片	27	Q60		229	76.3		5		
			剥片	27	Q60		1025	42.5		5		
			剥片	27	Q60		1402	39.5		5		
IV-354	225	167	接合資料	21・23・24・27				2,791.0	78	3・5	186	1249
			縦長剥片	21	N61		18	123.4		5		
				21	N61		44	42.8		5		
				21	N62		644	17.5		3		
			石刃	21	N61		27	17.9		3		
				21	N62		135	13.5		3		
				21	N62		653	30.4		3		
				21	N62		654	10.5		3		
			石刃	21	N61		28	60.5		5		
				21	N63		394	7.8		3		
			剥片	21	N61		29	138.9		5		
				21	N62		341	42.8		5		
			石刃	21	N62		45	23.2		3		
				21	N63		229	19.0		3		
				21	N63		746	5.8		3		
				21	N63		823	14.8		3		
			剥片	21	N62		127	21.3		5		
			剥片	21	N62		220	37.2		3		
			剥片	21	N62		342	10.3		3		
			縦長剥片	21	N62		343	22.2		3		
				21	N62		344	33.4		3		
			剥片	21	N62		345	8.0		3		
			剥片	21	N62		347	17.7		3		
			剥片	21	N62		352	17.2		3		
				21	N63		55	16.7		3		
				21	N63		458	2.2		3		
			石刃	21	N62		513	6.0		3		
				21	N62		988	7.3		3		
					N63	I	8	13.4		5		
			剥片	21	N62		518	16.4		3		
			石刃	21	N62		642	14.3		3		
				21	N62		922	28.3		3		
			剥片	21	N62		646	6.4		3		
			二次加工ある剥片	21	N62		655	37.3		3		
				21	N63		564	30.1		3		
			剥片	24	N62		657	23.6		3		
				21	N62		1001	65.0		3		
					N63	I	5	38.4		5		
			剥片	21	N62		991	31.0		3		
			剥片	21	N63		44	5.0		3		
			剥片	21	N63		90	35.3		3		
			剥片	21	N63		140	9.1		3		
			剥片	21	N63		150	14.9		3		
			剥片	21	N63		237	4.4		3		
			剥片	21	N63		347	16.6		3		
			剥片	21	N63		479	7.5		3		
			剥片	21	N63		521	3.7		3		
			剥片	21	N63		613	7.0		3		

上白滝8遺跡

種図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
				21	N63		617	9.7		3		
			剥片	21	N63		615	8.1		3		
			剥片	21	N63		616	9.1		3		
					N63	I	11	3.4		5		
IV-316	209	95	舟底形石器	21	N63		673	28.1		3		
				21	N63		689	15.1		3		
			剥片	21	N63		713	13.8		3		
			剥片	21	N63		726	11.7		3		
			剥片	21	N63		733	20.4		3		
			剥片	21	N63		747	9.2		3		
			剥片	21	N63		758	3.4		3		
			剥片	21	N63		811	3.3		3		
			剥片	21	N63		835	8.8		3		
			剥片		N63	I	6	23.6		5		
			剥片		N63	I	7	29.4		5		
			剥片		N63	I	9	13.0		5		
			剥片		N63	I	10	12.0		5		
			剥片		N63	I	12	7.5		5		
			剥片		N63	I	13	8.0		5		
			剥片	21	N64		90	5.0		5		
			剥片		N64	I	14	8.4		5		
			剥片	27	O61		63	0.5		5		
			剥片	24	O62		311	18.4		5		
			石刃	21	O63		35	26.0		3		
				21	O63		229	48.9		3		
IV-327	218	149	石核	23	O63		550	802.0		5		
				21	O64		366	95.4		5		
					七南60 ~65		31	209.1		5		
			石刃		O63	I	2	15.6		5		
				斜	P67	上	6	140.9		5		
			剥片		七南60 ~65		38	7.2		5		
IV-356	226	168	接合資料	20				967.2	13	4	184	1243
IV-315	209	88	舟底形石器	20	M65		19	232.5		4		
				20	M65		43	132.2		4		
			剥片	斜	M66	上	7	157.9		4		
				斜	M66	上	8	6.6		4		
			剥片	斜	M66	上	9	9.8		4		
			剥片	斜	M66	上	10	37.4		4		
			剥片	斜	M66	上	11	12.2		4		
			剥片	斜	M67	下	2	48.4		4		
IV-582	375	62	舟底形石器	斜	M68	上	2	65.4		4		
				斜	N67	上	10	87.4		4		
IV-582	376	63	舟底形石器	斜	N66	I	2	111.0		4		
					不明		不明	46.1		4		
			剥片	斜	N68	上	15	20.3		4		
IV-357	227	169	接合資料	17-26-27				2,995.2	20	1・5	245	1415
			石刃		I64	I	63	73.1		5		
			剥片	17	J63		47	7.0		5		
				26	P63		506	4.2		5		
			剥片	17	K63		62	22.3		5		
				17	K63		513	18.2		1		
IV-237	162	351	石刃核		K63	I	17	1,429.5		5		
			剥片	27	P62		571	2.9		5		
				26	P63		409	762.3		5		
			剥片	27	P62		644	26.6		5		
					P62	I	1	77.9		5		
			縦長剥片	26	P63		399	3.2		5		
				26	P64		173	12.3		5		
			剥片	27	P63		491	70.6		5		
			剥片	26	P64		85	18.7		5		

種図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
				26	P64		181	116.1		5		
			剥片	26	P64		87	183.0		5		
			剥片	26	P64		88	35.1		5		
				26	P64		232	6.2		5		
			縦長剥片	26	P64		137	111.0		5		
				26	Q64		23	15.0		5		
IV-358	228	170	接合資料	27・46				2,128.1	78	1・5	244	1414
			石刃		J51	I	6	17.5		5		
					七南52 ~59		18	35.9		5		
			石刃		J51	I	17	54.9		5		
			石刃	46	N53		284	69.7		5		
				27	Q60		1451	7.5		5		
					不明		不明	37.6		5		
			石刃	46	N54		234	21.9		5		
				46	N54		330	13.6		5		
				27	Q60		1801	5.5		5		
			石刃		N57	I	12	41.7		5		
			剥片		P59	I	1	58.4		5		
			縦長剥片	27	Q59		301	10.7		5		
				27	Q59		552	1.8		5		
				27	Q59		691	1.9		5		
				27	Q59		706	25.9		5		
				27	Q60		173	15.8		5		
				27	Q60		699	19.3		5		
				27	Q60		936	9.7		5		
				27	Q60		1747	5.8		5		
			剥片	27	Q59		332	44.9		5		
			剥片	27	Q59		335	1.8		5		
			剥片	27	Q59		375	8.1		5		
				27	Q59		2081	6.0		5		
			剥片	27	Q59		412	11.5		5		
			剥片	27	Q59		422	14.7		5		
				27	Q59		1579	2.3		5		
			石刃	27	Q59		440	16.4		5		
			剥片	27	Q59		469	21.0		5		
			剥片	27	Q59		542	8.5		5		
					Q59	I	13	18.7		5		
			剥片	27	Q59		566	17.6		5		
			石刃	27	Q59		740	29.5		5		
				27	Q59		960	24.2		5		
				27	Q59		1323	7.9		5		
			剥片	27	Q59		869	4.5		5		
			石刃	27	Q59		1073	26.7		5		
				27	Q59		2439	19.8		5		
			剥片	27	Q59		1344	3.8		5		
			剥片	27	Q59		1345	10.2		5		
			剥片	27	Q59		1373	22.6		5		
				27	Q59		1715	12.9		5		
			剥片	27	Q59		1376	24.7		5		
			剥片	27	Q59		1394	6.8		1		
			剥片	27	Q59		1444	4.2		5		
			剥片	27	Q59		1580	19.3		5		
				27	Q60		23	4.3		5		
					七南52 ~59		118	21.1		5		
			縦長剥片	27	Q59		1623	6.5		5		
				27	Q60		1112	4.4		5		
				27	Q60		1314	4.0		5		
			剥片	27	Q59		1827	10.0		5		
			石刃	27	Q59		2147	25.6		5		
				27	Q60		1000	17.2		5		

掲載遺物一覧

挿図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
			剥片	27	Q59		2457	74.4		5		
			縦長剥片	27	Q59		2474	12.6		5		
				27	Q60		1518	144.8		5		
			剥片	27	Q59		2489	20.9		5		
			縦長剥片		Q59	I	2	154.4		5		
			剥片	27	Q60		202	2.6		5		
			剥片	27	Q60		362	19.7		5		
			石刃	27	Q60		380	13.8		5		
			剥片	27	Q60		546	3.6		5		
			剥片	27	Q60		823	16.1		5		
			剥片	27	Q60		927	340.0		5		
			剥片	27	Q60		1109	7.2		5		
				27	Q60		1236	15.8		5		
			剥片	27	Q60		1160	71.6		5		
			剥片	27	Q60		1178	4.9		1		
			剥片	27	Q60		1397	12.6		5		
			剥片	27	Q60		1406	28.5		5		
			剥片	27	Q60		1519	1.7		5		
			縦長剥片	27	Q60		1673	41.4		5		
			縦長剥片	27	Q60		1731	35.9		5		
			剥片	27	Q60		1957	15.2		5		
			剥片	27	Q60		1983	22.2		5		
			剥片	27	Q60		2040	70.1		5		
			剥片			七北52 ~59	257	30.5		5		
			剥片			七北52 ~59	258	30.8		5		
IV-360	229	171	接合資料	25				4,252.5	27	1・5	238	1398
			剥片	斜	Q67	I	22	91.9		5		
			剥片	斜	Q67	下	21	11.0		5		
					R65	I	3	29.7		5		
			石刃	25	R64		16	31.1		5		
					七南60 ~65		50	24.6		5		
			剥片	25	R64		89	112.5		5		
			石刃	25	R64		211	77.9		5		
					R65	I	17	240.2		5		
				斜	R66	上	7	45.1		5		
			剥片	25	R64		333	23.6		1		
			剥片	25	R64		342	108.4		5		
			剥片	25	R64		389	22.1		1		
					R65	I	9	66.2		5		
			剥片	25	R64		398	3.5		5		
					R65	I	5	42.9		5		
			剥片	25	R65		9	8.0		5		
			剥片	25	R65		21	184.3		5		
			石刃	25	R65		61	31.2		5		
					七南60 ~65		51	34.1		5		
			剥片	25	R65		266	49.2		5		
			剥片	25	R65		285	36.2		5		
			石刃		R65	I	4	24.3		5		
				斜	R67	上	9	71.2		5		
IV-590	382	115	石刃核	斜	R66	上	4	2,577.7		5		
			剥片	斜	R66	上	13	22.9		5		
				斜	R69	下	4	251.2		5		
			剥片	斜	R67	下	8	31.5		5		
IV-362	231	172	接合資料	27・28・46				2,483.9	95	1・3・4・5	202	1281
IV-461	310	295	石核		H51	I	1	509.1		5		
			石刃	46	L54		203	45.9		1		
				28	R61		85	4.7		1		
			石刃	27	Q61		282	15.0		5		
				28	R61		364	4.1		1		
			剥片	28	R59		34	9.3		1		

挿図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
				28	R61		154	84.3		1		
			剥片	28	R59		55	64.3		1		
				28	R61		360	32.2		1		
				28	R61		486	1.7		1		
			剥片	28	R59		56	22.8		1		
			剥片	28	R59		67	9.5		1		
			石刃	28	R60		88	83.9		5		
				28	R60		204	20.2		5		
				28	R60		1213	8.1		1		
				28	R61		489	8.4		1		
			剥片	28	R60		179	39.2		5		
				28	R61		171	45.7		1		
				28	R61		381	43.3		3		
				28	R61		929	51.5		5		
			剥片	28	R60		193	21.6		1		
			剥片	28	R60		574	24.6		1		
				28	R61		573	6.1		1		
			剥片	28	R60		678	12.7		1		
			剥片	28	R60		1117	10.6		1		
			剥片	28	R60		1120	3.8		1		
			剥片	28	R60		1121	7.7		1		
			剥片	28	R60		1125	3.1		1		
				28	R60		1205	4.2		1		
			剥片	28	R60		1126	3.6		1		
			縦長剥片	28	R60		1148	13.7		1		
			剥片	28	R61		19	4.4		1		
			剥片	28	R61		35	5.2		1		
			剥片	28	R61		136	2.5		1		
				28	R62		245	19.3		5		
				28	R62		247	16.5		1		
				28	R62		253	5.6		1		
				28	R62		272	11.9		4		
				28	R62		323	3.3		1		
			剥片	28	R61		137	17.7		1		
				28	R62		316	41.4		1		
			剥片	28	R61		145	22.7		1		
			縦長剥片	28	R61		166	14.1		1		
				28	R61		526	11.6		1		
				28	R62		110	9.3		1		
			剥片	28	R61		380	5.1		1		
			剥片	28	R61		382	29.4		1		
				28	R61		518	2.5		1		
				28	R61		694	1.8		1		
			剥片	28	R61		386	6.2		1		
			剥片	28	R61		491	4.0		1		
				28	R62		63	39.2		1		
				28	R62		244	46.0		1		
				28	R62		250	9.0		1		
				28	R62		264	11.2		1		
			剥片	28	R61		510	12.6		1		
				28	R61		631	10.1		1		
				28	R62		246	3.8		5		
				28	R62		251	19.3		4		
				28	R62		254	44.0		4		
			剥片	28	R61		514	8.3		1		
			剥片	28	R61		633	40.3		1		
			剥片	28	R61		691	41.6		1		
			剥片	28	R61		696	43.3		1		
				28	R62		161	30.5		1		
			剥片	28	R61		697	48.7		1		

上白滝8遺跡

挿図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
			剥片	28	R61		721	2.0		1		
			剥片	28	R61		764	34.5		1		
				28	R62		125	18.8		1		
				28	R62		263	18.6		1		
			剥片	28	R61		927	5.0		1		
			剥片	28	R61		937	2.7		1		
			石刃	28	R62		20	21.2		1		
				28	R62		78	22.2		1		
			削器	28	R62		21	7.5		1		
				28	R62		54	33.0		1		
			剥片	28	R62		36	3.7		1		
			石刃	28	R62		45	44.9		1		
			剥片	28	R62		55	13.4		1		
			剥片	28	R62		66	31.2		1		
			剥片	28	R62		83	8.1		1		
			石刃	28	R62		87	6.5		1		
				28	R62		216	88.4		1		
				28	R62		218	5.6		1		
			剥片	28	R62		96	15.3		1		
			石刃	28	R62		101	25.7		1		
			石刃	28	R62		102	8.8		1		
			縦長剥片	28	R62		120	9.5		1		
IV-323	215	136	石核	28	R62		159	142.7		1		
			剥片	28	R62		163	13.6		1		
			剥片	28	R62		167	12.4		1		
			剥片	28	R62		178	8.6		1		
			石刃	28	R62		189	5.5		1		
			剥片	28	R62		286	12.6		1		
			剥片	28	R62		297	4.6		1		
IV-364	232	174	接合資料	25				1,630.6	42	1・3	195	1267
			石刃		O50	I	19	38.4		1		
					P50	I	11	17.2		1		
IV-587	379	101	石刃	斜	Q67	下	7	83.4		1		
			縦長剥片	斜	Q68	上	8	37.2		1		
			剥片	斜	Q68	上	9	8.3		1		
			縦長剥片	斜	Q68	下	10	31.7		1		
					排土		113	40.1		1		
			縦長剥片	斜	Q68	下	11	38.4		1		
					R64	I	16	8.0		1		
					25	R65		211	124.8		1	
						七南60~65	56	5.4		1		
IV-585	377	90	削器	斜	Q70	上	2	38.4		1		
			石刃	斜	Q71	上	4	20.3		1		
			剥片	斜	Q72	上	3	7.8		1		
			石刃	斜	Q72	上	4	15.7		1		
			剥片	25	R64		18	27.0		3		
				25	R64		20	32.2		3		
			石刃	25	R64		29	18.4		1		
				25	R66	上	23	23.5		1		
			縦長剥片	25	R64		60	22.8		3		
				25	R64		232	4.5		1		
					七南60~65		54	27.2		1		
			石刃	25	R64		61	18.2		3		
				25	R68	下	2	112.3		1		
					ボサ		2	41.5		1		
			石刃	25	R64		130	58.7		1		
				25	R64		134	18.7		1		
			縦長剥片	25	R64		244	5.0		1		
				25	R68	下	4	83.7		1		
					七南60~65		55	26.2		1		

挿図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
			剥片		R64	I	15	25.5		1		
			石刃	25	R65		32	27.5		1		
				斜	上		8	20.2		1		
					七南60~65		45	13.8		1		
					七南60~65		46	8.4		1		
			石刃	25	R65		155	13.4		3		
				25	R65		172	45.5		3		
IV-588	379	102	石刃	斜	R66	下	10	62.4		1		
				斜	R66	下	11	3.7		1		
				斜	R66	下	12	116.3		1		
IV-587	379	100	石刃	斜	R69	下	2	235.6		1		
			石刃	斜	R70	上	4	23.3		1		
IV-366	233	175	接合資料	22,23,25 26-27				2,476.7	52	1・3・5	193	1266
			剥片	27	P62		397	3.3		1		
			縦長剥片	27	P62		400	91.1		1		
				27	P62		500	39.5		3		
				27	P62		506	23.4		3		
			縦長剥片	27	P62		439	112.1		1		
				27	P62		442	1.5		1		
				27	P62		443	9.6		1		
				27	P62		502	2.9		1		
				27	P62		559	21.7		1		
				27	P63		561	5.3		1		
				27	P63	II	4	5.4		1		
			縦長剥片	27	P62		503	7.6		1		
				27	P62		555	23.4		1		
				27	P63		137	2.0		1		
				27	P63		340	8.5		1		
			剥片	27	P62		562	14.6		1		
				27	P63		609	158.0		1		
				22	P64		43	13.4		1		
			剥片	27	P62		569	24.6		1		
				26	P63		394	8.2		1		
				22	P65		252	15.2		1		
			縦長剥片	27	P63		252	4.0		1		
				26	P64		62	25.0		1		
				26	P64		172	128.2		1		
				26	P64	I	2	135.2		1		
			剥片	23	P63		261	51.7		1		
			縦長剥片	27	P63		341	1.1		1		
				27	P64	I	9	9.9		1		
				27	P64	I	13	2.8		1		
				25	Q64		107	14.6		1		
					七南60~65		27	31.1		1		
					七南60~65		28	46.2		1		
			剥片	23	P63		466	12.8		1		
			剥片	27	P63		487	16.7		1		
IV-324	216	141	石刃核	26	P63		501	1,080.4		1		
			剥片	26	P63		504	27.2		3		
				22	P64		193	1.9		1		
			剥片	22	P64		16	51.9		5		
				22	P64		188	4.6		1		
			縦長剥片	22	P64		44	1.3		1		
				26	P64		83	3.6		1		
				22	P64		167	23.9		1		
				22	P65		292	9.0		1		
					七南60~65		39	6.5		1		
			剥片		P64	I	3	20.0		1		
			剥片		P64	I	10	20.1		1		
			剥片		P64	I	11	52.8		1		

掲載遺物一覧

種図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
			縦長剥片	22	P65		267	15.3		1		
					Q63	I	1	46.1		1		
			剥片	22	P65		323	11.4		1		
			縦長剥片	26	Q64		120	17.3		3		
				26	Q64		189	12.8		1		
IV-367	234	176	接合資料	27・28				783.2	33	1	192	1264
			石刃		O59	I	4	16.1		1		
			縦長剥片	27	O60		82	4.2		1		
				27	P59		218	17.2		1		
				27	Q60		1492	17.3		1		
			剥片		O60	I	5	47.5		1		
IV-308	205	48	両面調整石器		O60	I	6	21.9		1		
					P62	I	6	146.3		1		
			縦長剥片	27	P59		157	44.0		1		
			剥片	27	P59		441	3.8		1		
					P60	I	8	3.2		1		
			剥片	27	P59		518	7.9		1		
			剥片	27	P60		12	17.0		1		
			石刃	27	P60		170	4.8		1		
					P61	I	71	2.2		1		
			剥片	27	P60		297	2.3		1		
			剥片	27	P60		379	17.0		1		
				27	P60		404	29.0		1		
				27	P60		405	31.0		1		
				27	P60		1261	1.4		1		
			剥片	27	P60		427	10.2		1		
			縦長剥片	27	P60		755	5.7		1		
			剥片	27	P60		1139	3.8		1		
			剥片	27	P60		1348	13.3		1		
			剥片	27	P60		1370	6.7		1		
				27	P60		2449	4.1		1		
			縦長剥片	27	P60		1468	10.9		1		
				27	P60		2060	20.1		1		
			剥片	27	P60		2386	21.0		1		
			剥片	27	P60		2398	2.3		1		
IV-326	217	146	石核	27	P60		2423	169.2		1		
			石刃	27	P61		1593	25.2		1		
				27	Q61		158	15.7		1		
			剥片	28	R60		180	40.9		1		
IV-368	241	182	接合資料	27				762.7	32	1・5	191	1260
			剥片		P59	I	19	6.7		1		
				27	Q59		688	11.6		5		
					Q60	I	22	105.9		1		
			剥片	27	P61		36	38.3		1		
			剥片	27	Q59		89	5.2		1		
			剥片	27	Q59		170	22.3		1		
			剥片	27	Q59		334	10.3		5		
			剥片	27	Q59		443	9.5		1		
				27	Q60		1973	2.3		1		
			剥片	27	Q59		497	25.2		1		
				27	Q59		726	10.3		1		
				27	Q59		1805	0.7		1		
			剥片	27	Q59		556	1.1		1		
				27	Q59		829	62.8		1		
					Q59	I	14	7.1		1		
			剥片	27	Q59		565	40.0		1		
				27	Q59		1632	1.8		1		
				27	Q60		1951	1.3		1		
			剥片	27	Q59		583	4.7		1		
				27	Q59		964	56.3		1		

種図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
			剥片	27	Q59		604	14.4		5		
			剥片	27	Q59		839	69.6		1		
			剥片	27	Q59		1050	5.3		5		
			剥片	27	Q59		1325	26.6		1		
			剥片	27	Q59		1343	6.3		1		
			剥片	27	Q59		1622	3.3		1		
				27	Q60		1119	28.2		1		
			剥片	27	Q59		2110	5.6		1		
			剥片	27	Q59		2262	4.6		1		
			剥片	27	Q60		569	160.5		1		
			剥片	27	Q60		1118	14.1		1		
			剥片	27	Q60		1622	0.8		1		
IV-368	242	184	接合資料	23・27・29・46				11,888.6	150	1・5	241	1404
			石刃	27	M59		12	109.0		5		
			剥片		N57	I	5	80.1		5		
			石刃	27	N58		9	57.4		5		
				27	N59		201	11.3		5		
			剥片	27	N58		24	16.5		5		
				27	O58		253	3.7		5		
			剥片	27	N58		40	487.0		5		
IV-320	212	126	石刃	27	N58		57	72.2		5		
				27	N58		201	30.0		5		
				27	N58		221	48.4		5		
			縦長剥片	27	N58		58	27.7		5		
				27	N58		496	53.8		5		
			縦長剥片	27	N58		142	14.3		5		
				27	N58		555	12.2		5		
			剥片	27	N58		235	8.7		5		
			剥片	27	N58		254	55.0		5		
IV-322	214	132	石刃	27	N58		255	67.2		5		
				27	N58		625	7.6		5		
				27	N59		280	160.7		5		
			剥片	27	N58		263	19.0		5		
			縦長剥片	27	N58		275	86.6		5		
			石刃	27	N58		378	54.2		5		
				27	N58		395	40.6		5		
			剥片	27	N58		390	41.1		5		
					N60	I	6	20.7		5		
				27	O59		463	21.4		5		
			剥片	27	N58		421	40.3		5		
			石刃	27	N58		472	203.2		5		
			剥片	27	N58		481	146.0		5		
			縦長剥片	27	N58		482	4.2		5		
				27	N59		51	6.2		5		
				27	N59		151	12.5		5		
			石刃	27	N58		533	9.8		5		
				27	N58		541	11.5		5		
			石刃	27	N58		537	38.3		5		
				27	N58		592	14.1		5		
				27	N59		136	17.4		5		
			剥片	27	N58		545	64.8		5		
				27	N58		589	4.4		5		
				27	N58		618	14.3		5		
				27	N59		38	22.5		5		
			剥片	27	N58		553	412.3		5		
			剥片	27	N58		580	34.2		5		
			剥片	27	N58		628	22.9		5		
			剥片		N58	I	10	28.5		5		
			剥片		N58	I	14	44.1		5		
			剥片		N58	I	15	25.2		5		

上白滝8遺跡

種目	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
			剥片	27	N58	I	18	4.9		5		
					O59		484	19.1		5		
			剥片	27	N59		4	4.2		5		
					O58		71	20.9		5		
					O58		124	17.8		5		
					O59		228	2.0		5		
			剥片	27	N59		21	23.9		5		
			剥片	27	N59		31	115.7		5		
					O61	I	1	1,116.3		5		
			剥片	27	N59		37	20.7		5		
			剥片	27	N59		42	102.2		5		
IV-326	217	145	石核	27	N59		45	655.7		5		
			剥片	27	N59		60	67.1		5		
			剥片	27	N59		90	49.5		5		
			縦長剥片	27	N59		97	16.5		5		
					O59		522	80.2		5		
			剥片	27	N59		124	89.1		5		
			剥片	27	N59		127	48.5		5		
			縦長剥片	27	N59		135	25.4		5		
					N59		257	11.9		5		
					O59		163	15.7		5		
IV-320	212	128	石刃	27	N59		176	14.9		5		
					O58	I	14	41.1		5		
					P58		177	118.2		5		
			石刃	27	N59		177	62.6		5		
					N59		291	139.6		5		
			剥片	27	N59		178	248.0		5		
			剥片	27	N59		179	5.1		5		
					O59		289	39.9		5		
			剥片	27	N59		193	92.8		5		
			剥片	27	N59		228	38.8		5		
					N60		4	6.0		5		
			剥片		N59	I	4	241.9		5		
			縦長剥片		N59	I	31	7.6		5		
					N60	I	7	10.8		5		
IV-322	214	134	石刃	27	N60		43	684.5		5		
			剥片	27	N60		58	28.9		5		
					O59	I	19	25.2		5		
			剥片	46	O54		18	115.3		5		
					O55		92	1,081.1		5		
			剥片	27	O57		22	13.9		5		
			剥片	27	O57		152	13.1		5		
			剥片	27	O57		220	24.4		5		
			剥片	27	O57		257	80.8		5		
			剥片	27	O57		262	30.1		5		
			剥片	27	O57		269	35.6		5		
			剥片	27	O58		49	100.7		5		
			剥片	27	O58		118	9.7		5		
			剥片	27	O58		134	1.6		5		
					O58		164	70.2		5		
			剥片	27	O58		138	45.7		5		
			剥片	27	O58		163	19.7		5		
					O59		153	3.9		5		
			剥片	27	O58		235	32.1		5		
			剥片	27	O58		245	125.9		5		
			剥片	27	O58		263	95.3		5		
			剥片	27	O58		284	3.4		5		
					O58	I	16	21.1		5		
					O59	I	15	24.6		5		
					O59	I	26	8.0		5		
			剥片	27	O58		325	13.1		5		
			剥片	27	O58		374	51.8		5		
IV-319	211	120	削器	27	O58		391	33.5		5		
			剥片		O58	I	9	8.9		5		
					O59		38	23.4		5		
			剥片		O58	I	21	67.3		5		
			剥片	27	O59		98	20.4		5		
			剥片	27	O59		215	12.5		5		
			石刃	27	O59		249	125.3		5		
			剥片	27	O59		255	7.8		5		
			剥片	27	O59		293	7.6		5		
			剥片	27	O59		334	126.2		5		
			剥片	27	O59		343	1.9		5		
					P61		338	35.6		5		
					P61		1433	4.6		5		
			剥片	27	O59		350	284.9		5		
			剥片	27	O59		390	29.9		5		
			剥片	27	O59		393	12.4		5		
			剥片	27	O59		482	19.9		5		
			剥片	27	O60		199	18.7		5		
					O60	I	31	10.3		5		
			剥片	23	O62		42	42.0		5		
			剥片	23	O62		54	219.0		5		
					P61		863	15.0		5		
					P61		1779	195.2		5		
					P61	I	6	41.8		5		
					P61	I	43	19.0		5		
					P62	I	19	103.9		5		
IV-320	212	127	石刃	29	P55		169	54.2		5		
					P55	I	1	78.7		5		
					P57		17	25.8		5		
			剥片	27	P60		769	32.0		5		
			剥片	27	P61		357	85.9		5		
					P62		253	45.6		5		
			剥片	27	P61		433	97.5		5		
			剥片	27	P61		509	16.2		5		
			剥片	27	P62		206	21.1		5		
			剥片	23	P62		273	373.9		1		
			剥片	27	P62		313	26.3		5		
			剥片	27	P62		325	29.2		5		
			剥片	27	P62		485	10.0		5		
			剥片	27	P63		6	255.7		5		
			剥片		排土		118	132.1		5		
IV-371	236	180	接合資料	23-27-46				13,333.0	198	1-4-5	243	1409
			剥片	46	N53		310	27.5		5		
IV-449	304	248	石刃	46	N54		68	29.8		5		
					N54		126	64.6		5		
					N54		138	14.9		5		
					N54		345	16.1		5		
					N55		17	3.6		5		
IV-448	303	245	石刃	46	N54		127	18.7		5		
					N54		291	98.5		5		
					P61		16	10.4		5		
IV-449	304	246	石刃	46	N54		247	34.9		5		
					N54		257	59.1		5		
IV-448	303	243	石刃	46	N54		290	82.5		5		
			剥片	27	N58		461	12.2		5		
					N60	I	4	312.5		1		
			剥片	27	N58		471	36.6		5		
					Q59		486	3.0		5		

掲載遺物一覧

挿図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
				27	Q59		653	37.7		5		
				27	Q59		657	144.7		5		
				27	Q59		667	3.5		5		
				27	Q59		785	55.7		5		
				27	Q59		2530	15.6		5		
				27	Q60		105	3.6		5		
				27	Q60		106	45.4		5		
				27	Q60		447	12.7		5		
				27	Q60		538	6.2		5		
				27	Q60		641	2,016.0		5		
				27	Q60		698	4.6		5		
			剥片	27	N59		305	61.2		5		
			剥片		N60	I	8	217.3		5		
					N60	I	9	20.8		5		
			剥片	27	O60		187	5.9		5		
					P61	I	35	4.8		5		
IV-323	215	138	石刃核		O60	I	2	648.5		5		
			剥片		O60	I	14	15.3		1		
				27	Q60		509	354.6		5		
				27	Q61		250	118.2		5		
			剥片		O60	I	26	491.2		5		
					O60	I	27	81.3		5		
			剥片	27	O61		82	8.6		1		
			剥片		O61	I	12	21.5		5		
					P61	I	25	45.4		5		
IV-322	214	133	石刃	23	O62		6	72.1		5		
				27	P61		1559	44.7		5		
			剥片	23	O62		9	57.7		5		
					P62	I	2	38.1		5		
			剥片		O62	I	1	42.9		5		
			剥片		O62	I	4	13.0		5		
			剥片		O62	I	6	3.7		5		
			剥片	27	P60		39	1.5		5		
				27	Q60		309	23.2		5		
			剥片	27	P60		106	565.2		5		
				27	Q60		499	12.9		5		
			剥片	27	P60		236	4.3		4		
			縦長剥片	27	P60		395	28.5		5		
				27	P61		1237	13.4		5		
					P61	I	31	10.5		5		
			剥片	27	P60		991	6.4		5		
			剥片	27	P60		1837	7.0		5		
			剥片	27	P60		1839	23.8		5		
				27	P60		1840	132.8		5		
			剥片	27	P60		2051	261.6		5		
				27	P61		332	4.5		5		
					P61	I	3	27.5		5		
			剥片	27	P60		2070	14.4		5		
				27	P61		361	4.8		5		
				27	P62		51	27.8		5		
IV-321	213	131	石刃		P60	I	1	146.4		5		
				27	P61		185	17.5		5		
				27	P62		16	25.1		5		
				27	P62		20	46.4		5		
			剥片	27	P61		2	313.3		5		
			剥片	27	P61		8	15.6		5		
IV-319	212	125	石刃	27	P61		11	15.2		5		
					P61	I	21	39.2		5		
				27	P62		366	32.7		5		
					P62	I	13	7.1		5		

挿図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
				27	P63		47	17.1		5		
			剥片	27	P61		34	15.9		5		
				27	P61		506	36.4		5		
			剥片	27	P61		175	12.7		5		
			剥片	27	P61		178	144.3		5		
			剥片	27	P61		320	90.3		5		
				27	Q59		2362	10.6		5		
			剥片	27	P61		432	33.0		5		
			剥片	27	P61		531	6.0		5		
			剥片	27	P61		618	47.0		5		
				27	P61		1564	61.2		5		
			剥片	27	P61		1062	8.0		5		
			縦長剥片	27	P61		1117	23.2		5		
			縦長剥片	27	P61		1238	60.9		5		
				27	P61		1239	65.0		5		
				27	P61		1724	91.5		5		
				27	P62		370	41.3		5		
			縦長剥片	27	P61		1287	74.7		5		
					取付 道路		22	67.4		5		
			剥片	27	P61		1350	7.1		5		
			剥片	27	P61		1434	7.9		5		
			剥片	27	P61		1442	10.6		5		
			剥片	27	P61		1446	50.3		5		
IV-320	213	129	石刃	27	P61		1461	65.7		5		
					P61	I	19	73.1		5		
			剥片	27	P61		1466	1.1		5		
			剥片	27	P61		1625	94.9		5		
			石刃	27	P61		1726	107.8		5		
				23	P62		275	37.8		5		
			石刃	27	P61		1784	55.3		5		
				27	P62		45	44.7		5		
				27	P62		48	4.1		5		
				27	P62		305	41.6		5		
			剥片		P61	I	5	94.5		5		
					P62		3	5.7		5		
			剥片		P61	I	20	8.7		5		
			石刃		P61	I	24	86.1		5		
			石刃	27	P62		65	56.2		5		
				27	Q62		178	0.8		1		
			剥片	27	P62		80	56.2		5		
			剥片	27	P62		122	3.7		5		
				23	P62		140	10.6		5		
				27	P62		515	57.8		5		
			剥片	27	P62		143	35.5		5		
			剥片	27	P62		167	35.7		5		
				27	P62		604	2.6		5		
			剥片	27	P62		212	31.8		5		
			剥片	27	P62		254	43.9		5		
			剥片	27	P62		286	20.1		5		
			剥片	27	P62		364	9.9		5		
			剥片	27	P62		522	11.3		5		
			剥片	27	P62		602	9.0		5		
			剥片		P62	I	3	86.2		5		
			剥片		P62	I	11	24.7		5		
					七南60 ~65		70	234.3		5		
			剥片		P62	I	12	25.9		5		
				27	P63		96	110.1		5		
			石刃		P62	I	14	101.1		5		
					七南60 ~65		79	55.4		5		
			剥片		P62	I	23	8.2		5		

上白滝8遺跡

種図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
			剥片		P62	I	25	66.4		5		
			剥片	27	P63		138	58.7		5		
			剥片	27	P63		141	36.0		5		
			剥片	27	Q59		643	34.4		5		
				27	Q60		1264	13.3		5		
				27	Q60		1448	13.2		5		
			剥片	27	Q59		801	3.1		5		
				27	Q60		1638	3.0		5		
			剥片	27	Q59		1270	389.0		5		
				27	Q59		2020	8.9		5		
				27	Q60		737	10.2		5		
			剥片	27	Q59		1610	17.8		5		
			剥片	27	Q59		2117	33.1		1		
				27	Q59		2297	6.1		1		
			剥片	27	Q59		2355	48.8		5		
				27	Q60		713	14.1		5		
			剥片	27	Q59		2531	20.1		5		
				27	Q60		74	179.0		5		
			剥片	27	Q60		80	98.4		5		
				27	Q60		1521	11.0		5		
			剥片	27	Q60		138	14.3		5		
			剥片	27	Q60		155	35.0		1		
				27	Q60		1203	23.2		1		
				27	Q60		1392	16.9		5		
			剥片	27	Q60		166	26.9		5		
				27	Q60		275	44.1		5		
			剥片	27	Q60		183	76.4		1		
			剥片	27	Q60		195	1.7		5		
			剥片	27	Q60		211	64.4		5		
				27	Q60		406	2.1		1		
				27	Q60		1149	5.8		1		
			剥片	27	Q60		240	80.6		5		
			剥片	27	Q60		324	15.8		5		
IV-321	213	130	石刃	27	Q60		378	307.0		5		
				27	Q60		1603	4.8		5		
			剥片	27	Q60		398	46.8		5		
				27	Q60		1509	32.1		5		
			剥片	27	Q60		399	169.0		1		
			剥片	27	Q60		651	58.1		5		
				27	Q60		857	1.5		5		
			剥片	27	Q60		658	15.0		5		
			剥片	27	Q60		748	46.5		5		
			剥片	27	Q60		855	13.6		5		
			剥片	27	Q60		973	24.2		5		
				27	Q60		1550	16.0		5		
			剥片	27	Q60		975	8.5		5		
			剥片	27	Q60		1041	4.2		5		
			剥片	27	Q60		1053	66.1		1		
			剥片	27	Q60		1464	10.0		5		
			剥片	27	Q60		1465	1.8		5		
			剥片	27	Q60		1501	213.2		5		
			剥片	27	Q60		1533	74.7		5		
			剥片	27	Q60		1625	8.7		5		
			剥片		Q60	I	5	19.9		5		
			剥片		Q60	I	6	13.0		5		
			剥片		Q60	I	7	6.9		5		
			石刃		Q62	I	1	127.0		5		
			剥片		七南60 ~65		66	252.3		5		
					七南60 ~65		67	27.1		5		
			剥片		七南60 ~65		68	31.4		5		

種図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
			剥片		七南60 ~65		69	91.4		5		
			石刃		七南60 ~65		78	69.9		5		
IV-373	235	179	接合資料	23・27				4,077.3	34	1・3・5	198	1271
			剥片	27	P60		2050	481.1		1		
			剥片	27	P61		105	67.0		1		
				27	P62		116	36.2		1		
				27	P62		223	145.8		1		
					P63	I	5	17.5		1		
					七南60 ~65		24	334.5		1		
					七南60 ~65		65	212.0		1		
			剥片	27	P61		791	8.5		5		
				27	P61		1182	30.0		5		
				27	P61		1271	1.7		3		
			剥片	27	P61		1180	12.2		1		
			剥片	27	P61		1555	519.1		1		
				27	P62		483	95.5		5		
			剥片	27	P62		41	3.0		1		
				23	P62		57	464.2		1		
				27	P62		215	7.2		1		
				23	P62		542	3.9		1		
				27	P62		592	7.2		1		
					P62	I	40	13.6		1		
			剥片	27	P62		47	18.3		1		
				27	P62		595	16.1		1		
					P62	I	4	98.3		1		
			剥片	27	P62		102	2.3		1		
			剥片	27	P62		163	19.2		1		
				27	P62		508	7.7		5		
					P62	I	34	12.7		1		
			剥片	27	P62		239	15.9		1		
			剥片	27	P62		312	3.9		1		
				27	P62		347	1.1		1		
			剥片	27	P62		474	56.7		5		
IV-328	219	153	石核	27	P62		481	702.5		1		
			剥片		P62	I	22	6.7		5		
			剥片	23	P63		83	50.3		1		
IV-574	370	38	石核		七南60 ~65		23	605.4		1		
IV-375	241	183	接合資料	24・29・46				279.5	12	3・5	399	1887
			剥片		N54	I	15	6.9		5		
IV-314	208	86	舟底形石器	24	O62		347	151.1		3		
			剥片	46	P54		4	5.5		5		
			剥片	29	P54		12	8.0		5		
			剥片	29	P54		96	9.7		5		
			剥片		P54	I	1	15.6		5		
			剥片		P54	I	2	4.6		5		
			剥片		P54	I	3	1.9		5		
					P54	I	4	2.1		5		
			剥片	29	P55		58	1.4		5		
			剥片	29	P55		59	6.7		5		
IV-565	366	5	舟底形石器	外	Q56		2	66.0		3		
-	247	186	接合資料	21・24				707.8	8	2	182	1237
IV-296	198	11	尖頭器	21	N62		200	312.0		2		
				21	N63		741	107.3		2		
				24	O62		475	264.5		2		
			剥片	21	N63		719	3.7		2		
			剥片	24	O62		164	1.9		2		
				24	O62		345	4.5		2		
			剥片	24	O62		306	9.4		2		
			剥片	24	O62		344	4.5		2		
-	248	187	接合資料	28				732.0	77	3・4・5	230	1364

掲載遺物一覧

挿図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
			剥片	28	R60		430	2.4		4		
			縦長剥片	28	R60		480	20.1		4		
			剥片	28	R60		483	1.8		4		
				28	R61		262	10.1		4		
			剥片	28	R60		485	1.1		4		
				28	R60		741	3.2		4		
			剥片	28	R60		486	2.8		4		
				28	R61		597	3.2		4		
			剥片	28	R60		523	2.2		4		
				28	R61		304	3.2		4		
				28	R61		391	2.1		4		
				28	R61		879	2.4		4		
				28	R61		880	2.1		4		
			剥片	28	R60		621	7.7		4		
				28	R60		645	18.5		4		
				28	R61		754	24.0		4		
			剥片	28	R60		627	9.3		4		
				28	R60		1073	13.5		4		
				28	R60		1084	24.7		4		
				28	R61		324	1.6		4		
				28	R61		648	7.4		4		
			剥片	28	R60		633	3.2		4		
				28	R60		661	6.3		4		
				28	R60		662	2.1		4		
				28	R60		1043	2.2		4		
				28	R60		1051	12.2		4		
				28	R61		726	2.8		4		
			剥片	28	R60		660	1.2		3		
				28	R61		330	1.5		4		
				28	R61		740	2.2		4		
				28	R61		884	5.3		4		
			剥片	28	R60		681	10.3		4		
			剥片	28	R60		709	11.7		4		
				28	R60		1154	8.3		4		
				28	R61		230	3.3		4		
				28	R61		332	2.4		4		
				28	R61		649	2.0		4		
			剥片	28	R60		761	2.6		4		
			剥片	28	R60		787	8.4		4		
				28	R61		862	5.8		4		
			剥片	28	R60		919	3.1		4		
				28	R61		420	1.8		4		
			剥片	28	R60		941	1.5		4		
			剥片	28	R60		962	2.6		4		
			剥片	28	R60		1015	8.6		4		
				28	R60		1048	2.9		4		
				28	R61		823	25.5		4		
			剥片	28	R60		1033	5.0		4		
				28	R61		441	3.5		4		
				28	R61		832	2.7		4		
			剥片	28	R60		1057	8.3		4		
				28	R61		783	1.9		4		
				28	R61		886	16.8		4		
					R61	I	2	3.2		3		
			剥片	28	R60		1079	9.2		4		
				28	R61		22	2.7		4		
				28	R61		817	6.1		4		
IV-303	202	40	尖頭器	28	R60		1156	129.1		5		
			剥片	28	R60		1172	5.7		4		
				28	R61		256	2.4		4		

挿図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
			剥片	28	R61		615	16.8		4		
			剥片	28	R61		90	5.2		4		
				28	R61		419	3.5		4		
			剥片	28	R61		242	3.2		4		
			剥片	28	R61		318	1.0		4		
				28	R61		469	4.0		4		
			剥片	28	R61		373	2.4		4		
			剥片	28	R61		413	4.0		4		
			剥片	28	R61		434	5.4		4		
				28	R61		825	1.7		4		
			剥片	28	R61		552	2.4		4		
			剥片	28	R61		587	1.0		4		
			剥片	28	R61		760	16.4		4		
			剥片	28	R61		818	2.6		4		
			剥片	28	R61		942	23.1		4		
			剥片	28	R62		204	2.9		4		
IV-567	367	2	尖頭器		七南60 ~65		2	136.6		4		
-	248	188	接合資料	27				453.8	94	4	237	1390
			剥片	27	O60		209	3.0		4		
				27	P60		447	17.2		4		
				27	P60		1383	8.3		4		
					P60	III	78	0.8		4		
			剥片		O60	I	16	2.3		4		
			剥片		O60	I	17	1.4		4		
			剥片		O60	III	41	0.9		4		
				27	P60		1092	2.0		4		
				27	P60		1466	3.9		4		
			剥片	27	P59		24	2.0		4		
				27	P59		423	6.4		4		
					P59	III	8	1.2		4		
			剥片	27	P59		73	0.7		4		
				27	P60		475	0.7		4		
			剥片	27	P59		126	2.0		4		
				27	P59		342	1.7		4		
			剥片	27	P59		156	2.2		4		
			剥片	27	P59		282	10.0		4		
				27	P60		1487	12.0		4		
			剥片	27	P59		305	5.0		4		
					P60	II	55	0.4		4		
			剥片	27	P59		476	7.9		4		
					P60	III	48	1.3		4		
					P60	III	74	0.4		4		
			剥片		P59	I	2	1.6		4		
			剥片		P59	II	7	1.0		4		
			剥片		P59	II	12	1.2		4		
			剥片		P59	II	14	1.0		4		
				27	P60		1005	1.5		4		
				27	P60		1202	1.1		4		
				27	P60		1301	4.6		4		
				27	P60		1845	2.0		4		
					P60	III	71	0.6		4		
			剥片		P59	II	15	1.0		4		
				27	P60		69	18.9		4		
			縦長剥片		P59	II	16	0.9		4		
				27	P60		1343	65.8		4		
					P60	III	59	1.0		4		
				27	Q61		348	15.9		4		
			剥片		P59	II	18	0.8		4		
				27	P60		442	1.3		4		
				27	P60		491	1.5		4		

上白滝8遺跡

挿図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
				27	P60		899	4.3		4		
				27	P60		2397	4.8		4		
					P60	I	30	0.4		4		
			剥片		P59	Ⅲ	10	0.5		4		
			剥片	27	P60		29	2.0		4		
					P60	Ⅲ	47	0.8		4		
			剥片	27	P60		140	2.0		4		
			剥片	27	P60		153	0.8		4		
				27	P60		611	12.4		4		
			剥片	27	P60		156	33.9		4		
			剥片	27	P60		235	7.3		4		
				27	P60		1143	4.6		4		
			剥片	27	P60		270	1.0		4		
			剥片	27	P60		289	19.9		4		
				27	P60		1306	2.7		4		
				27	P60		2393	6.0		4		
				27	P61		271	1.8		4		
			剥片	27	P60		299	2.5		4		
			剥片	27	P60		370	1.7		4		
					P60	I	23	10.8		4		
					P60	I	29	0.8		4		
				27	P61		40	3.3		4		
			剥片	27	P60		391	1.0		4		
					P60	Ⅲ	45	0.9		4		
					P60	Ⅲ	60	0.9		4		
					P60	Ⅲ	73	0.5		4		
			剥片	27	P60		469	1.4		4		
				27	P60		1518	2.1		4		
			剥片	27	P60		592	1.7		4		
			剥片	27	P60		633	6.1		4		
					P60	Ⅱ	51	0.9		4		
			剥片	27	P60		796	2.2		4		
			剥片	27	P60		1287	2.1		4		
			剥片	27	P60		1298	4.0		4		
				27	P60		2399	1.3		4		
			剥片	27	P60		1484	0.7		4		
			剥片	27	P60		1506	1.1		4		
			剥片	27	P60		1521	0.9		4		
				27	P60		1694	1.8		4		
			剥片	27	P60		1846	2.4		4		
				27	P60		2325	2.6		4		
			剥片	27	P60		2066	11.2		4		
					P60	Ⅲ	57	0.4		4		
			剥片		P60	Ⅲ	49	1.1		4		
			剥片		P60	Ⅲ	64	0.5		4		
			剥片	27	P61		468	2.8		4		
				27	Q59		82	59.6		4		
			剥片		P61	Ⅱ	50	0.7		4		
			剥片		P61	Ⅱ	52	0.6		4		
					P61	Ⅲ	54	1.0		4		
				27	P62		232	1.2		4		
			剥片		P61	Ⅲ	59	0.4		4		
-	249	189	接合資料	27				424.6	90	4	237	1391
			剥片	27	O60		166	6.7		4		
				27	P60		1182	1.2		4		
					P60	Ⅲ	63	0.5		4		
				27	P61		52	3.1		4		
			縦長剥片		O60	I	18	3.7		4		
				27	P60		403	2.4		4		
				27	P60		1145	7.8		4		

挿図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
				27	P60		1278	1.5		4		
					P60	Ⅲ	46	0.8		4		
			剥片		O60	Ⅲ	35	0.6		4		
				27	P60		265	4.2		4		
				27	P60		1181	3.0		4		
					P60	Ⅲ	56	0.8		4		
					P60	Ⅲ	75	1.1		4		
			剥片		O60	Ⅲ	38	0.7		4		
				27	P60		1052	14.8		4		
				27	P61		920	0.9		4		
			剥片		O60	Ⅲ	40	0.9		4		
				27	P59		151	1.3		4		
				27	P59		225	3.2		4		
				27	P60		138	1.3		4		
				27	P60		607	14.3		4		
			剥片		O61	I	4	1.3		4		
					P59	I	3	4.6		4		
				27	P60		855	4.6		4		
				27	P60		1658	3.1		4		
				27	P61		491	2.0		4		
			剥片	27	P58		135	6.3		4		
			剥片	27	P59		38	2.0		4		
			剥片	27	P59		76	1.9		4		
			剥片	27	P59		86	35.0		4		
				27	P60		339	34.0		4		
				27	P60		678	14.0		4		
				27	P60		780	0.7		4		
				27	P60		1043	2.3		4		
				27	P60		1070	0.9		4		
			剥片	27	P59		111	1.2		4		
			剥片	27	P59		265	13.2		4		
				27	P60		443	2.4		4		
			剥片	27	P59		445	1.2		4		
			剥片	27	P59		479	16.6		4		
				27	P61		196	1.4		4		
				27	Q59		573	4.7		4		
			剥片		P59	Ⅱ	6	0.8		4		
					P60	Ⅲ	72	0.6		4		
			剥片		P59	Ⅱ	17	0.8		4		
				27	P60		1676	1.1		4		
			剥片	27	P60		26	1.8		4		
			剥片	27	P60		61	3.8		4		
				27	P60		589	0.6		4		
				27	P60		757	1.4		4		
				27	P60		1651	1.2		4		
					P60	I	26	1.5		4		
			剥片	27	P60		65	1.7		4		
					P60	I	25	47.1		4		
					P60	I	27	1.5		4		
			剥片	27	P60		68	6.8		4		
				27	P60		1009	25.8		4		
				27	P61		183	1.5		4		
				27	P61		1175	3.7		4		
			剥片	27	P60		104	4.7		4		
			剥片	27	P60		145	6.4		4		
				27	P60		803	9.3		4		
			剥片	27	P60		158	1.9		4		
				27	P60		1041	15.0		4		
				27	P61		1520	3.4		4		
			剥片	27	P60		202	1.1		4		

掲載遺物一覧

種図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
			剥片	27	P60		401	0.5		4		
			剥片	27	P60		425	4.0		4		
				27	P60		1493	0.9		4		
			剥片	27	P60		454	1.4		4		
			剥片	27	P60		744	1.1		4		
					P61	Ⅲ	57	0.7		4		
			剥片	27	P60		792	8.8		4		
			剥片	27	P60		1034	1.8		4		
			剥片	27	P60		1283	1.1		4		
			剥片	27	P60		1297	0.9		4		
			剥片	27	P60		1523	8.8		4		
				27	P60		1524	11.0		4		
					P60	Ⅲ	54	0.7		4		
			剥片		P60	I	24	2.9		4		
			剥片		P60	Ⅲ	52	1.3		4		
			剥片		P60	Ⅲ	53	0.9		4		
					P60	Ⅲ	62	0.8		4		
			剥片		P60	Ⅲ	66	0.3		4		
			剥片		P60	Ⅲ	67	1.1		4		
					P61	Ⅲ	56	1.2		4		
			剥片		P60	Ⅲ	68	0.9		4		
			剥片		P60	Ⅲ	69	0.8		4		
					P60	Ⅲ	77	1.0		4		
-	249	190	接合資料	19-21-27 28-50				1,448.6	47	1・5	290	1568
			剥片	19	L62		675	26.5		1		
			剥片	19	L63		878	23.7		1		
			剥片	21	M61		174	14.9		1		
			剥片	19	M62		259	64.5		5		
IV-304	202	42	尖頭器	21	M62		268	43.3		1		
				21	M62	I	4	71.8		1		
				21	M63	I	1	254.5		1		
				50	Q52		4	50.9		1		
				50	Q52	I	2	193.7		1		
			剥片	21	M63		1171	15.3		1		
			剥片	27	O59		187	15.6		5		
				27	O59		263	24.2		1		
				27	O59		409	2.2		1		
				27	O60		110	13.5		1		
				27	O61		28	71.5		1		
			剥片	27	O59		313	7.9		1		
				27	O60		85	10.5		1		
				27	O60		106	4.1		1		
				27	O60		135	11.3		1		
				27	P59		79	3.4		1		
				27	P59		170	1.7		1		
				27	P60		322	12.1		1		
				27	P60		536	7.1		1		
			剥片	27	P60		2417	13.4		1		
				27	Q60		1289	9.4		5		
			剥片	27	Q59		1419	2.4		1		
				27	Q60		1636	2.1		1		
					Q61	I	8	40.5		1		
			剥片	27	Q59		1666	4.8		1		
				27	Q60		63	79.4		1		
				27	Q60		141	6.8		5		
				27	Q60		383	2.3		1		
				27	Q60		384	18.6		1		
			剥片	27	Q59		1866	56.7		1		
				27	Q59		2518	4.6		1		
				27	Q60		1693	113.3		1		

種図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
			剥片	27	Q59		1990	2.0		1		
			剥片	27	Q60		112	3.0		1		
				27	Q60		769	17.1		1		
			剥片	27	Q60		617	3.0		5		
			剥片	27	Q60		1763	4.9		1		
			剥片	27	Q60		1876	11.8		1		
			剥片	28	R60		62	30.4		1		
				28	R60		872	23.9		5		
				28	R60		1178	27.5		1		
				28	R61		706	20.6		1		
			剥片		B調		146	5.9		1		
-	250	191	接合資料	27				1,531.0	84	1・5	199	1272
IV-312	207	80	舟底形石器	27	P59		335	188.1		1		
			剥片	27	P60		1559	46.4		5		
			剥片	27	Q59		16	2.6		1		
			剥片	27	Q59		39	1.3		1		
				27	Q60		1601	10.7		1		
			剥片	27	Q59		57	6.3		5		
			剥片	27	Q59		87	2.8		1		
				27	Q60		917	2.4		5		
			剥片	27	Q59		90	1.6		1		
				27	Q60		1548	2.0		1		
			剥片	27	Q59		115	21.5		1		
			石刃	27	Q59		225	59.7		1		
				27	Q59		245	70.2		1		
			剥片	27	Q59		233	29.1		1		
				27	Q60		1126	3.3		1		
			剥片	27	Q59		280	6.3		1		
				27	Q60		1424	1.3		1		
			剥片	27	Q59		289	1.6		1		
			剥片	27	Q59		298	117.0		5		
				27	Q59		555	15.4		5		
			剥片	27	Q59		315	37.2		1		
			剥片	27	Q59		318	2.3		1		
			石刃	27	Q59		421	2.1		1		
			石刃	27	Q59		428	4.3		1		
				27	Q59		2105	21.8		1		
			石刃	27	Q59		474	4.3		1		
				27	Q60		1315	11.0		1		
				27	Q60		1969	16.7		1		
			石刃	27	Q59		480	4.7		1		
			剥片	27	Q59		494	1.9		1		
					Q59	I	17	9.1		1		
			剥片	27	Q59		567	48.9		5		
				27	Q59		1552	12.0		1		
			剥片	27	Q59		730	6.8		1		
			剥片	27	Q59		880	2.9		1		
			剥片	27	Q59		967	4.7		1		
			縦長剥片	27	Q59		1039	49.0		5		
				27	Q59		2435	4.2		1		
				27	Q60		886	27.8		5		
			剥片	27	Q59		1126	12.9		1		
				27	Q60		794	64.8		1		
			剥片	27	Q59		1127	2.1		1		
				27	Q60		149	0.1		1		
			剥片	27	Q59		1130	4.0		1		
			剥片	27	Q59		1581	1.4		5		
			剥片	27	Q59		1586	15.2		1		
			剥片	27	Q59		1625	4.5		1		
			剥片	27	Q59		1818	15.7		1		

上白滝8遺跡

挿図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
			剥片	27	Q59		1819	62.1		5		
			石刃	27	Q59		1826	64.6		1		
				27	Q60		2047	18.1		1		
			石刃	27	Q59		1967	7.8		1		
				27	Q59		2476	2.7		1		
			剥片	27	Q59		2152	3.1		1		
			剥片	27	Q59		2298	4.4		1		
			石刃	27	Q59		2475	6.2		1		
			剥片	27	Q59		2497	11.4		1		
			剥片	27	Q60		16	5.3		1		
			剥片	27	Q60		205	1.6		1		
			剥片	27	Q60		225	1.1		1		
				27	Q60		1055	0.8		1		
			剥片	27	Q60		290	22.3		5		
				27	Q60		1631	3.4		1		
			剥片	27	Q60		473	26.3		5		
			剥片	27	Q60		891	13.7		1		
			石刃	27	Q60		903	5.4		1		
			剥片	27	Q60		1180	1.0		1		
			剥片	27	Q60		1234	44.2		5		
			縦長剥片	27	Q60		1308	10.5		5		
				27	Q60		1730	62.1		1		
			剥片	27	Q60		1323	1.9		5		
			縦長剥片	27	Q60		1334	55.6		1		
			剥片	27	Q60		1410	8.9		1		
			剥片	27	Q60		1412	45.2		5		
			剥片	27	Q60		1434	7.9		5		
			剥片	27	Q60		1530	9.3		5		
			剥片	27	Q60		1532	1.5		1		
			石刃	27	Q60		1581	15.0		1		
			剥片	27	Q60		1600	2.9		1		
			剥片	27	Q60		1619	4.5		1		
			剥片	27	Q60		1649	2.4		1		
			剥片	27	Q60		1791	4.8		1		
			剥片	27	Q60		1833	0.8		1		
			剥片	27	Q60		1967	10.2		1		
-	251	193	接合資料	22-23-26-27				2,333.5	30	1	190	1258
			剥片	27	P62		257	19.6		1		
			剥片	27	P62		258	29.4		1		
				26	P63		84	17.8		1		
			剥片	27	P62		394	4.3		1		
					P64	I	18	6.5		1		
			剥片	27	P62		399	2.8		1		
			剥片	27	P62		557	3.3		1		
				26	P63		397	10.4		1		
				27	P63		608	161.0		1		
			剥片	27	P62		563	3.5		1		
			剥片	27	P62		566	3.3		1		
			剥片	27	P62		646	7.8		1		
				27	P63		254	25.3		1		
IV-306	205	46	両面調整石器	23	P63		500	1,295.8		1		
			剥片	23	P63		502	257.4		1		
				22	P64		195	25.7		1		
				22	P65		124	67.7		1		
			剥片	26	P63		505	53.1		1		
					排土		116	100.5		1		
					排土		117	11.1		1		
			剥片	27	P63		607	7.0		1		
			剥片	22	P64		148	39.1		1		
			剥片	22	P64		223	27.6		1		

挿図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
			剥片		P64	I	16	4.5		1		
			剥片		P64	I	17	7.6		1		
			剥片	22	P65		96	16.4		1		
				斜	Q66	I	4	16.0		1		
			剥片	22	P65		286	96.6		1		
			剥片		七南60-65		71	11.1		1		
			剥片		不明	不明		1.3		1		
-	252	194	接合資料	27・51				4,184.0	104	1・5	201	1278
			石刃	27	M59		4	34.3		5		
				27	N58		186	46.5		5		
				27	N59		250	4.4		5		
			剥片	27	M60	I	2	43.9		5		
				27	N58		560	2.7		1		
			剥片	27	N57		108	13.8		1		
			削器	27	N57	I	3	151.5		1		
					O56		30	67.5		1		
			剥片		N57	I	8	29.1		5		
			石刃	27	N58		13	48.8		5		
				27	N58		544	10.0		5		
					N58	I	3	97.5		1		
				27	O59		435	32.5		5		
			剥片	27	N58		18	6.5		1		
			剥片	27	N58		71	11.0		1		
				27	N59		59	1.4		1		
			剥片	27	N58		133	14.3		1		
				27	O58		353	25.9		1		
				27	O58		414	2.5		1		
				27	O59		338	2.5		1		
			石刃	27	N58		292	26.3		5		
				27	N58		480	1.5		5		
				27	N58		485	27.5		5		
					N59	I	2	53.6		1		
			石刃	27	N58		325	22.8		1		
				27	N59		10	19.2		5		
				27	N59		110	2.7		5		
				27	N59		327	18.5		5		
			剥片	27	N58		470	27.0		5		
			剥片	27	N58		494	27.7		5		
			剥片	27	N58		497	54.9		5		
				27	N59		23	4.0		1		
				27	N59		142	67.6		5		
				27	N60		36	23.4		5		
			剥片	27	N58		498	115.8		5		
			石刃	27	N58		508	78.2		5		
				27	P63		570	61.9		5		
			石刃	27	N58		549	32.1		5		
					O58	I	3	126.7		1		
			剥片	27	N58		554	48.9		5		
			剥片	27	N58		621	48.0		1		
				27	O59		466	19.8		5		
				27	O59		519	94.6		5		
				27	O59		521	198.5		5		
			石刃	27	N59		66	30.0		5		
				27	N59		74	9.1		1		
				27	N59		290	48.0		5		
			剥片	27	N59		94	88.8		1		
				27	N59		157	3.5		1		
			石刃	27	N59		102	55.0		5		
				27	N59		219	34.9		5		
			剥片	27	N59		111	15.7		5		

掲載遺物一覧

挿図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
			剥片	27	N59	I	113	38.2		1		
					N59		9	39.9		5		
					N60		45	56.3		5		
			剥片	27	N59		144	1.8		1		
					N60	35	24.1		1			
			剥片	27	N59		165	10.2		5		
			剥片	27	N59		182	104.2		5		
			石刃	27	N59		186	145.5		5		
					N59	230	87.7		5			
			剥片	27	N59		289	2.6		5		
			剥片	27	N59		295	3.9		1		
					O58	421	3.8		5			
			石刃	27	N59		307	43.9		5		
					O59	515	25.6		1			
			石刃		N59	I	1	5.9		1		
					N60		15	32.3		5		
			剥片	27	N60		29	10.6		1		
			縦長剥片	27	N60		52	285.3		5		
			剥片	27	N60		61	158.9		5		
IV-313	208	83	舟底形石器	27	O57		1	134.9		1		
					O58	28	67.8		1			
					O58	136	83.9		1			
			剥片	27	O57		11	16.4		5		
			剥片	27	O57		99	12.5		1		
			剥片	27	O58		13	11.7		5		
					O58	417	2.6		5			
			剥片	27	O58		39	3.3		5		
			剥片	27	O58		46	20.9		5		
			剥片	27	O58		64	24.8		5		
					O58	328	15.8		5			
			剥片	27	O58		132	14.9		5		
			剥片	27	O58		194	15.1		5		
			剥片	27	O58		214	43.4		5		
			剥片	27	O58		222	12.1		1		
			剥片	27	O58		300	38.6		5		
			剥片	27	O58		319	20.8		5		
					O59	48	28.9		5			
			剥片	27	O58		394	7.5		5		
			剥片	27	O58		405	4.6		5		
			剥片	27	O58		410	10.9		5		
			剥片	27	O58		427	25.5		5		
			剥片	27	O58		430	3.5		5		
					O58	436	19.1		5			
			剥片		O58	I	30	58.3		5		
					O59		48	14.3		5		
			剥片	27	O59		103	60.3		5		
			剥片	27	O59		301	13.5		5		
			剥片	27	O59		459	11.6		5		
			剥片	27	O59		502	0.9		1		
			剥片		O59	I	47	15.9		5		
			剥片	51	P51		42	57.6		5		
			剥片		七南60 ~65		63	98.6		1		
-	253	195	接合資料	27				1,763.3	20	1・5	165	1197
			剥片	27	O59	I	7	21.4		1		
					O59		114	0.9		5		
					O60		44	53.0		1		
					P58		193	133.4		5		
					P59		26	15.4		1		
			剥片	27	O59		247	32.1		1		
					Q59	272	55.0		1			

挿図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
				27	Q59		419	16.4		1		
					Q60	760	9.2		1			
					Q60	1387	116.6		1			
IV-324	216	140	石刃核	27	Q59		273	614.6		1		
			剥片	27	Q59		470	13.1		1		
			剥片	27	Q59		846	46.6		1		
			剥片	27	Q59		923	33.3		1		
					Q60	181	315.6		1			
					Q60	I	21	42.6		1		
			剥片	27	Q59		1266	66.3		1		
			剥片	27	Q60		224	41.7		1		
			剥片	27	Q60		784	77.4		1		
			剥片	27	Q60		1710	58.7		1		
-	254	196	接合資料	23・27				2,890.2	32	1・4・5	164	1196
IV-325	217	144	石核	27	O61		148	579.6		1		
			縦長剥片	23	O62		26	8.2		1		
					P62	613	70.3		1			
			剥片	27	P60		462	1.0		4		
					P61	1258	41.8		5			
			剥片	27	P60		1157	14.1		1		
					P62	5	3.4		1			
					P61	I	240	1.2		5		
			剥片		P62	I	31	20.4		1		
					Q63		I	14	31.0		1	
			剥片	27	P61		1059	10.5		5		
					P61	1455	92.5		1			
			剥片	27	P61		1179	14.5		5		
					P62	360	60.5		5			
					P62	I	39	4.6		1		
			剥片	27	P61	I	1235	4.5		1		
					P62		I	33	18.7		1	
			縦長剥片	27	P61		1268	5.7		1		
					P61	1448	173.6		1			
					P62	594	55.4		5			
			剥片	27	P61		1618	33.0		5		
			剥片	27	P61		1624	69.4		1		
			剥片	27	P61		1781	235.8		5		
			剥片		P61	I	44	34.7		5		
					P61		I	67	8.2		1	
			剥片	27	P62		18	3.0		1		
			剥片	27	P62		127	286.7		5		
			剥片	27	P62		344	7.7		1		
					七南60 ~65	16	385.7		1			
			剥片	27	P62		346	36.1		5		
			剥片	27	P62		371	98.7		5		
			剥片		七南60 ~65		22	479.7		1		
-	255	197	接合資料	25				1,623.0	21	1・3	187	1250
			石刃	斜	Q67	上	13	18.8		1		
					R65		194	23.4		1		
			石刃	斜	Q67	下	5	41.1		1		
			剥片	25	R64		364	26.3		1		
			石刃	25	R65		34	15.8		1		
					R65	411	85.2		1			
			剥片	25	R65		233	57.0		1		
			石刃		R65	I	21	82.6		1		
			縦長剥片	斜	R66		下	21	13.2		1	
			石刃	斜	R67	上	7	85.9		3		
			剥片	斜	R67		上	15	74.1		1	
			石刃	斜	R67	下	17	11.2		1		
					R68		I	1	602.6		3	
IV-592	383	118	石刃核	斜	R68							

上白滝8遺跡

種図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
			石刃	斜	R69 七南60 ~65	上	5 60	118.5 9.2		1 1		
			石刃		七南60 ~65		10	149.2		1		
			剥片		七南60 ~65		61	50.6		1		
			石刃		排土		11	14.6		1		
			石刃		排土		13	14.0		1		
			石刃		排土		28	38.5		1		
			剥片		排土		109	91.2		1		
IV-395	267	78	接合資料	34				6.6	3	1	-	2662
IV-378	257	23	細石刃核削片	34	H57		902	1.4		1		
IV-378	257	25	細石刃核削片	34	H57		1841	3.4		1		
IV-378	257	24	細石刃核削片	34	H57		1900	1.8		1		
IV-395	265	79	接合資料	32・34				5,624.2	55	1	260	1464
IV-378	257	20	細石刃核	34	H57		4	92.9		1		
				32	H58	I	1	63.2		1		
IV-378	257	22	細石刃核削片	34	H57		59	11.7		1		
				34	H57		923	12.7		1		
			縦長剥片	34	H57		87	6.6		1		
					H57	I	53	10.7		1		
					H57	I	54	36.8		1		
			剥片	34	H57		90	8.1		1		
			剥片	34	H57		167	108.1		1		
			縦長剥片	34	H57		410	17.3		1		
				34	H57		432	6.9		1		
				34	H57		922	90.1		1		
				34	H57		1701	19.7		1		
				32	H58		131	21.4		1		
			剥片	34	H57		479	24.8		1		
			剥片	34	H57		912	45.9		1		
				34	H57		1586	7.1		1		
			剥片	34	H57		948	89.3		1		
			剥片	34	H57		949	30.7		1		
				34	H57		957	12.2		1		
IV-388	264	75	石核	34	H57		1250	1,771.5		1		
			剥片	34	H57		1689	5.9		1		
				34	H57		1983	50.6		1		
				34	H57		2083	91.4		1		
					I		19	117.5		1		
					I		291	5.0		1		
			剥片	34	H57		1737	54.6		1		
				32	H58		130	72.2		1		
			剥片	34	H57		1763	4.7		1		
			剥片	34	H57		1785	16.5		1		
			剥片	34	H57		1875	22.7		1		
			剥片	34	H57		1948	26.5		1		
IV-378	257	21	細石刃核削片	34	H57		1979	6.1		1		
			縦長剥片		H57	I	14	79.8		1		
					七北52 ~59		192	191.9		1		
			剥片		H57	I	15	40.9		1		
					七北52 ~59		229	19.3		1		
			剥片		H57	I	16	397.6		1		
			剥片		H57	I	52	217.8		1		
			剥片		H57	I	55	6.6		1		
			剥片	32	H58		30	293.7		1		
			剥片	34	I57		51	3.7		1		
				34	I57		136	3.6		1		
				34	I57		208	3.1		1		
					七北52 ~59		222	25.0		1		
			剥片	34	I57		104	28.5		1		
			剥片	34	I57		129	96.3		1		

種図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
				34	I57		309	20.6		1		
			剥片	34	I57		221	65.0		1		
			剥片		七北52 ~59		225	48.4		1		
			剥片		七北52 ~59		226	77.6		1		
			剥片		七北52 ~59		227	67.9		1		
IV-569	368	12	細石刃核削片		七北52 ~59		228	45.5		1		
			剥片		七北52 ~59		43	27.9		1		
			剥片		B調 表採		不明	不明		902.1		1
IV-398	266	81	接合資料	17・34				3,399.7	62	1	259	1456
			剥片	34	H57		24	2.8		1		
				34	H57		1803	3.1		1		
				34	H57		1945	22.9		1		
				34	H57		1980	4.8		1		
					II		49	1.3		1		
			剥片	34	H57		53	11.9		1		
			剥片	34	H57		64	4.4		1		
			縦長剥片	34	H57		263	8.4		1		
				34	H57		889	10.9		1		
			剥片	34	H57		377	43.9		1		
			剥片	34	H57		637	26.6		1		
			剥片	34	H57		660	205.1		1		
			剥片	34	H57		662	34.2		1		
				34	H57		1312	1.9		1		
				34	H57		1712	54.3		1		
				34	H57		1946	8.4		1		
				34	H57		2089	335.2		1		
					I		73	152.7		1		
			剥片	34	H57		900	172.5		1		
				34	H57		1644	3.3		1		
				34	H57		1952	20.6		1		
			剥片	34	H57		943	7.3		1		
			剥片	34	H57		1304	1.3		1		
			剥片	34	H57		1313	4.0		1		
				34	H57		2064	6.7		1		
			剥片	34	H57		1317	5.7		1		
			縦長剥片	34	H57		1333	103.9		1		
				34	H57		1905	52.1		1		
			剥片	34	H57		1716	132.5		1		
			剥片	34	H57		1842	14.2		1		
			剥片	34	H57		1886	7.1		1		
			剥片	34	H57		1925	2.8		1		
			剥片	34	H57		1939	5.2		1		
			剥片	34	H57		1958	1.4		1		
			剥片	34	H57		1960	1.5		1		
					I		45	2.5		1		
			剥片	34	H57		1976	23.4		1		
			剥片	34	H57		1990	7.0		1		
			剥片	34	H57		2023	14.9		1		
			剥片	34	H57		2081	23.5		1		
			剥片	34	H57		2048	2.3		1		
			剥片	34	H57		2067	5.1		1		
			剥片	34	H57		2079	8.1		1		
			剥片		H57	I	44	6.9		1		
			剥片	17	I64		55	2.7		1		
					I		603	15.4		1		
			剥片	17	I64		119	23.3		1		
			剥片	17	I64		370	28.0		1		
				17	I64		546	4.4		1		
				17	I65		563	17.4		1		
IV-241	165	360	石核	17	I64		553	1,358.5		1		

掲載遺物一覧

挿図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
			剥片	17	I64		597	4.3		1		
					I64	I	606	5.6		1		
			剥片	17	I64		669	16.0		1		
					I64	II	613	2.0		1		
			剥片	17	I64		672	5.6		1		
					I64		697	4.6		1		
					I64	I	605	6.3		1		
			剥片	17	J63		19	4.0		1		
			剥片	17	J63		503	165.2		1		
					J64	I	11	154.1		1		
			剥片		J63		166	13.7		1		
IV-399	267	82	接合資料	17				34.5	5	1	259	1457
IV-222	152	205	細石刃核削片		H64	I	73	3.7		1		
				17	I64		924	7.2		1		
IV-220	152	180	細石刃核削片		H65	I	3	14.9		1		
IV-220	152	179	細石刃核削片	17	I64		141	6.8		1		
					I64	II	611	1.9		1		
IV-400	268	83	接合資料	34・35				3,407.2	66	1	261	1465
			石刃		H54	I	39	17.5		1		
					七北52 ~59		69	67.6		1		
					七北52 ~59		220	6.7		1		
			剥片	34	H57		692	74.8		1		
			剥片	34	H57		1548	18.2		1		
			剥片	34	H57		1725	24.6		1		
				35	J56		182	107.2		1		
				35	J56		562	7.7		1		
					七北52 ~59		207	16.0		1		
			剥片	34	H57		1782	40.8		1		
				34	H57		1890	223.5		1		
			剥片	34	H57		1792	27.2		1		
				35	J56		62	106.4		1		
				35	J56		115	11.3		1		
				35	J56		158	137.8		1		
				35	J56		247	3.1		1		
				35	J56		248	12.1		1		
				35	J56		249	21.3		1		
				35	J56		290	3.5		1		
IV-382	260	58	石刃	34	H57		1874	37.8		1		
					七北52 ~59		71	141.0		1		
			石刃		I54	I	18	7.7		1		
				35	I57		16	116.1		1		
					J56	I	30	9.0		1		
					七北52 ~59		210	117.4		1		
			剥片	35	I56		52	3.6		1		
					七北52 ~59		216	5.4		1		
			剥片	35	I56		114	13.5		1		
			剥片	35	I56		733	34.7		1		
			剥片	35	I56		962	9.2		1		
				35	I56		197	52.1		1		
			剥片	35	I57		113	48.7		1		
			剥片	34	I57		177	8.4		1		
			剥片	35	J56		7	53.4		1		
				35	J56		175	22.2		1		
			剥片	35	J56		120	190.2		1		
				35	J56		637	3.4		1		
			剥片	35	J56		165	31.3		1		
				35	J56		307	33.8		1		
				35	J56		642	12.4		1		
			剥片	35	J56		180	9.6		1		
			剥片	35	J56		189	27.9		1		

挿図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
			剥片	35	J56		199	9.4		1		
			剥片	35	J56		270	5.0		1		
			縦長剥片	35	J56		274	23.3		1		
			剥片	35	J56		310	56.6		1		
			剥片	35	J56		493	6.2		1		
				35	J56		728	2.1		1		
			剥片	35	J56		498	12.7		1		
			剥片	35	J56		675	11.6		1		
					J56	I	28	21.7		1		
			剥片		J56	I	26	90.4		1		
					七北52 ~59		205	14.7		1		
					七北52 ~59		219	4.6		1		
			剥片		J56	I	29	13.7		1		
			剥片		J56	I	31	8.5		1		
			剥片		J56	I	32	7.3		1		
			剥片		七北52 ~59		193	157.3		1		
					七北52 ~59		209	43.2		1		
			剥片		七北52 ~59		204	90.6		1		
			縦長剥片		七北52 ~59		206	50.5		1		
			剥片		七北52 ~59		208	20.2		1		
			剥片		七北52 ~59		211	774.5		1		
			剥片		七北52 ~59		214	25.5		1		
			剥片		七北52 ~59		217	2.3		1		
			剥片		七北52 ~59		218	39.2		1		
IV-401	267	84	接合資料	22・35				2,327.1	39	1	189	1257
			剥片	35	H55		104	38.0		1		
			縦長剥片	35	H55		119	20.9		1		
				35	H55		769	26.7		1		
				35	H55		773	11.3		1		
			剥片	35	H55		141	30.6		1		
				35	H55		312	20.1		1		
			剥片	35	H55		309	57.9		1		
				35	H55		358	5.1		1		
				35	H55		602	119.9		1		
			石刃	35	H55		338	13.7		1		
				35	H55		577	27.1		1		
				35	H55		1123	15.4		1		
					H55	I	58	47.1		1		
			剥片	35	H55		345	6.4		1		
			剥片	35	H55		458	24.4		1		
IV-385	261	68	石核	35	H55		479	1,176.1		1		
			剥片	35	H55		484	3.5		1		
			剥片	35	H55		512	87.9		1		
			剥片	35	H55		808	34.7		1		
			剥片	35	H55		910	99.9		1		
			剥片	35	H55		923	4.6		1		
					H55	I	68	37.8		1		
			剥片	35	H55		1032	6.4		1		
					H55	I	69	19.7		1		
					七北52 ~59		236	3.5		1		
			石刃	35	H55		1182	2.9		1		
					H55	I	66	37.2		1		
					H55	I	67	12.5		1		
			石刃	35	H55		1255	22.3		1		
					H55	I	59	23.5		1		
					H55	I	60	17.2		1		
			石刃	22	P64		11	34.1		1		
				22	P64		74	37.1		1		
			剥片	22	P64		38	57.2		1		
					P64	I	21	3.0		1		

上白滝8遺跡

種図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
			縦長剥片	22	P64		166	34.9		1		
				22	P64		224	12.7		1		
			剥片		七北52~59		201	64.8		1		
			剥片		七北52~59		202	29.0		1		
IV-402	269	85	接合資料	35				1,367.3	10	3・4	270	1499
IV-386	263	72	石刃核	35	H55		440	1,133.3		4		
			剥片	35	H55		447	5.8		4		
				35	H55		1221	109.1		4		
			剥片	35	H55		520	43.7		3		
				35	H55		559	21.9		4		
			剥片	35	H56		138	17.2		4		
			剥片	35	H56		1038	6.3		4		
				35	H56		1055	4.4		4		
			剥片	35	H56		1042	24.3		4		
			剥片	35	H56		1198	1.3		4		
IV-403	269	86	接合資料	35				2,100.9	24	1・3・4	343	1698
			剥片	35	H55		24	83.4		4		
				35	H55		1171	197.3		4		
				35	H55		1184	15.4		4		
					H55	I	15	3.4		4		
					H55	I	18	2.3		4		
			剥片	35	H55		47	217.4		1		
				35	H55		1173	2.0		3		
			剥片	35	H55		124	336.5		4		
			剥片	35	H55		151	2.2		4		
			剥片	35	H55		283	12.6		4		
				35	H55		507	9.5		4		
			剥片	35	H55		308	8.5		4		
				35	H55		553	4.0		4		
				35	H55		1029	696.6		4		
				35	H55		1283	1.6		4		
			剥片	35	H55		464	244.7		4		
			剥片	35	H55		492	14.2		4		
			剥片	35	H55		768	92.7		4		
			縦長剥片	35	H55		1031	50.3		4		
			剥片	35	H55		1183	50.9		4		
				35	H55		1193	14.9		4		
					H55	I	13	4.3		4		
			剥片		H55	I	19	1.9		4		
					H55	I	53	34.3		4		
IV-404	272	89	接合資料	32・33・34・35				14,063.4	200	1・4・5	289	1557
			石刃	35	H56		367	19.9		1		
				35	I56		710	42.2		1		
			石刃	33	H57		3	110.3		1		
IV-383	260	60	石刃	34	H57		5	87.8		1		
				33	H57		540	22.1		1		
			剥片	33	H57		9	12.9		1		
			石刃	33	H57		13	7.9		1		
					七北52~59		59	5.0		1		
			剥片	33	H57		126	21.9		1		
			剥片	34	H57		147	3.3		5		
				33	H57		1456	29.6		1		
				33	H58		36	9.5		1		
			石刃	33	H57		237	23.5		1		
				33	H57		815	17.4		1		
				33	H57		1216	11.0		1		
			剥片	33	H57		240	2.2		1		
				33	H57		534	15.2		1		
				33	H57		821	30.8		1		
				33	H57		1219	7.9		1		
			石刃	34	H57		247	2.7		4		
				33	H57		781	41.1		1		
			縦長剥片	33	H57		512	162.8		1		
				33	H57		714	53.1		1		
			剥片	33	H57		515	0.4		1		
				33	H57		1094	1.3		1		
			剥片	33	H57		519	3.2		1		
				33	H57		710	536.2		1		
			石刃	33	H57		526	11.2		1		
				33	H57		719	115.0		1		
			縦長剥片	33	H57		532	195.5		1		
				33	H57		1467	45.4		1		
IV-383	260	61	石刃	33	H57		541	31.6		1		
				33	H57		1483	43.6		1		
				33	H57		1598	13.6		1		
			剥片	33	H57		546	49.9		1		
			剥片	33	H57		549	537.5		1		
				33	H57		554	572.2		1		
			縦長剥片	33	H57		550	724.5		1		
				33	H57		1371	31.0		1		
			剥片	33	H57		555	20.7		1		
			石刃	33	H57		557	94.9		1		
				33	H57		1223	31.1		1		
			剥片	33	H57		568	313.7		1		
				33	H57		707	2.6		1		
			剥片	33	H57		699	2.6		1		
					七北52~59		255	4.8		1		
			剥片	33	H57		712	13.1		1		
			剥片	33	H57		715	92.2		1		
				33	H57		782	313.7		1		
				33	H57		1395	1.7		1		
				33	H57		1471	3.2		1		
			剥片	33	H57		716	10.3		1		
				33	H57		1604	18.0		1		
			剥片	33	H57		718	19.7		1		
			剥片	33	H57		724	12.4		1		
			剥片	33	H57		728	57.8		1		
			剥片	33	H57		733	4.4		1		
			石刃	33	H57		734	21.4		1		
				33	H57		1175	20.4		1		
			縦長剥片	33	H57		740	227.6		1		
			剥片	33	H57		748	17.5		1		
			縦長剥片	33	H57		757	40.3		1		
				33	H57		1459	6.9		1		
			縦長剥片	33	H57		764	37.7		1		
				33	H57		995	5.4		1		
				33	H58		184	9.7		1		
			石刃	33	H57		765	31.7		1		
				33	H58		180	27.9		1		
			剥片	33	H57		766	35.2		1		
				33	H57		1421	65.2		1		
			剥片	33	H57		767	14.0		1		
				33	H57		770	4.5		1		
				33	H57		772	10.7		1		
				33	H57		1182	13.5		1		
			石刃	33	H57		780	36.8		1		
				33	H57		1066	23.7		1		
				33	H57		1117	18.3		1		
			剥片	33	H57		783	5.8		1		
			剥片	33	H57		788	113.8		1		

掲載遺物一覧

挿図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
			剥片	33	H57		789	11.2		1		
			剥片	33	H57		791	7.6		1		
			剥片	33	H57		797	12.9		1		
			剥片	33	H57		798	69.0		1		
			縦長剥片	33	H57		802	19.8		1		
				33	H57		1208	49.9		1		
			剥片	33	H57		804	10.9		1		
			剥片	33	H57		811	356.2		1		
			石刃	33	H57		822	10.5		1		
				33	H57		826	47.8		1		
				33	H57		1209	47.7		1		
IV-387	263	73	石刃核	33	H57		833	1,655.0		1		
			縦長剥片	33	H57		1008	10.1		1		
				33	H57		1096	15.6		1		
			剥片	33	H57		1020	19.4		1		
			剥片	33	H57		1032	5.2		1		
				33	H57		1146	12.9		1		
			剥片	33	H57		1033	6.3		1		
			剥片	33	H57		1042	2.7		1		
				33	H57		1202	172.4		1		
			剥片	33	H57		1053	7.7		1		
				33	H57		1119	96.1		1		
				33	H57		1221	11.3		1		
			石刃	33	H57		1054	24.6		1		
				33	H57		1455	35.7		1		
			縦長剥片	33	H57		1059	10.1		1		
				33	H57		1070	699.0		1		
				33	H57		1106	7.6		1		
				33	H58		84	26.7		1		
				33	H58		148	5.7		1		
				33	H58		204	7.2		1		
			剥片	33	H57		1060	75.5		1		
			剥片	33	H57		1075	3.2		1		
			剥片	33	H57		1078	13.0		1		
			石刃	33	H57		1079	6.0		1		
			剥片	33	H57		1082	17.7		1		
			剥片	33	H57		1089	14.3		1		
			剥片	33	H57		1100	9.8		1		
			剥片	33	H57		1104	105.5		1		
			石刃	33	H57		1105	27.5		1		
			剥片	33	H57		1107	37.6		1		
			剥片	33	H57		1113	11.2		1		
			石刃	33	H57		1118	37.1		1		
				33	H57		1478	7.1		1		
				33	H57		1479	14.4		1		
				35	J55		130	26.9		1		
			石刃	33	H57		1133	42.6		1		
				33	H57		1457	7.5		1		
				33	H57		1675	1.7		1		
				33	H58		111	15.9		1		
			剥片	33	H57		1139	23.9		1		
				33	H57		1169	4.6		1		
				33	H58		189	5.4		1		
			剥片	33	H57		1141	24.5		1		
			剥片	33	H57		1145	6.3		1		
				33	H57		1165	20.2		1		
			石刃	33	H57		1150	15.5		1		
			剥片	33	H57		1151	2.7		1		
			剥片	33	H57		1161	29.3		1		
			剥片	33	H57		1166	10.8		1		

挿図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
			剥片	33	H57		1167	408.1		1		
			剥片	33	H57		1168	30.8		1		
			剥片	33	H57		1174	25.3		1		
			剥片	33	H57		1181	105.4		1		
IV-383	260	62	石刃	33	H57		1186	92.1		1		
				33	H57		1609	268.2		1		
			剥片	33	H57		1193	42.6		1		
				33	H57		1199	7.9		1		
			縦長剥片	33	H57		1200	515.2		1		
IV-382	260	59	石刃	33	H57		1201	111.1		1		
				34	H57	I	20	201.7		1		
			縦長剥片	33	H57		1204	72.0		1		
			縦長剥片	33	H57		1207	18.6		1		
				33	H57		1217	12.2		1		
				33	H57		1477	51.7		1		
			剥片	33	H57		1222	649.2		1		
			剥片	33	H57		1399	7.3		1		
			剥片	33	H57		1400	11.5		1		
			剥片	33	H57		1401	99.2		1		
			剥片	33	H57		1402	6.0		1		
			剥片	33	H57		1403	15.0		1		
			剥片	33	H57		1424	9.0		1		
			剥片	33	H57		1428	4.8		1		
			剥片	33	H57		1432	5.1		1		
				33	H57		1671	13.1		1		
			縦長剥片	33	H57		1447	52.0		1		
			剥片	33	H57		1460	144.3		1		
			剥片	33	H57		1462	12.8		1		
			剥片	33	H57		1464	38.5		5		
			剥片	33	H57		1465	109.7		1		
			剥片	33	H57		1474	62.2		1		
			縦長剥片	33	H57		1482	66.3		1		
				H57	I	21	18.6		1			
			剥片	33	H57		1484	395.0		1		
			縦長剥片	33	H57		1485	282.2		1		
			剥片	33	H57		1595	5.8		1		
			剥片	33	H57		1597	23.5		1		
			剥片	33	H57		1603	14.0		1		
			剥片	33	H57		1606	13.9		1		
			縦長剥片	34	H57		1666	13.6		1		
				33	H57		1669	4.0		1		
			剥片	33	H57		1672	7.9		1		
			縦長剥片	33	H57		1688	53.7		1		
			石刃		H57	I	1	31.5		1		
			剥片		H57	II	60	0.7		1		
			剥片	33	H58		74	8.4		1		
			剥片	33	H58		81	6.0		1		
			剥片	33	H58		145	5.7		1		
				33	H58		190	20.4		1		
			剥片	33	H58		146	4.3		1		
			縦長剥片	33	H58		155	5.1		1		
				35	J57		111	25.8		1		
			石刃	33	H58		187	23.7		1		
			剥片	33	H58		191	14.2		1		
			石刃	35	I56		411	6.3		1		
			石刃	35	I57		228	25.0		1		
				32	I58		208	69.9		1		
			石刃	35	I57		327	18.8		1		
				J56	I	34	16.2		1			
			石刃		七北52-59		78	88.3		1		



掲載遺物一覧

挿図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
				47	O51		215	10.8		4		
				47	O51		586	3.0		4		
			剥片	47	N51		235	28.5		4		
				47	O51		874	7.3		4		
			剥片	47	N51		236	4.9		4		
				47	O51		448	8.5		4		
			剥片		N51	I	28	6.7		4		
				47	O51		930	6.5		4		
				47	O51		932	15.5		4		
			剥片		N51	I	54	11.4		4		
				47	O51		474	3.0		4		
			剥片		N51	I	66	1.0		4		
				47	O51		296	1.7		4		
			剥片		N51	I	72	2.5		4		
				47	O51		119	2.7		4		
			剥片		N51	I	191	4.2		4		
					O50	I	5	10.3		4		
				47	O51		1096	39.6		4		
				47	O51		1181	4.2		4		
					O51	I	43	2.4		4		
			剥片	47	N52		115	9.8		4		
			剥片	47	N52		650	5.4		4		
			剥片	47	N52		776	1.3		4		
				47	O51		308	22.5		4		
				47	O51		869	10.7		4		
				47	O51		933	2.2		4		
				47	O51		1290	2.2		4		
					O51	I	37	13.4		4		
			剥片	47	O50		151	12.8		4		
				47	O51		967	28.3		4		
				47	O51		1196	30.0		4		
			剥片	47	O50		262	100.6		4		
				47	O51		18	96.8		4		
				47	O51		500	3.3		4		
			剥片	47	O50		363	3.6		4		
				47	O51		85	5.3		4		
				47	O51		191	2.6		4		
				47	O51		451	2.3		4		
				47	O51		963	4.3		4		
				47	P50		45	3.2		4		
			剥片	47	O50		461	16.8		4		
				47	O51		206	5.2		4		
				47	O51		443	5.0		4		
			剥片	47	O50		513	10.3		4		
					O50	I	10	2.9		4		
				47	O51		27	12.9		4		
				47	O51		228	20.8		4		
				47	O51		1338	65.9		4		
				47	O51		1408	2.0		4		
				47	O51		1409	2.9		4		
			剥片		O50	I	6	26.2		4		
				47	O51		969	9.9		4		
			剥片	47	O51		22	13.4		4		
				47	O51		261	14.7		4		
				47	O51		738	111.7		4		
				47	O51		1428	2.5		4		
			剥片	47	O51		23	16.2		4		
			剥片	47	O51		30	12.8		4		
			剥片	47	O51		83	4.0		4		
			剥片	47	O51		91	13.1		4		

挿図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
				47	O51		1179	5.2		4		
			剥片	47	O51		133	4.5		4		
			剥片	47	O51		136	9.0		4		
				47	O51		140	38.5		4		
				47	O51		230	2.0		4		
				47	O51		475	6.0		4		
			剥片	47	O51		139	9.2		4		
				47	O51		209	9.8		4		
				47	O51		710	5.9		4		
			剥片	47	O51		141	2.9		4		
				47	O51		294	17.6		4		
				47	O51		1192	8.9		4		
			剥片	47	O51		148	2.2		4		
				47	P51		190	5.9		4		
			剥片	47	O51		152	5.8		4		
				47	P51		729	19.5		4		
			剥片	47	O51		155	2.7		4		
				47	O51		1164	2.1		4		
					O51	I	47	3.5		4		
			剥片	47	O51		166	2.5		4		
			剥片	47	O51		198	14.4		4		
			剥片	47	O51		203	7.8		4		
				47	O51		211	6.2		4		
				47	O51		304	3.3		4		
				47	O51		631	90.3		4		
				47	O51		975	21.1		4		
				47	O51		1071	2.7		4		
				47	O51		1190	36.6		4		
				47	O51		1358	2.4		4		
			剥片	47	O51		207	9.1		4		
				47	O51		266	2.3		4		
				47	O51		678	5.6		4		
				47	O51		748	12.1		4		
			剥片	47	O51		212	12.2		4		
			剥片	47	O51		222	6.8		4		
			剥片	47	O51		226	4.8		4		
				47	O51		234	4.2		4		
				47	O51		291	2.4		4		
				47	O51		1158	2.4		4		
			剥片	47	O51		231	2.9		4		
				47	O51		962	2.5		4		
			剥片	47	O51		236	9.6		4		
				47	O51		239	1.6		4		
				47	O51		268	1.5		4		
			剥片	47	O51		238	3.0		4		
				47	P51		733	10.1		4		
			剥片	47	O51		240	40.6		4		
			剥片	47	O51		242	1.7		4		
			剥片	47	O51		244	5.7		4		
				47	O51		271	7.6		4		
					O51	I	32	6.2		4		
			剥片	47	O51		252	2.6		4		
			剥片	47	O51		254	129.5		4		
				47	O51		464	1.3		4		
				47	O51		524	23.3		4		
			剥片	47	O51		255	84.9		4		
				47	O51		295	30.7		4		
			剥片	47	O51		256	2.5		4		
			剥片	47	O51		257	2.4		4		
				47	O51		309	3.5		4		

上白滝8遺跡

種図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
			剥片	47	O51		259	6.4		4		
				47	O51		679	1.1		4		
				47	O51		941	8.5		4		
			剥片	47	O51		270	7.2		4		
			剥片	47	O51		272	9.1		4		
			剥片	47	O51		275	17.7		4		
				47	O51		742	35.8		4		
				47	O51		878	5.0		4		
			剥片	47	O51		279	12.8		4		
				47	O51		446	5.1		4		
			剥片	47	O51		281	2.7		4		
				47	O51		447	10.1		4		
				47	O51		976	13.0		4		
			剥片	47	O51		283	4.0		4		
				47	O51		286	1.7		4		
				47	O51		307	2.6		4		
				47	O51		582	9.6		4		
				47	O51		711	10.1		4		
				47	O51		948	4.5		4		
				47	O51		1168	12.0		4		
				47	O51		1355	21.6		4		
				47	O51		1364	5.1		4		
				47	P51		529	9.9		4		
				剥片	47	O51		285	3.1		4	
			剥片	47	O51		287	3.6		4		
				47	O51		515	72.4		4		
				47	O51		822	34.2		4		
			剥片	47	O51		300	2.2		4		
				47	O51		326	5.0		4		
					O51	I	22	5.7		4		
				47	P51		185	1.9		4		
			剥片	47	O51		301	1.1		4		
			剥片	47	O51		306	6.0		4		
				47	O51		585	5.1		4		
			剥片	47	O51		311	3.4		4		
			剥片	47	O51		323	13.3		4		
			剥片	47	O51		1328	2.0		4		
			剥片	47	O51		339	7.6		4		
				47	O51		349	12.5		4		
			剥片	47	O51		1034	18.0		4		
				47	O51		449	1.4		4		
			剥片	47	O51		456	31.5		4		
			剥片	47	O51		465	4.4		4		
			剥片	47	O51		483	6.9		4		
			剥片	47	O51		492	2.8		4		
			剥片	47	O51		493	7.0		4		
				47	O51		939	3.1		4		
				47	O51		1044	5.8		4		
			剥片	47	O51		497	12.3		4		
				47	O51		731	1.9		4		
			剥片	47	O51		498	14.9		4		
				47	O51		499	3.8		4		
			剥片	47	O51		627	2.5		4		
				47	O51		656	7.2		4		
			剥片		O51	I	33	4.8		4		
				47	O51		684	78.1		4		
			剥片	47	O51		713	20.7		4		
				47	O51		725	3.7		4		
			剥片	47	O51		949	15.7		4		
				47	O51	I	34	20.0		4		

種図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO	
			剥片	47	O51		728	7.0		4			
				47	O51		940	2.8		4			
			剥片	47	O51		736	3.8		4			
				47	O51		1033	64.4		4			
			剥片	47	O51		739	5.1		4			
					O51	I	42	3.3		4			
			剥片	47	O51		886	3.2		4			
			剥片	47	O51		926	11.9		4			
			剥片	47	O51		942	4.3		4			
			剥片	47	O51		973	11.4		4			
				47	O51		1178	2.6		4			
				47	P51		465	23.6		4			
			剥片	47	O51		979	4.0		4			
			剥片	47	O51		1156	1.5		4			
			剥片	47	O51		1175	2.6		4			
					O51	I	31	13.6		4			
			剥片	47	O51		1194	5.5		4			
			剥片	47	O51		1354	8.1		4			
					O51	I	29	3.6		4			
			剥片	47	O51		1406	5.9		4			
			剥片	47	O51		1412	3.1		4			
			剥片		O51	II	244	0.7		4			
			剥片		O51	III	183	1.9		4			
			剥片	47	P51		135	15.9		4			
			剥片	47	P51		189	22.4		4			
			剥片	47	P51		467	8.3		4			
IV-490	315	306	接合資料	37・38				583.5	44	4	345	1700	
IV-421	286	51	尖頭器	37	K57		12	105.4		4			
			剥片	37	K57		49	18.5		4			
					38	L55		2	5.4		4		
						M56	I	13	4.4		4		
						M56	I	19	3.3		4		
			剥片		M56	I	23	2.2		4			
				37	K57		74	4.0		4			
			尖頭器	37	K57		171	82.6		4			
			剥片	37	K57		204	55.8		4			
			剥片		K57	I	4	18.4		4			
						K57	I	8	2.1		4		
						K57	III	29	1.1		4		
					37	L56		88	5.3		4		
						L56	I	9	3.1		4		
			剥片		K57	I	22	4.4		4			
				37	L56		102	1.4		4			
			剥片	37	L56		87	26.3		4			
				37	L56		172	2.3		4			
IV-425	291	59	尖頭器削片	37	L56		121	3.0		4			
			剥片	38	M55		375	3.9		4			
				37	L56		127	8.2		4			
			剥片	37	L56		129	14.5		4			
			剥片	37	L56		134	12.1		4			
IV-425	291	62	尖頭器削片		L56	I	4	21.9		4			
			剥片		M55	I	3	15.7		4			
				剥片		L56	I	15	7.6		4		
			剥片		L56	I	16	5.5		4			
			剥片	37	L57		35	9.3		4			
			剥片	38	M55		74	22.3		4			
			剥片	38	M55		311	15.8		4			
			剥片	38	M55		355	1.6		4			
			剥片	38	M55		374	1.7		4			
			剥片		M55	I	9	31.2		4			

掲載遺物一覧

挿図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
			剥片		M55	I	35	1.9		4		
			剥片	38	M56		17	14.1		4		
			剥片	38	M56		51	17.8		4		
					M56	I	16	3.8		4		
			剥片	38	M56		54	2.6		4		
			剥片	38	M56		72	1.2		4		
			剥片		M56	I	6	8.8		4		
			剥片		M56	I	11	5.2		4		
			剥片		M56	I	12	5.0		4		
			剥片		M56	II	48	1.0		4		
			剥片			不明		1.8		4		
IV-492	316	308	接合資料	46-47-50				1,011.8	120	4	452	2029
			剥片	46	M54		221	13.7		4		
			剥片		N51	I	52	5.3		4		
				47	O51		762	8.3		4		
				47	O52		188	6.3		4		
				47	O52		842	1.9		4		
			剥片		N51	I	58	2.0		4		
					O51	I	166	0.9		4		
				47	O52		603	1.2		4		
			剥片		N51	I	59	23.5		4		
			剥片		N51	I	60	3.3		4		
					N52	I	10	20.4		4		
					O51	I	17	12.3		4		
				47	O52		454	1.1		4		
				47	O52		1196	2.7		4		
				47	P51		673	2.2		4		
					P51	II	53	1.3		4		
			剥片		N51	I	61	0.6		4		
				47	O51		432	4.2		4		
				47	O52		937	4.2		4		
			剥片	47	N52		101	11.1		4		
				47	O52		212	16.1		4		
			剥片		N52	I	11	0.8		4		
			剥片	47	O51		130	2.7		4		
			剥片	47	O51		571	4.8		4		
					O51	I	30	14.4		4		
				47	O52		92	2.2		4		
			剥片	47	O51		673	6.8		4		
					O51	I	220	21.1		4		
			剥片	47	O51		898	1.7		4		
					O51	I	169	1.2		4		
				47	O52		770	10.4		4		
					O52	I	85	15.6		4		
					O52	I	96	0.7		4		
			剥片	47	O51	I	18	9.0		4		
					O52		22	12.2		4		
			剥片		O51	I	24	3.2		4		
					O52	I	86	3.5		4		
			剥片		O51	I	26	10.8		4		
				47	O52		568	4.9		4		
			剥片		O51	I	138	26.8		4		
			剥片		O51	I	139	8.9		4		
					O51	I	218	3.9		4		
				47	O52		933	7.9		4		
			剥片		O51	I	140	14.4		4		
				47	O52		549	5.2		4		
				47	O52		730	18.6		4		
				47	O52		757	3.0		4		
			剥片		O51	I	163	2.0		4		

挿図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
				47	O52		227	5.7		4		
				47	O52		679	9.2		4		
				47	P52		72	1.5		4		
			剥片		O51	I	164	1.6		4		
				47	O52		222	7.0		4		
					O52	I	97	0.7		4		
			剥片		O51	I	165	1.0		4		
					O51	I	217	3.8		4		
			剥片		O51	I	168	0.4		4		
			剥片		O51	I	170	0.4		4		
				47	O52		167	0.9		4		
				47	O52		740	7.8		4		
			剥片		O51	I	219	12.2		4		
			剥片	47	O52		18	1.5		4		
				47	O52		412	3.0		4		
					O52	I	82	5.0		4		
			剥片	47	O52		25	31.4		4		
				47	O52		204	2.7		4		
				47	O52		485	9.9		4		
			剥片	47	O52		27	23.9		4		
					O52	I	83	4.3		4		
					O52	I	95	0.8		4		
				47	P51		693	4.2		4		
			剥片	47	O52		33	35.9		4		
				47	O52		745	3.2		4		
			剥片	47	O52		39	1.4		4		
			剥片	47	O52		42	2.8		4		
			剥片	47	O52		77	41.5		4		
			剥片	47	O52		83	28.9		4		
					O52	I	79	30.6		4		
					O52	I	80	29.3		4		
					O52	I	84	1.2		4		
			剥片	47	O52		89	7.2		4		
				47	O52		932	17.4		4		
			剥片	47	O52		210	0.7		4		
			剥片	47	O52		253	2.1		4		
			剥片	47	O52		257	2.0		4		
			剥片	47	O52		285	1.3		4		
				47	O52		556	11.1		4		
			剥片	47	O52		404	3.5		4		
			剥片	47	O52		481	16.4		4		
				47	O52		756	5.7		4		
				47	O52		767	9.2		4		
			剥片	47	O52		482	20.7		4		
			剥片	47	O52		483	26.9		4		
				47	O52		610	10.1		4		
				47	O52		737	3.9		4		
			剥片	47	O52		496	7.8		4		
				50	Q52		21	2.6		4		
			剥片	47	O52		514	7.5		4		
			剥片	47	O52		524	15.3		4		
			剥片	47	O52		676	11.4		4		
			剥片	47	O52		680	2.1		4		
			剥片	47	O52		708	3.2		4		
			剥片	47	O52		722	2.7		4		
			剥片	47	O52		738	4.5		4		
					P52	I	31	11.2		4		
			剥片	47	O52		746	6.0		4		
					O52	I	67	7.2		4		
			剥片	47	O52		755	14.0		4		

上白滝8遺跡

挿図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
			剥片	47	O52		781	1.2		4		
			剥片	47	O52		802	3.6		4		
			剥片	47	O52		845	17.1		4		
			剥片	47	O52		915	2.7		4		
			剥片	47	O52		1175	10.3		4		
			剥片		O52	I	4	6.1		4		
			剥片		O52	I	65	10.1		4		
			剥片		O52	I	81	13.1		4		
			剥片		O52	I	94	1.9		4		
			剥片	47	P52		229	16.7		4		
			剥片		P52	I	32	6.5		4		
			剥片		P52	I	46	15.8		4		
IV-493	315	309	接合資料	47				18.7	2	1	-	2624
IV-408	279	7	尖頭器		L51	I	4	17.8		1		
IV-425	291	60	尖頭器削片	47	M52		610	0.9		1		
IV-494	317	310	接合資料	47				1,486.6	118	4	352	1720
			剥片	47	M51		16	5.8		4		
					M51	I	4	3.5		4		
					M51	I	5	11.7		4		
			剥片	47	M51		48	14.4		4		
					M51		62	10.3		4		
			剥片	47	N51		234	36.8		4		
			剥片	47	N51		396	32.4		4		
			剥片	47	O51		985	8.7		4		
			剥片	47	N51		444	15.7		4		
					N51		774	9.7		4		
					P51		332	3.7		4		
			剥片	47	N51		751	54.0		4		
			剥片		N51	I	185	32.8		4		
					N51	I	186	12.0		4		
			剥片		N52	I	35	18.9		4		
			剥片	47	O50		17	48.3		4		
					O51		310	33.2		4		
					O51		715	6.2		4		
			剥片	47	O50		362	67.0		4		
					O51		865	18.6		4		
					P51		734	3.2		4		
			剥片	47	O50		457	32.1		4		
					O51		735	0.8		4		
					O51		1037	4.8		4		
					P51		195	2.0		4		
			剥片	47	O50		514	14.9		4		
					O51		218	11.5		4		
					O51		712	7.1		4		
					O51		935	1.6		4		
					P51		183	3.5		4		
			剥片	47	O51		21	4.3		4		
					O51		928	6.2		4		
			剥片	47	O51		25	6.3		4		
					O51		864	6.1		4		
			剥片	47	O51		138	6.0		4		
					O51		1177	8.7		4		
			剥片	47	O51		164	5.9		4		
			剥片	47	O51		204	3.8		4		
					P51		730	5.5		4		
			剥片	47	O51		205	11.4		4		
			剥片	47	O51		220	6.4		4		
			剥片	47	O51		265	3.0		4		
			剥片	47	O51		277	1.8		4		
			剥片	47	O51		399	6.0		4		

挿図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
				47	P51		96	11.9		4		
				47	P51		498	8.9		4		
			剥片	47	O51		442	90.3		4		
					O51		970	7.1		4		
					O51		1165	29.3		4		
			剥片	47	O51		452	4.9		4		
					O51		1028	4.3		4		
			剥片	47	O51		481	13.8		4		
			剥片	47	O51		519	64.7		4		
					O51	I	171	33.3		4		
			剥片	47	O51		732	28.9		4		
					O51		957	17.0		4		
			剥片	47	O51		870	3.5		4		
					P51		500	1.0		4		
			剥片	47	O51		966	7.3		4		
					O51		983	4.4		4		
			剥片	47	O51		1187	12.7		4		
			剥片	47	O51		1289	5.8		4		
					P51		724	11.8		4		
			剥片		O51	I	73	1.7		4		
					P51		330	5.2		4		
			剥片	47	P51		78	21.1		4		
					P51		322	0.9		4		
					P51	I	54	21.6		4		
			剥片	47	P51		98	3.9		4		
			剥片	47	P51		104	19.6		4		
			剥片	47	P51		106	2.7		4		
			剥片	47	P51		140	2.3		4		
					P51		389	7.8		4		
					P51		739	5.1		4		
			剥片	47	P51		214	3.2		4		
			剥片	47	P51		221	5.9		4		
			剥片	47	P51		223	1.1		4		
					P51		232	4.8		4		
					P51		250	5.5		4		
					P51		680	2.6		4		
			剥片	47	P51		225	8.9		4		
					P51		736	51.9		4		
			剥片	47	P51		255	3.2		4		
					P51		260	7.7		4		
					P51		284	0.9		4		
			剥片	47	P51		262	22.7		4		
			剥片	47	P51		312	22.2		4		
					P51		668	15.8		4		
			剥片	47	P51		321	2.4		4		
			剥片	47	P51		327	2.1		4		
			剥片	47	P51		338	8.5		4		
			剥片	47	P51		344	16.8		4		
					P51		687	2.2		4		
			剥片	47	P51		390	5.6		4		
			剥片	47	P51		392	11.6		4		
					P51		746	22.5		4		
			剥片	47	P51		493	21.5		4		
			剥片	47	P51		501	6.9		4		
			剥片	47	P51		503	5.2		4		
					P51		725	3.6		4		
			剥片	47	P51		510	18.0		4		
					P51		536	11.2		4		
			剥片	47	P51		543	7.9		4		
					P51		665	6.1		4		

掲載遺物一覧

種図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
			剥片	47	P51		549	4.2		4		
				47	P51		561	1.2		4		
			剥片	47	P51		607	1.1		4		
				47	P51		608	3.1		4		
				47	P51		708	13.5		4		
			剥片	47	P51		633	4.5		4		
				47	P51		659	11.1		4		
			剥片	47	P51		641	4.1		4		
				47	P51		653	4.6		4		
			剥片	47	P51		672	13.5		4		
			剥片	47	P51		707	14.9		4		
			剥片	47	P51		745	25.4		4		
			剥片	47	P51		757	16.0		4		
					P51 II	55	1.5			4		
IV-496	318	311	接合資料	39・42				1,169.2	46	1・4	291	1572
			剥片	39	H53		517	4.2		1		
			剥片	39	H53		684	6.8		1		
			剥片		H53	I	128	5.6		1		
					H53	I	129	160.5		1		
			剥片		I53	I	135	5.2		1		
			剥片		I53	I	138	13.1		1		
			剥片	42	J53		86	4.4		1		
				42	K54		54	10.4		1		
			剥片	42	J54		209	3.9		1		
					J54 I	26	4.8			1		
			剥片	42	J54		243	25.5		1		
				42	K54		584	2.6		1		
				42	K54		591	21.6		1		
			剥片	42	J54		245	1.5		1		
				42	K54		55	64.8		1		
				42	K54		341	4.5		1		
			剥片		J54 I	14	114.5			1		
				42	K54		97	47.1		1		
			剥片	42	K53		49	7.6		1		
			剥片	42	K54		29	38.8		1		
			剥片	42	K54		47	42.1		1		
				42	L53		156	26.3		1		
			剥片	42	K54		57	5.5		1		
				42	K54		602	4.7		1		
			剥片	42	K54		59	105.1		1		
				42	K54		459	10.8		1		
				42	K54		605	41.8		1		
			剥片	42	K54		70	20.5		1		
				42	K54		354	9.0		1		
			剥片	42	K54		126	28.4		1		
			剥片	42	K54		154	4.2		1		
				42	K54		272	45.5		1		
				42	K54		326	7.5		1		
					K54 I	55	2.6			1		
			剥片	42	K54		170	40.2		1		
			剥片	42	K54		185	12.8		1		
				42	K54		360	5.4		1		
			剥片	42	K54		237	11.7		1		
			剥片	42	K54		286	20.1		1		
			剥片	42	K54		305	3.9		1		
				42	K54		449	30.4		1		
				42	K54		452	31.5		1		
				42	K54		499	2.3		1		
					K54 I	12	0.9			4		
			剥片	42	K54		336	6.7		1		

種図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
			剥片		七北 <sup>30</sup> ~51		30	101.9		1		
IV-497	318	312	接合資料	39・42・44				1,007.4	47	1	291	1573
			剥片	39	H53		72	6.2		1		
					H54	I	45	7.7		1		
			剥片	39	H53		132	22.5		1		
				39	H53		135	12.9		1		
			剥片	39	I53		803	13.2		1		
				44	J52		38	31.6		1		
			剥片		J53	I	76	9.5		1		
			剥片	39	J54		6	5.0		1		
			剥片	42	J54		11	9.4		1		
			剥片	42	J54		85	28.2		1		
					J54 I	24	7.7			1		
				42	K54		531	49.3		1		
			剥片	42	J54		98	8.4		1		
			剥片	42	J54		137	6.3		1		
				42	K54		346	35.7		1		
			剥片	42	J54		171	14.3		1		
				42	K54		303	2.7		1		
					K54 I	57	18.8			1		
			剥片	42	J54		216	33.9		1		
				42	K54		285	2.7		1		
				42	K54		292	2.7		1		
				42	K54		456	12.8		1		
			剥片	42	J54		221	10.1		1		
				42	K54		428	9.3		1		
				42	K54		513	5.8		1		
			剥片	42	J54		235	43.4		1		
				42	K54		595	56.1		1		
			剥片	42	J54		285	3.2		1		
			剥片	42	J54		291	15.4		1		
				42	K54		357	62.2		1		
					K54 I	54	186.0			1		
			剥片	42	J54		302	2.2		1		
				42	K54		593	13.6		1		
			剥片	42	K53		228	27.3		1		
				42	K54		141	8.9		1		
				42	K54		148	7.6		1		
				42	K54		288	3.7		1		
			剥片	42	K54		338	2.1		1		
				42	K54		553	4.5		1		
				42	K54		598	11.0		1		
			剥片	42	K54		23	22.9		1		
					K54 I	46	68.8			1		
			剥片	42	K54		215	5.8		1		
			剥片	42	K54		269	44.5		1		
				42	K54		419	2.5		1		
			剥片	42	K54		417	42.7		1		
				42	K54		502	6.3		1		
IV-498	319	313	接合資料	40				822.5	64	1	436	1966
			剥片	40	H52		39	38.5		1		
				40	H52		114	1.2		1		
			剥片	40	H52		47	5.1		1		
				40	H52		274	13.7		1		
				40	H52		584	3.4		1		
IV-410	280	16	尖頭器	40	H52		50	83.1		1		
				40	H52		475	53.0		1		
			剥片	40	H52		115	1.1		1		
			剥片	40	H52		118	2.8		1		
			剥片	40	H52		120	29.6		1		

上白滝8遺跡

種図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
			剥片	40	H52		240	3.8		1		
			剥片	40	H52		242	39.4		1		
			剥片	40	H52		262	2.1		1		
				40	H52		549	5.2		1		
			剥片	40	H52		264	5.3		1		
			剥片	40	H52		271	15.9		1		
				40	H52		345	17.1		1		
				40	H52		518	6.9		1		
			剥片	40	H52		276	10.1		1		
			剥片	40	H52		288	23.1		1		
				40	H52		290	14.2		1		
				40	H52		495	12.0		1		
				40	H52		537	10.1		1		
			剥片	40	H52		295	41.2		1		
IV-443	301	213	舟底形石器	40	H52		333	64.8		1		
			剥片	40	H52		342	4.4		1		
			剥片	40	H52		343	2.6		1		
			剥片	40	H52		347	2.9		1		
			剥片	40	H52		351	4.9		1		
			剥片	40	H52		367	1.6		1		
			剥片	40	H52		369	5.6		1		
			剥片	40	H52		375	3.7		1		
				40	H52		626	2.8		1		
			剥片	40	H52		412	1.6		1		
			剥片	40	H52		416	7.9		1		
				40	H52		419	1.7		1		
			剥片	40	H52		446	4.2		1		
			剥片	40	H52		450	12.0		1		
			剥片	40	H52		452	3.9		1		
			剥片	40	H52		453	5.9		1		
			剥片	40	H52		454	1.0		1		
				40	H52		503	8.8		1		
				40	H52		533	19.8		1		
			剥片	40	H52		463	11.2		1		
				40	H52		486	1.2		1		
			剥片	40	H52		483	4.5		1		
			剥片	40	H52		490	2.4		1		
			剥片	40	H52		515	7.0		1		
			剥片	40	H52		519	21.4		1		
			剥片	40	H52		534	2.0		1		
			剥片	40	H52		538	3.6		1		
			剥片	40	H52		539	2.1		1		
			剥片	40	H52		542	11.1		1		
			剥片	40	H52		564	3.3		1		
			剥片	40	H52		569	5.7		1		
			剥片	40	H52		579	2.4		1		
			剥片	40	H52		599	2.1		1		
			剥片	40	H52		605	11.0		1		
			剥片	40	H52		635	6.7		1		
			剥片	40	H52		661	99.3		1		
			剥片	40	H52		663	12.7		1		
			剥片	40	H52		680	2.5		1		
			剥片	40	H52		685	1.7		1		
			剥片		H52	I	11	10.6		1		
IV-499	319	314	接合資料	21-46-47				96.4	9	4	-	2675
			尖頭器削片		N51	I	102	15.0		4		
IV-309	206	66	尖頭器削片	47	N52		649	3.1		4		
				46	N53		162	11.3		4		
				21	N63		412	8.8		4		
			尖頭器削片	46	N53		133	1.5		4		

種図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
IV-425	291	58	尖頭器削片		N53	I	17	7.7		4		
IV-425	291	61	尖頭器削片	47	O51		1362	38.6		4		
IV-433	297	162	舟底形石器		O53	III	3	2.3		4		
			尖頭器削片		七南52 ~59		28	8.1		4		
IV-500	320	315	接合資料	47				4,675.3	28	1・5	396	1883
			石刃		M52	I	33	36.8		5		
					N51	I	198	6.5		5		
			縦長剥片		M52	I	49	4.0		5		
				47	N52		47	45.0		5		
				47	N52		403	565.6		5		
				47	O52		1085	31.7		5		
					七南52 ~59		102	58.5		5		
			剥片		N51	I	106	19.9		5		
				47	N52		908	166.4		5		
				47	N52		1362	193.3		5		
				47	O51		88	5.5		5		
				47	O52		1127	128.9		1		
			剥片	47	N52		257	493.6		5		
					O51	I	186	126.3		5		
					O51	I	190	17.6		5		
					七南52 ~59		103	66.5		5		
IV-449	304	247	石刃		N53	I	1	109.4		5		
				47	O52		270	49.2		5		
			剥片	47	O51		87	6.8		5		
IV-454	307	270	石刃核	47	O51		621	2,464.9		5		
			剥片		O51	I	188	15.8		5		
			剥片		O51	I	232	3.7		5		
			剥片	47	O52		268	2.5		5		
				47	O52		631	12.6		5		
			石刃	47	O52		1170	1.7		5		
				47	O52		1226	7.9		5		
				47	O52		1235	6.2		5		
			剥片	47	P52		126	28.5		5		
IV-502	321	316	接合資料	47				1,300.0	42	4	439	1995
			剥片	47	L51		25	8.5		4		
			剥片	47	L52		36	2.3		4		
					N51	I	93	8.8		4		
			剥片	47	M51		33	12.3		4		
				47	M51		320	8.4		4		
				47	N52		96	45.7		4		
				47	N52		189	30.3		4		
				47	N52		1320	8.3		4		
			剥片	47	M51		111	4.6		4		
			剥片	47	M51		287	5.0		4		
				47	M51		374	2.0		4		
			剥片	47	M51		351	7.1		4		
			剥片	47	M51		353	215.4		4		
			剥片	47	M51		359	11.3		4		
			剥片	47	M51		416	18.8		4		
			剥片	47	M51		434	2.2		4		
			剥片	47	M51		474	9.0		4		
			剥片	47	M52		15	5.8		4		
			剥片	47	N51		195	15.9		4		
				47	N51		628	18.3		4		
				47	N51		744	24.5		4		
					N51	I	90	4.7		4		
IV-268	306	268	石刃核	47	N51		210	311.8		4		
			剥片	47	N51		301	29.6		4		
				47	N51		465	6.0		4		
				47	N51		471	3.4		4		

掲載遺物一覧

種図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
IV-460	310	293	石核	47	N51		311	293.5		4		
			剥片	47	N51		461	61.1		4		
			剥片	47	N51		464	20.3		4		
			剥片	47	N51		622	11.0		4		
			剥片	47	N51		783	6.8		4		
			剥片	47	N51		784	3.5		4		
			剥片	47	N52		416	14.2		4		
			剥片	47	N51		831	5.8		4		
			剥片	47	N51		839	6.5		4		
			剥片	47	N51		1056	5.2		4		
			剥片	47	N51		851	9.5		4		
			剥片	47	N51		865	4.8		4		
			剥片	47	N51		869	16.4		4		
			剥片	47	N51		877	2.1		4		
			剥片	47	N51		919	6.6		4		
			剥片	47	N51		1000	12.7		4		
IV-504	322	317	接合資料	46・47				1,969.3	30	4	344	1699
			剥片		J51	I	2	12.5		4		
			剥片	47	M51		447	72.8		4		
			剥片		M52	I	15	115.0		4		
			剥片		M52	I	18	10.6		4		
			剥片		M52	I	30	52.2		4		
			剥片	47	N52		1192	5.9		4		
			剥片	46	M53		26	471.7		4		
			剥片		N51	I	26	3.9		4		
			剥片	47	N52		150	3.0		4		
			剥片	47	N52		1005	2.2		4		
			剥片	46	N53		248	63.1		4		
			剥片	47	O52		817	1.6		4		
			剥片		N51	I	27	220.2		4		
			剥片	47	N52		24	4.2		4		
			剥片	46	N53		95	43.2		4		
			剥片		N51	I	31	26.0		4		
			剥片	47	N52		201	6.5		4		
			剥片	46	N53		123	134.4		4		
			剥片	47	N52		328	4.0		4		
			剥片	47	N52		455	121.6		4		
			剥片	47	N52		586	2.8		4		
			剥片	46	N53		318	2.9		4		
			縦長剥片	47	N52		619	5.5		4		
			剥片		O53	I	4	55.8		4		
			剥片	47	N52		867	3.5		4		
			剥片	47	N52		943	19.8		4		
			剥片	47	N52		1387	3.4		4		
IV-460	310	290	石核		N53	I	2	315.9		4		
			剥片		N53	I	7	10.6		4		
			剥片	46	O54		14	174.5		4		
IV-505	322	318	接合資料	42・44				438.4	22	1・4	441	1999
IV-459	310	289	石核	44	K52		240	108.8		4		
			剥片	44	K52		319	9.2		4		
IV-459	309	287	石核	44	K52		692	113.8		4		
			剥片	44	K52		1340	26.9		4		
			剥片	42	K53		169	9.4		4		
			剥片	44	L53		325	2.8		4		
			剥片	42	K53		22	9.2		4		
			剥片	42	K53		224	10.8		4		
			剥片	42	K53		241	33.8		4		
			剥片	42	K53		512	6.1		4		
			剥片	44	K53		318	4.1		1		
			剥片	42	K53		474	2.2		4		
			縦長剥片	44	K53							
			剥片	42	K53							
			剥片	42	K53							
			剥片	42	K53							
			剥片	42	K53							
			剥片	44	L53							
			剥片	44	L53	I	27	2.1		4		
			剥片	44	L53	I	28	1.7		4		
IV-506	323	319	接合資料	47				708.6	9	4	346	1703
			縦長剥片	47	M51		30	8.8		4		
			剥片	47	M51		263	22.6		4		
			剥片	47	M51		105	22.4		4		
			剥片	47	M51		142	49.8		4		
			剥片	47	M51		202	8.5		4		
			剥片	47	M51		288	16.7		4		
			剥片	47	M51		476	55.7		4		
			剥片	47	N51		446	304.2		4		
IV-451	305	260	石刃核	47	N51		995	219.9		4		
IV-507	324	320	接合資料	42-43-44				2,840.4	47	3・4	350	1715
			剥片	43	J52		6	195.0		4		
			剥片		J52	I	4	8.6		4		
			剥片		J52	I	5	3.6		4		
			剥片		J52	I	36	166.4		4		
			剥片	42	K53		84	143.2		4		
			剥片	42	K53		465	1.6		3		
			剥片		L53	I	52	17.0		4		
			縦長剥片		J53	I	5	69.0		4		
			剥片		J53	I	9	5.3		4		
			剥片		J53	I	10	1.9		4		
			剥片	44	K52		918	157.2		4		
			剥片	44	K52		891	28.5		4		
			剥片	44	K52		1140	99.0		4		
			剥片	44	K52		1226	251.5		4		
			剥片	44	K52		1227	30.5		4		
			剥片	44	K52		1365	223.7		4		
			剥片		K54	I	14	37.1		4		
			剥片		L53	II	56	1.1		4		
IV-453	306	267	石刃核	44	K52		1415	480.7		3		
			剥片	42	K53		9	51.1		4		
			剥片	42	K53		63	7.9		4		
			剥片	42	K53		170	15.7		4		
			剥片	44	K53		16	48.0		3		
			剥片	42	K53		175	18.8		3		
			剥片	44	K53		313	190.0		4		
			縦長剥片	42	K53		249	16.7		3		
			剥片	42	K54		442	14.3		4		
			剥片		K54	I	16	7.0		4		
			縦長剥片	42	K53		267	51.0		4		
			剥片		L53	I	53	2.4		4		
			剥片	42	K53		374	62.9		4		
			剥片	42	K53		447	13.8		4		
			剥片	44	K53		493	223.2		4		
			剥片	43	K53		510	73.4		4		
			剥片	42	K54		1	5.8		4		
			縦長剥片		K54	I	15	15.9		4		
			剥片		L52	I	58	3.1		4		
			剥片		L52	I	55	22.5		4		

上白滝8遺跡

種図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
					L52	I	57	6.2		4		
			剥片		L52	I	56	14.8		4		
			剥片	44	L53		253	4.3		4		
			剥片	44	L53		382	3.5		4		
			縦長剥片	42	L53		384	4.9		4		
					L53	I	51	35.9		4		
			剥片	44	L53		429	3.3		4		
			剥片		L53	I	54	2.3		4		
IV-508	323	321	接合資料	45・47				534.6	11	4	442	2003
			剥片	47	K52		193	4.8		4		
				47	L52		402	23.3		4		
			縦長剥片	47	L51		36	7.8		4		
				45	L51		47	8.7		4		
IV-452	306	264	石刃核	47	M51		107	335.5		4		
			剥片	47	M52		1266	42.7		4		
			剥片	47	N51		588	58.0		4		
			剥片	47	N51		825	20.0		4		
			石刃	47	N52		714	10.4		4		
			剥片	47	N52		757	13.8		4		
			縦長剥片	47	N52		1459	9.6		4		
IV-508	325	322	接合資料	49・53・54・61				382.1	69	1・5	410	1917
			石刃	61	O46		5	13.1		1		
			剥片	61	O47		16	1.8		1		
				49	O48		81	1.7		1		
			剥片		O47	I	28	5.8		1		
				54	P47		400	3.1		1		
			剥片		O47	I	29	5.5		1		
				54	P47		323	10.1		1		
			剥片		O47	I	31	3.2		1		
					P47	I	25	3.3		1		
				54	Q47		213	1.4		1		
				54	Q47		249	2.2		1		
			剥片		O48	I	38	1.5		1		
			剥片	61	P47		23	4.3		1		
			剥片	54	P47		35	1.8		1		
			剥片	54	P47		43	5.8		1		
			剥片	54	P47		46	1.9		1		
			剥片	54	P47		130	7.5		1		
				54	Q47		161	6.0		1		
			剥片	54	P47		131	4.3		1		
			剥片	54	P47		149	16.0		1		
			剥片	54	P47		151	1.2		1		
			剥片	54	P47		155	1.2		1		
			剥片	54	P47		166	1.3		1		
				54	P47		436	4.3		1		
			剥片	54	P47		167	4.0		1		
				54	P47		378	4.3		1		
			剥片	54	P47		217	1.8		1		
				54	Q47		184	8.2		1		
			剥片	54	P47		236	0.7		1		
			剥片	54	P47		247	1.2		1		
			縦長剥片	54	P47		264	0.8		1		
				54	Q47		250	2.6		1		
			剥片	54	P47		291	6.0		1		
			剥片	54	P47		308	86.6		5		
			剥片	54	P47		314	2.3		1		
			剥片	54	P47		318	5.3		1		
			剥片	54	P47		338	5.3		1		
				54	Q47		241	3.9		1		
			剥片	54	P47		356	5.5		1		

種図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
IV-430	294	137	削器	54	P47		382	1.2		1		
				54	Q47		140	8.5		1		
			剥片	54	P47		405	4.2		1		
			剥片	54	P47		415	2.0		1		
			剥片	54	P47		420	3.1		1		
			剥片	54	P47		464	0.9		1		
			縦長剥片		P47	I	22	3.0		1		
			剥片		P47	I	26	3.9		1		
					P47	I	27	2.3		1		
			剥片		P47	I	29	2.4		1		
			剥片		P47	II	28	0.9		1		
				54	Q47		242	1.8		1		
			剥片	54	P48		2	2.2		1		
IV-427	292	98	搔器	53	P48		63	9.8		1		
			剥片	54	P48		87	2.4		1		
				54	Q47		59	18.3		1		
			石刃	53	P48		91	4.1		1		
			石刃	53	P48		114	6.4		1		
IV-430	294	138	削器		P48	I	34	2.8		1		
					P48	I	35	3.0		1		
					P48	I	36	8.4		1		
					P48	I	37	3.4		1		
			縦長剥片		P49	I	12	4.6		1		
					P49	II	13	1.2		1		
			剥片	54	Q47		62	10.9		1		
			剥片	54	Q47		185	7.5		1		
			剥片	54	Q47		244	8.3		1		
			剥片		Q47	II	15	0.6		1		
			剥片	53	Q48		264	2.6		1		
				53	Q48		308	4.6		1		
IV-509	325	323	接合資料	35・42				1,745.5	54	1・5	390	1860
			縦長剥片		H54	I	40	22.5		1		
					H54	I	41	3.2		1		
					七北52-59		254	13.8		5		
IV-380	259	44	搔器	35	I55		393	36.4		5		
			剥片		J53	I	77	13.2		1		
				35	J54		18	10.2		5		
					J54	I	16	155.7		1		
				42	K53		103	7.9		1		
				42	K54		220	61.3		5		
				42	K54		324	14.9		5		
				42	K54		403	116.6		5		
			剥片	42	J54		102	2.4		5		
			縦長剥片	42	J54		132	6.3		5		
				42	K54		9	15.6		5		
					K54	II	53	1.9		5		
			剥片	42	J54		180	6.6		1		
			石刃	42	J54		249	2.8		5		
				42	K53		72	8.2		1		
				42	K53		73	4.5		1		
				42	K53		102	5.7		1		
				42	K53		335	2.5		1		
			剥片		J54	I	20	1.9		5		
				42	K54		254	4.1		5		
			剥片	42	K53		98	3.0		1		
			剥片	42	K53		99	2.6		1		
			剥片	42	K53		254	16.5		1		
IV-450	304	250	石刃	42	K53		334	27.6		5		
				42	K54		5	6.9		5		
				42	K54		262	19.8		5		

掲載遺物一覧

挿図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
IV-456	308	273	石刃核	42	K53		338	718.5		1		
			剥片		K53	II	71	2.8		5		
			剥片	42	K54		131	4.0		5		
			剥片	42	K54		175	4.3		5		
IV-450	304	251	石刃	42	K54		189	11.1		5		
				42	K54		219	37.4		5		
				42	K54		222	32.3		5		
			剥片	42	K54		190	1.9		5		
			剥片	42	K54		212	5.6		5		
				42	K54		213	40.7		5		
			剥片	42	K54		241	29.6		5		
				42	K54		397	54.3		5		
				42	K54		477	29.6		5		
			剥片	42	K54		250	4.3		5		
							251	15.4		5		
			剥片	42	K54		278	4.0		5		
							234	47.9		1		
			石刃	42	K54		296	18.4		5		
				42	K54		429	8.1		5		
			剥片	42	K54		323	7.0		5		
			剥片	42	K54		476	9.1		5		
			剥片		K54	I	52	6.2		5		
							253	22.8		5		
			石刃				230	24.7		1		
			剥片				252	10.9		5		
IV-510	326	324	接合資料	35-42-46				1,889.5	46	1-3-4-5	440	1998
			石刃		H51	I	2	32.3		3		
				46	M53		377	20.8		4		
			剥片	42	K54		16	11.7		4		
				42	K54		483	54.3		4		
			剥片	42	K54		111	4.9		4		
			剥片	42	K54		113	12.9		4		
					L53	I	66	50.8		3		
			剥片	42	K54		128	9.9		4		
							180	19.9		4		
			剥片	42	K54		157	32.8		4		
			剥片	42	K54		231	7.3		3		
					K54	I	35	19.0		4		
			剥片		K54	I	20	49.3		4		
					K54	II	44	3.3		4		
			剥片		K54	I	34	27.9		4		
					L54	I	6	7.5		1		
			剥片		K54	I	36	13.6		4		
				46	L54		87	2.8		4		
			剥片		K54	I	38	2.7		4		
IV-384	261	66	石刃核	35	K55		13	273.1		4		
			石刃		K58	I	1	42.9		4		
			剥片	46	L53		19	3.0		4		
				46	L53		63	3.9		4		
				46	M53		33	48.2		3		
			剥片	46	L53		20	3.5		4		
				46	L54		40	49.6		4		
			剥片	46	L53		76	37.9		4		
				46	L53		117	4.6		4		
			剥片	46	L53		77	2.8		3		
				46	L53		131	113.8		4		
			剥片	46	L53		89	10.0		4		
				46	L53		90	7.6		4		
							178	11.1		4		
			剥片	46	L53		137	80.1		4		

挿図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
			剥片	46	L53		139	4.9		5		
				46	L54		85	28.9		4		
			剥片		L53	I	70	15.2		3		
			剥片	46	L54		102	8.4		4		
			剥片		L54	I	5	12.3		1		
			剥片	46	M53		35	16.6		4		
			剥片	46	M53		37	44.1		3		
			剥片	46	M53		189	85.3		1		
							181	178.7		4		
			縦長剥片	46	M53		385	157.1		4		
			縦長剥片	46	M53		389	53.0		4		
				46	M53		481	209.2		4		
IV-511	327	325	接合資料	45-48-49				3,975.2	109	1	295	1581
			剥片	45	L51		48	4.6		1		
				48	N50		162	1.8		1		
				48	O50		286	9.6		1		
				48	O50		370	1.4		1		
				48	O50		394	2.1		1		
				48	O50		417	2.0		1		
				48	O50		453	1.4		1		
			剥片		M50	I	2	1.0		1		
IV-450	305	253	石刃	49	N49		209	85.1		1		
				48	N50		187	17.3		1		
			剥片	49	N50		4	10.9		1		
				48	N50		326	14.2		1		
			縦長剥片	48	N50		101	1.5		1		
				48	N50		218	12.8		1		
			剥片	48	N50		138	0.6		1		
				48	N50		174	6.2		1		
			剥片	48	N50		142	2.7		1		
			剥片	48	N50		165	7.1		1		
				48	N50		341	1.5		1		
				48	N50		347	1.1		1		
				48	O50		436	16.4		1		
				48	O50		498	7.5		1		
			剥片	48	N50		181	6.1		1		
			剥片	48	N50		182	5.1		1		
				48	N50		287	67.4		1		
				48	O50		451	1.7		1		
			剥片	48	N50		184	90.7		1		
			剥片	48	N50		185	13.8		1		
				48	N50		293	7.3		1		
				48	O50		402	131.4		1		
				48	O50		464	6.0		1		
			剥片	48	N50		192	3.6		1		
				48	O50		429	133.8		1		
				48	O50		449	9.1		1		
				48	O50		475	3.6		1		
				48	O50		476	6.9		1		
				48	O50		499	34.5		1		
			剥片	48	N50		266	1.8		1		
			剥片	48	N50		281	10.8		1		
				48	N50		375	60.5		1		
			縦長剥片	48	N50		288	6.9		1		
				48	O50		418	32.3		1		
			剥片	48	N50		289	68.9		1		
			剥片	48	N50		291	2.2		1		
			縦長剥片	48	N50		292	106.6		1		
				48	O50		398	6.8		1		
			剥片	48	N50		298	1.9		1		

上白滝8遺跡

挿図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
				48	O50		355	17.6		1		
				48	O50		356	40.3		1		
				48	O50		374	165.6		1		
				48	O50		407	2.4		1		
			剥片	48	N50		328	3.2		1		
				48	N50		336	4.5		1		
				48	N50		374	4.6		1		
			剥片	48	N50		329	22.6		1		
			剥片	48	N50		339	26.9		1		
			剥片	48	N50		344	2.4		1		
				48	N50		377	17.5		1		
				48	O50		351	33.3		1		
				48	O50		377	152.8		1		
			剥片	48	N50		373	17.5		1		
			剥片	48	O50		129	2.2		1		
				48	O50		415	226.6		1		
				48	O50		440	32.6		1		
			剥片	48	O50		235	4.6		1		
			縦長剥片	48	O50		277	10.5		1		
				48	O50		427	20.1		1		
			剥片	48	O50		283	33.8		1		
IV-450	305	254	剥片	48	O50		284	43.9		1		
				48	O50		326	169.3		1		
			剥片	48	O50		285	43.5		1		
				48	O50		295	11.2		1		
				48	O50		384	76.2		1		
				48	O50		385	12.6		1		
			剥片	48	O50		289	45.2		1		
					七北30 ~51		25	273.9		1		
			剥片	48	O50		331	8.0		1		
				48	O50		338	8.5		1		
			剥片	48	O50		332	18.6		1		
			剥片	48	O50		342	10.8		1		
				48	O50		441	15.5		1		
				48	O50		442	5.4		1		
				48	O50		516	10.2		1		
			剥片	48	O50		367	5.0		1		
				48	O50		382	21.7		1		
				48	O50		501	7.6		1		
			剥片	48	O50		380	156.3		1		
			剥片	48	O50		391	2.0		1		
			剥片	48	O50		392	74.2		1		
				48	O50		477	53.7		1		
			剥片	48	O50		406	3.3		1		
				48	O50		450	3.0		1		
				48	O50		471	9.4		1		
IV-450	304	252	石刃	48	O50		420	8.1		1		
				48	O50		448	57.3		1		
				48	O50		493	4.7		1		
			縦長剥片	48	O50		462	184.9		1		
			剥片	48	O50		463	3.7		1		
			剥片	48	O50		479	9.6		1		
				48	O50		491	2.8		1		
			剥片	48	O50		481	10.5		1		
				48	O50		497	10.7		1		
			剥片	48	O50		485	96.0		1		
			剥片	48	O50		487	0.8		1		
			剥片	48	O50		490	38.7		1		
			剥片	48	O50		495	66.5		1		
			剥片	48	O50		518	2.9		1		

挿図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
IV-462	311	297	石核	48	O50		524	462.4		1		
			剥片	48	O50		532	56.5		1		
IV-513	329	326	接合資料	44・47				1,675.3	80	4	351	1716
			剥片	47	L52		124	4.4		4		
			剥片	47	L52		304	10.3		4		
			剥片	44	L52		525	2.1		4		
			剥片	47	M51		20	153.3		4		
				O51	I		20	6.2		4		
				O51	I		182	3.0		4		
				P51			86	4.5		4		
				P51			333	23.6		4		
				P51			594	38.3		4		
				P51			686	1.9		4		
			剥片	47	M51		235	114.5		4		
			剥片	47	M51		328	114.2		4		
				P51			552	35.7		4		
			縦長剥片	47	M51		354	57.7		4		
				47	M51		415	71.3		4		
				47	N51		633	51.2		4		
			剥片	47	M51		592	2.7		4		
			剥片	47	M52		19	0.9		4		
			剥片	47	M52		193	6.6		4		
			剥片	47	M52		214	1.6		4		
IV-447	303	239	石刃	47	M52		238	13.0		4		
			剥片	47	M52		545	6.5		4		
			剥片	47	M52		599	7.4		4		
			剥片	47	M52		704	7.9		4		
			剥片	47	M52		714	3.0		4		
			剥片	47	M52		742	7.1		4		
			剥片	47	M52		1075	1.2		4		
			剥片	47	M52		1106	3.1		4		
			剥片	47	M52		1119	1.2		4		
			剥片	47	M52		1144	4.5		4		
			剥片	47	M52		1157	13.4		4		
			剥片	47	M52		1206	6.0		4		
			剥片	47	M52		1220	3.4		4		
			剥片	47	M52		1301	2.2		4		
			剥片		M52	I	25	14.4		4		
			剥片		M52		不明	2.0		4		
IV-460	310	291	石核	47	N51		644	168.7		4		
IV-451	305	257	石刃核	47	N51		806	138.4		4		
IV-447	303	237	石刃	47	N52		691	8.2		4		
			石刃	47	N52		880	35.8		4		
IV-447	303	238	石刃	47	N52		881	9.3		4		
			剥片	47	N52		1153	51.8		4		
			縦長剥片		O51	I	14	3.1		4		
				47	P51		252	15.9		4		
				47	P51		340	23.7		4		
			剥片		O51	I	23	4.6		4		
			剥片	47	O52		1087	77.3		4		
			剥片	47	P51		109	11.4		4		
			剥片	47	P51		112	0.9		4		
			剥片	47	P51		137	44.3		4		
			剥片	47	P51		141	2.3		4		
			剥片	47	P51		149	1.2		4		
			剥片	47	P51		156	19.0		4		
			剥片	47	P51		157	6.8		4		
			剥片	47	P51		212	5.2		4		
				47	P51		295	4.4		4		
			剥片	47	P51		222	1.4		4		

掲載遺物一覧

挿図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
			剥片	47	P51		226	1.7		4		
			剥片	47	P51		254	31.2		4		
			剥片	47	P51		269	9.5		4		
			剥片	47	P51		286	4.7		4		
			剥片	47	P51		314	3.5		4		
			剥片	47	P51		323	2.5		4		
			剥片	47	P51		357	14.8		4		
			剥片	47	P51		361	2.2		4		
			剥片	47	P51		362	2.6		4		
			剥片	47	P51		365	44.8		4		
			剥片	47	P51		403	10.0		4		
			剥片	47	P51		473	3.4		4		
			剥片	47	P51		477	64.2		4		
			剥片	47	P51		541	1.0		4		
			剥片	47	P51		599	12.8		4		
			剥片	47	P51		642	7.2		4		
			剥片	47	P51		643	5.1		4		
			縦長剥片	47	P51		648	6.4		4		
			剥片	47	P51		661	2.3		4		
			剥片	47	P51		695	5.6		4		
			剥片	47	P51		697	1.2		4		
			剥片		P51		不明	3.9		4		
			剥片				不明	0.7		4		
IV-516	330	331	接合資料	47				1,216.4	60	4	353	1726
			縦長剥片	47	L52		73	47.1		4		
			剥片	47	M51		164	91.6		4		
			二次加工ある剥片	47	M51		411	69.7		4		
			縦長剥片	47	M52		24	14.8		4		
			縦長剥片	47	M52		1125	11.7		4		
			縦長剥片	47	M52		1293	18.9		4		
			縦長剥片	47	M52		1176	16.5		4		
			二次加工ある剥片	47	M52		1179	15.1		4		
			剥片	47	P51		565	10.4		4		
			縦長剥片	47	M52		1214	14.5		4		
			剥片		M52	I	14	1.7		4		
			縦長剥片	47	N51		40	39.0		4		
				47	P51		352	0.9		4		
				47	P51		470	11.8		4		
				47	P51		595	4.5		4		
			二次加工ある剥片	47	N51		561	8.9		4		
			剥片	47	N51		621	20.6		4		
				47	N51		804	70.2		4		
				47	P51		85	21.4		4		
				47	P51		678	8.9		4		
			剥片	47	P51		122	3.6		4		
			剥片	47	P51		154	3.0		4		
			剥片	47	P51		203	26.5		4		
				47	P51		217	2.9		4		
			剥片	47	P51		208	1.0		4		
			剥片	47	P51		231	9.4		4		
				47	P51		488	2.1		4		
			剥片	47	P51		233	3.1		4		
				47	P51		310	0.9		4		
				47	P51		336	16.8		4		
			剥片	47	P51		243	5.8		4		
			剥片	47	P51		264	11.2		4		
				47	P51		486	7.8		4		
			縦長剥片	47	P51		272	10.3		4		
				47	P51		354	8.2		4		
			剥片	47	P51		308	2.3		4		

挿図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
			剥片	47	P51		324	22.5		4		
			剥片	47	P51		337	5.6		4		
				47	P51		489	7.0		4		
IV-451	305	259	石刃核	47	P51		381	145.6		4		
			縦長剥片	47	P51		385	1.9		4		
			縦長剥片	47	P51		386	16.2		4		
			剥片	47	P51		402	2.0		4		
				47	P51		718	5.0		4		
			剥片	47	P51		485	59.6		4		
			剥片	47	P51		496	10.0		4		
					P51	II	2	2.4		4		
			剥片	47	P51		508	2.6		4		
			剥片	47	P51		551	6.0		4		
			剥片	47	P51		553	35.0		4		
			剥片	47	P51		584	39.1		4		
			剥片	47	P51		592	71.5		4		
			剥片	47	P51		598	16.6		4		
			剥片	47	P51		604	15.6		4		
			石刃	47	P51		662	13.7		4		
			剥片	47	P51		677	14.5		4		
			剥片	47	P51		694	5.8		4		
			剥片	47	P51		698	7.1		4		
			剥片	47	P51		706	82.2		4		
			剥片	47	P51		732	15.8		4		
IV-517	330	332	接合資料	29・47				1,251.9	77	4	366	1759
IV-460	310	292	石核	47	N51		1062	524.3		4		
			剥片		N51	I	25	37.3		4		
			剥片		N51	I	29	10.6		4		
			剥片		N51	I	30	3.5		4		
			剥片		N51	I	50	7.6		4		
			剥片	47	N52		848	43.7		4		
			剥片	47	O51		17	1.7		4		
			剥片	47	O51		50	4.1		4		
				47	O52		748	1.4		4		
			剥片	47	O51		51	20.8		4		
					O51	I	45	8.2		4		
			剥片	47	O51		127	2.9		4		
			剥片	47	O51		129	6.7		4		
				47	O52		43	25.7		4		
				47	O52		754	7.3		4		
				47	O52		787	3.8		4		
			剥片	47	O51		162	1.1		4		
			剥片	47	O51		165	96.5		4		
			剥片	47	O51		371	10.8		4		
			剥片	47	O51		400	8.9		4		
			剥片		O51	I	19	7.4		4		
					O52	I	74	1.0		4		
			剥片		O51	I	28	4.7		4		
			剥片		O51	I	40	6.6		4		
				47	O52		682	1.5		4		
			剥片		O51	I	44	13.0		4		
			剥片		O51	I	51	2.9		4		
			剥片		O51	I	110	2.0		4		
			剥片	47	O52		15	6.0		4		
			剥片	47	O52		36	27.4		4		
			剥片	47	O52		58	6.1		4		
			剥片	47	O52		80	2.6		4		
					O52	I	72	2.5		4		
			剥片	47	O52		201	1.7		4		
			剥片	47	O52		203	2.1		4		

上白滝8遺跡

種図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
			剥片	47	O52		324	2.1		4		
			剥片	47	O52		403	1.7		4		
			剥片	47	O52		430	5.6		4		
			剥片	47	O52		436	15.4		4		
			剥片	47	O52		451	0.7		4		
			剥片	47	O52		459	3.3		4		
			剥片	47	O52		464	7.3		4		
			剥片	47	O52		467	1.5		4		
			剥片	47	O52		484	1.8		4		
			剥片	47	O52		486	18.9		4		
			剥片	47	O52		712	11.3		4		
					O52	I	73	1.7		4		
					P52	I	29	51.6		4		
			剥片	47	O52		540	7.3		4		
			剥片	47	O52		560	6.6		4		
			剥片	47	O52		565	2.8		4		
			剥片	47	O52		566	11.1		4		
			剥片	47	O52		599	1.5		4		
			剥片	47	O52		611	2.9		4		
			剥片	47	O52		616	2.0		4		
			剥片	47	O52		644	2.8		4		
			剥片	47	O52		652	0.7		4		
			剥片	47	O52		672	4.3		4		
			剥片	47	O52		673	2.4		4		
			剥片	47	O52		711	6.8		4		
			剥片	47	O52		763	11.0		4		
			剥片	47	O52		766	12.0		4		
					O52	I	88	54.1		4		
			剥片	47	O52		769	4.8		4		
			剥片	47	O52		772	2.7		4		
			剥片	47	O52		805	4.9		4		
			剥片	47	O52		839	3.1		4		
			剥片	47	O52		931	14.6		4		
			剥片	47	O52		935	5.9		4		
			剥片		O52	I	15	10.0		4		
			剥片		O52	I	61	9.3		4		
			剥片		O52	I	62	3.1		4		
			剥片		O52	I	66	7.3		4		
			剥片		O52	I	68	5.1		4		
			剥片	29	O56		29	3.7		4		
			剥片	47	P51		716	7.9		4		
			剥片		P52	I	30	3.9		4		
IV-519	331	335	接合資料	47				590.6	39	4	364	1749
			剥片	47	N51		587	65.3		4		
					O50	I	15	10.8		4		
					O51		1357	6.0		4		
			剥片		N51	I	181	12.3		4		
			剥片	47	O50		152	2.7		4		
			石刃	47	O50		456	9.2		4		
			剥片	47	O51		32	38.5		4		
					O51		172	6.2		4		
IV-447	303	240	石刃	47	O51		144	28.0		4		
			剥片	47	O51		149	12.9		4		
			縦長剥片	47	O51		219	1.7		4		
					O51		937	1.8		4		
					O51		1336	7.6		4		
					P51		186	3.5		4		
					P51		621	9.9		4		
			剥片	47	O51		329	55.5		4		
			剥片	47	O51		334	4.1		4		

種図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
			石刃	47	O51		335	15.2		4		
					O51		1348	10.4		4		
			剥片	47	O51		336	9.5		4		
IV-451	305	258	石刃核	47	O51		365	53.4		4		
					O51		842	32.8		4		
			剥片	47	O51		459	2.0		4		
					O51		951	16.5		4		
			剥片	47	O51		486	19.1		4		
			石刃	47	O51		489	5.6		4		
					O51		1167	11.3		4		
IV-447	303	236	石刃	47	O51		624	11.7		4		
			剥片	47	O51		719	2.1		4		
			縦長剥片	47	O51		843	12.9		4		
					O51		1092	3.6		4		
					P51	I	44	7.2		4		
			剥片	47	O51		931	9.9		4		
			剥片	47	O51		947	1.8		4		
			剥片	47	O51		954	57.6		4		
IV-447	303	235	石刃	47	O51		1171	6.6		4		
			剥片	47	O51		1180	8.0		4		
			剥片	47	O51		1349	7.8		4		
			剥片		O51	I	39	9.6		4		
IV-520	331	338	接合資料	43・44				540.4	51	1・4	438	1991
			剥片	44	K52		44	7.2		4		
IV-444	301	217	舟底形石器	44	K52		47	25.8		4		
					K52		1566	32.9		4		
			剥片	44	K52		267	33.6		4		
			剥片	44	K52		327	1.9		4		
			剥片	44	K52		351	4.1		4		
					K52		1223	6.8		4		
					K52		1627	4.6		4		
			剥片	44	K52		571	8.8		4		
					K52		1224	12.7		4		
			剥片	44	K52		572	2.3		4		
			剥片	44	K52		679	6.5		4		
			剥片	44	K52		684	25.1		4		
					K52		1220	3.8		4		
					K52		1253	7.5		4		
			剥片	44	K52		888	3.6		4		
			剥片	44	K52		1124	5.5		4		
			剥片	44	K52		1137	9.2		4		
			剥片	44	K52		1142	29.9		4		
			剥片	44	K52		1159	14.5		4		
			剥片	44	K52		1161	21.1		4		
			剥片	44	K52		1169	2.3		4		
			剥片	44	K52		1214	2.3		4		
					K52		1266	1.9		4		
					K52	I	7	9.4		4		
			剥片	44	K52		1222	6.7		4		
			剥片	44	K52		1225	12.7		4		
			剥片	44	K52		1259	21.6		4		
					K52		1339	4.4		4		
					K52		1478	7.2		4		
IV-433	297	168	舟底形石器	44	K52		1261	9.2		4		
			剥片	44	K52		1262	7.7		4		
					K52	I	5	0.9		4		
					K52	I	6	0.6		4		
					K53		393	1.0		1		
			剥片	44	K52		1282	14.2		4		
			剥片	44	K52		1297	51.1		4		

掲載遺物一覧

種図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
			剥片	44	K52		1298	7.7		4		
			剥片	44	K52		1301	8.4		4		
			剥片	44	K52		1333	2.8		4		
			剥片	44	K52		1372	16.0		4		
			剥片	44	K52		1390	12.6		4		
			剥片	44	K52		1500	3.3		4		
			剥片	44	K52		1501	11.5		4		
			剥片	44	K52		1517	7.2		4		
			剥片	44	K52		1528	7.0		4		
			剥片	44	K52		1530	6.5		4		
			剥片	44	K52		1545	4.2		4		
			剥片	44	K52		1549	10.3		4		
			剥片	44	K52		1550	10.5		4		
			剥片	44	K52		1613	11.8		4		
IV-521	332	341	接合資料	47				541.5	31	4	363	1745
			剥片	47	L51		12	16.1		4		
			剥片	47	M51		198	10.4		4		
			剥片	47	L51		18	1.9		4		
			剥片	47	N51		805	4.4		4		
			剥片		L51	I	8	2.6		4		
			剥片	47	M51		17	28.1		4		
			剥片	47	M51		36	11.3		4		
			剥片	47	M51		409	3.1		4		
			石刃	47	M51		485	20.2		4		
			石刃	47	N51		872	20.8		4		
			剥片	47	M51		506	1.1		4		
IV-452	306	263	石刃核	47	M51		538	100.4		4		
			剥片	47	N51		203	3.2		4		
			剥片	47	N51		206	6.6		4		
			剥片	47	N51		305	5.7		4		
			剥片	47	N51		358	2.2		4		
			剥片	47	N51		364	6.0		4		
			剥片		N51	I	33	19.3		4		
			剥片	47	N51		536	6.9		4		
			縦長剥片	47	N51		639	1.7		4		
			縦長剥片	47	N51		762	3.7		4		
			縦長剥片	47	N51		760	2.3		4		
			縦長剥片	47	N51		1125	18.5		4		
			剥片	47	N51		767	0.9		4		
			縦長剥片	47	N51		797	5.6		4		
			縦長剥片	47	N51		1030	2.8		4		
			剥片	47	N51		840	5.8		4		
			剥片	47	N51		974	15.1		4		
			剥片	47	N51		996	7.0		4		
			剥片	47	N51		1005	7.4		4		
IV-445	302	221	舟底形石器	47	N52		43	200.4		4		
IV-522	332	343	接合資料	37・38				2,065.8	114	3・4	405	1903
			縦長剥片		K53	I	1	90.4		4		
			剥片		L55	I	2	5.5		3		
			剥片		L55	I	3	5.2		3		
			縦長剥片		L55	II	6	4.7		4		
			縦長剥片	38	M55		113	8.0		4		
			縦長剥片		M55	II	95	0.6		3		
			剥片	37	L56		5	4.0		4		
			剥片	37	L56		6	3.8		4		
			剥片	38	L56		21	22.8		4		
			剥片	38	M55		419	12.6		4		
			剥片	38	M55		498	8.5		4		
			剥片		M56	I	36	3.6		4		
			剥片	38	L56		24	31.3		4		

種図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
				37	L56		114	2.8		3		
				L56	I	46	8.6			4		
				38	M55		137	4.4		4		
				38	M55		172	2.5		4		
				M56	I	37	1.9			4		
			剥片	38	L56		27	3.8		3		
			剥片	38	M56		24	6.0		3		
			剥片	37	L56		45	5.1		4		
			剥片	37	L56		51	1.9		4		
			剥片	38	M55		66	11.7		4		
			剥片	38	M55		348	0.9		3		
			剥片	37	L56		53	1.2		4		
			剥片	37	L56		86	5.2		4		
			剥片	37	L56		115	3.8		3		
			剥片	37	L56		124	1.5		4		
			剥片	37	L56		218	2.6		4		
			剥片	37	L56		140	1.2		4		
IV-445	302	220	舟底形石器	37	L56		142	13.8		4		
			舟底形石器	38	M56		35	105.5		3		
			剥片	38	L56		158	8.0		4		
			剥片	38	L56		163	4.2		4		
			剥片	38	M55		240	6.8		3		
			剥片	37	L56		177	11.1		4		
			剥片	38	L56		198	11.9		4		
			剥片	37	L56		204	14.8		4		
			剥片	37	L56		219	13.1		4		
			剥片	38	L56		229	15.0		4		
			剥片	38	M55		117	12.8		4		
			剥片		L56	I	29	9.2		4		
			剥片		L56	I	31	12.6		4		
			剥片		L56	I	33	5.2		4		
			剥片		L56	I	40	2.2		4		
			剥片		L57	I	4	10.5		3		
			剥片		L56	I	45	19.4		4		
			剥片	37	L57		36	6.5		3		
			剥片		L57	I	5	10.1		3		
			剥片	38	M55		15	3.4		4		
			剥片	38	M55		23	2.7		4		
			剥片	38	M55		26	24.6		4		
			剥片	38	M55		440	54.1		4		
IV-444	302	219	舟底形石器	38	M55		28	23.4		4		
			舟底形石器	38	M55		165	68.7		4		
			剥片	38	M55		32	2.3		3		
			剥片	38	M55		35	50.1		3		
			剥片	38	M55		43	2.0		4		
			剥片	38	M55		45	14.8		4		
			剥片		M55	I	53	2.4		4		
			剥片	38	M55		55	202.0		4		
			剥片	38	M55		132	3.7		4		
			剥片	38	M55		251	31.2		4		
			剥片	38	M55		60	69.8		4		
			剥片	38	M56		25	1.7		4		
			剥片	38	M55		62	24.5		4		
			剥片	38	M55		65	75.0		4		
			剥片	38	M55		111	2.8		4		
			剥片	38	M55		119	7.8		4		
			剥片	38	M55		122	1.9		3		
			剥片	38	M55		126	1.5		3		
			剥片	38	M55		324	3.8		3		
			剥片	38	M55		134	0.7		3		

上白滝8遺跡

種図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
				38	M55		160	2.7		3		
			剥片	38	M55		143	31.7		3		
			縦長剥片	38	M55		144	2.6		3		
					M55	I	55	1.8		4		
			剥片	38	M55		164	76.5		4		
			剥片	38	M55		175	4.1		3		
			剥片	38	M55		179	1.5		3		
			剥片	38	M55		191	23.9		4		
			剥片	38	M55		205	2.0		4		
			剥片	38	M55		218	1.4		3		
			剥片	38	M55		247	1.6		3		
			剥片	38	M55		253	3.1		3		
			剥片	38	M55		260	3.7		4		
			剥片	38	M55		267	4.0		3		
			剥片	38	M55		273	3.3		4		
			剥片	38	M55		316	0.9		3		
			剥片	38	M55		322	4.1		4		
			剥片	38	M55		329	5.8		3		
			剥片	38	M55		338	7.7		3		
			剥片	38	M55		360	4.8		4		
				38	M56		3	15.2		4		
			剥片	38	M55		382	7.0		4		
			剥片	38	M55		443	1.9		4		
					M55	I	47	76.7		4		
			剥片	38	M55		444	96.3		4		
					M55	I	54	2.1		4		
					M55	II	96	1.2		3		
			剥片	38	M55		447	6.2		4		
					M55	I	50	11.7		4		
			剥片	38	M55		486	7.8		4		
					M55	I	52	2.5		4		
			剥片		M55	I	48	42.3		4		
			剥片		M55	I	49	23.3		4		
			剥片		M55	I	51	8.6		4		
			剥片		M55	I	56	1.7		4		
			剥片		M55	I	58	1.2		4		
IV-445	302	222	舟底形石器		M55	I	59	160.4		4		
			剥片	38	M56		8	1.0		4		
IV-444	301	218	舟底形石器	38	M56		26	76.3		4		
			剥片	38	M56		68	19.9		4		
IV-572	370	34	石刃核		七北52 ~59		110	81.6		4		
IV-526	333	348	接合資料	37-38-89				2,335.1	108	3・4	447	2014
			剥片		J57	I	24	12.0		3		
			削器		J59	I	5	25.7		4		
			剥片		K57	I	46	0.8		3		
			剥片		L57	I	20	1.5		3		
			剥片	38	L55		4	23.5		4		
				38	M55		233	3.8		4		
				38	M55		295	9.4		4		
					M56	I	41	5.6		3		
					七北52 ~59		160	110.6		3		
			剥片	38	L55		6	7.9		3		
			剥片	38	L55		7	5.0		3		
				38	M55		384	2.6		3		
			剥片	38	L55		20	17.0		3		
				38	M55		133	1.6		4		
				38	M55		151	1.9		3		
					M55	I	73	37.5		3		
					M55	I	75	62.6		3		
			剥片	37	L56		12	2.0		3		

種図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
			剥片	37	L56		16	6.3		3		
			剥片	37	L56		44	9.5		3		
			剥片	37	L56		46	10.1		3		
			剥片	37	L56		47	9.0		3		
			剥片	37	L56		69	1.4		3		
			剥片	37	L56		71	4.9		3		
				37	L57		22	3.9		3		
			剥片	37	L56		113	6.6		3		
			剥片	37	L56		128	3.4		3		
			剥片	37	L56	I	132	1.8		3		
					七北52 ~59		51	16.1		3		
							161	17.5		3		
			剥片	37	L56		141	5.5		3		
			剥片	37	L56		146	18.2		3		
				38	L56		201	6.8		3		
					L56	I	59	2.0		3		
					L56	I	90	18.2		3		
			剥片	38	L56		197	3.9		3		
				38	M55		190	26.3		3		
				38	M55		281	1.6		3		
			剥片	37	L56		227	35.9		3		
			剥片		L56	I	6	57.9		4		
				38	M55		282	5.9		3		
			剥片		L56	I	52	116.1		3		
				38	M55		346	5.5		3		
				38	M55		349	3.6		3		
					M55	I	68	11.3		3		
					M55	I	80	7.3		3		
					M55	I	83	5.9		3		
			剥片		L56	I	53	33.9		3		
			剥片		L57	I	17	5.0		3		
			剥片		L57	I	18	3.2		3		
			剥片	38	M55		16	2.3		3		
			縦長剥片	38	M55		27	31.6		3		
				38	M55		331	6.3		3		
			剥片	38	M55		39	5.8		3		
			剥片	38	M55		44	2.6		4		
				38	M55		489	11.4		4		
			剥片	38	M55		94	3.2		3		
				38	M55		114	11.2		3		
			剥片	38	M55		118	2.0		4		
			剥片	38	M55		129	2.8		4		
				38	M55		314	1.5		3		
			剥片	38	M55		138	21.3		3		
				38	M55		157	1.9		3		
			剥片	38	M55		152	0.9		4		
			剥片	38	M55		159	13.3		4		
				38	M55		236	1.5		4		
				38	M55		269	7.0		4		
				38	M55		320	9.7		4		
					M55	I	90	1.6		3		
			剥片	38	M55		169	4.5		3		
			剥片	38	M55		174	6.5		3		
				38	M55		182	16.4		3		
				38	M55		330	246.1		3		
			剥片	38	M55		177	2.8		4		
					M55	I	79	14.0		3		
					M56	I	40	208.5		3		
			剥片	38	M55		185	3.5		4		

掲載遺物一覧

種図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
				38	M55		298	3.1		3		
			剥片	38	M55		321	10.4		4		
			剥片	38	M55		342	1.0		3		
			剥片	38	M55		361	2.4		3		
			剥片	38	M55		386	7.9		3		
			剥片	38	M55		391	2.7		3		
			剥片	38	M55		435	5.3		3		
			剥片	38	M55		469	2.9		3		
			剥片	38	M55		490	7.6		4		
			剥片	38	M55		491	2.4		3		
				M55	I	70	248.4			3		
				M55	I	74	28.7			3		
				M55	I	86	0.8			3		
				M55	I	87	1.2			3		
			剥片	38	M55		493	3.9		3		
			剥片		M55	I	23	3.6		4		
			剥片		M55	I	33	2.2		4		
			剥片		M55	I	71	77.7		3		
			舟底形石器		M55	I	72	62.7		3		
					M55	I	76	39.6		3		
			剥片		M55	I	77	20.9		3		
			剥片		M55	I	78	17.0		3		
			剥片		M55	I	81	6.5		3		
			剥片		M55	I	84	2.8		3		
			剥片		M55	I	85	3.2		3		
			剥片		M55	I	89	1.4		3		
			剥片		M55	I	93	34.6		3		
					M56	I	43	2.1		3		
IV-573	370	35	石刃核		七北52 ~59		116	277.3		3		
			剥片		七北52 ~59		162	17.7		3		
IV-528	334	349	接合資料	35・38・ 41・46				650.6	30	4・5	334	1680
IV-446	302	223	舟底形石器	41	H51		248	57.2		4		
IV-388	264	77	石核	35	K55		17	114.4		4		
			剥片	35	K56		24	109.9		4		
			剥片	46	K56		26	95.1		5		
			剥片		K56	I	6	49.7		4		
			剥片	38	L55		21	3.8		4		
					M55	I	43	1.2		4		
			剥片	38	L55		33	17.7		4		
			剥片	38	L55		34	1.5		4		
			剥片	38	L56		136	20.3		4		
			剥片	38	L56		191	5.9		4		
					M55		439	8.9		4		
			剥片		L56	I	20	3.3		4		
			剥片	38	M55		12	6.0		4		
			剥片	38	M55		17	2.1		4		
			剥片	38	M55		21	9.0		4		
			剥片	38	M55		237	6.6		4		
			剥片	38	M55		239	42.4		4		
			剥片	38	M55		249	1.3		4		
			剥片	38	M55		257	2.0		4		
			剥片	38	M55		261	0.7		4		
			剥片	38	M55		302	1.0		4		
			剥片	38	M55		308	6.2		4		
			剥片	38	M55		405	4.0		4		
			剥片	38	M55		453	33.3		4		
			剥片		M55	I	10	18.4		4		
			剥片		M55	I	20	5.4		4		
			剥片		M55	Ⅲ	94	3.9		4		
			剥片	38	M56		5	5.5		4		

種図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
			剥片	38	M56		69	13.9		4		
IV-530	334	350	接合資料	37・38				369.5	27	4	335	1681
			剥片	38	L55		3	7.0		4		
			剥片		L55	I	4	17.9		4		
			剥片	38	L56		30	2.3		4		
					L56	I	22	1.9		4		
					M55		252	28.2		4		
			剥片	37	L56		67	7.9		4		
			剥片	38	L56		80	18.8		4		
			剥片	37	L56		119	26.3		4		
			剥片	38	L56		202	15.8		4		
			剥片	38	L56		208	8.4		4		
			剥片		L56	I	12	24.1		4		
			剥片	38	M55		20	2.1		4		
			剥片	38	M55		31	16.1		4		
			剥片	38	M55		46	6.2		4		
			剥片	38	M55		48	7.4		4		
			剥片	38	M55		63	2.8		4		
			剥片	38	M55		110	28.3		4		
			剥片	38	M55		166	4.0		4		
			剥片	38	M55		168	1.4		4		
			剥片	38	M55		299	25.1		4		
			剥片	38	M55		300	19.7		4		
			剥片	38	M55		340	4.8		4		
			剥片	38	M55		383	39.4		4		
			剥片	38	M55		495	29.4		4		
			剥片		M55	I	18	5.5		4		
			剥片	38	M56		6	2.1		4		
			剥片		七北52 ~59		140	16.6		4		
IV-531	335	351	接合資料	35・37・ 38・46				454.5	25	4	336	1684
			剥片	35	J56		114	42.5		4		
			剥片	37	K56		53	56.4		4		
			剥片	37	K57		79	7.6		4		
					M55	I	11	14.5		4		
					M56		44	47.1		4		
			剥片	38	L55		1	11.3		4		
					L56		34	2.5		4		
					M55		250	8.2		4		
			剥片	46	L55		31	111.3		4		
IV-459	310	288	石核		L55	I	1	72.5		4		
			剥片	38	L56		78	3.0		4		
			剥片	38	L56		160	1.8		4		
			剥片	38	L56		192	17.0		4		
					M55		226	1.8		4		
			剥片	37	L56		222	1.6		4		
			剥片	38	L56		231	3.2		4		
			剥片		L56	I	13	14.5		4		
			剥片	38	M55		37	3.0		4		
			剥片	38	M55		115	8.6		4		
			剥片	38	M55		170	4.2		4		
			剥片	38	M55		199	4.2		4		
			剥片	38	M55		357	2.1		4		
			剥片		M55	I	19	5.5		4		
			剥片		M55	I	22	3.9		4		
			剥片		M56	I	8	6.2		4		
IV-532	335	352	接合資料	39・43				147.0	21	4	338	1687
			剥片		I53	I	71	3.6		4		
			剥片		I53	I	77	4.1		4		
IV-433	297	167	舟底形石器		I53	Ⅱ	122	8.7		4		
					J52	I	35	6.7		4		

上白滝8遺跡

種図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO							
IV-443	301	214	舟底形石器	43	J52		113	23.5		4									
				43	J52		249	13.6		4									
						剥片	43	J52		146	3.4		4						
						剥片		J52	I	15	10.9		4						
								J53	I	44	2.7		4						
						剥片		J52	I	16	10.4		4						
								J52	I	22	0.8		4						
						剥片		J52	I	17	5.0		4						
						剥片		J52	I	20	1.2		4						
						剥片		J52	I	23	0.5		4						
IV-444	301	215	舟底形石器	43	J53		205	1.6		4									
				39	J53	I	25	0.1		4									
							J52	I	34	39.4		4							
						剥片	43	J53		64	4.7		4						
						剥片	43	J53		305	1.8		4						
						剥片	43	J53		371	1.3		4						
						剥片	43	J53		479	3.0		4						
			IV-533	336	353	接合資料	44・47				196.6	28	1	293	1579				
						剥片	44	K53		532	2.7		1						
							44	K53		631	5.1		1						
	44	K53					662	3.4		1									
	44	K53					840	6.5		1									
						剥片	44	K53		534	2.1		1						
						剥片	44	K53		541	2.3		1						
						剥片	44	K53		685	2.7		1						
						剥片	44	K53		551	23.7		1						
						剥片	44	K53		562	1.7		1						
						剥片	44	K53		634	10.6		1						
						剥片	44	K53		637	14.4		1						
						剥片	44	K53		646	7.0		1						
						剥片	44	K53		671	3.4		1						
						剥片	44	K53		738	0.9		1						
						剥片	44	K53		748	3.1		1						
						剥片	44	K53		752	3.1		1						
						剥片	44	K53		841	8.9		1						
						剥片	44	K53		870	10.7		1						
								K53	II	73	3.0		1						
						剥片	44	K53		847	1.5		1						
						剥片	44	K53		869	20.5		1						
						剥片	44	K53		873	1.4		1						
						剥片		K53	II	72	1.2		1						
						剥片		K53	II	74	1.6		1						
						剥片	44	L53		449	7.5		1						
						剥片	44	L53		464	7.6		1						
IV-447	302	230				舟底形石器	47	N52		8	28.3		1						
			47	N52			631	11.7		1									
IV-533	336	355	接合資料	17・29・47				412.5	55	3・4	142	1143							
			剥片	17	H64	I	79	15.1		4									
				17	J63		687	41.6		4									
						剥片	17	I64	I	471	7.2		4						
							17	I65		156	10.8		4						
							17	J65		249	7.3		4						
							17	O52	I	145	1.5		4						
						剥片	17	I64		476	4.0		4						
							17	J64		222	5.1		4						
							17	J65		1131	5.4		4						
							47	O52		40	14.1		4						
						剥片	17	I64		775	6.2		4						
							17	I64		776	17.6		4						
							47	O52		437	3.9		4						
			IV-534	337	356	接合資料	16・17・46・47								614.5	74	3・4	142	1142
						剥片	16	H65		282	1.3		4						
							47	H65	III	190	1.0		4						
									剥片	47	O52		438	1.9		4			
						剥片	17	I64		450	78.2		4						
							17	I64		1116	47.2		4						
							47	O52		207	1.9		4						
							47	O52		503	5.0		4						
							47	O52		697	1.9		4						
							47	O52		713	2.0		4						
						剥片	17	I64		1205	17.5		4						
							47	O51	I	221	4.3		4						
							47	O52		678	0.9		4						
								O53	II	11	1.1		4						
						剥片	17	I65		43	5.0		4						
						剥片	17	I65		173	8.5		4						
							17	I65	I	152	6.7		4						
							17	I65	I	153	9.8		4						

掲載遺物一覧

挿図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
				17	J64		437	6.9		4		
				17	J64		742	17.2		4		
					J65	Ⅲ	27	0.9		4		
				47	O52		601	0.5		4		
				47	O52		926	11.4		4		
			剥片	17	I65	I	154	11.3		4		
					J64		745	1.8		4		
					七北52 ~59		165	6.7		4		
			剥片	17	J63		747	33.0		4		
			剥片	17	J64		47	4.9		4		
				17	J64		993	14.9		4		
			剥片	47	N52		216	3.2		4		
			剥片	47	N52		274	17.3		4		
				47	N52		1095	5.3		4		
			剥片	46	N53		98	1.5		4		
				46	N53		157	2.2		4		
				47	N53		217	1.4		4		
			剥片	47	O51		415	1.9		4		
					七南52 ~59		82	2.5		4		
			剥片	47	O51		578	3.0		3		
					O51	I	53	5.4		3		
				47	O52		751	0.9		3		
			剥片		O51	I	224	4.7		4		
				47	O52		696	5.4		4		
					O52	I	100	9.1		4		
			剥片	47	O52		38	1.2		4		
				47	O52		87	11.5		4		
				47	O52		228	1.8		4		
				47	O52		229	1.6		4		
				47	O52		536	1.2		4		
			剥片	47	O52		67	21.6		4		
			剥片	47	O52		219	19.7		4		
				47	O52		223	5.4		4		
				47	O52		497	8.6		4		
			剥片	47	O52		225	29.5		4		
			剥片	47	O52		243	1.0		4		
			剥片	47	O52		500	20.5		4		
			剥片	47	O52		516	0.9		4		
				47	O52		699	1.7		4		
			剥片	47	O52		541	3.2		4		
				47	O52		734	2.2		4		
				47	O52		832	3.8		4		
				47	O52		838	5.7		4		
					O52	Ⅱ	137	0.8		4		
			剥片	47	O52		562	15.5		4		
			剥片	47	O52		563	6.2		4		
					O52	I	101	6.6		4		
					O52	I	103	1.0		4		
			剥片	47	O52		690	3.4		4		
			剥片	47	O52		828	3.2		4		
			剥片	47	O52		829	9.6		4		
			剥片		O52	I	99	5.6		4		
			剥片		O52	I	138	4.8		4		
			剥片		O52	I	142	1.9		4		
			剥片		七南52 ~59		83	15.3		4		
			剥片		七北60 ~65		86	30.4		4		
			剥片		不明		不明	1.6		4		
IV-535	338	358	接合資料	36				1,179.2	122	1-3-4	267	1488
			剥片	36	J59		24	8.8		4		
				36	K59		564	17.4		4		

挿図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
			剥片	36	J59		76	9.7		3		
				36	K59		230	19.8		4		
				36	K59		376	1.4		4		
			剥片		J59	I	8	32.2		4		
					J59	I	10	18.9		4		
				36	K58		143	8.1		4		
				36	K59		24	1.0		4		
					K60	I	5	0.8		4		
					七北60 ~65		78	6.1		4		
			剥片		J59	I	11	4.4		4		
				36	J60		103	4.5		3		
				36	K58		100	1.6		3		
			剥片		J59	I	34	55.9		4		
			剥片		J59	I	36	7.1		4		
			剥片		J59	I	39	2.7		3		
				36	K59		315	6.4		4		
			剥片		J59	Ⅱ	40	1.2		4		
			剥片		J59	Ⅲ	70	1.5		4		
				36	K59		174	11.6		4		
				36	K59		176	7.6		4		
				36	K60		10	5.1		4		
					七南52 ~59		84	8.1		3		
			剥片		J60	I	20	0.7		4		
					J60	Ⅱ	23	3.7		4		
				36	K60		75	26.5		4		
			剥片		J60	I	21	0.5		4		
				36	K60		47	4.4		4		
					K60	Ⅲ	16	1.7		4		
					七北52 ~59		138	16.2		4		
					不明		不明	1.1		4		
			剥片		J60	Ⅲ	24	1.0		4		
			剥片	36	K58		1	12.7		4		
				36	K58		209	4.4		4		
				36	K59		193	15.1		4		
			剥片	36	K58		5	18.6		4		
				36	K59		582	2.9		1		
			剥片	36	K58		11	2.3		4		
				36	K58		27	31.1		4		
					K60	Ⅲ	43	1.6		4		
					七北52 ~59		131	8.4		4		
			剥片	36	K58		13	6.6		1		
				36	K59		194	10.1		1		
			剥片	36	K58		14	99.2		4		
			剥片	36	K58		18	6.3		4		
					K60	Ⅱ	49	0.5		4		
			剥片	36	K58		65	13.3		4		
			剥片	36	K58		97	1.5		4		
				36	K59		71	6.0		4		
			剥片	36	K58		147	4.4		4		
			剥片	36	K59		6	7.4		4		
			剥片	36	K59		20	3.9		4		
			剥片	36	K59		21	0.9		4		
			剥片	36	K59		47	34.9		4		
				36	K59		196	1.1		3		
			剥片	36	K59		112	9.5		4		
			剥片	36	K59		117	9.4		4		
					K59	I	14	11.4		4		
					K60	Ⅱ	35	3.5		4		
			剥片	36	K59		123	1.6		4		
			剥片	36	K59		124	2.1		4		

上白滝8遺跡

種図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
			剥片	36	K59		157	2.8		3		
				36	K60		49	3.3		4		
					K60	Ⅲ	42	2.0		4		
			剥片	36	K59		179	11.1		4		
					K59	Ⅲ	55	1.3		4		
					K60	Ⅱ	52	0.4		4		
			剥片	36	K59		192	60.7		3		
				36	K59		684	3.4		3		
			剥片	36	K59		217	25.5		4		
			剥片	36	K59		223	4.0		4		
				36	K59		385	3.4		3		
			剥片	36	K59		228	41.7		4		
			剥片	36	K59		236	1.6		1		
			剥片	36	K59		246	1.9		4		
			剥片	36	K59		259	3.7		1		
				36	K59		378	2.2		4		
			剥片	36	K59		285	5.1		4		
			剥片	36	K59		287	1.4		4		
				36	K59		288	0.6		4		
			剥片	36	K59		298	52.6		4		
				36	K59		383	35.8		4		
			剥片	36	K59		306	5.2		1		
				36	K59		476	16.7		3		
			剥片	36	K59		366	5.7		4		
			剥片	36	K59		368	3.6		1		
				36	K60		69	16.2		3		
			剥片	36	K59		375	3.0		4		
			剥片	36	K59		389	4.9		4		
					K60	I	2	2.5		4		
			剥片	36	K59		455	71.7		4		
					K59	Ⅲ	44	1.3		4		
			剥片	36	K59		547	1.1		4		
			剥片	36	K59		558	5.4		4		
			剥片	36	K59		604	4.9		4		
				36	K60		52	1.8		4		
			剥片	36	K59		653	3.5		4		
			剥片	36	K59		675	2.4		4		
			剥片	36	K59		676	7.7		4		
			剥片	36	K59		691	3.7		1		
			剥片		K59	I	16	3.6		4		
					K60	Ⅱ	53	0.4		4		
			剥片		K59	I	17	9.0		4		
				36	K60		46	2.0		3		
			剥片		K59	I	18	28.4		4		
			剥片		K59	I	19	4.5		4		
			剥片	36	K60		9	15.3		4		
					K60	Ⅱ	36	2.0		4		
			剥片	36	K60		11	8.3		4		
			剥片	36	K60		22	1.9		4		
			剥片		K60	Ⅱ	19	1.3		4		
			剥片		K60	Ⅱ	48	0.8		4		
			剥片		K60	Ⅲ	44	1.0		4		
			剥片		L56	I	5	24.1		4		
					不明		不明	4.5		4		
			剥片		L56	Ⅱ	68	1.6		4		
			剥片		R71	上	1	3.3		4		
			剥片		七北52 ~59		132	3.8		4		
			剥片		七北52 ~59		134	3.9		4		
			剥片		七北52 ~59		158	1.0		4		
			剥片		不明		不明	4.3		4		

種図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
IV-535	337	357	接合資料	42・44				330.3	61	1	292	1577
			剥片	44	K53		438	4.4		1		
			剥片	44	K53		524	1.2		1		
			剥片	44	K53		549	2.0		1		
			剥片	44	K53		559	6.2		1		
			剥片	44	K53		576	5.5		1		
			剥片	44	K53		584	2.9		1		
				44	K53		699	2.0		1		
				44	K53		757	2.2		1		
				44	K53		823	1.0		1		
			剥片	44	K53		587	4.1		1		
			剥片	44	K53		595	2.2		1		
			剥片	44	K53		597	1.1		1		
				44	K53		619	0.8		1		
			剥片	44	K53		599	3.0		1		
			剥片	44	K53		603	6.4		1		
				44	K53		714	2.1		1		
				44	K53		795	3.1		1		
			剥片	44	K53		604	4.3		1		
			剥片	44	K53		612	3.3		1		
			剥片	44	K53		618	3.1		1		
			剥片	44	K53		622	1.7		1		
			剥片	44	K53		623	5.4		1		
				44	K53		626	1.5		1		
			剥片	44	K53		624	1.6		1		
			剥片	44	K53		628	8.0		1		
			剥片	44	K53		640	3.1		1		
				44	K53		702	3.6		1		
				44	K53		899	2.8		1		
				44	K53		900	0.6		1		
				44	K53		902	2.9		1		
			剥片	44	K53		652	7.5		1		
			剥片	44	K53		653	9.7		1		
			剥片	44	K53		690	10.1		1		
				44	K53		793	5.3		1		
			剥片	44	K53		692	3.0		1		
			剥片	44	K53		698	7.5		1		
			剥片	44	K53		707	5.4		1		
			剥片	44	K53		709	10.1		1		
				42	K54		523	1.6		1		
			剥片	44	K53		710	9.3		1		
			剥片	44	K53		711	6.7		1		
			剥片	44	K53		716	3.1		1		
			剥片	44	K53		718	2.6		1		
				44	K53		896	1.4		1		
			剥片	44	K53		730	29.3		1		
			剥片	44	K53		758	6.9		1		
			剥片	44	K53		759	47.1		1		
			剥片	44	K53		762	4.6		1		
			剥片	44	K53		792	2.5		1		
			剥片	44	K53		801	2.2		1		
			剥片	44	K53		805	10.6		1		
			剥片	44	K53		807	1.6		1		
			剥片	44	K53		813	2.4		1		
			剥片	44	K53		817	10.9		1		
			剥片	44	K53		821	6.7		1		
			剥片	44	K53		822	2.5		1		
			剥片	44	K53		881	3.3		1		
			剥片	44	K53		887	1.0		1		
				44	K53		890	7.1		1		

掲載遺物一覧

挿図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
			剥片	44	K53		905	10.2		1		
			剥片	44	K53		914	6.0		1		
IV-536	340	361	接合資料	27・34・36・47				5,107.2	143	5	389	1847
			石刃	34	H57		1796	3.3		5		
			剥片		J51	I	4	184.9		5		
				47	N52		605	33.8		5		
			剥片		J51	I	7	33.0		5		
			剥片		J51	I	19	4.8		5		
				47	N52		25	157.9		5		
				47	O52		139	42.2		5		
			縦長剥片	47	L52		72	11.4		5		
					M52	I	47	25.0		5		
			剥片	47	L52		212	37.9		5		
			剥片	47	L52		257	86.9		5		
			石刃	47	L52		533	19.8		5		
					L52	I	6	15.9		5		
			縦長剥片		L52	I	7	103.2		5		
			縦長剥片	36	L58		3	9.7		5		
					七北52 ~59		259	19.0		5		
			石刃	47	M51		146	8.5		5		
				47	M51		407	2.3		5		
IV-448	303	241	石刃	47	M52		333	15.0		5		
					N51	I	151	28.2		5		
			剥片	47	M52		520	65.0		5		
				47	N51		325	69.5		5		
			剥片		M53	I	26	40.4		5		
			石刃	47	N51		323	31.1		5		
					N51	I	133	37.9		5		
			剥片	47	N51		824	3.3		5		
				47	N51		1086	4.3		5		
			石刃	47	N51		1144	7.8		5		
			剥片		N51	I	123	90.4		5		
				47	N52		909	26.6		5		
				47	O52		279	82.8		5		
			縦長剥片		N51	I	124	23.5		5		
			剥片		N51	I	128	18.1		5		
			石刃		N51	I	129	9.4		5		
					N51	I	168	4.1		5		
IV-449	304	249	石刃		N51	I	136	52.6		5		
				47	N52		414	145.4		5		
			剥片		N51	I	149	69.0		5		
					O51	I	234	12.4		5		
				47	O52		1216	2.7		5		
					O52	I	121	146.8		5		
					ボサ		9	74.4		5		
			剥片		N51	I	156	6.1		5		
				47	N52		1426	15.2		5		
				47	O52		292	13.4		5		
IV-448	303	244	石刃		N51	I	160	8.1		5		
				47	N52		92	84.7		5		
				47	O52		879	15.6		5		
			縦長剥片		N51	I	163	27.3		5		
			剥片		N51	I	202	29.2		5		
					N51	I	215	7.5		5		
				47	N52		677	4.5		5		
			剥片		N51	I	205	7.1		5		
				47	N52		203	47.6		5		
				47	N52		783	9.1		5		
			剥片		N51	I	214	49.0		5		
			剥片		N51	I	218	16.6		5		

挿図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
			石刃	47	N52		33	17.9		5		
				47	N52		432	44.4		5		
					N52	I	23	42.3		5		
			剥片	47	N52		114	67.2		5		
			縦長剥片	47	N52		128	3.4		5		
					O51	I	196	13.8		5		
			剥片	47	N52		148	1.6		5		
			剥片	47	N52		149	3.3		5		
			縦長剥片	47	N52		218	3.0		5		
				47	N52		495	7.3		5		
			剥片	47	N52		292	8.0		5		
					N52		551	54.8		5		
				47	N52		1442	11.3		5		
			剥片	47	N52		298	10.1		5		
				47	N52		972	3.8		5		
				47	O52		948	7.9		5		
			剥片	47	N52		302	3.4		5		
				47	N52		546	55.2		5		
				47	N52		1370	18.0		5		
			剥片	47	N52		376	75.2		5		
			剥片	47	N52		511	67.5		5		
			縦長剥片	47	N52		520	10.9		5		
				47	N52		1054	1.6		5		
					O51	I	207	3.9		5		
			剥片	47	N52		736	11.9		5		
			剥片	47	N52		787	35.6		5		
			剥片	47	N52		905	6.9		5		
			剥片	47	N52		1018	7.2		5		
				47	N52		1164	2.2		5		
			剥片	47	N52		1022	6.7		5		
			剥片	47	N52		1279	11.1		5		
			縦長剥片	47	N52		1351	169.5		5		
					O52	I	127	115.9		5		
			剥片	47	N52		1385	4.0		5		
			剥片	47	N52		1425	162.7		5		
			剥片	47	N52		1427	14.2		5		
			剥片	47	N52		1483	20.8		5		
			剥片		N52	I	26	18.4		5		
					七南52 ~59		109	149.7		5		
			剥片		N52	I	27	8.8		5		
				47	O52		1237	7.0		5		
			剥片		N52	I	33	5.9		5		
			剥片	27	N57		58	11.2		5		
			剥片	47	O52		298	48.6		5		
			剥片	27	N58		140	19.4		5		
			剥片	27	N59		288	16.8		5		
			剥片	27	N60		40	43.2		5		
					O60	I	29	22.7		5		
			剥片	27	N60		65	1.9		5		
				27	O58		307	6.9		5		
				27	O59		357	1.5		5		
			剥片		O50	I	24	37.6		5		
			石刃		O51	I	6	43.4		5		
			剥片		O51	I	197	50.4		5		
			剥片	47	O52		119	22.0		5		
			剥片	47	O52		278	128.9		5		
			剥片	47	O52		340	143.7		5		
			剥片	47	O52		864	83.4		5		
			剥片	47	O52		883	7.7		5		

上白滝8遺跡

種図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
			剥片	47	O52		1035	37.0		5		
			剥片	47	O52		1078	3.8		5		
			剥片	47	O52		1179	6.5		5		
			剥片	47	O52		1205	16.7		5		
			剥片	47	O52		1271	76.7		5		
			剥片		O52	I	122	44.8		5		
			縦長剥片		O52	I	123	7.4		5		
			石刃	27	O57		136	19.1		5		
			縦長剥片	27	O58		267	26.7		5		
			石刃	27	O58		279	15.2		5		
			石刃	27	O58		329	12.6		5		
			石刃	27	O59		437	12.9		5		
			剥片		O58	I	34	8.1		5		
			剥片		O59	I	41	4.9		5		
			縦長剥片	27	O59		3	10.4		5		
			縦長剥片	27	O59		404	14.5		5		
			縦長剥片	27	O59		42	10.5		5		
			剥片	27	O59		400	5.5		5		
IV-325	216	142	石核	27	O59		439	270.0		5		
			剥片		O59	I	38	48.8		5		
			剥片		O59	I	39	10.4		5		
			剥片		O59	I	40	7.0		5		
			剥片		O59	I	42	4.9		5		
			剥片		O59	I	43	4.5		5		
			縦長剥片	27	O60		41	108.4		5		
			剥片		七南52 ~59		122	59.4		5		
IV-539	339	359	接合資料	36・47				375.2	38	1・4	268	1491
			剥片		J57	I	13	31.7		4		
			剥片		J57	I	14	7.8		4		
			剥片		J59	Ⅲ	71	1.2		4		
			剥片	36	J58		23	5.8		4		
			剥片	36	J58		66	2.2		4		
			剥片	36	J58		98	5.0		4		
			剥片	36	J58		193	1.9		4		
			剥片	36	J60		35	1.3		4		
			剥片	36	J58		295	2.1		4		
			舟底形石器	36	J59		136	11.8		4		
			剥片	36	J59		145	5.3		4		
			剥片	36	J59		533	20.0		4		
			剥片	36	J59		683	3.0		4		
			剥片		J59	I	4	8.6		4		
			剥片		J59	Ⅱ	65	3.6		4		
			剥片		J60	I	22	10.8		4		
			剥片	36	K59		35	8.9		4		
			剥片	36	K59		644	4.7		4		
			剥片	47	L51	I	6	6.5		4		
			剥片	47	N51		304	6.5		4		
			剥片	47	L52		95	20.7		4		
			剥片	47	N51		148	2.9		4		
			剥片	47	N51		546	22.0		4		
			剥片	47	M51		104	6.0		4		
			剥片	47	M51		305	10.5		4		
			剥片	47	N51		445	26.1		4		
			剥片	47	N51		1128	8.4		4		
			剥片	47	M51		177	9.1		4		
			剥片	47	M51		494	17.6		4		
			剥片	47	M51		549	4.7		4		
			剥片	47	N51		27	0.6		1		
			剥片	47	N51		889	6.9		4		
			剥片	47	N51		495	6.8		4		

種図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
			剥片	47	N51		623	5.8		4		
			剥片	47	N51		740	12.6		4		
			剥片	47	N51		755	21.8		4		
			剥片	47	N51		1009	13.5		4		
			剥片	47	N51		979	30.5		4		
IV-540	339	360	接合資料	42・43・44				326.1	23	4	342	1697
			石刃	43	J53		76	16.0		4		
			剥片		J53	I	20	21.6		4		
IV-430	294	139	削器	42	J54	I	3	13.2		4		
			剥片	44	K52		228	45.6		4		
			剥片	44	K52		247	4.2		4		
			縦長剥片	42	K53		8	20.9		4		
			剥片	42	K53		83	9.3		4		
			剥片	44	K53		15	26.0		4		
			剥片	42	K53		162	5.5		4		
			剥片	44	L53		331	18.3		4		
			剥片	44	K53		239	10.7		4		
			剥片	42	K53		383	17.3		4		
			剥片	42	K53		397	7.3		4		
			剥片	42	K53		480	4.1		4		
			剥片	42	K53		483	4.4		4		
			剥片		K53	I	2	2.7		4		
			石刃		K53	I	22	3.0		4		
			石刃		L52	I	2	22.3		4		
			石刃		L53	I	21	31.3		4		
			剥片	44	L53		284	2.2		4		
			剥片	44	L53		318	4.3		4		
			二次加工ある剥片	42	L53		386	6.3		4		
			剥片		L53	I	22	29.6		4		
IV-541	343	363	接合資料	47				464.1	26	4	354	1727
			剥片		N51	I	48	30.0		4		
			剥片		N51	I	180	27.6		4		
			剥片		N51	I	183	9.8		4		
			剥片	47	O50		459	48.0		4		
			剥片	47	O51		4	3.3		4		
			剥片	47	O51		19	5.6		4		
			剥片	47	O51		80	13.9		4		
			剥片	47	O51		195	34.0		4		
			剥片	47	O51		477	3.3		4		
			剥片	47	O51		479	9.4		4		
			剥片	47	O51		502	11.3		4		
			剥片	47	O51		517	6.1		4		
			剥片	47	P51		731	13.6		4		
			剥片	47	O51		580	4.0		4		
			剥片	47	O51		682	9.0		4		
			剥片	47	O51		1095	2.6		4		
			剥片	47	O51		729	120.3		4		
			剥片	47	O51		1166	32.3		4		
			剥片	47	O51		1352	8.1		4		
			剥片		O51	I	16	18.1		4		
			剥片		O51	I	212	1.3		4		
			剥片	47	P51		184	32.5		4		
			剥片	47	P51		193	3.5		4		
			剥片	47	P51		194	2.4		4		
			剥片	47	P51		614	2.5		4		
			剥片	47	P51		618	11.6		4		
IV-541	343	364	接合資料	46・47				704.5	47	4	358	1737
			剥片	47	L52		105	1.1		4		
			剥片	47	L52		198	10.5		4		
			剥片	47	L52		263	13.3		4		

掲載遺物一覧

挿図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
			剥片	47	L52		271	3.8		4		
			剥片	47	L52		312	5.1		4		
			剥片	47	L52		409	2.8		4		
IV-435	297	180	舟底形石器		L52	I	4	53.6		4		
			剥片	47	M52		25	3.6		4		
			剥片	47	M52		43	1.4		4		
			剥片	47	M52		83	14.1		4		
			剥片	47	M52		189	11.1		4		
			剥片	47	M52		199	10.2		4		
			剥片	47	M52		218	7.5		4		
			剥片	47	M52		244	5.3		4		
			剥片	47	M52		245	4.2		4		
			剥片	47	M52		246	1.4		4		
			剥片	47	M52		384	1.3		4		
			剥片	47	M52		425	0.9		4		
			剥片	47	M52		539	6.1		4		
			剥片	47	M52		542	3.1		4		
			剥片	47	M52		547	1.8		4		
			剥片	47	M52		567	174.0		4		
			剥片	47	M52		696	6.5		4		
			剥片	47	M52		717	2.3		4		
			剥片	47	M52		768	5.7		4		
			剥片	47	M52		783	3.0		4		
			剥片	47	M52		912	19.6		4		
			剥片	47	M52		1021	3.3		4		
			剥片	47	M52		1195	4.3		4		
			剥片	47	M52		1098	5.2		4		
			剥片	47	M52		1104	11.1		4		
			剥片	47	M52		1127	9.6		4		
			剥片	47	M52		1136	10.1		4		
			剥片	47	M52		1141	4.4		4		
			剥片	47	M52		1151	4.5		4		
			剥片	47	M52		1152	3.5		4		
			剥片	47	M52		1164	1.7		4		
			剥片	47	M52		1167	4.3		4		
			剥片	47	M52		1181	4.8		4		
			剥片	47	M52		1187	1.2		4		
			剥片	47	M53		32	68.3		4		
IV-459	309	286	石核	47	N52		67	106.0		4		
IV-433	296	160	二次加工ある剥片	47	N52		895	56.3		4		
			剥片	46	O55		27	7.7		4		
			剥片	46	O55		48	5.0		4		
			剥片	46	O55		70	2.5		4		
			剥片		O55	I	3	17.4		4		
IV-542	343	365	接合資料	35・39				147.2	14	4	359	1738
			剥片	39	H53		315	12.1		4		
			剥片	39	H53		321	4.2		4		
			剥片	39	I53		949	9.1		4		
			剥片	39	H53		358	1.6		4		
			剥片		H53	I	122	1.1		4		
			剥片	39	H53		460	9.8		4		
			剥片	39	H53		516	74.2		4		
			剥片		H53	I	120	1.4		4		
			剥片		H53	I	121	1.9		4		
			剥片	35	H55		1313	19.3		4		
			剥片	39	I53		147	4.4		4		
			剥片	39	I53		406	2.9		4		
			剥片	39	I53		733	1.3		4		
			剥片	39	I53		851	3.9		4		
-	344	366	接合資料	35・39				2,470.2	207	3・4	437	1974

挿図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
			剥片		N51	I	34	1.9		4		
			剥片		N51	I	40	4.6		4		
			剥片		N51	I	46	2.7		4		
			剥片	47	O52		261	4.7		4		
			剥片	47	O52		577	2.8		4		
			剥片	51	R51		109	4.4		4		
			剥片		R51	I	18	5.6		4		
			剥片		R55	I	1	13.2		4		
			削器		N51	I	57	7.0		4		
			削器	47	O51		367	35.4		4		
			削器	46	O55		53	118.0		4		
			剥片		N51	I	104	19.9		3		
			剥片		O51	I	99	19.1		3		
			剥片	47	O52		315	5.7		4		
			剥片	47	P51		388	11.1		4		
			剥片		Q48	I	10	35.7		3		
			剥片	51	R51		49	8.8		4		
			剥片	51	R51		52	9.2		4		
			剥片		N51	I	105	0.8		4		
			剥片		O51	I	88	36.9		3		
			剥片		N52	I	7	5.1		4		
			剥片		N52	I	8	2.0		4		
			剥片		O52	I	22	1.5		4		
			剥片		O52	I	76	2.0		4		
			剥片	47	P52		65	39.4		4		
			剥片	47	P52		153	55.3		4		
			剥片		N52	I	9	58.6		4		
			剥片		O50	I	18	23.9		3		
			剥片	47	O51		683	2.8		4		
			剥片	47	O51		1100	23.0		4		
			剥片		O51	I	95	2.3		3		
			剥片	47	O51		44	63.2		4		
			剥片	47	O51		181	34.2		4		
			剥片	47	O51		193	2.1		4		
			剥片	47	O51		751	2.9		4		
			剥片		O51	I	71	2.0		4		
			剥片	47	O52		638	4.6		4		
			剥片		P49	I	6	26.3		4		
			剥片		P50	I	2	3.0		4		
			剥片	47	P51		49	4.4		4		
			剥片		P51	I	38	2.0		4		
			剥片		P51	II	59	1.3		4		
			剥片		P51	II	69	1.4		4		
			剥片		P51	II	70	1.2		4		
			剥片		P52	I	53	2.2		4		
			剥片	51	Q50		153	1.0		4		
			剥片	51	Q50		222	1.6		4		
			剥片	51	Q51		205	4.4		4		
			剥片		Q51	I	3	43.0		4		
			剥片		七北30 ~51		34	9.1		4		
			剥片	47	O51		359	7.5		4		
			剥片		P51	I	16	39.0		4		
			剥片	47	O51		375	15.3		4		
			剥片	47	O51		604	2.9		4		
			剥片		O51	I	52	18.6		4		
			剥片	47	P52		26	5.7		4		
			剥片		O51	I	55	25.1		4		
			剥片		O51	I	56	17.1		4		
			剥片	47	P51	I	58	7.6		4		
			剥片		P51	I	2	6.9		4		

上白滝8遺跡

挿図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
				47	P52		35	10.9		4		
				47	P52		43	1.6		4		
				47	P52		57	38.7		4		
				47	P52		64	16.0		4		
				47	P52		191	3.9		4		
			剥片		O51	I	59	7.3		4		
			剥片		O51	I	66	2.9		3		
				47	O52		98	5.7		4		
			剥片		O51	I	67	2.8		4		
			剥片		O51	I	70	2.1		4		
			剥片		O51	I	86	5.0		4		
			剥片		O51	I	104	5.7		4		
			剥片		O51	I	108	2.9		4		
				47	O52		81	21.6		4		
					O52	I	33	6.3		4		
					O52	II	109	2.8		4		
			剥片	47	O52		82	3.5		4		
			剥片	47	O52		84	7.7		4		
			剥片	47	O52		88	3.3		4		
				47	O52		571	6.4		4		
			剥片	47	O52		91	3.5		4		
				47	P52		125	2.3		4		
			剥片	47	O52		233	2.9		4		
			剥片	47	O52		235	31.3		4		
					P51	II	71	0.6		4		
			剥片	47	O52		236	1.8		4		
			剥片	47	O52		237	2.9		4		
				47	P52		78	1.7		4		
			剥片	47	O52		266	9.4		4		
			剥片	47	O52		393	5.1		4		
			剥片	47	O52		461	3.3		4		
			剥片	47	O52		543	15.1		4		
			剥片	47	O52		546	4.3		4		
			剥片	47	O52		688	3.8		4		
			剥片	47	O52		689	3.4		4		
				47	P52		81	4.8		4		
			剥片	47	O52		794	86.2		4		
			剥片		O52	I	5	9.8		4		
				52	R49		1	23.5		4		
			剥片		O52	I	17	16.7		4		
				47	P52		74	5.1		4		
				47	P52		159	6.5		4		
			剥片		O52	I	19	2.7		4		
					P49	I	5	39.0		4		
				53	Q48		2	6.8		4		
				54	Q48		121	10.1		4		
			剥片		O52	I	30	11.2		4		
				47	P52		251	2.5		4		
			剥片		O52	I	32	6.4		4		
					P52	I	12	4.2		4		
					P52	II	52	2.5		4		
			剥片		O52	I	34	5.5		4		
					O52	II	111	1.4		4		
			剥片		O52	I	40	1.7		4		
			剥片		O52	I	59	1.2		4		
			剥片		O52	II	108	4.6		4		
			剥片	27	O57		139	20.5		4		
			剥片		P47	I	15	4.8		4		
				53	P47	I	16	11.4		4		
					P48		19	14.1		4		

挿図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
					P48	I	21	9.2		4		
					P49	I	9	14.6		4		
				54	Q47		106	4.9		4		
				54	Q47		148	2.6		4		
					Q48	I	9	1.6		4		
			削器	53	P48		110	7.1		4		
				52	R49		3	81.6		4		
			剥片		P48	I	24	4.6		4		
					P48	I	25	2.1		4		
					P51	I	26	6.8		4		
				54	Q47		9	8.1		4		
				54	Q47		55	6.2		4		
				54	Q47		102	10.6		4		
				54	Q47		229	5.8		4		
			剥片	48	P49		97	4.0		4		
			剥片		P50	I	1	32.7		4		
				47	P51		3	3.3		4		
				53	Q49		36	14.1		4		
				53	Q49		37	6.2		4		
			剥片	47	P51		6	15.7		4		
			剥片	47	P51		50	6.4		4		
			剥片	47	P51		387	4.9		4		
				47	P51		634	3.2		4		
				47	P52		288	1.6		4		
			剥片	47	P51		483	3.1		4		
			剥片	47	P51		513	5.5		4		
			剥片	47	P51		556	5.0		4		
					P51	II	72	0.5		4		
			二次加工ある剥片	47	P51		627	47.3		4		
					P51	III	60	15.3		4		
			削器	47	P51		637	61.5		4		
			剥片	47	P51		666	6.0		4		
			剥片	47	P51		667	4.0		4		
			剥片	47	P51		723	11.4		4		
			剥片		P51	I	15	69.7		4		
			剥片		P51	I	18	19.3		4		
			剥片		P51	I	25	12.4		4		
					P51	II	58	0.6		4		
				47	P52		152	18.6		4		
				47	P52		189	1.9		4		
				47	P52		210	1.4		4		
				47	P52		230	4.9		4		
					七南52 ~59		65	40.8		4		
			剥片		P51	II	57	1.0		4		
			剥片		P51	II	62	3.1		4		
			剥片		P51	II	64	0.7		4		
			剥片		P51	II	67	0.5		4		
			剥片		P51	II	68	0.4		4		
			剥片	47	P52		21	13.3		4		
				47	P52		97	4.9		4		
			剥片	47	P52		25	5.3		4		
			剥片	47	P52		28	4.0		4		
			剥片	47	P52		32	3.1		4		
			剥片	47	P52		34	24.8		4		
				47	P52		181	2.3		4		
			剥片	47	P52		37	4.3		4		
			剥片	47	P52		53	108.0		4		
			剥片	47	P52		54	2.8		4		
			剥片	47	P52		55	3.6		4		
			剥片	47	P52		206	4.0		4		

掲載遺物一覧

種図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
			剥片	47	P52		79	1.9		4		
				47	P52		80	7.3		4		
				47	P52		85	3.0		4		
					P52		七南52 ~59	66	23.5		4	
			剥片	47	P52		87	37.0		4		
					P52	II	59	1.0		4		
					P52	II	60	0.6		4		
			剥片	47	P52		102	2.6		4		
			剥片	47	P52		114	12.1		4		
			剥片	47	P52		122	4.2		4		
			剥片	47	P52		154	11.6		4		
					P52		190	6.4		4		
			剥片	47	P52		161	4.2		4		
			剥片		P52	I	4	18.6		4		
					P52	I	16	2.1		4		
					R64	I	12	4.0		3		
			剥片		P52	I	37	1.9		4		
					47	P53		19	1.4		4	
			剥片		P52	II	51	1.2		4		
			剥片		P52	II	56	0.9		4		
			剥片		P52	II	57	0.6		4		
			剥片		P52	II	58	0.6		4		
			剥片	27	P59		206	8.1		4		
			剥片		Q52	I	6	14.4		4		
			剥片		七南52 ~59		50	12.0		4		
			剥片		七南52 ~59		64	10.5		4		
			剥片		七南52 ~59		67	34.6		4		
-	345	367	接合資料	27-47-48 51-53				486.1	33	1-3-4	437	1975
			剥片		L54	I	14	18.4		4		
					27	P60		1073	91.5		4	
			剥片		M52	I	32	4.3		4		
					O51	I	90	9.0		3		
					O52	I	50	1.9		4		
					48	P49		144	32.1		4	
					P51	I	40	30.0		4		
					P51	I	42	2.3		4		
					47	P52		202	6.0		4	
					P52	I	3	25.2		4		
					P52	I	33	6.2		4		
				剥片	27	M58		10	67.9		4	
					27	N59		138	2.1		4	
					27	N59		233	2.7		4	
					47	O51		168	1.9		4	
					O51	I	91	6.8		4		
			剥片	47	P51		81	10.8		4		
				剥片		N51	I	47	15.4		3	
					47	P52		2	13.8		4	
			削器			N52	I	3	89.2		4	
					P52	I	1	48.0		4		
					P52	I	2	55.0		4		
			剥片		O49	I	2	3.3		3		
					O52	I	55	4.5		4		
					七南52 ~59		69	16.3		4		
			剥片		七南52 ~59		70	25.7		4		
				剥片	47	O51		616	22.5		4	
			剥片		47	O51		618	50.0		4	
					O51	I	89	27.5		3		
			剥片	47	O51		758	28.1		4		
					O51	I	94	3.7		3		
					47	P51		482	8.6		4	

種図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
			剥片		O51	I	121	0.6		4		
					O51	I	131	2.3		4		
					O52	I	54	4.9		4		
			剥片		O52	I	69	4.7		4		
			剥片	53	P48		32	29.7		4		
					53	P48		82	3.9		4	
					48	P49		20	2.8		4	
					48	P49		110	7.7		4	
						P50	I	7	21.2		3	
					47	P51		491	28.7		4	
			剥片		P48	I	22	31.5		4		
			剥片	47	P51		38	4.5		4		
			剥片	47	P51		61	2.6		4		
			剥片	47	P51		610	14.1		4		
			剥片	47	P51		682	52.9		4		
			剥片		P51	I	37	5.1		4		
			剥片	47	P52		8	17.9		4		
			剥片	47	P52		139	6.2		4		
			剥片	47	P52		256	0.8		4		
						P52	I	25	0.9		4	
			剥片	47	P52		258	25.4		4		
					Q52	I	5	25.7		4		
					Q52	I	7	10.3		4		
			剥片		Q52	I	8	1.8		4		
						P52	I	13	4.0		4	
			剥片		Q52	I	4	64.7		4		
			二次加工ある剥片	51	R51		155	27.6		4		
					51	R51		158	17.9		4	
			剥片	51	R51		161	2.4		1		
			剥片		七南52 ~59		62	22.9		4		
-	346	368	接合資料	42-43-44 46-47				3,160.8	144	1-3-4	328	1658
			剥片	44	K52		2	3.9		3		
IV-418	285	43	尖頭器	44	K52	I	1	82.6		4		
			剥片		K52	I	8	2.7		3		
					44	L53		416	1.2		3	
			剥片	43	K53		14	47.2		3		
					44	K53		47	2.0		3	
					42	K53		109	15.2		3	
						K53	II	52	6.2		3	
			剥片	42	K53		20	16.9		3		
					44	K53		41	28.6		3	
					42	K53		395	2.6		3	
			剥片		K53	II	53	2.6		3		
					44	K53		42	172.4		3	
			剥片	44	K53		64	3.8		3		
					42	K53		262	42.4		3	
					42	K53		455	6.4		3	
					44	L52		88	13.7		3	
					44	L52	I	76	0.6		3	
			剥片		七北52 ~59		320	1.9		3		
						七北52 ~59		148	9.3		3	
IV-418	285	42	尖頭器	42	K53		111	72.1		3		
			剥片	44	L53		40	141.6		3		
				剥片	42	K53		176	22.6		3	
					K53	I	7	35.2		3		
					K53	I	43	1.7		3		
					44	L53		104	8.6		3	
			剥片	44	K53		218	4.1		3		
			剥片	42	K53		242	5.5		3		
					K53	I	46	10.7		3		

上白滝8遺跡

種図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
				44	L53		328	2.3		3		
			剥片	42	K53		266	11.6		4		
				44	L53		36	29.5		3		
					L53	I	14	7.8		3		
			剥片	44	K53		321	5.7		3		
			剥片	44	K53		443	2.8		3		
				44	L53		319	4.2		3		
			剥片	42	K53		454	9.7		4		
				44	L53		279	1.4		3		
					七北52		147	181.0		3		
					~59							
			剥片	42	K53		460	2.2		3		
				44	L52		366	2.5		3		
				44	L52		462	3.9		3		
				44	L53		359	85.6		3		
					L53	I	15	4.8		3		
			剥片	44	K53		589	18.5		3		
					K53	I	6	8.3		4		
					K53	I	8	20.7		3		
			剥片		K53	I	9	15.0		3		
			剥片		K53	I	10	7.1		3		
					K53	I	12	4.7		3		
			剥片		K53	I	11	6.3		3		
				44	L53		176	8.7		3		
			剥片		K53	I	14	1.3		3		
			剥片		K53	I	59	298.2		3		
			剥片		K53	II	60	3.3		3		
				44	L53		182	19.9		3		
IV-565	366	4	二次加工ある剥片	外	L21		427	68.0		3		
			剥片	47	L52		78	4.3		3		
			剥片	44	L52		84	2.4		3		
				44	L53		234	5.0		3		
			剥片	44	L52		85	13.0		3		
				47	L52		474	4.3		3		
			剥片	44	L52		86	2.5		3		
				44	L53		287	1.6		3		
				44	L53		401	9.6		3		
			剥片	44	L52		89	3.2		3		
			剥片	44	L52		194	3.5		3		
					七北52		150	50.3		3		
					~59							
			剥片	44	L52		359	9.4		3		
				44	L52		365	3.9		3		
				44	L53		146	19.1		3		
				44	L53		276	1.1		3		
				44	L53		278	1.5		3		
				44	L53		363	3.3		3		
				44	L53		377	90.8		4		
			剥片	44	L52		362	14.9		3		
				46	L53		28	1.2		1		
					L53	I	7	12.6		3		
			剥片	44	L52		364	4.2		3		
			剥片	44	L52		374	26.6		3		
					L53	I	63	6.9		3		
			剥片	47	L52		376	1.6		3		
			剥片	44	L52		472	1.2		3		
			剥片		L52	I	11	49.7		3		
			剥片		L52	I	15	6.7		3		
			剥片		L52	I	59	11.4		3		
				44	L53		398	8.0		3		
			剥片		L52	I	60	4.3		3		
			剥片		L52	I	61	3.8		3		

種図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
				44	L53		355	7.9		3		
					L53	I	62	21.5		3		
			剥片		L52	I	62	1.8		3		
			剥片		L52	I	68	12.4		3		
				44	L53		209	14.8		3		
				44	L53		288	5.3		3		
				44	L53		317	71.7		3		
			剥片		L52	I	77	0.9		3		
			剥片		L52	II	75	13.6		3		
				44	L53		322	6.5		3		
			剥片	44	L53		2	259.2		3		
			剥片	44	L53		3	15.2		3		
					L53	I	57	23.2		3		
			剥片	44	L53		8	1.4		3		
				44	L53		10	2.3		1		
			剥片	44	L53		38	3.8		3		
				44	L53		374	17.7		3		
					L53	I	60	2.7		3		
			剥片	44	L53		151	2.0		3		
			剥片	44	L53		177	4.7		3		
				44	L53		365	38.2		3		
				44	L53		428	87.6		3		
					L53	I	82	2.6		3		
			剥片	47	L53		201	5.5		3		
			剥片	44	L53		207	9.5		3		
				44	L53		354	25.4		3		
				44	L53		397	50.4		3		
				47	L53		418	1.5		3		
			剥片	44	L53		211	20.7		3		
			剥片	44	L53		212	6.3		3		
			剥片	44	L53		215	57.4		3		
				44	L53		364	18.9		3		
			剥片	44	L53		285	21.2		3		
				44	L53		333	43.2		3		
				44	L53		380	45.9		3		
			剥片	44	L53		286	17.2		3		
			剥片	44	L53		323	10.1		3		
			剥片	44	L53		347	6.2		3		
			剥片	44	L53		348	19.1		3		
			剥片	44	L53		351	6.1		3		
			剥片	44	L53		353	4.7		3		
			剥片	44	L53		360	6.9		3		
			剥片	44	L53		400	20.5		3		
				44	L53		405	7.2		3		
			剥片	44	L53		420	13.1		3		
					L53	I	11	3.2		3		
			剥片	44	L53		422	1.8		3		
			剥片		L53	I	5	63.3		3		
					L53	I	77	23.6		3		
					L53	I	78	1.5		3		
			剥片		L53	I	6	15.8		3		
			剥片		L53	I	13	12.0		3		
					L53	I	16	4.0		3		
			剥片		L53	I	58	14.2		3		
			剥片		L53	I	59	6.2		3		
-	347	369	接合資料	47				3,581.8	43	1	296	1582
			剥片		J51	I	20	769.7		1		
					N51	I	208	30.0		1		
			剥片		J51	I	21	23.7		1		
			剥片		J51	I	22	4.1		1		

掲載遺物一覧

種図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
			剥片	47	M52	I	56	69.0		1		
							N52	585	37.0	1		
							N52	1170	6.6	1		
			剥片	47	N51	I	206	26.7		1		
							N52	398	14.0	1		
							N52	528	4.9	1		
							O51	236	9.0	1		
							七北30 ~51	22	16.0	1		
			剥片		N51	I	207	48.3		1		
			剥片		N51	I	209	90.0		1		
			剥片	47	N52		111	35.2		1		
			剥片	47	N52		176	5.4		1		
							316	10.7	1			
							592	30.4	1			
							O51	237	28.4	1		
			剥片	47	N52		245	4.4		1		
			剥片	47	N52		261	17.8		1		
							N52	1353	137.0	1		
			剥片	47	N52		306	68.8		1		
							961	10.9	1			
							1228	12.7	1			
							1337	524.5	1			
IV-423	289	54	両面調整石器	47	N52		325	764.1		1		
			剥片	47	N52		453	51.9		1		
							1432	39.8	1			
							O50	I	23	18.4	1	
			剥片	47	N52		606	29.6		1		
			剥片	47	N52		748	56.9		1		
			剥片	47	N52		1218	24.2		1		
			剥片	47	N52		1223	21.3		1		
							O51	661	74.3	1		
			剥片	47	N52		1290	230.4		1		
			剥片		N52	I	42	74.5		1		
			剥片		N52	I	45	27.9		1		
			剥片		O51	I	235	67.4		1		
			剥片	47	O52		1188	1.7		1		
				47	O52		1224	4.0		1		
			剥片		O52	I	151	4.1		1		
			剥片		O52	I	152	56.1		1		
-	348	370	接合資料	46・47				6,551.3	55	1・4・5	392	1876
			剥片	47	J51	I	3	52.4		5		
							N52	110	10.1	5		
							N52	249	3.8	5		
							N52	1339	15.2	5		
							N52	1495	5.1	5		
							O52	1025	27.7	1		
			剥片		O52	I	117	13.6		5		
			剥片		N51	I	108	76.9		5		
			剥片		N51	I	109	120.5		5		
			剥片		N51	I	111	32.1		5		
			剥片		N51	I	112	72.5		5		
			剥片	47	N51	I	114	37.8		5		
							七北52 ~59	188	600.8	5		
			剥片		N51	I	193	16.7		5		
				47	N52		1114	71.7		5		
			剥片		N51	I	195	11.2		5		
			剥片		N51	I	197	14.5		5		
							O51	I	230	47.4	5	
			剥片	47	N52		79	48.0		5		
					O51	I	187	317.3		5		

種図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
			剥片	47	N52		138	26.6		5		
			剥片	47	N52	I	194	13.4		5		
							N53	19	25.7	5		
			剥片	47	N52		239	110.8		5		
			剥片	47	N52		268	19.7		5		
							791	8.8	5			
							1250	11.4	5			
							O52	140	122.8	5		
			剥片	47	N52		295	37.9		5		
							N52	431	83.1	4		
			剥片	47	N52		583	91.9		5		
			剥片	47	N52		850	108.4		5		
			剥片	47	N52		1130	37.3		5		
			剥片	47	N52		1144	9.1		5		
			剥片	47	N52		1312	20.2		5		
							七南52 ~59	99	49.2	5		
			剥片		O51	I	189	12.6		5		
			剥片	46	O51	I	229	22.8		5		
							O53	49	111.8	5		
							七南52 ~59	101	8.1	5		
			剥片		O51	I	231	7.0		5		
			剥片	47	O52		134	41.9		5		
					O52	I	118	13.4		5		
			剥片	47	O52		273	1,355.0		5		
			剥片	47	O52		1157	2.2		1		
			剥片		O52	I	114	96.4		5		
			剥片		O52	I	115	191.7		5		
			剥片		O52	I	119	110.2		5		
			剥片		O52	I	120	24.7		5		
IV-422	288	52	両面調整石器		S49	I	7	318.6		5		
					T48	I	1	928.6		5		
					七北30 ~51		20	366.2		1		
					七南30 ~51		9	342.1		5		
			剥片		七北52 ~59		189	195.1		5		
			剥片		七南52 ~59		98	31.3		5		
-	350	371	接合資料	42・44				544.4	22	1	294	1580
IV-415	283	33	尖頭器	44	K52		7	77.2		1		
				44	K52		8	128.1		1		
				44	K53		342	16.9		1		
			剥片	44	K52		364	3.0		1		
			剥片	44	K52		971	2.2		1		
			剥片	44	K52		1700	4.6		1		
			剥片	44	K52		1773	13.4		1		
			剥片	44	K53		58	32.7		1		
			剥片	44	K53		148	2.8		1		
			剥片	44	K53		191	15.1		1		
			剥片	44	K53		194	3.4		1		
			剥片	44	K53		286	42.3		1		
			剥片	44	K53		298	5.0		1		
			剥片	44	K53		302	19.2		1		
			剥片	44	K53		311	9.6		1		
			剥片	44	K53		367	8.2		1		
			剥片	42	K53		408	21.4		1		
			剥片	44	K53		429	21.8		1		
			剥片	44	K53		491	19.1		1		
			剥片	44	K53		492	58.3		1		
			剥片	44	K53		772	5.2		1		
			剥片		K53	I	75	34.9		1		
-	350	372	接合資料	47				2,779.6	42	3・5	391	1868
			剥片		J51	I	13	6.2		5		

上白滝8遺跡

種図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
			剥片		J51	I	16	52.6		5		
			剥片	47	M51		101	54.9		5		
			剥片	47	N51		259	10.6		5		
			剥片	47	N51		408	28.2		5		
			剥片		N51	I	7	158.0		5		
			剥片		N51	I	115	32.2		5		
			剥片		N51	I	116	70.2		5		
			剥片		N51	I	122	158.7		5		
			剥片		N51	I	148	6.0		5		
			剥片		N51	I	150	46.8		5		
			剥片	47	N51	I	152	9.3		5		
			剥片		N52		1104	13.8		5		
			剥片		N51	I	199	23.5		5		
			剥片	47	N51	I	201	10.7		5		
			剥片		N52		285	24.9		5		
			剥片		N51	I	203	19.8		5		
			剥片	47	N52		45	37.5		5		
			剥片	47	N52		1462	32.6		5		
			剥片	47	N52		51	111.7		5		
			剥片	47	N52		64	46.7		5		
			剥片	47	N52		88	77.6		5		
			剥片	47	N52		411	8.8		5		
			剥片	47	N52		413	21.0		5		
			剥片	47	O51		551	8.9		5		
			剥片	47	N52		476	38.9		5		
			剥片	47	N52		508	28.7		5		
			剥片	47	N52		678	413.5		5		
			剥片	47	N52		1112	4.2		5		
			剥片	47	N52		707	967.4		5		
			剥片	47	N52		1456	32.1		5		
			剥片	47	N52		1019	18.8		5		
			剥片	47	N52		1252	9.7		5		
			剥片	47	N52		1369	14.9		5		
			剥片	47	N52		1503	28.0		5		
			剥片		N52	I	13	27.8		5		
			剥片		N52	I	14	25.3		5		
			剥片		N52	I	21	60.8		5		
			剥片		N53	I	10	0.8		3		
			剥片		O51	I	195	9.0		5		
			剥片		O51	I	199	16.7		5		
			剥片		七南52 ~59		108	11.8		5		
-	351	373	接合資料	46・47				1,860.0	45	3・5	391	1867
IV-439	299	198	舟底形石器	47	N51	I	4	62.7		5		
					七北52 ~59		53	85.3		5		
			縦長剥片		N51	I	113	297.8		5		
					O51	I	5	73.1		5		
			剥片		N51	I	117	168.4		5		
			剥片		N51	I	121	28.2		5		
			剥片		N51	I	142	31.1		5		
			剥片		N51	I	169	31.3		5		
			剥片		N51	I	170	35.5		5		
			剥片	47	N52		63	34.1		5		
			剥片	47	N52		136	1.8		5		
			剥片	47	N52		192	2.5		5		
			剥片	47	N52		208	9.0		5		
			剥片	47	N52		237	24.5		5		
			縦長剥片	47	N52		286	74.4		5		
				47	N52		405	84.8		5		
				47	O52		342	52.5		5		
			剥片	47	N52		394	25.3		5		

種図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
			剥片	47	N52		590	1.7		5		
			剥片	47	N52		661	25.2		5		
			剥片	47	N52		752	56.0		5		
			石刃	47	N52		979	40.6		5		
				47	N52		1471	24.0		5		
			剥片	47	N52		1003	8.2		5		
			剥片	47	N52		1124	48.1		5		
			剥片	47	N52		1466	5.2		5		
			剥片		N52	I	29	71.0		5		
					N52	I	30	41.8		5		
			剥片		N52	I	31	10.5		5		
			剥片	46	N53		8	10.4		5		
			剥片	47	O51		52	9.3		5		
				47	O51		431	2.0		5		
			剥片	47	O51		78	9.4		5		
			剥片	47	O51		804	31.3		5		
				47	O51		808	22.5		5		
					O51	I	192	28.2		5		
			剥片		O51	I	193	16.1		5		
			剥片		O51	I	201	11.5		5		
			剥片	47	O52		5	10.2		5		
			剥片	47	O52		8	26.0		5		
			石刃	47	O52		125	101.4		5		
			石刃	47	O52		291	65.2		3		
					O52	I	146	26.3		5		
			剥片	47	O52		587	29.8		5		
			剥片		O52	I	147	5.8		5		
-	351	374	接合資料	47				866.8	9	4・5	394	1880
			石刃		M52	I	53	8.7		5		
			石刃		N51	I	3	18.9		5		
					O51	I	3	27.2		5		
			石刃	47	N52		109	22.8		5		
				47	O52		4	38.4		5		
			剥片	47	N52		571	9.5		5		
			石刃	47	O51		814	25.1		5		
					不明			30.8		5		
IV-453	306	269	石刃核	47	O52		200	685.4		4		
-	352	375	接合資料	35-36・37 45-47				1,695.3	21	1・5	393	1878
			石刃	35	I57		258	26.5		5		
			剥片		K50	I	1	162.5		5		
			剥片		K50	I	2	19.4		5		
			剥片		K50	I	3	55.5		5		
			石刃	37	K57		32	78.4		5		
			縦長剥片	37	K57		260	25.7		1		
			石刃	36	K58		6	45.3		5		
				36	K58		78	36.6		5		
				45	L50		18	38.7		5		
			石刃	45	L50		13	24.8		1		
			剥片	45	L50		15	72.6		5		
				45	L50		60	81.9		5		
			剥片	45	L50		24	17.7		5		
			剥片	45	L50		28	14.3		5		
					L50	I	2	186.8		5		
			剥片	47	M51		264	15.5		1		
			石刃		七北30 ~51		28	38.6		5		
					七北30 ~51		29	34.4		5		
			石刃		七北52 ~59		61	51.7		5		
IV-573	370	36	石刃核		排土		62	620.0		5		
-	352	376	接合資料	40				2,616.3	121	3・4	333	1679

掲載遺物一覧

挿図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
			剥片	40	H52		58	1.3		3		
			剥片	40	H52		110	5.6		3		
				40	H52		130	22.3		3		
				40	H52		177	61.9		3		
				40	H52		184	3.1		3		
				40	H52		332	3.8		3		
				40	H52		334	19.2		3		
				40	H52		376	5.1		3		
				40	H52		391	18.0		3		
				40	H52		437	16.3		3		
				40	H52		491	1.1		3		
				40	H52		555	59.7		3		
				40	H52		565	19.3		3		
				40	H52		571	17.7		3		
				40	H52		576	2.5		3		
				40	H52		582	28.8		3		
				40	H52		594	3.1		3		
				40	H52		622	2.0		3		
				40	H52		628	66.0		3		
				40	H52		652	73.2		3		
				40	H52		653	13.3		3		
				40	H52		654	48.1		3		
				40	H52		683	4.7		3		
				40	H52		687	2.2		3		
				40	H52		688	1.7		3		
			剥片	40	H52		146	3.9		3		
				40	H52		237	3.0		3		
				40	H52		682	1.8		3		
			剥片	40	H52		174	8.2		3		
				40	H52		244	10.1		3		
				40	H52		283	3.2		3		
				40	H52		335	20.2		3		
				40	H52		436	20.6		3		
				40	H52		440	53.9		3		
				40	H52		646	123.9		3		
			剥片	40	H52		176	2.3		3		
				40	H52		499	2.1		3		
			縦長剥片	40	H52		185	6.8		3		
				40	H52		568	10.5		3		
IV-452	306	266	石刃核	40	H52		186	6.6		3		
				40	H52		386	6.6		3		
				40	H52		469	19.6		3		
				40	H52		512	1.3		3		
				40	H52		551	64.8		3		
				40	H52		570	215.2		3		
				40	H52		609	256.9		3		
				40	H52		620	53.0		3		
				40	H52		632	2.3		3		
				40	H52		633	2.3		3		
			剥片	40	H52		187	6.8		3		
				40	H52		449	1.3		3		
				40	H52		544	3.4		3		
			剥片	40	H52		189	4.6		3		
				40	H52		247	6.1		3		
				40	H52		593	16.7		3		
			剥片	40	H52		192	3.3		3		
				40	H52		193	6.5		3		
			剥片	40	H52		196	93.5		3		
				40	H52		207	12.4		3		
			剥片	40	H52		208	6.0		3		

挿図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
			剥片	40	H52		239	1.4		3		
			剥片	40	H52		241	5.5		3		
				40	H52		428	20.1		3		
				40	H52		523	1.6		3		
				40	H52		657	2.0		3		
			剥片	40	H52		245	7.5		3		
			剥片	40	H52		249	2.2		3		
			剥片	40	H52		267	2.0		3		
			剥片	40	H52		279	1.3		3		
				40	H52		651	4.5		3		
			剥片	40	H52		286	6.0		3		
				40	H52		548	24.4		3		
			縦長剥片	40	H52		287	12.0		3		
				40	H52		641	6.8		3		
			縦長剥片	40	H52		294	7.0		3		
			剥片	40	H52		327	4.9		3		
				40	H52		384	6.4		3		
			剥片	40	H52		329	3.2		3		
				40	H52		600	2.7		3		
				40	H52		655	26.3		3		
			剥片	40	H52		330	1.4		3		
			剥片	40	H52		338	8.1		3		
				40	H52		516	2.8		3		
				40	H52		536	4.3		3		
				40	H52		602	5.2		3		
			剥片	40	H52		339	1.3		3		
			剥片	40	H52		348	5.2		3		
			縦長剥片	40	H52		349	10.7		3		
				40	H52		574	3.5		3		
			剥片	40	H52		393	7.9		3		
			剥片	40	H52		394	8.3		3		
			剥片	40	H52		431	370.1		3		
				40	H52		644	79.2		3		
			剥片	40	H52		439	1.8		3		
				40	H52		494	60.0		3		
			石刃	40	H52		455	11.1		3		
			剥片	40	H52		459	6.3		3		
				40	H52		461	1.6		3		
				40	H52		556	32.4		3		
				40	H52		621	2.9		3		
			剥片	40	H52		462	2.0		3		
				40	H52		624	2.4		3		
				40	H52		625	18.3		3		
			剥片	40	H52		487	10.5		3		
			剥片	40	H52		488	1.7		3		
			剥片	40	H52		496	2.7		3		
			石刃	40	H52		510	1.6		3		
				40	H52		627	11.1		3		
			剥片	40	H52		520	10.2		3		
			剥片	40	H52		524	55.2		3		
				40	H52		638	1.3		3		
			剥片	40	H52		530	4.4		3		
				40	H52		532	2.3		3		
				40	H52		550	5.7		3		
			剥片	40	H52		547	6.1		3		
				40	H52		631	6.9		3		
			剥片	40	H52		554	14.2		3		
			剥片	40	H52		608	33.7		3		
			剥片	40	H52		611	21.0		3		
			剥片	40	H52		690	69.3		3		

上白滝8遺跡

種図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
			剥片		H52	I	4	4.1		4		
-	353	377	接合資料	47・48				2,249.0	89	1・4	300	1587
			剥片		M49	I	9	30.4		1		
			剥片	48	M50		9	6.0		1		
			剥片	48	N50		94	55.7		1		
			剥片	48	N50		170	8.5		1		
			縦長剥片	48	N50		227	6.2		1		
				48	N50		327	15.8		1		
			剥片	48	N50		234	3.1		1		
			剥片	48	N50		290	6.5		1		
				48	O50		322	59.9		1		
				48	O50		482	16.7		1		
				48	O50		519	3.8		1		
			縦長剥片	48	N50		296	21.6		1		
				48	N50		337	6.2		1		
				48	O50		325	63.3		1		
			剥片	48	N50		308	3.8		1		
			剥片	48	N50		310	24.1		1		
				48	N50		368	57.6		1		
				48	O50		431	5.6		1		
				48	O50		527	1.6		1		
				48	O50		531	22.4		1		
				48	O50		533	13.6		1		
			剥片	48	N50		317	17.4		1		
			剥片	48	N50		338	43.8		1		
			剥片	48	N50		342	5.8		1		
				48	N50		343	2.4		1		
			剥片	48	N50		346	14.2		1		
			剥片	48	N50		369	14.0		1		
			剥片	48	N50		372	9.1		1		
				48	O50		366	2.7		1		
				48	O50		439	177.8		1		
				48	O50		496	11.3		1		
			剥片	48	O50		133	2.7		1		
			縦長剥片	48	O50		138	16.8		1		
				48	O50		281	78.7		1		
				48	O50		488	4.8		1		
			剥片	48	O50		232	12.5		1		
				48	O50		282	12.2		1		
				48	O50		288	4.6		1		
			剥片	48	O50		257	4.5		1		
			剥片	48	O50		280	57.2		1		
			剥片	48	O50		287	6.2		1		
			剥片	48	O50		294	44.6		1		
				48	O50		536	7.0		1		
				47	O51		383	2.1		4		
			縦長剥片	48	O50		323	9.4		1		
				48	O50		330	6.4		1		
			剥片	48	O50		324	108.0		1		
				48	O50		327	3.4		1		
			剥片	48	O50		334	10.7		1		
			剥片	48	O50		337	2.0		1		
				48	O50		478	10.2		1		
			剥片	48	O50		339	19.1		1		
				48	O50		494	1.5		1		
			剥片	48	O50		340	10.8		1		
			剥片	48	O50		341	2.0		1		
			剥片	48	O50		344	6.9		1		
				48	O50		428	3.8		1		
			剥片	48	O50		346	5.0		1		

種図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
			石刃	48	O50		357	24.1		1		
			削器	48	O50		361	26.1		1		
			二次加工ある剥片	48	O50		364	50.1		1		
				48	O50		376	10.6		1		
			剥片	48	O50		372	55.1		1		
			剥片	48	O50		373	69.1		1		
			剥片	48	O50		387	3.2		1		
			剥片	48	O50		393	3.1		1		
			縦長剥片	48	O50		396	15.1		1		
				48	O50		399	10.5		1		
			剥片	48	O50		404	6.2		1		
			剥片	48	O50		409	2.9		1		
			剥片	48	O50		410	4.3		1		
				48	O50		412	4.5		1		
			縦長剥片	48	O50		411	10.2		1		
				48	O50		416	3.9		1		
			剥片	48	O50		423	42.4		1		
				48	O50		432	2.5		1		
			剥片	48	O50		445	66.0		1		
			剥片	48	O50		455	52.5		1		
				48	O50		525	5.3		1		
			縦長剥片	48	O50		466	37.0		1		
				48	O50		473	25.7		1		
			剥片	48	O50		469	2.1		1		
IV-457	308	277	石刃核	48	O50		470	249.4		1		
			剥片	48	O50		492	5.8		1		
			剥片	48	O50		506	103.7		1		
			剥片	48	O50		508	80.5		1		
			剥片	48	O50		511	7.1		1		
			二次加工ある剥片	48	O50		530	85.0		1		
			剥片	47	O51		135	1.0		4		
-	354	378	接合資料	47				2,151.6	39	1・5	299	1586
			縦長剥片	47	M52		104	41.6		5		
				47	M52		106	17.9		5		
			剥片	47	M52		105	8.3		5		
IV-458	309	280	石刃核	47	M52		277	1,086.4		5		
			剥片	47	M52		281	40.3		1		
			剥片	47	M52		282	1.4		1		
			剥片	47	M52		283	2.0		1		
			剥片	47	M52		284	2.5		1		
			剥片	47	M52		286	39.3		1		
			剥片	47	M52		287	2.7		1		
			縦長剥片	47	M52		340	42.3		1		
					M52	I	54	16.4		1		
			縦長剥片	47	M52		344	117.4		5		
				47	M52		588	76.8		1		
			剥片	47	M52		346	3.3		1		
			剥片	47	M52		347	13.8		5		
			剥片	47	M52		353	4.7		1		
				47	M52		365	7.4		1		
			剥片	47	M52		354	24.2		1		
				47	M52		364	10.8		1		
			剥片	47	M52		358	21.4		1		
				47	N52		341	22.7		5		
			剥片	47	M52		359	110.8		1		
			剥片	47	M52		360	2.9		1		
			剥片	47	M52		361	2.1		1		
			剥片	47	M52		362	0.7		1		
			剥片	47	M52		492	14.3		5		
				47	M52		584	15.9		5		

掲載遺物一覧

挿図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
				47	M52		589	1.5		1		
				47	M52		631	18.9		5		
			石刃	47	M52		586	32.6		5		
			剥片	47	M52		587	2.7		1		
			剥片		M52	I	51	42.7		1		
					M52	I	52	24.0		1		
			剥片		N51	I	200	20.0		1		
			剥片	47	N52		875	13.4		1		
			縦長剥片		七北30 ~51		21	42.2		1		
			縦長剥片		七南52 ~59		58	94.2		1		
			剥片		七南52 ~59		106	109.1		1		
-	354	379	接合資料	53				554.2	29	1	411	1919
			剥片	53	P49		146	184.4		1		
			剥片	53	Q48		622	1.3		1		
				53	Q48		723	3.5		1		
				53	R48		38	3.0		1		
				53	R48		39	2.4		1		
			剥片	53	Q48		626	2.3		1		
				53	Q48		719	3.5		1		
				53	Q49		116	7.7		1		
			剥片	53	Q48		627	28.3		1		
				53	Q49		92	15.9		1		
			剥片	53	Q48		628	1.8		1		
			剥片	53	Q48		629	2.5		1		
			剥片	53	Q48		630	1.9		1		
					Q49	II	6	0.6		1		
				53	R48		36	109.6		1		
				53	R48		37	20.8		1		
				53	R48		46	4.9		1		
			剥片	53	Q49		53	16.3		1		
				53	Q49		82	10.6		1		
				53	Q49		83	3.9		1		
			剥片	53	Q49		73	25.6		1		
			剥片	53	Q49		74	5.4		1		
				53	Q49		112	22.3		1		
			剥片	53	Q49		89	31.8		1		
			剥片	53	Q49		94	6.3		1		
				53	Q49		110	15.5		1		
			縦長剥片	53	Q49		109	18.8		1		
			剥片		Q49	II	5	1.2		1		
			剥片	53	R48		47	2.1		1		
-	355	380	接合資料	46・47				2,020.2	58	1	298	1585
			剥片		M53	I	17	22.9		1		
			剥片	47	N51		116	4.8		1		
			剥片	46	N53		230	11.8		1		
			剥片		N53	I	23	2.7		1		
					O52	I	149	5.5		1		
			剥片	46	N54		10	3.7		1		
				46	O53		31	5.7		1		
			剥片	46	N54		143	36.4		1		
				46	O53		77	17.6		1		
					七南52 ~59		112	10.4		1		
			剥片	46	N55		13	350.3		1		
			剥片		O52	I	148	63.4		1		
			剥片	46	O53		2	26.5		1		
			剥片	46	O53		12	5.2		1		
				46	O53		73	6.0		1		
			縦長剥片	46	O53		14	21.3		1		
					O53	I	12	5.9		1		
			剥片	46	O53		16	28.0		1		

挿図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
				46	O53		75	6.8		1		
			剥片	46	O53		17	7.0		1		
			縦長剥片	46	O53		19	5.8		1		
					O53	I	17	4.4		1		
			剥片	46	O53		20	7.3		1		
			剥片	46	O53		21	6.5		1		
			剥片	46	O53		22	52.8		1		
			剥片	46	O53		23	22.5		1		
			剥片	46	O53		24	4.6		1		
				46	O53		35	2.8		1		
			剥片	46	O53		26	11.0		1		
			剥片	46	O53		27	32.1		1		
					O53	I	13	31.9		1		
			剥片	46	O53		28	5.0		1		
			剥片	46	O53		29	4.1		1		
			剥片	46	O53		32	2.4		1		
				46	O53		44	143.9		1		
				46	O53		45	4.4		1		
			縦長剥片	46	O53		33	4.1		1		
				46	O53		38	6.7		1		
			縦長剥片	46	O53		34	8.8		1		
					O53	I	18	11.6		1		
			剥片	46	O53		36	76.6		1		
			剥片	46	O53		37	27.0		1		
			剥片	46	O53		39	6.3		1		
			剥片	46	O53		42	82.0		1		
			剥片	46	O53		43	21.9		1		
			剥片	46	O53		46	10.5		1		
			剥片	46	O53		78	85.6		1		
			剥片	46	O53		80	85.4		1		
			剥片	46	O53		84	17.3		1		
			剥片		O53	I	14	13.4		1		
			剥片		O53	I	15	59.4		1		
			剥片		O53	I	16	7.7		1		
			剥片		O53	I	19	10.5		1		
			剥片		O53	I	20	17.7		1		
			剥片	46	O54		28	119.9		1		
			剥片		Q49	I	4	6.6		1		
IV-573	370	37	石核		七南52 ~59		22	254.1		1		
			剥片		七南52 ~59		111	103.7		1		
-	355	381	接合資料	46・47				229.9	48	4	360	1739
			剥片	47	L52		70	7.8		4		
			剥片	47	L52		115	2.1		4		
			剥片		L52	I	41	1.9		4		
			剥片	47	M52		21	1.9		4		
			剥片	47	M52		190	1.8		4		
			剥片	47	M52		204	6.3		4		
			剥片	47	M52		234	5.7		4		
				47	M52		1092	1.8		4		
			剥片	47	M52		239	2.9		4		
			剥片	47	M52		242	6.1		4		
			剥片	47	M52		251	5.2		4		
					M52	III	34	3.3		4		
IV-434	297	170	舟底形石器	47	M52		252	15.5		4		
			剥片	47	M52		436	5.8		4		
			剥片	47	M52		525	4.0		4		
			剥片	47	M52		550	2.6		4		
			剥片	47	M52		552	3.5		4		
			剥片	47	M52		679	2.8		4		
			剥片	47	M52		688	5.3		4		

上白滝8遺跡

種図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
			剥片	47	M52		695	1.8		4		
				47	M52		932	3.4		4		
			剥片	47	M52		729	8.9		4		
			剥片	47	M52		759	1.5		4		
			剥片	47	M52		761	3.0		4		
			剥片	47	M52		786	1.7		4		
			剥片	47	M52		817	4.1		4		
			剥片	47	M52		969	5.0		4		
			剥片	47	M52		991	1.5		4		
			剥片	47	M52		995	2.8		4		
			剥片	47	M52		1064	2.6		4		
			剥片	47	M52		1100	2.3		4		
			剥片	47	M52		1145	2.6		4		
			剥片	47	M52		1185	1.1		4		
			剥片	47	M52		1189	1.1		4		
			剥片	47	M52		1203	10.3		4		
			剥片	47	M52		1223	5.6		4		
			剥片		M52	II	35	4.5		4		
			剥片		M52	II	36	1.3		4		
			剥片		M52	II	37	0.7		4		
			剥片		M52	II	38	0.4		4		
			剥片		M52	II	39	0.2		4		
			剥片		M53	I	5	35.6		4		
			剥片		N55	I	4	16.2		4		
			剥片	46	O55		22	4.9		4		
			剥片	46	O55		55	6.8		4		
			剥片	46	O55		105	2.6		4		
			剥片		O55	I	7	10.0		4		
			剥片		不明		不明	1.1		4		
-	356	382	接合資料	44・47				389.5	20	1・5	297	1583
			縦長剥片	44	K52		950	14.9		1		
				47	L52		281	70.5		1		
			縦長剥片	47	L52		18	12.2		1		
			縦長剥片	47	L52		168	10.1		1		
				47	M52		136	1.4		1		
			石刃	47	L52		201	3.1		1		
			石刃	47	L52		279	11.4		1		
			縦長剥片	47	L52		306	8.5		1		
				47	M52		890	4.9		1		
			縦長剥片	47	L52		391	6.1		1		
			剥片	47	L52		506	19.1		1		
			縦長剥片	47	M52		126	8.3		1		
				47	M52		464	12.0		1		
			縦長剥片	47	M52		127	4.8		1		
IV-458	309	278	石刃核	47	M52		447	179.3		5		
			石刃	47	M52		471	8.0		1		
				47	M52		881	3.8		1		
				47	M52		885	6.4		1		
			縦長剥片	47	M52		939	2.2		1		
				47	M52		1043	2.5		1		
-	356	383	接合資料	39				424.1	27	4	357	1736
			剥片	39	H53		119	24.4		4		
				39	H53		633	4.0		4		
				39	H53		692	20.1		4		
					H53	I	6	38.4		4		
			剥片	39	H53		198	4.3		4		
			剥片	39	H53		359	8.5		4		
			剥片	39	H53		623	19.9		4		
			剥片	39	H53		681	21.2		4		
				39	I53		1026	35.9		4		

種図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
			剥片	39	H53		689	1.7		4		
					H53	I	4	1.0		4		
			剥片		H53	I	7	31.0		4		
			剥片		H53	I	9	10.1		4		
			剥片		H53	I	18	2.4		4		
			剥片	39	H54		204	4.1		4		
			剥片	39	I53		161	6.9		4		
			剥片	39	I53		755	3.9		4		
					I53	I	8	10.5		4		
			剥片	39	I53		801	19.4		4		
			剥片	39	I53		872	12.3		4		
			剥片	39	I53		922	27.9		4		
			剥片	39	I53		932	1.6		4		
			剥片	39	I53		977	18.8		4		
			剥片	39	I53		994	1.1		4		
			剥片		I53	I	5	43.2		4		
			剥片		I53	I	7	1.4		4		
					I53	I	18	50.1		4		
IV-552	360	24	接合資料	56・57・58 59・60				1,716.5	10	1	419	1939
			剥片	59	J48		38	3.1		1		
				57	J48		42	36.5		1		
				57	J48		73	21.8		1		
				57	J48		82	250.0		1		
				57	J48		264	75.8		1		
			剥片	56	J49		129	98.2		1		
			剥片	60	K46		2	302.7		1		
				60	K46		3	2.7		1		
IV-546	359	23	石刃核	60	K46		30	823.9		1		
IV-544	357	10	削器	58	K47		24	101.8		1		
IV-552	360	25	接合資料	59・60				194.0	13	1	423	1943
			剥片	59	J46		155	3.2		1		
IV-545	358	17	舟底形石器	59	J46		161	112.2		1		
			剥片	60	K46		10	4.2		1		
IV-545	358	16	舟底形石器	60	K46		14	27.5		1		
			剥片	60	K46		17	16.8		1		
			剥片	60	K46		18	2.8		1		
			剥片	60	K46		36	2.3		1		
			剥片	60	K46		38	9.2		1		
				60	K46		72	3.9		1		
			剥片	60	K46		53	3.2		1		
			剥片	60	K46		62	0.9		1		
			剥片	60	K46		63	2.1		1		
			剥片	60	K46		64	5.7		1		
IV-553	361	26	接合資料	60・61				830.8	15	1・5	422	1942
			剥片	60	L46		9	7.2		1		
				60	L46		275	27.8		1		
			剥片	60	L46		10	10.6		1		
				60	L46		28	10.3		1		
				60	L46		117	3.1		1		
			石刃	60	L46		34	20.5		1		
			縦長剥片	60	L46		84	63.4		1		
				60	L46		119	99.4		1		
			縦長剥片	60	L46		160	15.5		1		
			石刃	60	L46		194	6.7		1		
			縦長剥片	60	L46		270	27.6		1		
				60	L46		277	20.5		1		
			石刃	61	M45		4	31.9		1		
IV-545	359	20	石刃核	60	M46		1	447.6		5		
			剥片		七北30 ~51		27	38.7		1		
IV-553	361	27	接合資料	57・58				700.3	8	1・5	416	1930

掲載遺物一覧

挿図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
			剥片	57	J49		117	78.3		1		
			縦長剥片	57	J48		6	20.8		1		
				57	K48		89	16.0		1		
			剥片	57	J48		68	2.4		5		
			縦長剥片	57	J48		98	11.2		5		
			剥片	57	J48		127	4.7		1		
			剥片	57	J48		397	15.1		1		
IV-546	359	22	石刃核	58	K48		50	551.8		5		
-	361	28	接合資料	60				455.4	10	1	413	1925
			剥片	60	L46		19	60.5		1		
				60	L46		20	3.6		1		
IV-545	358	19	石核	60	L46		37	184.6		1		
			剥片	60	L46		103	32.4		1		
			剥片	60	L46		162	65.7		1		
			剥片	60	L46		209	21.6		1		
				60	L46		210	40.0		1		
			剥片	60	L46		211	19.7		1		
			剥片	60	L46		227	7.8		1		
			剥片	60	L46		233	19.5		1		
IV-563	365	43	接合資料	53・60-61				1,633.1	77	1	412	1922
			剥片	61	M45		1	4.2		1		
			縦長剥片	60	M46		3	31.2		1		
			縦長剥片	61	N44		4	3.2		1		
					O44	II	7	1.3		1		
			剥片	61	N44		6	9.3		1		
				61	O43		28	3.2		1		
			縦長剥片	61	N45		3	4.1		1		
				53	P48		167	69.2		1		
			縦長剥片	61	N45		4	10.2		1		
				61	N45		15	3.3		1		
				61	O44		16	5.7		1		
			剥片	61	N45		8	1.4		1		
				61	N45		12	18.0		1		
					O44	I	2	52.4		1		
					O45		20	2.8		1		
IV-556	363	32	二次加工ある剥片	61	N45		10	49.6		1		
			縦長剥片	61	N45		11	37.5		1		
				61	O44		18	2.6		1		
			剥片	61	N45		18	8.0		1		
				61	O44		2	12.1		1		
			縦長剥片	61	N45		20	15.4		1		
					P45	I	8	1.4		1		
			剥片	61	N45		21	7.1		1		
			剥片		N45	I	1	4.4		1		
			剥片	61	N47		187	355.1		1		
IV-557	364	38	剥片		N47	II	12	0.6		1		
				61	O46		52	29.7		1		
				61	O46		54	41.0		1		
					O46	III	9	0.6		1		
			剥片	61	O43		3	1.9		1		
			縦長剥片	61	O43		4	7.8		1		
				61	O43		27	1.5		1		
					O43	I	14	3.0		1		
					O44	I	19	1.0		1		
			剥片	61	O43		5	12.2		1		
			剥片	61	O43		10	72.3		1		
				61	O43		15	58.5		1		
					O44	I	5	0.6		1		
			剥片	61	O43		31	13.6		1		
			剥片		O43	I	15	1.0		1		

挿図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
				61	O44		5	2.6		1		
IV-556	363	33	剥片	61	O44		17	11.7		1		
			二次加工ある剥片	61	P44		52	25.6		1		
			剥片	61	P44		54	4.9		1		
			剥片		O44	I	3	10.0		1		
			剥片		O44	I	4	1.7		1		
				61	P44		32	2.0		1		
			剥片		O44	I	6	1.7		1		
			縦長剥片	61	O45		7	3.4		1		
				61	O46		7	8.9		1		
				61	O46		9	15.4		1		
				61	P44		7	8.7		1		
			剥片	61	O45		10	1.8		1		
IV-558	364	41	石核	61	O45		17	259.8		1		
			剥片		O45	II	1	0.7		1		
			剥片	61	O46		50	37.1		1		
			剥片	61	O47		22	21.4		1		
				61	O47		29	12.2		1		
			剥片		O47	I	5	3.3		1		
			剥片		O47	I	6	1.3		1		
IV-555	362	23	ナイフ形石器	61	P44		2	2.2		1		
				61	P44		18	1.8		1		
				61	P44		59	3.0		1		
			剥片	61	P44		10	2.8		1		
					P44	II	9	0.7		1		
IV-555	362	22	ナイフ形石器	61	P44		13	10.1		1		
			剥片	61	P44		28	1.0		1		
IV-554	362	9	ナイフ形石器	61	P44		34	9.7		1		
					P44	I	1	3.0		1		
			剥片	61	P44		38	2.3		1		
			剥片	61	P44		53	2.2		1		
			剥片	61	P44		67	18.9		1		
			縦長剥片		P44	II	6	35.7		1		
			剥片		P44	II	7	2.6		1		
					P44	II	8	1.9		1		
			剥片	61	P45		9	128.1		1		
IV-555	362	24	ナイフ形石器		P45	I	5	14.9		1		
-	364	44	接合資料	58・61				288.6	12	1	407	1911
			縦長剥片	58	M47		40	2.5		1		
			剥片	61	N44		7	12.3		1		
			縦長剥片	61	N45		14	5.0		1		
				61	N45		19	20.9		1		
			剥片		N45	I	3	3.3		1		
IV-558	364	40	石刃核	61	N47		7	148.8		1		
IV-557	364	39	石刃核		N47	I	1	75.2		1		
			剥片	61	O45		16	4.0		1		
			剥片		O47	I	30	3.1		1		
			縦長剥片	61	P44		4	2.4		1		
			剥片	61	P44		12	1.2		1		
			剥片		P45	I	15	9.9		1		
IV-600	386	125	接合資料	斜				105.9	2	1	-	2636
IV-579	374	52	細石刃核削片	斜	K70	上	2	24.8		1		
IV-578	374	45	細石刃核	斜	L74	上	1	81.1		1		
IV-600	386	126	接合資料	斜				90.1	2	5	-	2649
IV-579	374	54	細石刃核削片	斜	N66	上	1	50.8		5		
IV-579	374	51	細石刃核削片	斜	N71	上	15	39.3		5		
-	386	127	接合資料	斜				884.3	15	5	240	1402
			剥片	斜	P67	下	4	6.5		5		
			石刃	斜	P68	I	4	20.2		5		
				斜	P68	上	5	115.2		5		

上白滝8遺跡

挿図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
			石刃	斜	P69	上	6	62.8		5		
			石刃	斜	P68	上	2	70.1		5		
			石刃	斜	P68	上	3	33.0		5		
			剥片	斜	P70	上	5	173.2		5		
			剥片	斜	P68	上	9	92.0		5		
			剥片	斜	P69	上	7	7.4		5		

挿図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
			石刃	斜	P69	下	2	105.9		5		
			彫器	斜	P69	下	11	40.9		5		
			剥片	斜	P69	下	12	39.1		5		
			剥片	斜	P70	下	6	7.1		5		
			石刃	斜	P72	上	8	15.1		5		
				斜	S73	上	11	95.8		5		

表4 上白滝6遺跡掲載石器一覧

挿図	図版	番号	器種名	石器ブロック	発掘区	層位	遺物番号	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	母岩番号	接合番号	備	考
V-8	344-1	1	尖頭器	4	A22		71	(22)	(21)	6	(2.2)	黒曜石3				
V-8	344-1	2	尖頭器	4	A21		75	(72)	(67)	18	(65.8)	黒曜石1				
V-8	344-1	3	搔器	4	A21		60	(73)	34	14	(34.3)	黒曜石4				
V-8	344-1	4	縦長剥片	4	A22		134	122	41	18	58.4	黒曜石3				
V-10	344-2	1	石鏃	5	W17		90	29	18	3	1.2	黒曜石1				産地分析 X151
V-10	344-2	2	石鏃	5	W17		92	34	15	4	1.8	黒曜石1				産地分析 X153
V-10	344-2	3	石鏃	5	W17		6	52	16	4	2.6	黒曜石1				産地分析 X152
V-10	344-2	4	石鏃	5	W17		7	(36)	15	3	(1.6)	黒曜石1				産地分析 X154
V-10	344-2	5	石鏃	5	W17		8	(26)	15	5	(1.5)	黒曜石1				産地分析 X155
V-10	344-2	6	石鏃	5	W17		10	(12)	(10)	3	(0.4)	黒曜石1				
V-10	344-2	7	石刃鏃	5	W17		9	31	12	3	1.0	黒曜石1				水と層H110
V-10	344-2	8	石刃鏃	5	X16		1	40	13	4	1.6	黒曜石1				
V-10	344-2	9	石刃鏃	5	W17		154	48	12	2	1.4	黒曜石1				
V-10	344-2	10	石刃鏃	5	X16		10	51	10	3	1.8	黒曜石3				
V-10	344-2	11	石刃鏃	5	W16		56	(35)	11	3	(1.1)	黒曜石1				水と層H111
V-10	344-2	12	石刃鏃	5	W17		3	(23)	(14)	4	(1.2)	黒曜石1				
V-10	344-2	13	石刃鏃	5	W17		94	(15)	(12)	3	(0.5)	黒曜石1				
V-10	344-2	14	石刃鏃	5	W16		47	(17)	(11)	2	(0.4)	黒曜石1				
V-10	344-2	15	石刃鏃	5	W17		2	(20)	11	3	(0.7)	黒曜石1				
V-10	344-2	16	石刃鏃	5	X16		21	(31)	12	3	(1.3)	黒曜石1				
V-10	344-2	17	石刃鏃	5	W17		4	(18)	(12)	3	(0.7)	黒曜石1				
V-10	344-2	18	尖頭器	5	X17		3	(57)	(34)	5	(10.6)	黒曜石1				
V-10	344-2	19	尖頭器	5	W17		11	(82)	(45)	7	(26.5)	黒曜石1		50085		水と層H112
V-10	344-2	20	尖頭器	5	W17		19					黒曜石1		50084		
V-10	344-2	21	両面調整石器	5	V17		2	(50)	(32)	7	(12.9)	黒曜石1		50084		
V-10	344-2	21	両面調整石器	5	W17		28					黒曜石2	8	44		
V-11	345	22	両面調整石器	5	X16		82	(111)	87	40	(336.4)	黒曜石2	4	40		
V-11	345	22	両面調整石器	5	V17		1	150	108	50	882.8	黒曜石2	4	40		
V-11	345	22	両面調整石器	5	W17		95									
V-11	345	22	両面調整石器	5	X17		26									
V-11	345	22	両面調整石器	5	X17		30									
V-11	345	23	搔器	5	X17		28	47	16	7	5.5	黒曜石1				産地分析 X147
V-11	345	24	搔器	5	W17		87	(49)	(25)	(18)	(20.4)	黒曜石1				産地分析 X149
V-11	345	25	搔器	5	W17		88	(30)	(40)	14	(11.0)	黒曜石1		50083		産地分析 X148
V-11	345	25	搔器	5	W17		158									
V-11	345	26	搔器	5	X16		85	97	87	33	209.1	黒曜石2	4	40		
V-11	345	27	つまみ付きナイフ	5	W17		12	(36)	21	4	(2.4)	黒曜石1				産地分析 X150
V-11	345	28	つまみ付きナイフ	5	W17		91	(41)	17	4	(3.8)	黒曜石1				水と層H109
V-12	345	29	削器	5	X17		19	(63)	13	4	(3.5)	黒曜石1				
V-12	345	30	削器	5	W17		89	(72)	15	4	(5.4)	黒曜石1				水と層H113
V-12	345	31	削器	5	X16		61	(36)	12	3	(1.4)	黒曜石1				
V-12	345	32	削器	5	X17		8	(35)	14	5	(2.4)	黒曜石1				
V-12	345	33	削器	5	Y16		1	(37)	(17)	7	(4.3)	黒曜石1				産地分析 X160
V-12	345	34	削器	5	V17		17	(35)	16	4	(2.1)	黒曜石1				産地分析 X161
V-12	345	35	削器	5	W17		70	115	70	23	162.8	黒曜石2	4	40		
V-12	345	36	石刃	5	V17		3	(72)	16	6	(7.3)	頁岩				
V-12	345	37	石刃	5	X17		1	(12)	(11)	2	(0.3)	黒曜石1				
V-12	345	38	石刃	5	X17		21	(33)	10	2	(1.0)	黒曜石1		50081		産地分析 X156
V-12	345	38	石刃	5	X17		31									
V-12	345	39	石刃	5	W17		1	(80)	13	3	(4.0)	黒曜石1		50080		
V-12	345	39	石刃	5	W17		93									

挿図	図版	番号	器種名	石器ブロック	発掘区	層位	遺物番号	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	母岩番号	接合番号	備考
V-12	345	40	石刃	5	W16		15	(40)	17	4	(3.3)	黒曜石1			産地分析 X157
V-12	345	41	石刃	5	W17		5	(26)	17	5	(2.2)	黒曜石1			
V-12	345	42	石刃	5	X16		64	(51)	22	6	(7.3)	黒曜石1			産地分析 X158
V-12	345	43	石刃	5	V17		20	(23)	23	4	(1.9)	黒曜石1		50082	産地分析 X159
					V17	II	5								
V-12	346	44	石核		X17	I	1	68	128	110	664.3	黒曜石2	4	40	
V-13	346	45	石核	5	X16		27	165	133	123	2,324.8	黒曜石2	5	41	
V-13	346	46	台石	5	W17		147	225	257	40	2,996.8	凝灰岩			

表5 上白滝6遺跡掲載接合資料一覧

挿図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO	挿図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
V-17	397	47	接合資料	5				2,568.6	68	2	8	44				剥片	5	X16		20	13.3		2		
				5	V17		18	132.2		2						剥片	5	X16		38	4.6		2		
				5	X16		45	0.9		2						剥片	5	X16		44	3.5		2		
					V17	I	1	12.6		2						剥片	5	X16		51	1.5		2		
					V17	I	2	2.6		2						剥片	5	X16		55	833.3		2		
				5	W16		6	36.1		2						剥片	5	X16		78	0.8		2		
				5	W17		24	1.8		2										82	336.4		2		
				5	W17		162	2.4		2						剥片	5	X16		83	1.2		2		
				5	X17		36	2.7		2						剥片	5	X16		114	2.8		2		
				5	W17	I	2	5.6		2						剥片	5	X17		4	41.3		2		
				5	W16		37	1.6		2						剥片	5	X16		84	14.6		2		
				5	W17		97	4.6		2						剥片	5	X16		93	11.8		2		
				5	W16		40	10.8		2						剥片	5	X16		105	7.8		2		
				5	W17		14	5.3		2						剥片	5	X16		109	3.2		2		
				5	W17		26	103.2		2						剥片	5	X16	I	1	6.3		2		
				5	W17		31	28.3		2						剥片	5	X16	I	2	2.0		2		
				5	W17		157	1.1		2						剥片	5	X17		13	1.2		2		
				5	W17		34	10.0		2						剥片	5	X17		20	1.4		2		
				5	W17		115	16.7		2						剥片	5	X17		40	13.2		2		
				5	W17		125	2.2		2						剥片	5	X17	I	2	116.9		2		
				5	W17		156	1.8		2											3,048.5	45	2	4	40
				5	W17		37	27.9		2						剥片	5	U18		1	4.6		2		
				5	W17		59	21.5		2						剥片	5	V17		1	553.5		2		
				5	W17		76	40.6		2						剥片	5	W17		95	63.1		2		
				5	W17		108	3.5		2						剥片	5	X17		26	148.0		2		
				5	W17		69	13.9		2						剥片	5	X17		30	118.2		2		
				5	W17		71	3.2		2						剥片	5	V17		4	53.1		2		
				5	X16		34	190.2		2						剥片	5	X16		33	16.6		2		
				5	X17		12	8.2		2						剥片	5	V17		8	25.5		2		
				5	X17		17	1.9		2						剥片	5	W16		79	5.9		2		
				5	W17		74	1.5		2						剥片	5	W17		13	50.2		2		
				5	X16		89	14.1		2						剥片	5	X16		30	60.3		2		
				5	W17		78	63.5		2						剥片	5	X16		121	4.5		2		
				5	W17		96	3.7		2						剥片	5	X17	I	5	2.9		2		
				5	X16		104	1.4		2						剥片	5	W17		51	24.6		2		
				5	X16		112	1.8		2						剥片	5	W17		136	29.1		2		
				5	W17		120	11.4		2						剥片	5	W17		70	162.8		2		
				5	W17		131	1.2		2						剥片	5	W17		72	2.8		2		
				5	X17		27	40.7		2						剥片	5	W17		73	9.7		2		
				5	W17		137	8.9		2						剥片	5	W17		109	12.6		2		
				5	X16		79	2.2		2						剥片	5	W17		130	16.3		2		
				5	X16		80	1.6		2						剥片	5	W17		139	1.8		2		
				5	X16		86	0.9		2						剥片	5	X16		22	4.4		2		
				5	X17		5	4.2		2						剥片	5	X16		29	19.2		2		
				5	W17		146	2.5		2						剥片	5	W17		32	7.2		2		
				5	W17	I	1	283.2		2						剥片	5	X17		18	38.3		2		
				5	X16		2	3.1		2						剥片	5	X16		36	14.5		2		
				5	X16		5	10.5		2						剥片	5	X16		41	2.9		2		
				5	X16		16	1.7		2						剥片	5	X16		60	13.2		2		

上白滝第30地点遺跡

挿図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
			剥片	5	X16		71	9.9		2		
				5	X17		39	1.2		2		
			剥片	5	X16		72	7.2		2		
			剥片	5	X16		73	10.5		2		
			剥片	5	X16		74	9.0		2		
			剥片	5	X16		75	64.5		2		
V-11	395	26	搔器	5	X16		85	209.1		2		
			剥片	5	X16		118	29.7		2		
			剥片	5	X16		120	6.3		2		
			剥片	5	X17		6	7.7		2		
			剥片	5	X17		7	143.5		2		
			剥片	5	X17		22	3.3		2		
			剥片	5	X17		33	10.1		2		
			剥片	5	X17		35	30.2		2		
V-12	396	44	石核		X17	I	1	664.3		2		
			剥片		X17	I	3	351.1		2		
					X17	I	4	25.1		2		
V-19	399	52	接合資料	5				3,006.2	4	2	5	41
			剥片	5	W16		39	38.2		2		
			剥片	5	W16		145	285.5		2		
V-13	396	45	石核	5	X16		27	2,324.8		2		
			剥片	5	X16		91	357.7		2		
V-19	400	53	接合資料	5				1,721.3	19	2	6	42
			剥片		U17	I	1	443.6		2		
			剥片	5	V17		22	85.4		2		
				5	W17		47	83.2		2		
			二次加工ある剥片	5	W16		8	35.0		2		
				5	W17		80	69.8		2		
				5	W17		110	99.2		2		
			剥片	5	W17		23	66.5		2		
			剥片	5	W17		29	4.9		2		

挿図	図版	番号	器種等	Sb	発掘区	層位	遺物番号	重量	接合点数	石質	母岩NO	接合NO
			剥片	5	W17		35	16.0		2		
			剥片	5	W17		42	14.6		2		
				5	W17		114	4.5		2		
				5	W17		135	8.6		2		
			剥片	5	W17		49	1.0		2		
			剥片	5	W17		50	297.9		2		
				5	X16		56	3.3		2		
			剥片	5	W17		55	101.1		2		
				5	W17		128	10.7		2		
			剥片	5	W17		60	361.7		2		
			剥片	5	W17		166	14.3		2		
V-19	400	54	接合資料	5				1,384.6	18	2	7	43
			剥片	5	V16		1	695.5		2		
			剥片	5	V16		2	258.9		2		
			剥片	5	V16		3	47.5		2		
			剥片	5	V17		14	1.5		2		
			剥片	5	W17		15	45.2		2		
			剥片	5	W17		16	4.7		2		
					V16	I	3	11.8		2		
			剥片	5	W17		40	43.9		2		
			剥片	5	W17		54	146.2		2		
			剥片	5	W17		99	4.2		2		
					V16	I	1	7.4		2		
					V16	I	2	2.8		2		
			剥片	5	W17		102	28.4		2		
			剥片	5	W17		106	2.4		2		
			剥片	5	W17		165	64.1		2		
			剥片		W18	I	1	8.9		2		
			剥片		X16	I	3	4.5		2		

表6 白滝第30地点遺跡掲載石器一覧

挿図	図版	番号	器種名	石器ブロック	発掘区	層位	遺物番号	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	母岩番号	接合番号	備考
VI-5	356	1	細石刃		C20	II	5	9	4	1	0.1	黒曜石1			
VI-5	356	2	細石刃		C20	II	4	10	5	1	0.1	黒曜石1			
VI-5	356	3	細石刃		C20	II	1	18	5	2	0.2	黒曜石1			
VI-5	356	4	細石刃		C19	II	3	(16)	5	1	(0.1)	黒曜石1			
VI-5	356	5	細石刃		C19	II	2	(15)	6	1	(0.1)	黒曜石1			
VI-5	356	6	細石刃		C19	II	4	(20)	6	1	(0.2)	黒曜石1			
VI-5	356	7	細石刃		C18	I	1	(23)	6	2	(0.2)	黒曜石1			
VI-5	356	8	細石刃	1	C21		35	(32)	6	2	(0.4)	黒曜石1			
VI-5	356	9	細石刃		C21	II	5	(13)	7	2	(0.1)	黒曜石1			
VI-5	356	10	細石刃	1	C20		22	(14)	8	2	(0.3)	黒曜石1			
VI-5	356	11	細石刃	1	C20		120	(21)	8	2	(0.3)	黒曜石1			
VI-5	356	12	細石刃	1	C20		98	(26)	8	2	0.5	黒曜石1			
VI-5	356	13	細石刃		C21	II	4	(6)	4	1	(0.1)	頁岩			
VI-5	356	14	細石刃	1	C19		37	(11)	5	1	(0.1)	黒曜石1			
VI-5	356	15	細石刃		C20	II	2	(8)	6	1	(0.1)	黒曜石1			
VI-5	356	16	細石刃		C20	II	3	(14)	6	1	(0.1)	黒曜石1			
VI-5	356	17	細石刃		C19	II	5	(15)	7	2	(0.2)	黒曜石1			
VI-5	356	18	細石刃		C20	II	6	(10)	(4)	1	(0.1)	黒曜石1			
VI-5	356	19	細石刃	1	C19		16	(15)	(5)	1	(0.1)	黒曜石1			
VI-5	356	20	搔器		C21	I	1	85	45	16	65.4	頁岩			
VI-5	356	21	搔器	1	C20		23	87	43	11	41.5	黒曜石3			
VI-5	356	22	搔器		C21	I	2	(27)	32	8	(6.4)	黒曜石1			
VI-5	356	23	削器	1	C20		70	(54)	38	10	(21.4)	黒曜石1			
VI-5	356	24	削器	1	C20		68	(45)	(53)	9	(14.8)	黒曜石1			
VI-5	356	25	石核	外	D12		1	38	28	30	26.9	黒曜石1			
VI-6	356	26	舟底形石器		C19	I	1	45	146	27	168.8	黒曜石1			

掲載遺物一覧

挿図	図版	番号	器種名	石器ブロック	発掘区	層位	遺物番号	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	母岩番号	接合番号	備	考
VI-6	356	27	石刃	1	C20		128	(50)	21	6	(6.3)	黒曜石1				
VI-6	356	28	石刃	1	C20		67	(40)	19	9	(6.3)	頁岩				
VI-6	356	29	石刃	1	C20		73	(40)	30	6	(6.6)	黒曜石1				
VI-6	356	30	石刃	1	C21		6	(82)	36	12	(27.0)	黒曜石1		50009		
					C21		17									
VI-6	356	31	削片	1	C21		41	(28)	8	5	(0.8)	黒曜石1				
VI-6	356	32	石鏃		C53	I	1	(30)	20	3	(1.1)	黒曜石1				
VI-6	356	33	尖頭器		C59	I	2	(34)	17	4	(1.8)	黒曜石4				
VI-6	356	34	尖頭器		C57	I	1	(36)	20	6	(3.3)	黒曜石1				
VI-6	356	35	削器		C50	I	1	(40)	34	7	(9.7)	黒曜石3				

## 報告書抄録

ふりがな	しらたき いせきぐんよん							
書名	白滝遺跡群Ⅳ							
副書名	一般国道450号白滝丸瀬布道路工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第195集							
編著者名	長沼 孝・鈴木宏行・直江康雄							
編集機関	(財)北海道埋蔵文化財センター							
所在地	〒069-0832 江別市西野幌685番地1							
発行年月日	2004年3月31日							
所収遺跡	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
おくしらたきじゅういちいせき 奥白滝11遺跡	ほっかいどうもんべつぐんしらたきむら 北海道紋別郡白滝村 あざおくしらたき 字奥白滝52-5	01557	I-20-65	43° 52' 39"	143° 06' 56"	19990506～ 19990704	505㎡	道路建設に伴 う事前調査
かみしらたきはちいせき 上白滝8遺跡	ほっかいどうもんべつぐんしらたきむら 北海道紋別郡白滝村 あざかみしらたき 字上白滝179-1, 181-2～4,182-2・3		I-20-91	43° 52' 25"	143° 07' 58"	19950508～ 19951025 19960508～ 19961025 19970506～ 19971025 19980506～ 19981024 20000508～ 20001027	6,600㎡ 10,212㎡ 320㎡ 56㎡ 661㎡	
かみしらたきろくいせき 上白滝6遺跡	ほっかいどうもんべつぐんしらたきむら 北海道紋別郡白滝村 あざかみしらたき 字上白滝123		I-20-89	43° 52' 18"	143° 08' 45"	20010716～ 20010914	670㎡	
しらたきだんじんじゅうちてんいせき 白滝第30地点遺跡	ほっかいどうもんべつぐんしらたきむら 北海道紋別郡白滝村 あざかみしらたき 字上白滝382-4		I-20-6	43° 52' 20"	143° 10' 00"	20000508～ 20001027	636㎡	
所収遺跡名	種別		主な時代	主な遺構		主な遺物		
奥白滝11遺跡	散布地	旧石器時代	石器ブロック 1か所		尖頭器、両面調整石器、彫器、搔器、削器、舟底形石器、細石刃、石刃、縦長剥片、石刃核、石核、原石 (総点数2,396点) (総重量13,918.2g)			
上白滝8遺跡 (東地区)	散布地	旧石器時代	炭化木片ブロック 13か所 石器ブロック 63か所		有舌尖頭器、尖頭器、尖頭器削片、両面調整石器、ナイフ形石器、彫器、彫器削片、搔器、削器、錐形石器、舟底形石器、二次加工ある剥片、細石刃、細石刃核、細石刃核削片、石刃、縦長剥片、石刃核、石核、斧形石器、石鏃、つまみ付きナイフ、原石、台石、散石、砥石 (総点数702,618点) (総重量1,641,790.2g)		後期旧石器時代前半期の石器群(「白滝Ⅰ群」) 「峠下型」細石刃核を含む石器群 大型石刃・大型舟底形石器を含む石器群 舟底形石器・尖頭器を含む石器群 広郷型ナイフ形石器を含む石器群	
上白滝6遺跡 (平成13年度調査分)	散布地	旧石器時代 縄文時代 早期	石器ブロック 2か所		尖頭器、両面調整石器、搔器、削器、二次加工ある剥片、石刃、縦長剥片、石核、石鏃、石刃鏃、つまみ付きナイフ、台石 (総点数1,058点) (総重量18,442.4g)		尖頭器を含む石器群 石刃鏃を含む石器群	
白滝第30地点遺跡	散布地	旧石器時代	炭化木片ブロック 1か所 石器ブロック 2か所		尖頭器、彫器、搔器、削器、舟底形石器、二次加工ある剥片、細石刃、石刃、縦長剥片、石刃核、石核、削片、石鏃 (総点数4,626点) (総重量10,417.3g)			

---

---

(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書 第195集

## 白 滝 遺 跡 群 IV

第1分冊 (本文編)

白滝村 奥白滝11遺跡  
上白滝8遺跡  
上白滝6遺跡(2)  
白滝第30地点遺跡

一般国道450号白滝丸瀬布道路工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書

平成16年3月31日

編集・発行 財団法人 北海道埋蔵文化財センター  
〒069-0832 江別市西野幌685番地1  
☎011(386)3231 FAX011(386)3238  
印刷 ひまわり印刷株式会社

---

---